2016年度
公　開　科　目
グローバル・オープン科目　講義概要（シラバス）

法政大学

１．公開科目について

法政大学では、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材の育成を目指し、多くの学部で、専門教育科目を他学部に公開し、卒業単位として認定する「公開科目」制度を設けています。500 以上の科目が公開科目になっており、「英語で行われる授業で集中的に英語力を身につける」、「専門家の講義により仕事の最前線を知る」、「国際化」「まちづくり」など興味のあるテーマについて広く学ぶなど、学部横断的に様々な角度から学習することができます。

２．公開科目の概要

公開科目の履修については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要綱）」で内容を確認してください。

なお、「成績優秀者の他学部科目履修制度」は公開科目とは別の制度ですので、概要、履修可能科目はこのシラバスではなく、制度該当者に配布する履修の手引きで確認してください。

(1) 公開科目実施学部

市ヶ谷キャンパス　法学部、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、ＧＩＳ（グローバル教養学部）、デザイン工学部

多摩キャンパス　経済学部、社会学部、現代福祉学部

(2) 履修年次

3・4 年次

(3) 登録単位の上限と単位の扱い

公開科目の修得単位は卒業所要単位として決められた単位数まで加算されます（下表参照）。卒業進級の要件については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要綱）」で確認してください。履修登録時には他の専門科目と同様に年間履修の上限単位数に含まれます。

所属学部	履修単位数上限
法学部	16 単位以内
文学部	16 単位以内
経営学部	20 単位以内
国際文化学部	自由科目全体で 18 単位以内
人間環境学部	20 単位以内　人間環境学部　履修の手引き参照
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学部 履修の手引き（カリキュラム）参照
ＧＩＳ	GIS 履修の手引き（カリキュラム）参照
デザイン工学部	8 単位以内（卒業所要単位には含まれません）
経済学部	16 単位以内
社会学部	16 単位以内（年間 8 単位以内）
現代福祉学部	16 単位以内（年間 8 単位以内）

(4) 登録方法

他の科目と同じように履修登録してください。

(5) 注意事項

・開講曜日・時限・教室等に変更がある場合や、レポート提出、試験等の情報は、主催学部の掲示板に掲示されますので、ご注意ください。
・他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講できない等制限がある場合があるため、各学部の履修の手引き（履修要綱）で確認してください。
・ 他キャンパスの授業を履修するときは、通学時間を考慮して時間割を組んでください。

３．科目別の注意事項

履修できる学部が限定されている等、履修上の注意が必要な科目がありますので、「５.学部別一覧」で確認してください。

(1) 法学部・文学部・経営学部・国際文化学部所属の学生の履修上の注意

市ヶ谷総合科目については、公開科目ではなく、総合科目として履修登録をしてください。

(2) キャリアデザイン学部主催の公開科目履修上の注意

科目により人数制限・選抜があります。初回の授業には必ず出席し、指示を仰いで下さい。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修が出来ない場合がありますので注意してください。

(3) GIS 主催の公開科目履修上の注意

GIS 科目はすべて英語で行われますので、下記に準ずる英語力が必要となります。

a. GIS カリキュラムの特徴

・ 授業は英語で行う「英語イマージョン教育」
・ 授業は徹底した「少人数教育」

b. 受講資格（下記のうちいずれか一つ）

・ TOEFL®-iBT 76 点(PBT 540 点)以上
・ IELTS (Academic Module) band 6.0 以上
・ TOEIC® 820 点以上
・ 実用英語技能検定 準１級以上

※200Level 以上の科目については、より高いスコアが要求される場合があります。

c．履修上の注意

・ 講義のテーマについてある程度の予備知識を必要とする科目もあります。詳しくはシラバスを参照してください。
・ 少人数制のため、科目により人数制限・選抜があります。初回の授業には必ず出席し、指示を仰いでください。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修が出

来ない場合がありますので注意してください。

・ GIS 科目はすべて市ヶ谷キャンパスで開講されるため、多摩地区学部の学生は時間割を組む際に注意してください。

(4) 市ヶ谷総合科目の履修上の注意

科目により人数制限・選抜があります。

各科目（秋学期科目含む）とも、4 月の春学期授業開始時に担当教員から受講許可を得てください。Ⅱ（秋学期）のみを履修する場合も、そのⅡに対応するⅠの科目の授業開始時（4 月）に出席し、受講許可を得てから履修登録を行ってください（セメスター制の学部所属の学生は、4 月に受講許可を得たうえで、9 月に履修登録を行ってください）。

受講許可を得る時には、必ず同一科目をⅠ/Ⅱ（春学期＋秋学期）とも履修するのか、それともⅠ（春学期）あるいはⅡ（秋学期）のみ履修するのかを、春学期授業開始時（4 月）に担当教員に申し出てください。

４．公開科目・分野別一覧

◆政治・社会

＜市ヶ谷キャンパス＞

（法学部）
「コミュニティ論Ⅰ/Ⅱ」P.1
「教育法Ⅰ/Ⅱ」P.3
「政治体制論Ⅰ/Ⅱ」P.4
「ジェンダー論Ⅰ/Ⅱ」P.5
「協働組合論」P.6

（国際文化学部）
「ジェンダー論」P.7
「宗教と社会」P.8
「中国の文化Ⅰ（現代中国社会）」P.9

（人間環境学部）
「環境法Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」P.10
「比較環境法」P.11

（キャリアデザイン学部）
「地域活性論」P.12
「コミュニティ社会論Ⅰ/Ⅱ」P.13
「シティズンシップ論」P.15
「日本語教育概説」P.17
「多文化社会における日本語教育 A/B/C/D/E」P.18

（市ヶ谷総合科目）
「文化人類学方法論」P.23

＜多摩キャンパス＞

（経済学部）
「社会政策論A/B」P.24
「社会保障論A/B」P.25
「環境政策論A/B」P.26

（社会学部）
「環境政策論」P.27
「環境自治体論」P.28
「社会ネットワーク論Ⅰ/Ⅱ」P.28
「社会計画論Ⅰ/Ⅱ」P.29
「社会保障法Ⅰ/Ⅱ」P.30
「社会調査Ⅰ/Ⅱ」P.31
「アメリカのジャーナリズム」P.32
「特講（エネルギー自治実践論）」P.33
「環境社会学Ⅰ/Ⅱ」P.33
「農業・食料論」P.34
「環境法」P.35

（現代福祉学部）
「都市住宅政策論」P.35
「地域文化政策論」P.36
「地域遺産マネジメント論」P.36
「教育学」P.37
「老年学」P.38
「地域経営論」P.38
「地域ツーリズム」P.39
「コミュニティアート」P.39
「ホスピタリティ論」P.40
「NPO 論」P.40
「社会学特講」P.41
「環境政策論」P.42
「居住福祉論」P.43
「住民参加の手法」P.44
「ソーシャルイノベーション論」P.44
「雇用政策論」P.45
「災害支援論」P.46
「政策評価論」P.47

◆国際化

＜市ヶ谷キャンパス＞

（法学部）
「グローバル・ガバナンス」P.47
「国際協力論Ⅰ/Ⅱ」P.49
「国際機構論Ⅰ/Ⅱ」P.54
「グローバルガバナンス特講Ⅰ/Ⅱ」P.56
「アジア国際政治特講Ⅰ/Ⅱ」P.58
「朝鮮半島の政治と社会Ⅰ/Ⅱ」P.59
「オセアニアの政治と社会Ⅰ/Ⅱ」P.60
「平和・軍事研究Ⅰ／Ⅱ」P.61
「日露関係論Ⅰ/Ⅱ」P.62
「外交総合講座」P.66

（文学部）
「イスラム世界論Ⅰ/Ⅱ」P.67

（国際文化学部）
「国際文化協力」P.69
「国際関係研究1/2」P.70
「地域紛争とエスニシティ」P.72
「実践国際協力」P.73
「平和学」P.74
「地域協力・統合」P.75

（人間環境学部）
「国際法Ⅰ/Ⅱ」P.76
「国際環境法」P.77

（デザイン工学部）
「国際社会論」P.78

（市ヶ谷総合科目）
「グローバル社会の地域研究」P.79

＜多摩キャンパス＞

（経済学部）
「国際関係論 A/ B」P.80

（現代福祉学部）
「国際支援論」P.81

（社会学部）
「南北問題」P.81
「地域研究（イスラーム）」P.82
「地域研究（中国）」P.82

◆企業・ビジネス

＜市ヶ谷キャンパス＞

（法学部）
「経済法Ⅰ/Ⅱ」P.83

（経営学部）
「経営分析Ⅰ/Ⅱ」P.84
「基礎統計学Ⅰ/Ⅱ」P.86
「ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」P.88
「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」P.89
「流通論Ⅰ/Ⅱ」P.90
「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」P.92
「経営組織論Ⅰ/Ⅱ」P.96

（人間環境学部）
「環境経営論Ⅰ/Ⅱ」P.98

（キャリアデザイン学部）
「アントレプレナーシップ論Ⅰ/Ⅱ」P.100
「就業機会とキャリア」P.102
「就業機会とキャリア特講E
-働くことと労働組合-」P.103

（デザイン工学部）
「財務会計」P.105
「マーケティング」P.106
「エコノミクス」P.107

（ＳＳＩ）
「スポーツビジネス論Ⅰ/Ⅱ」P.108

（市ヶ谷総合科目）
「グローバル経済論」P.110

＜多摩キャンパス＞

（経済学部）
「特別講義（寄付講座・証券市場論）」P.114
「特別講義（空間データ分析入門A/B）」P.111
「特別講義（現代インド経済論）」P.113
「財政学A/B）」P.114
「環境経済論A/B」P.116
「日本経済論A/B」P.118
「労働経済論A/B」P.120
「経済政策論A/B」P.121
「国際経済論A/B」P.122
「アメリカ経済論A/B」P.124

（社会学部）
「産業社会学Ⅰ/Ⅱ」P.125
「社会ネットワーク論Ⅰ/Ⅱ」P.28
「金融システム論」P.126
「環境経済学Ⅰ/Ⅱ」P.127

（現代福祉学部）
「経営学」P.128
「ソーシャルマネジメント論」P.128
「ソーシャルファイナンス論」P.129
「企業と経済の動向」P.130

◆歴史

＜市ヶ谷キャンパス＞

（法学部）
「アメリカ外交史」P.130

（文学部）
「考古学概論」P.131
「日本考古学」P.131
「日本近世史」P.132
「日本史特講Ⅳ」P.132
「東洋近現代史」P.133
「東洋史特講Ⅲ」P.133
「西洋史特講Ⅳ/Ⅴ」P.134
「民俗学Ⅰ/Ⅱ」P.134
「米文学史A/B」P.135

（国際文化学部）
「英語圏の文化Ⅲ（現代事情）」P.137
「英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）」P.138

（人間環境学部）
「ヨーロッパ環境史論Ⅰ/Ⅱ」P.140

（キャリアデザイン学部）
「学習の社会史A/B」P.142

（市ヶ谷総合科目）
「アジア・太平洋国際関係史」P.143
「在日朝鮮人の歴史」P.145
「ギリシヤの文化と社会」P.146
「古代日本・中国の法と社会」P.147

＜多摩キャンパス＞

（現代福祉学部）
「福祉の思想と歴史」P.148

◆思想・哲学

＜市ヶ谷キャンパス＞

（法学部）
「法哲学Ⅰ/Ⅱ」P.149
「公共哲学Ⅰ/Ⅱ」P.150

（文学部）
「科学哲学１/２」P.152
「現代思想２(フランス思想)１/２」P.153
「宗教学１（伝統宗教）１/２」P.155
「環境と倫理（１）/（２)」P.156
「哲学特講（7)-1」P.157

（国際文化学部）
「中国の文化Ⅵ（古典思想・文学)」P.158
「宗教社会論Ⅱ(キリスト教と社会運動)」P.159
「宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想)」P.160

（人間環境学部）
「環境哲学基礎論」P.161
「仏教思想」P.161

（市ヶ谷総合科目）
「法哲学」P.162
「政治思想」P.163
「人間存在論」P.164
「ドイツの思想Ⅰ/Ⅱ」P.165
「キリスト教思想論」P.167

＜多摩キャンパス＞

（社会学部）
「環境倫理」P.168

（現代福祉学部）
「福祉国家論」P.169

◆地理

＜市ヶ谷キャンパス＞

（文学部）
「生物・土壌地理学及び実験Ⅰ/Ⅱ」P.169
「気候・気象学及び実験Ⅰ/Ⅱ」P.171
「海洋・陸水学及び実験Ⅰ/Ⅱ」P.172
「地理情報システム(ＧＩＳ)Ⅰ/Ⅱ」P.173
「社会経済地理学（1)/(2)/(3)」P.174
「社会経済地理学(4)(エコツーリズム)」P.176
「文化地理学（1）/（2)」P.176
「歴史地理学（1）/（2)」P.177

（市ヶ谷総合科目）
「人文地理学セミナー」P.179

◆文学・芸術

＜市ヶ谷キャンパス＞

（文学部）

「日本文芸批評史A/B」P.179
「日本文芸研究特講(1)上代A/B」P.181
「日本文芸研究特講(2)中古A/B」P.182
「日本文芸研究特講(3)中世A/B」P.183
「日本文芸研究特講(4)近世A/B」P.184
「日本文芸研究特講(6)現代A/B」P.185
「日本文芸研究特講(7)漢文A/B」P.186
「日本文芸研究特講(11)音楽芸能史A/B」P.188
「日本文芸研究特講(15)国際日本学A/B」P.189
「中国文芸史A/B」P.191
「英米文学講義ⅠA/B,ⅡA/B」P.192
「英米文学特殊講義Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ」P.195
「比較文学A/B」P.199
「音楽芸能史特殊研究A/B」P.200

（国際文化学部）

「中国の文化Ⅶ（近代文学）」P.201
「中国の文化Ⅷ（現代文学）」P.202
「中国の文化Ⅸ（中国俗文学）」P.203
「フランス語圏の文化Ⅲ（文学）」P.241
「映像と文学」P.205
「現代美術論」P.206
「アジアの伝統芸能」P.248

（市ヶ谷総合科目）

「文章論－文章表現の実践」P.207
「文芸創作講座」P.208
「日本芸能史論」P.209
「身体表現論（バレエの世界）」P.210
「美術論」P.212
「芸術と人間」P.213
「ドイツの文学Ⅰ/Ⅱ」P.214
「ドイツの芸術Ⅰ/Ⅱ」P.215

◆就業力育成

＜市ヶ谷キャンパス＞

（文学部）

「現代のコモンセンス」P.216
「情報リテラシー実習Ⅱ」P.217

（経営学部）

「キャリア・マネジメントⅠ/Ⅱ」P.218

（人間環境学部）

「キャリア入門」P.220

（キャリアデザイン学部）

「職業選択論Ⅰ/Ⅱ」P.221
「職業キャリア論」P.223
「就業応用力養成Ⅰ/Ⅱ」P.224

（ＳＳＩ）

「アスリートキャリア論」P.225

（市ヶ谷総合科目）

「ＩＴリテラシー」P.226

＜多摩キャンパス＞

（ＳＳＩ）

「リーダーシップ論Ⅰ/Ⅱ」P.227
「アスリートキャリア論」P.229

◆文化・スポーツ・サイエンス

＜市ヶ谷キャンパス＞

（法学部）

「現代メディア論」P.230
「法と遺伝学Ⅰ/Ⅱ」P.231

（文学部）

「比較文化論（1）」P.233
「身体活動と健康」P.234
「英米文化概論 A/B」P.234
「発達心理学」P.236

（国際文化学部）

「英語圏の文化Ⅰ（文化史）」P.237
「英語圏の文化Ⅳ(文学と社会A)」P.238
「ドイツ語圏の文化Ⅰ」P.239
「朝鮮語圏の文化Ⅰ(朝鮮半島の文化史)」P.240
「ロシア・東欧の文化」P.242
「ロシア・中央アジアの文化」P.243
「比較表象文化論」P.244
「中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）」P.245
「言語文化概論」P.246
「移民研究Ⅱ(朝鮮民族のディアスポラ)」P.247
「他者イメージ」P.204

（人間環境学部）

「環境科学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」P.249
「自然環境政策論Ⅰ/Ⅱ」P.252

（キャリアデザイン学部）

「多文化社会論Ⅰ」P.253
「アート・マネジメント論」P.255

（デザイン工学部）

「サステイナブルデザイン」P.257
「建築フォーラム」P.258
「都市デザイン」P.259

（ＳＳＩ）

「スポーツ方法論」P.307
「スポーツメディア論」P.308

（市ヶ谷総合科目）

「中国の民族と文化」P.260
「異文化コミュニケーション論」P.260
「比較民俗学」P.261
「総合講座-沖縄を考える-」P.262
「比較文化Ⅰ/Ⅱ」P.263
「ドイツの文化と社会Ⅰ/Ⅱ」P.264
「フランスの文化と社会Ⅰ/Ⅱ」P.265
「ロシアの文化と社会Ⅰ/Ⅱ」P.267
「中国の文化と社会Ⅰ/Ⅱ」P.269
「朝鮮の文化と社会Ⅰ/Ⅱ」P.270
「日本の文化と社会Ⅰ/Ⅱ」P.272
「人間と地球環境」P.273
「自然環境のしくみとその変貌」P.273
「相対性理論と宇宙」P.274
「エネルギーを考える」P.275
「コンピュータの裏側」P.276
「現代の錬金術」P.277
「原子核と素粒子-ミクロの世界-」P.278
「生命情報科学」P.279
「物質科学」P.280
「イオンの科学」P.281
「スポーツ科学Ⅰ/Ⅱ」P.282
「アフロ・アジアの文化」P.301
「アラブの言語と文化」P.300
「自然史」P.147

＜多摩キャンパス＞

（経済学部）

「環境科学 A/B」P.302
「地球環境論 A/B」P.303

（社会学部）

「メディアの歴史」P.478

（現代福祉学部）

「文化環境創造論」P.304
「異文化心理学」P.305
「日本人の心理特性と文化」P.306
「ヘルスプロモーション」P.306

（ＳＳＩ）

「スポーツ方法論」P.307
「スポーツメディア論」P.308

◆外国語

＜市ヶ谷キャンパス＞

（法学部）

「外国書購読（独語）Ⅰ/Ⅱ」P.309

（文学部）

「言語学概論 A/B」P.310
「言語学講義Ⅰ A/B, Ⅱ A/B」P.311
「社会言語学」P.313
「応用言語学」P.314
「英語学概論 A/B」P.314
「英語学講義 A/B」P.316
「英語・言語学講義 A/B」P.317
「英語・言語学特殊講義 A/B」P.318
「ギリシア語 1/2」P.320
「ラテン語 1/2」P.321

（国際文化学部）

「中国語アプリケーション①/②/③/④」P.322
「中国の文化Ⅳ（中国語の構造）」P.326
「中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）」P.327
「英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）」P.328
「世界の中の日本語」P.329
「日英翻訳論」P.330
「間文化性研究翻訳論」P.330

（市ヶ谷総合科目）

「ドイツ語初級Ⅰ/Ⅱ」P.331
「ドイツ語コミュニケーションⅢ/Ⅳ」P.332
「ドイツ語講読Ⅰ/Ⅱ」P.333
「留学ドイツ語Ⅰ/Ⅱ」P.335
「フランス語初級Ⅰ/Ⅱ」P.336
「フランス語中級Ⅰ/Ⅱ」P.338
「フランス語表現法Ⅰ/Ⅱ」P.339
「フランス語講読Ⅰ／Ⅱ」P.341
「ロシア語初級Ⅰ/Ⅱ」P.342
「ロシア語中級Ⅰ/Ⅱ」P.343
「ロシア語コミュニーケーションⅠ/Ⅱ」P.344
「ロシア語講読Ⅰ/Ⅱ」P.345
「時事ロシア語Ⅰ/Ⅱ」P.346
「中国語初級Ⅰ/Ⅱ」P.347
「中国語コミュニケーションⅢ/Ⅳ」P.348
「中国語表現法Ⅲ/Ⅳ」P.349
「時事中国語Ⅰ/Ⅱ」P.350
「検定中国語Ⅲ/Ⅳ」P.351
「スペイン語初級Ⅰ/Ⅱ」P.353
「スペイン語中級Ⅰ/Ⅱ」P.354
「スペイン語上級Ⅰ/Ⅱ」P.355
「スペイン語コミュニケーションⅢ/Ⅳ」P.356
「朝鮮語初級Ⅰ/Ⅱ」P.357
「朝鮮語中級Ⅰ/Ⅱ」P.358

◆外国語で行われる授業

＜市ヶ谷キャンパス＞

政治・社会

（法学部）

「A' Short Introduction to Japanese Poltics」P.359

（GIS）

「Introduction to Tourism Studies」P.360
「Tourism Development in Japan」P.361
「Event Management」P.362
「Sustainable Tourism Management」P.363
「International Relations of the Asia-Pacific」P.364
「Race, Class and Gender Ⅱ: Global Inequalities」P.365

国際化

（法学部）

「Global Governance」P.382

語学

（国際文化学部）

「英語アプリケーション（春学期/秋学期）」P.366
「フランス語アプリケーション①/②/③/④」P.371
「カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）/ Ⅱ（言語B）」P.375

（市ヶ谷総合科目）

「フランス語コミュニケーションⅢ/Ⅳ」P.377

文化・サイエンス

（国際文化学部）

「カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）/Ⅳ（歴史・社会B）」P.378

（GIS）

「Topics in Contemporary Art」P.380

（市ヶ谷総合科目）

「Human Impact on the Global Environment」P.381

＜多摩キャンパス＞

政治・社会

（経済学部）

「特別講義(グローバル観光論Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ/Ⅴ/Ⅵ)」P.383

企業・ビジネス

（経済学部）

「特別講義(英語でマクロ経済学 A/B)」P.386

◆持続可能な社会への科目群

＜市ヶ谷キャンパス＞

（文学部）

「哲学特講（7)-1」P.157
「気候・気象学及び実験Ⅰ/Ⅱ」P.171
「海洋・陸水学及び実験Ⅰ/Ⅱ」P.172
「社会経済地理学（4）(エコツーリズム)」P.176
「発達心理学」P.236
「身体活動と健康」P.234
「環境と倫理（1）/（2)」P.156

（国際文化学部）

「国際関係研究 1/2」P.70
「国際文化協力」P.69
「平和学」P.74
「実践国際協力」P.73
「地域紛争とエスニシティ」P.72

（人間環境学部）

「国際法Ⅰ/Ⅱ」P.76
「環境法Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」P.10
「国際環境法」P.77
「比較環境法」P.11
「環境経営論Ⅰ/Ⅱ」P.98
「環境哲学基礎論」P.161
「仏教思想」P.161
「ヨーロッパ環境史論Ⅰ/Ⅱ」P.140
「環境科学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」P.249
「自然環境政策論Ⅰ/Ⅱ」P.252
「キャリア入門」P.220

（デザイン工学部）

「サスティナブルデザイン」P.257
「都市デザイン」P.259

＜多摩キャンパス＞

（経済学部）

「財政学 A/B」P.114
「環境経済論 A/B」P.116
「日本経済論 A/B」P.118
「国際関係論 A/B」P.80
「労働経済論 A/B」P.120
「経済政策論 A/B」P.121
「環境科学 A/B」P.302
「社会政策論 A/B」P.24
「社会保障論 A/B」P.25
「国際経済論 A/B」P.122
「地球環境論 A/B」P.303
「環境政策論 A/B」P.26
「アメリカ経済論 A/B」P.124

（社会学部）

「環境政策論」P.27
「環境自治体論」P.28
「特講（エネルギー自治実践論)」P.33
「環境経済学Ⅰ/Ⅱ」P.127
「環境社会学Ⅰ/Ⅱ」P.33
「環境倫理」P.168
「農業・食料論」P.34
「環境法」P.35

（現代福祉学部）

「雇用政策論」P.45
「環境政策論」P.27
「災害支援論」P.46
「国際支援論」P.81
「日本人の心理特性と文化」P.306

【「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業*公開科目について】

＊「グローバル人材育成推進事業（平成24年度採択）」を組み替えたもの

法政大学は、グローバル社会で活躍する人材を育成・輩出するために、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」採択後、さまざまな取り組みをしています。**「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」**に事業名称は変更となりましたが、引き続き、既に英語イマージョン教育を実践している GIS（グローバル教養学部）のカリキュラムを拡充し、全学展開で実施する ERP（英語強化プログラム）を通じて高い英語力を身に付けた学生を受け入れます。また、多様な言語環境でも活躍できる人材育成に向けて、国際文化学部が中心となってドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語の教育システムの強化を図ります。ここでは GIS および国際文化学部の公開科目を紹介します。

◆英語◆　ERP 生向け GIS 公開科目について

GIS では 2016 年度の取り組みとして、100-level Introductory Courses、200-level Intermediate Courses のほかに、300-level Advanced Courses を新設します。これらはグローバル教育センターの英語強化プログラム（ERP）に該当する科目群で、他学部公開科目として、GIS 以外の学生にも公開します。ただし、教育上望ましい受講者数を大きく超える履修希望者がある場合には選抜が行われることがありますので、初回授業には必ず出席してください。

◇ 科目一覧

Level	Title	Semester	Instructor	Credit	ｼﾗﾊﾞｽ 掲載ﾍﾟｰｼﾞ
100	General Topics I: Urban Society	Spring	Heide Imai	2	388
	General Topics I: Space in Japan	Fall	Heide Imai	2	389
	Introduction to Political Science	Spring	Jonson Porteux	2	390
	General Topics I: Introduction to Comparative PoliticsIntroduction to Political Science	Fall	Jonson Porteux	2	391
200	General Topics II: Tokyo Tales-discovering the hidden city	Spring	Heide Imai	2	392
	General Topics II: Modern Olympics Movement	Spring	Heide Imai	2	393
	General Topics II: American Politics and Foreign Policy	Spring	Jonson Porteux	2	394
	General Topics II: Food and Society	Fall	Heide Imai	2	395
	General Topics II: Urban Sociology	Fall	Heide Imai	2	396
	General Topics II: Japanese Politics	Fall	Jonson Porteux	2	397
	Public Policy	Fall	Jonson Porteux	2	398
300	Special Topics I: Global Political Economy	Spring	Jonson Porteux	2	399

◇受講資格

原則として以下のいずれかの試験で英語運用能力を証明できる者。ただし、TOEFL®のスコアが望ましい。

・TOEFL iBT® 76 点以上（PBT 540 点）以上
・IELTS (Academic Module)band 6.0 以上
・TOEIC® 820 点以上
・実用英語技能検定 準１級以上

※200Level 以上の科目については、より高いスコアが要求される場合があります。

◆諸外国語◆　国際文化学部：アプリケーション（上級）について

国際文化学部では、本学部が7言語圏10カ国で実施している SA をベースに、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語の6言語圏の SA 参加者の各年次および卒業時の到達目標を定めるとともに、より高度なコミュニケーション能力を身につけるため、アプリケーション（上級）科目を開設しています。

日本の企業の3分の2が英語圏以外の国々を最重要拠点とするなど、グローバル人材に対する社会的ニーズは多様化しています。国際文化学部では、英語による汎用的なコミュニケーション力に加え、その地域の言語と文化を理解した上で、地域の人々と円滑なコミュニケーションを取ることができる地域的専門性の高いグローバル人材を育成します。アプリケーション（上級）は、他学部公開科目として、国際文化学部以外の学生にも公開します。

◇国際文化学部の各年次配当科目の到達目標（他学部の方は履修の際の参考としてください）

<table>
<tr><th rowspan="2">学年</th><th rowspan="2">科目</th><th colspan="7">到達目標</th></tr>
<tr><th>ドイツ語</th><th colspan="2">フランス語</th><th>スペイン語</th><th>ロシア語</th><th>中国語</th><th>朝鮮語</th></tr>
<tr><td rowspan="2">3・4年次</td><td>ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ（上級）</td><td>独検準１級
GZ B2
ZD
ZDfB B2
ZDj B2</td><td colspan="2">仏検２級
DELF B1
TCF300-399
TEF361-540</td><td>DELE C1</td><td>ロシア語能力検定２級
ТРКИ-1</td><td>新 HSK6 級</td><td>ハングル検定２級</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ</td><td>独検２級
GZ B1
ZDfB B1
ZDj B1</td><td colspan="2">仏検準２級
DELF A2
TCF 200-299
TEF 204-360</td><td>DELE B2</td><td>ロシア語能力検定３級
ТРКИ-БУ</td><td>新 HSK5 級</td><td>ハングル検定準２級</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年次</td><td>SA ＊</td><td>独検３級
SD 2, FD 2</td><td colspan="2">仏検３級
DELF A1
TCF100-199
TEF 69-203</td><td>DELE B1</td><td>ロシア語能力検定３級
ТРКИ-БУ</td><td>新 HSK4 級</td><td>ハングル検定３級</td></tr>
<tr><td>春学期配当科目</td><td>独検４級
SD A2, FD A2</td><td>仏検４級</td><td rowspan="2">DILF
TCF 0-99
TEF 0-68</td><td>DELE A2</td><td>ロシア語能力検定４級</td><td>新 HSK3 級</td><td>ハングル検定４級</td></tr>
<tr><td>1年次</td><td>１年次配当科目</td><td>独検５級
SD A1
FD A1</td><td>仏検５級</td><td>DELE A1</td><td>ロシア語能力検定４級</td><td>新 HSK2 級</td><td>ハングル検定５級</td></tr>
</table>

◇アプリケーション（上級）の受講資格

各言語の以下の資格または同レベルの語学力を有する者

・ドイツ語　独検2級、GZ B1、ZDfB B1、ZDj B1以上のいずれか
・フランス語　仏検準2級、DELF A2、TCF スコア200、TEF スコア204以上のいずれか
・スペイン語　DELE　B2以上
・ロシア語　ロシア語能力検定3級、ТРКИ-БУ 以上のいずれか
・中国語　新 HSK5級以上
・朝鮮語　ハングル能力検定試験準2級以上

◇到達目標

各言語の以下の資格の取得

・ドイツ語　独検準1級、GZ B2、ZD、ZDfB B2、ZDj B2
・フランス語　仏検2級 DELF B1、TCF300-399、TEF361-540
・スペイン語　DELE　C1
・ロシア語　ロシア語能力検定2級、ТРКИ-1
・中国語　新 HSK6級
・朝鮮語　ハングル能力検定試験2級

◇開講科目

授業科目名	担当教員名	配当年次	開講ｾﾒｽﾀｰ	開講数	単位数	ｼﾗﾊﾞｽ掲載ﾍﾟｰｼﾞ
ドイツ語アプリケーション（上級）	林　志津江	3～4	春・秋	2	2	400
フランス語アプリケーション（上級）	ｼﾞｮﾙﾃﾞｨﾌｨﾘｯﾌﾟ	3～4	春・秋	2	2	402
ロシア語アプリケーション（上級）	ｺﾍﾞﾙﾆｯｸ ﾅﾃﾞｨﾔ	3～4	春・秋	2	2	404
中国語アプリケーション（上級）	春：周重雷 秋：金玉英	3～4	春・秋	2	2	406
スペイン語アプリケーション（上級）	瓜谷　ｱｳﾛﾗ	3～4	春・秋	2	2	408
朝鮮語アプリケーション（上級）	富所　明秀	3～4	春・秋	2	2	410

◇履修上の注意

・各学期の初回授業に必ず出席し、受講許可を得てください。
・アプリケーション（上級）は各言語アプリケーションと合わせて履修することができます。
・国際文化学部生は、国際文化学部の専門科目「メディアコミュニケーション科目」として履修します。
国際文化学部生が「他学部公開科目」として履修することはできませんので、注意してください。

【グローバル・オープン科目について】

１．グローバル・オープン科目の概要

法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために 2016 年度から全学で開講される学部横断型の科目群です。

本プログラムは、昨年採択された文部科学省の「スーパーグローバル創成支援事業」の一環であり、その事業の教育目的である「持続可能な地球社会の構築に貢献できるグローバル人材を育成する」を具現化する教育プログラムの一つです。このプログラムでは、すべての科目は英語を教授言語としています。各学部で定められた科目履修要領に基づき、このグローバル・オープン科目を履修することにより、学部の専門性を超えたグローバルな視点での課題解決能力を修得することを目指します。

各科目は配当年次等によりレベル分けがなされており、各自の習熟度によって履修することができます。また、多くの科目が少人数で開講されるのが特長です。

(1) グローバル・オープン科目実施学部

すべての学部で実施。　※生命科学部は 2017 年度から実施

(2) 履修年次

グローバル・オープン科目は、１年次から配当されていますが、科目により履修年次がそれぞれ設定されているため、履修時に十分に留意してください。

(3) 登録単位の上限と単位の扱い

グローバル・オープン科目の修得単位は多くの学部で卒業所要単位として決められた単位数まで加算されます（下表参照）。単位認定に関する詳細や卒業進級の要件については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要綱）」等で確認してください。履修登録時には他の専門科目と同様に年間履修の上限単位数に含まれます。

所属学部	認定先科目	履修単位数上限等 ※詳細は履修の手引きで確認
法	自由科目	認定される自由科目全体で 20 単位以内
文	自由科目	上限なし　※英文学科のみ**卒業所要単位外**で認定
経営	連環科目	認定される連環科目全体で 20 単位以内
国際文化	自由科目	認定される自由科目全体で 18 単位以内
人間環境	自由科目	認定される自由科目全体で 20 単位以内
キャリアデザイン	自由科目	**3 年次以上**を対象とし、16 単位以内
ＧＩＳ	学部外科目	**2016 年度入学生から適用**（履修の手引き参照）
デザイン工	**卒業所要単位外**の科目として年間履修上限単位内で認定	
経済	自由科目	上限なし（但し認定される単位数の上限は、経済学科 20 単位以内，国際経済学科 16 単位(12 単位)以内，現代ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科 16 単位(18 単位)以内）　注：（　）内は 2016 年度入学生
社会	自由選択科目	1～4 各年次で 4 単位以内
現代福祉	自由科目＊	認定される自由科目全体で 20 単位以内 ＊自由科目：2016 年度より専門教育科目内に新設
スポーツ健康	視野形成科目	16 単位以内
理工	公開選択科目	**2016 年度入学生から適用。**認定される公開選択科目全体で 12 単位以内　注：創生科学科のみ 20 単位以内
情報科学	自由科目	**卒業所要単位外**で上限なし
生命科学部	**2017 年度より**自由選択科目で上限 4 単位認定予定	

(4) 登録方法

下記 (5) **注意事項(重要)**を読んで、各学部の「履修の手引き（履修要綱)」で内容を必ず確認し、他の科目と同じように定められた期間内に履修登録してください。

(5) 注意事項（重要)

・開講校地は、原則として、各科目の主催学部等の所在地となります。
・初回授業に必ず参加し、担当教員から履修許可を受けてください。定員のある授業では、選抜が行われる場合があります。
・秋学期科目については、春学期に履修登録の意思を教員に表明し、履修許可を予め得る必要のある科目があります。春学期のうちに担当教員に申し出て、履修許可の有無を確認してください。なお、秋学期科目の履修許可を得ないで春学期に登録した場合、履修を取り消される場合がありますので、十分に留意してください。
・秋学期が最初のセメスターとなる秋季入学生や交換留学生は、その年度の春学期に履修することが前提となる科目があり、第一セメスターに履修できない場合があります。シラバスを丁寧に読み、誤って初回授業に出席することがないよう留意してください。
・開講曜日・時限・教室等に変更がある場合や、レポート提出、試験等の情報は、開講学部の掲示板に掲示されますので、ご注意ください。
・他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講できない等制限がある場合があるため、各学部の履修の手引き（履修要綱）で確認してください。
・講義のテーマについてある程度の予備知識を必要とする科目もあります。初回授業前にシラバスを必ず読んで授業に臨んでください。
・市ヶ谷キャンパスの 2016 年度秋学期の時間割は、工事のため、１～５時限目の時間が変更されています。小金井あるいは多摩キャンパスから履修を考えている学生は特に留意してください。
・市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目の履修について、法学部・文学部・経営学部・国際文化学部・人間環境学部・キャリアデザイン学部の学生は、市ヶ谷基礎科目として認定されますので、履修登録前に十分に留意して履修を決定してください。なお、定員を超える受講希望者がいた場合、英語学位プログラム生が優先されます。また、市ヶ谷基礎科目・総合科目（含公開科目）で開講されている科目と連続または重複履修が出来ない科目があります（対象科目は市ヶ谷基礎科目掲示板を参照してください)。
・国際文化学部主催科目の履修については、下記に準ずる英語力が必要です。
TOEFL®iBT 61-75、 TOEFL®ITP Level 1 500-539、 TOEFL®ITP Level 2 500、
TOEIC®675-819、 IELTS6.0、 英検準１級程度。ただし、基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生であっても、履修の可否は担当教員の判断による。
・グローバル教養学部(GIS)主催科目の履修については、下記に準ずる英語力が必要です。
TOEFL®iBT 76 点(PBT 540 点)以上、IELTS (Academic Module) band 6.0 以上、
TOEIC® 820 点以上、英検準１級以上。

※ 初回授業で上記スコア等のうち、いずれか一つの提示を求められる場合があります。
※ 200Level 以上の科目については、より高いスコアが要求される場合があります。

・デザイン工学部主催科目は、学年暦がクォーター制のため、セメスター制の学部と授業期間が異なりますので、履修登録前に留意して履修を決定してください。

２．グローバル・オープン科目の領域と修了証について

「ビジネス＆マネジメント」「ビジネス＆エコノミクス」「国際関係」「社会と文化」「＊エンジニアリング（2017 年度開講につき名称検討中）」の５領域に加え、教授言語である英語運用能力を高める「実践英語」領域が用意されています。各領域を体系立てて学ぶことにより所属学部の科目で修得した専門性を活かしながら、学問分野を超えた高度な知識とグローバルな視野から幅広い知識を身につけることが可能となります。また、下記枠内に記載のある各領域の中で 12 単位以上修了した方には、所定の申請により「修了証」が発行されます。なお、次頁以降に記載された科目は 2016 年度からすべての科目が開講するわけではなく、2018 年度までの 3 年間に新設が予定されている科目ですので、開講については、毎年度の時間割とシラバスで確認してください。

＜修了証の申請から受領までの流れ＞　※修了証の手続きはグローバル教育センターにて行われます

12 月	グローバル・オープン科目修了証発行申請案内の告知
↓	
1 月	修了見込の学生本人が所定手続きで申請
↓	
3 月	申請内容および最終成績の確認
↓	
3 月下旬	グローバル教育センターから申請者への結果報告
↓	
4 月	修了証の発行・受領

◆「ビジネス＆マネジメント」領域

グローバル化によって日本国内で完結するビジネスはないといっても過言ではありません。今日のビジネスを理解するには、経営戦略、人材・組織、マーケティング、会計、ファイナンスなど経営管理の基礎的知識のほかに、国際経営、イノベーション、グローバルマーケティング、国際会計といった新しい分野を学ぶことが必要です。

この領域では、多様なグローバル・ビジネスの現状に触れ，社会に貢献してゆくための基盤能力を養い、海外進出やグローバルブランド構築を考察する機会を提供します。中級・上級科目を進むに従い、ビジネスモデリングやビジネス実践に関するスキルも学べる、卒業後のキャリア形成に役立つ科目を用意しています。

＜経営学部：GBP＞

Intro to Strategic Management, Intro to Accounting, Intro to Finance, Intro to Informatics, Intro to Organizational Management, Intro to Marketing, Intro to Operations Management, Intro to Japanese Economy, Intro to Statistics

＜人間環境学部：SCOPE＞

Global Human Resources Management

＜グローバル教養学部（GIS）＞

Foundations of Finance, Marketing Management, Brand Management, Principles of Marketing, International Business

＜理工学部＞

Intro to Financial Engineering

◆「ビジネス＆エコノミクス」領域

リーマンショックから始まった世界金融危機は日本企業の活動にも大きな影響を与え、中国経済の減速懸念は今後の日本企業のビジネス戦略を変えようとしています。

この領域では、経済学のコンセプトを用いて、グローバルに展開する企業活動の現状や、国際競争力を持ったビジネスの可能性について考える力を身につけます。導入科目では、世界経済の中の日本について歴史的な視点も入れながら学ぶとともに、ビジネス・コミュニケーションの実践的な基礎を学びます。中級・上級科目では、経済学や国際経済の基礎理論とともに世界の地域研究について学び、また、さらに進んだビジネス・コミュニケーションのスキルを学ぶとともにビジネスの研究を深めていきます。

＜経済学部＞　※多摩キャンパス開講

Japan and the Global Economy A/B, Business Communication I A/B,
Business Communication II A/B, Business Research Seminar A/B, Practical Economics A/B,
Principle of Economics A/B, Demography A/B, International Economics A/B, Area Studies A/B

◆「国際関係」領域

＊下線は、一つの科目です

グローバル化が進む今日の国際社会では、各国の政治、経済、文化、宗教的問題が国境・地域を越えて伝播することによって、武力紛争、テロ、経済危機、難民、大規模自然災害といった問題が世界各地で連鎖的に発生しています。

この領域では、こうした複雑化を増す国際社会の仕組みや諸問題に対する理解を深めるために、伝統的な国際政治学だけでなく、国際政治経済学や国際法学、外交政策論、政治学、社会学等、様々な視点から学際的研究を行います。将来、国際機関や国際 NGO、その他グローバル企業での勤務を希望する方に推奨したい科目です。

＜法学部＞

International Politics, English for Global Politics, A Short Introduction to Japanese Politics

＜国際文化学部＞

Cultural Dimension of American Foreign Relations

＜人間環境学部＞

Practices of Environmental Economics and Japan,
Japanese International Development Cooperation and Sustainable Society

＜グローバル教養学部（GIS）＞

International Security, Development Studies, Foreign Policy Analysis, International Organizations,
International Relations of the Asia-Pacific, Race, Class and Gender II: Global Inequalities

＜市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）＞

Elementary Social Science A/B, Social Science A/B, Intercultural Communication A

◆「社会と文化」領域

＊下線は、一つの科目です

グローバル社会の多様な課題を解決するためには、異文化理解、文学、歴史、思想、宗教、心理学、言語学などの学びを通して、文化や価値観の相違を認識することが重要であると考えられます。

この領域では、グローバル・オープン科目群の中で最も多くの科目数を集め、所属学部の専門分野以外にも目をむけ、グローバルリーダーとして活躍する人材に必要とされる知識をより広く学び、上記の認識を培う場を提供しています。

＜文学部＞
Comparative Culture (2)(3), Second Language Learning and Teaching,
＜国際文化学部＞
Religion and Society, History of English, History of Western Thought,
The History of Tourism, Structure of English, Approaches to Transnational History,
Philosophy of the Public Sphere, Art, Rebellion and Advertising
＜人間環境学部：SCOPE＞
Strategies for Intercultural Communication, Japanese Society and Sustainability 1,
Japanese Rural Society, Research Methods 1, Studies for Environment and Society
＜グローバル教養学部（GIS）＞
Cultural Studies, Cultural Psychology, Social Psychology I/II, Asian America, Sociolinguistics,
Readings in World Literature, Readings in Creative Nonfiction, Seminar: Language in the Mind I/II,
Race, Class, and Gender I: Concepts and Issues, English Dialects around the World,
Cultural Globalization, Studies in Poetry, Social Theory: Classic Readings and Concepts,
Social Theory: Perspectives on Inequality, Syntactic Theory
＜市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）＞
Elementary Humanities A/B, Humanities A/B, Elementary Health and Physical Education,
Elementary Information Technology, Elementary Career Development, Information Technology,
Natural Science A/B, Intercultural Communication B/C/E/F/G/H,
Health and Physical Education, Career Development Skills
＜デザイン工学部＞
Design Basics in English
＜社会学部＞
English Drama I/II, Comparative Culture
＜現代福祉学部＞
Introduction to Social Well-Being

◆「実践英語」領域

ツールとしての英語を鍛え、様々な場面に応じて相手の発言に傾聴しながら自らの主張を伝え、理解を求められるような、英語運用能力をつけることはグローバル社会で活躍することを希望している学生にとって必須であることは言うまでもありません。

「実践英語」領域では、学部を越えて、より実践的な英語能力を磨くことのできる場を提供します。少人数で開講される授業を通じて、プレゼンテーションや語彙力の強化をはじめ、英語によるコミュニケーション能力をさら身につけたい方にお勧めします。

＜文学部＞
Public Speaking
＜キャリアデザイン学部＞
Foreign Language Exercise (English III～V)
＜市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）＞
English Academic Writing I/II, English Presentation I/II, English Reading and Vocabulary I/II,
Intercultural Communication D

＊「エンジニアリング（仮称）」は、小金井キャンパスで 2017 年度から開講予定です。

5. 学部別一覧

学部	学科	曜日	時限	授業コード	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数	履修上の注意	持続可能な社会への科目群	社会学部生の受講
法	法律	火	5	A0065	経済法Ⅰ	岸井 大太郎	春学期	2			
法	法律	火	5	A0066	経済法Ⅱ	岸井 大太郎	秋学期	2			
法	法律	水	1	A0100	教育法Ⅰ	村元 宏行	春学期	2			
法	法律	水	1	A0100	教育法Ⅱ	村元 宏行	秋学期	2			
法	法律	水	5	A0114	法哲学Ⅰ	大野 達司	春学期	2			
法	法律	水	5	A0115	法哲学Ⅱ	大野 達司	秋学期	2			
法	法律	木	2	A0132	法と遺伝学Ⅰ	上杉 奈々	春学期	2			
法	法律	木	2	A0133	法と遺伝学Ⅱ	上杉 奈々	秋学期	2			
法	政治	木	1	A0451	A' Short Introduction to Japanese Politics	衛藤 幹子	秋学期	2			
法	政治	月	2	A0354	外国書講読（独語） Ⅰ	内田 俊一	春学期	2			
法	政治	月	2	A0355	外国書講読（独語） Ⅱ	内田 俊一	秋学期	2			
法	政治	水	2	A0349	公共哲学Ⅰ	西村 （清）	春学期	2			
法	政治	金	5	A0348	公共哲学Ⅱ	名和田 是彦	春学期	2			
法	政治	金	2	A0235	政治体制論Ⅰ	細井 保	春学期	2			
法	政治	金	2	A0236	政治体制論Ⅱ	細井 保	秋学期	2			
法	政治	木	2	A0249	ジェンダー論Ⅰ	衛藤 幹子	春学期	2			
法	政治	木	2	A0250	ジェンダー論Ⅱ	衛藤 幹子	秋学期	2			
法	政治	水	2	A0334	現代メディア論	萩谷 順	春学期	2			
法	政治	木	2	A0434	日露関係論Ⅰ	クラフツェビチ アンドレイ	春学期	2			
法	政治	木	2	A0435	日露関係論Ⅱ	クラフツェビチ アンドレイ	秋学期	2			
法	政治	土	2	A0341	コミュニティ論Ⅰ	荒木 千晴	春学期	2			
法	政治	水	2	A0342	コミュニティ論Ⅱ	名和田 是彦	秋学期	2			
法	政治	水	4	A0900	協働組合論	杉崎 和久	春学期	2			
法	国際政治	水	4	A0664	グローバル・ガバナンス	後藤 一美	春学期	2			
法	国際政治	火	3	A0717	国際協力論Ⅰ	後藤 一美	春学期	2			
法	国際政治	火	3	A0718	国際協力論Ⅱ	後藤 一美	秋学期	2			
法	国際政治	水	5	A0625	Global Governance	弓削 昭子	春学期	2			
法	国際政治	水	4	A0644	外交総合講座	弓削 昭子	秋学期	2			
法	国際政治	月	5	A0721	アジア国際政治特講Ⅰ	小谷 哲男	春学期	2			
法	国際政治	月	5	A0722	アジア国際政治特講Ⅱ	小谷 哲男	秋学期	2			
法	国際政治	水	2	A0771	朝鮮半島の政治と社会Ⅰ	権 鎬淵	春学期	2			
法	国際政治	水	2	A0772	朝鮮半島の政治と社会Ⅱ	権 鎬淵	秋学期	2			
法	国際政治	木	1	A0736	オセアニアの政治と社会Ⅰ	長島 怜央	春学期	2			
法	国際政治	木	1	A0737	オセアニアの政治と社会Ⅱ	長島 怜央	秋学期	2			
法	国際政治	火	2	A0447	アメリカ外交史	森 聡	春学期	2			
法	国際政治	金	5	A0761	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ特講Ⅰ	伊藤 庄一	春学期	2			
法	国際政治	金	5	A0762	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ特講Ⅱ	伊藤 庄一	秋学期	2			
法	国際政治	火	3	A0749	国際機構論Ⅰ	弓削 昭子	春学期	2			
法	国際政治	火	3	A0750	国際機構論Ⅱ	弓削 昭子	秋学期	2			
法	国際政治	火	2	A0777	平和・軍事研究Ⅰ	権 鎬淵	春学期	2			
法	国際政治	火	2	A0733	平和・軍事研究Ⅱ	権 鎬淵	秋学期	2			
文	哲	水	2	A2224	哲学特講(7)－1	牧野 英二	春学期	2		○	○
文	哲	水	4	A2241	科学哲学1	平野 登士	春学期	2			○
文	哲	水	4	A2242	科学哲学2	松井 久	秋学期	2			○
文	哲	月	2	A2245	現代思想2(フランスの思想)1	鈴木 正道	春学期	2			○
文	哲	月	2	A2246	現代思想2(フランスの思想)2	鈴木 正道	秋学期	2			○
文	哲	木	4	A2251	宗教学1(伝統宗教)1	杉本 隆司	春学期	2			○
文	哲	木	3	A2252	宗教学1(伝統宗教)2	杉本 隆司	秋学期	2			○
文	哲	金	3	A2268	ラテン語1	棟尾 正敏	春学期	2			○
文	哲	金	3	A2269	ラテン語2	棟尾 正敏	秋学期	2			○
文	哲	木	5	A2270	ギリシア語1	白根 裕里枝	春学期	2			○
文	哲	木	5	A2271	ギリシア語2	白根 裕里枝	秋学期	2			○
文	日文	木	5	A2657	日本文芸研究特講(1)上代A	坂本 勝	春学期	2			○
文	日文	木	5	A2658	日本文芸研究特講(1)上代B	坂本 勝	秋学期	2			○
文	日文	火	4	A2661	日本文芸研究特講(2)中古A	岡田 貴憲	春学期	2			○
文	日文	火	4	A2662	日本文芸研究特講(2)中古B	岡田 貴憲	秋学期	2			○
文	日文	金	4	A2665	日本文芸研究特講(3)中世A	小秋元 段	春学期	2			○
文	日文	金	4	A2666	日本文芸研究特講(3)中世B	小秋元 段	秋学期	2			○
文	日文	水	4	A2669	日本文芸研究特講(4)近世A	浅沼 博	春学期	2			○
文	日文	水	4	A2670	日本文芸研究特講(4)近世B	浅沼 博	秋学期	2			○
文	日文	水	2	A2677	日本文芸研究特講(6)現代A	田中 実	春学期	2			○
文	日文	水	2	A2678	日本文芸研究特講(6)現代B	田中 実	秋学期	2			○
文	日文	木	4	A2681	日本文芸研究特講(7)漢文A	黒田 真美子	春学期	2			○
文	日文	木	4	A2682	日本文芸研究特講(7)漢文B	黒田 真美子	秋学期	2			○
文	日文	木	2	A2693	日本文芸研究特講(11)音楽芸能史A	スティーヴン・ネルソン	春学期	2			○
文	日文	木	2	A2694	日本文芸研究特講(11)音楽芸能史B	スティーヴン・ネルソン	秋学期	2			○
文	日文	金	2	A2703	日本文芸研究特講(15)国際日本学A	スティーヴン・ネルソン	春学期	2			○
文	日文	金	2	A2704	日本文芸研究特講(15)国際日本学B	スティーヴン・ネルソン	秋学期	2			○
文	日文	木	3	A2553	日本文芸批評史A	川鍋 義一	春学期	2			○
文	日文	木	3	A2555	日本文芸批評史B	川鍋 義一	秋学期	2			○
文	日文	月	3	A2561	中国文芸史A	黒田 真美子	春学期	2			○
文	日文	月	3	A2563	中国文芸史B	黒田 真美子	秋学期	2			○
文	日文	水	3	A2569	音楽芸能史特殊研究A	野川 美穂子	春学期	2			○
文	日文	水	3	A2571	音楽芸能史特殊研究B	野川 美穂子	秋学期	2			○
文	日文	水	5	A2602	情報リテラシー実習Ⅱ	永保 敏伸	年間	4	キャリアデザイン学部以外の学生は履修できません		
文	英文	月	2	A2905	米文学史A	宮川 雅	春学期	2			○
文	英文	月	2	A2906	米文学史B	宮川 雅	秋学期	2			○
文	英文	火	3	A2804	英語学概論A	椎名 美智	春学期	2			○
文	英文	火	5	A2805	英語学概論B	大沢 ふよう	秋学期	2			○
文	英文	水	2	A2806	言語学概論A	石川 潔	春学期	2	国際文化学部の学生は履修できません		○
文	英文	金	2	A2807	言語学概論B	川﨑 貴子	秋学期	2	国際文化学部の学生は履修できません		○
文	英文	水	2	A2808	英語・言語学講義A	秋山 孝信	秋学期	2			○
文	英文	水	2	A2809	英語・言語学講義B	石川 潔	秋学期	2			○
文	英文	木	2	A2810	社会言語学	椎名 美智	秋学期	2	国際文化学部の学生は履修できません		○
文	英文	金	2	A2811	応用言語学	川﨑 貴子	春学期	2	国際文化学部の学生は履修できません		○
文	英文	水	1	A2907	英米文学講義ⅠA	結城 英雄	春学期	2			○
文	英文	水	1	A2908	英米文学講義ⅠB	結城 英雄	秋学期	2			○
文	英文	金	3	A2909	英米文学講義ⅡA	丹治 愛	春学期	2			○
文	英文	金	3	A2910	英米文学講義ⅡB	丹治 愛	秋学期	2			○
文	英文	火	2	A2911	英語学講義A	大沢 ふよう	春学期	2			○
文	英文	火	2	A2912	英語学講義B	大沢 ふよう	秋学期	2			○
文	英文	月	4	A2913	言語学講義ⅠA	石川 潔	春学期	2			○
文	英文	月	4	A2914	言語学講義ⅠB	石川 潔	秋学期	2			○
文	英文	水	2	A2915	言語学講義ⅡA	西前 明	春学期	2			○
文	英文	水	2	A2916	言語学講義ⅡB	西前 明	秋学期	2			○
文	英文	水	1	A2965	英米文学特殊講義Ⅰ	宮川 雅	秋学期	2			○
文	英文	水	5	A2966	英米文学特殊講義Ⅱ	吉川 信	秋学期	2			○
文	英文	火	4	A2967	英米文学特殊講義Ⅲ	小島 尚人	春学期	2			○
文	英文	火	4	A2968	英米文学特殊講義Ⅳ	小島 尚人	秋学期	2			○
文	英文	火	4	A2923	英語・言語学特殊講義A	柴﨑 礼士郎	春学期	2			○
文	英文	火	4	A2924	英語・言語学特殊講義B	柴﨑 礼士郎	秋学期	2			○

学部	学科	曜日	時限	授業コード	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数	履修上の注意	持続可能な社会への科目群	社会学部生の受講
文	英文	水	5	A2981	比較文化論（1）	吉川　信	春学期	2	社会学部の学生は履修できません		×
文	英文	火	1	A2982	英米文化概論A	小島　尚人	春学期	2			○
文	英文	火	1	A2983	英米文化概論B	小島　尚人	秋学期	2			○
文	英文	金	4	A2824	比較文学A	山下　敦	春学期	2			○
文	英文	金	4	A2825	比較文学B	山下　敦	秋学期	2			○
文	史	月	2	A3113	日本考古学	小倉　淳一	秋学期	2			○
文	史	金	4	A3116	日本近世史	松本　剣志郎	秋学期	2			○
文	史	金	2	A3208	東洋近現代史	芦沢　知絵	春学期	2			○
文	史	月	2	A3152	考古学概論	小倉　淳一	春学期	2			○
文	史	金	3	A3157	日本史特講Ⅳ	澤登　寛聡	秋学期	2			○
文	史	金	2	A3164	東洋史特講Ⅲ	芦沢　知絵	秋学期	2			○
文	史	金	2	A3171	西洋史特講Ⅳ	加納　格	春学期	2			○
文	史	金	2	A3172	西洋史特講Ⅴ	加納　格	秋学期	2			○
文	地理	火	1	A3420	生物・土壌地理学及び実験Ⅰ	小川　滋之	春学期	2			○
文	地理	水	1	A3421	生物・土壌地理学及び実験Ⅱ	小﨑　隆	秋学期	2			○
文	地理	金	3	A3422	気候・気象学及び実験Ⅰ	佐藤　典人	春学期	2		○	○
文	地理	金	3	A3423	気候・気象学及び実験Ⅱ	佐藤　典人	秋学期	2		○	○
文	地理	木	4	A3424	海洋・陸水学及び実験Ⅰ	小寺　浩二	春学期	2		○	○
文	地理	木	4	A3425	海洋・陸水学及び実験Ⅱ	小寺　浩二	秋学期	2		○	○
文	地理	火	3	A3426	社会経済地理学（1）	小原　丈明	秋学期	2			○
文	地理	月	2	A3427	社会経済地理学（2）	伊藤　達也	春学期	2			○
文	地理	木	3	A3428	社会経済地理学（3）	片岡　義晴	秋学期	2			○
文	地理	月	5	A3481	社会経済地理学（4）（エコツーリズム）	呉羽　正昭	秋学期	2		○	○
文	地理	金	1	A3482	文化地理学（1）	中俣　均	春学期	2			○
文	地理	金	1	A3483	文化地理学（2）	中俣　均	秋学期	2			○
文	地理	金	2	A3471	地理情報システム（GIS）Ⅰ	中山　大地	春学期	2	受講人数に制限あり（初回授業に必ず参加すること）		○
文	地理	金	2	A3472	地理情報システム（GIS）Ⅱ	中山　大地	秋学期	2	受講人数に制限あり（初回授業に必ず参加すること）		○
文	心理	火	2	A3622	発達心理学	渡辺　弥生	春学期	2	初回授業に参加しなければ、受講できない場合がある。	○	○
文	心理	月	3	A3729	身体活動と健康	林　容市	春学期	2	初回授業に参加しなければ、受講できない場合がある。	○	○
文	共通	水	3	A3819	歴史地理学（1）	川名　禎	春学期	2	「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可		○
文	共通	水	3	A3820	歴史地理学（2）	青木　隆浩	秋学期	2	「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可		○
文	共通	木	1	A3809	民俗学Ⅰ	山本　志乃	春学期	2			○
文	共通	木	1	A3810	民俗学Ⅱ	山本　志乃	秋学期	2			○
文	共通	金	2	A3811	イスラム世界論Ⅰ	大塚　修	春学期	2			○
文	共通	金	2	A3812	イスラム世界論Ⅱ	大塚　修	秋学期	2			○
文	共通	金	5	A3814	現代のコモンセンス	酒井　健	秋学期	2	注1）定員をオーバーした場合、初回授業で選抜を実施します。		○
文	共通	金	3	A3817	環境と倫理（1）	相原　博	春学期	2		○	○
文	共通	金	3	A3818	環境と倫理（2）	相原　博	秋学期	2		○	○
経営		月	2	A4506	流通論Ⅰ	横山　斉理	春学期	2			○
経営		月	2	A4507	流通論Ⅱ	横山　斉理	秋学期	2			○
経営		月	2	A4300	経営組織論Ⅰ	稲垣　保弘	春学期	2			○
経営		月	2	A4301	経営組織論Ⅱ	稲垣　保弘	秋学期	2			○
経営		火	3	A4204	基礎統計学Ⅰ	豊田　敬	春学期	2	1）経済学部・社会学部の学生は履修できません 2）火曜3時限豊田先生のみ履修可		×
経営		火	3	A4208	基礎統計学Ⅱ	豊田　敬	秋学期	2	1）経済学部・社会学部の学生は履修できません 2）火曜3時限豊田先生のみ履修可		×
経営		木	2	A4029	簿記入門Ⅰ・Ⅱ	大下　勇二	年間	4	経済学部・社会学部の学生は履修できません。人間環境学部の学生は学部の基幹科目として履修してください。		×
経営		木	3	A4032	ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ	林　直嗣	年間	4	経済学部・社会学部・人間環境学部の学生は履修できません		×
経営		金	3	A4224	会計学入門Ⅰ	平井　裕久	春学期	2			○
経営		金	3	A4227	会計学入門Ⅱ	平井　裕久	秋学期	2			○
経営		金	4	A4410	経営分析Ⅰ	平井　裕久	春学期	2			○
経営		金	4	A4411	経営分析Ⅱ	平井　裕久	秋学期	2			○
経営		土	2	A5202	キャリア・マネジメントⅠ	今城　志保	春学期	2			○
経営		木	5	A5203	キャリア・マネジメントⅡ	今城　志保	秋学期	2			○
国際文化	国際文化	月	2	C0931	ロシア・中央アジアの文化	アンドレイ　クラフツェビチ	春学期	2			
国際文化	国際文化	月	2	C0950	カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）	ヴィラ・ラケル	春学期	2			
国際文化	国際文化	月	4	C0932	ロシア・東欧の文化	佐藤千登勢	春学期	2			
国際文化	国際文化	月	5	C0534	英語アプリケーション	マーティン　ブラッドショウ	春学期	2			
国際文化	国際文化	火	1	C1020	間文化性研究翻訳論	熊田泰章	春学期	2	旧科目「翻訳と情報」の単位を修得済みの場合履修不可		
国際文化	国際文化	火	3	C0952	カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）	ヴィラ・ラケル	春学期	2			
国際文化	国際文化	火	4	C0531	英語アプリケーション	ウォルター　カズマー	春学期	2			
国際文化	国際文化	火	4	C0689	中国語アプリケーション（上級）	周重雷	春学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	火	4	C0757	朝鮮語アプリケーション（上級）	富所明秀	春学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	水	1	C0915	中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）	野村英登	春学期	2			
国際文化	国際文化	水	2	C0629	フランス語アプリケーション（上級）	ジョルディ　フィリップ	春学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	水	2	C0657	ロシア語アプリケーション（上級）	コベルニック　ナディヤ	春学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	水	2	C0722	スペイン語アプリケーション（上級）	瓜谷アウロラ	春学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	水	2	C0966	英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）	奥石哲哉	春学期	2			
国際文化	国際文化	水	2	C1040	国際関係研究1	松本悟	春学期	2		○	
国際文化	国際文化	水	4	C0244	宗教と社会	佐々木一惠	春学期	2			
国際文化	国際文化	水	4	C0688	中国語アプリケーション②	高田裕子	春学期	2			
国際文化	国際文化	木	1	C0920	朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）	内山政春	春学期	2			
国際文化	国際文化	木	1	C1032	宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）	江村裕文	春学期	2	旧科目「イスラーム思想」の単位を修得済みの場合履修不可		
国際文化	国際文化	木	3	C0233	ジェンダー論	佐々木一惠	春学期	2			
国際文化	国際文化	木	4	C1021	日英翻訳論	リービ英雄	春学期	2	文学部の学生は他学部公開科目として履修することはできません		
国際文化	国際文化	木	4	C0910	中国の文化Ⅰ（現代中国社会）	曽士才	春学期	2			
国際文化	国際文化	木	5	C0627	フランス語アプリケーション③	コンルール　ジョルジュ	春学期	2			
国際文化	国際文化	金	2	C0242	国際文化協力	松本悟	春学期	2		○	
国際文化	国際文化	金	2	C0599	ドイツ語アプリケーション（上級）	林志津江	春学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	金	2	C0625	フランス語アプリケーション①	ジョルディ　フィリップ	春学期	2			
国際文化	国際文化	金	2	C0687	中国語アプリケーション③	金玉英	春学期	2			
国際文化	国際文化	金	3	C0918	中国の文化Ⅸ（中国俗文学）	鈴木靖	春学期	2			
国際文化	国際文化	金	3	C0940	ドイツ語圏の文化Ⅰ	林志津江	春学期	2			
国際文化	国際文化	金	3	C0962	英語圏の文化Ⅲ（現代事情）	粟飯原文子	春学期	2	文学部の学生は他学部公開科目として履修することはできません		
国際文化	国際文化	木	2	C0913	中国の文化Ⅳ（中国語の構造）	渡辺昭太	春学期	2			
国際文化	国際文化	金	4	C0916	中国の文化Ⅷ（近代文学）	廣野行雄	春学期	2			
国際文化	国際文化	月	2	C0951	カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）	ヴィラ・ラケル	秋学期	2			
国際文化	国際文化	月	3	C0628	フランス語アプリケーション④	イヴ　ロワゾー	秋学期	2			
国際文化	国際文化	月	4	C1046	地域協力・統合	大中一彌	秋学期	2	人間環境学部の学生は他学部公開科目として履修することはできません		
国際文化	国際文化	火	1	C0231	言語文化概論	衣笠正晃	秋学期	2			
国際文化	国際文化	火	1	C1044	移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）	高柳俊男	秋学期	2			
国際文化	国際文化	火	2	C0243	平和学	松本悟	秋学期	2		○	
国際文化	国際文化	火	2	C0944	フランス語圏の文化Ⅲ（文学）	ジョルディ　フィリップ	秋学期	2			
国際文化	国際文化	火	3	C0686	中国語アプリケーション④	鈴木靖	秋学期	2			
国際文化	国際文化	火	3	C0854	現代美術論	稲垣立男	秋学期	2			
国際文化	国際文化	火	3	C0953	カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）	ヴィラ・ラケル	秋学期	2			
国際文化	国際文化	火	4	C0538	英語アプリケーション	ウォルター　カズマー	秋学期	2			
国際文化	国際文化	火	4	C0758	朝鮮語アプリケーション（上級）	富所明秀	秋学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	水	2	C0630	フランス語アプリケーション（上級）	ジョルディ　フィリップ	秋学期	2	注5参照		

学部	学科	曜日	時限	授業コード	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数	履修上の注意	持続可能な社会への科目群	社会学部生の受講
国際文化	国際文化	水	2	C0658	ロシア語アプリケーション（上級）	コベルニック　ナディヤ	秋学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	水	2	C0685	中国語アプリケーション①	曽士才	秋学期	2			
国際文化	国際文化	水	2	C0723	スペイン語アプリケーション（上級）	瓜谷アウロラ	秋学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	水	2	C0967	英語圏の文化Ⅶ（英語の歴史）	輿石哲哉	秋学期	2			
国際文化	国際文化	水	2	C1041	国際関係研究2	松本悟	秋学期	2		○	
国際文化	国際文化	水	3	C1031	宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）	佐々木一惠	秋学期	2	旧科目「キリスト教思想」の単位を修得済みの場合履修不可		
国際文化	国際文化	木	3	C1000	比較表象文化論	竹内晶子	秋学期	2	旧科目「比較思想」の単位を修得済みの場合履修不可		
国際文化	国際文化	木	3	C0922	アジアの伝統芸能	鈴木靖	秋学期	2			
国際文化	国際文化	木	3	C1048	実践国際協力	松本悟	秋学期	2		○	
国際文化	国際文化	木	3	C0914	中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）	渡辺昭太	秋学期	2			
国際文化	国際文化	木	4	C0901	世界の中の日本語	リービ英雄	秋学期	2			
国際文化	国際文化	木	4	C0911	中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）	曽士才	秋学期	2			
国際文化	国際文化	木	5	C1010	他者イメージ論	中島成久	秋学期	2			
国際文化	国際文化	金	2	C0600	ドイツ語アプリケーション（上級）	林志津江	秋学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	金	2	C0626	フランス語アプリケーション②	ジョルディ　フィリップ	秋学期	2			
国際文化	国際文化	金	2	C1047	地域紛争とエスニシティ	中島成久	秋学期	2		○	
国際文化	国際文化	金	2	C0690	中国語アプリケーション（上級）	金玉英	秋学期	2	注5参照		
国際文化	国際文化	金	3	C0532	英語アプリケーション	ラスカイル　ハウザー	秋学期	2			
国際文化	国際文化	金	3	C0872	映像と文学	林志津江	秋学期	2			
国際文化	国際文化	金	3	C0963	英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）	須藤祐二	秋学期	2			
国際文化	国際文化	金	4	C0917	中国の文化Ⅷ（現代文学）	廣野行雄	秋学期	2			
国際文化	国際文化	金	5	C0960	英語圏の文化Ⅰ（文化史）	宇治谷義英	秋学期	2			
人間環境	人間環境	火	3	C2004	国際法Ⅰ	岡松　暁子	春学期	2	CD学部生は他学部公開科目として履修できません。教職課程を履修しているCD学部生は国際法Ⅰ（教職）を履修してください。	○	
人間環境	人間環境	火	3	C2005	国際法Ⅱ	岡松　暁子	秋学期	2	CD学部生は他学部公開科目として履修できません。教職課程を履修しているCD学部生は国際法Ⅱ（教職）を履修してください。	○	
人間環境	人間環境	金	4	C2013	環境法Ⅰ	後藤　彌彦	春学期	2		○	
人間環境	人間環境	金	2	C2014	環境法Ⅱ	永野　秀雄	秋学期	2		○	
人間環境	人間環境	木	4	C2015	環境法Ⅲ	後藤　彌彦	春学期	2		○	
人間環境	人間環境	木	3	C2017	国際環境法	岡松　暁子	秋学期	2	法学部政治学科，国際政治学科の学生は履修できません	○	
人間環境	人間環境	木	4	C2018	比較環境法	後藤　彌彦	秋学期	2	法学部政治学科，国際政治学科の学生は履修できません	○	
人間環境	人間環境	土	2	C2112	環境経営論Ⅰ	金藤　正直	春学期	2		○	
人間環境	人間環境	土	2	C2113	環境経営論Ⅱ	金藤　正直	秋学期	2		○	
人間環境	人間環境	金	4	C2311	環境哲学基礎論	関口　和男	春学期	2		○	
人間環境	人間環境	金	4	C2301	仏教思想	関口　和男	秋学期	2	国際文化学部の学生は履修できません	○	
人間環境	人間環境	金	3	C2314	ヨーロッパ環境史論Ⅰ	辻　英史	春学期	2		○	
人間環境	人間環境	金	3	C2315	ヨーロッパ環境史論Ⅱ	辻　英史	秋学期	2		○	
人間環境	人間環境	木	5	C2416	環境科学Ⅰ	藤倉　良	春学期	2		○	
人間環境	人間環境	土	1	C2417	環境科学Ⅱ	藤倉　良	秋学期	2	法学部政治学科，国際政治学科の学生は履修できません	○	
人間環境	人間環境	土	1	C2418	環境科学Ⅲ	藤倉　良	春学期	2		○	
人間環境	人間環境	金	2	C2413	自然環境政策論Ⅰ	高田　雅之	春学期	2		○	
人間環境	人間環境	金	2	C2414	自然環境政策論Ⅱ	高田　雅之	秋学期	2		○	
人間環境	人間環境	火	3	C2504	キャリア入門	長峰　登記夫	春学期	2		○	
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	木	2	C7083	職業選択論Ⅰ	上西　充子	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	金	2	C7193	学習の社会史A	別府　愛	秋学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	木	2	C7194	学習の社会史B	寺崎　里水	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	木	2	C7252	職業選択論Ⅱ	上西　充子	秋学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	火	5	C7268	アントレプレナーシップ論Ⅰ	小門　裕幸	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	火	6	C7269	アントレプレナーシップ論Ⅱ	小門　裕幸	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	月	3	C7270	職業キャリア論	八幡　成美	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	水	4	C7272	シティズンシップ論	小門　裕幸	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	月	3	C7302	コミュニティ社会論Ⅰ	佐藤　恵	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	月	3	C7303	コミュニティ社会論Ⅱ	佐藤　恵	秋学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	火	5	C7313	アート・マネジメント論	荒川　裕子	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	火	5	C7322	多文化社会論Ⅰ	小田　昌教	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	水	2	C7350	就業機会とキャリア	酒井　理	秋学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	水	4	C7707	日本語教育概説	山田　泉	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	金	6	C7708	多文化社会における日本語教育A	木村　哲也	秋学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	火	4	C7709	多文化社会における日本語教育B	前田　理佳子	秋学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	金	2	C7710	多文化社会における日本語教育C	富谷　玲子	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	金	6	C7711	多文化社会における日本語教育D	木村　哲也	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	金	4	C7712	多文化社会における日本語教育E	村野　節子	秋学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	火	4	C7718	就業機会とキャリア特講E−働くことと労働組合−	武石　惠美子・上西充子	秋学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	水	5	C7719	地域活性論	宮木　いっぺい	年間	4			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	水	3	C7720	就業応用力養成Ⅰ	鈴木　美伸	春学期	2			○
ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	水	3	C7721	就業応用力養成Ⅱ	鈴木　美伸	秋学期	2			○
デザインエ		火	4・5	B3001	サステイナブルデザイン	出口　清孝	D期（秋学期後半）	2	D期：11月14日～1月22日	○	
デザインエ		火	6	B3011	建築フォーラム	渡邉　眞理　他	CD期（秋学期）	2			
デザインエ		水	1	B1052	国際社会論	藤本　正徳	AB期（春学期）	2			
デザインエ		水	1	B1051	マーケティング	林　奈生子	CD期（秋学期）	2			
デザインエ		水	5	B1050	財務会計	境　新一	AB期（春学期）	2			
デザインエ		木 金	1 3	B2051	都市デザイン	高見　公雄	D期（秋学期後半）	2	D期：11月14日～1月22日 木1・金3の週2コマで開講	○	
デザインエ		金	5	B1053	エコノミクス	多部田　直樹	AB期	2			
GIS*		水	4	A6301	Topics in Contemporary Art	溝口　彰子	秋学期	2			○
GIS*		月	4	A6169	Introduction to Tourism Studies	John Melvin	春学期	2			○
GIS*		水	3	A6170	Introduction to Tourism Studies	John Melvin	秋学期	2			○
GIS*		水	3	A6282	Tourism Development in Japan	John Melvin	春学期	2			○
GIS*		水	2	A6281	Event Management	John Melvin	秋学期	2			○
GIS*		水	4	A6344	Sustainable Tourism Management	John Melvin	春学期	2			○
GIS*		木	2	A6331	International Relations of the Asia-Pacific	湯澤　武	春学期	2			○
GIS*		月	2	A6321	Race, Class and Gender II: Global Inequalities	Diana Khor	春学期	2			○
G人材ERP*		火	3	A6602	General Topics I: Space in Japan	Heide Imai	秋学期	2			○
G人材ERP*		火	2	A6601	General Topics I: Urban Society	Heide Imai	春学期	2			○
G人材ERP*		火	2	A6607	General Topics II: Urban Sociology	Heide Imai	秋学期	2			○
G人材ERP*		火	3	A6606	General Topics II: Modern Olympics Movement	Heide Imai	春学期	2			○
G人材ERP*		木	1	A6605	General Topics II: Tokyo Tales−discovering the hidden city	Heide Imai	春学期	2			○
G人材ERP*		木	3	A6608	General Topics II: Food and Society	Heide Imai	秋学期	2			○
G人材ERP*		月	4	A6604	General Topics I: Introduction to Comparative PoliticsIntroduction to Political Science	Jonson Porteux	秋学期	2			○
G人材ERP*		月	5	A6159	Introduction to Political Science	Jonson Porteux	春学期	2			○
G人材ERP*		月	5	A6609	General Topics II: Japanese Politics	Jonson Porteux	秋学期	2			○
G人材ERP*		月	4	A6611	General Topics II: American Politics and Foreign Policy	Jonson Porteux	春学期	2			○
G人材ERP*		金	5	A6270	Public Policy	Jonson Porteux	秋学期	2			○
G人材ERP*		金	5	A6612	Special Topics I: Global Political Economy	Jonson Porteux	春学期	2			○
経済		月	1	K6549	特別講義（空間データ分析入門A）	森　博美	春学期	2			○
経済		月	1	K6550	特別講義（空間データ分析入門B）	森　博美	秋学期	2			○
経済		火	2	K6551	特別講義（現代インド経済論）	絵所　秀紀	春学期	2			○

学部	学科	曜日	時限	授業コード	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数	履修上の注意	持続可能な社会への科目群	社会学部生の受講
経済		水	2	K6547	特別講義（英語でマクロ経済学A）	マドゥスダン ゴーシュ	春学期	2			○
経済		金	3	K6548	特別講義（英語でマクロ経済学B）	マドゥスダン ゴーシュ	春学期	2			○
経済		火	3	K6541	特別講義（グローバル観光論Ⅰ）	メアリー クエク	春学期	2			○
経済		火	3	K6542	特別講義（グローバル観光論Ⅱ）	メアリー クエク	秋学期	2			○
経済		火	4	K6543	特別講義（グローバル観光論Ⅲ）	メアリー クエク	春学期	2			○
経済		火	4	K6544	特別講義（グローバル観光論Ⅳ）	メアリー クエク	秋学期	2			○
経済		水	3	K6545	特別講義（グローバル観光論Ⅴ）	メアリー クエク	春学期	2			○
経済		水	3	K6546	特別講義（グローバル観光論Ⅵ）	メアリー クエク	秋学期	2			○
経済		金	4	K6501	特別講義（寄付講座・証券市場論）	大和証券株式会社	春学期	2			○
経済		木	3	K6062	財政学A	小林 克也	春学期	2		○	○
経済		木	3	K6064	財政学B	小林 克也	秋学期	2		○	○
経済		木	2	K6063	財政学A	廣川 みどり	春学期	2		○	○
経済		木	2	K6065	財政学B	廣川 みどり	秋学期	2		○	○
経済		火	2	K6154	環境経済論A	赤石 秀之	春学期	2		○	○
経済		火	2	K6156	環境経済論B	赤石 秀之	秋学期	2		○	○
経済		火	3	K6155	環境経済論A	赤石 秀之	春学期	2		○	○
経済		火	3	K6157	環境経済論B	赤石 秀之	秋学期	2		○	○
経済		火	3	K6054	日本経済論A	小黒 一正	春学期	2		○	○
経済		火	3	K6056	日本経済論B	小黒 一正	秋学期	2		○	○
経済		木	3	K6055	日本経済論A	小崎 敏男	春学期	2		○	○
経済		木	3	K6057	日本経済論B	小崎 敏男	秋学期	2		○	○
経済		水	2	K6150	国際関係論A	貫 芳祐	春学期	2		○	○
経済		水	2	K6151	国際関係論B	貫 芳祐	秋学期	2		○	○
経済		木	1	K6235	労働経済論A	酒井 正	春学期	2		○	○
経済		木	1	K6236	労働経済論B	酒井 正	秋学期	2		○	○
経済		水	2	K6229	経済政策論A	濱秋 純哉	春学期	2		○	○
経済		水	2	K6230	経済政策論B	濱秋 純哉	秋学期	2		○	○
経済		水	2	K6209	環境科学A	岡部 雅史	春学期	2		○	○
経済		水	2	K6210	環境科学B	岡部 雅史	秋学期	2		○	○
経済		木	1	K6233	社会政策論A	菅原 琢磨	春学期	2		○	○
経済		木	1	K6234	社会政策論B	菅原 琢磨	秋学期	2		○	○
経済		火	1	K6243	社会保障論A	小黒 一正	春学期	2		○	○
経済		火	1	K6244	社会保障論B	小黒 一正	秋学期	2		○	○
経済		火	2	K6058	国際経済論A	ブー トウン カイ	春学期	2		○	○
経済		火	2	K6060	国際経済論B	ブー トウン カイ	秋学期	2		○	○
経済		月	2	K6059	国際経済論A	武智 一貴	春学期	2		○	○
経済		月	2	K6061	国際経済論B	武智 一貴	秋学期	2		○	○
経済		火	1	K6314	地球環境論A	藤田 貢崇	春学期	2		○	○
経済		火	1	K6315	地球環境論B	山崎 友紀	秋学期	2		○	○
経済		水	2	K6223	環境政策論A	西澤 栄一郎	春学期	2		○	○
経済		水	2	K6224	環境政策論B	西澤 栄一郎	秋学期	2		○	○
経済		月	3	K6162	アメリカ経済論A	河村 哲二	春学期	2		○	○
経済		月	3	K6163	アメリカ経済論B	河村 哲二	秋学期	2		○	○
社会		月	4	L1906	産業社会学Ⅰ	上林 千恵子	春学期	2			
社会		月	4	L1907	産業社会学Ⅱ	上林 千恵子	秋学期	2			
社会		金	3	L1915	社会ネットワーク論Ⅰ	境 新一	春学期	2			
社会		金	3	L1916	社会ネットワーク論Ⅱ	境 新一	秋学期	2			
社会		月	4	L0609	社会計画論Ⅰ	湯浅 陽一	春学期	2			
社会		月	4	L0610	社会計画論Ⅱ	湯浅 陽一	秋学期	2			
社会		月	1	L0121	社会調査Ⅰ	堀川 三郎	春学期	2			
社会		月	1	L0122	社会調査Ⅱ	堀川 三郎	秋学期	2			
社会		水	1	L0668	社会保障法Ⅰ	長沼 健一郎	春学期	2			
社会		水	1	L0669	社会保障法Ⅱ	長沼 健一郎	秋学期	2			
社会		火	1	L0816	金融システム論	田口 博雄	秋学期	2			
社会		金	3	L0730	メディアの歴史	小林 直毅	春学期	2	2015年度までに旧カリ科目「メディア史Ⅰ」を履修した場合は履修不可		
社会		水	2	L0713	アメリカのジャーナリズム	荒木 暢也	春学期	2			
社会		月	3	L0601	環境政策論	白井 信雄	春学期	2	経済学部生は履修不可	○	
社会		月	2	L0602	環境自治体論	白井 信雄	秋学期	2		○	
社会		金	2	L0764	地域研究（中国）	大崎 雄二	秋学期	2			
社会		月	1	L0763	地域研究（イスラーム）	岡野内 正	春学期	2			
社会		月	1	L0758	南北問題	岡野内 正	秋学期	2			
社会		月	2	L0620	特講（エネルギー自治実践論）	壽福 眞美・白井 信雄	春学期	2	初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。	○	
社会		木	2	L0603	環境経済学Ⅰ	島本 美保子	春学期	2		○	
社会		木	2	L0604	環境経済学Ⅱ	島本 美保子	秋学期	2		○	
社会		木	4	L0605	環境社会学Ⅰ	池田 寛二	春学期	2		○	
社会		木	4	L0606	環境社会学Ⅱ	池田 寛二	秋学期	2		○	
社会		月	3	L0665	環境倫理	壽福 眞美	秋学期	2		○	
社会		木	3	L0615	農業・食料論	天笠 啓祐	春学期	2		○	
社会		金	1	L0614	環境法	井上 秀典	秋学期	2		○	
現代福祉		月	2	N1117	雇用政策論	布川 日佐史	春学期	2		○	
現代福祉		火	2	N0061	ホスピタリティ論	野口 洋平	春学期	2			
現代福祉		火	3	N0123	老年学	新名 正弥	春学期	2	SSI生はSSI科目(授業コードN0125)として履修のこと		
現代福祉		火	3	N1221	NPO論	松元 一明	秋学期	2	SSI生はSSI科目(授業コードN1238)として履修のこと。 旧：「非営利組織の運営」修得者は不可		
現代福祉		火	3	N1309	異文化心理学	奥山 今日子	秋学期	2			
現代福祉		火	3	N0119	社会学特講	左古 輝人	秋学期	2			
現代福祉		火	4	N1227	環境政策論	藤澤 浩子	春学期	2	旧：「環境教育論」修得者は不可 経済学部生は履修不可	○	
現代福祉		火	4･5	N1222	居住福祉論	大原 一興	春学期	2	隔週2時限連続		
現代福祉		火	4	N1208	地域経営論	塙 武郎	春学期	2	SSI生はSSI科目(授業コードN1224)として履修のこと。 旧：「地域経営」を修得した者は履修不可		
現代福祉		水	1	N0126	企業と経済の動向	有田 五郎	春学期	2			
現代福祉		水	1	N1203	住民参加の手法	杉崎 和久	春学期	2			
現代福祉		水	2	N0062	日本人の心理特性と文化	長山 恵一	秋学期	2	SSI生はSSI科目(授業コードN0064)として履修のこと	○	
現代福祉		木	2	N1113	国際支援論	VIRAG VIKTOR	秋学期	2	旧：「国際福祉論」修得者は不可	○	
現代福祉		木	3	N1114	福祉の思想と歴史	白川 耕一	春学期	2			
現代福祉		木	4	N1214	ソーシャルイノベーション論	土肥 将敦	春学期	2	旧：「社会起業論」修得者は不可		
現代福祉		金	1	N1217	ソーシャルファイナンス論	雨宮 寛	春学期	2			
現代福祉		金	1	N0122	経営学	芳賀 和恵	秋学期	2	SSI生はSSI科目(授業コードN0124)として履修のこと。 経済学部生は履修不可		
現代福祉		金	2	N1108	都市住宅政策論	水野 雅男	春学期	2	旧：「都市住宅政策論Ⅰ」を修得した者は履修不可		
現代福祉		金	2	N0063	教育学	藤本 典裕	春学期	2	SSI生はSSI科目(授業コードN0065)として履修のこと		
現代福祉		金	2	N1058	福祉国家論	布川 日佐史	秋学期	2			
現代福祉		金	2	N1105	地域文化政策論	馬場 憲一	秋学期	2	旧：「地域文化政策」を修得した者は履修不可		
現代福祉		金	2	N1219	災害支援論	大島 隆代	秋学期	2		○	
現代福祉		金	3	N1209	地域ツーリズム	南 賢二	春学期	2	SSI生はSSI科目(授業コードN1225)として履修のこと		
現代福祉		金	4	N1207	地域遺産マネジメント論	須田 英一	春学期	2			
現代福祉		金	4	N1201	コミュニティアート	吉野 裕之	春学期	2	SSI生はSSI科目(授業コードN1223)として履修のこと		
現代福祉		金	4	N1111	政策評価論	牧瀬 稔	春学期	2			
現代福祉		金	4	N1213	文化環境創造論	須田 英一	秋学期	2			
現代福祉		金	4	N0158	ヘルスプロモーション	熊坂 隆行	秋学期	2			
現代福祉		金	5	N1217	ソーシャルファイナンス論	雨宮 寛	秋学期	2			

学部	学科	曜日	時限	授業コード	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数	履修上の注意	持続可能な社会への科目群	社会学部生の受講
SSI		月	1	A9026	スポーツメディア論	海老名　徳雪	春学期	2	市ヶ谷開講		○
SSI		火	1	A9221	スポーツメディア論	海老名　徳雪	春学期	2	多摩開講		○
SSI		火	1	A9214	リーダーシップ論Ⅰ	浅井　玲子	春学期	2	多摩開講		○
SSI		火	1	A9215	リーダーシップ論Ⅱ	浅井　玲子	秋学期	2	多摩開講		○
SSI		火	2	A9220	アスリートキャリア論	笠井　淳	春学期	2	多摩開講		○
SSI		火	3	A9207	スポーツ方法論	笠井　淳	春学期	2	多摩開講 (1)2014年度以前入学者は「ｽﾎﾟｰﾂ方法論Ⅰ」に読替えます。 (2)同時に市ヶ谷開講(秋学期)は履修できません。		○
SSI		水	3	A9037	アスリートキャリア論	笠井　淳	春学期	2	市ヶ谷開講		○
SSI		水	3	A9010	スポーツ方法論	笠井　淳	秋学期	2	市ヶ谷開講 (1)2014年度以前入学者は「ｽﾎﾟｰﾂ方法論Ⅰ」に読替えます。 (2)同時に多摩開講(春学期)は履修できません。		○
SSI		金	2	A9021	スポーツビジネス論Ⅰ	千田　利史	春学期	2	市ヶ谷開講		○
SSI		金	2	A9022	スポーツビジネス論Ⅱ	千田　利史	秋学期	2	市ヶ谷開講		○
市ヶ谷総合科目	人文科学系	金	4	P6003	文章論－文章表現の実践	藤村　耕治	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		水	3	P6005	文芸創作講座	青山　七恵	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	3	P6007	日本芸能史論	阿部　真弓	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		月	3	P6009	身体表現論(バレエの世界)	鈴木 晶	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		月	3	P6011	美術論	稲垣　立男	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	2	P6013	芸術と人間	岡村　民夫	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		水	4	P6019	人間存在論	森村 修	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		金	4	P6023	ギリシャの文化と社会	中村 純	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		金	5	P6025	古代日本・中国の法と社会	稲田　奈津子	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		水	3	P6027	アジア・太平洋国際関係史	今泉　裕美子	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		金	2	P6029	在日朝鮮人の歴史	神谷　丹路	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		水	4	P6031	比較民俗学	川村 湊	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	5	P6035	キリスト教思想論	酒井 健	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	3	P6039	異文化コミュニケーション論	山本 そのこ	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	3	P6041	アフロアジア入門	江村　裕文	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		月	2	P6106	中国の民族と文化	齋藤　勝	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	1	P6113	アラブの言語と文化	江村　裕文	年間	4			○
市ヶ谷総合科目	社会科学系	水	2	P6111	法哲学	内藤　淳	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		月	5	P6051	人文地理学セミナー	高木　正	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		木	3	P6053	文化人類学方法論	中島 成久	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		金	4	P6105	総合講座－沖縄を考える－	中俣　均	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	4	P6121	グローバル社会の地域研究	片岡　義晴	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	4	P6127	グローバル経済論	水野　和夫	年間	4			
市ヶ谷総合科目		水	4	P6129	政治思想	犬塚　元	年間	4			
市ヶ谷総合科目	自然科学系	金	2	P6063	自然環境のしくみとその変貌	加藤　美雄	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		金	3	P6069	コンピュータの裏側	倉田 俊彦	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		木	4	P6075	相対性理論と宇宙	小池　康郎	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		月	5	P6115	エネルギーを考える	小池　康郎	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	5	P6077	現代の錬金術	石川　壮一	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	3	P6079	原子核と素粒子－ミクロの世界－	吉田　智	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		火	5	P6085	生命情報科学	月井　雄二	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		水	3	P6097	物質科学	中田 和秀	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		金	1	P6108	ITリテラシー	児玉　靖司	年間	4			○
市ヶ谷総合科目		金	4	P6117	自然史	島野　智之	年間	4			
市ヶ谷総合科目		月	3	P6123	人間と地球環境	宇野　真介	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		月	3	P6124	Human Impact on the global environment	宇野　真介	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		月	2	P6125	イオンの科学	向井　知大	年間	4			○
市ヶ谷総合科目	諸外国語＝言語教育系	火	2	P6601	ドイツ語初級Ⅰ	笠原　賢介	春学期	2	ドイツ語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		火	2	P6602	ドイツ語初級Ⅱ	笠原　賢介	秋学期	2	ドイツ語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		火	5	P6603	ドイツ語コミュニケーションⅢ	シュミット　ウテ	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		火	5	P6604	ドイツ語コミュニケーションⅣ	シュミット　ウテ	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	4	P6605	ドイツ語講読Ⅰ	日中 鎮朗	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	4	P6606	ドイツ語講読Ⅱ	日中 鎮朗	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	5	P6609	フランス語初級Ⅰ	廣松　勲	春学期	2	フランス語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		水	5	P6610	フランス語初級Ⅱ	廣松　勲	秋学期	2	フランス語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		水	2	P6611	フランス語中級Ⅰ	柴崎　秀穂	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	2	P6612	フランス語中級Ⅱ	柴崎　秀穂	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	5	P6613	フランス語コミュニケーションⅢ	ジョルディ フィリップ	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	5	P6614	フランス語コミュニケーションⅣ	ジョルディ フィリップ	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	4	P6615	フランス語表現法Ⅰ	廣松　勲	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	4	P6616	フランス語表現法Ⅱ	廣松　勲	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	2	P6617	フランス語講読Ⅰ	野村　訓子	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	2	P6618	フランス語講読Ⅱ	野村　訓子	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		月	3	P6619	ロシア語初級Ⅰ	木部　敬	春学期	2	ロシア語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		月	3	P6620	ロシア語初級Ⅱ	木部　敬	秋学期	2	ロシア語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		月	3	P6621	ロシア語中級Ⅰ	三神　エレーナ	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		月	3	P6622	ロシア語中級Ⅱ	三神　エレーナ	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		月	4	P6623	ロシア語コミュニケーションⅠ	三神　エレーナ	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		月	4	P6624	ロシア語コミュニケーションⅡ	三神　エレーナ	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		月	2	P6625	ロシア語講読Ⅰ	土岐 康子	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		月	2	P6626	ロシア語講読Ⅱ	土岐 康子	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	3	P6627	時事ロシア語Ⅰ	クラフツェビチ アンドレイ	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	3	P6628	時事ロシア語Ⅱ	クラフツェビチ アンドレイ	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		金	3	P6629	中国語初級Ⅰ	廣野　行雄	春学期	2	中国語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		金	3	P6630	中国語初級Ⅱ	廣野　行雄	秋学期	2	中国語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		木	2	P6631	中国語コミュニケーションⅢ	耿　函	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	2	P6632	中国語コミュニケーションⅣ	耿　函	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		金	3	P6633	中国語表現法Ⅲ	康　鴻音	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		金	3	P6634	中国語表現法Ⅳ	康　鴻音	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	4	P6635	検定中国語Ⅲ	沈 小南	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	4	P6636	検定中国語Ⅳ	沈 小南	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	4	P6679	中国語講読Ⅰ	岩田　和子	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		木	4	P6680	中国語講読Ⅱ	岩田　和子	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		火	3	P6637	スペイン語初級Ⅰ	杉下　由紀子	春学期	2	スペイン語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		火	3	P6638	スペイン語初級Ⅱ	杉下　由紀子	秋学期	2	スペイン語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		火	2	P6639	スペイン語中級Ⅰ	佐々木 直美	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		火	2	P6640	スペイン語中級Ⅱ	佐々木 直美	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	3	P6641	スペイン語コミュニケーションⅢ	瓜谷　アウロラ	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	3	P6642	スペイン語コミュニケーションⅣ	瓜谷　アウロラ	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		火	3	P6643	朝鮮語初級Ⅰ	富所　明秀	春学期	2	朝鮮語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		火	3	P6644	朝鮮語初級Ⅱ	富所　明秀	秋学期	2	朝鮮語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		火	4	P6645	朝鮮語中級Ⅰ	梁　禮先	春学期	2	朝鮮語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		火	4	P6646	朝鮮語中級Ⅱ	梁　禮先	秋学期	2	朝鮮語履修者は履修不可		
市ヶ谷総合科目		水	3	P6671	時事中国語Ⅰ	薬 進	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		水	3	P6672	時事中国語Ⅱ	薬 進	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		火	2	P6673	スペイン語上級Ⅰ	田澤　耕	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		火	2	P6674	スペイン語上級Ⅱ	田澤　耕	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		月	2	P6677	留学ドイツ語Ⅰ	平松　英人	春学期	2			

学部	学科	曜日	時限	授業コード	科目名称	担当者氏名	授業期間	単位数	履修上の注意	持続可能な社会への科目群	社会学部生の受講
市ヶ谷総合科目		月	2	P6678	留学ドイツ語Ⅱ	平松　英人	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目	諸外国語言語文化・地域文化系	火	3	P6653	ドイツの思想Ⅰ	笠原　賢介	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		火	3	P6654	ドイツの思想Ⅱ	笠原　賢介	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		金	3	P6655	ドイツの文学Ⅰ	山下　敦	春学期	2			
市ヶ谷総合科目		金	3	P6656	ドイツの文学Ⅱ	山下　敦	秋学期	2			
市ヶ谷総合科目		金	4	P6657	比較文化Ⅰ	D ハイデンライヒ	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		金	4	P6658	比較文化Ⅱ	D ハイデンライヒ	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		木	4	P6659	ドイツの文化と社会Ⅰ	内田　俊一	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		木	4	P6660	ドイツの文化と社会Ⅱ	内田　俊一	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		木	2	P6661	フランスの文化と社会Ⅰ	鈴木 正道	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		木	2	P6662	フランスの文化と社会Ⅱ	鈴木 正道	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		金	4	P6663	ロシアの文化と社会Ⅰ	佐藤　千登勢	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		金	4	P6664	ロシアの文化と社会Ⅱ	佐藤　千登勢	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		木	2	P6665	中国の文化と社会Ⅰ	山本　律	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		木	2	P6666	中国の文化と社会Ⅱ	山本　律	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		水	3	P6667	朝鮮の文化と社会Ⅰ	李 英美	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		水	3	P6668	朝鮮の文化と社会Ⅱ	李 英美	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		金	4	P6669	日本の文化と社会Ⅰ	小宮　修太郎	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		金	4	P6670	日本の文化と社会Ⅱ	小宮　修太郎	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目		水	2	P6675	ドイツの芸術Ⅰ	辻　英史	春学期	2			○
市ヶ谷総合科目		水	2	P6676	ドイツの芸術Ⅱ	辻　英史	秋学期	2			○
市ヶ谷総合科目	健康・スポーツ科学系	月	2	P6201	スポーツ科学Ⅰ	西村　一帆	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		月	2	P6202	スポーツ科学Ⅱ	西村　一帆	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		月	3	P6203	スポーツ科学Ⅰ	濱口　純一	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		月	3	P6204	スポーツ科学Ⅱ	濱口　純一	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		木	2	P6205	スポーツ科学Ⅰ	兒嶋 昇	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		木	2	P6206	スポーツ科学Ⅱ	兒嶋 昇	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		水	3	P6207	スポーツ科学Ⅰ	小西　真幸	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		水	3	P6208	スポーツ科学Ⅱ	小西　真幸	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		月	2	P6209	スポーツ科学Ⅰ	朝比奈　茂	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		月	2	P6210	スポーツ科学Ⅱ	朝比奈　茂	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		木	1	P6211	スポーツ科学Ⅰ	兒嶋 昇	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		木	1	P6212	スポーツ科学Ⅱ	兒嶋 昇	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		木	3	P6213	スポーツ科学Ⅰ	吉田 康伸	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		木	3	P6214	スポーツ科学Ⅱ	吉田 康伸	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		月	2	P6215	スポーツ科学Ⅰ	小谷　究	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		月	2	P6216	スポーツ科学Ⅱ	小谷　究	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		金	3	P6217	スポーツ科学Ⅰ	中澤　史	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		金	3	P6218	スポーツ科学Ⅱ	中澤　史	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		金	3	P6219	スポーツ科学Ⅰ	濱口　純一	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		金	3	P6220	スポーツ科学Ⅱ	濱口　純一	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		金	2	P6221	スポーツ科学Ⅰ	笠井　淳	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		金	2	P6222	スポーツ科学Ⅱ	笠井　淳	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		木	3	P6223	スポーツ科学Ⅰ	伊藤　マモル	春学期	2	同じ種目の連続履修は不可		
市ヶ谷総合科目		木	3	P6224	スポーツ科学Ⅱ	伊藤　マモル	秋学期	2	同じ種目の連続履修は不可		

＜注意＞

1. 文学部科目「現代のコモンセンス」について

定員をオーバーした場合、第１回目の授業（秋学期）で選抜を実施する可能性があります。春学期履修期間中に当該年度に履修する科目をすべて履修登録した場合でも、履修が出来ない場合がありますので注意してください。

2. GIS科目

全て10～20名の少人数制を採用しており、定員をオーバーした場合、第1回目の授業で選抜を実施する可能性があります。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修が出来ない場合がありますので注意してください。

3. 市ヶ谷総合科目

・法学部、文学部、経営学部、国際文化学部所属の学生は総合科目として履修登録をしてください。
・春学期の第１回目の授業時に出席し担当教員から受講許可を得てください。選抜を行う場合もあります。受講が許可された場合のみ履修登録が可能です。
・年間科目を春学期・秋学期にわけて履修することはできません。春学期に年間科目として履修登録してください。

4. G人材ERP科目

グローバル人材育成推進事業の英語強化プログラム（ERP）関係科目です。詳細は第1回の授業に出席し、確認してください。

5. 諸語アプリケーション（上級）

グローバル人材育成推進事業の諸語関係科目です。第1回の授業に出席し、担当教員に受講許可を得たうえで履修登録をしてください。ただし、受講にあたり相当の語学が求められますので、受講を認められない場合もあります。

2016年度　領域別　グローバル・オープン科目時間割

＜領域＞　1：ビジネス＆マネジメント　2：ビジネス＆エコノミクス　3：国際関係　4：社会と文化　5：実践英語　※小金井キャンパスについては、2017年度から開講予定

領域	開講校地	主催学部等	学期	曜日	時限	科目名（英語）	担当教員名	配当年次	単位	履修上の注意 ※初回授業に必ず出席してください	掲載ページ
1	市ヶ谷	GIS	春	月	3	Marketing Management	福岡	3-4	2	300 level【下記(注1)参照】	411
		経営	秋学期	火	4	Introduction to Strategic Management	安藤	1-4	2		412
				水	1	Introduction to Accounting	北田	1-4	2		413
				月	3	Introduction to Finance	岸本	1-4	2		414
				木	2	Introduction to Informatics	児玉	1-4	2		415
		GIS		火	1	Foundations of Finance	Eyo	2-4	2	200 level　Prerequisiteあり【下記(注1)参照】	416
		人間環境		火	3	Global Human Resources Management	長峰　登記夫	1-4	2		417
2	多摩	経済	春学期	水	1	Japan and the Global Economy A	渡部　亮	1-4	2		418
				火	3	Business Communication I A	グレン ファーン	2-4	2		419
				火	4	Business Communication I A	グレン ファーン	2-4	2		419
				火	3	Business Communication II A	ジュリア　ヨング	3-4	2		420
				火	4	Business Communication II A	ジュリア　ヨング	3-4	2		421
				月	3	Business Research Seminar A	中谷　安男	3-4	2		422
		経済	秋学期	水	1	Japan and the Global Economy B	渡部　亮	1-4	2		422
				火	3	Business Communication I B	グレン ファーン	2-4	2		423
				火	4	Business Communication I B	グレン ファーン	2-4	2		424
				火	3	Business Communication II B	ジュリア　ヨング	3-4	2		424
				火	4	Business Communication II B	ジュリア　ヨング	3-4	2		425
				月	3	Business Research Seminar B	中谷　安男	3-4	2		426
3	市ヶ谷	法	春学期	金	2	English for Global Politics	パーキンズ	2-4	2		427
				金	3	English for Global Politics	パーキンズ	2-4	2		428
				金	4	English for Global Politics	パーキンズ	2-4	2		429
				月	6	English for Global Politics	ターロフスキー	2-4	2		430
				水	6	English for Global Politics	ターロフスキー	2-4	2		431
		法	秋学期	火	2	International Politics	森	2-4	2		432
				水	6	English for Global Politics	ターロフスキー	2-4	2		433
				木	1	A Short Introduction to Japanese Politics	衛藤　他4名	1-4	2		434
		市ヶ谷リベラルアーツセンター		水	5	Elementary Social Science B	佐崎	1-4	2	副題：International Organization	435
				金	4	Social Science A	ポルトゥ	1-4	2	副題：Political Economy of Japan/East Asia I	435
		人間環境		金	5	Practice of Environmental Economics and Japan	國則　守生	1-4	2		436
		GIS		火	3	International Security	湯澤	2-4	2	200 level【下記(注1)参照】	437
				木	1	Development Studies	安富	2-4	2	200 level【下記(注1)参照】	438
4	市ヶ谷	文	春学期	月	3	Comparative Culture (2)	小島尚人	2-4	2		439
		GIS		木	3	Readings in Creative Nonfiction	Bettridge	3-4	2	300 level【下記(注1)参照】	440
	多摩	社会		金	2	English Drama I	滝沢 カレン	2-4	2		441
		社会	秋学期	金	2	English Drama II	滝沢 カレン	2-4	2	春学期の初回授業で担当教員の許可を得ること。	441
		市ヶ谷リベラルアーツセンター		火	3	Elementary Humanities A	ネルソン	1-4	2	副題：Japanese Arts I	442
				水	3	Elementary Humanities B	バロース	1-4	2	副題：Introduction to British Culture	442
				木	3	Elementary Information Technology	松田	1-4	2	副題：Information Design I	443
				金	3	Elementary Career Development	有田	1-4	2	副題：Elementary Career Development	444
				月	1	Elementary Health and Physical Education	ネメシュ　ローランド	1-4	2	副題：Introduction to Sports and Health Science GIS科目「Physical Education Ⅱ」との重複履修は不可。【下記(注4)参照】	446
				月	4	Intercultural Communication E	ロワゾー	1-4	2	副題：Introduction to Cultures of the French-Speaking World	447
				火	3	Intercultural Communication G	山崎	1-4	2	副題：Introduction to Japan	448
				木	3	Intercultural Communication B	石原	1-4	2	副題：Language Teaching for Multicultural Understanding	448
				金	3	Intercultural Communication C	石原	1-4	2	副題：Politeness and Formality in Japanese, English, and Beyond	449
				月	3	Natural Science A	宇野	1-4	2	副題：Human Impact on the Global Environment 総合科目（含む公開科目）の「Human Impact on the Global Environment」との重複履修は不可	450
		文		月	3	Comparative Culture (3)	小島尚人	2-4	2		451
				金	2	Second Language Learning and Teaching	ブライアン　ウィスナー	2-4	2		452
		国際文化		月	4	Religion and Society	田口 陽子	1-4	2	【下記(注2)参照】	453
				火	2	History of English	奥石　哲哉	3-4	2	【下記(注2)参照】	454
				木	3	The History of Tourism	マーク　フィールド	3-4	2	定員24名を超えた場合は国際文化学部生優先 【下記(注2)参照】	456
				火	3	History of Western Thought	マーク　フィールド	2-4	2	【下記(注2)参照】	457
				月	2	Art, Rebellion and Advertising	マーティン　ブラッドショー	3-4	2	定員24名を超えた場合は国際文化学部生優先 【下記(注2)参照】	458
		人間環境		水	1	Japanese Society and Sustainability 1	佐伯　英子	1-4	2		459
				火	5	Japanese Rural Society	傅　凱儀	1-4	2		459
				木	1	Studies for Environment and Society	傅　凱儀	1-4	2		460
				木	4	Research Methods 1	佐伯　英子	1-4	2		461
		GIS		木	3	Cultural Studies	White	2-4	2	200 level【下記(注1)参照】	462
				休講		Asian America	Khor	2-4	2	200 level【下記(注1)参照】 2016年度休講	
				月	3	Readings in World Literature	Bettridge	1-4	2	100 level【下記(注1)参照】	463
				月	1	Social Psychology II	新谷	2-4	2	200 level【下記(注1)参照】	464
				月	3	Race, Class and Gender I: Concepts & Issues	Khor	2-4	2	200 level　Prerequisiteあり【下記(注1)参照】	465
				水	3	Cultural Psychology	澤海	3-4	2	300 level　Prerequisiteあり【下記(注1)参照】	466
				金	3･4	Seminar: Language in the Mind II	Evans	3-4	4	400 level【下記(注1)参照】	467
		ﾃﾞｻﾞｲﾝ工		金	3･4	Design Basics in English	Bognar	2-4	2	教室は田町校舎　隔週開講 ※履修希望者は、9/16（金）3限T412教室で開催予定の全クラス共通の初回ガイダンスで授業日程が決定されますので、必ず参加してください。	468
				金	3･4	Design Basics in English	Lambiasi	2-4	2		468
				金	3･4	Design Basics in English	Sypkens	2-4	2		469
				金	5･6	Design Basics in English	Din	2-4	2		469
5	市ヶ谷	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	春学期	金	4	Foreign Language Exercise (English III)	Kregg　Johnston	1-4	1		470
				木	4	Foreign Language Exercise (English V)	ジョン　バウマン	1-4	1		474
		市ヶ谷リベラルアーツセンター		水	4	English Academic Writing I	パティモア	1-4	1	日本語科目名称は「英語アカデミック・ライティングI」につき、法・文・経営・国際文化学部の学生は4群選択科目「英語アカデミック・ライティングI」との重複履修は不可 【下記(注3)参照】	472
				木	2	English Academic Writing I	バーンズ	1-4	1		473
				金	2	English Academic Writing I	ニコルス	1-4	1		474
		ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	秋学期	金	4	Foreign Language Exercise (English IV)	Kregg　Johnston	1-4	1		471
		市ヶ谷リベラルアーツセンター		水	4	English Academic Writing II	パティモア	1-4	1	日本語科目名称は「英語アカデミック・ライティングII」につき、法・文・経営・国際文化学部の学生は4群選択科目「英語アカデミック・ライティングII」との重複履修は不可【下記(注3)参照】	475
				木	2	English Academic Writing II	バーンズ	1-4	1		476
				金	2	English Academic Writing II	ニコルス	1-4	1		477

注1：GIS主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL®iBT 76点(PBT 540点)以上、IELTS（Academic Module）band 6.0以上、TOEIC® 820点以上、英検 準1級以上。レベルによって前述以上のスコアが必要な場合があります。

注2：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL® iBT 61-75、TOEFL® ITP Level 1 500-539、TOEFL®ITP Level 2 500、TOEIC® 675-819、IELTS 6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。

注3：市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目「English Academic Writing I」「English Academic Writing II」に必要とされる英語能力基準は、TOEFL®ITP 430以上、または他の英語能力試験の同等以上のスコア。

注4：市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目「Elementary Health and Physical Education」はGIS生はGIS科目「Physical Education Ⅱ」として履修すること。定員を超える受講希望者がいた場合、GIS生と英語学位プログラム生が優先されます。

AC237

コミュニティ論Ⅰ

荒木　千晴

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、身近な地域社会をターゲットとして行われている現在のコミュニティ政策を概観するものである。合併により基礎自治体の範域が広域化する中で、住民にとって身近な地域的まとまりであるコミュニティにおける諸活動や、コミュニティに一定の制度的な枠組みを与えるコミュニティ政策が多様な形態にて広がりをみせている。本講義では、日本におけるコミュニティの特徴を理解するとともに、コミュニティ政策の動向やコミュニティ政策が必要とされる背景について考察を行う。同時に、コミュニティの民間サイドの活動実態や組織について学び、身近な地域社会における生活課題の解決に向けて、生活主体である住民が地域組織への参画をつうじて地域運営の一端を担う、また制度を利用して地域社会のあり方に関する意思決定を行うといった、コミュニティにおけるガバナンスのあり方について理解を深めることを目的としている。

【到達目標】
・現代の日本におけるコミュニティの特徴 (特異性) を理解する。
・コミュニティ政策が必要とされる背景、ならびに展開されてきたコミュニティ政策について理解する。
・持続可能なコミュニティの運営に向け、地域社会側の組織、構造、活動過程について理解する。
・コミュニティにおける生活課題について地域福祉論・地域開発学等の枠組みを援用して課題を構造的に把握し、その解決策に立論する力を身につける。

【授業の進め方と方法】
・コミュニティに関する基礎概念、理論、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげます。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点からコミュニティの理解をすすめます。
・講師による講義を基本としますが、一部演習（グループ協議等）を行います。授業内でリアクションペーパーの記入・提出（成績評価対象）を求める予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス、序説～なぜ「コミュニティ」が求められるのか～	授業の概要および進め方を確認する。住民に身近な地域的まとまりにおいて、組織や制度、活動が必要とされる背景を、災害時のコミュニティに関する事例をもとに考察する。
第２回	コミュニティを把握する理論的枠組み	コミュニティの制度、組織、活動過程を把握するための主要概念、理論枠組みを、地域社会学・地域開発学的観点を援用して概括する。
第３回	市町村合併の歴史とコミュニティ	明治以降、3 回にわたって大規模な合併を経験し、コミュニティが政治制度と切り離された日本におけるコミュニティの歴史的経緯を振り返る。自治体という制度的枠組みを失った地域社会側が民間組織を編成し、どのように地域社会の運営を担ったかを考察する。
第４回	コミュニティの組織１	コミュニティの運営を担う「組織」に着目して考察を行う。まず、日本のコミュニティを理解する上で欠かせない日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、社会学等の研究に基づき整理する。
第５回	コミュニティの組織２	自治会・町内会以外のコミュニティにおける組織について事例とともに紹介するとともに、各団体が地域運営において果たしている役割等について考察する。
第６回	コミュニティ政策の展開１	昭和の大合併後、高度経済成長・都市化に伴う地域課題の深刻化に対応すべく導入されたコミュニティ政策とその展開について概観する。
第７回	コミュニティ政策の展開２	平成 16 年の地方自治法改正により創設された地域自治区制度等、日本における自治体内分権の動きについて概観する。
第８回	コミュニティ政策における「参加」と「協働」	地域自治区制度を採用している自治体の事例を「参加」と「協働」の 2 側面を切り口に検討することを通じて、日本の自治体内分権の特徴を考察する。
第９回	日本における自治体内分権の諸類型	地域自治区制度を採用せず、独自の政策や条例により自治体内分権を行う自治体の事例を紹介し、日本における自治体内分権の展開状況を整理する。
第 10 回	コミュニティ政策機能を有する制度	コミュニティ政策としての機能を有する制度（地域福祉計画、協働事業提案制度等）について、事例を通じて政策の機能と政策を通じた地域社会の活動過程を検討する。
第 11 回	コミュニティの内発的な力量形成	コミュニティ政策を住民自身の仕組みとして利用し、持続可能に運営していくには、住民側の組織や活動への参画や活動経験の蓄積に基づく力量の形成が欠かせない。事例をもとに、コミュニティの内発的な力量形成について検討する。
第 12 回	コミュニティを支援する機関・人材	コミュニティの力量形成に向け、コミュニティの支援に関わる機関や専門職等の機能等について考察する。
第 13 回	諸外国のコミュニティ制度１－各国の制度比較を通じて	諸外国のコミュニティ制度について比較、検討を行い、日本のコミュニティ制度の特色を明らかにする。
第 14 回	諸外国のコミュニティ制度２－フィリピンの事例より	諸外国のコミュニティの制度上の特色を踏まえ、実際の制度運用を事例をつうじて理解する。コミュニティレベルの範域が自治体として制度的に位置づけられているフィリピンのバランガイを題材に検討を行う。
第 15 回	総括	講義全体を振り返り、論点を整理して補足を行い、質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
はじめに各回の参考文献を紹介しますので、事前学習に役立ててください。
授業中にとったノートをもとに復習を行い、不明な点は教員に質問をしてください。
授業支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められます。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しません。必要に応じて授業支援システムを通じて教材を配布します。

【参考書】
名和田是彦（1998）『コミュニティの法理論』（創文社）
名和田是彦編著（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』（日本評論社）
その他の文献はその都度提示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）、平常点（演習、リアクションペーパー等）（30 %）により評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2015 年度は授業当日と復習による学習中心であったため、事前学習が可能となるよう、あらかじめ参考資料を提示します。

AC237

コミュニティ論Ⅱ

名和田　是彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科の科目の中で、「政策・都市・行政」系に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は，日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ論Ⅱ」では、諸外国（特にドイツ）との比較を正面から行なうことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思います。

【到達目標】
日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一側面を考えることができるようになること。
具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであることの理解、市町村合併を経た後コミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったことの理解、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式ですが、時折受講者からの発言を求め、受講者の問題意識を共有したり、理解度や知識水準を確認したりして、授業内容が受講者の能力とニーズに合ったものにするように努めます。また、配布資料を充実させるようにし、事前事後の学習に役立つようにします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	身近な地域を運営する制度には何が必要か	国民国家の中央政府の機能だけでは、民主的な意思決定とはいえないし、身近な公共サービスもきちんと行なわれない。身近な地域社会（本講義ではこれを「コミュニティ」とよぶ）にも運営組織が必要である。それが市町村であった。その制度的特徴はどこにあるかを考えて導入的序論とする。
第２回	市町村合併の諸相	身近な地域運営組織としての市町村はその後合併によってあまり身近でなくなる。合併はなぜ行なわれるのか、また合併後にどういう地域運営組織が保障されるのか、その諸類型を明らかにする。
第３回	合併後の地域運営制度 その１　小規模自治体連携制度	ドイツの農村に広く見られる、小規模自治体連携制度は、合併時代にもコミュニティの制度上の位置づけを確保する一つの制度的工夫であった。これを主としてドイツのニーダーザクセン州の「連合自治体（Samtgemeinde）」制度に即して見る。
第４回	合併後の地域運営制度 その２　イギリスのパリッシュとフィリピンのバランガイ	イギリスのパリッシュとフィリピンのバランガイは、市町村の中に、市町村とほぼ同等の権限と制度的仕組みをもった準自治体を形成することを可能にするやり方である。その概要を講ずる。
第５回	合併後の地域運営制度 その３　都市内分権	都市の場合には、都市空間の一体的管理の必要性から、都市自治体の内部に市町村並みの自立性をもった存在を許容するわけにはいかない。そこで都市内分権という制度が工夫されている。これをドイツに即して見る。
第６回	ドイツの都市内分権の制度的特徴と実態	ドイツの都市内分権をもう少し詳しく見る。制度と実態の双方に渡って詳しく講ずる。
第７回	合併後の地域運営制度 その４　日本	以上の対応から見ると、日本の行き方はきわめて特殊である。要するに何もしなかったのである。この観点から、自治会・町内会の特質を位置づけ直し，次回以降の理論形成につなげる。
第８回	「地域的まとまり」と「領域団体」の理論史	初回に直感的了解に基づいて端緒的に設定した「地域的まとまり」論を精緻化していく。まず理論史をたどるべく、１９世紀ドイツの法学派であるゲルマニストの「領域社団」概念から、マックス・ヴェーバーによるその社会学的再構成までの理論史をたどる。
第９回	領域団体論の理論的構成	ゲルマニストたちやマックス・ヴェーバーなどの西欧人にとって、民間組織（自治会・町内会）だけの力で地域社会に秩序がもたらされるとは想定外であったろう。そうしたことが可能であるというアジア的観点から、「領域団体」概念をより普遍的な枠組へと構成する。
第 10 回	中間考察	以上までの講義を振り返ってまとめ、補足をする。
第 11 回	福祉国家体制の動揺とドイツ都市内分権の変容	現代福祉国家体制の危機は、都市内分権にも影響を及ぼしている。特にボランティアと市民活動を奨励し始めたドイツの政策がコミュニティにどういう変化をもたらし、都市内分権の権威がどのように動揺しているかを、具体的事例に即して見る。
第 12 回	エリアマネジメントとドイツの修復型まちづくり	ブレーメン市テネーヴァー地区などを題材に、前回のテーマをもう少し実証的に掘り下げる。
第 13 回	都市内分権の国際比較	ドイツ以外の諸国の都市内分権やエリアマネジメントの仕組みを総括的に比較し、日本及びドイツそれぞれの特殊性を見ておく。
第 14 回	コミュニティと住民組織	都市内分権とコミュニティのあり方の違いは、市民社会の側にある地域の基礎的な組織のあり方の違いによるのではないかとの仮説に基づき、コミュニティの類型化を試みる。
第 15 回	総括	講義を振り返り、補足し、質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習をしっかりすることが基本ですが、授業支援システムを通じて教材を事前に配布した場合には、これを前もって読んで検討しておくことが求められます。
復習をするためには、講義の最中にノートをしっかり取る必要があります。今の学生は、受講態度はまじめなのですが、教師が心配になるくらいノートを取っていません。人の言っていることを克明にメモするというのは、単に大学でだけではなく、職業生活など社会の他の局面でも必ず役に立つスキルです。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しません。

【参考書】
講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。
名和田是彦『コミュニティの法理論』(創文社)
名和田是彦編著『コミュニティの自治』(日本評論社)
特に後者は、共同研究者とともに作った本で、欧米やアジアのコミュニティについても論じています。やや高価ですが図書館で読むことができます。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行うことを基本とします。市町村というコミュニティ運営の基本的な近代的仕組みが、市町村合併を経てどのように「コミュニティ政策」に置き換わったかを理解すること、この置き換わりの国際比較の中での日本の特殊性を理解すること、そしてこれを表現する理論枠組である「地域的まとまり」論を理解すること、がポイントです。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
外国のことや理論的なことを扱うので、「コミュニティ論Ⅰ」よりもとっつきが悪いようですので、工夫したいと思います。

AB236

教育法Ⅰ

村元　宏行

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育法は、「行政・公共政策と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。
伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。
そのような状況を踏まえて、教育法Ⅰでは教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】
教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、適宜授業に取りいれていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第 2 回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第 3 回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第 4 回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第 5 回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第 6 回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第 7 回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第 8 回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第 9 回	教育権―学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第 10 回	教育権―学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第 11 回	教育権―教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。
第 12 回	教育権―教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。
第 13 回	教育権―学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第 14 回	教育権―学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。
第 15 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。

【テキスト（教科書）】
授業はレジュメに沿って行い、教科書は使用しません。

【参考書】
授業に必ず持参を求めるもの：『解説教育六法　2016 年版』（三省堂）
予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）
授業内小レポート（リアクションペーパー）（10 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

AB236

教育法Ⅱ

村元　宏行

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育法は、「行政・公共政策と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。
伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。
そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】
子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。
近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、適宜授業に取りいれていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第 2 回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原理について
第 3 回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第 4 回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 5 回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 6 回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 7 回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 8 回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 9 回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 10 回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第 11 回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第 12 回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第 13 回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第 14 回	教育改革と学校参加（今後の課題）	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題
第 15 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。

【テキスト（教科書）】
授業はレジュメに沿って行い、教科書は使用しません。

【参考書】
授業に必ず持参を求めるもの：『解説教育六法　2016 年版』（三省堂）
予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）
授業内小レポート（リアクションペーパー）（10 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

AC137

政治体制論Ⅰ

細井　保

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度と精神」となる。

【到達目標】
政治をこの両方の側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方を見出したい。

【授業の進め方と方法】
この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、一般的な公務員試験などでしばしば取り上げられる政治体制論を講じることによって試みる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方
第 2 回	序論	政治体制とは何か
第 3 回	民主体制	構成原理
第 4 回	自由民主主義体制	議院内閣制
第 5 回	自由民主主義体制	大統領制
第 6 回	自由民主主義体制	多数決型
第 7 回	自由民主主義体制	コンセンサス型
第 8 回	振り返り	振り返り
第 9 回	非民主体制	構成原理
第 10 回	権威主義体制	事例１
第 11 回	権威主義体制	事例２
第 12 回	全体主義体制	事例１
第 13 回	全体主義体制	事例２
第 14 回	結び	結び
第 15 回	予備日	予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない予定です。

【参考書】
・"Comparing Political Regimes"
・"Staatsformen im 21.Jahrhundert - Politische Systeme und politische Theorie"
このほかにも参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】
評価は出席点と期末試験で行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

AC137

政治体制論Ⅱ

細井　保

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度と精神」となる。

【到達目標】
政治をこの両方の側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方を見出したい。

【授業の進め方と方法】
この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、担当者が考える政治体制論を講じることによって試みる。その際、分節政治理論と全体主義の時代経験の理解に取り組む予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方
第 2 回	序論	分節政治理論と全体主義論
第 3 回	分節政治理論	農村型社会・都市型社会
第 4 回	分節政治理論	過渡媒体国家
第 5 回	分節政治理論	生活権
第 6 回	分節政治理論	多元・重層化
第 7 回	分節政治理論	官僚内閣制・国会内閣制
第 8 回	振り返り	振り返り
第 9 回	天皇制国家の支配原理	支配原理
第 10 回	天皇制国家の支配原理	ファシズム化
第 11 回	全体主義の時代経験論	戦争
第 12 回	全体主義の時代経験論	政治
第 13 回	全体主義の時代経験論	生活
第 14 回	結び	結び
第 15 回	予備日	予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない予定です。

【参考書】
・松下圭一『現代政治の基礎理論』
・藤田省三『天皇制国家の支配原理』
・藤田省三『全体主義の時代経験』
このほかにも参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】
評価は出席点と期末試験で行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

AC237

ジェンダー論Ⅰ

衛藤　幹子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、政治学科科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目で、反主流あるいは周縁の視点から政治学を読み解くものです。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？ 一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】
授業では、この「ジェンダー」を、現代政治を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政治的なるものを、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、政治学の既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。このような学びを通して、学生にはヒューリスティックにものごとを問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。本講義は、上辺の知識ではなく、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【授業の進め方と方法】
まずジェンダーと表裏の関係にあるフェミニズムの運動と思想から説き起こし、つぎ身体、労働、自由、平等を切り口にジェンダーの基本的な考え方を学びます。なお、授業では対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。授業中に、学生の意見をたびたび聞くことになります。一方、グループワークは、7～8人の小グループをつくり、グループ毎に授業で取り上げたテーマについて議論し、その結果を発表するという内容です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第 2 回	データからみるジェンダー格差 社会的現実の認識	様ざまなデータから政治、経済、社会的な男女格差をみる
第 3 回	「女性」という集団の差異化	女性を一つの「社会集団」と括ることで見えてくるもの
第 4 回	「存在」と「名づけ」：「名づけ」の重要性	我われが今ここに存在することの意味を「名前」から考察
第 5 回	フェミニズムの二つの潮流	「横軸の革命」としてのフェミニズムについて検討
第 6 回	ジェンダー概念	セックスとジェンダー ジェンダー概念の広がりと可能性
第 7 回～第 8 回	身体：家父長制	女性の身体（性）の支配としての家父長制 家父長制とは何か、それはどのようにして生まれ、社会に浸透したのか
第 9 回～第 10 回	労働：ジェンダー役割分業	女性の労働からの疎外 ジェンダー分業イデオロギーはいかにつくられ、社会に流布していったのか
第 11 回～第 12 回	自由：公私二元論	公的領域と私的領域との分断と女性の市民的自由からの隔離 公私二元論が政治理論に埋め込まれた過程の検証
第 13 回～第 14 回	平等：普遍的平等の不平等	古典的自由主義と近代自由主義における平等の変化、近代自由主義が達成した普遍的平等を多面的に検証
第 15 回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献を読むことを薦めます。

【テキスト（教科書）】
講義内容の概要をレジュメ形式で記載したプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については、随時レジュメに提示します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（授業内、持ち込み不可）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。難しい内容もありますので、レジュメによる補完、丁寧な説明を心がけます。

AC237

ジェンダー論Ⅱ

衛藤　幹子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、政治学科科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目で、反主流あるいは周縁の視点から政治学を読み解くものです。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。ジェンダー論Ⅰが基礎編という位置づけであるのに対し、本講義のⅡはジェンダーの視点を実際に使って政治学の課題を読み解く応用編にあたります。従って、このⅡの受講生はⅠを履修していることが望まれます。本講義では、現代政治学の中心課題の一つである民主主義に焦点を当て、民主政治の「非」あるいは「反」民主性を議論します。

【到達目標】
授業では、この「ジェンダー」を、現代政治を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政治的なるものを、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、政治学の既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。このことをとおして、政治や社会の出来事を独自の視点で分析し、ヒューリスティックな解決方法を見つけ出す能力を養います。すなわち、本講義は受講生の自己開発的な知性を磨くことを目標にしています。

【授業の進め方と方法】
ジェンダー概念を用いて民主主義、代表制、選挙、ジェンダー政策（クオータ）、市民社会といった政治のさまざまな局面を検討していく予定です。また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序：本講義の目的 講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第 2 回～ 第 3 回	民主主義：多様性と現代民主制度	民主政治における政治的代表制の意義と限界
第 4 回～ 第 5 回	女性、少数派の政治代表	なぜ女性や少数派は過少代表に甘んじているのか、その要因の多面的考察
第 5 回～ 第 6 回	女性の過少代表の要因	選挙制度、政党の姿勢、ジェンダー平等意識、福祉国家レジームから検証
第 7 回～ 第 8 回	女性の積極的登用策としてのジェンダー・クオータ	クオータ導入の経緯、その方法などの国際比較
第 9 回～ 第 10 回	ジェンダー・クオータの理論	クオータに対する批判とその反論を検証
第 11 回 ～第 12 回	ジェンダー・クオータの実践	世界で最も男女平等の進んだ国家の一つであるスウェーデンの事例を女性運動や政党間競争などから検証
第 13 回 ～第 14 回	市民社会と民主主義	市民社会は民主主義実践の場として期待されることが多いが、果たして市民社会は平等で自由な場なのか。市民社会をジェンダーの視点から批判的に検討する
第 15 回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の下調べやノート整理、紹介文献を読むことなどを薦めます。

【テキスト（教科書）】
①三浦まり・衛藤幹子『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』明石書店（2014 年）を教科書として使用します。
②講義内容の概要をレジュメ形式で記載したプリントや配布します。

【参考書】
必要に応じて、参考文献を紹介します。なお、紹介文献については、プリントに提示します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（授業内、持ち込み不可）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。

AC237

協働組合論

杉崎　和久

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。
一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合や NPO 等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は 2012 年を「国際協同組合年」とし、2013 年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げました。一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能か－協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行ないます。

【到達目標】
① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【授業の進め方と方法】
この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心にした日本の協同組合や NPO 等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合や NPO 等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。

【授業計画】
春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 01 回	①開催あいさつ ②ガイダンス	①主催者の開催あいさつ ②本講座の主旨、狙い、講座概要、成績評価方法などを説明します。 ③世界の多様な協同組合、社会的連帯経済の実践例と生活クラブ運動に触れ、営利企業や行政が解決できぬ課題、公共政策への挑戦を学びます。
第 02 回	協同組合法制の変遷と今日的課題	1948 年に制定された生活協同組合法は 2008 年に大きな改正がされました。しかしその後も社会の変化は急速であり現行生協法にも様々な課題が生じています。生協法を中心に協同組合運動と事業における課題認識を現行法との関連で深めます。
第 03 回	食を取巻く課題と協同組合の役割	生活クラブ生協の事業と運動の取組みを、具体的な食品問題（添加物、農薬、放射能、BSE 等）を事例に紹介します。さらに、消費者、生産者の立場から、食の安全、農業保護などについてグローバル経済システムの視点を踏まえた問題提起を行います。
第 04 回	地域づくりを拓く協同組合	働く人たちがつくる協同組合であるワーカーズ・コレクティブ実践と協同組合地域協議会の連系を学びます。
第 05 回	地域福祉における非営利・協同の可能性	地域が主体的にまちづくりに取り組むこと目的とした、「市民版地域福祉計画」の策定を地域協議会に呼びかけ、必要なしくみづくりに自ら問題意識を持って取り組む主体を広げるために地域の活動を支援している活動を紹介します。

第 06 回	女性たちが担う新しい働き方の可能性―サブシステンス・ワーカーとは―	労働組合でも NPO 法人でもアンペイドワークでもない、ワーカーズ・コレクティブとは何か。世界的にも、人間らしい働き方ディーセント・ワークが求められていて、いのちの維持をベースにおいて、労働の自由度をひろげながら生産と流通、そして地域の共生の関係を紡ぎ直す「サブシステンス」の概念を踏まえ、その理論と意義を学びます。
第 07 回	食を中心とした生活提案とまちづくり	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きい。日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりを学びます。
第 08 回	貧困とまちづくりへの挑戦～空き室調査から	貧困と福祉課題を背景とした空室調査とまちづくり課題を紹介します。
第 09 回	市民によりエネルギー自給の可能性を探る～エネルギーの共同購入	生活クラブのエネルギー自給の取り組みの背景と課題を研究者の立場から論じます。
第 10 回	市民金融によるコミュニティ・エンパワーメント	お金に意志と意思をもたせるために市民がつくった市民のための非営利市民金融による、公正な暮らしや働き方、持続可能な社会づくりをすすめる取組みを紹介します。
第 11 回	協同組合と若者――韓国の事例から	韓国では、2012 年に「協同組合基本法」を施行し、また 2013 年度に「ソウル市特別協同組合活性化支援条例」が制定されて以来、3,000 に及ぶ協同組合が設立しています。特に若者の協同組合への参加に焦点をあてて、その現状を紹介します。
第 12 回	市民の政治参加とインターネット選挙	生活クラブ・生活者ネットの政治運動の経験と実践、インターネット選挙の実際を学びます。
第 13 回	市民による公共政策実現のプロセス～食品安全条例の直接請求と制定過程	1 人の市民・生活者として石けん運動や地下水の保全運動を進めているなかで、生協活動の仲間によるボランテイア選挙で都議に当選し、都議会で「食品安全条例」制定などを経験し、現在市民参加型の社会を創るための福祉、環境、自治の分野における調査研究活動に取り組むなど、生活者運動と政策実現に向けた政治参加の経験と実践を紹介します。
第 14 回	全体まとめワークショップ	13 回の諸座を踏まえ、協同組合のビジョンおよび問題提起を受け、非営利・協同セクターへの理解、見識を深めることを目的に、グループに分かれてワークショップを行います。
第 15 回	予備日	予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布します。

【参考書】
適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】
①講座の感想、意見をもとにミニレポート（100 字～200 字程度）の作成を毎回、講座終了前に行う。1 回の提出評価を 4 点とする。
②期末レポートは、講義の中で取り上げられたテーマのうちから一つを選び、文献や資料を読むなどして、当該テーマに関し、講師が触れなかった内容等を含めてレポートする（合計 2000～3000 字）。評価は 50 点満点とする。ただし、インターネット上のサイト等から無断転用してつなげたような内容は不可とするので注意。なお文献等の出典は必ず明記する。
③上記２つの総合点数（100 点満点）を評価点とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なし。

GA228

ジェンダー論

佐々木　一惠

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：**フェミニズム論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】
１．ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
２．言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
・ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリニティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。
・一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。
・毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、A4 一枚のリアクションペーパーの形で提出してもらいます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ② 1980 年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトゥルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。

7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティー	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
１０	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
１１	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった３つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
１２	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
１３	復習とまとめ	ディスカッションを通じた、今学期の授業の復習とまとめ
１４	試験（１）	第一回試験
１５	試験（２）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996 年）
伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006 年）
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013 年）
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006 年）
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　２０％
試験（二回あるうち、必ず一回は受験すること）　８０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業でいちいち学生の意見を聞くなとのコメントを頂きましたが、大教室の授業においても、学生間の意見交換は授業において重要な要素と考えております。そのため、本年度も授業の中で受講生の皆さんに意見を述べてもらったり、また小さなディスカッションを行って頂く予定です。

【その他の重要事項】
・受講希望者が 200 名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
・授業の中で、受講者の皆さんに意見を述べてもらったり、小さなディスカッションを行ってもらうことがあります。

GA240

宗教と社会

佐々木　一惠

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**150 名（超えた場合は、選抜の可能性あり）**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】
１．宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
２．宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
・歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。
・毎回、授業の最後に出される問い対する分析を、A4 一枚のリアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS 細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連していているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。

7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・ 紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	復習とまとめ	ディスカッションを通じた、授業の復習とまとめ
14	試験（1）	期末試験（1）
15	試験（2）	期末試験（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。

【テキスト（教科書）】
特になし 。毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】
望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009 年）
棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005 年）
島薗進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006 年）
田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007 年）
タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006 年）
ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007 年）
ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009 年）
中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002 年）
磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006 年）
『岩波講座 宗教（全 10 巻）』（岩波書店、2004 年）
『諸宗教の倫理学（全 5 巻）』（九州大学出版会、1992～2006 年）

【成績評価の方法と基準】
毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験（80 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】
· 150 名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
· 大教室の授業ですが、授業中に受講者の皆さんの意見を聞いたり、小規模なディスカッションを行ってもらうことがあります。

GA227

中国の文化Ⅰ（現代中国社会）

曽　士才

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすることが目標である。

【到達目標】
中国に関するリテラシーの力を高め、中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【授業の進め方と方法】
授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の５つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。授業の進め方は講義を主体とするが、必要に応じて映像資料による再確認を行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第 2 回	都市と農村（1）	拡大する格差、三農問題
第 3 回	都市と農村（2）	リテラシーの現状、学校教育、就職難
第 4 回	都市と農村（3）	拡大する中産階級
第 5 回	人の移動（1）	農村の社会変化、経済特区、郷鎮企業
第 6 回	人の移動（2）	農民工、留守児童
第 7 回	人の移動（3）	都市の出稼ぎ者、農民工政策の変遷、ポイント制度
第 8 回	家族と婚姻（1）	伝統的家族制度、都市の家族
第 9 回	家族と婚姻（2）	一人っ子政策、新人類の若者たち「80 後」「90 後」
第 10 回	家族と婚姻（3）	高齢化社会、老人扶養
第 11 回	信仰と習俗（1）	宗教事情、国家と宗教
第 12 回	信仰と習俗（2）	風水思想
第 13 回	日本と中国（1）	日中協力
第 14 回	日本と中国（2）	強制連行、戦争の記憶
第 15 回	日本と中国（3）	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前または事後に指示された参考書所収の論文を読み、授業内容の理解を深める。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための 40 章【第 4 版】』明石書店 2012 年。

【成績評価の方法と基準】
授業の復習を兼ねたクイズ（15 %）と期末に課すレポート（85 %）で成績評価を行う。レポート課題は事前に説明するが、評価の基準は主に授業内容の理解度である。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語により周りの学生が迷惑を蒙らないよう、引き続き円滑な授業運営に努めたい。使用する映像資料は必要に応じて更新した。

HA336

環境法Ⅰ

後藤　彌彦

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積する。我が国の公害・環境法の生成、現在の体系、環境法の特色、基本理念などを学び、環境政策を考えるうえでの基礎的な到達点を把握する。

【到達目標】
環境法政策の生成、体系等の基礎を学ぶことにより、持続可能な社会に生きていくための基本が習得できる。

【授業の進め方と方法】
高度経済成長のひずみとして現れてきた公害、自然破壊などの環境問題に対し、公害対策基本法などの公害法や自然保護法が生成した。さらに地球環境問題を迎え、環境基本法を中心とした法体系が完成した。また、大量生産大量消費から生じてきた廃棄物問題に対しては循環型社会の形成が要請される。歴史的視点に立ってこれらの環境法体系を俯瞰するとともに、環境法の基本原則・理念を学ぶいわば、環境法の総論である。講義形式により行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方と概要
第 2 回	公害法の萌芽	戦前の公害問題とその対応
第 3 回	戦後の復興と公害法	公害防止条例と水質二法
第 4 回	公害事例と法Ⅰ	イタイイタイ病と鉱業法 公害裁判
第 5 回	公害事例と法Ⅱ	水俣病と水質二法等 公害裁判
第 6 回	公害事例と法Ⅲ	四日市公害とばい煙規制法 公害裁判
第 7 回	公害対策基本法	全総計画　新産業都市 三島沼津コンビナート計画 公害対策基本法の制定
第 8 回	公害国会	公害１４法の整備
第 9 回	自然保護法の歩み	国立公園制度、自然公園制度の整備
第 10 回	環境法の発展	都市生活型公害 地球環境問題
第 11 回	環境基本法	環境基本法の概要
第 12 回	循環型社会形成推進基本法	循環型社会形成推進基本法の概要、体系
第 13 回	生物多様性基本法	生物多様性基本法の概要、体系
第 14 回	近年の環境法	環境法の体系と新しい動き
第 15 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にプリント、参考書を学習する。事後興味をもった事例、制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
定期試験による

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】
この講義は、各論として環境法Ⅲ、比較環境法へ発展する。また、過去の公害経験やそれに対する対応は、詳しくは「日本公害史と法」で扱う。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

環境法Ⅱ

永野　秀雄

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】
環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟や、原子力施設をはじめとする嫌悪施設に関する訴訟とそのあり方を検証します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第 2 回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第 3 回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第 4 回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第 5 回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第 6 回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第 7 回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第 8 回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第 9 回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第 10 回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第 11 回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第 12 回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第 13 回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第 14 回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ
第 15 回	原子力施設関連訴訟等	原子力損害賠償法とその関連法、その他の嫌悪施設に関する訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、 基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
定期試験により評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

環境法Ⅲ

後藤　彌彦

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個別の公害法、廃棄物法などの国内環境法の内容を学び、環境汚染を防止するための仕組みや政策を把握する。

【到達目標】
環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識が習得できる。

【授業の進め方と方法】
公害、廃棄物、リサイクルに関連する主要な法律に関連して、これに対する法の仕組み（規制対象、規制基準、規制を遵守させる仕組み）などの概要を把握するとともに、大気汚染等の状況や廃棄物リサイクルの状況を学び、現行政策の内容と問題点を考える。講義形式により行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	紛争処理と法	豊島の事例と公害紛争処理法
第 2 回	被害救済と法	公害被害救済法から公害健康被害補償法への発展
第 3 回	費用負担と法	補償法の費用負担 公害防止事業者負担法の費用負担
第 4 回	大気汚染防止法Ⅰ	固定発生源の規制
第 5 回	大気汚染防止法Ⅱ	移動発生源の規制
第 6 回	その他大気汚染諸法	自動車ＮＯｘＰＭ法など
第 7 回	水質汚濁防止法Ⅰ	工場事業場規制
第 8 回	水質汚濁防止法Ⅱ	生活排水対策
第 9 回	その他水質汚濁諸法	瀬戸内法、湖沼法、下水道法など
第 10 回	地盤沈下、土壌汚染と法	地盤沈下二法 土壌汚染二法
第 11 回	感覚公害と法	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
第 12 回	廃棄物処理法Ⅰ	一般廃棄物
第 13 回	廃棄物処理法Ⅱ	産業廃棄物
第 14 回	リサイクルと法	容器包装リサイクル法など
第 15 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にプリント、参考書を学習する。事後興味をもった制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
定期試験による。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】
この講義は、環境法Ⅰの各論にあたる。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

比較環境法

後藤　彌彦

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の環境問題の主要なテーマである環境影響評価、自動車環境対策、有害物質対策などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。

【到達目標】
環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。

【授業の進め方と方法】
世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。講義形式により行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第 2 回	国際的な環境保護の歩みⅠ	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第 3 回	国際的な環境保護の歩みⅡ	原子力事故 国際会議
第 4 回	環境影響評価制度Ⅰ	わが国の制度とＮＥＰＡ①
第 5 回	環境影響評価制度Ⅱ	わが国の制度とＮＥＰＡ②
第 6 回	環境影響評価制度Ⅲ	ＳＥＡ
第 7 回	自動車排出ガス規制Ⅰ	マスキー規制
第 8 回	自動車排出ガス規制Ⅱ	ディーゼル規制
第 9 回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第 10 回	有害物資対策Ⅰ	ＤＤＴ等の農薬 ＰＣＢと化審法
第 11 回	有害物質対策Ⅱ	外国の制度 ダイオキシン 水銀 ＲＥＡＣＨ
第 12 回	有害物質対策Ⅲ	ＰＲＴＲ
第 13 回	土壌汚染対策	スーパーファンド法とわが国の制度
第 14 回	地球環境問題　新エネルギー	温室効果ガス算定報告 ＲＰＳ法、ＦＩＴ法など
第 15 回	むすび	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にプリント、参考書で日本の制度を学習する。事後興味を持った外国の制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】
定期試験による。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】
・旧科目名称「国際環境法Ⅱ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

地域活性論　2014 年度以降入学生

地域活性論　2012～2013 年度入学生

地域活性論　2009～2011 年度入学生

宮木　いっぺい

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、日本各地で地域活性化が喫緊の課題となっています。しかし、わが国ではこうした課題を担うべき専門家の育成が立ち遅れ、その方法論も確立されていません。そこで、本授業では、本学とは異なる特性の地域に立地している札幌学院大学、高知工科大学、沖縄大学と全国を縦断して連携しながら、地域活性化の理論と方法の一般化、およびそれらを用いた具体的な事例分析に取り組むことで、実践的な知識やスキルの習得をめざします。今や、これらの知識やスキルは、行政（公務員）や非営利セクター（NPO スタッフなど）で働く者だけでなく、国内外を問わず「地域」との結びつきが強くなっている一般企業で働く者にとっても不可欠となっています。あらゆる職場でグローカルな（グローバルかつローカルな眼を持った）人材が求められています。

【到達目標】
本授業は、地域づくりを担う人材を育成することを目標としています。具体的には、いかなる職業に就いても通用する問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を地域の問題を検討することで身につけることを目指します。授業が、「想いをアクションそして笑顔につなげる」ための知識とスキルを学生が身につけるための実践の「場」となることを目指しています。
教室内でのディスカッション、およびプレゼンテーションにおいて地域づくり事例を検討する際、①対象とする「地域」の範囲はどこか、②「地域」をめぐる人々は誰か、③「地域」をめぐる人々の具体的な笑顔は何か、④「地域」のあるべき姿（目標）は何か（活性化とは何か）、⑤マネジメント（取り分けヒトとおカネについて）は出来ているか、以上 5 点を明確に出来ることを目指します。

【授業の進め方と方法】
春学期は、法政単独の授業です。地域づくりに必要な基礎的な見方、考え方、フレームワークを学ぶためのレクチャー、および、全国各地の地域活性化事例（こちらで指定します）の学生による発表とディスカッションによって構成されます。授業方法としてはケース・メソッドを用います。問題の発見から解決策の提示にいたる実践的な問題解決プロセスを参加者全員で共有します。また、常にマネジメントの観点から事例を検討します。具体的にはいくつかのチームを編成し、1 つのチームが広く知られているいわゆる成功事例を 1 つ取り上げて紹介し、その後に果たしてそれが本当に成功事例なのか、成功しているとしたらいかなる意味で成功と言えるのかを全員でディスカッションします。例年自由な意見交換がなされる楽しい場となります。また東京下町の活性化の現場に入る機会を随時設けます（任意参加）。
夏休みには、フィールドスタディ合宿を実施するので（昨年度は東京都台東区 4 日、福島県喜多方市 3 日、高知県椿原町 10 日）、希望者は奮って参加してください（任意参加）。昨年度は履修している 9 割の学生がいずれかの合宿に参加しました。
秋学期は、立地している地域の特性が異なる法政大学、札幌学院大学、高知工科大学、沖縄大学から 1 回ずつゲスト講師をお呼びし、それぞれ取り組んでいる地域活性化事例を紹介していただきます。また、春学期に学んだ地域づくりに必要な知識やスキルを使って、より実践的に様々なテーマについて双方向のディスカッションを行います。さらに、夏のフィールドスタディ合宿や東京事例の成果報告会もおこないます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	説明・質問・アンケート
第 2 回	アイスブレイク	自己紹介・全員と話す
第 3 回	アイスブレイク	チーム編成
第 4 回	レクチャー	問題を発見する＝魅力を発見する①
第 5 回	レクチャー	問題を発見する＝魅力を発見する②
第 6 回	レクチャー	問題を解決する①
第 7 回	レクチャー	問題を解決する②
第 8 回	レクチャー	プロジェクトをマネジメントする①
第 9 回	レクチャー	プロジェクトをマネジメントする②
第 10 回	事例研究	有名事例①の紹介とディスカッション
第 11 回	事例研究	有名事例②の紹介とディスカッション
第 12 回	事例研究	有名事例③の紹介とディスカッション
第 13 回	事例研究	有名事例④の紹介とディスカッション
第 14 回	事例研究	有名事例⑤の紹介とディスカッション
第 15 回	事例研究	東京事例の紹介とディスカッション
第 16 回	レクチャー	地域活性化人材とは？
第 17 回	レクチャー	ヨーロッパの地域活性化事例（法政大学担当：ゲスト講師）
第 18 回	レクチャー	高知の地域活性化事例（高知工科大学担当：ゲスト講師）
第 19 回	レクチャー	北海道の地域活性化事例（札幌学院大学担当：ゲスト講師）
第 20 回	レクチャー	沖縄の地域活性化事例（沖縄大学担当：ゲスト講師）
第 21 回	レクチャー	新聞記事を使ったケーススタディ①
第 22 回	レクチャー	新聞記事を使ったケーススタディ②
第 23 回	事例研究	有名事例⑥の紹介とディスカッション
第 24 回	事例研究	有名事例⑦の紹介とディスカッション
第 25 回	事例研究	有名事例⑧の紹介とディスカッション
第 26 回	事例研究	有名事例⑨の紹介とディスカッション
第 27 回	発表	学生による夏のフィールドスタディ合宿成果報告とディスカッション
第 28 回	発表	学生による夏のフィールドスタディ合宿成果報告とディスカッション
第 29 回	発表	学生による東京の活性化事例報告とディスカッション
第 30 回	発表	学生による東京の活性化事例報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当事例についての発表準備（文献調査、フィールドワーク、プレゼン資料作成）を行ってください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義レジュメを配布します。

【参考書】
授業の中で、随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
地域づくりには正解はありません。知識量で判断するのではなく、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力がどれだけ身についているかで判断します。具体的には、授業への参加姿勢（積極的な発言、発表・討議などの平常点）70%、レポート等 30%とし、総合的に評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
要望も多いので、引き続き双方向のディスカッションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しません。

【その他の重要事項】
1）予備知識は必要ありませんが、地域の活性化に関心があり、授業（発表・ディスカッションなど）に積極的に参加する意欲のある学生の受講を希望します。2）履修予定者は初回のガイダンスに必ず出席してください。どうしても出席できない場合は、キャリアデザイン学部の事務室にお問い合わせください。3）質問等は喜んで受け付けます。

【授業中に求められる学習活動】
B、C、D、E、F、G、H

コミュニティ社会論Ⅰ 2014 年度以降入学生

コミュニティ社会論Ⅰ 2012～2013 年度入学生

日本文化と人の生き方Ⅱ 2009～2011 年度入学生

佐藤　恵

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3** ｜ 配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会学の基本的な視点・発想を紹介し、それを基礎とした上で、コミュニティにおけるわたしたちの身近な人間関係や社会現象を具体的に取り上げ、「コミュニティ研究の視角」について探究していきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業です。
1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。
正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
2	コミュニティ研究の視角（1）―予言の自己成就（1）	予言の自己成就、予言の自己破壊
3	コミュニティ研究の視角（2）―予言の自己成就（2）	予言の自己成就の循環プロセス、状況の定義
4	コミュニティ研究の視角（3）―認知的不協和の理論（1）	認知的不協和、不協和低減法
5	コミュニティ研究の視角（4）―認知的不協和の理論（2）	自己正当化の心理
6	コミュニティ研究の視角（5）―ラベリング論（1）	伝統的逸脱論とラベリング論
7	コミュニティ研究の視角（6）―ラベリング論（2）	セレクティブ・サンクション、逸脱的アイデンティティ形成
8	コミュニティ研究の視角（7）―機能分析（1）	順機能・逆機能、顕在的機能・潜在的機能
9	コミュニティ研究の視角（8）―機能分析（2）	犯罪の潜在的順機能
10	コミュニティ研究の視角（9）―機能分析（3）	医療的ケアの潜在的逆機能
11	コミュニティ研究の視角（10）―家族と絆（1）	制度的家族、選択的絆
12	コミュニティ研究の視角（11）―家族と絆（2）	恋愛結婚の誕生、子どもの誕生
13	コミュニティ研究の視角（12）―官僚制とネットワーキング（1）	官僚制
14	コミュニティ研究の視角（13）―官僚制とネットワーキング（2）	官僚制の潜在的逆機能
15	コミュニティ研究の視角（14）―官僚制とネットワーキング（3）	ネットワーキング、弱い紐帯の強さ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、先に進むことばかりを考えるのではなく、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な社会学的視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（７０％）、平常点（３０％）。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書の分量を若干縮減する方向で調整したいと思います。

【授業中に求められる学習活動について】
D

コミュニティ社会論Ⅱ　2014 年度以降入学生

コミュニティ社会論Ⅱ　2012～2013 年度入学生

佐藤　恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会学の基本的な視点・発想を紹介し、それを基礎とした上で、コミュニティにおけるわたしたちの身近な人間関係や社会現象を具体的に取り上げ、「現代コミュニティの諸問題」について探究していきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明できるようになる。

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業です。
１つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。
正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
2	現代コミュニティの諸問題（1）―心理社会学：人間心理のアイロニー（1）	同調、過剰同調
3	現代コミュニティの諸問題（2）―心理社会学：人間心理のアイロニー（2）	過剰同調と非行、反動形成
4	現代コミュニティの諸問題（3）―心理社会学：人間心理のアイロニー（3）	反動形成と非行、ルサンチマン
5	現代コミュニティの諸問題（4）―ダブル・バインド（1）	メッセージとメタ・メッセージ、ダブル・バインド
6	現代コミュニティの諸問題（5）―ダブル・バインド（2）	ダブル・バインドの事例、学校の中のダブル・バインド
7	現代コミュニティの諸問題（6）―欲望の模倣（1）	欲望の模倣の基本図式
8	現代コミュニティの諸問題（7）―欲望の模倣（2）	近代化と欲望の模倣
9	現代コミュニティの諸問題（8）―欲望の模倣（3）	欲望の模倣論とエディプス・コンプレックス論
10	現代コミュニティの諸問題（9）―準拠集団（1）	比較的準拠集団
11	現代コミュニティの諸問題（１０）―準拠集団（2）	規範的準拠集団
12	現代コミュニティの諸問題（１１）―流行の社会学（1）	流行の要素、模倣、差異化と同調
13	現代コミュニティの諸問題（１２）―流行の社会学（2）	誇示的消費、他人指向、マイブーム
14	現代コミュニティの諸問題（１３）―社会的リアリティの成り立ち：血液型の社会学（1）	血液型性格判別、社会的ステレオタイプ
15	現代コミュニティの諸問題（１４）―社会的リアリティの成り立ち：血液型の社会学（2）	予言の自己成就、血液型性格判別の社会的機能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、先に進むことばかりを考えるのではなく、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な社会学的視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（７０％）、平常点（３０％）。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書の分量を若干縮減する方向で調整したいと思います。

【授業中に求められる学習活動について】
D

シティズンシップ論　2014 年度以降入学生
シティズンシップ論　2012～2013 年度入学生
市民社会と地域マネジメント　2009～2011 年度入学生

小門　裕幸

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
シティズンとしての生き方の考察
経営学の神様ドラッカーが個として生きることを問うたことがある。そのとき哲学者キルケゴールのことばを引いて「人間の実存は精神における個とシティズンを同時に生きるという緊張感においてのみ存在する」といった。
..
シティズンとは市民のことではない。市民という言葉は日本的な特有のニュアンスをもって使われる言葉に変容している。本講義では君たちの生活を豊かにするための真のシティズンシップについて学ぶ。
..
シティズンシップ（以下 Cship という）ということばも新しい時代を迎える中でアクティブで行動的なことばに変容している。そこを学んでほしい。
..
Cship という新しい概念で「くに」「地域」「コミュニティ」を眺めてみると、人生の歩み方（行動原理）が違って見えてくる。私たち日本人とはどういう人たちなのか、私たちは歴史的にどのような時代背景に生きているのか、その時どのような社会システムの中で生かされているのか、などを考える。それぞれが理想的な社会とはどのようなものかを描いてほしい。そのために大いに議論をしたい。
..
セカンドマシン時代のシティズンシップについても、その時代を生きることになる諸君と議論もしてみたい。働き方が変わりライフスタイルも変わる。

【到達目標】
１、欧米コミュニティを学び日本コミュニティと相対化する。
２、Cship の緊要度を理解し地域社会での生き方を問い直す（「人々をつなぎとめる概念は 70 年代は正義、80 年代はコミュニティ、90 年代は Cship であろう」 Kymlicka　2002）。
３、地域創生の真の意味を探り、転換点にある日本社会を見つめる（日本社会観の涵養）。

【授業の進め方と方法】
映像を取り入れた講義を中心とするが議論する場も設ける。
映像は DVD/スライド（伊の小さな村の物語・独の環境都市フライブルグ・米のニューアーバニズムのまちづくり、下條村・矢祭町・湯布院・北海道・ニセコ・木更津など、および、デービス・ヴィレッジホームズ・サンタモニカ・サンアントニオ・サンタバーバラ・ソルバンク・アーバイン・ニューポートビーチ・ポートランド・シリコンバレー・ルール地方（独）・台北・小布施町・飯田市・温泉津町/大田市・真庭市・養父市・大潟村、江戸/東京（対比）など) を準備している。その中から適宜とりあげる。
諸君にもチームを組んで地域や「くに」の研究を行ってもらう（予定）（PowerPoint で発表）。
..
興味深いショート・エッセイ（日本人が気づかない諸問題について）を読んでもらい、コメント（200 字程度）を宿題とする。
..
出席を前提とする授業で、演習的に進めることも考えており、30 人程度の少人数クラスを予定している（選抜の可能性あり）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	○ガイダンス 問題意識の喚起 ○ Cship を自覚するためにⅠ 定義 日本人を見つめる	○授業の趣旨/評価など ○自己紹介 piii ○ Cship とは p88 ○社会の中核的人間になろうとする学生のために（Ⅱ象限を目指す）pp1-3 .. 日本人の 5 つの主義/偏狭な他利主義 ○コミュニティの相対化 pp88-90
2	○ Cship を自覚するためにⅡ 個を見つめる 時代を見つめる .. .. ▲事例Ⅰ（映像）	○キャリアデザインする個 ○他者比較の視点 .. 人の相対化 pp90-92 .. シティズンと市民 ○時代の相対化 pp92-95 .. 近代、再帰的近代、ポストモダン、知識経済 ○キャリア論からの視点 .. バウンダリレスキャリア/サブジェクティブキャリア/オブジェクティブキャリア/インテリジェントキャリア ○補完性の原理/地域主義という考え方
3	○ Cship を自覚するためにⅢ 君は行動に移せるのか/他者を見つめる .. .. .. ▲事例Ⅱ（映像）	○行動原理としてのフレンドシップ pp5-14 ○他者との関係性 pp95-99 ..（他者とキャリア研究） ..（他者と政治学） ..「囚人のジレンマ」：人は協力できるのか
4	○ Cship を自覚するためにⅣ 市場を見つめる ▲事例Ⅲ（映像）	.. 非意図的協力としての市場/リスクをとる集団ととらない集団
5	○ Cship を自覚するためにⅤ 集団・組織を見つめる/秩序とは何かを考える ▲事例Ⅳ（映像）	○秩序を求めて pp97-99 .. 法の支配とは .. 中間団体という構造 .. 二つの社会 .. 自由と民主
6	○ Cship を自覚するためにⅥ 「くに」を見つめる .. .. .. ▲事例Ⅴ（映像）	○地域とは何か、「くに」とは何か pp99-101 .. 国家のタイプ/連邦国家 .. 地域コミュニティとは ..（自由学・市民法大全・教会法大全）
7	○ Cship を自覚するためにⅦ 日本の地方を見つめる ▲事例Ⅵ（映像） ○ Cship の地平Ⅰ 新しい Cship の定義	○日本の地方制度 pp102-104 .. 地方分権・三位一体・ナショナルミニマム .. ○グローバル化と Cship(デランティ）p105
8	○ Cship の地平Ⅱ 歴史/欧米を学ぶ .. .. .. ▲事例Ⅶ（映像）	○ Cship の系譜 pp105-110 .. マーシャルの区分 .. アーレントの Cship .. 補完の原則 .. ベラーの Cship
9	○ Cship の地平Ⅲ 社会システムのとらえ方とそれぞれの.. 長短所を学ぶ .. . . ▲事例Ⅷ（映像）	○ Cship を発揮する生活空間 .. 市場の失敗、政府の失敗、外部性 .. 大きな政府、小さな政府、第三の道、新しい公共 .. ボランティアの失敗、 .. 公益法人改革、 .. サードセクタ、社会的企業、ペストフの３角形
10	○ Cship の地平Ⅳ 自由について再考する .. .. ▲事例Ⅸ（映像）	（CD する個とは） ○自由について pp114-120 .. ハイエクの自由 .. バーリンの消極的自由 .. ベラーの善い社会の自由 .. トクビル、西尾幹二、リフキンの自由
11	○ Cship の地平Ⅴ 個・公・公共を考える 日本人の、過度の平等意識、過度の集団意識を学ぶ	○公・公共を考える pp123-129 .. アーレントの公共 .. ハーバーマスの公共 .. 公民の二重構造 .. 国体の本義（ゆがむ日本の公・公共）
12	○ Cship の地平Ⅵ ガバナンスを考える ... ... ▲事例Ⅹ（映像）	○地域のガバナンスとは pp129-137 ○ Cship とソーシャルキャピタル pp138-140
13	○ Cship の地平Ⅶ 教育について考える ○理想とする社会と Cship Ⅰ	○ Cship 教育 pp120-123 .. クリックレポート ○キャリアの先進国アメリカのまちづくりの思想 pp151-171
14	○理想とする社会と Cship Ⅱ	○そして EU p171 ○江戸というサステイナブルコミュニティ pp176-181 ○日本政府の描く日本の未来像 pp181-186
15	○理想とする社会と Cship Ⅲ .. .. ○まとめ （地域創生を考える）	○近代の枠を越えようとする 3 人の学者の考え方 pp186-192 ○究極の原理としてのスチュワードシップ pp192-194 ○市民企業家という生き方 pp197-225 ○セカンドマシン時代のシティズンシップ、新しい働き方やライフスタイル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○テキスト（１章、３章、第２部、補論）を読了すること
○宿題　ショート・エッセイに対する 200 字コメント
△「くに」「まちづくり」の調査（予定）

【テキスト（教科書）】

小門裕幸『アントレプレナーシップとシティズンシップ』法政大学出版局 2012

【参考書】

牧野光朗『円卓の地域主義』事業構想大学院大学
ジェレミー・リフキン『限界費用ゼロ社会』NHK 出版
エリック・ブリニュルソン『ザ・セカンドマシン・エイジ』日経 BP
松谷明彦『東京劣化』PHP 新書
富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書
増田寛也『地方消滅 - 東京一極集中が招く人口急減』中公新書
小門裕幸『キャリアデザインという自己変革・社会変革』泉文堂
小門裕幸監修『社会変革する地域市民』第一出版
小門裕幸『サステイナブルコミュニティ』学芸出版
小門裕幸『エンジェルネットワーク』中央公論新社
ジェイン・ジェイコブズ『発展する地域衰退する地域』ちくま学芸文庫
清成忠男『地域創生への挑戦』有斐閣
根本祐二『「豊かな地域」はどこがちがうのか』ちくま新書
藻谷浩介、NHK 取材班『里山資本主義』角川 ONE テーマ 21

渡辺靖『アメリカンコミュニティ』新潮社
池田純一『ウェブ文明論』新潮社
小塩節『ドイツの都市と生活文化』講談社学術文庫
高松平蔵『ドイツの地方都市（エアランゲン）はなぜ元気なのか』学芸出版
ウィリアム・ミラー他中川勝弘監訳『シリコンバレーなぜ変わり続けるのか』日本経済新聞社
長坂寿久『オランダモデル』日本経済新聞社
石神隆『水都ブリストル』法政大学出版局
岡本義行『イタリアの中小企業戦略』三田出版会
井上ひさし『ボローニャ紀行』文春文庫
城繁幸『若者はなぜ3年で辞めるのか-年功序列が奪う日本の未来-』光文社新書
その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（出席を前提とする授業である）
②試験実施もしくは論文

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本講座は全学公開講座である。引き続き他学部の学生との意見交換の機会を設けて問題意識を深めたい。

【その他の重要事項】
「地域活性論」の同時履修を薦める。また、同じく他学部公開科目「アントレプレナーシップ論Ⅰ（事業創造論Ⅰ）/Ⅱ（事業創造論Ⅱ）」の並行履修により理解を深めてほしい。そこでは現代社会の喫緊の課題であるアントレプレナーシップという経済空間での生き方を学ぶ。
　オフィスアワー　　水曜５限

日本語教育概説　2014 年度以降入学生
日本語教育概説　2012～2013 年度入学生
日本語教育学概論　2009～2011 年度入学生

山田　泉

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化庁の「日本語教育のための教員養成について」（2010.03.30）に則り，日本語教員の資質・能力に何が必要か，本学部日本語教員養成科目群の履修の概説をします。

【到達目標】
文化庁シラバスに則り，本学部の日本語教員養成科目群で行っている「多文化教育としての日本語教育」の実践に必要な資質・能力を身につけることを目指しています。

【授業の進め方と方法】
本学部で開設している「多文化教育としての日本語教育」科目群Ａ～Ｅは，単に日本語という言語の構造を理解しその運用能力を身につけるだけではなく，「多文化共生社会」の創造に貢献することができる個人の資質・能力をも開発することを目指す日本語教育の方法を学ぶものです。本授業は，そのような日本語教育の在り方を概説するとともに，文化庁シラバスに則った本学部の養成科目のそれぞれについてダイジェスト的に紹介するものです。本学部の日本語教員養成科目群を履修希望する学生はまずこの授業を履修することを勧めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容提示，履修の有無判断
2	なぜ日本語を学ぶのか・教えるのか	基本的考え方の提示
3	「教育」とは何か	日本語教育の「教育」を考える
4	「日本語」とは何か（言語と文化と社会）	日本語教育の「日本語」を考える
5	「日本語教育」と歴史 主に戦後の変遷を中心に	文化庁シラバスを中心に考える
6	「日本語教育」と言語政策	多文化コミュニケーション能力の開発と日本語教育
7	応用言語学と日本語教育，多文化コミュニケーションⅠ	学問領域としての日本語教育
8	応用言語学と日本語教育，多文化コミュニケーション Ⅱ	文化の多様性と言語の関係
9	文化庁シラバスⅠ：「社会・文化・地域」	各論１
10	文化庁シラバス Ⅱ：「言語と社会」	各論２
11	文化庁シラバス Ⅲ：「言語と心理」	各論３
12	文化庁シラバス Ⅳ：「言語と教育」	各論４
13	文化庁シラバスⅤ：「言語一般」1	各論５－１
14	文化庁シラバスⅤ：「言語一般」2	各論５－２
15	振り返り	これまでの学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんど毎回，次回に行うテーマに関連する宿題を出します。それを次回は発表し，書いてきたものを提出していただきます。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウトを配りますが，以下のもののうち一冊は読んでください。特に白井 (2008) は第 7，8 回までに読んでおいてください。別に参考図書も知らせます。
・青木直子他編 (2001)『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社 1800 円
・金田一春彦 (1988)『日本語』上・下　岩波新書 各 780 円
・白井恭弘 (2008)『外国語学習の科学―第二言語習得論とは何か―』岩波新書 1150 756 円
・山田泉 (1996)『異文化適応と日本語教育２ 社会派日本語教育のすすめ』凡人社 1800 円

【参考書】
同上
適宜，それぞれの回の授業テーマに即した文献を示します。履修学生からも推薦をお願いします。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（20 点）と小レポート・発表等（80 点）によって行います。出席も重視し，欠席１回－２点，遅刻１回－１点とします。３回を超えて欠席した場合は，評価をしないことがあります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回，よい評価をいただいています。

【学生が準備すべき機器他】
未定

【その他の重要事項】
できるだけ参加型の授業形態としたいので，意欲のある学生の参加を希望します。原則として第１回のオリエンテーションに参加することを条件に履修を認めます。

多文化社会における日本語教育 A　2014 年度以降入学生
多文化社会における日本語教育 A　2012～2013 年度入学生
多文化社会における日本語教育 A　2009～2011 年度入学生

木村　哲也

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・6**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これからの 21 世紀，言語教育のあり方は，日本社会全体の重要な課題となっている。学習者に求められる日本語能力とは何か，日本語教育が対象とする日本語とは何かについて，その多様性の理解を深める。「多文化共生社会」における日本語教育の在り方を考察，追究する。学生は，日本語の教育方法を教材の作成作業を通じて模索し，教育実践の形につなげる。これらの作業を通じて，日本国内における多文化共生社会の実現，言語問題処理に貢献する日本語教育の在り方を見出していく。

【到達目標】
学生は，日本語教育の多様性の意義と課題について理解を深められる基礎知識を獲得する。言語学，文化心理学，学習科学の内容を日本語教育にどう活かすことができるか。学生はその実践方法を習得する。欧米における言語教育理論も紹介。学生は，コミュニケーション力や学習言語能力を育成し，多文化共生社会を実現するための「日本語教育教材」の作成を通じ，多様性な教育現場に対応可能な実践力を身につける。

【授業の進め方と方法】
日本語教育が扱うべき日本語とは何か。近代言語学の説く「言語」概念が抱えた課題を踏まえて確認する。次いで，言語と文化と社会の関係という視点から，それら概念のもつ意義と抑圧性への認識を文化心理学の知見をもとに確認する。その上で，言語習得理論／教授法の諸相を比較・対照し，日本語教育の在り方を議論する。日本語学校での授業見学を行い教育現場の多様性を確認。学生は，授業見学によって得られた知識も活用し，日本語教育教材を協働 (3~4 名) で作成。日本語教育の理論と実践の融合を試みる。
なお，本科目を履修する学生は，春学期に「多文化社会における日本語教育 D」を履修することを推奨する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期授業の内容の紹介。秋学期授業の流れと評価方法について解説する。
2	日本語教育の「日本語」とは (1)	日本語教育が取り扱ってきた「日本語」について，明治～昭和期の文脈の中で説明する。
3	日本語教育の「日本語」とは (2)	日本語教育が取り扱ってきた「日本語」について，平成期の文脈の中で説明する。
4	言語学と日本語教育 (1)	日本語教育者が認識を深めておくべき近代言語学の内容と言語学の変化について説明する。
5	言語学と日本語教育 (2)	上記 (1) の内容を踏まえて，ポスト構造主義言語学がもつ意味について解説する。
6	社会文化と日本語教育 (1)	言語教育と社会・言語文化の関係を解説。その関係のもつ課題を認識し，多文化共生社会に向けての日本語教育展開の視座を探る。
7	社会文化と日本語教育 (2)	日本語教育を必要とする児童生徒の第二言語習得と学校文化，社会文化の関係を考える。
8	コミュニケーション力／学習言語能力の育成と「教材」(1)	「コミュニケーション力」「学習言語」とは何かを確認。多文化社会における言語力，言語意識，言語教育教材について議論する。
9	コミュニケーション力／学習言語能力の育成と「教材」(2)	協働して作成可能な教材の方向性，具体的内容を考える。
10	コミュニケーション力／学習言語能力の育成と「教材」(3)	教材の作成の具体的な手順を決め，準備作業を行う。
11	日本語教育教材作成 (1)	多文化社会の構築に貢献できる日本語教育という観点を加え，協働で教材を作成する。
12	日本語教育教材作成 (2)	協働での教材作成を行う。
13	日本語教育教材作成 (3)	作成した教材について改善点を修正する。
14	作成教材の相互評価。	作成した教材について，その特色と使用方法を紹介し，学生間で相互評価を行う。
15	作成教材作成作業の講評	教材の作成作業課程及び成果物について木村が講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，テキストおよび授業内で配布，紹介する資料・文献，また下記参考書や資料のいずれかを各自の関心に引き寄せられる範囲で精読してください。不明な点・疑問点がある場合は，積極的に質問してください。

【テキスト（教科書）】
・リチャーズ，ジャック・C. &ロジャース，シオドア・S.(2007) 高見澤孟監訳『世界の言語 教授・指導法―アプローチ&メソッド』東京書籍，￥2,500。

【参考書】
・国立教育政策研究所編 (2014)「資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理」教育課程の編成に関する基礎的研究報告書７／国立教育政策研究所編 (2013)「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理」教育課程の編成に関する基礎的研究報告書５，URl:http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div08-katei.html
・国立教育政策研究所国際研究協力部編 (2015)『外国人児童生徒の教育等に関する国際比較研究 報告書』，URL ： https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h26/2-2_all.pdf
・フレイレ，パウロ (1979) 小沢有作ほか訳『被抑圧者の教育』亜紀書房。
・Brown, A. L. (1997). Transforming Schools into Communities of Thinking and Learning about Serious Matters. American Psychologist, 52(4), 399-413.
・ブルーナー，J.S.(2004) 岡本夏木ほか訳『教育と文化』岩波書店。
・コール，マイケル (2002) 天野清訳『文化心理学－発達・認知・活動への文化・歴史的アプローチ－』新曜社。
・欧州評議会編著 (2004) 吉島茂・大橋理恵訳『外国語教育Ⅱ 外国語教育の学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版.
・The Common European Framework in its political and educational context
URL: http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/Framework_EN.pdf
・吉島茂・長谷川弘基編 (2004)『外国語教育Ⅲ－幼稚園・小学校編』朝日出版.
・OEDC 編著 (2007) 斎藤里美監訳『移民の子どもと学力－社会的背景が学習にどんな影響を与えるのか－』明石書店。
・ソシュール，フェルディナンド (2007) 影浦峡ほか訳『ソシュール 一般言語学講義』東京大学出版会。
・前田英樹編・訳・著 (2010)『沈黙するソシュール』講談社学術文庫 1998.
・岩立志津夫・小椋たみ子 (2005)『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房。
・日本語教育政策マスタープラン研究会編著 (2010)『日本語教育でつくる社会－私たちの見取り図』ココ出版。
・田中慎也・木村哲也・宮崎里司編著 (2009)『移民時代の言語教育－言語政策のフロンティア１』ココ出版。
・木村哲也 (2002)「「日本語教育」の執拗低音」池田信雄・西中村浩編『間文化の言語態』東京大学出版会，pp.181-199.
・障害者の権利に関する条約 (日本政府仮訳)
URL:http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/rights/adhoc8/convention.html
・Fenner, Anne-Brit, ed.(2001) *Cultural awareness and language awareness based on dialogic interaction with texts in foreign language learning*, Strasbourg: Council of Europe Publishing.
・佐藤学 (1997)『教師というアポリア－反省的実践－』世織書房。
・小玉重夫 (1999)『教育改革と公共性－ボウルズ・ギンタスからハンナ・アレントへ－』東京大学出版会。
・丸山俊一編著 (1998)『心理学のなかの論争－ [1] 認知心理学における論争』ナカニシヤ出版。
・Hall,J.K. & Vitanova,G.& Marchenkova,L.(2013) *Dialogue with Bakhtin on Second and Foreign Language Learning New Perspectives*, New York: Routledge.
・Holquist,M.(2002)*Dialgism Bakhtin and his World*,London & New York: Routledge.
・バフチン，ミハイル (1996) 伊東一郎訳『小説の言葉』平凡社ライブラリー。
・ユネスコ編 (1997) 天城勲監訳『学習：秘められた宝 ユネスコ「21 世紀教育国際委員会」報告書』ぎょうせい。
・レヴィ=ストロース，クロード (1970) 荒川幾男訳『人種と歴史』みすず書房。
・国際交流基金編・発行 (2009)『JF 日本語教育スタンダード試行版』
・嶺井正也監修 (1998)『共育への道「サマランカ宣言」を読む』アドバンテージサーバー
・広瀬弘忠 (2004)『人はなぜ逃げおくれるのか－災害の心理学－』集英社新書 0028E。
・いのうえせつこ (2008)『地震は貧困に襲いかかる』花伝社。
・阿部彩 (2008)『子どもの貧困―日本の不公平を考える』岩波新書。
・山野良一 (2008)『子ども最貧国・日本―学力・心身・社会におよぶ諸影響』光文社新書。
・「持続可能な開発のための教育の 10 年」「未来をつくる学びをはじめよう 地域から学ぶ・つなぐ 39 のヒント」
URL:http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/documents/39_j.pdf

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への能動的参加) － 20%，教材作成意図についての口頭発表 (学生間相互評価) － 20%，教材作成成果物の発表 (学生間相互評価) － 20%，日本語教育機関での授業見学と教材作成上の留意点と作成後に発見した課題についてのレポート評価 (木村が行う) － 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
分かりやすい解説，分かりやすい板書を心がけます。

【その他の重要事項】
・第１回目のオリエンテーションには必ず出席するようにしてください。出席できない場合は事前に CD 学部事務窓口へ欠席する旨を連絡しておいてください。

多文化社会における日本語教育 B　2014 年度以降入学生
多文化社会における日本語教育 B　2012～2013 年度入学生
多文化社会における日本語教育 B　2009～2011 年度入学生

前田　理佳子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・4**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語教育における「学習者」の多様化と日本語社会における多文化性が相互に交渉する中で、日本語教育の世界は奥行きを深め幅を広げつつあります。現在進行中のできるだけ具体的な事例を採り上げて検討しながら、社会変革と自己成長の契機をつかみ実践する場としての日本語教育について考えます。

【到達目標】
各種メディアにおける日本語教育・日本語学習に関する表象・言説を批判的に検討できるようになることをめざします。

【授業の進め方と方法】
各種メディアにおける日本語教育・日本語学習に関する表象・言説に接して、問題の発見、背景の理解、将来の方向性についての議論を試みます。
A. テレビ、新聞、雑誌等の日本語教育・日本語学習に関する報道等を観察し、トーキングショップを行います。
B. 多言語サービスに関連する研究事例の紹介及びそれに関連するワークショップを行います。
（受講者の状況により、授業計画は適宜調整します。）

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業のテーマ、方法、評価等を担当教員が説明します。
第 2 回	緊急時の言語対策 (1)	大規模災害時等において日本語に不慣れな人を情報弱者にしないために行われている言語対策について理解を試みます。
第 3 回	緊急時の言語対策 (2)	緊急時の言語対策の一つである「減災のための『やさしい日本語』」研究を紹介します。
第 4 回	緊急時の言語対策 (3)	「減災のための『やさしい日本語』」案文作成ワークショップを行います。(1)
第 5 回	緊急時の言語対策 (4)	「減災のための『やさしい日本語』」案文作成ワークショップを行います。(2)
第 6 回	子どもの言語生活 (1)	海外につながる子どもが日本社会の中で成長する過程の課題に関して、事例を通して理解を試みます。
第 7 回	子どもの言語生活 (2)	子どもの複数言語習得に関わる理論を概観します。
第 8 回	子どもの言語生活 (3)	「移動する子ども」の成長の過程の課題に関して、ライフストーリーを読み解くことを通して理解を試みます。(1)
第 9 回	子どもの言語生活 (4)	「移動する子ども」の成長の過程の課題に関して、ライフストーリーを読み解くことを通して理解を試みます。(2)
第 10 回	子どもの言語生活 (5)	日本社会で暮らす海外につながる子どもの教育に関する提言、言語政策研究を検討します。
第 11 回	「ニューカマー」の言語生活 (1)	「ニューカマー」の言語的課題について事例を通して理解を試みます。(1)

第 12 回	「ニューカマー」の言語生活 (2)	「ニューカマー」の言語的課題について事例を通して理解を試みます。(2)
第 13 回	ふりかえりとこれから (1)	各自のレポートテーマ、この授業にふさわしい評価のありかたについて議論します。
第 14 回	ふりかえりとこれから (2)	各自のレポートテーマ、構想について議論します。(1)
第 15 回	ふりかえりとこれから (3)	各自のレポートテーマ、構想について議論します。(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業についてリフレクションを書き、次回授業の開始時に提出します。
テキストや次回以後の授業で用いる事前配布資料の読み込み、宿題としての課題遂行が必要です。
期末レポートでは授業で扱ったトピックと関わりのあるテーマを各自で設定して論じますので、授業期間を通して資料収集その他を自律的に進める必要があります。

【テキスト（教科書）】
川上郁雄・尾関史・太田裕子（2014）『日本語を学ぶ・複言語で育つ：子どものことばを考えるワークブック』くろしお出版

【参考書】
川上郁雄 (2010)『私も「移動する子ども」だった：異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー』くろしお出版
川村千鶴子ほか編 (2009)『移民政策へのアプローチ：ライフサイクルと多文化共生』明石書店
その他授業内に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として、毎回のリフレクション記述及び提出 (45 %)、期末レポート（45 %）、相互評価、自己評価（10 %）を総合します。成績評価の方法について参加者間で検討します。
参加型授業ですので、連続 3 回以上及び授業実施回数 3 分の 1 以上の提出リフレクションの欠落があった場合は単位認定対象にできません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【その他の重要事項】
授業内のグループワーク、ディスカッションに積極的に参加してください。

【C　教員との短い応答】
テキストや事前配布資料等を読んだ上で、疑問や意見を述べます。

【E　学生同士のディスカッション】
各回のテーマに関わるディスカッションを行います。

【F　学生同士のグループワーク】
ワークショップ形式の授業回でのグループワークがあります。

【G　プレゼンテーション】
参加者各自の期末レポートの構想についてプレゼンテーションをします。

多文化社会における日本語教育 C　2014 年度以降入学生
多文化社会における日本語教育 C　2012～2013 年度入学生
多文化社会における日本語教育 C　2009～2011 年度入学生

富谷　玲子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界各地で急激な多文化化が進んでいる。日本国内においても日本に定住を希望する外国人が増え、それに伴って新たな社会づくりとコミュニケーションのあり方が検討されている。海外では日本の文化が驚くべきスピードで受容されつつある。日本国内がどのような言語文化的状況にあるのか、また、世界ではどのように言語と文化とそこに住む人々がかかわっているのかを検討する。さらにその上で、多文化社会の中で日本語および日本語教育はどのような役割を果たすことができるのかを検討することがこの授業のテーマである。

【到達目標】
通常、母語話者は母語を無自覚にしかも正確に使用することができる。同様に母文化の暗黙の規範はそれに抵触する振る舞いを見ない限りなかなか自覚することができない。この授業では多くの学生にとって母語・母文化である「日本語」と「日本文化」「日本社会」について客観的に観察し、その特徴を自覚的に記述することができるようになることを目的とする。また、日本社会の中に埋め込まれている暗黙の規範についても検討し、それがどのような前提に基づいて成立しているのかについて「外からの目」をもって批判できるようになることも目標とする。さらに、定住外国人から見て日本社会はどのような点で暮らしやすく、どのような点で暮らしにくいのかについて、学生自身が暮らしている地域の現状を検討し、これからの日本国内での日本語教育の在り方を検討する。

【授業の進め方と方法】
「言語」「文化」「社会」を主たるテーマとする。各テーマごとに概要を講義したうえで、学生自身による調査・プレゼンテーション・ディスカッションを行う。調査では、学生自身が暮らす街が外国人にとってどのように暮らしやすくどのように暮らしにくいのかについて、実際に実地調査を行い、その結果をプレゼンテーションする。課題について、学生一人一人の積極的な参加を期待する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	多文化社会としての日本 世界の言語と文化
2	多文化社会に住む「私」について考える (1)	日本国内の多文化状況について概説する。さらに、各地域の状況を調査するための方法を提示する。
3	多文化社会に住む「私」について考える (2)	自分自身の居住地あるいは出身地の多文化状況の調査発表し、日本語教育の在り方について考える。
4	多文化社会に住む「私」について考える (3)	自分自身の居住地あるいは出身地の多文化状況の調査発表し、日本語教育の在り方について考える。
5	言語権と日本社会	言語権とは何か、日本社会で言語権が守られていない人はいないのか、について検討する
6	外国語を学ぶこと／教えることの意味について考える	どんな言語をまなんできたか、それはなぜかを言語化する。また日本語教育をなぜ行うのかについても合わせて検討する。
7	なぜ英語を学ぶのか？　なぜ日本語を生部のか？	なぜ英語を学ぶことが必要なのか、自分自身の問題として、将来の日本社会の問題として検討する。
8	言語戦争	言語戦争とは何か、言語戦争を回避するための方略は何かについて検討する。

9	複言語・複文化主義	多言語・多文化主義と複言語・複文化主義とはどのように異なるのか検討する。今後の日本語教育にとって複言語複文化主義はどのような役割を果たすかを検討する。
10	識字・リテラシー	「文字が読めずに日本社会で生きている人たち」の暮らしについて考える。
11	ハーフかダブルか？	二つの文化の中で生きる子供たちについて考え、どのような教育が現在行われているのか、どのような教育が今後必要なのかについて考える。
12	世界の言語政策 (1)	世界各国の言語政策を調査するための方法を提示する。
13	世界の言語政策 (2)	各学生が関心を持つ国や地域の言語政策を調査し、その結果をプレゼンテーションする。
14	世界の言語政策 (3)	各学生が関心を持つ国や地域の言語政策を調査し、その結果をプレゼンテーションする。
15	まとめ：多文化社会におけるこれからの日本語教育について考える	多言語社会における日本語教育にどうかかわっていくことができるのか、ディスカッションを交えて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマについて自分自身の考えをまとめ、授業中に積極的に発言できるよう準備してから授業に参加することとする。また、書くテーマに基づく調査を実施する。その成果をまとめ、簡単なプレゼンテーションを行う。さらに全学生で、その内容についてさらに深めるためのディスカッションを行う。学生主体の授業とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、参考資料、文献等を講義の中で提示する。

【参考書】
授業時に随時指示する

【成績評価の方法と基準】
授業時のディスカッションへの参加（２０％）
調査課題のプレゼンテーション（２５％）
プレゼンテーションの内容要約の提出（２５％）
期末レポート（３０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生が積極的に参加できるような授業形態とする。学生の関心を授業に積極的に取り入れる。

【その他の重要事項】
授業後の昼休みの時間をオフィスアワーとする。履修登録完了後、メールでの連絡先を提示する。

【授業中に求められる学習活動】
B, E, G, H

多文化社会における日本語教育D　2014 年度以降入学生
多文化社会における日本語教育D　2012～2013 年度入学生
多文化社会における日本語教育D　2009～2011 年度入学生

木村　哲也

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・6**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国語教育を含め言語教育の在り方は，今日の日本社会全体の重要な課題となっている。「多文化共生」という考え方を，日本語教育活動と具体的に結びつけるにはどうしたらよいか。学生は，言語および言語環境の「公共性」について理解を深め，21 世紀の日本語教育／言語教育に新たな展望をひらく日本語教育学を構築し，その実践者となるのに必要な知識を獲得する。

【到達目標】
学生は，時代の変化，特に，国内外の言語環境の変化が日本社会に及ぼす影響について認識を深める。認知科学や学習科学と日本語教育の関係を理解し，ことばの教育がもつ意義の大きさを理解する。さらに，学生は，言語教育理論の比較検討ができる知識を獲得する。また，言語意識や言語環境の公共性を構築するには何が必要か，その判断力を養う。その上で，日本語教育活動についての汎用性のある実践力を身につける。

【授業の進め方と方法】
学習心理学の歴史を紹介した上で，教授法，言語学習論について解説。また，国語教育や言語教育のイデオロギーについても考えていく。21 世紀型日本語教育の在り方について議論する。そこでは言語環境の「公共性」，社会構成主義や学習科学という考え方を軸に，課題解決型の日本語教育の在り方を探る。これらの作業を踏まえ，日本語教育の実践方法を検討する。学生全員が模擬授業を計画・実施し，学生同士の学び合いや相互の評価を重視し，授業を行う。なお，本講義は，木村が担当する「多文化社会における日本語教育Ａ」につながる科目で，秋学期に「Ａ」を履修する学生は春学期に本科目「Ｄ」を履修することを推奨する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期の授業内容の流れ，模擬レッスン実施方法，評価方法について解説。
2	学習科学と第二言語習得 (1)	行動主義心理学，表象主義的認知心理学に基づく学習理論の課題を確認。認知科学からの学習科学への変化を理解し、言語能力評価の在り方について論じる。
3	学習科学と第二言語習得 (2)	上記 (1) の内容を踏まえた上で，ジグソー教授法，さらにアクティブ・ラーニングと日本語教育の関係について解説する。
4	言語環境の「公共性」と日本語教育	言語環境の「公共性」の観点から，日本語教育と日本の言語改革の内容を点検する。
5	言語意識の「公共性」と日本語教育	上記 (1) を踏まえた上で，言語の意識教育や 21 世紀型スキルを育成することばの教育について考える。
6	構成主義と日本語教育	多文化共生社会を実現するための理論的枠組みとして，構成主義，社会文化論的アプローチについて解説する。
7	社会構成主義と日本語教育	上記 (1) を踏まえ，社会構成主義の下での日本語教育活動を通じて行うことができる社会貢献とは何か，共に考えていく。
8	模擬授業計画内容の発表 (1)	グループを２つに分け，第１グループが模擬授業計画について発表。学生同士の相互評価を行い，改善点を議論する。
9	模擬授業計画内容の発表 (2)	第２グループが模擬授業計画について発表。学生同士の相互評価を行い，改善点を確認し合う。
10	模擬授業計画内容の講評	模擬授業計画の内容について講評する。
11	21 世紀型「日本語教育」を考える (1)	現行の文科省の教育改革の内容を確認し，初等中等教育での日本語指導がもつ意味と課題について解説する。
12	21 世紀型「日本語教育」を考える (2)	上記 (1) の内容を踏まえて，公教育における外国人児童生徒を対象とした日本語 (国語) 教育，言語教育の在り方について考える。
13	模擬授業の実施 (1)	第１グループが計画発表時の相互評価の内容を生かし模擬授業を実施。
14	模擬授業の実施 (2)	第２グループの計画発表時の相互評価の内容を生かし模擬授業を実施。
15	模擬授業の講評	実施された模擬授業について，講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，テキストおよび授業内で配布，紹介する資料や文献，また下記参考書や資料のいずれかを各自の関心に引き寄せて精読してください。読んで出会った不明な点・疑問点は，積極的に質問してください。

【テキスト（教科書）】
・ライトバウン，バッツィ・M. &スパダ，ニーナ (2014) 白井恭弘・岡山雅子訳『言語はどのように学ばれるか―外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』岩波書店，￥2,800.

【参考書】
・グリフィン，P.，マクゴー，B.，&ケア，E. (2014) 三宅なほみ監訳『21 世紀型スキル―学びと評価の新たなかたち』北大路出版。
・文部科学省初等中等教育局 (2014)「学校教育施行規則の一部を改正する省令等の施行について」(日本語指導を必要とする外国人児童生徒のための「特別の教育課程」の設置について),
URL: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm
・バトラー後藤裕子 (2011)『学習言語とは何か―教科学習に必要な言語能力』三省堂。
・カミンズ，ジム＆中島和子 (2011)『言語マイノリティを支える教育』慶應義塾大学出版会。
・東京都日野市公立小学校全教師・教育委員会 with 小貫悟 (2010)『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍。
・清水貞夫 (2012)『インクルーシブ教育への提言―特別支援教育の革新』クリエイツかもがわ。
・米国学術研究推進会議編著 (2002) 森敏昭・秋田喜代美監訳『授業を変える』北大路書房。
・ウィルキンズ，D.A.(1984) 島岡丘訳・注『ノーショナルシラバス』言語教育・応用言語学叢書，桐原書店/オックスフォード出版会。
・Aronson,E.& Patonoe，S.(1997) *The Jigsaw classroom ― Building Cooperation in the classroom*, New York: Longman.
・アロンソン，エリオット (1986) 松山安雄訳『ジグソー学級―生徒と教師の心を開く協同学習法の教え方と学び方』原書房。
・Krashen,Stephen D.(1997) *The Input Hypothesis ― Issues and Implications*, Frome & London: Bulter & Tanner.
・Corder,S.Pit(1981) *Errpr Analysis and Interlanguage*, Oxford: Oxford University Press.
・コーダー，S. ピット (1988) 玉川大学応用言語学研究会訳『中間言語入門』三修社。
・エリス，ロッド (1988) 牧野高吉訳『第２言語習得の基礎』ニユーカレント・インターナショナル。
・西口光一 (1995)『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編』バベル・プレス。
・小柳かおる (2004)『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク。
・Doughty, Catherrine & Jessica Williams(1998) *Focus on Form in Classroom Second Language Aquisition*, Cambridge: Cambride University Press.
・ソーヤー，R.K. 編 (2009) 森敏昭・秋田喜代美監訳『学習科学ハンドブック』培風社。
・Mestre, Jose P. ed. (2005) *Transfer of learning from a modern multidisciplinary perspective*, USA: Information Age Publishing Inc.
・橋本進吉 (1980)『古代国語の音韻に就いて』岩波文庫青 151-1。
・国立国語研究所編 (2001)『日本語教育のための文法用語』財務省印刷局。
・レイヴ，ジーン & エティエンヌ・ウェンガー (1993) 佐伯胖訳『状況に埋め込まれた学習－正統的周辺参加－』産業図書。
・山脇直司 (2004)『公共哲学とは何か』ちくま新書 469.
・桂木隆夫 (2005)『公共哲学とはなんだろう』勁草書房。
・ガーゲン，ケネス・J.(2004) 東村知子訳『あなたへの社会構成主義』ナカニシヤ出版.
・デューイ，J.(1957)『学校と社会』岩波文庫青 652-2。
・佐伯胖 (1983)『「わかる」ということの意味』岩波書店。
・佐伯胖・藤田英典・佐藤学 (1995)『学びへの誘い』東京大学出版会。
・佐藤学 (2007)『習熟度別指導の何が問題か』岩波ブックレット，No.612.
・鈴木敏正 (1997)『学校型教育を超えて－エンパワーメントの不定型教育』北樹出版。
・鈴木敏正 (1999)『エンパワーメントの教育学－ユネスコとグラムシとポスト・ポストモダン』北樹出版。
・ライチェン，ドミニク・S. & サルガニック，ローラ・H. 編著 (2006) 立田慶裕監訳『キー・コンピテンシー 国際標準の学力を求めて』明石書店.
・Hawkins, Eric (1996) *Awareness of Language: An Introduction Revised Edition*, Cambridge: Cambridge University Press.
・サピア，エドワード (1998)『言語―ことばの研究序説』青岩波文庫 686-1。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への能動的参加) － 20%，模擬授業計画の口頭発表 (学生間相互評価) － 20%，模擬授業の実施 (学生間相互評価) － 20%，最終レポート (木村が評価を行う) － 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
分かりやすい解説，分かりやすい板書を心がけます。

【その他の重要事項】
・第１回目のオリエンテーションには必ず出席するようにしてください。出席できない場合は，事前に CD 学部事務窓口へ，その旨を伝えておいてください。
・本年度は，現在そのとりまとめ作業が行われている中教審の教育改革：外国人児童生に対する日本語指導，言語能力向上策，外国語 (英語) 教育，インクルーシブ教育の推進，教員養成課程の改編等，公教育のアクティブ・ラーニングを軸とした教育改革や，社会の変化に対応して求められる教員の資質・能力と日本語教育との関係に重点を置いて授業を行います。

多文化社会における日本語教育 E　2014 年度以降入学生
多文化社会における日本語教育 E　2012～2013 年度入学生
多文化社会における日本語教育 E　2009～2011 年度入学生

村野　節子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・4** ｜ 配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの生活にとけ込んでいる「にほんご」。しかし、ことばはそれを必要とする人、場所、環境によって、さまざまです。本授業では、ことばを通して社会を見つめ、多角的にことば・社会を見る目を養うことを目指します。今、自分が見ている「にほんご」は、誰のための日本語なのか考えてみましょう。

【到達目標】
・自分が普段使っている・目にすることばを捉え直し、ことばの持つ力を多角的に捉えることができる。
・授業で学んだことを自分なりに表現し、伝え、行動できる。
・ことばを教育する・学ぶことに関心を持ち、具体的な方法と結びつけることができる。

【授業の進め方と方法】
多言語多文化主義関係の新聞記事・書籍の一部を読み込んだり、映像資料を視聴したり、実際に使用されている教科書などを分析したりして、グループディスカッションや全体討議を重ねる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ウオーミングアップ	授業の進め方の説明 ディスカッションのためのウオーミングアップ
第 2 回	日本語教育の現状	どのような人がどこで、何のために学んでいるかという日本語教育全体の現状を学ぶ
第 3 回	日本語教師の現状	日本語教師の仕事・現状について考える
第 4 回	言語のパワー	ことばが持つパワーを様々な視点から考える
第 5 回	日本人の日本語	日本人の日本語の多様性について考える
第 6 回	CEFR	「日本語（外国語）ができる」基準を考える
第 7 回	学習観の変遷	さまざまな学習観から日本語教育を考える
第 8 回	テキスト分析１ー対象者	実際のテキストを見て、どのような対象者に向けたテキストかを考える
第 9 回	テキスト分析２ーニーズ	実際のテキストを見て、どのようなニーズを満たすためのテキストかを考える
第 10 回	子どもの日本語教育	外国語としての日本語を学ぶ子どもについて考える
第 11 回	多文化を教育する１	ことばを学ぶだけではなく、多文化を学ぶことについて考える
第 12 回	多文化を教育する２	移民の事例から多文化教育とことばについて考える
第 13 回	教材作成	相手のニーズから、発信できるような教材のアイディアを考える。
第 14 回	レポート課題の選択・構想決定	自分のアイディアを効果的に示すレポートの書き方とより良いアイディアについて話し合う（レポート第一稿提出）
第 15 回	おわりに	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終課題（レポート）のための資料の読み込みや資料探し

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配布

【参考書】
適宜参考資料を紹介、指定する

【成績評価の方法と基準】
最終レポート４０％、毎回の授業時の意見シート４５％、レポート第一稿完成度１０％、ディスカッション参加度５％
毎回授業時に記入する意見レポートは、一回の出席につき１～３で点数化されます。
（最終レポート提出のための必要条件：出席８０％。就活などやむを得ない理由がある場合は考慮しますのでオリエンテーション時に相談してください。）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
欠席時の配布資料は翌週まで保管しておきますが、それ以降は破棄します。支援システムの「教材」に入れておきます。有効期間は１週間なのでダウンロードをし忘れないように気をつけてください。
最終レポートは最終授業時に提出ですが、支援システムの「課題」にも入れてください。

【その他の重要事項】
受講者数に応じて各回の内容は、多少前後、変更する可能性があります。
本授業は、対話を通して学びます。「私、コミュニケーション苦手」「考えること苦手」という方、また「話すこと大好き」「考えること大好き」という方も是非参加してください。
担当講師はキュレーターとして授業を運営していきますが、主体は学生の方です。
グループは固定しませんので、日ごろ話さない人と意見交換をする機会が持てます。
連絡先　setsukomurano@gmail.com

【授業中に求められる学習活動】
B,D,E,F

LA235

文化人類学方法論

中島　成久

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**木・3**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アジアのアグリビジネス研究」というテーマで授業を行う。アブラヤシ、バナナ、コーヒーと茶、エビとマグロに関するアグリビジネスについて詳細に検討する。
主にアジアにおけるアグリビジネスと国家との関わりを追及するので、「アジアにおける国家と民族」をもカバーしている。

【到達目標】
アグリビジネスが日本と世界に占めている位置を確認する。アジアの開発、環境、ナショナリズムといった諸問題にアグリビジネスがどう関わっているかを学ぶ。プレゼン形式の授業も取り入れ、自分で調べ、発表する能力を高めること。

【授業の進め方と方法】
講義形式と受講者の発表形式で授業を進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業内容の説明、テキストと担当者の決定
第２回	アグリビジネスとは？	『現代の食とアグリビジネス』講読①
第３回	アグリビジネスとは？ ②	『現代の食とアグリビジネス』講読②
第４回	アグリビジネスとは？	『現代の食とアグリビジネス』講読③
第５回	アブラヤシ開発①	DVD「パームオイル、近くと遠い油の話」視聴、アブラヤシ開発論
第６回	アブラヤシ開発②	中島担当　放送大学文化人類学「開発と環境の人類学」視聴、アブラヤシ開発と環境講義
第７回	アブラヤシ開発③	『インドネシアのアグリビジネス改革』講読①
第８回	アブラヤシ開発④	『インドネシアのアグリビジネス改革』講読②
第９回	アブラヤシ開発⑤	受講者による発表
第１０回	バナナ開発①	VHS「バナナ植民地フィリピン」視聴
第１１回	バナナ開発②	『フィリピンバナナのその後』講読①
第１２回	バナナ開発③	『フィリピンバナナのその後』講読②
第１３回	バナナ開発④	受講者による発表②
第１４回	バナナ開発⑤	受講者による発表③
第１５回	まとめ	春学期授業のまとめ
第１６回	コーヒーと茶①	DVD「コーヒーをめぐる不都合な真実」視聴
第１７回	コーヒーと茶②	『資源大国東南アジア 世界経済を支える光と陰の歴史』講読①
第１８回	コーヒーと茶③	『資源大国東南アジア 世界経済を支える光と陰の歴史』講読②
第１９回	コーヒーと茶④	『資源大国東南アジア 世界経済を支える光と陰の歴史』講読③
第２０回	コーヒーと茶⑤	受講者による発表④
第２１回	コーヒーと茶⑥	受講者による発表⑤
第２２回	エビとマグロ①	DVD「食べるためのマグロ売るためのマグロ」視聴
第２３回	エビとマグロ②	『アジアのエビ養殖と貿易』講読①
第２４回	エビとマグロ③	『アジアのエビ養殖と貿易』講読②
第２５回	エビとマグロ④	受講者による発表⑥
第２６回	エビとマグロ⑤	受講者による発表⑦
第２７回	エビとマグロ⑥	受講者による発表⑧
第２８回	受講者のプレゼン	１年間のテーマに関する受講者の研究発表①
第２９回	受講者のプレゼン	１年間のテーマに関する受講者の研究発表②
第３０回	まとめ	秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストをよく読むこと、図書館などで関連する文献を調べ、自習すること。

【テキスト（教科書）】
大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』有斐閣、２００４年
頼俊輔『インドネシアのアグリビジネス改革』日本経済評論社、２０１２年
中村洋子『フィリピンバナナのその後』七つ森書館、２００６年
加納啓良『「資源大国」東南アジア 世界経済を支える「光と陰」の歴史』洋泉社、２０１４年 (編)
多屋勝雄『アジアのエビ養殖と貿易』成山堂書店、２００３年

【参考書】
中島成久『インドネシアの土地紛争――言挙げする農民たち』創成社新書

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（３０％）、プレゼン（３０％）、学期末レポート（４０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義形式と学生による発表形式をミックスさせた授業を行うこと。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD、VHS

CA338-04

社会政策論 A

菅原　琢磨

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、それへの制度対応、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
・社会政策論で扱われる対象を理解し、社会政策の歴史的経緯の概要を説明できる。
・現代日本の雇用問題、労働政策の概要を理解し説明できる。
・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
・わが国の社会福祉制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【授業の進め方と方法】
「社会政策」が包摂する領域は広がりをみせているが、人々の「仕事」と「生活」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策を総称したものと捉えられる。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生起した社会的背景、原因についても概説する。
毎回、リアクションペーパーの提出を求め、各回の講義の冒頭、前回のリアクションペーパーに対する応答をおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会政策とは	社会政策の意義、対象領域
2	社会政策の歴史	社会政策の歴史的経過、概略史
3	雇用・労働にかかる法制度	労働基準・最低賃金・労働組合
4	雇用・労働にかかる保険制度	雇用保険制度と労働者災害保険
5	雇用・労働政策と社会変化	若年・女性労働市場の現状と対応
6	医療制度の歴史	医療保険制度の概要と歴史的経緯
7	医療制度の概要	医療費、診療報酬、医療提供体制
8	貧困・不平等と社会政策	貧困概念と社会的不平等
9	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
10	介護の歴史的展開	制度発足の歴史的経緯と理念
11	介護保険制度の現状と課題	制度と動向、今後の対応
12	年金制度の歴史的展開	年金制度の概要と歴史的経緯
13	年金制度の現状と課題	年金制度改革と今後の対応
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革
15	社会の構造変化と社会政策（総括）	少子高齢社会における社会政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱う内容はきわめて幅広い。講義内でも時事問題の背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。また講義資料を講義後に授業支援システムを通じてアップロードするので、各自、それを用いて講義内容を十分復習すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。講義資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】
以下で示す以外にも、講義中に参考となる文献は適宜紹介する。
OECD 編著『図表でみる世界の社会問題 2　OECD 社会政策指標　貧困・不平等・社会的排除の国際比較』明石書店、2008 年
国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障制度改革　日本と諸外国の選択』東京大学出版会、2005 年
駒村康平『最低所得保障』岩波書店、2010 年
駒村康平『福祉の総合政策』創生社、2011 年
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第 12 版）』有斐閣、2015 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（50 %）、平常点（20 %）、課題レポート（30 %）による。
定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスのうち最も重要な点について基礎的理解が出来ているかどうかを問う内容である。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義の冒頭におけるリアクションペーパーに対するコメント、新聞記事を用いた時事問題、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

CA338-04

社会政策論Ｂ

菅原　琢磨

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の「社会政策論 A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。単に知識の修得を目指すのではなく、現実の社会問題を「材料」として受講者自身の頭で検討、思考する能力の涵養を促したい。

【到達目標】
わが国が直面する主要な社会政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれに至るための適切な政策について、自らの見解を述べることができる。

【授業の進め方と方法】
厳しい経済環境、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会政策上の問題が山積している。若年者の雇用問題や非正規労働問題、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義ではこれらのトピックスを進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。これらの「材料」を踏まえ、各々の問題の本質をどのように捉え、改善策を考えていくか、受講生自身の思考を促す講義としたい。
毎回、リアクションペーパーの提出を求め、各回の講義の冒頭、前回のリアクションペーパーに対する応答をおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義概要と課題	社会政策の意義、対象領域の復習
2	雇用・労働政策の概要	労働基準、最低賃金、雇用形態
3	雇用・労働政策の今日的課題	若年、女性労働、外国人労働
4	児童・高齢者・障害者の福祉	待機児童、成年後見、障害者自立支援
5	貧困・格差・不平等	現代日本の貧困・格差・不平等
6	生活保護の課題	制度の方向性（自立支援、就労支援）
7	医療提供体制と医療政策	医療提供制度、医師・看護師不足
8	医療財政と医療政策	医療財政と負担のあり方
9	医療の国際比較	医療制度、政策の国際比較
10	介護問題と介護提供体制	介護提供体制にかかる諸問題
11	介護の財政問題	介護財政にかかる諸問題
12	介護の国際比較	介護制度、政策の国際比較
13	年金問題の概要	年金問題の論点整理
14	年金制度改革	持続可能な年金制度と制度改革
15	講義総括	年間講義の振り返りとまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会政策論Ａで扱った内容の理解を前提として講義を実施する。日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。また講義資料を講義後に授業支援システムを通じてアップロードするので、各自、それを用いて十分講義内容を復習すること。

【テキスト（教科書）】
講義で必要な資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】
駒村康平『最低所得保障』岩波書店、2010 年
駒村康平『福祉の総合政策』創生社、2011 年
島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011 年
大竹文雄『格差と希望－誰が損をしているか？』筑摩書房、2008 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（50 %）、平常点（20 %）、課題レポート（30 %）による。定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスについて正確な基礎知識をベースに論理的に自分の考えを展開できるかどうかを問う内容である。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義の冒頭におけるリアクションペーパーに対するコメント、新聞記事を用いた時事問題、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

CA338-05

社会保障論Ａ

小黒　一正

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】
社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度１	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度２	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度３	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度１	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度２	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度１	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度２	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	障害者と雇用	障害者雇用制度の仕組み
第 15 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会保障に関する情報は、日々のニュースに溢れている。ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】
小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版)』日本評論社

【参考書】
厚生労働省『厚生労働白書』各年版
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

CA338-05

社会保障論 B

小黒　一正

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】
日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	まとめと質疑	まとめと質疑
第 15 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会保障に関する情報は、日々のニュースに溢れている。ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】
小塩隆士『コア・テキスト　財政学』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】
阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 %を超える』PHP 研究所
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説　日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説　日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

CA338-04

環境政策論 A

西澤　栄一郎

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察することを目的とする。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】
①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【授業の進め方と方法】
まず、日本の環境問題の歴史を概観したあと、地球温暖化問題を事例に取りあげ、環境政策の目標・手段について、経済学的に検討する。その後は経済的手法を中心に分析する。
なお、現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。くわえて、環境経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することが望ましい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス＆環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	地球温暖化の現状と予測、気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	温室効果ガス排出とエネルギー需給、日本のエネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、直接規制、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、ボーモル・オーツ税、汚染者負担原則、二重の配当
第 11 回	排出取引	仕組み、税との比較、EU の排出取引制度
第 12 回	環境補助金・デポジット制度	助成金、特別償却、長期の効率性、課税と補助金の組み合わせ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展
第 15 回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために参考書を読むことが望ましい。下記に示した参考書のどちらか 1 冊を通読すること。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。授業は各回完結ではなく、それまでの内容を踏まえて進めていくので、前回までの内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】
栗山浩一・馬奈木俊介 (2012)『環境経済学をつかむ 第２版』有斐閣
前田章 (2010)『ゼミナール環境経済学入門』日本経済新聞出版社
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語で授業に集中できないという苦情が寄せられている。私語をしないこと。

CA338-04

環境政策論Ｂ

西澤　栄一郎

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、環境政策論Ａにつづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】
①日本の環境政策の実態について理解する。
②環境政策の形成過程を理解する。
③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
まず、政策のあるべき姿はどのようなものか、という問いに対し、環境政策の理念や原則をとりあげる。つづいて、どのような政策が実施されているのか、という問いに対し、日本の環境基本法と大気、水、土壌、有害化学物質、自然保護、廃棄物の各分野における個別法について解説する。さらに、どのように政策はつくられるのか？なぜそのような政策が実施されているのか？ という問いに対し、地球温暖化問題を例に政策過程論の考え方を用いて検討する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組み	環境基本法、環境基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、濃度規制と総量規制、アスベスト問題
第 4 回	交通と環境	自動車 NOx・PM 法、交通需要マネジメント
第 5 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域、水循環
第 6 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法、スーパーファンド法
第 7 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR、REACH
第 8 回	自然環境保全①生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然環境保全②自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程、政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	環境税の政策過程、政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント、環境報告書
第 14 回	企業と環境問題②	環境会計、環境金融
第 15 回	まとめ	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために『環境白書』を読んでおくこと。環境省のホームページで閲覧できる。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。さらに、授業のあとは内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】
環境省『環境白書 各年版』
北村喜宣 (2015)『環境法』有斐閣
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語で授業に集中できないという苦情が寄せられている。私語をしないこと。

EB/C/D216

環境政策論

白井　信雄

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済社会活動に起因する複雑多様な環境問題に対して、解決策となる適切な環境政策を実施していくことが求められています。講義では、環境問題の基本的構造を学ぶとともに、環境政策の体系と考え方を修得します。

【到達目標】
今日の環境問題に関する基礎知識を修得するとともに、環境問題を解決に導く環境政策の考え方を理解し、体系的に実践できる態度を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義では、環境問題の歴史を踏まえて、今日の環境政策において必要となる基本的考え方を学ぶとともに、現代社会が直面する循環型社会、地球温暖化問題、生物多様性等を取り上げ、具体的事例に即して環境問題への対策枠組みである環境政策手法の基礎について考えていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール	講義の進め方とスケジュール、受講上の注意などを紹介します。
2	環境問題の歴史１（近代化以前と産業革命）	循環型社会としての江戸時代と産業革命の弊害としての環境問題を学びます。
3	環境問題の歴史２（公害問題と地球環境問題）	産業公害から都市生活型公害、地球環境問題への変遷を学び、今日の課題の本質を考えます。
4	環境問題の歴史３（イギリスの環境問題史）	産業革命と環境問題の関係を日本とイギリスを比較しながら、学びます。
5	環境政策の基本原理	今日の環境政策の基本原則と基本的視点としての持続可能性の考え方を学びます。
6	環境政策の手法	環境政策の手法として、規制的手法、経済的手法、情報的手法等の考え方を具体例を学びます。
7	循環型社会１（現状と課題）	廃棄物・リサイクルに関する現状の課題と政策上の論点等を学びます。
8	循環型社会２（現在の論点）	３Ｒ（リデュース、リユース、リサイクル）の考え方と拡大生産者責任、ごみの有料化等の論点を学びます。
9	地球温暖化１（科学的根拠と緩和策）	温室効果ガス排出削減の必要性を確認したうえで、これまでの対策を評価し、今後の対策の選択肢を考えます。
10	地球温暖化２（適応策）	地球温暖化による自然と社会への影響を紹介し、適応というもう１つの対策の考え方を学びます。
11	環境配慮の普及政策（普及啓発と環境学習の理論）	不特定多数の行動や生活様式を変えるための普及啓発や環境学習等について、理論を学びます。
12	環境配慮の普及政策（実践と成果）	普及啓発や環境学習についての実践事例と成果、課題を考えます。
13	廃棄物・地球温暖化・生物多様性・エネルギー政策の関連	環境問題相互の関係や根本的に取り組むべき方向性を考えます。
14	超長期を見通した環境政策白井	21 世紀の環境保全社会の構築に向けて、社会経済の長期動向をにらんだ環境政策のあり方を学びます。
15	講義のまとめと試験	講義を振り返りまとめを行い、内容の理解度を確認する試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期間中に、授業の理解度を測るために、1 回の課題レポートを作成します。

【テキスト（教科書）】
授業に用いる、パワーポイントの資料を配布します。

【参考書】
授業内で参考書を指示します。

【成績評価の方法と基準】
＜配分＞
・平常点： 30 %、課題レポート： 20 %、期末試験： 50 %
・毎回提出を求めるコメントカードの記載により、平常点を評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・授業中の私語と飲食 (ペットボトル等) は厳禁で、悪質な者は退席させます。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　地域環境政策、持続可能な地域づくり
＜研究テーマ＞　環境イノベーション普及、気候変動・エネルギー政策と地域社会

EB/C/D216

環境自治体論

白井　信雄

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域における具体的な環境問題への取り組みに注目し、具体的な実践例を学ぶことにより、先進的な環境政策の具体像やその課題を理解し、考えます。

【到達目標】
環境問題の原因・経過・対策の構造を自治体環境行政に即して理解し、地域における環境政策の課題を自らの問題として思考するとともに、解決に参加する姿勢を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
自治体環境行政の基本的考え方を基礎として、地域環境政策の施策の柱である計画等を学ぶとともに、具体的な事例を堀り下げて学び、今日の環境対策における課題とその克服過程、新たな展開の可能性を考えていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール	講義の進め方を紹介します。
2	環境政策における国と地域、行政と企業・市民の役割	環境政策において、地域はどのような役割を果たすべきか、その課題と方向性を学びます。
3	環境基本条例及び環境基本計画等の体系	地域の環境基本条例や環境基本計画の事例を学びます。
4	環境先進地事例１（公害問題の克服と地域づくり）	公害問題を克服することで環境先進地となってきた水俣、川崎等の事例を取り上げ、その過程を学びます。
5	環境先進地事例２（自然・森林を活かす地域づくり）	宮崎県の綾町と諸塚村をとりあげ、自然を活かす地域づくりの方法の違いを考えます。
6	環境先進地事例３（地域環境力）	環境問題にかかる「地域環境力」を高めてきた事例として、長野県飯田市等をとりあげ、学びます。
7	環境先進地事例４（社会技術）	循環型社会を築くための社会技術の重要性に着目し、佐賀県大木町の事例をとりあげ、学びます。
8	環境先進地事例５（地域における環境と経済と好循環）	地域における環境と経済の好循環に取り組んできた兵庫県豊岡市、宮崎県綾町等の事例を学びます。
9	環境自治体の新展開１（再生可能エネルギー）	地域における再生可能エネルギー普及施策に関する先進地域について、国内外の事例を学びます。
10	環境自治体の新展開２（スマートシティ）	住宅用太陽光発電、電気自動車、スマートハウス等の導入を図る地域施策の可能性と実態等を学びます。
11	環境自治体の新展開３（コンパクトシティ）	都市計画と交通政策を一体的に行うコンパクトシティの事例として、富山市の取組みを学びます。
12	環境自治体の新展開４（気候変動適応）	気候変動の地域への影響に対する適応に取り組む先進地域の動向と課題を学びます。
13	環境自治体の新展開５（コミュニティ形成、広域化・地域間連携等）	コミュニティの環境活動、都市と農山村の交流、周辺市町村との連携による地域環境政策の可能性を学びます。
14	持続可能な地域づくり政策	自治体環境政策の総合体系として環境自治体の概念、持続可能性という観点での施策のあり方等を学びます。
15	講義まとめと試験	講義全体を振り返りまとめを行います。理解度を確認するため試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期間中に、授業の理解状況を測るために、1 回の課題レポートを作成します。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
白井信雄「環境コミュニティ大作戦～資源とエネルギーは地域でまかなう」学芸出版・2012 年
白井信雄「図解スマートシティ・環境未来都市」中経出版・2012 年

【成績評価の方法と基準】
＜配分＞
・平常点： 30 %、課題レポート： 20 %、期末試験： 50 %
・毎回提出を求めるコメントカードの記載内容により、平常点を評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　地域環境政策、持続可能な地域づくり

EB/C/D240

社会ネットワーク論Ⅰ

境　新一

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や組織、地位の間に存在する成立する様々な資源交換、流通、動員（個人間、企業間、国家間における友好・敵対・中立／無関心、対象間の支配と従属、階層間や都市間、地域間、都市と農村の間にある資源移動等）の状況を社会ネットワークと呼びます。この講義では、社会科学分野（主に社会学、経営学、経済学、法学）の視点から、SNS も含めた社会ネットワークに関する現象を理論と実証の両面から学ぶことを目指します。なお、分析手法として数理モデルも用います。

【到達目標】
1．社会現象のネットワーク、組織間関係からの分析および理解
2．企業や地域の社会ネットワークから捉える有効性
3．官僚型組織とネットワーク型組織の比較
4．企業紐帯の形成・展開と数理モデルによる分析および理解

【授業の進め方と方法】
1．社会におけるネットワーク現象を理解します。
2．企業や地域等のネットワーク、組織間関係を具体的に考察します。
3．個人と社会のネットワークを数理モデルを用いて分析・考察します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに 目標と進め方	授業内容を概観し、全体の目標を示します。特に社会学における行為・過程・構造の意味、ネットワークの意義を確認します。
2	社会におけるネットワーク現象	ネットワーク現象として、個人、企業、国家、地域、都市、都市と農村における事例、マクロ・メゾ・ミクロの対象範囲
3	社会科学の諸分野と分析視点	社会学、経済学、経営学、法学などの分析視点の特徴
4	社会とモデル、その方法１	社会をモデルでよむ・みる際の方法、分析枠組みとモデル
5	社会とモデル、その方法２	数理分析、グラフ理論、ブロックモデル
6	組織とネットワーク１	個人、市場、組織、ネットワークの関係、組織間関係
7	組織とネットワーク２	官僚型組織とネットワーク型組織の特徴、相違点
8	社会ネットワークの事例１	コミュニケーション：世間は狭い
9	社会ネットワークの事例１　続き	コミュニケーション：スモールワールド・モデルの意味
10	社会ネットワークの事例２	社会階層、個人・社会における結びつき
11	社会ネットワークの事例２　続き	弱い紐帯の強さ・モデル、企業紐帯の意義
12	社会ネットワークの事例３	SNS による「つながり」の可視化、虚構と現実
13	社会ネットワークの事例３　続き	SNS による「つながり」の課題と展望
14	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係を考察します。
15	総括と質疑および議論	各テーマに関する総括と質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指示します。

【テキスト（教科書）】
境 新一『企業紐帯と業績の研究－組織間関係の理論と実証－（第 2 刷）』文眞堂、2009 年

【参考書】
数理社会学会 監修／小林盾 ・金井雅之 ・佐藤嘉倫 ・内藤準 ・浜田宏 ・武藤正義 編『社会学入門 －社会をモデルでよむ－』朝倉書店、2014 年
日本数理社会学会 監修／土場 学/小林 盾/佐藤 嘉倫/数土 直紀/三隅 一人/渡辺 勉 編『社会を“モデル”でみる－数理社会学への招待』勁草書房、2004 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験（持込可）50 %、課題レポート 30%、出席等 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画の進行は、必ずしも順番通りでなく、前後することがあります。

EB/C/D240

社会ネットワーク論Ⅱ

境　新一

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や組織、地位の間に存在する成立する様々な資源交換、流通、動員（個人間、企業間、国家間における友好・敵対・中立／無関心、対象間の支配と従属、階層間や都市間、地域間、都市と農村の間にある資源移動等）の状況を社会ネットワークと呼びます。この講義では、社会ネットワークに関する現象を学ぶとともに、社会ネットワークの構築、人脈の形成の実践ならびに実践者であるプロデュース／プロデューサーの意義と役割を検証・考察します。なお、分析手法には数理モデルも用います。

【到達目標】
1.社会現象のネットワーク、組織間関係、企業紐帯からの分析ならびに理解
2.企業や地域を社会ネットワークの視点から捉える有効性
3.社会ネットワーク構築の実践・実践者たるプロデュース／プロデューサーの意義と役割の理解

【授業の進め方と方法】
社会ネットワーク構築の実践・実践者たるプロデュース／プロデューサーの意義と役割を事例を通して検証します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに　目標と進め方	授業内容を概観し、全体の目標を示します。特に社会ネットワークの意味を理解した上で、プロデュース／プロデューサーを検証します。
2	社会におけるネットワーク現象	ネットワーク現象として、個人、企業、国家、地域、都市、農村における事例、マクロ・メゾ・ミクロの対象範囲
3	社会ネットワーク分析のための理論の提示	ネットワーク分析の理論と背景を提示します。
4	社会とモデル、その方法１	社会をモデルでよむ・みる際の方法、分析枠組みとモデル
5	社会とモデル、その方法２	数理分析、グラフ理論、ブロックモデル
6	社会ネットワークとプロデュース１	社会ネットワークとプロデュースの関係、プロデュース／プロデューサーの意味と枠割
7	社会ネットワークとプロデュース２	プロデュース行為と社会ネットワークの形成・展開
8	社会ネットワークとプロデュース３	プロデューサーによる社会ネットワーク構築の手法、構築の過程
9	社会ネットワーク構築の事例１	アーティストのネットワーク
10	社会ネットワーク構築の事例２	クリエーター、デザイナーのネットワーク
11	社会ネットワーク構築の事例３	起業家のネットワーク、企業紐帯
12	社会ネットワーク構築の事例４	商品／イベント企画者のネットワーク
13	社会ネットワーク構築の事例５	まちづくり／地域活性化プランナーのネットワーク
14	社会ネットワーク構築の総括	事例の総括、課題提起ならびに課題解決
15	総括と質疑および議論	各テーマに関する総括と質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指示します。

【テキスト（教科書）】
境 新一『企業紐帯と業績の研究－組織間関係の理論と実証－（第 2 刷）』文眞堂、2009 年

【参考書】
境 新一編著『アート・プロデュースの未来』論創社、2015 年
数理社会学会 監修／小林盾 ・金井雅之 ・佐藤嘉倫 ・内藤準 ・浜田宏 ・武藤正義 編『社会学入門 －社会をモデルでよむ－』朝倉書店、2014 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験（持込可）50 %、課題レポート 30%、出席等 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画の進行は、必ずしも順番通りでなく、前後することがあります。

EB/C/D240

社会計画論Ⅰ

湯浅　陽一

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 地域問題、環境問題の領域におけるさまざまな社会問題の解決をめぐる成功事例と失敗事例について学び、問題解決の成否の意味と、成否を左右した要因連関について検討する。2. 社会制御の過程を把握する社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」論を学ぶ。

【到達目標】
1．社会計画が関与した社会問題の解決過程の事例についての知識を得る。
2．社会制御過程についての社会学基礎理論としての「経営システムと支配システムの両義性論」を理解する。
3．社会計画についての規範理論的問題群について理解する。

【授業の進め方と方法】
本講義では、協働連関の両義性（経営システムと支配システム）という視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンスと導入	受講上の注意と授業の導入
2	地域問題・環境問題の解決過程	事例①：沼津市におけるゴミ問題
3	地域問題・環境問題の解決過程	事例②：名古屋新幹線公害問題
4	地域問題・環境問題の解決過程	事例②つづき：名古屋新幹線公害問題（ビデオ）
5	地域問題・環境問題の解決過程	事例③：東北・上越新幹線建設問題
6	地域問題・環境問題の解決過程	事例④：静岡県コンビナート立地問題
7	地域問題・環境問題の解決過程	事例④：東京ごみ戦争
8	社会制御システムの両義性――社会計画過程把握の基礎視座	社会制御システムの二重の意味での両義性とは
9	社会制御システムの両義性――社会計画過程把握の基礎視座	経営システムと経営問題
１０	社会制御システムの両義性――社会計画過程把握の基礎視座	支配システムと被格差・被排除・被支配問題
１１	社会制御システムの両義性――社会計画過程把握の基礎視座	経営システムと支配システムは相互にどのように規定しあっているのか
１２	社会制御システムの両義性――社会計画過程把握の基礎視座	問題解決の正連動と逆連動
１３	社会的問題解決の成立条件と規範理論的検討	問題解決過程の基本サイクル
１４	社会的問題解決の成立条件と規範理論的検討	社会問題解決の規範的公準
１５	講義のまとめ、質問への回答	主要論点の確認、質問への回答、学生による授業評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。

【テキスト（教科書）】
舩橋晴俊，2012，『社会学をいかに学ぶか』弘文堂

【参考書】
舩橋晴俊他編，1985，『新幹線公害－ 高速文明の社会問題』有斐閣
舩橋晴俊他編，1988，『高速文明の地域問題－ 東北新幹線の建設・紛争と社会的影響』有斐閣
舩橋晴俊，2010，『組織の存立構造論と両義性論－ 社会学理論の重層的探究』東信堂
他の文献については開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
読書ノート (25 %) と、期末試験 (75 %) で総合評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
事例と理論を組み合わせた講義内容により、深い理解を促すことができる。

EB/C/D340

社会計画論Ⅱ

湯浅　陽一

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1．地域問題、環境問題、エネルギー問題の領域に関して、さまざまな社会問題や政策的課題の解決努力の成功や失敗を規定している要因を検討する。2．社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みに対する理解を深める。

【到達目標】
1．社会問題の解決過程について、事例の理解を通して知識を得る
2．社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みとしての社会制御システム論について理解する

【授業の進め方と方法】
本講義では、社会制御システムや公共圏の機能という視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要と導入	本講義の進め方、主題と導入
2	鉄道政策の事例分析	事例①：整備新幹線建設– 問題の概要
3	鉄道政策の事例分析	事例①つづき：並行在来線問題
4	鉄道政策の事例分析	事例②：旧国鉄長期債務問題
5	鉄道政策の事例分析	事例③：フランスの新幹線公害対策
6	エネルギー政策の事例分析	事例①：日本の電力システム
7	エネルギー政策の事例分析	事例②：原子力エネルギーと地域社会
8	エネルギー政策の事例分析	事例③：再生可能エネルギーと地域社会
9	エネルギー政策の事例分析	事例④：再生可能エネルギー導入の国際比較
10	エネルギー政策の事例分析	事例⑤：核燃サイクル問題
11	エネルギー政策の事例分析	事例⑥：高レベル放射性廃棄物問題
12	社会制御システム論と公共圏の機能	社会制御システム論について
13	社会制御システム論と公共圏の機能	枠組み条件と公共圏の機能
14	社会制御システム論と公共圏の機能	公共圏、民主主義と社会問題の解決
15	まとめ	主要論点のまとめと質問への回答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。

【テキスト（教科書）】
舩橋晴俊，2012,『社会学をいかに学ぶか』弘文堂
舩橋晴俊他編，2001,『政府の失敗の社会学』ハーベスト社

【参考書】
舩橋晴俊，2010,『組織の存立構造論と両義性論－社会学理論の重層的探究』東信堂
舩橋晴俊，2012,『核燃料サイクル施設の社会学ー青森県六ヶ所村』有斐閣
舩橋晴俊・壽福眞美編，2013,『公共圏と熟議民主主義ー現代社会の問題解決』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
読書ノート（25 %）、期末テスト (75%) による総合評価を行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
事例と関連づけることによる理論的説明は、理解を促進するので、その方法を基本とする。

【その他の重要事項】
この講義を単独で履修することも可能であるが、社会計画論Ⅰを受講していることが望ましい。

EB/C/D236

社会保障法Ⅰ

長沼　建一郎

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の制度的骨格を理解したうえで、その法政策上の論点について検討することが、この講義の基本的なねらいです。

【到達目標】
基本的な制度内容を理解し、重要な論点について考察できること。

【授業の進め方と方法】
この講義では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みを理解することに、大きなウェイトを置きます。その上で、これらに関してどのような法政策上・法解釈上の問題があり、どのような対応が行われているのかを踏まえて、今後のあり方を検討します。「社会保障法Ⅰ」では、総論と年金を扱います。（医療保険・介護保険・労働保険・社会福祉については、「社会保障法Ⅱ」で扱います。）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	保険の基本的な仕組み
2	総論①	ライフサイクルと社会保障
3	総論②	社会保障の体系
4	総論③	社会保障の目的・機能
5	総論④	社会保障の歴史・財政
6	総論⑤	社会保険の基本的な仕組み
7	年金①	公的年金の体系
8	年金②	保険料と年金額
9	年金③	国民年金の給付
10	年金④	厚生年金の給付
11	年金⑤	障害年金・遺族年金・「女性と年金」
12	年金⑥	年金財政と財源
13	年金⑦	私的年金（企業年金・個人年金）
14	総括	総括・補足等
15	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、授業内容の復習を強く期待します。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】
期末定期試験により評価します（100%）。
加えて、受講者数にもよりますが、授業への積極的な参画（重要な論点に関する意見交換）についても勘案したいと思います（プラスアルファ要素として）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキスト使用により、板書の労苦を減らすようにしました。

【その他の重要事項】
※　授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
※　それほど受講者数は多くないと思いますので、なるべく授業内における双方向性を志向したいと思います。

EB/C/D336

社会保障法Ⅱ

長沼　建一郎

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の制度的骨格を理解したうえで、その法政策上の論点について検討することが、この講義の基本的なねらいです。

【到達目標】
基本的な制度内容を理解し、重要な論点について考察できること。

【授業の進め方と方法】
この講義では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みを理解することに、大きなウェイトを置きます。その上で、これらに関してどのような法政策上・法解釈上の問題があり、どのような対応が行われているのかを踏まえて、今後のあり方を検討します。「社会保障法Ⅱ」では、医療保険・介護保険・労働保険・社会福祉を扱います。（総論と年金については、「社会保障法Ⅰ」で扱います。）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会保険の当事者関係
2	医療保険①	医療保険の構造
3	医療保険②	被保険者と保険料
4	医療保険③	保険診療
5	医療保険④	高齢者医療・医療費
6	医療保険⑤	医療提供体制
7	介護保険①	介護保険給付
8	介護保険②	介護提供体制
9	労働保険①	雇用保険
10	労働保険②	労災保険
11	社会福祉①	生活保護
12	社会福祉②	児童福祉・障害者福祉
13	社会福祉③	社会手当（児童手当・児童扶養手当等）
14	総括	総括・補足等
15	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、授業内容の復習を強く期待します。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】
期末定期試験により評価します（100%）。
加えて、受講者数にもよりますが、授業への積極的な参画（重要な論点に関する意見交換）についても勘案したいと思います（プラスアルファ要素として）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキスト使用により、板書の労苦を減らすようにしました。

【その他の重要事項】
※　授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
※　それほど受講者数は多くないと思うので、なるべく授業内における双方向性を志向したいと思います。

EB/C/D140

社会調査Ⅰ

堀川　三郎

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの日常は直接経験できない事柄の報道に満ちている。ということは，何が正しい情報で，どれが誤ったものなのかを常に判断することなしには生きてゆけないことを意味している。つまり，モノを書く「書き手」にとってだけでなく，彼女ら／彼らによって書かれたものを読む「読み手」にとっても，調査によってもたらされる情報を選択し批判的に解読する眼力が不可欠なのだ，ということである。社会調査について学ぶ意義は，まずもってこの点にある。本講義では，1 年間を通して，調査をもとに語られる「事実」や「報告」をどう読み解いたら良いのかを軸に，社会調査について考察する。具体的な作品の解読と，講師自身が行ってきた現地調査の体験を素材に進めていく予定である。必ず堀川の担当する「社会調査 II」とセットで履修すること。

【到達目標】
社会調査が登場する歴史的背景を理解し，実際に行われた社会調査の実例を学ぶことで，社会（科）学的な思考を身に付ける。また具体的に社会調査を実施する手順のイメージを持つことができるようにする。

【授業の進め方と方法】
毎回，プリントを配付し，それをもとに講義をすすめる。必要に応じてドキュメンタリー映画などの映像資料も上映する。またコメントペーパーを配布するので感想や質問を書いて欲しい。初回のイントロダクションに必ず出席すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	＜フィールド＞へ（1）	社会調査の意義と用途，調査と調査論，調査の目的と種類（統計的調査，事例調査など）
2.	＜フィールド＞へ（2）	統計調査と事例調査，データ収集と分析
3.	社会調査の考古学――社会調査の史的展開（1）	社会学と社会調査史
4.	社会調査の考古学――社会調査の史的展開（2）	無作為抽出法への展開，国勢調査と官庁統計などの展開
5.	社会調査の考古学――社会調査の史的展開（3）	踏査とフィールドワーク
6.	社会調査の基礎（1）	量的調査と質的調査，統計的調査と事例研究法
7.	社会調査の基礎（2）	調査倫理とプライヴァシー，守秘義務と誠実さ，学会での倫理綱領，千葉大学実習事件の教訓
8.	社会調査の基礎（3）――「客観性神話」と「構成された事実」（1）	ウェーバーと理解社会学
9.	社会調査の基礎（4）――「客観性神話」と「構成された事実」（2）	「純然たる事実」と「解釈された事実」
10.	社会調査の基礎（5）――「客観性神話」と「構成された事実」（3）	実証主義と解釈主義
11.	社会調査の基礎（6）――「客観性神話」と「構成された事実」（4）	解釈の公準
12.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（1）	W.F. Whyte ([1943] 2000)『ストリート・コーナー・ソサエティ』（1）：その理論的主張と時代背景
13.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（2）	W.F. Whyte ([1943] 2000)『ストリート・コーナー・ソサエティ』（2）：方法論からのレヴュー
14.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（3）	吉川徹（2001）『学歴社会のローカル・トラック――地方からの大学進学』（1）：変化をどう跡付けるか
15.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（4）	吉川徹（2001）『学歴社会のローカル・トラック――地方からの大学進学』（2）：量的方法の可能性を中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料で文献リストを提示するので，そのなかから関心があるものに挑戦して欲しい

【テキスト（教科書）】
盛山和夫『社会調査法入門』（有斐閣ブックス，2004 年），佐藤郁哉『社会調査の考え方［上］』（東京大学出版会，2015 年）

【参考書】
文献リストをプリントで配布する。また授業中にも随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
論述式の試験によって評価する（100%）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
入手困難な文献は，授業支援システムを使って配布できるよう工夫する。

EB/C/D140

社会調査Ⅱ

堀川　三郎

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの日常は直接経験できない事柄の報道に満ちている。ということは，何が正しい情報で，どれが誤ったものなのかを常に判断することなしには生きてゆけないことを意味している。つまり，モノを書く「書き手」にとってだけでなく，彼女ら／彼らによって書かれたものを読む「読み手」にとっても，調査によってもたらされる情報を選択し批判的に解読する眼力が不可欠なのだ，ということである。社会調査について学ぶ意義は，まずもってこの点にある。本講義では，1 年間を通して，調査をもとに語られる「事実」や「報告」をどう読み解いたら良いのかを軸に，社会調査について考察する。具体的な作品の解読と，講師自身が行ってきた現地調査の体験を素材に進めていく予定である。必ず堀川の担当する「社会調査 I」とセットで履修すること。

【到達目標】
社会調査が登場する歴史的背景を理解し，調査の実例を学ぶことで，社会（科）学的な思考を身に付ける。また具体的な手順のイメージを持つことができるようにする。

【授業の進め方と方法】
毎回，プリントを配付し，それをもとに講義をすすめる。必要に応じてドキュメンタリー映画などの映像資料も上映する。初回のイントロダクションに必ず出席すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	社会調査の基礎――その方法と設計（1）	量的調査の基礎と設計
2.	社会調査の基礎――その方法と設計（2）	全数調査と標本調査，サンプリングと誤差，無作為抽出と「でたらめ」
3.	社会調査の基礎――その方法と設計（3）	仮説の構成，調査票・質問文の設計
4.	社会調査の基礎――その方法と設計（4）	質的調査の基礎とインタビューの仕方
5.	社会調査の基礎――その方法と設計（5）	調査票の配付・回収と実施上の注意点
6.	社会調査の基礎――その方法と設計（6）	調査データの整理，データクリーニング，コーディング
7.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（1）	P. Willis ([1977] 1985)『ハマータウンの野郎ども――学校への反抗・労働への順応』（1）：仮説と概念を中心に
8.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（2）	P. Willis ([1977] 1985)『ハマータウンの野郎ども――学校への反抗・労働への順応』（2）：方法論的にとらえかえす
9.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（3）	佐藤郁哉（1984）『暴走族のエスノグラフィー――モードの叛乱と文化の呪縛』（1）：シカゴ学派の遺産と量／質論争
10.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（4）	佐藤郁哉（1984）『暴走族のエスノグラフィー――モードの叛乱と文化の呪縛』（2）：方法論的「背骨」を抽出する
11.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（5）	佐久間充（1984）『ああダンプ街道』（1）：社会問題と学術的調査の実施
12.	作品の社会調査論的解読――調査の種類と実例（6）	佐久間充（1984）『ああダンプ街道』（2）：医療調査方法論との比較においてとらえる
13.	調査結果をどう作品化するか――仮説の構成から論文発表まで	フィールドノーツ，データの解釈，作品化過程での検証項目，など
14.	社会調査の実施とその後	調査倫理と調査実施の困難性，データのデーターベース化，公開と再利用，被調査者との関係
15.	そして再び，＜フィールド＞へ――調査・認識論・身体性	解釈と認識論的自己検証，フィールドに立つということの身体性，結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献リストを提示するので，関心があるものに挑戦して欲しい。

【テキスト（教科書）】
盛山和夫『社会調査法入門』（有斐閣ブックス，2004 年），佐藤郁哉『社会調査の考え方［下］』（東京大学出版会，2015 年）

【参考書】
文献リストをプリントで配布する。また授業中にも随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
論述式の試験によって評価する（100%）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
入手困難な文献については，授業支援システムで対応する予定。

EB/C/D240

アメリカのジャーナリズム

荒木　暢也

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第二次大戦後、日本の報道メディア界に多大な影響を与えてきた、アメリカのジャーナリズムを概観していきます。米国ジャーナリズム歴史的経緯と現状、そして種々の問題点を指摘し、常に日本の報道メディアの現状や問題点との関連性を念頭に講義を進めていきます。

【到達目標】
日本のジャーナリズムに多大な影響を与えてきた米国ジャーナリズムの歴史と現状を把握すること。

【授業の進め方と方法】
講義形式による。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アメリカのジャーナリズムとは？	講義概要説明、成績評価方法説明
2	米国のジャーナリズムとは	米国のジャーナリズムとは
3	パーソナル・ジャーナリズムの時代 (1)	パーソナル・ジャーナリズムの時代 (1)
4	パーソナル・ジャーナリズムの時代 (2)	パーソナル・ジャーナリズムの時代 (2)
5	大衆紙の時代 (1)	大衆紙の時代 (1)
6	大衆紙の時代 (2)	大衆紙の時代 (2)
7	調査ジャーナリズムの時代 (1)	調査ジャーナリズムの時代 (1)
8	調査ジャーナリズムの時代 (2)	調査ジャーナリズムの時代 (2)
9	調査ジャーナリズムの時代 (3)	調査ジャーナリズムの時代 (3)
10	市場ジャーナリズムの台頭と隆盛 (1)	・テレビの台頭と情報娯楽 ・メディア産業の巨大化
11	市場ジャーナリズムの台頭と隆盛 (2)	・大統領選挙と市場ジャーナリズム
12	市場ジャーナリズムの台頭と隆盛 (3)	ネットジャーナリズムと市場ジャーナリズム
13	日米ジャーナリズム論 (1)	・WWII 敗戦と日本のジャーナリズム
14	日米ジャーナリズム論 (2)	・国際報道と日本のマス・メディア ・公共放送と商業放送
15	ジャーナリズムの今後	・ネット社会とジャーナリズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で提示される米国ジャーナリズムの特徴が、現在の日本のメディア報道、ジャーナリズムにいかに影響を与えているのか、日々の新聞、テレビ報道、ネット報道等を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】
毎回プリント配布

【参考書】
『メディア・コミュニケーション－その構造と機能』、法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
筆記試験 (100 満点）結果による。
100～90（10%以内）：　A+
89～80：　A
79～70：　B
69～60：　C
59 以下：　不合格

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生諸君の理解度に的確にあわせる授業を心がけます。
「真摯」な学生を高評価します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があり得ます。

EB/C/D216

特講（エネルギー自治実践論）

白井　信雄、壽福　眞美

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法政大学多摩キャンパス等への再生エネルギー・省エネルギー導入の計画づくりを通して、「エネルギー自治」について、基礎的なスキルの獲得と政策として実現するマインドを養う。

【到達目標】
多摩キャンパスのエネルギー自治の計画書を作成し、成果を広く学内に提案し、次の段階の実践型教育につなげていく。

【授業の進め方と方法】
多摩キャンパスのエネルギー消費等の実態を学び、課題解決の方法を検討し、10 年後の「エネルギー自治キャンパス」の構想と重点的な行動計画を具体化する。受講生（20～30 人）で単一の計画書を作成するが、グループ毎（5 名程度）の調査・集団討論を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の狙いや進め方等の説明と受講者の自己紹介。
2	基礎講義①：エネルギー自治の背景や取組の意義	エネルギー問題や地球温暖化問題、地域の停滞の問題等の背景を学ぶ。
3	基礎講義②：多摩キャンパスでのエネルギーの取組	多摩キャンパスにおける電力・ガス・移動燃料等の消費状態と取組の実態と課題を学ぶ。
4	基礎講義③：適正技術の利用／主体の学習と参加／ソーシャルデザイン	再生エネルギーの特性や長所・短所、省エネルギー技術を学ぶ。
5	事例講義①：長野県飯田市等の地域の先進事例	地域における実践の先行事例を学ぶ。
6	事例講義②：他の大学キャンパスの環境への取組等	他の大学における取組事例等を学ぶ。
7	ワークショップ①：多摩キャンパスのエネルギー自治の取組方向の整理	自由にアイディアを出し合い、アイディアの分類と整理。
8	ワークショップ②：多摩キャンパスでの再生可能エネルギーのデザイン	太陽光発電や風力発電、木質バイオマス利用等。
9	ワークショップ③：多摩キャンパスでの省エネルギーのデザイン	省エネルギー証明や空調等の建築設備、利用上の工夫、見える化等。
10	ワークショップ④：多摩キャンパスでのエコ・モビリティのデザイン	燃料電池やバイオディーゼル等のバスや電気自動車等の導入の検討。
11	ワークショップ⑤：エネルギー自治計画のプレゼン資料の骨子の検討	検討結果の整理、計画書の構成と分担、骨子の考察。
12	ワークショップ⑥：エネルギー自治計画の作成（イラスト化を含む）	計画書案、イラスト案等を持ち寄り、意見交換、修正や加筆等。
13	ワークショップ⑥：エネルギー自治の計画のプレゼン資料のとりまとめ	計画書最終案とプレゼン資料についての話し合い。
14	学内での計画報告会の開催	教職員、学生を集め、計画書のプレゼンと意見交換。
15	学内での計画報告会の反省と今後の課題のとりまとめ	計画報告会をふまえて、今後の検討課題を話しあい、とりまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ワークショップのテーマに対する事前の資料収集とアイディア等の検討等

【テキスト（教科書）】
「ゼロから始める　暮らしに生かす再生可能エネルギー入門」田中充・白井信雄・馬場健司編著、家の光協会、2014 年
「図解　スマートシティ・環境未来都市　早わかり」白井信雄、中経出版、2012 年

【参考書】
講義の進展に即して、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
計画策定への取り組み姿勢（50 %）、最終個人レポートの内容（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規開講につき特になし

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合は、審査により受講者を限定する場合がある

【担当教員の専門分野】
壽福眞美：環境倫理、社会哲学、白井信雄：地域の環境・エネルギー政策、持続可能な地域づくり論

EB/C/D240

環境社会学Ⅰ

池田　寛二

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義のテーマは、今実際に日本と世界各地で起こっている多種多様な環境問題を取り上げ、それらが現代社会のどのような構造特性によって引き起こされているのかを、環境社会学の理論と実践を通して考察することです。

【到達目標】
到達目標１）自分自身の日常生活に目を凝らし、そこにどんな環境問題が存在するかに気付くこと。
到達目標２）そのような環境問題が社会の中でどのような因果関係によって引き起こされているかを調べ考える能力を習得すること。

【授業の進め方と方法】
日本と世界各地で過去およそ半世紀の間に起こった環境問題の実例を極力多数取り上げ、それらが現代社会のどのような特質と関連しているかを講義する。毎回、リアクション・ペーパーによる質問やコメントを求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	環境社会学とはどのような社会学なのか
2	現代社会の環境問題（1）	実態への問い：日本の環境問題
3	現代社会の環境問題（2）	実態への問い：世界各地の環境問題
4	社会変動と環境問題の歴史（1）	変化への問い：なぜ現代社会において集中的に環境問題が深刻化したのか？：人口問題と環境問題
5	社会変動と環境問題の歴史（2）	産業化、都市化、グローバル化、市場の普遍化、個人化と環境問題
6	地球規模の不公正としての環境問題	比較への問い：環境問題は国や地域によって著しく異なる様相を呈している。その差異と地球規模に拡大した格差・不公正との関係
7	社会学理論と環境問題	理論への問い：既存の社会学理論では環境問題をどのようにとらえられるか？
8	環境社会学の理論と実践（1）	環境問題を生み出す社会構造（被害-加害構造論）
9	環境社会学の理論と実践（2）	環境問題をめぐる個人と社会（社会的ジレンマ論）
10	環境社会学の理論と実践（3）	環境問題をめぐる権力と所有（権利関係論）
11	環境社会学の理論と実践（4）	環境をめぐる日常的生活経験の意味（生活環境論）
12	環境社会学の理論と実践（5）	環境問題と社会運動（環境運動論）
13	環境社会学の理論と実践（6）	リスクとしての環境問題（リスク社会論）
14	環境社会学と環境政策学	環境社会学は環境政策にどのような貢献ができるか？
15	結論	持続可能な社会のために環境社会学は何ができるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて随時指示します。

【テキスト（教科書）】
初回にリストを配布します。

【参考書】
初回にリストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
到達目標１）に関するレポートで 40 %、平常のリアクションペーパーで 10 %、到達目標２）に関する期末試験で 50 %とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
２年間開講しなかったため、特筆事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】
ＰＰＴやビデオ映像などを随時使用します。

EB/C/D340

環境社会学Ⅱ

池田　寛二

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、現代社会において環境問題への政策的対応がどのように行われていて、そこにいかなる効果や問題や克服すべき限界があるのかをテーマに、主に環境社会学の視点から考察します。

【到達目標】
実際に施行されている環境・エネルギー政策の事例を取り上げ、講義内容を踏まえて、その政策の有効性や問題点を、受講生各自が自分で調べ考察し、それを事例研究の成果としてまとめることが最終的な到達目標です。

【授業の進め方と方法】
講義を聴くだけでなく、講義内容を踏まえて、受講生各自が関心のある環境政策を事例として取り上げ、その実施状況や問題点の調査と考察による事例研究の実践を試みてもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	環境政策とは何か
2	環境政策の５類型	直接規制的政策、枠組規制的政策、経済的政策、自主的取組みによる政策、情報的手法による政策
3	日本の環境・エネルギー政策の歴史と現状（1）	公害対策から循環型社会へ
4	日本の環境・エネルギー政策の歴史と現状（2）	エネルギー政策の「失敗」としての原発政策
5	欧米先進諸国における環境・エネルギー政策の歴史と現状（1）	ＥＵ諸国の環境税制、ドイツの環境政策などを事例として
6	欧米先進諸国における環境・エネルギー政策の歴史と現状（2）	原発政策と再生可能エネルギー政策
7	開発途上諸国における環境政策の歴史と現状	インドネシアの熱帯林消失問題と廃棄物問題を事例として
8	新興発展諸国における環境政策の歴史と現状	中国の大気汚染対策、廃棄物対策、生態移民政策を事例として
9	地球環境政策の歴史と現状（1）	地球環境政策：気候変動政策、特に京都議定書における排出権取引制度とCDM を事例として
10	地球環境政策の歴史と現状（2）	2013 年以降（ポスト京都）の気候変動政策と各国国内の環境政策のゆくえ
11	地方自治体の環境政策（1）	東京都、八王子市、町田市、相模原市、葛巻町（岩手県）、一宮町（兵庫県）、水俣市（熊本県）、屋久島（鹿児島県）等を事例として
12	地方自治体の環境政策（2）	欧米先進国の地方自治体、地方政府による環境政策（ドイツを中心に）、自治体環境政策のグローバル・ネットワーキング（ICLEI）
13	企業と環境政策	環境ビジネス、社会的責任投資（SRI）
14	消費社会と環境政策	グリーン・コンシューマリズム、遺伝子組換え食品の安全性問題をめぐる消費者運動
15	結論：環境政策のために私たちができることは何か	環境・エネルギー・ガバナンスの新局面と私たちに求められる発想転換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事例研究の実践。

【テキスト（教科書）】
多数あり。初回にリスト提示。

【参考書】
多数あり。随時指示。

【成績評価の方法と基準】
平常のリアクションペーパー（10 %）と、到達目標に関する事例研究の成果をまとめたレポート (50%) および期末試験（40 %）によって総合的に評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2 年間開講しなかったため、特筆事項なし。

【学生が準備すべき機器他】
ＰＰＴやビデオ映像資料など。

EB/C/D238

農業・食料論

天笠　啓祐

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、日本における食と農はけっしてよい状況にあるとは言えない。輸入食品が増え、残留農薬や食品添加物、遺伝子組み換え食品などが安全を脅かしているからである。その背景を見ていく。

【到達目標】
TPP 大筋合意など国際化が進む中で、食と農を取り巻く環境や社会構造を理解し、今後、どのような社会が必要なのかを共に考え、その上で「オルタナティブな世界」を想像できる力を獲得することが目標である。

【授業の進め方と方法】
貿易自由化に加えて、種子や知的所有権など、食と農を取り巻く環境は大きく変化している。遺伝子組み換え食品などの具体例を通して、多面的に食と農の現状に迫る。毎回テーマを設定して、レジュメを中心に、時には映像を用いて講義を進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体像	講義全体の紹介
第 2 回	TPP 大筋合意の意味	TPP が発効すると何が起きるかを見ていく
第 3 回	食と農の世界でいま何が起きているか？	いま日本で食と農がどうなっているかを概観する
第 4 回	米国の食糧戦略	米国政府による食糧戦略の実態を見る
第 5 回	モンサント社の世界食糧戦略	世界最大の種子企業の戦略を見る
第 6 回	遺伝子組み換え作物とその問題点	遺伝子組み換え作物の世界を見る
第 7 回	遺伝子組み換え動物とその問題点	遺伝子組み換え動物の世界を見る
第 8 回	福島以降の日本の食と農	原発事故が食と農に及ぼした影響を見る
第 9 回	加工食品と食品添加物	増え続ける食品添加物の現状を見ていく
第 10 回	酪農・畜産で何が起きているか	多国籍畜産企業の戦略と日本の酪農・畜産の現状を見る
第 11 回	知的所有権と種子	特許が種子支配、食糧支配をもたらしている状況を見る
第 12 回	提携・産直・地産地消	日本の生産者と消費者が築いてきた取組みを見ていく
第 13 回	有機農業運動	日本における有機農業運動の現状と取り組みを見ていく
第 14 回	食と農のあるべき姿	輸入食品に依存しない食と農の在り方を探る
第 15 回	全体のまとめ	講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時事問題に日常的にふれていることを前提に進めるので、日頃から社会問題に関心を持ち、自ら考える力を養って欲しい。

【テキスト（教科書）】
とくに用いない。毎回レジュメを作る。

【参考書】
天笠啓祐著「この国のミライ図を描こう」(現代書館刊)
天笠啓祐著「TPP の何が問題か」(緑風出版刊)
天笠啓祐著「遺伝子組み換え食品入門」(緑風出版刊)

【成績評価の方法と基準】
講義中に数回レポートを出してもらう (40 %)。それに期末に出してもらうレポートを加えて評価する (60 %)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
大教室なので静かにしてほしい。また、講義途中の出入りは控えてほしい。楽しい授業にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
2 回ほど関連する映画を上映する。その際は、必ず感想文を提出してもらう。

EB/C/D236

環境法

井上　秀典

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境と法

【到達目標】
環境に関する国内外の基本的な法制度の理解を目指すとともに、問題点を理解する。国内環境法と国際環境法の密接な関係を理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
最近、有害化学物質,、土壌汚染、廃棄物・リサイクル、環境影響評価、地球温暖化などの問題が話題となっている。講義では、このような環境問題に対する法が現在どのような状況にあるのか、さらに、法が問題解決のためにどのような役割を果たしているのかを考えていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講ガイダンス	受講にあたってのガイダンスを行う。
第 2 回	環境法の歴史	足尾鉱毒事件からから現在に至るまでの環境法の歴史を概説する。
第 3 回	環境基本法と環境基本計画	環境基本法とそれに基づく環境基本計画の成立経緯および内容を説明し、問題点を指摘する。
第 4 回	大気汚染・水質汚濁	大気汚染および水質汚濁に関する国内法制度を検討する。
第 5 回	廃棄物問題と法	廃棄物問題に対し、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法、各種リサイクル法について解説する。
第 6 回	有害廃棄物の越境移動	有害廃棄物の越境移動問題をめぐる国内法・国際法上の枠組みについて解説する。
第 7 回	環境影響評価	環境影響評価制度について説明し、その役割および問題点を探る。
第 8 回	土壌汚染・化学物質	土壌汚染対策法を中心に近年の土壌汚染問題を検討する。また、化学物質関連法にも触れる。
第 9 回	被害者救済制度、環境紛争の調停	被害者救済制度ならびに環境紛争の調停という面にスポットを当てて解説する。
第 10 回	環境訴訟と法（1）	環境分野の民事訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解決する。
第 11 回	環境訴訟と法（2）	環境分野の行政訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解説する。
第 12 回	地球規模の環境問題と法（総論）	地球規模の環境問題に対する国際法上の枠組みおよび特徴を検討する。
第 13 回	気候変動	地球温暖化防止に関して条約および国内法について検討する。
第 14 回	海洋汚染	海洋汚染防止のための国内・国際法上の枠組みについて解説する。
第 15 回	生物多様性	生物多様性保護のための国内法・国際法上の枠組みににについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事やインターネットを通じて環境法に関連する事項の学習をすること。
環境法関連書籍を図書館等で学習すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しないかわりに資料を配付する。

【参考書】
大塚直『環境法 Basic』有斐閣、北村喜宣『環境法』弘文堂、『環境白書』（環境省）、『環境法辞典』（有斐閣）、『環境法判例百選』（有斐閣）、『ベーシック環境六法』（ぎょうせい）、『地球環境条約集（第 4 版）』（中央法規出版）

【成績評価の方法と基準】
試験（80 %）および平常点 (20 %) によって成績を評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書について改善工夫をする。

JB258-706

都市住宅政策論

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較や市民活動を通じて学ぶ。

【到達目標】
都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。
最後に、21 世紀において我が国がとるべき住宅政策のあり方を考察する。

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	遊休醤油蔵のコンバージョン
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	京町家の実態と課題
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家再生の方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策
第 12 回	海外の住宅政策②	英国の住宅政策
第 13 回	海外の住宅政策③	ドイツ・スウェーデンの住宅政策と開発事例
第 14 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第 15 回	レポート作成	事前提示した課題のレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
「欧米の住宅政策―イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70 %　　②レポート　30 %　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2015 年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に授業支援システムに掲載する。

地域文化政策論

[2013]

馬場　憲一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域文化政策の実態とあり方を学ぶ」です。

【到達目標】
「文化活動」が人間にとって根源的な欲求であり、すべての人の福祉 (well-being) を実現する文化活動に対して行政がどのように関わり取り組んでいるのかを理解することです。

【授業の進め方と方法】
文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、さらに文化に関わる法律・条例・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを考察します。つぎに近年における国・地方自治体などの文化政策の動向を検証し、最後に伝統文化を活かした地域文化財政策の取組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学んでいくことにします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第 2 回	文化政策実現のシステム	文化政策実現するためのシステム
第 3 回	自治体の基本構想策定	基本構想・基本計画策定の事例
第 4 回	文化振興プランと自治体	文化振興プランと自治体の取組み
第 5 回	人間の営為と人権保障	人間の営為と基本的人権保障の規定
第 6 回	文化関係法の概要	文化関係法の体系と内容
第 7 回	博物館と地域遺産	博物館の機能と地域遺産保護
第 8 回	エコミージアムと遺産	エコミージアムの機能と地域遺産保護
第 9 回	文化財と保護の歩み	文化財の定義と保護の歩み
第 10 回	文化財の指定と保護施策	文化財の指定システムと保護制度
第 11 回	文化財の保存と活用 (1)	有形文化財の保存と活用の実態
第 12 回	文化財の保存と活用 (2)	無形文化財の保存と活用の実態
第 13 回	近年の文化財政策の動向	近年の文化財概念の変遷と政策動向
第 14 回	新たな文化財政策の展開	新たな文化財政策への取組みと展開
第 15 回	歴史文化の薫る地域づくり	歴史と文化の薫る地域社会の創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業はテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行う。また授業で講義する地域以外で実施されている文化政策を幅広く理解するため課題レポートに取り組んでもらう。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一著『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】
馬場憲一著『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣　3000 円）を挙げておきますが、その他については、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ⅰ) 成績評価方法　平常点 (40%)、課題レポート (20%)、期末試験 (40%) によって評価します。
ⅱ) 評価基準
【平常点】学習への意欲、授業中の質疑応答、リアクションペーパーの内容によって評価します。
【課題レポート】課題に適切に答え、積極的に取り組んだレポートであるか否かを評価対象とします。特に作成に当たって創意・工夫と努力の跡が窺えるものについては高く評価します。
【期末試験】設題について、適切に答えているか否かを評価対象とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2015 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に活かしていきたい。

【その他の重要事項】
本講義は、地域社会に「well-being(=健康で幸福なくらし)」を実現するための政策づくりの一環として学んで欲しいと思います。なお、専門展開科目の「文化環境創造論」は本講義の「応用編」的な内容も含んでいますのでセットで受講することをお勧めします。
特に公務員を目指す皆さんには必ず受講して欲しい思います。

JB220-765

地域遺産マネジメント論

須田　英一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福なくらし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】
さまざま地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【授業の進め方と方法】
地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、地域遺産マネジメント
第 2 回	地域遺産の生成と現状	①地域の歴史と地域遺産の生成
第 3 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 4 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 5 回	地域遺産の生成と現状	②文化財の保存・管理と活用
第 6 回	地域遺産保護と専門家	①学芸員などの仕事と役割
第 7 回	地域遺産保護と専門家	②文化財修理技術者の仕事
第 8 回	地域遺産とボランティア活動	文化遺産ボランティア、ボランティア活動の課題
第 9 回	さまざまな地域遺産	全国の地域遺産の紹介
第 10 回	地域遺産の再生と活用	①建造物の修復と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用	②名勝・天然記念物、町並み、食文化 (1)
第 12 回	地域遺産の再生と活用	②名勝・天然記念物、町並み、食文化 (2)
第 13 回	地域遺産の再生と活用	③史跡の修景と活用
第 14 回	地域遺産の再生と活用	④民俗文化財の伝承と活用
第 15 回	地域遺産を活かした地域づくり	地域遺産と地域づくり　まとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】
馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①出席確認：毎回出欠をとります。
②リアクションペーパー:毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
③試験方法： 2 種類の課題レポート
④評価方法：平常点 (出欠とリアクションペーパー)、課題レポートにもとづき総合的に判断して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

教育学

[2013]

藤本　典裕

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。
受講生は、教育という営みの本質的性格、現代の学校教育が果たしている役割とその問題点などについて理解し、改革の方向性についての考え方を獲得してほしい。

【到達目標】
下記の諸点を本講の到達目標に設定する。
1．教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2．人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
3．近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
4．現代社会における教育の問題点を指摘し、それについての見解を整理して発表できる。

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。
中間試験および学期末試験を実施するが、学期中に小レポートの提出も求めることもある。
下記に授業計画を示すが若干の変更を行うこともありえます。変更の場合はその都度指示するので注意して下さい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第２回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第３回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第４回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第５回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第６回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第７回	講義前半のまとめと中間試験	講義前半のまとめを行うとともに中間試験を実施する。
第８回	学校の誕生と発展	寺子屋と学校を比較検討しながら、学校の持つ基本的性格を確認する。
第９回	戦前・戦中の教育と教師（１）	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第 10 回	戦前・戦中の教育と教師（２）	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第 11 回	戦後教育改革と教育理念	戦後（現行）教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第 12 回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第 13 回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第 14 回	教育費負担と教育機会－子どもの成長・発達への影響－	教育費負担のあり方と実態、それがもたらす教育機会の不平等、子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響ついて検討する。
第 15 回	講義のまとめと学期末試験	本講のまとめを行うとともに学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の終わりに次回の内容を予告するので、その内容に従って準備すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】
堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989 年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997 年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990 年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994 年
橘木俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010 年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009 年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間試験（30 %）、学期末試験（50 %）、小レポート（20 %）を総合的に評価する（配点は目安）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度はおおむね好意的な評価を得ることができたが、私語を注意するなど、静穏な授業環境を保持することが難しかった。この点については、受講生の協力を得ながら改善したい。

JC140-172

老年学

新名　正弥

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
老年学は、すべての生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】
老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標にします。

【授業の進め方と方法】
主に講義を中心に進める。各回の内容についてリアクションペーパーを提出を通じて、理解を深めてもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第 2 回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第 3 回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第 4 回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第 5 回	老化と健康	予防活動
第 6 回	心と精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ
第 7 回	心理的適応	生涯発達理論と老年的超越について
第 8 回	老化の社会学理論	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論について
第 9 回	現代社会における高齢者像	老いに対する態度、エイジズム
第 10 回	高齢期の社会関係	人間関係と家族、社会関係
第 11 回	高齢期の就労と社会参加	雇用、ボランティア、政治参加
第 12 回	高齢者を取り巻く環境	住宅、交通、商業施設、コミュニティ
第 13 回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第 14 回	経済格差	高齢期における経済格差と政策対応
第 15 回	健康、介護、終末期	疾病、介護、終末期と対する保健・医療・福祉政策による対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
東京大学高齢社会総合研究機構編『東大がつくった、確かな未来視点を持つための高齢社会の教科書』

【参考書】
特に参考書は指定しないが、適宜講義で補足資料を配付する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーによる各回の振り返り（20 %）、中間レポート（20 %）、期末試験（60 %）によって総合的に判定する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】
老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

JB239-750

地域経営論

塙　武郎

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、市民生活に最も近い存在である市町村（基礎自治体）はもとより、地区、地域コミュニティ、NPO、市民団体等の地域主体に注目し、それらが果たす社会的・経済的・文化的な機能や価値について海外の事例を踏まえながら理解・再評価する。市場経済では売買できない人間社会の豊かさを生みだす「地域」という存在をどのようにハンドリングし、経済活動を活性化し、まちづくりを進めるべきかという問題意識にたって、それを実現せしめる地域ガバナンスや人材のあり方を、アメリカなど海外での事例も参考にしながら学習を深める。

【到達目標】
講義のなかで扱う国内外の事例を踏まえながら、つねに自分の出身地等と重ね合わせるなどしながら主体的・具体的に考える姿勢を構築する。さらに、ローカルとグローバルの複眼をもって地域経営や地域ガバナンスのあり方を論述できる。

【授業の進め方と方法】
講義の基礎部分はパワーポイントを使って進め、そのたうえで具体的な事例の考察（ケーススタディ）を、映画やニュース等のメディア教材を適宜使用しながら進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義ガイダンス、「地域経営」の視点と必要性、そして世界の潮流
第 2 回	「地域経営」の意義と枠組①	「地方自治」「地方分権」の流れ、基礎自治体主導のまちづくり事業とその限界、都市計画事業と私有制
第 3 回	「地域経営」の意義と枠組②	過疎高齢化・限界集落化と経済成長の副作用、農山村集落の再評価
第 4 回	地域経営とまちづくり事例①	北海道池田町（ワイン事業）、ニセコ町・倶知安町（グローバルな不動産投資と通年リゾート開発）の事例
第 5 回	地域経営とまちづくり事例②	青森県青森市（コンパクトシティ）、黒石市（温泉事業）の事例
第 6 回	地域経営とまちづくり事例③	福島県柳津町（旅館主導による地域活性化）の事例
第 7 回	地域経営とまちづくり事例④	富山市（路面電車、コンパクトシティ）の事例
第 8 回	地域経営とまちづくり事例⑤	長野県佐久市（移住・空き家対策事業）の事例
第 9 回	地域経営とまちづくり事例⑥	山梨県・神奈川県（環境税と市民主体による流域ガバナンス）の事例
第 10 回	世界の地域経営①	欧米社会における地方自治、政府と市民参加、公共政策にみる大学の役割
第 11 回	世界の地域経営②	米シアトル、ポートランド（路面電車）の事例、都市財政ファイナンスにみる市民参加と緊張感
第 12 回	世界の地域経営③	米ニューヨークの都市再開発と「ハイライン」
第 13 回	世界の地域経営④	米ソノマ郡の「成長管理政策」、コロラド川の広域行政管理
第 14 回	市場経済の限界と「社会的共通資本」への理解	経済学者ソースティン・ベブレンに学ぶ「社会共通資本」、地域コミュニティに根付く真の豊かさを問う
第 15 回	講義の総括	講義内容の総括、コメントペーパー等への回答・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々のニュースや新聞はもとより、人口減少、過疎高齢化、限界集落、地域開発、都市再開発などをテーマにした書籍を通読することを薦める。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
講義で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー等の平常点（4 割）、期末試験（6 割）で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当により、なし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
講義終了後、またはメールで質問を受けます。
メール： t-hanawa@qc5.so-net.ne.jp

JB228-766

地域ツーリズム

南　賢二

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、人にとってツーリズムとは何か、地域にとってツーリズムとはどのような役割を担うものかという点の理解に重点を置きつつ、ツーリズムの特性と構造、その役割、さらに地域とツーリズムの関わりの現状や課題、地域ツーリズムの実現化方策までを体系的に理解することをその目的とする。

【到達目標】
第 1 ステップでは、ツーリズムの仕組みと役割を理解するとともに、その受け皿となる地域の現状について学ぶ。第 2 ステップでは、地域ツーリズムの目的や考え方について理解を進める。第 3 ステップにおいては、地域ツーリズムの展開手法について学ぶ。

【授業の進め方と方法】
ツーリズムにかかわる基礎的な情報は多様かつ大量であるため、原則として資料を配布しその内容についての解説を行う。地域やツーリズムの実態、地域ツーリズムの展開手法等については、適宜映像も活用して理解を促す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業のねらい。 ﾂｰﾘｽﾞﾑの歴史的変遷
第２回	ﾂｰﾘｽﾞﾑの役割と構造	ﾂｰﾘｽﾞﾑの役割と構造
第３回	ﾂｰﾘｽﾞﾑの行動ﾊﾟﾀｰﾝ	ﾂｰﾘｽﾞﾑの市場構造やﾀｲﾌﾟ分類
第４回	ﾂｰﾘｽﾞﾑの資源特性	各種資源の種類や特性
第５回	地域の現状	地域の現状と課題
第６回	地域ﾂｰﾘｽﾞﾑの市場特性	ﾂｰﾘｽﾞﾑﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの考え方
第７回	ｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑ	ｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑの展開手法
第８回	ｴｺﾂｰﾘｽﾞﾑ	ｴｺﾂｰﾘｽﾞﾑの展開手法
第９回	産業とﾂｰﾘｽﾞﾑ	産業観光等の展開手法
第 10 回	まちづくりとﾂｰﾘｽﾞﾑ	都市観光、まちなか観光等の展開手法
第 11 回	ﾘｿﾞｰﾄの展開（１）	島嶼や海浜地域における地域ﾂｰﾘｽﾞﾑの展開手法
第 12 回	ﾘｿﾞｰﾄの展開（２）	高原山岳地域における地域ﾂｰﾘｽﾞﾑの展開手法
第 13 回	ﾘｿﾞｰﾄの展開（３）	温泉地における地域ﾂｰﾘｽﾞﾑの展開手法
第 14 回	地域ﾂｰﾘｽﾞﾑの取り組み (1)	地域ﾂｰﾘｽﾞﾑ計画の策定手法 (1)
第 15 回	地域ツーリズムの取り組み (2)	地域ﾂｰﾘｽﾞﾑ計画の策定手法 (2) 講義の総括と試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的に新聞や雑誌、テレビ、インターネット等を通じて触れることのできる、旅行情報やツーリズムを活用した地域振興の動きについて、訪れる側と迎え入れる側が相互に何を期待しているのか、さらにその受け入れ体制や想定される訪問者の行動パターン等について分析を行い、効果的な地域ツーリズムの展開手法について考える。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
講義中の小テストを 2 回程度実施する予定（４０％）
期末テストを行う予定（６０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
二十歳前後の学生年代では、まだ旅行経験が豊富とは言えないため、国内外の事例画像等を紹介し、理解を促す。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

JB227-762

コミュニティアート

吉野　裕之

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】
アートとは、ひとりひとりの生活者がそれぞれの立場で、コミュニティの空間的・時間的価値を高めていく行為である、という視点から、こうした実践を行うことができるよう、アートの特質や可能性を学ぶとともに、事例なども取り上げながら、その方法を学ぶ。

【授業の進め方と方法】
本講義でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指す。こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第 2 回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第 3 回	ＮＰＯ・市民活動の意義	ＮＰＯ・市民活動の意義の説明。
第 4 回	市民主体のまちづくりの事例（１）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例の紹介と解説。
第 5 回	市民主体のまちづくりの事例（２）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例の紹介と解説。。
第 6 回	市民主体のまちづくりの事例（３）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例の紹介と解説。
第 7 回	アートの意味	アートの意味の説明。
第 8 回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第 9 回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアートの変遷の説明。
第 10 回	コミュニティアートの事例（１）	コミュニティアートの事例の紹介と解説。
第 11 回	コミュニティアートの事例（２）	コミュニティアートの事例の紹介と解説。
第 12 回	コミュニティアートの事例（３）	コミュニティアートの事例の紹介と解説。
第 13 回	コミュニティアートの事例（４）	コミュニティアートの事例の紹介と解説。
第 14 回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。
第 15 回	総括的なまとめ	総括的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義の復習をすること。また、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30 点　中間レポート： 20 点　期末レポート： 50 点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度と同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの回答が多かった。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

JC128-108

ホスピタリティ学原論 (2013 年度以前入学生) ／ホスピタリティ論 (2014 年度以降入学生)

野口　洋平

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代のキーワードのひとつである「ホスピタリティ」をめぐって、その語源や意味、サービス産業との関係、観光における重要性、福祉サービスにおける位置づけなどについて、主にサービス・マーケティング論の視点から考える。

【到達目標】
ホスピタリティについて、自らの言葉で議論し説明を試みるための知識と考え方を身に付ける。また、観光やサービス、福祉などにおけるホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができる。

【授業の進め方と方法】
授業は、各回のテーマについて教員が講義し、それをふまえた上でディスカッションで構成される。教員による講義はレジュメを中心に行う。ディスカッションは教員と学生のあいだ、または学生同士で行い、最後に議論の結果をまとめる。各回の具体的な事例やテーマについては、履修者の要望を参考にして調整する場合もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・観光とホスピタリティ	講義
2	ホスピタリティの語源	講義およびディスカッション
3	ホスピタリティとサービス	講義
4	ホスピタリティとサービス	ディスカッション
5	ホスピタリティの現代的意味	講義
6	ホスピタリティの現代的意味	ディスカッション
7	ホスピタリティのマーケティング	講義
8	ホスピタリティのマーケティング	ディスカッション
9	ホスピタリティの心理学	講義
10	ホスピタリティの心理学	ディスカッション
11	国際観光とホスピタリティ	講義
12	国際観光とホスピタリティ	ディスカッション
13	福祉サービスとホスピタリティ	講義
14	福祉サービスとホスピタリティ	ディスカッション
15	まとめ（テスト）	講義・テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義時にミニレポートやミニ調査課題を提示するので、次回までに各自で取り組んで提出する。また、講義内容に関連する新聞記事、ニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心がける。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。講義の際にはレジュメを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ミニレポートまたはミニ調査課題 2 点　合計 30 点
中間レポート　30 点
テストまたはレポート　40 点
※出席状況が授業で定める基準を下回った場合には評価しない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループディスカッションに初めて取り組む学生もいるので、複数回の機会を設けて充実した議論を目指す。

【その他の重要事項】
授業の進行方法や評価方法は、極端に履修者数が多い場合や少ない場合には変更する場合がある。
教員への連絡方法は授業内で提示する。

JB239-754

非営利組織の運営 (2013 年度以前入学生) ／ＮＰＯ論 (2014 年度以降入学生)

松元　一明

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では「非営利組織/NPO」の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源との関係について学びます。本授業でいう「非営利組織」とは、個人の発意や自主的な参加によって成り立つ市民活動団体を中心とした NPO のことを指します。

【到達目標】
非営利組織/NPO についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいて、プレゼンテーションを行えるようにします。

【授業の進め方と方法】
前半は、主に NPO の社会的な位置づけならびに他の社会資源（ボランティア、行政、企業、助成財団など）との関係について、具体的事例を交えながら講義を進めます。適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。また後半は、課題解決型学習（アクティブ・ラーニング）を中心にテーマに沿ったグループワークを行い、最終的にグループによるプレゼンテーションを実施します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	講義の進め方の解説と、NPO についてのイメージの把握をおこなう。
第 2 回	NPO の基礎知識	NPO に関する資料を利用し、NPO の基本的なことを理解する。
第 3 回	NPO の具体的事例	NPO の実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第 4 回	NPO の社会的役割	テキスト第 2 章をもとに、NPO の定義や NPO のもつ社会的な役割について理解する。
第 5 回	ボランティア活動の理解	テキスト第 1 章をもとに、NPO や市民活動におけるボランティアの位置づけや、その意義について理解する。
第 6 回	NPO の組織と運営について	テキスト第 3,4 章をもとに、NPO の組織運営について学び、その課題について理解する。
第 7 回	NPO と行政との協働	テキスト第 5 章を参照し、NPO と行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第 8 回	CSR の考え方と展開	テキスト第 6 章をもとに、企業の社会貢献の歴史や、NPO の発展へどのように寄与したのか理解をする。
第 9 回	NPO の中間支援組織	テキスト第 7 章をもとに、中間支援組織の役割について学び、NPO の発展にとって持つ意味について理解する
第 10 回	市民活動や NPO の具体的事例紹介	市民活動や NPO、またソーシャルビジネス/コミュニティビジネスの事例紹介をおこなう。テキスト第 2 部も参照する。
第 11 回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、自由討論とグループワークにより NPO 理解を促進する。
第 12 回	グループワーク②	前回の討論とグループワークの展開。
第 13 回	グループワーク③	前回の討論とグループワークの展開。
第 14 回	グループワーク④	グループワークのまとめ。
第 15 回	グループワークのプレゼンテーション/まとめ	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストは事前に必ず読んでおくこと。また自らが関心をもつ非営利組織の活動に参加することを推奨する。またグループワークについては、テーマにそった準備学習をおこなう。

【テキスト（教科書）】
社会福祉法人 大阪ボランティア協会 編 2011『テキスト市民活動論－ボランティア・NPO の実践から学ぶ－』（￥ 1,620）
上記のほか、必要に応じてレジュメ等を配布する。

【参考書】
テキストの巻末資料（関連文献）を参照。他に必要なものは随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワークへの積極的な参加や、リアクションペーパーを含む平常点（50 %）、期末試験（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初学者にもわかりやすい講義に努める（2015 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が出次第、参考し授業の改善に努める）。

【学生が準備すべき機器他】
講義形式でおこなうが、適宜パワーポイントやビデオも使用する。

【その他の重要事項】
授業の展開により、内容に若干の変更があり得る。

JC240-166

社会学特講

左古　輝人

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の構造、過去、現在、未来

【到達目標】
社会学の基本的なキータームを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式。質問・感想は歓迎するが、専用の用紙を用いることが望ましい。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
2	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
3	産業社会の形成	18・19 世紀における産業社会の歴史的形成を概観する
4	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
5	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
6	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
7	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった 20 世紀初頭を概観する
8	消費化社会の構造	20 世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
9	消費化社会の展開	消費化社会の歴史的形成を概観する
10	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
11	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
12	脱工業化の進行	1970 年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
13	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
14	今後について	今後の産業社会の行方を考える
15	まとめと補遺	全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。

【テキスト（教科書）】
左古輝人『畏怖する近代』法大出版２００６年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書１９９２年。
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書１９９８年。
早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房２０１１年。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果に平常点を加味する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業運営の適切さを改めて確認できた。

JB227-708

環境教育論 (2013 年度以前入学生) ／環境政策論 (2014 年度以降入学生)

藤澤　浩子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。それらの取り組みの基礎として、身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶ、環境教育が極めて重要です。この授業では、環境および環境政策、環境教育に関する基礎的な内容や取組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】
学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていこうとする姿勢を求めます。

【授業の進め方と方法】
パワーポイント、DVD 等を活用して解説します。毎回講義後、質問や感想等をリアクションペーパーに記入してもらい、次の回の初めに応答します。
環境政策はＰＤＣＡサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等において、環境政策の視点を加味し、基本的事項について解説していく予定です。
前半は、基本的な事項や考え方、現在注目されているテーマを解説、多様な視角の存在、情報の収集や読み解き方などについて説明します。後半では、実践事例を学び、キャンパス周辺の環境に目を向け学習内容を実践してみましょう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ガイダンスおよび受講者の環境学習経験の確認
第 2 回	環境に関する基礎知識とミニワークショップ	「人間をとりまく環境のイメージ」
第 3 回	環境教育の理念	目的、目標、カリキュラムなど
第 4 回	環境教育の歴史的経緯	自然保護/公害教育から環境教育へ
第 5 回	身近な環境に関する基礎知識 1	持続可能性、循環型社会、エコリテラシー
第 6 回	身近な環境に関する基礎知識 2	アメニティと生物多様性、エコフォビアとセンスオブワンダー
第 7 回	身近な環境に関する取組み（方法論）	野外体験、観察、調査等、実践的活動手法
第 8 回	後半のガイダンス	ミニフィールドワークに関するガイダンス
第 9 回	ミニフィールドワーク「あるもの探し歩き」	キャンパス周辺の身近な環境にふれる
第 10 回	企業による取組み事例	事例紹介と、グループワーク形式で使用体験・評価等
第 11 回	市民による取組み事例	身近な環境に関する市民の取組み事例を知る（ＤＶＤ視聴等）
第 12 回	グループワーク 1	※かるた制作（読み札づくり）
第 13 回	グループワーク 2	※かるた制作（絵札づくり）
第 14 回	成果発表と共有	※かるた制作の仕上げ及び批評等
第 15 回	まとめ	課題レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。
関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。
また、関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。

【テキスト（教科書）】
講義時にプリントを配布します。

【参考書】
日本環境教育学会編 (2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：中間に 2 回と期末に課題提出
3. 採点基準：平常点 40 %、課題 60 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
後半、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループワークを行っています。過去 5 年間のグループワークでは、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパス周辺を改めて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、今年度も受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【その他の重要事項】
受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。
※印で示したグループワーク（第 12〜14 回）の内容は昨年の例です。

居住福祉 (2013 年度以前入学生) ／居住福祉論 (2014 年度以降入学生)

[2013]

大原　一興

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】
居住福祉の諸理論および実践の理解
福祉住環境の理念と実際についての理解
国内外の実践例に関する知識の習得
福祉住環境コーディネーター検定３〜２級レベルの知識の習得

【授業の進め方と方法】
毎回の講義と簡単な演習
参考図書・資料の紹介による予習と復習
実例調査レポートの作成
基本的に隔週、第 **2** 回目以降は２時限続きでおこなう。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。
第１回　　：４月１２日　**4** 時限
第２・３回：４月２６日　**4・5** 時限
第４・５回：５月１０日　**4・5** 時限
第６・７回：５月２４日　**4・5** 時限
第８・９回：６月　７日　**4・5** 時限
第 **10・11** 回：６月２１日　**4・5** 時限
第 **12・13** 回：７月１２日　**4・5** 時限
第 **14・15** 回：７月１９日　**4・5** 時限

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第２回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第３回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第４回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第５回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみた居住福祉 **ICF** の考え方
第６回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第７回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第８回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第９回	ハウスアダプテーション・住宅改造 福祉機器の活用	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第 10 回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第 11 回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第 12 回	コハウジング　共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第 13 回	コハウジング　共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第 14 回	くらしの先進国に学ぶ	北欧社会における福祉居住環境の実際
第 15 回	レポート提出	授業の総括とレポートの回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料や参考資料の予習
常日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

【テキスト（教科書）】
基本的に授業の際に資料を配付する
特定の教科書は使用しない

【参考書】
『居住福祉』有斐閣
『福祉住環境コーディネーター検定１，２，３級公式テキスト』東京商工会議所
『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】
毎回の出席と小レポート（**70** %）
レポート（**30** %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2 時間続きの授業のため、講義のみ続けて行うと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクター

JB258-767

住民参加の手法

杉崎　和久

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域づくりの現場では、住民等の地域の多様な主体が地域の資源や課題、各主体の思いやニーズなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動を検討し、それを実施するプロセスが重要である。
この講義では、これらのプロセスを実施する際に必要となる対話手法（住民参加手法）の特徴を理解し、運用できる能力を獲得する。

【到達目標】
住民参加が求められる社会背景を理解し、地域の多様な主体がプロジェクトの中で適切に住民参加手法の選択・開発、そして運用ができる能力を習得することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
住民参加の役割・効果、具体的な活用事例、基本的な考え方等の基本事項については、講義形式で理解を深める。さらに、代表的な住民参加手法については、効果等の特徴を把握するために講義の中で体験する。また、地域の多様な主体による対話の重要となる社会的背景等の理解をするために基本文献を講読し、概要等を報告するレポート課題を出題する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	講義の進め方、目標等を説明する。
第２回	住民参加の意義	地域づくりにおいて、住民参加の意義について理解する。
第３回	参加のデザインとは（事例紹介）	事例を通じて、住民参加を企画する視点を理解する。
第４回	伝えることは難しい	ワークショップ体験を通じて、参加手法が必要となる背景を理解する。
第５回	意見表出のための手法	参加者が意見表出しやすい手法を学ぶ。
第６回	意見整理のための手法	参加者の意見を整理するための手法を学ぶ。
第７回	対話を共有する手法	議論内容を共有することの意義とそのための手法を学ぶ。
第８回	ファシリテーターの役割と技術	創造的な会議を生み出す役割（ファシリテーター）と必要な技術を学ぶ。
第９回	聴くための技術	参加者の意見を引き出すための技術を学ぶ。
第 10 回	住民参加事例の紹介１	レポート内容の発表をする。
第 11 回	住民参加事例の紹介２	レポート内容の発表をする。
第 12 回	創造的な対話の場	創造的な議論をするための場にするための手法を学ぶ。
第 13 回	ステークホルダー分析	住民参加プログラムの参加者構成を検討する。
第 14 回	プロセスデザイン	住民参加プログラムの企画を検討する。
第 15 回	まとめ	講義全体のふりかえりを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
住民参加に関する基本文献を講読し、その概要等を報告するレポート作成を行う。
また、ＮＰＯや自治体などが開催するワークショップ等に参加することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
授業では適宜レジュメを配布する

【参考書】
中野民夫「ワークショップ」（岩波新書）
世田谷まちづくりセンター「参加のデザイン道具箱」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（７０％）、レポート（３０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
地域づくりの現場での参加手法を体験するだけでなく、その背景となる理論や経緯等についても適切に解説していく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

JB239-751

社会起業論 (2013 年度以前入学生) ／ソーシャルイノベーション論 (2014 年度以降入学生)

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが世界的に広まっている。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれている。本講義では、こうした事業がなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどんなソーシャル・イノベーションなのかについて国内外の事例をもとに検討する。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】
本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。
①グローバル/ローカルなソーシャル・エンタプライズの動向を理解すること、②社会的企業家によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【授業の進め方と方法】
社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・エンタプライズは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業家にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・エンタプライズを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・エンタープライズを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタープライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の仮題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コーズ・リレイティッド・マーケティングについて理解する①	各種事例を通して CRM について理解する。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する。
第 14 回	東日本大震災における企業のソーシャル・ビジネス①	東日本大震災における企業の様々な取り組みをソーシャル・イノベーションの視点で理解する。
第 15 回	東日本大震災における企業のソーシャル・ビジネス②	東日本大震災における企業の様々な取り組みをソーシャル・イノベーションの視点で理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトに目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。

【テキスト（教科書）】
講義中に指示します。

【参考書】
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版

【成績評価の方法と基準】
講義リアクションペーパーおよびミニレポート課題（30 %）、期末試験（70 %）を総合的に判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

JB240-705

雇用政策論

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
障害者、シングルマザー、若者、生活困窮者などへの就労支援サービスが制度化されてきた。それによって、従来の雇用政策は、福祉施策と交錯して範囲を拡大しつつ、性格を転換させてきた。本授業では、こうした広義の雇用政策を学ぶ。

【到達目標】
（1）企業の人事戦略と、国の雇用政策の変遷を理解する。
（2）さまざまな就労阻害要因に応じた就労支援を知る。
（2）就労支援の「出口対策」を理解する。

【授業の進め方と方法】
講義が中心になるが、学生参加の機会をできるだけもつ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の狙いと課題
2	就労支援の二つの課題	アクティベーションと雇用政策
3	就労支援の事例検討	事例の検討
4	企業人事戦略の転換①	業績・成果主義
5	企業人事戦略の転換②	正社員の絞り込み／期限付き雇用の拡大
6	企業人事戦略の転換③	ブラック企業とは
7	雇用政策①	社会ダンピング規制、競争規制
8	雇用政策②	公的雇用創出政策
9	雇用政策③	差別禁止、合理的配慮
10	雇用政策④	外国人労働者就労支援
11	障害者就労支援①	差別禁止、雇用義務付け
12	障害者就労支援②	合理的配慮
13	若者就労支援	中間的就労
14	生活困窮者就労支援	アクティベーション
15	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題として、授業に関連する資料を読んで、ポイントをまとめてきてもらうことがある。

【テキスト（教科書）】
朝日・布川編著『就労支援』(ミネルヴァ社会福祉養成テキストブック、ミネルヴァ書房)

【参考書】
授業の中で、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、期末試験（40 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
自分の就活を見直すことになったという反応がありました。こうした声を生かすようにします。

災害支援論

[2013]

大島　隆代

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害が起きたことによって生じてくる生活課題に対してどのような支援が必要なのかを総合的に学びながら、災害支援のあり方や防災・減災に向けて私たちは何ができるのかを考えていく。
また、災害時や災害後に限らず、人や地域を支えていくことの意味を問い直していきながら、災害大国ともいわれるわが国で生活を送る上で見つめるべきことを探っていく。

【到達目標】
・災害時および災害後に必要とされる支援体制や支援方法について知る。
・今までの災害における実践事例から、具体的な支援のあり方についての理解を深める。
・わが国のみならず世界における災害支援の動向を知り、日々の生活でどのような予備的対応を整えていくべきかを考える。
・「支えるために近づくこと」や「地域とそこに生活する諸個人の関係性」などを考えることを通して、人や地域を支えていくことを問い直してみる。

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式で進めるが、事例検討やグループワーク等を通して学生自身が課題解決に取り組む作業や、災害支援について理解を深めるために映像資料等を視聴する。授業期間を通して複数回のリアクションペーパー（課題）提出を予定している。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーション	授業の概要や目的および進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。
2	さまざまな災害の様子を振り返る	わが国および世界で起きたさまざまな災害について文献や映像等で振り返り、災害によって人や地域にどのような変容があるのかを考える。
3	さまざまな災害への対応を振り返る	さまざまな災害における対応の実態について文献や映像等で振り返り、どのような支援が求められているのかを理解する。
4	災害支援と学問	災害支援に関する学問や研究の歴史を振り返った上で、近年の動向を概観する。
5	対人援助の領域が災害に対して行ってきたこと①	災害後の緊急救援時における対人援助の専門職による実践の様子を知り、何が求められるのかを考える。
6	対人援助の領域が災害に対して行ってきたこと②	避難所から仮設住宅での生活の変容を理解し、そこで行われる支援のあり方を考える。
7	対人援助の領域が災害に対して行ってきたこと③	生活再建や地域復興の意味を再考しながら、地域で生活する人を支えるために必要な視点や実践の方法を探る。
8	災害支援を事例を通して考える①	過去の災害における支援の事例を振り返り、今までの私たちの考え方にどのように影響および変化を及ぼしたのかを考える。
9	災害支援を事例を通して考える②	東日本大震災後の原発問題と遠隔地避難について理解し、「災害支援」というものが持つ課題を考える。
10	災害支援を事例を通して考える③	東日本大震災後の地域福祉コーディネーターの事例から、地域とそこに生活する諸個人の関係性を考え、支援のあり方を探る。
11	災害に備えることを考える①	さまざまな時期や事例を通した支援を振り返ってみて、防災・減災の考え方と体制整備について理解する。
12	災害に備えることを考える②	さまざまな時期や事例を通した支援を振り返ってみて、いくつかの場を想定して、自分ならどのように災害に対応するかを考える。
13	「災害支援」に近づくことを考える①	専門職や研究者が、被災した人たちや地域に向き合うことの意味とその構造を理解する。
14	「災害支援」に近づくことを考える②	今の自分であれば災害支援にどのように向き合うことができるか、例えば、ボランティア活動のあり方などを通して考える。
15	授業のまとめ	半期の授業のまとめをした上で、要点や自身の考察を振り返ってみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は「○○学」といった既存に限ったものではないので、自身が災害が多発する国土に生活する人であることを自覚しながら、どのように取り組んでいくべきかを主体的に考えていく。そのためには、各回の授業内容を復習し、地域や社会への関心を持ちつつ、積極的に関連情報を得るようにする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しないが、授業時には参考資料等を配布する。

【参考書】
参考書は指定しないが、災害への対応や支援に関する新聞記事やニュース等への関心を持って、情報を収集してほしい。

【成績評価の方法と基準】
各回の授業内容の理解度と考察内容を測るための期末試験、複数回のリアクションペーパー（課題）の提出、平常点を総合的に評価する。評価基準は、期末試験 50%、リアクションペーパー 20%、平常点 30%。受講生同士やゲストスピーカーとの意見交換等を行う双方向型の講義および演習も予定しているので、平常点では継続的な出席を評価したい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
近年の大災害も時間の経過と共に過去のことになってしまうので、学生が身近なこととして理解できるように、授業では文献資料や視聴覚映像を使用して、自身で考えることができるような内容にするよう心がける。

JB237-710

地域政策論 (2013 年度以前入学生) ／政策評価論 (2014 年度以降入学生)

牧瀬　稔

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策を展開していくためには、政策形成能力が必須になります。政策形成能力とは「問題を発見し、その問題を解決するため、一定の政策目標を立て、それを実現するために必要なしくみ・しかけをつくり上げる能力」としています。本講義は受講生一人ひとりが政策形成能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
地域における政策づくりを実践していく能力や知識などが身につくことが、本講義の到達点になります。自治体職員やシンクタンク等への進路を希望している学生向きの講義となります。

【授業の進め方と方法】
政策形成能力を身につけるため、次の３視点から講義を実施します。①政策形成の基本的視点（理論）、②政策形成の実際（事例紹介）、③政策開発の具体的手法、になります。本講義は「政策形成」について、理論と実践、そして手法を身につけることができる点が特徴になります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	本講義の進め方の紹介、講師の紹介などを進めます。
第２回	政策形成の基本的視点①	受講生の政策形成能力の有無を確認にします。
第３回	政策形成の基本的視点②	新しい視点の獲得、地域政策を解剖する視点の習得します。
第４回	政策形成の実際①	ある自治体を対象に、政策形成の実際を紹介します。
第５回	政策形成の実際②	ある自治体を対象に、政策形成の実際を紹介します。
第６回	政策形成の実際③	ある自治体を対象に、政策形成の実際を紹介します。
第７回	政策形成の実際④	ある自治体を対象に、政策形成の実際を紹介します。
第８回	政策形成の実際⑤	ある自治体を対象に、政策形成の実際を紹介します。
第９回	政策の効果	政策条例を中心に、政策の効果を紹介します。
第 10 回	政策開発の具体的手法①	基礎的な政策研究の手法や、問題の捉え方などを紹介します。
第 11 回	政策開発の具体的手法②	ロジックツリー分析・SWOT 分析などを紹介します。
第 12 回	政策開発の具体的手法	政策条例を事例として、政策づくりの具体的手法を紹介します。
第 13 回	本講義のまとめ①	いままで学習した本講義の内容をまとめます。
第 14 回	本講義のまとめ②	いままで学習した本講義の内容をまとめます。
第 15 回	試験もしくはレポートの提出	試験の実施か、レポートの提出をします。これは、受講生と相談します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の生活している自治体に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】
テキストは講義の中で指示します。講義は、毎回資料を配付し、パワーポイントを用いて実施します。配付資料は、講師のホームページ（http://homepage3.nifty.com/makise_minoru/）からダウンロードできます。

【参考書】
参考文献・参考資料等は講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、最終試験 50 %、平常点 10 %、レポートは 40 %とする。レポートは２回を考えている（Ａ４用紙１枚程度）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
自治体職員（地方公務員）やシンクタンク等、政策づくりを仕事としている業界向きの講義になります。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンとプロジェクターを用いて講義します。随時、ＤＶＤなども使用します。

【その他の重要事項】
講義予定は、おおよそ、上記の流れを考えていますが、受講生と相談し、講義内容の変更も考えます。また、その時のトピックスとなっている事例を取り上げ、講義することも検討しています（その場合は、上記の流れが変更・修正されます）。

AD137

グローバル・ガバナンス

後藤　一美

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（1）「授業のテーマ」：「グローバリゼーションの国際政治経済学」
（2）「グローバリゼーション」とは：政治・経済・社会・文化を含むさまざまな分野で，世界が地球規模で一体化していく傾向のこと。また、そのような意識が形成されることをいう。特に、1989 年の冷戦終結後，「経済の自由化」と「政治の民主化」という 2 つの大きな流れが，旧社会主義国や開発途上国にも世界標準として伝播する現象を指す。「世界標準」とは、歴史的潮流変化の中で世界の政治経済運営を主導する国家ないし国家群が信奉・推奨する価値と思考枠組みに支えられたシステムのこと。交通手段の発達と情報通信技術の進歩が世界標準の地球規模の伝播を加速する。
（3）「グローバリゼーションをいかに制御するか」：「グローバリゼーション」には、地球の一体化・均質化を促進する面と分裂・格差を促進させる両面がある。プラス効果を与える面とマイナス効果をもたらす光と影の両面が存在する。現代の世界は、世界標準の伝播という大きな歴史のうねりの中で、個別特殊性の発揮という「ローカリゼーション」とのせめぎ合いを見せている。また、「グローバル・イッシュー」（地球規模問題群）の多発化に対する国際的取り組みをみると、「主権国家」と「国際機関」といった従来の国際レジームを支えるアクターのみでは益々対応が難しくなってきている。これからの時代においては、「地球市場」や「市民社会」も巻き込んだ新たなアプローチとしての「グローバル・ガバナンス」が必要となってきている。

【到達目標】
本講座は、国際政治学科の「グローバル・ガバナンス・コース入門編」として、「現代のグローバリゼーション」の特徴と問題点に関する基礎知識の学習をとおして、「グローバル・ガバナンス」（これまでの国家主体の取組みだけでなく、非国家主体も含む多様な行動主体によって、国境を超えて展開されるネットワークと協働作業と地球市民意識の形成という新しい思潮と行動とプロセスが複合化された取組み）の展望と可能性について、各自の見解を持つことを目標とする。より具体的には、グローバリゼーションやグローバル・ガバナンスに関する専門書・論文等（英語文献を含む）を読みこなしつつ、自分なりの見解をプレゼンテーションおよび課題ペーパーの中で表現できるレベルに到達することが期待される。

【授業の進め方と方法】
（1）「授業の進め方」：本講義では、「現代のグローバリゼーション」の特徴と問題点を学習しながら、「より善い世界（A Better World）」を創成するための「グローバル・ガバナンス」アプローチの展望と可能性について考察する。地球規模問題群へのさまざまな取組みをとおして、『Future Positive』の著者マイケル・エドワード氏の言葉「真の自由は、他者との関係を通じてのみ達成できる。なぜなら、互いが結びついている世界では、あなたの安全が保障されない限り私は決して安全にならないからだ（True freedom is attainable only through relations with others, since in an interconnected world I can never be safe unless you are safe.）」を念頭に置きながら、学生諸君は、下記の問いかけに自問自答して欲しい。
・グローバリゼーションの光と影を見る目とは？
・エゴイズムとヒューマニズムが織り成す国際政治とは？
・地球規模の問題を解決するために必要なものとは？
・人間が人間らしく生きるために求められるものとは？
・グローバル時代に求められる人材とは？
・21 世紀の新しい地球協力を求めて：自分にできることは何か？
（2）「授業の方法」：本講義は、「映像」「資料」「学生のプレゼンテーション」を組合わせながら展開する。特に、本講義では、教授の一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習（グループ・ディスカッション等）とプレゼンテーション（質疑応答、コメント、意見表明）を随所に設けることにより、受講者の表現能力向上に力点を置いている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	グローバル・ガバナンス入門（1）	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
2	グローバル・ガバナンス入門（2）	同上
3	グローバル・ガバナンス入門（3）	同上
4	グローバル・ガバナンス入門（4）	同上
5	グローバル・ガバナンス入門（5）	同上
6	グローバリゼーション、おまえはどこへ行くのか（1）	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
7	グローバリゼーション、おまえはどこへ行くのか（2）	同上

8	グローバリゼーション、おまえはどこへ行くのか（3）	同上
9	貧困のない世界を実現することは可能か（1）	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
10	貧困のない世界を実現することは可能か（2）	同上
11	貧困のない世界を実現することは可能か（3）	同上
12	世界経済と日本の再生は可能か（1）	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
13	世界経済と日本の再生は可能か（2）	同上
14	世界経済と日本の再生は可能か（3）	同上
15	まとめ	期末レポート提出・発表＆講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

（1）講義、配付資料、参考文献、その他講義内で指示された内容にもとづく学習。

（2）講義内で上映されたドキュメンタリー映像等のテーマに関する情報蒐集と学習。

（3）授業内で紹介された外部セミナー等への参加。

【学生へのメッセージ】

「夢追うものは夢をもつかむ」

（1）地球上どこでも、自然体で、感じ・考え・行動したい！（2）自分らしさを発揮して、“Something New” を創造したい！（3）主体性と自律性をもって、自分の夢を追いかけたい！ と思う学生の積極的受講を期待する。

【テキスト（教科書）】

・後藤一美「国際協力論序説―グローバル・ガバナンスの視点から」［鈴木佑司・後藤一美（編著）『グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス』（法政大学現代法研究所叢書 30）、法政大学出版局、2009 年所収］（コピーは授業内で配布予定）

【参考書】

＜日本語文献＞

・Earth Atlas 編集委員会『15 歳のためのグローバリゼーション―新しい地図を持って歩き出そう― マップ・セレクション』幻冬舎、2009 年。
・浅野有紀 (著), 原田大樹 (著), 藤谷武史 (著), 横溝大 (著), 大西楠・テア (著), 興津征雄 (著), 小畑郁 (著), 村西良太 (著) 『グローバル化と公法・私法関係の再編』弘文堂、2015 年。
・足立幸男 (編著) 『持続可能な未来のための民主主義』 (環境ガバナンス叢書) ミネルヴァ書房、2009 年。
・アルジュン・アパドゥライ (著)、藤倉達郎 (訳) 『グローバリゼーションと暴力―マイノリティーの恐怖』世界思想社、2010 年。
・稲葉守満『開発の政治経済学―グローバリゼーションと国際協力の課題』時潮社 、2010 年。
・猪木武徳 『戦後世界経済史―自由と平等の視点から』 (中公新書) 中央公論新社、2009 年。
・猪口孝『地球政治の構想』NTT 出版、2002 年。
・猪口孝『現代政治学叢書 2 ガバナンス』東京大学出版会、2012 年。
・上村雄彦（編著）『グローバル協力論入門―地球政治経済論からの接近』法律文化社、2014 年。
・馬田啓一 (著), 西孝 (著), 小野田欣也 (著) 『国際関係の論点: グローバル・ガバナンスの視点から』文眞堂、2015 年。
・カルロス・エステベス (著), カルロス・タイボ (著), 大津真作 (翻訳) 『反グローバリゼーションの声』晃洋書房、2013 年。
・マイケル・エドワーズ（著）・CSO ネットワーク・杉原ひろみ（監修）『フューチャー・ポジティブ―開発援助の大転換』日本評論社、2006 年。
・遠藤乾（編著）『グローバル・ガバナンスの歴史と思想』有斐閣、2010 年。
・大矢根聡（編）『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013 年。
・奥田孝晴（編）『［三訂版］グローバリゼーション・スタディーズ：国際学の視座』創成社、2012 年。
・押村高、中山俊宏 (編著) 『世界政治を読み解く』ミネルヴァ書房、2011 年。
・香川敏幸、市川顕『グローバル・ガバナンスと EU の深化』慶應義塾大学出版会、2011 年。
・加納雄大『環境外交 ―気候変動交渉とグローバル・ガバナンス』信山社、2013 年。
・イアン・クラーク (著)・滝田賢治 (訳)『グローバリゼーションと国際関係理論―グレート・ディヴァイドを超えて』中央大学出版部、2010 年。
・小泉康一『国際強制移動とグローバル・ガバナンス』御茶の水書房、2013 年。
・坂井一成 (編集)『グローバリゼーション国際関係論』 芦書房、2014。
・櫻井公人、板木雅彦、中本悟、石田修 (編著) 『現代世界経済をとらえる Ver.5』東洋経済新報社、2010 年。
・笹岡雄一『グローバル・ガバナンスにおける開発と政治』明石書店 、2012 年。
・佐藤幸男 (編著) 『国際政治モノ語り―グローバル政治経済学入門』法律文化社、2011 年。
・庄司真理子、宮脇昇（編著）『新グローバル公共政策』晃洋書房 、2011 年。
・スーザン・ジョージ (著)、荒井雅子 (訳)『これは誰の危機か、未来は誰のものか―なぜ 1%にも満たない富裕層が世界を支配するのか』岩波書店、2011 年。
・小泉康一『国際強制移動とグローバル・ガバナンス』御茶の水書房、2013 年。
・坂井一成 (編集)『グローバリゼーション国際関係論』 芦書房、2014。
・アンドリュー・ジョーンズ (著), 佐々木てる (監修)『グローバリゼーション事典』明石書店、2012 年。
・鈴木謙介 (著)『＜反転＞するグローバリゼーション』ＮＴＴ出版、2015 年。
・マンフレッド・B・スティーガー (著)・櫻井公人・櫻井純理・ 高嶋正晴 (訳) 『新版 グローバリゼーション』(〈1 冊でわかる〉シリーズ) 岩波書店、2010 年。
・ジョセフ・E・スティグリッツ (著)、楡井・峯村（訳）『世界の 99%を貧困にする経済』徳間書店 、2012 年。
・オリバー・ストーン (著)、ピーター・カズニック (著)、大田直子他 (翻訳) 『オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史』（1 二つの世界大戦と原爆投）（2 ケネディと世界存亡の危機）（3 帝国の緩やかな黄昏）早川書房、2013 年。
・アマルティア・セン (著)・加藤幹雄・山脇直司（訳）『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版、2009 年。
・アマルティア・セン (著)・池本幸生（訳）『正義のアイデア』明石書店、2011 年。
・田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008 年。
・田中明彦・中西寛 (編) 『新・国際政治経済の基礎知識 新版』 (有斐閣ブックス 97) 有斐閣、2010 年。
・丹野清人、加藤哲郎 (編著) 『民主主義・平和・地球政治 』(21 世紀への挑戦： 7) 日本経済評論社、2010 年。
・エマニュエル・トッド、柴山桂太、中野剛志、藤井聡、堀茂樹、 ハジュン・チャン他『グローバリズムが世界を滅ぼす』 (文春新書) 文藝春秋、2014 年。
・エマニュエル・トッド (著), 堀 茂樹 (翻訳)『シャルリとは誰か? 人種差別と没落する西欧 』(文春新書) 文藝春秋、2016 年。
・ジョセフ・S・ナイ (著), 山岡洋一、藤島京子 (訳)『スマート・パワー― 21 世紀を支配する新しい力』日本経済新聞出版社 、2011 年。
・中野剛志『世界を戦争に導くグローバリズム』(集英社新書) 集英社、2014 年。
・中山裕美『難民問題のグローバル・ガバナンス』東信堂、2014 年。
・西川潤『グローバル化を超えて―脱成長期　日本の選択』日本経済新聞出版社、2011 年。
・日本国際連合学会 (編集)『グローバル・コモンズと国連』国際書院、2014 年。
・根井雅弘 (著)『市場主義のたそがれ―新自由主義の光と影』 (中公新書) 中央公論新社、2009 年。
・初瀬龍平『国際関係論―日常性で考える』法律文化社、2011 年。
・初瀬龍平 (編集), 松田哲 (編集)『人間存在の国際関係論: グローバル化のなかで考える』法政大学出版局、2015 年。
・平川克美『グローバリズムという病』東洋経済新報社、2014 年。
・星野昭吉（編著）『世界政治の展開とグローバル・ガバナンスの現在』テイハン、2010 年。
・細谷雄一 (編)『グローバル・ガバナンスと日本（歴史のなかの日本政治 4）』中央公論新社、2013 年。
・細谷千博 (監修)・滝田賢治・大芝亮 (編) 『国際政治経済―「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008 年。
・正村俊之『グローバリゼーション―現代はいかなる時代なのか』(有斐閣 Insight) 有斐閣、2009 年。
・水野和夫『終わりなき危機 君はグローバリゼーションの真実を見たか』日本経済新聞出版社、2011 年。
・水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』 (日経ビジネス人文庫) 日本経済新聞出版社、2013 年。
・水野和夫『資本主義の終焉と歴史の危機 』(集英社新書) 集英社、2014 年。
・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、 栗栖薫子『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009 年。
・ジェームス・メイヨー（著）・田所昌幸（訳）『世界政治―進歩と限界』勁草書房、2009 年。
・毛利聡子『NGO から見る国際関係―グローバル市民社会への視座』法律文化社、 2011 年。
・安江則子『EU とグローバル・ガバナンス: 国際秩序形成におけるヨーロッパ的価値』法律文化社、2013 年。
・藪下史郎『スティグリッツの経済学：「見えざる手」など存在しない』東洋経済新報社、2013 年。
・山田高敬、大矢根聡 (編著) 『グローバル社会の国際関係論：新版』有斐閣、2011 年。
・山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008 年。
・吉川元、六鹿茂夫、望月康恵、首藤もと子（編著）『グローバル・ガヴァナンス論』法律文化社、2014 年。
・ダニ・ロドリック (著)、柴山・大川 (訳)『グローバリゼーション・パラドクス: 世界経済の未来を決める三つの道』白水社、2013 年。

＜英語文献＞

・John Baylis, Steve Smith, Patricia Owens, The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations, Oxford University Press, 5th edition, 2011.
・Luis Cabrera (ed.), Global Governance, Global Government: Institutional Visions for an Evolving World System, State University of New York Press, 2011.
・Kristen A. Hite, John L. Seitz, Global Issues: An Introduction, 5th edition, Wiley-Blackwell, 2016.
・David Hulme, Global Poverty: How Global Governance is Failing the Poor, Routledge, 2010.
・M. Panic, Globalization: A Threat to International Cooperation and Peace?, Palgrave Macmillan, 2nd edition, 2011.
・Dani Rodrik, The Globalization Paradox: Democracy and the Future of the World Economy, W W Norton & Co Inc, 2011.
・Jon Shefner, Patricia Fernandez-kelly (eds.), Globalization and Beyond: New Examinations of Global Power and Its' Alternatives, Pennsylvania State University Press, 2011.
・Michael Zürn, “Globalization and Global Governance”, in Walter Carlsnaes, Thomas Risse and Beth A. Simmons (eds.), Handbook of International Relations, SAGE, 2013.

http://www.wzb.eu/sites/default/files/u13/globalization_and_global_governance.pdf

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（Ａ４サイズ・５枚・受講の感想を記述すること：ワープロ作成）に基づいて、成績評価（評価のポイント：①自分で考える、②独創性・新鮮さ、③論理的展開、④説得性・感動、⑤参考文献の適切性）を行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。
（参考： 2014 年度第一回および 2015 年度第二回「学生が選ぶベストティーチャー賞」二年連続受賞。2015 年度は、「最高票数獲得賞」と「授業の運営を工夫している部門賞」のダブル受賞）

AD137

国際協力論 I

後藤　一美

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（1）「授業の概要と目的」：本授業は、「グローバル時代の国際協力」というテーマのもと、春学期「国際協力論 I」および秋学期「国際協力論 II」の履修をとおして、「国際協力」の基礎と応用を学習することにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成を目的とする。
[備考]「国際協力（International Cooperation）」とは、複数の行為主体（主権国家、国際機関、民間企業、市民組織等）が、ある共通の目的（例えば、経済発展（貧困削減）と福祉の増進、環境保全、民主主義の確立と人権の尊重、平和と安全保障の実現等）に関する合意形成を図るために、あるいは合意された共通の目的実現のために、国境を越えて、個と全体の利益を調整しながら、持てる「力」（構想力、交渉力、実行力）をお互いに出し合う政治的プロセスのこと。より具体的には、政府開発援助（ODA）のみならず、国際機関をとおした協力、その他公的資金、民間資金、市民社会組織（CSO）による活動等を含む。
（2）「国際協力の世界」とは：現代の世界には、グローバリゼーションの嵐が吹き荒れる。うたた寝から覚まされたローカリゼーションの波頭が鎌首をもたげ時として牙をむく。海図なき航海をさまよう現代世界。乗組員は、主権国家、国際機関、地球市場、市民社会からなる多様なアクター。彼らが思い描くより善い世界とは同床異夢。ヒューマニズムとエゴイズムの両性具有の国際政治が舵を取る。一見きれいごとのように見える国際協力の実態は、様々な利害のからむ政治的プロセス。構想力・交渉力・行動力を発揮しながら、新たな選択肢と可能性の発見が求められる世界。あなたも飛び込んでみませんか。
（3）「世界がもし 100 人の村だったら」：世界の富の 90 %をたった 20 人が握っている。公的援助をはるかにこえるお金が化粧品に消費されている。その一方で、15 人が飢えで苦しんでいる。明日の世代を育てる教育にむけられるお金の 10 倍ものお金が武器売買に使われている。この結果、16 人は字を読むことさえままならない。3 秒に子どもがひとり死んでゆく。こうした世界の現実をすこしでも良い方向にむけるためのさまざまな取組みが地球規模で展開されている。100 人のなかで大学に行けるのは、たったひとり。「Vision」「Mission」「Passion」「Action」をもって、あなたの住む世界を変えるために、まずは自分自身を変えてみませんか。

【到達目標】
本講座「国際協力論」は、二部構成（春学期「国際協力論 I ：基礎編」および秋学期「国際協力論 II ：応用編」）で展開される。それぞれの到達目標は、下記のとおり。（「国際協力論 I」「国際協力論 II」あわせ履修することが望ましい。）
■「国際協力論 I ：基礎編」の具体的到達目標としては、下記のとおり。
（1）国際協力政策群のうち、興味や関心のある分野をみつける。
（2）自分なりの見解をプレゼンテーションおよび課題ペーパーの中で表現できるレベルに到達することが期待される。
（3）「Vision」「Mission」「Passion」「Action」をもって、自分の「夢」を追いかけることが期待される。
■「国際協力論 II ：応用編」の具体的到達目標としては、下記のとおり。
（1）国際協力政策群のうち関心のある分野・テーマについて更に掘り下げて学習する。
（2）関心分野・テーマに関する専門書・論文等（英語文献を含む）を読みこなしつつ、自分なりの見解をプレゼンテーションおよび課題ペーパーの中で表現できるレベルに到達する。
（3）「Vision」「Mission」「Passion」「Action」をもって、自分の「夢」を追いかけるために、より具体的な「行動計画」を描くことができる。

【授業の進め方と方法】
（1）「授業の進め方」：本講義は、グローバル時代の開発と援助をめぐる諸問題について、「開発援助政策論」（援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ）の観点から、ドキュメンタリー映像等を用いながら、現代の国際開発協力の現状と課題（「日本の国際開発協力」を含む）を考察するとともに、自分の意見を取りまとめることによって、国際協力論の基礎知識と応用力を身につける。
（2）「授業の方法」：本講義は、①映像（日本語・英語）、②講義・資料解説、③質疑応答の 3 点セットを組み合せながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としていない。また、教授による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習（グループ・ディスカッション等）とプレゼンテーション（マイクを通したコメント・意見表明）を随所に設けることにより、受講者の表現能力向上に力点を置いている。
（3）「学生へのメッセージ」：「夢追うものは夢をもつかむ」
①地球上どこでも、自然体で、感じ・考え・行動したい！ ②自分らしさを発揮して、“Something New” を創造したい！ ③主体性と自律性をもって、自分の夢を追いかけたい！ と思う学生の積極的受講を期待する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：グローバル時代の国際協力	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
2	国際協力入門： From MDGs To SDGs	同上

3	国際協力の現場から（1）	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
4	国際協力の現場から（2）	同上
5	国際協力の現場から（3）	同上
6	国際協力の現場から（4）	同上
7	国際協力の現場から（5）	同上
8	国際協力の主要課（1）：貧困削減	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
9	国際協力の主要課（2）：平和構築	同上
10	国際協力の主要課（3）：民主化支援	同上
11	国際協力の主要課（4）：環境保全	同上
12	国際協力の主要アクター（1）：主権国家、国際機関	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
13	国際協力の主要アクター（2）：地球市場	同上
14	国際協力の主要アクター（3）：市民社会	同上
15	まとめ	春学期末レポート提出＆講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）講義、配付資料、参考文献、その他講義内で指示された内容にもとづく学習。
（2）講義内で上映されたドキュメンタリー映像等のテーマに関する情報蒐集と学習。
（3）授業内で紹介された外部セミナー等への参加。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
＜日本語文献＞

・赤阪清隆『国際機関で見た「世界のエリート」の正体』(中公新書ラクレ) 中央公論新社、2014 年
・浅野豊美『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編―請求権と歴史認識問題の起源』慈学社出版、 2013 年。
・鮎京正訓『法整備支援とは何か』名古屋大学出版会、2011 年。
・旭英昭『平和構築論を再構築する』（増補改訂版）日本評論社、2015 年。
・朝日新聞論説委員室（編）『地球貢献国家と憲法―提言・日本の新戦略』朝日新聞社、2007 年。
・浅沼信爾、小浜裕久『途上国の旅 開発政策のナラティブ』勁草書房、2013 年。
・荒木光弥『1970 年代途上国援助―歴史の証言』『1980 年代途上国援助―歴史の証言』『1990 年代途上国援助―歴史の証言』『2000 年代途上国援助―歴史の証言』国際開発ジャーナル社、1997 年～ 2012 年。
・池上彰『世界を救う 7 人の日本人―国際貢献の教科書』日経 BP 社、2010 年。
・ウィリアム・イースタリー（著）・小浜裕久他（訳）『放漫な援助』東洋経済新報社、2009 年。
・伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書：筑摩書房、2010 年。
・伊勢崎賢治『日本人は人を殺しに行くのか 戦場からの集団的自衛権入門』(朝日新書) 朝日新聞出版、2014 年。
・井出穣治、児玉十代子『IMF と世界銀行の最前線―日本人職員がみた国際金融と開発援助の現場』日本評論社、2014 年。
・稲田十一『国際協力のレジーム分析―制度・規範の生成とその過程』有信堂、2013 年。
・上村雄彦（編著）『グローバル協力論入門―地球政治経済論からの接近』法律文化社、2014 年。
・内海成治、中村安秀『国際ボランティア論―世界の人びとと出会い、学ぶ』ナカニシヤ出版、2011 年。
・内海成治 (編) 『はじめての国際協力―変わる世界とどう向きあうか』昭和堂、2012 年。
・マイケル・エドワーズ（著）・CSO ネットワーク・杉原ひろみ（監修）『フューチャー・ポジティブ―開発援助の大転換』日本評論社、2006 年。
・NPO 研究情報センター (編集)『ヤングアダルトの本 ボランティア・国際協力への理解を深める 2000 冊』日外アソシエーツ、2015 年。
・大塚啓二郎『なぜ貧しい国はなくならないのか 正しい開発戦略を考える』日本経済新聞出版社、2014 年。
・大坪滋、木村宏恒、伊東早苗（編著）『国際開発学入門―開発学の学際的構築』勁草書房、2009 年。
・大橋正明、高橋華生子、金敬黙、長有紀枝、遠藤貢、美根慶樹『グローバル化・変革主体・NGO ―世界における NGO の行動と理論』 新評論、2011 年。
・小川裕子『国際開発協力の政治過程―国際規範の制度化とアメリカ対外援助政策の変容』東信堂、2011 年。
・長有紀枝『入門 人間の安全保障 - 恐怖と欠乏からの自由を求めて』 (中公新書) 中央公論新社、2012 年。
・大平剛『国連開発援助の変容と国際政治― UNDP の 40 年』有信堂高文社、2008 年。
・外務省『政府開発援助（ODA）白書：日本の国際協力』各年版。
・加賀隆一『実践 アジアのインフラ・ビジネス:最前線の現場から見た制度・市場・企業とファイナンス』日本評論社、2013 年。
・嘉治美佐子『国際社会で働く:国連の現場から見える世界』ＮＴＴ出版、2014 年。
・勝間靖（編著）『テキスト国際開発論』 ミネルヴァ書房、2012 年。
・木原隆司『援助ドナーの経済学―情けはひとのためならず』日本評論社、2010 年。
・木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志 (編著)『開発政治学入門』勁草書房、2011 年。
・木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志（編著）『開発政治学の展開―途上国開発戦略におけるガバナンス』勁草書房、2013 年。
・草野厚『日本はなぜ地球の裏側まで援助するのか』朝日新書、2007 年。
・朽木昭文, 馬田啓一 , 石川幸一 (編著) 『アジアの開発と地域統合 新しい国際協力を求めて』日本評論社、2015 年。
・栗田匡相、野村宗訓、鷲尾友春（編著）『I 日本の国際開発援助事業』 (関西学院大学産研叢書 37) 日本評論社、2014 年。
・黒崎卓、大塚啓二郎（編著）『これからの日本の国際協力: ビッグ・ドナーからスマート・ドナーへ』日本評論社、2015 年。
・国際協力機構（JICA）『国際協力機構年次報告』各年版。
・国際協力機構（JICA）『国際協力機構事業評価年次報告書』各年版。
・国際協力機構 (JICA)（編）『 1 人ひとりにできること 1 人のためにできること』ダイヤモンド社、2008 年。
・国際協力機構 (監修)『持続する情熱―青年海外協力隊 50 年の軌跡』万葉舎、2015 年。
・国際開発ジャーナル社（編）『国際協力キャリアガイド 2015』国際開発ジャーナル社、2015 年。
・国連開発計画（UNDP）(著)、吉田秀美 (訳) 『世界とつながるビジネス―BOP 市場を開拓する 5 つの方法』英治出版、2010 年。
・国際機関で働く若手実務家 17 人 (著)『世界の現場で僕たちが学んだ「仕事の基本」』CCC メディアハウス、2014 年。
・後藤一美「日本の国際開発協力を問う」［後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』(シリーズ国際開発：第 4 巻)、日本評論社、2005 年所収］
・後藤一美（監修）『国際協力用語集』＜第３版＞、国際開発ジャーナル社、2004 年。
・小向絵理『平和構築に向けた絆―カンボジア地雷対策センターの改革・成長と南南協力の軌跡』国際開発ジャーナル社、2015 年。
・ポール・コリアー (著)、甘糟智子 (訳) 『民主主義がアフリカ経済を殺す―最底辺の 10 億人の国で起きている真実』日経 BP 社、2010 年。
・齊藤一彦, 岡田千あき, 鈴木直文『スポーツと国際協力』大修館書店、2015 年。
・坂井秀吉、朽木昭文、柳原透『現代の開発経済学: 理論と実証』ミネルヴァ書房、2014 年。
・ジェフリー・サックス (著)、鈴木主税、野中邦子 (訳) 『貧困の終焉― 2025 年までに世界を変える』早川書房、2006 年。
・佐藤寛（監修）、国際開発学会『国際協力用語集』＜第４版＞、国際開発ジャーナル社、2014 年。
・佐藤寛, 浜本篤史, 佐野麻由子, 滝村卓司 『開発社会学を学ぶための 60 冊――援助と発展を根本から考えよう』明石書店、2015 年。
・佐原隆幸, 徳永達己『国際協力アクティブ・ラーニング―ワークでつかむグローバルキャリア』弘文堂、2016 年。
・篠田英朗『平和構築入門: その思想と方法を問いなおす』 (ちくま新書) 筑摩書房、2013 年。
・清水正『青年海外協力隊がつくる日本―選考試験，現地活動，帰国後の進路』創成社、2011 年。
・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力―その新しい潮流』有斐閣、2009 年。
・下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011 年。
・下村恭民, 大橋英夫, 日本国際問題研究所 (編集) 『中国の対外援助』日本経済評論社、2013 年。
・ブルース・ジェンクス (著)、ブルース・ジョーンズ (著)、丹羽敏之 (訳) 『岐路に立つ国連開発―変容する国際協力の枠組み』人間と歴史社、2014 年。
・庄司真理子、宮脇昇（編著）『新グローバル公共政策』晃洋書房 、2011 年。
・趙世瑛 (著, 原著), 姜喜代 (原著, 翻訳)『日韓外交史: 対立と協力の 50 年』(平凡社新書) 平凡社、2015 年。
・情報企画研究所経済協力通信部 (編集)『ODA・プラント輸出便覧』〈2015 年版〉 情報企画研究所、2015 年。
・城山英明『国際行政論』有斐閣、2013 年。
・末廣昭『新興アジア経済論――キャッチアップを超えて』岩波書店、2014 年。
・鈴木康次郎, 桑島京子, 佐伯印刷 (編集) 『プノンペンの奇跡 世界を驚かせたカンボジアの水道革命』佐伯印刷、2015 年。
・鈴木弥生『バングラディッシュ農村に見る外国援助と社会開発』日本評論社、２ 016 年。
・闕洸念『成熟した民主主義国への道　日本の政治風景シリーズ１５　世界への真の貢献を目指す国家百年の大計: 日本における政府開発援助（ＯＤＡ）の課題』 [Kindle 版] Amazon Services International, Inc. 2014 年。
・高橋和志・山形辰史 (編著) 『国際協力ってなんだろう―現場に生きる開発経済学』 岩波ジュニア新書：岩波書店、2010 年。
・高松香奈『政府開発援助政策と人間の安全保障』日本評論社、2011 年。
・高柳彰夫『グローバル市民社会と援助効果: CSO/NGO のアドボカシーと規範づくり』法律文化社、2014 年。
・武内和彦, 松隈潤 (編著)『人間の安全保障―新たな展開を目指して』国際書院、2013 年。
・竹原憲雄『日本型 ODA と財政―構造と軌跡』 (MINERVA 現代経済学叢書) ミネルヴァ書房、２ 015 年。
・田中治彦『国際協力と開発教育』明石書店、2008 年。
・谷山博史『「積極的平和主義」は、紛争地になにをもたらすか?!: NGO からの警鐘』合同出版、2015 年。
・戸川正人、友松篤信『日本の ODA の国際評価―途上国新聞報道にみる日米英独仏』福村出版、2011 年。
・戸堂康之『開発経済学入門』新世社、2015 年。
・成瀬猛『マイウェイ国際協力: 中東・アフリカ・アジア 30 年の軌跡』麗澤大学出版会、2013 年。

・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学―共生の世界と日本の ODA』第四版：有斐閣、2009 年。
・西川潤、下村恭民、高橋基樹、野田真里（編著）『開発を問い直す』日本評論社、2011 年。
・西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社、2009 年。
・西口清勝, 西澤信善『メコン地域開発と ASEAN 共同体―域内格差の是正を目指して』晃洋書房、2014 年。
・日本弁護士連合会 (編)『法律家の国際協力―日弁連の国際司法支援活動の実践と展望』現代人文社、2012 年。
・布目稔生『日本の賠償と円借款』文芸社、 2013 年。
・橋本強司『開発調査というしかけ』創成社、2008 年。
・橋本強司『開発援助と正義』 幻冬舎ルネッサンス、2013 年。
・秦辰也『アジアの市民社会と NGO』晃洋書房、2014 年。
・花田吉隆『東ティモールの成功と国造りの課題 - 国連の平和構築を越えて - 』 (創成社新書 55) 創成社、2015 年。
・ビジネス・ブレークスルー大学総合研究所 (著), 大前研一 (監修)『もしも、あなたが「日本経済新聞社社長」「国際協力機構 (JICA) 理事長」ならばどうするか?)』(【大前研一】BBT リアルタイム・オンライン・ケーススタディ Vol.11) good.book、2015 年。
・藤岡美恵子、中野憲志、 越田清和『脱「国際協力」: 開発と平和構築を超えて』新評論、2011 年。
・藤原帰一、大芝亮、山田哲也 (編著)『平和構築・入門』 有斐閣 、2011 年。
・古川光明『国際援助システムとアフリカ: ポスト冷戦期「貧困削減レジーム」を考える』日本評論社、2014 年。
・牧田東一 (監修) 『日本の国際協力がわかる事典』PHP 研究所、2012 年。
・牧田東一『国際協力のレッスン―地球市民の国際協力論入門』学陽書房、2013 年。
・真崎克彦『支援・発想転換・NGO ―国際協力の「裏舞台」から』新評論、2010 年。
・松尾弘『開発法学の基礎理論: 良い統治のための法律学』勁草書房、2012 年。
・松村美香『利権鉱脈 小説 ODA』角川書店、2012 年。
・宮坂真弓, 吉田佑樹『JICA　国際協力レポーター - 国際協力に必要な 10 の Practice とは？ 現役女性営業部長と現役大学生が、虐殺から 19 年、急成長をとげる奇跡のルワンダに、行って、見て、感じたリアルの ODA』 デザインエッグ社、2014 年。
・エマ・モーズリー（著）、佐藤眞理子・加藤佳代（訳）『国際開発援助の変貌と新興国の台頭：被援助国から援助国への転換』明石書店、2014 年。
・ダンビサ・モヨ (著)・小浜裕久 (訳) 『援助じゃアフリカは発展しない』東洋経済新報社、2010 年。
・山内昌之『歴史のなかのイラク戦争：外交と国際協力』ＮＴＴ出版、2015 年。
・山口しのぶ、毛利勝彦、国際開発高等教育機構 (編),『ケースで学ぶ国際開発』東信堂、2011 年。
・山田満（編）『新しい国際協力論』明石書店、2010 年。
・山田順一『新興国のインフラを切り拓く 戦略的 ODA の活用』廣済堂出版、2015 年。
・山本一巳・山形辰史（編）『国際協力の現場から―開発にたずさわる若き専門家達』岩波ジュニア新書 564、岩波書店、2007 年。
・山本慎一、川口智恵、田中 (坂部) 有佳子『国際平和活動における包括的アプローチ―日本型協力システムの形成過程』内外出版株式会社、2012 年。
・山本敏晴『国際協力をやってみませんか？』小学館、2012 年。
・ムハマド・ユヌス (著)、猪熊弘子 (訳) 『貧困のない世界を創る』早川書房、2008 年。
＜英語文献＞
・Jose Antonio Alonso, Jose Antonio Ocampo (eds.) , Development Cooperation in Times of Crisis, Columbia University Press, 2012.
・Nancy Birdsall and William R. Easterly, Reinventing Foreign Aid, The MIT Press, 2008.
・John Degnbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave Macmillan, 2003.
・Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Revised Edition, Earthscan, 2004.
・Maia Gedde, Working in International Development and Humanitarian Assistance: A Career Guide, [Kindle 版] Routledge, 2015.
・Brian Keeley, From Aid to Development: The Global Fight against Poverty, OECD, 2012.
・Organisation for Economic Co-Operation and Development (Corporate Author), Development Co-Operation Report 2014: Mobilising Resources for Sustainable Development, OECD Publishing, 2014.
・Organisation for Economic Co-Operation and Development, Development Co-operation Peer Reviews, Japan 2014, OECD Publishing, 2014.
・Organisation for Economic Co-Operation and Development, Making Development Co-operation More Effective 2014 Progress Report, OECD Publishing, 2014.
・Organisation for Economic Co-Operation and Development, Multilateral Aid 2015: Better Partnerships for a Post-2015 World, OECD Publishing, 2015.
・George Mavrotas and Mark McGillivray (eds.) , Development Aid: A Fresh Look, Palgrave Macmillan, 2009.
・George Mavrotas (ed.), Foreign Aid for Development: Issues, Challenges, and the New Agenda, Oxford University Press, 2010.
・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.) , Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016.
・Jens S. Srensen, Challenging the Emerging Aid Paradigm: International Aid and Development in the Twenty-first Century, Palgrave Macmillan, 2010.
・Finn Tarp, Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future (Routledge Studies in Development Economics), Routledge, 2000.
・Iain Watson, Foreign Aid and Emerging Powers: Asian Perspectives on Official Development Assistance, Routledge, 2015.
・I. William Zartman and Saadia Touval (eds.), International Cooperation: The Extents and Limits of Multilateralism, Cambridge University Press, 2010.

【成績評価の方法と基準】
春学期末および秋学期末レポート（Ａ４サイズ・５枚・受講の感想を記述すること：ワープロ作成）に基づいて、成績評価（評価のポイント：①自分で考える、②独創性・新鮮さ、③論理的展開、④説得性・感動、⑤参考文献の適切性）を行う。（備考：春学期末レポートは、後期末レポート提出時に再度提出を求めるため、コピーを必ず保存しておくこと。）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。
（参考： 2014 年度第一回および 2015 年度第二回「学生が選ぶベストティーチャー賞」二年連続受賞。２ 015 年度は、「最高票数獲得賞」と「授業の運営を工夫している部門賞」のダブル受賞）

AD137

国際協力論Ⅱ

後藤　一美

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（1）「授業の概要と目的」：本授業は、「グローバル時代の国際協力」というテーマのもと、春学期「国際協力論 I」および秋学期「国際協力論 II」の履修をとおして、「国際協力」の基礎と応用を学習することにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成を目的とする。
[備考]「国際協力（International Cooperation）」とは、複数の行為主体（主権国家、国際機関、民間企業、市民組織等）が、ある共通の目的（例えば、経済発展（貧困削減）と福祉の増進、環境保全、民主主義の確立と人権の尊重、平和と安全保障の実現等）に関する合意形成を図るために、あるいは合意された共通の目的実現のために、国境を越えて、個と全体の利益を調整しながら、持てる「力」（構想力、交渉力、実行力）をお互いに出し合う政治的プロセスのこと。より具体的には、政府開発援助（ODA）のみならず、国際機関をとおした協力、その他公的資金、民間資金、市民社会組織（CSO）による活動等を含む。
（2）「国際協力の世界」とは：現代の世界には、グローバリゼーションの嵐が吹き荒れる。うたた寝から覚まされたローカリゼーションの波頭が鎌首をもたげ時として牙をむく。海図なき航海をさまよう現代世界。乗組員は、主権国家、国際機関、地球市場、市民社会からなる多様なアクター。彼らが思い描くより善い世界とは同床異夢。ヒューマニズムとエゴイズムの両性具有の国際政治が舵を取る。一見きれいごとのように見える国際協力の実態は、様々な利害のからむ政治的プロセス。構想力・交渉力・行動力を発揮しながら、新たな選択肢と可能性の発見が求められる世界。あなたも飛び込んでみませんか。
（3）「世界がもし 100 人の村だったら」：世界の富の 90 %をたった 20 人が握っている。公的援助をはるかにこえるお金が化粧品に消費されている。その一方で、15 人が飢えで苦しんでいる。明日の世代を育てる教育にむけられるお金の 10 倍ものお金が武器売買に使われている。この結果、16 人は字を読むことさえままならない。3 秒に子どもがひとり死んでゆく。こうした世界の現実をすこしでも良い方向にむけるためのさまざまな取組みが地球規模で展開されている。100 人のなかで大学に行けるのは、たったひとり。「Vision」「Mission」「Passion」「Action」をもって、あなたの住む世界を変えるために、まずは自分自身を変えてみませんか。

【到達目標】
本講座「国際協力論」は、二部構成（春学期「国際協力論 I ：基礎編」および秋学期「国際協力論 II ：応用編」）で展開される。それぞれの到達目標は、下記のとおり。（「国際協力論 I」「国際協力論 II」あわせ履修することが望ましい。）
■「国際協力論 I ：基礎編」の具体的到達目標としては、下記のとおり。
（1）国際協力政策群のうち、興味や関心のある分野をみつける。
（2）自分なりの見解をプレゼンテーションおよび課題ペーパーの中で表現できるレベルに到達することが期待される。
（3）「Vision」「Mission」「Passion」「Action」をもって、自分の「夢」を追いかけることが期待される。
■「国際協力論 II ：応用編」の具体的到達目標としては、下記のとおり。
（1）国際協力政策群のうち関心のある分野・テーマについて更に掘り下げて学習する。
（2）関心分野・テーマに関する専門書・論文等（英語文献を含む）を読みこなしつつ、自分なりの見解をプレゼンテーションおよび課題ペーパーの中で表現できるレベルに到達する。
（3）「Vision」「Mission」「Passion」「Action」をもって、自分の「夢」を追いかけるために、より具体的な「行動計画」を描くことができる。

【授業の進め方と方法】
（1）「授業の進め方」：本講義は、グローバル時代の開発と援助をめぐる諸問題について、「開発援助政策論」（援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ）の観点から、ドキュメンタリー映像等を用いながら、現代の国際開発協力の現状と課題（「日本の国際開発協力」を含む）を考察するとともに、自分の意見を取りまとめることによって、国際協力論の基礎知識と応用力を身につける。
（2）「授業の方法」：本講義は、①映像（日本語・英語）、②講義・資料解説、③質疑応答の 3 点セットを組み合せながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としていない。また、教授による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習（グループ・ディスカッション等）とプレゼンテーション（マイクを通したコメント・意見表明）を随所に設けることにより、受講者の表現能力向上に力点を置いている。
（3）「学生へのメッセージ」：「夢追うものは夢をもつかむ」
①地球上どこでも、自然体で、感じ・考え・行動したい！ ②自分らしさを発揮して、“Something New” を創造したい！ ③主体性と自律性をもって、自分の夢を追いかけたい！ と思う学生の積極的受講を期待する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	レポート・プレゼンテーション＆指導（1）	春学期末レポートに基づく学生の発表、コメントおよび指導
2	レポート・プレゼンテーション＆指導（2）	同上
3	レポート・プレゼンテーション＆指導（3）	同上
4	レポート・プレゼンテーション＆指導（4）	同上
5	世界の国際開発協力（1）	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
6	世界の国際開発協力（2）	同上
7	世界の国際開発協力（3）	同上
8	日本の国際開発協力（1）	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
9	日本の国際開発協力（2）	同上
10	日本の国際開発協力（3）	同上
11	日本の国際開発協力（4）	同上
12	国際開発協力の評価（1）	（1）ドキュメンタリー映像等に関する学生コメント （2）テーマに基づく講義および配付資料解説
13	国際開発協力の評価（2）	同上
14	国際開発協力の課題と展望	同上
15	まとめ	秋学期末レポート提出＆講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）講義、配付資料、参考文献、その他講義内で指示された内容にもとづく学習。
（2）講義内で上映されたドキュメンタリー映像等のテーマに関する情報蒐集と学習。
（3）授業内で紹介された外部セミナー等への参加。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
＜日本語文献＞

・赤阪清隆『国際機関で見た「世界のエリート」の正体』(中公新書ラクレ) 中央公論新社、2014 年
・鮎京正訓『法整備支援とは何か』名古屋大学出版会、2011 年。
・旭英昭『平和構築論を再構築する』（増補改訂版）日本評論社、2015 年。
・朝日新聞論説委員室（編）『地球貢献国家と憲法―提言・日本の新戦略』朝日新聞社、2007 年。
・浅沼信爾、小浜裕久『途上国の旅 開発政策のナラティブ』勁草書房、2013 年。
・荒木光弥『1970 年代途上国援助―歴史の証言』『1980 年代途上国援助―歴史の証言』『1990 年代途上国援助―歴史の証言』『2000 年代途上国援助―歴史の証言』国際開発ジャーナル社、1997 年～ 2012 年。
・池上彰『世界を救う 7 人の日本人―国際貢献の教科書』日経 BP 社、2010 年。
・ウィリアム・イースタリー（著）・小浜裕久他（訳）『放漫な援助』東洋経済新報社、2009 年。
・伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書：筑摩書房、2010 年。
・伊勢崎賢治『日本人は人を殺しに行くのか 戦場からの集団的自衛権入門』(朝日新書) 朝日新聞出版、2014 年。
・井出穣治、児玉十代子『IMF と世界銀行の最前線―日本人職員がみた国際金融と開発援助の現場』日本評論社、2014 年。
・稲田十一『国際協力のレジーム分析―制度・規範の生成とその過程』有信堂、2013 年。
・上村雄彦（編著）『グローバル協力論入門―地球政治経済論からの接近』法律文化社、2014 年。
・内海成治、中村安秀『国際ボランティア論―世界の人びとと出会い、学ぶ』ナカニシヤ出版、2011 年。
・内海成治 (編) 『はじめての国際協力―変わる世界とどう向きあうか』昭和堂、2012 年。
・マイケル・エドワーズ（著）・CSO ネットワーク・杉原ひろみ（監修）『フューチャー・ポジティブ―開発援助の大転換』日本評論社、2006 年。
・NPO 研究情報センター (編集)『ヤングアダルトの本 ボランティア・国際協力への理解を深める 2000 冊』日外アソシエーツ、2015 年。
・大塚啓二郎『なぜ貧しい国はなくならないのか 正しい開発戦略を考える』日本経済新聞出版社、2014 年。
・大坪滋、木村宏恒、伊東早苗（編著）『国際開発学入門―開発学の学際的構築』勁草書房、2009 年。
・大橋正明、高橋華生子、金敬黙、長有紀枝、遠藤貢、美根慶樹『グローバル化・変革主体・NGO ―世界における NGO の行動と理論』新評論、2011 年。
・小川裕子『国際開発協力の政治過程―国際規範の制度化とアメリカ対外援助政策の変容』東信堂、2011 年。
・長有紀枝『入門 人間の安全保障 - 恐怖と欠乏からの自由を求めて』(中公新書) 中央公論新社、2012 年。
・大平剛『国連開発援助の変容と国際政治― UNDP の 40 年』有信堂高文社、2008 年。
・外務省『政府開発援助 (ODA) 白書 2013 年版 日本の国際協力』文化工房、2014 年。
・加賀隆一『実践 アジアのインフラ・ビジネス:最前線の現場から見た制度・市場・企業とファイナンス』日本評論社、2013 年。
・嘉治美佐子『国際社会で働く:国連の現場から見える世界』ＮＴＴ出版、2014 年。
・勝間靖（編著）『テキスト国際開発論』ミネルヴァ書房、2012 年。
・木原隆司『援助ドナーの経済学―情けはひとのためならず』日本評論社、2010 年。
・木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志 (編著)『開発政治学入門』勁草書房、2011 年。
・木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志（編著）『開発政治学の展開―途上国開発戦略におけるガバナンス』勁草書房、2013 年。

・草野厚『日本はなぜ地球の裏側まで援助するのか』朝日新書、2007 年。
・朽木昭文, 馬田啓一 , 石川幸一 (編著) 『アジアの開発と地域統合 新しい国際協力を求めて』日本評論社、2015 年。
・栗田匡相、野村宗訓、鷲尾友春（編著）『I 日本の国際開発援助事業』 (関西学院大学産研叢書 37) 日本評論社、2014 年。
・黒崎卓、大塚啓二郎（編著）『これからの日本の国際協力: ビッグ・ドナーからスマート・ドナーへ』日本評論社、2015 年。
・国際協力機構 (JICA)（編）『 1 人ひとりにできること 1 人のためにできること』 ダイヤモンド社、2008 年。
・国際協力機構 (監修)『持続する情熱―青年海外協力隊 50 年の軌跡』万葉舎、2015 年。
・国際開発ジャーナル社（編）『国際協力キャリアガイド 2015』国際開発ジャーナル社、2015 年。
・国連開発計画（UNDP） (著)、吉田秀美 (訳) 『世界とつながるビジネス―BOP 市場を開拓する 5 つの方法』英治出版、2010 年。
・国際機関で働く若手実務家 17 人 (著)『世界の現場で僕たちが学んだ「仕事の基本」』CCC メディアハウス、2014 年。
・後藤一美「日本の国際開発協力を問う」〔後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』(シリーズ国際開発：第 4 巻)、日本評論社、2005 年所収〕
・後藤一美（監修）『国際協力用語集』＜第３版＞、国際開発ジャーナル社、2004 年。
・小向絵理『平和構築に向けた絆―カンボジア地雷対策センターの改革・成長と南南協力の軌跡』国際開発ジャーナル社、2015 年。
・ポール・コリアー (著)、甘糟智子 (訳) 『民主主義がアフリカ経済を殺す―最底辺の 10 億人の国で起きている真実』日経 BP 社、2010 年。
・齊藤一彦, 岡田千あき, 鈴木直文『スポーツと国際協力』大修館書店、2015 年。
・坂井秀吉、朽木昭文、柳原透『現代の開発経済学: 理論と実証』ミネルヴァ書房、2014 年。
・ジェフリー・サックス (著)、鈴木主税、野中邦子 (訳) 『貧困の終焉― 2025 年までに世界を変える』早川書房、2006 年。
・佐藤寛（監修）、国際開発学会『国際協力用語集』＜第４版＞、国際開発ジャーナル社、2014 年。
・佐藤寛, 浜本篤史, 佐野麻由子, 滝村卓司 『開発社会学を学ぶための 60 冊―援助と発展を根本から考えよう』明石書店、2015 年。
・佐原隆幸, 徳永達己『国際協力アクティブ・ラーニング―ワークでつかむグローバルキャリア』弘文堂、2016 年。
・篠田英朗『平和構築入門: その思想と方法を問いなおす』 (ちくま新書) 筑摩書房、2013 年。
・清水正『青年海外協力隊がつくる日本―選考試験，現地活動，帰国後の進路』創成社、2011 年。
・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力―その新しい潮流』有斐閣、2009 年。
・下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011 年。
・下村恭民, 大橋英夫, 日本国際問題研究所 (編集) 『中国の対外援助』日本経済評論社、2013 年。
・ブルース・ジェンクス (著)、ブルース・ジョーンズ (著)、丹羽敏之 (訳) 『岐路に立つ国連開発―変容する国際協力の枠組み』 人間と歴史社、2014 年。
・庄司真理子、宮脇昇（編著）『新グローバル公共政策』晃洋書房 、2011 年。
・趙世瑛 (著, 原著), 姜喜代 (原著, 翻訳)『日韓外交史: 対立と協力の 50 年』(平凡社新書) 平凡社、2015 年。
・情報企画研究所経済協力通信部 (編集)『ODA・プラント輸出便覧』〈2015 年版〉 情報企画研究所、2015 年。
・城山英明『国際行政論』有斐閣、2013 年。
・末廣昭『新興アジア経済論――キャッチアップを超えて』岩波書店、2014 年。
・鈴木康次郎, 桑島京子, 佐伯印刷 (編集) 『プノンペンの奇跡 世界を驚かせたカンボジアの水道革命』佐伯印刷、2015 年。
・鈴木弥生『バングラディッシュ農村に見る外国援助と社会開発』日本評論社、２ 016 年。
・關洸念『成熟した民主主義国への道　日本の政治風景シリーズ１５　世界への真の貢献を目指す国家百年の大計: 日本における政府開発援助（ＯＤＡ）の課題』 [Kindle 版] Amazon Services International, Inc. 2014 年。
・高橋和志・山形辰史 (編著) 『国際協力ってなんだろう―現場に生きる開発経済学』 岩波ジュニア新書：岩波書店、2010 年。
・高松香奈『政府開発援助政策と人間の安全保障』日本評論社、2011 年。
・高柳彰夫『グローバル市民社会と援助効果: CSO/NGO のアドボカシーと規範づくり』法律文化社、2014 年。
・武内和彦, 松隈潤 (編著)『人間の安全保障―新たな展開を目指して』国際書院、2013 年。
・竹原憲雄『日本型 ODA と財政―構造と軌跡』 (MINERVA 現代経済学叢書) ミネルヴァ書房、２ 015 年。
・田中治彦『国際協力と開発教育』明石書店、2008 年。
・谷山博史『「積極的平和主義」は、紛争地になにをもたらすか?!: NGO からの警鐘』合同出版、2015 年。
・戸川正人、友松篤信『日本の ODA の国際評価―途上国新聞報道にみる日米英独仏』福村出版、2011 年。
・戸堂康之『開発経済学入門』新世社、2015 年。
・成瀬猛『マイウェイ国際協力: 中東・アフリカ・アジア 30 年の軌跡』麗澤大学出版会、2013 年。
・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学―共生の世界と日本の ODA』第四版：有斐閣、2009 年。
・西川潤、下村恭民、高橋基樹、野田真里（編著）『開発を問い直す』日本評論社、2011 年。
・西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社、2009 年。
・西口清勝, 西澤信善『メコン地域開発と ASEAN 共同体―域内格差の是正を目指して』晃洋書房、2014 年。
・日本弁護士連合会 (編)『法律家の国際協力―日弁連の国際司法支援活動の実践と展望』現代人文社、2012 年。
・橋本強司『開発調査というしかけ』創成社、2008 年。
・橋本強司『開発援助と正義』 幻冬舎ルネッサンス、2013 年。
・秦辰也『アジアの市民社会と NGO』晃洋書房、2014 年。
・花田吉隆『東ティモールの成功と国造りの課題 - 国連の平和構築を越えて - 』 (創成社新書 55) 創成社、2015 年。
・ビジネス・ブレークスルー大学総合研究所 (著), 大前研一 (監修)『もしも、あなたが「日本経済新聞社社長」「国際協力機構 (JICA) 理事長」ならばどうするか?)』(【大前研一】BBT リアルタイム・オンライン・ケーススタディ Vol.11) good.book、2015 年。
・藤岡美恵子、中野憲志、 越田清和『脱「国際協力」: 開発と平和構築を超えて』新評論、2011 年。
・藤原帰一、大芝亮、山田哲也 (編著)『平和構築・入門』 有斐閣 、2011 年。
・古川光明『国際援助システムとアフリカ: ポスト冷戦期「貧困削減レジーム」を考える』日本評論社、2014 年。
・牧田東一 (監修) 『日本の国際協力がわかる事典』PHP 研究所、2012 年。
・牧田東一『国際協力のレッスン―地球市民の国際協力論入門』学陽書房、2013 年。
・真崎克彦『支援・発想転換・NGO ―国際協力の「裏舞台」から』新評論、2010 年。
・松尾弘『開発法学の基礎理論: 良い統治のための法律学』勁草書房、2012 年。
・松村美香『利権鉱脈 小説 ODA』角川書店、2012 年。
・宮坂真弓, 吉田佑樹『JICA　国際協力レポーター - 国際協力に必要な 10 の Practice とは？ 現役女性営業部長と現役大学生が、虐殺から 19 年、急成長をとげる奇跡のルワンダに、行って、見て、感じたリアルの ODA』 デザインエッグ社、2014 年。
・エマ・モーズリー（著）、佐藤眞理子・加藤佳代（訳）『国際開発援助の変貌と新興国の台頭：被援助国から援助国への転換』明石書店、2014 年。
・ダンビサ・モヨ (著)・小浜裕久 (訳) 『援助じゃアフリカは発展しない』東洋経済新報社、2010 年。
・山内昌之『歴史のなかのイラク戦争 : 外交と国際協力』ＮＴＴ出版、2015 年。
・山口しのぶ、毛利勝彦、国際開発高等教育機構 (編), 『ケースで学ぶ国際開発』東信堂、2011 年。
・山田満（編）『新しい国際協力論』明石書店、2010 年。
・山田順一『新興国のインフラを切り拓く 戦略的 ODA の活用』廣済堂出版、2015 年。
・山本一巳・山形辰史（編）『国際協力の現場から―開発にたずさわる若き専門家達』岩波ジュニア新書 564、岩波書店、2007 年。
・山本慎一、川口智恵、田中 (坂部) 有佳子『国際平和活動における包括的アプローチ―日本型協力システムの形成過程』内外出版株式会社、2012 年。
・山本敏晴『国際協力をやってみませんか？』小学館、2012 年。
・ムハマド・ユヌス (著)、猪熊弘子 (訳) 『貧困のない世界を創る』早川書房、2008 年。
＜英語文献＞
・Jose Antonio Alonso, Jose Antonio Ocampo (eds.) , Development Cooperation in Times of Crisis, Columbia University Press, 2012.
・Nancy Birdsall and William R. Easterly, Reinventing Foreign Aid, The MIT Press, 2008.
・John Degnbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave Macmillan, 2003.
・Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Revised Edition, Earthscan, 2004.
・Maia Gedde, Working in International Development and Humanitarian Assistance: A Career Guide, [Kindle 版] Routledge, 2015.
・Brian Keeley, From Aid to Development: The Global Fight against Poverty, OECD, 2012.
・Organisation for Economic Co-Operation and Development (Corporate Author), Development Co-Operation Report 2014: Mobilising Resources for Sustainable Development, OECD Publishing, 2014.
・Organisation for Economic Co-Operation and Development, Development Co-operation Peer Reviews, Japan 2014, OECD Publishing, 2014.
・Organisation for Economic Co-Operation and Development, Making Development Co-operation More Effective 2014 Progress Report, OECD Publishing, 2014.
・Organisation for Economic Co-Operation and Development, Multilateral Aid 2015: Better Partnerships for a Post-2015 World, OECD Publishing, 2015.
・George Mavrotas and Mark McGillivray (eds.) , Development Aid: A Fresh Look, Palgrave Macmillan, 2009.
・George Mavrotas (ed.), Foreign Aid for Development: Issues, Challenges, and the New Agenda, Oxford University Press, 2010.
・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.) , Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016.
・Jens S. Srensen, Challenging the Emerging Aid Paradigm: International Aid and Development in the Twenty-first Century, Palgrave Macmillan, 2010.
・Finn Tarp, Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future (Routledge Studies in Development Economics), Routledge, 2000.
・Iain Watson, Foreign Aid and Emerging Powers: Asian Perspectives on Official Development Assistance, Routledge, 2015.
・I. William Zartman and Saadia Touval (eds.), International Cooperation: The Extents and Limits of Multilateralism, Cambridge University Press, 2010.

【成績評価の方法と基準】
春学期末および秋学期末レポート（Ａ４サイズ・５枚・受講の感想を記述すること：ワープロ作成）に基づいて、成績評価（評価のポイント：①自分で考える、②独創性・新鮮さ、③論理的展開、④説得性・感動、⑤参考文献の適切性）を行う。（備考：春学期末レポートは、後期末レポート提出時に再度提出を求めるため、コピーを必ず保存しておくこと。）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。
（参考： 2014 年度第一回および 2015 年度第二回「学生が選ぶベストティーチャー賞」二年連続受賞。２ 015 年度は、「最高票数獲得賞」と「授業の運営を工夫している部門賞」のダブル受賞）

AD337

国際機構論Ⅰ

弓削　昭子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化が進展する中で、国連を含む国際機構が、今日世界が抱える地球規模問題にいかに対処していくか、そしてその可能性とともに直面する課題について理論と実践例から検討する。
In this course on international organizations, the students will learn about the different roles and activities that various international organizations undertake to tackle key global issues. Within the context of an increasingly globalized world with many diverse players becoming more actively engaged in global issues, the course will examine the evolving role of the United Nations and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The course will cover theory and practice by reviewing the activities of various UN agencies. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by international organizations and also to work in/with international organizations.

【到達目標】
この講義では、時代と共に変化してきた国際機構、特に国連の役割と機能を把握し、21 世紀の諸問題に対してのその活動を理解することを目標とする。また、世界情勢の複雑化や国家、市民社会、民間企業などのアクターの役割が多様化していることを踏まえ、これらアクターとの関係や連携のあり方、およびグローバル・ガバナンスにおいて国連が果たしている役割についても理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
まず、国際機構成立の歴史的背景を学び、その中で国連の設立、目的、原則およびその組織の概要について学ぶ。国連システムの政策決定過程から財政、そして 21 世紀の課題である国連改革について考察する。そして、近い将来に国際社会が直面するさまざまな地球規模課題に対して国連が果たす役割と挑戦について、理論と実践例から検討する。これらには国際社会の平和と安全、ミレニアム開発目標（MDG ｓ）や持続可能な開発目標 (SDGs) を含む経済社会問題・貧困撲滅への取り組み、人権、法の支配、ジェンダーなどがあり、それぞれの課題について検討を加える。また国連システムの主要機関の特徴と役割も概観した上で、国連のパートナーとして近年ますます重要性が増している市民社会や民間企業などとの関係についても考察する。
国連を含め、国際機構で行われる実際の議論を理解し、その活動に関わるためには、国際社会の共通語となっている英語によるコミュニケーションが必須である。また国際機関での仕事に就くためにも不可欠のツールとして英語の熟達が求められる。したがって、この授業は、専門分野の学習・研究を深めるのと同時に英語力の向上もはかるため、英語で行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction to international organizations	Definition and roles of international organizations
2	Types of international organizations	Different categories and functions of international organizations
3	Background of international organizations	History of international organizations
4	Background and history of United Nations (UN)	The League of Nations; establishment of the UN

5	Foundation of the UN System	Charter of the UN; purposes and principles of the UN
6	UN System and its structure	UN structure, its principal organs, and coordination
7	UN‘s principal organs	General Assembly
8	UN‘s principal organs	Security Council
9	International peace and security	Responsibility to Protect (R2P)
10	UN‘s principal organs	Economic and Social Council
11	UN‘s principal organs	International Court of Justice
12	UN‘s principal organs	UN Secretariat
13	UN Secretary-General	UN Secretary-General‘s role, evolution, and challenges
14	Financing for the UN	UN budget and challenges in financing
15	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書と参考書の熟読、関連セミナーおよびシンポジウム等への参加

【テキスト（教科書）】
United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations 2014. United Nations Publication, New York, 2014.
Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, second edition. Palgrave MacMillan, 2012.
国際連合広報局『国際連合の基礎知識　改訂版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、2012

【参考書】
Clive Archer, International Organizations, Third edition. London and New York: Routledge, 2001.
渡部茂己・望月康恵　編著『国際機構論　総合編』（国際書院、2015）
内田孟男　編著『国際機構論』（ミネルヴァ書房、2013 年）
横田洋三　編著『新国際機構論　上・下』（国際書院、2006 年）
最上敏樹『国際機構論（第 2 版）』（東京大学出版会、2006 年）
田所昌幸・城山英明　編『国際機関と日本：活動分析と評価』（総合研究開発機構（NIRA）、日本経済評論社、2004）

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と筆記試験 (70%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉国連の平和構築と開発活動、国際機構論
〈研究テーマ〉国連システムにおける平和構築と開発活動
〈主要研究業績〉
「国連日本人職員の可能性と課題」、日本国際連合学会編『グローバル・アクターとしての国連事務局』国連研究第 3 号、国際書院、2002 年
「平和構築に向けた国連開発計画 (UNDP) の取り組み－制度改革と事業領域の再構築の視点から」『モンテレー会議後の世界の ODA の変動』、財団法人国際開発高等教育機構、国際開発研究センター、2003 年
「ポスト 2015 開発アジェンダ：日本のリーダーシップを期待」、私の提言、国連フォーラム、2013 年

AD337

国際機構論Ⅱ

弓削　昭子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の国際機構論Ⅰに続き、グローバル化が進展する中で、国連を含む国際機構が、今日世界が抱える地球規模問題にいかに対処していくか、その可能性と直面する課題について理論と実践例から検討する。
In this course on International Organizations II (following the course International Organizations I in the spring semester), the students will learn about the different roles and activities that various international organizations undertake to tackle key global issues. Within the context of an increasingly globalized world with many diverse players becoming more actively engaged in global issues, the course will examine the evolving role of the United Nations and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The course will cover theory and practice by reviewing the activities of various UN agencies. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by international organizations and also to work with/in international organizations.

【到達目標】
この講義では、時代と共に変化してきた国際機構、特に国連の役割と機能を把握し、21 世紀の諸問題に対してのその活動を理解することを目標とする。また、世界情勢の複雑化や国家、市民社会、民間企業などのアクターの役割が多様化していることを踏まえ、これらアクターとの関係や連携のあり方、およびグローバル・ガバナンスにおいて国連が果たしている役割についても理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続き、現在国際社会が直面するさまざまな地球規模課題に対して国連が果たす役割と挑戦について、理論と実践例から検討する。これらには国際社会の平和と安全、ミレニアム開発目標（MDGｓ）や持続可能な開発目標 (SDGs) を含む経済社会問題・貧困撲滅への取り組み、人権、法の支配などがあり、それぞれの課題について検討を加える。また国連システムの主要機関の特徴と役割も概観した上で、国連のパートナーとして近年ますます重要性が増している市民社会や民間企業などとの関係についても考察する。21 世紀の課題である国連改革について考察し、日本が果たす役割についても検討する。
国連を含め、国際機構で行われる実際の議論を理解し、その活動に関わるためには、国際社会の共通語となっている英語によるコミュニケーションが必須である。また国際機関での仕事に就くためにも不可欠のツールとして英語の熟達が求められる。したがって、この授業は、専門分野の学習・研究を深めるのと同時に英語力の向上もはかるため、英語で行う。

【授業計画】
回	テーマ	内容
1	Introduction and review of International Organizations I	Review of spring semester
2	International peace and security	Role of UN in international peace and security
3	Conflict prevention	Role of UN in conflict prevention
4	Peacekeeping	Role of UN in peacekeeping operations
5	Peacebuilding	Role of UN in peacebuilding
6	Peace enforcement	Disarmament and peace enforcement measures (including sanctions)

7	Regional international organizations(1)	Role of regional international organizations
8	Regional international organizations(2)	Types and activities of regional international organizations
9	Economic and social development	Economic and social development activities of the UN
10	Human security	Role of UN in human security
11	Human rights	Role and activities of UN in human rights
12	Other international organizations	OECD and other international organizations
13	UN and Japan	Partnership between UN and Japan and related issues
14	Career in the UN	Various UN careers; how to prepare to become a UN staff member
15	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書と参考書の熟読、関連セミナーおよびシンポジウム等への参加

【テキスト（教科書）】
· Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, Second Edition. Palgrave MacMillan, 2012.
· United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations 2014. United Nations Publication, New York, 2013.
· 国際連合広報局『国際連合の基礎知識 改訂版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、2012

【参考書】
· Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, Seventh Edition. Westview Press, 2014.
·渡部茂己·望月康恵 編著『国際機構論 総合編』(国際書院、2015 年)
· 内田孟男 編著『国際機構論』(ミネルヴァ書房、2013 年)
· 最上敏樹『国際機構論（第 2 版)』(東京大学出版会、2006 年)
· 横田洋三 編著『新国際機構論 上・下』(国際書院、2006 年)
· 田所昌幸・城山英明 編『国際機関と日本：活動分析と評価』(総合研究開発機構（NIRA)、日本経済評論社、2004)

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と筆記試験 (70%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

AD337

グローバルガバナンス特講Ⅰ／エネルギー資源と国際政治

伊藤 庄一

授業形式：**講義** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講は、エネルギー安全保障をめぐる外交と市場の相克、また国家間の対立や協力を理解するために必要な基本的分析枠組みや重大イシューを幅広くカバーし、現在起きている世界のエネルギー問題に対する洞察力を養うことを目的とする。
「グローバル・ガバナンス特講Ⅰ」は基礎編とし、国際エネルギー市場と国際政治との相関関係の全体像を俯瞰する。その応用編が「グローバル・ガバナンス特講Ⅱ」である。

【到達目標】
1．エネルギー問題を総合的に理解するために必要な基礎用語、概念、分析枠組みを習得する。
2．エネルギー安全保障というテーマを通じて、世界情勢を多角的に理解する視点を育む。
3．独自の問題意識や発想に基づいて調査を行う能力を養う。

【授業の進め方と方法】
本講では、第一に、エネルギー問題を理解する上での基本的な用語・概念を習得しつつ、日本及び世界が直面するエネルギー問題の現況と展望を概観する。第二に、石油産業の発展および資源ナショナリズムの盛衰をめぐる国際政治対立の歴史を俯瞰する。第三に、原子力産業と核不拡散問題とのリンケージ、そして第四に、今日ますます国際政治問題化しつつある、地球温暖化やクリーンエネルギー開発の問題を学ぶ。
毎回の授業では、冒頭、直近の国内外情勢のなかから、エネルギー安全保障問題に係るテーマをピックアップし、その背景と着眼点を解説する。受講生には、日々のエネルギー関連報道に関心をもち、日本及び国際社会が 21 世紀のエネルギー問題をどのように解決していくべきなのか、問題意識をもって授業に臨み、活発な議論に参加することを期待したい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	エネルギー安全保障の多面性に関し、政治（外交・軍事）と経済（市場）両面からアプローチする。
第２回	エネルギー安全保障とは	エネルギー安全保障の多面性に関し、政治（外交・軍事）と経済（市場）両面からアプローチする。
第３回	世界エネルギー需給の現況と展望	エネルギー分析を行う際の基礎的概念を紹介しつつ、IEA（国際エネルギー機関）等が発表している統計を用いて、世界のエネルギー需給状況の全体像を掴む。
第４回	日本のエネルギー需給の現況と展望	エネルギー自給率の極めて低い日本のエネルギー需給構造の特徴や福島第一原子力発電所事故（２０１１年）後の新たな課題を考察する。
第５回	国際エネルギー市場の構造	世界における原油、天然ガス、石炭、ウランの埋蔵分布状況を概観し、資源の「枯渇性」をめぐる諸説やエネルギー市場の特徴、価格形成メカニズム等を把握する。
第６回	資源ナショナリズムの過去と現在（１）	石油産業の誕生（１９世紀半ば）～第一次世界大戦前夜
第７回	資源ナショナリズムの過去と現在（２）	第一次世界大戦～第二次世界大戦前夜
第８回	資源ナショナリズムの過去と現在（３）	第二次世界大戦～1960 年代末
第９回	資源ナショナリズムの過去と現在（４）	第一次オイルショック～１９９０年代末
第１０回	資源ナショナリズムの過去と現在（５）	２１世紀
第１１回	世界の原子力発電利用状況	世界的な原子力発電市場拡大の背景と福島第一原子力発電所事故後の世界の動向を概観する。
第１２回	原子力開発と核不拡散問題（１）	原子力の平和利用と核不拡散問題：事例研究（インド・パキスタン）
第１３回	原子力開発と核不拡散問題（2）	原子力の平和利用と核不拡散問題：事例研究（イラン・北朝鮮）
第１４回	地球温暖化問題とエネルギー問題	地球温暖化対策を巡る国際交渉の動向を押さえた上で、クリーンエネルギー技術開発が主要国のエネルギー外交に及ぼしている影響を考察する。
第１５回	まとめ	第 1～14 回の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々、エネルギー関連情報や国際政治情勢に関する新聞記事を読むこと。

【テキスト（教科書）】
授業内容を包括的にカバーするテキストはないが、各テーマや受講生の関心に合わせて紹介していく。

【参考書】
日本エネルギー経済研究所編『改訂３版図解 エネルギー・経済データの読み方入門』、省エネルギーセンター、２０１１年。
ダニエル・ヤーギン（日高義樹・持田直武監訳)、『石油の世紀―支配者たちの興亡（上・下)』、日本放送出版協会、１９９１年）
その他、授業を通じて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
レポート（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生の目を世界大に広げると同時に、学際的・複眼的な視点を養うことの必要性や授業内容の実学性を理解してもらうという目的は達成されているようです。

AD337

グローバルガバナンス特講Ⅱ／エネルギー資源と国際政治

伊藤　庄一

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本講は、エネルギー安全保障をめぐる外交と市場の相克、また国家間の対立や協力を理解するために必要な基本的分析枠組みや重大イシューを幅広くカバーし、現在起きている世界のエネルギー問題に対する洞察力を養うことを目的とする。
「グローバル・ガバナンス特講Ⅱ」は、「グローバル・ガバナンス特講Ⅰ」で把握したエネルギー問題に係る基礎概念や基本的な分析枠組みをベースとした上で、国・地域別のエネルギー事情・政策やエネルギー地政学の事例等を学ぶ。そのため受講者は、「グローバル・ガバナンス特講Ⅰ」をすでに受講していることが大変望ましい。但し、それを必須とはしない。

【到達目標】
１．エネルギー安全保障というテーマを通じて、世界情勢を多角的に理解する視点を育む。
２．独自の問題意識や発想に基づいて調査を行う能力を養う。

【授業の進め方と方法】
本講では、第一に、日本、米国、中国、ロシア、インド、ASEAN 諸国、中東諸国のエネルギー事情・政策に焦点を当てる。第二に、地政学とエネルギー問題との相関関係を追究し、石油・天然ガスパイプラインやシーレーンをめぐる代表的な事例について学ぶ。第三に、北米で発生した「シェール革命」が国際エネルギー市場および国際政治のダイナミズムに与えた影響を学ぶ。
毎回の授業では、冒頭、直近の国内外情勢のなかから、エネルギー安全保障問題に係るテーマをピックアップし、その背景と着眼点を解説する。受講生には、日々のエネルギー関連報道に関心をもち、日本及び国際社会が 21 世紀のエネルギー問題をどのように解決していくべきなのか、問題意識をもって授業に臨み、活発な議論に参加することを期待したい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	本講の全体像や学生の課題・評価法を説明する。
第２回	日本のエネルギー事情・政策（１）	第一次オイルショック発生後の主要なエネルギー政策とその成果を概観する。
第３回	日本のエネルギー事情・政策（２）	福島第一原子力発電所事故発生後に、日本国内で活発化した新たなエネルギー政策・議論を整理し、議論する。
第４回	米国のエネルギー事情・政策	「シェールガス革命」によるエネルギー自給率の大幅向上が米国の世界戦略に与え得る影響を考察する。
第５回	中国のエネルギー事情・政策	エネルギー需要の急増に伴う、海外資源獲得戦略の強化やその国際的影響を考察する。
第６回	ロシアのエネルギー事情・政策	世界屈指の産油・産ガス国であるロシアの現況及び未開発ポテンシャルを考察する。
第７回	ASEAN 諸国・インドのエネルギー事情・政策	エネルギー需要の急増に伴う、海外資源獲得戦略の強化やその国際的影響を考察する。
第８回	中東諸国のエネルギー事情・政策	世界最大の産油地帯である中東地域の混乱がエネルギー市場に与えている影響を考察する。
第９回	エネルギー問題の地政学	「地政学」とは何かを再考すると共に、様々な地政学的ない影響がエネルギー問題に与えている影響を考察する。
第１０回	エネルギー資源を巡る地政学（１）	ユーラシア大陸における原油・天然ガスパイプライン建設（構想）をめぐる関係諸国の対立を考察する。
第１１回	エネルギー資源を巡る地政学（２）	シーレーン（特に、ホルムズ海峡、マラッカ海峡）を巡る問題を考察する。
第１２回	エネルギー資源を巡る地政学（３）	シーレーン（特に、南シナ海、東シナ海、北極海）を巡る問題を考察する。
第１３回	シェール革命後のエネルギー国際関係	北米で発生した「シェール革命」が国際政治に与えている現況と展望をグローバルな観点から考察する。
第１４回	アジア太平洋をめぐるエネルギー国際関係	アジア太平洋地域のエネルギー市場と地政学の相克を考察する。
第１５回	まとめ	第 1～14 回の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
日々、エネルギー関連情報や国際政治情勢に関する新聞記事を読むこと。

【テキスト（教科書)】
授業内容を包括的にカバーするテキストはないが、各テーマや受講生の関心に合わせて紹介していく。

【参考書】
●　豊田正和・森本敏・日本エネルギー経済研究所、『エネルギーと新国際秩序』、エネルギーフォーラム、2014 年。

● ダニエル・ヤーギン（伏見威蕃訳）『探求（上下）』、日本経済新聞出版社、2012 年。
● その他、授業を通じて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
レポート（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生の目を世界大に広げると同時に、学際的・複眼的な視点を養うことの必要性や授業内容の実学性を理解してもらうという目的は達成されているようです。

AD337

アジア国際政治特講／海の国際政治学Ⅰ

小谷　哲男

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、海からアジアの国際政治を理解し、日本がアジアの海で抱える政策課題を考察することである。海の国際政治を理解するのに必要な分析枠組みは地政学と海洋法である。本講義を通じて、学生は歴史を紐解きながら、地政学と海洋法の基礎知識を身につけ、地理と国際法が国家の対外政策に及ぼす影響を理解するとともに、日本の海洋政策の現状と問題点を考察することができる。また、アジアの急速な経済発展は海洋を通じた貿易に支えられているが、学生はアジアを海からみることによって社会で必要となる国際政治経済やグローバルガバナンスの専門知識を深めることができる。

【到達目標】
尖閣諸島の領有権をめぐる日中対立が続いているが、中国の海洋進出、島の領有権問題、漁業権問題、海底資源をめぐる確執、核関連物質の拡散、海賊、テロなど、アジアの海では様々な問題が起こっている。なぜ中国は東シナ海や南シナ海で周辺諸国と対立しているのか。なぜ、竹島と北方領土は返ってこないのか。なぜ、アメリカ海兵隊は沖縄にいなければならないのか。なぜ、現代の世界に海賊が出没するのか。そして、ホルムズ海峡は本当に封鎖されるのか――「海の政治学」ではこれらの問題を理解し、解決策を考える力を身につけることを目指す。

【授業の進め方と方法】
本講義では、地政学と海洋法の基礎知識を学ぶ。１８世紀末以降、地政学は海を国家の権力の重要な要素としてとらえ、大陸国家の対義語として海洋国家という概念を生み出したが、特に海が国家の繁栄を左右することに注目するシーパワー理論に注目する。海を管理するための海洋法の起源は古代ギリシア時代にさかのぼり、２０世紀に入って国連海洋法条約という形での確立をみたが、国家の権力が及ぶ領海とどこにも属さない公海という概念の対立と、排他的経済水域の発展に注目する。秋学期開講の「海の国際政治学 II」では、本講義で学んだ分析枠組みを通じて「海洋国家日本」の歴史を振り返った後、日本が海のアジアで直面する様々な政策課題・時事問題を検討する。なお、試験は記述式が中心のため、毎回十分にノートを取ることが求められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法等の説明
第 2 回	海洋文明	地中海海洋文明
第 3 回	海洋文明	大航海時代
第 4 回	地政学	地理と地政学
第 5 回	地政学	シーパワー理論
第 6 回	地政学	大陸国家と海洋国家
第 7 回	海洋法	自由海と閉鎖海
第 8 回	海洋法	海洋法の発展
第 9 回	海洋法	国連海洋法条約と排他的経済水域
第 10 回	海洋法	海賊の歴史と海洋法
第 11 回	現代のシーパワー	現代の海運事情
第 12 回	現代のシーパワー	アメリカの海洋戦略
第 13 回	現代のシーパワー	中国の海洋戦略
第 14 回	現代のシーパワー	法律戦と航行の自由
第 15 回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習

【テキスト（教科書）】
なし（PPT でレジュメを表示）

【参考書】
青木栄一『シーパワーの世界史１，２』（出版協同社、１９８２－３年）
高坂正堯『海洋国家日本の構想』（中公クラシックス、２００８年）
曽村保信『海の政治学』（中公新書、１９８８年）
曽村保信『地政学入門』（中公新書、１９８４年）
立川京一他『シー・パワー』（芙蓉書房出版、２００８年）
読売新聞政治部『基礎からわかる日本の領土・海洋問題』（中公新書クラレ、２０１２年）
村田良平『海が日本の将来を決める』（成山堂書店、２００６年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（１５％）
レポート（２５％）
筆記試験（６０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
時事問題に関して、学生の間での議論ができる機会を設けることとする。

AD337

アジア国際政治特講／海の国際政治学Ⅱ

小谷　哲男

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、海からアジアの国際政治を理解し、日本がアジアの海で抱える政策課題を考察することである。海の国際政治を理解するのに必要な分析枠組みは地政学と海洋法である。本講義を通じて、学生は歴史を紐解きながら、地政学と海洋法の基礎知識を身につけ、地理と国際法が国家の対外政策に及ぼす影響を理解するとともに、日本の海洋政策の現状と問題点を考察することができる。また、アジアの急速な経済発展は海洋を通じた貿易に支えられているが、学生はアジアを海からみることによって社会で必要となる国際政治経済やグローバルガバナンスの専門知識を深めることができる。

【到達目標】
尖閣諸島の領有権をめぐる日中対立が続いているが、中国の海洋進出、島の領有権問題、漁業権問題、海底資源をめぐる確執、核関連物質の拡散、海賊、テロなど、アジアの海では様々な問題が起こっている。なぜ中国は東シナ海や南シナ海で周辺諸国と対立しているのか。なぜ、竹島と北方領土は返ってこないのか。なぜ、アメリカ海兵隊は沖縄にいなければならないのか。なぜ、現代の世界に海賊が出没するのか。そして、ホルムズ海峡は本当に封鎖されるのか――「海の政治学」ではこれらの問題を理解し、解決策を考える力を身につけることを目指す。

【授業の進め方と方法】
本講義では、地政学と海洋法の基礎知識を基に、「海洋国家日本」の歴史を振り返った後、日本が海のアジアで直面する様々な政策課題を検討する。アジアは太平洋とインド洋という広大な海洋に面しており、中国の海洋進出、建艦競争、境界画定・領有権争い、資源開発、海賊・テロ等の問題が存在する。これらの問題を北東アジア海域、東南アジア海域、南アジア海域、ペルシャ湾・中東海域に分類して考察し、「海洋国家日本」のあり方を考える。なお、試験は記述式が中心で、毎回十分にノートを取ることが求められる。また、春学期に「アジア国際政治特講／海の国際政治学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法等の説明
第 2 回	海洋国家日本	島国日本と鎖国
第 3 回	海洋国家日本	開国と日英同盟
第 4 回	海洋国家日本	ワシントン海軍軍縮条約と太平洋戦争
第 5 回	海洋国家日本	冷戦と日米同盟
第 6 回	海洋国家日本	海洋基本法と海洋基本計画
第 7 回	時事問題	東シナ海問題
第 8 回	時事問題	北方領土、竹島、沖ノ鳥島
第 9 回	時事問題	南シナ海問題
第 10 回	時事問題	マラッカ海峡の海賊問題
第 11 回	時事問題	ソマリアの海賊問題
第 12 回	時事問題	ペルシャ湾問題
第 13 回	時事問題	北極海問題
第 14 回	時事問題	インド洋問題
第 15 回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習

【テキスト（教科書）】
なし（PPT でレジュメを表示）

【参考書】
青木栄一『シーパワーの世界史１，２』（出版協同社、１９８２－３年）
高坂正堯『海洋国家日本の構想』（中公クラシックス、２００８年）
曽村保信『海の政治学』（中公新書、１９８８年）
曽村保信『地政学入門』（中公新書、１９８４年）
立川京一他『シー・パワー』（芙蓉書房出版、２００８年）
読売新聞政治部『基礎からわかる日本の領土・海洋問題』（中公新書クラレ、２０１２年）
村田良平『海が日本の将来を決める』（成山堂書店、２００６年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（１５％）
レポート（２５％）
筆記試験（６０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
時事問題について学生間で議論をする機会を設ける。

AD337

朝鮮半島の政治と社会Ⅰ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は主に 1945 年以後の朝鮮半島の政治・経済・社会を主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。

【到達目標】
朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【授業の進め方と方法】
この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程を講義する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第２回	朝鮮半島の分断	38 度線の由来 分断の状況、分断の責任
第３回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第４回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第５回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第６回	４・１９学生革命と５・１６軍事クーデター	４・１９学生革命と５・１６軍事クーデターを解説
第７回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第８回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第９回	全斗煥政権	1979-88 年
第１０回	民主化運動とその実現	1987 年新憲法成立
第１１回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第１２回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第１３回	李明博、朴槿恵政権	その政策を中心に
第１４回	対日政策	日本との関係
第１５回	北朝鮮の権力体制と経済破綻	金日成、金正日、金正恩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube など）を見てくるように求めることがある。

【テキスト（教科書）】
開講時に開示する

【参考書】
1. 木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012 年
2. ドン・オーバードーファー、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島　』共同通信社, 2015 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（１０％）、試験（９０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

AD337

朝鮮半島の政治と社会Ⅱ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は主に 1945 年以後の朝鮮半島の政治・経済・社会を主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。

【到達目標】
朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【授業の進め方と方法】
この授業では、朝鮮半島の政治制度・社会システム・文化を分析する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第２回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略
第３回	北朝鮮の核開発問題	核兵器、ミサイル能力
第４回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第５回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第６回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第７回	韓国の経済制度１	財閥、不動産
第８回	韓国の経済制度２	不動産、税金、福祉
第９回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第１０回	教育制度	受験戦争
第１１回	韓国の社会問題１	地域対立、格差問題
第１２回	韓国の社会問題２	女性関連
第１３回	予備日	時事問題など
第１４回	日韓の歴史問題	過去認識の問題 領土問題
第１５回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube など）を見てくるように求めることがある。

【テキスト（教科書）】
1. 木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012 年
2. ドン・オーバードーファー、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島　』共同通信社, 2015 年

【参考書】
授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（１０％）、試験（９０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

AD337

オセアニアの政治と社会Ⅰ

長島　怜央

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オセアニアの政治と社会について、植民地化、近代化、都市化、アメリカ化、軍事化などとして捉えられる変化に着目して考える。本科目では、現代の人々のアイデンティティや社会運動と、欧米諸国や日本による表象とに焦点を当てる。なお、「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の内容と密接に関連している。

【到達目標】
・オセアニアの島々が抱える植民地化や軍事化などの諸問題の歴史や構造を理解できる。
・オセアニアと日本の関係を十分に理解したうえで日本の役割について考えることができる。

【授業の進め方と方法】
講義形式で資料やレジュメを配布し、映像資料を活用しながら進める。参加者には毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内で発表してもらったり、課題を提出してもらったりすることも予定している。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更（順序や内容など）があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマ、到達目標、概要と方法に関する説明
第 2 回	「オセアニア」とは？	「オセアニア」をめぐる呼称、範囲、概念を検討
第 3 回	オセアニアへの人類の進出とくらし	人々の移動、文化
第 4 回	オセアニアの植民地化	ヨーロッパ人の進出
第 5 回	多文化社会①	プランテーション、移民
第 6 回	多文化社会②	都市化、アメリカ化
第 7 回	先住民運動①	先住民アイデンティティの形成
第 8 回	先住民運動②	多文化主義と先住民の権利
第 9 回	文化復興運動①	オセアニアの文化や芸術に関する動き
第 10 回	文化復興運動②	各地の動き
第 11 回	観光とメディア①	メディアの果たしてきた役割
第 12 回	観光とメディア②	現代のメディアでの表象
第 13 回	観光と文化①	観光と文化の複雑な関係
第 14 回	観光と文化②	観光と文化の複雑な関係
第 15 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料や参考書を読んで、予習・復習する。

【テキスト（教科書）】
適宜レジュメと資料を配付する。

【参考書】
山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための 54 章』明石書店、2012 年。
山本真鳥・山田亨編『ハワイを知るための 60 章』明石書店、2013 年。
長島怜央『アメリカとグアム——植民地主義、レイシズム、先住民』有信堂高文社、2015 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、試験（60 %）とする。平常点は課題や毎回の授業後に書いてもらうコメントなどに基づいて評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
体験談等のさまざまな情報を交えようと思います。

AD337

オセアニアの政治と社会Ⅱ

長島　怜央

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　オセアニアの政治と社会について、植民地化、近代化、都市化、アメリカ化、軍事化などとして捉えられる変化に着目して考える。本科目では、軍事や安全保障に関する問題に焦点を当てる。なお、「オセアニアの政治と社会Ⅰ」の内容と密接に関連している。

【到達目標】
・オセアニアの島々が抱える植民地化や軍事化などの諸問題の歴史や構造を理解できる。
・オセアニアと日本の関係を十分に理解したうえで日本の役割について考えることができる。

【授業の進め方と方法】
　講義形式で資料やレジュメを配布し、映像資料を活用しながら進める。参加者には毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内で発表してもらったり、課題を提出してもらったりすることも予定している。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更（順序や内容など）があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマ、到達目標、概要と方法に関する説明
第 2 回	「オセアニア」とは？	前提知識の確認
第 3 回	日本からの移民	ミクロネシアやハワイへの移民
第 4 回	日本による南洋群島統治①	南洋群島統治、委任統治
第 5 回	日本による南洋群島統治②	移民と現地住民
第 6 回	南洋群島にとっての太平洋戦争	地上戦の概要、沖縄戦との比較
第 7 回	「核の海」オセアニア①	ミクロネシアの信託統治
第 8 回	「核の海」オセアニア②	核実験による被害
第 9 回	「核の海」オセアニア③	核実験と日本
第 10 回	「核の海」オセアニア④	日本との関係
第 11 回	軍事化①	米軍再編とオセアニア
第 12 回	軍事化②	グアムの軍事化、沖縄からの海兵隊移転
第 13 回	脱植民地化と脱軍事化①	植民地化・軍事化とオセアニアの社会運動
第 14 回	脱植民地化と脱軍事化②	政治的・経済的自立に向けた取り組み
第 15 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料や参考書を読んで、予習・復習する。

【テキスト（教科書）】
テキストは授業内でお知らせする予定。その他、適宜レジュメと資料を配付する。

【参考書】
山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
中原聖乃・竹峰誠一郎『核時代のマーシャル諸島』凱風社、2013 年。
竹峰誠一郎『マーシャル諸島 終わりなき核被害を生きる』新泉社、2015 年。
長島怜央『アメリカとグアム――植民地主義、レイシズム、先住民』有信堂高文社、2015 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、試験（60 %）とする。平常点は課題や毎回の授業後に書いてもらうコメントなどに基づいて評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
各回の全体のなかでの位置づけが分かるような説明をもう少し加えるようにしたいと思います。

AD337

平和・軍事研究Ⅰ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。
　この科目は軍事というレンズで世界を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことについて現実とのダイアローグを行い、考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論に走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】
平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【授業の進め方と方法】
世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。
　被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第 2 回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第 3 回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第 4 回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第 5 回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第 6 回	Middle Power の核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方
第 7 回	冷戦終了後の核兵器状況	2013 年の時点で、世界に 1 万発の核兵器が現存
第 8 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 9 回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器を持とうとしているか。
第 10 回	日本の冷戦時代の戦略	「非核 3 原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第 11 回	日本の核能力	「T-1 戦略」を説明する。
第 12 回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第 13 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 14 回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は可能か
第 15 回	安全保障に関する考え方	100 %安全は存在しない。それを追求してはならない。「安全はほどほどに」の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube など）を見てくるように求めることがある。

【テキスト（教科書）】
開講時に開示する

【参考書】
授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（10%）、試験 (90 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

AD337

平和・軍事研究Ⅱ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の前半は、戦争を防止し平和管理 を保障するために先人たちが考え出した様々な平和方策について綿密な検討を行う。授業の後半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析を行ったうえ、日本をめぐる東アジアの軍事情勢の分析を行う。
これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】
平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【授業の進め方と方法】
主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	平和とは何か	..
第 2 回	超大国による平和 勢力均衡による平和	..
第 3 回	集団安保による平和 軍備競争による平和	..
第 4 回	世界政府、国連による平和	..
第 5 回	世界政府、国連による平和 地域統合、国際法による平和	..
第 6 回	機能主義（functionalism）による平和	..
第 7 回	終戦の状況と戦後日本のスタート	平和憲法、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約
第 8 回	日本の軍事政策１	日米安保
第 9 回	日本の軍事政策２	核政策・防衛大綱
第 10 回	日本の軍事政策３	自衛隊とその装備
第 11 回	領土問題	個別の領土問題を概観
第 12 回	中国の軍事政策１	..
第 13 回	中国の軍事政策２	..
第 14 回	北朝鮮の軍事政策	..
第 15 回	韓国の軍事政策	..

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献を読み、感想文の提出を求められることもある。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。

【参考書】
開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（10%）、試験（90 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

AC337

日露関係論Ⅰ

アンドレイ・クラフチェビチ

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。
隣国同士である日本とロシアの関係は歴史的に見れば同質であったとは言えない。両国関係は地政学的な争いや戦争対立の時期もあった。時には両国は正常な関係を持つこともあったが、友好・協力関係までには至っていない。特にそれは二十世紀に日本の敵国又は対立国であった米国、中国、韓国等との関係史と比べれば差異が分かる。冷戦時代が終わり、イデオロギ的対立もなくなったはずの日本とロシアの関係は両国が期待していたように進展していない。その要因として領土問題が横たわっていると良く言われている。一方、領土問題は日中，日韓関係にも存在しているにも拘らず友好・協力関係発展に重要な障害にはなっていない。
経済協力関係を一般的に見れば両国は相互補完性があると言える。ロシアには豊かな天然資源、公大な領土、訓練した労働力、発展した基礎研究・開発がある。他方、日本には資源が不足しており、領土が狭い、資本、先端技術、優れた経営経験がある。しかしながら経済協力関係は期待したほど進んでいない。日露関係を改善するためには何が必要なのか、どうすればよいのかを論じてみたい。
本講義では日露関係を例として使用しながら近現代国際政治外交史に関する基礎知識を共有した上で帝政ロシア、ソ連時代と現在のロシア外交における対日基本的な論点についての様々な意見と評価（日本だけではなくロシア、ヨーロッパ、アメリカの専門家を含む）をプレゼントすることを目指す。国際社会に於いても存在感を拡大する対ロシアの日本外交政策と並びに、対日ロシアの外交政策について理解することにより、履修者の国際政治学や国際法の種々可能な解説に関する専門知識がより深まることも期待している。
キーワード：
国際政治学、アジアにおける国際政治、基礎知識、専門知識、日露関係

【到達目標】
本講義の目標は国際政治全体構造、論理、方向を理解することにある。日露関係の基本知識を習得するために日露関係の歴史と現状を分析し、これらの日露両国間の問題を全面的明確に理解する授業の目的である。この二国間関係を学習する例に基づいて外部のファックターの影響を考慮して、他の国際政治外交問題を様々な側面から分析するスキルを獲得することができる。

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義である。歴史の流れに応じて日露関係の発展を考究する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	世界政治・アジア太平洋地域における日露関係： 本講義の具体的なテーマ及び教育目標を詳しく説明する
第２回	最初の接触（16 － 17 世紀）	最初の接触前後各国の相手国に関する知識・知覚; 将来の関係のため各国の知識獲得方法を示す
第３回	ロシアでの日本人、日本でのロシア人（17 － 18 世紀前半）	非公式関係：漂流民とアイヌの役割; 関係設立のための準備方法を示す
第４回	日露関係創設の試み（18 世紀後半－ 19 世紀前半）	日本との関係を設立するロシアの動因と政策、日本の対応　（ベニョフスキー、フヴォストフとダヴィードフ、ゴロヴニン事件）; 相手国の理解不測の結果を示す
第５回	日露関係の平和的発展：外交関係設立、最初の条約	日本開国：米国のピーリとロシアのプチャーチンの外交; 外交方式の実例を示す
第６回	北東アジアにおける日露の地政学的対立、日露戦争	日露戦争は必然であったのかを論じる; 帝国主義時代の論理を示す
第７回	第一次大戦の同盟国からロシア革命後の日本のシベリア出兵まで	元敵国の接近・日露軍事同盟; 国際事情変更の役割を示す
第８回	日本のシベリア出兵と外交関係復興	日露関係における日本のシベリア出兵の役割; 戦略国のイメージ形成を示す
第９回	北東アジアにおける日ソの対立：緊張から武力闘争や小規模戦争まで	世界大戦事前に両国の戦略と戦術
第 10 回	第二次大戦と日ソ中立条約の締結と不思議、奇妙な中立と日ソ戦争	日ソ戦争は違法であったか; 国際法と戦争論理を示す
第 11 回	日本の敗戦、サン・フランシスコ講和条約、領土問題の発生	二国間関係における第三国の役割：ソ連は何故サン・フランシスコ講和条約を調印しなかったか; 国際関係における冷戦論理を示す

第 12 回	日ソ共同宣言と外交関係設立、日ソ関係の歩み：対立と協力	1956 年モスクワで事実上何の折り合いをつけたか、イデオロギー対立は必ず関係発展の障害であるか; 国際関係における情報不足の役割を示す
第 13 回	両国における相手国に関する知覚とステレオタイプ	過去は現在をひったくる： 1990 年代はどうして失われたか；歴史的記憶と日露関係; 対外関係における大衆意識の役割を示す 冷戦論理の失敗を示す
第 14 回	ソ連崩壊後日露関係：期待と結果	ロシアに対する圧力の試みの失敗後、漸進的全面的発展：政治、経済、文化、技術等; 関係発展の潜在的可能を表す
第 15 回	２１世紀の日露関係：足踏み	領土問題解決の試み：両国民が受け入れ可能な解決を検索する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各テーマに関する参考文のリストから適当な資料を読む。

【テキスト（教科書）】
指定教科書、テキストはない。もっとも推薦する本：
五百旗頭真、下斗米伸夫、A.V. トルクノフ、D.V. ストレリツォフ（編）. 日ロ関係史。パラレル・ヒストリーの挑戦。東京大学出版会、2015.ISBN978-4-13-026265;
長谷川毅「北方領土問題と日露関係」筑摩書房、2000 年、ISBN480-8611-4C1021;
Joseph P. Ferguson, *"Japanese-Russian Relations, 1907-2007"*, Routledge, 2008;
Alexander Bukh, *"Japan's National Identity and Foreign Policy. Russia as Japan's 'Other'"*, Routledge, 2010;
Kimie Hara, *"Cold War Frontiers in Asia-Pacific"*, Routledge, 2007。
長谷川毅「北方領土問題と日露関係」筑摩書房 (2000/04)、ISBN480-8611-4C1021;
木村 汎「遠い隣国：ロシアと日本」世界思想社 (2002/05)、ISBN4-7907-0931-0;
原貴美恵「サンフランシスコ平和条約の盲点」渓水社（2005/06）,ISBN4-87440-873-7
アレクサンドル・パノフ「不信から信頼へ－北方領土交渉の内幕」サイムル出版会、1992　ISBN4-377-30946-3
アレクサンドル・パノフ「雷のち晴れー日露外交七年の真実」日本放送出版協会、2004　ISBN4-14-081005-x
ロシア史研究会編「日露 200 年―隣国ロシアとの交流史」彩流社、1993　ISBN4-88202-263-x
和田 春樹 「北方領土問題―歴史と未来」 朝日選書, １９９９年３月２５日、ISBN4-02-259721-6;
和田春樹「領土問題をどう解決するか．対立から対話へ」平凡社、2012。ISBN978-4582-85657-6
和田春樹、「開国―日露国境交渉」日本放送出版協会、1991,ISBN　4-14-001620-5
東郷和彦、「歴史認識を問い直すー靖国、慰安婦」角川 one テーマ 21,2013. ISBN 978-404-110453-8
和田敏明「北方領土の幻覚」叢文社１９８１年6月２５日、ISBN4-7947-0024-5
東郷和彦「北方領土交渉秘録：失われた五度の機会：新潮社、2007. ISBN 978-4-10301771-1
保坂正康、東郷和彦「日本の領土問題―北方四島、竹島、センカク諸島」角川 one テーマ 21,　2012, ISBN 978-4-04-110162-9
下斗米 伸夫「北方領土 Q&A80」小学館文庫文庫 1999/12
下斗米 伸夫「アジア冷戦史」 中公新書 2004/9
岩下明裕「北方領土・竹島・尖閣、これが解決策」朝日新書 2013、ISBN978-4-02-273514-0
岩下明裕「北方領土問題―４でも０でも、２でもなく」中央新書、2005,ISBN4-12-101825-7 C1231
岩下明裕「「四島」幻覚を乗り越えた」朝日新聞社２０１３年７月３０日、ISBN978-4-02-273514-0

【参考書】
木村 汎「遠い隣国：ロシアと日本」世界思想社 (2002/05)、ISBN4-7907-0931-0;
アレクサンドル・パノフ「不信から信頼へ－北方領土交渉の内幕」サイムル出版会、1992　ISBN4-377-30946-3
アレクサンドル・パノフ「雷のち晴れー日露外交七年の真実」日本放送出版協会、2004　ISBN4-14-081005-x
ロシア史研究会編「日露 200 年―隣国ロシアとの交流史」彩流社、1993　ISBN4-88202-263-x
和田 春樹 「北方領土問題―歴史と未来」 朝日選書, １９９９年３月２５日、ISBN4-02-259721-6;
和田春樹「領土問題をどう解決するか．対立から対話へ」平凡社、2012。ISBN978-4582-85657-6
和田春樹、「開国―日露国境交渉」日本放送出版協会、1991,ISBN　4-14-001620-5
東郷和彦、「歴史認識を問い直すー靖国、慰安婦」角川 one テーマ 21,2013. ISBN 978-404-110453-8
和田敏明「北方領土の幻覚」叢文社１９８１年6月２５日、ISBN4-7947-0024-5
東郷和彦「北方領土交渉秘録：失われた五度の機会：新潮社、2007. ISBN 978-4-10301771-1
保坂正康、東郷和彦「日本の領土問題―北方四島、竹島、センカク諸島」角川 one テーマ 21,　2012, ISBN 978-4-04-110162-9
下斗米 伸夫「北方領土 Q&A80」小学館文庫文庫 1999/12
下斗米 伸夫「アジア冷戦史」 中公新書 2004/9
岩下明裕「北方領土・竹島・尖閣、これが解決策」朝日新書 2013、ISBN978-4-02-273514-0
岩下明裕「北方領土問題―４でも０でも、２でもなく」中央新書、2005,ISBN4-12-101825-7 C1231
岩下明裕「「四島」幻覚を乗り越えた」朝日新聞社２０１３年７月３０日、ISBN978-4-02-273514-0
Tsuyoshi Hasegawa, *The Northern Territories Dispute and Russo-Japanese Relations*, 2 volumes. International and Area Studies, Research Series/Number, Series/Number 97, Berkeley: University of California at Berkeley, 1998.ISBN 0-87725-197-5
Kimie Hara. *Japanese-Soviet/Russian Relations since 1945. A Difficult Peace*.The Nissan Institute/Routledge Japanese Studies Series.London and New-York, 1998.ISBN 0-415-19499-7
Joseph P. Ferguson. *Japanese-Russian Relations, 1907-2007*. Routledge Contemporary Japan Series. London and New York, 2008 ISBN 0-415-45314-3
Marc S. Gallicchio, *The Cold War Begins in Asia. American East Asia Policy and the Fall of the Japanese Empire*. Columbia University Press, 1988.ISBN 978-0-231-06502-3
Gilbert Rozman, ed., *Japan and Russia: The Tortuous Path to Normalization, 1949-1999*. New York: St. Martin's Press, 2000, ISBN 0-312-22877-3
Gilbert Rozman, *Japan's Response to the Gorbachev Era, 1985-1991: A Rising Superpower Views A Declining One*. Princeton University Press, Princeton, 1992. ISBN 0-691-03189-4(CL)
Tsuyoshi Hasegawa, Jonathan Haslam, and Andrew C. Kuchins, eds., *Russia and Japan: An Unresolved Dilemma between Distant Neighbors*, International and Area Studies, Research Series/Number 87, Berkeley: University of California Berkeley, 1993.ISBN 0-87725-187-8
Tsuyoshi Hasegawa. *Racing the Enemy. Stalin, Truman, and the Surrender of Japan*. The Belknap Press of Harvard University Press. London, 2005.ISBN 0-674-01693-9
Semyon Verbitsky, Tsuyoshi Hasegawa,and Gilbert Rozman, eds., *Misperceptions between Japan and Russia*. University of Pittsburgh, The Carl Beck Papers in Russian & East European Studies, 2000. ISSN 0889-275X
Kazuhiko Togo. *Japan's Foreign Policy 1945-2003. The Quest for a Proactive Policy.* Brill, Leiden-Boston, 2005.ISBN 90 04 14796 9
Hiroshi Kimura. *Distant Neighbors*. 2 volumes. M.E. Sharpe. Armonk, New York; London 2000.ISBN 0-7656-0585-6
Hiroshi Kimura. *The Kurilian Knot. A History of Japanese-Russian Border Negotiations*. Stanford University Press, Stanford, 2007. ISBN 978-0-8047-5835-2
Kimura Hiroshi, *Islands or Security? Japanese-Soviet Relations under Brezhnev and Andropov*. Nichibunken, Kyoto, 1998. ISSN 1344-4972
Natasha Kuhrt. *Russian Policy towards China and Japan. The El"tsin and Putin periods*. BASEES/Routledge Series on Russian & East European Studies, London and New-York, 2007. ISBN 0-415-30578-0
Japan, Russia and the Northern Territories Dispute: Neighbors in Search of a Good Fence. Naval Postgraduate School Monterey CA report number A920704, Storming Media, 2002. ISBN: 978-1423507499
Rozman Gilbert、 *The Intensified Search for a Solution to the Territorial Dispute: September 11 Fosters Progress in Russo-Japanese Relations*,Russian Regional Report, Jan. 16, 2002.
Tsuyoshi Hasegawa, *Between War and Peace: Origins of the Northern Territories Dispute and Russian-Japanese Relations Under Gorbachev and Yeltsin.*Washington, The National Council for Soviet and East European Research, 1996.
Brad Williams. *Resolving the Russo-Japanese Territorial Dispute.* The Nissan Institute/Routledge Japanese Studies, London and New-York, 2007.ISBN 0-415-41321-4
Kumitada Miwa. *Japan's "Northern Territories"*. Tokyo, Sofia University, 1992
William F. Nimmo. *Japan and Russia. A Reevaluation in the Post-Soviet Era.* Greenwood Press, Westport, Connecticut-London, 1994.ISBN 0-31328440-7
Tsuneo Akaha, "*Distant Neighbors: Japanese Intellectuals' Views of Russia*,"a paper presented at the Annual Meeting of the Association for Asian Studies, San Diego, March 9-12, 2000.
George Alexander Lensen, *The Russian push toward Japan: Russo-Japanese relations,1697-1875*. Octagon Books, 1971. ISBN 0374949360
Maurice Hindus.*Russia and Japan.* Doubleday, Doran and Co., Inc. New York 1942. ISBN 978-1-40676-808-4
John J. Stephan, *The Kuril Islands: Russo-Japanese Frontiers in the Pacific,*Oxford University Press, 1975. ISBN 978-0198215639
David Rees. *The Soviet Seizure of Kuriles*. Praeger Publishers, 1985.ISBN-13: 978-0030025525
Inoguchi Takashi and Purnendra Jain, ed., *Japanese Foreign Policy Today.*Palgrave, New York 2000, ISBN 0-312-22707-8
Il Yung Chung and Eunsook Chung, eds., *Russia in the Far East and Pacific Region*. The Sejong Institute: Seoul, 1994, ISBN-13: 978-8974293031
Gennady Chufrin, ed., *Russia and Asia: The Emerging Security Agenda*. Stockholm International Peace Research Institute, Stockholm 2000.ISBN 978-0198296546
William McOmie, *The Opening Of Japan, 1853-1855: A Comparative Study Of The American, British, Dutch And Russian Naval Expeditions To Compel The Tokugawa Shogunate to Conclude Treaties And Open Ports*. Global Oriental, 2006. ISBN 978-1901903768

J. Thomas Rimer, ed. *A Hidden Fire: Russian and Japanese Cultural Encounters 1868-1926*. Stanford University Press, Stanford, 1995. ISBN 0-8047-2513-6
Yulia Mikhailova and M. William Steele, ed. *Japan and Russia: Three Centuries of Mutual Images*. Global Oriental Ltd., 2008. ISBN 978-1905246427
Watanabe Koji, ed., *Engaging Russia in Asia Pacific*.
Tokyo: Japan Center for International Exchange, 1999. ISBN 978-4889070293
Toshiyuki Akizuki, Haruki Wada, *Opening the Country: Russo-Japanese Boundary Negotiations* ASJ N 10 1990
Anna Vassilieva and Nikolai Sokov, *The Influence of Culture on Russian Negotiating Style*, Monterey Institute of International Studies, 1999
Michael Blaker, Japanese International Negotiating Style, New York: Columbia University, 1977
Vladimir I. Ivanov and Karla S. Smith, ed. *Japan and Russia in Northeast Asia: Partners in the 21st Century*. Praeger Publishers, 1999. ISBN 978-0275963828
Peter Shearman, ed. *Russian Foreign Policy Since 1990*. Westniew Press, Boulder, 1995. ISBN 0-8138-8778-7
Tsuneo Akaha, ed. *Politics and Economics in Northeast Asia: Nationalism and Regionalism in Contention*. St. Martin's Press, New York, 1999. ISBN 0-312-22288-2
S.C.M. Paine, *Imperial Rivals: China, Russia and Their Disputed Frontier.*M.E. Sharpe, N.Y. 1996. ISBN 978-1563247248
S.C.M. Paine, *The Sino-Japanese War of 1894-1895: Perceptions, Power, and Primacy*. Cambridge University Press, 2003. ISBN 0-521-81714-5
Ian Nish, *The Origins of the Russo-Japanese War*
Longman, London 1986. ISBN 978-0582491144
Richard Connaughton. *Rising Sun and Tumbling Bear: Russia's War with Japan*. Cassel, London, 2003. ISBN 0 304 36657 9
Geoffrey Jukes *The Russo-Japanese War 1904-1905*. Osprey Publishing, 2002. ISBN 978-1841764467
W. Steinberg, Bruce W. Menning, David Schimmelpenninck Van Der Oye, and David Wolff, ed. *The Russo-Japanese War in Global Perspective: World War Zero*. Brill Academic Publishers, 2005. ISBN 978-9004142848
Irie Akira, *Japan's Drive to Great Power Status* - in The Cambridge History of Japan, Marius B. Jansen, ed., vol.5. Cambridge University Press, 1989.
Joachim Glaubitz, *Between Tokyo and Moscow: The History of an Uneasy Relationship*, 1972 to the 1990s .,University of Hawaii Press, Honolulu 1995. ISBN 0-8248-1674-9
Tuomas Forsberg, ed. *Contested Territory: Border Disputes at the Edge of the Former Soviet Empire*. Brookfield, VT, Elgar, 1995. ISBN 1 85278 949 2
Andrew Mack, *Island Disputes in Northeast Asia.* Australian National University, Canberra 1997.
Thomas J. Schoenbaum. *Peace In Northeast Asia: Resolving Japan's Territorial and Maritime Disputes With China, Korea and the Russian*.Edward Elgar Publishing, 2008. ISBN 978-1847206657
Gilbert Rozman, Kazuhiko Togo, and Joseph P. Ferguson. *Japanese Strategic Thought toward Asia.* Palgrave Macmillan, 2007. ISBN 978-1403975539
Gilbert Rozman, Kazuhiko Togo, and Joseph P. Ferguson. *Russian Strategic Thought toward Asia*. Palgrave Macmillan, 2006. ISBN 978-1403975546
保坂正康「歴史でたどる領土問題の真実」朝日新書、2012,ISBN978-4-02-273409-9
木村汎「日露国境交渉史－領土問題にいかに取り組むか」中央公論者、1993ISBN4-12-101147-3
木村汎「日露国境交渉史－北方領土返還への道」角川選書，2005．ISBN4-04-703386-3
志位和夫「領土問題をどう解決するかー尖閣、竹島、千島」新日本出版社、2012. ISBN978-4-406-05667-1
加藤寛 (編集)「ロシアとどう付き合うかー 21 世紀日露関係を考える」PHP 研究所、1996
斉藤元秀「ロシアの外交政策」勁草書房、2004,ISBN4-326-35134-9
斉藤勉「日露外交」角川書房、2002,ISBN4-04-883776-1
高橋秀直「日清戦争への道」東京創元者、1995
NHK 日ソプロジェクト「これがソ連の対日外交だ。密録—北方領土交渉」日本放送出版協会、1991。ISBN4-14-008788-9
G. クナーゼ、V. ザイツェフ、A. キリチェンコ「ソ連より日本人へ—北方領土が還ったら我々に何をしてくれるのか?」川上 洸、 1990
鈴木宗男、佐藤優「北方領土" 特命交渉"」単行本 2006/9
斎藤勉、内藤泰朗「北方領土は泣いている—国を売る平成の「国...」単行本 2007/7
木村 汎 「プーチンのエネルギー戦略」単行本 - 2008/1/24

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度等）（１０）と試験（春学期末テスト）（９０）で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業改善アンケートによれば不平、苦情と希望がなかったので自分の考えに応じて新しい情報を入れるつもりである。

AC337

日露関係論Ⅱ

アンドレイ・クラフチェビチ

授業形式：**講義** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。
日露関係論Ⅰは主に両国間関係史であり、日露関係論Ⅱは両国間関係の問題点を分析することを目指す。本講義では日露関係を例として使用しながら近現代国際政治外交史に関する基礎知識に基づいてロシア（ソ連時代を含む）の外交における対日基本的な論点についての様々な意見と評価（日本だけではなくロシア、ヨーロッパ、アメリカの専門家を含む）をプレゼントすることによって履修者は日露関係の問題点をもっと総合的に理解できることを目的とする。国際社会に於いても存在感を拡大する対日ロシアの外交について理解することにより、履修者の国際政治学や国際法の種々可能な解説に関する専門知識がより深まることも期待している。日露関係を改善するためには何が必要なのか、どうすればよいのかを論じてみたい。
キーワード：
国際政治学、アジアにおける国際政治、基礎知識、専門知識、日露関係

【到達目標】
本講義の目標は世界又はアジア国際政治の一つの側面である日露両国間関係に於ける問題を全面的、総合的に理解することである。本授業によって両国間関係分析の例に基づいて国際政治問題だけでなく国際政治構造全体に関する基礎知識、もっと複合的な観念を得ることが出来る。

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義である。日露関係における問題点を判定して各問題の原因、関係ある要因と付随する事情を調べる。各問題に対する各国の態度、国際法的論拠を分析する。そして各問題に関する様々な専門家（日本とロシアだけではなくアメリカとヨーロッパを含む）の意見と可能な解決方法をプレゼントする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	本講義の具体的なテーマ及び教育目標を詳しく説明する
第２回	両国における相手国に関する知覚とステレオタイプ	歴史的記憶と日露関係; 対外関係における情報不足と大衆意識の役割を示す
第３回	両国の歴史的記憶の相違１：両国間不信の最初の原因。	各国についての譲歩不足による相手国の意欲・志向に関する迷想・ 誤解：ベニョフスキー事件、フヴォストフ・ダヴィドフ事件
第４回	二国間条約に関する両側の不満	日露通好条約、樺太千島交換条約に関する問題
第５回	北東アジアにおける日露の勢力・縄張り争い	日露戦争を避ける可能性はあったか。
第６回	両国の歴史的記憶の相違２：日露戦争の結果に関する両側の不満。	ポーツマス条約：国際法新法則の制定、日本による南樺太の併合
第７回	両国の歴史的記憶の相違３：日露関係の隠された暗いページ	日本軍のシベリア出兵：軍事・侵略的干渉と北サハリンの占領
第８回	両国の歴史的記憶の相違４：ソ連極東での日本の脅威	哈爾哈廟事件、オラホドガ事件、タウラン事件、金厳溝事件、乾岔子島事件、張鼓峰事件、ノモンハン戦争
第９回	両国の歴史的記憶の相違５：ヤルタ会談、日ソ中立条約と日ソ戦争の解説	ソ連は中立条約を破ったのか。 ソ連の対日参戦は国際法の違反であったのか
第 10 回	両国の歴史的記憶の相違６：ソ連による千島列島の併合	ソ連軍によるクリル列島の占領は違法であったのか
第 11 回	両国の歴史的記憶の相違７：捕虜問題	日本人は捕虜又は抑留者であったのか
第 12 回	冷戦の枠内での日露関係における米国の役割	アメリカの独特なヤルタ協定の解説、占領の逆コース、安保条約、「ダレスの脅威」等
第 13 回	日露関係の現状と問題点	日露接近のために北方領土問題の存在は一つだけの障害であるのか？
第 14 回	日露関係の展望１	日露関係を改善するのは可能かどうか。
第 15 回	日露関係の展望２	領土問題の両国に相互に受け入られる解決はあるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各テーマに関する参考文のリストから適当な資料を選んでできる限り読む。

【テキスト（教科書）】
指定教科書、テキストはない。もっとも推薦する本：
五百旗頭真、下斗米伸夫、A.V. トルクノフ、D.V. ストレリツォフ（編）. 日ロ関係史。パラレル・ヒストリーの挑戦。東京大学出版会、2015.ISBN978-4-13-026265;
長谷川毅「北方領土問題と日露関係」筑摩書房、2000 年、ISBN480-8611-4C1021;
Joseph P. Ferguson, "Japanese-Russian Relations, 1907-2007", Routledge, 2008;

Alexander Bukh, "Japan's National Identity and Foreign Policy. Russia as Japan's 'Other'", Routledge, 2010;
Kimie Hara, "Cold War Frontiers in Asia-Pacific", Routledge, 2007。
長谷川毅「北方領土問題と日露関係」筑摩書房 (2000/04)、ISBN480-8611-4C1021;
木村 汎「遠い隣国：ロシアと日本」世界思想社 (2002/05)、ISBN4-7907-0931-0;
原貴美恵「サンフランシスコ平和条約の盲点」渓水社（2005/06）,ISBN4-87440-873-7
アレクサンドル・パノフ「不信から信頼へー北方領土交渉の内幕」サイムル出版会、1992　ISBN4-377-30946-3
アレクサンドル・パノフ「雷のち晴れー日露外交七年の真実」日本放送出版協会、2004　ISBN4-14-081005-x
和田 春樹 「北方領土問題―歴史と未来」 朝日選書, １９９９年３月２５日、ISBN4-02-259721-6;
和田春樹「領土問題をどう解決するか．対立から対話へ」平凡社、2012。ISBN978-4582-85657-6
和田敏明「北方領土の幻覚」叢文社１９８１年6月２５日、ISBN4-7947-0024-5
東郷和彦「北方領土交渉秘録：失われた五度の機会：新潮社、2007．ISBN 978-4-10301771-1
保坂正康、東郷和彦「日本の領土問題―北方四島、竹島、センカク諸島」角川 one テーマ 21,　2012, ISBN 978-4-04-110162-9
下斗米 伸夫「北方領土 Q&A80」小学館文庫文庫 1999/12
下斗米 伸夫「アジア冷戦史」 中公新書 2004/9
岩下明裕「北方領土・竹島・尖閣、これが解決策」朝日新書 2013、ISBN978-4-02-273514-0
岩下明裕「北方領土問題―４でも０でも、２でもなく」中央新書、2005,ISBN4-12-101825-7 C1231
岩下明裕「「四島」幻覚を乗り越えた」朝日新聞社２０１３年７月３０日、ISBN978-4-02-273514-0

【参考書】

木村 汎「遠い隣国：ロシアと日本」世界思想社 (2002/05)、ISBN4-7907-0931-0;
アレクサンドル・パノフ「不信から信頼へー北方領土交渉の内幕」サイムル出版会、1992　ISBN4-377-30946-3
アレクサンドル・パノフ「雷のち晴れー日露外交七年の真実」日本放送出版協会、2004　ISBN4-14-081005-x
ロシア史研究会編「日露 200 年―隣国ロシアとの交流史」彩流社、1993 ISBN4-88202-263-x
和田 春樹 「北方領土問題―歴史と未来」 朝日選書, １９９９年３月２５日、ISBN4-02-259721-6;
和田春樹「領土問題をどう解決するか．対立から対話へ」平凡社、2012。ISBN978-4582-85657-6
和田春樹、「開国―日露国境交渉」日本放送出版協会、1991,ISBN　4-14-001620-5
東郷和彦、「歴史認識を問い直すー靖国、慰安婦」角川 one テーマ 21,2013. ISBN 978-404-110453-8
和田敏明「北方領土の幻覚」叢文社１９８１年6月２５日、ISBN4-7947-0024-5
東郷和彦「北方領土交渉秘録：失われた五度の機会：新潮社、2007．ISBN 978-4-10301771-1
保坂正康、東郷和彦「日本の領土問題―北方四島、竹島、センカク諸島」角川 one テーマ 21,　2012, ISBN 978-4-04-110162-9
下斗米 伸夫「北方領土 Q&A80」小学館文庫文庫 1999/12
下斗米 伸夫「アジア冷戦史」 中公新書 2004/9
岩下明裕「北方領土・竹島・尖閣、これが解決策」朝日新書 2013、ISBN978-4-02-273514-0
岩下明裕「北方領土問題―４でも０でも、２でもなく」中央新書、2005,ISBN4-12-101825-7 C1231
岩下明裕「「四島」幻覚を乗り越えた」朝日新聞社２０１３年７月３０日、ISBN978-4-02-273514-0
Tsuyoshi Hasegawa, The Northern Territories Dispute and Russo-Japanese Relations, 2 volumes.　International and Area Studies, Research Series/Number, Series/Number 97, Berkeley: University of California at Berkeley, 1998.ISBN 0-87725-197-5
Kimie Hara. Japanese-Soviet/Russian Relations since 1945. A Difficult Peace.The Nissan Institute/Routledge Japanese Studies Series.London and New-York, 1998.ISBN 0-415-19499-7
Joseph P. Ferguson. Japanese-Russian Relations, 1907-2007.
Routledge Contemporary Japan Series. London and New York, 2008
ISBN 0-415-45314-3
Marc S. Gallicchio, The Cold War Begins in Asia. American East Asia Policy and the Fall of the Japanese Empire. Columbia University Press, 1988.ISBN 978-0-231-06502-3
Gilbert Rozman, ed., Japan and Russia:　The Tortuous Path to Normalization, 1949-1999. New York: St. Martin's Press, 2000, ISBN 0-312-22877-3
Gilbert Rozman, Japan's Response to the Gorbachev Era, 1985-1991: A Rising Superpower Views A Declining One. Princeton University Press, Princeton, 1992. ISBN 0-691-03189-4(CL)
Tsuyoshi Hasegawa, Jonathan Haslam, and Andrew C. Kuchins, eds., Russia and Japan: An Unresolved Dilemma between Distant Neighbors, International and Area Studies, Research Series/Number 87, Berkeley: University of California Berkeley, 1993.ISBN 0-87725-187-8
Tsuyoshi Hasegawa.　Racing the Enemy.　Stalin, Truman, and the Surrender of Japan.　The Belknap Press of Harvard University Press. London, 2005.ISBN 0-674-01693-9
Semyon Verbitsky, Tsuyoshi Hasegawa,and Gilbert Rozman, eds., Misperceptions between Japan and Russia.　University of Pittsburgh, The Carl Beck Papers in Russian & East European Studies, 2000. ISSN 0889-275X
Kazuhiko Togo.　Japan's Foreign Policy 1945-2003.　The Quest for a Proactive Policy. Brill, Leiden-Boston, 2005.ISBN 90 04 14796 9
Hiroshi Kimura. Distant Neighbors. 2 volumes. M.E. Sharpe. Armonk, New York; London 2000.ISBN 0-7656-0585-6
Hiroshi Kimura.　The Kurilian Knot.　A History of Japanese-Russian Border Negotiations. Stanford University Press, Stanford, 2007. ISBN 978-0-8047-5835-2
Kimura Hiroshi, Islands or Security? Japanese-Soviet Relations under Brezhnev and Andropov. Nichibunken, Kyoto, 1998. ISSN 1344-4972
Natasha Kuhrt. Russian Policy towards China and Japan. The El"tsin and Putin periods.　BASEES/Routledge Series on Russian & East European Studies, London and New-York, 2007. ISBN 0-415-30578-0
Japan, Russia and the Northern Territories Dispute:　Neighbors in Search of a Good Fence. Naval Postgraduate School Monterey CA report number A920704, Storming Media, 2002. ISBN: 978-1423507499
Rozman Gilbert、 The Intensified Search for a Solution to the Territorial Dispute: September 11 Fosters Progress in Russo-Japanese Relations,Russian Regional Report, Jan. 16, 2002.
Tsuyoshi Hasegawa, Between War and Peace: Origins of the Northern Territories Dispute and Russian-Japanese Relations Under Gorbachev and Yeltsin.Washington, The National Council for Soviet and East European Research, 1996.
Brad Williams. Resolving the Russo-Japanese Territorial Dispute. The Nissan Institute/Routledge Japanese Studies, London and New-York, 2007.ISBN 0-415-41321-4
Kumitada Miwa.　Japan's "Northern Territories".　Tokyo, Sofia University, 1992
William F. Nimmo. Japan and Russia. A Reevaluation in the Post-Soviet Era.　Greenwood Press, Westport, Connecticut-London, 1994.ISBN 0-31328440-7
Tsuneo Akaha, "Distant Neighbors:　Japanese Intellectuals' Views of Russia,"a paper presented at the Annual Meeting of the Association for Asian Studies, San Diego, March 9-12, 2000.
George Alexander Lensen, The Russian push toward Japan: Russo-Japanese relations,1697-1875. Octagon Books, 1971. ISBN 0374949360
Maurice Hindus.Russia and Japan. Doubleday, Doran and Co., Inc. New York 1942. ISBN 978-1-40676-808-4
John J. Stephan, The Kuril Islands: Russo-Japanese Frontiers in the Pacific,Oxford University Press, 1975. ISBN 978-0198215639
David Rees, The Soviet Seizure of Kuriles.　Praeger Publishers, 1985.ISBN-13: 978-0030025525
Inoguchi Takashi and Purnendra Jain, ed., Japanese Foreign Policy Today.Palgrave, New York 2000, ISBN 0-312-22707-8
Il Yung Chung and Eunsook Chung, eds., Russia in the Far East and Pacific Region.　The Sejong Institute: Seoul, 1994, ISBN-13: 978-8974293031
Gennady Chufrin, ed., Russia and Asia:　The Emerging Security Agenda. Stockholm International Peace Research Institute, Stockholm 2000.ISBN 978-0198296546
William McOmie, The Opening Of Japan, 1853-1855: A Comparative Study Of The American, British, Dutch And Russian Naval Expeditions To Compel The Tokugawa Shogunate to Conclude Treaties And Open Ports. Global Oriental, 2006. ISBN 978-1901903768
J. Thomas Rimer, ed. A Hidden Fire: Russian and Japanese Cultural Encounters 1868-1926.　Stanford University Press, Stanford, 1995. ISBN 0-8047-2513-6
Yulia Mikhailova and M. William Steele, ed. Japan and Russia: Three Centuries of Mutual Images.　Global Oriental Ltd., 2008.　ISBN 978-1905246427
Watanabe Koji, ed., Engaging Russia in Asia Pacific.
Tokyo:　Japan Center for International Exchange, 1999.　ISBN 978-4889070293
Toshiyuki Akizuki, Haruki Wada, Opening the Country:　Russo-Japanese Boundary Negotiations ASJ N 10 1990
Anna Vassilieva and Nikolai Sokov, The Influence of Culture on Russian Negotiating Style, Monterey Institute of International Studies, 1999
Michael Blaker, Japanese International Negotiating Style, New York: Columbia University, 1977
Vladimir I. Ivanov and Karla S. Smith, ed.　Japan and Russia in Northeast Asia: Partners in the 21st Century. Praeger Publishers, 1999. ISBN 978-0275963828
Peter Shearman, ed.　Russian Foreign Policy Since 1990.　Westniew Press, Boulder, 1995. ISBN 0-8138-8778-7
Tsuneo Akaha, ed.　Politics and Economics in Northeast Asia: Nationalism and Regionalism in Contention. St. Martin's Press, New York, 1999. ISBN 0-312-22288-2
S.C.M. Paine, Imperial Rivals:　China, Russia and Their Disputed Frontier.M.E. Sharpe, N.Y. 1996. ISBN 978-1563247248
S.C.M. Paine, The Sino-Japanese War of 1894-1895: Perceptions, Power, and Primacy. Cambridge University Press, 2003. ISBN 0-521-81714-5
Ian Nish, The Origins of the Russo-Japanese War
Longman, London 1986. ISBN 978-0582491144

Richard Connaughton. Rising Sun and Tumbling Bear: Russia's War with Japan. Cassel, London, 2003. ISBN 0 304 36657 9
Geoffrey Jukes The Russo-Japanese War 1904-1905. Osprey Publishing, 2002. ISBN 978-1841764467
W. Steinberg, Bruce W. Menning, David Schimmelpenninck Van Der Oye, and David Wolff, ed. The Russo-Japanese War in Global Perspective: World War Zero. Brill Academic Publishers, 2005. ISBN 978-9004142848
Irie Akira, Japan's Drive to Great Power Status - in The Cambridge History of Japan, Marius B. Jansen, ed., vol.5. Cambridge University Press, 1989.
Joachim Glaubitz, Between Tokyo and Moscow: The History of an Uneasy Relationship, 1972 to the 1990s .,University of Hawaii Press, Honolulu 1995. ISBN 0-8248-1674-9
Tuomas Forsberg, ed. Contested Territory: Border Disputes at the Edge of the Former Soviet Empire. Brookfield, VT, Elgar, 1995. ISBN 1 85278 949 2
Andrew Mack, Island Disputes in Northeast Asia. Australian National University, Canberra 1997.
Thomas J. Schoenbaum. Peace In Northeast Asia: Resolving Japan's Territorial and Maritime Disputes With China, Korea and the Russian.Edward Elgar Publishing, 2008. ISBN 978-1847206657
Gilbert Rozman, Kazuhiko Togo, and Joseph P. Ferguson. Japanese Strategic Thought toward Asia. Palgrave Macmillan, 2007. ISBN 978-1403975539
Gilbert Rozman, Kazuhiko Togo, and Joseph P. Ferguson. Russian Strategic Thought toward Asia. Palgrave Macmillan, 2006. ISBN 978-1403975546
保坂正康「歴史でたどる領土問題の真実」朝日新書、2012,ISBN978-4-02-273409-9
木村汎「日露国境交渉史－領土問題にいかに取り組むか」中央公論者、1993ISBN4-12-101147-3
木村汎「日露国境交渉史－北方領土返還への道」角川選書，2005．ISBN4-04-703386-3
志位和夫「領土問題をどう解決するかー尖閣、竹島、千島」新日本出版社、2012. ISBN978-4-406-05667-1
加藤寛 (編集)「ロシアとどう付き合うかー 21 世紀日露関係を考える」PHP 研究所、1996
斉藤元秀「ロシアの外交政策」勁草書房、2004,ISBN4-326-35134-9
斉藤勉「日露外交」角川書房、2002,ISBN4-04-883776-1
高橋秀直「日清戦争への道」東京創元者、1995
NHK 日ソプロジェクト「これがソ連の対日外交だ。密録—北方領土交渉」日本放送出版協会、1991。ISBN4-14-008788-9
G. クナーゼ、V. ザイツェフ、A. キリチェンコ「ソ連より日本人へ—北方領土が還ったら我々に何をしてくれるのか?」川上 洸、 1990
鈴木宗男、佐藤優「北方領土" 特命交渉"」単行本 2006/9
斎藤勉、内藤泰朗「北方領土は泣いている—国を売る平成の「国...」単行本 2007/7
木村 汎 「プーチンのエネルギー戦略」単行本 - 2008/1/24

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度等）（１０）と試験（秋学期末テスト）（９０）で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
２０１５年には一人の学生から主として一つだけの不平であった。すなわち、先生の発言には音読みが多く理解しにくい。来年度の講義を簡単化して、もっと分かり易く直してみる。

【推薦】
日露関係論Ⅰに履修することが極めて望ましいので強く推薦する。

AD237

外交総合講座

弓削　昭子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**２単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この外交総合講座では、グローバル化が進む国際社会で外交がどのように行われているかを学習する。伝統的な国家が中心となる外交から、企業、市民社会、メディアなどの多様なアクターの重要性が増してきている近年の外交を理解する。
In this course on foreign affairs and diplomacy, the students will study the various elements that form and influence foreign policy and diplomacy in this increasingly globalized world. While the main actors of foreign diplomacy have traditionally been nation states and governments, other players such as the private sector, civil society, academia, and media have been more actively engaged in recent years. This course will examine the changing dynamics of foreign diplomacy and their implications for tackling the issues that the world faces today. The course will be conducted mainly in English, of which proficiency is required to conduct foreign diplomacy. (Guest speakers may speak in English or Japanese)

【到達目標】
この外交総合講座は、世界の平和と安定を達成するために日本政府や各国政府、国際機関、市民社会、民間企業、学界などを含むさまざまなアクターの役割とその活動を検証する。また、日本のアクターが国際社会の他のアクターとどのように関わり、対話を深め、連携して共通の課題を追求し、国際的な合意に導くのかを検証する。近年の国際社会の外交は、国家間の交渉と協力を中心とした構造から多様なパートナー間の交渉と協力体制に移ってきている。また、情報通信技術の飛躍的な高度化とともに、今まで外交の場に加わることができなかった多様なアクターの参加が可能になり、外交のあり方が大きく変化してきている。本講座では、これらの変化を理解した上で、国際社会の課題を解決する外交の役割、手段、枠組みについて学ぶ。

【授業の進め方と方法】
授業は基本的には、外交に必須である英語で行われる。ゲスト・スピーカーによる講義・講演は日本語、英語のどちらかで行われる。この総合講座の授業は、設立の趣旨に従って、日本政府、国際機関、市民社会団体、民間企業、研究機関の職員などがゲスト・スピーカーとして講義をする。それらの講義では、平和と安全、経済・社会開発、環境保全と持続可能な開発、人権など、広範な地球規模の外交課題が取り上げられる。さまざまなゲスト・スピーカーの講義を通じて、各国や諸機関の多様な立場を理解することで外交問題を総合的に学習する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is foreign policy and international cooperation?
2	Actors and structures of foreign policy	Role of various actors in foreign policy
3	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
4	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
5	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
6	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
7	Foreign policy decision making	Lecture by guest speaker
8	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker

9	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
10	Foreign policy implementation	Implementation and behavior of different actors in foreign policy and diplomacy
11	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
12	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
13	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
14	Foreign policy and diplomacy in action	Lecture by guest speaker
15	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書と参考書の熟読、関連セミナーおよびシンポジウム等への参加

【テキスト（教科書）】
Bruce Jenks and Bruce Jones, United Nations Development at Crossroads, New York University Center on International Cooperation, 2014

【参考書】
ブルース・ジェンクス、ブルース・ジョーンズ（編著）『岐路に立つ国連開発、変容する国際協力の枠組み』、人間と歴史社、2014 年
山田高敬、大矢根聡（編）『グローバル社会の国際関係論（新版）』、有斐閣コンパクト、2011 年
Steve Smith, Amelia Hadfield, and Tim Dunne, Foreign Policy: Theories, Actors, Cases, Second Edition. Oxford, UK: Oxford University Press, 2012.

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、筆記試験（80 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉国連の平和構築と開発活動、国際機構論
〈研究テーマ〉国連システムにおける平和構築と開発活動
〈主要研究業績〉
「国連日本人職員の可能性と課題」、日本国際連合学会編『グローバル・アクターとしての国連事務局』国連研究第 3 号、国際書院、2002 年
「平和構築に向けた国連開発計画 (UNDP) の取り組み－制度改革と事業領域の再構築の視点から」『モンテレー会議後の世界の ODA の変動』、財団法人国際開発高等教育機構、国際開発研究センター、2003 年
「ポスト 2015 開発アジェンダ：日本のリーダーシップを期待」、私の提言、国連フォーラム、2013 年

イスラム世界論 I

大塚　修

授業コード：A3811
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、歴史的な視点から、イスラームに関する基礎的知識の習得を目指す。また、時事問題についても折に触れて言及したい。

【到達目標】
1. イスラームに関する基礎的知識を習得する
2. イスラームの多様な在り方を理解する
3. 複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で考える能力を身につける

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、前近代イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて、政治史だけではなく、文化史にも焦点をあてながら解説する。授業は、パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。可能な限り画像資料を用い、「生の」イスラーム世界を体感できる場としたい。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	多様な「イスラーム世界」のとらえ方について
第 2 回	聖典クルアーンの世界	クルアーンとアラビア語について
第 3 回	イスラームとは何か	イスラームの教義、特に六信五行について
第 4 回	イスラームの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラームに共通する一神教的宗教観・世界観について
第 5 回	イスラームの伝播	ムハンマド、正統カリフの時代にイスラーム共同体が拡大していく過程について
第 6 回	ウマイヤ朝の成立とイスラーム共同体の分裂	世襲王朝であるウマイヤ朝成立の意義とイスラーム共同体の変質について
第 7 回	アッバース朝の成立とイスラーム法の体系化	バグダードを拠点に繁栄したアッバース朝とその時代に確立した行政機構・法体系について
第 8 回	イスラーム神秘主義と聖者	イスラームの浸透に大きな役割を果たした神秘主義教団について
第 9 回	西方のイスラーム王朝	イベリア半島と北アフリカへのイスラームの浸透と受容について
第 10 回	キリスト教世界とイスラーム	十字軍や交易などを通じての、キリスト教世界との関係について
第 11 回	モンゴルとイスラーム	モンゴルの征西がイスラーム世界に及ぼした影響について
第 12 回	エジプトにおけるイスラーム	マムルーク朝の歴史とエジプトにおけるイスラーム文化の発展について
第 13 回	中央アジアにおけるイスラーム	ティムール朝の歴史と中央アジアにおけるイスラーム文化の発展について
第 14 回	トルコにおけるイスラーム	オスマン朝の歴史とトルコにおけるイスラーム文化の発展について
第 15 回	まとめ	第 2 次世界大戦後の国際社会とイスラーム世界について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40 %）で評価する。試験は持ち込み可。イスラーム世界に関する諸問題について、講義で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
イスラーム世界の歴史だけではなく、社会や文化についても詳しく紹介する。

イスラム世界論Ⅱ

大塚　修

授業コード：A3812
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「イスラム世界論 I」では、イスラーム世界の多様な在り方について解説するが、この授業では、イスラーム世界の中でも特にイランを中心とする地域に焦点を当てる。1979 年のイラン・イスラーム革命以降、イスラーム的価値観に基づく国家づくりを掲げ、国際的に孤立してきたイランであるが、その歴史や文化についてはあまり知られていない。前近代において、イスラーム文化は非アラブ圏においても、イラン地域を中心に独自の発展を遂げた。その影響は中央アジア、インド、トルコなど広範囲に及び、イスラーム世界の歴史を考える上で看過できない重要な位置をしめる。この授業では、イスラーム以前の在来文化と融合しながら発展してきたイラン地域固有のイスラームの在り方を提示し、アラブ世界に代表される一般的なイスラーム認識を相対化することを目指す。その上で、現代のイランに関する諸問題を考えるための基礎的な知識を提供したい。

【到達目標】
1．イランに関する基礎的知識を習得する
2．イスラームの多様な在り方を理解する
3．イランをはじめとする中東イスラーム社会に関する諸問題を自分の頭で考える能力を身につける

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム諸国の中から、一般的なイスラーム像ではくくることのできない、イランの歴史を扱う。授業の前半部では、現代のイラン・イスラーム共和国の社会と文化に関する基礎的知識について、後半部では、イランにおけるイスラームの受容から現代に至るまでの歴史について、政治史だけではなく、文化史にも焦点を当てながら解説する。授業は、パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。可能な限り画像資料を用い、「生の」イランという国やイラン人を体感できる場としたい。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	イランに対するイメージについて
第 2 回	イランとイラン人	イランにおける多様な民族と言語について
第 3 回	シーア派の世界観	イランの国教シーア派について
第 4 回	イランの暦と祝祭	イランに特有の暦と祝祭について
第 5 回	ペルシア語とペルシア語文化圏	イランの国語ペルシア語について
第 6 回	イラン高原のイスラーム化	イラン高原におけるイスラームの受容について
第 7 回	トルコ系諸王朝とイラン	異民族王朝の支配下におけるイラン系官僚の役割について
第 8 回	モンゴルとイラン	モンゴルの支配下における東西の文化交流について
第 9 回	サファヴィー朝（1）	サファヴィー朝の勃興とシーア派の国教化について
第 10 回	サファヴィー朝（2）	イスファハーンを中心に花開いた文化について
第 11 回	ガージャール朝	ガージャール朝下のイラン社会と列強の進出について
第 12 回	イラン立憲革命など	イランにおける近代化の試みについて
第 13 回	パフラヴィー朝	革命前のイランと国際社会について
第 14 回	イラン・イスラーム革命と現代イラン	イラン革命について
第 15 回	現代イランと国際社会	現代イランと国際社会の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジア・中央アジア地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
永田雄三編『西アジア史 II（イラン・トルコ）』山川出版社、2002
坂本勉・鈴木董編『イスラーム復興はなるか』講談社現代新書、1993
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40 %）で評価する。試験は持ち込み可。イランに関する諸問題について、授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
画像や映像を多用して、イランの社会や文化についても詳しく紹介する。

【その他の重要事項】
「イスラム世界論 II」は春学期に開講される「イスラム世界論 I」の内容を踏まえて解説するので、春学期と併せて受講することが望ましい。

GA240

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**100 名前後が望ましい**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。1，2 年生には、専攻科目や演習として更に深めたい学問領域やテーマにつなげる機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につけること
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できること
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できること
（4）関連する文献の趣旨を的確に読み取れること

【授業の進め方と方法】
講義、映像、他の受講生とグループディスカッション、フィードバックシートの提出など様々な形態を組み合わせて進める。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論
2	国際文化論とは	文化とか何か、国際文化論とはどのような学問かを考える
3	国際協力とは	グループ演習の形で国際協力について考える
4	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
5	開発コミュニケーション	進んだ技術の伝播をコミュニケーション理論とつなげて考える
6	文化の受容と抵抗	明治日本の近代化を支えたお雇い外国人を通して異文化への反応について考える
7	文化触変	異文化との接触で何が起きるのかを考える
8	文化遺産保護	なぜ文化遺産を守るのか、明治日本とイスラム国（IS）を通して考える
9	博物館学	他国の文化財保護に協力するという発想がどのように誕生したのかを考える
10	国連と文化	文化面での国際協力を進める国連機関の役割について考える
11	文化外交	開発途上国への文化協力を通してパブリックディプロマシーについて考える
12	人権	人権とは何かを歴史的に考える
13	難民受け入れ	難民受け入れ制度について「集団的汚名」という視点を通して考える
14	統合と同化	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
15	まとめ	1 学期の授業を振り返り、基幹科目として何を習得しそれを今後の学習にどう活かすかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に提示する課題文献を読んでくること

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
毎回の授業で提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点（フィードバックシートで評価）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに必ず事前登録して下さい

【その他の重要事項】
2015 年度から担当教員が変更になっていますので、先輩からアドバイスをもらう際などには留意して下さい。この授業は国際社会コースの基幹科目ですので、特に 1、2 年生には将来どのような専門を学びたいか、SA で何を学んだらいいか、3 年生からどのようなゼミに入ったらいいかを考える場としてこの授業を活かして欲しいと思います。

GA237

国際関係研究 1

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、ＮＧＯ、国際組織、民間助成団体、民間企業を主な考察の対象とし、国家の枠組みとは異なる視点から国際社会で生じている諸問題について考える。そのために必要な理論を習得するとともに、それを通して培った分析力を応用する意義を理解することを目指す。

【到達目標】
（1）授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
（2）「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
（3）関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【授業の進め方と方法】
講義のほか、授業に関連した問いを提示し周囲の学生と小グループで討議する時間を設ける。問いには正解はなく、論理的な思考力の涵養と他者の考えから学ぶ姿勢を習得する。歴史への理解を深めるため映像を使う場合もある。英語の専門的な文献読解を自由課題レポートとして課す。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する
3	国際関係の理論（1）	具体例を通して国際関係の基本的理論（リアリズム）を習得する。
4	国際関係の理論（2）	具体例を通して国際関係の基本的理論（リベラリズム）を習得する。
5	国際関係の理論（3）	具体例を通して国際関係の基本的理論（コンストラクティビズム）を習得する。
6	非国家アクター	ＮＧＯ、国際組織、民間助成団体、民間企業を国際関係の理論からどう捉えるかを学ぶ
7	国際社会におけるＮＧＯの機能（1）	ＮＧＯの機能として「政府や国家間機関の補完」に着目して考える。
8	国際社会におけるＮＧＯの機能（2）	ＮＧＯの機能として「政府や国家間機関の意思決定への影響」に着目して考える。
9	国際社会におけるＮＧＯの機能（3）	ＮＧＯの機能として「政府や国家間機関への抗議」に着目して考える。
10	国際社会におけるＮＧＯの機能（4）	ＮＧＯの機能として「規範起業家」について考える。
11	国際関係におけるＮＧＯの理論化	ＮＧＯの影響力や活動パターンの理論化を試みる。
12	民間助成団体と国際関係	国際関係分野で活動するＮＧＯの主たる資金源である民間の助成団体の役割について考える。
13	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える
14	プライベートレジーム	国際関係において「民間」が形成する枠組みを理論的に考える
15	非国家アクター分析から見える国家	授業全体のまとめをし、今後の学習の指針を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。その際紙媒体で読むようにすること。理論については授業で指示する文献を読むこと

【テキスト（教科書）】
松本悟・大芝亮編、2013、ＮＧＯから見た世界銀行―市民社会と国際機構のはざま―、ミネルヴァ書房.

【参考書】
毛利聡子、2011、NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座、法律文化社.
最上敏樹、2006、国際機構論第 2 版、東京大学出版会.

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（毎回のフィードバックシートで評価）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%（レポートはいずれも知識を問うものではない）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業中の議論の時間を確保する

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること

【その他の重要事項】
「国際関係学概論」「平和学」を受講していることが望ましい。

GA227

国際関係研究２

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**国際関係研究**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：〇

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。特に「開発と環境」をテーマにすることで、社会科学と自然科学の融合的な視点を身につけることを目指す。なお、本授業では環境を自然環境と社会（生活）環境の両者を含む概念として捉える。

【到達目標】
（1）「国際関係」に「地域研究」の視点を応用できる。
（2）「開発と環境」に係る「国際関係」を分析する際に有用な学問的な理論や概念を理解し説明できる。
（3）東南アジア半島部の「国際関係」を論じた英語論文を適切に理解できる。

【授業の進め方と方法】
現地の様子を知るための映像、事例の講義、理論的なインプットという 3 つの要素で構成する。授業内容に係る問いを提示し近くの席の学生同士で議論する時間を設けることもある。自由提出課題レポートとして英語の専門的な文献を課し、英語論文の読解力を養う。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙いやレポートなどについて説明する。
2	地域を学ぶ意義	メコン地域を概観した上で、国際関係の中で地域を学ぶことの意義について考える。
3	越境環境問題	「メコン地域」内で起きている越境的な問題を捉える分析視角を考える。
4	村から見た国際関係	１つの村の歴史を紐解きながら、ミクロとマクロの視点で国際関係について考える。
5	第三世界のポリティカルエコロジー	自然・社会環境問題の政治経済的側面について事例をもとに理論的に考える。
6	国際関係と調査	メコン地域の開発事業を事例に環境・社会影響評価調査の課題について考える。
7	公的資金と民間投資	ビルマの資源開発が引き起こした人権侵害を例に資金源の「目隠しの効果」を考える
8	資源の呪い	ビルマを例に、資源が結果的に人々を不幸にする実態について考える
9	国家間債務の機能	対ビルマＯＤＡの分析を事例に国家間債務が国際関係に及ぼす機能について考える
１０	コモンズと財	カンボジアの漁業紛争を財の性質という視点から考える。
１１	市場の失敗、政府の失敗	資源が枯渇する原因を囚人のジレンマなどの理論を使って考える
１２	洪水と水害	ベトナムの洪水を事例に「多過ぎる水」の問題について考える
１３	メコン河開発の歴史	地域の歴史と重ね合わせて、開発の歴史を紐解くことで地域の視点で国際関係を捉える意義を考える。
１４	歴史を捉える視点	解釈学、系譜学、考古学の視点から授業で扱ったイシューを再度検討する。
１５	振り返りと責任論	授業全体をまとめた上で、メコン地域で生じている問題に対する責任をどのように考えるのか議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示する文献（日本語や英語）を読んでくること

【テキスト（教科書）】
松本悟, 1997, メコン河開発, 築地書館.

【参考書】
毎回の授業で示す

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（フィードバックシートで評価）40%、期末レポート 60%（レポート課題は授業中に提示する。国際関係と地域研究について論理的な思考を求める内容）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
理論で躓くことが多いので、前回の授業のフィードバックを受けた補足説明を次回授業の冒頭で行う

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って授業支援システムの自己登録すること

【その他の重要事項】
「国際関係学概論」「平和学」「国際関係研究１」を受講していることが望ましい。

GA227

地域紛争とエスニシティ

中島　成久

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「インドネシアのポストコロニアリズムというテーマで講義を行う。オランダ植民地時代にまでさかのぼる領土と暴力の問題を詳細な現地研究を元にした資料から考える。
現代国民国家が普遍的に抱える「国家と暴力」の問題を、植民地時代にまでさかのぼり検討することで、その本質を理解する。

【到達目標】
１９６６年登場したスハルト政権は「開発独裁」体制と呼ばれるが、その本質を理解するにはオランダ植民地時代だけではなく、日本軍政時代の影響を考慮する必要がある。
オランダ植民地体制の確立に伴う「民族」概念、抵抗、独立革命時代の国民意識の形成、そしてスハルト時代における開発と紛争の関係を理解し、現代国民国家に特有な「暴力」の起源の問題に迫る。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。DVD、VHS、Youtube などの視聴覚教材を多用する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	国家と暴力	１９６５年の９月３０日事件に関するジョシュア・オッペンハイマー監督のドキュメンタリー映画解説
第２回	領土と起源①	オランダ東インド会社
第３回	領土と起源②	シンガポールの成立
第４回	領土と起源③	オランダ領東インド（蘭印）
第５回	領土と起源④	アチェ戦争
第６回	領土と起源⑤	慣習法共同体の発見
第７回	革命①	インドネシアの国民音楽
第８回	革命②	日本軍政から独立へ
第９回	開発の時代①	移住政策の西パプア問題
第１０回	開発の時代②	東ティモール「統合」
第１１回	開発の時代③	アサハン・プロジェクト
第１２回	開発の時代④	アブラヤシ開発①
第１３回	開発の時代⑤	アブラヤシ開発②
第１４回	開発の時代⑥	コトパンジャンダム裁判
第１５回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１　授業内で指示した参考文献をよく読むこと
２　図書館などで関連文献を調べ、さらに深めること

【テキスト（教科書）】
中島成久　『インドネシアの土地紛争――言挙げする農民たち』創成社新書、２０１１年
加納啓良（編）　『インドネシアの検定』メコン、２０１０年

【参考書】
池端雪浦（編）　『東南アジア史 II、島嶼編』山川出版社、１９９９年
その他随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
試験（７０％）と平常点（３０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書をもっと丁寧に行うこと

GA237

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには 2 つの意義があると考える。1 つは体系立った学習の応用として、もう 1 つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探求の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を学問的な問いに関係付けられるようになる。
（3）グループ討議の意義を理解する。

【授業の進め方と方法】
具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員による補足講義、の 3 つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース１　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ発表。ケースの理解を深める。
4	ケース１を受けたグループ討議（1）	ケース１に関するグループ討議、その後全体討議。
5	ケース１を受けたグループ討議（2）	ケース１に関するグループ討議、その後全体討議。
6	ケース２　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ発表。ケースの理解を深める。
7	ケース２を受けたグループ討議（1）	ケース２に関するグループ討議、その後全体討議。
8	ケース２を受けたグループ討議（2）	ケース２に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース３　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ発表。ケースの理解を深める。
１０	ケース３を受けたグループ討議（1）	ケース３に関するグループ討議、その後全体討議。
１１	ケース３を受けたグループ討議（2）	ケース３に関するグループ討議、その後全体討議。
１２	ケース４　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ発表。ケースの理解を深める。
１３	ケース４を受けたグループ討議（1）	ケース４に関するグループ討議、その後全体討議。
１４	ケース４を受けたグループ討議（2）	ケース４に関するグループ討議、その後全体討議。
１５	国際開発協力と私たち	授業全体をまとめ、国際開発協力と私たち一人ひとりのつながりについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。大学に向かう通学電車でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編『ケースで学ぶ国際開発』東信堂, 2011 年.
W. エレット『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社, 2010 年

【参考書】
授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する

【成績評価の方法と基準】
毎回の参加度（フィードバックシートで評価）20%、グループ討議での積極性（互評）40%、期末試験 40%（試験はケースに対する考察と、その結果の応用力を問うものとなる）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に授業支援システムを使う

【その他の重要事項】
遅刻や欠席はグループワークを困難にし仲間に多大な迷惑をかけるので、第 1 回の授業には必ず出席し履修するかどうかを慎重に判断すること

GA237

平和学

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）自らの研究テーマや関心のある専門領域を平和学の視点から捉えることができる。
（3）平和学で取り上げられる方法を理解し実例に適用できる。

【授業の進め方と方法】
講義のほか、関連した問いを毎回提示し近くの学生と討議する時間を設ける。提示する問いには正解がないので、論理的に物事を考えると同時に、他者の考え方に触れる機会とする。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c 以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	正戦論の系譜	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	サマリア人のジレンマ	他者を助けようとして傷つけてしまったとき、その責めを負うべきかを考える
8	紛争研究	武力紛争を研究するときの視点の持ち方について考える
9	構造的暴力への導入	積極的平和を考えるベースとなるケースについて国際開発機関に関する映像資料を観る
１０	積極的平和としての開発	開発途上国が誕生した歴史的な経緯を振り返り、開発援助が必要とされた背景を考える
１１	構造的暴力としての開発	人々の生活を改善するための開発が被害を及ぼす場合があるのはなぜかを考える
１２	オンブズマン	国際機構による「暴力」を防ぐための制度について考える
１３	国際機構の制度と平和	国際機構の制度的な特徴が平和や暴力にどう関わるかを考える
１４	構造的暴力としてのお金	直接的暴力や構造的暴力と「お金」のつながりについて考える
１５	権力と平和	授業全体を振り返った上で、権力が平和と暴力にどのように関わっているかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業で配布するフィードバックシート）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生が多くても受講生の議論の時間を設ける

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること

【その他の重要事項】
受講生の関心や反応を見ながら、内容を多少変更することがある

GA337

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ヨーロッパという概念の由来から説きおこし、20 世紀中葉における統合の制度化までの歴史を学習する。

【到達目標】
地中海やアフリカ大陸、またロシアや中東地域を含むユーラシア大陸といった隣接地域との交流も念頭に置きながら、時事問題として取り上げられることの多いヨーロッパ統合の問題を、より包括的、原理的な視点において考える姿勢を身につける。

【授業の進め方と方法】
講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事、基本的な用語の説明	授業内容の紹介と質疑（科目選択にあたって）。地域とは？　経済統合の諸段階。統合をめぐる諸仮説
2	世界の中心としてのヨーロッパ？	主要なトピックの概説①西ヨーロッパ中心史観の背景（17-19 世紀　ウェストファリア体制、産業革命、市民革命）
3	支配と人の移動	主要なトピックの概説②越境をめぐる不平等（植民地支配、冷戦とその終結、EU 域外からの避難民）
4	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ①地中海世界とその終焉	古典古代における「ヨーロッパ」という用語の誕生、西欧と東欧、イスラームとの隣接
5	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ②キリスト教の広がり	中世における封建制、領主による割拠を越える範囲でのキリスト教の制度化 → ヨーロッパ意識の萌芽
6	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ③非ヨーロッパ圏との出会いと「人間」の概念	大航海時代、ルネサンス、宗教改革、ヨーロッパの地理的定義（プリント）、30 年戦争
7	啓蒙思想と市民革命	啓蒙思想と平和論、ヴォルテール、ルソー、アメリカ独立、フランス革命
8	ウィーン会議から二月革命まで：大陸諸国におけるナショナリズムの息吹と社会主義の登場	Confederation と Federation、ギリシア独立戦争（1821-）、マッツィーニ、自由貿易 vs 保護貿易、ヴィクトル・ユゴー
9	19 世紀後半の西ヨーロッパ	ナポレオン３世、クリミア戦争、普仏戦争、スペンサー、プルードン、ヨーロッパ合衆国、黄禍論（コンスタン）（Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像②激動の世紀への胎動』）
10	世紀転換期から第 1 次世界大戦まで	エンジェル『大いなる幻想』、ベネディクトゥス 15 世、ドゥマンジョン、シュペングラー、ヴァレリー（Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像④塹壕から見た人類発の大戦』）国際連盟、ルール占領
11	戦間期のヨーロッパ①	クーデンホーフ・カレルギー、ブリアン＝シュトレーゼマン時代（Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像⑥勝者と敗者』）、各国財界からの統合論、ファシズム側、レジスタンス側の統合論
12	戦間期のヨーロッパ②	第 1 次世界大戦以降の難民保護の歴史（ギリシア／トルコ間の戦争）Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像⑦中東　分割の悲劇』
13	第二次世界大戦から冷戦へ	鉄のカーテン（チェコのクーデタ、ベルリン危機）、インドシナ戦争、チャーチルの諸演説、ヨーロッパ審議会、ザール問題、ルールの国際管理 →ECSC の成立
14	主要なトピックにかんする振り返り	ヨーロッパにおける移民のプレゼンス、「要塞ヨーロッパ」
15	まとめ	学生発表（希望者のみ）含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前半の授業回で取り上げるヨーロッパの概念の変遷についての説明は、文明論の古典的な素材からの抜粋からなっています。ぜひそうした古典のテクストに親しむ機会を作って下さい。
・中盤以降の授業回で論ずる、第２次世界大戦以降のヨーロッパ統合については、今日の国際情勢の背景となっています。ぜひ新聞やニュースなどをつうじて最新のヨーロッパ情勢に触れるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
遠藤乾編『原典　ヨーロッパ統合史　史料と解説』名古屋大学出版会，2008 年。

【参考書】
金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史―人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996 年。
ジェラール・ノワリエル『フランスというるつぼ』法政大学出版局、2015 年。
エティエンヌ・バリバール『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社，2006 年。

【成績評価の方法と基準】
・小テストの受験【**全員必須**。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%
・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%
・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
前半の授業回では、とくに高校や大学１年時の学習との橋渡しを意識しています。

【学生が準備すべき機器他】
・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。
・Twitter 上で質問を受け付ける。@kazouille

【その他の重要事項】
・シラバスを熟読してください。

HA236

国際法Ⅰ

岡松　暁子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】
国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【授業の進め方と方法】
国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の概念、近代国際法の特色
第 3 回	法源（1）	条約、国際慣習法
第 4 回	法源（2）	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法（1）	国家責任の観念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法［第 2 版］』有斐閣、2010 年。
奥脇直也・岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選［第 2 版］』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
これまでと同様のやり方で行います。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA236

国際法Ⅱ

岡松　暁子

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火 3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。
第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】
国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【授業の進め方と方法】
国際法の各論部分についての講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第 3 回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法（3）	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄（1）	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄（2）	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第 13 回	武力紛争法規（国際人道法）（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	武力紛争法規（国際人道法）（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第 15 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法［第 2 版］』有斐閣、2010 年。
奥脇直也・岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選［第 2 版］』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
これまでと同様の方法で進めます。

【その他の重要事項】
履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA336

国際環境法

岡松　暁子

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木 3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】
国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【授業の進め方と方法】
国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第 3 回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第 4 回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第 5 回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第 6 回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第 7 回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ
第 8 回	国際環境法の性質（3）	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第 9 回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第 10 回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第 11 回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第 12 回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第 13 回	貿易と環境	GATT/WTO と環境問題
第 14 回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第 15 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005 年。
奥脇直也・岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】
旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

NA540

国際社会論

藤本　正徳

開講時期：**春学期**　｜　選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会の関係」についての各種情報はメデイアでは時々取上げられているが、その問題点は何であろうか、また我々自身の生活や将来にどのような影響があるのかについての判断には迷うことがある。しかしそれらの事例は、社会的影響の大小や時代の変遷はあるものの、グローバルな現代社会における企業活動において必ず遭遇する共通の課題であり、将来我々が企業の一員として行動する場合でも、どんな問題意識を持って日々の課題に対処し、解決策を模索すべきかの道しるべを提供してくれる。
当講座では、専門コースが非ビジネス分野の学生にも、これらの道しるべとなるように、現代企業の概要と、近年社会的に話題となっている産業や企業が直面している主要テーマ（例：コーポレートガバナンス、CSR、グローバル化、　M&A,　日本的雇用慣行と非正規雇用、企業の不祥事、原子力事故と電力規制等）を具体例を交えて取上げ、その背景と課題を複眼的な視点から見ていくものである。

【到達目標】
社会生活に必要な商品やサービスを供給する企業についての基本的概念の理解と、現代の企業が社会との関係で直面する主要な課題について理解し、問題意識と基礎的な視点・判断力を養う事を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	○	◎	○	○	◎	◎

【授業の進め方と方法】
次のテーマにそって、基本的な理論と具体的な事例を講義する。各講座の講義資料は、PowerPoint を使って説明し、資料等は写しを配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針、経済学と経営学について、社会と企業の関連について
2	企業の歴史と役割の変遷	企業の歴史と発展について、その目的と主要な役割の変遷
3	法人と企業の種類	法人と企業の主な種類と特徴
4	企業の構造と仕組み	株式会社の主要な構造と仕組み、機能と特徴
5	企業とは何か、その役割と価値、評価	企業価値と評価のランキングの意味は
6	企業の存在意義と社会的責任	企業の社会的責任、CSR、経営理念とヴィジョン、行動指針
7	企業不祥事と企業統治	企業倫理と企業不祥事、コーポレートガバナンス、コンプライアンス
8	会社は誰のものか、誰の為にあるべきか	企業活動とステークホールダーとの関係
9	日本的経営	欧米企業との経営比較、企業文化、慣行の違い
10	グローバル化と企業	国際化する企業活動と、異文化に於けるリスク・課題
11	企業の誕生、成長と再生	起業と成長、成熟と再生、M&A
12	日本的経営とその雇用慣行の変遷	欧米企業との比較、企業文化、雇用の変遷と課題
13	企業経営と危機管理	倒産、事故、政治・社会リスク
14	市場や環境の変化に対応する企業と個人	技術の発展とインターネットの普及、シェアリング、企業と労働の未来
15	最終レポート	最終レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義のテーマに関連した課題につき考察を行い小レポートを提出

【テキスト（教科書）】
パワーポイント講義資料（講義資料を事前にサーバーにアップし、当日使用する）

【参考書】
企業論（新版補訂版）
水戸浩、池内秀己、勝部伸夫（共著）
有斐閣アルマ
イラスト図解　会社のしくみ
坂田岳史著
日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
合計 100 点の配分は次の通り：
(1) 平常点 30 %
(2) 小テスト 30 %
(3) 期末レポート 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
企業やビジネス社会についての基礎知識を習得していない学生にとっては、テーマが難しすぎるという意見もでていた。このため新年度では日本の工学系学部生を対象とした視点からの見直を行い、現代企業についての基礎知識も前半ではカバーし、後半では出来る限り新聞 TV 等で取り上げられる現代企業社会の事例も紹介して関心を持って学べるように改良した。また必要に応じ、前回学んだ主要な基礎知識の骨子をレビューや、次回以降のテーマや課題予定などのリマインダーを行い、大きな抜けのないようにします。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料はプロジェクター投影となります。したがって事前の予習や事後の復習、そして課題提出に、必ず PC でサーバーにアクセス必要となります。

【その他の重要事項】
教室；市ヶ谷田町校舎
出席管理は、デザイン工学部の学生は学生証カードで、また他学部からの履修学生毎回出席カードを提出願います。

LA227

グローバル社会の地域研究

片岡　義晴

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・4**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「グローバリゼーション」とはそもそも「何」を意味する現象なのでしょうか。何となくわかっているようで、中身不明な用語であるようにも思われます。そうした一見明らかであるように見えながら、実は明確でない「グローバリゼーション」、それに伴う地域変化について、地域に即してその内実を多面的に考えていきたいと思います。

【到達目標】
「グローバル化」に伴う地域変容をとらえようとすることによって、現代の地域社会・世界のトータルな理解を深めていきます。

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】春、秋各学期でそれぞれ 1 冊ずつ本を読んでいき、最後は皆さんが興味・関心を持つテーマを地域に即して発表してもらう予定です。まずはテキストを決め、それを読み、要約する作業から始めていきたいと思います。履修者の人数によっては授業形式を若干変更することもあります。
【授業の方法】参加者を 4〜5 名程度に班編制します。毎回順番に一つの班が報告班となって、報告班は要約とキーワード、質問事項をプリントして全員に配布します。それ以外の班はキーワード、質問事項をプリントして、これも全員に配布します。それらを踏まえて議論していきます。秋学期には各自の関心テーマに沿って発表していきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	①授業の説明・進め方 ②テキスト案	簡単に年間計画などを決めます。進め方の説明、テキスト案の提示等。
第 2 回	グローバル化、グローバル社会の理解	「グローバル化」「グローバル社会」の基本的概念を整理します。
第 3 回	輪読と討論	ディスカッション
第 4 回	輪読と討論	ディスカッション
第 5 回	輪読と討論	ディスカッション
第 6 回	輪読と討論	ディスカッション
第 7 回	輪読と討論	ディスカッション
第 8 回	輪読と討論	ディスカッション
第 9 回	輪読と討論	ディスカッション
第 10 回	輪読と討論	ディスカッション
第 11 回	輪読と討論	ディスカッション
第 12 回	輪読と討論	ディスカッション
第 13 回	自らのテーマ案の発表①	最終発表に向けての構想発表
第 14 回	自らのテーマ案の発表②	最終発表に向けての構想発表
第 15 回	まとめ	春学期の復習とまとめ
第 16 回	秋学期のテキスト案	テキスト提示、秋学期の進め方の説明
第 17 回	輪読と討論	ディスカッション
第 18 回	輪読と討論	ディスカッション
第 19 回	輪読と討論	ディスカッション
第 20 回	輪読と討論	ディスカッション
第 21 回	輪読と討論	ディスカッション
第 22 回	輪読と討論	ディスカッション
第 23 回	輪読と討論	ディスカッション
第 24 回	各自の発表①	各人の発表
第 25 回	各自の発表②	各人の発表
第 26 回	各自の発表③	各人の発表
第 27 回	各自の発表④	各人の発表
第 28 回	各自の発表⑤	各個人の発表
第 29 回	予備日	予備日
第 30 回	まとめ	秋学期の復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　まずは、決めたテキストを読むこと、それをまとめることです。最終的には、自ら興味を持つテーマを絞り込み、それを中心に発表できるようにして下さい。授業に来て座っているだけではこの授業は成立しません。自ら手足を動かし、議論し、発表することが必要です。

【テキスト（教科書）】
　各学期のはじめの授業時に、テキスト案を示します。

【参考書】
　授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　授業中の発表、議論、まとめなど、総合的に判断するつもりですが、評価基準については皆さんと話し合いたいと思います。いずれにしても出席は評価基準の重要な一つです。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　この授業は当方はじめてですが、他の授業では「批判ばかり」とか「具体案がない」などと指摘されています。何しろ初めての科目ですから、他の科目よりも試行錯誤することになるでしょう。

【学生が準備すべき機器他】
　特にありません。

CA237-02

国際関係論Ａ

貫　芳祐

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最初に 19 世紀のウイーン体制以降の世界を巻き混んだ歴史的な大戦争（第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦）がなぜ起きたのかを概観する。次にそれらを教材として使いながら国際関係理論の枠組みについて講義する。

【到達目標】
19 世紀以降の国際紛争の歴史を理解することが国際関係論を学ぶ上での出発点と考える。従ってまず最初に 1815 年以降の勢力均衡のシステムがどのような特徴を備えていたかを学ぶ。次にそれがなぜ崩壊し第１次大戦になったのかを理解した後、国際連盟の集団安全保障がなぜ機能せず、第 2 次世界大戦になったのか、そのプロセスを追う。その後冷戦はなぜ起き、またどのように終焉したかについて検討を加える。後半の講義では、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムといった国際関係の諸理論を使って紛争や戦争の発生原因について講義し、学生たちの多角的な物の見方が養われることを目指す。

【授業の進め方と方法】
講義形式
授業ではパワーポイントは使わない。次の二つのテキストを使って講義するので、講義内容のポイントをノートにしっかりと書きとめること。①村田晃嗣他編『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009 年を用いる。この本を通して国際関係論の基本的な事柄が学べる。②山田高敬、大矢根聡著『グローバル社会の国際関係論』（新版）有斐閣、2011 年。この本は国際関係の諸理論を分かりやすく解説している。また毎回、授業の最後 20 分を使って最近の国際関係の問題について時事解説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際政治で使われる基本的概念	国際政治でよく使われる基本的な概念と用語についての説明
第 2 回	ペロポネソス戦争の例	古代ギリシャ時代の戦争から何を学ぶのか
第 3 回	ウェストファリア体制	なぜウエストファリア体制が国際関係の出発点なのか
第 4 回	ウィーン体制の成立と崩壊	なぜウィーン体制は長くつづいたのかについて分析
第 5 回	第一次世界大戦について	第一次世界大戦の勃発原因を検討
第 6 回	ヴェルサイユ体制の成立と崩壊	国際連盟と集団的安全保障について検討
第 7 回	第二次世界大戦について	第二次世界大戦の勃発原因につての考察
第 8 回	冷戦とはなにか	誰が冷戦を開始したのか。冷戦はどのような構造をしていたのか。冷戦はなぜ長く続いたのか
第 9 回	冷戦の終焉	冷戦はなぜ突然終焉したのか。その原因を考察
第 10 回	リアリズム理論（1）	古典的なリアリズム理論について解説
第 11 回	リアリズム理論（2）	ネオリアリズム理論について解説
第 12 回	リベラリズム理論（1）	リベラリズム理論の基本的な考え方について解説
第 13 回	リベラリズム理論（2）	ネオリベラリズム理論の基本的な考え方について解説
第 14 回	コンストラクティビズム理論（1）	コンストラクティビズム理論の基本的な考え方について解説
第 15 回	コンストラクティビズム理論（2）	コンストラクティビズム理論を使った事例研究の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞の国際面の記事を読むように努めること。またＮＨＫＢＳ１チャンネルで夜 10 ： 00 から放映されている番組『国際報道』を出来るだけ観て、現在起きている国際問題についての理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
①村田晃嗣他編『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009 年。
②山田高敬、大矢根聡著『グローバル社会の国際関係論』（新版）有斐閣、2011 年。

【参考書】
授業のときに随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキストを使って講義するので、テキストを必ず購入すること。授業ではパワーポイントは使わないので、講義内容のポイントをノートにしっかりと書きとめること。

CA237-02

国際関係論Ｂ

貫　芳祐

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
冷戦終結後に起きているさまざまな国際関係の動きを考察する。①変質する国連の役割、②多様化する地域紛争、③行き詰る欧州統合、④中国の大国化、⑤歴史認識問題、⑥日本を取り巻く領土問題、⑦ＴＰＰ交渉、⑧日本の集団自衛権の問題。以上の問題を検討した後、どのような新しい世界秩序が生まれつつあるのかについて講義する。

【到達目標】
冷戦終焉後の国際関係がどうように変貌しつつあるのかについての学生たちの理解を深めるために、さまざまな事案を個別に検証する。国際組織の役割とその限界、とりわけ国連の平和維持活動の実態とその限界について知り、将来の可能性を考える。中東紛争やウクライナ紛争などを取り上げ、領土、民族、ナショナリズムが複雑に絡んだか地域紛争解決の難しさについての理解を深める。また日本を取り巻くさまざまな国際問題を個別的に取り上げ、学生たちに日本は今後どのような姿勢でこれらの問題に対処すべきかを、学生たちに考えさせる。最後に新しい国際秩序とはどのような形態になるのかを理解させる。

【授業の進め方と方法】
講義形式
授業ではパワーポイントは使わない。次の二つのテキストを使って講義するので、講義内容のポイントをノートにしっかりと書きとめること。①村田晃嗣他編『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009 年を用いる。この本を通して国際関係論の基本的な事柄が学べる。②山田高敬、大矢根聡著『グローバル社会の国際関係論』（新版）有斐閣、2011 年。この本は国際関係の諸理論を使った事例研究が豊富で、それぞれを分かりやすく解説している。また毎回、授業の最後 20 分を使って最近の国際関係の問題について時事解説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ポスト冷戦期における国連の役割（1）	国連についての一般的な解説
第 2 回	ポスト冷戦期における国連の役割（2）	国連平和維持活動の実態と限界について解説
第 3 回	ポスト冷戦期における国連の役割（3）	他の国連機関についての解説
第 4 回	パレスチナ紛争	歴史的経緯と 1990 年代以降の紛争を考察
第 5 回	イラクをめぐる三つの戦争	イラン・イラク戦争、湾岸戦争、イラク戦争について解説
第 6 回	ボスニア紛争、ウクライナ紛争、ルワンダ内戦等	冷戦後の地域紛争の特徴について解説
第 7 回	中国の大国化（1）	中国の経済発展が抱える諸問題について考察
第 8 回	中国の大国化（2）	中国の海洋進出とアメリカ、日本の対応を検討
第 9 回	行き詰る欧州統合（1）	欧州統合の歴史的発展について解説
第 10 回	行き詰る欧州統合（2）	現在なぜ欧州統合は行き詰っているのか、その原因を検討
第 11 回	日本の集団的自衛権の問題	日米安保体制の変容と安倍政権の集団的自衛権問題を検討
第 12 回	日本が抱える歴史認識問題	日本と韓国、日本と中国との間の歴史認識問題を考察
第 13 回	ＴＰＰ問題と日本	ＴＰＰ交渉と日本への影響を紹介
第 14 回	日本が直面する領土問題	北方領土問題、尖閣諸島問題、竹島問題について考察
第 15 回	新しい世界秩序	新しい世界秩序論について紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞の国際面の記事を努めて読むこと。またＮＨＫＢＳ１チャンネルで夜 10 ： 00 から放映されている番組『国際報道』を出来るだけ観て、現在起きている国際問題についての理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
①村田晃嗣他編『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009 年を用いる。この本を通して国際関係論の基本的な事柄が学べる。②山田高敬、大矢根聡著『グローバル社会の国際関係論』（新版）有斐閣、2011 年。この本は国際関係の諸理論を分かりやすく解説している。さまざまな事例研究を紹介しているので得るところが多い。また毎回、授業の最後 20 分を使って最近の国際関係の問題について時事解説する。

【参考書】
授業で随時紹介するとともに個別問題については資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキストを使って講義するのでテキストを必ず購入すること。授業ではパワーポイントは使わないので、講義内容のポイントをノートにしっかりと書きとめること。

JB237-715

国際福祉論 (2013 年度以前入学生) ／国際支援論 (2014 年度以降入学生)

VIRAG　VIKTOR

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル時代において活躍できるソーシャルワーク（以下、SW）専門職に求められる初歩的な実践力を得ることを目指す。

【到達目標】
北欧を中心とした他先進国との国際比較を通じて、日本の社会福祉についてグローバルな視点で考えられる力を身につけた後、国境を超えた SW 実践に必要な知識とスキルの向上を目的とする。全体を通じて文化的な自己認識及び他者認識の向上を促す。

【授業の進め方と方法】
理論的な枠組みを与える講義を踏まえ、本枠組みに沿って参加型学習に取り組んでもらうという授業形態を理想とする。毎回のリアクションペーパー執筆をはじめとして、グループワーク、個別ワーク等の課題に対して各受講生が考えることの共有による相互学習が重視され、これらを積極的に実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概念整理と全体構想	国際 SW と多文化 SW の関係
第 2 回	福祉国家概論	福祉国家の種類と北欧モデル
第 3 回	福祉国家各論Ⅰ	北欧型福祉国家のあり方と成果
第 4 回	福祉国家各論Ⅱ	北欧型福祉国家の前提と歴史
第 5 回	福祉国家各論Ⅲ	北欧型福祉国家の課題
第 6 回	国際 SW 概論	グローバルな社会福祉関連課題
第 7 回	国際 SW 各論Ⅰ	基本的な人権
第 8 回	国際 SW 各論Ⅱ	国際条約等と国連体制
第 9 回	国際 SW 各論Ⅲ	国際的な専門職団体
第 10 回	国際 SW 各論Ⅳ	SW 専門職に係る国際基準
第 11 回	国際 SW 各論Ⅴ	難民の基礎知識
第 12 回	国際 SW 各論Ⅵ	難民支援の現状
第 13 回	国際 SW 各論Ⅶ	異文化間ケースワークの基礎
第 14 回	国際 SW 各論Ⅷ	異文化間ケースワークの進め方
第 15 回	特別企画	現場訪問／グループ発表／映画上映

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループディスカッションのための課題の下調べや自分の考え方の整理等の準備作業と、それらを踏まえた個別ワークの提出を求める場合がある。

【テキスト（教科書）】
下記の参考書等を基に作成したレジュメ等の資料を配布予定

【参考書】
Esping-Andersen, Gosta. (1989). Three Worlds of Welfare Capitalism. Polity.
Healy, Lynne M. (2008). International Social Work: Professional Action in an Interdependent World. Oxford University Press.
Peace Corps. (1997). Culture Matters. Peace Corps Information Collection and Exchange.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%:授業内で頻繁に行うグループ・ディスカッション等のアクティビティへの積極的な参加及びワークシートの記入・提出が求められる。期末レポート 70%:授業内容を踏まえ、質問に対して自分の考えとその論点をまとめた小論文形式を主とする。（受講者が希望する場合、レポートの代わりにグループ発表を行う可能性がある。）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
シラバス作成時点で内容が不明

【その他の重要事項】
上述の 15 回分の授業計画は、受講生の予備知識及び問題関心に応じて微調整する場合がある。
※連絡先： viktor.virag2@gmail.com

EB/C/D240

南北問題

岡野内　正

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまの問題を指すことばとして使われてきた。これについて受講生が、自分の生き方と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】
受講生が、今日の南北問題の諸相とともに、テーマで示した担当者の仮説を理解し、その是非について批判的に議論できる力をつけること。

【授業の進め方と方法】
南北問題についての担当教員の新著をもとに、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生から毎回数名がボランティアとして、テキストの要旨紹介と論点の提起、別の文献資料や参考書の論点に照らした問題提起を、分担して行う。受講生は、レポートを作成し、最後の授業の１回前の授業で提出する。最後の授業でレポートを返却する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	南北問題をめぐる学問状況	授業説明と受講生による報告分担
2	＜多国籍企業の壁＞、＜賃労働の壁＞の悪循環	受講生による報告と教員を交えた議論
3	＜多国籍企業の壁＞が見えない―グローバル化以前の国際学および開発学	受講生による報告と教員を交えた議論
4	＜多国籍企業の壁＞に気づく―ジェフリー・サックス	受講生による報告と教員を交えた議論
5	＜多国籍企業の壁＞を迂回する―ヴォルフガング・ザックス	受講生による報告と教員を交えた議論
6	＜多国籍企業の壁＞に切り込む―多国籍企業への国際課税を呼びかけるスーザン・ジョージ	受講生による報告と教員を交えた議論
7	＜多国籍企業の壁＞を崩す―デイビッド・コーテン	受講生による報告と教員を交えた議論
8	＜多国籍企業の壁＞に登る―アントニオ・ネグリ	受講生による報告と教員を交えた議論
9	＜賃労働の壁＞と＜多国籍企業の壁＞に気づく―ユルゲン・ハーバーマス	受講生による報告と教員を交えた議論
10	＜賃労働の壁＞とともに＜多国籍企業の壁＞を越える	受講生による報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想実現への道筋―地球市民市場社会の財政社会学	受講生による報告と教員を交えた議論
12	残された課題	受講生による報告と教員を交えた議論
13	プレカリアートの時代（１）	受講生による報告と教員を交えた議論
14	プレカリアートの時代（２）	受講生による報告と教員を交えた議論
15	現代を生きるということ	レポート返却とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと参考書を読み、授業でのボランティア報告のための準備、そしてレポートを締め切り厳守で作成し、提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2016 年。

【参考書】
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアートの時代』法律文化社、2016 年.
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円プラス税。

【成績評価の方法と基準】
締め切り厳守で提出されたレポートの内容の論理性と実証性について６０点満点で評価する。さらに授業での報告や討論への貢献について４０点満点で評価する。（その４０点の内訳は、ボランティア報告者には無条件で３０点、報告内容と議論への貢献について１０点とする。）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
一方的な講義よりは、報告や討論の機会のある授業がいいという声にこたえて、ゼミ形式に近い授業の組み立てにしました。また、結果についてのフードバックのない試験への不満の声にこたえて、レポートを授業内で採点・返却することにしました。

EB/C/D227

地域研究（イスラーム）

岡野内　正

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。表れていると考える。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】
受講生が、今日のイスラーム社会の諸相とともに、テーマで示した担当者の仮説を理解し、その是非について批判的に議論できる力をつけること。

【授業の進め方と方法】
中東・イスラーム世界研究の新著を受講生全員で検討する。毎回数名がボランティアとして、テキストの要旨紹介と論点の提起、別の文献資料や参考書の論点に照らした問題提起を分担して行う。受講生は、レポートを作成し、最後の授業の１回前の授業で提出する。最後の授業で採点したレポートは返却する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明と、報告者の決定。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生による報告と教員を交えた議論
3	21 世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生による報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生による報告と教員を交えた議論
5	エジプト――民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生による報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生による報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容	受講生による報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生による報告と教員を交えた議論
9	トルコ―新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生による報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生による報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラーム統治体制の現状	受講生による報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生による報告と教員を交えた議論
13	イスラエルの国家安全保障とパレスチナ問題の変遷	受講生による報告と教員を交えた議論
14	ヨルダン–紛争との共生	受講生による報告と教員を交えた議論
15	中東研究の質的変容に向けて―板垣雄三氏の問題提起をめぐって	受講生による報告と教員を交えた議論。レポート返却とコメント。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと参考書を読み、授業でのボランティア報告のための準備、そしてレポートを締め切り厳守で作成し、提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】
松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第 3 巻）』ミネルヴァ書房、2016 年

【参考書】
岡野内　正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアートの時代』法律文化社、2016 年。
岡野内　正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2016 年 6 月刊行。

【成績評価の方法と基準】
締め切り厳守で提出されたレポートの内容の論理性と実証性について６０点満点で評価する。さらに授業での報告や討論への貢献について４０点満点で評価する。（その４０点の内訳は、ボランティア報告者には無条件で３０点、報告内容と議論への貢献について１０点とする。）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
一方的な講義よりは、報告や討論の機会のある授業がいいという声にこたえて、ゼミ形式に近い授業の組み立てにしました。また、結果についてのフードバックのない試験への不満の声にこたえて、レポートを授業内で採点・返却することにしました。

EB/C/D227

地域研究（中国）

大﨑　雄二

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバリゼーションが進展する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性とを分析、考察する。

【到達目標】
現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【授業の進め方と方法】
前半は教員による概説と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国的世界秩序
2	中国をめぐる経と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解	中国を理解するキーワード
5	現代中国を読み解く（グループ発表）（１）	中国共産党と社会主義
6	同（２）	伝統的政治思想と「民主化」
7	同（３）	多民族国家の諸問題　①
8	同（４）	多民族国家の諸問題　②
9	同（５）	香港、マカオをめぐって
10	同（６）	「台湾化」する台湾
11	同（７）	「爆買い」と中国社会
12	同（８）	環境問題の現在
13	同（９）	領土、領海、国境
14	同（10）	日・中関係を考える
15	中国への新たな視座	全体討論会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．　読書（参考図書の渉猟）
２．　関連する新聞やネットの記事のチェック
３．　グループ発表、討論の準備

【テキスト（教科書）】
特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】
参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表＝ 35 %）と考察（「3 か月後の私との Q & A」15 %＋小論文 50 %＝ 65 %）を絶対評価する。詳細は開講後に指示する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

AB236

経済法Ⅰ

岸井　大太郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
全てのコースに属する、独占禁止法の基本的な内容についての講義

【到達目標】
独占禁止法の基本的な内容について理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
経済法Ⅰは、経済法Ⅱと合わせて、独占禁止法の基本的な内容を講義します。
独占禁止法は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とする法律で、企業の経済行動が、競争のルールに則ってフェアに行われるよう規制する、自由市場経済の基本法です。Ⅰの講義では、まず、総論として、独占禁止法の歴史と目的を概観して法律のイメージを掴んでもらい、また、競争の実質的制限、事業者、公共の利益などの法の基礎概念を説明します。続いて、独禁法の中心的テーマである、カルテル・談合の規制について、具体例を交えながら説明していきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	独禁法の歴史	独占禁止法の歴史の概観
第 2 回	独禁法の目的と体系(1)	独占禁止法の目的および体系の説明
第 3 回	独禁法の目的と体系(2)	独占禁止法の目的および体系の説明
第 4 回	独禁法の基礎概念(1)	事業者性、行為類型
第 5 回	独禁法の基礎概念(2)	競争の実質的制限、公共の利益
第 6 回	カルテルの規制１	カルテル規制の概観
第 7 回	カルテルの規制２	意思の連絡と共同行為(1)
第 8 回	カルテルの規制３	意思の連絡と共同行為(2)
第９回	カルテルの規制４	カルテルと競争の実質的制限
第 10 回	カルテルの規制５	カルテルのタイプ
第 11 回	カルテルの規制６	入札談合
第 12 回	カルテルの規制７	カルテルと正当化事由
第 13 回	カルテルの規制８	課徴金制度
第 14 回	カルテルの規制９	カルテルと刑事罰
第 15 回	講義のまとめ	講義の総括・独禁法の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書（テキスト）を読んでくること（事前に該当箇所を指示します）

【テキスト（教科書）】
岸井／向田／和田／川島／大槻／稗貫・経済法ー独占禁止法と競争政策ー〔第８版〕（有斐閣・アルマ 2016）

【参考書】
講義で指示します。また、適宜資料（プリント）を配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点および春学期の定期試験

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
図表による説明を充実させる。

AB236

経済法Ⅱ

岸井　大太郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
全てのコースに属する、独占禁止法の基本的な内容についての講義

【到達目標】
独占禁止法の基本的な内容について理解することを目標とする

【授業の進め方と方法】
経済法Ⅱは、経済法Ⅰに引き続いて、独占禁止法の基本的な内容を講義します。独占禁止法は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とする法律で、企業の経済行動が、競争のルールに則ってフェアに行われるよう規制する、自由市場経済の基本法です。Ⅱの講義では、まず、企業のマーケティングと密接に関わる不公正な取引方法の規制について、具体例に沿って説明していきます。ついで、独禁法の基本的な柱である私的独占の規制について説明します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	不公正な取引方法１	総論・再販売価格の拘束(1)
第 2 回	不公正な取引方法２	再販売価格の拘束(2)
第 3 回	不公正な取引方法３	拘束条件付取引(1)
第 4 回	不公正な取引方法４	拘束条件付取引(2)
第 5 回	不公正な取引方法５	排他条件付取引
第 6 回	不公正な取引方法６	取引拒絶(1)
第 7 回	不公正な取引方法７	取引拒絶(2)
第 8 回	不公正な取引方法８	不当廉売・差別対価
第 9 回	不公正な取引方法９	抱き合わせ販売
第 10 回	不公正な取引方法１０	優越的地位の濫用
第 11 回	私的独占１	総論・概観
第 12 回	私的独占２	排除型私的独占(1)
第 13 回	私的独占３	排除型私的独占(2)
第 14 回	私的独占４	支配型独占・複合行為
第 15 回	講義のまとめ	講義の総括・独禁法の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書（テキスト）を読んでくること

【テキスト（教科書）】
岸井／向田／和田／川島／大槻／稗貫・経済法ー独占禁止法と競争政策ー〔第８版〕（有斐閣・アルマ 2016）

【参考書】
講義で指示します。また、適宜資料（プリント）を配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点および秋学期の定期試験

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
図表による説明を充実させる。

経営分析Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

経営分析Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

平井　裕久

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。
財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表 (貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【授業の進め方と方法】
本講義では、基本的にプレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示して説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第１章　財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法 ・財務諸表分析と実証会計研究
第 3 回	第２章　財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第 4 回	第３章　貸借対照表データの分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第 5 回	第４章　損益計算書データの分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第 6 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・相互関係比と収益性分析について
第 7 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解
第 8 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・ＲＯＡとＲＯＥの関係
第 9 回	第６章　効率性分析	・使用総資本回転率 ・使用総資本回転率の細分化
第 10 回	第６章　効率性分析	・回転期間の分析
第 11 回	第６章　効率性分析	・増加運転資本
第 12 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
第 13 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第 14 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第 15 回	まとめ	本講義で学習した経営分析に関する知識の確認をする。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	前期に学んだ経営分析に関する基礎的内容の確認を行う。
第 2 回	第８章　損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・利益図表
第 3 回	第８章　損益分岐点分析	・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第 4 回	第９章　成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第 5 回	第 10 章　付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第 6 回	第 13 章　利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法
第 7 回	第 13 章　利益マネジメントと財務諸表分析	・利益マネジメントの行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第 8 回	補章　貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第 9 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・ファンダメンタル分析
第 10 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・企業価値評価の間便法 ・配当割引モデル
第 11 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第 12 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・会計利益と株式価値評価
第 13 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・残余利益と株式価値評価モデル ・価値関連性分析
第 14 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・株価説明力に影響を及ぼす要因
第 15 回	まとめ	本講義で学習した経営分析に関する知識の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。

【テキスト（教科書）】
乙政正太 著『財務諸表分析 (第 2 版)』同文舘出版，2014

【参考書】
青木茂男『要説 経営分析（三訂版)』森山書店，2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版)』中央経済社，2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版)』日本経済新聞出版社，2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版)』日本経済新聞出版社，2009
パレプ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版)』東京大学出版会，2001
平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版，2009
ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房，2005

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (70 %) と平常点 (30 %) による総合評価
（平常点：中間テスト 等）
授業中に小テスト (課題) を行う可能性もあるが、これは期末試験にボーナス (+ α) として加点する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
担当は今年度からである。

【学生が準備すべき機器他】
毎回プレゼンテーションソフトを使用して講義を行う。

【その他の重要事項】
受講に際して「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」を履修し、簿記の基礎的な知識 (日商簿記 3 級程度) はあることが望ましい。
授業および試験においては、“電卓” を持参のこと。

経営分析Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

経営分析Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

平井　裕久

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。
財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表 (貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【授業の進め方と方法】
本講義では、基本的にプレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示して説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第１章　財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法 ・財務諸表分析と実証会計研究
第 3 回	第２章　財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第 4 回	第３章　貸借対照表データの分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第 5 回	第４章　損益計算書データの分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第 6 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・相互関係比と収益性分析について
第 7 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解
第 8 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・ＲＯＡとＲＯＥの関係
第 9 回	第６章　効率性分析	・使用総資本回転率 ・使用総資本回転率の細分化
第 10 回	第６章　効率性分析	・回転期間の分析
第 11 回	第６章　効率性分析	・増加運転資本
第 12 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
第 13 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第 14 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第 15 回	まとめ	本講義で学習した経営分析に関する知識の確認をする。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	前期に学んだ経営分析に関する基礎的内容の確認を行う。
第 2 回	第８章　損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・利益図表
第 3 回	第８章　損益分岐点分析	・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第 4 回	第９章　成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第 5 回	第 10 章　付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第 6 回	第 13 章　利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法
第 7 回	第 13 章　利益マネジメントと財務諸表分析	・利益マネジメントの行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第 8 回	補章　貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第 9 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・ファンダメンタル分析
第 10 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・企業価値評価の間便法 ・配当割引モデル
第 11 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第 12 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・会計利益と株式価値評価
第 13 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・残余利益と株式価値評価モデル ・価値関連性分析
第 14 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・株価説明力に影響を及ぼす要因
第 15 回	まとめ	本講義で学習した経営分析に関する知識の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。

【テキスト（教科書）】
乙政正太 著『財務諸表分析 (第 2 版)』同文舘出版，2014

【参考書】
青木茂男『要説 経営分析（三訂版)』森山書店，2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版)』中央経済社，2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版)』日本経済新聞出版社，2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版)』日本経済新聞出版社，2009
パレプ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版)』東京大学出版会，2001
平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版，2009
ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房，2005

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (70 %) と平常点 (30 %) による総合評価
（平常点：中間テスト 等）
授業中に小テスト (課題) を行う可能性もあるが、これは期末試験にボーナス (+ α) として加点する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
担当は今年度からである。

【学生が準備すべき機器他】
毎回プレゼンテーションソフトを使用して講義を行う。

【その他の重要事項】
受講に際して「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」を履修し、簿記の基礎的な知識 (日商簿記 3 級程度) はあることが望ましい。
授業および試験においては、“電卓” を持参のこと。

基礎統計学Ⅰ	専門基礎科目 B 群	2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］
基礎統計学Ⅱ	専門基礎科目 B 群	2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］
基礎統計学Ⅱ	専門基礎科目 B 群	2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］
基礎統計学Ⅰ	専門基礎科目 B 群	2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

豊田　敬

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数量的な考察がなされる学問分野や実務では、統計学の知識が必須であることは今や周知の事実です。また、確率的思考に基く統計的手法を修得することは、リスクに対応しなければならない市民としての常識の一つを身に付けることにも繋がります。この授業では、実り多い統計学の入門的事項について学びます。なお、春学期は高校数学（確率・統計の章、新課程なら数学Ⅰ・数学Ａ・数学Ｂに所収）の復習が主な内容です（リメディアル）。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、簡単な定義式や公式を記憶して筆記できるようにすること。
・簡単な手法（単回帰分析まで）については、データから実際に計算し、結果を出せるようにすること。

【授業の進め方と方法】
配付資料に沿って、板書を併用して授業を行ないます。受講生は手を使ってノートをとることが求められます。また、問題演習（データの計算は関数電卓でできる範囲）を適宜織り込んだ授業形態になります。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス 複利計算	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識、について説明し、複利の原理について学ぶ.
第２回	複利計算（関数電卓での計算練習）	利付間隔、連続複利、について学ぶ. Napier の数・指数関数・対数関数について補足的に解説する.
第３回	データのソートとグループ化	記号と用語、幹葉図、度数分布、相対度数分布、ヒストグラム、正規曲線、について学ぶ.
第４回	データの平均と標準偏差（１）	平均、偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、変動係数、について学ぶ.
第５回	データの平均と標準偏差（２）	. Σ 演算、計算手順、平均と標準偏差の性質、標準化、について学ぶ.
第６回	歪度・尖度と積率	第４回と第５回の内容を復習し、分布の歪みと尖り具合の指標を導入し、積率、について学ぶ.
第７回	メディアンと四分位範囲そして五数要約	メディアン、四分位値、最小値・最大値、四分位範囲、範囲、箱ひげ図、外れ値、について学ぶ.
第８回	２次元データの整理	散布図、偏差積和、共分散、相関係数、結合度数分布と周辺度数分布、について学ぶ.
第９回	回帰（２次元データへの直線のあてはめ）	最小２乗法そして回帰係数、決定係数、について触れる. 高校では扱わなかった話題である.
第 10 回	場合の数と確率	順列と組合せについて簡単に復習してから、事象の確率とその基本性質、について学ぶ.
第 11 回	確率分布（１）	事象の独立性、条件つき確率、確率変数と確率分布、確率分布の平均と標準偏差（分散）、について学ぶ.
第 12 回	確率分布（２）	２次元の確率変数、確率変数の和と積、について学ぶ.
第 13 回	二項分布と正規分布	二項分布とその平均・分散、中心極限定理、極限分布としての正規分布について学ぶ.
第 14 回	統計的な推測	秋学期へ向けて、母集団からの無作為標本抽出、標本平均のサンプリング分布、母平均の推定など統計的推論の概略を学ぶ.
第 15 回	復習と問題演習	扱ったテーマ全体の復習と要点について説明し、試験対策に資す.

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	秋学期ガイダンス、	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識、について説明し、Σ記号の演算について復習する。
第２回	確率変数とその期待値	春学期に学んだ事項をより一般的な視点から学ぶ.
第３回	二項分布、ポアソン分布と正規分布（１）	ベルヌーイ分布、二項分布、ポアソン分布について、確率関数、平均と分散、応用、について学ぶ.
第４回	二項分布、ポアソン分布と正規分布（２）	大数法則、中心極限定理、正規分布、正規分布表の使い方、二項分布の正規近似、応用、について学ぶ.
第５回	計数データの統計的推論	母比率の点推定、最尤法、母比率の区間推定、仮設検定について学ぶ.
第６回	多次元の確率分布（一般論）	同時分布、周辺分布、条件付分布、独立性、期待値、独立同分布（IID）、について学ぶ.
第７回	サンプリング分布と点推定	正規母集団からの標本抽出、ｔ分布、カイ２乗分布、F 分布、不偏推定量、について学ぶ.
第８回	区間推定（1）	信頼区間の方式と考え方について学ぶ.
第９回	区間推定（2）	正規母集団の母平均と母分散に関する区間推定のやり方、について学ぶ.
第 10 回	仮説検定（1）	仮説検定に関する用語の導入とその考え方、について学ぶ.
第 11 回	仮説検定（2）	正規母集団の母平均と母分散に関する検定のやり方について学ぶ.
第 12 回	カイ２乗検定	経験分布と理論分布、有意性検定、適合度のカイ２乗検定のやり方、について学ぶ.
第 13 回	二標本問題（1）	二つの正規母集団の母平均の差の検定のやり方について学ぶ.
第 14 回	二標本問題（２）	F 分布を導入し、二つの正規母集団の母分散比の検定のやり方について学ぶ.
第 15 回	復習と問題演習	扱ったテーマ全体の復習と要点について説明し、試験対策に資す.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業後その日のうちに基本概念の理解具合を確認する。練習問題は翌週までに解くこと。
予習：必要な場合は指示します。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
・高校数学の教科書（数学Ⅰ、数学Ａ、数学Ｂ）
・稲垣・吉田・山根・地道『統計学講義』裳華房
・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の成績。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
科目の性格上、授業では数式が出てきますが、特に数式が苦手な学生には数式の「数文和訳」と関数電卓操作が結び付くように指導します。

【学生が準備すべき機器他】
統計計算作業には関数電卓が必要です。表計算ソフト（EXCEL）や統計ソフト（R）が使えると、より実践的に学べます。

【その他の重要事項】
事前に履修すべき関連科目：特にありません。

基礎統計学Ⅱ	専門基礎科目 B 群	2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］
基礎統計学Ⅰ	専門基礎科目 B 群	2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］
基礎統計学Ⅱ	専門基礎科目 B 群	2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］
基礎統計学Ⅰ	専門基礎科目 B 群	2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

豊田　敬

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数量的な考察がなされる学問分野や実務では、統計学の知識が必須であることは今や周知の事実です。また、確率的思考に基く統計的手法を修得することは、リスクに対応しなければならない市民としての常識の一つを身に付けることにも繋がります。この授業では、実り多い統計学の入門的事項について学びます。なお、春学期は高校数学（確率・統計の章、新課程なら数学Ⅰ・数学Ａ・数学Ｂに所収）の復習が主な内容です（リメディアル）。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、簡単な定義式や公式を記憶して筆記できるようにすること。
・簡単な手法（単回帰分析まで）については、データから実際に計算し、結果を出せるようにすること。

【授業の進め方と方法】
配付資料に沿って、板書を併用して授業を行ないます。受講生は手を使ってノートをとることが求められます。また、問題演習（データの計算は関数電卓でできる範囲）を適宜織り込んだ授業形態になります。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス 複利計算	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識、について説明し、複利の原理について学ぶ.
第２回	複利計算（関数電卓での計算練習）	利付間隔、連続複利、について学ぶ. Napier の数・指数関数・対数関数について補足的に解説する.
第３回	データのソートとグループ化	記号と用語、幹葉図、度数分布、相対度数分布、ヒストグラム、正規曲線、について学ぶ.
第４回	データの平均と標準偏差（１）	平均、偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、変動係数、について学ぶ.
第５回	データの平均と標準偏差（２）	. Σ 演算、計算手順、平均と標準偏差の性質、標準化、について学ぶ.
第６回	歪度・尖度と積率	第４回と第５回の内容を復習し、分布の歪みと尖り具合の指標を導入し、積率、について学ぶ.
第７回	メディアンと四分位範囲そして五数要約	メディアン、四分位値、最小値・最大値、四分位範囲、範囲、箱ひげ図、外れ値、について学ぶ.
第８回	２次元データの整理	散布図、偏差積和、共分散、相関係数、結合度数分布と周辺度数分布、について学ぶ.
第９回	回帰（２次元データへの直線のあてはめ）	最小２乗法そして回帰係数、決定係数、について触れる. 高校では扱わなかった話題である.
第 10 回	場合の数と確率	順列と組合せについて簡単に復習してから、事象の確率とその基本性質、について学ぶ.
第 11 回	確率分布（１）	事象の独立性、条件つき確率、確率変数と確率分布、確率分布の平均と標準偏差（分散）、について学ぶ.
第 12 回	確率分布（２）	２次元の確率変数、確率変数の和と積、について学ぶ.
第 13 回	二項分布と正規分布	二項分布とその平均・分散、中心極限定理、極限分布としての正規分布について学ぶ.
第 14 回	統計的な推測	秋学期へ向けて、母集団からの無作為標本抽出、標本平均のサンプリング分布、母平均の推定など統計的推論の概略を学ぶ.
第 15 回	復習と問題演習	扱ったテーマ全体の復習と要点について説明し、試験対策に資す.

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	秋学期ガイダンス、	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識、について説明し、Σ記号の演算について復習する。
第２回	確率変数とその期待値	春学期に学んだ事項をより一般的な視点から学ぶ.
第３回	二項分布、ポアソン分布と正規分布（１）	ベルヌーイ分布、二項分布、ポアソン分布について、確率関数、平均と分散、応用、について学ぶ.
第４回	二項分布、ポアソン分布と正規分布（２）	大数法則、中心極限定理、正規分布、正規分布表の使い方、二項分布の正規近似、応用、について学ぶ.
第５回	計数データの統計的推論	母比率の点推定、最尤法、母比率の区間推定、仮設検定について学ぶ.
第６回	多次元の確率分布（一般論）	同時分布、周辺分布、条件付分布、独立性、期待値、独立同分布（IID）、について学ぶ.
第７回	サンプリング分布と点推定	正規母集団からの標本抽出、ｔ分布、カイ２乗分布、F 分布、不偏推定量、について学ぶ.
第８回	区間推定（1）	信頼区間の方式と考え方について学ぶ.
第９回	区間推定（2）	正規母集団の母平均と母分散に関する区間推定のやり方、について学ぶ.
第 10 回	仮説検定（1）	仮説検定に関する用語の導入とその考え方、について学ぶ.
第 11 回	仮説検定（2）	正規母集団の母平均と母分散に関する検定のやり方について学ぶ.
第 12 回	カイ２乗検定	経験分布と理論分布、有意性検定、適合度のカイ２乗検定のやり方、について学ぶ.
第 13 回	二標本問題（1）	二つの正規母集団の母平均の差の検定のやり方について学ぶ.
第 14 回	二標本問題（２）	F 分布を導入し、二つの正規母集団の母分散比の検定のやり方について学ぶ.
第 15 回	復習と問題演習	扱ったテーマ全体の復習と要点について説明し、試験対策に資す.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業後その日のうちに基本概念の理解具合を確認する。練習問題は翌週までに解くこと。
予習：必要な場合は指示します。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
・高校数学の教科書（数学Ⅰ、数学Ａ、数学Ｂ）
・稲垣・吉田・山根・地道『統計学講義』裳華房
・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の成績。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
科目の性格上、授業では数式が出てきますが、特に数式が苦手な学生には数式の「数文和訳」と関数電卓操作が結び付くように指導します。

【学生が準備すべき機器他】
統計計算作業には関数電卓が必要です。表計算ソフト（EXCEL）や統計ソフト（R）が使えると、より実践的に学べます。

【その他の重要事項】
事前に履修すべき関連科目：特にありません。

ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ　専門基礎科目 A 群　1〜4 年次／ 4 単位［年間授業］

ミクロ経済学入門Ⅰ　専門基礎科目 A 群　1〜4 年次／ 2 単位［春学期授業］

ミクロ経済学入門Ⅱ　専門基礎科目 A 群　1〜4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

林　直嗣

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学は消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を、価格や生産量などミクロの経済量をベースに分析する。消費者は何をどう需要するか、企業はどう生産計画を立てるか、市場価格はどう決まるのか、独占はなぜ問題なのか、賃金や利潤などはどう分配されるのか、投資と資本蓄積はどんな基準で行われるのか、、市場機構の限界と政府の役割とは何か、民主的意思決定機構はどう可能となるのか、不確実性は経済活動にどう影響するのか、など私たちの身の回りの経済問題について易しく、しかも体系的に講義する。

各個人の身の回りから企業や産業、日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解することが、この授業の目的である。

【到達目標】

消費者や企業、政府の経済問題を易しく解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。公務員試験、公認会計士試験、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うためには、問題演習は必須である。

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。この授業ではインターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行うので、予習や復習に役立てることができる。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で活き活きとした双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を採る。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	経済とミクロ経済学 (1)	ミクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説する。
第 2 回	経済とミクロ経済学 (2)	ミクロ経済学の基礎的概念を説明する。
第 3 回	市場経済と貨幣 (1)	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説する。
第 4 回	市場経済と貨幣 (2)	市場経済と貨幣について進んだ考え方を説明する。
第 5 回	消費者の行動 (1)	消費者行動の基礎概念を説明する。
第 6 回	消費者の行動 (2)	消費者行動の基礎理論を説明する。
第 7 回	消費者の行動 (3)	消費者理論の核心を解説する。
第 8 回	消費者の行動 (4)	消費者理論の進んだ考え方を説明する。
第 9 回	企業の行動 (1)	企業理論の基礎を説明する。
第 10 回	企業の行動 (2)	企業理論の核心を解説する。
第 11 回	企業の行動 (3)	企業理論の進んだ考え方を説明する。
第 12 回	市場均衡 (1)	市場均衡論のエッセンスを解説する。
第 13 回	市場均衡 (2)	一般均衡論の核心を解説する。
第 14 回	市場均衡 (3)	一般均衡論の進んだ問題を解説する。
第 15 回	1〜14 回のまとめ	まとめをする。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	独占市場 (1)	完全独占の基礎理論を解説する。
第 17 回	独占市場 (2)	独占の進んだ問題を解説する。
第 18 回	独占市場 (3)	寡占理論の核心を解説する。
第 19 回	独占市場 (4)	寡占理論の進んだ考え方を説明する。
第 20 回	所得分配 (1)	所得分配の基礎理論を説明する。
第 21 回	所得分配 (2)	所得分配の進んだ問題を解説する。
第 22 回	資本と利子 (1)	資本理論の核心を解説する。
第 23 回	資本と利子 (2)	資本理論の進んだ問題を説明する。
第 24 回	厚生経済学と社会的選択 (1)	厚生経済学のエッセンスを解説する。
第 25 回	厚生経済学と社会的選択 (2)	市場の失敗の諸問題を考える。
第 26 回	厚生経済学と社会的選択 (3)	厚生経済学の進んだ問題を考える。
第 27 回	情報と不確実性の経済学 (1)	情報と不確実性の基礎理論を説明する。
第 28 回	情報と不確実性の経済学 (2)	情報と不確実性の進んだ問題を理論的に分析する。
第 29 回	情報と不確実性の経済学 (3)	情報と不確実性の応用問題を考察する。
第 30 回	16〜29 回のまとめ	まとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web 授業を e ラーニングし、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習 1 時間、授業 1 時間、復習 1 時間を 15 週やって 1 単位とされているので、できるだけ頑張って主体的に学修しましょう。

【テキスト（教科書）】

林　直嗣著『経済学入門』新世社（入門の教科書）
林　直嗣著『問題演習　ミクロ経済学　再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）

【参考書】

林　直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う。授業内クイズ、レポート提出ないし小テストをさらに加えることもある。それらの総合点を合計して、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をしたりテスト前に復習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

教室では、板書を利用するとともに、プレゼンテーション用教材（Power Point による教材）をスクリーンに投影する。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

〔関連科目〕

マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目 2 群）と並んで、この科目は経済学関係の基礎的科目なので、必ず履修登録することが望ましい。

簿記入門Ⅰ・Ⅱ

専門基礎科目 A 群　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

大下　勇二

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】
簿記入門Ⅰ・Ⅱでは日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産 (資本)(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	資産・負債・純資産 (資本)(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 5 回	簿記上の取引	取引 簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳 (1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 7 回	仕訳 (2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	勘定記入	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、それの勘定口座への転記の作業を習得します。
第 9 回	帳簿組織	帳簿組織の種類と役割から、帳簿組織を学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算手続き (その 1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算手続き (その 1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算手続き (その 1)(3)	決算手続き (その 1)(1) および決算手続き (その 1)(2) で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。
第 15 回	総括	第 14 回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。
第 16 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 17 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 18 回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第 19 回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 20 回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用として認められない税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第 25 回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第 26 回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (その 2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第 28 回	決算手続き (その 2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。
第 29 回	決算手続き (その 2)(3)	棚卸表の作成から 8 けた精算表の作成、帳簿の締切りおよび財務諸表の作成練習を行います。
第 30 回	総括	総合練習問題に取り組みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】
日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】
基本的には、春学期・秋学期の定期試験により評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。
〔その他注意事項〕
　簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

流通論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

流通論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

横山　斉理

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ？」「お店？」「トラックでの配送？」といったように、曖昧に認識しているのが現状です。この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】
到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実に起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型のミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようになることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を学び、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していく、というスタイルです。

【授業の進め方と方法】
春学期は、流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。秋学期は、春学期で学んだことを現実のビジネスと対応させて深く理解ために、われわれ消費者にもっとも身近な流通ビジネスである小売業に焦点を当て、そのビジネスの特徴を現実のケースを通じて多面的に学んでいきます。秋学期の小売ビジネスのケースを通じた学習により、抽象的になりがちな内容の理解が容易になるものと思います。
春学期・秋学期を通じて、双方向的な授業を目指します。教員が壇上からレクチャーを続けるだけではありません。受講生に発言を求めることは頻繁にありますし、簡単なグループワークを実施し、その内容を発表してもらうこともあります。（それほど難しいことを質問したり課したりはしませんのでご心配なく。）
なお、秋学期の内容を深く理解するためには、春学期の内容を押さえておくほうがよいため、通年での履修をお勧めします。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	商学の学び方	商学の学び方
2	商学の対象	流通とは何かを学ぶ
3	流通とマーケティング	流通とマーケティングの関係を学ぶ
4	流通の機能と機関	流通の機能とそれを担当する機関を学ぶ
5	流通・商業の生成と発展	流通・商業の生成と発展を学ぶ
6	経済の成長と流通・商業	経済の成長と流通・商業の関わりを学ぶ
7	生産の高度化と流通	生産の高度化が流通におよぼす影響を学ぶ
8	商業と小売業	商業と小売業の関係を学ぶ
9	小売機構と小売業	小売機構について学ぶ
10	小売業の形態	小売業の形態について学ぶ
11	小売市場と競争構造	小売業における競争を学ぶ
12	小売業業態	小売業の業態について学ぶ
13	小売業の営業形態	小売業の営業形態について学ぶ
14	卸売機構と卸売業	卸売機構について学ぶ
15	卸売商の存在意義	卸売商の存在意義を学ぶ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	変化対応業としての小売業	イトーヨーカ堂の事例
17	個人商店からチェーンストアへ	マルハチの事例
18	チェーンストアの存在意義	ダイエーの事例
19	顧客起点の小売経営	成城石井の事例
20	品揃えのマネジメント	ユニーの事例
21	売り場のデザイン	サンシャインの事例
22	バックヤードのデザイン	関西スーパーマーケットの事例
23	取引関係とロジスティクスのマネジメント	ライフの事例
24	小売業の商品開発	CGC の事例
25	小売業の価格マネジメント	西友の事例
26	顧客情報の活用	オギノの事例
27	店舗立地と商圏分析	まいばすけっとの事例
28	チェーンストアの人材活用	ハローデイの事例
29	ネットスーパーの革新	エブリデイフレスタの事例
30	小売業の国際展開	イオンの事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、予習より復習が重要です。復習として、授業計画の「内容」に示されたテキストや参考書の該当章を読み直すことが求められます。加えて、日々の生活において、流通に関する現象を意識して観察しておくと、授業の理解がよりスムースになると思います。

【テキスト（教科書）】
久保村隆祐『商学通論』（編著）同文舘出版
清水信年・坂田隆文『1 からのリテール・マネジメント』（編著）碩学舎

【参考書】
石原武政・竹村正明『1 からの流通論』（編著）、碩学舎
高嶋克義『現代商業学〔新版〕』有斐閣アルマ
矢作敏行『現代流通 理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
春学期末試験 50%
秋学期末レポート 50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
静穏な授業環境を実現するために状況をみながら様々な対応をとります。

【その他の重要事項】
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

流通論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

流通論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

横山　斉理

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ？」「お店？」「トラックでの配送？」といったように、曖昧に認識しているのが現状です。この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】
到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実に起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型のミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようになることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を学び、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していく、というスタイルです。

【授業の進め方と方法】
春学期は、流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。秋学期は、春学期で学んだことを現実のビジネスと対応させて深く理解ために、われわれ消費者にもっとも身近な流通ビジネスである小売業に焦点を当て、そのビジネスの特徴を現実のケースを通じて多面的に学んでいきます。秋学期の小売ビジネスのケースを通じた学習により、抽象的になりがちな内容の理解が容易になるものと思います。
春学期・秋学期を通じて、双方向的な授業を目指します。教員が壇上からレクチャーを続けるだけではありません。受講生に発言を求めることは頻繁にありますし、簡単なグループワークを実施し、その内容を発表してもらうこともあります。（それほど難しいことを質問したり課したりはしませんのでご心配なく。）
なお、秋学期の内容を深く理解するためには、春学期の内容を押さえておくほうがよいため、通年での履修をお勧めします。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	商学の学び方	商学の学び方
2	商学の対象	流通とは何かを学ぶ
3	流通とマーケティング	流通とマーケティングの関係を学ぶ
4	流通の機能と機関	流通の機能とそれを担当する機関を学ぶ
5	流通・商業の生成と発展	流通・商業の生成と発展を学ぶ
6	経済の成長と流通・商業	経済の成長と流通・商業の関わりを学ぶ
7	生産の高度化と流通	生産の高度化が流通におよぼす影響を学ぶ
8	商業と小売業	商業と小売業の関係を学ぶ
9	小売機構と小売業	小売機構について学ぶ
10	小売業の形態	小売業の形態について学ぶ
11	小売市場と競争構造	小売業における競争を学ぶ
12	小売業業態	小売業の業態について学ぶ
13	小売業の営業形態	小売業の営業形態について学ぶ
14	卸売機構と卸売業	卸売機構について学ぶ
15	卸売商の存在意義	卸売商の存在意義を学ぶ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	変化対応業としての小売業	イトーヨーカ堂の事例
17	個人商店からチェーンストアへ	マルハチの事例
18	チェーンストアの存在意義	ダイエーの事例
19	顧客起点の小売経営	成城石井の事例
20	品揃えのマネジメント	ユニーの事例
21	売り場のデザイン	サンシャインの事例
22	バックヤードのデザイン	関西スーパーマーケットの事例
23	取引関係とロジスティクスのマネジメント	ライフの事例
24	小売業の商品開発	CGC の事例
25	小売業の価格マネジメント	西友の事例
26	顧客情報の活用	オギノの事例
27	店舗立地と商圏分析	まいばすけっとの事例
28	チェーンストアの人材活用	ハローデイの事例
29	ネットスーパーの革新	エブリデイフレスタの事例
30	小売業の国際展開	イオンの事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、予習より復習が重要です。復習として、授業計画の「内容」に示されたテキストや参考書の該当章を読み直すことが求められます。加えて、日々の生活において、流通に関する現象を意識して観察しておくと、授業の理解がよりスムースになると思います。

【テキスト（教科書）】
久保村隆祐『商学通論』（編著）同文舘出版
清水信年・坂田隆文『1 からのリテール・マネジメント』（編著）碩学舎

【参考書】
石原武政・竹村正明『1 からの流通論』（編著）、碩学舎
高嶋克義『現代商業学〔新版〕』有斐閣アルマ
矢作敏行『現代流通 理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
春学期末試験 50%
秋学期末レポート 50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
静穏な授業環境を実現するために状況をみながら様々な対応をとります。

【その他の重要事項】
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

会計学入門Ⅰ　　専門基礎科目 B 群　　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

会計学入門Ⅱ　　専門基礎科目 B 群　　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

平井　裕久

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が経営をおこなう上では、「人」「モノ」「カネ」「情報」という資源を効率よく活用することが重要となる。その中でも「カネ」の視点からの会計は、企業経営の実態を明らかにし、また利害関係者に報告するなど多くの役割を果たすものである。経営学関連の分野を学ぶ上で、また企業経営を行う際に、会計に関する知識は必ず必要である。
本講義では、会計についての基礎的事項を理解し、様々な会計情報をあらゆる場面で利用出来る知識の習得を目的とする。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①複式簿記の原理が分かり、簡単な取引事例から決算書が作成できる。
②基本的な財務諸表 (貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。
③企業と会計を取り巻く基本的な制度 (株式会社制度、証券市場、情報開示など）を理解する。
④会計情報を企業内部の効率化のために利用できる。

【授業の進め方と方法】
本講義では、基本的にプレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示して説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。
なお、春学期と秋学期の進め方については、以下のようである。
［春学期］
テキストに沿って、企業と会計の関わりについての基礎知識を習得する。
［秋学期］
業種別に事例や実際の企業の財務諸表などを用いて、様々な適用場面で会計の有用性を理解する。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	講義の進め方や、会計学を学ぶ意義について説明する。
第２回	第１章「株式会社制度を知ろう」	・企業と制度 ・株式会社の意義 ・株主の権利と義務 ・所有と経営の分離 ・アカウンタビリティとは何か ・会社は誰のものか
第３回	第２章「資金を集める仕組みを知ろう」	・経営とは何をすることか ・資金を集めるための市場 ・情報開示の必要性 ・有価証券報告書の記載内容 ・粉飾と会計監査
第４回	第３章「財務諸表を理解しよう」	・会計とは何か ・財務諸表の種類 ・損益計算書とは何か ・貸借対照表とは何か
第５回	第４章「簿記の仕組みを知ろう」	・取引を仕訳で記録する ・仕訳を元帳に転記する ・元帳から試算表へ ・精算表の使い方
第６回	第５章「連結財務諸表とは何か」	・企業集団という考え方 ・連結財務諸表の種類 ・なぜ連結が重要なのか ・連結決算の仕方 ・未実現利益とは何か ・少数株主とは何か ・持分法とは何か
第７回	第６章「キャッシュ・フロー計算書を知ろう」	・なぜキャッシュ・フロー計算書に着目するのか ・キャッシュ・フロー計算書の構造 ・キャッシュ・フロー計算書の読み方 ・キャッシュ・フロー計算書の利用 ・株主資本等変動計算書とは何か
第８回	第７章「貸借対照表を読もう－安全性の分析－」	・倒産とは何か ・自己資本比率 ・流動比率 ・固定比率
第９回	第８章「損益計算書を読もう」	・売上と利益から何を読み取るか ・損益計算書をどう読むか ・連結財務諸表をどう読むか
第 10 回	第９章「B/S と P/L を結びつけて読もう－収益生分析－」	・資本利益率とは何か ・資本利益率の分解 ・レバレッジ効果
第 11 回	第 10 章「製品の原価を管理しよう」	・原価計算とは何か ・製品の原価を計算する ・製品の価格はどう決めるのか ・どうすれば原価を下げられるのか
第 12 回	第 11 章「利益を生み出す売上高を知ろう－損益分岐点分析－」	・管理会計とは ・利益計画と直接原価計算 ・固定費と変動費 ・損益分岐点分析 ・企業の費用構造を見る
第 13 回	第 12 章「投資の可否を判断する」	・意思決定会計 ・資金の時間的価値 ・設備投資の意思決定 ・設備投資の意思決定は正しいか
第 14 回	第 13 章「株式市場は企業をどう評価しているか」	・株価はどうやって決まるのか ・リスクとリターンの関係 ・企業価値とは何か ・株価を読む
第 15 回	第 14 章「法人税の計算を理解しよう」 第 15 章「企業の責任について考えよう」	・企業の経営に関わる税金問題 ・企業の社会的責任を理解する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	イントロダクション	講義の進め方や、会計知識の利用について説明する。
第 17 回	財務会計の基礎Ⅰ	貸借対照表 (ＢＳ) の作成と意義について確認する。
第 18 回	財務会計の基礎Ⅱ	損益計算書 (ＰＬ) の作成と意義について確認する。
第 19 回	財務会計の基礎Ⅲ	財務諸表の作成と公開について確認する。
第 20 回	管理会計の基礎Ⅰ	管理会計の意義および体系、そして特有の原価概念などについて確認する。
第 21 回	管理会計の基礎Ⅱ	業績評価会計に関するテーマを確認する。
第 22 回	管理会計の基礎Ⅲ	意思決定会計に関するテーマを確認する。
第 23 回	財務諸表分析の基礎Ⅰ	財務諸表分析について安全性分析、収益性分析について確認する。
第 24 回	財務諸表分析の基礎Ⅱ	財務諸表分析について効率性分析、成長性分析について確認する。
第 25 回	財務諸表分析の基礎Ⅲ	実際の企業の財務データを利用し財務諸表分析をおこなう。
第 26 回	財務諸表分析の基礎Ⅳ	実際の企業の公表データ等を用いて経営分析をおこなう。
第 27 回	企業価値評価Ⅰ	企業価値およびその算定方法について理解する。
第 28 回	企業価値評価Ⅱ	実際の企業の財務データを用いて企業価値評価をおこなう。
第 29 回	総復習	会計情報の作成、および利用についての基礎的知識の確認をする。
第 30 回	本講義のまとめ	本講義で学習した会計に関する知識の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。

【テキスト（教科書）】
「春学期」
　水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計』税務経理協会，2011
「秋学期」
　利用テキスト等については、講義にて指示する。

【参考書】
片岡 洋一　著『現代会計学の基礎』税務経理協会，2007
伊藤 邦雄　著『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社，2014
佐藤倫正・向伊知郎　編著『ズバッ！とわかる会計学』同文舘出版，2014

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (70 %) と平常点 (30 %) による総合評価
（平常点：中間テスト/授業内課題）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度の講義で指摘があったので、スライドの文字をできる限り見やすくしたい。また、秋学期では 2 年生を想定し、就職活動に活かせる内容として業種の内容を盛り込むので、就職活動を終えた学生が既に得ている知識も含まれる。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示し講義を進める。

【その他の重要事項】
「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また今後、会計関連の専門科目を履修する予定がある場合には本授業を履修しておくことが望ましいであろう。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

会計学入門Ⅱ　　専門基礎科目 B 群　　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

会計学入門Ⅰ　　専門基礎科目 B 群　　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

平井　裕久

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が経営をおこなう上では、「人」「モノ」「カネ」「情報」という資源を効率よく活用することが重要となる。その中でも「カネ」の視点からの会計は、企業経営の実態を明らかにし、また利害関係者に報告するなど多くの役割を果たすものである。経営学関連の分野を学ぶ上で、また企業経営を行う際に、会計に関する知識は必ず必要である。
本講義では、会計についての基礎的事項を理解し、様々な会計情報をあらゆる場面で利用出来る知識の習得を目的とする。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①複式簿記の原理が分かり、簡単な取引事例から決算書が作成できる。
②基本的な財務諸表 (貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。
③企業と会計を取り巻く基本的な制度 (株式会社制度、証券市場、情報開示など）を理解する。
④会計情報を企業内部の効率化のために利用できる。

【授業の進め方と方法】
本講義では、基本的にプレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示して説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。
なお、春学期と秋学期の進め方については、以下のようである。
［春学期］
テキストに沿って、企業と会計の関わりについての基礎知識を習得する。
［秋学期］
業種別に事例や実際の企業の財務諸表などを用いて、様々な適用場面で会計の有用性を理解する。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	講義の進め方や、会計学を学ぶ意義について説明する。
第２回	第１章「株式会社制度を知ろう」	・企業と制度 ・株式会社の意義 ・株主の権利と義務 ・所有と経営の分離 ・アカウンタビリティとは何か ・会社は誰のものか
第３回	第２章「資金を集める仕組みを知ろう」	・経営とは何をすることか ・資金を集めるための市場 ・情報開示の必要性 ・有価証券報告書の記載内容 ・粉飾と会計監査
第４回	第３章「財務諸表を理解しよう」	・会計とは何か ・財務諸表の種類 ・損益計算書とは何か ・貸借対照表とは何か
第５回	第４章「簿記の仕組みを知ろう」	・取引を仕訳で記録する ・仕訳を元帳に転記する ・元帳から試算表へ ・精算表の使い方
第６回	第５章「連結財務諸表とは何か」	・企業集団という考え方 ・連結財務諸表の種類 ・なぜ連結が重要なのか ・連結決算の仕方 ・未実現利益とは何か ・少数株主とは何か ・持分法とは何か
第７回	第６章「キャッシュ・フロー計算書を知ろう」	・なぜキャッシュ・フロー計算書に着目するのか ・キャッシュ・フロー計算書の構造 ・キャッシュ・フロー計算書の読み方 ・キャッシュ・フロー計算書の利用 ・株主資本等変動計算書とは何か
第８回	第７章「貸借対照表を読もう－安全性の分析－」	・倒産とは何か ・自己資本比率 ・流動比率 ・固定比率
第９回	第８章「損益計算書を読もう」	・売上と利益から何を読み取るか ・損益計算書をどう読むか ・連結財務諸表をどう読むか
第 10 回	第９章「B/S と P/L を結びつけて読もう－収益生分析－」	・資本利益率とは何か ・資本利益率の分解 ・レバレッジ効果
第 11 回	第 10 章「製品の原価を管理しよう」	・原価計算とは何か ・製品の原価を計算する ・製品の価格はどう決めるのか ・どうすれば原価を下げられるのか
第 12 回	第 11 章「利益を生み出す売上高を知ろう－損益分岐点分析－」	・管理会計とは ・利益計画と直接原価計算 ・固定費と変動費 ・損益分岐点分析 ・企業の費用構造を見る
第 13 回	第 12 章「投資の可否を判断する」	・意思決定会計 ・資金の時間的価値 ・設備投資の意思決定 ・設備投資の意思決定は正しいか
第 14 回	第 13 章「株式市場は企業をどう評価しているか」	・株価はどうやって決まるのか ・リスクとリターンの関係 ・企業価値とは何か ・株価を読む
第 15 回	第 14 章「法人税の計算を理解しよう」 第 15 章「企業の責任について考えよう」	・企業の経営に関わる税金問題 ・企業の社会的責任を理解する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	イントロダクション	講義の進め方や、会計知識の利用について説明する。
第 17 回	財務会計の基礎Ⅰ	貸借対照表 (ＢＳ) の作成と意義について確認する。
第 18 回	財務会計の基礎Ⅱ	損益計算書 (ＰＬ) の作成と意義について確認する。
第 19 回	財務会計の基礎Ⅲ	財務諸表の作成と公開について確認する。
第 20 回	管理会計の基礎Ⅰ	管理会計の意義および体系、そして特有の原価概念などについて確認する。
第 21 回	管理会計の基礎Ⅱ	業績評価会計に関するテーマを確認する。
第 22 回	管理会計の基礎Ⅲ	意思決定会計に関するテーマを確認する。
第 23 回	財務諸表分析の基礎Ⅰ	財務諸表分析について安全性分析、収益性分析について確認する。
第 24 回	財務諸表分析の基礎Ⅱ	財務諸表分析について効率性分析、成長性分析について確認する。
第 25 回	財務諸表分析の基礎Ⅲ	実際の企業の財務データを利用し財務諸表分析をおこなう。
第 26 回	財務諸表分析の基礎Ⅳ	実際の企業の公表データ等を用いて経営分析をおこなう。
第 27 回	企業価値評価Ⅰ	企業価値およびその算定方法について理解する。
第 28 回	企業価値評価Ⅱ	実際の企業の財務データを用いて企業価値評価をおこなう。
第 29 回	総復習	会計情報の作成、および利用についての基礎的知識の確認をする。
第 30 回	本講義のまとめ	本講義で学習した会計に関する知識の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。

【テキスト（教科書）】
「春学期」
　水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計』税務経理協会，2011
「秋学期」
　利用テキスト等については、講義にて指示する。

【参考書】
片岡 洋一　著『現代会計学の基礎』税務経理協会，2007
伊藤 邦雄　著『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社，2014
佐藤倫正・向伊知郎　編著『ズバッ！とわかる会計学』同文舘出版，2014

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (70 %) と平常点 (30 %) による総合評価
（平常点：中間テスト/授業内課題）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度の講義で指摘があったので、スライドの文字をできる限り見やすくしたい。また、秋学期では 2 年生を想定し、就職活動に活かせる内容として業種の内容を盛り込むので、就職活動を終えた学生が既に得ている知識も含まれる。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示し講義を進める。

【その他の重要事項】
「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また今後、会計関連の専門科目を履修する予定がある場合には本授業を履修しておくことが望ましいであろう。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

経営組織論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

経営組織論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

稲垣　保弘

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織現象はどのように生起し作用するのか、そのメカニズムについて検討します。有効な組織マネジメントを行うための前提となるように、基本的な組織理論から、ハウツー的な知識まで取り扱います。

【到達目標】
組織現象について理解し、それに対応できるような知識と思考方法の習得を目標とします。

【授業の進め方と方法】
受講者数によりますが、講義形式で授業の終わりに質問を受けるという形式になると思います。詳細は開講時に説明します。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体としての授業の流れ、授業の進め方、成績評価などについての説明。
2	組織と組織化	組織現象、組織活動の概要とそれらをどのように理解するかについての大まかな説明。
3	組織の官僚主義化	組織の官僚主義化の機能、逆機能、そして現代的な意味についての説明。
4	組織の形態と構造、そして機能	組織についての基本的知識の解説。機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織などの説明。
5	同上	同上
6	チーム活動について	チーム活動の特徴と成功に導く条件を組織論的に説明。
7	組織の重層性	組織階層の形成、機能などについての多面的説明。
8	同上	上司と部下の関係など、具体的なテーマについての説明。
9	組織と意思決定	組織での意思決定についての説明。
１０	組織の流動性	流れとしての組織現象についての説明（組織の進化論など）。
１１	同上	解釈学的循環と組織活動
１２	同上	組織内での競争など具体的なテーマについての説明。
１３	組織の力動性（ダイナミズム）	組織現象におけるパワー作用についての説明。
１４	同上	組織の境界と周辺の役割
１５	まとめ	春学期の内容の要約と補足

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
１６	組織現象の二つのレベル	仮構的レベルと実体的レベルの媒介作用についての説明。
１７	同上	ホロン、暗黙知など実体性の相対化についての説明。
１８	ドラマとしての組織現象	組織現象をドラマとして解明。
１９	組織と遊び	組織現象の日常性と非日常性、そしてそれらの役割についての説明。
２０	組織理論の形成	実証，反証、パラダイムなどの説明。
２１	組織シンボリズム	組織シンボリズム理論の説明（企業文化の理論的解明）。
２２	組織のコンティンジェンシー理論とハウツー	理論とハウツーの接点についての説明。
２３	ドラッカー理論と組織	P.F. ドラッカーは組織をどう捉えているのかの説明。
２４	ミンツバーグ理論	H. ミンツバーグの組織理論についての説明。特にコンフィグレーションとパワー作用について。
２５	バーナードの組織理論	C.I. バーナードの組織理論のエッセンスについての説明。
２６	マーチ=オルセンの意思決定のゴミ箱モデルについて。	H. サイモンの組織理論のエッセンスとの比較で、マーチのゴミ箱モデルの発想を説明。
２７	K. ワイクの理論	ワイクの進化論的モデルとルースカプリングについて説明。
２８	高信頼性組織	組織の失敗を回避したり、上手く対処できる組織にはどのような特徴があるのかについて説明。
２９	組織におけるリーダーシップ、モティベーション	リーダーシップと動機づけについての説明。
３０	全体としてのまとめ	まとめと補足説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業時間ごとに必要な内容を指示します。

【テキスト（教科書）】
稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房（２０１３）を予定しています。必要に応じてプリントを配布します。詳細はオリエンテーションのときに説明します。

【参考書】
稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房、２００２、第４，７，８，９章。
その他は、オリエンテーションのときや各授業時間ごとに必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験を中心に評価します。受講者数によって変更（例えばリポートにする）もあるので、オリエンテーションで説明します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度の学生の意見は参考にします。

【その他の重要事項】
関連科目：経営学総論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ

経営組織論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

経営組織論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

稲垣　保弘

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織現象はどのように生起し作用するのか、そのメカニズムについて検討します。有効な組織マネジメントを行うための前提となるように、基本的な組織理論から、ハウツー的な知識まで取り扱います。

【到達目標】
組織現象について理解し、それに対応できるような知識と思考方法の習得を目標とします。

【授業の進め方と方法】
受講者数によりますが、講義形式で授業の終わりに質問を受けるという形式になると思います。詳細は開講時に説明します。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体としての授業の流れ、授業の進め方、成績評価などについての説明。
2	組織と組織化	組織現象、組織活動の概要とそれらをどのように理解するかについての大まかな説明。
3	組織の官僚主義化	組織の官僚主義化の機能、逆機能、そして現代的な意味についての説明。
4	組織の形態と構造、そして機能	組織についての基本的知識の解説。機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織などの説明。
5	同上	同上
6	チーム活動について	チーム活動の特徴と成功に導く条件を組織論的に説明。
7	組織の重層性	組織階層の形成、機能などについての多面的説明。
8	同上	上司と部下の関係など、具体的なテーマについての説明。
9	組織と意思決定	組織での意思決定についての説明。
１０	組織の流動性	流れとしての組織現象についての説明（組織の進化論など）。
１１	同上	解釈学的循環と組織活動
１２	同上	組織内での競争など具体的なテーマについての説明。
１３	組織の力動性（ダイナミズム）	組織現象におけるパワー作用についての説明。
１４	同上	組織の境界と周辺の役割
１５	まとめ	春学期の内容の要約と補足

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
１６	組織現象の二つのレベル	仮構的レベルと実体的レベルの媒介作用についての説明。
１７	同上	ホロン、暗黙知など実体性の相対化についての説明。
１８	ドラマとしての組織現象	組織現象をドラマとして解明。
１９	組織と遊び	組織現象の日常性と非日常性、そしてそれらの役割についての説明。
２０	組織理論の形成	実証，反証、パラダイムなどの説明。
２１	組織シンボリズム	組織シンボリズム理論の説明（企業文化の理論的解明）。
２２	組織のコンティンジェンシー理論とハウツー	理論とハウツーの接点についての説明。
２３	ドラッカー理論と組織	P.F. ドラッカーは組織をどう捉えているのかの説明。
２４	ミンツバーグ理論	H. ミンツバーグの組織理論についての説明。特にコンフィグレーションとパワー作用について。
２５	バーナードの組織理論	C.I. バーナードの組織理論のエッセンスについての説明。
２６	マーチ=オルセンの意思決定のゴミ箱モデルについて。	H. サイモンの組織理論のエッセンスとの比較で、マーチのゴミ箱モデルの発想を説明。
２７	K. ワイクの理論	ワイクの進化論的モデルとルースカプリングについて説明。
２８	高信頼性組織	組織の失敗を回避したり、上手く対処できる組織にはどのような特徴があるのかについて説明。
２９	組織におけるリーダーシップ、モティベーション	リーダーシップと動機づけについての説明。
３０	全体としてのまとめ	まとめと補足説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業時間ごとに必要な内容を指示します。

【テキスト（教科書）】
稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房（２０１３）を予定しています。必要に応じてプリントを配布します。詳細はオリエンテーションのときに説明します。

【参考書】
稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房、２００２、第４，７，８，９章。
その他は、オリエンテーションのときや各授業時間ごとに必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験を中心に評価します。受講者数によって変更（例えばリポートにする）もあるので、オリエンテーションで説明します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度の学生の意見は参考にします。

【その他の重要事項】
関連科目：経営学総論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ

HA339

環境経営論Ⅰ

金藤　正直

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**土 2**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、「企業」の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営（CSR 経営）についても一緒に取り上げていく。

【到達目標】
本講義では、日本企業で現在実践されている環境経営やサステナビリティ経営における方針（戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を明らかにし、習得することができる。

【授業の進め方と方法】
本講義では、環境報告書やサステナビリティ報告書を利用しながら、日本企業で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴を理解することを目指す。また、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料などを多用しながら、両経営の実践的取組みへの理解をさらに深めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。
第 2 回	環境・サステナビリティ経営の目的と役割	従来の企業経営と比較しながら、環境・サステナビリティ経営の目的と役割を説明する。
第 3 回	環境・サステナビリティ経営の全体像	従来の企業経営と比較しながら、環境・サステナビリティ経営の仕組みを説明する。
第 4 回	環境・サステナビリティ経営戦略①	従来の経営戦略と比較しながら、環境経営戦略の特徴を説明する。
第 5 回	環境・サステナビリティ経営戦略②	従来の経営戦略と比較しながら、サステナビリティ経営戦略の特徴を説明する。
第 6 回	環境・サステナビリティ経営組織①	従来の組織編成と比較しながら、環境経営戦略を実現していく組織の特徴を説明する。
第 7 回	環境・サステナビリティ経営組織②	従来の組織編成と比較しながら、サステナビリティ経営戦略を実現していく組織の特徴を説明する。
第 8 回	環境・サステナビリティ経営管理①	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 9 回	環境・サステナビリティ経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 10 回	環境・サステナビリティ会計①	環境・サステナビリティ経営と会計の関係も説明する。
第 11 回	環境・サステナビリティ会計②	環境省環境会計ガイドラインに基づいて、環境保全コストの定義、内容、測定方法について説明する。
第 12 回	環境・サステナビリティ会計③	環境省環境会計ガイドラインに基づいて、環境保全効果および経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。
第 13 回	環境・サステナビリティ会計④	環境会計と比較しながらサステナビリティ会計（CSR 会計）の意義と特徴を説明する。
第 14 回	環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントと会計①	環境・サステナビリティ・バリューチェーンやサプライチェーンを対象としたマネジメントと会計の基礎を説明する。
第 15 回	環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントと会計②	ケーススタディを通して、環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントと会計の重要性を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、「企業」の環境経営やサステナビリティ経営の基礎を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
講義中に著書・論文・雑誌・URL 等をいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。
【環境経営/サステナビリティ経営（CSR 経営）】
・㈱日立製作所地球環境戦略室（2009）『日立インスパイア環境経営』東洋経済新報社。
・谷達雄（2012）『リコーの先進事例に学ぶ 環境経営入門』秀和システム。
・日刊工業新聞社（2015）『エコ・リーディングカンパニー東芝の挑戦 環境戦略が経営を強くする』日刊工業新聞社。
・川村雅彦（2015）『CSR 経営パーフェクトガイド』ウィズワークス。
【経営学/会計学】
・北中英明（2009）『プレステップ　経営学』弘文堂。
・中村竜哉（2009）『プレステップ　会計学』弘文堂。
・経営学検定試験協議会（2013）『経営学検定試験公式テキスト① 経営学の基本』中央経済社。
【URL】
・「環境報告書プラザ」〈http://www.ecosearch.jp/ja/〉。
・「ＣＳＲ図書館.net」〈http://csr-toshokan.net/〉。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
・討論やクイズへの参加（10〜20 %）
・確認テスト（10〜20 %）
・期末試験（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA339

環境経営論Ⅱ

金藤　正直

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**土 2**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、「地域」の環境経営やサステナビリティ経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】
本講義では、国内の地域で現在実践されている環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を明らかにし、習得することができる。

【授業の進め方と方法】
本講義では、講義内容に関連する著書、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、地域で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。
第 2 回	環境・サステナビリティ経営の目的と仕組み	CSV（Creating Shared Value）の概念に基づいて、地域の環境・サステナビリティ経営の目的と仕組み（産業クラスター）を説明する。
第 3 回	産業クラスター事業①	産業クラスターの概念を整理するとともに、国の動向や課題も説明する。
第 4 回	産業クラスター事業②	産業クラスターの事業の先進事例（フードバレーとかちなど）について紹介し、その特徴を説明する。
第 5 回	産業クラスター事業③	地域サプライチェーンとしての産業クラスターのマネジメントの方法を説明する。
第 6 回	産業クラスター事業④	産業クラスターのモニタリング手法として有効的に機能するバランス・スコアカードを説明する。
第 7 回	再生可能エネルギー事業①	再生可能エネルギーの概念を整理するとともに、国の動向や課題を説明する。
第 8 回	再生可能エネルギー事業②	太陽光発電事業（飯田市など）について紹介し、その特徴を説明する。
第 9 回	再生可能エネルギー事業③	バイオマス事業の先進事例（下田町など）について紹介し、その特徴を説明する。
第 10 回	地域活性化事業①	地域活性化の概念を整理するとともに、国の動向などを説明する。
第 11 回	地域活性化事業②	池田町（ワイン城）の取組事例を紹介し、その特徴を説明する。
第 12 回	地域活性化事業③	板柳町（ふるさとセンター）の取組事例を紹介し、その特徴を説明する。
第 13 回	地域事業を対象としたマネジメント	第８回〜第９回と第 11 回〜第 12 回のうち、１事業を対象としたマネジメント（第５回）の方法を検討し、提案する
第 14 回	地域事業を対象としたモニタリング	第８回〜第９回と第 11 回〜第 12 回のうち、１事業を対象としたバランス・スコアカード（第６回）を検討し、提案する。
第 15 回	総括	地域の環境・サステナビリティ経営の意義と将来展開していくべき地域事業を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、「地域」の環境経営やサステナビリティ経営の基礎を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】
二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計－産業クラスターの可能性－』中央経済社。

【参考書】
講義中に著書・論文・雑誌・URL などをいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。
【著書】
・諸富徹（2015）『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。
・山﨑朗（2015）『地域創生のデザイン』中央経済社。
【URL】
・まち・ひと・しごと創生本部（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/）。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の４点に基づいて評価します。
・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
・討論やクイズへの参加（10〜20 %）
・確認テスト（10〜20 %）
・期末試験（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

アントレプレナーシップ論Ⅰ　2014 年度以降入学生

アントレプレナーシップ論Ⅰ　2012～2013 年度入学生

事業創造論Ⅰ　2009～2011 年度入学生

小門　裕幸

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

..
スマホマーケティング最先端のノウハウを学び、起業する。
...
春学期の５限（アントレプレナーシップ論Ⅰ（事業創造論Ⅰ））と６限（アントレプレナーシップ論Ⅱ（事業創造論Ⅱ））の連続授業により行うもので、SNS の最先端のマーケティング手法を開発し成功した企業家（法政の若手 OB ： 30 代前半）を迎えてアントレプレナーシップの真髄を理解し修得することを目指す。彼はアントレプレナーシップとは、企業家精神・企業家活動であり新しい事業の創造意欲に燃え高いリスクに果敢に挑む姿勢といっている。
..
アントレプレナーシップは実践学である。ゼロからのスタートアップとなった彼は CEO や CTO などの役割・機能は自然と身に就くものである言う。「アントレプレナーシップの授業」とは、若くてチャンスのある学生の「背中を押すこと」であり、背中を押すには「体験を聴くこと。それがイメージを湧きたたせること」だと断言する。
..
教員は授業ガイダンスや授業インフラの整備を行うが授業は彼のイニシアティブで進められる。
..
全学公開科目である。君たちの友人で共に起業を考えている学生も参加可能です。

【到達目標】

起業し成功することである。最終目標になるかもしれないが、少なくとも授業中はその姿勢で真剣に臨んでもらう。アントレプレナーシップを体得し、これまでの生き方を振り返り、意識変革を行う。成功とは、具体的には IPO もしくは M&A を行うということだ。成果をあげないといけないということだ。

【授業の進め方と方法】

複数の企業家からの講話や体験談を聴き、若き先輩がコメントをする。限りなく諸君にイメージが湧く工夫をしたい。アントレプレナーシップ論Ⅰ（事業創造論Ⅰ）では講話をアントレプレナーシップ論Ⅱ（事業創造論Ⅱ）では実際にチームに分かれグループワークを行い、ビジネスプランコンテストで締めくくり優秀者を表彰したい。
.. 毎回わくわくするような授業にしたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業に勤めるのではなく、起業するという選択肢があることを理解する	○企業に勤めるメリットデメリット、起業するメリットデメリット ○日本人学生の起業意識の低さ（グローバル比較） ○現在起業している人の理由は何か、起業を後悔しているかどうか ○大企業のサラリーマンと企業家の違いを理解する ○普通に働いた時の生活とは、年金はどうなるのかなど
第 2 回	どうすれば起業ができるのか、リスクはないか、復職できるかなどを考える	○ 起業して最初にすることは何か ○ どのような覚悟が必要か ○ 失敗した時にサラリーマンとして復職できるか ○ 何歳までがいいか、何を勉強すると良いか
第 3 回	インターネット・スタートアップの歴史を学ぶ	○ ヤフー・楽天・GMO・サイバーエージェント（第一世代） ○ ミクシィ・DeNA・GREE・ZOZOTOWN・クックパッド（第二世代） ○ ガンホー・コロプラ・LINE（第三世代） ○ 日本のユニコーン・世界のユニコーン ○ 起業するにはインターネット業界が良い理由（成長産業のメリット）
第 4 回	いまのインターネットスタートアップを学ぶ	○ 現在のインターネット業界のプレイヤー図（東証、VC、LP、投資家、スタートアップ経営者、ミドル経営者、シリアルアントレプレナー、上場企業経営者）
第 5 回	成功する事業の見定め方を学ぶ	○ 実際に何に目を付けているか ○ どのような基準で事業を考えているか ○ 注目されているサービス、業界 ○ 先発優位・後発のフォロー戦略 ○ グノシー VS スマートニュース、ランサーズ VS クラウドワークス、メルカリ VS フリル
第 6 回	実際に事業を進め始めてみる	○ ピボットしてもいいのか ○ 初期のリルーティングの考え方
第 7 回	自己資金でやるか、資金調達をするか考える	○ 自己資金でやるメリット・デメリット ○ 資金調達をするメリット・デメリット
第 8 回	集客方法を考える	○ 検索（SEO 設計） ○ 広告（Facebook、Twitter、Instagram、YDN、GDN） ○ リファラル（インセンティブ設計、ソーシャル利用） ○ TVCM、雑誌広告 （具体的な事例を取り上げながら）
第 9 回	アプリビジネス最前線を学ぶ	○ ソーシャルゲーム ○ ソーシャルネットワーク（Facebook、Twitter、Instagram） ○ フリマアプリ（メルカリ、フリル） ○ ニュースアプリ（グノシー、スマートニュース、アンテナ、MERY、LINE ニュース） ○ 動画アプリ（MixChannel、Youtube、LINE LIVE・・） ○ デーティングアプリ（pairs、タップル、Tinder）
第 10 回	最新サービスに学ぶ	○ メルカリなど（予定）
第 11 回	第十一回 最新サービスに学ぶ	○ スマートニュース、MERY など（予定）
第 12 回	どうすれば成功できるのか、失敗とそこから這い上がった経験から学ぶ	○ 成功とは何か ○ IPO のメリット・デメリット、M&A のメリット・デメリット ○ IPO 後、さらなるその先を目指す時 ○ 成功者に聞く成功の要因 ○ 失敗とは何か （実際に人を呼ぶ（検討））

第 13 回	現在のインターネット業界の成功者たちを知る	○ 海外の成功者（Facebook のほか、SnapChat などや、39 歳までのランキング表を検討中） ○ 日本のインターネット起業家、1 周目の成功者、2 周目の成功者、そして 3 周目へ・・ ○ 成功者たちが得た金額 ○ 成功者たちのお金の使い道 （実際に人を呼ぶ（検討）MERY はまだ 20 代）
第 14 回	シリアルアントレプレナーという概念を理解する	○ 何故二度目の起業をするのか ○ 二度目の優位性とデメリット ○ 海外の事例は？
第 15 回	Google や facebook を目指すために	○ 日本のスタートアップには何が足りないのか ○ 最初から海外を視野に入れる重要性 ○ リスクマネーの不足について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
極力授業内に集中してほしい。起業プロセスに入るものもいると思うが、そうでない人は、テレビ、映画、インターンなど　様々な機会の経験・チャレンジをしてほしい。

【テキスト（教科書）】
適宜指定
..
（ICT 業界に関心のある学生に読むことを強く薦める。授業の進行に合わせて読んでもらい数行のコメントを求めることも検討している。エリック・ブリニュルソン『ザ・セカンドマシン・エイジ』日経 BP）

【参考書】
小門裕幸『アントレプレナーソシップとシティズンシップ』法政大学出版局
小門裕幸『キャリアデザインという自己変革と・社会変革』泉文堂
城繁幸『若者はなぜ 3 年で辞めるのか-年功序列が奪う日本の未来-』光文社新書
Steve Mariotti "The young entrepreneur's guide to starting & running a business"Crown Business
山本一彦『超入門企業価値経営』中央経済社
有斐閣『アントレプレナーシップ入門』長谷川博和、高橋徳行他
ジェレミー・リフキン『限界費用ゼロ社会』NHK 出版
エリック・ブリニュルソン『ザ・セカンドマシン・エイジ』日経 BP

【成績評価の方法と基準】
平常点およびビジネスプラン

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
君たちに年令の近い成功企業者を招聘し、君たちに身近なマーケットを意識してスタートアップを目指すことにした。また、多くの若手企業家の招聘を試みたいと思っている。授業の効率性を考え５・６限の連続授業とした。

【その他の重要事項】
アントレプレナーシップ論Ⅱ（事業創造論Ⅱ）の履修は必須。
オフィスアワー　　水曜日５限

【キャリアデザイン学部より】
本科目は 2014 年度入学者より、講義型の「展開科目」となりました。ただし 2013 年度以前入学者は、従来通り「体験型選択必修科目」となります。履修希望者は 3 月下旬のガイダンスに必ず出席してください。

アントレプレナーシップ論Ⅱ　2014 年度以降入学生
アントレプレナーシップ論Ⅱ　2012～2013 年度入学生
事業創造論Ⅱ　2009～2011 年度入学生

小門　裕幸

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・6**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の５限（アントレプレナーシップ論Ⅰ（事業創造論Ⅰ））と６限（アントレプレナーシップ論Ⅱ（事業創造論Ⅱ））の連続授業により行うもので、SNS の最先端のマーケティング手法を開発し成功した企業家（法政の若手 OB ： 30 代前半）を迎えてアントレプレナーシップの真髄を理解し修得することを目指す。彼はアントレプレナーシップとは、企業家精神・企業家活動であり新しい事業の創造意欲に燃え高いリスクに果敢に挑む姿勢といっている。
..
アントレプレナーシップは実践学である。ゼロからのスタートアップとなった彼は CEO や CTO などの役割・機能は自然と身に就くものである言う。「アントレプレナーシップの授業」とは、若くてチャンスのある学生の「背中を押すこと」であり、背中を押すには「体験を聴くこと。それがイメージを湧きたたせること」だと断言する。
..
教員は授業ガイダンスや授業インフラの整備を行うが授業は彼のイニシアティブで進められる。
..
全学公開科目である。君たちの友人で共に起業を考えている学生も参加可能です。

【到達目標】
起業し成功することである。最終目標になるかもしれないが、少なくとも授業中はその姿勢で真剣に臨んでもらう。アントレプレナーシップを体得し、これまでの生き方を振り返り、意識変革を行う。成功とは、具体的には IPO もしくは M&A を行うということだ。成果をあげないといけないということだ。

【授業の進め方と方法】
複数の企業家からの講話や体験談を聴き、若き先輩がコメントをする。限りなく諸君にイメージが湧く工夫をしたい。アントレプレナーシップ論Ⅰ（事業創造論Ⅰ）では講話をアントレプレナーシップ論Ⅱ（事業創造論Ⅱ）では実際にチームに分かれグループワークを行い、ビジネスプランコンテストで締めくくり優秀者を表彰したい。
..
毎回わくわくするような授業にしたい。
..
事業内容として参考となるテーマ：
車・駐車場・ドローン・fintech、ヘルスケア、デーティング、新卒・中途採用、
クラウドソーシング、C2C、ファッション、子育て、Edtech、ダイエット、
不動産、動画、コミュニケーション、シェアリングエコノミー・・など

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グループワークのガイダンス	チーム分け（１人・２人・３人・４人・５人）
第 2 回	グループワークⅠ	授業内容を決めるⅠ
第 3 回	グループワークⅡ	授業内容を決めるⅡ
第 4 回	グループワークⅢ	授業内容を深める
第 5 回	グループワークⅣ	授業内容を詰める
第 6 回	グループワークⅤ	授業内容を完成させる
第 7 回	発表	評価して順位を決める
第 8 回	第２回チーム分け	（１人・２人・３人・４人・５人）
第 9 回	アグループワークⅠ	授業内容を決めるⅠ
第 10 回	グループワークⅡ	授業内容を決めるⅡ
第 11 回	グループワークⅢ	授業内容を深める
第 12 回	グループワークⅣ	授業内容を詰める
第 13 回	グループワークⅤ	授業内容を完成させる

第 14 回　発表　　評価して順位を決める
第 15 回　まとめ　　全体を振り返り質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
極力授業内に集中して効率よく行う様にしてほしいが、延長・時間外もありうる。

【テキスト（教科書）】
適宜指定

【参考書】
小門裕幸『アントレプレナーソシップとシティズンシップ』法政大学出版局
小門裕幸『キャリアデザインという自己変革と・社会変革』泉文堂
Steve Mariotti "The young entrepreneur's guide to starting & running a business"Crown Business
山本一彦『超入門企業価値経営』中央経済社
長谷川博和、高橋徳行他『アントレプレナーシップ入門』有斐閣
ジェレミー・リフキン『限界費用ゼロ社会』NHK 出版
エリック・ブリニュルソン『ザ・セカンドマシン・エイジ』日経 BP

【成績評価の方法と基準】
平常点およびビジネスプラン

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
君たちに年令の近い成功企業者を招聘し、君たちに身近なマーケットを意識してスタートアップを目指すことにした。また、多くの若手企業家の招聘を試みたいと思っている。授業の効率性を考え５・６限の連続授業とした。

【その他の重要事項】
アントレプレナーシップ論Ⅰ（事業創造論Ⅰ）の履修は必須。
オフィスアワー　　水曜日５限

【キャリアデザイン学部より】
本科目は 2014 年度入学者より、講義型の「展開科目」となりました。
　ただし 2013 年度以前入学者は、従来通り「体験型選択必修科目」となります。履修希望者は 3 月下旬のガイダンスに必ず出席してください。

就業機会とキャリア　2014 年度以降入学生
就業機会とキャリア　2012～2013 年度入学生
就業機会とキャリア　2009～2011 年度入学生

酒井　理

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな仕事について考えるとともに、現代社会における産業や企業のあり方について学びます。また企業に求められる人材、組織で働くこと、社会人として何が期待されているのかについてゲストスピーカーのお話から学びます。日々変化する企業の最新情報にふれることは将来のキャリア選択に大いに参考になると思います。

【到達目標】
①様々な働き方、仕事に興味をもつこと、②いろいろな企業やそこでの働き方を理解すること、②自らのキャリア形成に前向きに取り組む姿勢を身につけること、を目標に授業を実施します。

【授業の進め方と方法】
各回、多様な企業からさまざまな職種、役職の方をお招きして、その業界の最新動向について語っていただくとともに、仕事の内容、キャリアパスの実際、組織での働き方などについてお話をうかがいます。各回の授業は講義 70 分、質疑応答 10 分、レポート作成が 10 分の時間配分で実施します。毎回の講義時間配分が変更になることがあります。また、講師の方の都合により業種などが変更になることもあります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、受講の心構え、授業形式、成績評価の方法などの説明を行います。
2	食品産業	我々にとって大変身近な業界である食品メーカーにおける働き方を学びます。
3	セキュリティ業界	市場成長を続けているセキュリティサービスの業界における働き方を学びます。
4	非営利団体	昨今は地域での活動、国際的な活動と幅広くに非営利団体が活躍しています。そこでの働き方を学びます。
5	旅行業界	今後観光が大きな産業となっていくことが期待されています。担い手の旅行業界での働き方を学びます。
6	業界、企業の見方	さまざまな情報源を紹介しながら業界や企業の見方を説明します。就職活動に向けた事前準備をします。
7	ブライダル産業	サービス経済化がすすむ我が国において成長が期待できるブライダル産業での働き方を学びます。
8	教育産業	これからの成長が期待できる分野である教育産業を取り上げて、そこでの働き方を学びます。
9	医薬品産業	高齢化社会を見据えて重要な産業である医薬品業界での働き方について学びます。
10	アパレル産業	日常的に接する事が多い衣料品分野を取り上げます。アパレル産業での働き方について学びます。
11	働き方を考える	いろいろな業界での働き方を学んだということ前提に、組織での働き方を整理します。
12	ソフトウェア産業	ソフトウェア業界とそこでの働き方を学びます。
13	生き方、働き方①	グローバル化がすすむなかで、どのような働き方が求められているのか、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
14	生き方、働き方②	働くとはどういう事か、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
15	まとめ	ここまでの外部講師の話を通した総括をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特段の準備を求めることはしませんが、事前にインターネットや新聞などで情報をとって一つ、二つ質問できる程度の用意はしてください。人との出会いは一期一会です。二度とチャンスは巡ってはきませんので、せっかくの機会を無駄にしないようにしてください。

【テキスト（教科書）】
全体を通じてのテキストはありません。資料、レジュメ等は必要であれば各回に配布します。どのような企業の方をお呼びするかは最初の授業でお知らせします。

【参考書】
たとえば『会社四季報業界地図 2016 年度版』東洋経済新報社、2015 年。など

【成績評価の方法と基準】
各回の授業内レポートの評価や授業で質疑をおこなうなど姿勢もあわせて総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
1. レポートを書く時間を確保します。
2. 業界の専門的な話をよりよく理解できるように、産業界全般のこと、各業界の特徴、企業の見方など総合的な知識を提供する機会を 15 回のうち何回か設けます。

【その他の重要事項】
学生の皆さんには知られていない業種も含めて、幅広い企業の方から直接話をうかがう貴重な機会です。幅広く関心を持って講義に臨んでください。また、遅刻、途中退出、私語を慎んで礼節をもって授業を受けてください。
昨年度は、エッチ・アイ・エス、日本銀行、日本公文教育研究会、独立行政法人中小企業基盤整備機構、ラムリサーチ、ノバレーゼ、ＤＨＬサプライチェーン、オービックビジネスコンサルタント、ALSOK、オーシャナイズ、エバラ食品、キョーリン製薬ホールディングス、国際交流基金の企業の方々にご協力いただきました。継続してお願いしている企業様もありますが、入れ替わりもあります。
また、お話いただく企業の方のご都合もありますので、シラバスに示した順番は変わります。

【授業中に求められる学習活動】
D

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-　2014 年度以降入学生
就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-　2012～2013 年度入学生
就業機会とキャリア特講 E　2009～2011 年度入学生

武石　恵美子、上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・4**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。
学生の間に、働く現場の最新情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】
働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【授業の進め方と方法】
ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。また、授業の終盤には、グループディスカッションによって教員と学生間で議論をします。学生からの積極的な参加や発言が求められます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から「労働組合とは何か」を説明します。
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと	「働くということ」の意義と労働組合がめざす社会像を説明してもらう。
3	【課題提起】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	連合に寄せられる労働相談事例をもとに、若者が抱える悩みとそれらへの対応を説明してもらう。
4	【ケーススタディ①】 ワークルール確立に向けた取り組み	長時間労働の是正、労働時間短縮に向けた取り組みを説明してもらう。
5	【ケーススタディ②】 労働条件の維持・向上に向けた取り組み	賃金をはじめとする労働諸条件の改善に向けた取り組みを説明してもらう。
6	【ケーススタディ③】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取組み	ワーク・ライフ・バランス、両立支援、男女平等参画などの取り組みを説明してもらう。
7	【ケーススタディ④】 公正・公平な処遇とキャリア形成に向けた取り組み	賃金制度、昇進昇格など、人事処遇制度をめぐる課題や取り組みを説明してもらう。
8	【ケーススタディ⑤】 雇用と生活を守る取り組み	産業空洞化への対応を中心に、雇用と生活を守る取り組みを説明してもらう。
9	【ケーススタディ⑥】 非正規社員の組合加入と処遇改善に向けた取り組み	正社員と非正社員間の処遇格差是正に向けた取り組みを説明してもらう。
10	【ケーススタディ⑦】 公務労働の現状と公共サービスの役割	公務員の仕事内容と労働組合活動の特徴を説明してもらう。
11	【課題への対応①】 ワークライフバランスの実現に向けて	いまなぜ、働き方の変革が求められているのかを説明してもらう。
12	【課題への対応②】 グローバリゼーションにどう対応するか	進行するグローバリゼーションに労働組合がどのように対応しているかを説明してもらう。
13	ゲスト講義の振り返り	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。
14	グループディスカッションによる論点整理と重要な論点の確認	これまでに取り上げられた論点についてグループディスカッションを行う。
15	「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて	連合がめざす社会像を説明してもらうとともに、担当教員によるまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全 15 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内記入のコメントシート（30 点）＋レポート（70 点）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
労働用語を随時説明していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【授業中に求められる学習活動について】
C,D,F

NA539

財務会計

境　新一

開講時期：**春学期**　｜　選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務会計とは，企業の経営成績と財政状態を，株主，銀行など外部の利害関係者に報告するため，かつ，企業間の財務内容を客観的に比較することができるようにするための会計です。デザイン工学を学ぶ諸君にとって，社会や企業で創造行為をなす場合に，経営資源（人的資源，物的資源，貨幣的資源，情報，技術など）の役割，その中でも貨幣的資源／資金に関する理解がひじょうに重要となることを認識いただきたい。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が財務会計の基礎を修得し，財務諸表の仕組みおよび財務管理の意義を理解していただくことを到達目標とします。理解すべき専門用語や規則・会計基準は相当量となりますが，暗記することが目標ではなく，基礎概念や原則の相互関係を学びます。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　45%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【授業の進め方と方法】
企業の経営成績と財政状態を外部の利害関係者に報告するため，財務会計は重要な役割を担っています。本講義では，現場の企業経営，事業創造に役立つ財務会計の理論と会計基準，および財務管理の理論と実務について，主要なテーマに絞って論を展開します。初めに財務会計の基礎について解説し，次に現代会計の新領域と課題，最後に財務会計と関連する財務管理の実務について論じます。財務諸表の分野では，基礎領域である貸借対照表，損益計算書，連結財務諸表，会計法規について述べ，次に新しい会計領域として，税効果会計，外貨建取引の会計，キャッシュフロー計算書などについて概観します。一方，財務管理の分野では資金繰り，資金調達，企業金融，企業買収などの話題を取りあげます。講義を中心に行い，関連する資料を配布します。毎回，復習を交えながら簡潔，平易な説明に努めたいと思います。また，実務家をゲストスピーカーに交える場合があります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	はじめに，財務会計の基礎	経営と会計，簿記，財務会計・管理会計・財務管理の関係，財務会計の意味／目的／公準／歴史，現代会計の特徴，会計の国際化，デザイン工学と財務
第２回	貸借対照表	資産の意味，分類，評価，流動資産（当座資産，棚卸資産ほか），固定資産（有形固定資産，無形固定資産，投資ほか），繰延資産，負債（流動負債，固定負債），純資産，資本金，資本剰余金，利益剰余金
第３回	損益計算書	営業収益・営業費用，営業外収益・営業外費用，特別利益・特別損失
第４回	財務諸表の活用	情報開示（ディスクロージャー），監査
第５回	企業グループの会計	連結財務諸表の作成と利用
第６回	新しい会計領域	キャッシュフロー計算書（概要），租税効果，外貨建取引，リース
第７回	租税と会計	租税体系，企業会計と税務会計，法人税の計算，益金・損金，法人の所得額と税額，申告と納付，確定申告書
第８回	情報化と会計	コンピュータ会計の意義と機能
第９回	会計法規	会社法，会社計算規則，企業会計原則，監査基準，連結財務諸表原則，税効果会計，外貨建取引等会計処理基準，連結キャッシュフロー計算書等作成基準
第１０回	財務管理の意義と機能	財務管理の実務，資金繰り，決算処理，リース，企業金融と企業評価
第１１回	資金繰り，決算	実績資金表，見積資金表，キャッシュフロー計算書（詳細），資金繰りの悪化と改善，決算処理，粉飾決算の背景
第１２回	リースの意義と機能	リースの意義，リースの種類（オペレーティング・リース，ファイナンス・リース），リースの機能
第１３回	資金調達，企業金融	短期と長期の資金調達，株式と社債，レバレッジ，自己株式の取得，中小企業金融と信用保証
第１４回	企業評価，企業買収	企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，企業買収／M＆A
第１５回	総括	財務会計および財務管理の課題と展望，まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に財務諸表の作成または分析を演習する場合もあります。専門用語や規則・会計基準は，暗記するのではなく基礎概念や原則，その相互関係に着目して理解して下さい。

【テキスト（教科書）】
境 新一『現代企業論　－経営と法律の視点（第５版）』文眞堂，2015 年

【参考書】
『新版 会計法規集（第２版）』中央経済社，2010 年
森田哲彌・宮本匡章『会計学辞典（第５版）』中央経済社，2008 年

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度２０％　レポート４０％　期末試験（持込可）４０％の総合評価とします。なお，レポートテーマは６月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特記事項なし

【その他の重要事項】
講義時には各テーマに関連する資料を別途配布します。

NA539

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期**　｜　選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（ＧＷ）により各自のコミュニケーション力を伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力　③仲間の考えを聞く力　③それらを展開させていく力－の養成を目指します。

【修得できる能力】
（Ａ）歴史・文化・自然の理解・尊重
（Ｂ）技術者倫理
（Ｃ）工学基礎学力
（Ｄ）専門基礎学力
（Ｅ）専門知識の活用・応用能力　30%
（Ｆ）総合デザイン能力
（Ｇ）コミュニケーション能力　30%
（Ｈ）継続的学習能力　20%
（Ｉ）業務遂行能力　20%

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、グループワーク（ＧＷ）、ゲストによる講義、事例紹介により授業を進めます。
＊ＧＷのグループは第３回までに決定します。
＊ゲストによる講義ではレポートの提出があります。提出方法と提出期限については授業支援システムに掲示します。
＊授業計画の回は変更になる場合があります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（ＧＷ）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、場所、販売促進）について学ぶ。
5	製品・サービス開発１	新製品・サービスを消費者の観点で考える。（ＧＷ）
6	製品・サービス開発２	新製品・サービスのプレゼンテーションを行いそれを評価する。（ＧＷ）
7	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）について学ぶ。
8	消費者購買プロセス	消費者が製品・サービスを購入する際の行動過程を学ぶ。
9	ゲストによる講義	企業研究を行う。（レポート提出、あるいはＧＷ）
10	ゲストによる講義	（レポート提出）
11	ゲストによる講義	（レポート提出）
12	企業のマーケティング戦略	企業のマーケティング戦略を考える。（ＧＷ）
13	メッセージとメディア	製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。
14	顧客との関係の強化	顧客との関係強化の意義を学ぶ。
15	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、マーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、テレビ、インターネットの情報を、マーケティングの観点で読む努力をすること。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ．Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
配点は、ＧＷ３０％、レポート２０％、試験５０％とします。
４回以上欠席した場合は評価対象外（Ｅ判定）になります。
３０分以上の遅刻は特別な理由がない限り欠席とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループワーク（ＧＷ）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイディアが生まれた」「１つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的にＧＷを授業に組み入れたい。

NA539

エコノミクス

多部田　直樹

開講時期：**春学期**　｜　選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考える上で必要となるミクロ経済学の基礎並びにマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で 1～2 年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。また、３～５回の英語による講義も行います。期末試験は、多岐選択・正誤問題は英文を読み答える形式、記述問題は、日本語で答える形式をとります。

【到達目標】
授業の到達目標は、欲張りかもしれませんが以下の３点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
③①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	○

【授業の進め方と方法】
ミクロ経済学（自著）の内容や適時に配布するプリントを中心に講義は進められます。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考える学生のために、英語による講義も３～５回程度予定しています。英語の講義を通じて、留学の疑似体験や英語で学習するコツ（アカデミック・スキル）も会得してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1～2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えるとは何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2～3	経済学的の物事を考え、分析しよう（その１）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学の是非を考えてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。
３～4	経済学的に物事を考え、分析しよう（その２）	業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	経済数学や統計処理について考える	上記２回の講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学ぶ。
6	市場における需要と供給について（その１）	完全競争市場における需要と供給を考える。
7	市場における需要と供給について（その２）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上の関係について	需要の価格弾力性と売上の関係を学ぶ。
9	市場構造について	市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10～15	経済理論の応用について	身近な経済問題の例を取り上げて、経済モデルや簡単な実証分析を用いて解説する。また、英語によるミクロケ・マクロ経済学の問題演習を解きながら解説していく。英文に親しんでもらう。 なお、講義内容に若干の変更もあります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習課題とレポート課題の提出ならびにミクロ経済学・マクロ経済学の英文の問題の予習と復習が必要。

【テキスト（教科書）】
なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】
『ミクロ経済学　改定版』（成文堂）多部田直樹 [2016 年３月]
　適時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：２５－３０%、◎期末試験：７０－７５%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

LB224

スポーツビジネス論Ⅰ

千田　利史

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期** ｜ キャンパス：**市ヶ谷**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会におけるスポーツの意味や価値を、主にビジネスの側面から総合的に解説したい。オリンピックや、サッカー W 杯のような大きなイベントのメカニズムをはじめ、地域スポーツ振興、広告とスポーツの関係なども取り扱う。

【到達目標】
受講学生にとって、ビジネスとしてのスポーツを成立させている要因や、スポーツ団体の運営を支えるメカニズム、及び今後のスポーツの展望について、体系的な知識の取得ができるようにする。
スポーツがビジネスの考え方や手法を取り入れることで、運営基盤の強化など、良い側面が生まれると同時に、ゆきすぎた商業主義が弊害を生むこともある。その双方への理解が深まることを期待したい。

【授業の進め方と方法】
スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とスポーツ	「見るスポーツ」と「するスポーツ」 スポーツの世界
第 2 回	マーケティングとスポーツ	理論 なぜスポーツが注目されるか
第 3 回	スポーツビジネス、スポーツマーケティングの実際	大型スポーツイベントのケーススタディ 展望や問題点
第 4 回	スポーツ団体の運営の仕組み	各種競技団体の実態や課題
第 5 回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第 6 回	ワールドカップサッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第 7 回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ理論とスポーツ
第 8 回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第 9 回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート、フェンシング、ラグビーなどの競技の個別分析
第 10 回	テレビなどのメディアとスポーツ	放映権とスポーツ番組 権利ビジネス
第 11 回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第 12 回	インターネット状況とスポーツビジネス	新しいメディアとスポーツ デジタルメディアとスポーツの振興の可能性
第 13 回	スポーツと消費者	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第 14 回	現代社会にとってのスポーツの意味	歴史と現在 スポーツビジネスの課題
第 15 回	現代のスポーツビジネスの課題と可能性（まとめ）	スポーツビジネスのさらなる成長には、何が必要か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常から、スポーツのビジネス側面に関心を持つこと。
資金の調達や、クラブ運営の方法、広告の活用など。
試合結果だけではなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する情報や記事に目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
アマゾンの電子書籍版『メディアショック＋』（千田利史著）を教科書として指定します。上下巻で、各巻 250 円（計 500 円）。
ワンズブックス。2015 年刊。
アマゾンのサイトで書名・著者名（メディアショック＋・千田利史）で検索し、購入してください。パソコンでも、スマホでも（読書用対応端末でも）読めます。ただし、事前に Kindle アプリ（無料アプリ）をインストールして読む必要があります。なお、「スポーツビジネス２（秋学期）」にも、同書を使用します。

【参考書】
必要に応じて関連書籍や文献を紹介し、コピーなどでの配布を行います。

【成績評価の方法と基準】
最終授業時にレポートの提出を求めます（字数やテーマは授業内で指示）。
そのレポートの評価を 50%、および平常点 (出席）を 50 %として、総合評価をします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
映像や、ビジュアル素材などもより積極的に活用する。
最新のスポーツ界の動向を解説し、紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料は PPT で作成予定。授業支援システムにも掲出。
特に、受講生は、機器などの準備は必要ありません。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

LB224

スポーツビジネス論Ⅱ

千田　利史

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期** ｜ キャンパス：**市ヶ谷**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。
授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。
受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論１」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】
受講者は、最新のスポーツビジネスの理論や知見を習得できる。
現在のスポーツ界が抱える課題の発見とその解決策を考案しながら、より深く、スポーツの状況を理解する。
一連のプレゼンテーション関連作業（企画書のまとめ方や、発表の仕方など）を通じ、発表スキルの習得の機会ともなる。

【授業の進め方と方法】
スポーツ界の抱える課題（東京オリンピックの成功、知られていないスポーツの今後の振興、メディアの活用など）に関し、それぞれの問題点を探る。課題の解決に向けての戦略や手法を学びとる。
また、編成したグループごとに（全員がどこかのグループに所属）、選択した課題へのソリューションを発見し、考えをまとめて発表することを通じ、実践的な理解を深めたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツを巡る課題の発見と設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ ④そのほか
第 2 回	課題の解説①	スポーツビジネスの課題の発見 チーム編成の方法（解説） チームの運営と役割分担をどう行うか
第 3 回	課題の解説②	メディアリレーション （スポーツをメディアの関係）
第 4 回	課題の解説③	スポンサーシップ （スポーツとスポンサーの関係）
第 5 回	発表グループ分け	チーム編成 リーダーや役割分担の決定 テーマの決定 議論の進め方
第 6 回	プレゼンテーションの仕方	課題の認識 発表のまとめ方 発表の仕方
第 7 回	グループ発表①	実際の発表（一講義時に、２から３グループ程度：以下同様） 質疑とコメント
第 8 回	グループ発表②	質疑とコメント
第 9 回	中間総括	スポーツを巡る課題の整理 プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第 10 回	グループ発表③	質疑とコメント
第 11 回	グループ発表④	質疑とコメント
第 12 回	プレゼンテーションの総括優秀チームの発表	課題の整理 発見点の整理と確認 コメント
第 13 回	スポーツビジネス理論に何ができるか	現状のスポーツの課題と対応理論
第 14 回	職業としてスポーツを選択することの可能性	スポーツに関わる職業 統計 スポーツに関わるライフプラン設計
第 15 回	まとめ： 日本のスポーツ界 世界のスポーツ界 グループ発表への総評とアドバイス	スポーツビジネスの発展に、具体的なアイデアをどう活用していくべきか （まとめの議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間以外に、個別のグループでの簡単な調整や準備が必要です。
受講登録人数にもよりますが、およそ、10 人程度で一つのグループを編成し、共同でプレゼンテーション（発表）を行うこととします。
グループには必ず参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】
アマゾンの電子書籍『メディアショック＋』（千田利史著）を選定します。
ワンズブックス。2015 年刊行。上下巻各 250 円（計 500 円）。
アマゾンのサイトで、著書名か著者名で検索し、ダウンロードしてください。
スマホ、パソコン、電子書籍端末で、読むことができます。
Kindle アプリが必要です（無料アプリです）。
（なお、本書は春学期の「スポーツビジネス論 1」の教科書でもあります）。

【参考書】
必要に応じ、参考書籍や文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
グループ発表と、最終授業時（講義時間内テスト）、および、出席点で評価します。
グループ作業での貢献や発表内容（40 %）
最終授業時の小テスト（20 %）
及び平常点＝出席状況（40%）、とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
積極的な参加と議論、および発表を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
各自（グループごとに）が PPT で発表資料を作成し、パソコン投影をしてもらいます。
発表時は、使い慣れたパソコンなどを教室に持ち込むことを推奨します。
大学の AV 機器操作にも慣れておくことが望ましいです。

LA238

グローバル経済論

水野　和夫

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・4**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 世紀末から経済のグローバル化が進み、日本の外で起きたことが瞬時に日本に影響を及ぼすようになった。グローバリゼーションの本質や意義、そしてそのメカニズムを学ぶことによって、グローバル化のいい面と悪い面を検討する。
21 世紀の世界と日本の経済の課題は何かについて考え、経済学はそれにどう応えようとしているのかを考える。

【到達目標】
グローバリゼーションが誕生した経緯を理解し、グローバル化の是非を自ら考えることによって、21 世紀の世界が抱える問題点にかんして解決策を考えることができる。

【授業の進め方と方法】
講義中心、毎回、パワーポイントを使用して説明。ただし 10 回目、20 回目、30 回目の講義ではリアクションペーパーに基づいて質問に答える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1	経済学とはどういう学問かについて説明
第 2 回	オリエンテーション 2	世界経済で何が起きているのか、そして何が問題なのか。たとえば、デフレ、ゼロ金利、人口減、ビックデータ、第四次産業革命（IoT）、IA(人口知能)などの背景を考えることはグローバリゼーションの誕生の背景を考えることと同じである。これがこの講義全体のテーマであることを説明。
第 3 回	グローバリゼーションとグローバリズムの違いについて	5 つのグローバリゼーションの定義と、5 つのグローバリゼーションに関するイデオロギー
第 4 回	グローバリゼーションの定義	『変容する民主主義』（A・マッグルー）の二つの断層線を参考にグローバリゼーション論争（懐疑派と転換派）を学ぶことで、グローバリゼーションの定義と本質を理解する。近代の概念とグローバリゼーションの関係についても考える。
第 5 回	グローバリゼーションと帝国の関係について	マイケル・ドイルの「帝国論」を通じて世界システム下で資本主義やグローバリゼーションがいかなる役割を果たしているかを考える。
第 6 回	資本とは、利子とはなにか	「13 世紀の資本論」（オリーヴィ）において利子が誕生した背景や資本の定義を通じて、資本主義の本質を考える。そして、資本の概念がなぜ 13 世紀に生まれたかその背景を考えることで 21 世紀のグローバリゼーションを理解することになる。
第 7 回	資本主義と市場経済について	『歴史の入門』F・ブローデルを参考にして資本主義と市場経済の違いについて考える。
第 8 回	金利の歴史	金利とはなにか、そして「金利の歴史」からなにが読み取れるのか。 金利の誕生の経緯について考えることで資本の本質に迫る。13 世紀になってなぜそれまで禁止されていた利子が公認されたか、その背景を考える。 17 世紀の「利子率革命」と「21 世紀の利子率革命」、「利の歴利」と帝国、覇権国の関係について考え、金利の歴史と「歴史の危機」について考える。
第 9 回	資本主義の変貌	13 世紀の都市化、15 世紀末に始まった大航海時代、科学革命（1630 年代）、「空間革命」（カール・シュミット）、市民革命（18 世紀後半）、産業革命（19 世紀前半）で資本主義はいかに変貌したか。『蒐集』（ロジャーズ、カーディナル）の概念を通じて資本主義が秩序維持にいかなる役割を果たしてきたについて考える。
第 10 回	第 1 回目から第 9 回目までの授業に関して質問に答える	9 回目の授業で配布したリアクションペーパーに基づいて解説
第 11 回	金融のグローバリゼーション（1）	米国の推進した金融の自由化は何をもたらしたのか、1971 年のニクソンショックと 1970 年代 2 度の石油危機の果たした役割について考える。
第 12 回	金融のグローバリゼーション（2）	フェルドシュタイン・ホリオカパラドックスを通じて貯蓄と投資の関係がグローバリゼーションの前と後でどう変化したかを考える。1985 年プラザ合意と 1987 年ルーブル合意、その後の日本とドイツの明暗について。
第 13 回	金融のグローバリゼーション（3）	1995 年米国の「強いドルは国益」政策と IT 革命、世界のマネーはウォール街に通じる仕組みを通じて、米国が「金融帝国」化してきたプロセスを辿る。そのことで、「犬の尻尾が頭を振り回す」世界となり、非正規化雇用などの実体経済に与えた影響を考える。
第 14 回	金融のグローバリゼーション（4）	「バブルは 3 年に一度生成し、弾ける」（米元財務長官サマーズ）、2000 年インテルショック、2008 年リーマンショック
第 15 回	ユーロの実験（1）	1989 年ベルリンの壁崩壊、1991 年ソビエト連邦解体、1992 年マーストリヒト条約、ユーロ危機、シリア問題
第 16 回	ユーロの実験（2）	ダニ・ロドリクの「グローバリゼーション・パラドクス」、ヘドリー・ブルの近代システムを超えて（「新中世主義」）
第 17 回	新興国の台頭	BRIC ｓレポート（2003 年）、中国の世界の工場、アフリカのグローバリゼーションの意味するものはなにか。
第 18 回	資源価格高騰と急落	21 世紀のエネルギー問題、エネルギー収支率などから地球の持続か構成について考える。
第 19 回	日本の「失われた 20 年」の教訓	1980 年代の日本のバブルはなぜ発生したのか、日本の失われた 20 年」の原因は果たして日本の特殊性が原因なのか
第 20 回	第 11 回目から第 19 回目までの授業に関して質問に答える	19 回目の授業で配布したリアクションペーパーに基づいて解説
第 21 回	21 世紀のゼロ金利は何を意味しているのか	日本銀行、ECB のゼロ金利政策やマイナス金利となった国債利回りの背景にあるものとグローバリゼーション誕生の経緯の関係で考える。過剰供給か過小需要か。
第 22 回	格差と不平等について	格差の指標について、ジニ係数、相対的貧困、絶対的貧困など基礎的概念を学ぶ。
第 23 回	「ｒ＞ｇ」の関係について	『21 世紀の資本』（ピケティ）と『21 世紀の不平等』（アトキンソン）を参考にして、21 世紀になってなぜ格差や不平等が問題となってのか考える。
第 24 回	21 世紀＝「相続の黄金時代」について	その背景と是非向について考える。
第 25 回	ピケティやアトキンソンが提示した解決策について	どう考えるか。
第 26 回	先人の叡智に学ぶ（1）	アダム・スミスの『道徳感情論』、徳の道と財産の道
第 27 回	先人の叡智に学ぶ（2）	ケインズの「わが孫たちの経済的可能性」と 21 世紀の日本
第 28 回	先人の叡智に学ぶ（3）	ガルブレイス『不確実性の時代』
第 29 回	古典に学ぶ	『リア王』のグロスター将軍、『椿姫』のマルグリット、『ゴリオ爺さん』のヴォ―トランの発言から当時の社会、経済状況を探り、著者がなにを訴えたかったのか
第 30 回	第 21 回目から第 29 回目までの授業に関して質問に答える	29 回目の授業で配布したリアクションペーパーに基づいて解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、教科書に指定した『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書、2014 年）および『資本主義の終焉、その先の世界』（榊原英資・水野和夫、詩想社新書、2015 年）の 2 冊を第五回目までに、読了すること。あとは毎回の授業の復習をしっかりしてください。

【テキスト（教科書）】
『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書、2014 年）
http://books.shueisha.co.jp/CGI/search/syousai_put.cgi?isbn_cd=978-4-08-720732-3&mode=1
『資本主義の終焉、その先の世界』（榊原英資・水野和夫、詩想社新書、2015 年）
http://www.shisosha.com/sakakibara-mizuno.html

【参考書】
『変容する民主主義』（マッグルー，アントニー・G．編、松下冽監訳、日本経済評論社、2003 年）
http://www.nikkeihyo.co.jp/books/view/1562

『陸と海と― 世界史的一考察』（カール・シュミット、生松敬三・前野光弘訳、慈学社出版、2006 年）
http://www.jigaku.jp/mokuroku13.htm
『21 世紀の資本』（トマ・ピケティ、山形浩生訳、みすず書房、2014 年）
http://www.msz.co.jp/book/detail/07876.html
『21 世紀の不平等』（アンソニー・B・アトキンソン著／山形　浩生訳／森本　正史訳、東洋経済新報社、2015 年）
http://store.toyokeizai.net/books/9784492314708/
『資本主義がわかる本棚』（水野和夫、日経新聞出版社、日経プレミアムシリーズ新書、2016 年 2 月発行予定）

【成績評価の方法と基準】
授業態度（出席回数など）= 20 %、リアクションペーパーの提出とその内容= 20 %、木期末試験= 60 %、計 100 点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
リアクションペーパーを参考にする。

CA338-03

特別講義（空間データ分析入門 A）

森　博美

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国や地方自治体の行政では空間情報を GIS(Geographical Information System) ソフトで解析した結果を政策立案に用いたり政策の効果評価に用いることで、政策の費用対効果を検証することが近年広く行われるようになってきました。この講義では、これまでの経済学で注目されることの少なかった GPS 情報を活用したデータの解析法について学びます。それによって、鉄道沿線別の特徴の比較、買物難民、公共施設へのアクセスに不便な人口がどれくらいいるかを具体的に調べることができるようになります。

【到達目標】
この講義では、次のようなことができるようになることを到達目標としています。
春学期には、データのダウンロード方法と GIS ソフトの基本的機能をマスターします。
（1）統計局や国土交通省のサイトからのデータのダウンロード方法のマスター
（2）独自に作成・取得した住所付データへの経緯度情報の付与
（3）（1，2）によるデータの GIS ソフトによる処理のための基本的機能のマスター

【授業の進め方と方法】
フリーソフトとして提供されている QGIS を使用します。独自に作成したマニュアルを配布し、それに基づき空間データの GIS 処理を実習形式で行うとともに、それに沿った実習課題によって必要な処理手順を学んでもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	QGIS の基本的機能と地図の操作	QGIS 使用上の注意事項と map viewer 上での地図の操作
第 2 回	境域マップの作成	eStat と国土数値情報からの行政区地図のダウンロードと表示
第 3 回	レイヤの表示順の変更、透過率、ラベル表示	いくつかの地図をレイヤとして重ね、表示順や透過率の変更による表示結果の違いを比較してみます。
第 4 回	人口データのダウンロードと前処理	eStat から国勢調査の人口データをダウンロードして csv ファイルに変更して QGIS にレイヤとして読み込む方法について説明します。
第 5 回	属性テーブルの結合処理	境域データと csv データの属性テーブルを一つのテーブルに結合する方法を学びます。
第 6 回	いろいろな座標系とその変更方法	緯度経度系の座標系 JGD2000 と平面直角座標系の違いと座標系の変更方法について説明します。
第 7 回	フィールド計算機能	属性テーブルが持つフィールド計算機能を用いて新しい変数を作成する方法について説明します。
第 8 回	属性値（フィールド値）の編集と編集結果の可視化	高齢 k 率などを計算しそれによる結果を地図上に可視化します
第 9 回	ポリゴンの融合	複数のポリゴンを融合する方法について説明します。
第 10 回	シェープファイルの結合	複数のシェープファイルを統合し 1 本のファイルにする方法を説明します。
第 11 回	テーブル検索（1）空間検索	地図上で場所を範囲指定することで、属性テーブルの地物を選択する方法について説明します。
第 12 回	テーブル検索（2）フィールド検索	フィールド（変数値）に条件を設定し、条件式に該当する地物だけを選択する方法について説明します。
第 13 回	バッファリングによる地物の選択	バッファリングによる地物の選択方法について説明します。
第 14 回	作成した出力結果の保存	可視化して地図を画像として保存する方法などを説明します。
第 15 回	アドレスマッチング	アドレスマッチングによる経緯度情報の取得方法について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義で使用する QGIS はフリーソフトとして提供されているものです。そのため、自宅の PC にダウンロードすることで、自由に予習、復習に利用することができます。授業時間内に完了できなかった課題については、復習も兼ねて自宅や大学の PC で行うようにしてください。

【テキスト（教科書）】
授業時に教材として作成したマニュアルをその都度配布します。

【参考書】
今木・岡安著『QGIS 入門』古今書院 3300 円
そのほかにも国土交通省のサイトに適用事例がいくつかアップされており、参考になります。

【成績評価の方法と基準】
授業での課題レポートによって評価します。（１００％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回の授業時に出された要望を参考にして授業の進捗について対応します。

【学生が準備すべき機器他】
自宅に PC を持っている受講生は、各自ソフトをインストールして使用できるようにしておいてください。ダウンロードの方法については、初回の授業時に参考資料を配布します。

CA338-03

特別講義（空間データ分析入門 B）

森　博美

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
緯度経度（GPS 情報）がついた様々なデータをこれまでのような都道府県や市区町村といった業績区分にとらわれず自由に分析目的に応じてデータ処理し、結果を可視化する方法について学習します。
秋学期の講義は、それまで春学期に学んだ QGIS の様々な機能を具体的な分析テーマに関して収拾したデータに適用する方法を学びます。

【到達目標】
鉄道や道路に沿ったバッファリングによる路線沿線の特徴の可視化、買い物難民人口の推計、地価分析、地域人口移動など具体的なテーマを取り上げ、その処理手順を説明します。
受講生には授業と並行して各自の分析テーマに関する研究を独自に進め、その結果をプレゼンしてもらうとともに、リポートとして提出してもらう予定です。

【授業の進め方と方法】
授業では、各課題に関するデータ処理の手順を解説します。受講者はそれに従って各自の分析データを入手し、前処理を行い、QGIS に取り込み処理していただくことになります。得られた各自の分析結果を相互に比較できるように、可能な限り異なる地域を対象にデータ処理してもらいます。そのため、各課題について、（1）準備、（2）作業及び結果の取りまとめ、（3）報告という手順で進める予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	公共施設難民数の推計（1）	対象市町村、対象施設の決定 境域データ、人口メッシュデータのダウンロード
第 2 回	公共施設難民数の推計（2）	分析結果の整理 難民数、難民率の計算
第 3 回	事業所データによる鉄道・道路沿線分析（1）準備	・担当路線の分担決定 ・経済センサスの小地域データ、境域データのダウンロード
第 4 回	事業所データによる鉄道・道路沿線分析（2）	境域データへのセンサスデータの結合 路線バッファの作成 バッファリング結果の分析と結果の整理
第 5 回	事業所データによる鉄道・道路沿線分析（3）	・プレゼン資料の作成 ・分析結果の報告
第 6 回	人口データによる鉄道・道路沿線分析（1）	国勢調査データ、国勢調査境域データのダウンロードと QGIS への読み込み
第 7 回	人口データによる鉄道・道路沿線分析（2）	境域データへの人口データのテーブル結合及びバッファリング
第 8 回	人口データによる鉄道・道路沿線分析（3）	処理結果の取りまとめとプレゼン
第 9 回	地価データ分析（1）	対象地域の決定と地価データのダウンロード
第 10 回	地価データ分析（2）	分析結果のとりまとめと可視化結果の発表
第 11 回	移動選好度を用いた地域人口移動の分析（1）	移動データのダウンロードと移動選好度の算出
第 12 回	移動選好度を用いた地域人口移動の分析（2）	移動選好度による移動元の SPSS によるクラスタリング
第 13 回	移動選好度を用いた地域人口移動の分析（3）	クラスタリング結果を用いた移動元のゾーニングと分析結果の取りまとめ
第 14 回	個人テーマ発表（1）	秋学期に各自が取り組んできた分析テーアについての報告（1）
第 15 回	個人テーマ発表（2）	秋学期に各自が取り組んできた分析テーアについての報告（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間だけではデータ処理に必要な作業をこなすことは難しいことから、各自、空き時間あるいは自宅学習によって作業を行い、報告資料の作成に独自に取り組んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】
特にありません。処理手順については、講義担当者が執筆した論文を日本統計研究所のサイトから各自ダウンロードして参考にしてください。

【参考書】
今木・岡安著『QGIS 入門』古今書院（3300 円）
そのほかには国土交通省のサイトに様々な適用事例がアップされていますので、それらを参照してください。

【成績評価の方法と基準】
講義課題 (50%) 及び各自の研究テーマによる研究結果のレポート（50%) によって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
データ処理の手順や適用すべき手法などについては、授業時以外でも適宜相談に応じます。

【学生が準備すべき機器他】
自宅での作業用に、PC を持っている人は自宅の PC にソフトをインストールして使用できるようにしてください。

CA-3-38-04

特別講義（現代インド経済論）

絵所　秀紀

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在世界の注目を集めているインド経済を、中国およびその他新興工業国との比較を念頭に置いて、明らかにする。独立後のインド経済発展の歴史を概観し、また主要産業および主要企業を取り上げて、インド経済の特徴を明らかにする。地域研究としてのインド経済論である。

【到達目標】
インド経済発展の特徴を理解することが到達目標である。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める。毎回、レジメを配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	インド社会のいくつかの特質	インドの東西南北、カースト制、宗教、言語。本日の一冊。
第 2 回	ネルー時代のインド（1）	イギリスの植民地支配の遺産、ビッグプッシュ開発戦略、マハラノビス・モデル、産業政策。本日の一冊。
第 3 回	ネルー時代のインド（2）	ネルー時代の経済パフォーマンス、ネルー時代の日印関係、本日の一冊。
第 4 回	閉塞時代のインド経済（1）	1960 年代中葉の政治経済危機、インディラ・ガンジーの登場。本日の一冊。
第 5 回	閉塞時代のインド経済（2）	インディラ・ガンジーの経済運営、閉塞時代の経済パフォーマンス、非常事態宣言と JP 運動。本日の一冊。
第 6 回	経済自由化へ（1）	インディラ・ガンジーの政権復帰、経済危機と経済自由化、ラジーブ・ガンジーの登場。本日の一冊。
第 7 回	経済自由化へ（2）	1991 年の政治経済危機と本格的経済自由化、経済改革の進展（1）。本日の一冊。
第 8 回	経済自由化へ（3）	経済改革の進展（2）。本日の一冊。
第 9 回	インドの財政と金融	インド財政の構造と特徴、インドの金融制度発展の歴史と特徴。本日の一冊。
第 10 回	新経済政策下の経済パフォーマンス	マクロ経済パフォーマンスの特徴、サービス化の進展、インド経済発展経路の特殊性。本日の一冊。
第 11 回	注目される産業と主要企業（財閥）	ICT ソフトウエア産業、自動車・二輪車産業、小売業。タタ・グループ、リライアンス・グループ。本日の一冊。
第 12 回	インドのアパレル産業	GVC アプローチ、ティルプールのニットウエア・クラスター。本日の一冊。
第 13 回	インドの酪農業	食生活の変化、ミルク需要の増大、農業と酪農業の関係、オペレーション・フラッド。本日の一冊。
第 14 回	インド人ディアスポラ	インド人ディアスポラの概観、タイにおけるインド人ビジネスの特徴。
第 15 回	インド経済：残された課題	経済格差問題、貧困問題、雇用問題、教育問題。本日の一冊。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インドの経済新聞（Economic Times）を毎日ダウンロードして読み、それに基づいて各自テーマを設定して、動向レポートを作成すること。

【テキスト（教科書）】
一応、絵所秀紀『離陸したインド経済』（ミネルヴァ書房、2008 年、2500 円）をテキストに指定するが、現在ではややデータが古くなってしまったので、データの更新が必要である。

【参考書】
エドワード・ルース『インド厄介な経済大国』（日経 BP 社）、グルチャラン・ダス『インド解き放たれた賢い象』（集広舎）、石上悦朗・佐藤隆広編『現代インド・南アジア』（ミネルヴァ書房）、水島司ほか編『激動のインド（全5巻）』（日本経済評論社）。また毎回「本日の一冊」として、インドを理解するための書籍（経済学の文献とは限らない）を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（５０％）、「動向レポート」の提出（３０％）、平常点（２０％）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度から新たに設定された科目であるため、「気づき」はまだない。

CA338-06

特別講義 （寄付講座　証券市場論）

大和証券株式会社

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の 3 点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。
①金融商品市場の機能と役割を理解する。
②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
③ M ＆ A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】
株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【授業の進め方と方法】
日本の金融システムは、政府管理下での「秩序優先システム」から、市場という公平な場で評価を受ける「市場型システム」へと、大きくその姿を変えた。
資金の調達・運用手法が高度化し、経営戦略としての **M&A** も目新しいものではない。また、投資対象の広がりとともに、多様な金融商品が開発され、そのリスク管理が問われている。
一方、金融商品取引法の施行にあるように、公正な「市場システム」の維持と投資家保護が金融に携わる者の大きな課題である。
本講義を通して、社会人予備軍でもある学生の皆様に、経済の根幹を支える金融システムとその重要性のみならず、経済を考えるヒントを伝えられれば幸いである。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第 2 回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第 3 回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第 4 回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第 5 回	株式市場①	株式の種類
第 6 回	株式市場②	株価の形成要因
第 7 回	債券市場①	債券のキーワード
第 8 回	債券市場②	債券の利回り
第 9 回	投資信託	投資信託の特徴
第 10 回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第 11 回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第 12 回	M＆A	最近の事例紹介
第 13 回	証券関連規制と証券会社	証券関連規制の枠組み
第 14 回	証券市場の歴史と総括	バブル期の証券市場
第 15 回	試験	単位認定試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備学習については特になし。講義で使用するレジュメと小テストを復習することにより、金融知識が身につくはずであり、新聞、ニュースを自分なりの視点から読み解くよう意識する。

【テキスト（教科書）】
各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】
必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
予習復習をあまりしておらず、授業のみで完結しているという意見が多かったため、経済を読み解く上で参考となるような文献の案内を行っていきたい。

CA238-05

財政学 A

小林　克也

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の日本には、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について財政統計を把握するとともに、経済学の理論から政府の役割を学習する。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分で考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【授業の進め方と方法】
授業の内容は主に 3 つからなる。ひとつは、政府の経済活動を概観する。次に、政府の市場介入がどのようなとき必要なのか（あるいは必要でないのか）を、厚生経済学の基本定理、市場の失敗および財政の持つ機能から考える。最後に、現在の日本の財政制度とその規模（政府活動の比重と内訳、他国との比較等）を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	政府の大きさ	大きな政府と小さな政府
第 3 回	市場の働き	価格機構の働き
第 4 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第 5 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 6 回	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
第 7 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 8 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさの考え方
第 9 回	一般会計歳入 (1) ：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 10 回	一般会計歳入 (2) ：国債	国債の規模、累積赤字
第 11 回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第 12 回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模、三位一体改革
第 13 回	財政投融資	財政投融資の仕組みと規模
第 14 回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第 15 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、「現代経済学入門」または「企業と経済・基礎」の知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの授業で扱われた概念について、適宜、各自が復習をして欲しい。また、財政の現状を扱うので、ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通して欲しい。講義で扱う内容を十分に復習して欲しい。講義で出題された小問題を解いて欲しい。宿題を提出し、返却された答案を良く見直して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。補完的に資料とレジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済。

(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
筆記テスト（100 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
分かりやすい講義を心がけます。

CA238-05

財政学 B

小林　克也

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロの理論に基づく考え方を概説する。主には、税の捉え方、公債の考え方、公共投資増大の考え方である。

【到達目標】
身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【授業の進め方と方法】
ミクロ的な分析では租税の転嫁と帰着、余剰分析、個人の消費選択・効用に対する様々な税制の効果等をとりあげる。マクロ的な分析では、45 度線分析、IS-LM 分析により、租税や公債による財政支出が経済にどれだけ波及効果をもたらすかをとりあげる。膨れ上がる公債残高の問題に対し、公債発行による経済効果とその負担の問題を異なる立場から検討する。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析（代表ケース）
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 7 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 8 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 9 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 10 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 11 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 13 回	公債の経済学 (1)	異時点間の選択のモデル
第 14 回	公債の経済学 (2)	負担についてのさまざまな考え方
第 15 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、「財政学 A」および「現代経済学入門 (現代経済学基礎)」または「企業と経済・基礎」の知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの授業で扱われた概念について、適宜、各自が復習を行うことが求められる。また、財政の現状を扱うので、ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通して欲しい。講義内容の復習を十分に行うこと。講義で出題された小問題を解いて欲しい。宿題を提出し、返却された答案を良く見直して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。補完的に資料とレジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済。

(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
筆記テスト（100 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
分かりやすい講義を心がけます。

CA238-05

財政学 A

廣川　みどり

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の日本には、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について財政統計を把握するとともに、経済学の理論から政府の役割を学習する。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分で考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【授業の進め方と方法】
授業の内容は主に 3 つからなる。ひとつは、政府の経済活動を概観する。次に、政府の市場介入がどのようなとき必要なのか（あるいは必要でないのか）を、厚生経済学の基本定理、市場の失敗および財政の持つ機能から考える。最後に、現在の日本の財政制度とその規模（政府活動の比重と内訳、他国との比較等）を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	政府の大きさ	大きな政府と小さな政府
第 3 回	市場の働き	価格機構の働き
第 4 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第 5 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 6 回	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
第 7 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 8 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさの考え方
第 9 回	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 10 回	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
第 11 回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第 12 回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模、三位一体改革
第 13 回	財政投融資	財政投融資の仕組みと規模
第 14 回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第 15 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、「現代経済学入門」または「企業と経済・基礎」の知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの授業で扱われた概念について、適宜、各自が復習をして欲しい。また、財政の現状を扱うので、ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通して欲しい。講義で扱う内容を十分に復習して欲しい。講義で出題された小問題を解いて欲しい。宿題を提出し、返却された答案を良く見直して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。補完的に資料とレジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済。
(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
筆記テスト（100 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
引き続き、分かりやすい講義を心がけます。

CA238-05

財政学 B

廣川　みどり

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロの理論に基づく考え方を概説する。主には、税の捉え方、公債の考え方、公共投資増大の考え方である。

【到達目標】
身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【授業の進め方と方法】
ミクロ的な分析では租税の転嫁と帰着、余剰分析、個人の消費選択・効用に対する様々な税制の効果等をとりあげる。マクロ的な分析では、45 度線分析、IS-LM 分析により、租税や公債による財政支出が経済にどれだけ波及効果をもたらすかをとりあげる。膨れ上がる公債残高の問題に対し、公債発行による経済効果とその負担の問題を異なる立場から検討する。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析（代表ケース）
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 7 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 8 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 9 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 10 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 11 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 13 回	公債の経済学 (1)	異時点間の選択のモデル
第 14 回	公債の経済学 (2)	負担についてのさまざまな考え方
第 15 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の履修にあたっては、「財政学 A」および「現代経済学入門 (現代経済学基礎)」または「企業と経済・基礎」の知識を持っていることが望ましい。したがって、これらの授業で扱われた概念について、適宜、各自が復習を行うことが求められる。また、財政の現状を扱うので、ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通して欲しい。講義内容の復習を十分に行うこと。講義で出題された小問題を解いて欲しい。宿題を提出し、返却された答案を良く見直して欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。補完的に資料とレジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済。
(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
筆記テスト（100 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
引き続き、分かりやすい講義を心がけます。

CA238-04

環境経済論 A

赤石　秀之

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済活動が環境問題の主原因であるというのが世界的にも共通認識となりつつある。そこで、本講義では、「環境」と「経済」との関係を経済学の視点から明らかにしていく。また、「環境問題」を分析するために必要な「環境経済学」の基礎理論を習得することを目的とする。

【到達目標】
本講義を受けることで、以下のようなことができるようになる。
・新聞、テレビ、インターネットなどでの環境関連ニュースを理解できる。
・環境問題を経済学の視点から考えることができる。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であるが、授業中には内容を確認し、理解を深めるための課題を適宜行い、授業終了後に提出してもらう予定である。また、毎時間レジメを配布し、主に黒板を用いて講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「環境」と「経済」の関係とは？	履修上の諸注意。「環境」と「経済」の相互依存関係について。
2	「環境経済学」とは？	「環境経済学」とはどのような学問なのか。
3	「均衡・余剰分析」とは？	「均衡・余剰分析」の方法を復習または習得する。
4	「外部不経済」とは？	「外部不経済」とは何かを知る。
5	「外部不経済」の均衡分析	「外部不経済」が存在する市場の均衡を調べる。
6	「外部不経済」の余剰分析	「外部不経済」が存在する市場の余剰を調べる。
7	「外部不経済」の厚生分析	「外部不経済」の厚生損失を明らかにし、規制当局介入の根拠を知る。
8	「外部不経済」の均衡・余剰分析	独占市場における「外部不経済」の問題を考える。
9	「外部不経済」の内部化とは？	「外部不経済」の内部化とは何かを知る。
10	「直接規制」とは？	「直接規制」による外部不経済の内部化方法を知る。
11	「ピグー税」とは？	「ピグー税」による外部不経済の内部化方法を知る。
12	「ピグー補助金」とは？	「ピグー補助金」による外部不経済の内部化方法を知る。
13	「排出許可証制度」とは？	「排出許可証制度」による外部不経済の内部化方法を知る。
14	「外部不経済」の政策分析その 1	四つの内部化方法の効率性と公平性による評価
15	「外部不経済」の政策分析その 2	独占市場における「外部不経済」の内部化方法を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学（とくに、ミクロ経済学）の基礎概念を習得していることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しません。

【参考書】
とくに指定しないが、授業中に適宜紹介することがある。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、ミニ課題 40 %の総合評価とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

CA238-04

環境経済論Ｂ

赤石　秀之

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ごみ問題」から「地球温暖化問題」まで、環境問題にはローカルなものからグローバルなものまで幅広く存在する。そこで、本講義では様々な環境問題を取り上げ、「環境経済学」の基礎理論に基づいて現状・理論・政策といった観点から分析を行うことを目的とする。

【到達目標】
本講義により、次のことができるようになる。
・様々な環境問題を「環境経済学」の視点から考えることができる。
・環境問題に対する解決策を見つけることができる。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であるが、現実の環境問題を知るための資料としてDVD などの映像資料を用いることもある。また、授業では毎時間レジメを配布し、主に黒板を用いた講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「環境問題」の経済分析とは？	履修上の注意。「環境問題」を経済学的に分析する方法を知る。
2	「汚染問題」の現地調査	「汚染問題」に関する映像資料を分析する。
3	「汚染問題」のモデル分析	「汚染問題」を経済学的視点から考える方法を知る。
4	「汚染問題」の政策分析	「汚染制御政策」を経済学的視点から考える方法を知る。
5	「資源問題」の現地調査その１	「資源問題」に関する映像資料を分析する。
6	「資源問題」の現地調査その２	「資源問題」に関する映像資料を分析する。
7	「資源問題」のモデル分析	「資源問題」を経済学的視点から考える方法を知る。
8	「資源問題」の政策分析	「資源管理政策」を経済学的視点から考える方法を知る。
9	「廃棄物問題」の現地調査	「廃棄物問題」に関する映像資料を分析する。
10	「廃棄物問題」のモデル分析	「廃棄物問題」を経済学的視点から考える方法を知る。
11	「廃棄物問題」の政策分析	「廃棄物管理政策」を経済学的視点から考える方法を知る。
12	「温暖化問題」の現地調査	「温暖化問題」に関する映像資料を分析する。
13	「温暖化問題」のモデル分析	「温暖化問題」を経済学的視点から考える方法を知る。
14	「温暖化問題」の政策分析	「温暖化対策」を経済学的視点から考える方法を知る。
15	「環境経済学」の課題・展望	「環境経済学」に残された課題と今後の展望を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学（とくに、ミクロ経済学）の基礎概念を習得していることが望まれる。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
とくに指定しないが、授業中に適宜紹介することがある。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、ミニ課題 40 %の総合評価とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

CA238-04

環境経済論Ａ

赤石　秀之

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済活動が環境問題の主原因であるというのが世界的にも共通認識となりつつある。そこで、本講義では、「環境」と「経済」との関係を経済学の視点から明らかにしていく。また、「環境問題」を分析するために必要な「環境経済学」の基礎理論を習得することを目的とする。

【到達目標】
本講義を受けることで、以下のようなことができるようになる。
・新聞、テレビ、インターネットなどでの環境関連ニュースを理解できる。
・環境問題を経済学の視点から考えることができる。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であるが、授業中には内容を確認し、理解を深めるための課題を適宜行い、授業終了後に提出してもらう予定である。また、毎時間レジメを配布し、主に黒板を用いて講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「環境」と「経済」の関係とは？	履修上の諸注意。「環境」と「経済」の相互依存関係について。
2	「環境経済学」とは？	「環境経済学」とはどのような学問なのか。
3	「均衡・余剰分析」とは？	「均衡・余剰分析」の方法を復習または習得する。
4	「外部不経済」とは？	「外部不経済」とは何かを知る。
5	「外部不経済」の均衡分析	「外部不経済」が存在する市場の均衡を調べる。
6	「外部不経済」の余剰分析	「外部不経済」が存在する市場の余剰を調べる。
7	「外部不経済」の厚生分析	「外部不経済」の厚生損失を明らかにし、規制当局介入の根拠を知る。
8	「外部不経済」の均衡・余剰分析	独占市場における「外部不経済」の問題を考える。
9	「外部不経済」の内部化とは？	「外部不経済」の内部化とは何かを知る。
10	「直接規制」とは？	「直接規制」による外部不経済の内部化方法を知る。
11	「ピグー税」とは？	「ピグー税」による外部不経済の内部化方法を知る。
12	「ピグー補助金」とは？	「ピグー補助金」による外部不経済の内部化方法を知る。
13	「排出許可証制度」とは？	「排出許可証制度」による外部不経済の内部化方法を知る。
14	「外部不経済」の政策分析その１	四つの内部化方法の効率性と公平性による評価
15	「外部不経済」の政策分析その２	独占市場における「外部不経済」の内部化方法を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学（とくに、ミクロ経済学）の基礎概念を習得していることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しません。

【参考書】
とくに指定しないが、授業中に適宜紹介することがある。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、ミニ課題 40 %の総合評価とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

CA238-04

環境経済論 B

赤石　秀之

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ごみ問題」から「地球温暖化問題」まで、環境問題にはローカルなものからグローバルなものまで幅広く存在する。そこで、本講義では様々な環境問題を取り上げ、「環境経済学」の基礎理論に基づいて現状・理論・政策といった観点から分析を行うことを目的とする。

【到達目標】
本講義により、次のことができるようになる。
・様々な環境問題を「環境経済学」の視点から考えることができる。
・環境問題に対する解決策を見つけることができる。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であるが、現実の環境問題を知るための資料として DVD などの映像資料を用いることもある。また、授業では毎時間レジメを配布し、主に黒板を用いた講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「環境問題」の経済分析とは？	履修上の注意。「環境問題」を経済学的に分析する方法を知る。
2	「汚染問題」の現地調査	「汚染問題」に関する映像資料を分析する。
3	「汚染問題」のモデル分析	「汚染問題」を経済学的視点から考える方法を知る。
4	「汚染問題」の政策分析	「汚染制御政策」を経済学的視点から考える方法を知る。
5	「資源問題」の現地調査その 1	「資源問題」に関する映像資料を分析する。
6	「資源問題」の現地調査その 2	「資源問題」に関する映像資料を分析する。
7	「資源問題」のモデル分析	「資源問題」を経済学的視点から考える方法を知る。
8	「資源問題」の政策分析	「資源管理政策」を経済学的視点から考える方法を知る。
9	「廃棄物問題」の現地調査	「廃棄物問題」に関する映像資料を分析する。
10	「廃棄物問題」のモデル分析	「廃棄物問題」を経済学的視点から考える方法を知る。
11	「廃棄物問題」の政策分析	「廃棄物管理政策」を経済学的視点から考える方法を知る。
12	「温暖化問題」の現地調査	「温暖化問題」に関する映像資料を分析する。
13	「温暖化問題」のモデル分析	「温暖化問題」を経済学的視点から考える方法を知る。
14	「温暖化問題」の政策分析	「温暖化対策」を経済学的視点から考える方法を知る。
15	「環境経済学」の課題・展望	「環境経済学」に残された課題と今後の展望を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学（とくに、ミクロ経済学）の基礎概念を習得していることが望まれる。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
とくに指定しないが、授業中に適宜紹介することがある。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、ミニ課題 40 %の総合評価とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

CA238-05

日本経済論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第 3 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1)　基本モデル
第 4 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2)　拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第 5 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3)　貨幣数量説、失業と労働市場
第 6 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1)　所得支出モデル
第 7 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2)　IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第 8 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3)　IS-MP モデル、開放経済モデル
第 9 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	フィリップス曲線と AD・AS モデル
第 10 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	消費関数・投資関数の理論
第 11 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第 12 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (11)	経済成長論
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第 14 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第 15 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校までに習う数学（特に関数の演算と微分）の復習、講義内容の復習

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】
マンキュー『マンキュー経済学 II　マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

CA238-05

日本経済論Ｂ

小黒　一正

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するための公共経済学 (1)	市場の失敗と政府の役割
第 3 回	日本経済を理解するための公共経済学 (2)	財政、国債市場
第 4 回	日本経済を理解するための公共経済学 (3)	公共財
第 5 回	日本経済を理解するための公共経済学 (4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第 6 回	日本経済を理解するための公共経済学 (5)	社会保障の全体像
第 7 回	日本経済を理解するための公共経済学 (6)	年金・医療・介護
第 8 回	日本経済を理解するための公共経済学 (7)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第 9 回	日本経済を理解するための公共経済学 (8)	租税の理論、物品税の帰着
第 10 回	日本経済を理解するための公共経済学 (9)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第 11 回	日本経済を理解するための公共経済学 (10)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第 12 回	日本経済を理解するための公共経済学 (11)	公債の負担
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第 14 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政赤字、世代間格差
第 15 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校までに習う数学（特に関数の演算と微分）の復習、講義内容の復習

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
配布資料

【参考書】
スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

CA238-05

日本経済論Ａ

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本の少子化」を主題に、現代の日本の経済を講義する。日本経済の現状と課題を理解するには、少子化問題を理解しないかぎり理解できない。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】
日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
テキストを使用して講義形式ですすめる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、アベノミクス	講義の枠組み、アベノミクスの 3 本の矢について
2	若者の就業と非就業（1）	少子化と若年ニート・失業率、若年無業者の属性、婚姻率及び出生率
3	若年者の就業と非就業（2）	景気変動が若年に与える影響の検討、若年失業率、婚姻率及び出生率
4	若年と非典型労働（1）	若年非典型雇用の実態、若年非典型雇用の増加要因
5	若年と非典型労働（2）	典型、非典型間の処遇格差、典型雇用への移行がもたらす処遇改善
6	若年の雇用多様化と雇用システムの変化（1）	日本的雇用システム、日本的雇用システムの変化
7	若年の雇用多様化と雇用システムの変化（2）	日本的雇用システムと若年の就業、労働市場の多様化と日本的雇用システム
8	女性就業と子育て支援（1）	女性の就業と出生行動に関する先行研究、若年女性の就業状況の特徴
9	女性就業と子育て支援（2）	日本における少子化対策の展開、結婚・出産を経た就業継続状況の変化
10	若年世帯の消費行動（1）	若年の世帯構造と住宅、若年世帯の家計収支動向
11	若年世帯の消費行動（2）	世帯構造と家計収支、消費支出の日米比較
12	若年の就業行動と婚姻率の低下（1）	婚姻の動向、結婚と就業状態
13	若年の就業行動と婚姻率の低下（2）	就業状態が結婚タイミングに及ぼす影響
14	各国の若年を取り巻く環境の変化と出生率	各国の労働市場における若者の労働力状態とその決定因、各国の出生動向とその関連指標
15	総括	日本経済の現段階についての評価について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること。
授業で使う資料に必ず目を通す。

【テキスト（教科書）】
小﨑敏男・牧野文夫（2012）『少子化と若年の就業行動』原書房。

【参考書】
小﨑敏男・牧野文夫・吉田良生編（2011）『キャリアと労働の経済学』日本評論社。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験で評価する (100%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業時間に質問を行い学生の意見を聞く。

【その他の重要事項】
現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

CA238-05

日本経済論 B

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本経済論 A の受講を前提にして、今後の日本経済が抱える問題を講義する。今後、わが国は、少子・高齢化、特に、今後は高齢化が 2050 年頃まで続くことになるので、高齢化を中心に講義を行う。

【到達目標】
個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
テキストを使用して、講義形式ですすめる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、人口の高齢化（1）	ガイダンスおよび戦後日本の人口動態の特徴、高齢化の決定要因
2	人口の高齢化（2）	地域別にみた高齢化、高齢化が経済成長に与える影響と労働政策
3	人口高齢化の社会経済的影響（1）	世帯構造への影響、消費と貯蓄への影響
4	人口高齢化の社会経済的影響（2）	財政と社会保障への影響、高齢化の幸福への影響
5	高齢者就業と年齢差別（1）	高齢者と年齢差別、高齢者就業の実態調査
6	高齢者就業と年齢差別（2）	「年齢差別」の計測問題に関する考察、高齢者就業対策の必要性
7	高年齢者就業と年金財政	高齢化に対応した日本の年金制度改正、年金財政シミュレーション
8	高年齢者の就業・非就業行動（1）	マクロデータを用いた高年齢者の就業と非就業行動
9	高年齢者の就業・非就業行動（2）	高年齢者の就業に与える要因と就業率関数の推計
10	健康、教育訓練と高年齢者就業（1）	健康と就業の関係
11	健康、教育訓練と高年齢者就業（2）	教育訓練と就業の関係
12	高年齢女性の就業行動（1）	2000 年代以降の高年齢者雇用政策と就業
13	高年齢女性の就業行動（2）	高年齢女性の収入と経済的貧困
14	高齢化に対応する雇用システム	高齢社会と雇用システム、高齢社会における高齢者雇用
15	まとめ	講義全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済に関する毎日の新聞記事、ニュースなどを読んだり、聞いたりすること。

【テキスト（教科書）】
小﨑敏男・永瀬伸子編（2014）『人口高齢化と労働政策』原書房。

【参考書】
小﨑敏男・牧野文夫・吉田良生編（2011）『キャリアと労働の経済学』日本評論社。

【成績評価の方法と基準】
定期試験によって評価する (100%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回の授業時間に学生に質問して答えてもらう。

CA238-05

労働経済論 A

酒井　正

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く．近年の研究動向についても，適宜，紹介する．

【到達目標】
まず，基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する．更に，統計分析の考え方を習得したうえで，働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける．

【授業の進め方と方法】
プロジェクター資料と板書を組み合わせて講義を進める．理解を助けるため小問題の演習等を行う．

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方，労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル
7	市場均衡	競争均衡，買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観，グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等
15	授業内テスト	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特段の予習は必要ないが，復習は行うこと．特に，授業内で行う小問題は必ず復習すること．
講義内容が理解できないならば下記の参考書を参照すること．
（受講者はミクロ経済学・統計学・計量経済学の最低限の知識を有することが望ましいが，講義内で用いる数学は最小限に留める．）

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
大森義明『労働経済学』（日本評論社，2008 年）
清家篤『労働経済』（東洋経済新報社，2002 年）
George J. Borjas, 2015, Labor Economics 7th Edition, McGraw Hill

【成績評価の方法と基準】
期末テストのみで評価（100%）．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・コメント・ペーパーによって，適宜，受講者の考えを把握する．
・講義内で用いるプロジェクター資料の一部はなるべく講義時に配布する．

CA238-05

労働経済論 B

酒井　正

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済論 A で学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する．

【到達目標】
働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする．

【授業の進め方と方法】
主にプロジェクター資料を用いた講義形式によって進める．講義内容の理解を確認するため，演習問題を行うことがある．

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方，労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論, 人種差別, 女性差別
5	失業（1）	不均衡アプローチ
6	失業（2）	ストック・フロー・アプローチ
7	失業保険	失業保険に関する実証分析
8	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因, 仕事の二極化
9	若年就業	世代効果
10	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因
11	介護と就業	家族介護と仕事の両立
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
14	社会保険料事業主負担の帰着問題，その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証
15	授業内テスト	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で利用した資料をよく復習すること．授業内で提示する参考文献も理解の助けとなる．また，新聞等を読み，政策に関する議論を追うように心掛けてほしい．

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
エドワード P. ラジアー『人事と組織の経済学』（日本経済新聞社，1998 年）
大森義明『労働経済学』（日本評論社，2008 年）
大内伸哉・川口大司『法と経済で読みとく雇用の世界 -これからの雇用政策を考える 新版』（有斐閣，2014 年）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（授業内テスト）によって評価（100%）．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・コメント・ペーパーによって，授業で扱うトピックに関する受講者の考えを聞くようにする．
・講義内で利用するプロジェクター資料の要約版をなるべく講義時に配布する．

CA238-04

経済政策論 A

濱秋　純哉

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府は，ダムや道路の建設，教育サービスの提供，及び社会保険の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で，このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して，経済学の枠組みを用いて考えることが，この授業の目的である。

【到達目標】
受講者各人が，経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。また，講義内容を現実の経済政策に即したものとするために，新聞記事から題材を多くとる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要の説明
2	市場の働き	需要と供給
3	市場の働き	消費者余剰，生産者余剰
4	市場の働き	「弾力性」の概念
5	企業の行動と生産者余剰	企業の収入と費用
6	企業の行動と生産者余剰	企業の利潤最大化と供給曲線
7	企業の行動と生産者余剰	生産者余剰
8	外部性	外部性が市場の効率性に及ぼす影響
9	外部性	税や排出権市場による外部性の解決
10	外部性	交渉による外部性の解決（コースの定理）
11	公共財	公共財や共有資源の性質
12	公共財	非競合財の価格設定
13	税制の設計	課税の死荷重
14	税制の設計	望ましい税制の基準
15	税制の設計	税の実質的な負担者は誰か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を履修するにあたり，ミクロ経済学の基礎的な知識を持っていることが望ましい。また，講義の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
八田達夫『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

【参考書】
麻生良文『公共経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と数回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生が受け身の学習にならないように，授業内で学生自身が考える機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じて資料の配布や宿題のアップロードなどを行う。この際に，受講者に通知のメールが届くようにするので，授業支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

CA238-04

経済政策論 B

濱秋　純哉

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府（や中央銀行）は，財政政策，金融政策，及び労働政策などの「経済政策」を行っているが，どのような目的で，さらには，どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して，経済学の枠組みを用いて考えることが，この授業の目的である。

【到達目標】
受講者各人が，経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。また，講義内容を現実の経済政策に即したものとするために，新聞記事から題材を多くとる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要の説明
2	データで見る日本経済	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題	失業の原因と政策的対処
6	雇用問題	日本の失業の特徴
7	雇用問題	若年者の雇用問題
8	IS-LM モデルの構築	ケインズ経済学とは何か
9	IS-LM モデルの構築	ケインジアンの交差図
10	IS-LM モデルの構築	IS 曲線の導出
11	IS-LM モデルの構築	LM 曲線の導出
12	IS-LM モデルの応用	財政政策の効果
13	IS-LM モデルの応用	金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用	流動性の罠
15	IS-LM モデルの応用	低金利下での非伝統的金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を履修するにあたり，経済政策論Aを履修済み，及びマクロ経済学の基礎的な知識を持っていることが望ましい。また，講義の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
N・グレゴリー・マンキュー『マクロ経済学 I（第 3 版）』東洋経済新報社

【参考書】
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第 4 版）』有斐閣
池尾和人『連続講義・デフレと経済政策-アベノミクスの経済分析-』日経 BP 社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と数回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生が受け身の学習にならないように，授業内で学生自身が考える機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じて資料の配布や宿題のアップロードなどを行う。この際に，受講者に通知のメールが届くようにするので，授業支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

CA238-04

国際経済論 A

ブー・トウンカイ

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の講義である国際経済論 A は国際貿易論の基本を学習する。

【到達目標】
国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【授業の進め方と方法】
まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、貿易を阻害する要因である貿易政策についてもその影響を分析する。
経済学の基礎知識は仮定しない為、まず最初に基本的な経済学の考え方を紹介してから国際経済の問題を分析する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際経済学という分野の紹介
2	比較優位	比較優位と分業の利益、国際貿易
3	部分均衡分析	貿易利益、比較優位の決定要因
4	産業内貿易と規模の経済	産業間貿易と産業内貿易、規模の経済, 製品差別化とフラグメンテーション
5	貿易政策（1）	関税・輸入割当、保護貿易を擁護する主張
6	貿易政策（2）	戦略的貿易政策、動学的規模の経済のもとでの貿易政策
7	貿易政策（3）	アンチダンピングとセーフガード
8	前半のまとめ	前半で学んだ内容を振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
9	貿易政策の政治経済学	政治活動と貿易政策の決定
10	国際貿易のルールと貿易交渉	GATT と WTO の歴史、現状、制度
11	サービス貿易と IT	サービス貿易の定義と現状、IT と貿易
12	地域貿易協定	地域貿易協定の現状と制度、地域貿易協定の経済学
13	国際要素移動	多国籍企業と直接投資、労働の国際移動と外国人の受け入れ問題
14	貿易と環境	貿易政策から環境への影響、環境政策から貿易への影響
15	全体のまとめ	授業全体を通して学んだ内容を振り返り、その後期末試験を行い、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに掲載する PDF の講義ノートを、講義前と講義後に一度音読しておくこと。

【テキスト（教科書）】
石川 城太, 椋 寛, 菊地 徹 著、『国際経済学をつかむ』第2版、有斐閣　2013 年.

【参考書】
Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 , 2014.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 30%、中間試験： 30 %、学期末試験： 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
進度は受講者の反応に応じて変更を行う。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

CA238-04

国際経済論 B

ブー・トウンカイ

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期の講義である国際経済論 B は国際金融論の基本を学習する。

【到達目標】
国際金融論を通じて、対外取引の統計の読み方、為替市場の仕組み、為替レートの決定、開放経済における財政・金融政策の仕組みと効果などについて分析できる事を目標とする。

【授業の進め方と方法】
一般の講義形式で行うが、講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることもある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野の紹介
2	国際金融取引の基礎	グローバル化するもの・お金の動き、国際収支表の見方
3	外国為替の基礎（1）	外国為替のしくみ、為替レートをみる
4	外国為替の基礎（2）	円高・円安と貿易収支、外国為替の基礎：世界の通貨制度
5	為替レートの決定（1）	購買力平価
6	為替レートの決定（2）	金利平価
7	為替レートの決定（3）	為替リスクの考慮、為替レートの予想とニュース
8	前半のまとめ	前半で学んだ内容を振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
9	為替介入	為替介入の方法と効果
10	開放経済の分析フレームワーク	マンデル=フレミング・モデル
11	経済政策の効果	開放経済における財政政策や金融政策の効果
12	通貨危機	通貨危機の歴史、発生メカニズム
13	国際通貨制度の考え方	国際通貨制度、国際通貨としての米ドル、円の国際化
14	通貨統合の考え方	ユーロの誕生、通貨統合の便益と費用、国際金融の新しい課題
15	全体のまとめ	授業の全体を通して学んだ内容を振り返り、その後期末試験を行い、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに掲載する PDF の講義ノートを、講義前と講義後に一度音読しておくこと。

【テキスト（教科書）】
橋本 優子, 小川 英治, 熊本 方雄 著,『国際金融論をつかむ』, 有斐閣　2007 年.

【参考書】
· 高木信二 著,『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年.
· Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 , 2014.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 30%、中間試験： 30 %、学期末試験： 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
進度は受講者の反応に応じて変更を行う。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

CA238-04

国際経済論 A

武智　一貴

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の講義である国際経済論 A は国際貿易論の基本を学習する。

【到達目標】
国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【授業の進め方と方法】
まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、貿易を阻害する要因である貿易政策についてもその影響を分析する。
経済学の基礎知識は仮定しない為、まず最初に基本的な経済学の考え方を紹介してから国際経済の問題を分析する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際取引とは何か？	国際取引の基礎
2	なぜ我々は貿易を行うのか	貿易からの利益
3	消費者余剰	余剰分析
4	生産者余剰	余剰分析
5	貿易からの利益	自給自足と自由貿易の比較
6	貿易政策の効果	関税の効果
7	国内独占市場時の貿易からの利益	独占市場
8	国内市場独占時の貿易	独占市場の開放
9	特化による貿易からの利益	リカードモデル
10	自由貿易協定の効果	貿易創出、転換効果
11	戦略的貿易政策	ゲーム理論の基礎
12	戦略的貿易政策の効果	輸出補助金ゲーム
13	サブゲーム完全均衡	コミットメントの効果
14	戦略的貿易政策の効果	貿易政策とコミットメント
15	国際貿易論の展望	近年の国際貿易論の研究の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を講義中にも解説するが、各自でも経済学の入門について自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】
石井他著、入門・国際経済学、有斐閣
石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
Krugman and Obstfeld, International Economics, 8th Edition, Addison Wesley
高木信二著、入門国際金融、日本評論社

【成績評価の方法と基準】
平常点：講義への積極的参加・複数回課される課題の提出（６０％）
学生数・進行に応じて期末試験もしくはレポート (４０%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
基本モデルの解説と応用に焦点をあてて講義を行う。

CA238-04

国際経済論Ｂ

武智　一貴

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期の講義である国際経済論 B は国際金融論の基本を学習する。

【到達目標】
国際金融論の学習を通じて、経常収支の決定、為替レートの変動に関して検証出来る事を目標とする。

【授業の進め方と方法】
国際金融の基本である国際収支と為替レートについて学習する。国内経済と海外との経済の繋がりを捉え、その影響を分析する為に、国際収支を学ぶ。その後、国際取引に大きな影響を与える為替レートの決定要因を解説し、現実経済にそれらの理論を適用し、その妥当性を考える。経済学の基礎知識は仮定しない為、まず最初に基本的な経済学の考え方を紹介してから国際経済の問題を分析する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際金融へのイントロダクション	国際金融（マクロ）とは何か
2	国民経済計算	国際下の国民経済計算
3	経常収支とマクロ変数	国民経済計算を使った分析
4	国際収支	国際収支の味方
5	国際収支を用いた分析	経常収支と対外純資産
6	為替レートの基本	為替レートとは何か
7	購買力平価	物価に基づく為替レート決定理論
8	実質為替レート	為替レートの貿易への影響
9	金利平価	収益率に基づく為替レート決定理論
10	カバーなし金利平価	フォーワードプレミアムパズル
11	資産取引と為替レート	貨幣市場、金融政策と為替レート制度
12	金融市場と為替レート	マネタリーモデル
13	為替市場への介入	不胎化と非不胎化
14	経常収支決定の理論	４５度線分析
15	まとめ	国際金融（マクロ）を使った分析の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を講義中にも解説するが、各自でも経済学の入門について自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】
石井他著、入門・国際経済学、有斐閣
石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
Krugman and Obstfeld, International Economics, 8th Edition, Addison Wesley
高木信二著、入門国際金融、日本評論社

【成績評価の方法と基準】
平常点：講義への積極的参加・複数回課される課題の提出（６０％）
学生数・進行に応じて期末試験もしくはレポート（４０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
基本的な国際金融の論理に焦点をあてて講義を行う。

CA238-04

アメリカ経済論Ａ

河村　哲二

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は，A，B を通して，パックス・アメリカーナの盛衰という長期的視点に立って，第二次大戦後，世界経済をリードしたアメリカ経済の発展構造の特質と問題点を解明し、そうした長期的・総合的な視点にたって、最近のアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の問題を含め、日本経済・世界経済の動向の理解に不可欠なアメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】
アメリカ経済論 A では，アメリカ経済の長期的な発展構造の変遷とその特質を学び、1970 年代を境にした戦後パックス・アメリカーナ全盛期の構造からの大きな再編と転換がアメリカおよび世界にもつ意味を、長期・歴史的な視点から理解することを目指す。

【授業の進め方と方法】
講義は，スライドを掲示し、テキスト『現代アメリカ経済』と『アメリカ経済入門』を随時使用して進める。受講生は WEB 公開される講義スライド・その他の資料をダウンロードし、テキスト・参考書とともに、講義中および予習・復習に利用して学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	序論　アメリカの社会経済的特質と歴史過程	歴史的発展過程にみるアメリカ的特質。
第 3 回	第 1 章　第一次大戦前の経済発展プロセスとその特徴 1. 初期の経済発展	植民地期から独立革命・南北戦争に至る経済発展のプロセスと特徴。
第 4 回	2. 国民経済の発展	南北戦争に至る経済発展の特徴（国土形成・産業革命・国民経済の形成）。
第 5 回	3. アメリカ経済発展と「ビッグビジネス」の登場	南北戦争後の工業・農業発展と「ビッグ・ビジネス」の登場。
第 6 回	第 2 章　戦間期 1. 第一次大戦と 1920 年代	戦間期前半期の経済発展 (「永遠の繁栄」) と「大恐慌)。
第 7 回	2. 株式ブームの発展と世界経済的不均衡	耐久消費財ブームの限界・「株式ブーム」の発展と崩壊。
第 8 回	3. 世界大恐慌とニュー・ディール (1) ニュー・ディール	世界大恐慌の発生とニューディール政策の登場。
第 9 回	(2) ニュー・ディールの限界と 1937 年恐慌	ニューディール政策の限界。
第 10 回	第３章　戦後パックス・アメリカーナの形成	第二次大戦戦時経済と戦後パックス・アメリカーナ。
第 11 回	1. 第二次大戦戦時経済 (1) 戦時経済システム	戦時経済システムの概要。
第 12 回	(2) 戦時経済システムによる経済発展と制度転換	戦時経済下の制度構造・システム転換。
第 13 回	3. 戦後パックス・アメリカーナシステムの登場 (1)「持続的成長」の国内システムの登場（企業と政府）	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成 (国内体制)。
第 14 回	(2)「持続的成長」の世界政治経済システムの形成	戦後パックス・アメリカーナの世界政。治経済体制の枠組みの登場。
第 15 回	まとめとアメリカ経済論 B への展望	戦後パックス・アメリカーナの確立の意味。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義スライド資料とテキストの当該箇所の予習・復習をする。そのなかでテキスト『現代アメリカ経済』の章末練習問題の解答を作成する。

【テキスト（教科書）】
河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣，2003 年）、河村哲二・弘兼憲史著『アメリカ経済入門』（幻冬舎、2009 年）。

【参考書】
テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献一覧から適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は，主に期末筆記試験によって評価する (90%)。これに課題レポートの評価を加味する（10～20 点の範囲で筆記試験結果に加点）(10%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義スライド資料における各種の画像資料の提示や図式化が、大きく理解を助けるとして好評なため、引き続き拡充を図る。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

CA238-04

アメリカ経済論 B

河村　哲二

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦後パックス・アメリカーナの衰退・転換とアメリカ経済の「グローバル資本主義化」という視角から、1980 年代以降のアメリカ経済の現状と問題点を解明し，パックス・アメリカーナの行方を展望する。

【到達目標】
春学期のアメリカ経済論 A の講義を受けて，1970 年代を境にグローバル化をを通じた「グローバル成長連関」の出現によおって新しい経済発展の構造が登場したアメリカ経済が、アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機によってさらに大きな変貌を遂げようとしていることを、歴史的な背景とともに学び、アメリカおよび世界経済の現状と今後の行方を展望することを目指す。

【授業の進め方と方法】
講義は、講義計画にそって、スライドを提示しながら進める。受講生は、アップロードされたスライド講義資料とその他参考文献を講義中および予習・復習に利用して学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論　戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換	戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換と経済グローバル化の意義。
第 2 回	第 1 章　戦後パックス・アメリカーナ 1．戦後「持続的成長」システムの特徴 (1) 戦後企業体制と政府機能	戦後パックス・アメリカーナの「持続的成長」のシステムの特徴：戦後企業態勢と政府機能。
第 3 回	(2) 戦後世界の政治経済システム	国際通貨体制・通商体制・軍事的枠組み。
第 4 回	2．戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換	内在的問題の発展と衰退。
第 5 回	(1)「レーガノミックス」	1980 年代以降のアメリカ経済の変貌と「レーガノミックス」。
第 6 回	(2) 金融の変貌	金融革新・「ファイナンシャリゼーション」の展開。
第 7 回	(3) 企業体制・労使関係の転換	戦後企業体制の転換とグローバル化。
第 8 回	3．「グローバル成長連関」の発展 (1) グローバル・シティ	「グローバル・シティ」の重層的発展。
第 9 回	(2)「新帝国循環」と金融的発展	アメリカを中心とする国際的資金循環と金融的発展の特徴。
第 10 回	4．1990 年代の長期好況 (1)IT 革命とニューエコノミー	1990 年代長期好況・「IT ブーム」とその限界。
第 11 回	(2) アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機 ①「シャドウバンキング・システム」と住宅ブーム	「住宅ブーム」のメカニズムと「サブプライム問題」の発展。
第 12 回	②グローバル金融危機の展開	グローバル金融危機・経済危機のプロセスと影響。
第 13 回	③緊急景気対策	緊急景気対策の特徴と限界。
第 14 回	5．経済回復過程の特徴と問題点	アメリカ経済の回復過程の現状。
第 15 回	まとめと展望　アメリカ経済の現状とパックス・アメリカーナの行方	アメリカ経済の変貌とその世界経済へのインパクト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義スライド資料とテキストの当該箇所を用い、参考文献・Web 検索なども活用して予習・復習をする。課題レポートで中間的なまとめを行う。

【テキスト（教科書）】
河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣，2003 年）／河村哲二・弘兼憲史著『知識ゼロからのアメリカ経済入門』（幻冬舎、2009 年）。

【参考書】
テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献およびその他から講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主に期末筆記試験によって評価する (90%)。これに課題レポートの評価を加味する（10～20 点の範囲で筆記試験結果に加点）(10%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義スライド資料における各種の画像資料の提示や図式化を、引き続き拡充する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

EB/C/D340

産業社会学 I

上林　千恵子

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「仕事とキャリアを考える」がテーマ。それぞれの人が、仕事を持ち、職業を得るということは、本人にとって、また社会にとってどのような意味をもつのかを考えるための授業。

【到達目標】
職業の意味と、その客観的な位置づけ、企業の性格と企業内で経験するキャリアと職場生活の問題を専門用語を学ぶ中で把握することが目標。また日本社会の雇用に関する数値について、大雑把でもつかんで、将来社会の動向を予測できるようにする。

【授業の進め方と方法】
講義、提出されたリアクションペーパーへの回答、テスト、ゲスト講師の講義、などで構成する。
就職ができない若年者や高齢者が存在する一方、人手を確保できない企業が存在するという両者のミスマッチの背景を、企業の必要とする能力、企業の人事システム、非正規雇用者の実態、の中から探っていきたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仕事とは何か？	仕事の役割と労働をめぐる思想
第 2 回	職業に貴賤はない？	職業と社会階層の問題
第 3 回	就業構造とは？	産業構造と職業構造との関係
第 4 回	職業能力とは？	企業が求める雇用されるための能力（employability）
第 5 回	学歴は今でも重要か？	学歴とキャリアの関係
第 6 回	会社を辞めたい	失業と転職 有効求人倍率、失業率の算出方法
第 7 回	企業とは何か？	企業の生成と消滅 企業の種類と特徴
第 8 回	一生を同じ企業で過ごす？	人事管理と年功制度
第 9 回	働いている限りは勉強です	企業内教育訓練
第 10 回	偉くなってみたい	企業の昇進構造
第 11 回	お金が必要	賃金の種類とその配分メカニズム
第 12 回	非正社員も社員か？	非正社員の活用と人事管理
第 13 回	職場メンバーは家族と一緒？	職場コミュニティ
第 14 回	長い長い労働時間	労働時間管理の実態
第 15 回	まとめ	春学期のまとめとテスト準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
職場の変化に関するニュース、労使関係、非正規雇用者および高齢者にかんする法律の改正についての新聞記事をスクラップしておくこと。

【テキスト（教科書）】
上林千恵子編、2012『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房

【参考書】
教科書の各項目末に書かれた参考文献を参照すること。

【成績評価の方法と基準】
中間テストと期末テスト、各 50 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講者数にふさわしい教室を確保すること、後方の席からも板書がきちんと見えるように書くこと、などを要望されたので気をつけたい。

EB/C/D340

産業社会学Ⅱ

上林　千恵子

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「周辺労働者と産業社会学の歴史」がテーマ。

【到達目標】
産業社会学は、社会の周辺部に存在する人を対象とした歴史を持つ。春学期で対象とした日本型雇用システムに包摂された人は、日本社会からみると少数者であり、人数の上では、その外にいる人、女性、非正規労働者、高齢者、外国人労働者などの方が多数である。この人たちの実態と政策を考えるのが、今期の目標。

【授業の進め方と方法】
企業と労働組合の役割を概観した後に、女性、高齢者、外国人労働者の各カテゴリーの実態を見る。併せて、そうした人たちへの生活保障と社会保障の内容、産業社会学を成立させている主要概念を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業の責任とは？	企業の社会的役割
第 2 回	労働組合の仕事は何か？	日本の労働組合の役割と現状
第 3 回	女性が働くこととは？	女性の就業と日本型雇用システム
第 4 回	育児と仕事の両立	ワークライフバランスの目的と実態
第 5 回	高齢国日本	日本の高齢化と高齢者雇用
第 6 回	定年制の役割	定年制と高齢者をめぐる思想
第 7 回	外国人労働者	日本の外国人労働者の実態
第 8 回	外国人労働者を受け入れるべき？	日本の移民政策
第 9 回	生活保障は誰が？	企業による生活保障の中身と福利厚生の役割
第 10 回	社会保障の変容	企業保障から社会保障への変化
第 11 回	産業社会学の歴史その 1	疎外概念と社会的分業論
第 12 回	産業社会学の歴史 その 2	テイラーとホーソン、ベル
第 13 回	産業社会学の歴史 その 3	二重労働市場論と内部労働市場論
第 14 回	日本の産業社会学	尾高邦雄と松島静雄
第 15 回	まとめ	秋学期のまとめとテスト準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
雇用に関する新聞記事をクリップすること、半年間継続すると、最初には分からなかった記事も、理解できるようになる。

【テキスト（教科書）】
上林千恵子編、2012『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房

【参考書】
教科書に掲載された参考文献を参照。

【成績評価の方法と基準】
中間テストと期末テストで各 50 %。中間テストの代わりに、読書レポート提出で代替することも考慮中。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業に対して提出されたリアクション・ペーパーについては、次回の授業でできるだけ答えるようにしています。

EB/C/D338

金融システム論

田口　博雄

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組について理解するために必要な、理論および知識の修得を目指します。
また、日本銀行や国際機関などで勤務した際の経験なども、適宜、授業の中に織り込んでいきたいと思っています。

【到達目標】
現在、わが国および世界で生じている金融問題について理解できるよう、金融および国際金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組みに関する実際的な知識を身につける。

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、金融の理論と金融政策運営の実務について、基礎から学んでいきます。
これを踏まえて、後半では、国際金融理論の基礎と国際通貨体制についての知識習得を目指します。
さらに、こうした体系的な学習とあわせて、その時々における、金融経済に関する時事的なトピックも極力とりあげて、解説していく予定です。このため、実際の講義内容は、このシラバスとは少し離れるかもしれません。
また、授業の合間に、世界およびわが国の貨幣の歴史を実際の貨幣のスライドを見ながら振り返り、これを通じて金融の意義を学びたいを思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	金融システム論の概要（ガイダンス）	教員の自己紹介と講義の大まかな流れについての説明。 金融の基本的な意味。
②	金融機関・金融市場	金融機関、金融市場といっても、様々な種類がある。それらの特徴について説明する。
③	日本銀行	日本銀行の組織と役割
④	金融調節の仕組み	短期金融市場の構造とオペレーションによる短期金利の誘導の仕組み
⑤	金融政策とその波及経路	短期金利の変動がどのように経済・物価に波及していくか
⑥	金融政策の変遷	50 年代から現在にいたる金融政策手法について概観する
⑦	ゼロ金利政策	ゼロ金利政策および量的緩和政策
⑧	金融政策の現状と課題	最近の金融政策の理解
⑨	日本の金融システムの特徴	直接金融・間接金融、 金融の自由化の進展
⑩	信用システムの安定装置	自己資本規制、預金保険制度、モニタリング、最後の貸し手
⑪	為替相場の決定	物価と為替相場の関係：購買力平価
⑫	為替相場の決定	金利と為替相場の関係：金利裁定
⑬	為替相場制度の変遷	金本位制、ブレトンウッズ体制、変動相場制
⑭	最近の国際通貨制度	EU と最適通貨圏、カレンシーボード、ドラライゼーション
⑮	金融システム論のまとめ	授業の重点ポイントについての概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わが国および海外諸国の経済金融動向および金融システムをめぐる動きについて、フォローしておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いず、必要なプリントを配布します。

【参考書】
・入門金融論　池尾和人　ダイヤモンド社
・ 新しい日本銀行 (増補版) 日本銀行金融研究所　有斐閣
・入門国際金融第 3 版　高木信二　日本評論社
・日本銀行　翁邦夫　ちくま新書
・日本の金融制度　鹿野嘉昭

【成績評価の方法と基準】
基本的に、期末試験によります (100%) が、適宜、授業内でミニテストを実施し、その結果も加味することも考えています。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケート結果の集計前のため、コメントなし。期末テストの感想欄における意見は、翌年度の参考にしていますので、授業の内容、方法などについて、自由に書き込んでください。

【その他の重要事項】
金融は、学生諸君にとって、最初はやや取り付きにくい分野かも知れませんがなるべく分かりやすく説明していくつもりです。教科書などを読むよりも、理解ははるかにやさしいはずですので、粘り強く受講してください。
ただ、積み重ねが重要なので、毎回、授業に出席することが大切です。

EB/C/D316

環境経済学Ⅰ

島本　美保子

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学のマクロ分野の中心課題のひとつである「環境と貿易」をテーマとし，環境問題と経済との関わりについて自ら分析できるような力を醸成します。

【到達目標】
始めに最低限必要な経済学の基礎知識を学習し、グローバルな資源管理問題についての知識を習得しつつ、経済学的に環境と貿易の関係を学びます。環境と貿易の関係について経済学的に論理的に考える能力を身につけることが目標となります。さらに環境と貿易に関する国際システムの現状について学びます。最後にこれらの知識を総動員し、持続可能な資源管理とはいかにあるべきか、という規範的な考察が行えるようになることが目標です。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行います。毎回リアクションペーパーで理解度やわからない点について指摘してもらい、次回にそれを共有し解決しながら進んでいきます。また時にグループディスカッションを行い、自分の意見を論理的にまとめ、議論することも行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	エコロジー経済学からの経済社会と環境の関係
2	最低限の経済学知識―需要と供給、余剰分析	環境経済学Ⅰで最低限必要な経済学の知識を習得
3	演習 1	演習問題をみんなで解く
4	環境問題と貿易の関係の実例―熱帯林破壊（ビデオ）	世界の森林問題、特に天然林破壊の原因やその背景を学習する
5	なぜ貿易は推進されるのか（貿易論）	貿易はなぜ推進されるのか、をベーシックな貿易理論で解き明かす
6	環境問題と貿易の関係の実例―農業貿易（ビデオ）	地下水のくみ上げによる非持続的な農業と農産物貿易の関係
7	農産物貿易と農村・アグリビジネスについて	食料自給率や食料貿易、米国などの巨大なアグリビジネスの農産物流通の特徴
8	アグリビジネスのレントシーキング	公共選択論のレントシーキングとアグリビジネス
9	ディスカッションー環境と貿易	農林産物貿易と持続可能性についてのグループ討論
10	環境と貿易の関係（比較静学）	生産段階で外部不経済性を発生させる財の貿易が各国の社会的厚生に与える影響
11	貿易と持続可能性、分配	食料貿易と林産物貿易が持続可能な資源管理所得分配に与える影響
12	論争―持続可能性と貿易	農林産物と自由貿易との関係を考える
13	演習 2	環境と貿易の理論の演習問題
14	GATT/WTO と貿易、多国間環境条約	国際的な貿易システムの中での環境の扱いについて
15	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境問題、特に食料問題、森林や生物多様性の問題、石油など鉱物資源の問題について幅広い知識を身につけておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回詳細なレジュメを配布して、これに基づいて、授業を進めます。

【参考書】
主な参考文献は島本美保子著『森林の持続可能性と国際貿易』，東京：岩波書店（2010）．その他授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
100%期末の試験によって評価します。授業内で適宜演習問題をみんなで解く時間を設けていますが、試験はその演習を理解していれば、ある程度解けるような問題を出題しています。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書が好評なので、レジュメと板書のバランスを考えていきたいと思います。

EB/C/D216

環境経済学Ⅱ

島本　美保子

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な環境問題として地球温暖化問題を対象領域とし、前半に環境と経済成長の関係について、後半に環境の経済学的手法（環境税、排出権取引）を学習します。

【到達目標】
前半では環境クズネッツ曲線で実証的な環境と経済成長の関係をみた後、その構造を二重経済発展モデルから学び、経済成長と環境の関係を経済学的に論じることができるようになることを目標とします。
後半は環境の経済的手法について学びます。まずこれらの手法の素材として地球温暖化問題について自然科学、社会科学の両方から学習します。その後経済的手段である、環境税や排出権取引の理論を理解し、地球温暖化を制御するために、どのような政策が適切か、主体的に判断できるようになることが目標となります。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式ですが、時にグループディスカッションを行い、自分の考えをまとめ議論することも行います。また毎回授業の感想や質問などを記入するリアクションペーパーを利用し、難しい点や議論になる点などを明らかにし共有し解決しながら授業を進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION、最低限の経済学知識ー経済成長	最低限授業に必要な経済学の基礎の学習
2	経済成長と環境―環境クズネッツ曲線	経済成長と環境の関係を示す環境クズネッツ曲線をめぐる議論を紹介
3	経済成長と二重経済発展モデル	そもそも経済成長とはどのように起こるものなのか、という仕組みを学習
4	論争：経済成長と環境	二重経済発展モデルと現実の途上国経済、その環境問題について
5	演習 1	経済成長と環境についての演習問題を解く
6	地球温暖化問題その 1	地球環境問題への導入として『不都合な真実』を観る
7	地球温暖化問題その 2 IPCC 報告書と温暖化懐疑論	地球温暖化問題についての科学的知見について学習
8	地球温暖化問題についての国際交渉	気候変動枠組条約、京都議定書、ポスト議定書など国際交渉の動向
9	グループディスカッション	地球温暖化問題についてのグループ討論
10	ピグー税の理論	環境税、排出権取引の理論ベースであるピグー税理論の復習
11	環境税	環境税の経済学的な説明、直接規制との関係、導入事例などを学ぶ
12	演習 2	環境税についての演習問題を解く
13	排出権取引	排出権取引の経済学的な説明、発展過程、地球温暖化問題への適用状況を紹介
14	地球温暖化問題と経済的政策手段	地球温暖化問題について経済的手法が経済、環境に与えるインパクト
15	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地球温暖化や廃棄物問題といった環境問題や公害問題について幅広い知識を習得しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。毎回詳細なレジュメを配布し、それに基づいて授業を行います。

【参考書】
主な参考書は、吉川洋『マクロ経済学』(岩波書店)、速水佑次郎『開発経済学』(創文社)、植田和弘・岡敏弘・新澤秀則『環境政策の経済学』(日本評論社)。その他授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
100 %期末の試験によって評価します。授業内で適宜演習問題をみんなで解く時間を設けていますが、試験はその演習を理解していれば、ある程度解けるような問題を出題しています。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

JB139-157

経営学

芳賀　和恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学の基本的な考え方を理解する。
経営学の考え方を、自分の専攻に応用的に取り入れられるようにする。

【到達目標】
ニュース等で伝えられる社会の動向を、経営学の見方から解釈できるようになる。
自分の専攻と経営学の関わりを理解し、現代福祉に関わることがらを経営学の視点からも考えられるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業計画に沿って、経営学の基本的な考え方を紹介するとともに、具体的な事例を紹介する。授業で紹介される経営学の基礎的な考え方や、事例に対する自分の考えを、リアクションペーパー等によって提出してもらうことも考えている。
授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方について 経営学という学問について
2	経営学について	経営学の学問的意味、経営学の学問的領域の概要
3	事業のライフサイクル	事業の企画、事業化、撤退に至る経過プロセスの紹介
4	商品の種類と性質	様々な商品やサービスの類型と特徴
5	市場戦略	様々な市場の種類と類型 新規市場開拓の基礎的な知識
6	企業の成長	企業のマネジメントおよび企業の成長
7	知識経営　1	事業化に必要な知識創造と経営マネジメント
8	知識経営　2	知識創造、知識移転、想像力、コミュニケーション
9	人的資本　1	リーダーシップ、アントレプレナーシップ、イントラプレナーシップ
10	人的資本　2	モチベーション キャリアコースの形成
11	ファイナンス	資金調達の種類と特徴
12	福祉分野と経営学　1	福祉分野のビジネス・経営の特徴
13	福祉分野と経営学　2	福祉分野のビジネスの今後の可能性
14	まとめと展望	講義全体の振り返りとまとめ
15	期末試験	授業内容理解の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃からニュース等の情報に接し、社会の動きについて把握しておくことが望ましい。また、それらの社会の出来事に関して、自分との関係を考えること、および、出来事の理解に経営学的な考え方を応用してみること。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　30 %
リアクションペーパー　10 %
期末試験　60 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2016 年度新規担当のため、2015 年度はアンケートを実施していません。今後、参考にします。

JB239-752

ソーシャルマネジメント論

芳賀　和恵

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業および企業が行う事業と、社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】
企業の社会的側面を理解する。ソーシャルマネジメントが対象とする領域を理解する。企業と社会の関係性を、社会学的、経済学的、経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解する。

【授業の進め方と方法】
企業と社会の関係は、多様な側面を内包している。そのため、学際的に授業を行う予定である。例えば、社会の仕組みを理解するために、社会学の観点を取り入れて考えたり、企業活動とその社会への影響を考えるために、経営学や経済学の考え方を取り入れる。また、ケーススタディ等を用いて、具体的な説明を行う。
授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入と概要	授業の進め方について 授業で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントはなぜ必要か 企業が社会及び個人へなし得ること
3	社会と企業	企業と社会の関係の概要 企業とはなにか 企業の社会における機能と役割
4	社会システム	システムとしての社会 社会のシステム間の相互関係
5	社会変化と企業	企業活動の社会への影響
6	社会と個人	社会的存在としての個人 ワークライフバランス
7	ソーシャルマネジメントの対象　1	社内を対象としたソーシャルマネジメント
8	ソーシャルマネジメントの対象　2	事例の紹介
9	ソーシャルマネジメントの対象　3	社外を対象としたソーシャルマネジメント
10	ソーシャルマネジメントの対象　4	事例の紹介
11	社会的事業の形　1	事業内容の種類
12	社会的事業の形　2	事例の紹介
13	社会的事業の形　3	組織の種類
14	社会的事業の形　4	事例の紹介
15	まとめと展望	講義全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考えてみること。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　30 %、リアクションペーパー　10 %、レポート　60 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2016 年度新規担当のため、2015 年度はアンケートを実施していません。今後参考にします。

JB239-753

ソーシャルファイナンス論

雨宮　寛

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本をはじめ、世界の国々は様々な社会・環境問題に直面しています。これまでは、グローバルな課題には国連や世界銀行が、地域や国内の課題では各国政府がリーダーシップを取って取り組んできました。しかし、自然災害や気候変動、感染症などの公衆衛生問題、貧困問題など、国連や政府だけでは十分に対応できない課題が同時発生しています。十分に対応できない理由の大きな部分は金銭的な問題です。経済格差が進んでいる一方で、社会・環境問題に取り組むための資金は不足しています。金融（ファイナンス）が世界の豊かさを広く実現するために機能しているのではなく、資金を持っている人がより多くの資金を持てるように小さな世界でのみ機能している状況に陥っています。
ソーシャルファイナンスは、必要な課題に必要なだけの資金の手当てを可能とする、本来の金融（ファイナンス）の役割を行うための方法です。本授業では、基本的なファイナンスの知識として、従来の金融の取組みについて学び、そして、現在、多様な形で広がっているソーシャルファイナンスの取組みについて学びます。

【到達目標】
ソーシャルファイナンスは、既存の金融市場の役割だけでなく、社会・環境問題に応じた小さな市場が多く存在しています。金融仲介として銀行や証券会社が介在している場合もありますが、資金調達側と資金の出し手が直接やりとりをする市場も現出しています。このように発展のペースが速いソーシャルファイナンスに関する情報の収集と理解を深めるとともに、受講生が問題解決に向けて取り組みたいと考える課題に必要な資金規模、資金調達方法、パートナーやステークホルダーについて分析することで、ソーシャルファイナンスの必要性・可能性について考察をする。

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、本授業のプロジェクトとして課題を提供し、授業内での発表等行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ソーシャルファイナンスとは	ソーシャルファイナンスの一般的な理解について解説
2	金融とは	ソーシャルファイナンスの具体的な金融方法を取り上げる前に、通常のファイナンスについて解説
3	社会的責任投資（SRI)	投資リターンを追及する従来の投資手法から、社会的なリターンも追及する投資手法について解説
4	ソーシャルファイナンスに関連するガイドラインやインデックス	ソーシャルファイナンス普及に向けたガイドラインやインデックスについて解説
5	環境とファイナンス	ESG（環境・社会・ガバナンス）の環境における金融の役割
6	社会とファイナンス	ESG（環境・社会・ガバナンス）の社会における金融の役割
7	ガバナンスとファイナンス	ESG（環境・社会・ガバナンス）のガバナンス（企業統治）における金融の役割
8	インパクトインベストメントの潮流	マイクロファイナンス、再生可能エネルギー、農業ファンド、低所得層住居
9	成長するインパクトインベストメント	クラウドファンディング
10	マルチステークホルダーによるインパクトインベストメント	ソーシャルインパクト債、ふるさと納税
11	担い手の事例	SRI の運用会社、クラウドファンディング事業会社の事例
12	担い手の事例	インパクトインベストメントの運用会社の事例
13	プレゼンテーション	学生による課題プレゼンテーション
14	プレゼンテーション	学生による課題プレゼンテーション
15	ソーシャルファイナンスの今後	金融の主流に成り得るか （期末レポート提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題（新聞等の公表されている情報に基づく調査）を複数回出す予定なので、各自授業で発表できるようにまとめておく。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、宿題（20 %）、プレゼンテーション（30 %）、期末レポート（30 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
金融に馴染みのない学生が多いので、もう少し分かり易く基礎を解説
クラウドファンディングや寄付など、学生が主体となっている分野があるので、その点も詳しく解説

【学生が準備すべき機器他】
授業内外で、紙媒体、ネット媒体、どのような情報源を用いても良いので、積極的に授業に参加して頂きたいと思います。

【その他の重要事項】
授業計画はあくまでも参考です。授業の進捗によっては内容は異なります。授業全体を通じて計画に記載している内容を網羅していきます。

企業と経済の動向

[2013]

有田　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の社会について主体的に考察させ、人間としての在り方・生き方への自覚を他者とのグループワークから身につける。企業と経済の基本的なことを学び、経済を見る眼を養うとともに、どの進路であれ職業キャリアを考える際の基礎的な知識を習得することを目的とする。

【到達目標】
①自らのキャリア形成を考え、それを社会人として自立できるレベルに理解を深める。②将来へ備え、自分から考え・動くという主体的に生きる態度を身に付ける。③その基礎となる、相手目線で自分を見るという姿勢を会得する。

【授業の進め方と方法】
目標へ向けて、社会人とは何か、仕事の意義は何か、就職し仕事をする上でどのような能力が求められるのか、どうやってこの能力を身に付けるのか、社会にはどんな業種や職種があるか、日本経済と世界経済の実態などについて学ぶ。授業の中では、グループワークを通じて他者の考えを聴いたり、外部から講師を招いてビジネスなど現場の実態を聞く機会を設ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションとグループワークⅠ「創造力」	授業計画と成績評価基準の確認、社会が求める資質・能力の理解とワークへの取組み
第 2 回	社会の場で必要とされること	テキストに沿って
第 3 回	仕事の現場を知るⅠ	ＤＶＤ教材から考える（メーカー）
第 4 回	仕事の現場を知るⅡ	ＤＶＤ教材から考える（海外展開）
第 5 回	企業におけるキャリアデザイン	外部講師による講義
第 6 回	労働の意義と自分との関係	テキストに沿って
第 7 回	グループワークⅡ「実行力」	ワークへの取組み
第 8 回	経済の理解と自分の働き方	テキストに沿って
第 9 回	仕事の現場を知るⅢ	ＤＶＤ教材から考える（専門商社）
第 10 回	企業の理解と自分の就職、業種・職種の理解	テキストに沿って
第 11 回	グループワークⅢ「課題発見力」	ワークへの取組み
第 12 回	仕事の現場を知るⅣ	ＤＶＤ教材から考える（中小企業）
第 13 回	採用活動での人事担当者の目線理解	レジュメに沿って
第 14 回	企業人に求められるもの	テキストに沿って
第 15 回	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やインターネットを通じて社会や経済の動向に主体的に触れる習慣を身に付け、さらに自分の意見を考える姿勢をもつ。

【テキスト（教科書）】
有田五郎、今井昭正、上　憲治、戸川隆夫、村林栄彦共著「実学キャリア入門」学文社、平成 21 年

【参考書】
外部講師のレジュメ

【成績評価の方法と基準】
配分　毎回の小テスト（50 %）、定期試験（20 %）、グループワーク（30 %）
評価基準　キーコンセプトの理解に基づく論述問題の回答を求める。定期試験答案では自らの考え方の論述を重視します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
①学生が自分を知ることの重要性を認識するきっかけとなっている。②グループワークがその為の重要な刺激となっている。③その結果、多くの人達と接する必要性の理解へとつながっている。

AD337

アメリカ外交史

森　　聡

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカが諸外国との関係を、どのような認識に基づいて、いかに発展させてきたかを学ぶ。

【到達目標】
アメリカの対外政策を理解するための枠組みを習得する。アメリカの対外関係の歴史的展開に関する知識を身につける。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アメリカの政治制度
第 2 回	アメリカの対外政策の分析枠組み（その１）	国際要因に着目する視点
第 3 回	アメリカの対外政策の分析枠組み（その２）	国内要因に着目する視点
第 4 回	アメリカの対外政策の分析枠組み（その３）	観念的要因に着目する視点
第 5 回	独立革命	独立革命をめぐる外交
第 6 回	南北戦争までのアメリカ外交	19 世紀前半のアメリカの政治と外交
第 7 回	再建期のアメリカ外交	南北戦争後のアメリカの政治と外交
第 8 回	大国アメリカの台頭	20 世紀初頭のアメリカの政治と外交
第 9 回	第一次世界大戦とアメリカ	欧州国際政治とアメリカの政治と外交
第 10 回	戦間期アメリカの外交	大恐慌と国際秩序の崩壊
第 11 回	第二次世界大戦とアメリカ	欧州・東アジアの国際情勢とアメリカ外交
第 12 回	冷戦とアメリカ（その１）	冷戦の起源、1960 年代までのアメリカの戦略
第 13 回	冷戦とアメリカ（その２）	1970 年代から冷戦が終結までのアメリカの戦略
第 14 回	冷戦終結後の世界とアメリカ	1990 年ー 2008 年までのアメリカ外交
第 15 回	現代のアメリカと世界	グローバル金融危機後のアメリカ外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
期末に筆記試験を実施して評価する（100 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
各回で解説する情報量を制御する。

【現代アメリカの外交・安全保障政策】
＜専門領域＞現代アメリカ外交、国際政治学
＜研究テーマ＞現代アメリカの東アジア戦略
＜研究業績＞
・「ドイツ統一と NATO の変容―統一ドイツの NATO 帰属合意をめぐる政治と外交」、菅英輝編『冷戦と同盟―冷戦終焉の視点から』、257 － 286、松籟社、2014 年。
・「オバマ政権の対中政策とリバランス」、『国際安全保障』、第 41 巻 3 号、29 － 45（2013 年 12 月）。
・単著『ヴェトナム戦争と同盟外交ー英仏の外交とアメリカの選択、1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年。

考古学概論

小倉　淳一

授業コード：A3152
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考古学の概要に関する講義形式の授業とする。
考古学とはどのような学問であるかについて、学史を中心として学ぶ。

【到達目標】
日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【授業の進め方と方法】
主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業方法は講義形式による。板書と解説を中心とするので、受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代文献に見る考古学資料	日本の古文献に登場する考古学資料
第 4 回	考古学の先駆者たち（1）	考古学的営為を試みた先人たち（古代～中世）
第 5 回	考古学の先駆者たち（2）	考古学的営為を試みた先人たち（近世）
第 6 回	近代日本考古学の出発	外国人による近代の考古学的営為
第 7 回	考古学的方法論の確立	層位学と型式学の導入
第 8 回	実証主義研究の進展	貝塚研究と編年学派
第 9 回	ミネルヴァ論争	縄文時代の終焉をめぐる論争
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	登呂遺跡の発掘
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	文化財保護と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	関連諸科学との連携
第 15 回	現代と考古学（3）	物質文化と未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学史について講義するため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】
考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』（1）～（3）〈新版〉有斐閣、鈴木公雄（1988）『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第 01 巻～第 03 巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

【成績評価の方法と基準】
記述式の筆記試験によって成績の 70 %を評価する。平常点は 30 %とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

日本考古学

小倉　淳一

授業コード：A3113
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづく生産と技術を中心に学ぶ。
考古学資料から生業に関わる諸技術の発達の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

【到達目標】
物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。
各種の技術の意義について解説することができる。

【授業の進め方と方法】
日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進化が列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。
各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義形式で行う予定。プリント等の資料も利用する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器の技術（1）	中期旧石器と後期旧石器
第 3 回	旧石器の技術（2）	後期旧石器時代の石器群
第 4 回	縄文土器の技術（1）	土器の使用開始
第 5 回	縄文土器の技術（2）	縄文土器の製作技術
第 6 回	縄文の道具箱	縄文時代の生業技術
第 7 回	弥生時代の稲作技術（1）	稲作技術の導入
第 8 回	弥生時代の稲作技術（2）	列島内での技術展開と適応
第 9 回	青銅器の製作技術	弥生時代青銅器の展開
第 10 回	弥生時代の木器製作	木材加工技術と製品
第 11 回	石製品の製作技術	原始・古代の玉作
第 12 回	古墳時代の新技術（1）	須恵器の生産
第 13 回	古墳時代の新技術（2）	馬の生産
第 14 回	古墳時代の新技術（3）	製鉄・鍛冶・金工
第 15 回	原始・古代の技術革新	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。
レポートを課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』（1）～（3）〈新版〉有斐閣、鈴木公雄（1988）『考古学入門』東京大学出版会、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第 01 巻～第 03 巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

【成績評価の方法と基準】
成績の 70 %は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は 30 %とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、資料（モノ）そのものに対する理解や歴史的意義も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館で考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚も充分に養ってほしい。
授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた映像の投影によって授業を進める。板書はあまり行わないので、映像や配付資料をもとに要領よくノートを作成する必要があることを念頭に措いてほしい。

日本近世史

松本　剣志郎

授業コード：A3116
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
城下町は日本近世が生み出した固有の都市類型であり、現代の主要な都市のほとんどはこれを直接的な母体とする。近世都市としての城下町への理解を深めることは、現代都市を考える上でも重要なことだと言えよう。本授業では、江戸を事例にして、城下町の面積の上で圧倒的な部分を占めた武家屋敷について、多角的に検討を進めることとしたい。

【到達目標】
①武家屋敷の土地制度について説明できる。
②武家屋敷とそれを取り巻く諸社会関係について説明できる。
③城下町全体における武家屋敷の位置づけを理解する。

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業である。適宜プリントを配布して授業を進める。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容、進め方等について
第 2 回	武家屋敷の土地制度	拝領と抱、相対替と売買
第 3 回	武家屋敷地の把握と統制	武家屋敷地書上令の検討
第 4 回	大名屋敷の相対替 1	長州藩の場合
第 5 回	大名屋敷の相対替 2	弘前藩ほかの場合
第 6 回	旗本の屋敷地所持	交代寄合の場合
第 7 回	役屋敷論	江戸幕府官僚制の進展
第 8 回	抱屋敷の土地所持	人吉藩の場合
第 9 回	手継証文と抱屋敷売買	売買証文の検討
第 10 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間、出入商人と百姓
第 11 回	大名屋敷の経済	収支構造
第 12 回	武家屋敷組合と橋	橋々組合の活動
第 13 回	武家屋敷組合と道	道造り組合の活動
第 14 回	文人大名の世界	冠山・静山・不奢
第 15 回	まとめ	講義のまとめと理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考書などを読むことが望ましい。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をしてもらいたい。

【テキスト（教科書）】
なし。プリントを配布する。

【参考書】
高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会）
吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
卒論執筆に役立つような講義をします。

日本史特講Ⅳ

澤登　寛聡

授業コード：A3157
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸時代の富士信仰は、どのような実態であったのかについて学習します。

【到達目標】
富士信仰の学習を通じ、当時の日本人の心性について理解することを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
江戸幕府の宗教的異端取締政策と最も鋭く対立した信仰結社の一つに富士講があります。しかも富士講の信仰は、江戸を中心とする関東の広汎な人々の習俗や社会秩序と深く関わり、同時に、神仙思想や修験道、そして、人々の再生観念を深層からと支える弥勒信仰のような、アジア型メシア思想とも深く関連していました。講義ではまず、このような富士信仰の基盤となった信仰の変遷について通史的に学習していきます。次に富士講の実態を、信仰組織、信仰儀礼、信仰思想という 3 つの視点から説明していきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	心性史と富士山信仰
		富士山と浅間信仰
第 2 回	富士山の信仰と人物	徐福　聖徳太子　役小角
第 3 回	富士山の信仰と人物	末代　角行藤仏　村上光清
第 4 回	富士山の信仰と人物	食行身禄　小谷三志
第 5 回	富士山の信仰と人物	伊藤六郎兵衛　宍野半　柴田花守 教派神道　国家神道　etc
第 6 回	富士講先達の富士山登拝	拝所巡拝の意味
第 7 回	富士講先達の富士山登拝	再生への願望
第 8 回	富士山北口の師職と配札	師職の実態
第 9 回	富士山北口の師職と宿坊	登拝の作法
第 10 回	富士講の元講と枝講	講・同行の結成
第 11 回	富士講の信仰儀礼	呪術と医療
第 12 回	富士塚と信仰儀礼	山開きをめぐって
第 13 回	富士講の連合組織	巡拝施設をめぐって
第 14 回	江戸幕府の富士講取締令	異端取締政策
第 15 回	終章	富士山信仰と産土神

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記の参考書あるいは講義に関連する概説書・啓蒙書・専門書を探して読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使いません。

【参考書】
井野邊茂雄『富士の信仰』(名著出版 1914.12 初版／ 1983.9 復刊)。岩科小一郎『富士講の歴史』(名著出版 1983.9)。平野榮次『富士浅間信仰』(雄山閣出版 1987.6)。平野榮次『富士信仰と富士講』(平野栄次著作集 I 岩田書院 2004.11)。天野紀代子・澤登寛聡『富士山と日本人の心性』(岩田書院 2007.10)。澤登寛聡『江戸時代自治文化史論――一揆・祭礼の集合心性と地域・国制の秩序――』(法政大学出版局 2010.2)。上垣外憲一『富士山――聖と美の山――』(中公新書、2009.1)。その他。

【成績評価の方法と基準】
出席（40 %）／レポート・試験（50 %）／その他（10 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】

東洋近現代史

芦沢　知絵

授業コード：A3208
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、党と国家の関係をテーマに中国近現代史を学ぶ。清朝の崩壊後、中国の政治体制は帝制から共和制へと大きく転換した。しかし、広大な領域と多様な民族を統治するには、西洋近代的な議会政治は必ずしも適合しなかったといえる。中華民国の政権を担った中国国民党（国民党）は、一党独裁に基づく「党国体制」によって、急速な「国民国家」建設を目指した。それは、政治思想を異にする中国共産党（中共）にも継承され、現在の中華人民共和国の政治・社会体制を規定する重要な要素となっている。こうした党と国家の関係は、なぜ・どのように形成されたのか。国民党と中共の成立から国家建設までの過程を追いながら、中国近現代史の全体像を概観し、現代中国の政治・社会のあり方について考えていきたい。

【到達目標】
中国近現代史に関する知識と理解を深める。特に、近現代中国の政治主体となった中国国民党と中国共産党の歴史を理解し、現在の中国の政治・社会体制にみられる特徴や問題点について、自らの視点から考察する。

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出してもらう。始めに考えるべき課題を示すので、積極的な質問・意見の発信を期待する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	国民党の成立①	孫文と中国同盟会
第 3 回	国民党の成立②	革命運動と中国国民党の結成
第 4 回	国民党の国家建設①	南京国民政府の樹立
第 5 回	国民党の国家建設②	蒋介石と「以党治国」
第 6 回	国民党の危機①	日中戦争と国共合作
第 7 回	国民党の危機②	国共内戦と台湾遷移
第 8 回	国民党の諸問題	中華民国の政治・社会
第 9 回	中共の成立①	コミンテルンと中国共産党の結成
第 10 回	中国共産党の成立②	長征と抗日参戦
第 11 回	中共の国家建設①	中華人民共和国の建国
第 12 回	中共の国家建設②	毛沢東と急進的社会主義
第 13 回	中共の変革①	文化大革命と秩序崩壊
第 14 回	中共の変革②	改革開放と経済成長
第 15 回	中共の諸問題	中国人民共和国の政治・社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識を深めること。また、現在の中国情勢についても常に関心を持ち、ニュースや新聞報道から見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①　平常点　30 %
授業後のリアクションペーパーの提出を評価する。
②　期末試験　70 %
講義で扱った内容から論述問題を出題する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。

東洋史特講Ⅲ

芦沢　知絵

授業コード：A3164
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日中戦争下の中国社会について学ぶ。日中戦争は東アジア諸国にとって忘れられない記憶であり、戦後 70 年が経過した現在もなお、歴史認識や戦後補償など多くの問題が残されている。将来的にこれらの問題を解決するには、我々一人一人が戦争の実態について冷静に分析・考察する姿勢が必要となろう。そのためにも、日本・中国のいずれかに偏らない多角的な視点から、改めて日中戦争の背景・経緯を辿り、最新の研究成果や史料をもとに、戦時下における中国社会や現地の政府・人々の対応について考えていきたい。

【到達目標】
日中戦争に関する知識と理解を深める。日本・中国及び第３国を含めた多角的視点から、戦争の背景・経緯、戦時下における中国社会の実態、現地の人々の経験を知り、今後の問題解決に向けた展望について考察する。

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出してもらう。始めに考えるべき課題を示すので、積極的な質問・意見の発信を期待する。また、授業内で関連する文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要になる場合もある。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日中戦争とは？	日中戦争の定義、研究動向
第 2 回	戦争の背景①	満洲事変から華北分離工作へ
第 3 回	戦争の背景②	満洲国の理念と実態
第 4 回	戦争の背景③	華北「自治」と「一致抗日」
第 5 回	戦時下の華北①	盧溝橋事件から華北占領へ
第 6 回	戦時下の華北②	清郷工作と遊撃戦
第 7 回	戦時下の華南①	第二次上海事変から南京陥落へ
第 8 回	戦時下の華南②	和平工作と援蒋ルート
第 9 回	戦争の拡大①	近衛声明から太平洋戦争へ
第 10 回	戦争の拡大②	汪兆銘政権と重慶国民政府
第 11 回	戦争の拡大③	南進政策と南洋華僑
第 12 回	終戦①	局地降伏から復員・引揚へ
第 13 回	終戦②	戦後補償と「漢奸」裁判
第 14 回	終戦③	戦後の「日中戦争」
第 15 回	日中戦争をめぐる問題	問題の所在、展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識を深めること。また、日中戦争に関するニュースや新聞・雑誌記事には自主的に目を通し、問題意識を高めてほしい。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①　平常点　30 %
授業後のリアクションペーパーの提出を評価する。
②　期末レポート　70 %
講義内容に関連するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。
（テーマは授業内で指定する）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。

西洋史特講Ⅳ

加納　格

授業コード：A3171
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期の特講Ⅴと併せてロシア帝国、ソ連、ロシア連邦（CIS）と変化を遂げた隣国の歴史と現在を理解する。春学期は、ロシア帝政期を対象とする。主に関心を向けるのは、ロシアの多民族国家としての国家体制（帝国）と専制統治体制がいかに改革され得たのか、または改革し得なかったのかという問題である。時代としては特に最後の皇帝となったニコライ２世の時期に焦点を当てる。この時代に日露戦争と 1905 年革命、第 1 次世界大戦と 1917 年革命、ロマノフ朝崩壊と大きな変化が起こったが、その過程からロシアという国家のあり方を考える。

【到達目標】
ロシア近現代の歴史的個性を理解できることを目標とする。隣国であるロシアの歴史の歩みと、それを生み出した環境を理解できるようにする。近代化を規定した条件、ロシアの近代化の個性、それが日本の歴史と交わり、相互に影響を与えたことを理解できるとを目的とする。

【授業の進め方と方法】
講義だが、質問を歓迎する。毎回出席カードに疑問点などを記入してもらい、次回講義時に答える形をとる。可能であれば、ビデオ、写真資料などを利用する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ロシア史の面白さと重要さ
第 2 回	ロシアの基礎知識	起こりと特質- 多民族帝国国家
第 3 回	ロシア近世（1）	ピョートル１世の時代
第 4 回	ロシアの近世（2）	エカチェリーナ２世の時代
第 5 回	ロシア帝国統治体制	国家体制、西欧との違い
第 6 回	ロシアの近代（1）	アレクサンドル２世の大改革
第 7 回	ロシアの近代（2）	社会思想
第 8 回	ニコライ２世の時代（1）	国際環境と統治体制（1）
第 9 回	ニコライ２世の時代（2）	国際環境と統治体制（2）
第 10 回	日露戦争と 1905 年革命（1）	戦争と改革（1）
第 11 回	日露戦争と 1905 年革命（2）	戦争と改革（2）
第 12 回	第一次大戦と 1917 年革命（1）	戦争と体制の行き詰まり（1）
第 13 回	第一次大戦と 1917 年革命（2）	戦争と体制の行き詰まり（2）
第 14 回	第一次大戦と 1917 年革命（3）	二月革命とロマノフ朝崩壊
第 15 回	まとめ	ロシア体制の連続と断絶問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシアについての基礎知識を得るために参考書を通読すること。

【テキスト（教科書）】
レジュメと参考資料を合本したものを購入してもらう（実費）

【参考書】
通史として：和田春樹『＜地域からの世界史＞ソ連』朝日新聞社、1993 年。ロシア帝国期：加納格『ロシア帝国の民主化と国家統合』御茶水書房、2000 年。加納格『ニコライ二世とその治世：戦争、革命、破局』東洋書店ブックレット、2009 年。また加納格「ロシア帝国論- 『陸の帝国』の成立」『帝国と帝国主義』有志舎、2012 年所収。

【成績評価の方法と基準】
レポートと平常点（質問、質疑応答）による。レポート（90 %）、平常点（10 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特にない。

民俗学Ⅰ

山本　志乃

授業コード：A3809
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこに生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことである。民俗学は、そうした人々の記憶や行動のなかに刻印された「文字化されにくい歴史」を、おもにフィールドワークという手法を用いて掘り起こし、記録することを目的としている。日本の民俗社会は、とくに戦後の高度経済成長期を経て大きく変質した。かつて伝承されてきた日本人の習慣、風習の多くが、もはや消滅の危機にさらされている。しかし今、民俗学によって学ぶことの意義は、かつての日本の姿を懐古的にさかのぼることではない。日本人の生活の奥底に今なお生きつづける文化の断片を発見し、つなぎあわせ、我々自身の文化を客観化することにある。それによって、日本の地域社会、さらには国際社会に対し、どのような形で発言することができるか、可能性の模索をもって総括とする。

【到達目標】
1．日本の民俗文化を特徴づける基本的な用語の意味を、身近な具体例から実態的に理解する。
2．高度経済成長期における生活文化の変遷を具体的に理解する。
3．民俗学の主たる研究手法であるフィールドワークについて、その方法と意義を理解する。
4．日本文化の多様性を理解し、庶民がいだいてきた生活目標と生きることの意味を把握する。

【授業の進め方と方法】
春学期では、日本における民俗学の軌跡、研究対象、研究方法などを概観し、身近な生活文化の変遷を、さまざまな切り口から具体的に例示する。とくに、「聖」と「俗」をキーワードとして、日本人が培ってきた時間認識、空間認識について考えるとともに、ことばと身体が織り成す豊かな伝承世界が民俗社会において果たしてきた役割についても取り上げる。講義形式だが、単なる知識の取得でなく、自らの身近な生活に照らし合わせながら、考え、発見することを期待するので、適宜受講者から意見を求める。また、受講者各自の問題意識を高める目的で、学期内にフィールドワークに基づくレポート作成を課す。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	民俗学への誘い①	「民俗学」の誕生と研究方法
第 2 回	民俗学への誘い②	先人の軌跡①―南方熊楠と柳田國男
第 3 回	民俗学への誘い③	先人の軌跡②―渋沢敬三と宮本常一
第 4 回	住まう	日本人の住居について、地域性による相違や空間認識の特徴を考える。
第 5 回	食べる	日本人の食生活の特徴を、高度経済成長期以前の食事内容から具体的に考える。
第 6 回	祭る	家や共同体で行われてきた年中行事から、節目となる行事とその意味を知る。
第 7 回	祀る	社と寺の成り立ちから、日本人の信仰の原点を考える。
第 8 回	祈る	身近な言い伝えや祈願に込められた意味を探る。
第 9 回	語る	昔話や伝説など、口承文芸の担い手とその役割を考える。
第 10 回	うたう	民間芸能を担ってきた人たちとその役割を考える。
第 11 回	あそぶ	娯楽と遊びの変遷と生活文化における意味を考える。
第 12 回	商う	行商人の生活誌から、なりわいとしての商売を考える。
第 13 回	巡る	巡礼や巡業など、移動する人々によって担われてきた生活文化を考える。
第 14 回	身近な生活の記録	民俗文化財の位置づけと地域博物館の役割を考える。
第 15 回	総括	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期内に 1 回、簡単なフィールドワークに基づくレポートを提出する（レポート未提出者は履修放棄とみなされる）。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
『現代民俗学入門』佐野賢治他編、吉川弘文館、1996 年
『講座日本の民俗学』全 11 巻、雄山閣、1996 年
『日本民俗文化大系』全 14 巻、小学館、1985 年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
原則として、期末試験（60 %）、レポート（25 %）、平常点（15 %）、さらに受講態度を加味して判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業開始後は、教室への出入りを控えること。

民俗学Ⅱ

山本　志乃

授業コード：A3810
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこに生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことである。民俗学は、そうした人々の記憶や行動のなかに刻印された「文字化されにくい歴史」を、おもにフィールドワークという手法を用いて掘り起こし、記録することを目的としている。日本の民俗社会は、とくに戦後の高度経済成長期を経て大きく変質した。かつて伝承されてきた日本人の習慣、風習の多くが、もはや消滅の危機にさらされている。しかし今、民俗学によって学ぶことの意義は、かつての日本の姿を懐古的にさかのぼることではない。日本人の生活の奥底に今なお生きつづける文化の断片を発見し、つなぎあわせ、我々自身の文化を客観化することにある。それによって、日本の地域社会、さらには国際社会に対し、どのような形で発言することができるか、可能性の模索をもって総括とする。

【到達目標】
1．春学期でとらえた民俗社会の基本事象をふまえ、日本社会の地域性と多様性について、具体的な事例から理解を深める。
2．地域ごとに異なる自然環境に適応した複合生業の具体像を理解する。
3．地域社会で培われてきた伝説・伝承をとおして、地域文化の多様性を実態的に理解する。
4．身近な生活の歴史を学ぶことの意義を理解する。

【授業の進め方と方法】
秋学期では、民俗の生成基盤である自然環境に着目し、日本人が自然環境とどのようにかかわってきたのかを、生業と信仰の両面から考える。これらは、人が自然に向かい合い、技術を駆使し、ことばを練り上げて思想へと高めていく「生きていく方法」としての民俗であり、現代的な課題でもある地域文化の再生にいかに寄与しうるか、その可能性をあわせて考えてみたい。授業は春学期「民俗学Ⅰ」を履修していることを前提に進める。講義形式だが、受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れながら進めるので、各自問題意識を持って臨んでほしい。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	自然観の民俗	自然を知る
第 2 回	自然観の民俗	サトの暮らしと成り立ち①―稲作のムラ
第 3 回	自然観の民俗	サトの暮らしと成り立ち②―畑作のムラ
第 4 回	自然観の民俗	海付きのムラに生きる
第 5 回	自然観の民俗	山に生きる
第 6 回	自然観の民俗	イチとマチ
第 7 回	神々の景観	「聖地」の景観
第 8 回	神々の景観	地域と伝説①土地の成り立ち
第 9 回	神々の景観	地域と伝説②旅する神々
第 10 回	神々の景観	地域と伝説③語られる災害
第 11 回	神々の景観	地域と伝説④川と水
第 12 回	神々の景観	地域と伝説⑤怪異の世界
第 13 回	神々の景観	地域と伝説⑥自然界の生き物
第 14 回	秋学期のまとめ	生きる方法としての民俗
第 15 回	総括	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期内の前半に 1 回、レポートを提出する。レポート作成にあたっては、課題に従って各自で題材を設定し、参考文献を探して調べる (期限内にレポート未提出の場合は履修放棄とみなされる)。作成したレポートに基づき、学期の後半で簡単な口頭発表をする場合がある。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
『現代民俗学の視点　第 1 巻　民俗の技術』篠原徹編、朝倉書店、1998 年
『講座日本の民俗学　第 4 巻　環境の民俗』野本寛一他編、雄山閣、1996 年
『神と自然の景観論』野本寛一、講談社学術文庫、2006 年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
原則として、期末試験（60 %）、レポート（25 %）、平常点（15 %）、さらに受講態度を加味して判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業開始後は、教室への出入りを控えること。

【その他の重要事項】
秋学期後半の授業は、提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れるので、ここに表示したテーマと異なる場合があります。

米文学史 A

宮川　雅

授業コード：A2905
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
(2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティヴを得ること。

【到達目標】
(1) アメリカ文学について人に語れる。
(2) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。
前期の A では 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。
講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。（前回のプリントの残りを毎度教室に持っていくとは限らないので、休んだ者は 601 研究室にもらいに来るなり、友人のをコピーさせてもらうなりの努力をしていただきたい。）

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales"とウェスタン的英雄像
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマン主義と自己信頼。ソローとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソーンとロマンス	ホーソーンの小説論
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について
第 12 回	南北戦争その他	奴隷制の問題、『アンクル・トムの小屋』、スレイヴ・ナラティヴ。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。
第 14 回	リアリズムの興隆と南北戦争	ジャーナリズムと文学。
第 15 回	オルコットと家庭小説	女性作家とリアリズム小説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。配布プリントの作品を読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。今年は作品プリントの配布を積極的におこなうので、それ（短篇小説が主）を原文で読むこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。レポート課題作品はかつて、レポートの作品を自由にしたら内容がばらばらどころか人によるとぶっとんでいたので、レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【参考書】
現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義　アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007, 2010）であろう。文学的洞察としてより（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社, 2010）。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、*Marcus Cunliffe, Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を２冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソーン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業内小テストと (2) 作品４冊と作品プリントを読んでの試験およびレポートで総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
こわくならないようにやさしく話すこと。

【その他の重要事項】
後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

米文学史 B

宮川　雅

授業コード：A2906
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
(2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティヴを得る。

【到達目標】
作品の面白さを、登場人物、ストーリー／プロットなどの分析をしつつ、作家の重要性についての歴史的パースペクティヴとともに人に伝えることができる作品がふたつ以上ある。おおざっぱなアメリカ文学の歴史をイメージできる。

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

秋学期（後期）の B ではリアリズムの成立から現代までを扱う予定。

講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。（前回のプリントの残りを毎度教室に持っていくとは限らないので、休んだ者は 601 研究室にもらいに来るなり、友人のをコピーさせてもらうなりの努力をしていただきたい。）

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム／女性小説の伝統	春学期のまとめ的に。ミニテスト。
第 2 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American Vernacular と呼ばれる文学的文体について。
第 3 回	ヘンリー・ジェイムズと視点の問題	小説における「視点」the point of view 、小説の閉じ方 (open ending) について。
第 4 回	アメリカの自然主義文学	フランク・ノリス、セオドア・ドライサー、スティーヴン・クレインなど。
第 5 回	アメリカ文学の世紀末	世紀末思想とアメリカ文学。エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 6 回	ロスト・ジェネレーションの文学 I	第一次大戦後の社会と文学。アーネスト・ヘミングウェイ、ウィリアム・フォークナー
第 7 回	ロスト・ジェネレーションの文学 II	F・スコット・フィッツジェラルド、ジョン・ドス＝パソス
第 8 回	シャーウッド・アンダソンの『ワインズバーグ、オハイオ』	小説の主人公と近代的自我。
第 9 回	ウィラ・キャザーとジョン・スタインベックの小説	ノスタルジアと暴力。自然主義とロマンス。
第 10 回	SF と探偵小説	小説とジャンルの問題
第 11 回	エリオット、パウンド、スタイン	モダニズムの問題、イマジズムとヴォーティシズムの詩学
第 12 回	ビート・ジェネレーションの文学	第二次大戦後の社会と文学。
第 13 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	トマス・ピンチョン、ジョン・バースその他。
第 14 回	ニュー・ジャーナリズムとリアリズム	1980 年代のアメリカ短篇小説の流行
第 15 回	同時代作家たち	現在のアメリカ文学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読書（積極的作品講読）。レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。配布プリントの作品を読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。今年は作品プリントの配布を積極的におこなうので、それ（短篇小説が主）を原文で読むこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文等は折に触れてプリントを配ったりリストを配ったりする。春学期未受講者には、レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【参考書】
現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義　アメリカ文学史 [全４巻]』（研究社、2007, 2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社, 2010)。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、*Marcus Cunliffe, Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を２冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソーン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業内小テストと (2) 学期末 60 分定期試験と (3) 作品３冊を読んでのレポートで総合的に評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
やさしくすること

【その他の重要事項】
前の春学期の「米文学史 A」との継続履修がとても望まれる。

GA327

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

栗飯原　文子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語圏世界とは、むろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含みこむ。したがって、英語圏世界について学ぶこととは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】
・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。
・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【授業の進め方と方法】
・講義形式をとり、毎回プリントを配布する。
・なるべく時系列にそって進めていくが、地域・トピックにもとづいて時代が前後することもある。
・授業中に複数の映像資料を参照するほか、学期の後半には一度、映画の全編を観賞して批評コメントを書いてもらう。
・授業の最後 10 分程度でリアクションペーパーを作成、提出してもらう。
・学期末の最後の授業で筆記試験を実施する。
授業中に配布したプリントやノートなどの持ち込みは許可するが、講義内容を把握していないと解答できないので、積極的に授業に参加して、しっかりメモをとってもらいたい。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション―第三世界とはなにか	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。
第 2 回	第一次世界大戦後の世界―民族自決	1919 年の民族自決の世界的な動向について学ぶ。
第 3 回	反帝国主義連盟とコミンテルン	植民地地域から多数の代表が集まった 1927 年のブリュッセル会議、また旧植民地地域とコミンテルンの関係について学ぶ。
第 4 回	第二次世界大戦後の世界―独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第 5 回	アジア・アフリカ会議	今年 60 周年を迎えるアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第 6 回	アフリカ諸国独立	1957 年のガーナ独立からのアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第 7 回	アルジェリア戦争	アルジェリアは 1954 年から 1962 年の独立まで宗主国フランスに対して激しい独立戦争を戦った。アルジェリア戦争を中心に植民地の独立の経験について学ぶ。
第 8 回	非同盟諸国運動	1961 年にベオグラードで誕生した非同盟諸国（運動）というまとまりについて学ぶ。

第 9 回	キューバ革命と三大陸人民会議	1959 年のキューバ革命の衝撃、そして革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動について考える。
第 10 回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第 11 回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第 12 回	映画のなかの第三世界	映画の全編を鑑賞し、旧植民地の問題を学ぶ。
第 13 回	構造調整の時代―第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。
第 14 回	現代の諸問題・全体のまとめ	全体のまとめをおこない、現在の旧植民地地域について概観する
第 15 回	期末試験	全体の復習として筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　10 %
・授業で提出する課題（リアクションペーパーなど）　30 %
・期末試験　60 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】
定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。
受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

GA332

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

輿石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の歴史は，ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります．本授業では，本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから，どのような変化を遂げて，21 世紀の今のような国際的な言語となっていったか，学ぶことをテーマとします．

【到達目標】
1．学生が英語の歴史について，ひと通りの知識を得ること．
2．学生が英語の歴史に興味を持ち，現代英語の様々な事象について，歴史的な説明を試みること．
3．学生が言語の歴史研究について，その大まかな方法論を知ること．
4．学生が英語の運用力をつけること．

【授業の進め方と方法】
本授業では，教材を読みながら英語の歴史について学んでいきます．履修者は，毎回指定する箇所まで教材を読んでくることから始めてください．この要領については後述し，さらに初回の授業でもお話しします．授業では，教材の内容について担当教員が質問したり，付加的な情報を加えたりして，履修者の参考になるべく努めます．その後，復習をして固めれば，理解力が高まります．

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説． - 印欧語族，比較言語学について． - 印欧祖語について． - 英語史上の時代区分．
2	英語以前の歴史（続）	- 印欧語族について（続き）． - ケルト人について． - ローマ人について．
3	英語以前の歴史（続々），古英語 (1)	- ラテン語の英語に対する影響． - アングロ・サクソン侵入． - ゲルマン諸語，下位区分について．
4	古英語 (2)	- 地名研究について． - Angli と wealas. - キリスト教化． - Viking の侵入． - Alfred 大王の治世． - 古英語期のルーン文字碑文． - Undley Bracteate と Franks Casket.
5	古英語 (3)	- 古英語の発音について． -「後舌から前舌へ」
6	古英語 (4)	- 古英語の文献と詩 (Law of Æthelberht, Ælfric's *Colloquy*, Lindisfarne Gospels, *Beowulf*). - 口承の伝統，頭韻，古英語の複合語化について．
7	古英語 (5)，中英語 (1)	- 古英語の詩と頭韻について． - Norman Conquest. - 英国の社会的 bilingualism について．
8	中英語 (2)	- 英国の社会的 bilingualism について（続）． - 英語の状況． - 中英語（文法，語，方言区分，語順など）について．

9	中英語 (3)	- 中英語の文献 (*Sumer is Icumen in*, *The Canterbury Tales*, *Piers Plowman*). - 社会変化について. - 大母音推移について.
10	現代英語 (1)	- 大母音推移について（続）. - 英語の復権. - 借用語について. - Shakespeare と欽定訳聖書について.
11	現代英語 (2)	- 大母音推移について（続）. - Shakespeare のオリジナル発音について. - 綴りの改革.
12	現代英語 (3)	- 初期の辞書について (*A Table Alphabeticall*, Johnson's dictionary). - 規範意識の成立. - 新語について. - *The Oxford English Dictionary*.
13	現代英語 (4)，20 世紀以降の英語 (1)	- *The Oxford English Dictionary*（続）. - 受容発音 (RP) と一般米語 (GA) について. - 英語の地域的な変異について.
14	20 世紀以降の英語 (2)	- 英語の地域的な変異について（続）. - ジャーゴンとスラング. - 英語の未来.
15	試験	これまでの授業の内容理解に関して試験を実施します.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は，まず，教材を読んでくることから始めてください．この際，批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか，曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと），出てくる用語等を資料，ネット等を用いて調べること，を意識的に行うことが重要です．授業後，復習をして固めれば，理解力が高まります．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．

【テキスト（教科書）】

Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford: Oxford University Press. (Oxford Bookworms Library, Stage 4.)[このシリーズは学習者用に語彙制限をかけており，Stage 4 は 1,400 語のレベルです．履修者は各自ネット等で購入し，初回に必ず持参ください．]

【参考書】

授業中，随時指定いたしますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．

・北村達三 (1980).『英語を学ぶ人のための英語史』．東京：桐原書店．（内容として一番標準的ですが，最近の英語についての記述が少々足りません．）

・寺沢盾 (2008).『英語の歴史　過去から未来への物語』．東京：中央公論新社 [中公新書].

・中尾俊夫，寺島廸子 (1988).『図説　英語史入門』．東京：大修館書店.

・ブラッドリ，H. 寺澤芳男訳 (1982).『英語発達小史』．東京：岩波書店 [岩波文庫].

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして, 平常点を加味します. 言うまでもないことですが, 出席することはすべての前提です. 欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして 1 段階下がる），欠席 5 で失格，というのを一応の目安とします．）

最終試験 50%，プロジェクト 30%，平常点 20%というのが，基本的な評価基準です．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

教材をしっかり読まなかった学生がいたのには，驚きました．やはりしっかり教材を読むことより初めて欲しいです．担当教員の話を聞いただけではダメで，やはり自分から勉強する態度が大切です．内容については，英語の授業だったので一見難しく思えるが，その実，そんなに難しいことは要求されていない，という意見もありました．

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】

１．本科目はグローバル・オープン科目の History of English と内容が同一ですので，重複履修はできません．英語の歴史を英語で学びたい方は是非そちらの科目を履修してください．

２．皆さんが学部で学ぶことの基礎となるのは，しっかりとした語学力（英語力）です．その意味から，教材を読んでいくことを中心にした授業構成にしています．授業に関しての具体的なことは，初回履修者を見て決定したいと思います．

３．「英語史」と「英国史」とは異なります．ことばに焦点を当てる授業であるということを，理解した上で履修してください．

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は，言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の歴史をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期ですので，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の歴史について，基本的な知識は網羅するように心がけます．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

HA333

ヨーロッパ環境史論Ⅰ

辻　英史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ都市の環境史

【到達目標】
ヨーロッパの都市の歴史的発展を、その景観、住民の生活世界や、自然環境との関係などから理解する。

【授業の進め方と方法】
本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、空間・緑・防災・衛生という４つの観点から、特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。
毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第 2 回	＜都市と空間＞その 1　中世都市	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第 3 回	＜都市と空間＞その 2　近世都市	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第 4 回	＜都市と空間＞その 3　都市計画と近代都市	19 世紀を迎えて国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業が各国でおこなわれた。
第 5 回	＜都市と空間＞その 4　現代都市の変容	20 世紀前半から後半へ、都市景観をめぐる考え方の変化と、生活空間の変化を関連づける。
第 6 回	＜都市と緑＞その 1　都市と公園	緑地や公園など、都市の中に管理された自然を作り出す試みについて、その思想や実践の歴史を探る。
第 7 回	＜都市と緑＞その 2　都市と食	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第 8 回	＜都市と緑＞その 3　都市と観光	19 世紀から都市住民の余暇活動は観光という形で都市の外に向けられた。新たに成立した都市と外部の自然との関係を論じる。
第 9 回	＜都市と防災＞その 1　都市を襲った災害	火災や地震といった災害は、いかに都市を破壊したのか、そこからどのように復興がおこなわれたのか。そしてそこから引き出された教訓とは。
第 10 回	＜都市と防災＞その 2　警察・消防の歴史	災害から都市をどのようにして守るのか。その思想と組織の発展を、担い手である都市住民の変化と関連づけて論じる。
第 11 回	＜都市と防災＞その 3　空襲の脅威	２０世紀を迎え、主として航空機の発達により戦争は新たな次元を迎える。新たな空中からの脅威に都市はどのように対応しようとしたのか。
第 12 回	＜都市と衛生＞その 1　都市と上下水道の発達	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水と都市の関わりの歴史。
第 13 回	＜都市と衛生＞その 2　都市と河川	河川の近くに立地し、それと密接な関わりを保った都市は多い。橋や運河、河川交通といった水運の面から都市を考える。
第 14 回	＜都市と衛生＞その 3　都市と海	海辺に位置し、港を持つ町は、内陸の都市に比べて特殊な発展を遂げた。そうした港町や港湾都市を舞台として、遠距離交通の歴史を考える。
第 15 回	まとめ　都市史と環境史	環境という視点が歴史研究にもたらすものは何かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進度に応じて、『世界の歴史』(中央公論新社)、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』(山川出版社) などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】
レジュメを配布する。

【参考書】
上記のほか、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験（100 %）による。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターにより画像・映像を見せる。

【その他の重要事項】
・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA333

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻　英史

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 世紀の後半以降、われわれの生きる世界の理想的なあり方として「サステイナビリティ（持続可能性）」という概念が取り上げられるようになってきている。環境、経済、政治、文化のそれぞれの分野において「持続可能な発展」は、どのようにしたら可能になるのか、真剣な議論が積み重ねられてきている。われわれは「サステイナビリティ」というパラダイム（認識の枠組み）のなかに生きていると言っても過言ではない。
この新しい、現代的な「サステイナビリティ」というパラダイムは、過去の歴史的な世界を考える際にどのように応用することが出来るのであろうか。その当時には存在しなかった概念や価値観で過去の出来事を分析し評価することは、しばしば表面的で独善的な解釈を引き出す危険がある。それでもなお、われわれは過去の世界の歴史から、現代の「サステイナビリティ」に対して教訓や警告を引き出すことは出来ないのだろうか。この講義は、歴史学研究の側からのサステイナビリティ研究についての応答である。

【到達目標】
1920-30 年代のヨーロッパ――「サステイナブルな世界」の作り方を学ぶ
本講義では、1920-30 年代のヨーロッパを題材に、「サステイナブルな世界」をつくるための努力が、どのようになされ、どのように失敗に終わったかを、検証する。第一次世界大戦を経験した後のこの時代は、戦争中から戦後にかけての社会の大きな変動をふまえて、新しい体制をつくりあげ、それを安定化しようとするさまざまな試みがなされた時期であった。こうした試みは、世界大恐慌による経済的混乱とファシズムの勃興、そして第二次世界大戦というさらに大きな戦争に帰結してしまった。この失敗の過程を再検証し反省することを通じて、われわれの時代の「サステイナブルな世界」についての理解を深めることがこの講義の目標である。

【授業の進め方と方法】
全体の概観をおこなったあと、「政治体制のサステイナビリティ」、「経済と社会のサステイナビリティ」、「文化のサステイナビリティ」、「共同体のサステイナビリティ」の 4 つの観点から、個別の事例を分析・紹介していく。
毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入　「サステイナブルな世界」とは？	「サステイナビリティ（持続可能性）」についての考え方を紹介し、その歴史学研究への応用可能性と問題点について考える。
第 2 回	第一次世界大戦後のヨーロッパ世界	大戦の結果出現した新興独立国をはじめ諸国の状況を概観する。
第 3 回	第一次世界大戦後のヨーロッパ社会	大戦は戦勝国・敗戦国を問わず社会のあり方を大きく変えた。その一般的特徴を概観する。
第 4 回	戦勝国の国内政治体制	戦勝国であったイギリスやフランス、イタリアにおいて、戦前の体制への復帰はいかにすすめられたか、その内容を検証する。
第 5 回	敗戦国の国内政治体制	敗戦国のドイツやオ―ストリアでは政治体制は新体制のもと再出発した。その道のりはどのようなものであったか。
第 6 回	新興独立国の諸問題	ポーランド、ハンガリー、ユーゴスラヴィアなど東欧の新興独立国家群が抱えた国内外の課題を検証する。
第 7 回	大戦後の国際秩序	戦勝国を中心に新たな国際秩序の構築を目指したヴェルサイユ体制の目指したものと、その問題点および修正の試みについて。
第 8 回	社会主義という選択肢	史上初の社会主義国家ソ連の誕生と発展の状況を紹介し、政治が安定せず経済の混乱が続くヨーロッパ諸国に、ソ連の存在と社会主義運動がどのような影響を与えたかを論じる。
第 9 回	ファシズムの登場	イタリア、ドイツ、スペインなど、各国で自由主義・民主主義を否定する政治経済体制が出現してきた過程を明らかにする。
第 10 回	世界大恐慌とその対応	戦争直後の混乱を克服し、戦前の繁栄を取り戻そうとする各国の取り組みは、しかし 1929 年世界大恐慌により大きな打撃を受けた。
第 11 回	消費社会と前衛芸術	1920 年代のヨーロッパの社会と文化の状況をとくに前衛芸術運動の展開に注目しつつ分析する。
第 12 回	ヨーロッパ文明衰退への危機感と再生の試み	大戦のもう一つの帰結として、知識人の間にヨーロッパ文明の未来についての悲観的な見方が広がったことが挙げられる。この危機感と、そこから出現してきた社会改革の提案を紹介する。
第 13 回	国民国家内部の統合の問題	新興独立国家では、しばしば強引な国民統合政策がおこなわれ、少数民族のあつかいをめぐって事態は紛糾した。
第 14 回	植民地支配の動揺	大戦は本国と植民地の関係にも変化をもたらし、独立への欲求が強まった。これに本国はどのように対応したか。
第 15 回	戦争への道	1930 年代末にはヨーロッパ世界は緊張が深まり、戦争の危険が迫っていた。危機の回避はなぜ失敗におわったのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進度に応じて、『世界の歴史』(中央公論新社)、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』(山川出版社) などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】
レジュメを配布する。

【参考書】
上記のほか、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験 (100 %)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターにより画像・映像を見せる。

【その他の重要事項】
・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

学習の社会史Ａ　2014 年度以降入学生

学習の社会史Ａ　2012～2013 年度入学生

学習の社会史Ａ　2009～2011 年度入学生

別府　愛

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもの学習活動が社会においてどのようにとらえられ、保障されてきたか、西洋の教育史を軸にして考察していく。社会、大人が子どもたちの成長を促し、彼らを社会の一員として受け入れていくために、彼らに働きかけ学習を促す営みが教育であるととらえ、私たちは「子ども」や「教育」をいかなるものと理解し、対処してきたか、機関としての学校がいかに成立・発展してきたか、子どもの側に重点を置いて、歴史的に学び理解することをめざしている。そしてこれらが現在の子ども観や学校教育にどのようにつながっているか考察していくことをめざす。

【到達目標】
以下の事項についての理解と認識を深めることをめざす。
1．中世に「大学」がいかに成立し発展したか
2．ルネッサンスの文化は教育にどのような影響を与えたか
3．西洋においてキリスト教は教育とどのように関わってきたか
4．近代的子ども観の誕生と発展について理解する。
5．絶対主義時代、市民革命期、産業革命期の子どもたちの生活とそれぞれの時代の教育課題と教育の実態について理解する。
6．国民教育制度がいかに成立したか。国家はどう関わっていったか　国家と国民の対立の理解、学校生活の様子を理解する。
7．新教育運動と子どもの学習の形態や内容の特徴について理解する。
8．「子どもの権利」思想と子どもの学習活動の保障の理念と実態、課題について考える。

【授業の進め方と方法】
授業の到達目標で提示した８個の具体的な内容に関連する文献や資料を基に、講義形式で進めていく。
自分の学校生活について語っている 3 人の手記や伝記、小説を取り上げ、受講生による朗読とそれを聴くことによって当時の学習の実態や子どもたちの意識を理解する。
受講生の興味・関心をより深めるため、かつ歴史的研究の一端として、新教育の思想家・実践家を一人とりあげ、彼らの思想や実践、あるいは設立した学校について、教育思想や、学校の設立経緯、教育の特徴と実際、後世に及ぼした影響などについて、レポート作成を求める予定である。
「子どもの権利」では人間らしく生きる権利、学習する権利が奪われている現実を取り上げ、その原因や解決策、自分たちに今何ができるか、グループでディスカッションを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義概要の説明　教育史を学ぶ意義　参考文献の紹介など
2	中世の教育	修道院学校　司教座学校　大学の誕生　大学の教育内容　学校生活の様子
3	ルネッサンスと教育	ルネッサンスの文化　人文主義と教育　学校と学校生活
4	宗教改革期の教育	宗教改革期の教育思想と実践　ルターの教育論　新教派の学校と教育
5	近代的子ども観の誕生	近代以前の子ども観　エラスムス、ロック、ルソーの子ども観　『子どもの遊戯』の絵の子どもたちの遊び
6	近代的家族の出現	近代的家族とは　家族と子ども　子育ての担い手と意識の変容　家庭教育の本の需要
7	絶対主義時代の教育	ルターの影響　ゴータ教育令　中等教育機関の発展　イエズス会による教育
8	市民革命期の教育	フランス革命期の公教育法案　コンドルセ、ルペルチェの案
9	産業革命期の教育	英国の民衆教育　児童労働の実態と規制
10	国民教育制度の成立と発展	ボランタリズムから国家関与へ（英国）教育による統制
11	国民教育制度下の学校の実態	２０世紀の英国の義務教育段階の学校の教育内容・教育方法・学校生活　教員養成など
12	国民教育制度を支えた思想	ペスタロッチーの教育思想と実践・後世への影響
13	新教育運動の展開	新教育運動の始まり　運動の内容と実態　デューイの教育思想　デューイスクール　日本への影響
14	「子どもの権利」思想と子どもの学習	子どもたちの生きる権利、学ぶ権利は保障されているか　「子どもの権利条約」へいたる歴史と課題
15	試験とまとめ	試験（まとめを含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献や講義の中で紹介する文献などの中から興味あるものを読む。
当時の子どもや学生、教師の生活や様子がわかる映画など講義の中で紹介されたものに興味を持って鑑賞する。
配付資料をよく読んで復習し、理解を深める。
レポート作成に必要な資料や文献は授業の中で紹介するので、各自のテーマに即してそれらを読み理解し、レポートにまとめる。
自伝、小説の紹介、朗読に積極的に取り組む。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業ではその都度資料を配付する予定。

【参考書】
教科書は使用しないが、通史的に扱っているものとして以下のようなものを紹介する。
・古沢常雄・米田俊彦編　教育史（教師教育テキストシリーズ３）学文社 2009
・今井康雄編　教育思想史　有斐閣　2009
・小澤周三他　教育思想史　有斐閣　1993
・池端次郎編　西洋教育思想史　福村出版　1987
・長尾十三二　西洋教育史　東京大学出版会　1978
・世界子どもの歴史　全 11 巻　第一法規　1984～1985
・江藤恭二他編　子どもの教育の歴史　名古屋大学出版会　1992
・アリエス著　杉山光信・杉山恵美子訳　〈子供〉の誕生　みすず書房 1980
・アリエス著　中内敏夫・森田伸子編訳　〈教育〉の誕生　新評論　1983
・M・ハリスン著　藤森和子訳　こどもの歴史　法政大学出版局
・浅野啓子・佐久間弘展著　教育の社会史―ヨーロッパ中・近世―知泉館 2006

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献（平常点も含む）20 %、レポート２０%、試験６０%で総合的に評価。
授業の内容を理解しているか。到達目標に到達しているか。学習したことをもとに、自分の考えをもち、論理的にまとめ、文章で明瞭に表現できているか。自主的に学習をすすめたか。以上を基準に評価する予定。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
配付資料が多くわかりづらいとの指摘があったので、整理して提示するよう心掛けている。
高校で世界史を受講していない学生もいるので、各回、時代背景など詳しく説明するよう気を付けている。
映画や小説、絵画など関連ある資料を紹介するなどしてより興味を持てるよう工夫している。

学習の社会史Ｂ　2014 年度以降入学生

学習の社会史Ｂ　2012～2013 年度入学生

学習の社会史Ｂ　2009～2011 年度入学生

寺崎　里水

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。
議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、日本教育史についても概略を学ぶ。

【到達目標】
授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本教育史の基礎的な知識を得る。

【授業の進め方と方法】
あらかじめ指定した文献をもとに講義を行う。学生の知識の定着を促すため、ワークシートやレポートを課すことがある。
また日本教育史の基礎的な事柄については、事前に課題プリントを配布し、授業冒頭で定着を図り、解説を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化	日本の近代化と学校教育制度の成立について学ぶ。
第 3 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのか考える。
第 4 回	試験の社会史	試験というシステムがどうやって日本社会に浸透していったのか考える。
第 5 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 6 回	日本教育史との関係：近代化以前の学習をとりまく状況	日本教育史の知見をつかいながら、近代化以前の学習、試験、競争がどのようであったのか考える。
第 7 回	運動会、ブルマーの社会史	体育と近代の関係を考える。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性たちと学習の関係がどのようであったのかについて、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	日本教育史との関係：近代化以降の学校教育制度の整備	日本教育史の知見をつかいながら、明治維新後の学校教育制度の整備、発展について学ぶ。
第 11 回	日本教育史との関係：戦後の教育制度改革	日本教育史の知見をつかいながら、戦後の教育制度改革から今日までの流れをつかむ。
第 12 回	地方都市と教育	近代化以降広がる貧富の差、地方都市と大都市との格差などがどのように扱われてきたのかを学ぶ。
第 13 回	大衆と教育	勤労青年と学歴エリートの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 14 回	なぜ学ぶのかという問い	DVD をつかって、なぜ学ぶのかという問いについて考える。
第 15 回	まとめ	全体を振り返り、学んできたことをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定文献の精読、配布プリント課題を必須とする。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
日本教育史の課題 30 %、授業中の課題 30 %、レポート 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【授業中に求められる学習活動】
A, B, C, D, E,

LA227

アジア・太平洋国際関係史

今泉　裕美子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目名にはサブタイトル「沖縄から問い直す」がつく。沖縄の歴史と現在を学びながら、沖縄から「アジア・太平洋国際関係史」を捉え、地域から「国際関係史」を追究する視点と方法を習得する。
授業では受講生の関心に照らしてテーマを設定し、それぞれの「沖縄認識」を揺さぶり、再構成するための内容を積み上げながら「授業の到達目標」をめざす。
なお、法政大学が実施している沖縄大学への交流学生【HP 参照】に応募を希望、あるいは決定した学生の事前学習としても活用して頂きたい。

【到達目標】
本土出身の学生の沖縄への関心には大きく二つの傾向がある。ひとつは基地問題に対する関心で、外交問題あるいは一地方の問題として捉えるものである。そして「沖縄は可哀想だが、しょうがない」と人ごととして考えたり、近年目立つのは「沖縄は一体何をしてほしいのか、どこまで要求するのか」という開き直りの意見である。ふたつには、沖縄の歌、踊り、工芸や海は大好きだが、沖縄戦、政治や経済は苦手、というものである。これとは反対に、沖縄戦や基地問題には関心があるが、文化や社会は知らない、琉球王国の歴史にも無関心という学生もいる。一方、これまで本講義を受講した沖縄出身の学生は、本土の学生たちの関心に違和感をもちながら、それをどう説明したらよいかに戸惑い、また東京から沖縄を眺めることで、改めて「沖縄」を考えたい、という関心を示してきた。日本の外からは、「沖縄」に自らの地域に共通する特徴や問題を見出すカタルーニャ、スコットランド、サイパン、朝鮮半島などの人々がいる。こうした地域ごとの関心の持ち方の違い、接点はなんだろうか。
授業では、沖縄の現在を、沖縄に生きた／生きる人々や社会を軸に、「国際関係」（国家間関係だけではない）、とくにアジア及び太平洋島嶼との歴史的な関係を踏まえて理解する。
授業の軸に据えるのは、①日本社会に一般に流布する沖縄情報の特徴を批判的に検討する、②沖縄に現れることがらをアジア及び太平洋地域のなかで特徴づけ、沖縄を切り口にアジア及び太平洋地域の歴史、現在を問い直す、これらを通じて③沖縄の問題をアジア及び太平洋地域に共有しうる問題（自立／独立と依存の問題、民族問題、アイデンティティー、環境問題、開発と文化、安全保障など）として考察する、その際、④問い直す“わたし”自身の認識、立場性について考えることが不可欠であること、最終的には“わたし”の“現在”が、沖縄のどのような“現在”とつながり、未来への道筋をつむぎだしているのか、各受講生が意見をもてるようにする。

【授業の進め方と方法】
【概要】最初に受講生の沖縄への関心を出してもらい、沖縄をめぐる報道や議論とつきあわせながら、授業で共有するテーマを設定する。このテーマに取り組むうえで、琉球・沖縄の歴史、社会、文化、政治、経済などに関する基本的な知識と、沖縄研究の視点と方法を習得する。
授業は受講生の関心と取り組みに応じて展開し、また沖縄で現在進行形のこともとりあげる。よって授業計画は基本方針とし、順序や内容を変更する場合もある。
【方法】①講義を中心に進めるが、コメントシートを提出してもらい、フィードバックする。議論の機会を設けることもある。②秋学期には希望者にのみ関心あるテーマについて、今泉のアドヴァイスのもとで資料を選び、レジュメを作成、報告してもらう。これまでの報告テーマの一部を紹介すると「現在の“ウチナーグチ”をめぐる動き」、「沖縄の音楽」、「戦後沖縄経済と泡盛」、「沖縄の遊郭」、「沖縄の基地問題と経済」など。③今泉が企画する沖縄研修旅行（16 年間毎年夏休み中に実施。案内は沖縄の学生、大学教員や地域史関係者）を実施する場合は、これに参加（自由）し、フィールドワークをふまえて授業に臨む受講生を大いに歓迎する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション－「沖縄」を考えるために	本講義の進め方の説明と、受講生の関心についてアンケート。
2	「沖縄」を考えるためのテーマの模索①	受講生の関心に基づいて準備した資料をもとに、授業の共通テーマを設定する。
3	「沖縄」を考えるためのテーマの模索②	受講生の関心に基づいて準備した資料をもとに、授業の共通テーマを設定する。
4	自然、言語、沖縄をめぐる呼称から考える	自然、言語の特徴、琉球・沖縄をめぐる地域の自称・他称の変遷などから、沖縄は日本の「一地方」なのかを考える。
5	「4・28」と「5.15」について考える―現在進行形のテーマ	「屈辱の日」(4.28）と「復帰の日」（5.15）をめぐる沖縄、本土の報道、議論などをもとに、両地域の認識の相違やその関係性を考える
6	琉球文化圏の成立から考える①	グスク、集落の形成、信仰などについて学ぶ。

7	琉球文化圏の成立から考える②	祭祀や祖先崇拝について学ぶ。
8	「慰霊の日」（6 月 23 日）に考える①―現在進行形のテーマ	日本で民間人を巻き込んでの唯一の地上戦と言われる沖縄戦を、その約 1 年前の旧南洋群島の地上戦との関係性、日米関係において捉えなおす。
9	「慰霊の日」（6 月 23 日）に考える③―現在進行形のテーマ	沖縄戦をめぐるドキュメンタリーもとに、戦後 71 年目のいま「沖縄戦」を学ぶ意味を考える。
10	「慰霊の日」（6 月 23 日）に考える②―現在進行形のテーマ	沖縄戦をめぐるドキュメンタリーもとに、戦後 71 年目のいま「沖縄戦」を学ぶ意味を考える。
11	古琉球から考える①	東アジア、東南アジアのなかで琉球王国の成立（三山統一）、琉球王国の特徴、冊封体制を学ぶ。
12	古琉球から考える②	東アジア、東南アジアのなかで琉球王国の役割、そこに育まれた特徴を学ぶ。
13	近世琉球から考える	薩摩侵入後の琉球王国を中国およびヤマトとの関係から特徴づける。
14	「琉球処分」から考える	アジア及び太平洋地域の国際関係の変容の中で、大日本帝国の成立と琉球処分の関係、ここに生み出された問題の特徴を学ぶ。
15	春学期の総括	論点の整理と学習の総括
16	秋学期のイントロダクション	春学期の学習を振り返り秋学期の内容と進め方を説明。受講生の関心の発展についてアンケート。
17	近代史のなかで考える①	明治政府の初期沖縄政策の特徴（旧慣温存政策など）を学ぶ。
18	近代史のなかで考える②	明治政府の政策に対する沖縄からの対応を、太田朝敷、伊波普猷などを例に考える。
19	近代史のなかで考える③	日清戦争、日露戦争と沖縄社会の変化を学ぶ。
20	近代史のなかで考える④	戦時下の沖縄社会、「皇民化」から、沖縄戦の特徴を改めて確認し、戦後史へのつながりを学ぶ。
21	米軍「占領」時代から考える①	米軍のアジア及び太平洋地域への占領政策の中で、沖縄の占領政策を捉える。
22	米軍「占領」時代から考える②	米軍による占領政策の変遷の中で、戦後沖縄社会の形成と被占領経験について学ぶ。
23	米軍「占領」時代から考える③	アジア及び太平洋島域での冷戦の進展のなかで、沖縄の人びとのくらしや運動を学ぶ。
24	「復帰」について考える①	「復帰」の経緯、日米関係、沖縄側の主張を学ぶ。
25	「復帰」について考える②	反復帰論など「復帰」をめぐる思想や運動を学ぶ。
26	「復帰」後において考える①	受講生の関心基づき内容を決定する。
27	「復帰」後において考える②	受講生の関心基づき内容を決定する。
28	同時代において考える①―「移民県」としての沖縄	10 月に開催された第 6 回世界のウチナーンチュ大会から「移民県」としての特徴を学ぶ。
29	同時代において考える②	受講生の関心基づき内容を決定する。
30	総括	秋学期および 1 年の論点の整理と学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①『琉球新報』あるいは『沖縄タイムス』を随時チェックする。
②授業に関連する参考文献を読む。
③報告を希望する者には、今泉が参考文献、レジュメ作成のアドヴァイスをするので、それに基づいて準備する。
④法政大学沖縄文化研究所主催の「総合講座～沖縄を考える～」など関連する授業を受講することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは現時点では指定しない。

【参考書】
各回のテーマに応じて紹介するが、基本文献として以下をあげる。
・金城正篤他『沖縄県の百年』、山川出版社、2005 年。
・豊見山和行他編『琉球・沖縄と海上の道』吉川弘文館、2005 年。
・比嘉政夫他編『地域の自立　シマの力』(上) コモンズ、2006 年。
・鹿野政直『沖縄の戦後思想を考える』岩波書店、2011 年。
・新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016 年。
・Sasha Davis, *The empires' edge: militarization, resistance and transcending hegemony in the Pacific*, University of Georgia Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】
①コメントシートの内容や授業への参加度 20 %、②総括の作業としてのレポート、あるいは試験（いずれにするかは期末に改めて提示。春学期の作業を行わない者は秋学期の作業について評価の対象とならない）春学期 40 %、秋学期 40 %。但し、秋学期に報告を行う者には上記について次の基準を設ける。① 20 %、②春学期 20 %、秋学期 20 %、③報告 40 %。
★提出物が締め切りに遅れた場合は減点、報告や提出を行わない場合は単位認定の対象としない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生の要望を反映し、学生による報告や意見交換の機会を設けることにした。

【その他の重要事項】
①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由（証明書など）を提出すれば評価に考慮する。②報告希望者を募る時期は別途予告する。③現在進行形の沖縄の動向、沖縄に関わることで、取り上げるべきことが生じた場合は、授業計画を変更する場合がある。

LA233

在日朝鮮人の歴史

神谷　丹路

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**金・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを、年間を通しての基本とする。

【授業の進め方と方法】
春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。秋学期は、春学期で学習した内容をさらに深め、また視野を広げて、グローバル時代のコリアンと日本について、さまざまな角度から考えていく。秋学期のテキストをもとに、より掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。参加型授業である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説①	世界のコリアンと在日コリアン
3	在日コリアン概説②	在日コリアンの法的地位
4	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの人口はどれくらいですか」
5	学生によるテキストの報告	「在日コリアンはいつ頃日本に来たのですか」
6	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの国籍はどうなっていますか」
7	まとめ①	映像 (1)
8	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの民族教育はどのように広がっていったのですか」
9	学生によるテキストの報告	「北朝鮮への帰国運動とはどういうものですか」
10	学生によるテキストの報告	「本名を名乗るとはどういうことですか」
11	まとめ②	映像 (2)
12	学生によるテキストの報告	「1982 年体制とはどういうものですか」
13	学生によるテキストの報告	「帰化をしないのはどうしてですか」
14	学生によるテキストの報告	「なぜ地方参政権を求めているのですか」
15	春学期最終回	まとめの討論
16	秋学期ガイダンス	夏休みの課題の発表①と秋学期スケジュールの確定
17	夏休みの課題の発表	夏休みの課題の発表②
18	学生によるテキストの報告	在日コリアンと芸能界・スポーツ界のニューヒーローたち
19	学生によるテキストの報告	在日コリアンと焼き肉文化
20	学生によるテキストの報告	在日コリアンの民族教育
21	まとめ③	映像 (3)
22	学生によるテキストの報告	在日コリアンとパチンコ産業
23	学生によるテキストの報告	在米コリアンの社会史
24	学生によるテキストの報告	ベトナム戦争とコリアン
25	まとめ④	映像 (4)
26	学生によるテキストの報告	済州島と在日コリアン
27	学生によるテキストの報告	大震災と在日コリアン（関東大震災と阪神淡路大震災）
28	学生によるテキストの報告	Ｊリーグと在日コリアンサッカー選手
29	まとめ⑤	映像 (5)
30	最終回	学期末の総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストを必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などをよく読み、在日コリアンに関する時事問題などに、つねにアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
春学期：梁泰昊『新・在日韓国・朝鮮人読本』（緑風出版）2000 円＋税、秋学期：野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885 円。
受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
通年科目である。春学期秋学期とも履修してはじめて単位がつく科目なので、そのつもりで、１年間、しっかり取り組むこと。

LA233

ギリシヤの文化と社会

中村　純

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**金・4**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アルキビアデス・ストーリーという副題を添えて、奔放な生を生き抜いた紀元前 5 世紀アテネの一市民が放つ不思議な魅力の探求をテーマとします。本年度はプルタルコスとツキディデスとの二人の著述を史料とします。

【到達目標】
自由を標榜するアテネ民主政のなかに生を享け、持って生まれた自己の資質を余すところなく開花させることを極限まで追及し、そのゆえに市民間の平等という原則といたるところで衝突したアルキビアデスの生を吟味することを通して、民主政下に生きる一市民としての視野形成に資することを目標とします。今年度は、ローマ時代の伝記作家プルタルコスと、アルキビアデスと同時代を生きた歴史家ツキディデスとの二人の眼を通してみたアルキビアデス像を素材とします。

【授業の進め方と方法】
アルキビアデスは、その輪郭のくっきりとした生き方のゆえに、同時代の歴史家ツキディデス、喜劇作家アリストファネス、そして前 4 世紀の哲学者プラトンあるいは法廷弁論家たち、さらにはローマ時代の著名な伝記作家プルタルコス等に、際立った印象を残したものと思われます。本年度春学期には主としてプルタルコスの語るアルキビアデス像を素材として検討します。秋学期には同時代人ツキディデスの残した史料を用いて、アルキビアデスと彼を育んだアテネというポリスのデーモクラティアーとの関係を考えます。授業の進め方は主として講義形式になる予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	受講生数の確認、受講生との話し合い、受講生の知識レベルについてのヒアリング。1 年間の講義の概要説明。
2	アルキビアデスって誰？	通年のテーマであるアルキビアデスという人物の大まかな人物像の把握。
3	アルキビアデスについて語った人々（1）	アルキビアデスに関する史料のうち、前 4 世紀以降のものについての概略説明。
4	プルタルコスのアルキビアデス伝	アルキビアデス伝の内容を受講生に把握してもらう。 発表の可能性あり。
5	プルタルコスとアルキビアデス	プルタルコスによるアルキビアデス紹介について。
6	ローマ帝国のギリシア人	すでに政治的自立を失って巨大な帝国の一地域となったギリシヤ人の政治的関心のあり方について。
7	プルタルコスの伝記の中のアルキビアデス	プルタルコスの描くアルキビアデスの生涯を時間的順序を追って概観する。
8	アルキビアデスとペリクレス	父と子に例えて、両者の政治手法、イメージの違いなどを検討する。
9	政治指導と軍事指導	アルキビアデスの人気を支えたものは何かをプルタルコスの眼を通して検討する。
10	アルキビアデスとソクラテス	3 回にわたってソクラテスとアルキビアデスの関係を考察する。その概要。
11	（2）ホメロス社会の価値観	アルキビアデスの伝統的上層市民としての側面の根源について。
12	（3）Greek Homosexuality	アルキビアデスはソクラテスの愛人か？
13	アルキビアデスの自己実現 (1)	アルキビアデスの人格形成のあり方、その歴史的背景、当該時代における社会との衝突等々の問題について総括的に考察する。
14	アルキビアデスの自己実現 (2)	同上。
15	アルキビアデスの自己実現 (3)	同上。
16	アルキビアデスについて語った人々（2）ツキディデス、アリストファネス、エウリピデス	アルキビアデスと同時代の著作家たちによるアルキビアデス評価の概要。
17	ツキディデスのなかのアルキビアデス	ツキディデスの『戦史』に描かれたアルキビアデス像をたどる。
18	アルキビアデスとペロポネソス戦争	ペロポネソス戦争を戦うポリスアテネにとってのアルキビアデスの存在の意義を考える。
19	ヘルメス像破損事件（1）ツキディデスとアンドキデス	標記事件についてのツキディデスのスタンスをアンドキデスのそれと比較衡量する。
20	（2）ツキディデスの回り道	ツキディデスの記述の一見奇妙な回り道の意味を探る。
21	アルキビアデスは僭主になろうとしたか？（1）シチリア遠征 a	アルキビアデスは果たして僭主になろうとしていたのか？ 6 回におよぶ考察の概要。
22	（2）シチリア遠征 b	民会におけるニキアスとアルキビアデスの論戦の分析。
23	（3）オリンピック	ニキアスも言及したオリンピックの戦車競技におけるアルキビアデスの前代未聞の記録の持つ意味について。
24	（4）スパルタのアルキビアデス	アルキビアデスは裏切り者か？ 古代地中海世界における人のネットワークが示すもの。
25	（5）411 年の政変 a	わずか 1 年の間のめまぐるしい政体の変転のなかでアルキビアデスが果たした役割。
26	（6）411 年の政変 b	前回の考察を踏まえた上でのアルキビアデスのアテネにおける位置づけ。
27	ツキディデスとアルキビアデス	ツキディデスとアルキビアデスの個人的な関係についての考察。
28	アルキビアデスとアテネ民主政 (1)	資質に恵まれた一市民が自由にその資質を開花させようとすることと市民間の平等の原則とはどのような形で両立するのか、という全体のテーマについての総括的考察。
29	アルキビアデスとアテネ民主政 (2)	同上。
30	まとめ	受講生の理解度を含めた全体のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマについて講義を理解するための基礎知識が不足していると思う人は参考書に挙げた文献にあたって知識を補充しておいてください。受講生の数にもよりますが、春、秋それぞれ 1 回は課題発表と討論の機会を設けたいと思います。その際は発表者はもちろん参加者は必ず事前に指示された準備をしてくること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
『西洋古代史研究入門』　伊藤貞夫、本村凌二編　東大出版会　1997
『ギリシア文学を学ぶ人のために』　松本仁助、岡道男、中務哲郎編　世界思想社　1991
『古典期アテネの政治と社会』　伊藤貞夫　東京大学出版会　1982
『丘の上の民主政』　橋場弦　東京大学出版会　1997
『民主主義―古代と現代』　M. I. フィンレイ　柴田平三郎訳　刀水書房　1991
『アテネ民主政』、澤田典子、講談社選書メチエ　2010.
『ソフィストとは誰か』、納富信留、人文書院　2006.
『古代ギリシアの同性愛』 K.. ドーヴァー著、中務哲郎、下田立行訳、青土社　2007.

【成績評価の方法と基準】
春、秋学期それぞれに課すレポートに課題発表など授業参加の積極性も加えて総合的に評価します。出席が十分でなければ評価の対象としません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特にない。

LA233

古代日本・中国の法と社会

稲田　奈津子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**金・5**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代日本は、中国から様々な先進文化をとりいれることで、国家・社会の基礎を形成していった。法制度も同じように中国の影響を色濃く反映しているが、それらは国家制度や刑罰だけではなく、家族や身分、生や死といった、人々の生活の根幹に関わる部分にまで深く影響を及ぼした。そこで本講義では、法制度のなかでも特に「家族・身分・喪葬」に関して注目することで、古代東アジアの法と社会を具体的・立体的に考察するとともに、現代社会を相対化して理解するための手がかりともしていく。

【到達目標】
法制史料を中心とした歴史史料の基本的な取り扱い方を学ぶ。史料から時代・地域ごとの特性を見出し、それぞれの社会背景をふまえた総合的な理解を通し、各自が信頼できる歴史像を構築するための基礎を固める。

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式だが、指名によって史料音読や解釈をしてもらう場合もある。また参加人数によっては、授業内で史料解釈に関わる小報告をしてもらうことも検討したい。授業では毎回、前回までの復習のための小テストを実施し、またリアクションペーパーも提出してもらう。春学期および秋学期の最終授業時には学期末試験を実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	史料と分析方法の基本
第２回	日本の法制史料（1）	律令法の前提
第３回	日本の法制史料（2）	律令法の時代
第４回	日本の法制史料（3）	律令の内容
第５回	日本の法制史料（4）	三代の格式編纂
第６回	日唐令比較の方法論（1）	中国法典の形成史
第７回	日唐令比較の方法論（2）	日本律令と中国律令
第８回	日唐の家族法（1）	婚姻（1）
第９回	日唐の家族法（2）	婚姻（2）
第 10 回	日唐の家族法（3）	婚姻（3）
第 11 回	日唐の家族法（4）	婚姻（4）
第 12 回	日唐の家族法（5）	家産（1）
第 13 回	日唐の家族法（6）	家産（2）
第 14 回	日唐の家族法（7）	家産（3）
第 15 回	授業内試験	春学期期末試験
第 16 回	日唐の良賤制（1）	五色の賤
第 17 回	日唐の良賤制（2）	日唐の賤民制の特質（1）
第 18 回	日唐の良賤制（3）	日唐の賤民制の特質（2）
第 19 回	喪葬と法制（1）	大化の薄葬令（1）
第 20 回	喪葬と法制（2）	大化の薄葬令（2）
第 21 回	喪葬と法制（3）	喪葬令の継受（1）
第 22 回	喪葬と法制（4）	喪葬令の継受（2）
第 23 回	喪葬と法制（5）	喪葬令の継受（3）
第 24 回	出土文字資料と葬制（1）	墓碑
第 25 回	出土文字資料と葬制（2）	墓誌
第 26 回	出土文字資料と葬制（3）	買地券
第 27 回	葬制の周辺（1）	殯儀礼
第 28 回	葬制の周辺（2）	服喪
第 29 回	まとめ	授業内容の総括
第 30 回	授業内試験	秋学期期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、次回講義に関連するプリントを配布するので、事前に目を通しておくこと。授業中に指名して、史料の音読や解釈をしてもらうこともある。授業は配布プリントと板書を中心に進めるので、プリントを読みなおして復習すること。

【テキスト（教科書）】
なし。プリントを配布する。

【参考書】
授業時に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %（春学期・秋学期の 2 回）
小テスト　20 %（毎時間実施）
提出カード　20 %（毎時間提出）
その他、授業中の発言・発表や提出カードの内容による加点あり

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
見やすい板書を心がけたい。本授業に関わる研究の新動向なども、積極的に取り入れていきたい。

LA268

自然史

島野　智之

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**金・4**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か．生命とは何か。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える．現実には，自然と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついている．東日本大震災で大きな津波被害を被った宮城県南三陸町を訪れ，実際に様々な調査，実習を通して，自然と私達の関係を見つめ直す．また，生物としての人間の生活も考える．

【到達目標】
命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ，論文集を作成する。

【授業の進め方と方法】
事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに南三陸町の現地に訪れ，4 泊 5 日での現地調査，あるいは実習，ディスカッション等をおこなう．再び，事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる．年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ，論文集を作成する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス，事前調査（1）	宮城県南三陸町で行うフィールドワークについて: パソコンの使い方: 調査の進め方
第 2 回	事前調査（2）	討議、調査，事前調査に基づく、発表準備
第 3 回	事前調査（3）	発表・討議
第 4 回	フィードワーク（1）（宮城県南三陸町）	東日本大震災前の南三陸町
第 5 回	フィードワーク（2）（宮城県南三陸町）	東日本大震災で南三陸町が被った被災状況（1）
第 6 回	フィードワーク（3）（宮城県南三陸町）	東日本大震災で南三陸町が被った被災状況（2）
第 7 回	フィードワーク（4）（宮城県南三陸町）	南三陸町の抱える問題（1）
第 8 回	フィードワーク（5）（宮城県南三陸町）	南三陸町の抱える問題（2）
第 9 回	フィードワーク（6）（宮城県南三陸町）	グループワーク（1）
第 10 回	フィードワーク（7）（宮城県南三陸町）	グループワーク（2）
第 11 回	フィードワーク（8）（宮城県南三陸町）	グループワーク（3）
第 12 回	フィードワーク（9）（宮城県南三陸町）	南三陸町の漁業と養殖：現地調査（1）
第 13 回	フィードワーク（10）（宮城県南三陸町）	南三陸町の漁業と養殖：現地調査（2）
第 14 回	フィードワーク（11）（宮城県南三陸町）	南三陸町の漁業と養殖：現地調査（3）
第 15 回	フィードワーク（12）（宮城県南三陸町）	南三陸町の漁業と養殖：現地調査（4）
第 16 回	フィードワーク（13）（宮城県南三陸町）	南三陸町の漁業と養殖：現地調査（5）
第 17 回	フィードワーク（14）（宮城県南三陸町）	調査班ごとに決めたテーマに基づいて現地調査（1）
第 18 回	フィードワーク（15）（宮城県南三陸町）	調査班ごとに決めたテーマに基づいて現地調査（2）
第 19 回	フィードワーク（16）（宮城県南三陸町）	林業：現地調査（1）
第 20 回	フィードワーク（17）（宮城県南三陸町）	林業：現地調査（2）
第 21 回	フィードワーク（18）（宮城県南三陸町）	南三陸町の産業のブランド化について調査・討議
第 22 回	フィードワーク（19）（宮城県南三陸町）	全体討議
第 23 回	フィードワーク（20）（宮城県南三陸町）	得られた情報の整理と発表資料作成（1）
第 24 回	フィードワーク（21）（宮城県南三陸町）	得られた情報の整理と発表資料作成（2）
第 25 回	フィードワーク（22）（宮城県南三陸町）	得られた情報の整理と発表資料作成（3）
第 26 回	フィードワーク（23）（宮城県南三陸町）	パソコンを用いた発表・討議

第 27 回	論文集の編集と印刷（1）	各自の研究成果の編集と印刷-1 ：現地調査の資料整理と，授業までに作成したレポートに基づく討議と修正
第 28 回	論文集の編集と印刷（2）	各自の研究成果の編集と印刷-2 ：発表
第 29 回	論文集の編集と印刷（3）	各自の研究成果の編集と印刷-3 ：論文完成に向けて修正
第 30 回	まとめ	１年間の授業のまとめと論文集の完成.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。
事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。
また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。
インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能です.

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】
必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回行う実験についてのレポートおよび授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を主たる評価とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
言われたことだけを行うのではなく，積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます．適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい.

【その他の重要事項】
現地調査のための，交通費宿泊代が必要です（約 45,000 円+東京-仙台間の交通費目安約 20,000 円+保険料）．ガイダンスに必ず出席して下さい.
受講希望者が定員（最大 20 名）を超えた場合には、選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。
授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。

JB240-716

福祉の思想と歴史Ⅰ (2013 年度以前入学生) ／福祉の思想と歴史 (2014 年度以降入学生)

白川　耕一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「ドイツ福祉国家の形成・展開・未来」
どの国にあっても、福祉制度の改革が焦眉の課題である。グローバル化、格差、少子高齢化、社会や家族の変容は、これまでの福祉制度の前提を大きく揺り動かしており、新たな展望が求められている。こうした現状を世界史的視野で考察し、将来への展望を切り開くために、ドイツの事例を検討したい。講義では、主に、ドイツ連邦共和国（西ドイツ）の動向が中心的に扱われるが、西ヨーロッパの福祉国家の動きにも触れたい。

【到達目標】
・（西）ドイツを事例に、ヨーロッパ福祉国家の発展を知る。
・現在の日本の状況を、世界史的視野で考察し、位置づける。

【授業の進め方と方法】
・口頭による説明と黒板書きによって講義を進める。適宜、資料プリントを配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要
2	福祉国家への道	19 世紀末の社会保険制度
3	世界大戦のインパクト	戦争と福祉国家形成との関係
4	ヴァイマル時代	1920 年代の福祉制度の発展
5	ナチ時代	1930 年代の福祉制度の変容
6	戦後の再建	福祉制度再建の問題点
7	アデナウアーの改革	1950 年代の社会保険改革
8	福祉国家の転換	社会民主党の政策
9	「新しい社会問題」	高齢者、障がい者の問題が浮上
10	1980 年代の福祉改革	コール政権の政策
11	外国人と福祉国家	1970 年代から 80 年代を中心に
12	統一後の状況	福祉改革の停滞
13	家族の変容と福祉国家	家族政策の転換
14	シュレーダー政権の社会保障改革	格差問題の発生
15	まとめ	将来の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に文献リストを適宜配布するので、講義のペースに合わせて文献を読むことが望ましい。法政大学多摩図書館の蔵書を積極的に利用してほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
小熊英二編『平成史』（河出書房新社　2012 年）
加藤榮一『資本主義と福祉国家』（ミネルヴァ書房　2006 年）
加藤榮一『福祉国家システム』（ミネルヴァ書房　2007 年）
近藤正基・西田慎編『現代ドイツ政治』（ミネルヴァ書房　2014 年）
川越修・辻英史編『社会国家を生きる』（法政大学出版局　2008 年）
新川敏光『福祉国家改革の理路』（ミネルヴァ書房　2014 年）
水島治郎『反転する福祉国家』（岩波書店　2012 年）
宮本太郎他編『社会保障と福祉国家のゆくえ』（ナカニシヤ出版　2012 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、学期末の筆記試験（70 %）で成績評価を決定する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書がシスティマテックではありませんが、板書は口頭による説明の補助という位置づけですので、ご理解ください。

AB236

法哲学Ⅰ

大野　達司

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法律学科科目の中で「文化・社会と法コース」の分野に属する科目である。
　法哲学Ⅰでは、法とは何かという問題を取り扱う法概念論と、正義論を中心として学ぶ。法哲学の基礎理論。

【到達目標】
法哲学の基本概念、考え方をいくつかの具体例に則して理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
法と道徳、法と習俗のような隣接する社会規範と対比し、法と強制、法と合意のような法の成り立ちや働きについての特徴がどこまで一般的に認められるかを検討し、より抽象的には法の妥当性の問題を通じて、法の概念を扱うのが法哲学の基本的問題群である。これらを、法思想のみならず社会思想と関連させながら、あまり抽象的にならないように扱いたい。
基本的に講義の形で進めるが、授業内外で質問の機会を作るほか、授業内で短い関連文献について、分担して受講者に紹介・報告をしてもらう。場合によっては、レポートでそれに代える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概観	法哲学の問題領域の紹介と相互の関連
第 2 回	法実証主義と自然法論 (1)	自然法論の概観と法実証主義による批判
第 3 回	法実証主義と自然法論 (2)	前回の続き
第 4 回	法実証主義の現代的展開	ケルゼンの純粋法学とハートの法実証主義
第 5 回	法実証主義批判	２０世紀初頭の法実証主義批判とハートの法の概念をめぐる論争
第 6 回	法と道徳 (1)	ラートブルフの転向にみる法と道徳の問題
第 7 回	法と道徳 (2)	ハート・フラー論争
第 8 回	自由とパターナリズム	ミルの自由論とパターナリズムの正当化可能性
第 9 回	リベラリズムの正義論	ロールズの正義論
第 10 回	リベラリズム批判	リバタリアンと共同体論
第 11 回	寛容論	アイデンティティと社会集団の関係
第 12 回	法化と合意	ハーバーマスを中心とした合意理論と社会の発展理論
第 13 回	法治国家の意義	現代社会における法の意義
第 14 回	法の妥当性をめぐる現代的展開	理論的な法の妥当性と社会的基盤との関係
第 15 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当箇所の予習

【テキスト（教科書）】
瀧川・宇佐美・大屋『法哲学』有斐閣、2014 年

【参考書】
参考文献、田中成明『現代法理学講義』など。

【成績評価の方法と基準】
基本的には期末試験を中心にして、「授業方法」で触れた課題を加味する。70 + 30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
資料の配付などをよりスムーズに行いたい。資料は当日配布の他、ダウンロード可能にする予定。

AB236

法哲学Ⅱ

大野　達司

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法律学科科目の中で「文化・社会と法コース」の分野に属する科目である。
　法哲学Ⅱでは、法哲学の応用問題を取り上げる。

【到達目標】
法哲学の各論的問題を扱う。法哲学Ⅰでの総論を前提にして、現代的諸問題に関する論争状況を概観する。

【授業の進め方と方法】
生命倫理やケアの問題、現代民主主義国家の特質、中間団体論など、個別的問題に関して法哲学の議論がどのようにアプローチしていくのか、見ていきたい。
基本的に講義の形で進めるが、授業内外で質問の機会を作るほか、適宜簡単なレポートを書いてもらう。
授業内でテーマにかかわる資料について、可能であれば分担して受講者に紹介・報告をしてもらう。場合によってはレポートで代える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体の概観	法哲学Ⅰとの関連で、「Ⅱ」の問題設定を説明する。
第 2 回	権利論の概要	権利の観念の発展と現代的展開
第 3 回	自然の権利	自然・動物などの権利論が提起する問題を見る。
第 4 回	市場原理と法	取引関係における法の役割とその限界
第 5 回	公共性・公共財	景観など公共財の性質と確保維持する手法
第 6 回	生命倫理と法 (1)	遺伝子技術をめぐる問題
第 7 回	生命倫理と法 (2)	代理母問題
第 8 回	租税の正義	税負担を正当化する根拠
第 9 回	教育と法	教育の意義と格差問題
第 10 回	プライバシー	プライバシーをもとに、個人や人格のありかを検討する。
第 11 回	監視社会・被害者救済	権力の作用と刑事裁判をめぐる新たな動きについて
第 12 回	法・裁判の限界	ADR などの新たな紛争解決の手法と、ケアの倫理など
第 13 回	中間団体と法	個人・国家の間に位置する集団の意義と、その役割の正当化について
第 14 回	法的議論の特質	政治的議論・経済的議論と対比し、法的議論の特質を見る。
第 15 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと資料の該当箇所の予習

【テキスト（教科書）】
瀧川・宇佐美・大屋『法哲学』有斐閣、2014 年

【参考書】
井上達夫編『現代法哲学講義』、田中成明『現代法理学講義』

【成績評価の方法と基準】
期末試験にレポート（報告）を加味する。70 + 30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
資料の配付をスムーズにするため、当日配布の他、ダウンロード可能にする予定。

AC237

公共哲学Ⅱ

名和田　是彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科の科目の中で、「理論・歴史・思想」系に属する科目です。「新しい公共」という政策用語もだいぶ下火になりましたが、それだけに「公共」概念を、短期的な政治的考慮に引きずられずに考えることができます。この「公共哲学Ⅱ」では、「公共」を理解する上で必須と思われる「市民社会」という概念について、その長い歴史を現代まで辿りながら、吟味し、現代における「公共」の問題とその歴史的位置を明らかにします。

【到達目標】
(1) アリストテレスに始まった「市民社会」概念が，(2) ヘーゲルにおいて転換し、(3) さらに福祉国家体制の成立とともに衰微し、(4) １９９０年代以降再び脚光を浴びる、この、大づかみにして 4 つの段階のそれぞれを理解すること、そして、この起伏に富んだ歴史の理解を通じて現代において「公共」の構造がどうなっているかを理解することが、到達目標です。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式ですが、受講者とともに考えるため、あるいは受講者の基礎知識の水準や知的ニーズを確認するため、受講者に問いかける形で進行することもあります。
各時代の「市民社会」や「公共」について語った文章を教材とすることが多いので、ほぼ毎回、授業支援システムを通じて事前に、資料を配布しますので、これを事前に読んでおくこと、講義中は講義の助けを借りて自ら考えること、事後は復習をすること、が求められます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	開講と問題の提示	この講義に関する全般的な説明をするほか、問題意識を共有するために、現代日本で「新しい公共」という考え方が脚光を浴びている現象を取り上げます。このことを通じて、「公共」を考えるときに、「市民社会」概念の理解が不可欠であることを確認します。
第２回	アリストテレスの「政治的共同体」論とその社会的基礎	アリストテレス『政治学』に示された、「オイコス」との対比における「政治的共同体」の概念を、その社会的背景とともに理解します。
第３回	古代ポリス社会における「公共」の構造	ユルゲン・ハーバーマスやハンナ・アレントの著作に拠りながら、古代ポリス社会における政治や公共の構造を理解します。
第４回	中近世の政治社会	政治社会がオイコスの集積によって成り立っている構造が存続する限り、政治社会とは区別された「市民社会」という社会領域は成立しないことを理解します。
第５回	市場経済と「市民社会」の成立	近代の政治・社会思想を概観しつつ、ヘーゲルにおいてはじめて、「国家」と区別される社会領域として「市民社会」が概念的に設定されたこと、その背景には近代市場経済社会とその科学的認識（国民経済学）があったこと、を理解します。
第６回	オイコス経済と市場経済	思想史をやや離れて、社会科学の基礎知識として、オイコス経済と市場経済の基本的構造の違いについて考え、理解を深めます。
第７回	ヘーゲルの社会哲学	はじめて「国家」と「市民社会」を分離したヘーゲルの考え方の具体的な中身を、『法の哲学』にそって検討します。
第８回	ヘーゲル以後	ヘーゲル以後、「国家」と「市民社会」の理論枠組が、一方ではマルクスに、他方では、ローレンツ・フォン・シュタインやグナイストなどの行政学に、受け継がれて展開していったことを検討します。
第９回	１９世紀ドイツ市民層と市民社会	国家と社会の分離という意識はしかし，ドイツ以外では明確には現れませんでした。このことの背景には、ドイツ市民層の特有な歴史的状況があったと考えられます。このことを明らかにしつつ、ローレンツ・フォン・シュタイン等の国家・社会論の位置づけについても考えます。
第 10 回	ワイマール民主主義とカール・シュミットの「全体国家」論	２０世紀福祉国家体制の下では、国家と市民社会の分離という意識は後景に退きます。このことは早くもワイマール民主主義のもとで現れました。これを発端として、戦後西ドイツの公法学の理論的論争をたどりながら、福祉国家体制と市民社会概念の関係を考えます。
第 11 回	ワイマール民主主義とゲルマニスト	ドイツにも、国家と市民社会の対立という考え方を認めない学派が存在しました。その言い分を検討しながら、「市民社会」意識の構造を検討します。
第 12 回	現代市民社会論の復興	１９８９年の社会主義崩壊以降、「市民社会」は突然世界的に復興してきました。その基本的様相をまずは整理します。
第 13 回	現代日本の市民社会意識	戦後日本思想における「市民社会」概念の扱いを振り返りつつ、現代日本の市民社会論議の特徴を探ります。
第 14 回	市民社会論議と展望	現代日本社会の底流にあると思われる市民社会意識を私なりに明らかにし、その展望を述べてみたいと思います。
第 15 回	総括	講義を振り返って補足するとともに、質問を受けます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回考える材料となる文章（思想を語った原著者の文章や、それを説明した文章）を示します。できるだけ事前に授業支援システムにアップしますので、これを前もって読んで自分なりに検討してみてください。また、これらは多くの場合難解な文章ですので、授業終了後私が説明したことや受講者が発言したり議論したりしたことを思い出しつつ、再度読み込んでみてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しません。

【参考書】
意欲のある受講者は、以下に掲げる文献を読んでみてください。（外国書の場合は、翻訳を示しました。品切れのものもありますが、図書館で見ることができます。）
アリストテレス『政治学』（岩波文庫）
カント『人倫の形而上学』（理想社または岩波書店）
ヘーゲル『法の哲学』（中央公論社『世界の名著』シリーズ）
ローレンツ・フォン・シュタイン『社会の概念と運動法則』（ミネルヴァ書房）
マンフレート・リーデル『市民社会の概念史』(以文社)
オットー・ブルンナー『ヨーロッパ その歴史と精神』(岩波書店)
マイケル・ウォルツァー編『グローバルな市民社会に向かって』(日本経済評論社)

【成績評価の方法と基準】
期末に筆記試験を行なうことを基本とします。
受講者の数によっては、受講者と相談の上、レポートその他の仕方で成績評価を行なうこともあり得ます。
はじめに述べた「市民社会」概念の歴史の 4 つの局面をそれぞれ理解すること、これを踏まえて現代の「市民社会」と「公共」のあり方について自分なりの考えを持つこと、を評価基準とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
難解な文章も懇切に説明すると理解できるように思います。

AC237

公共哲学 I

西村　清貴

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「理論・歴史・思想」の分野に属する科目である。
近年において「公共性」論や、公共性と密接に関連する「市民社会」論に対する注目が集まっている。これらの議論の背景に存在する哲学・思想を探求することは、公共哲学の重要な課題の一つである。公共哲学 I では、現代社会において、公共性や市民社会といった概念がいかなる意義を果たしているかを学ぶ。

【到達目標】
「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念、そして「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学において重要な諸概念について、現代における公共哲学の諸理論においてどのような意義が与えられているかを理解できること。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める。必要に応じてレジュメを配布することがある。また、授業内外で質問に答える機会を持ちたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第２回	公共性・市民社会の概念史	公共性や市民社会といった用語がいかなる歴史を持つかを簡単に見る
第３回	ハーバマスと公共哲学	現代の公共哲学において最も重要な知的源泉となっているユルゲン・ハーバマスの議論を見る
第４回	ハンナ・アレントと公共哲学	ハーバマスと並んで現代の公共哲学に大きな影響を与えているハンナ・アレントの議論を見る
第５回	リベラリズムの公共哲学 (1)	自由と正義を社会の基本原理として捉えるリベラリズムの思想をジョン・ロールズを中心に見る
第６回	リベラリズムの公共哲学 (2)	公共的理由という概念を中心にロールズの議論を見る
第７回	リバタリアニズムの公共哲学	リベラリズムにおける自由の要素をより徹底したリバタリアニズムの思想をロバート・ノージックを中心に見る
第８回	コミュニタリアニズムの公共哲学	リベラリズムの対抗思想たるコミュニタリアニズムの思想をマイケル・サンデルを中心に見る
第９回	民主主義と公共哲学	民主主義と公共性の関係について、熟議民主主義論を中心に見る
第 10 回	市場と公共哲学	市場と公共性の関係について見る
第 11 回	多文化社会と公共哲学	多文化社会状況において要求される寛容と公共性の関係について見る
第 12 回	憲法と公共哲学	近代立憲主義という思想が公共性論をどのように受け止めることができるかを見る
第 13 回	地域社会と公共性	地域社会を通じて生み出される公共性を見る
第 14 回	性と公共性	公／私二元論の最大の批判者であるフェミニズムの問題意識を見る
第 15 回	まとめ	講義全体を振り返り、質疑応答の機会を持ちたい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記に挙げる参考書に基づいて予習復習をすること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
山脇直司『公共哲学とは何か』(ちくま新書、2004 年)
山岡龍一／斉藤純一編『公共哲学』(放送大学教育振興会、2010 年)
平井亮輔編『正義―現代社会の公共哲学を求めて』(嵯峨野書院、2004 年)
桂木 隆夫『公共哲学とはなんだろう』(勁草書房、2005 年)

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記試験）により評価する (100 %)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義形式ではあるが、過度に一方的にならないように気をつけたいので、質疑応答の機会を設けた際は積極的に質問をしてもらいたい。

科学哲学１

平野　登士

授業コード：A2241
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の科学哲学における「実在論 v.s. 反実在論」の問題を、近代哲学の認識論的伝統に遡って哲学的に批判・考察します。その際、近代ヨーロッパ認識論と 20 世紀のアメリカ哲学を媒介する役割を担った重要な思想史的転換点としてプラグマティズム、中でもその創始者である Ch. S. パースを重点的に取り上げ、現代アメリカ哲学に対するその影響作用史を明らかにします。

【到達目標】
Th. クーンの『科学革命の構造』以降、現代アメリカを中心に展開された、いわゆる「科学哲学」と、近代ヨーロッパ認識論とが「言語論的転回」によって断絶しているとする従来の支配的見解を乗り越え、むしろ両者の連続性を再確認します。

【授業の進め方と方法】
通常の講義を基本としますが、各項目毎にディスカッション形式で積極的な発言を求め、理解度の確認をしながら講義を進めます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	近代認識論の成立
第 2 回	ロックとカント (1)	古典的経験論の限界と批判哲学
第 3 回	ロックとカント (2)	カント哲学が残したアポリア
第 4 回	カントからパースへ	『純粋理性批判』のパース的理解
第 5 回	パース (1)	パース哲学の基本構造－「習慣」
第 6 回	パース (2)	アブダクション－「発見の論理」
第 7 回	パース (3)	「実在」と「共同体」
第 8 回	パース (4)	デカルト批判－アメリカ哲学の独立宣言
第 9 回	パラダイム (1)	クーンの『科学革命の構造』とその影響作用史
第 10 回	パラダイム (2)	相対主義の諸問題・科学社会学的考察
第 11 回	現代の科学哲学 (1)	言語論的転回・解釈学
第 12 回	現代の科学哲学 (2)	観察言語の理論負荷性テーゼをめぐって
第 13 回	現代の科学哲学 (3)	「実在論」v.s.「反実在論」
第 14 回	ウィットゲンシュタイン	言語ゲームとその「外部」
第 15 回	試験（まとめを含む）	授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ヨーロッパ近代哲学史の基本的な理解が必須となります。とくに、カント・パースについてはかなり専門的な議論を紹介しますので、各テーマ毎に自分の理解を確認しながら授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
授業中適宜紹介・解説します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) 試験 (70%) で成績評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初年度のため判断材料がありません。

科学哲学２

松井　久

授業コード：A2242
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命科学における個体性概念を歴史的に分析、考察する。18 世紀半ば、ポリプと呼ばれる微小生物が発見された。この微小生物はいくら分割しても、機能が損なわれることなく、元の大きさに再生した。伝統的に個体は、ヒトやウマなど生き物全体がモデルとされ、分割不可能なもの、と定義されていた。このような概念では、ポリプ全体を個体と呼ぶべきなのか、それとも部分を個体と呼ぶべきなのか、決めることができない。この発見から考察を出発し、19 世紀、細胞理論、分業、環境、自然選択といった新しい理論の中で、個体性概念がどのように変化したのか、どのような哲学的問題を提起したかを明らかにする。

【到達目標】
個体性という具体的な問題を扱いながら、生命科学の哲学のさまざまな研究方法を習得し、生命科学と哲学の関係の考察を深める。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行うが、随時質問、要望を受けつけ、双方向的かつ自由な授業を目指す。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	概要。授業の進め方、評価の説明。
第 2 回	個体性の問題の現在（1）	ジャック・ウィルソンによる諸定義。
第 3 回	個体性の問題の現在（2）	ダーウィン進化論における論争。
第 4 回	個体性の問題の起源	伝統的に哲学ではどのようにこの問題が扱われてきたか？
第 5 回	ポリプの発見	ボネ、ブュフォンの考察
第 6 回	モンペリエのヴィタリストたち	ボルドゥー、ビシャの考察
第 7 回	カント	『判断力批判』における自然的目的性概念の分析
第 8 回	細胞理論	生命の単位を規定しようとする努力が、どのような個体性概念を提示するに至ったのか？ ヒイルヒョーの考察。
第 9 回	分業と個体性（1）	経済学の概念であった分業が生命科学に導入されてどのように個体性概念を変えたか？ ミルン・エドワーズの考察
第 10 回	分業と個体性（2）	ロイカルトとトーマス・ハクスリーの論争
第 11 回	環境と個体性（1）	環境が生命科学の理論に取り込まれるとともに、個体性概念はどのように変わったのか？ ラマルク、コントの考察
第 12 回	環境と個体性（2）	内的環境を提起したクロード・ベルナールの考察
第 13 回	自然選択と個体性（1）	ダーウィンの自然選択理論はどのような個体性概念を提起するのか？
第 14 回	自然選択と個体性（2）	自然選択の曖昧さ。ウォレスとの論争。ヴァイスマンの展開。
第 15 回	まとめ	全体のまとめとレポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考資料等を読みながら、質問を考える。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、資料を配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初年度につき、回答できない。

現代思想２（フランスの思想）１

鈴木　正道

授業コード：A2245
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
もともと「哲学」はあらゆることについて「考えること」を意味していました。自然科学や経済学、言語学などが専門分野として独立した後、哲学は特定の対象を持たずに、考えること、あるいは考えることについて考えることを行ってきました。こうした中で「現代思想」とは現在を考えることを目標として、様々な考え方を試みています。
デカルト、ルソー、ベルクソンなど、フランスは多くの思想家を近世まで育んできました。そして第 2 次大戦後には実存主義、構造主義、ポストモダニズムなど世界的な流行ともなった思想の発信地になりました。
この授業では、まだ「熱い」20 世紀後半（および 21 世紀）のフランス思想の潮流を概観し、その手立てをもとに現在私たちが直面する問題を考えていきます。科学に対する信頼、言論の自由と暴力など問題は尽きません。
一般に（無批判に）推奨（強要？）される「論理的に考える」、「自分の頭で考える」、「真理を追究する」ことなどを問い直すこと、「数字に直す」、「科学的に考える」とはどういうことかを批判的に考えることも試みます。

【到達目標】
　この授業の目標は、
①サルトルやメルロ＝ポンティなど実存主義、およびレヴィ＝ストロースなど構造主義に分類される思想家たちの考えを知ること
②彼らの考え方を出発点として、格差、介護、エコロジーなど我々が現在直面している問題を考えること
③他の人の思想の内容を理解して説明すること、自分の考えを表すこと、他の人と討論ができるようになることです。
このために「一般的な」小論文の書き方を身につけることも学びます。
この授業で学ぶことにより、出版やメディア、教育関係の仕事で必要な知識技能を身に着けることができます。

【授業の進め方と方法】
教員の講義が導入の糸口となりますが、学生の考察と議論がそれを継ぐ形で授業が進むことをめざします。希望があれば学生の発表も受け付けます。
扱う思想家について、配布資料をもとに概説します。また関連すると考えられる問題を提起して、考察、討論を行ないます。題材の例を「内容」の欄に掲げておきますが、これらに限るものではありません。時事的な状況において興味深い題材も随時上げる予定です。
春学期には世界という状況の中に生きる意識存在としての人間を探求した、いわゆる実存主義の思想家たち、およびその提起する倫理的な諸問題に関して直接、間接に反応した思想家たちを扱います。さらに実存主義に対する批判という形で誕生し、人間の営みの仕組みを、要素間の差異からなる構造として捉えることを提唱した構造主義に進む予定です。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明、 サルトル①	存在論 『嘔吐』、『存在と無』 ・そもそも哲学とは何を扱うのか。 哲学の重要性がフランスと日本でなぜこんなに違うのか
第 2 回	サルトル②	実存主義、自由 『存在と無』、『出口なし』 ・いわゆる自己責任について
第 3 回	サルトル③	マルクス主義：超えがたき思想 『弁証法理性批判』 ・資本主義の行方
第 4 回	メルロ＝ポンティ①	知覚論 『知覚の現象学』 ・個人の感覚は自然科学で説明できるか
第 5 回	メルロ＝ポンティ②	マルクス主義：支持と懐疑 『シーニュ』、『弁証法の冒険』 ・再び資本主義の行方
第 6 回	メルロ＝ポンティ③	他者との交感 『見えるものと見えないもの』 ・「共感」ということ、「自立」ということ
第 7 回	カミュ①	不条理と反抗 『異邦人』 ・「解決」できない問題はどうするか
第 8 回	カミュ②	革命と反抗 正義とは 『反抗的人間』 『転落』 ・「変えようとする」こと「変わろうとする」ことは常に正しいか ・裁判員制度について
第 9 回	レヴィナス①	「顔」と「隣人」 『全体性と無現』 ・「やってはいけないこと」は「論証」できるのか
第 10 回	レヴィナス②	「ある」という耐え難きもの 『存在するとは別の仕方で』 ・説明できない「苦しさ」はどうしたらよいのか
第 11 回	レヴィ＝ストロース①	構造主義 『構造人類学』、『悲しき熱帯』 ・社会を「科学的に」とらえるとはどういうことか
第 12 回	レヴィ＝ストロース②	人類学 『野生の思考』 ・事実をとらえる、名をつけるとはどういうことか
第 13 回	レヴィ＝ストロース③	文化 『野生の思考』 ・我々の社会における「トーテム」は何か
第 14 回	バルト①	記号学、エクリチュール 『零度のエクリチュール』、『モードの体系』 ・記号の規則を決めるのは誰か
第 15 回	バルト②	物語の構造分析 テクストの科学からテクストという非科学へ 『S／Z』 ・文章を「科学的に」分析するとはどういうことか、そのことに何の意義があるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：実存主義について調べる；第 2 回：自由とは何かについて考える；第 3 回：マルクス主義について調べる；第 4 回：知覚論について調べる；第 5 回：マルクス主義について考える；第 6 回：自己と他者について考える；第 7 回：「不条理」とは何かについて考える；第 8 回：「革命」と「反抗」について考える；第 9 回：「他者」とは何かについて考える；第 10 回：「名づけ得ないもの」について考える；第 11 回：構造主義について調べる；第 12 回：人類学について調べる；第 13 回：文化相対主義について考える；第 14 回：記号学について調べる；第 15 回：「論理的文章」とは何かについて考える

【テキスト（教科書）】
　プリントを配ります。

【参考書】
久米博　著『現代フランス哲学』（新曜社、￥2400）：扱う思想家を絞って、比較的詳しく論じた著作。
小阪修平　著『図解雑学・現代思想』（ナツメ社、￥1400）：比較的多くの思想家を扱った概説書。
岡本裕一朗　著『フランス現代思想史―構造主義からデリダ以降へ』（中公新書、￥880+税）
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A
　以上は参考図書なので無理に買う必要はありません。また他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　学期末提出の小論文（希望者は、授業内発表で小論文の代わりとすることもできます）を主なる材料とします（90 %から 95 %）。問題系を打ち出し、それについて考えを練り、分かりやすく述べて、暫定的にせよ、結論を出しているかが重要です。授業に対する参加状況（発言や質問の積極性）をも考慮に入れて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　話が抽象的すぎるというご意見をいただきました。
できるだけ具体的な例に結び付けようと心がけていますが、もとが抽象的な文だとどうしても抽象的な議論を避けることはできないのが実情です。あるいは私自身よくわかっていない部分があり、それが抽象的だという印象を与えているのかもしれません。いずれにせよさらに具体的な例を引くよう努めます。

現代思想２（フランスの思想）２

鈴木　正道

授業コード：A2246
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
もともと「哲学」はあらゆることについて「考えること」を意味していました。自然科学や経済学、言語学などが専門分野として独立した後、哲学は特定の対象を持たずに、考えること、あるいは考えることについて考えることを行ってきました。こうした中で「現代思想」とは現在を考えることを目標として、様々な考え方を試みています。
デカルト、ルソー、ベルクソンなど、フランスは多くの思想家を近世まで育んできました。そして第 2 次大戦後には実存主義、構造主義、ポストモダニズムなど世界的な流行ともなった思想の発信地になりました。
この授業では、まだ「熱い」20 世紀後半、および 21 世紀のフランス思想の潮流を概観し、その手立てをもとに現在私たちが直面する問題を考えていきます。科学に対する信頼、言論の自由と暴力など問題は尽きません。
一般に（無批判に）推奨（強要？）される「論理的に考える」、「自分の頭で考える」、「真理を追究する」ことなどを問い直すこと、「数字に直す」、「科学的に考える」とはどういうことかを批判的に考えることも試みます。

【到達目標】
この授業の目標は、
①ラカン、クリステヴァ、フーコーなど構造主義を応用し発展させた思想家や、デリダやドゥールーズ、ガタリなどポストモダンに分類される思想家たちの考えを知ること
②彼らの考え方を出発点として、我々が現在直面している問題を考えること
③他の人の思想の内容を理解して説明すること、自分の考えを表すこと、他の人と討論ができるようになることです。
このために「一般的な」小論文の書き方を身につけることも学びます。
またこの授業で学ぶことにより、出版やメディア、教育などの分野で働くうえで必要な知識技能を身に着けることができます。

【授業の進め方と方法】
教員の講義が導入の糸口となりますが、学生の考察と議論がそれを継ぐ形で授業が進むことをめざします。希望があれば学生の発表も受け付けます。
扱う思想家について、配布資料をもとに概説します。また関連すると考えられる現代の問題を提起して、考察、討論を行ないます。題材の例を「内容」の欄に掲げておきますが、これらに限るものではありません。時事的な状況において興味深い題材も随時上げる予定です。
秋学期には、構造主義から出発して、精神分析、テクスト分析、社会に関する考察において自らの思想を組み立てた思想家たちを扱います。その上で理性的主体による真理追究という西欧哲学の伝統をゆさぶったポストモダンと称される思想家たちを扱い、世界認識の方法の問い直しという問題を考える予定です。さらにはポスト・モダンに対する批判、その後の展開、現在の状況についても学びます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明、ラカン①	精神分析:フロイトからラカンまで 『エクリ』 ・「心」は解明できるか
第 2 回	ラカン②	鏡像段階 『エクリ』 『セミナー』 ・精神分析は科学か？
第 3 回	ラカン③	想像界、象徴界、現実界 『セミナー』 ・ラカンの述べていることは医学か（形而上的）思想か？
第 4 回	クリステヴァ①	記号分析、フェノテクストとジェノテクスト 『セメイオチケ』 ・「科学」を用いた比喩は正当か？
第 5 回	クリステヴァ②	相互テクスト性、 『セメイオチケ』 ・著作権を守ることはできるのか？
第 6 回	クリステヴァ③	セミオティック（原記号態）とサンボリック（象徴記号態） 『詩的言語の革命』、『恐怖の権力』、『言語、この未知なるもの』 ・言語以前は解明できるか
第 7 回	フーコー①	精神医学 『狂気の歴史』 ・「精神医学」は「科学」か
第 8 回	フーコー②	知の枠組み：エピステーメ 『言葉と物』 ・「人文科学」は「科学」か？ 「自然科学」は「科学的」か？
第 9 回	フーコー③	権力 『監獄の誕生』、『性の歴史』 ・権力とは「お上」のことか？
第 10 回	ドゥルーズとガタリ①	ドゥルーズ： 否定でなく肯定すること 『差異と反復』、『意味の論理学』 ・「論理的」であることはいいことか、そもそも可能か？
第 11 回	ドゥルーズとガタリ②	ガタリ： 『精神分析と横断性』、『分子革命』、『三つのエコロジー』 ・エコロジーは左翼的思想か？
第 12 回	ドゥルーズとガタリ③	パラノとスキゾ、定住民と遊牧民、属領と脱属領 『アンチ・オイディプス』、『千のプラトー』 ・精神分析とマルクス主義は「有効」か ・「つながること」は素晴らしい？
第 13 回	デリダ①	エクリチュール、差延、代補、脱構築 『エクリチュールと差異』『グラマトロジーについて』 ・会話が先か、読み書きが先か。 ・「元」とはだれが決める？
第 14 回	デリダ②	脱構築、正義、アイデンティティ 『法の力』『歓待について』 ・「受け入れること」はどこまで可能か、どこまで義務なのか？
第 15 回	ポストモダン以後：ポスト・モダンを超えて？	サイエンス・ウォーズ： ・ポストモダンはペテンか？ 認識論の問題 エコロジーと資本主義： ゴルツ、ガタリ、ピケティ ・変わることはいいことか？ 成長は絶対必要か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：フロイトの（に関する）本を読む; 第 2 回：ラカンの鏡像段階に関して調べる; 第 3 回：ラカンの象徴界と想像界に関して調べる; 第 4 回：クリステヴァの思想を概観した本を読む; 第 5 回：著作権について考える; 第 6 回：数学と芸術の関係について考える; 第 7 回：フーコーの思想の概説書を読む; 第 8 回：「事実」とは何かを考える；第 9 回：巷に溢れた「権力論」を批判的に問い直す；第 10 回：ドゥルーズとガタリの思想の概説書を読む；第 11 回：「個」と「統制」について考える；第 12 回：階層型組織と網状連絡について考える；第 13 回：デリダの思想の概説書を読む；第 14 回：音と書について考える；第 15 回：正義と暴力について考える

【テキスト（教科書）】
プリントを配ります。

【参考書】
久米博　著『現代フランス哲学』（新曜社、￥2400）：扱う思想家を絞って、比較的詳しく論じた著作。
小阪修平　著『図解雑学・現代思想』（ナツメ社、￥1400）：比較的多くの思想家を扱った概説書。
岡本裕一朗　著『フランス現代思想史―構造主義からデリダ以降へ』（中公新書、￥880+税）
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A
以上は参考図書なので無理に買う必要はありません。また他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末提出の小論文（希望者は、授業内発表で小論文の代わりとすることもできます）を主なる材料とします（90 %から 95 %）。問題系を打ち出し、それについて考えを練り、分かりやすく述べて、暫定的にせよ、結論を出しているかが重要です。授業に対する参加状況（発言や質問の積極性）をも考慮に入れて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
話が抽象的すぎるというご意見をいただきました。
できるだけ具体的な例に結び付けようと心がけていますが、もとが抽象的な文だとどうしても抽象的な議論を避けることはできないのが実情です。あるいは私自身よくわかっていない部分があり、それが抽象的だという印象を与えているのかもしれません。いずれにせよさらに具体的な例を引くよう努めます。

宗教学１（伝統宗教）１

杉本　隆司

授業コード：A2251
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
21 世紀にはいり、西欧世界とイスラム世界に象徴されるように、宗教的価値観の摩擦や政治的な世俗化の問題に注目が集まっています。昨年は世界各地で宗教的価値をめぐる暴力が現実のものとなり、私たちにも無関係な問題ではなくなりつつあります。この授業では現代の諸問題を読み解く上で欠かせないテーマである「他者の信仰」を、異教問題の歴史として検討します。

【到達目標】
世界にはキリスト教、イスラム教、仏教といった世界三大宗教はじめとして多様な宗教があります。しかしこれらをすべて「宗教」Religion という同じカテゴリーに含むような意識が西欧世界で認知されたのは、せいぜいここ２世紀のことにすぎません。この授業ではキリスト教の成立から新大陸の「発見」までを歴史的に概観し、「宗教」概念が決して普遍的なものではなく、歴史性や論争的な性格を抱えつつ成立してきた流れを具体的に理解することを目指します。

【授業の進め方と方法】
中世までもっぱらユダヤ・キリスト教だけが本当の「宗教」で、それ以外の信仰は「異教」扱いでした。「異教」概念は、それを規定する側がなにがしかの「真の宗教」を前提としている点で排除の論理が働きます。しかし近世以降この前提は「異教」との接触によりいくつかの点から揺らぎ始めます。１．古代異教の復活（ルネサンス）。２．カトリック＝異教論の登場（宗教改革）。３．新大陸の異教との遭遇（大航海時代）。おもに西洋が経験したこの３つのテーマを中心に排除の論理と「他者の信仰」との関係について、毎回資料を配りながら進めていく予定です（授業計画参照）。
なお、この授業は秋学期の「宗教学１（伝統宗教）２」と連動しているので、秋学期授業の履修を考えている学生は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマ
第 2 回	「他者の信仰」と現代（1）	宗教間摩擦の現在
第 3 回	「他者の信仰」と現代（2）	世俗化論と「宗教」概念の再考
第 4 回	ユダヤ＝キリスト教史（1）	ユダヤ教と旧約聖書
第 5 回	ユダヤ＝キリスト教史（2）	民族宗教から世界宗教へ
第 6 回	中世キリスト教（1）	異教概念の成立
第 7 回	中世キリスト教（2）	教父の偶像崇拝批判
第 8 回	宗教改革と異教批判（1）	宗教改革の歴史
第 9 回	宗教改革と異教批判（2）	異教＝教皇制批判
第 10 回	宗教改革と異教批判（3）	ウェーバーの脱魔術化論
第 11 回	宗教改革と異教批判（4）	悪魔学の盛衰
第 12 回	新大陸と魂の征服（1）	大航海時代と野生宗教の遭遇
第 13 回	新大陸と魂の征服（2）	キリスト教普遍史の揺らぎ
第 14 回	新大陸と魂の征服（3）	ラス・カサスの異教弁護論
第 15 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業の参考文献・新聞記事を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回プリント配布。

【参考書】
ジル・ケペル『宗教の復讐』晶文社、1992 年
ハルバータル、マルガリート共著『偶像崇拝―その禁止のメカニズム』法政大学出版局、2007 年
木崎喜代治『信仰の運命―フランス・プロテスタントの歴史』岩波書店、1997 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】
出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。期末試験では授業で扱われた内容に加えて自分の考えを説得的に論じているかを考慮する。２つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

宗教学１（伝統宗教）２

杉本　隆司

授業コード：A2252
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「宗教」批判の歴史的諸相の検討。春学期の授業に引き続き、「他者の信仰」や宗教寛容論等の現代的諸問題を異教問題として歴史的に捉え直します。秋学期では世俗権力と教会権力の政治力学も視野に入れながらルネサンスから啓蒙思想を経由して１９世紀の宗教学の成立までを概観します。

【到達目標】
宗教学の誕生は、通常 19 世紀のキリスト教神学から宗教学（科学）への転換によって特徴づけられます。これは、中世までのように「宗教」が自明なものではなく、近代社会のなかで解決すべき一つの「問題」（クリティックの対象）として現れたという認識の転換でもあります。この授業ではおもに思想家たちの異教への視線や文明観を通して、宗教学の形成をキリスト教の相対化という長期的な視点から把握することを目指します。

【授業の進め方と方法】
春学期の授業では宗教の基本知識とキリスト教の成立から大航海時代までを扱い、聖書に基づく教父や神学者の異教批判を見てきました。しかし１７世紀以降、異教問題は世俗の思想家や哲学者の宗教（不）寛容論へとその文脈を移動し、「宗教」批判の諸相として西欧思想の中心テーマの一つになります。この授業では、「他者の信仰」の問題を主に近代思想史の文脈から読み直し、１９世紀に成立する宗教学や社会学がいかなる思想的背景から誕生したのかを思想家のテキストを通じて具体的に検討します（授業計画参照）。
なお、この授業は春学期の「宗教学１（伝統宗教）１」と連動しているので、本授業の履修を考えている学生は春学期授業と合わせて履修することが望ましい。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期授業への導入
第 2 回	ルネサンスとユマニスム（1）	モアのユートピア宗教
第 3 回	ルネサンスとユマニスム（2）	ネオ・プラトン主義と合理主義神学
第 4 回	理神論と自然宗教（1）	「異教徒の救い」とデカルト周辺
第 5 回	理神論と自然宗教（2）	スピノザの汎神論
第 6 回	理神論と自然宗教（3）	ロックの生得観念批判
第 7 回	啓蒙思想と宗教批判（1）	フランス啓蒙の自然宗教論
第 8 回	啓蒙思想と宗教批判（2）	ヒューム「宗教の自然史」
第 9 回	啓蒙思想と宗教批判（3）	ド・ブロスのフェティシズム論
第 10 回	仏革命とロマン主義（1）	革命宗教と非キリスト教化運動
第 11 回	仏革命とロマン主義（2）	ドイツ・ロマン主義の宗教感情論
第 12 回	実証主義と人間の宗教（1）	フォイエルバッハの人間学とコントの社会学
第 13 回	実証主義と人間の宗教（2）	デュルケムと宗教学の制度化
第 14 回	実証主義と人間の宗教（3）	神秘主義宗教論と実証主義批判
第 15 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業の参考文献を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回プリント配布。

【参考書】
ハンス・キッペンベルク『宗教史の発見―宗教学と近代』岩波書店、2005 年
伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学』勁草書房、2010 年
宇野重規ほか『共和国か宗教か、それとも』白水社、2015 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】
出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。秋学期試験では授業で扱われた内容に加えて自分の考えを説得的に論じているかを考慮する。２つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

環境と倫理（1）

相原　博

授業コード：A3817
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、環境倫理学というテーマで行います。環境倫理学は、環境問題の発生にともない 20 世紀後半に成立した学問です。この環境倫理学は、人間による自然破壊および環境汚染をめぐる諸問題を扱います。
この授業では、環境倫理学の諸理論の検討をとおして、私たちが 21 世紀にどのように生きるべきかについて学びます。環境倫理学は、人間が環境に対してどのように関係すべきか、この「あるべき」関係について研究する学問です。もともとこの学問は、人間の利益だけを考えて自然を支配する態度が環境問題を生み出したとして、人間を中心に据える自然利用の在り方を批判してきました。もっとも現在では、多種多様な環境問題の発生とともに、環境倫理学にも新たな展開がみられるようになっています。
春学期の授業では、人間と家畜やペットとの関係、そして生物多様性の保護の問題について議論する予定です。これらの議論をとおして、環境問題にかんする理解を深め、有限な地球環境にふさわしい人間の生き方について学びます。

【到達目標】
環境問題の現状を理解し、その問題を解決するためにどのように行為すればよいのか、判断できることを目標とします。また環境倫理学の諸理論を学び、倫理学的な思考の基礎を身につけることも目標になります。

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。またグループディスカッションを行うため、授業では自分自身で考え、発言できることが必要になります。さらに今年度は自然観察会など、体験型実習を行う予定です。受講生は秋学期も引き続き受講することを勧めます。なお受講生を選抜する可能性があるので、初回の授業には必ず出席すること。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の概要と方法、成績評価の基準などの説明
第 2 回	倫理学の基礎	倫理学とは何か
第 3 回	環境倫理学の基礎	環境倫理学とは何か
第 4 回	環境倫理学の歴史	環境倫理学はどのような議論を展開してきたのか
第 5 回	グループディスカッション (1)	家畜やペットの扱いについて受講生と議論してみよう
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ、動物解放論	人間は家畜やペットとどのように関係すべきか
第 7 回	動物の権利論	動物には権利があるのか
第 8 回	自然観察会（体験型実習）	都会の自然を観察する（詳細は初回の授業で説明）
第 9 回	動物解放論への批判、生命への畏敬	個々の動物を保護するだけでいいのか
第 10 回	自然への畏敬の念	人間が他の生物を殺して食べることをどう考えるか
第 11 回	グループディスカッション (2)	生物多様性の保護について受講生と議論してみよう
第 12 回	グループディスカッション (2) のまとめ、土地倫理	なぜ生物多様性を保護しなければならないのか
第 13 回	ディープ・エコロジー	地球環境と個々の人間との関係をどのように考えるべきか
第 14 回	持続可能性	持続可能な社会の条件とは何か
第 15 回	総括	授業の総括と残された課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境問題に自ら関心をもち、関連する参考書等を読んでおく必要があります。またグループディスカッションの前には、授業外で行うべき課題を指示します。なお課題を行わない受講者には、ディスカッションへの参加を認めません。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】
環境倫理学の学習にとって、以下の書籍は重要です。
加藤尚武編『環境と倫理　新版』、有斐閣アルマ、2005 年
加藤尚武『環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、1991 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、2005 年
鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』、ちくま新書、1996 年
なお個別的なテーマについては、必要に応じて参考書を授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度および授業後の小レポート 40 %、学期末試験 60 %を総合的に考慮して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。

環境と倫理（2）

相原　博

授業コード：A3818
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、環境倫理学というテーマで行います。環境倫理学は、環境問題の発生にともない 20 世紀後半に成立した学問です。この環境倫理学は、人間による自然破壊および環境汚染をめぐる諸問題を扱います。
この授業では、環境倫理学の諸理論の検討をとおして、私たちが 21 世紀にどのように生きるべきかについて学びます。環境倫理学は、人間が環境に対してどのように関係すべきか、この「あるべき」関係について研究する学問です。もともとこの学問は、人間の利益だけを考えて自然を支配する態度が環境問題を生み出したとして、人間を中心に据える自然利用の在り方を批判してきました。もっとも現在では、多種多様な環境問題の発生とともに、環境倫理学にも新たな展開がみられるようになっています。
秋学期の授業では、途上国への廃棄物輸出の問題、そして原子力発電の問題について議論する予定です。これらの議論をとおして、環境問題にかんする理解を深め、有限な地球環境にふさわしい人間の生き方について学びます。

【到達目標】
環境問題の現状を理解し、その問題を解決するためにどのように行為すればよいのか、判断できることを目標とします。また環境倫理学の諸理論を学び、倫理学的な思考の基礎を身につけることも目標になります。

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。またグループディスカッションを行うため、授業では自分自身で考え、発言できることが必要になります。さらに今年度は自然観察会など、体験型実習を行う予定です。なお秋学期からの新規受講生については、レポートの提出を課題とします。初回の授業には必ず出席すること。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の概要と方法、成績評価の基準などの説明
第 2 回	環境倫理学の基礎	環境倫理学とは何か
第 3 回	保存と保全	人間はなぜ自然を保護すべきなのか
第 4 回	近年の環境倫理学、環境プラグマティズム	近年の環境倫理学はどのような議論を展開しているのか
第 5 回	グループディスカッション (1)	廃棄物の輸出について受講生と議論してみよう
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ、環境正義論	廃棄物の輸出は正義にかなっているだろうか
第 7 回	里山の環境倫理	日本の自然を守るためにどのような考え方が必要か
第 8 回	自然観察会（体験型実習）	都会の自然を観察する（詳細は初回の授業で説明）
第 9 回	社会的リンク論	生活と生業の立場から環境問題を考えるとどうなるか
第 10 回	公害と環境問題	水俣病はなぜ起こったのか
第 11 回	グループディスカッション (2)	原子力発電や放射能汚染の問題について受講生と議論してみよう
第 12 回	グループディスカッション (2) のまとめ、未来世代への責任	これから生まれてくる未来の人間のことをどう考えるべきか
第 13 回	現代社会と無痛文明論	大量消費社会のなかでよく生きるためにはどうすればよいのか
第 14 回	環境と平和	戦争は環境にどのような影響を与えるのか
第 15 回	総括	授業の総括と残された課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境問題に自ら関心をもち、関連する参考書等を読んでおく必要があります。またグループディスカッションの前には、授業外で行うべき課題を指示します。なお課題を行わない受講者には、ディスカッションへの参加を認めません。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】
環境倫理学の学習にとって、以下の書籍は重要です。
加藤尚武編『環境と倫理　新版』、有斐閣アルマ、2005 年
加藤尚武『環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、1991 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、2005 年
鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』、ちくま新書、1996 年
なお個別的なテーマについては、必要に応じて参考書を授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度および授業後の小レポート 40 %、学期末試験 60 %を総合的に考慮して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。

哲学特講（7）－1

牧野　英二

授業コード：A2224
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の概要と目的は、グローバル化が進行する現代社会に求められている「持続可能な哲学」の特徴、意義、そして課題を学ぶことにあります。本講義では、持続可能な哲学の課題に取り組んできた哲学者、特に 18 世紀以降、現代までの哲学者・思想家による「持続可能性」の概念の把握を手掛かりにして、21 世紀の「持続可能な社会」の理解や「持続可能性のパラドクス」と同時に、現代の「持続可能性」の哲学の今日的意義及び課題について学びます。

【到達目標】
学生は、日常生活と密接に結びついた「持続可能性」の概念の由来や意義とともに、その哲学的課題と今日的意義について、正確に説明できるようにする。また受講生は、日本語の持続可能性と原語とのずれにも留意して、哲学史上の具体的な事例を挙げて示すことができるようにする。さらに学生は、本講義に関連する重要な概念や語句を分類し、それらを対比して、「持続可能な社会」と哲学の「持続可能性」をめぐる諸見解を比較検討し、理解できるようにする。

【授業の進め方と方法】
この授業では、第一に、問題提起型授業方法により、いまなぜ持続可能性や持続可能な社会をめぐる諸問題と「持続可能性の哲学」を学ぶことが重要かを明らかにします。この授業では、第二に、双方向型授業を導入して、現代社会の実態や現代の思想的動向との関係から「持続可能性の哲学」の具体的な課題に立ち入り、問題解決型の学習方法も学びます。第三に、適宜、リアクションペーパーの提出とその活用により、国内外の研究状況と評価について学生の疑問や評価を紹介し、その現代的な意義や課題について考察します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	持続可能性の概念の由来と多義性について	日本と西洋における持続可能性の把握の共通点と相違点の概観
第 2 回	持続可能な社会の課題	持続可能な社会の実現の可能性と条件
第 3 回	持続可能な哲学の課題	持続可能な哲学の実現の可能性と条件
第 4 回	持続可能性の哲学の二つの可能性	日本における持続可能な哲学への道
第 5 回	持続可能な社会における善き生の在り方	持続可能な社会と生の二義性
第 6 回	生の哲学と生の地平	生の哲学及び生の地平の諸相
第 7 回	持続可能な社会における言語の機能	持続可能な社会に働く言語の役割
第 8 回	持続可能性の哲学の新たな構想	持続可能性の哲学の射程
第 9 回	グローバル・エシックスと税の正義	持続可能な社会の実現に必要な税の正義の考察
第 10 回	グローバルな正義とリージョナルな正義の間	グローバルな観点及びリージョナルな観点から見た正義の在り方
第 11 回	持続可能性の哲学と世界市民主義	持続可能な社会における世界市民主義的立場の意義
第 12 回	ポストコロニアルな情況と理性の機能	ポストコロニアルな状況下における理性の二つの機能の考察
第 13 回	持続可能な社会における対話の可能性	持続可能な社会の実現に不可欠な対立の解決方法
第 14 回	持続可能な社会における小さな物語の意義	持続可能な社会に望ましい弱者・少数者の物語
第 15 回	持続可能な社会と持続可能性の哲学の役割	持続可能性の哲学的研究から今学ぶべき事

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、受講生は、次回の主要なテーマにかんする主要な概念・キーワードの予習的準備をする。授業終了後は、そのつど学んだ講義内容や基本コンセプトを復習する意味で、整理・要約する作業を行う。毎週、学習目的の達成度を確認するために課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
『「持続可能性の哲学」への道』（牧野英二著、法政大学出版局、2013 年、3800 円）。なお、授業に必要なテキスト及び不可欠の資料は、担当教員が準備する。

【参考書】
舩橋・長谷部編『持続可能性の危機』（御茶の水書房、2012 年）他に関連の参考書は、膨大な量になるので、必要に応じて適宜、文献を紹介し、コピー資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポート（14 回 ×5 点＝ 70 点）と、最終回の課題レポートの提出（30 点）との総合的評価（合計 100 点満点、合格は 60 点以上）を行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本講義では、毎回、授業中にアンケートまたは質問用紙を配布して、質疑応答などによる双方向的な授業を行って、その時間内での授業の学習目標の達成度・理解度を確認し、当初の学習目標を達成する。

【その他の重要事項】
授業時間外の受講生の質問にも対応できるよう、オフィスアワーを毎週月曜日午後３時から１時間、個人研究室で対応する。

GA331

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村　英登

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】

＊中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯
＊中国古典を現代語訳で読むときの注意点
＊中国古典の背景となる当時の社会環境
以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『論語』の秘密	現在語られているような“道徳”的ではない『論語』の内容を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いを行います。
7	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
8	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
11	『荘子』と神話	荘子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
12	『荘子』の哲学	荘子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
13	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
14	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
15	まとめ	これまでの授業内容を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらいます。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。
『老子・荘子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。
『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。
『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（60 %）。
期末試験（40 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

GA333

宗教社会論Ⅱ (キリスト教と社会運動)

佐々木　一恵

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**キリスト教思想**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業では社会思想史・社会運動史の立場から、１９世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）をどのように捉えたのか、そして新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかについて議論していきます。

【到達目標】
１．近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
２．宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
３．キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【授業の進め方と方法】
・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、A4 一枚程度のリアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19 世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	キリスト教社会主義の思想と実践	19 世紀初頭から半ばにかけて、キリスト教の立場から、産業資本主義の発達に伴う諸矛盾を解決しようとしたキリスト教社会主義の運動について議論する。
5	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19 世紀半ばから 20 世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
6	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
7	社会的福音運動とリベラル神学	19 世紀末から 20 世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920 年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
8	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
9	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
10	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19 世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
11	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
12	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
13	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
14	期末試験（1）	論述試験（持ち込み可）
15	期末試験（2）	記述・論述試験（持ち込み不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の復習をしっかり行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストはとくに使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995 年。
田村秀夫『千年王国論―イギリス革命思想の源流』研究社、2000 年。
森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006 年。
グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000 年。
土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004 年。
アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】
1. リアクションペーパー（２０％）
2. 期末試験（８０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
史料分析の文書を、もう少し少しわかりやすいものにします。

GA214

宗教社会論Ⅲ (イスラーム思想)

江村　裕文

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**イスラーム思想**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このところアラビアおよびイスラームへの関心が急速に高まってきている。だが、一言でアラビアといっても、その内容はそう簡単ではない。ましてやイスラームとなると、さらに複雑である。第一に、アラブは三千年にわたる古い歴史を持ち、古典アラビア文化の華を咲かせた時期があり、それらは西欧文明の一部をさえなしている。第二に、今日のアラビア世界は純粋なアラビア民族ばかりでなく、政治的にアラブと呼ばれるにすぎない民族をも包含している。アラブあるいはアラビアという呼称は時代的にも地域的にも、かなり広い範囲にわたって使われるようになっている。イスラームはアラブのもとで生まれたが、アラビアの領域外に拡大し、今日ではきわめて多数の非アラビア民族のもとで活力を保っている。

本講では、イスラームを、宗教面と世界史の流れから概観したいと考えている。

【到達目標】

アラビアないしイスラームについて基本的な知識を得ること。

【授業の進め方と方法】

テキストを使用する。受講者にテキスト内容を報告してもらい、その内容について質問を受けたり、補足のコメントを加えたりして、「イスラーム」全般を取り扱う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション・アラビアの国々	授業の進め方の解説、アラビア諸国の紹介
②	イスラームの発見へ・報告箇所の割当	イスラームに関する一般的な紹介、報告箇所の割当
③	「宗教」とは	イスラームに限らず一般的に「宗教」をどうとらえるか紹介
④	イスラームの誕生	テキストの該当箇所の報告と解説（以下同様）
⑤	経典と教義 I	クルアーンの紹介と教義の概要
⑥	経典と教義 II	クルアーンの紹介と教義の概要
⑦	共同体と社会生活	ウンマの成立とイスラーム社会について
⑧	ハディース	預言者ムハンマドの言行録について
⑨	知識の担い手と国家	ウラマーの位置づけについて
⑩	神を求める道	神秘主義と正統神学について
⑪	スンナ派とシーア派	はじまりと教義上の違いについて
⑫	黄金期のイスラーム世界	イスラーム文化について
⑬	現代世界とイスラーム	現代のイスラーム世界と他の、特に西欧世界の諸問題について
⑭	まとめ	まとめ
⑮	試験あるいはレポート提出	試験あるいはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料を参考にして、理解をしておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

小杉泰『イスラームとは何か』講談社現代新書

【参考書】

井筒俊彦氏の（著作集を含む）一連の著作を推薦する。またその他の参考文献等は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席点 40 点と、レポートあるいは試験の点 60 点によって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

「パレスチナ問題」や「アラブの春」「イスラム国」「シリア内戦」等の現在進行中の出来事についても詳しく知りたいという要望がある。それらの問題にも可能な限り触れるようにしたい。

HA329

環境哲学基礎論

関口　和男

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境哲学基礎論の授業の目指すところは、文字通り、環境について基本的なことを哲学すること、環境問題や日常生活の中であまりに当たり前すぎて疑問に感じないことに目を向けて、批判的に考え抜くことである。

【到達目標】
現実の環境問題なるものは、その強い倫理的要請のゆえに、環境そのものについて考え抜くことをなかなか許さない状況にある。だがこのままでは、３・１１以降の社会の現状に対応することができず、環境に関する論議はいつまでたっても、うわべだけの皮相的なものにとどまらざるを得ないと思われる。そこで当講義では、あえて環境政策的思考を避けて、環境そのものを徹底的に考え、そこに何を見出すことができるのか、受講生の諸君と体験していきたい。

【授業の進め方と方法】
内容が哲学的なので、できるだけゆっくりと優しく、双方向的な質疑応答を重視するので、一方的な講義にはしない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現在の環境問題のおかれている思想状況について	３・１１以降の環境運動の在るべき姿とは何かを考える意味を明確にする
第 2 回	「考える・哲学する」とはどういうことか。	思惟・判断・行為について説明し、「考える」ことの重要性を理解する。
第 3 回	環境哲学とは何か。	従来の様々な環境思想の長所・短所を明らかにし、これからの環境哲学の意味を明かにする。
第 4 回	基礎作業Ⅰ　意識と環境① 環境の仮説的定義づけと人間の観念	まず、環境という観念は何を意味するのかを考える。
第 5 回	基礎作業Ⅰ　意識と環境② 「わたし」と環境の相互作用	環境という意識が、どのように「わたし」に出来するか、そのプロセスを考える。
第 6 回	基礎作業Ⅰ　意識と環境③ 「わたしたち」と環境の相互作用	同上
第 7 回	基礎作業Ⅱ　空間と環境世界① 空間とは何か。	環境という観念の持つ空間性とは何かを考える。
第 8 回	基礎作業Ⅱ　空間と環境世界② 環境世界の仮想実在性について	仮想実在性という観念を通じて、環境世界の世界性を明らかにする
第 9 回	基礎作業Ⅲ　時間と環境世界① 時間とはなにか。	人間存在を根源的に規定する時間意識について考える。
第 10 回	基礎作業Ⅲ　時間と環境世界② 時間の世界性とは何か。	時間意識と環境世界との関係を、哲学史的な観点から考える。
第 11 回	基礎作業Ⅳ　社会と環境世界① 共同体とは何か。	共同体と環境世界との関係を考える。
第 12 回	基礎作業Ⅳ　社会と環境世界② 正義とは何か。	共同体の正義と環境世界の正義と相異性について、昨今の「正義論」を参考にしつつ考える。
第 13 回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題①	なぜ、いま、環境哲学なのか、という視点から諸問題を摘出する
第 14 回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題②	同上
第 15 回	総括：環境とは何か。	人間環境学における環境哲学の位置について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に重要なのは、新聞の政治・経済・国際面を毎日読んでおくこと。そのほか、哲学史関係の本を読むこと。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。毎回、プリントを配布します。

【参考書】
講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末のテストによる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
質問はなるべく、授業時間中にするように。

【関連の深いコース】
人間文化コース（環境文化創造コース）

HA229

仏教思想

関口　和男

カテゴリ：**基幹**　｜　配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期仏教のさまざまな思想を概観して、東洋的な考え方の特質をじっくり学び、それによって、わたしたちのものの見方を決定する思惟構造の相違を自覚する。

【到達目標】
インドの初期仏教思想の展開を手掛かりにして、西欧的思考法とは異なる東洋的な思考法を身につけることによって、自分を見直す力を養い、複眼的な視点を身につけ、身の回りの諸問題に対して様々なアプローチができるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
授業計画にある通り、インド初期仏教の成立から密教への道程を中心に授業を行います。参加する学生諸君との質疑応答をできるだけ入れて、ユニークな講義形式をとっていくつもりです。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教思想を学ぶ今日的意義	西洋的な思考とは全く異なる仏教の思想がもたらす新たな視点について考える。
第 2 回	初期仏教思想史の概観とゴータマ・ブッダの生涯	巷にあふれる誤った仏教史・仏教思想史を正し、初期インド仏教史を概観する。
第 3 回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅰ）四諦説	四諦（四つの真理）について学び、それらを「無明」という視点から総括する。
第 4 回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅱ）五蘊説	西洋的な主観や自我の観念との相違を明らかにする。
第 5 回	初期仏教の基本概念－苦・無我・無常－	アーガマ経典類が説く苦・無我・無常について考える。
第 6 回	説一切有部の教説の意義	いわゆる有部の思想を概観し、それが仏教思想史において果たした役割を考える。
第 7 回	大乗仏教の興起（Ⅰ）仏塔崇拝集団・アショーカ王の事績	いわゆる大乗仏教とは、何かをその形成過程から考える。
第 8 回	大乗仏教の興起（Ⅱ）十方世界観の形成と諸仏・菩薩論	同上
第 9 回	大乗仏教の理論的展開（Ⅰ）中観の思想	ナーガルジュナの中観の思想を概観する。とくに、「空」の観念を徹底的に考える。
第 10 回	大乗仏教の理論的展開（Ⅱ）唯識の思想	唯識の内容とその現代性について考える。
第 11 回	大乗仏教の理論的展開（Ⅲ）如来蔵の思想	いわゆる大乗仏教の思想的な柱である「如来蔵」思想の意味と意義を明らかにする。
第 12 回	インド密教の形成とその特質	密教についての正しい理解のために、その形成過程を学ぶ。
第 13 回	チベット仏教の史的概観	チベット仏教とは、そもそも何か、史的側面から学ぶ。
第 14 回	チベット仏教の思想	チベット仏教の思想的特質を考える。
第 15 回	中国・日本の仏教の特質	とくに、日本の仏教とは何か、上記の講義を振り返りつつ考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
今まで皆さんが、当たり前として受け取ってきた仏教行事や説法などを整理して、授業に臨むこと。新聞の文化思想芸術関係の記事を精読し、そこに現れてくる現代社会の精神的な病巣を認識しておくこと。

【テキスト（教科書）】
原則として用いません。

【参考書】
授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末に実施されるテストの結果によります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
もっと積極的に質問することを望みます。

【関連の深いコース】
人間文化コース（環境文化創造コース）

LA236

法哲学

内藤　淳

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**水・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。
具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。

【到達目標】
①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【授業の進め方と方法】
法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。春学期・秋学期共、講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。
受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。
授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第２回	法哲学を学ぶにあたって１	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何かの概説
第３回	法哲学を学ぶにあたって２	「もしも法がなかったら？」を考える
第４回	法哲学を学ぶにあたって３	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第５回	格差・不平等問題１	基礎知識と論点の解説
第６回	格差・不平等問題２	論点と問題点の検討・討論
第７回	格差・不平等問題３	理論的立場の整理
第８回	法と道徳１	基礎知識と論点の解説
第９回	法と道徳２	具体的事例の検討
第 10 回	復興増税１	基礎知識と論点の解説
第 11 回	復興増税２	論点と問題点の検討・討論
第 12 回	人工妊娠中絶１	基礎知識と論点の解説
第 13 回	人工妊娠中絶２	論点と問題点の検討・討論
第 14 回	出生前診断１	基礎知識と論点の解説
第 15 回	出生前診断２	論点と問題点の検討・討論
第 16 回	残虐刑１	基礎知識と論点の解説
第 17 回	残虐刑２	論点と問題点の検討・討論
第 18 回	残虐刑３	死刑制度との論点比較
第 19 回	死刑制度の是非１	基礎知識と論点の解説
第 20 回	死刑制度の是非２	論点と問題点の検討・討論
第 21 回	裁判員制度と死刑１	基礎知識と論点の解説
第 22 回	裁判員制度と死刑２	論点と問題点の検討・討論
第 23 回	一夫一婦制と契約婚１	基礎知識と論点の解説
第 24 回	一夫一婦制と契約婚２	論点と問題点の検討・討論
第 25 回	代理出産と親子関係１	基礎知識と論点の解説
第 26 回	代理出産と親子関係２	論点と問題点の検討・討論
第 27 回	代理出産規制の是非１	基礎知識と論点の解説
第 28 回	代理出産規制の是非２	論点と問題点の検討・討論
第 29 回	代理出産規制の是非３	議論のまとめ
第 30 回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業内容をよく復習し、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】
深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）
森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）
森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010 年）
内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007 年）
内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009 年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課すレポート（４〜５回程度を予定）の点数を中心に（評価割合 80 %程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 %程度を予定）上記「授業の到達目標」に記した３点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

LA237

政治思想

犬塚　元

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**水・4**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
定員制の少人数授業の形式で、政治思想・政治理論について学ぶ入門コースの授業である。政治や公共性をめぐるさまざまな思想や学説（政治思想・政治理論）をめぐる理解を深めることが目的である。もとより、そのことは、特定の政治思想・政治理論を信奉することを意味しないし、それはここでの目的ではない。

【到達目標】
今年度の授業では、政治思想・政治理論をめぐって一般向け・入門者向けに執筆された文献をいくつか選択して、すこしずつ一緒に講読する形式を採用する。そのことによって、とくに、（1）近代ヨーロッパの政治思想、（2）デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論、を理解することを目標とする。また、（3）平易な学術的文献を丁寧・正確に読解して、加えて、批判的な吟味ができるようになることをもめざす。

【授業の進め方と方法】
文献講読をおこなう演習の形式である。各回の授業は、担当者による報告と、ディスカッションから構成される。全員が文献を読解し、十分に準備してきたとの前提で授業は進行するので、予習なしに参加するフリーライド行為は不可能であるし、厳しく禁じられる。また、原則として欠席・遅刻・早退は認められないので、履修にあたっては十分に留意すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業の進め方についての説明
第２回	近代ヨーロッパの政治思想（1）	國分功一郎『近代政治哲学：自然・主権・行政』ちくま新書、第１章
第３回	近代ヨーロッパの政治思想（2）	『近代政治哲学』第２章
第４回	近代ヨーロッパの政治思想（3）	『近代政治哲学』第３章
第５回	近代ヨーロッパの政治思想（4）	『近代政治哲学』第４章
第６回	近代ヨーロッパの政治思想（5）	『近代政治哲学』第５章
第７回	近代ヨーロッパの政治思想（6）	『近代政治哲学』第６章
第８回	近代ヨーロッパの政治思想（7）	『近代政治哲学』第７章
第９回	近代ヨーロッパの政治思想（8）	『近代政治哲学』結論に代えて
第 10 回	近代ヨーロッパの政治思想（9）	中間まとめ
第 11 回	近代ヨーロッパの政治思想（10）	重田園江『社会契約論：ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』ちくま新書、第１章
第 12 回	近代ヨーロッパの政治思想（11）	『社会契約論』第２章
第 13 回	近代ヨーロッパの政治思想（12）	『社会契約論』第３章
第 14 回	近代ヨーロッパの政治思想（13）	『社会契約論』第４章
第 15 回	中間まとめ	春学期の学修成果のまとめ
第 16 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（1）	杉田敦『権力論』岩波現代文庫、Ｉの第１章
第 17 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（2）	『権力論』Ｉの第２章
第 18 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（3）	『権力論』II の第１章
第 19 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（4）	『権力論』II の第２章
第 20 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（5）	『権力論』II の第３章
第 21 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（6）	『権力論』II の第４章
第 22 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（7）	『権力論』II の第５章
第 23 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（8）	中間まとめ
第 24 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（9）	待鳥聡史『代議制民主主義：「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書、序章
第 25 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（10）	『代議制民主主義』第１章
第 26 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（11）	『代議制民主主義』第２章
第 27 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（12）	『代議制民主主義』第３章
第 28 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（13）	『代議制民主主義』第４章
第 29 回	デモクラシーをめぐる現代の政治思想・政治理論（14）	『代議制民主主義』終章
第 30 回	まとめ	１年間の学修成果のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献については必ず事前に読み、分からない語句・事項を調べることが必要である。準備が楽な授業ではないので、覚悟をもって受講すること。

【テキスト（教科書）】
上記「授業計画」に示した各文献を用いる（文献リストの最終確定は開講後に行う）。文献は、各自で用意して、授業に持参する必要がある。

【参考書】
授業時間に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点。担当回の報告、各回の準備や発言を総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
今年度が初めての開講なので、アンケートの実施実績はなし。

【学生が準備すべき機器他】
電子ファイルを送受信・印刷できる情報通信端末、電子ファイルを送受信しうるメールアドレスが必要である。

LA229

人間存在論

森村　修

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**水・4**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業のテーマは、柄谷行人（1941-）の思想研究である。これまで本授業「人間存在論」では、ほぼ８年にわたって「田辺元」の哲学研究を行ってきた。また 2013 年度は、少し方向性を変えて、田辺の同時代人の哲学者・九鬼周造『偶然性の問題』を読解することで、「九鬼哲学」の「偶然性の哲学」について考えてきた。2014 年度から二年間、和辻哲郎（1889-1960）の「和辻倫理学」をテーマとしてきた。
しかし 2016 年度の本授業では、柄谷行人の基本テキストのひとつ『トランスクリティーク――カントとマルクス』（岩波現代文庫、2010 年）を取り上げる。最近の柄谷の活動は 70 歳を過ぎても衰えず、彼の思想は、今でも日本現代思想において屹立している。
《本授業の目的》
柄谷行人の思想テキストを学ぶことで、現代日本の思想が、「日本学」という狭い専門性や、東洋趣味・日本趣味としての「オリエンタリズム」（E. サイード）に毒されずに、どこまで世界レベルに到達しているかについて、ひとつの里程標として理解することができる。

【到達目標】
（1）柄谷行人の思想・哲学について説明することができる
（2）日本の哲学について説明することができる
（3）日本と西洋との思考の違いについて、比較することができる。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
基本的に、「講義形式」の授業を行う。毎回、テキストを逐次解読し、それに関わる解説を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①選抜試験（受講生が 30 名以上の場合） ②講義の概要・資料の配布 ②日程の確認 ③柄谷行人の思想解説
2	序文	・柄谷行人とは誰か？
3	イントロダクション	・トランスクリティークとは何か
4	第一部　カント 第 1 章　カント的転回 (1) ――『判断力批判』	1 コペルニクス的転回
5	第一部　カント 第 1 章　カント的転回 (2) ――カントとヘンリー・ホーム	2 文芸批評と超越論的批判
6	第一部　カント 第 1 章　カント的転回 (3) ――「視霊者の夢」	3 視差と物自体
7	第一部　カント 第 2 章　綜合的判断の問題 (1) ――数学基礎論	1　数学の基礎
8	第一部　カント 第 2 章　綜合的判断の問題 (2) ――ウィトゲンシュタイン	2　言語論的転回
9	第一部　カント 第 2 章　綜合的判断の問題 (3) ――ソシュール	3　超越論的統覚
10	第一部　カント 第 3 章 Trnascritique(1) ――デカルトとフッサール	1　主体と場所
11	第一部　カント 第 3 章 Transcritique(2) ――ハイデガー	2　超越論的と横断的
12	第一部　カント 第 3 章 Transcritique(3) ――「啓蒙とは何か」	3　単独性と社会性
13	第一部　カント 第 3 章 Transcritique(4) ――カント倫理学	4　自然と自由
14	第二部　マルクス 第二部　マルクス 第 1 章 移動と批判 ――マルクス「ドイツ・イデオロギー」	1 移動
15	第二部　マルクス 第 1 章　移動と批判 ――「ルイ・ボナパルトのブリュメール十八日」	2　代表機構
16	第二部　マルクス 第 1 章　移動と批判 ――『資本論』	3　恐慌としての視差
17	第二部　マルクス 第 1 章　移動と批判	4　微細な差異
18	第二部　マルクス 第 1 章　移動と批判	5　マルクスとアナーキストたち
19	第二部　マルクス 第 2 章　綜合の危機 ――『資本論』	1　事前と事後
20	第二部　マルクス 第 2 章　綜合の危機 ――『経済学批判』	2　価値形態
21	第二部　マルクス 第 2 章　綜合の危機 ――アダム・スミスとマルクス	3　資本の欲動
22	第二部　マルクス 第 2 章　綜合の危機 ――『資本論』	4　貨幣の神学・形而上学
23	第二部　マルクス 第 2 章　綜合の危機 ――『資本論』とルカーチ	5　信用と危機
24	第二部　マルクス 第 3 章　価値形態と剰余価値 ――『資本論』	1　価値と剰余価値
25	第二部　マルクス 第 3 章　価値形態と剰余価値 ――ヤーコブソン	2　言語学的アプローチ
26	第二部　マルクス 第 3 章　価値形態と剰余価値 ――マルクスとリカード	3　商人資本と産業資本
27	第二部　マルクス 第 3 章　価値形態と剰余価値 ――宇野弘蔵	4　剰余価値と利潤
28	第二部　マルクス 第 3 章　価値形態と剰余価値 ――ウォーラステイン	5　資本主義の世界性
29	第二部　マルクス 第 4 章　トランスクリティカルな対抗運動 (1) ――『資本論』とベネディクト・アンダーソン	1　国家と資本とネーション
30	第二部　マルクス 第 4 章　トランスクリティカルな対抗運動 (2) ――フレドリック・ジェイムソン	2　可能なるコミュニズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前には必ず文献を読んでおく。
・該当箇所を読んで、質問を三点以上準備する。

【テキスト（教科書）】
柄谷行人『トランスクリティーク　カントとマルクス』（岩波現代文庫、2010 年、1500 円＋税）
※　各自でテキストを用意すること。

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（50 %）（質問を３点以上用意する）
（2）レポート（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（コンピュータとそれを投影できるプロジェクターの設備）

【その他の重要事項】
柄谷のテキストは、古今東西の思想家たちのテキストを縦横無尽に用いて議論を組み立てているので、そのまま読んだだけでは理解できない。知的好奇心をフルに発揮しないと、ついていけないので要注意。

【登録上の注意】
本授業は、春学期・秋学期を通じての通年授業であり、定員（30 名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

LA329

ドイツの思想Ⅰ

笠原　賢介

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニーチェ入門をテーマとする授業である。
不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆく。
ニーチェについて導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれてゆく。毎回、取り上げる言葉に関連したテーマについてのレクチャーを交え、理解の手がかりを提供する。
春学期の内容は、初期のニーチェを中心とするが、中期・後期ニーチェも視野に入れる。
授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ（多義性）、可能性、問題点にふれ、捉えることを目指す。

【到達目標】
初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテクストにふれることによって、ニーチェ思想に対する理解を深める。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ（多義性）、可能性、問題点を捉える。

【授業の進め方と方法】
導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆく。一方通行にならないよう、質問やリアクションペーパーに示された感想や見方に応答しながら進める。毎時間、テーマごとのレクチャー 50 %、言葉にふれること 40 %、質疑応答 10 %の割合で進めてゆきたい。
受講にあたっては、哲学や文学、ドイツ語についての知識は前提としない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。 以下の進度は、おおよその目安である。
2 回	ニーチェの生涯と思想	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこなう。
3 回	『悲劇の誕生』（1）	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な事柄を学ぶ。
4 回	『悲劇の誕生』（2）	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソス的なもの」と「アポロ的なもの」をとらえる。
5 回	『悲劇の誕生』（3）	ギリシア悲劇との関係で『悲劇の誕生』をとらえ、「ディオニュソス的なもの」と「アポロ的なもの」の意味を再考する。
6 回	『悲劇の誕生』（4）	ワーグナーとの関係で『悲劇の誕生』をとらえ、初期ニーチェがなぜワーグナーに傾倒したのかを考える。ワーグナーの作品にふれ、ニーチェのワーグナーへの傾倒の理由を考える。
7 回	『悲劇の誕生』（5）	ショーペンハウアーとの関係で『悲劇の誕生』をとらえ、ニーチェ思想とショーペンハウアー哲学の接点をとらえる。
8 回	『悲劇の誕生』（6）	ショーペンハウアーの音楽論との関係で『悲劇の誕生』をとらえ、ニーチェ思想とショーペンハウアー哲学、ワーグナーの芸術との接点をとらえる。
9 回	『悲劇の誕生』（7）	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判の意味について考える。
10 回	『反時代的考察』（1）	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作『反時代的考察』を取り上げ、基本的な論点と特徴をとらえる。
11 回	『反時代的考察』（2）	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作『反時代的考察』を取り上げ、基本的な論点と特徴をとらえる。
12 回	初期ニーチェと現代哲学・思想	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家（ハイデガー、ガダマー、アドルノ）を中心にして要点をとらえる。
13 回	前期ニーチェから中期・後期のニーチェへ	ニーチェがワーグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯を辿り、中期・後期ニーチェ思想の展開の方向性を展望する。
14 回	まとめ	春学期の内容をまとめ、質疑応答をおこなう。
15 回	春学期期末試験	春学期期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容についての復習をおこなうこと。

【テキスト（教科書）】
プリントでそのつど配布する。

【参考書】
『ニーチェ全集』、ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』、世界思想社。柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。三島憲一『ニーチェ』、岩波新書。山崎庸祐『ニーチェ』、講談社学術文庫。

【成績評価の方法と基準】
授業最終日に内容確認の試験をおこなう。平常点と試験を総合して評価をおこなう（平常点 40 %、試験 60 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ノートを正確にとってほしい。リアクションペーパーへの記入を心掛けてほしい。

LA329

ドイツの思想Ⅱ

笠原　賢介

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニーチェ入門をテーマとする授業である。
春学期に引き続いて、ニーチェの思想世界を取り上げる。ニーチェの中期・後期思想を中心とするが、春学期に学んだ初期のニーチェ思想も視野に入れてゆく。
ニーチェの現代哲学・思想への影響についても見通しを立てる。
ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆく。毎回、取り上げる言葉に関連したテーマについてのレクチャーをおこない、理解の手がかりを示す。授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ（多義性）、可能性、問題点を取り出し、とらえることを目指す。

【到達目標】
中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテクストにふれることによって、ニーチェ思想に対する理解を深める。図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ（多義性）、可能性、問題点にふれる。

【授業の進め方と方法】
導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆく。一方通行にならないよう、質問やリアクションペーパーに示された感想や見方に応答しながら進める。毎時間、テーマごとのレクチャー 50 %、言葉にふれること 40 %、質疑応答 10 %の割合で進めてゆく。
受講にあたっては、哲学や文学、ドイツ語についての知識は前提としない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。 以下の進度はおおよその目安である。
2 回	前期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、前期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てる。
3 回	『人間的、あまりに人間的』、『曙光』―アフォリズム的思考。	中期の作品『人間的、あまりに人間的』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的思考の特徴をとらえる。
4 回	『人間的、あまりに人間的』、『曙光』―〈形而上学〉への批判。	『人間的、あまりに人間的』、『曙光』によってニーチェの〈形而上学（従来の哲学）〉への批判の意味を考える。
5 回	『悦ばしき知識』－〈神の死〉	『悦ばしき知識』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出す。
6 回	『ツァラトゥストラ』（1）―〈身体〉と〈生〉をめぐって。	『ツァラトゥストラ』によって〈生〉と〈身体〉をめぐるニーチェの思想をとらえる。
7 回	『ツァラトゥストラ』（2）―〈力への意志〉をめぐって。	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思想をとらえ、考える。
8 回	『ツァラトゥストラ』（3）―〈時間〉をめぐる思索。	『ツァラトゥストラ』によってニーチェの「永遠回帰」の思想をとらえ、考える。
9 回	人間ニーチェ	ヴァルター・ベンヤミンのニーチェ論を手がかりにして『ツァラトゥストラ』執筆時の生身の人間ニーチェをとらえ、ニーチェ自身の〈生〉と思想との間のギャップと連関を考える。
10 回	『道徳の系譜学』―〈道徳〉への批判。	『道徳の系譜学』によってニーチェがなぜ道徳を批判したのか、その意味を考える。
11 回	『善悪の彼岸』	『善悪の彼岸』によって、ニーチェの欲望の概念を捉える。
12 回	『反キリスト者』―ニーチェの思想上の晩年	『反キリスト者』によって、最終盤のニーチェの思想展開にふれる。
13 回	ニーチェと現代の哲学・思想	中期・後期ニーチェ思想の現代哲学への影響、ニーチェとの問題の共有について、ドイツ系の哲学者・思想家（ベンヤミン、ヴィトゲンシュタイン、ハイデガー、フッサール、アドルノ）を中心にして要点をとらえる。
14 回	まとめ	秋学期の授業全体の内容をまとめ、質疑をおこなう。
15 回	秋学期期末試験	秋学期期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容についての復習をおこなうこと。

【テキスト（教科書）】
プリントでそのつど配布する。

【参考書】
『ニーチェ全集』、ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』、世界思想社。柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。三島憲一『ニーチェ』、岩波新書。山崎庸祐『ニーチェ』、講談社学術文庫。

【成績評価の方法と基準】
授業最終日に内容確認の試験をおこなう。平常点と試験を総合して評価をおこなう（平常点 40 %、試験 60 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
正確にノートを取ってほしい。リアクションペーパーへの記入を心掛けてほしい。

LA229

キリスト教思想論

酒井　健

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・5**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ中世からルネサンスそして宗教改革にかけてキリスト教文化を学習する。年代的には春学期には 5 世紀から 15 世紀までの中世、秋学期にはそれ以後 17 世紀までの近世と近代を念頭におく。地域では西欧諸国を対象にする。

【到達目標】
1. 西欧中世のキリスト教文化の特異性を学ぶ。
2. イタリア・ルネサンスと北方ルネサンスをキリスト教の側から捉える。
3. プロテスタントと宗教改革の流れ、そして宗教戦争の問題を扱う。

【授業の進め方と方法】
講義形式。授業の最後 15 分ほどでその日の課題への回答を書いてもらう。なお、初回の授業のときに 30 名程度に選抜を行なうので、履修希望者は最初の授業に必ず出席すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業計画と春学期のプランについて説明する。
第 2 回	キリスト教の誕生（1）	キリスト教の誕生　イエスとパウロ
第 3 回	キリスト教の誕生（2）	キリスト教の基本的事項の確認（聖書など）
第 4 回	中世キリスト教（1）	中世初期の信仰
第 5 回	中世キリスト教（2）	中世初期とケルト系修道院
第 6 回	中世キリスト教（3）	イスラムの影響
第 7 回	中世キリスト教（4）	ロマネスクと修道院
第 8 回	中世キリスト教（5）	ロマネスクと領主教会堂
第 9 回	中世キリスト教（6）	ゴシックと大都市住民
第 10 回	中世キリスト教（7）	ゴシックと教会権力者
第 11 回	イタリア・ルネサンス（1）	古代ギリシア・ローマの再生とキリスト教
第 12 回	イタリア・ルネサンス（2）	美とエロスとキリスト教
第 13 回	イタリア・ルネサンス（3）	ヴァチカンの教会建築
第 14 回	イタリア・ルネサンス（4）	信仰と哲学　プラトン主義の問題
第 15 回	総括	復習をかねた論述試験
第 16 回	北方ルネサンス（1）	アルプスをはさんでの文化交流
第 17 回	北方ルネサンス（2）	ネーデルランドとフランドルの絵画とキリスト教
第 18 回	北方ルネサンス（3）	ネーデルランドとフランドルの思想とキリスト教
第 19 回	プロテスタント（1）	ルターの抗議
第 20 回	プロテスタント（2）	ドイツ農民戦争
第 21 回	プロテスタント（3）	カルバンの継承
第 22 回	プロテスタント（4）	反宗教改革
第 23 回	プロテスタント（5）	スペインにおける魔女狩りとユダヤ人迫害
第 24 回	プロテスタント（6）	信仰の問題と近代産業社会の誕生
第 25 回	プロテスタント（7）	オランダの勃興
第 26 回	プロテスタント（8）	イギリスの台頭
第 27 回	宗教戦争（1）	カトリックとプロテスタントの戦いの真意
第 28 回	宗教戦争（2）	権力と軍事力と宗教
第 29 回	宗教戦争（3）	信仰の深化　神秘家たちの登場
第 30 回	総括	秋学期の復習をかねた論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で説明したことをよく復習して授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
授業の時に配布する資料が大切なテクストになる。

【参考書】
酒井健著『ゴシックとは何か　-　大聖堂の精神史』ちくま学芸文庫。中世から近代までのキリスト教文化の変遷が語られている。

【成績評価の方法と基準】
出席（30%）。毎回の小テスト（30%）。期末の論述試験（40 %）を勘案して決める。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
キリスト教文化所産の具体例をさらに紹介してほしいということなので、できるだけ例を出していく。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【その他の重要事項】
●選抜を行なうので初回の授業に必ず出席すること。
●西欧諸国に研修や旅行に出たときには必ず大聖堂や教会堂に立ち寄ること。

EB/C/D229

環境倫理

寿福　眞美

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる環境問題の根本原因は、人間の活動が地球生態系の自己調節機能の限界を超えた点にある。したがって、自然と人間の調和を実現するためには、地球規模から日常生活に至るまで、人間の過剰な活動をコントロールする規範、規則、倫理が必要となる。そして、コントロールの方法と考え方には、相対立する多様なものがある。これらを比較・検討することによって、正当な根拠をもった環境倫理とは何かを探求する。

【到達目標】
①現代社会における環境問題について、できるだけ多くの具体的な実例を実感し知り、理解・分析し、政策提言を行える力を身につける。
②特に、3・11「原発」事故について全体像を理解・把握し、今後の政策課題を考え提言を行える力を身につける。

【授業の進め方と方法】
四つの前提、すなわち、①無限な生命の連鎖、②有限な天然資源、③人類の生存、④構造的不平等（南北、男女、マイノリティ等）を所与の条件とみなす立場から講義する。
身近に見聞する具体的な諸問題のなかから、（可能ならば、受講生の希望の多いテーマを取り上げ）、問題の現状、原因、対策について検討する。
＊毎回、講義内容と関連したビデオ等を利用する。
＊リアクション・ペーパーに基づいて、次回講義で紹介・検討を行う。可能ならば、受講生同士の討論も行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①フクシマ「原発」事故	2011・3・11～3・15 に何が起きたか（事故の原因）
2	②フクシマ「原発」事故（続）	3・15～4・11 の事態の推移（事故対策の問題点）
3	③フクシマ「原発」事故（続々）	フクシマの現在と政策課題
4	核エネルギー利用の問題点	理論的分析
5	総合エネルギー政策①	電力エネルギー生産・消費のあり方
6	総合エネルギー政策②	さまざまな自然エネルギー①
7	総合エネルギー政策③	さまざまな自然エネルギー②
8	地球温暖化	現状と対策
9	水俣病	現状と問題点、対策
１０	持続可能な開発①	2012 国連リオ会議の課題（1992～2012 を総括する）
１１	持続可能な開発②	工業国・ブリックス・「南の国々」
１２	ディープ・エコロジー	人間中心主義と生態系中心主義
１３	ソーシャル・エコロジー	人間の支配と自然の支配
１４	エコロジカル・フェミニズム	人間の支配、自然の支配、女性の支配の相互関係
１５	まとめ	討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱う諸問題が発生している現場を体験すること、現場で活動している人々の話を聞くことが必要である。

【テキスト（教科書）】
メアリ・メラー『境界線を破る！ エコ・フェミ社会主義に向かって』、新評論、1993 年。

【参考書】
開講時に詳細な参考文献一覧を配布する。専門的な研究書および資料・データ等は、当該問題を講義する際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①期末試験による。②試験内容は、＊講義で言及した主題から一つを選び、その理由を述べる (20%)、＊それに関する講義内容を要約する (30%)、＊自分の意見とその論拠を記述する (50%) ことの 3 点である。③評価基準は、主題設定の的確さ、論述の論理一貫性、論拠の妥当性とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
映像をできるだけ利用し、討論設定に努める。

【学生が準備すべき機器他】
映像機器。

福祉国家論 (2013 年度以前入学生)

[2013]

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
格差と貧困が拡大するもとで、福祉国家の存在意義が問われるような惨状が広がっている。福祉国家が果たすべき役割と、その実現に向けた合意形成の課題について学ぶ。

【到達目標】
福祉国家の日本的特徴と、改革の方向性、改革をめぐる論点について理解する。

【授業の進め方と方法】
講義が中心だが、学生参加の機会を持つ。福祉国家の土台作りを目指して活動しているゲストを招いて、意見交換を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	問われる福祉国家の存在意義 A・セン「飢饉と民主主義」
2	基本的役割	ナショナルミニマム、人間の尊厳の保障
3	自然権と社会権①	機会の平等、結果の平等、差異の平等
4	自然権と社会権②	富の不平等・財産所有の民主主義
5	ノーマライゼ―ション	ノーマル（標準）とは？
6	再分配の実態	「逆機能」の現状
7	公民権運動・反差別運動	自立、決定への参加
8	福祉国家改革①	アクティベーション、就労支援と生活保障
9	福祉国家改革②	中間労働市場、完全雇用、ディーセントワーク
１０	福祉国家改革③	互助、共助
１１	論点①	国家財政危機とは？
１２	論点②	地方分権とは？
１３	論点③	福祉依存とは？
１４	反貧困運動	到達点と課題
１５	まとめ	これからの福祉国家

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストと配布資料の予習をしておくこと。
講義の単元ごとに復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜指示・配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（６０％）、期末試験（４０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
リアクションペーパーに出された疑問や意見を大切にしたい。

生物・土壌地理学及び実験Ⅰ

小川　滋之

授業コード：A3420
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植生はどのような環境条件によって分布が決定されるのか．日本，アジア，ヨーロッパ，オセアニアの事例から考える．

【到達目標】
（1）その土地の気候，地形，地質，人為などから植生分布を考えられるようになること
（2）植生分布からその土地の気候，地形，地質，人為などを考えられるようになること

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う．第 1 回はガイダンス，第 2〜4 回は植生地理学についての概論，第 5 回以降は日本，アジア，ヨーロッパ，オセアニアの事例を紹介する．毎回，授業テーマに関わりがある植物 1 種を取り上げる．内容に応じて，ディスカッションをすることや意見を求めることがある．機会があれば野外実習を行いたい．

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植物に関する地理学とは
第 2 回	概論①	大分布
第 3 回	概論②	小分布
第 4 回	概論③	植生史
第 5 回	日本の植生①	針葉樹林，落葉広葉樹林
第 6 回	日本の植生②	常緑広葉樹林
第 7 回	日本の植生③	特殊地質地域
第 8 回	日本の植生④	地形によって決定される植生分布
第 9 回	アジアの植生①	北東アジア
第 10 回	アジアの植生②	東南アジア
第 11 回	ヨーロッパの植生①	北ヨーロッパ
第 12 回	ヨーロッパの植生②	南ヨーロッパ
第 13 回	オセアニアの植生	ニュージーランド
第 14 回	野菜の植物地理	東アジアにおける野菜の分布
第 15 回	まとめ	植物に関する地理学の重要ポイントを再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと．

【テキスト（教科書）】
使用せず．授業ごとに必要な資料を配布する．

【参考書】
講義中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業中の小レポート，期末テストによって評価する．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
該当なし

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小崎　隆

授業コード：A3421
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上において気圏、水圏、岩石圏の界面である土壌（圏）は人間を含めた生物が最も活発に活動することにより生態系（土地）を形成しており、地球の生命そのものである。その特性と機能はそれぞれの地域で様々な環境要因とそれらの相互作用により合理的に規定されている。本授業では多様な生態系を対象として、土壌の形成メカニズムを理解し、それに基づいた人間と土地との「適正な関係」とは何かを考えることを目的とする。

【到達目標】
陸域生態系、特に高校までの教育課程ではほとんど触れられることのなかった土壌圏生態系の要素、機能、時空間的広がりについて基礎的な知見を得るとともに、それらの生態系の特性を規定する環境や人間活動の影響を理解することにより、生態系と調和した土地利用と保全のあり方を提言し、社会において実践することができる能力を養う。

【授業の進め方と方法】
本授業では、まず土壌が生態系の重要な要素として理解されるに至った歴史を、古代から現代に至る土壌観の変遷を通して概説する。つぎに現在の土壌の特性と機能を必然的に規定する要因（土壌生成因子）とプロセス（土壌生成過程）、さらに、地球上の多様な生態系における特徴的な土壌と人間活動の諸相を、写真・資料・標本・現地観察などを用いて詳説し、最後に、土壌に関連して私たちが現在取り組むべき問題点と解決策について考察する。
上記の内容は講義の形式に従って実施するが、その中で個々の学生がこれまでに学習ならびに経験した内容に基づき新たなテーマに関して授業中に発表・議論しつつ能動的に理解を進める。また、毎回講義後にリアクションペーパーを提出し、そのテーマを取りまとめるとともに、疑問点を明らかにする。挙げられた疑問点他は次回の講義時に必要に応じて追加説明ならびに議論により理解を深める。
期間中に 1 日の野外実習を実施し、講義内容を現場で確認し理解を深めるとともに、現実の問題の実際を体験しその対処法について考究する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	生態系とは	生態系の構成要素、機能、物質とエネルギー
第 2 回	土壌とは (1)	土と人間の歴史（土壌観の変遷）古代～中世
第 3 回	土壌とは (2)	土と人間の歴史（土壌観の変遷）近世～現代
第 4 回	土壌生成因子 (1)	母材（地質）、気候、生物
第 5 回	土壌生成因子 (2)	地形、時間、人為
第 6 回	土壌生成過程 (1)	腐植・泥炭集積、石灰集積、アルカリ化、粘土集積
第 7 回	土壌生成過程 (2)	ポドソル化、アリット化、シアリット化、
第 8 回	土壌生成過程 (3)	グライ化、斑紋形成
第 9 回	世界の土壌 (1)	熱帯（雨林・サバンナ）地域の土壌・生物と人間活動
第 10 回	世界の土壌 (2)	温帯（砂漠・ステップ・潅木林・森林）地域の土壌・生物と人間活動
第 11 回	世界の土壌 (3)	亜寒帯林・ツンドラ地域の土壌・生物と人間活動
第 12 回	野外実習（12 月中旬の週末に日帰り終日）	土壌ならびに生態系調査法（つくば市周辺を予定）
第 13 回	日本の土壌 (1)	水田農業と土壌
第 14 回	日本の土壌 (2)	温帯湿潤気候と土壌、火山灰と土壌
第 15 回	環境問題と土壌	土地劣化の現状と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期間を通して、積極的かつ自立的に、わが国をはじめ世界の情勢に興味を持ち、各地の自然、社会、人間活動の関わりについて、常に各種のメディアを通して情報を収集すると共に、関連する諸問題について批判的に考究するよう心がける。各回の授業後は、修得した知見を鍵として、自立的に検索・考察を深化させ、その知見をさらに普遍化することに努める。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
土のひみつ―食料・環境・生命―』日本土壌肥料学会「土のひみつ」編集グループ編、朝倉書店、2015
『世界の土・日本の土は今―地球環境・異常気象・食料問題を土からみると―』日本土壌肥料学会編、農文協、2015
『土の科学』久馬一剛、PHP サイエンス・ワールド新書、2010
『土壌地理学』浅海重夫、古今書院、2001
『最新土壌学』久馬一剛編、朝倉書店、1997
『Fundamentals of Soil Science』H.D. Foth、Wiley、1990

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業への取り組み態度と授業後のリアクションペーパーによる平常点（30 %）、実習レポート（20 %）、期末試験（50 %）の成績を総合して評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度は前半のテーマをやや掘り下げすぎたため、後半のテーマに関してやや時間が不足気味であったことは否めない。今年度は時間配分に十分注意したい。

【学生が準備すべき機器他】
講義に関しては特になし。
実習に関しては、現地調査に適した服装を着用して参加し、野帳を携帯することが必要。

【その他の重要事項】
オフィス・アワー：毎回の授業終了後に教室で、また、随時、電子メールでも質問その他に対応する。
実習：現地までの交通費は各自負担。

気候・気象学及び実験Ⅰ

佐藤　典人

授業コード：A3422
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では自然地理学の主要な専門科目という位置付けのもとに最小限の「気象学」的な内容を踏まえて大気現象を平易に解説し，気候学的視点から，大気現象の可視化を図る。なお，積極的な学習姿勢を学生には求める。

【到達目標】
毎回の講義において，その講義予定の中での『テーマ』を冒頭に提示するので，それを適正に理解することが到達目標となる。また例年，受講生から好評を得ている講義内容の進度に応じた「気象予報士」試験の問題を，毎週、自宅学習として課した上で解説する。

【授業の進め方と方法】
「気候学」は，今日の大気環境問題の深刻化とあいまって，益々，その学問的な存在意義を高めている。しかし，目に見えない現象だけに地理学徒と言えども，その実態を的確に理解できていないむきがある。そこで，理解の一助と考えられる視聴覚教材，および簡単な実験や実習などを適宜，交えて講義を進行させる。出席者にはその都度プリントを配布する。また，本講義は『気象予報士』受験のための基礎的な内容を包含しているので，その過去問題を例示して説明したい。申すまでもなく，気候気象現象や大気環境問題，ないし気候景観に関心を抱いている学生，あるいはそれらの分野で卒業論文の作成を想定している学生や「自然地理学演習（1)」を受講する学生は，本講義を２年次で履修することが望ましい。なお，本科目の「Ⅱ」の受講にはその内容理解の点から，この「Ⅰ」の履修を原則として要望したい。さらに本講義の受講生には予め１年生に開講されている「地学実験」(気候・気象) の履修を強く望む。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	本科目の講義概要	半期の本講義の概要と趣旨を説明する。
第 2 回	気候と気象の相違	気候とは？　気象とは？　単なる一字違いでは済まされるの？
第 3 回	大気現象の特異性（1）	可視化できない現象・たくましい想像力の重要性。 簡単な実験で確認しよう！
第 4 回	大気現象の特異性（2）	スケールの重要性・投網でメダカを捕まえられるのか？
第 5 回	大気現象の特異性（3）	定義に絡む問題・平均値は気宇現象の実態を捉えているのか？
第 6 回	大気現象の特異性（4）	往々にして有事に学問は進歩する
第 7 回	地表での熱の授受（1）	大気中の熱収支
第 8 回	地表での熱の授受（2）	大気が抱える熱の種類
第 9 回	水分は大気中の忍者かな？（1）	変幻自在な大気中の水分の挙動と熱の授受
第 10 回	水分は大気中の忍者かな？（2）	姿を変える大気中の水分
第 11 回	大気の静的安定度（1）	大気の安定度の意味は？
第 12 回	大気の静的安定度（2）	大気の鉛直方向の動きと天気の関連性は？
第 13 回	大気の静的安定度（3）	大気の安定度を実習を通して自覚する。
第 14 回	大気の静的安定度（4）	エマグラムの作図を介して知る。
第 15 回	筆記試験	９０分の試験時間を確保するために最終講義内に筆記試験 (当然ながら，参照不可) を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので，その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。とくに「気象予報士」試験の問題は，毎週，自宅課題として指示されるので，自分なりの結果を求めて出席すること。

【テキスト（教科書）】
特定の書籍で本講義の内容，つまり気候学と気象学の双方を網羅するのは無理なので敢えて指定せず，進度に沿ったプリントを配布して講義を進める。ただし，参考図書として，本学通信教育部地理学科の教科書「自然地理学 (気候・気象)」［佐藤典人著］を一読して欲しい。それは本講義の講義ノートをベースにして平易に解説した書籍ゆえである。

【参考書】
講義で適宜，参考書は紹介するが，下記の書籍はその基礎として通読されることを希望する。
仁科淳司 (2003)「やさしい気候学」. 古今書院.
佐藤典人 (2015)「自然地理学（気候・気象)」. 法政大学通信教育部

【成績評価の方法と基準】
期末の１ケ月前にレポート【→ 当然のことながら添削して各自に返却する】の課題が発表されるので，そのレポートの提出と期末の筆記試験の双方を実施することで評価をする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎年の授業評価アンケートにより，講義内で取り入れている簡単な実験は好評なので，それを可能な範囲で実施する。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の講義において受講生が特別な準備をする必要はない。必要な場合にはこちらから指示をする。なお，講義はパワーポイント，および映像などを適宜取り入れて講義を進める。

【その他の重要事項】
本講義の受講に際しては，実習作業などもあるので能動的に学習する姿勢が不可欠となる。

気候・気象学及び実験Ⅱ

佐藤　典人

授業コード：A3423
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に開講されている本科目のⅠと同じなので，それを参照のこと。

【到達目標】
春学期の内容と同一である。

【授業の進め方と方法】
春学期に開講されている本科目のⅠと同じなので，それを参照のこと。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の本科目の概要説明	半期の科目の予定と内容の概要を説明する。また、前期試験の講評をする。
第 2 回	大気は何故動くのか？（1）	大気の運動の原理を説明する。
第 3 回	大気は何故動くのか？（2）	大気の運動に絡む力学的な内容を説明する。
第 4 回	大気の運動と局地循環	スケールを狭くした場合の大気の運動に関して説明する。
第 5 回	高層天気図の作図と読み方	高層天気図の作図を課題として課し，その結果を踏まえて高層天気図の読み方を説明する。
第 6 回	高層の天気 小実験の実施	高層の状態を高層天気図によって捉える。 小実験の実施する。
第 7 回	高層の大気と地上との対応	高層風の蛇行と地上の高・低気圧との関連性を説明する。
第 8 回	高層風の蛇行とジェット気流	映像で高層風の蛇行の実験を再現。いわゆる，デッシュパンの実験である。
第 9 回	温度風の原理	１地点の鉛直的な観測データから天気の推移を把握する理論を解説する。
第 10 回	大気大循環への接近	大気大循環に関する気象学的視点からの研究史をもとにその変遷を説明する。
第 11 回	大気大循環の実態と解釈	今日，理解されている大気循環への理解を深め，虚像・実像の状況を適正に理解する。
第 12 回	渦度と地形性擾乱	交差する地形起伏の存在による東西流の乱れ・擾乱に関して解説する。
第 13 回	音楽通とは無縁な「ベルゲン学派」	温帯低気圧の理論と前線・気団論を説明する。
第 14 回	温帯低気圧と熱帯低気圧の対照	温帯低気圧と熱帯低気圧の相違を比較・対照する。
第 15 回	秋学期のまとめと授業内試験	９０分の試験時間を確保するために，半期の最終時に筆記試験 (当然ながら，参照不可) を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期の本講義のⅠと同じなので，そちらを参照のこと。

【テキスト（教科書）】
春学期の本講義のⅠと同じなので，そちらを参照のこと。

【参考書】
春学期の本講義のⅠと同じなので，そちらを参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
やはり春学期同様に，提出期日の１ヶ月前に公表する秋学期レポートの課題と期末に実施する筆記試験の双方を加味して評価する。
それ以外に関しては，春学期の本講義のⅠと同じなので，そちらを参照のこと。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
春学期同様に，講義の進度を考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】
適宜，視聴覚教材を交えて講義を構成する。

【その他の重要事項】
なお，本気候学で扱うべき講義対象のうち，年間の講義時間数の少なさから，以下の内容は，つぎのように別途の講義で取り扱う予定なので，そちらを受講して欲しい。
１．気候地域区分と気候の分類
→ １年次に開講されている必修科目の「地理学概論 (１)」（佐藤の担当する箇　　所）で扱う．
２．気候変動と異常気象
→「自然地理学特講（３)」（兼任講師・狩野先生担当の講義）で扱う．

海洋・陸水学及び実験Ⅰ

小寺　浩二

授業コード：A3424
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。

【到達目標】
海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。

【授業の進め方と方法】
基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪氷の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察
第 15 回	まとめ	講義・調査結果のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

【テキスト（教科書）】
・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏ー海洋と陸水』，東海大学出版会，211p，￥2,625.
・新井　正（1994）：『水環境調査の基礎』，古今書院，168p，￥2,625.

【参考書】
授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席３割・課題４割・試験３割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】
「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2)・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺　浩二

授業コード：A3425
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内の具体的な課題を中心とする。

【到達目標】
海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を育成する。

【授業の進め方と方法】
本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎知識を踏まえて、高度な理論と応用を理解する
第 2 回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第 3 回	河川学の理論と応用	流域特性と流域 GIS 物質収支モデル
第 4 回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第 5 回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第 6 回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第 7 回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第 8 回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第 9 回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第 10 回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第 11 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第 12 回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ
第 13 回	水質分析結果整理解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 14 回	総合的な解析・考察	GIS による分布図と解析
第 15 回	まとめ	総合的な理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

【テキスト（教科書）】
・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏ー海洋と陸水』，東海大学出版会，211p，￥2,625
・新井　正（1994）：『水環境調査の基辞』，古今書院，168p，￥2,625.

【参考書】
授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席・課題・試験を総合して評価する。配点は、出席３割、課題４割、試験３割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行ない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
地球規模や国外の事例よりも、国内の事例についての要望が強かったため、今年度は、国内の具体的な調査・研究事例を重点的に扱う。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】
「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅰ

中山　大地

授業コード：A3471
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて，GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする．本講義ではさまざまな GIS データを用いて，ベクタ型・ラスタ型データの基本的な分析方法を学ぶ．

【到達目標】
GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である．

【授業の進め方と方法】
20 分程度の説明と 70 分程度の実習を行う．

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ArcGIS の基本的な操作 1	GIS の概念と構成，空間データの視覚化
第 2 回	ArcGIS の基本的な操作 2	地図と GIS，空間データの構造，地図の投影法，地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念，基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサスデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製，座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート，座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成 1	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成
第 15 回	レポートの作成 2	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが，興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい．

【テキスト（教科書）】
教科書は使わないが，参考書に挙げる文献が役立つ．

【参考書】
野上ほか (2001)『地理情報学入門』，古今書院．
佐土原ほか (2005)『図解!ArcGIS ―身近な事例で学ぼう』，古今書院．
高橋ほか (2005)『事例で学ぶ GIS と地域分析― ArcGIS を用いて』，古今書院．
村井ほか (2005)『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』，日本測量協会．

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（80%），平常点（20%）で成績を決める．講義は出席するのが前提であるため，出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない．
レポートは ArcGIS の操作マニュアルの作成である．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
該当なし．

【学生が準備すべき機器他】
情報教室を使用する．

【その他の重要事項】
ArcGIS は使用可能台数が限られているため，受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう．受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる．他の学生に迷惑をかけないよう，選抜されたという意識を持って授業に臨むこと．遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である．10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること．

地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅱ

中山　大地

授業コード：A3472
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて，GIS の応用的な分析手法を学ぶ．

【到達目標】
ArcGIS を用いた分析能力を習得し，課題を解決するために自らデータを収集・作成し，分析し，結論を導き出せるようになる．

【授業の進め方と方法】
数名でグループを作り，PBL (Problem Based Learning) を行う．グループごとにある地域の災害避難場所を仮定し，GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3 回目の実習終了時にグループごとの計画書を提出する．それ以降は必要なテクニックを教授しながらグループワークを行う．グループワーク時には毎回作業報告を作成し，レポートとして最終報告書を提出する．

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを持ちいた避難圏の人口推定
第 3 回	グループワーク計画書の作成	グループの作業方針を決定
第 4 回	グループワーク 1	災害弱者の定義，避難所選定方針の決定
第 5 回	グループワーク 2	必要なデータの入手 1（位置情報を取得することにより，避難所データを入手・作成する）
第 6 回	グループワーク 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	グループワーク 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスタデータへの変換，空間分割）
第 8 回	グループワーク 5	ジオプロセシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	グループワーク 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	グループワーク 7	キャッチアップ
第 11 回	グループワーク 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	グループワーク 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	グループワーク 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	グループワーク 11	レポート作成 2（結果の考察など）
第 15 回	グループワーク 12	レポート作成 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが，興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい．

【テキスト（教科書）】
教科書は使わない．適宜プリントを配付する．

【参考書】
参考書については地理情報システム (GIS)I を参照すること．

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 1 回（最終報告書，100 点満点）で成績を決める．講義は出席するのが前提であるため，出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
該当なし．

【学生が準備すべき機器他】
情報教室を使用する．

【その他の重要事項】
ArcGIS は使用可能台数が限られているため，受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう．受講を許可されたにもかかわらず授業に 出てこない学生が毎年いる．他の学生に迷惑をかけないよう，選抜されたという意識を持って授業に臨むこと．遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である．10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること．

社会経済地理学（1）

小原　丈明

授業コード：A3426
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は都市における様々な問題を題材にして，都市の構造や変化，社会的側面などの諸相を考えていきます。具体的には，発生場所や時代，内容などの観点から多岐にわたる都市問題を分類し，その背景や要因を社会的・空間的観点から考えていきます。

【到達目標】
本講義を通じて，地理学の立場から都市に関わる基本的な概念を理解できるようになります。また，都市問題を考えることを通じて，都市に関わる様々な事象の関係性や因果関係を，地理的（＝空間的）な観点から捉える力を身に付けることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。前述の通り，都市における様々な問題を題材にして，都市の構造や変化，社会的側面などの諸相を考えていきます。講義形式の授業であるため，担当者による話題提供が中心となりますが，講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから，授業中ならびに授業外でレポート課題を課すことがあります。授業外のレポート課題では，受講生自身が調べ，分析・考察することが求められます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の方針・内容について
第 2 回	都市の概念・成り立ち①	都市の概念・定義
第 3 回	都市の概念・成り立ち②	集落の成立
第 4 回	都市の概念・成り立ち③	都市の構造
第 5 回	都市問題①	都市問題の種類，発生場所
第 6 回	都市問題②	途上国の都市問題①
第 7 回	都市問題③	途上国の都市問題②
第 8 回	都市問題④	都心部の都市問題①
第 9 回	都市問題⑤	都心部の都市問題②
第 10 回	都市問題⑥	インナーシティの都市問題①
第 11 回	都市問題⑦	インナーシティの都市問題②
第 12 回	都市問題⑧	都市縁辺部の都市問題①
第 13 回	都市問題⑨	都市縁辺部の都市問題②
第 14 回	都市問題⑩	都市問題の時代的変遷
第 15 回	総括	まとめ・補足・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に指示するレポート課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらうことがあります。授業外のレポート課題では，実際に調査を行ってもらい，その上で分析・考察することを求めます。また，講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】
本講義に関連する参考文献は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小レポート課題等）：30 %，筆記試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で，それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義内容は，できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが，受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

社会経済地理学（2）

伊藤　達也

授業コード：A3427
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題にはローカルな問題、グローバルな問題が存在します。本講義ではローカルな環境問題（地域環境問題）を取り上げ、解決に向けての政策課題を考えていきます。具体的なテーマとしては、公害、里山保全、土地改良事業、ダム・河口堰問題、干潟保全、都市環境、ゴミ問題等を考えていますが、今年度は特にゴミ問題に焦点を当ててより具体的な検討を行う予定です。その上で政治・行政に求められる役割、市民運動の活性化、企業の社会貢献活動について考え、最後に地域環境政策に求められる課題を考えていきます。

【到達目標】
環境問題に横たわる政治・経済・社会的要因の理解と、実際に活動する上でのリアリティの確保をめざし、実践的課題への取り組みの第一歩を踏み出すことを目標とします。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です。また、テーマに関連したＤＶＤ・ビデオ・ＰＰ等視聴覚教材を使用することにより、問題に関する理解を深めます。授業内容の理解度を把握するために、毎回、授業の意見・感想用紙を提出してもらい、重要と思える意見・質問については次回の講義で紹介し、説明を加えます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義内容の説明
第 2 回	ローカルな環境問題、グローバルな環境問題	環境問題の類型化を行う
第 3 回	地域環境問題とはなにか	地域レベルで発生する環境問題の内容について明らかにする
第 4 回	４大公害と環境政策の形成	公害の歴史と環境政策の変遷を明らかにする
第 5 回	ダムと河口堰問題	長良川河口堰問題から木曽川水系連絡導水路問題までの歴史と問題点を明らかにする
第 6 回	ゴミとは何か	ゴミの定義を行う
第 7 回	ゴミ問題とは何か (1)	ゴミが問題とされる内容について考える (1)
第 8 回	ゴミ問題とは何か (2)	ゴミが問題とされる内容について考える (2)
第 9 回	リサイクル活動の意義と限界 (1)	リサイクル活動の意義について考える
第 10 回	リサイクル活動の意義と限界 (2)	リサイクル活動の限界について考える
第 11 回	政治・行政の役割－政策の展開－	ゴミ問題に関わって設定された政策・法律について考える
第 12 回	市民運動の活性化－世代間の公平を求めて－	ゴミ問題の解決に向けての市民の役割について考える
第 13 回	企業の社会貢献活動－制御された市場の構築に向けて－	ゴミ問題を通じて持続可能社会の構築に向けて企業が果たすべき役割について考える
第 14 回	地域環境政策の課題	地域社会の中から捉えることのできる環境問題への取り組み方をまとめる
第 15 回	持続可能社会の構築	地球環境と地域環境の整合性を追求した地域社会論について言及する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の準備としては、より積極的に環境問題の文献を読み、授業内容に関する知識の深化に努めてほしい。授業後の行為としては、より実践的に現実問題に近づき、関わることによって、授業内容を机上の空論とせず、現実問題の中で考えることができるようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
参考文献は講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験で評価を行います。試験では講義内容の理解の程度を問います。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
よりテンポよくわかりやすい授業を目指します。学生には積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】
半期の講義の中で１～２度、DVD・ビデオ・パワーポイント等視聴覚教材を使用する予定です。

社会経済地理学（3）

片岡　義晴

授業コード：A3428
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「山村」を対象にして，その問題点を多面的に学びます。

【到達目標】
山村の特色、山村政策・対策、集落の現在、山村の産業、地域づくり、などに焦点を当て、「山村」について学びます。最近、喧伝されている「地方消滅」論についても検討していきたいと思います。

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
近年「限界集落」の存在が世間一般に認知されるようになってきました。それら集落は「山村」に多く存在します。しかし，山村とは「山間地にある村」という、その位置に関するだけの意味を持つ社会的空間なのでしょうか。山村は一種の「社会的空白地域」であり、それら地域は「過疎」という用語によって，これまで一面的に把握されてきたように思われます。「過疎」化は 1960 年代以降顕著になり，その後一時期緩和されましたが，近年再び山村で進展し、今や消滅の危機に直面する集落も数多く存在します。しかし「限界集落」という用語は，そこに居住する人々の立場に立った用語ではなく、その使われ方も現在居住する人を納得させるものではあり得ません。
この授業では「山村」を取り巻く現象、問題をとりあげ検討していきたいと思います。「過疎化」の過程を振り返りつつ、そこから派生する問題や実態を取り上げ、できるだけミクロ（たとえば集落単位で）に、かつ具体的・多面的に「山村」の問題に迫っていきたいと思います。「限界集落」という用語についても再検討していきたいと思っています。またここ数年、喧伝されている「地方消滅論」にも批判的に目を向けていきます。
【授業の方法】
講義形式で授業を進めます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の山村の現局面 (1)	「山村」の概念
第 2 回	日本の山村の現局面 (2)	山村問題の地域性
第 3 回	日本の山村の現局面 (3)	山村問題の構造（都市資本、政策、山村内部）
第 4 回	過疎化の進展と山村振興策 (1)	過疎化の進展過程
第 5 回	過疎化の進展と山村振興策 (2)	山村振興法、過疎法
第 6 回	限界集落・消滅集落 (1)	①限界集落・消滅集落のとらえ方 ②集落の機能
第 7 回	限界集落・消滅集落 (2)	山村の「空洞化」と「限界集落」論の問題点
第 8 回	林業の現状と振興策 (1)	日本林業の動向
第 9 回	林業の現状と振興策 (2)	環境問題への注目と林業振興策
第 10 回	中山間地域農業と振興策 (1)	中山間地域農業の現状
第 11 回	中山間地域農業と振興策 (2)	中山間地域等直接支払制度
第 12 回	地方消滅論	地方消滅は本当か？
第 13 回	地域づくり (1)	山村堰堤論－静岡県龍山村森林組合の事例－
第 14 回	地域づくり (2)	自分たちで命を守ろうとした村－岩手県旧沢内村の事例－
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「地方」に関する報道に注視して下さい。「地方」に関するニュースは、東京近郊に居住していると、新聞ではその「片隅」にしか見いだせません。また、報道されても極めて「牧歌的」に語られるか、あるいは危機窮まっているかのような極端なものが多いのも事実です。それらの真偽のほどは如何に、と考えながら情報収集して下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。プリントを配布します。

【参考書】
授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（論述式試験）で成績評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
「山村問題」の解決策を提示することを、この授業ではめざしません。授業に対して「批判ばかりしている」という評価もしばしば受けます。しかし「客観的事実」を把握し、そのメカニズムを考えることから出発しない限り、真の意味での「解決策」にはなり得ないはずです。「安易」な解決策こそが、百害あって一利なしの、問題をより一層複雑化させている要因です。授業で「解決策」を示せるくらいなら、少なくとも日本からは、地域・社会問題など一掃されているはずです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

社会経済地理学（4）（エコツーリズム）

呉羽　正昭

授業コード：A3481
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光地理学の諸概念，観光に関するさまざまな地域的特徴を詳説するとともに、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの地域的展開と問題点、将来の課題について解説します。

【到達目標】
観光の概念および観光地理学の方法論を習得します。また、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しい観光の形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
観光地理学の諸概念、人びとの観光行動や観光目的地の変化、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの地域的展開と問題点等について、解説します。授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。それは準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明するために使用します。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	観光の概念	観光とは何かを解説する
第 2 回	観光の構造	観光の要素や構造を解説する
第 3 回	観光地理学の概念	その概念および方法論を解説する
第 4 回	観光地域の変容プロセス	モデルに基づいてそのプロセスを解説する
第 5 回	自然環境と観光	自然環境と観光との関係について解説する
第 6 回	観光の転換と新しい観光形態の出現	マスツーリズムの興隆とその変化，新しい観光形態出現の契機やその後の変遷について解説する
第 7 回	エコツーリズムの定義	エコツーリズムとは何かを解説する
第 8 回	エコツーリズムの発展	その発展プロセスを解説する
第 9 回	エコツーリズムの特徴	西表島などの具体例をもとにその特徴を解説する
第 10 回	エコツーリズムの展望	問題点や課題を整理する
第 11 回	日本の自然ツーリズム（1）	避暑の地域的展開に関して解説する
第 12 回	日本の自然ツーリズム（2）	湯治・温泉観光の地域的展開に関して解説する
第 13 回	日本の自然ツーリズム（3）	リゾートの地域的展開に関して解説する
第 14 回	日本のルーラル・ツーリズム	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説する
第 15 回	まとめ	講義全体をまとめて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】
岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房
（財）日本交通公社編 2004『観光読本第 2 版』東洋経済新報社
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社
ピアス，D. 著，内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店，
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
この講義に目標に達したかどうかを期末試験（全体の 60 %）で評価します。また，毎時間提出してもらうリアクションペーパーの内容を評価して平常点（同 40 %）とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

文化地理学（1）

中俣　均

授業コード：A3482
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(人文) 地理学の本流である文化地理学について，古典的・基本的な知識や概念，方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】
(人文) 地理学の本流である文化地理学について，古典的・基本的な知識や概念，方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【授業の進め方と方法】
20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするバークレイ学派の文化地理学を中心に講義し，併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。毎回，講義内容に関連する資料をプリント教材にして配布する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	自然環境決定論（1）	自然環境決定論という考え方
第 4 回	自然環境決定論（2）	E.Huntington の決定論
第 5 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 6 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 7 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史（1）	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史（2）	水田稲作農耕の展開
第 11 回	日本列島の文化史（3）	高度成長期以降の社会変化と景観
第 12 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 13 回	千葉徳爾の文化生態学	沖縄八重山のマラリア問題について
第 14 回	小川徹の分布構造論	平板な分布から歴史的構造を読み取る一方法
第 15 回	日本の文化地理学	その日本的特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】
◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）￥3980.
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）￥2575.
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）￥2520.
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】
原則として学期末の筆記試験（紙媒体なら持ち込み自由）の結果により成績を評価する。なお，ここ数年，出席率が必ずしも芳しくなく単位取得者は登録者のうち約 70 % (昨年までは 80 %と書いていたものだった！）にとどまっている。継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚束ないと心得てほしい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情についても理解してほしい。

文化地理学（2）

中俣　均

授業コード：A3483
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(人文) 地理学の本流である文化地理学について，古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念，方法を解説する。したがって，春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので，文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】
(人文) 地理学の本流である文化地理学について，古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念，方法を学ぶことが目標である。

【授業の進め方と方法】
春学期の講義を踏まえながら，1980 年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と，いわゆる Cultural Turn(文化論的転回) を経た「新しい文化地理学」について紹介し，同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	春学期の復習と補足
第 2 回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第 3 回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第 4 回	主観の地理学 (1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第 5 回	主観の地理学 (2)	人文主義地理学
第 6 回	風水論 (1)	景観創造の主観の解読
第 7 回	風水論 (2)	日本の古代宮都の立地原理
第 8 回	風水論 (3)	現代に生きる風水
第 9 回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第 10 回	文化概念の再考	構築主義へ
第 11 回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第 12 回	伝統文化の創造	Invented Tradition　という考え方について
第 13 回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第 14 回	新しい文化地理学	社会理論への接近
第 15 回	総まとめ	総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】
◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)￥3980.
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）￥2575.
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）￥2520.
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】
原則として学期末の筆記試験（紙媒体なら持ち込み自由）の結果により成績を評価する。なお，ここ数年，出席率が必ずしも芳しくなく単位取得者は登録者のうち約 70 % (昨年度までは 80 %と書いていたものだった！) にとどまっている。継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚束ないと心得てほしい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、それはおそらく社会的には通用しない言い分であろう。本学の教室事情も理解してほしい。

【その他の重要事項】
できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

歴史地理学（1）

川名　禎

授業コード：A3819
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：近世・近代の歴史地理
本講義では、日本の近世・近代における歴史地理について、地域や景観といったキーワードをもとに学びます。過去の地理を明らかにする歴史地理学は、その扱うテーマや対象地域、そして対象とする時代は多岐に及びますが、本講義では特に近世以降における都市と村落の景観及びその機能、そしてそれらを相互的に結びつける交通・流通現象などに焦点をあてて授業を行います。近世・近代の地域や景観は現在の我々の生活に深く関わっており、現代社会の空間を理解するうえでも大変重要であるといえます。また、近年そうした身近な景観に残る歴史的な痕跡について大変関心が高まっています。本講義では、空間的な視点から近世及び近代の社会を捉え、現代社会の理解を深める一助にするとともに、一般的に馴染みの薄い歴史地理学という学問についても、その方法論を学んでいきます。

【到達目標】
この講義の目標は、①地域を歴史的な観点から理解できるようになること、②身近な景観に関心を持てるようになることであり、そのために地図の読図能力を養い、景観観察のポイントを学んでいきます。最終的に歴史地理学という学問に対する理解が深まることを目指します。

【授業の進め方と方法】
1．日本の自然、文化、歴史を通じて明らかになる地域区分について学びます。2．近世を通じて形成された幕領や藩領などの政治的な地域区分の性格について学びます。3．近世都市の景観と機能について都市類型別にその特徴を学びます。4．近世・近代の村落景観について学びます。5．近世と近代における経済構造と交通との関係について学びます。6．近代における地域と災害の関係について考えます。授業では多くの景観写真と地形図をスライドで示し、フィールドの感覚を養います。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方法など
第 2 回	日本の地域	東日本と西日本の地域性などについて学ぶ
第 3 回	近世日本の歴史的地域（三都と藩領）	近世に形成され現代に繋がる「歴史的地域」について学ぶ
第 4 回	近世都市の景観と機能 1（城下町①）	城下町の成立と形態的特徴について学ぶ
第 5 回	近世都市の景観と機能 1（城下町②）	形態から城下町を分類する
第 6 回	近世都市の景観と機能 2（宿場町・港町）	近世交通都市の景観や機能の特徴を学ぶ
第 7 回	近世都市の景観と機能 3（門前町）	門前町の成立、景観、機能について学ぶ
第 8 回	近世都市の景観と機能 4（鉱山町）	近世～現代の鉱山町の特徴について学ぶ
第 9 回	近世都市の景観と機能 5（市場町）	定期市の機能と市場町の景観について学ぶ
第 10 回	近世の村落景観（農村、漁村、山村）	近世村落の景観及び空間的特徴を概観する
第 11 回	近世・近代の開拓村落景観（新田集落）	新田集落の景観を中心に、開拓景観について学ぶ
第 12 回	水上交通の発達（年貢米輸送と水運）	江戸時代における水上交通の重要性について学ぶ
第 13 回	近代鉄道交通の発達（「鉄道忌避伝説」とは？）	明治期における鉄道の発達について学ぶ
第 14 回	災害と場所イメージ（宮沢賢治の災害観）	宮沢賢治の作品に込められた災害観について学ぶ
第 15 回	授業のまとめ	授業の補足及び総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テレビのニュースや天気予報などで伝えられる日本の地理的情報（地名や地域の特徴）についても日ごろから関心を持つよう心がけてください。また、江戸時代以降の基礎的な歴史の知識についても事前に確認しておいてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。適宜、授業内でプリントを配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験で評価します。試験は自筆ノート及び配布資料のみ持ち込み可とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、遠慮なく履修して下さい。

歴史地理学（2）

青木　隆浩

授業コード：A3820
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，近現代の日本を対象として，大規模開発が地域を大きく変貌させてきた様子について学びます。大規模開発は，地域の発展と衰退，それらに伴う景観の変容に多大な影響を与えています。歴史地理学では，それらの様子を時間と空間の両面から分析していくことが課題となっています。さらに，大規模開発は，日常生活や地域文化にも大きな影響を与えています。そこで，この講義では，大規模開発に伴う生活や文化の変容についても触れていきます。

【到達目標】
大規模開発の中でも，農山村におけるダム開発や林業，鉱業などをおもな事例として，地域の盛衰や表象のあり方，景観変化，資源に対する価値観の変化，文化財化など，現在にも通じる様々な課題について歴史から学んでいきます。具体的には，五箇山・白川郷や屋久島，筑豊炭田などを対象として，農山村が激しく変化してきた様子を概観していきます。それらの事例から，地域の歴史的な変化について調査する手法を習得することが，この講義の目標となります。

【授業の進め方と方法】
まず，大規模開発の影響について考えるうえで必要な資源論についての学説史を整理します。その後，個別の事例を検討していきます。なお，講義の内容に関する簡単な作文を書いてもらうことがあります。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容の説明，成績評価の方法について
第 2 回	資源論	地域の資源が発見され，付加価値をもって有用化される意味について考える
第 3 回	ダム開発によって変貌する集落	五箇山・白川郷を事例として，ダム開発による生活と景観の変化について学ぶ
第 4 回	縁辺地域へのまなざし	五箇山・白川郷を事例として，開発以前の縁辺地域に対する学問のまなざしについて学ぶ
第 5 回	ダム開発終了後の過疎化と観光化	五箇山・白川郷を事例として，ダム開発終了後の文化財化と観光化について学ぶ
第 6 回	炭鉱業による集落形成	筑豊炭田を事例として，近代に炭鉱街が形成されていった経緯をみていく
第 7 回	戦後から閉山へ	筑豊炭田を事例として，戦後復興から閉山に向かっていった炭鉱街の生活と景観の返還について学ぶ
第 8 回	炭鉱業のイメージ形成と文化財化	筑豊炭田を事例として，写真集や絵画，ルポを通じた炭鉱業のイメージ形成と文化財化について考える
第 9 回	炭鉱街における資源利用の転換	常磐炭鉱を事例として，閉山前後に温泉の価値が大きく転換した要因について考察する
第 10 回	林道建設から自然保護への転換	白神山地を事例として，林道建設反対運動が自然保護に転換していった経緯を追っていく
第 11 回	建築材から観光スポットへの転換	屋久島を事例として，屋根材として伐採されてきた屋久杉が観光資源に転換した背景と影響について検討する
第 12 回	マングローブ観光に至るまで	西表島を事例として，森林伐採や炭鉱業で開発が進んだ後，自然保護に転換した背景と影響について検討する
第 13 回	沖縄イメージの変遷	沖縄本島をおもな事例として，戦後の開発から沖縄らしさを強調するに至る経緯を追っていく
第 14 回	アイヌ文化の伝統と現在	明治時代に観光資源化されてからのアイヌ文化の表象について考察する
第 15 回	講義のまとめ	近現代の大規模開発が日本各地に与えた影響について再考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域開発や環境保全，資源利用に関する文献をたくさん読んでおくことをおすすめします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】
講義内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 80 %，平常点 20 %の割合で評価します。提出日に遅れたレポートは，病気や怪我などの不可避な理由がない限り受け取りません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
近代史や民俗学に関心をもっている学生にも参考になる内容だと思います。

LA237

人文地理学セミナー

高木　正

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**月・5**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「グローバリゼーション」および「南北問題」は、ともに現在の世界情勢を理解する重要な切り口です。そこで基本文献をテキストとして輪読し、世界システム、先進諸国と発展途上諸国との関係、環境問題、民族分紛争などといったテーマに対し、人文地理学的な視点からアプローチしていきます。そのうえで各自が興味関心を抱くテーマを選び、資料研究の成果を発表することで問題関心を深めていきます。

【到達目標】
現代世界を地理的に理解する視点＝世界観を養い、様々なテーマについて自分なりの定見を持つようにします。

【授業の進め方と方法】
春学期および秋学期の後半はテキストの輪読が中心になります。秋学期の後半からは各自が設定したテーマに則して行った資料研究の成果を発表して貰います。ただ輪読といっても、方法がよくわからないこともあるかもしれないので、最初に文献の読み方、まとめ方、レジュメの書き方などを紹介します。なお、人数によっては予定を変更することがあります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明・進め方	年間計画を説明します。
2	テキストの確認	文献を案内します。発表スケジュールを作成します。
3	輪読・発表の説明－1	輪読の仕方、まとめ方、レジュメ作成方法などを紹介します。
4	輪読・発表の説明－2	レジュメの見本を紹介します。
5	輪読・発表 1-1	グローバリゼーションとは－1
6	輪読・発表 1-2	グローバリゼーションとは－2
7	輪読・発表 1-3	ヨーロッパとアジア－1
8	輪読・発表 1-4	ヨーロッパとアジア－2
9	輪読・発表 1-5	移動と交易
10	輪読・発表 1-6	地域と世界システム－1
11	輪読・発表 1-7	地域と世界システム－2
12	輪読・発表 1-8	地域と世界システム－3
13	輪読・発表 1-9	グローバリゼーションの展望
14	各自テーマの決定	各自の研究テーマを決定します。
15	春学期レポート提出	輪読で作成したレジュメを直して提出して貰います。
16	輪読・発表 2-1	南北問題とは
17	輪読・発表 2-2	南北問題の登場－1
18	輪読・発表 2-3	南北問題の登場－2
19	輪読・発表 2-4	南北問題の展開－1
20	輪読・発表 2-5	南北問題の展開－2
21	輪読・発表 2-6	南北問題の変容
22	輪読・発表 2-7	南北問題の現段階
23	研究発表1	各自が選んだテーマで発表－1
24	研究発表2	－2
25	研究発表3	－3
26	研究発表4	－4
27	研究発5	－5
28	研究発表6	－6
29	研究発表7	－7
30	レポート提出	研究発表した内容を完成させて提出して貰います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できればテキストを事前に入手し、通読しておいてください。またグローバリゼーションや南北問題に関連するニュースや新聞にも注目しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
水島司 (2010)：『グローバル・ヒストリー入門』(世界史リブレット 127)(山川出版)729 円＋税
　室井義雄 (1997)：『南北・南南問題』（世界史リブレット 56）（山川出版）729 円＋税

【参考書】
西川潤 (2014)：『新・世界経済入門』（岩波新書 1482）860 円＋税

【成績評価の方法と基準】
出席、発表内容、レポートの内容で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
常に学生さんの積極的な姿勢を引き出すように努力します。

日本文芸批評史 A

川鍋　義一

昼間時間帯
授業コード：A2553
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　批評だの評論だのというものは、一体、なんでしょうか？　それは文学原論ともいうべきものであり、表現理論であり、創作理論であり、読者の理論であり、作品論・作家論であり、場合によっては社会と人間のあり方を考察する政治論をも射程に入れます。
　要するに鷗外の「小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだ」をもじって、批評・評論というのは論理的な書き方をしてあれば何を書いてもよいものなのです。
　ところが狭い意味での論理性などを無視した批評というのもあって、それが人の心を強く打つものだったりする。そうなると批評ってなんだと考えてみても、もう訳がわかりませんね。困ったものだ。
　ということでこの授業では、たとえば「論理性って文学に必要なのか？」ということを小林秀雄に聞いてみましょう。「文学って自分の体験したこともないことを描けるのか？」ということを有島武郎と一緒に考えてみましょう。「文学は現実を写すことができるのか？」、「文学って役に立つのか？」、「文学は現実とどのように切り結ぶべきなのか？」……といろんな批評に聞いてみましょう。
　そういった難問に向き合った先輩たちの真摯な態度が批評する態度であり、その著作をヒントにして難問と向き合うわたしたち自身の態度が批評であると言えるかもしれません。授業のテーマはそれらの難問に明確な答えを出すことではなく、わたしたち自身が思考する上でのヒントを得ることです。
　上記テーマを達成するためには、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについての理解も必要になります。これらの問題についても知識を身につけていきましょう。

【到達目標】
　上記の問題意識に沿って、文学とはなにか、表現とはなにかということを、論理的な側面から考えられるようにしましょう。

【授業の進め方と方法】
　講義形式。
　文学史上に残る著名な批評を１本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを５講（６作品）で繰り返します。
　以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。
　また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。
　春学期は『小説神髄』から大正末・昭和初期のいわゆる三派鼎立の状況（主に新感覚派）まで。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと予備知識	授業進行の説明と近代文学史理解のための予備知識
第 2 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髄」（抄）：近代文学の言語
第 3 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髄」（抄）：近代文学の内容
第 4 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：時代背景
第 5 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：読解
第 6 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：発展的考察
第 7 回	自然主義：文学は現実を描き得るか	田山花袋「露骨なる描写」：リアリズムとはなにか
第 8 回	自然主義：文学は現実を描き得るか	田山花袋「露骨なる描写」：リアリズム批判
第 9 回	自然主義：文学は現実を描き得るか	田山花袋「露骨なる描写」：発展的考察
第 10 回	白樺派：文学は何を描き得るか	有島武郎「宣言一つ」 武者小路実篤「新しき村に就て」：文学史的背景
第 11 回	白樺派：文学は何を描き得るか	有島武郎「宣言一つ」 武者小路実篤「新しき村に就て」：有島の文学理論
第 12 回	白樺派：文学は何を描き得るか	有島武郎「宣言一つ」 武者小路実篤「新しき村に就て」：体験と文学
第 13 回	三派鼎立の状況	千葉亀雄「新感覚派の誕生」：文学史的背景

第 14 回	三派鼎立の状況	千葉亀雄「新感覚派の誕生」：横光利一作品読解および表現理論への発展的考察
第 15 回	学期末テスト	学期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【明治・大正篇】』（岩波文庫）
品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末の試験（持ち込み不可）：９０％
授業中に数回書いてもらうリアクション：１０％
テキストを熟読し、自分で考え、授業をしっかり理解していることが高評価には必要です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

日本文芸批評史 B

川鍋　義一

昼間時間帯
授業コード：A2555
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「日本文芸批評史 A」と同様、先人たちの批評というたたかいから、わたしたち自身の考えるヒントを得ていきましょう。
秋学期は昭和初年から 1950 年代までの批評を読みます。
したがって、秋学期は春学期の問題意識に加え、もう一つ、戦争（第二次世界大戦）というテーマが加わります。戦争に突き進む時代に、文学者たちはどのように振る舞ったか。戦争中、権力とどのような距離をとったか。戦後、どのように新しい文学・思想を始めたか。
それらの時代に、文学者は流れに抵抗しようとしながらも、流れに棹さし、流れに飲み込まれ、密かに文学の孤塁を守り、あるいはとりかえしのつかないことをしてしまいました。
昨今単純で直線的で勇ましく、痛みを伴わない言説が幅を利かしています。わたしたちはそういう時流といかに向き合うか。そのヒントを得たいと考えます。
秋学期の授業は、「政治と文学」という、近現代文学の難問をいろんな局面で自らの課題として考えることが要求されることでしょう。

【到達目標】
上記のテーマを達成することは、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについて理解することです。これらの問題について、知識を身につけていきましょう。

【授業の進め方と方法】
講義形式。
文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを 4 講（8 作品）で繰り返します。
以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。
また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。
秋学期は三派鼎立のうちプロレタリア文学の理論と、その批判者であった小林秀雄から始めて、吉本隆明までを読みます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学	蔵原惟人「プロレタリヤレアリズムへの道」 ：マルクス主義とはどういうものか
第 2 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学	蔵原惟人「プロレタリヤレアリズムへの道」 ：文学史的背景および蔵原文読解
第 3 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学	小林秀雄「様々なる意匠」 ：印象批評とはなにか
第 4 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学	小林秀雄「様々なる意匠」 ：小林文読解
第 5 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派	武田泰淳「司馬遷伝」 ：戦中文学史概観・転向について
第 6 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派	武田泰淳「司馬遷伝」 ：戦中文学史概観・転向について
第 7 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派	坂口安吾「堕落論」 ：無頼派の戦中・戦後
第 8 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派	坂口安吾「堕落論」 ：その文学史・思想史上の意義
第 9 回	戦後左翼の分岐点	小田切秀雄「文学における戦争責任の追求」 ：『新日本文学』について
第 10 回	戦後左翼の分岐点	平野謙「政治と文学」 ：『近代文学』について
第 11 回	戦後左翼の分岐点	平野謙「政治と文学」 ：「政治と文学」論争
第 12 回	『近代文学』から吉本隆明へ	本多秋五「転向文学論」（抄） 吉本隆明「転向論」 ：本多文読解
第 13 回	『近代文学』から吉本隆明へ	本多秋五「転向文学論」（抄） 吉本隆明「転向論」 ：吉本文読解
第 14 回	『近代文学』から吉本隆明へ	本多秋五「転向文学論」（抄） 吉本隆明「転向論」 ：吉本による換骨奪胎
第 15 回	学期末テスト	学期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末の試験（持ち込み不可）：９０％
授業中に数回書いてもらうリアクション：１０％
テキストを熟読し、自分で考え、授業をしっかり理解していることが高評価には必要です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

日本文芸研究特講（１）上代Ａ

坂本　勝

昼間時間帯
授業コード：A2657
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】
なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解読法を習得する。

【授業の進め方と方法】
古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	授業全体の概説
第 2 回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第 3 回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀、風土記の創生神話を学びます
第 4 回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第 5 回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第 6 回	《黄泉の国》はどこにある	同前
第 7 回	《根の国》の話	同前
第 8 回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第 9 回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第 10 回	《海》の神話	同前
第 11 回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第 12 回	神々と出会う《人》	同前
第 13 回	神々と出会う《時》	同前
第 14 回	現代の《神話》	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます
第 15 回	まとめ	春学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
『はじめての日本神話　古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、７８０円、坂本勝。ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】
参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】
リポート試験（1 回約 80 点）に平常点（出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

日本文芸研究特講（1）上代Ｂ

坂本　勝

昼間時間帯
授業コード：A2658
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】
上代文学の読解研究の基礎的方法を身に着ける。古典の面白さを味わい、ことばの重要性を知る。

【授業の進め方と方法】
万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きたのでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要
第 2 回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第 3 回	額田王	恋と言霊の姫王
第 4 回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第 5 回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第 6 回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第 7 回	同前	同前
第 8 回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第 9 回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第 10 回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第 11 回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第 12 回	東国民衆の歌謡	愛と土の香り
第 13 回	防人歌	東国兵士の悲しみの歌
第 14 回	大伴家持	倭歌の離陸
第 15 回	まとめ	秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
リポート試験（1 回。約 80 %）と平常点（約 20 パーセント。出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）によって評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

日本文芸研究特講（2）中古Ａ

岡田　貴憲

昼間時間帯
授業コード：A2661
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
平安時代に仮名で書かれた「物語」や「日記」などの散文作品は、現代の文学作品とは異なる、興味深い特性を備えています。
本授業では、平安時代の「物語」が備える特性について知見を広げ、各作品がどのように作られていったのか、現在どのような研究上の課題が残されているのかを考えていきます。

【到達目標】
平安時代物語文学の各作品について基礎的な知識を習得する。
それらの作品が備える特性について理解し、専門的な読解・研究に向けた基盤を作る。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、適宜、受講者に発言を求めます。積極的な姿勢での受講を望みます。
質問は随時メールで受け付け、各回の冒頭に回答する時間を設けます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明と導入
第 2 回	物語の誕生（1）	『竹取物語』
第 3 回	物語の誕生（2）	『伊勢物語』①成立
第 4 回	物語の誕生（3）	『伊勢物語』②内容
第 5 回	物語の発達（1）	『平中物語』『篁物語』
第 6 回	物語の発達（2）	『大和物語』
第 7 回	物語の発達（3）	『落窪物語』と散逸物語
第 8 回	二つの長編物語（1）	『うつほ物語』①成立
第 9 回	二つの長編物語（2）	『うつほ物語』②内容
第 10 回	二つの長編物語（3）	『源氏物語』①成立
第 11 回	二つの長編物語（4）	『源氏物語』②内容
第 12 回	『源氏』以降の物語（1）	『狭衣物語』
第 13 回	『源氏』以降の物語（2）	『浜松中納言物語』『夜の寝覚』
第 14 回	『源氏』以降の物語（3）	『堤中納言物語』
第 15 回	まとめ	授業内容に基づくレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取りあげる各作品について、あらかじめ『新編日本古典文学全集』（小学館）や『新日本古典文学大系』（岩波書店）などを参照しておく。
期末レポートの作成に向け、授業内容の中で関心を持った事柄について、図書館などで調べておく。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（80 %）と平常点（20 %）による、5段階（A＋・A・B・C・D）の絶対評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度からの担当のため無記載

日本文芸研究特講（2）中古Ｂ

岡田　貴憲

昼間時間帯
授業コード：A2662
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
平安時代に仮名で書かれた「物語」や「日記」などの散文作品は、現代の文学作品とは異なる、興味深い特性を備えています。
本授業では、平安時代の「日記」と、「歌物語」や「私家集」などの周辺作品とを併せて取りあげ、「物語」と共通・相違する特性について知見を深め、現在どのような研究上の課題が残されているのかを考えていきます。

【到達目標】
平安時代日記文学の各作品について基礎的な知識を習得する。
それらの作品が備える特性について理解し、専門的な読解・研究に向けた基盤を作る。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めますが、受講者に発言を求める場合があります。積極的な姿勢での受講を望みます。
質問は随時メールで受け付け、各回の冒頭に回答する時間を設けます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明と導入
第 2 回	日記の誕生（1）	『土佐日記』①成立
第 3 回	日記の誕生（2）	『土佐日記』②内容
第 4 回	日記の誕生（3）	『蜻蛉日記』①成立
第 5 回	日記の誕生（4）	『蜻蛉日記』②内容
第 6 回	日記と私家集（1）	『伊勢集』
第 7 回	日記と私家集（2）	『一条摂政御集』
第 8 回	日記と私家集（3）	『成尋阿闍梨母集』
第 9 回	日記と物語（1）	『伊勢物語』『平中物語』『多武峰少将物語』
第 10 回	日記と物語（2）	『和泉式部日記』①成立
第 11 回	日記と物語（3）	『和泉式部日記』②内容
第 12 回	『源氏』前後の日記（1）	『枕草子』
第 13 回	『源氏』前後の日記（2）	『紫式部日記』『栄花物語』
第 14 回	『源氏』前後の日記（3）	『更級日記』
第 15 回	まとめ	授業内容に基づくレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取りあげる各作品について、あらかじめ『新編日本古典文学全集』（小学館）や『新日本古典文学大系』（岩波書店）などを参照しておく。
期末レポートの作成に向け、授業内容の中で関心を持った事柄について、図書館などで調べておく。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（80 %）と平常点（20 %）による、5段階（A＋・A・B・C・D）の絶対評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度からの担当のため無記載

日本文芸研究特講（3）中世Ａ

小秋元　段

昼間時間帯
授業コード：A2665
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世の説話と和歌

【到達目標】
1．中世文学の歴史を理解する。
2．説話と和歌を原文で読み、その内容を理解する。

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎時間、作品の解題（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。中世という時代の概説。
第 2 回	『今昔物語集』 1	『今昔物語集』の解題・講読。
第 3 回	『今昔物語集』 2	『今昔物語集』の講読。
第 4 回	『宇治拾遺物語』 1	『宇治拾遺物語』の解題・講読。
第 5 回	『宇治拾遺物語』 2	『宇治拾遺物語』の講読。
第 6 回	『十訓抄』	『十訓抄』の解題・講読。
第 7 回	『古今著聞集』	『古今著聞集』の解題・講読。
第 8 回	『宝物集』	『宝物集』の解題・講読。
第 9 回	『発心集』	『発心集』の解題・講読。
第 10 回	和歌の基礎知識	和歌および和歌集に関する解説。
第 11 回	院政期和歌の展開	院政期（平安時代末期）の歌風の変遷に関する解説。
第 12 回	本歌取りの誕生	本歌取りの誕生、理念、方法についての解説。
第 13 回	『新古今和歌集』	『新古今和歌集』の解題・講読。
第 14 回	歌学書の世界	『無名抄』の解題・講読。
第 15 回	中世和歌の展開	鎌倉期の歌壇と和歌についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。その理解に自身のない学生は、個々に自習することを望む。

【テキスト（教科書）】
プリント使用。

【参考書】
『日本古典文学大辞典』全6巻（岩波書店）
『日本古典文学大事典』（明治書院）
小山弘志『日本文学新史〈中世〉』（至文堂）

【成績評価の方法と基準】
毎時のコメントカード…… 30 %
期末試験…… 70 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書が少ないという声があったので、改善したい。だが、大学での授業では、講述される内容のうち、大事な点を聞き取ってノートにメモすることも必要だと考える。

日本文芸研究特講（3）中世Ｂ

小秋元　段

昼間時間帯
授業コード：A2666
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
軍記物語の世界

【到達目標】
中世文学の歴史を詳しく知りたい人のための授業です。授業の到達目標は、中世の軍記物語に具体的に触れ、その特色と展開を理解するところにあります。

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎時間、作品の解題（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。軍記物語の概説。
第 2 回	『保元物語』 1	『保元物語』の解題・講読。
第 3 回	『保元物語』 2	『保元物語』の講読。
第 4 回	『平治物語』 1	『平治物語』の解題・講読。
第 5 回	『平治物語』 2	『平治物語』の講読。
第 6 回	『平家物語』 1	『平家物語』の解題・講読。
第 7 回	『平家物語』 2	『平家物語』の講読。
第 8 回	『平家物語』 3	『平家物語』の講読。
第 9 回	『平家物語』 4	『平家物語』の講読。
第 10 回	『承久記』	『承久記』の解題・講読。
第 11 回	『太平記』 1	『太平記』の解題・講読。
第 12 回	『太平記』 2	『太平記』の講読。
第 13 回	『太平記』 3	『太平記』の講読。
第 14 回	『曽我物語』	『曽我物語』の解題・講読。
第 15 回	『義経記』	『義経記』の解題・講読。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。その理解に自身のない学生は、個々に自習することを望む。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
『日本古典文学大辞典』全６巻（岩波書店、1983～85 年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998 年）
小山弘志『日本文学新史〈中世〉』（至文堂、1990 年）
『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）

【成績評価の方法と基準】
毎時間提出してもらうコメントカード　40 %
期末試験　60 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
コメントカードを利用した授業展開に支持が集まりました。毎回、授業の 15～20 分程度は、コメントカードに書かれた質問事項の解説にあてる予定です。

日本文芸研究特講（4）近世Ａ

浅沼　博

昼間時間帯
授業コード：A2669
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
松尾芭蕉を代表とする諸作品を読み解くことにより、発句（俳句）と俳諧連歌（連句）の関係性を学ぶ。

【到達目標】
原文を読み、俳句と連句の関係性について自分の文章で論述できるようにする。

【授業の進め方と方法】
テキストにそった講義形式を主とする。俳句や連句の特性を解説しつつ、具体的に作品を読んでいく。
またアクティブ・ラーニングの一環として、俳句や連句の体験学習も取り入れる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	俳句・連句という呼称	俳諧連歌から俳句・連句への過程
第 2 回	「句」という単位	さまざまな呼称の所以
第 3 回	「二句一章」という方法	前句と付句の関係性について
第 4 回	「取合せ」ｖｓ「二句一章」	切字と付合の関係性について
第 5 回	「二句一章」×２＝「三句の渡り」	前句の両義化について
第 6 回	「三段切れ」ｖｓ「三句の渡り」	三句の転じについて
第 7 回	芭蕉の連句・序	「山中三吟」の捌について
第 8 回	芭蕉の連句・破	「山中三吟」の自他場について
第 9 回	芭蕉の連句・急	「山中三吟」の活字化について
第 10 回	西鶴の連句	詠史の取成しについて
第 11 回	蕪村の連句	発話体の取成しについて
第 12 回	一茶の連句	屋外への転じについて
第 13 回	其角の発句	無心所着について
第 14 回	まとめ	試験範囲の確認
第 15 回	試験	論述問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな俳諧用語が出てくるので、進捗状況に合わせてテキストの予習・復習を毎週行う。

【テキスト（教科書）】
『俳句・連句ＲＥＭＩＸ』浅沼璞（東京四季出版）

【参考書】
進捗状況にあわせ、講義内で伝える。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％（体験学習も加味する）
論述試験６０％（内容の具体性を評価基準とする）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度授業担当者変更につき特になし。

【その他の重要事項】
体験学習は受講者数に見合った範囲で行う。

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

浅沼　博

昼間時間帯
授業コード：A2670
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
井原西鶴の俳諧を他の近世文芸と比較することにより、それらの関係性を学ぶ。

【到達目標】
原文を読み、西鶴俳諧を中心とした近世文芸の関係性について自分の文章で論述できるようにする。

【授業の進め方と方法】
テキストにそった講義形式を主とする。西鶴俳諧を中心とした近世文芸の関係性を解説しつつ、具体的に作品を読んでいく。
またアクティブ・ラーニングの一環として、連句の体験学習も取り入れる。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	西鶴の独吟連句	矢数俳諧の特質について
第２回	浮世草子との比較	『諸艶大鑑』の一節を読む
第３回	浮世草子の韻律との比較	『好色一代男』の一節を読む
第４回	西鶴独吟の発句	雅と俗の取合せを読む
第５回	西鶴独吟の発句と脇句	滑稽と写実の両義性を読む
第６回	西鶴独吟の脇句と第三	三句の転じを読む
第７回	西鶴独吟の第三と四句目	四句目ぶりを読む
第８回	西鶴独吟の四句目と五句目	抜け（省略法）を読む
第９回	西鶴独吟の五句目と六句目	無心所着体を読む
第10回	其角との比較	『葛の松原』を読む
第11回	宗祇との比較	『醒酔笑』の一節を読む
第12回	宗因との比較	宗因の発句を読む
第13回	近松との比較	『女殺油地獄』の一節を読む
第14回	まとめ	試験範囲の確認
第15回	試験	論述問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな俳諧用語が出てくるので、進捗状況に合わせてテキストの予習・復習を毎週行う。

【テキスト（教科書）】
『俳句・連句ＲＥＭＩＸ』浅沼璞（東京四季出版）

【参考書】
『西鶴という鬼才』浅沼璞（新潮社）電子ブックあり

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％（体験学習も加味する）
論述試験６０％（内容の具体性を評価基準とする）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度授業担当者変更につき特になし。

【その他の重要事項】
体験学習は受講者数に見合った範囲で行う。

日本文芸研究特講（６）現代Ａ

田中　実

昼間時間帯
授業コード：A2677
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
森鷗外の明治 40 年代以降の短編小説を丁寧に読んでいく。具体的には『半日』、『鶏』、『追儺』等を中心にする。

【到達目標】
近代小説とは何かを相対化し、読書行為を意識化することによって、近代小説の可能性を新たに引き出すことを到達目標とする。

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎回授業の終わりに、小レポート・感想文を書いてもらう。そこで出された疑問や質問は次の授業で採り上げて回答する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	近代文学の概要	担当者の自己紹介と近代文学とは何かの概要を講義する。
第２回	近代小説と近代の物語	近代小説と近代の物語の相違について解説する。
第３回	読むことを読む	読むことという行為がいかなるものであるかについて解説する。
第４回	森鷗外『半日』の構造分析１	森鷗外の『半日』を題材にして、ストーリーとプロットの相関を中心に分析する。
第５回	森鷗外『半日』の構造分析２	森鷗外の『半日』を題材にして、プロットとメタプロットの相関を中心に分析する。
第６回	森鷗外『半日』の構造分析３	森鷗外の『半日』を題材にして、語り手と出来事の相関を中心に分析する。
第７回	森鷗外の『追儺』の構造分析１	森鷗外の『追儺』を題材にして、ストーリー、プロット、メタプロットの相関を中心に分析する。
第８回	森鷗外の『追儺』の構造分析２	森鷗外の『追儺』を題材にして、語り手と出来事の相関を中心に分析する。
第９回	森鷗外の『鶏』の構造分析１	森鷗外の『鶏』を題材にして、ストーリーとプロットの相関を中心に分析する。
第10回	森鷗外の『鶏』の構造分析２	森鷗外の『鶏』を題材にして、プロットとメタプロットの相関を中心に分析する。
第11回	森鷗外の『鶏』の構造分析３	森鷗外の『鶏』を題材にして、語り手と出来事の相関を中心に分析する。
第12回	森鷗外の短編小説とは何か１	世界観認識と近代小説の方法論の切り口から、森鷗外の短編小説全般について解説する。
第13回	森鷗外の短編小説とは何か２	語りの構造の切り口から、森鷗外の短編小説全般について解説する。
第14回	森鷗外の短編小説とは何か３	了解不能の〈他者〉の切り口から、森鷗外の短編小説全般について解説する。
第15回	総合的解説	語り―語られ―聴くという文学空間について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、各自自身が何を意識し、抱え込んでいるかに向き合いながら授業に参加してほしい。

【テキスト（教科書）】
テキストはコピーして配布する。

【参考書】
田中実著『小説の力　―新しい作品論のために』（大修館書店）
田中実著『読みのアナーキーを超えて　―いのちと文学』（右文書院）
田中実監修　相沢毅彦・大谷哲・齋藤知也・佐野正俊・馬場重行編『「読むこと」の術語集　―文学研究・文学教育―』（双文社）

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート 70 %、平常点 30 %。レポートの評価の基準は授業の内容をいかに理解し学習したか、これを文章にどれほど表現できたかに置く。平常点の評価は毎回の出席、授業態度、小レポートによって判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回授業の終わりに、小レポート・感想文を書いてもらう。質問や感想を各自率直に記述してもらい、できるだけその問題を次回の講義に織り込み、回答するようにしたい。

日本文芸研究特講（6）現代B

田中　実

昼間時間帯
授業コード：A2678
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
森鷗外の明治 40 年代以降の短編小説を丁寧に読んでいく。具体的には『妄想』、『不思議な鏡』、『かのように』等を中心にする。

【到達目標】
近代小説とは何かを相対化し、読書行為を意識化することによって、近代小説の可能性を新たに引き出すことを到達目標とする。

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎回授業の終わりに、小レポート・感想文を書いてもらう。そこで出された疑問や質問は次の授業で採り上げて回答する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	近代文学の概要	担当者の自己紹介と近代文学とは何かの概要を講義する。
第 2 回	近代小説と近代の物語	近代小説と近代の物語の相違について解説する。
第 3 回	読むことを読む	読むことという行為がいかなるものであるかについて解説する。
第 4 回	森鷗外『妄想』の構造分析 1	森鷗外の『妄想』を題材にして、ストーリーとプロットの相関を中心に分析する。
第 5 回	森鷗外『妄想』の構造分析 2	森鷗外の『妄想』を題材にして、プロットとメタプロットの相関を中心に分析する。
第 6 回	森鷗外『妄想』の構造分析 3	森鷗外の『妄想』を題材にして、語り手と出来事の相関を中心に分析する。
第 7 回	森鷗外の『不思議な鏡』の構造分析 1	森鷗外の『不思議な鏡』を題材にして、ストーリー、プロット、メタプロットの相関を中心に分析する。
第 8 回	森鷗外の『不思議な鏡』の構造分析 2	森鷗外の『不思議な鏡』を題材にして、語り手と出来事の相関を中心に分析する。
第 9 回	森鷗外の『かのように』の構造分析 1	森鷗外の『かのように』を題材にして、ストーリーとプロットの相関を中心に分析する。
第 10 回	森鷗外の『かのように』の構造分析 2	森鷗外の『かのように』を題材にして、プロットとメタプロットの相関を中心に分析する。
第 11 回	森鷗外の『かのように』の構造分析 3	森鷗外の『かのように』を題材にして、語り手と出来事の相関を中心に分析する。
第 12 回	森鷗外の短編小説とは何か 1	世界観認識と近代小説の方法論の切り口から、森鷗外の短編小説全般について解説する。
第 13 回	森鷗外の短編小説とは何か 2	語りの構造の切り口から、森鷗外の短編小説全般について解説する。
第 14 回	森鷗外の短編小説とは何か 3	了解不能の〈他者〉の切り口から、森鷗外の短編小説全般について解説する。
第 15 回	総合的解説	語り―語られ―聴くという文学空間について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、各自自身が何を意識し、抱え込んでいるかに向き合いながら授業に参加してほしい。

【テキスト（教科書）】
テキストはコピーして配布する。

【参考書】
田中実著『小説の力　―新しい作品論のために』（大修館書店）
田中実著『読みのアナーキーを超えて　―いのちと文学』（右文書院）
田中実監修　相沢毅彦・大谷哲・齋藤知也・佐野正俊・馬場重行編『「読むこと」の術語集　―文学研究・文学教育―』（双文社）

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート 70 %、平常点 30 %。レポートの評価の基準は授業の内容をいかに理解し学習したか、これを文章にどれほど表現できたかに置く。平常点の評価は毎回の出席、授業態度、小レポートによって判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回授業の終わりに、小レポート・感想文を書いてもらう。質問や感想を各自率直に記述してもらい、できるだけその問題を次回の講義に織り込み、回答するようにしたい。

日本文芸研究特講（7）漢文A

黒田　真美子

昼間時間帯
授業コード：A2681
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【故事成語に学ぶ中国古典】歴史篇
　故事成語を生み出した中国古代の文章（主に歴史書）を読解し、中国の歴史と文化の中から浮び上がる多様な人間と生き様を考察して中国古典への理解を深めるとともに、漢文読解能力を養う。
中国古代の歴史は、内では権力闘争、外では異民族との抗争によって、恒常的に戦乱状況にあったといって過言ではない。常に死と向き合わざるを得ない過酷な極限状況の中では、人間の真実の姿が露呈される。時代に翻弄されながらも、何とか生き延びようとする熾烈な人間ドラマが表出され、その突出した言動が、故事成語として凝縮された。熱い友情や高邁な理想、生き延びるために生まれた数々の智慧などの正の要素のみならず、裏切り、挫折、絶望などの人間の暗部から生まれた名言も看取される。それらが 2000 年の時の荒波を越えて、時空を異にする現代の日本にも伝わっている。混迷を深める世界とそれに巻き込まれそうな不安が渦巻く日本の現況にとって、それから学ぶ意味は決して小さくないといえよう。

【到達目標】
1，漢文の基本的文法・句法を理解する。
2，漢文の基本的知識や訓読を習得する。
3，故事成語の出典となる原文を読んで、その意味を深く理解する。
4，出典である書籍の解題を知り、中国古典の知識を深める。
5，時代背景として中国古代の歴史を理解するとともに、日本に与えた影響をも理解する。

【授業の進め方と方法】
　授業方法は、基本的に講義形式。基本的知識に関する導入を行い、その後は書籍解題を説明し、文法ポイントを押さえながら、原文を精読する。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序論（導入）	中国古代先秦・漢代の歴史概説、参考文献・工具書の紹介
第 2 回	先秦時代の史書における故事成語	『春秋左氏伝』解題と『春秋左氏伝』中の故事成語「病入膏肓」など
第 3 回	先秦時代の史書における故事成語	『春秋左氏伝』中の故事成語「宋襄仁」など
第 4 回	先秦時代の史書における故事成語	『春秋左氏伝』中の故事成語「大義滅親」など
第 5 回	先秦時代の史書における故事成語	『戦国策』解題と『戦国策』中の故事成語「借虎之威」など
第 6 回	先秦時代の史書における故事成語	『戦国策』中の故事成語「蛇足」など
第 7 回	先秦時代の史書における故事成語	『戦国策』中の故事成語「先従隗始」など
第 8 回	秦漢時代の史書における故事成語	『呂氏春秋』解題と『呂氏春秋』中の故事成語「刻舟求剣」など
第 9 回	先秦時代を背景とした故事成語	『史記』解題と『史記』中の故事成語「管鮑の交わり」など
第 10 回	先秦時代を背景とした故事成語	『史記』中の故事成語「鶏口牛後」など
第 11 回	秦漢時代の史書における故事成語	『史記』中の故事成語「燕雀安知鴻鵠之志」など
第 12 回	秦漢時代の史書における故事成語	『史記』中の故事成語「王侯将相寧有種」など
第 13 回	秦漢時代の史書における故事成語	『史記』中の故事成語「士為知己者死」など
第 14 回	秦漢時代の史書における故事成語	『史記』中の故事成語「桃李不言、下自成蹊」など
第 15 回	秦漢時代の史書における故事成語	『史記』中の故事成語「国士無双」など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊テキストのプリントは、1 週間以上前に配布するので、必ず予習（辞書を引き、読解し、訓読する）して、問題点を明確にしておくこと。
＊授業で習得した知識や明らかになった問題点を、授業後、整理復習して理解を着実にすること。

【テキスト（教科書）】
テキスト
　テキストは不要。随時、プリント配布。

【参考書】
参考書は、その都度、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞

期末の筆記試験 80 %、リアクションペーパーの内容評価 20 %。
＜基準＞
＊基本的知識の理解程度
＊文学や歴史的観点への関心の度合い
＊漢文の文法・読解力習得の如何

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケートでは、新たな知識を得た喜びを記されることが多いが、それは漢文や中国古典の知識が乏しいことの裏返しでもある。それ故、難解だという感想も少なくない。したがってできるだけわかりやすい説明と工夫を心がけたい。

日本文芸研究特講（7）漢文 B

黒田　真美子

昼間時間帯
授業コード：A2682
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【故事成語に学ぶ中国古典 漢詩篇】
中国古代の歴史は、内では権力闘争、外では異民族との抗争によって、恒常的に戦乱状況にあったといって過言ではない。常に死と向き合わざるを得ない過酷な極限状況の中では、人間の真実の姿が露呈される。時代に翻弄されながらも、何とか生き延びようとする熾烈な人間ドラマが表出され、その情念が詩となり、名句は故事成語として後世に伝わった。熱い友情や高邁な理想、生き延びるために生まれた数々の智慧などの正の要素のみならず、挫折や絶望などの人間の暗部から生まれた名句も看取される。それらが 2000 年の時の荒波を越えて、時空を異にする現代の日本にも伝わっている。混迷を深める世界とそれに巻き込まれそうな不安が渦巻く日本の現況にとって、それから学ぶ意味は決して小さくない。故事成語としての名句名詩を味読し、中国の歴史と文化の中から浮び上がる多様な人間とその生き様を考察して中国古典への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
1，漢詩の基本的知識や句法を習得する。
2，故事成語の出典となる漢詩を読んで、その意味を深く理解する。
3，各時代の代表的詩人の作品を味読して、その特質を分析する。
4，各時代の社会的状況と詩人との関わりを考察する。
5，日本に与えた影響をも理解する。

【授業の進め方と方法】
授業の進め方は、唐代から時系列に沿って、故事成語を含む漢詩と詩人を対象に考察する。
授業方法は、基本的に講義形式。基本的知識や参考文献の紹介などの導入を行い、その後は故事成語を中心に、作品と詩人について説明し、時代と詩人の関わりを勘案しながら味読する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習と秋学期の予定	春学期で習得した漢文の基礎知識や方法論の復習と秋学期の対象作品の紹介
第 2 回	唐宋時代概観	唐宋時代の歴史的状況説明と代表的漢詩人や作品の解説
第 3 回	唐代の故事成語 1 初唐	魏徴とその故事成語
第 4 回	唐代の故事成語 1 初唐	杜荀鶴・劉希夷とその故事成語
第 5 回	唐代の故事成語 2 盛唐	孟浩然とその故事成語
第 6 回	唐代の故事成語 2 盛唐	李白とその故事成語
第 7 回	唐代の故事成語 2 盛唐	杜甫とその故事成語
第 8 回	唐代の故事成語 2 盛唐	杜甫とその故事成語
第 9 回	唐代の故事成語 3 中唐	白居易とその故事成語
第 10 回	唐代の故事成語 3 中唐	韓愈・孟郊とその故事成語
第 11 回	唐代の故事成語 4 晩唐	杜牧・曹松とその故事成語
第 12 回	宋代の故事成語 1 北宋	王安石とその故事成語
第 13 回	宋代の故事成語 1 北宋	蘇軾とその故事成語
第 14 回	宋代の故事成語 2 南宋	陸游とその故事成語
第 15 回	宋代の故事成語 2 南宋	朱熹・文天祥とその故事成語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊テキストのプリントは、1 週間以上前に配布するので、必ず予習（辞書を引き、読解し、訓読する）して、問題点を明確にしておくこと。
＊授業で習得した知識や明らかになった問題点を、授業後、整理復習して理解を着実にすること。

【テキスト（教科書）】
テキストは不要。随時、プリント配布。

【参考書】
参考書は、その都度、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価方法＞
期末の筆記試験の成績 80 %、リアクションペーパーの内容 20 %。
＜基準＞
＊基本的知識の理解程度
＊文学や歴史的観点への関心の度合い

＊漢詩批評の方法論の習得の如何

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケートでは、新たな知識を得た喜びを記されることが多いが、それは漢詩や中国古典の知識が乏しいことの裏返しでもある。それ故、難解だという感想も少なくない。したがってできるだけわかりやすい説明と工夫を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
漢詩紀行などのＤＶＤ鑑賞

日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ａ

スティーヴン・ネルソン

昼間時間帯
授業コード：A2693
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の古典音楽（1）古代から中世にかけて成立したジャンル。日本の古典文学作品の中に、本来音楽と結び付いた作品が多く、そうでない場合でも音楽やその演奏場面を描写する文章がたくさん現れます。ところが、現代の私たちの多くにとって、日本の古典音楽との関わりは非常に限られたものであり、当時の有り様を類推したり、文学表現の豊かさを味わったりすることが困難になっています。その状況に対処することが本講義の目的です。

【到達目標】
本講義の主な目標は、多くの古典音楽・芸能とその特徴を知ってもらい、古典文学の読者として持ってほしい古典音楽・芸能の「常識」と、古典音楽の種目を聞き分けたり想像したりできる「耳」（聴覚）を養うことです。

【授業の進め方と方法】
春学期では序説のあと、古代から中世にかけて成立した諸種目を取り上げて、その歴史的背景と変遷、こんにち伝承されている形における音楽的特徴などをみていきます。但し、特殊な音楽専門知識や演奏体験を必要としません。基本的には講義形式で行います。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。理解を助けるために、音楽の演奏場面などを描いた画像資料やビデオ、ＣＤなどの視聴覚資料を多用します。また、多くの音楽を知ってもらうことが目標の一つなので、授業で取り上げる曲の入った自習用リスニングＣＤ（１枚）を配付します。予習・復習に活用してください。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 自己紹介　アンケートなど
第 2 回	日本において音楽とは	概念規定　時代区分など
第 3 回	日本の楽器①	楽器の種類・分類法 文学作品の演奏場面　描かれた楽器
第 4 回	雅楽とは	諸種目と歴史の流れ
第 5 回	国風歌舞	神への奉納としての歌舞
第 6 回	舞楽	平安の年中行事　左舞と右舞
第 7 回	管絃	「御遊」とは何か　音楽と音楽説話
第 8 回	催馬楽	途絶えた音楽の復興
第 9 回	朗詠	「二の句が継げない」
第 10 回	声明とは	日本の仏教と音楽　法会と法要
第 11 回	声明の言語と音楽様式①	梵語と漢語の曲種
第 12 回	声明の言語と音楽様式②	漢文訓読体と和文の曲種
第 13 回	講式	「語る」声明の特徴
第 14 回	琵琶伴奏の音楽①	平家語り　歴史の流れ
第 15 回	琵琶伴奏の音楽②	平家語り　曲節構造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習：
第 1 回　特になし
第 2 回　テキスト pp.11-13「分類用語」
第 3 回　テキスト　次の項目の図を中心に見ておくこと。pp.33-35「楽器」、pp.41-4「楽器」、pp.51-54「楽器」、pp.64-66「囃子」、pp.88-95「楽器」、pp.119-121「楽器」、pp.133-136「楽器」
第 4 回　テキスト p.17「雅楽」
第 5 回　テキスト pp.21-24「国風歌舞」～「大歌」
第 6 回　テキスト pp.17-21「概論」の内「舞楽」～「伎楽」
第 7 回　テキスト pp.24-25「管絃」、p.26「御遊」
第 8 回　テキスト p.24「催馬楽」
第 9 回　テキスト p.24「朗詠」
第 10 回　テキスト pp.36-37「仏教音楽」「声明」、pp.40-41「法会」
第 11 回　テキスト p.37「梵唄」、p.38「唄」～「讃」
第 12 回　テキスト pp.37-38「論義（論議）」、「和讃」
第 13 回　テキスト p.37「講式」
第 14 回　テキスト pp.45-46「琵琶楽」、pp.46-48「雅楽」・「平家」、pp.51-52「琵琶」～「平家琵琶」

【テキスト（教科書）】
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007 年）。その他、必要に応じてプリントを配付します。

【参考書】
授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 30 %、リスニングＣＤの内容を問う試験（持ち込み不可）40 %、期末レポート（試験時に提出）30 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ｂ

スティーヴン・ネルソン

昼間時間帯
授業コード：A2694
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の古典音楽（2）中世から近世にかけて成立したジャンル。日本の古典文学作品の中に、本来音楽と結び付いた作品が多く、そうでない場合でも音楽やその演奏場面を描写する文章がたくさん現れます。ところが、現代の私たちの多くにとって、日本の古典音楽との関わりは非常に限られたものであり、当時の有り様を類推したり、文学表現の豊かさを味わったりすることが困難になっています。その状況に対処することが本講義の目的です。

【到達目標】
本講義の主な目標は、多くの古典音楽・芸能とその特徴を知ってもらい、古典文学の読者として持ってほしい古典音楽・芸能の「常識」と、古典音楽の種目を聞き分けたり想像したりできる「耳」（聴覚）を養うことです。

【授業の進め方と方法】
秋学期では春学期に続いて、中世から近世にかけて成立したジャンルを取り上げ、その歴史的背景と変遷、こんにち伝承されている形における音楽的特徴などをみていきます。但し、特殊な音楽専門知識や演奏体験を必要としません。基本的には講義形式で行います。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。理解を助けるために、音楽の演奏場面などを描いた画像資料やビデオ、ＣＤなどの視聴覚資料を多用します。また、多くの音楽を知ってもらうことが目標の一つなので、授業で取り上げる曲の入った自習用リスニングＣＤ（１枚）を配付します。予習・復習に活用してください。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	能とは	中世の歌舞劇の歴史と現状
第 2 回	能の音楽	小段構造、リズム法など
第 3 回	三味線音楽	江戸時代の歌と語りの伴奏楽器 種目のさまざま
第 4 回	浄瑠璃①	義太夫節と人形浄瑠璃（文楽）
第 5 回	浄瑠璃②	常磐津節と歌舞伎舞踊
第 6 回	浄瑠璃③	清元節と歌舞伎舞踊
第 7 回	長唄	江戸音曲の代表
第 8 回	箏曲	箏組歌、段物など
第 9 回	地歌	三味線組歌、端歌など
第 10 回	地歌箏曲	手事物、京風手事物
第 11 回	山田流箏曲	江戸で流行った流派
第 12 回	尺八	本曲と外曲
第 13 回	琵琶伴奏の音楽	薩摩琵琶・筑前琵琶
第 14 回	浪花節（浪曲）	近代日本大衆芸能の代表
第 15 回	国家と国歌	あの独特な響きは何から生まれたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習：
第 1 回　テキスト pp.57-63「能」～「能・狂言の役籍と流儀」
第 2 回　テキスト pp.64-72「音楽」
第 3 回　テキスト pp.76-80「三味線音楽」～「種類」、pp.88-93「三味線」
第 4 回　テキスト p.78「浄瑠璃」、pp.80-81「義太夫節」、pp.102-106「人形浄瑠璃」
第 5 回　テキスト pp.78-79「豊後系浄瑠璃」、pp.82-83「常磐津節」
第 6 回　テキスト p.83「清元節」、pp.96-98「楽曲構成用語」
第 7 回　テキスト p.78「うた」、pp.84-85「長唄」、pp.79「観賞用長唄」
第 8 回　テキスト pp.119-126「箏曲」～「箏組歌」・「段物」
第 9 回　テキスト pp.114-118「地歌」～「楽譜」
第 10 回　テキスト pp.126-128「地歌系箏曲」・「合奏」
第 11 回　テキスト p.126「山田流箏曲」
第 12 回　テキスト pp.131-133「尺八音楽」～「本曲」・「外曲」
第 13 回　テキスト pp.49-51「薩摩琵琶」・「薩摩琵琶」、pp.53-56「薩摩琵琶」・「薩摩琵琶」（楽器）
第 14 回　テキスト p.87「説経節」・「浪曲」
第 15 回　特になし。正月の間、どんな古典音楽が、どこから聞こえたが、気に留めておきましょう。

【テキスト（教科書）】
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007 年）。その他、必要に応じてプリントを配付します。

【参考書】
授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 30 %、リスニングＣＤの内容を問う試験（持ち込み不可）40 %、期末レポート（試験時に提出）30 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
できるだけ同じ特講の春学期、音楽芸能史Ａを合わせて履修してください。

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ａ

スティーヴン・ネルソン

昼間時間帯
授業コード：A2703
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に 2 つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人 3 人が、海外へ発信するために英文で著した次の文章です。
・内村鑑三（1861 – 1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese*［1894］の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862 – 1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862 – 1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】
・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る。
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る。
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や美術が世界的に知られていったプロセスを知る。

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 7・11・15 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1 ～ 3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	「（国際）日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第 3 回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第 4 回	ヨーロッパ人との出会い	キリスト教宣教師の見聞 ザビエルとフロイス
第 5 回	江戸期という「閉ざされた時代」の中で	長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学 国学の系譜
第 6 回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第 7 回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 8 回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第 9 回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第 10 回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第 11 回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 12 回	ジャポニスムと音楽	オペレッタ《ミカド》とオペラ《蝶々夫人》
第 13 回	日本文学の再評価①	フェノロサのノートから、パウンド・イェイツの能
第 14 回	日本文学の再評価②	ウェイリーが訳した能と『源氏物語』
第 15 回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 7・11・15 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第 6 回　テキスト pp.10-17
第 8 回　テキスト pp.18-23
第 9 回　テキスト pp.64-69、70-77
第 13 回　テキスト pp.104-111
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

【テキスト（教科書）】
佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（30 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（30 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ｂ

スティーヴン・ネルソン

昼間時間帯
授業コード：A2704
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword*（菊と刀、1946）と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960 年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】
·「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る。
· 戦後、特に 1960 年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる。
· 戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る。

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 6・10・14 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1・2 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	戦前から戦時中	和辻哲郎、鈴木大拙、タウト プレゼンテーションの準備
第 3 回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張①
第 4 回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張②
第 5 回	『菊と刀』③	青木保（『「日本文化論」の変容』）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第 6 回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 5 章 “Debtor to the Ages and the World” と第 6 章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第 7 回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー 等の活躍
第 8 回	60 ～ 70 年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー 等
第 9 回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第 10 回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 7 章 “The Repayment Hardest to Bear” と第 8 章 “Clearing One’s Name”
第 11 回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第 12 回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 等
第 13 回	日本人論、日本文化論への批判②	ピーター・デール、井上章一、古谷野敦 等
第 14 回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 10 章 “The Dilemma of Virtue”
第 15 回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 6・10・14 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第 2 回　テキスト pp.168-173
第 3 回　テキスト pp.182-187
第 7 回　テキスト pp.214-219、266-271
第 8 回　テキスト pp.248-253
第 12 回　テキスト pp.260-265
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

【テキスト（教科書）】
佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】
青木保『「日本文化論」の変容　戦後日本の文化とアイデンティティー』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（30 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（30 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
『菊と刀』に当てる授業数を増やしました。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

中国文芸史 A

黒田　真美子

昼間時間帯
授業コード：A2561
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【先秦・秦漢文芸史】
中国文芸史初期を概観することで、中国文学の基礎知識を習得し、その特質を考察して中国文学への理解を深める。
中国古典文学の流れを、前期は先秦時代を中心に概観する。春秋戦国の不安定な時代状況が、文学に如何に表現されたか、その特質を考察する。具体的には、各時代、各分野の代表作や代表的詩人を紹介解説し、当時の政治経済、社会思想との関わりを勘案しながら、中国文学への理解を深める。

【到達目標】
1，韻文の発生と発展を学ぶことで、漢詩の基礎知識を習得する。
2，諸子百家や歴史書の古文を読んで、漢文の基礎知識を習得する。
3，社会的思想的背景としての歴史と地理を理解する。

【授業の進め方と方法】
授業方法は基本的には講義形式。授業内容への意見や質問などについて、リアクションペーパーを提出する。
また作品のテーマや表現について、問題提起して、意見や議論を求めることもある。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	先秦、秦漢時代の概説。 中国古典文学のジャンル説明。参考文献・工具書の紹介。
第 2 回	先秦文学	北方文学の祖『詩経』について 1
第 3 回	先秦文学	北方文学の祖『詩経』について 2
第 4 回	先秦文学	南方文学の祖『楚辞』について
第 5 回	先秦文学	南方文学の祖『楚辞』について
第 6 回	諸子百家の文学性　儒家	孔子とその弟子 1
第 7 回	諸子百家の文学性　儒家	孔子とその弟子 2
第 8 回	諸子百家の文学性　儒家	『孟子』
第 9 回	諸子百家の文学性　道家	『老子』
第 10 回	諸子百家の文学性　道家	『老子』
第 11 回	諸子百家の文学性　道家	『荘子』
第 12 回	諸子百家の文学性　道家	『荘子』
第 13 回	諸子百家の文学性　道家	『列子』
第 14 回	諸子百家の文学性　法家	『韓非子』
第 15 回	諸子百家の文学性　法家	『韓非子』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊前もって配布されるプリントを予習して、疑問点をチェックし、自分なりの下調べをして臨むこと。
＊授業で明らかになった問題点や新しく得た知識を整理し、復習して、知識をより確実なものにすること。

【テキスト（教科書）】
プリント配布。

【参考書】
＊総論的参考書としては前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会
＊各論的参考書は、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
期末試験 80 %、リアクションペーパーの内容 20 %
＜基準＞
「到達目標」に掲げた 3 点についての習熟度

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
基本的には講義形式の為、予習復習する学生が少ない。さらなる興味を喚起する努力が必要と考える。時には、課題を与えて、発表の機会を設けてもよいかもしれない。

中国文芸史 B

黒田　真美子

昼間時間帯
授業コード：A2563
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【秦漢文芸史】
中国文芸史初期を概観することで、中国文学の基礎知識を習得し、その特質を考察して中国文学への理解を深める。
中国古典文学の流れを、秋学期は秦漢時代を中心に概観する。初めての中央集権国家の成立という時代状況が、文学に如何に表現されたか、その特質を考察する。具体的には、各時代、各分野の代表作や代表的詩人を紹介解説し、当時の政治経済、社会思想との関わりを勘案しながら、中国文学への理解を深める。

【到達目標】
1，韻文の発生と発展を学ぶことで、漢詩や辞賦の基礎知識を習得する。
2．歴史書の古文を読んで、漢文の基礎知識を習得する。
3．社会的思想的背景としての歴史と地理を理解する。

【授業の進め方と方法】
授業方法は基本的には講義形式。授業内容への意見や質問などについて、リアクションペーパーを提出する。
また作品のテーマや表現について、問題提起して、意見や議論を求めることもある。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序論　春学期の復習と秦漢時代の概説	春学期に修得した知識を整理復習した上で、秦漢時代の概論と秋学期の予定を提示。
第 2 回	漢賦について　1抒情の賦	賈誼「鵩鳥賦」
第 3 回	2思想賦	揚雄「太玄賦」など
第 4 回	3叙事の賦	枚乗「七発」
第 5 回	3叙事の賦	司馬相如「子虚賦」「上林賦」
第 6 回	史伝文学 1	『春秋左氏伝』
第 7 回	史伝文学 2　前漢	司馬遷『史記』
第 8 回	史伝文学 2　前漢	司馬遷『史記』
第 9 回	史伝文学 2　前漢	司馬遷『史記』
第 10 回	史伝文学 3　後漢	班固『漢書』
第 11 回	散文作品 1　秦代	呂不韋『呂氏春秋』
第 12 回	散文作品 2　前漢	淮南王劉安『淮南子』
第 13 回	散文作品 3　後漢	王充『論衡』
第 14 回	楽府と五言詩 1	『楽府詩集』から
第 15 回	楽府と五言詩 2	「古詩十九首」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊前もって配布されるプリントを予習して、問題点を把握し、それに対して予備調査をしておくこと。
＊授業後、明らかになった問題点や、新たに得た知識を整理して、理解を確実にすること。

【テキスト（教科書）】
随時、レジュメ・補助プリントを配布。

【参考書】
総論的参考文献としては、前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会）各論的文献は、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
期末試験 90 %、リアクションペーパーの内容 20 %。
＜基準＞
「到達目標」に掲げた 3 点の習熟度

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケートによれば、予習復習にかける時間が少ない。課題を与えるなどして、予習復習をする機会を与えたい。

英米文学講義Ｉ A

結城　英雄

授業コード：A2907
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英米文学とは何かを広く考える。まず文学 (narration) は国家 (nation) と密接な関わりがあることを知る。次にそのような関わりをながめる、他者としての自らの意識を深める。そして文学が人々に与える影響力を学ぶ。さらに英米という枠組みについても再考する。

【到達目標】
文学のうちでも、英米文学とはどんなものか、具体的な作品を分析し、その大枠を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】
英米文学を中心とする主要な作品を取りあげ、どのように読めるのか、あるいは読まれてきたのかを考察する。いずれの作品も、文化や時代を異にすることによって、また読み手によっても、異なる意味を帯びてくる。講義形式。ビデオを使用。なお、扱う作品については、関心の度合により、少し変更することもある。リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	導入
第 2 回	人種	『ジェイン・エア』
第 3 回	人種	『ヴェニスの商人』
第 4 回	人種	『風と共に去りぬ』
第 5 回	ジェンダー	『緋文字』
第 6 回	児童文学	『オズの魔法使い』
第 7 回	神話	『サロメ』
第 8 回	作者	『フランケンシュタイン』
第 9 回	ポストコロニアル	『闇の奥』
第 10 回	伝記	『抱擁』
第 11 回	階級	『ジキル博士とハイド氏』
第 12 回	エピステーメ	『ドン・ファン』
第 13 回	ジェンダー	『嵐が丘』
第 14 回	空白	『トム・ソーヤーの冒険』
第 15 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に扱う作品を読んでおくことが望ましい。少なくとも半分は読んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験１００％。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プリントの配布、映像の操作など、習熟するようにいたします。

英米文学講義Ⅰ B

結城　英雄

授業コード：A2908
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英米文学とは何かを広く考える。まず文学 (narration) は国家 (nation) と密接な関わりがあることを知る。次にそのような関わりをながめる、他者としての自らの意識を深める。そして文学が人々に与える影響力を学ぶ。さらに英米という枠組みについても再考する。

【到達目標】
文学のうちでも、英米文学とはどんなものか、具体的な作品を分析し、その大枠を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】
英米文学を中心とする主要な作品を取りあげ、どのように読めるのか、あるいは読まれてきたのかを考察する。いずれの作品も、文化や時代を異にすることによって、また読み手によっても、異なる意味を帯びてくる。講義形式。ビデオを使用。なお、扱う作品については、関心の度合により、少し変更することもある。リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	伝記	『フランス軍中尉の女』
第 2 回	作者	『作者を探す六人の登場人物』
第 3 回	帝国	『インドへの道』
第 4 回	不条理	『リア王』
第 5 回	結婚	『高慢と偏見』
第 6 回	嫉妬	『オセロ』
第 7 回	漂流	『ロビンソン・クルーソー』
第 8 回	教養小説	『大いなる遺産』
第 9 回	モダニズム	『ユリシーズ』
第 10 回	女性の自立	『テス』
第 11 回	女性の自立	『碾臼』
第 12 回	エピステーメ	『阿呆船』
第 13 回	生と死	『ダロウェイ夫人』
第 14 回	ノンセンス	『不思議の国のアリス』
第 15 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に扱う作品を読んでおくことが望ましい。少なくとも半分は読んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験１００％。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プリントの配布、映像の操作など、習熟するようにいたします。

英米文学講義Ⅱ A

丹治　愛

授業コード：A2909
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
18 世紀前半のダニエル・デフォーから 19 世紀末までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、ゴシック小説がどのような役割を演じているかを理解する。また、小説を原作とした映画を見て、原作と比較することによって、原作の理解を深めるとともに、文学的表現と映画的表現の差異を学習する。今年度は 19 世紀末に焦点を置く。

【到達目標】
・イギリス小説史について、その概要を述べることができる。
・リアリズムの展開について、その概要を述べることができる。
・小説を分析するためのいくつかの方法を身につけることができる。
・文学的表現と映画的表現の差異について、その概要を述べることができる。
・19 世紀末のイギリス小説について、その概要を述べることができる。

【授業の進め方と方法】
ダニエル・デフォーから世紀末の作家たちまでの小説史を講義形式で概観しながら、できるだけ多くの小説を読んでもらい（教科書に指定している３冊は必読）、また、それを原作とした映画を見てもらい、作品解釈をこころみてもらう。レポートの形式を想定しているが、人数によっては、グループ・ワーク形式をとりいれ、プレゼンテーションもしてもらう。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、そしてロマンスとリアリズムとピカレスク小説	ガイダンスのあと、小説以前のロマンスの概要と、小説の先駆的形態としてのピカレスク小説を学習する。
第 2 回	デフォー『ロビンソン・クルーソー』とスウィフト『ガリヴァー旅行記』	『ロビンソン・クルーソー』と『ガリヴァー旅行記』のリアリズム性の特質を確認する。
第 3 回	リチャードソン『パミラ』と書簡体小説の系譜、そして三人称小説としてのフィールディング『ジョウゼフ・アンドルーズ』	『パミラ』のリアリズム性の特質を確認するとともに、その批判として『ジョウゼフ・アンドルーズ』を位置づける。
第 4 回	ウォルポール『オトラントの城』とオースティン『ノーサンガー・アビー』	ウォルポールによって導入され、オースティンによって批判された反リアリズム的なゴシック性を概観する。
第 5 回	オースティン『分別と多感』からディケンズ『オリヴァー・トゥイスト』へ	オースティンとディケンズを比較しつつ、イギリス小説の階級的特質を概観する。
第 6 回	ソーシャル・ノヴェルの展開	ソーシャル・ノヴェルのリアリズム性（その階級的関心）を概観する。
第 7 回	モリス『ユートピアだより』	世紀末のユートピア小説として『ユートピアだより』を読む。
第 8 回	トマス・ハーディ『テス』	『テス』を世紀末文学――ソーシャル・ノヴェルの終焉――との関連で概観する。
第 9 回	フランク・ノリス『マクティーグ（死の谷）』	『マクティーグ』を自然主義小説との関連で概観する。
第 10 回	オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』	『ドリアン・グレイの肖像』における唯美主義的小説観を概観する。
第 11 回	ウェルズ『タイム・マシン』	世紀末のＳＦとして、ユートピア小説として、『タイム・マシン』を読む。
第 12 回	コンラッド『闇の奥』	反啓蒙主義の作品として『闇の奥』を読む。
第 13 回	『地獄の黙示録』（１）	『地獄の黙示録』を見る。
第 14 回	『地獄の黙示録』（２）	『地獄の黙示録』を見て、『闇の奥』と比較する。
第 15 回	全体のまとめ＋期末試験	全体のまとめと期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業のもっとも重要な点は、翻訳でもいいから原作を読むことである。もうひとつ重要なのは、原作と映画の差異をきちんと認識できること。したがって、指定されたテクスト（３冊）はかならず事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
ウィリアム・モリス『ユートピアだより』（岩波文庫）
オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』（新潮文庫）
ジョウゼフ・コンラッド『闇の奥』（光文社文庫）

【参考書】
ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』（新潮文庫）
ジェイン・オースティン『分別と多感』（ちくま文庫）
ジェイン・オースティン『ノーサンガー・アビー』（ちくま文庫）
スティーヴンソン『ジーキル博士とハイド氏』（新潮文庫）
Ｈ・Ｇ・ウェルズ『タイム・マシン』（創元ＳＦ文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点＋レポート 50%（授業にたいする積極的参加）

期末テスト 50%（授業内容の理解度を見る）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
全員に作品を読んでもらえるよう、作品の選択、映画の見せ方、リアクションペーパーの課題など、なるべく工夫したい。

英米文学講義Ⅱ B

丹治　愛

授業コード：A2910
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀末から 20 世紀前半のモダニズムをへて、20 世紀後半のポストモダニズムまでのイギリス小説の状況を概観し、そのなかで小説というジャンルがどのような新しい特徴を示すようになったかを理解する。また、小説を原作とした映画を見て、原作と比較することによって、原作の理解を深めるとともに、文学的表現と映画的表現の差異を学習する。

【到達目標】
・イギリス小説史について、その概要を述べることができる。
・リアリズムの展開について、その概要を述べることができる。
・小説を分析するためのいくつかの方法を身につけることができる。
・文学的表現と映画的表現の差異について、その概要を述べることができる。
・モダニズムとポストモダニズムの小説について、その概要を述べることができる。

【授業の進め方と方法】
モダニズムとポストモダニズムの小説を中心として 19 世紀末から 20 世紀後半までの小説史を講義形式で概観しながら、なるべく多くの小説を読んでもらい（教科書に指定している小説は必読）、また、それを原作とした映画を見てもらい、作品解釈をこころみてもらう。レポートの形式を想定しているが、人数によっては、グループ・ワーク形式をとりいれ、プレゼンテーションもしてもらう。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、そして春学期のまとめ	ガイダンスのあと、小説の起源から 19 世紀なかばまでの小説史の概略をおさらいする。
第 2 回	コンラッド『密偵』	『密偵』のなかにモダニズム的な要素（反啓蒙主義、リアリズムの内面化）を探る。
第 3 回	ウルフ『ダロウェイ夫人』（1）	『ダロウェイ夫人』のなかにモダニズム的要素（意識の流れ）を探る。
第 4 回	ウルフ『ダロウェイ夫人』（2）	『ダロウェイ夫人』およびウルフの批評のなかにモダニズム的要素（全体性への希求）を探る。
第 5 回	ウルフ『灯台へ』	『灯台へ』のなかにモダニズム的要素（印象主義と後期印象主義の美学）を探る。
第 6 回	ウルフ『灯台へ』とジョイス『若い芸術家の肖像』	『灯台へ』と『若い芸術家の肖像』をとおして、モダニズム的要素（メタフィクション）を探る。
第 7 回	ジョイス『ユリシーズ』とエリオットの『ユリシーズ』論	『ユリシーズ』をとおして、モダニズム的要素（神話的方法）を探る。
第 8 回	質疑応答	質疑応答をとおしてこれまでの授業についての理解度を確認する。
第 9 回	カニンガム『めぐりあう時間たち』の映画版	『めぐりあう時間たち』の映画を見て、作品の理解を深める。
第 10 回	カニンガム『めぐりあう時間たち』とリース『サルガッソーの広い海』（1）	『めぐりあう時間たち』と『サルガッソーの広い海』のなかにポストモダニズム的要素を探る。
第 11 回	カニンガム『めぐりあう時間たち』とリース『サルガッソーの広い海』（2）	『めぐりあう時間たち』と『サルガッソーの広い海』のなかにポストモダニズム的要素（インターテクスチュアリティ）を探る
第 12 回	ファウルズ『フランス軍中尉の女』の映画	『フランス軍中尉の女』の映画版を見る
第 13 回	ファウルズ『フランス軍中尉の女』とバーンズ『10 1/2 章で書かれた世界の歴史』	『フランス軍中尉の女』と『10 1/2 章で書かれた世界の歴史』をとおしてポストモダニズム的要素（ヒストリオグラフィカル・メタフィクション）を探る。
第 14 回	モダニズムとポストモダニズムの定義にむけて	モダニズムとポストモダニズムについて、ハーバーマス、リオタールを参照しながら定義する。
第 15 回	全体のまとめ	全体のまとめと期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業のもっとも重要な点は、翻訳でもいいから原作を読むことである。議論ができるように、教科書に指定された作品は必読、それ以外の作品もなるべく事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』（集英社文庫）
ジェイムズ・ジョイス『若い芸術家の肖像』（集英社文庫ヘリテージ・シリーズ）

【参考書】
ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』（岩波文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点＋レポート 50%（授業にたいする積極的参加）
期末テスト 50%（授業内容の理解度を見る）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
全員に作品を読んでもらえるよう、作品の選択、映画の見せ方、リアクションペーパーの課題など、なるべく工夫したい。

英米文学特殊講義 I

宮川　雅

授業コード：A2965
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アーヴィングとポー――アメリカ短篇小説論」
アメリカにおいてめざましい発展をとげたと考えられている短篇小説というジャンルについて、そのいわば揺籃期にさまざまな試みをしてその後の伝統に影響を与えた Washington Irving (1783-1859) と Edgar Allan Poe (1809-49) のふたりの作家を、その関係も含めて論じながら考察する、あるいは、短篇小説について考えながら、アーヴィングとポーの作品を読む。いわば歴史的・通時的な展開・発展の相と、構造的・共時的な相の両方を論じる（截然と分けられるものでもないが）。歴史的にはゴシックの受容と応用・ひねりが一つの大きな問題になるだろう。だから、アメリカ・ゴシック小説論という側面もある。他の作家（Hawthorne, Melville, Anderson, Hemingway, Faulkner, Barth など）にも言及する。

【到達目標】
1) 短篇小説というジャンルのアメリカにおける意味づけをいくつか理解する。
2) アーヴィングからポーに渡されたものが語れる。
3) ポーが独自に構想したことが語れる。
4) アーヴィングとポーの代表作のいくつかを読んでいて、英米の古本屋の主人と英語で語れる。

【授業の進め方と方法】
講義形式。ただし、演習まがいの作品プリント読解が交わる。（レポートは課さず、かなりの分量のプリントを読んだうえで試験をおこなう。）要するに、読みながら論じ、論じながら読む。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、作家紹介	授業の内容・進め方の説明、アーヴィングとポーの年譜
第 2 回	短篇小説とは何か、長篇小説とは何、小説とは何か	novel, romance, tale, sketch, short story ――ヨーロッパから英米への流れ（、アーヴィング作品の配布）
第 3 回	ゴシック、フレーム（額縁）、フラグメント（断片）	gothic と the sublime, the picturesque の美学（、ポー作品プリント③④の配布）
第 4 回	「リップ・ヴァン・ウィンクル」、または時間の遠近法と額縁	アーヴィングの代表作①を読む "Rip Van Winkle," *The Sketch Book* (1819-20) ／ドナルド・リンジのアメリカン・ゴシック研究を読む
第 5 回	「スリーピー・ホロー」、または騎士道ロマンスとゴシック・ロマンス、またはコケットと田舎教師	アーヴィングの代表作②を読む "The Legend of Sleepy Hollow"
第 6 回	詩人ポーの短篇小説作家としての誕生／ポーの短篇小説論	"Metzengerstein" (1832) その他／ナサニエル・ホーソーン論（書評）４つ
第 7 回	「アッシャー家の没落」、またはプロット構造、または建物=人間=宇宙のアナロジー	ポーの代表作③を読む "The Fall of the House of Usher" (1841) ／『マルジナリア』から
第 8 回	*Tales of a Traveller* (Irving) の構想――「短篇小説集」という意匠について (1)	『スケッチ・ブック』と『旅人の物語』の構成／ふたたびポーの短篇小説論
第 9 回	*Tales of the Folio Club* (Poe) の構想――「短篇小説集」という意匠について (2)	ポーの短篇小説集の構想の歴史／英米の短篇小説集
第 10 回	ポーの「ウィリアム・ウィルソン」とアーヴィング	ポーの代表作④を読む "William Wilson" (1839)
第 11 回	アーヴィングの "Strange Stories by a Nervous Gentleman" とポーの初期短篇 (1)	『旅人の物語』第一部がポーに与えた影響
第 12 回	アーヴィングの "Strange Stories by a Nervous Gentleman" とポーの初期短篇 (2)	"The Adventure of a German Student" (1824) と "Berenice" (1835)
第 13 回	短篇小説の unity と intertextuality	まとめ１
第 14 回	ポーの短篇小説論	まとめ２
第 15 回	総まとめ	まとめ３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリント配布の作品を読むこと。いっぽう翻訳ででもよいので、ポーとアーヴィングの作品をなるたけ多く読むこと。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
初回か第２回にリストを配布する予定。

【成績評価の方法と基準】
総合的な内容の期末テスト（定期試験内）（100 %）。期末テストを受験しない場合は履修を放棄したものとみなす。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義をすると自分でもそれまで気づかなかったことを話していることに気づいたことを学生は気づいていないことに気づいた。

英米文学特殊講義 Ⅱ

吉川　信

授業コード：A2966
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生はこの授業で、18 世紀以降のイギリス文学作品を広く学ぶ。具体的には、サミュエル・ジョンソンが「ロマンティック」な「作り話」と批判した類の、romance に属する物語、Gothic story を複数読む。18 世紀以降の古典的なイギリス小説に関する知識を深め、現代世界の理解にも通じる文学観を養うことを目的とする。

【到達目標】
・イギリス小説史について、その概要を述べることができる。
・18 世紀・19 世紀末のイギリス小説について、その概要を述べることができる。
・18 世紀の英語の特徴を知り、英文読解力を養うことができる。
・現代文学にも通じる「ゴシック」の伝統を述べることができる。

【授業の進め方と方法】
18 世紀後半の英国の文化状況を概観し、また当該の時代を代表する作家たちを紹介する。その後、個々の作家の作品を複数抜粋して講読する。講義の時間と作品精読の時間を織り交ぜて進行することになる。また対象とする文学作品については、学生間でのディスカッションの時間も設ける。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに――ゴシック小説の系譜	18 世紀の English novel とゴシック小説の関係を歴史的に辿る。
第 2 回	Horace Walpole の小説	ウォルポールも自分の作品で生み出したいと望んだ、sublime とは、どのような概念であるかを考える。
第 3 回	The Castle of Otoranto を読む：「グランド・ツアー」の果て	ウォルポールも経験した Grand Tour について考える。
第 4 回	The Castle of Otoranto を読む：「恐怖」の効果	Horror と Terror の違いを考える。
第 5 回	The Castle of Otoranto を読む：「メランコリー」の誕生	作品の終盤に現われる melancholy とはどのようなものであるかを検討する。
第 6 回	Picturesque とは何か――小説の絵画性について	Picturesque という概念の特殊性を、複数のテクストから考察する。
第 7 回	Sense と Sensibility の時代	18 世紀末に流行した romantic novel を、同時代の Jane Austen との関連で考える。
第 8 回	Ann Radcliffe の小説	ラドクリフという女性作家を紹介する。
第 9 回	The Mysteries of Udolpho を読む：ベストセラーの誕生	Female Gothic の代表とされるラドクリフの小説の特徴を考える。
第 10 回	The Mysteries of Udolpho を読む：「ロマンティック・ノヴェル」の流行	ロマン主義時代の作品として見た場合、ほかの同時代の作家たちとどのような共通点が浮かび上がるか、を考える。
第 11 回	The Mysteries of Udolpho を読む：「謎」と「神秘」	Mystery という語が、本来はどのような意味であり、その後どのような意味で用いられるようになったか、その変遷を辿る。
第 12 回	The Monk を読む：残酷とプロテスタンティズム	18 世紀末のもうひとつのベストセラーは、M. G. Lewis のこの作品であった。ゴシックが反カトリック小説である点に注目する。
第 13 回	The Monk を読む：英文学における「サディズム」	ラドクリフに比べ極めてエロティックであるこの作品の特徴を考察する。
第 14 回	Melmoth the Wanderer 紹介	19 世紀初頭にはアングロ＝アイリッシュ＝ゴシックと呼べる作品が登場する。その時代背景を考える。
第 15 回	まとめ――不死者と Vampirism	19 世紀以降、ゴシック的恐怖小説の伝統はアングロ＝アイリッシュに受け継がれる。19 世紀末の『ドラキュラ』にまで至る系譜を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介された作品は、翻訳でも良いからできるだけたくさん読むこと。毎日 2 時間程度は関連文献の読書に充ててもらいたい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せず、授業時にプリントを配布する。

【参考書】
授業時に必要文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験： 50 %、課題提出物： 20 %、授業時の発表等による参加度： 30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初年度なので前年の授業評価資料はないが、できるだけ受講者の意見を聞いておきたい。授業の進行について希望などあれば、授業終了時に随時受け付ける。

英米文学特殊講義 Ⅲ

小島　尚人

授業コード：A2967
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「リアリズムと視点」
19 世紀後半から世紀転換期にかけてのいわゆる「リアリズムの時代」のアメリカ文学における視点（point of view）の問題を、具体的にいくつかの作品を読みながら学ぶ。その際、視点の問題を単に小説技法上のテクニックとして捉えるのではなく、登場人物や作者の主体、そしてジェンダーや人種といったテーマとどう結びついているのかに着目する。アンブローズ・ビアスの短編、ヘンリー・ジェイムズの『デイジー・ミラー』、チャールズ・チェスナットの『魔法使いの女』を読むことが中心となるが、他の作家たちの事例も取り上げて、比較考察する。

【到達目標】
①一人称小説と三人称小説それぞれの特性を学び、「語り手」や「視点人物」という存在を分析するための方法を習得すること。
②そしてその結果、小説を読む際に、物語の内容だけでなく語りの形式についても常に注意を払うことができるようになること。

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本としつつ、演習形式を交えながら進める。ビアス、ジェイムズ、チェスナットの作品を扱う回では、テクストの指定された該当箇所を事前に読んできていることを前提に、教員による解説の後、受講者は授業内で課題に取り組んでもらい、その結果を報告してもらいながらディスカッションする時間も設ける。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方の説明、アメリカ文学のリアリズムの発生と展開についての文学史的概説
第 2 回	アンブローズ・ビアスの “An Occurrence at Owl Creek Bridge” と “The Moonlit Road”（1）	三人称と一人称、描けるものと描けないもの。映画 *An Occurrence at Owl Creek Bridge* 鑑賞
第 3 回	アンブローズ・ビアスの “An Occurrence at Owl Creek Bridge” と “The Moonlit Road”（2）	ビアス作品の語りと男性性
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと視点の技法	ジェイムズの小説論、および「視点」を利用した代表的作品の紹介、「信頼できない語り手」という概念の説明
第 5 回	ジェイムズの *Daisy Miller* (Chapter 1 – 2)	視点の技法と国際テーマ
第 6 回	ジェイムズの *Daisy Miller* (Chapter 3)	「アメリカン・ガール」の肖像
第 7 回	ジェイムズの *Daisy Miller* (Chapter 4)	ウィンターボーンのジレンマ
第 8 回	前半部分のまとめと補足	これまでの部分を振り返り、視点とジェンダー／セクシュアリティの問題の連関を一旦まとめる。
第 9 回	視点と人種問題	『アンクル・トムの小屋』の三人称と、『ハックルベリー・フィンの冒険』の一人称
第 10 回	ローカル・カラーの文学と視点／チャールズ・チェスナット	共同体の内と外、旅行者としての語り手、チェスナットと南部ローカル・カラー文学の関係
第 11 回	チェスナットの *The Conjure Woman*（1）	“The Goophered Grapevine” における物語の枠構造・視点と人種の関係について
第 12 回	チェスナットの *The Conjure Woman*（2）	“Po’ Sandy” における二種類の聞き手の役割
第 13 回	チェスナットの *The Conjure Woman*（3）	“Mars Jeems’s Nightmare” における呪術と黒人／白人
第 14 回	リアリズム以後の文学と視点	モダニズム、ポストモダニズムの小説における視点のあり方について考える
第 15 回	まとめと期末テスト	全体のまとめの後、授業内期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・扱う小説を事前に読む（翻訳を参照して構わない）。気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業内での課題に対応できるようにしておく。
・授業で扱う作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献などを積極的に読む。

【テキスト（教科書）】
『デイジー・ミラー』については、1879 年の初版単行本のテクストを収録した Penguin Classics 版を用いる。Henry James, *Daisy Miller*. Penguin Classics, 2007. ISBN: 9780141441344.
その他の作品については、プリントを配布する。

【参考書】
授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、授業内課題への取り組み）： 40 %
中間提出課題： 40 %
期末試験： 30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当につき、該当なし。

英米文学特殊講義Ⅳ

小島　尚人

授業コード：A2968
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカのポストモダニズムの代表的な小説家とその作品について学ぶ。「ポストモダニズムとは何か」という定義にまつわる思想的あるいは批評理論的な議論を展開することを目的とするのではなく、その名称のもとに括られることの多い作家たちの作品に実際に触れることを通じて、共通した作風やテーマ、技法などに対する理解を（それらが生み出された歴史的条件や作家の個別的特性にも留意しながら）深める。また、実験的でときには「どう読んでいいか分からない」ともされる作品を、どうやって読むか、あるいはその「分からなさ」自体をどう考えるか、といった点についても、具体的に短編を読みながら考えていく。ドナルド・バーセルミ（1931 – 1989）、ジョン・バース（1930 – ）、カート・ヴォネガット（1922 – 2007）、トマス・ピンチョン（1937 – ）の四人を扱う。

【到達目標】
ポストモダニズムの小説とはどのようなものかを、具体的な作家・作品に触れながら多少語れるようになる。また、いわゆる近代小説とは趣向の異なる小説の読み方について考え、楽しむことができる。

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式だが、演習形式を交えながら進める。短編小説を扱う回は、テクストの指定された該当箇所を事前に読んできていることを前提に、教員による解説の後、受講者は授業内で課題に取り組んでもらい、その結果を報告してもらいながらディスカッションする。また、学期中に二本のブックレポート（授業中に配布される作品リストから二冊選んで翻訳で読み、紹介）を提出してもらう。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、講義テーマの導入、四人の作家の紹介
第 2 回	「ポストモダニズム」？	「ポストモダニズムとは何か」に関する諸説の紹介、とくに文学におけるポストモダニズムについて
第 3 回	バーセルミ（1）：作家と作品	ドナルド・バーセルミとその代表的作品、およびエッセイの紹介、抜粋を読む
第 4 回	バーセルミ（2）：短編 “The Balloon” と “The Glass Mountain” を読む	意味と無意味、パロディ、解釈
第 5 回	バーセルミ（3）：短編 “Explanation” と “King of Jazz” を読む	対話とそのズレ、不在
第 6 回	バース（1）：作家と作品	ジョン・バースとその代表的作品、およびエッセイの紹介、抜粋を読む
第 7 回	バース（2）：短編 “Lost in the Funhouse” を読む（前半）	メタフィクション
第 8 回	バース（3）：短編 “Lost in the Funhouse” を読む（後半）	自意識と性
第 9 回	ヴォネガット（1）：作家と作品	カート・ヴォネガットとその代表的作品、およびエッセイの紹介、抜粋を読む
第 10 回	ヴォネガット（2）：短編 “Report on the Barnhouse Effect” を読む	ＳＦとポストモダニズム
第 11 回	ヴォネガット（3）：映画 *Slaughterhouse-Five* を観る	戦後文学としてのポストモダニズム
第 12 回	ピンチョン（1）：作家と作品	トマス・ピンチョンとその代表的作品、およびエッセイの紹介、抜粋を読む
第 13 回	ピンチョン（2）：短編 “Entropy” を読む（前半）	メタファーとしての現代科学
第 14 回	ピンチョン（3）：短編 “Entropy” を読む（後半）	閉鎖系の結末
第 15 回	まとめと期末試験	今学期学んだ主題を振り返ってまとめた後、授業内での期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・扱う短編小説を事前に読む（翻訳を積極的に参照して構わない）。感想、気づいたこと、疑問点などをメモしておき、授業内での課題に対応できるようにしておく。
・四人の作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献などを積極的に読む。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
パトリシア・ウォー『メタフィクション――自意識のフィクションの理論と実際』結城英雄訳、泰流社、1986 年。
他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、授業内課題への取り組み）： 30 %
ブックレポート（授業中に配布される作品リストから二冊選んで翻訳で読み、紹介）： 40 %
期末試験： 30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当につき、該当なし。

比較文学 A

山下　敦

授業コード：A2824
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる諸文化間の相互の影響・交流関係を、文字作品・視覚作品等の具体的な表現において分析、読解し、その背景にある文化形成の全体像を作品表現の内に把握する能力を身につけることを目的とする。また、作品自体に向き合うことによって、人間の精神的所産としての文学・芸術作品を感受し、思考する能力を養う。
現代の文化が生まれる源流にあたる時期に、ヨーロッパでどのような文学・芸術が新しく生成してきたかを知り、またそれが当時の日本とどう関わりを持っていたかを確かめながら、身近な都市文化の始まりを知る。19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、ヨーロッパでは芸術の観念が大きく転回する。世紀末芸術が花開き、また印象主義を始まりとして色彩の自立が促され、のちの抽象表現につながる。そうした新しい表現の背景には、日本の芸術と文化の大きな影響があった。そのさまを、主に明治期前後の日本と 19 世紀末のヨーロッパ諸都市を対象として相互の文化的関連のあり方に見出していく。

【到達目標】
20 世紀初頭のヨーロッパにおける社会環境や生活感情の転換が、芸術表現にどのような変化をもたらしたかを大局的に把握する。その上で、個々の作品表現において、時代と芸術観念の転換の特徴を具体的に指摘できるようにする。講義では、19 ／ 20 世紀転換期以降のヨーロッパの新しい芸術表現のあり方を理解し、その背景にどのような考え方の転換や表現上の実験があり、現代の大衆文化に展開してきたのかを確認しながら、現代都市文化の源を学び取ることを目標とする。同時に、その当時のヨーロッパと日本の間にあった密接な結びつきを理解することを試みる。

【授業の進め方と方法】
春学期には、主にハプスブルク帝国の帝都ウィーンを一例として 19 世紀末芸術と二次元表現の装飾性を主要なテーマとする。そしてアール・ヌーヴォーを経て現代都市の大衆文化につながる 20 世紀文化との連続性が理解できるようにしたい。講義では、まずそれぞれに新しい試みを孕んでいた絵画その他の芸術作品を詳細に見る。受講生には、代表的な作品について細部の観察と自身の感受性についてのコメントの提出が求められる。その上で、受講生のコメントに基づいて、その時代に描かれた作品をよく見ながら、背景にどのような考え方の転換や芸術上の実験があり、それ以前と比べてどう変容したのかを考えていきたい。そして、新しい都市文化の成立を芸術の諸分野で問題にする。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容の概略と紹介
第 2 回	クリムトの『接吻』	ウィーン分離派とクリムトのポスター
第 3 回	ビアズレーとジャポニスム I	戯曲『サロメ』とビアズレーの挿絵表現
第 4 回	ビアズレーとジャポニスム II	グラフィックな表現とジャポニスムの意味
第 5 回	ガレの自然観念と日本の芸術	ガレのガラス器と浮世絵『北斎漫画』
第 6 回	日本工芸とジャポニスム	加賀の金箔とシーボルトの日本植物園
第 7 回	モダン・ポスターの誕生	パリの芸術家の二次元表現
第 8 回	ミュシャとアール・ヌーヴォー	二次元表現のヨーロッパ的展開
第 9 回	明治の日本と万国博覧会	パリ万国博と夏目漱石の見聞録
第 10 回	ウィーン万博と日本庭園	オーストリア皇太子の『日本日記』
第 11 回	象徴主義の芸術	ラファエル前派と漱石『虞美人草』
第 12 回	ウィーン分離派とモダニズム	世紀末ウィーン建築の機能性と装飾性
第 13 回	クリムトの芸術スキャンダル	新しい芸術表現と社会的モラルの軋轢
第 14 回	ウィーンのジャポニスム	クリムト芸術と「金」の工芸
第 15 回	春学期の総括	～ 装飾・抽象・デザイン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の講義内容をよく確認し、各種資料に当たり各自でさらに理解を深めておく。また、講義中に扱われた作品を図書館等で再度確認し、その作家の全体像を各自で把握しておく。

【テキスト（教科書）】
講義の内容に沿って随時プリントを配布する。

【参考書】
授業内容に即して随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義時における平常点 (ca.30%) と内容の理解度を問う学期末の筆記試験 (ca.70%) によって行う。講義時に作品に対する感受性と内容の理解度を高めるとともに、学期末にはその文化的連関の総合的な把握が求められる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当科目につき該当なし

【その他の重要事項】
講義の全体を理解するために、比較文学 AB を通年で履修することを推奨します。

比較文学Ｂ

山下　敦

授業コード：A2825
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる諸文化間の相互の影響・交流関係を、文字作品・視覚作品等の具体的な表現において分析、読解し、その背景にある文化形成の全体像を作品表現の内に把握する能力を身につけることを目的とする。また、作品自体に向き合うことによって、人間の精神的所産としての文学・芸術作品を感受し、思考する能力を養う。
現代の文化が生まれる源流にあたる時期に、ヨーロッパでどのような文学・芸術が新しく生成してきたかを知り、またそれが当時の日本とどう関わりを持っていたかを確かめながら、身近な都市文化の始まりを知る。19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、ヨーロッパでは芸術の観念が大きく転回する。世紀末芸術が花開き、また印象主義を始まりとして色彩の自立が促され、のちの抽象表現につながる。そうした新しい表現の背景には、日本の芸術と文化の大きな影響があった。そのさまを、主に明治期前後の日本と 19 世紀末のヨーロッパ諸都市を対象として相互の文化的関連のあり方に見出していく。

【到達目標】
20 世紀初頭のヨーロッパにおける社会環境や生活感情の転換が、芸術表現にどのような変化をもたらしたかを大局的に把握する。その上で、個々の作品表現において、時代と芸術観念の転換の特徴を具体的に指摘できるようにする。講義では、19 ／ 20 世紀転換期以降のヨーロッパの新しい芸術表現のあり方を理解し、その背景にどのような考え方の転換や表現上の実験があり、現代の大衆文化に展開してきたのかを確認しながら、現代都市文化の源を学び取ることを目標とする。同時に、その当時のヨーロッパと日本の間にあった密接なつながりを理解することを試みる。

【授業の進め方と方法】
秋学期にはワイマール共和国下の芸術都市ミュンヘンを起点に、ヨーロッパにおける抽象表現の誕生と 20 世紀の開始を主要なテーマとする。また、ドイツの芸術家たちが日本の伝統文化に見出した新しさの意味を把握する。そして、アール・デコを経て現代都市の大衆文化につながる 20 世紀の文化との連続性が理解できるようにしたい。講義では、まずそれぞれに新しい試みを孕んでいた絵画その他の芸術作品を詳細に見る。受講生には、代表的な作品について細部の観察と自身の感受性についてのコメントの提出が求められる。その上で、受講生のコメントに基づいて、その時代に描かれた作品をよく見ながら、背景にどのような考え方の転換や芸術上の実験があり、それ以前と比べてどう変容したのかを、文字資料の検討を含めて考える。そして、芸術表現の大衆化について、受講生の総体的な理解を深めていきたい。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容の概略 ～ 装飾から抽象へ
第 2 回	抽象表現の誕生	カンディンスキーと青い騎士
第 3 回	クレーと線の思考	クレー『創造的告白』と東洋的思考
第 4 回	抽象表現と都市空間	モンドリアンの新造形主義
第 5 回	印象主義のおさらい	ジャポニスムの先駆
第 6 回	タウトのユートピア建築	アルプス建築とジードルング構想
第 7 回	タウトの日本美発見	タウトの著作『日本文化私観』
第 8 回	桂離宮と究極の現代	月見のための書院建築
第 9 回	バウハウスの実験	日常生活のデザイン
第 10 回	バウハウスと日本人	グロピウスと山脇道子
第 11 回	イタリア未来派とスピードの美	マリネッティの『未来派宣言』
第 12 回	アール・デコ・グラフィックス	現代都市文化の表現
第 13 回	都市表現の同時代性	パリの日本人：里見宗次
第 14 回	モボ・モガと都市風景	大正期のポスターと杉浦非水
第 15 回	秋学期の総括	～ 抽象表現の大衆化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の講義内容をよく確認し、各種資料に当たり各自でさらに理解を深めておく。また、講義中に扱われた作品を図書館等で再度確認し、その作家の全体像を各自で把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義の内容に沿って随時プリントを配布する。

【参考書】
授業内容に即して随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義時における平常点 (ca.30%) と内容の理解度を問う学期末の筆記試験 (ca.70%) によって行う。講義時に作品に対する感受性と内容の理解度を高めるとともに、学期末にはその文化的連関の総合的な把握が求められる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当科目につき該当なし

【その他の重要事項】
講義の全体を理解するために、比較文学ＡＢを通年で履修することを推奨します。

音楽芸能史特殊研究 A

野川　美穂子

昼間時間帯
授業コード：A2569
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降に発展した芸能の魅力（三曲を中心に）

【到達目標】
音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに三曲）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。
春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しまれることの多い三曲（地歌・箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは三曲に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌の魅力も引き出す多彩な作品を紹介していきます。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 近世芸能の概観。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の特徴。
第 2 回	三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。
第 3 回	三味線の伝来。 地歌の歴史と特徴①	三味線伝来の経緯。伝承の基本となった三味線組歌と長歌物。
第 4 回	地歌の歴史と特徴②	叙情性に満ちた端歌物。
第 5 回	地歌の歴史と特徴③	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。
第 6 回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。
第 7 回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第 8 回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲・段物のルーツ。
第 9 回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第 10 回	箏曲の歴史と特徴④ 尺八楽の歴史と特徴①	江戸で人気を得た山田流箏曲。尺八の歴史のなぞ。
第 11 回	尺八楽の歴史と特徴②	尺八の流派と尺八本曲の魅力。
第 12 回	尺八楽の歴史と特徴③ 胡弓楽の歴史と特徴。	尺八本曲の魅力。胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第 13 回	他の種目との関連。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。
第 14 回	明治時代の三曲。	明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。
第 15 回	春学期授業のまとめ。	三曲の魅力。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。そのため事前学習の必要はありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】
参考書は、授業時に随時紹介します。三曲の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（配布資料とノートの持ち込み可）によって評価します。特別な理由がない限り、授業総数の 3 分の 1 を欠席した場合には不可となります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

音楽芸能史特殊研究 B

野川　美穂子

昼間時間帯
授業コード：A2571
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降の音楽芸能の魅力（歌舞伎、文楽を中心に）

【到達目標】
音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（歌舞伎、文楽を中心に）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。
秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、大正時代以降の新しい状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。
多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってもらいたいと思います。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第 2 回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第 3 回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第 4 回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第 5 回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第 6 回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第 7 回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第 8 回	豊後系浄瑠璃①	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。
第 9 回	豊後系浄瑠璃② 長唄①	艶のある新内節の魅力。歌舞伎舞踊を支える長唄の魅力。
第 10 回	長唄②	長唄の多様性。
第 11 回	他の種目との関連（1）	道成寺物の魅力。
第 12 回	他の種目との関連（2）	石橋物の魅力。
第 13 回	近代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第 14 回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションによる歌舞伎。
第 15 回	秋学期授業のまとめ。	劇場で上演される音楽芸能の魅力。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。そのため事前学習の必要はありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（配布資料とノートの持ち込み可）によって評価します。特別な理由がない限り、授業総数の 3 分の 1 を欠席した場合には不可となります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

GA331

中国の文化Ⅶ（近代文学）

廣野　行雄

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の近代文学を素材として中国の文化について考察する。
人間にとっての文学の意味とは何かを考える。

【到達目標】
中国の近代文学について基礎的な知識を得る。
中国の近代がかかえていた問題について認識を深める。

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義であるが、なるべく対話のある双方向的授業を目指す。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第一回	オリエンテーション	授業のねらい、進め方について説明する。
第二回	近代 (文学）とは？	中国の近代の特異性について。
第三回	中国の近代文学１	近代文学とは何か？ 近代文学としての『紅楼夢』その構成。
第四回	中国の近代文学２	近代文学としての『紅楼夢』人物設定と恋愛というテーマ。
第五回	中国の近代文学３	近代文学としての『紅楼夢』内面への関心と内的独白の手法。
第六回	文学革命	文学革命を進めた人々
第七回	魯迅という文学者	『吶喊』自序を素材に魯迅の半生をたどる
第八回	魯迅の文学世界１	『狂人日記』を読む。狂気と覚醒。
第九回	魯迅の文学世界２	『狂人日記』を読む。 回心の訪れ。
第十回	魯迅の文学世界３	『阿Ｑ正伝』を読む。 精神勝利法について。
第十一回	魯迅の文学世界４	『阿Ｑ正伝』を読む。 阿Ｑの地獄めぐり。
第十二回	魯迅の文学世界５	『阿Ｑ正伝』を読む。 阿Ｑとは誰か？
第十三回	魯迅の文学世界６	『祝福』を読む。 儒教の宗教性。
第十四回	魯迅の文学世界７	『祝福』を読む。 祥林嫂を殺したのは誰か？
第十五回	試験	内容把握の程度をはかるため試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストである魯迅の作品はもちろんであるが、授業内で触れる文献を積極的に読んで欲しい。

【テキスト（教科書）】
魯迅「『狂人日記』『阿Ｑ正伝』その他十二篇」岩波文庫

【参考書】
岩波新書の中国近代史シリーズなど。

【成績評価の方法と基準】
試験では、到達目標を理解しているかどうかを問う問題を出題する。平常点 (授業の核心をつくような質問、感想など) ５０％、期末試験５０％で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
中国の近代社会、近代文学の独自性を理解しやすくするため、ヨーロッパや日本のそれとの対比を具体的な歴史事項や作品を例示しつつ行うよう努める。

毎回できるだけ履修者の感想や意見を聞きつつ授業を進めていきたい。

GA331

中国の文化Ⅷ（現代文学）

廣野　行雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の現代文学が背負わねばならなかった課題を講述する。
現代の中国をより深く認識するために、歴史的背景や社会的背景をふくめて考察を加える。

【到達目標】
現在もなお存在し続けている、中国の現代文学が抱えている問題を現中国政権建国以前から丁寧にたどってゆくことによって理解する。

【授業の進め方と方法】
建国以前の「革命文学論争」「国防文学論戦」「延安の文学問題」「反右派闘争」等の事象をたどり、現代の中国文学の抱える問題を解説する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目標、講義の方法などを解説する。
第 2 回	魯迅と革命文学１	魯迅が目指した文学について解説。
第 3 回	魯迅と革命文学２	20 年代の革命文学論争について。
第 4 回	魯迅と革命文学３	革命文学論争の意味。
第 5 回	魯迅と国防文学論戦１	30 年代の魯迅の位置について。
第 6 回	魯迅と国防文学論戦２	国防文学論戦の実相。
第 7 回	延安での文学粛正。	「野の百合」批判。丁玲と肖軍。
第 8 回	建国後の文学１	「我々夫婦の間」批判について。
第 9 回	建国後の文学２	胡風批判。
第 10 回	建国後の文学３	反右派闘争について。
第 11 回	新時期文学１	作家王蒙について１
第 12 回	新時期文学２	作家王蒙について２
第 13 回	新時期文学３	陸文夫の作品について。
第 14 回	新時期文学４	莫言らの作品について。
第 15 回	試験	講義内容の理解度を知るために試験を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現代の中国の歴史について基本的な知識を備えておく。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
「魯迅評論集」竹内好編訳、岩波文庫。
岩波新書中国の近現代シリーズ。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を６０パーセント、平常点 (授業内容についての核心を突く質問の有無などの受講態度) ４０パーセントで評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
第 1 回で担当者の狙いを丁寧に説明することを心がける。
中国の現代史を考えるについて欠かせない知識をできるだけ受講者が関心を持てるように今日の状況に結びつけて解説する。
講義内容が理解されたかどうか、その都度対話で確認しつつ授業を進める。

GA331

中国の文化Ⅸ（中国俗文学）

鈴木　靖

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ＳＡを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。

この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。

巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】

中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【授業の進め方と方法】

授業は、準備学習と講義、レスポンス・シートによる質問・意見を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、レスポンス・シートを通じて積極的に発言してほしい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第 2 回	殷代	文字の誕生
第 3 回	周代	采詩の官と詩経
第 4 回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第 5 回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第 6 回	漢代	紙の誕生
第 7 回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第 8 回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第 9 回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第 10 回	北宋時代	三国志の誕生
第 11 回	南宋時代	水滸伝の誕生
第 12 回	元代	演劇の隆盛
第 13 回	明代	出版文化の隆盛
第 14 回	清代	民間芸能の隆盛
第 15 回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだこと、疑問に感じたことなどを出し合い、意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習の資料をｅポートフォリオを通じて配布するので、授業前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、授業で使用するスライドを PDF ファイルとしてｅポートフォリオにアップしていく。

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。
①毎回の授業で提出するレスポンス・シート（90 %）
②期末レポート（10 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

授業で使用するスライドの PDF を事前にアップしてほしいとの要望があったため、今年度は前日までにアップするようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを使用し、映画やドキュメンタリービデオなどの映像資料を多用する。

GA212

他者イメージ論

中島　成久

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
他者との遭遇、他者の表象をテーマとした講義なので、われわれの自己認識の歴史的形成過程を学ぶことができる。

【到達目標】
われわれの自己認識のためには必ず他者の存在が不可欠である。そうした他者の存在をどのように理論化するかという問題で、エドワード・サイードの「オリエンタリズム」論を基礎におきながら、博物館、博覧会という装置の文化史的な意味を検討する授業である。最後の５回はその応用問題として、バリ島認識の背景を分析する内容である。

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業であるが、映像（DVD、Youtube など）を多用する。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	オリエンタリズムについて
第２回	他者との遭遇	ディズニー映画「ポカホンタス」論
第３回	民族誌展示の系譜①	博物館が作り出した野蛮人像
第４回	民族誌展示の系譜②	１９世紀の万国博覧会
第５回	植民地主義と他者イメージ①	１９０３年「人類館」事件
第６回	植民地主義と他者イメージ②	１９０４年セントルイス博覧会
第７回	植民地主義と他者イメージ③	１９３１年パリ植民地博覧会①フランスとアンコールワット
第８回	植民地主義と他者イメージ④	１９３１年パリ植民地博覧会②フランスとアンコールワット②
第９回	植民地主義と他者イメージ⑤	１９３１年パリ植民地博覧会③オランダとバリ
第１０回	楽園バリ①	１９３０年代シュピースと楽園の「創造」
第１１回	楽園バリ②	１９３０年代コバルヴィアス、ミードのバリ島研究
第１２回	楽園バリ③	解釈人類学によるギアツのバリ研究
第１３回	楽園バリ④	観光人類学によるバリ研究
第１４回	まとめ	授業全体のまとめと補足
第１５回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①テキスト、資料を読むこと。
②図書館などで関連文献を探し、参照すること。

【テキスト（教科書）】
吉田憲司　『文化の「発見」――驚異の部屋からヴァーチュアルミュージアムまで』岩波書店
吉見俊哉　『博覧会の政治学――まなざしの近代』中公新書
パトリシア・モルトン　『パリ万国博覧会――オリエンタリズムの欲望と表象』ブリュッケ
永渕 康之　『バリ島』講談社現代新書

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（７０％）＋平常点（３０％）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書をきれいに行うこと、

GA330

映像と文学

林　志津江

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！ 私の知ってるアレとは全然違うんですけど！！！」と感じてしまった経験はありますか？ この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テクスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて考えていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上だった」という気持ちの正体に、斜め 45 度くらいの位置から迫ってみませんか。

【到達目標】
最初の目標は、さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めることです。古典的なメディア論のテーゼ（マクルーハン、キットラーなど）の真意についても、文字テクストと映像の両者を扱う当授業中で実感できるのではないでしょうか。文学や映画の分析につきものの「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くことも重要です。そしてこの授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になって下さい。その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になったら嬉しいです。

【授業の進め方と方法】
文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれについてみなで議論し考えていきます。毎授業ごと、自分の考えをまとめ小レポート（リアクションペーパー）として記述し提出します。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テクスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／ C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995 年、映画 2001 年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年、2006 年）ー その 1	モティーフとしての「タイムトラベル」（1）、時間芸術としての映画
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年、2006 年）ー その 2	モティーフとしての「タイムトラベル」（2）、身体感覚の記憶を表現する
5	H・マン『ウンラート教授』（1905 年）/J・スタンバーグ『嘆きの天使』（1930 年）	誰が主人公だったんだっけ？ トーキーが可能にしたこと、小説と映画・世代の違い
6	W・シェイクスピア／ F・ゼフィレッリ『ロミオとジュリエット』（戯曲 1595 年頃、映画 1968 年）	戯曲というテクストの多義性・映画で明確化されるもの、映画によるクリシェ化、映画と音楽（サウンドトラック）
7	E・ケストナー／ F・ブーフ他『エーミールと探偵たち』（小説 1928 年、映画 1931 年・2001 年）	児童文学の変遷とアクチュアリティーの変化（1）ー ベルリンの移り変わり
8	E・ケストナー／ K・リンク他『点子ちゃんとアントン』（小説 1931 年、映画 1953 年・1999 年）	児童文学の変遷とアクチュアリティーの変化（2）ー 子どもという存在の変化
9	トーマス・マン／ L・ヴィスコンティ『ヴェニスに死す』（小説 1912 年、映画 1971 年）	小説にあって映画にはないもの、映画によって決定的になるヴィジュアルイメージ
10	V・デル・ポスト『影の獄にて』（1954 年）／大島渚『戦場のメリークリスマス』（1983 年）	戦争の記憶の表象、戦闘シーンのない戦争映画、人間性の危機あるいは西洋・東洋の衝突
11	山崎豊子／市川崑『ぼんち』（小説 1959-60 年、映画 1960 年）	「今ではありえない価値観・生き方」へのオマージュ、映画から文学への応答
12	S・アヘイレム『牛乳家テヴィエ』（1894 年）／ N.・ジュイソン『屋根の上のヴァイオリン弾き』（1971 年）	文学に遺された世界とそれを消費する商業映画、ヨーロッパを回顧するアメリカ
13	J・コルタサル『悪魔の涎』（1959 年）／ M. アントニオーニ『欲望』（1967 年）	「得体のしれない不気味さ」の表現、時代の最先端をいく映画監督
14	掘辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）	大胆な翻案と同名タイトルが連想させるもの、「小説家」のイメージ、芸術家の使命
15	まとめ	本学期で学んだ内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文学作品については該当箇所をあらかじめ読んでおきます。
毎授業ごと、自分の考えをまとめた小レポート（リアクションペーパー）を、次回授業開始前までに提出します。

【テキスト（教科書）】
授業で扱う作品について、文学作品については事前に指示ないしプリントで配布します。映画の DVD 等はこちらで用意します。

【参考書】
・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987 年
・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999 年
・A・バザン（野崎歓ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015 年
・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005 年
・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990 年
・西村清和『イメージの修辞学 ことばと形象の交叉』（三元社）2009 年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（議論、レポート含む）50 %、最終レポート課題 50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【その他の重要事項】
扱う作品・順序は変更されることがあります。

GA330

現代美術論

稲垣　立男

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代美術の理論と実践についての授業です。
今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーミングアーツ、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。
現代美術のコンテクストを、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】
講義では、現代美術と同様に関連のある芸術分野についても扱います。現代美術を中心に、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し、俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。
みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【授業の進め方と方法】
講義とワークショップが中心となります。講義毎に授業内レポートを提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について
	現代美術の基礎知識 1	印象派、フォービズム、キュビズム、未来派・ダダ、シュルレアリズム
第 2 回	現代美術の基礎知識 2	アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート
第 3 回	ワークショップ 1	プレゼンテーションとディスカッション
第 4 回	現代美術とパフォーマンス	アクション、ハプニング、パフォーマンスアート
第 5 回	ダンスとパフォーマンス	ダンス/コンテンポラリーダンス、舞踏
第 6 回	現代音楽とパフォーマンス	現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック
第 7 回	ワークショップ 2	プレゼンテーションとディスカッション
第 8 回	絵画・彫刻・ドローイング	プラークシスな実践としての芸術作品について
第 9 回	メディアとアート	写真・映像・インスタレーション
第 10 回	関係性の美術	パブリックアート・参加型プロジェクト・ワークショップ
第 11 回	ワークショップ 3	プレゼンテーションとディスカッション
第 12 回	現代美術と言葉	現代詩/ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ
第 13 回	現代美術とコミュニケーション	ポップアート、インターネット、SNS
第 14 回	ワークショップ 4	プレゼンテーションとディスカッション
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術の展覧会や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内容に関連した資料を配布します。
授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】
1.Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice（Berg Pub Ltd）
2. 芸術表象コンセプトブック　アート・プラットフォーム（美学出版）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
授業内レポート（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますのでやりがいがあると思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する可能性がありますので、登録をしておいてください。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスに必ず出席してください。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できません。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

LA201

文章論－文章表現の実践

藤村　耕治

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**金・4**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文章表現、特にクリエィティブ・ライティングと呼ばれる随筆や小説創作の執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。
特に重視するのは他者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の他者の作品を読むという経験を通して、己の個性を生かしつつ、独りよがりにならない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、より良いものに練り上げていくことが目的です。

【到達目標】
随筆や小説の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、文章表現における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。
他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得すると同時に、それを自分にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。
また、年間で一冊の作品集を制作し、その過程で校正・編集などに関する基礎的な方法を学ぶこと。

【授業の進め方と方法】
随筆（エッセイ）や小説、詩や戯曲（シナリオ）の実作と、その相互批評を中心に進めます。受講人数にもよりますが、５～６人で一つの班を作り、受講者の作品をまずは班内で討議し、そこで出された意見をもとに全体で討議する、というサイクルを繰り返します。
春学期中に二作、夏季休業中に一作の計三作を完成させ、秋学期にそのうちの一作を掲載する作品集を編集・製本します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	クリエィティブ・ライティングとは何か	ガイダンス。
第 2 回	小説の読み方Ⅰ	過去に書かれた学生の作品をテキストに、小説を読む際の着眼点や表現の工夫などについて考える。
第 3 回	小説の読み方Ⅱ	第２回の続き。
第 4 回	作品執筆と相互批評Ⅰ	受講者の書いた作品をテキストに、班内で合評会を行う。
第 5 回	作品執筆と相互批評Ⅱ	第４回の続き。
第 6 回	全体討議Ⅰ	受講生の書いた作品をテキストに、全体で合評会を行う。
第 7 回	全体討議Ⅱ	第６回の続き。
第 8 回	全体討議Ⅲ	第７回の続き。
第 9 回	作品執筆と相互批評Ⅲ	受講生の書いた作品をテキストに、班内で討議を行う。
第 10 回	作品執筆と相互批評Ⅳ	第９回の続き
第 11 回	全体討議Ⅳ	受講生の書いた作品をテキストに、全体で合評会を行う。
第 12 回	全体討議Ⅴ	第１１回の続き。
第 13 回	全体討議Ⅵ	第１２回の続き。
第 14 回	全体討議Ⅶ	第１３回の続き。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期に書いた作品についての総括。
第 16 回	作品集製作Ⅰ	作品集製作ガイダンス。
第 17 回	作品集製作Ⅱ	校正の方法について学ぶ。
第 18 回	作品集製作Ⅲ	自作の校正および編集の基礎について学ぶ。
第 19 回	相互批評Ⅰ	夏季休業中に書いた作品をテキストに、班内で合評会を行う。
第 20 回	相互批評Ⅱ	第１９回の続き。
第 21 回	作品集製作Ⅳ	最終著者校正と校了までの仕事について学ぶ。
第 22 回	全体討議Ⅷ	夏季休業中に書いた作品をテキストに、全体で合評会を行う。
第 23 回	全体討議Ⅸ	第２２回の続き。
第 24 回	全体討議Ⅹ	第２３回の続き。
第 25 回	作品集合評Ⅰ	作品集に掲載した作品の合評を全体で行う。
第 26 回	作品集合評Ⅱ	第２５回の続き。
第 27 回	作品集合評Ⅲ	第２６回の続き。
第 28 回	作品集合評Ⅳ	第２７回の続き。
第 29 回	作品集合評Ⅴ	第２８回の続き。
第 30 回	一年間のまとめ	作品集掲載作品を評論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い作品を書くためには、良い作品に触れなければなりません。自分の書きたいジャンルにとらわれず、できるだけ多くの小説や随筆を読んでください。映画や演劇なども積極的に観るようにしましょう。また、作品執筆に当たっては、参考となる文献や調査が必要となる場合もあります。それらのすべてが、授業時間外の学習に相当します。
作品執筆も授業外で行います。さらに、合評会にのぞむ際には、その日予定されている他の受講者の合評対象作品をあらかじめ精読し、自分なりの意見や評価を持ち寄らなければなりません。しっかりと準備することが必要です。

【テキスト（教科書）】
テキストは、受講者の作品すべてです。
必要に応じてプリントを配ったり、読んでほしい本を紹介したりします。

【参考書】
根本昌男著『[実践] 小説教室：伝える、揺さぶる基本メソッド』ＰＨＰ新書

【成績評価の方法と基準】
討議への積極的な参加や発言 50 %、作品の提出率 25 %、年度末に課す作品評レポート 25 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
より良い作品に練り上げるため、必要に応じて添削も含めた懇切な指導を行います。

LA232

文芸創作講座

青山　七恵

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説を書くという行為を通して、日常の事物を新たな視点から捉え直し、型にとらわれない自由な発想で言語世界を構築していく。
また、合評会や実作の過程で他者の意見を冷静に受け入れる姿勢と自己批評能力を養う。

【到達目標】
まずは小説を支える描写の技術に力点を置き、対象を正確に描写する能力、および引き寄せた言葉からより強靭なイメージを育てていく方法を習得する。
描写の基礎を心得たところで、構成と語りの枠組みを学び、1 年のまとめとして短編小説を 1 作仕上げる。

【授業の進め方と方法】
実作の授業では講師によるレクチャーのあとに全員が共通の主題で作品の「断片」を書き、授業時間内に提出する。その際、合評会の発表者に指名された学生は翌週までに作品を仕上げてくること。
合評会ではそのテキストをもとに議論と質疑応答を行う。
後半は 1 年のまとめとして学生同士でペアを組み、作家と編集者の役割を疑似体験しながら創作に取り組む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「小説の言葉とは何か？」
第 2 回	描写の訓練１	りんごを描く
第 3 回	合評会	発表と議論
第 4 回	描写の訓練２	1 枚の絵から描く
第 5 回	合評会	発表と議論
第 6 回	描写の訓練３	土地と風景の描写
第 7 回	合評会	発表と議論
第 8 回	描写の訓練４	人物と会話文
第 9 回	合評会	発表と議論
第 10 回	描写の訓練５	関係を描く
第 11 回	合評会	発表と議論
第 12 回	描写の訓練６	動物を描く
第 13 回	合評会	発表と議論
第 14 回	描写の訓練７	瞬間の描写
第 15 回	合評会	発表と議論
第 16 回	語りの手法	文芸作品を講読し（森鷗外『雁』を予定）、ストーリーと語りの関係を捉える
第 17 回	合評会	発表と議論
第 18 回	取材の実践	取材あるいは新聞記事をもとに著述する
第 19 回	合評会	発表と議論
第 20 回	推敲訓練	講師による推敲作業の実演
第 21 回	合評会	発表と議論
第 22 回	作家との対話	現役で活躍する小説家を招き、インタビューを行う
第 23 回	実作指導１	これまでに学んだことをもとに 1 年のまとめとして個別に創作に取り組む
第 24 回	実作指導２	学生同士で組んだペアごとに講師の個別指導を受け、進捗状況を報告
第 25 回	実作指導３	推敲と校正作業
第 26 回	総合合評会１	第１班の学生の作品を取り上げ、意見交換を行う
第 27 回	総合合評会２	第２班の学生の作品を取り上げ、意見交換を行う
第 28 回	総合合評会３	第３班の学生の作品を取り上げ、意見交換を行う
第 29 回	総合合評会４	第４班の学生の作品を取り上げ、意見交換を行う
第 30 回	1 年のまとめ	「小説の言葉とは何か？」再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者に指名された学生は、翌週の合評会までに作品を仕上げてくること。
また、年に数回、主題の理解を助けるための参考図書を指定するので、必ず読んでくること。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
主題により、都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
実作課題の提出状況 40 %、合評会への参加態度 30 %、1 年のまとめ作品への取り組み 30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
受講希望者が定員 20 名を超過した場合はレポートにより受講者を選考します。

LA230

日本芸能史論

阿部　真弓

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

【到達目標】
①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【授業の進め方と方法】
春学期の前半は、ビデオ、ＤＶＤ等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、代表的な伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。
その後の授業では、受講者全員に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらいます。各回、１名（または１グループ）が発表した後、討論し、考察を深めることとします。
〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「能面について」「歌舞伎と江戸文化」「香道について」「壬生狂言について」「和太鼓の今と昔」「山形花笠まつり」「落語の演技」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	古代成立の芸能に関する講義 (1)
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	古代成立の芸能に関する講義 (2)
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	中世成立の芸能に関する講義 (1)
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	中世成立の芸能に関する講義 (2)
第 8 回	伝統芸能概説 (5)	近世成立の芸能に関する講義 (1)
第 9 回	伝統芸能概説 (6)	近世成立の芸能に関する講義 (2)
第 10 回	まとめ	第 2 回～第 9 回の講義内容の整理・まとめ
第 11 回	発表・討論 ～前近代①～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	発表・討論 ～前近代②～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	発表・討論 ～前近代③～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	発表・討論 ～前近代④～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 15 回	まとめ	ここまでの発表内容についての整理、補足説明
第 16 回	ガイダンス	秋学期授業の内容に関する確認
第 17 回	発表・討論 ～前近代⑤～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 18 回	発表・討論 ～前近代⑥～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 19 回	発表・討論 ～前近代⑦～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 20 回	発表・討論 ～前近代⑧～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 21 回	日本の芸能に関する講義	ここまでの発表内容についての整理、補足説明、DVD 鑑賞等
第 22 回	発表・討論 ～近代以降①～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 23 回	発表・討論 ～近代以降②～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 24 回	発表・討論 ～近代以降③～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 25 回	発表・討論 ～近代以降④～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 26 回	発表・討論 ～近代以降⑤～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 27 回	発表・討論 ～近代以降⑥～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 28 回	発表・討論 ～近代以降⑦～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 29 回	発表・討論 ～近代以降⑧～	受講者が芸能に関する考察を発表する。その後、討論。

第 30 回　まとめ　　授業のまとめとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容 30 %（①②③）、秋学期最終授業日提出のレポート 40 %（①②④）、平常点および討論への参加状況 30 %（③）という配分で総合的に評価します。なお平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって確認します。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講者の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講者の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは阿部がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
受講の許可、また春学期のスケジュールを確定する都合上、受講を希望する人は必ず第 1 回授業に出席して下さい。やむをえず欠席する場合は、第 1 回授業までに、受講希望の旨をメールで阿部に連絡する（必ず件名を「受講希望」とし、maya@hosei.ac.jp 宛に送ること。無題のメールは受け付けません）、または出席できる友人にことづける等して下さい。
第 1 回授業終了後、受講許可者を掲示します。受講許可者がこの授業の履修登録をしないことは可能ですが、受講許可者以外の人が履修登録することは不可としますので、注意して下さい。

LA230

身体表現論（バレエの世界）

鈴木　晶

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレエはヨーロッパで生まれた身体芸術であるが、極東の国日本でもバレエを習っている子ども（と大人）はざっと 40 万人いるといわれ、バレエ教室、バレエ学校は全国各地にある。日本だけでなく、オーストラリア、ラテンアメリカ、中国などでもバレエは盛んである。したがって普遍性の高い舞踊ジャンルであるといえる。
そのバレエが一体いかなる芸術なのかを学ぶことがこの授業のテーマであり、バレエを観たときに、たんに「すごい」「きれい」というだけでなく、ちゃんと評価ができるようになることが目標である。

【到達目標】
芸術鑑賞は生涯にわたって続くものである。この授業の到達目標は、バレエ芸術の鑑賞方法の基本を学び、卒業後も、一般のバレエ・ファンよりも深い見方ができるようになることである。就業力養成にはおそらく役に立たないと思われるが、人生は仕事がすべてではない。生涯にわたってより深く芸術、とくに舞台芸術を関わっていくために、基本原理と基礎知識を身につける。
バレエをまったく知らない人も、遠慮することはない。しかし、授業だけではなく、日頃からテレビ、ビデオ、YouTube などでできるだけ多くのバレエを観ることを心がけてほしい。

【授業の進め方と方法】
ひとくちにバレエといっても、古いものから新しいものまでさまざまあり、また物語のある作品もない作品もある。そうしたさまざまな種類のバレエについて解説すると同時に、バレエが歴史的にどのように発展してきたかについても学ぶ。
まず指定された教科書をあらかじめ読んでおくこと（授業中にも使用するので、かならず持参すること）。参考文献も購入して読んでおくことが望ましい。
授業の進め方は、映像を用いながら、教員が講義するという形式をとる。
年度内に 2 回、実際にバレエを観に行く。各 5000 〜 6000 円の費用がかかるが、一般のチケットよりもはるかに安いチケットが入手できる。これにはかならず参加することが必要。鑑賞後、レポート提出も義務である。昨年度は年間 4 回バレエを鑑賞し、費用は各自 2 万円弱かかった。今年度、何回バレエを観に行くかは未定。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	バレエとは何か	ひとくちにバレエといっても、宮廷バレエ、ロマンティック・バレエ、クラシック・バレエ、現代バレエなど、さまざまなバレエがある。具体例をみながら、バレエの多様性についての知識を得る。
第 2 回	クラシック・バレエの作品分析（1）「ドン・キホーテ」（その 1）	「ドン・キホーテ」はロシアで生まれたバレエだが、「初心者用バレエ」であり、入門用に最適のバレエであるので、最初にこれをとりあげ、ビデオをみながら、バレエ芸術をどんなふうにできあがっているのかを解説する。
第 3 回	クラシック・バレエの作品分析（1）「ドン・キホーテ」（その 2）	バレエはマイムとダンスからなる。ビデオをみながら、具体的にマイムとダンスの部分の違いについて学習する。
第 4 回	クラシック・バレエの作品分析（1）「ドン・キホーテ」（その 3）	パ・ド・ドゥについて学ぶ。これはクラシック・バレエにおいて完成された独特の形式である。
第 5 回	クラシック・バレエの作品分析（2）「白鳥の湖」（その 1）	数あるバレエの中でも最も有名な「白鳥の湖」をみる。
第 6 回	クラシック・バレエの作品分析（2）「白鳥の湖」（その 2）	「白鳥の湖」は複雑な発生過程を有しており、そのためにさまざまな版がある。その違いについて学ぶ。
第 7 回	クラシック・バレエの作品分析（2）「白鳥の湖」（その 3）	「白鳥の湖」は初演が 1877 年、蘇演が 1895 年であり、そのために内容的にはロマンティック・バレエに近く、形式的にはクラシック・バレエに近い。それが具体的にはどのようなところにあらわれているかを学ぶ。
第 8 回	クラシック・バレエの作品分析（3）「眠れる森の美女」（その 1）	「眠れる森の美女」はクラシック・バレエの最高傑作とされる。どこが優れているのかを学ぶ。
第 9 回	クラシック・バレエの作品分析（3）「眠れる森の美女」（その 2）	「眠れる森の美女」を例に、クラシック・バレエの特徴について学ぶ。
第 10 回	クラシック・バレエの作品分析（3）「眠れる森の美女」（その 3）	「眠れる森の美女」の相当な部分を占めるディヴェルティスマン形式について学ぶ。

第 11 回	クラシック・バレエの作品分析（4）「くるみ割り人形」	「くるみ割り人形」は、世界で最も上演回数が多いが、音楽がひじょうに優れているにもかかわらず、バレエとしては傑作とはいいがたく、しょせんはお子様向けバレエである。では実際にどこに問題があるのかを検討する。
第 12 回	クラシック・バレエの作品分析（5）「バヤデルカ」	「バヤデルカ」はロマンティック・バレエからクラシック・バレエへの移行期の作品であるが、どこが優れているのかを学ぶと同時に、オリエンタリズムについても学ぶ。
第 13 回	バレリーナの研究（1）	バレエにはさまざまな作品があるが、重要なのはストーリーではない。誰が踊るかによって大きく違ってくる。ビデオをみながら、それを具体的に知る。
第 14 回	バレリーナの研究（2）	バレエには男性も女性も登場するが、19 世紀においては圧倒的に女性中心であった。どうしてそのようになったのかについて考える。
第 15 回	男性ダンサーの研究	19 世紀には舞台の中央にはつねに女性ダンサーがいたが、20 世紀になってその状況に変化が起き、男性ダンサー中心の作品が登場する。それらについて具体的に学ぶ。
第 16 回	ロマンティック・バレエの作品分析（1）「ジゼル」（その 1）	「ジゼル」を鑑賞しながら、現在のバレエの原型であるロマンティック・バレエについての理解を深める。
第 17 回	ロマンティック・バレエの作品分析（1）「ジゼル」（その 2）	「ジゼル」を鑑賞しながら、現在のバレエの原型であるロマンティック・バレエについての理解を深め、クラシック・バレエとの大きな違いについて学ぶ。
第 18 回	ロマンティック・バレエの作品分析（2）「ラ・シルフィード」（その 1）	「ジゼル」は「ラ・シルフィード」の二番煎じとして制作された。その「ラ・シルフィード」を鑑賞しながら、ロマンティック・バレエの発生過程について学ぶ。
第 19 回	ロマンティック・バレエの作品分析（2）「ラ・シルフィード」（その 2）	ロマンティック・バレエはいうまでもなく西欧のロマン主義と深い関わりがある。ロマン主義文学・音楽・哲学とバレエの関係について学ぶ。
第 20 回	バレエ・リュス（1）フォーキンの作品分析	バレエ・リュスはバレエ史上最も重要なバレエ団である。その活動時期は 1909-29 年だが、この回では最初期のミハイル・フォーキンの作品について学ぶ。
第 21 回	バレエ・リュス（2）ニジンスキーとマシーンの作品分析	この回では、フォーキンがバレエ・リュスを去った後のワスラフ・ニジンスキーの作品、さらにニジンスキーがバレエ・リュスを去った後のレオニード・マシーンの作品について学ぶ。
第 22 回	バレエ・リュス（3）ニジンスカとバランシンの作品分析	この回ではマシーンがバレエ・リュスを去った後にバレエ・リュスのコレオグラファーとなったブロニスラワ・ニジンスカとその後にコレオグラファーとなったジョージ・バランシンの作品ついて学ぶ。
第 23 回	現代バレエ（1）バランシンの抽象バレエ（その 1）	現代のバレエ、すなわち 20 世紀後半以降のバレエは、いくつかの大きな流れに分かれる。そのうちのひとつ、抽象バレエについて学ぶ。
第 24 回	現代バレエ（1）バランシンの抽象バレエ（その 2）	前回に引き続き、抽象バレエの創始者であるバランシンの作品を分析する。
第 25 回	現代バレエ（2）モーリス・ベジャール（その 1）	現代バレエのなかでも、モダンダンスの影響を受けながら、同時にバレエ・リュスの流れをも引く、モーリス・ベジャールの作品を見ながら、その特徴について学ぶ。
第 26 回	現代バレエ（2）モーリス・ベジャール（その 2）	モーリス・ベジャールの後期作品を鑑賞しながら、その特徴を学ぶ。
第 27 回	現代バレエ（3）ローラン・プティ	ローラン・プティは、キャバレーのダンスを取り入れつつ、独自のスタイルを完成させた。そのプティ作品の特徴を学ぶ。
第 28 回	現代バレエ（4）イリ・キリアン	この回では、現代バレエをになってきた代表的コレオグラファーのひとりであるイリ・キリアンの作品を鑑賞しながら、その特徴を学ぶ。
第 29 回	現代バレエ（5）その他	この回では、ウィリアム・フォーサイス、ジョン・ノイマイヤーなど、現代バレエにおける重要なコレオグラファーたちの作品について学ぶ。
第 30 回	試験	試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として年度内に 2 ～ 3 回、実際にバレエ鑑賞に行く（回数は年度によって異なる。昨年度は 4 回行った）。費用が毎回 5000 円程度かかるので、準備しておくように。またバレエ鑑賞後、レポートを提出してもらう。
鑑賞する作品について事前学習するので、それによって、上のスケジュールは変更の可能性がある。

【テキスト（教科書）】
鈴木晶『バレエへの招待』（筑摩書房）

【参考書】
鈴木晶『バレエ誕生』（新書館）
『オックスフォード版バレエ＆ダンス事典』（平凡社）
鈴木晶編著『バレエとダンスの歴史』（平凡社）

【成績評価の方法と基準】
毎回のレスポンスシート（40 %）と、バレエ鑑賞レポート（30 %）と、学年末試験（30 %）。
理由なき欠席は原則として認めない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
インタラクティヴな授業をこころがけたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC，DVD，プロジェクター。BT0300 教室 (マルチメディアスタジオ）を使用する予定。

【その他の重要事項】
単位修得のためにはバレエ鑑賞は必須なので、そのチケット代がかかることを忘れないように。
　初回に出席しないと、受講できません。

LA230

美術論

稲垣　立男

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では西洋美術、日本美術、近現代美術の基本的な内容を、俯瞰的、実践的に学びます。
1. 美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
2. より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいく「All in One」の授業です。

【到達目標】
春学期
『西洋の美術』
西洋美術史の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学んでいきます。
秋学期
『日本の美術』
日本美術史の基本的な事柄についておさらいをします。
『現代美術』
現代美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。作品制作や展覧会企画のプラン、美術批評にチャレンジします。

【授業の進め方と方法】
講義の中で、作品例などの映像やスライドを多く使用します。
制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。
講義全体を通じて美術鑑賞者のための検定試験である「美術検定」の 3-4 級の合格を視野に講義を進めようと考えています。美術検定については下記を参照してください。
http://www.bijutsukentei.jp/introduction.html

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期授業 授業内容の説明
2	『西洋の美術』 原始• 古代の美術	原始美術/メソポタミア エジプト・エーゲ/ギリシア・ローマ
3	『西洋の美術』 中世美術	ビザンティン/ロマネスク/ゴシック
4	『西洋の美術』 ルネサンス美術 バロック・ロココ美術	ルネサンス/マニエリスム/バロック/ロココ
5	『西洋の美術』 ワークショップ 1	プレゼンテーションとディスカッション
6	『西洋の美術』 近代美術の誕生と印象派 1	近代とは/新古典主義/ロマン主義/写実主義
7	『西洋の美術』 近代美術の誕生と印象派 2	印象派の背景/印象派/新印象派/ポスト印象派
8	『西洋の美術』 前衛芸術運動 1	アバンギャルド/フォヴィスム/表現主義/キュビスム
9	『西洋の美術』 前衛芸術運動 2	未来派/ダダイズム/シュルレアリズム
10	『西洋の美術』 ワークショップ 2	プレゼンテーションとディスカッション
11	『西洋の美術』 第二次大戦前	構成主義/デ・ステイル/バウハウス
12	『西洋の美術』 戦後からポップアートまで	抽象表現主義/ネオダダ/ポップアート
13	『西洋の美術』 1960 年代のアート	ランドアート/ミニマリズム/コンセプチュアル・アート
14	『西洋の美術』 ミレニアムまで	ポストモダニズム/ニューペインティング/YBA/スーパーフラット
15	『西洋の美術』 ワークショップ 3	プレゼンテーションとディスカッション
1	オリエンテーション 『日本の美術』 先史・古墳時代の美術	秋学期授業の説明 旧石器時代/縄文時代/弥生時代/古墳時代
2	『日本の美術』 古代美術	飛鳥・奈良時代/白鳳時代/奈良・平安時代
3	『日本の美術』 中世美術	鎌倉・室町時代/桃山・江戸時代
4	『日本の美術』 近代美術のはじまり 大正から戦前	明治時代・西洋画と日本画 /大正デモクラシー/戦争画
5	『日本の美術』 戦後美術 1979-1980	アンデパンダン/ネオダダ/ハイレッドセンター/実験工房/もの派/もの派以降/インスタレーション・パフォーマンス
6	『日本の美術』 ワークショップ	プレゼンテーションとディスカッション
7	『現代美術』 作品制作のコンテクスト	関係性の美術/マルチメディア
8	『現代美術』 作品制作のコンテクスト	課題制作
9	『現代美術』 作品制作のコンテクスト	プレゼンテーションとディスカッション
10	『現代美術』 展覧会の企画	講義 美術館/国際展/キュレーションについて
11	『現代美術』 展覧会の企画	課題制作
12	『現代美術』 展覧会の企画	プレゼンテーションと ディスカッション
13	『現代美術』 美術批評	講義 多文化主義・ポストコロニアル理論/カルチュラル・スタディーズ
14	『現代美術』 美術批評	課題制作
15	『現代美術』 美術批評	プレゼンテーションと ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。

【テキスト（教科書）】
毎回授業に関連したプリントを配布します。
参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】
杉原賢彦、前島秀国、暮沢剛巳『アートを書く！　クリティカル文章術』フィルムアート社、2006 年
松井みどり『アート:“芸術” が終わった後の “アート”』朝日出版社、2002 年
辛美沙『アート・インダストリー―究極のコモディティーを求めて』美学出版、2008 年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本　美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
『マークシートで学ぶ美術の歴史 [入門編] 美術検定 4 級速習ブック&練習問題 2014』美術出版社、2014 年
『マークシートで学ぶ美術の歴史 [初級編] 美術検定 3 級練習問題』美術出版社、2014 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）
授業毎に行うレポートもしくは制作課題（50%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
楽しく解りやすい授業をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使う可能性があります。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスに必ず出席してください。
特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できません。

LA230

芸術と人間

岡村　民夫

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。春学期は、空間の諸要素をとりあげ、秋学期は、それらを総合し、都市や自然といった空間全体をとりあげる。

【到達目標】
空間の側から映画を捉えなおすことで、映画の鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。観る映画のジャンル・年代・地域を拡げる。

【授業の進め方と方法】
毎回、映画（サイレント映画から近年の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。
初回に、定員を 50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、必ずこれに出席すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地面を走る	チャールズ・チャップリン、バスター・キートン
3	地面を歩く	ジョン・フォード、宮崎駿
4	地面で踊る	フレッド・アステア、ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	セルゲイ・エイゼンシュテイン、アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー、細田守
7	列車に乗る	リュミエール兄弟、アルフレッド・ヒッチコック
8	列車に乗る２	黒澤明、ホウ・シャオシェン
9	座る／寝る	小津安二郎
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ
11	聴く	フリッツ・ラング、ロベール・ブレッソン
12	ドアを開け閉めする	ルビッチ、諏訪
13	鏡を見る	ジョセフ・ロージー、オーソン・ウェルズ
14	鏡を見る２	吉田喜重
15	レポート提出	補遺と春学期レポートの提出
1	秋学期ガイダンス	春学期レポートの返却 復習 秋学期授業の概要
2	高層都市	フリッツ・ラング、キング・ヴィダー
3	迷宮都市	フェデリコ・フェリーニ
4	都市をさまよう	ジャック・タチ、ジャン=リュック・ゴダール
5	都市の記憶	ヴィム・ヴェンダース
6	廃墟	マルグリット・デュラス、黒沢清
7	船に乗る	ムルナウ、溝口
8	川	フランスス・フォード・コッポラ、佐藤真
9	雨	山中貞雄、相米慎二
10	水の変化	アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン、宮崎駿
12	動物	アピチャポン・ウィラセタクン
13	補遺１	講義で抜けおちたものの補足
14	補遺２	新作映画に関する補足
15	レポート提出	レポート提出と補遺

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントを読む。
映画館や DVD で映画を分析的に観賞する。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布する。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %＋レポート 50 %（ただしレポートを 1 回でも提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回選抜試験を受けること。毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

LA329

ドイツの文学Ⅰ

山下　敦

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ー ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』と 18 世紀ヨーロッパ ー
ドイツ語圏の文学作品を取り上げ、その世界像を理解しながらドイツ語圏の文学や芸術に触れる。

【到達目標】
文学作品を詳細に読み、作品が成立する背景の理解とともに、テキストの読解と分析を通じて、作品世界を客観的かつ総体的に把握することができるようになる。

【授業の進め方と方法】
今学期は 18-19 世紀ドイツの作家ゲーテが書いた小説『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』を読み解くことを中心にする。劇作家を志望する市民階級の若者の生活を辿りながら、その周りに集う様々な人物が織りなす人間模様の中に 18 世紀ドイツの社会が浮かび上がる。脇役に見える人々の姿が魅力的にきらめく長編小説である。小説といいながらも、近代の小説が成立する以前の深い物語性を秘めており、作品の中に表われる 18 世紀ドイツの文化背景を同時に検証する。授業は、担当学生の発表を基にして進められるが、受講生各自の主体的な読解と分析の姿勢によって授業に参加することが求められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	作品の時代的背景と作家の紹介
第 2 回	作品の全体像の紹介	作品の構成と概要
第 3 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅰ巻 – 1	第 1 章 〜 第 8 章
第 4 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅰ巻 – 2	第 9 章 〜 第 17 章
第 5 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅱ巻	第 1 章 〜 第 14 章
第 6 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅲ巻	第 1 章 〜 第 12 章
第 7 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅳ巻	第 1 章 〜 第 20 章
第 8 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅴ巻	第 1 章 〜 第 16 章
第 9 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅰ〜Ⅴ巻	物語 前半の把握
第 10 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅵ巻	美しいたましいの告白
第 11 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅶ巻 – 1	第 1 章 〜 第 6 章
第 12 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅷ巻 – 2	第 7 章 〜 第 9 章
第 13 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅷ巻 – 1	第 1 章 〜 第 5 章
第 14 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』第Ⅷ巻 – 2	第 6 章 〜 第 10 章
第 15 回	ゲーテ『W.M. の修業時代』総括	作品の全体的把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少なくとも各回授業の対象となるテキストを精読し、場面・作品ごとの理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
前田敬作・今村孝訳『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』 ゲーテ全集 7 小説
新装普及版 潮出版 ￥2000
その他授業時にコピーを配布

【参考書】
授業内容に応じて随時紹介

【成績評価の方法と基準】
出席点 ca.20%, 平常点 ca.20%, レポート課題 ca.60%.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当科目につき該当なし

LA329

ドイツの文学Ⅱ

山下　敦

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ー オーストリアの小説とウィーン世紀末文学 ー
ドイツ語圏の文学作品を取り上げ、その世界像を理解しながらドイツ語圏の文学や文化に触れる。

【到達目標】
文学作品を詳細に読み、作品が成立する背景の理解とともに、テキストの読解と分析を通じて、作品世界を客観的かつ総体的に把握することができるようになる。

【授業の進め方と方法】
今学期は何人かの作家を取り上げてオーストリアの文学を扱う。旧オーストリア帝国が崩壊するまで、帝都ウィーンはドイツ語圏の文化の中心だったが、この都を中心にいわゆるドイツ文化とはかなり異質な文化が栄え、文学・芸術に結実している。オーストリア文化の特質が色濃く表現された代表的な作家の作品世界を読み解きながら、19 世紀末に花開いたウィーン世紀末の文学・芸術との連関を検証する。授業は、担当学生の発表を基にして進められるが、受講生各自の主体的な読解と分析の姿勢によって授業に参加することが求められる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	作品の時代的背景と作家の紹介
第 2 回	オーストリア帝国とその文学	19 世紀のウィーンとハプスブルグ王朝
第 3 回	フランツ・グリルパルツァー	『ウィーンの辻音楽師』- 1
第 4 回	フランツ・グリルパルツァー	『ウィーンの辻音楽師』- 2
第 5 回	アーダルベルト・シュティフター	『森ゆく人』- 1
第 6 回	アーダルベルト・シュティフター	『森ゆく人』- 2
第 7 回	アーダルベルト・シュティフター	『森ゆく人』- 3
第 8 回	ウィーン世紀末文化の背景	19 世紀末の社会と都市改造
第 9 回	ウィーン世紀末の文学 – 1	シュニッツラーの短編小説
第 10 回	ウィーン世紀末の文学 – 2	ホーフマンスタールの短編小説
第 11 回	ウィーン世紀末の文学 – 3	ヨーゼフ・ロートの短編小説
第 12 回	アルトゥール・シュニッツラー	『夢小説』- 1
第 13 回	アルトゥール・シュニッツラー	『夢小説』- 2
第 14 回	ウィーン世紀末の芸術と文学	クリムトの絵画
第 15 回	オーストリア帝国の文学とまとめ	秋学期の回顧と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少なくとも各回授業の対象となるテキストを精読し、各章・作品ごとの理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
グリルパルツァー『ウィーンの辻音楽師』 岩波文庫
シュティフター『森ゆく人』松籟社 シュティフター・コレクション
シュニッツラー『夢小説・闇への逃走』 岩波文庫
その他授業時にコピーを配布

【参考書】
授業内容に応じて随時紹介

【成績評価の方法と基準】
出席点 ca.20%, 平常点 ca.20%, レポート課題 ca.60%.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当科目につき該当なし

LA330

ドイツの芸術Ⅰ

辻　英史

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 **年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今さら人にきけないドイツ芸術（再）入門

【到達目標】
ドイツの芸術を理解するために必要な基礎知識を整理し、時代背景とともに有名な作品を紹介します。どこかで聞いたことがあるけど、今さら人に訊けないような芸術家やその作品について学ぶことで、ドイツとその文化に対する理解を深めることを目標にします。

【授業の進め方と方法】
絵画、音楽、建築の 3 分野を中心として、ドイツ芸術における巨匠や有名な作品を紹介し、鑑賞のポイントになる基本的な知識や、作品の作られた時代背景を解説します。
参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいですが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意します。授業では積極的な参加を要求します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツ芸術の特徴とは？
第 2 回	絵画編 1　中世の美術	ルネサンスって何だろう？　取り上げる芸術家：デューラー
第 3 回	絵画編 2　風景画の世界	絵画に表現された自然と人間の関係について。　取り上げる芸術家：C・D・フリードリヒほか
第 4 回	絵画編 3　風俗画の世界	絵画に浮かび上がる人々の日常の暮らしと変わりゆく世界。　取り上げる芸術家：F・G・ヴァルトミュラーほか
第 5 回	絵画編 4　表現主義って何だろう？	絵画の革命はどのようにして始まったのか。　取り上げる芸術家：「青い騎士」など
第 6 回	音楽編 1　キリスト教と音楽	切っても切れない関係にある宗教と音楽の関係について。　取り上げる芸術家：バッハ
第 7 回	音楽編 2　音楽と宮廷社会	華やかな宮廷を盛り上げる音楽の数々。　取り上げる芸術家：モーツァルト
第 8 回	音楽編 3　職業作曲家の誕生	音楽が儀式の伴奏や社交のためのものから鑑賞の対象になるまで。　取り上げる芸術家：ベートーヴェン
第 9 回	音楽編 4　ドイツ・ロマン派の栄光	19 世紀のドイツ市民社会の発展と音楽の関係。　取り上げる芸術家：シューマン、ブラームス
第 10 回	音楽編 5　後期ロマン主義、無調から十二音音楽へ	19 世紀末から 20 世紀初めの新しい音楽の世界。　取り上げる芸術家：マーラー、シェーンベルク
第 11 回	建築編 1　教会建築にみる様式の発展	ロマネスク、ゴシック様式からバロック・ロココ様式まで
第 12 回	建築編 2　ブランデンブルク門と新古典主義	ドイツ芸術におけるギリシア・ローマへの憧れについて。
第 13 回	建築編 3　ノイシュヴァンシュタイン城と歴史主義	「メルヘン王」ルートヴィヒ 2 世の道楽が観光資源になるまで。
第 14 回	建築編 4　ユーゲントシュティルから表現主義建築へ	19 世紀末から 20 世紀初めに出現した新しい建築の潮流
第 15 回	まとめ	ドイツ芸術をもっと楽しむためのヒント集。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (10%)、レポート (80%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

LA330

ドイツの芸術Ⅱ

辻　英史

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 **年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「芸術と政治」―近代ドイツにおける芸術と政治の関係

【到達目標】
芸術は政治と関係ない？ ―とんでもない！ ドイツの歴史のなかで政治と芸術は深く関わってきた。歴史的事件や人物を題材にした作品は多く存在するし、芸術作品の誕生には、その時の政治体制や支配勢力が少なからず影響している。この授業では、近現代のドイツ芸術を題材として、政治的な状況や事件がどのような芸術作品を生み出してきたのか、また芸術作品のなかで歴史的な事件や人物はどのように扱われてきたのかを、とりわけ政治と芸術が密接に関わったナチ時代（1933-45 年）を中心に、さまざまな事例から検証する。
中心となるのは、演説や選挙戦、党大会といった政治行為が芸術作品として演出される「政治の美学化」と、芸術家自身が政治に深く関わらざるを得なくなっていく「美学の政治化」という二つの現象である。

【授業の進め方と方法】
19 世紀から 20 世紀のドイツの歴史のなかから重要な局面を選び、それぞれについて関連する芸術家および芸術作品を紹介し、その両者の関係を分析する。
参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意する。授業中は積極的な参加が要求される。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツの歴史の大まかな流れを概観する。
第 2 回	ナショナリズムと芸術	ドイツ国民意識の覚醒に対して芸術の果たした役割について。
第 3 回	階級対立と芸術	工業化と都市化の結果、貧富の差が広がり、階級対立が強まった. このことを題材とする芸術作品を扱う。
第 4 回	第一次大戦と芸術	戦争を題材とする芸術作品を紹介し、戦争が芸術家にもたらした影響について論じる。
第 5 回	ユダヤ人と芸術	中東欧に居住するユダヤ人は、差別や迫害と共存の交錯する長い年月のなかで、みずから芸術を作り出したり、その題材になったリした。ユダヤ人と芸術の関係を考える。
第 6 回	大衆文化と芸術	第一次世界大戦後には、新しく出現した大衆に支持された新しい芸術運動の方向性が出現した。そのヴァイマル文化と呼ばれる運動を紹介する。
第 7 回	ナチズムと芸術	ナチ体制の確立と、芸術に対する干渉と支配の実際を明らかにする。
第 8 回	ナチズムのもとでの芸術家たち	沈黙、迎合、抵抗、亡命から利用まで、芸術家たちのナチ体制に対する態度を分析する。
第 9 回	第二次世界大戦と芸術	国民の戦意高揚と戦争への動員に芸術が果たした役割を分析する。
第 10 回	ホロコーストと芸術	ユダヤ人の大虐殺はどのようにおこなわれたのか。芸術家はそれに対しどのような態度を取ったのか。
第 11 回	復興・経済成長と芸術	悲惨な敗戦、そしてそれに続く戦後の復興と高度経済成長から生まれた芸術作品について。
第 12 回	「過去の克服」と芸術	ナチ時代の犯罪的行為への反省がドイツ社会に広まるにあたって、芸術はどのように貢献したのか。
第 13 回	「ベルリンの壁」の建設（1961 年）	冷戦期の東西ドイツの分断は、どのような芸術作品を生み出したのか。
第 14 回	「ベルリンの壁」の崩壊（1989-90 年）	東欧の変革とドイツ再統一は、芸術においてはどのように扱われたのか。
第 15 回	日本における政治と芸術	政治と芸術の関係について、日本とドイツの比較を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (10%)、レポート (80%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

現代のコモンセンス

酒井　健、千野　明日香、島宗　理

授業コード：A3814
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。
この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】
①自分自身を顧み、改善できるようになる。
②対人関係を顧み、改善できるようになる。
③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【授業の進め方と方法】
学内外から招いた講師による 50 分程度の講義・それに関する質疑・応答を行い、最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出する。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。また、受講希望者数が過多と判断された場合には選抜を行なうことがある。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	対人問題（1）	ＫＹと引きこもり
第 3 回	対人問題（2）	心の悩みとメンタルヘルス
第 4 回	社会と規範（1）	身近なハラスメントとＤＶ問題
第 5 回	社会と規範（2）	職場と法令遵守
第 6 回	社会と規範（3）	職業モラルと社会人のマナー
第 7 回	実践と倫理（1）	医療と倫理的ジレンマ
第 8 回	実践と倫理（2）	正義と人権
第 9 回	実践と倫理（3）	メディアと倫理
第 10 回	社会と文化（1）	地域社会の現状と問題
第 11 回	社会と文化（2）	差別と社会
第 12 回	社会と文化（3）	異文化との共生
第 13 回	まとめ（1）	議論の総括とディスカッション（1）
第 14 回	まとめ（2）	議論の総括とディスカッション（2）
第 15 回	授業内レポート	授業内レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①毎回のレポート（10 ～ 15 分程度でまとめるものであり、出席カードを兼ねる）（80 %）
②学期末試験（レポート形式）（20 %）
①②は成績評価のために提出必須とする。また、4 回以上の欠席（①レポートの未提出）がある場合、あるいは授業に支障を生じると判断される言動等がある場合には、D評価とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループディスカッションを望む意見が多いので、グループディスカッションやそれに準じる作業学習の機会を増やしたい。
　提出したレポートへのフィードバックとして、各回数点のレポートに対して講義担当者からコメントをもらい、その内容を数回後の授業でフィードバックする。

【学生が準備すべき機器他】
DVD（BD < ブルーレイディスク> を含む）、PC（パワーポイント、インターネットサイト）

【その他の重要事項】
なし。

情報リテラシー実習Ⅱ

永保　敏伸

夜間時間帯
授業コード：A2602
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「情報リテラシー」を習得することが目標である．

① 「情報リテラシー」とは，これは情報を使いこなす能力のことで，大量の情報の中から必要なものを取り出し，組み合わせ，加工し，意志決定したり，結果を表現したりするための基礎的な知識や技能のことである．
② 技術的なことはもちろん，「情報」に接する際に必要な，多くの“視点”を獲得できるようにする．
③ そして，今後の学生生活や，社会人になって必要な能力の基礎を身につけてもらうことを目的とする．

【到達目標】
本講義では「情報リテラシー」に関して，
①必要な情報を整理し的確にまとめることができる．
②その際に必要なツールを選択できる．
③そのツールを使い情報を発信することができる．
という点に特に着目する．
単に Wrod や Excel といったソフトウェアの使い方だけに終始するのではなく，その時々の最新トピックを紹介し，見聞を広げるチャンスも提供する．幅広く，実践的な内容を扱う予定である．

【授業の進め方と方法】
講義は，原則的に実習形式（講義 → 実習 → まとめ）で行う．必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある．
また，提供した情報を基に，各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う．講義の進度は，当該年度に履修登録した学生の，講義前の習熟度を考慮し決める．

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「情報」の「伝達」	「情報」の種類により，適切な伝達方法を選択する．
第 2 回	コンピュータと情報	「情報」を「コンピュータ」で取り扱うということの真髄．
第 3 回	端末とインターネット	スマホやタブレットなど，「デジタル端末」の概要と特徴．
第 4 回	ハードウェアとソフトウェア	パソコンを構成する諸要素を理解し，その発展的活用方法を探る．
第 5 回	“ジオタグ”の活用	Google MAP の概要説明と，位置情報（GPS）を活用した実習．
第 6 回	インターネットサービスとその技術	インターネットの世界とその成り立ち，技術的な解説．また，最新の技術を紹介し，実習する．
第 7 回	“ネチケット”とマナー	インターネットの使い方と，利用時の心構えの解説．また，その際のマナーや留意点のまとめ．
第 8 回	文章作成（Word）①	概要説明と基本インターフェイス，基本操作の実習．
第 9 回	文章作成（Word）②	文字入力と書式設定． IME の種類と特徴．
第 10 回	文章作成（Word）③	印刷（出力）設定． ページや段落書式の設定．
第 11 回	文章作成（Word）④	ビジネステンプレート． 図や図形とクリップアート．
第 12 回	文章作成（Word）⑤	表と罫線． 各種ウィザード．
第 13 回	論文作成とその技術	学術論文やレポートを仕上げる際に役立つ使い方の解説と実習．
第 14 回	Word と Excel の連携	ビジネスレター作成時などにおいて，効率的に効果的な文章作成の概要と実習．
第 15 回	総合実習	取り扱った事項を総合した実習．

秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	ネットワークとセキュリティ	現在のパソコンを取り巻く環境を知り，コンピュータウィルスなどから守る術を知る．
第 17 回	情報倫理と法令遵守	ネットワークを利用する際の注意点や心構えと，法整備の現状．
第 18 回	プレゼンテーション（プレゼン技術）	効果的にプレゼンを行うための要素と，その為の技術解説．
第 19 回	プレゼンテーション（Impress）①	概要説明． 基本インターフェイスの使い方．
第 20 回	プレゼンテーション（Impress）②	スライド設定と操作． 文字入力． 段落と箇条書き設定．
第 21 回	プレゼンテーション（Impress）③	図形描画． オートシェイプ． テンプレート適用．
第 22 回	プレゼンテーション（Impress）④	グラフや表の挿入． プレゼン機能． まとめ及び課題．
第 23 回	クラウドコンピューティング	「同期型オンラインストレージの活用」など，最新技術を活用した知的生産術の紹介．
第 24 回	最新技術紹介	オンラインサービスで最新の内容を紹介．その時期に最も注目されている事項を扱う．
第 25 回	表計算（Excel）①	概要説明とインターフェイス． 基本操作．
第 26 回	表計算（Excel）②	文字入力と書式設定．
第 27 回	表計算（Excel）③	表計算とグラフ作成．
第 28 回	表計算（Excel）④	関数基礎．
第 29 回	表計算（Excel）⑤	関数応用．
第 30 回	総合実習	「情報リテラシー」の総合実習．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内で紹介した話題や技術の習熟度を確認するために，各回終了後に小課題を課す．内容は各回の到達状況によって変わるが，基本的に講義で習得した技術を各自が深める努力を求める．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．必要時は，講義時にその内容に即した教科書や参考書を適宜紹介する．

【参考書】
会田和弘　2009.『情報セキュリティ入門』．共立出版，149p.
井田正道・和田格　2009.『情報リテラシーテキスト』．培風館，189p.
大嶋淳俊　2012.『情報活用学入門-情報化社会の「攻め方」・「守り方」(情報リテラシーを超えて)』．学文社，204p.
小林貴之・谷口郁生・毒島雄二　2009.『これからの情報リテラシー』．共立出版，227p.
山川修ほか　2013.『情報リテラシー』．森北出版，168p.

【成績評価の方法と基準】
●平常点（40 %）
実習科目であるので，各回における講義に臨む姿勢（実習への取り組みや作業進行具合など）が重要である．
●小課題（30 %）
各回の講義終了時に，その講義内で扱った事項に関する小課題を課す．その課題を提出してもらい，講義の習熟度を確認する．
●各期末の課題提出（30 %）
各期末に，それまでに扱った内容を網羅する形で課題を課す．これは習熟度を確認するとともに，どれだけ各自がその情報や技術を自分のものとして獲得できたかを確認する．
いかに積極的に情報を深めていけるのかという点が重要である．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義と実習のバランス，進度や難易度．講義資料の提示方法，実習時間などは，出来る限り学生のレベルに応じて調整する．

【その他の重要事項】
初回講義時に今後の進め方等を説明し，作業も予定しているので，受講希望者は必ず出席すること．

キャリア・マネジメントⅠ　選択＜キャリアプログラム科目＞ 3 年次／ 2 単位　［春学期授業］

キャリア・マネジメントⅡ　選択＜キャリアプログラム科目＞ 3 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

今城　志保

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会人初期のキャリアに必要な知識を学びます。就職活動や、会社組織、そこで働く個人のキャリアの在り方などについて、理論を学ぶとともに、自分に当てはめて考えることで将来のキャリアマネジメントに使える考え方を身につけます。

【到達目標】
春学期、秋学期を通して、以下の 3 点を目標とします。
①社会人としての初期のキャリアをスタートする際に役立つ知識を身につけること
②自分の将来のキャリアについて、自分なりの考えを持つこと
③社会人生活の中で重要になる「主体的に考え活動する力」「他者と共同して目標に向かう力」をきたえること

【授業の進め方と方法】
春学期（Ⅰ）は、就職活動に重点を置いた内容についての講義を行います。秋学期（Ⅱ）は、社会人になって初期のキャリアを歩む際に知っておくべき内容を中心に講義を行います。春学期、秋学期とも、講義を聴くほかにグループでのディスカッションとワークを行ってもらう予定です。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンス、グループ分け
第 2 回	採用について知る①	組織は社員に何を求めているか（人材要件とは何か、組織や仕事への適合）
第 3 回	採用について知る②	評価の方法 1　適性検査（一般知的能力検査、性格適性検査など）
第 4 回	採用について知る③	評価の方法 2　面接（模擬面接を体験する、評価者側の視点に立つ）
第 5 回	採用について知る④	評価の方法 3　グループディスカッション（「あなただったら誰を採用しますか？」採用の意思決定を学ぶ）
第 6 回	採用について知る⑤	採用活動はどうあるべきか（社会的視点から、組織の視点から、個人の視点から考える）
第 7 回	仕事について知る①	誰かの仕事を紹介し、仕事の特徴を整理する（その人の仕事を行う際に必要な人材要件、その仕事を他の人に紹介する、ディスカッション、まとめ）
第 8 回	仕事について知る②	自分にとって重要な仕事の特徴は何か（前回のまとめのプレゼンテーション、自分にとって重要な仕事の特徴は何かを考える）
第 9 回	仕事について知る③	仕事と報酬（報酬に影響を与えるものは何か）
第 10 回	仕事について知る④	仕事の価値（自分にとっての価値、組織にとっての価値、社会にとっての価値、を考える）
第 11 回	会社を知る①	会社のイメージと会社の現実（自分が今まで所属してきた集団との違いを考える、自分は会社の何を知りたいか）
第 12 回	会社を知る②	会社という組織の見方を学ぶ（階層、権限、暗黙のルール、人間関係）
第 13 回	会社を知る③	気になる会社を調べてみよう（ビジネスの観点ではなく、“組織の見方” の視点から）
第 14 回	まとめ	半期のまとめとグループ活動の振り返り
第 15 回	グループ課題の提出	学期中に行ってきたグループ課題をまとめて提出する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンス、グループ分け
第 2 回	就職したら最初に何が起きるかを知る①	組織社会化について（理論の紹介、自分の社会化経験を振り返る）
第 3 回	就職したら最初に何が起きるかを知る②	一年目の仕事について考えるⅠ（調べてきたことを共有、ディスカッション、まとめ）
第 4 回	就職したら最初に何が起きるかを知る③	一年目の仕事について考えるⅡ（組織社会化研究の紹介、前回のグループディスカッションの発表）
第 5 回	キャリアについて考える①	日本の企業組織のキャリア（若手、中年期、高年期、女性）
第 6 回	キャリアについて考える②	キャリアの理論（主な理論の紹介、将来の自分をイメージする）
第 7 回	キャリアについて考える③	転職市場を知る（ゲストスピーカー）※予定
第 8 回	キャリアについて考える④	2030 年の働き方を考える（ゲストスピーカー）※予定
第 9 回	職場の人間関係について考える①	職場のコミュニケーション（上司、先輩、同期、他部署の人、社外の人）
第 10 回	職場の人間関係について考える②	チームで働くということ 1（チームワークに関する主な理論の紹介、役割性格、ＮＡＳＡのゲーム）
第 11 回	職場の人間関係について考える③	チームで働くということ 2（リーダーシップに関する主な理論の紹介、自分のグループの特徴と課題の振り返り）
第 12 回	適応について考える①	メンタルヘルスについて（主な理論の紹介、現在の日本企業の取り組み）
第 13 回	適応について考える②	ストレスマネジメント（ストレス診断、自分のストレス体験を振り返る、ストレスコーピング、ソーシャルサポートの活用）
第 14 回	まとめ	半期のまとめとグループ活動の振り返り
第 15 回	グループ課題の提出	学期中に行ってきたグループ課題をまとめて提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期、秋学期ともに、3 回ずつ授業外の学習活動が課せられます。3 回のうち 2 回は、授業の前準備としての情報収集です。情報収集のうち 1 回は、直接人に話を聞いて情報を集めるもので、もう 1 回は、本やインターネットなどを使って情報を集めます。残る 1 回の授業外活動は、授業を受けて自分の考えをまとめるものです。いずれも 1 時間程度の活動になる予定です。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
外島 裕・ 田中 堅一郎『産業・組織心理学エッセンシャルズ』増補改訂版 [ナカニシヤ出版]2004
古川 久敬『産業・組織心理学』[朝倉書店 (朝倉心理学講座)]2006
藤森 立男『産業・組織心理学－変革のパースペクティブ』[福村出版]2010
金井 寿宏, 高橋 潔『組織行動の考え方―ひとを活かし組織力を高める 9 つのキーコンセプト』[東洋経済新報社 (一橋ビジネスレビューブックス)]2004

【成績評価の方法と基準】
春学期、夏学期とも、出席点、個人の授業外の学習活動（3 件）、グループ課題（2 件）で成績評価を行います。
出席は 70 %以上を条件とし、出席率に応じて 40 点満点で評価します。
個人の学習活動は、1 件あたり 10 点 ×3（30 点満点）で評価します。
グループ課題はグループで一つレポートを提出していただき、1 件当たり 15 点 ×2（30 点満点）で評価し、それをグループメンバーの評価とします。ただし、グループ活動への貢献度が不十分な場合は、評価が低くなる場合があります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケートでいただいた意見は、積極的に生かしていきたいと思います。

【その他の重要事項】
・ⅠとⅡは通年で履修することが望ましいですがですが、一方の履修でも可とします。
・授業でのグループは最初の授業で決めて、同じグループで半期の活動を行っていただきます。
・他の方の迷惑になるような行動（個人の課題を行わない、グループでのディスカッションやワークに真剣に取り組まない）が顕著な場合には、授業への参加をお断りすることがあります。
・関連科目は「インターンシップⅠ/Ⅱ」がありますが、特に働く個人の心理に着目した講義内容である点で異なります。

【オフィス・アワー】
・授業後に質問を受け付けます。
・質問・相談は E-mail でも受け付けます。
メールアドレスは授業の中でお知らせします。

キャリア・マネジメントⅡ　選択＜キャリアプログラム科目＞ 3 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

キャリア・マネジメントⅠ　選択＜キャリアプログラム科目＞ 3 年次／ 2 単位　［春学期授業］

今城　志保

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会人初期のキャリアに必要な知識を学びます。就職活動や、会社組織、そこで働く個人のキャリアの在り方などについて、理論を学ぶとともに、自分に当てはめて考えることで将来のキャリアマネジメントに使える考え方を身につけます。

【到達目標】
春学期、秋学期を通して、以下の 3 点を目標とします。
①社会人としての初期のキャリアをスタートする際に役立つ知識を身につけること
②自分の将来のキャリアについて、自分なりの考えを持つこと
③社会人生活の中で重要になる「主体的に考え活動する力」「他者と共同して目標に向かう力」をきたえること

【授業の進め方と方法】
春学期（Ⅰ）は、就職活動に重点を置いた内容についての講義を行います。秋学期（Ⅱ）は、社会人になって初期のキャリアを歩む際に知っておくべき内容を中心に講義を行います。春学期、秋学期とも、講義を聴くほかにグループでのディスカッションとワークを行ってもらう予定です。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンス、グループ分け
第２回	採用について知る①	組織は社員に何を求めているか（人材要件とは何か、組織や仕事への適合）
第３回	採用について知る②	評価の方法 1　適性検査（一般知的能力検査、性格適性検査など）
第４回	採用について知る③	評価の方法 2　面接（模擬面接を体験する、評価者側の視点に立つ）
第５回	採用について知る④	評価の方法 3　グループディスカッション（「あなただったら誰を採用しますか？」採用の意思決定を学ぶ）
第６回	採用について知る⑤	採用活動はどうあるべきか（社会的視点から、組織の視点から、個人の視点から考える）
第７回	仕事について知る①	誰かの仕事を紹介し、仕事の特徴を整理する（その人の仕事を行う際に必要な人材要件、その仕事を他の人に紹介する、ディスカッション、まとめ）
第８回	仕事について知る②	自分にとって重要な仕事の特徴は何か（前回のまとめのプレゼンテーション、自分にとって重要な仕事の特徴は何かを考える）
第９回	仕事について知る③	仕事と報酬（報酬に影響を与えるものは何か）
第 10 回	仕事について知る④	仕事の価値（自分にとっての価値、組織にとっての価値、社会にとっての価値、を考える）
第 11 回	会社を知る①	会社のイメージと会社の現実（自分が今まで所属してきた集団との違いを考える、自分は会社の何を知りたいか）
第 12 回	会社を知る②	会社という組織の見方を学ぶ（階層、権限、暗黙のルール、人間関係）
第 13 回	会社を知る③	気になる会社を調べてみよう（ビジネスの観点ではなく、“組織の見方”の視点から）
第 14 回	まとめ	半期のまとめとグループ活動の振り返り
第 15 回	グループ課題の提出	学期中に行ってきたグループ課題をまとめて提出する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンス、グループ分け
第２回	就職したら最初に何が起きるかを知る①	組織社会化について（理論の紹介、自分の社会化経験を振り返る）
第３回	就職したら最初に何が起きるかを知る②	一年目の仕事について考えるⅠ（調べてきたことを共有、ディスカッション、まとめ）
第４回	就職したら最初に何が起きるかを知る③	一年目の仕事について考えるⅡ（組織社会化研究の紹介、前回のグループディスカッションの発表）
第５回	キャリアについて考える①	日本の企業組織のキャリア（若手、中年期、高年期、女性）
第６回	キャリアについて考える②	キャリアの理論（主な理論の紹介、将来の自分をイメージする）
第７回	キャリアについて考える③	転職市場を知る（ゲストスピーカー）※予定
第８回	キャリアについて考える④	2030 年の働き方を考える（ゲストスピーカー）※予定
第９回	職場の人間関係について考える①	職場のコミュニケーション（上司、先輩、同期、他部署の人、社外の人）
第 10 回	職場の人間関係について考える②	チームで働くということ 1（チームワークに関する主な理論の紹介、役割性格、ＮＡＳＡのゲーム）
第 11 回	職場の人間関係について考える③	チームで働くということ 2（リーダーシップに関する主な理論の紹介、自分のグループの特徴と課題の振り返り）
第 12 回	適応について考える①	メンタルヘルスについて（主な理論の紹介、現在の日本企業の取り組み）
第 13 回	適応について考える②	ストレスマネジメント（ストレス診断、自分のストレス体験を振り返る、ストレスコーピング、ソーシャルサポートの活用）
第 14 回	まとめ	半期のまとめとグループ活動の振り返り
第 15 回	グループ課題の提出	学期中に行ってきたグループ課題をまとめて提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期、秋学期ともに、3 回ずつ授業外の学習活動が課せられます。3 回のうち 2 回は、授業の前準備としての情報収集です。情報収集のうち 1 回は、直接人に話を聞いて情報を集めるもので、もう 1 回は、本やインターネットなどを使って情報を集めます。残る 1 回の授業外活動は、授業を受けて自分の考えをまとめるものです。いずれも 1 時間程度の活動になる予定です。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
外島 裕・ 田中 堅一郎『産業・組織心理学エッセンシャルズ』増補改訂版 [ナカニシヤ出版]2004
古川 久敬『産業・組織心理学』[朝倉書店 (朝倉心理学講座)]2006
藤森 立男『産業・組織心理学－変革のパースペクティブ』[福村出版]2010
金井 寿宏, 高橋 潔『組織行動の考え方―ひとを活かし組織力を高める 9 つのキーコンセプト』[東洋経済新報社 (一橋ビジネスレビューブックス)]2004

【成績評価の方法と基準】
春学期、夏学期とも、出席点、個人の授業外の学習活動（3 件）、グループ課題（2 件）で成績評価を行います。
出席は 70 %以上を条件とし、出席率に応じて 40 点満点で評価します。
個人の学習活動は、1 件あたり 10 点 ×3（30 点満点）で評価します。
グループ課題はグループで一つレポートを提出していただき、1 件当たり 15 点 ×2（30 点満点）で評価し、それをグループメンバーの評価とします。ただし、グループ活動への貢献度が不十分な場合は、評価が低くなる場合があります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケートでいただいた意見は、積極的に生かしていきたいと思います。

【その他の重要事項】
・ⅠとⅡは通年で履修することが望ましいですがですが、一方の履修でも可とします。
・授業でのグループは最初の授業で決めて、同じグループで半期の活動を行っていただきます。
・他の方の迷惑になるような行動（個人の課題を行わない、グループでのディスカッションやワークに真剣に取り組まない）が顕著な場合には、授業への参加をお断りすることがあります。
・関連科目は「インターンシップⅠ/Ⅱ」がありますが、特に働く個人の心理に着目した講義内容である点で異なります。

【オフィス・アワー】
・授業後に質問を受け付けます。
・質問・相談は E-mail でも受け付けます。
メールアドレスは授業の中でお知らせします。

HA340

キャリア入門

長峰　登記夫

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**火 3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will learn job careers.

【到達目標】
This class aims to give sudents an opportunity to study what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, this subject will give students hints to consider about their own career and help them understand issues about career making and make their own career in the future.

【授業の進め方と方法】
This class will be run in English and basically in the form of lecture. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked. Also, students will be required to make presentations in class. A few guest speakers may be invited. The lecture will deal with issues in several countries, but mainly Japan and English speaking countries.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Intorduction to career studies	What Career Studies are will be discussed.
第 2 回	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
第 3 回	Basic aspects of career making	An overview will be given of what is considered important in career making by the Government and companies.
第 4 回	From education to occupation	Career education, training and support of students for their job seeking at the university.
第 5 回	Finding a job	The lecture will give an overview of how Japanese students and students in other countries find a job.
第 6 回	Global careers (1) how to make a global career	How and to what extent do Japanese companies employ students including kikokusei and Japanese students studying overseas who wish to make a global career?
第 7 回	Global careers (2) global human resources	What is the Japanese companies' attitude to the employment of overseas students studying in Japanese universities?
第 8 回	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
第 9 回	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn the present situation and why it is so.
第 10 回	Women in technical and professional jobs	Technical and professional jobs are jobs where men and women can make career on the relatively equal footing. Why?
第 11 回	How to make a job career (1)	Gest speaker will talk about his/her own job career.
第 12 回	How to make a job career (2)	Same as above.
第 13 回	How to make a job career (3)	Same as above.
第 14 回	Summary	Summary of the study in this class.
第 15 回	Final exam.	To check students' understanding of the lectures, students are to sit for the final examination.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are supposed to read materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk.

【テキスト（教科書）】
Reading materials are provided from time to time prior to the lectures. This class does not use a particular textbook.

【参考書】
References will be shown at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will be made in three ways; firstly by attendance, secondly by short exams and thirdly by a final exam or an essay. Minimum attendance required to get credits is 80%. Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final class or students instead may be required to submit an essay of 3,000 words.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students are interested in listening to guest speakers' talks by people who have various job and life experiences.

【その他の重要事項】
Japanese students have been learning English for many years. This class will offer a challenging opportunity to learn something (job careers)in English, not to learn the English language itself. Never mind, just try to join us.
本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する人は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目である。

職業選択論Ⅰ　2014 年度以降入学生

職業選択論Ⅰ　2012～2013 年度入学生

職業選択論Ⅰ　2009～2011 年度入学生

上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**1～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期には大学生の就職と初期キャリアに関連したテーマを扱います。日本の多くの大学生は職種を限定せず就職し、就職後も複数の職種を経験することがあり得ます。そのような無限定な働かせ方の中で、働き続けることが困難な働かせ方の問題も生じてきています。そのような現実の中での若者の就職と初期キャリアの現状と課題を、学生側からの視点、企業側からの視点、双方から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】
個人のキャリアの上でも大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。
大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【授業の進め方と方法】
授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介／各自の問題意識の論述
2	職業選択、就職と初期キャリア	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
3	インターンシップを考える	インターンシップの目的・現状・課題
4	「やりたいこと」・職業適性と職業選択	「やりたいこと」と職業目標、職業興味、職業適性
5	アルバイト就労とキャリア教育	アルバイト就労の現状、キャリア教育における位置づけ
6	アルバイト就労と労働法	アルバイト職場の特徴／アルバイトと労働法
7	職場の問題への向き合いかた	アルバイト職場の改善に向けて／労働組合とは
8	大卒労働市場の現状	卒業生の進路状況／新規採用と中途採用の違い／早期離職
9	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型とメンバーシップ型、それぞれの特徴と課題
10	若者「使い捨て」企業と「まともな働き方」（その1）	問題のある働かせ方の実態と特徴
11	若者「使い捨て」企業と「まともな働き方」（その2）	問題のある働かせ方とその改善に向けて
12	就職活動・採用活動を考える（1）	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
13	就職活動・採用活動を考える（2）	「就職四季報」の活用
14	内定・就職をめぐるトラブル	内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
15	初期キャリアとリアリティ・ショック	組織の中で働くとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに掲載する各回のレジュメに事前に目を通してから授業に参加する。
授業の話題に関連した新聞記事などを日ごろから読み、最近の動向を知り、検討する。
課題レポート執筆に向けて、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行う。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時にレジュメを準備します。レジュメは事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・児美川孝一郎（2011）『若者はなぜ「就職」できなくなったのか？』日本図書センター
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
・東洋経済新報社編（2016）『就職四季報　総合版　2017 年版』東洋経済新報社
・今野晴貴（2012）『ブラック企業』文春新書
・川村遼平（2014）『NO と言えない若者がブラック企業に負けず働く方法』晶文社

【成績評価の方法と基準】
授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 10 点）、期末レポート（配点 50 点）により評価します。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられます。
今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは授業支援システムに事前に掲載します。各自、プリントアウトの上、持参してください。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行いますので、必ず出席してください。

【授業中に求められる学習活動について】
C,D

職業選択論Ⅱ　2014 年度以降入学生

職業選択論Ⅱ　2012～2013 年度入学生

職業選択論Ⅱ　2009～2011 年度入学生

上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、多様な雇用形態と正社員としての働き方、それぞれの課題と相互の関係性を考えます。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】
雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。
男女の働き方の現状と課題を理解する。
＜まっとうな働き方＞を志向し、実現していくことができる。

【授業の進め方と方法】
秋学期の授業では現在の若年労働市場や働かせ方の現状と問題点の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。定期試験では持ち込み不可の論述試験を実施します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介、春学期の論点の整理
2	非正規雇用の広がりとその背景	非正規雇用をめぐる各自の理解状況の確認／問題意識の共有
3	若年労働市場の現状	学歴別・男女別に見た若年者の就業状況
4	正規雇用と非正規雇用（1）	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
5	正規雇用と非正規雇用（2）	多様な働き方の現状と課題／雇用ポートフォリオ／有期雇用から無期雇用への転換の動き
6	直接雇用と間接雇用（1）	派遣労働の特徴と問題点
7	直接雇用と間接雇用（2）	派遣労働の歴史的経緯／紹介予定派遣
8	長時間労働を考える（1）	長時間労働の現状と背景／労働時間規制
9	長時間労働を考える（2）	事例から見る長時間労働と考えられる対策
10	まともな働き方の実現に向けて	労働組合の役割
11	男女の働き方とワークライフバランス（1）	夫婦の生活時間と仕事時間
12	男女の働き方とワークライフバランス（2）	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と現状
13	男女の働き方とワークライフバランス（3）	コース別雇用管理、企業の就業継続支援策、就業継続の現状
14	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
15	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに掲載する各回のレジュメに事前に目を通してから授業に参加する。
授業の話題に関連した新聞記事などを日ごろから読み、最近の動向を知り、検討する。
期末試験に向けて、授業内容を復習し、論述の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時にレジュメを準備します。レジュメは事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2011）『日本の雇用と労働法』日経文庫
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書
・川人博（2014）『過労自殺　第二版』岩波新書

【成績評価の方法と基準】
授業内外で６回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と定期試験（配点 60 点）により評価します。なお、ミニ・レポートの提出が０～２回の学生や、ミニ・レポートの代筆が判明した学生、定期試験で不正行為が判明した学生には、単位を付与しません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
労働問題を見る目を養うことができた、といった評価が見られます。例年、非正規雇用の問題や女性の働き方の問題も、「他人事」と思わず、自分が出ていく社会の労働問題への理解を深めてください。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは授業支援システムに事前に掲載します。各自、プリントアウトの上、持参してください。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、定期試験について等の説明を行いますので、必ず出席してください。
「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれます。

【授業中に求められる学習活動について】
C,D

職業キャリア論　2014 年度以降入学生

職業キャリア論　2012～2013 年度入学生

職業とキャリアⅠ（職業研究）　2009～2011 年度入学生

八幡　成美

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世の中にはどのような職業があり、その職業はどのように確立してきたのか、そして、その職業に就くにはどのような能力（知識、経験、技能など）が求められているのかを学びます。社会や労働市場との関係で職業構造がどのように形成されてきたのか、職業倫理、職業資格、職業訓練、ＯＪＴ／Ｏｆｆ-ＪＴ／ＳＤ、職業能力の評価制度、CDP など職業にまつわる基礎的な知識を学びます。

【到達目標】
自律的な職業生活の設計をする上での基本的な職業の知識を学びます。職業に関連する情報の収集/選択ができるようになること。

【授業の進め方と方法】
講義形式が基本ですが、あわせて、講義の内容を踏まえてレポート課題を出しますので、それをまとめて提出してもらいます。講義の内容はほぼテキストに沿って進めますが、必要に応じて最新の統計資料などを配付します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、仕事ができるとは？	本講義の全体像の説明です。仕事をする上で求められる能力について考えます。
2	職業とは、働くとは	職業の意味、労働の歴史について紹介します。
3	経済発展と職業構造の変化	経済発展とともにどのような職業が増え、どのような職業が減少し、今後どのような職業が伸びるのかを概観します。
4	職業情報の収集と分析	Web を利用した職業情報の集め方を紹介します。そして、職務分析の基礎的な知識を理解してもらいます。
5	労働市場と職業	労働市場とはどのようなものか？ 職業別労働市場とはどのようなものかを検討します。
6	多様化する就業形態	就業形態の多様化とは、具体的にどのような現象をさしており、職業構造にどのような影響を与えているのか？
7	雇用形態と職業キャリア	正規雇用と非正規雇用でみる職業キャリアの展望、企業内労働市場と職業キャリア
8	若年雇用の問題と職業	若年失業が注目されていますが、長期的なキャリア形成、職業能力開発との関連から考えます
9	職業別人材ニーズ	どのような職業の求人が多く、その仕事に就くためにはどのようなスキルが求められるのか
10	職業資格と労働市場	職業資格にはどのようなものがあり、それを取得するにはどうすれば可能か？ そして、その仕事の労働市場の構造はどのようなものであるか？ 代表的な職業を例に検討します。
11	プロフェッショナルとは	専門職労働市場の性格はどのような特徴を持っているのであろうか？ そのキャリア形成の特徴も踏まえて紹介します。
12	職業訓練とは	公共職業訓練制度、技能検定制度など公的な能力開発支援施策について紹介します。
13	職業能力の開発	求められる職業能力とは何か？ 職務遂行能力重視の人事システムとＣＤＰ
14	企業内教育と職務遂行能力の開発	ＯＪＴ／Ｏｆｆ-ＪＴ／ＳＤの現状、企業内でのキャリア形成（CDP)
15	自営業主としてのキャリア	インディペンデント・コントラクターを含めた自営業主としての働き方、キャリアを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習をしてください。また、各種職業情報にアクセスして関心のある職業について少しでも理解しましょう。また、自分の職業適性に悩んでいる方はＶＰＩ（職業興味テスト）をキャリア情報ルームで受けてみてください。

【テキスト（教科書）】
八幡成美『職業とキャリア』法政大学出版局を使用します。

【参考書】
厚生労働省「厚生労働白書」、「労働経済の分析」
中澤二朗『働く。なぜ？』講談社現代新書 (2013)

【成績評価の方法と基準】
評価は期末テスト（80 %）、平常点（5 %）、レポート課題（15 %）で総合的に評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業支援システムを活用して, パワポ資料、最新統計データなどを提供します。

就業応用力養成Ⅰ　2014 年度以降入学生
就業応用力養成Ⅰ　2012～2013 年度入学生
就業応用力養成Ⅰ　2009～2011 年度入学生

鈴木　美伸

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**3～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、大学での学び（アカデミックスキル）を活用し、社会（企業）における課題解決の手法を身につけます。
グループワークにより、組織で成果を出す力（チームワーク）を習得します。

【到達目標】
1．データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキルを身につける
2．分析技術を学び、論理的な提案をまとめる
3．社会人（企業）に対して説得的な提言を行う
4．チームマネジメント力を身につける
5．大学生、大学職員を説得・納得させるコミュニケーション力の収得

【授業の進め方と方法】
この授業は、企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
（プロジェクトベースラーニング）
そのため、授業時間外にも調査活動を相当に行なう必要がでてきますので、覚悟して臨んで下さい。
実際のメディア制作（ビデオ、冊子）を題材に進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方 ・就業力とは ・学生と企業の認識差
2	アカデミックスキル応用	・データ分析（定量調査） ・大学生活分析
3	コミュニケーションスキル応用－１	共感・質問・提案 個別対応スキル（１対１）
4	コミュニケーションスキル応用－２	プレゼンテーション、ファシリテーション 組織対応スキル（１対ｎ）
5	ワークショップ－１（課題提示）	統計学（質問票調査） 新商品開発・学生意識調査
6	ワークショップ－２（中間報告）	グループ別プレゼンテーション 質疑応答
7	ワークショップ－３（最終報告）	グループ別プレゼンテーション 質疑応答 （社会人講師からの講評）
8	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１	企業からの課題提示
9	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２	・市場調査 ・新商品開発（４Ｐマーケティング）
10	企業ケーススタディ－１	アントレプレナーシップ （ベンチャー起業家）
11	企業ケーススタディ－２	グローバル商社マン （世界に挑む企業家）
12	企業ケーススタディ－３	企業経営とは ・変貌するチームリーダー
13	ワークショップ－４	ビジネス文書の書き方 定型・非定型文書、提案書
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３	企業へのプレゼンテーション
15	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査、定性調査では相当量の作業を求めます。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠りは退席を命じる

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視する。

就業応用力養成Ⅱ　2014 年度以降入学生
就業応用力養成Ⅱ　2012～2013 年度入学生
就業応用力養成Ⅱ　2009～2011 年度入学生

鈴木　美伸

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**3～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、大学での学び（アカデミックスキル）の実践として、企業から課題を抽出して具体的な提言を行います。
グループワークにより、単なるアイデアではなく、ビジネスモデルの提案までチャレンジします。

【到達目標】
1．データの収集（取材調査）を行い、定性調査スキルを身につける
2．分析技術を学び、論理的な提案をまとめる
3．社会人（企業）に対して事業収益まで見据えた説得的な提言を行う

【授業の進め方と方法】
この授業は、企業に対して学生による企画・提案を行ないます。
（プロジェクトベースラーニング）
定量調査、定性調査では相当量の作業を求めます。
そのため、授業時間外にも調査活動を相当に行なう必要がでてきますので、覚悟して臨んで下さい。
実際のメディア制作（ビデオ、冊子）を題材に進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	就業力とは アカデミックスキル応用
2	アカデミックスキル応用	データ分析（定性調査） 大学生活分析
3	コミュニケーションスタイル理解	アセスメント実施 ・自分の強味の理解
4	コミュニケーションスタイル応用	アセスメント理解 ・他者を動かす手法
5	企業取材調査－１	救命産業取材
6	企業取材調査－２	教育産業取材
7	企業取材調査－３	医療産業取材
8	企業取材調査－４	工機産業取材
9	課題報告－１	グループ別プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ ビデオ学習－１	（ヤリヌクチカラ） ・商品企画開発 ・モノヅクリの現場 ・企業からの課題提示
11	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２	・市場調査 ・新商品開発（４Ｐマーケティング） ・ビジネスコンテスト
12	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３	企業訪問調査 ・市場調査（質問票） ・フィールドワーク
13	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－４ ビデオ学習－２	プレゼンテーション演習 ・説得力のある提案書 ・効果的な提案スキル
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－５	企業へのプレゼンテーション
15	まとめ	授業の振り返り まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。
（企業への訪問調査を行う場合もあります。）

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講態度および各授業における小レポート（リアクション・ペーパー）、期末テストを７０：３０の比重で配点し、総合評点が６０点以上を合格とする（欠席が３回以上の者は成績評価対象外とする）
＊私語、居眠りは退席を命じる

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視する。

【その他の重要事項】
受講定員は２５名を予定しています。

LB224

アスリートキャリア論

笠井　淳

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期**　｜　キャンパス：**市ヶ谷**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】
アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【授業の進め方と方法】
「キャリア意識」醸成、方向、向上のために, 実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政 OB・OG の方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により
①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
②自分の道、職業を決定づけたものは何か
③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう生かせるか
④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第 2 回〜14 回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、方法につき説明する。
第 2 回	特別講師/指導者とは	指導者の資質とは何か。経験の中から得られた教訓等について講義
第 3 回	特別講師/世界トップの現状	プロスポーツの世界の現状等について講義
第 4 回	特別講師/指導現場でのリーダーシップ	大学生の指導における必要な資質について講義
第 5 回	特別講師/トップアスリートからの助言	現役オリンピック選手から学生へのアドバイス
第 6 回	特別講師/トップアスリートから仕事へ	アスリートの経験をどのように仕事に生かすか
第 7 回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第 8 回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第 9 回	特別講師/世界を目指す指導①	世界で活躍できる選手の育成と指導について講義
第 10 回	特別講師/大学クラブの指導	高校生及び大学生の指導におけるノウハウについて講義
第 11 回	特別講師/トレーナーとは①	トレーナーと選手の関り、仕事の内容について
第 12 回	特別講師/トレーナーとは②	選手育成とトレーナーの関わりについて
第 13 回	特別講師/世界を目指す指導②	トップチームの世界への挑戦。選手育成と指導厳しさについて
第 14 回	授業のまとめ（ディスカッション）	授業の総括。自分のキャリア形成に何が活用できるか、ディスカッションする
第 15 回	試験（筆記試験）	授業における理解度テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは決めません。

【参考書】
随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）　出席・授業参画状況・授業態度　60%
2）　各回のレポート 30%
3）　課題レポート　10%
この配分とし、総合評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義における話のスピードが速や過ぎる傾向があるのでその辺を注意して講義を進めたい。

【その他の重要事項】
・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
・授業における遅刻はないように。
・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

LA211

ＩＴリテラシー

児玉　靖司

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**金・1**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術 (Information Communication Technology) について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
春学期は、コンピュータの基礎 (ソフトウェア・ハードウェア) からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。 具体的には、システム開発における要求分析、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数（1）	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数（2）	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数（3）	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム（2）	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	ネットワーク	情報通信ネットワークについて学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティ	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 11 回	オペレーティングシステム	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第 14 回	フリーソフトウェア	フリーソフトウェアとその種類について学ぶ。フリーソフトウェアの応用事例についても考察する。
第 15 回	春学期まとめ	春学期のまとめを行う。
第 16 回	春学期の復習	春学期の復習を行う。
第 17 回	ソフトウェア工学基礎	システム開発手法全般の学問的体系であるソフトウェア工学について学ぶ。
第 18 回	要求分析の基礎	システム開発に必要な要求分析の基礎について学ぶ。
第 19 回	要求分析	要求分析において、必要な要求の獲得、表現、検証について学ぶ。
第 20 回	システム設計（1）	外部設計について学ぶ。
第 21 回	システム設計（2）	内部設計について学ぶ。
第 22 回	テスト	システムを開発した後のテスト手法について学ぶ。
第 23 回	オブジェクト指向設計（1）	オブジェクト指向概念を用いた設計手法について学ぶ。
第 24 回	オブジェクト指向設計（2）	オブジェクト指向概念を用いた応用事例について学ぶ。
第 25 回	運用・保守	システムを開発した後のシステムの運用・保守の手法について学ぶ。
第 26 回	応用事例	要求分析を応用した事例について学ぶ。
第 27 回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論の基礎について学ぶ。簡単な事例を用いて説明する。
第 28 回	ゲーム理論（2）	ゲーム理論の基本定理を中心としたゲーム理論の主題について学ぶ。
第 29 回	ゲーム理論（3）	ゲーム理論の応用について学ぶ。
第 30 回	まとめ	講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム Canvas 上または Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
春学期期末試験と秋学期期末試験の合計が 60%、出席点が 40%で評価する。期末試験としてレポート課題もある。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Canvas、Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

LB224

リーダーシップ論Ⅰ

浅井　玲子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期** ｜ キャンパス：**多摩**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える
本授業ではスポーツに関わる視点を中心に、リーダーシップに関する理論を学び、それを自分自身の問題として考え、すぐれたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。

【到達目標】
・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのイメージを獲得する

【授業の進め方と方法】
リーダーとして身につけるべき知識の習得を目指し、それぞれの「理想のリーダー像」について考える礎となることを期待します。
リーダーシップについての概念を学び、それを踏まえて実際のモデルや理論を知るなかで、自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。
テーマに応じて、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。
また、授業内ではグループワーク形式の実習などを通じて、「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、自己理解を深める取り組みをします。
スポーツ指導者に限らず、それぞれの活動分野におけるリーダーシップへの考察や理解の機会となることを期待しています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは？
2	【リーダーシップの定義と学び方】 コームスの理論①	・優れたリーダーの共通点 ・リーダーシップと人間観
3	【リーダーシップの定義と学び方】 コームスの理論②	・自己概念とは ・ジョハリの窓
4	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する２つの仮説	・資質アプローチ ・行動アプローチ
5	【リーダーシップに関わる行動】 オハイオ州立大学の研究	・配慮と構造づくり ・リーダーシップと動機づけ
6	【リーダーシップに関わる行動】 リーダーシップと動機づけ	・動機づけとパフォーマンスの関係 ・動機づけを高めるリーダーシップとは
7	【特別講演】 リーダーシップのモデル①	・スポーツ指導におけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）
8	【リーダーシップと対象理解】 エリクソンの心理社会的発達論	・発達段階に関する理解 ・発達段階に応じたリーダーシップとは
9	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション①	・ことばの３つのレベル ・コンテントとプロセス
10	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	【リーダーシップとチームビルディング】 チームとは何か	・チームとは何か ・集団規範 ・「場の理論」
12	【特別講演】 リーダーシップのモデル②	・企業の現場でのリーダーシップ（外部講師招聘予定）
13	【リーダーシップとチームビルディング】	・チームビルディング実習
14	まとめ	まとめ、リーダーシップ論Ⅱへ向けての展望
15	単位認定試験	論述形式の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
「公認スポーツ指導者養成テキスト」共通科目Ⅰ〜Ⅲ
編集発行　公益財団法人　日本体育協会
その他　必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
・授業内評価　50 %
・期末試験　50 %
【授業内評価】
毎授業、自身の意見や感想などをリアクションペーパーに記述、提出し、その内容を評価対象として重視します。
また、授業内で実施するグループワークとその振り返りについての成果も成績評価の対象とします。
【期末試験】
最終講義において論述形式の試験を実施します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループワークにより気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるような活動を取り入れる予定です。

【その他の重要事項】
外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

LB224

リーダーシップ論Ⅱ

浅井　玲子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期** ｜ キャンパス：**多摩**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リーダーシップとは特別な資質や役割を与えられた者だけに存在するのでなく、あらゆる組織に属する成員すべてが互いに発揮し合うものだと考える「シェアードリーダーシップ」について、講義やグループワークなどの体験を通じて学びます。
リーダーシップについての見識や自己理解を深め、「自分自身のリーダーシップ」の発見や確立を目指すことが本講義のテーマです。

【到達目標】
・リーダーシップに関する理論や背景となる知識についての理解を深める
・自分自身の持ち味を知り、「自分なりのリーダー像」を確立する

【授業の進め方と方法】
リーダーシップ論Ⅰの内容を踏まえ、実際に自分自身がリーダーシップを発揮する際のイメージをより明確にすること、また自分自身のこれまでのリーダーシップ体験を振り返り、自己理解を深めることを目指します。
そのため、授業内では、講義によってリーダーシップについての見識を深めるとともに、自分自身のスタイルを確認するための測定や、それぞれの体験を分かち合うためのグループワーク（発表を含む）を予定しています。また、さまざまなスポーツの時事事象に関する考察や、ゲスト講師による特別講義も予定しています。
授業内での体験を通じて、気づいたことや学んだことをリアクションペーパーに記入し、毎回提出をします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項
2	【リーダーシップに関する研究】 ジョン・P・コッターの理論	・リーダーシップとは ・組織が変わるためのリーダーの行動
3	【リーダーシップに関する研究】 マックス・ウェーバーの理論	・支配の類型 ・官僚制の特徴
4	【リーダーシップに関する研究】 PM リーダーシップ理論	・PM リーダーシップ理論とは ・P 行動と M 行動 ・グループワーク「課題解決と P/M 行動」
5	【リーダーシップに関する研究】 4 つのリーダーシップ	・4 つのリーダーシップスタイル ・実習「あなたのリーダーシップスタイルは？」
6	【リーダーシップとリーダー哲学】 価値観	・リーダー哲学とは ・リーダー哲学を支える価値観 ・グループワーク「価値観について」
7	【特別講義（予定）】 リーダーシップとリーダー哲学	スポーツの現場におけるリーダーシップとリーダー哲学 （外部講師招聘予定）
8	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	・「聴く」スキル ・「伝える」スキル 実習「聴くスキル・伝えるスキルのトレーニング」
9	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	コミュニケーションスタイルの評価・診断
10	【リーダーシップと関係性】 影響力	グループワーク「あなたの影響力とは」
11	【リーダーシップと関係性】 ジョハリの窓	・自己開示 ・フィードバック
12	【特別講義（予定）】 リーダーシップの実際	企業におけるリーダーシップ （外部講師招聘予定）
13	【リーダーシップへの視点】 交流分析	・構造分析 ・ライフポディション
14	まとめ	まとめ、リーダーシップⅡの整理
15	期末試験	論述形式の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内において、スポーツやリーダーシップに関わる様々な時事事象を取り扱う予定です。また、自分自身の理想とするリーダーシップのスタイルに関する見解が求められる場面が想定されます。そのことを踏まえ、授業外においても様々な情報を積極的に収集する姿勢を期待します。

【テキスト（教科書）】
パワーポイント、関連資料等を適宜使用する。

【参考書】
特になし
必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業内での活動における達成度や参加姿勢（20%）、リアクションペーパーによるミニレポート（30%）、最終講義での論述形式の試験 (50%）によって成績評価を行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学年や部の単位をこえたグループによる活動を通じて、より交流や自己理解が深まったという意見をうけて、本年度も様々な履修生との交流を通じて学ぶことができる環境を整えるように努力します。

LB224

アスリートキャリア論

笠井　淳

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期** ｜ キャンパス：**多摩**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】
アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【授業の進め方と方法】
「キャリア意識」醸成、方向、向上のために, 実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政 OB・OG の方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により
①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
②自分の道、職業を決定づけたものは何か
③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう生かせるか
④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第 2 回〜14 回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、方法につき説明する。
第 2 回	特別講師/指導者とは	指導者の資質とは何か。経験の中から得られた教訓等について講義
第 3 回	特別講師/世界トップの現状	プロスポーツの世界の現状等について講義
第 4 回	特別講師/指導現場でのリーダーシップ	大学生の指導における必要な資質について講義
第 5 回	特別講師/トップアスリートからの助言	現役オリンピック選手から学生へのアドバイス
第 6 回	特別講師/トップアスリートから仕事へ	アスリートの経験をどのように仕事に生かすか
第 7 回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第 8 回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第 9 回	特別講師/世界を目指す指導①	世界で活躍できる選手の育成と指導について講義
第 10 回	特別講師/大学クラブの指導	高校生及び大学生の指導におけるノウハウについて講義
第 11 回	特別講師/トレーナーとは①	トレーナーと選手の関り、仕事の内容について
第 12 回	特別講師/トレーナーとは②	選手育成とトレーナーの関わりについて
第 13 回	特別講師/世界を目指す指導②	トップチームの世界への挑戦。選手育成と指導厳しさについて
第 14 回	授業のまとめ（ディスカッション）	授業の総括。自分のキャリア形成に何が活用できるか、ディスカッションする
第 15 回	試験（筆記試験）	授業における理解度テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは決めません。

【参考書】
随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）　出席・授業参画状況・授業態度　60%
2）　各回のレポート 30%
3）　課題レポート　10%
この配分とし、総合評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義における話のスピードが速や過ぎる傾向があるのでその辺を注意して講義を進めたい。

【その他の重要事項】
・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
・授業における遅刻はないように。
・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

AC237

現代メディア論

萩谷　順

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、政策系の科目に属する。本講は、新聞を主な題材としてジャーナリズムのあり方について考える。様々なテーマに取り組む第一線の朝日新聞の記者らを講師に招き、現場での問題意識や取り組み、悩みを通じて、メディアの役割について理解を深める。政治や経済、国際、科学、皇室報道といった諸分野の課題を考えると共に、「ネット時代におけるジャーナリズム」についても視点を据えておこう。また、直面する就活で新聞を活用する方法にも触れたい。全体を通じての問題意識としては、「民主主義と言論の自由」という大きなテーマが横たわる。

【到達目標】
受講生には、地球市民としての自覚と判断力を培いながら、未来に資する報道のあり方について、一緒に考えてもらいたい。日本社会を、世界を、知る手段としてのメディア、とりわけ新聞に親しむ。

【授業の進め方と方法】
授業では特に講師への質問を重視する。ジャーナリズムの原点は「なぜ？」と問うことにあるからだ。質疑応答を深めながらテーマへの理解を定着させたい。受講生には、個々の視点を磨きながら、積極的に授業に参加することを期待する。また、ジャーナリズムの根幹をなす「ことばの力」を養うためにも、授業内で実施する「語彙・読解力検定」（朝日新聞社、ベネッセ）を受けることが望ましい。「語彙・読解力検定」受検は、秋学期の「ジャーナリズム実践講座」の受講資格となる。
授業内容は適宜、必要に応じて変更することがありうる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
4 月 13 日	ガイダンス	担当）萩谷、朝日新聞教育総合本部員 ・新聞の基本的な仕組みを理解し、学びに新聞を採り入れる（朝日新聞・神谷裕司） ・新聞で「ことばの力」をつける（朝日新聞・岡野洋平）
同 20 日	１８歳選挙権と参院選	担当）朝日新聞編集委員・松下秀雄 ・今年６月から、選挙権年齢が「１８歳以上」になる。７月に予定されている参院選にどのような影響を及ぼすのだろうか。ベテランの政治記者と共に「自分の問題」として考えたい。
同 27 日	世論調査と参院選	担当）朝日新聞編集委員・堀江浩 ・参院選の大きな争点として「改憲」が浮上しつつある。世論調査・情勢調査の側面から、参院選を見ていきたい。
5 月 11 日	「皇室」を報道する	担当）朝日新聞編集委員・北野隆一 ・時代の流れと共に「皇室」のあり方も変わってきた。皇室担当の記者は、何を考え、何を伝えようとしてきたのか。
5 月 18 日	東日本大震災を伝え続ける	担当）朝日新聞編集委員・東野真和 ・東日本大震災から５年が過ぎた。風化が懸念されるなか、「伝え続ける」という意思を持った記者も少なくない。なぜ、こだわり続けるのか。
同 25 日	科学報道の課題	担当）朝日新聞論説委員・大牟田透 ・現代社会を科学技術抜きで語ることは不可能に近い。だが、科学報道の歴史は比較的浅い。ノーベル賞や地球温暖化、核兵器と原発などのトピックスを巡りながら課題を考える。
6 月 1 日	「音楽」を報道する	担当）朝日新聞編集委員・吉田純子 ・目に見えず、瞬間瞬間で消え去っていく音楽。それを、どのような視点から「言葉」で伝えるのか。講師のピアノ演奏も交えながら考える。
6 月 8 日	消費増税と軽減税率	担当）朝日新聞論説委員・原真人 ・２０１７年４月に予定されている、８％ → １０％の消費増税。軽減税率論議の混迷も記憶に新しい。国の財政の現状も含め、消費増税を大きな視野から捉えたい。
同 15 日	語彙・読解力検定受検	受検者は、締め切りまでに受検申込みをすること
同 22 日	ネットジャーナリズムと新聞	担当）朝日新聞写真部次長・大野明 ・今、ジャーナリズムはネットを抜きに語れない。写真記者の立場から、「紙」とネットの双方に詳しい講師が、めまぐるしく変わる状況を読み解く。
同 29 日	アメリカ大統領選挙	担当）朝日新聞論説委員・国末憲人 担当）朝日新聞国際報道部次長・大島隆 ・今年、米国の新しい大統領が決まる。どのような仕組みで決まるのか。情勢はどうなのか。世界、日本にどのような影響を及ぼすのか。長い米国取材経験を持つ記者が探る。
7 月 6 日	欧州とイスラムをどう見るか	担当）GLOBE 編集長代理・平田篤央 ・ＩＳによる深刻なテロや膨大な数の難民・移民に揺れる欧州。イスラム世界や欧州の取材を長く続けている記者と共に、日本との関係も踏まえながら、過去・現在・未来を考える。
同 13 日	朝鮮半島と私たち	担当）朝日新聞論説委員・箱田哲也 ・昨年は従軍慰安婦問題の合意など日韓の関係は大きく動いた。元ソウル支局長の記者と共に、韓国・北朝鮮との関係を考える視座を捉えていきたい。
同 20 日	大学生のキャリア形成と新聞	担当）あさがくナビ編集長・木之本敬介 将来、どのような仕事に就くにせよ、大学生の頃から新聞を読むということの重要性を考える。就活にも役立つ講座にしたい。
なし	なし	授業期間外

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読むこと。朝日新聞に限らない。どの新聞でもよい。毎日、新聞を読む習慣をつける。

【テキスト（教科書）】
各講師が講義で資料を配布し、参考文献なども提示する。受講中は日々の新聞に目を通し、国内や世界で起きていることに関心を払うことが必須である。

【参考書】
必要な場合は別途、指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度と期末の筆記試験を総合して評価する

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
質問事項を学生同士で練る時間をとることにした

AB336

法と遺伝学 I

上杉　奈々

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この授業は他学部公開科目です。法律学科では「文化・社会と法コース」に属します。
現代の医療・医学の中で避けては通れなくなっている領域として，遺伝医療・遺伝医学があります。細胞の中の小さな小さな物質が，今となっては私たちの生活に大きな影響を及ぼす身近なものとなっています。
たとえば…
・妊娠したので健康な赤ちゃんが欲しいから，出生前検査を受けようかしら？
・将来，病気になる可能性を知りたいから，方法は簡単だし遺伝子検査を受けちゃおうかな？
このような医療の選択肢が，既に私たちの生活の中にある状況となっています。
しかし，このような遺伝子にかかわる医療介入や検査（場合によっては医療機関が関わらないサービスも含む）は，普段病院や診療所で受ける一般的な検査（レントゲン検査や血液検査）とは何が同じで，何が違うのでしょうか。違うとすれば，それはどのような特性によるのでしょうか。
このような身近な医療技術となったものへの素朴な疑問から，本講のテーマである遺伝学・遺伝医療について考えます。
これまで新しい医療技術は，新しい法的・倫理的・社会的問題をわれわれ一般市民に問うてきました。「法と遺伝学 I」では，医療技術によって既に社会にインパクトが起こっている事象を主たるテーマに取り上げながら，遺伝学・遺伝医療について，その法的・倫理的・社会的議論としてどのようなことが考えられるか，その医療技術に恩恵があるとすれば，それをわれわれが適切に享受するためにはどのような法的・政策的な解決法が考えられるのか，といったことを「ああでもない，こうでもない」といろんな視点や価値観に触れながら考えることで，新たな社会事象に対する法的思考能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
（1）遺伝学・遺伝医療の発展とその実情を学び，そのことにつき様々な立場の人の視点や価値観に触れたり想像したりしながら，新たな法的・倫理的課題を発見することができる。
（2）その課題を解決するための法的・政策的な解決法につき，自由に自分の考えを形成することことができる。
（3）その自分の考えについて，様々な価値観を踏まえたうえで批判的に考察することができる。

【授業の進め方と方法】
● 基本的には講義形式としますが，質問等，学生のみなさんの積極的な発言を歓迎します。
● 毎回，リアクションペーパーを配布します。そこで講義の中で自分が考えたことなどを記載してください。それをまとめたもの（匿名）を次の時間に配布し，受講生全員で他の受講生が考えたことや価値観を共有します。
● DVD，新聞記事などを多用する予定です。
●「法と遺伝学 II」（秋学期）の内容も含め，何か興味のわくトピックのあった学生さんは，どなたでも大歓迎です。医学的な内容にも踏み込みますので，どのテーマも平易な言葉での説明と展開を心掛けるつもりです。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・法と遺伝学 I 入門	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 2 回	挙児と遺伝学（1）：出生前診断①	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 3 回	挙児と遺伝学（2）：出生前診断②	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 4 回	挙児と遺伝学（3）：出生前診断③	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 5 回	挙児と遺伝学（4）：着床前診断・スクリーニング①	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 6 回	挙児と遺伝学（5）：着床前診断・スクリーニング②	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 7 回	挙児と遺伝学（6）：着床前診断・スクリーニング③	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 8 回	挙児と遺伝学（7）：生殖補助医療技術と家族の変容	テーマに基づく講義とクラス全体でのディスカッション
第 9 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング（1）	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 10 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング（2）	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 11 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング（3）	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 12 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング（4）	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 13 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング（5）	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 14 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング（6）	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 15 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング（7）	テーマに基づく講義とクラス全体でのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回，予習すべき内容を指示するので，各自自宅で予習をすること。予習をしそびれた者は，授業で扱った箇所を必ず復習すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
毎回レジメを配布する。

【参考書】
和田幹彦 編・著『法と遺伝学』（法政大学出版局・2005 年刊）
そのほか，テーマに応じて適宜講義時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による評価（80%）＋平常点：リアクションペーパーの提出など講義への参加度（20%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
該当なし

AB336

法と遺伝学Ⅱ

上杉　奈々

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この授業は他学部公開科目です。法律学科では「文化・社会と法コース」に属します。
「法と遺伝学 I」では，医療技術によって既に社会にインパクトが起こっている事象を主たるテーマに取り上げましたが，本講では，社会へのインパクトが未知数な医療技術をテーマに取り上げます。
遺伝学・遺伝医療について，その法的・倫理的・社会的議論としてどのようなことが考えられるか，その医療技術に恩恵があるとすれば，それをわれわれが適切に享受するためにはどのような法的・政策的な解決法が考えられるのか，といったことを既に経験している社会的事象から推論しながら，「ああでもない，こうでもない」といろんな視点や価値観に触れながら考えることで，新たな社会事象に対する法的思考能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
（1）遺伝学・遺伝医療の発展とその実情を学び，そのことにつき様々な立場の人の視点や価値観に触れたり想像したりしながら，新たな法的・倫理的課題を発見することができる。
（2）既に社会が経験している事象からの学びをもとに，新たな技術により生じうる法的・倫理的課題を推論し検討することができる。
（3）その課題を解決するための法的・政策的解決法につき，自由に自分の考えを形成することができる。
（4）その自分の考えについて，様々な価値観を踏まえたうえで批判的に考察することができる。

【授業の進め方と方法】
● 基本的には講義形式としますが，質問等，学生のみなさんの積極的な発言を歓迎します。
● 毎回，リアクションペーパーを配布します。そこで講義の中で自分が考えたことなどを記載してください。それをまとめたもの（匿名）を次の時間に配布し，受講生全員で他の受講生が考えたことや価値観を共有します。
● DVD，新聞記事などを多用する予定です。
●「法と遺伝学 I」（春学期）の内容も含め，何か興味のわくトピックのあった学生さんは，どなたでも大歓迎です。医学的な内容にも踏み込みますので，どのテーマも平易な言葉での説明を展開を心掛けるつもりです。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・法と遺伝学 II 入門	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 2 回	遺伝子解析と研究（1）：何がどこまで分かるの？	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 3 回	遺伝子解析と研究（2）：遺伝情報は誰のもの？	テーマに基づく講義＆質疑応答＋ディスカッション
第 4 回	遺伝子解析と研究（3）：incidental findings って何？	テーマに基づく講義＆質疑応答＋ディスカッション
第 5 回	iPS 細胞研究と遺伝子（1）：再生医療①	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 6 回	iPS 細胞研究と遺伝子（2）：再生医療②	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 7 回	iPS 細胞研究と遺伝子（3）：再生医療③	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 8 回	iPS 細胞研究と遺伝子（4）：再生医療④	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 9 回	ミトコンドリア DNA とその可能性（1）：どんな性質があるの？	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 10 回	ミトコンドリア DNA とその可能性（2）：家族形成はどこまで可能か？ ①	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 11 回	ミトコンドリア DNA とその可能性（3）：家族形成はどこまで可能か？ ②	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 12 回	ミトコンドリア DNA とその可能性（3）：家族形成はどこまで可能か？ ③	テーマに基づく講義＆質疑応答＋ディスカッション
第 13 回	ゲノム編集技術とヒト（1）	テーマに基づく講義＆質疑応答
第 14 回	ゲノム編集技術とヒト（2）	テーマに基づく講義＆質疑応答＋ディスカッション
第 15 回	総括：遺伝学領域の先端医療技術と人間の欲望…法的・倫理的・社会的課題と解決	テーマに基づく講義とクラス全体のディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回，予習すべき内容を指示するので，各自自宅で予習をすること。予習をしそびれた者は，授業で扱った箇所を必ず復習すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
毎回レジメを配布する。

【参考書】
和田幹彦 編・著『法と遺伝学』（法政大学出版局・2005 年刊）
そのほか，テーマに応じて適宜講義時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による評価（80%）＋平常点：リアクションペーパーの提出など講義への参加度（20%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
該当なし

比較文化論（1）

吉川　信

授業コード：A2981
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生はこの授業で文化比較の観点を学ぶ。具体的には、ラフカディオ・ハーンやジェイムズ・ジョイスが残した様々なテキスト、文化論やカルチュラル・スタディーズと称される文献を読みながら、自らの置かれている文化状況の特殊性に思いを致し、現代世界を幅広く理解することを目的とする。

【到達目標】
・ヨーロッパにおけるイギリスの特殊性を述べることができる。
・ヨーロッパの近代とは何であったかについて、その概要を述べることができる。
・イギリスの植民地主義について、概要を述べることができる。
・日本文化の特殊性について、自分の意見を述べることができる。

【授業の進め方と方法】
英語や日本語で書かれた小説、エッセイ、書簡等を読みながら、書き手の置かれていた特定の文化状況を考察する。英語の資料については事前に配布するので、予習が必要となる。また授業で扱う作家・文献・事象に関して、その都度設定したテーマに基づき、学生間でのディスカッションの時間を設ける。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに――越境者たち	「国籍離脱者」もしくは「自発的亡命者」たちの姿を概略的に紹介する。
第 2 回	ラフカディオ・ハーン紹介	ハーンの生立ち、彼の暮らした国々と、そこで生み出された作品を紹介する。
第 3 回	ギリシアのアングロ＝アイリッシュ	ハーンの父親は、アングロ＝アイリッシュの英国軍人であった。ギリシアと英国の関係、および文人たちにとってのギリシアの意味を考える。
第 4 回	植民地アイルランドの問題	アイルランドには、ゲーリック＝アイリッシュとアングロ＝アイリッシュの相違が大きな民族問題としてあった。この点を歴史的に概略する。
第 5 回	『文化と帝国主義』を読む	エドワード・サイードの主著を、抜粋して読む。
第 6 回	植民地小説を読む	サイードが例に挙げた文学作品を、抜粋して読む。
第 7 回	個人の「意識」と話法の問題	小説作品における「自由間接話法」が、個人の意識を描くものなのか、むしろ植民地において未だ「正史」化され得ない、「民族の未だ鍛えられざる意識」を描くものなのか、を考える。
第 8 回	近代と前近代	近代とは何であったかを語る文献を紹介し、抜粋で読む。
第 9 回	神話的方法と現代文学	T. S. Eliot の言った「神話的方法」なるものが、実際にはどのような方法を指していたのか、具体的な文学作品を例にとって考察する。
第 10 回	Mysticism と東洋の神秘	19 世紀後半から流行りはじめ、第一次世界大戦後にピークを迎えた「降霊会」について考察する。ハーンがこれに参加した記録も読む。
第 11 回	ハーンの怪談を読む	ハーンの代表作『怪談』および『奇談』から、いくつかの作品を抜粋して紹介する。
第 12 回	ハーンの日本論を読む：ハーンの仏教理解と神道理解	ハーンの最晩年の日本論は、日本人の宗教観を論じたユニークな著作である。まずはこの書を紹介する。
第 13 回	ハーンの日本論を読む：ハーンの日本とギリシア	この書では、日本の神道と古代ギリシアの信仰が比較されている。これを抜粋して読む。
第 14 回	死生観を考える	エジプトのオシリス神話を紹介し、20 世紀初頭の英語文学がこれをどのように理解し、再利用したかを考察する。
第 15 回	まとめ――文化の比較という問題	これまでに扱ってきた主題のうち、もっとも興味深い問題を選んで、グループごとにディスカッションを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介された文献は、できるだけたくさん読むこと。毎日 2 時間程度は関連文献の読書に充ててもらいたい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せず、授業時にプリントを配布する。

【参考書】
授業時に必要文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験： 50 %、課題提出物： 20 %、授業時の発表等による参加度： 30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初年度なので前年の授業評価資料はないが、できるだけ受講者の意見を聞いておきたい。授業の進行について希望などあれば、授業終了時に随時受け付ける。

身体活動と健康

林　容市

授業コード：A3729
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「健康関連情報の取捨選択」,「身体活動に関する心理要因」,「様々な対象における健康の考え方」,「身体活動と心身の健康」の 4 つをテーマとします。

【到達目標】
・健康な生活習慣確立に繋がる心身の情報・知識を学習する。
・現在の自らの身体状態や生活習慣を適切に把握・評価する。
・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ，健康と身体運動に関連した知識を学ぶことが授業目的の一つとなります。
その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し，毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求め，その内容を次回以降の授業に反映させます。また，授業中に測定する健康関連指標の結果や個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め，評価の一部とします。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，健康な生活について
第 2 回	健康関連情報の取捨選択 1	情報選択の際の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンス
第 3 回	健康関連情報の取捨選択 2	日本人の健康状態と新たな健康づくり
第 4 回	健康関連情報の取捨選択 3	今日の健康における様々な社会問題の関与
第 5 回	身体活動に関する心理要因 1	健康行動を発生・継続させるための心理要因 1
第 6 回	身体活動に関する心理要因 2	健康行動を発生・継続させるための心理要因 2
第 7 回	様々な対象における健康の考え方 1	幼児期・児童期の健康と身体活動
第 8 回	様々な対象における健康の考え方 2	幼児期・児童期の身体活動と社会的要因
第 9 回	様々な対象における健康の考え方 3	青年期の健康と身体活動
第 10 回	様々な対象における健康の考え方 4	肥満や痩せに関連する心理要因
第 11 回	様々な対象における健康の考え方 5	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状態
第 12 回	身体活動と心身の健康 1	生活習慣病の成因と身体活動との関係
第 13 回	身体活動と心身の健康 2	様々な減量方法に関する心理的・生理的要因
第 14 回	身体活動と心身の健康 3	肥満・減量に関連する国際的比較
第 15 回	総括	授業全体を通じた総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回のリアクションペーパーにコメント・回答をしてください。
また，ミニレポートの作成に向けて授業ごとに内容を復習し，個人の考え・意見をまとめておいてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況と理解度（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：70%，2）ミニレポート：30%，の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため，「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎年，「知識が身に付いた」というコメントを頂いているが，それらを活用するまでには至っていないと予想している。例年，受講生に比して狭小な教室を割り当てられることが多い授業ではあるが，単に知識を習得したに終わらせないためにも，教員からの知識提供に留まらず，実際の行動に繋がるようなグループワークや演習活動を取り入れた学習を展開したいと考えている。

英米文化概論 A

小島　尚人

授業コード：A2982
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ南部はその歴史を通じて北部とは異なる独自の文化を発展させ、アメリカの国民文化形成に大きな影響を及ぼしてきた。そのため、アメリカの文化を理解するうえで、南部文化と南北対立の歴史を知っておくことは重要なことである。この授業では、映像作品を主な題材として、アメリカ南部の文化とその歴史を学ぶ。また、これは昨年度までの「演劇講義 A」の後継科目でもあるため、とくに学期後半ではアメリカ南部を舞台とした演劇を扱う。南部の代表的な劇作家であるリリアン・ヘルマンとテネシー・ウィリアムズの戯曲について、映画版を鑑賞しながら学んでいく。

【到達目標】
・アメリカ南部の文化と南北対立の歴史について理解し、語れるようになる。
・奴隷制、人種差別、南北戦争といったトピックについて、多面的な理解ができるようになる。
・これらのテーマが、アメリカの演劇や映画、文学においてどのように扱われているかについて自覚的になり、今後の作品鑑賞に役立てることができる。

【授業の進め方と方法】
授業は、映像を見ながら、それについて教員がパワーポイントなどで解説を加えていく形式で進む。毎回リアクション・ペーパー（クイズ形式の設問を含む場合もある）の提出あり。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明ののち、アメリカ南部と北部の関係を概説。地理と歴史の勉強。
第 2 回	*12 Years A Slave*（1）	映画 *12 Years A Slave*（『それでも夜は明ける』）を三部に分け、その一番目を見ながら、アメリカの奴隷制と南北対立の歴史について学ぶ。
第 3 回	*12 Years A Slave*（2）	映画『それでも夜は明ける』を三部に分け、その二番目を見ながら、アメリカの奴隷制と南北対立の歴史について学ぶ。
第 4 回	*12 Years A Slave*（3）	映画『それでも夜は明ける』を三部に分け、その三番目を見ながら、アメリカの奴隷制と南北対立の歴史について学ぶ。
第 5 回	*Gone with the Wind*（1）	映画 *Gone with the Wind*（『風と共に去りぬ』）を三部に分け、その一番目を見ながら、南部から見た南北戦争・戦後体験とその問題を学ぶ。
第 6 回	*Gone with the Wind*（2）	映画『風と共に去りぬ』を三部に分け、その二番目を見ながら、南部から見た南北戦争・戦後体験とその問題を学ぶ。
第 7 回	*Gone with the Wind*（3）	映画『風と共に去りぬ』を三部に分け、その三番目を見ながら、南部から見た南北戦争・戦後体験とその問題を学ぶ。
第 8 回	前半のまとめ	前半部で学んだ事項を、二作品の内容を対比的に振り返りながらまとめる。中間テストの準備。
第 9 回	中間テスト／アメリカ南部の演劇	授業内中間テストののち、アメリカ南部の演劇について概説。
第 10 回	リリアン・ヘルマン（1）	ヘルマンの戯曲 *The Little Foxes* の同タイトルの映画版（邦題『偽りの花園』）の前半部を見て、南部と北部というテーマから分析する。
第 11 回	リリアン・ヘルマン（2）	ヘルマンの戯曲 *The Little Foxes* の同タイトルの映画版（邦題『偽りの花園』）の後半部を見て、南部と北部というテーマから分析する。
第 12 回	テネシー・ウィリアムズ（1）	ウィリアムズの戯曲 *A Streetcar Named Desire* の同タイトルの映画版（『欲望という名の電車』）を三部に分け、その一番目を見て、旧南部／新南部というテーマから分析する。
第 13 回	テネシー・ウィリアムズ（2）	ウィリアムズの戯曲 *A Streetcar Named Desire* の同タイトルの映画版（『欲望という名の電車』）を三部に分け、その二番目を見て、旧南部／新南部というテーマから分析する。
第 14 回	テネシー・ウィリアムズ（3）	ウィリアムズの戯曲 *A Streetcar Named Desire* の同タイトルの映画版（『欲望という名の電車』）を三部に分け、その三番目を見て、旧南部／新南部というテーマから分析する。

第 15 回	まとめ	ヘルマン、ウィリアムズにおける南部の主題をふりかえり、学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で扱う映画の原作を翻訳でいいので積極的に読む。理解が深まるだけでなく、期末レポートの準備にもなる。
・授業内で解説された事項について、ノートを見返して復習する。

【テキスト（教科書）】
なし（必要に応じてプリントを配布する）

【参考書】
授業中に鑑賞する映画作品の原作の翻訳：
ソロモン・ノーサップ『12 イヤーズ　ア　スレーブ』小池雅美訳、花泉社、2014 年。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』（岩波文庫版、新潮文庫新訳版、新潮文庫旧訳版、の三種類がある）
リリアン・ヘルマン「子狐たち」（『リリアン・ヘルマン戯曲集』所収）小田島雄志訳、新潮社、1995 年。
テネシー・ウィリアムズ『欲望という名の電車』（新潮文庫版または慧文社版）
その他の参考文献は授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席および毎回提出のリアクション・ペーパー）：30 %
中間テスト：30 %
期末レポート：40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当につき、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
DVD が再生・視聴できる機器環境。

英米文化概論 B

小島　尚人

授業コード：A2983
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、アメリカの国民文化の形成と発展において「西部」（というイメージ）が果たした役割とその問題について学ぶ。これは昨年度までの「演劇講義 B」の後継科目でもあるため、「西部」の演劇化／スペクタクル化を主要テーマとし、19 世紀後半のダイム・ノヴェルや「ワイルド・ウエスト」ショウから 20 世紀の西部劇映画へ、という歴史的系譜を踏まえて、学期を通じてさまざまな映像作品を鑑賞し、分析する。

【到達目標】
・アメリカの西部開拓史について、先住アメリカ人の排除の歴史も含めて、多面的に理解し語れるようになる。
・「西部」や「フロンティア」のイメージがどのようにアメリカの文化の根幹にかかわっているか、理解できるようになる。
・これらのテーマが、アメリカの演劇や映画、文学においてどのように扱われているかについて自覚的になり、今後の作品鑑賞に役立てることができる。

【授業の進め方と方法】
授業は、映像を見ながら、それについて教員がパワーポイントなどで解説を加えていく形式で進む。毎回リアクション・ペーパー（クイズ形式の設問を含む場合もある）の提出あり。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明ののち、「西部」の移動過程、アメリカ西部開拓史について概説。歴史と地理の勉強。
第 2 回	アメリカ文化と「フロンテティア」神話	ターナーの学説を紹介し、「西部」をアメリカの国民性の源泉とみなすフロンティア観の構築過程を概観する。
第 3 回	*The Last of the Mohicans*（1）	1992 年版の映画『ラスト・オブ・モヒカン』の前半部を見ながら、フロンティアものの源流とも言える同作品（原作 1826 年）の特徴、政治的力学などを学ぶ。
第 4 回	*The Last of the Mohicans*（2）	1992 年版の映画『ラスト・オブ・モヒカン』の後半部を見ながら、フロンティアものの源流とも言える同作品（原作 1826 年）の特徴、政治的力学などを学ぶ。
第 5 回	「西部」のスペクタクル化	ダイム・ノヴェル、バッファロー・ビルの生涯と「ワイルド・ウエスト」ショウについて。
第 6 回	*Annie Get Your Gun*（1）	ブロードウェイ・ミュージカル『アニーよ銃を取れ』の映画版（1950 年）の前半部を見ながら、歴史的背景や「西部」の表象を分析するとともに、「ミュージカル西部劇」というジャンルについても考える。
第 7 回	*Annie Get Your Gun*（2）	ブロードウェイ・ミュージカル『アニーよ銃を取れ』の映画版（1950 年）の後半部を見ながら、歴史的背景や「西部」の表象を分析するとともに、「ミュージカル西部劇」というジャンルについても考える。
第 8 回	前半のまとめ	前半部で学んだ事項を振り返る。中間テストの準備。
第 9 回	中間テスト／「西部劇映画」というジャンル	授業内中間テストののち、西部についての見世物／演劇の後継者としての「西部劇映画」の勃興についての概説。
第 10 回	*Stagecoach*（1）	ジョン・フォード『駅馬車』（1939 年）の前半部を見ながら、古典的西部劇について学ぶ。南北／東西の描かれ方など。
第 11 回	*Stagecoach*（2）	ジョン・フォード『駅馬車』（1939 年）の後半部を見ながら、古典的西部劇について学ぶ。南北／東西の描かれ方など。
第 12 回	*Soldier Blue*（1）	ラルフ・ネルソン『ソルジャー・ブルー』（1970 年）の前半部を見ながら、ニューシネマ西部劇について学ぶ。
第 13 回	*Soldier Blue*（2）	ラルフ・ネルソン『ソルジャー・ブルー』（1970 年）の後半部を見ながら、ニューシネマ西部劇について学ぶ。
第 14 回	*Brokeback Mountain*	アン・リー『ブロークバック・マウンテン』（2005 年）の一部を見ながら、西部劇の現在を学ぶ。
第 15 回	まとめ	学んだ内容をふりかえり、学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で紹介された参考書を読んだり、映画を観たりする。学んだ内容の理解が深まるだけでなく、期末レポートの準備にもなる。
・授業内で解説された事項について、ノートを見返して復習する。

【テキスト（教科書）】
なし（必要に応じてプリントを配布する）

【参考書】
猿谷要『西部開拓史』岩波新書、1982 年。
亀井俊介『サーカスが来た！　アメリカ大衆文化覚書』平凡社ライブラリー、2013 年。
ほか、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席および毎回提出のリアクション・ペーパー）： 30 %
中間テスト： 30 %
期末レポート： 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当につき、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
DVD を再生・視聴できる機器環境。

発達心理学

渡辺　弥生

授業コード：A3622
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達的特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】
心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。
（1）人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
（2）人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
（3）生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるようにビデオや DVD などの視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。アクティヴラーニングをできるだけ取入れる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第 2 回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について 理解する。
第 3 回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第 4 回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第 5 回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第 6 回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第 7 回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第 8 回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第 9 回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第 10 回	意欲・動機づけの発達	やる気のメカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。
第 11 回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第 12 回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物的な違いなのか後天的な違いなのか、 いくつかの研究から考えてみる。
第 13 回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？ ：道徳的な人とそうでない人は、発達的に違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第 14 回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

第 15 回　まとめ　　総括：全体について押さえておくべき点を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは授業で質問するようにし、授業後は復習する。復習したことが理解されているかを確認するため、授業の最初に前の時間のレヴューや質問に答えるようにするが、専門用語などについてまとめるようにする。

【テキスト（教科書）】
『図で理解する発達－新しい発達心理学への招待』、川島一夫・渡辺弥生　編著（福村出版）

【参考書】
『子どもの「１０歳の壁」とは何か？ ー乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの内容やミニレポート（50 %）、学期末の筆記試験（50 %）。毎回の出席を点数化するわけではない。毎回のリアクションペーパーの質を評価する。期末試験は、全体の授業回数１０回以上出席をしているものを該当者とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業外の予習および復習の時間が少ないようなので、レヴューテストで復習を促すようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】
授業支援システムに登録すること。

GA211

英語圏の文化Ｉ（文化史）

宇治谷　義英

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時代の変革期における大衆文化を通して見たイギリス社会

【到達目標】
(1)16 世紀末〜17 世紀初めの所謂ルネサンス期のイギリス演劇 (特に William Shakespeare の劇) を時代の移り変わりと関連させて把握できるようになること，(2) ルネサンス期のイギリス演劇のみならず，時代の変革期における大衆文化と社会を関連づけて考えられるようになること，(3) 英文で書かれた論考を自分なりに読み解いて，さらにそれを批評することができるようになること．

【授業の進め方と方法】
講義形式の回もありますが，受講者からの意見を聞く機会はとりたいと思います．途中からは受講者の発表が中心になります．受講者の発表は割り当てられた英語論考のまとめ，そして自分で選んだ作品の今日的解釈です．

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業の説明
2	劇団	ルネサンス期劇団の事情
3	劇場	ルネサンス期劇場の事情
4	テクスト	ルネサンス期上演台本の出版事情
5	論文の解読 (1)	Foakes 著"Playhouses and players"の発表 ("The arena theatres")
6	論文の解読 (2)	Foakes 著"Playhouses and players"の発表 ("The early private playhouses")
7	論文の解読 (3)	Foakes 著"Playhouses and players"の発表 ("The later theatres")
8	論文の解読 (4)	Foakes 著"Playhouses and players"の発表 ("Players and playing")
9	論文の解読 (5)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("Literature and history")
10	論文の解読 (6)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("The condition of England")
11	論考の解読 (7)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("The court")
12	論考の解読 (8)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("The city")
13	論文の解読 (9)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("Women and families")
14	論文の解読 (10)	Hattaway 著"Drama and society"の発表 ("Other cultures")
15	時代と文化	1960 年代の社会と大衆文化について（Steven Berkoff とサッチャー主義など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義形式の授業では内容に関して毎回課題を与えられるので，翌週提出する．論考を扱う授業では前もって当てられた範囲について発表できるように準備する．グループ発表では前もってテーマを決めてグループ内で準備しておく．

【テキスト（教科書）】
特に使わない．

【参考書】
The Cambridge Companion to English Renaissance Drama, eds. A.R. Braunmuller, Michael Hattaway (Cambridge: Cambridge University Press, 1990).
1599: A Year In The Life Of William Shakespeare, James Shapiro (London: Faber and Faber, 2005).

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー等課題の提出 (30%)，プレゼン (30%)，試験 (40%)．なお，**教員による講義中および受講生による発表中の私語，やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁です．再度注意を受けた場合はそれ以後授業に参加することはできません．**

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
担当した文献の英語について意見をいくつかいただいたので，教員から前もってある程度の道しるべ的な助言を与えることを検討したいと思っています．

GA331

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会Ａ）

須藤　祐二

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカのいくつかの文化的側面をアメリカ文学と関係づけて考察する。また、各時代における文学作品の描写や問題提起が、時には時代を超えて、アメリカの漫画、映画、音楽など、他の分野とどのようなつながりを結びうるのかも考えることで、アメリカ文学および文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】
文化史的な観点から、アメリカについての基本的な知識を身につける。また、アメリカ文学をいくつかの角度から考察することで、それぞれの文学作品の内容を知るとともに、そこに表れているアメリカ社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
第 1 回授業でいくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマからアメリカの文学（や文化）がどう見えるのかを説明する。そのため、各テーマと関係した時代を切り取って、それを考察する、というプロセスが、何度か繰り返されるだろう。時間的な制約から時系列に沿った歴史の説明はできない。受講生は、アメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの設定	いくつかのテーマを設定する。
第 2 回	丘の上の町と法	植民地時代の理念がアメリカを支える神話としてどのように現代に受け継がれてきたのかを考える。
第 3 回	怖いのは心	ゴシック小説を中心に、恐怖を描く文学に焦点を当てて、その裏にあるアメリカの歴史との関係を考える。
第 4 回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説や絵画を検討しながら、この「アメリカ的な風景」の国家主義的な利用の歴史を考察する。
第 5 回	東と西への疾走	フロンティア消滅以後の東部と西部がどのような価値のメタファーとして捉えられ、それを 19 世紀から 20 世紀の文学がどう活用してきたかを考える。
第 6 回	アメリカを飛び出てみれば	アメリカ大陸を超えていくアメリカ文学（文化）を取り上げる。その独自性の考察とともに、これまでのアメリカ文学（文化）との比較を行う。
第 7 回	時間と都市	19 世紀末から 20 世紀半ばのアメリカの産業化とともに変化していった時間表象や都市表象に焦点を当てる。モダニズム以降の作家を取り上げ、彼らの作品が産業的発展のさまざまな影響をどのように受けているのかを考える。

第 8 回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様なエスニシティが混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、近代アメリカにおいて、国家としてのアメリカがこの概念に担わせてきた社会的・文化的意味を文学や映画を参照しながら考える。
第 9 回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家からみたアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。
第 10 回	観念としての「黒人」は誰のものか	20 世紀前半のハーレム・ルネッサンスを取り上げて、アフリカ系アメリカ人の芸術家たちが自分たちの文化をアメリカ社会にどう位置づけようと苦闘してきたかを考える。その反面で、ジャズがたどった歴史を学び、彼らの挫折と限界も論じる。
第 11 回	メディアと消費文化の拡張	アメリカにおけるメディアの歴史を概説し、アメリカ文化におけるメディアの果たしてきた役割を考える。
第 12 回	アフリカ系アメリカ人とスポーツ、スペクタクル	アメリカにおけるスポーツの文化的な価値づけの歴史と、アフリカ系アメリカ人の関わり方の変遷を解説する。
第 13 回	アフリカ系アメリカ人と音楽、スペクタクル	黒人音楽と消費文化の関係、さらに、消費文化のなかにとりこまれる「黒人」イメージを論じ、そこから取り残される現実を黒人作家がどのように描いてきたかを論じる。
第 14 回	ジェンダー観の変容	女性の権利拡大運動の推移を確認する。また、ジェンダー観の変化に伴って何が変化し、何が変わらずにいるのかを 20 世紀の文学や映像文化を例に考える。
第 15 回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業、資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】
『アメリカの歴史――テーマで読む多文化社会の夢と現実』
有賀夏紀 (編集) 油井大三郎 (編集) 有斐閣アルマ
『アメリカ文化史入門――植民地時代から現代まで』
亀井俊介 (編集) 昭和堂
『はじめて学ぶアメリカ文学史』
板橋 好枝 (著) 高田 賢一 (著) ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
学期末レポートを 70 %、中間レポートを 30 %とする。
なお、両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度と同様、視覚資料も用いる。
静かに受講できた、という感想が聞かれた。同様の授業になるように工夫をするつもりだが、受講生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】
教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。

GA219

ドイツ語圏の文化 I

林　志津江

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏のうち、ドイツとその首都であるベルリンを主に取り上げます。19 世紀後半から 20 世紀前半のベルリンとその周辺都市の文化現象を、技術革新という側面に着目しながら概観します。日本が明治維新に湧いた頃、ドイツもまた史上初の国家統一をなしとげ、近代国家としての一歩を踏み出しました。ただし周知の通り、19 世紀末のドイツと日本では大きく異なる部分もあります。高校で学んだ世界史からもう一歩先の世界を、文化現象を通して探究していきましょう。

【到達目標】
日本の近代化に決定的な影響を及ぼした 19 世紀後半〜 20 世紀前半のベルリンとドイツ語圏（ドイツ帝国、ハプスブルク帝国）、ひいてはヨーロッパ諸国と日本との関連を理解するとともに、文学や造形芸術などを批判的に読解する能力、自分の考えを他人に伝わる言語で表現できる能力を身に付けることです。と同時に、見知らぬ国・地域を見つめる作業が、自分自身と自身が背負うものを振り返る時間になる現実を実感して下さい。近代ヨーロッパに関する理解を、私たちの属する文明社会を問い直す方法、ひいては異文化間コミュニケーションの可能性についての考察にまでつなげられれば、いっそう理想的だと思います。

【授業の進め方と方法】
各回、教員が資料を用いて各テーマの内容を紹介します（各テーマは時系列的に進みます）。文学作品を扱う回は、該当箇所を輪読形式で読みます。映画や造形芸術を扱う回は、スクリーン上で作品を観てもらいます。そのあとは皆さんが気づいた点や疑問点を指摘したり、意見を述べる時間です。授業の最後には必ず小レポート（リアクションペーパー）を書き、自分の考えを言語にしてまとめます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・前史	この授業について、「ドイツ語圏」ってどこ？ 何で「ドイツ」って言うの？
2	都市労働者とドイツ帝国の誕生（1）	「ドイツ人」という意識、普墺戦争と普仏戦争 （メンツェル『鉄圧延伸工場』、ドーデー『最後の授業』）
3	都市労働者とドイツ帝国の誕生（2）	私ってドイツ人になったの？「母語」と「母国語」って違うの？ （ドーデー『最後の授業』）
4	ビスマルクの時代（1）	技術革新と人口の爆発的増加、ベルリンの劣悪な住環境 （森鴎外『舞姫』『独逸日記』）
5	ビスマルクの時代（2）	ベルリンの上下水道、都市化に翻弄される人々 （森鴎外『衛生學大意』、フォンターネ『迷誤あれば』）
6	ヴィルヘルム帝政期のベルリン	工業化と人々の新しいつながりの様式、余暇の誕生とサッカー （映画『コッホ先生と僕らの革命』）
7	世紀転換期の芸術と社会（1）ー ブルジョワ層と芸術家意識	技術革新が芸術にもたらしたもの、ユーゲントシュティールとウィーンのカフェーハウス、芸術 VS. 工芸

8	世紀転換期の芸術と社会（2）ー 大都市を描く	表現主義の目指す道、「ブリュッケ」の描くベルリン（キルヒナー『ポツダム広場』ほか）
9	第一次世界大戦と敗戦	揺れるヨーロッパと帝国の終焉（ツヴァイク『目に見えないコレクション』）
10	ヴァイマール共和国の誕生と黄金の 20 年代	新しい職業と「新しい女」の誕生、アメリカからやってきた大衆文化、表現主義から新即物主義へ（ジークフェルト・フォーリーズの凱旋公演、ディックス『大都市』、シャート『ソーニャ』など）
11	ヴァイマール共和国の光と影	「新しい女」の現実、自由に生きるという意識と法律のはざまで（I・コイン『人工シルクの女の子』）
12	ヴァイマール共和国の終焉	「新しい女」の現実、ヒトラーとナチスの台頭（I・コイン『人工シルクの女の子』）
13	ナチス政権下の文化・芸術政策	「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」、ベルリンオリンピックが目指したもの（リーフェンシュタール『意志の勝利』など）
14	ナチ政権下に生きる人々と芸術	ニュルンベルク法の成立とオーストリア併合、ベルリンフィルとナチス
15	ナチス・ドイツの絶滅政策と敗戦	絶滅政策をくぐりぬけられなかった生に向けて（ツェラン「死のフーガ」）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業ごと、自分の考えをまとめた小レポート（リアクションペーパー）を、次回授業開始前までに提出します。
前回の資料を見直し、次回のテーマに関する資料（配布物）にも目を通してくること。

【テキスト（教科書）】
こちらから資料を用意・配布します。

【参考書】
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001 年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007 年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015 年
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（議論、小レポート含む）50 %と最終レポート課題 50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【その他の重要事項】
・取り扱う文学・芸術作品は変更される場合があります。
・ドイツ語の知識は必須ではありません。

GA233

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

内山　政春

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮半島は日本にとって，地理的，歴史的にもっとも密接な関係をもつ地域のひとつです．この授業では，朝鮮半島全般に関し，常識ともいうべき基礎知識をひととおり身につけることを目的とします．

【到達目標】
朝鮮半島に関する基礎知識を身につけることによって，その中の興味のある分野について，自分から引き続き勉強を続けていけるような土台を作るこができればと考えています．

【授業の進め方と方法】
まず，朝鮮半島の地理と歴史を概観し，その上で各項目についてみていきます．朝鮮と日本とのあいだの文化的影響や類似点を重視するとともに，あることがらの，日本と朝鮮とでのとらえかたの違いなどにも注目したいと思います．
この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち，もっとも入門的なもののひとつです．

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮とは	・「朝鮮」とはどこか？ ・朝鮮半島の２つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・参考文献の紹介
2	南北分断時代	・朝鮮の植民地からの「解放」と２つの朝鮮の建国 ・朝鮮戦争と南北朝鮮の対立，主導権争い ・南北共存時代 ・日本との関係
3	日本の植民地時代	・植民地支配とその前史 ・日本の開国と「開化」 ・明治の二大戦争と朝鮮 ・植民地支配 ・日中戦争，太平洋戦争と朝鮮 ・他の列強植民地との比較
4	在外朝鮮人	・朝鮮半島以外に居住する朝鮮民族の歴史と現状
5	李朝時代	・李朝前期の日本との関係 ・ソウルと王宮 ・李朝の身分制度 ・文禄・慶長の役による影響 ・江戸時代の日朝関係 ・日本，朝鮮の外交関係 ・朝鮮通信使
6	古代から高麗時代まで	・王朝の変遷 ・高麗時代 ・新羅時代 ・三国時代 ・神話時代 ・朝鮮，朝鮮史の領域
7	社会のしくみ１	・２つに分かれた国の社会 ・国家のシンボル ・休日と暦 ・社会のネットワーク
8	社会のしくみ２	・親族関係 ・地域社会 ・教育・マスコミ

9	社会のしくみ３	・政党と政治 ・兵役と軍事文化 ・ナショナリズム
10	言語１	・朝鮮語の使用地域 ・言語と文字の名称 ・朝鮮の文字ハングル ・朝鮮語の語彙，文法，系統 ・漢字文化圏と朝鮮語 ・朝鮮語の漢字表記 ・日本の朝鮮語学習の流れ
11	言語２	・ハングル以前の朝鮮半島の文字 ・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・解放後の朝鮮語 ・南北の言語のちがい
12	文学	・文学の歴史 ・ハングル登場以前の文学 ・ハングル登場以後の文学 ・李朝末期から植民地時期の文学 ・独立後の文学 ・北朝鮮の文学
13	食と住	・現在の都市の住居 ・伝統的な住居 ・植民地時代の住居 ・家庭での食生活 ・キムチと基本のおかず
14	宗教など	・仏教 ・儒教 ・キリスト教 ・新興宗教 ・日常の宗教的風習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
朝鮮語の知識は必要ありません．朝鮮に関する報道に関心を持ち，関連する本を積極的に読んでください．

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを作成して配布します．

【参考書】
参考文献はその都度指示しますが，参考書として『もっと知りたい韓国〔第２版〕』（弘文堂），『新版　韓国朝鮮を知る事典』（平凡社），『岩波小辞典　現代韓国・朝鮮』（岩波書店）などがお勧めできます。また現代の韓国人の生活を知るには『2002 年ソウルスタイル』（国立民族学博物館）が手頃な資料となります．最後の資料は授業中に何冊か持ってきてみなさんといっしょに見る予定です．

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらいます．そのシート（20%）と，学期末に課すレポート（80%）を総合して評価します．あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
「遅刻した場合に別の紙（講義に関する感想や質問を書くためのもの）を配るのはおかしい」などという意見がありました（遅刻者を判別するために私は昨年度の授業でそのようなことを行なっていました）．授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると，他の学生の迷惑にもなり，授業の進行も遅れがちになります．授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです．それが守れない人，また私語をする人は，他の学生に迷惑となりますので，受講しないでください．

【学生が準備すべき機器他】
毎回プリントを配布するのと同時に，教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます．

【その他の重要事項】
ＳＡ韓国２年生はかならず受講してください（韓国人に「ええっ！こんなことも知らないの？」と驚かれないためにも）．他学部の学生の受講も歓迎します．なお順序と内容に若干の変更がある可能性があります．

GA210

フランス語圏の文化Ⅲ（文学）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世時代から現代にいたるまでのフランス語圏の文学の概説。

【到達目標】
フランス語圏の文学の基礎知識を深める。
さまざまな仏文学潮流の代表的な作品の抜粋を読み、分析研究をする。十九世紀から非常に盛んになった大衆文学の研究も主に探偵・ミステリー小説を通して行う。

【授業の進め方と方法】
豊かなフランス語圏の文学の概説をするのは容易ではないが、いくつかの名作の抜粋を通して、この探検を試みる。
フランス語圏の文学の様々な潮流やその歴史的な背景の概説も必要であるが、なるべく原文に没入し解読を試み、その芸術的な喜びを味わう。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
①	中世の文学	授業紹介 フランス文学の最初の作品
②	ルネッサンスの文学	詩とエセー
③	十七世紀の文学	寓話詩と芝居
④	十七世紀の文学	芝居と小説
⑤	十八世紀の文学	エセーと小説
⑥	十八世紀の文学	小説と芝居
⑦	十九世紀の文学	エセーと小説
⑧	十九世紀の文学	小説と詩
⑨	十九世紀の文学	詩と芝居
⑩	二十世紀の文学	エセーと小説
⑪	二十世紀の文学	小説と詩
⑫	二十世紀の文学	詩と芝居
⑬	二十一世紀の文学	小説
⑭	現代大衆文学	ミステリー小説など
⑮	フランス語圏の文学	アフリカ、アメリカ、など レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書は限定するので（莫大な読書量にはならない）、あらかじめ指定された箇所はしっかり読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
開講時指示

【成績評価の方法と基準】
1）フランス語や日本語による発表：50%
2）期末レポート：50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
一定のレベル（2 年間学習済）の仏語学力が望ましい。
この授業はフランス語または日本語で行う（英語も可）。

【学生が準備すべき機器他】
必須ではないが、パソコン、録音機の持参推奨

GA327

ロシア・東欧の文化

佐藤　千登勢

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアと東欧は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方が EU 加盟を果たした東欧諸国。今日、これらの国々に対しては、中欧、もしくは中東欧という呼称が定着しつつあります。東欧という位置づけは、ロシア・ソ連との関係性、そして地理的・歴史的要因といった多面的な観点から考察される必要があるでしょう。

この講義では、ロシアと東欧諸国、それぞれの民族的差異や特殊性を主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時に、ナショナリズムの問題を提起していきます。また、日本との交流のあり方も視野に含めつつ、話を進めていきます。テーマが大きいだけに、まとまった結論を提示することはしません。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはどういうことなのか、学生のみなさんに考えてほしいと思います。

SA ロシアに向かう予定の２年生は事前準備の一環として、必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【授業の進め方と方法】

当講義で論じる「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の史実や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、アニメーション、アートなど）の視聴覚資料を通して、東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや社会体制の問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉え、考えていくようにしたいものです。授業の最後には毎回、意見や疑問点をまとめたレヴューシートをみなさんに提出してもらい、次回の授業に活かしていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	みなさんの異文化体験を訊くアンケートを実施。ロシアと中東欧諸国の言語・宗教／日本と東欧の関係の一断面
第２回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、汎ヨーロッパ・ピクニック事件の映像を鑑賞。
第３回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉施設を中心に解説、映像で紹介。
第４回	ハンガリー：音楽と映画とアートをめぐって	ジプシー楽団からリスト、バルトーク、コダーイの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ベーラらの独特な作風の映画を紹介。ハンガリー構成主義からグロテスク・デザインまでアーティストを紹介。
第５回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第６回	ポーランド：街並みと風土／世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録を映像を通して概説。
第７回	ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって	伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポピュラーミュージックも紹介。映画と政治の問題はワイダ作品を鑑賞しながら検討。
第８回	ポーランド：映画と文学をめぐって	ポランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れる。シェンキェヴィチ、シュルツ、ミウォシュ、シンボルスカ、レムら作家や詩人を紹介。
第９回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件を紹介。
第 10 回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいを映像を通して概説。
第 11 回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、プラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて、映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリャ、愛のプラハ』を紹介。
第 12 回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品、現代社会の個人の内的精神の問題を描くパヴラートヴァーのセルアニメを鑑賞し、チェコのアニメーション文化の多様性とイデオロギー的機能について考える。
第 13 回	ソ連・ロシア：歴史概観	被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。
第 14 回	ソ連・ロシア：ソ連邦崩壊を体験した子供たち	ソ連邦の崩壊を体験した子供達が、今日のロシアを支える世代となっている。国家体制が崩壊することとはどういうことか、無力で犠牲になりがちな子供達の観点からソ連崩壊を考える。
第 15 回	予備日	やりおおせなかったテーマを補足。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会をなるべく設けてほしいと思います。映画作品の DVD は大学の AV ライブラリーにある場合も多く、文学作品は図書館で借りることができます。

【テキスト（教科書）】
教場で資料を配付します。

【参考書】
教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レヴューシート（50 %）、期末レポート（50 %）の基準により判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
大教室での授業となる可能性がありますが、静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。

GA209

ロシア・中央アジアの文化

アンドレイ・クラフツェビチ

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の目標はロシア語圏の歴史と現状に関する知識を拡大することである。　前世紀 90 年代初めにソビエト社会主義共和国連邦が解体し、15 の独立した国家が誕生した。その内の五カ国はいわゆる中央アジアの国々であった。それはウズベキスタン、タジキスタン、キルギスタン、トルクメニスタンとカザフスタンである。数百年にわたってロシア帝国、ソ連邦の部分であったその国々は千年以上の歴史をもち独特の文化をもたらした。シルク・ロードの北の部分であった同じ地域、似ている文化、共同の歴史をもってこの国々は独立してからどのように発展していくのか、それらの国々がかかえている重要な政治、社会、経済等の問題は何であるのか、ロシアと日本を始め、他の外国との関係、交流はどう進んでいるのかを学ぶ。

【到達目標】
ロシアと中央アジア諸国の歴史、文化、お互いの影響を分かり、その地域の現状を理解するという目標がある。

【授業の進め方と方法】
授業の方法は講義であるが、学生は関心がある問題に関するディベートも考えられる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講座の内容と目的を説明する
第 2 回	ロシアと中央アジア古代史	最初のコンタクト
第 3 回	ロシアと中央アジア中世史	定期的交流
第 4 回	中央アジアのロシア帝国併合・加入	自発的参加と占領
第 5 回	帝政ロシアにおける中央アジア	ロシア式植民地
第 6 回	1917 年のロシア革命と中央アジア：一時的独立	帝国解体中の民族解放運動
第 7 回	二回目の併合：ソ連邦における中央アジアのソビエト社会主義共和国	ボリシェヴィキの民族政策
第 8 回	ソ連邦における中央アジア	中央アジアのソビエト化
第 9 回	ソ連邦解体と中央アジア	ソ連破壊に対する中央アジア各国の態度
第 10 回	中央アジアの国々の内政問題：カザフスタン	独立カザフスタンの政権：権威主義
第 11 回	中央アジアの国々の内政問題：ウズベキスタン	独立ウズベキスタンの政権：文明の進んだ独裁
第 12 回	中央アジアの国々の内政問題：タジキスタン	独立タジキスタンの政権：穏健な独裁
第 13 回	中央アジアの国々の内政問題：トルクメニスタンとキルギスタン	独立トルクメニスタンとキルギスンの政権：虐政的独裁
第 14 回	中央アジア各国に対するロシアの政策	統一防衛− 経済空間：アイデアと現実。資源と安い労働力の根源地
第 15 回	ロシアに対する中央アジア各国の政策	パトーナか兄貴か又は収入の財源

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
推薦された文献を読む

【テキスト（教科書）】
特に教科書、テキストは使用しない

【参考書】
各テーマに関する参考文献を講義中に指示する

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度等 30 %）とテスト（学期末試験 70 %）で評価する

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
もっと分かりやすい日本語を話してみる。できる限り分かりやすいレジュメを使う積りがある。

【その他の重要事項】
特に前提条件がない。
勉強するテーマの一つの教科書または本が存在しないので一番大事なことは講義に出席すること。

GA230

比較表象文化論

竹内　晶子

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**比較思想**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「日本的」とされている様々な文化現象を、歴史軸に沿って、そして異文化との比較を通じて検証します。また文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、応用を通じてその理解を深めます。

【到達目標】
・ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになる。
・オリエンタリズム、ジェンダー、構造主義、ナラトロジー、文化人類学、演劇記号論などの理論を理解し、作品分析に応用できるようになる。

【授業の進め方と方法】
映画、オペラ、日本人論、和歌、連歌、英詩、ハイパーテキスト文学作品、能、モダニズム演劇、など実際の作品をとりあげ、比較文化的見地から「日本的なるもの」がどのように表象されているかを分析します。またオリエンタリズム、構造主義、ナラトロジー、文化人類学、演劇記号論などの理論がどのように作品分析に応用できるのかも、こうした実践を通じて身に着けていきます。
したがって、単に講義を聞くだけの授業ではありえません。課題テキストを読んで SQ（Study Questions）への答えを用意して毎回の授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、文化と文化の間の差異をより深く考えるための素材と思考ツールが身に着く筈です。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』鑑賞
第三回	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』台本分析
第四回	オリエンタリズム III	映画『サヨナラ』鑑賞
第五回	オリエンタリズム IV	映画『サヨナラ』分析
第六回	オリエンタリズム V	『菊と刀』分析
第七回	ジェンダー論 I	ディズニー映画『リトル・マーメイド』と『アナと雪の女王』鑑賞
第八回	ジェンダー論 II	ディズニー映画『リトル・マーメイド』と『アナと雪の女王』分析
第九回	和歌と英詩	恋をめぐる和歌と英詩の比較。構造主義概説。
第十回	能とモダニズム演劇 I	英語圏における能の受容概観
第十一回	能とモダニズム演劇 II	〈養老〉と"At the Hawk's Well"比較
第十二回	日本古典演劇と語り	ナラトロジー概論、演劇記号学概論、能・歌舞伎・人形浄瑠璃の特質。
第十三回	文化人類学と演劇 I	ターナー、ギアツ、シュックナー概説。
第十四回	文化人類学と演劇 II	作品分析への応用（能、オペラ、映画他）
第十五回	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題テキストの読解と、ＳＱへの答えの提出

【テキスト（教科書）】
適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】
『オリエンタリズム』（上）（下）、サイード、平凡社、1993 年。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　20 パーセント
・課題（ＳＱ）40 パーセント
・期末試験　40 パーセント

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書をできるだけ利用します。

GA207

中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）

曽　士才

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国文明は、多様な風土のなかでそれぞれ独自の歴史と文化を築いてきた諸民族と漢族との、古くからの交流によって形成されてきた。この授業では、民族の多様性を紹介するとともに、20 世紀以降、国家統合を進めるなか、各少数民族社会において生じた変化を通して、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、民族意識、民族文化の現状などを紹介する。

【到達目標】
「民族」をキーワードにして中国を読み解く力を養う。

【授業の進め方と方法】
前半の授業では、中国における民族集団とその文化の多様性について論じ、後半では、政治的統一性と文化的多様性との折り合いのつけ方に主眼を置いて論じる。授業の進め方は講義を主体とするが、テーマごとに映像資料を見る。また、回収したレスポンスシートに基づき、まとめの授業を行う。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	多民族国家中国を概観、授業および授業外学習の説明
第 2 回	民族文化の多様性（1）	森林地帯の狩猟民オロチョン族の伝統と現状
第 3 回	民族文化の多様性（2）	草原地帯の遊牧民モンゴル族の伝統と現状
第 4 回	民族文化の多様性（3）	シルクロードの民ウイグル族の伝統と現状
第 5 回	民族文化の多様性（4）	西南中国山の民イ族の伝統と現状
第 6 回	民族文化の多様性（5）	照葉樹林の民タイ族の伝統と現状
第 7 回	前半のまとめ	前半のまとめとレスポンシートへの応答
第 8 回	国家と民族（1）	進化論・人種観と民族政策
第 9 回	国家と民族（2）	メディアにおける民族表象
第 10 回	国家と民族（3）	民族エリートとエスニック・シンボル
第 11 回	国家と民族（4）	国民教育と民族教育
第 12 回	国家と民族（5）	観光文化と民族文化
第 13 回	チベット問題の読み方（1）	民族問題の分析の視点
第 14 回	チベット問題の読み方（2）	関係報道の読解のコツ
第 15 回	後半のまとめ	後半のまとめとレスポンシートへの応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は毎回の授業の終わりに出されるクイズに、授業支援システムを使って回答し、同時に授業で得た知見、感想、質問を記入し、提出する。なお、教員は次の回の授業でクイズの正解を公表するとともに、まとめの回の授業で、教員からもレスポンスがあります。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
末成道男・曽士才編『世界の先住民族―ファースト・ピープルズの現在　01 東アジア』明石書店 2005 年

【成績評価の方法と基準】
授業支援システムを使ったクイズへの回答（15 %）と期末に課すレポート（85 %）で成績評価を行う。レポート課題は事前に説明するが、評価の基準は主に授業内容の理解度である。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語によって周りの学生が迷惑を蒙らないように、円滑な授業運営に努めたい。

GA231

言語文化概論

衣笠　正晃

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**言語と社会**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：〇

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「ポスト構造主義」として総括される思想的潮流についてのテキストを主な材料に、言語（ことば）を手がかりとして文化、社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直すための理論・概念を学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】
1）テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、ポスト構造主義の思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
2）学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【授業の進め方と方法】
出席者がテキストおよび事前配布資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。授業形式は講義が中心となりますが、皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習の確認をおこなうとともに、リアクションペーパーのかたちで感想や質問を提出してもらいます。また復習を兼ねたミニレポートを課すことがあります。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説と履修意図の確認
2	差異の生き物としての人間（1）	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第 1 章）
3	差異の生き物としての人間（2）	バルトの記号学的分析（テキスト第 1 章）
4	まとめと補足（1）	19 世紀から 20 世紀への思想的転換と言語論
5	差異と文化（1）	バルトにおける「神話」（テキスト第 2 章）
6	差異と文化（2）	アルチュセールにおける「イデオロギー」（テキスト第 2 章）
7	まとめと補足（2）	構造主義とポスト構造主義――レヴィ＝ストロースをめぐって
8	差異と欲望（1）	フーコーの権力論（テキスト第 3 章）
9	差異と欲望（2）	ラカンと欲望の主体（テキスト第 3 章）
10	差異か真理か？（1）	デリダの「脱構築」と「差延」（テキスト第 4 章）
11	差異か真理か？（2）	文学・芸術からの考察（テキスト第 4 章）
12	ポスト構造主義の展開（1）	ジジェクによるデリダ批判（テキスト第 5 章）
13	ポスト構造主義の展開（2）	リオタールのポストモダニズム論（テキスト第 5 章）
14	まとめと補足（3）	学期授業内容の確認・総括
15	学期末試験	筆記試験（60 分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配布資料を授業までに精読し、予習課題を作成すること。また復習を兼ねてのミニレポートが課された場合は、期日までにまとめ、授業内に提出すること。

【テキスト（教科書）】
・キャサリン・ベルジー（著）『ポスト構造主義（〈1 冊でわかるシリーズ〉）』（岩波書店、初版 2003 年）本体価格 1,600 円
・上記テキスト以外にも随時プリントを配布します。

【参考書】
· Catherine Belsey, *Poststructuralism: A Very Short Introduction* (Oxford University Press, 2002)（テキストの原書）
・その他、授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %、リアクションペーパーなどの提出物を含む）と学期末試験（50 %）をあわせて評価します。
評価にあたっては以下の 4 点それぞれの達成度にもとづいて判断します。
1）テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
2）思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
3）現代の文化・社会についての自らの問題意識を具体的にもちえているか。
4）授業をつうじての学びを（口頭や文章で）主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・授業への学生のより積極的な取り組みを促すため、質問箇所の解説に加えて、予習ポイントの解説なども充実させたい。

【その他の重要事項】
・クラス規模に応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。
・配布資料として英語資料を用いることがあります。
・授業妨害行為（私語、携帯電話の使用、歩き回りなど）にはきわめて厳しく対処します。この点が理解できない人はこの授業を履修しないでください。

GA215

移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）

髙柳　俊男

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮民族のディアスポラ（離散）について考察する。
我々の暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大勢住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究成果や私自身の見聞をもとに講義する。
朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探求することを通して、移民現象や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるよう努めたい。

【到達目標】
・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。
・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ（離散）全体について考察する。
・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考える契機をつかむ。
・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴って考えられるようにする。

【授業の進め方と方法】
世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、可能ならゲストをお招きした授業も実施したい。
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけたい。
また、ネット上の授業支援システムを、もう 1 つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第 2 回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第 3 回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内の人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第 4 回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第 5 回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第 6 回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人（朝鮮系の人々）について、その概要を知る。とくに、スターリンによる 1937 年の強制移住について学ぶ。
第 7 回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。

第 8 回	在日韓国・朝鮮人①	私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
第 9 回	在日韓国・朝鮮人②	在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。
第 10 回	在日韓国・朝鮮人③	海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている 1959 年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
第 11 回	在日韓国・朝鮮人④	在日韓国・朝鮮人について、ここまで学んできた内容を映像視聴を通してまとめる。
第 12 回	在日韓国・朝鮮人⑤	在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代のアイデンティティについて考察する。
第 13 回	在米コリアン	在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに 1992 年のロス暴動に関して学ぶ。
第 14 回	海外養子問題	韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察する。
第 15 回	全体のまとめ	朝鮮民族のディアスポラについて、半年間の学習を総括するとともに、移民や多民族共生のあり方全般への考察を加えて最後のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを授業支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。

【テキスト（教科書）】

特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、Ａ３で表裏１枚のプリントを作成して配付する。

【参考書】

参考文献はそのつど指示するが、事典として『朝鮮を知る事典〔新版〕』（平凡社）、『岩波小辞典　現代韓国・朝鮮』（岩波書店）、『世界民族問題事典』（平凡社）、『世界民族事典』（弘文堂）、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』（丸善出版）などを適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢 40 %、授業支援システムを利用した中間での小課題 20 %、学期末のレポート 40 %を基準とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

過去のアンケートでは、「映像を使っていてわかりやすい」「ゲストを招いての対談がよかった」「学部の中でもすばらしい授業の一つ」、などの好評をいただいた。

今回も新たな授業改善に取り組みながら、そうした授業になるよう努力したい。

【その他の重要事項】

朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。

また、中華系や日系の移民を扱う「移民研究Ⅰ」「移民研究Ⅲ」（ともに隔年開講）も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。

GA208

アジアの伝統芸能

鈴木　靖

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国には「戯曲」と総称される 300 種あまりの伝統歌劇と「曲藝」と総称される 400 種ほどの語り物がある。こうした芸能を通じて、中国庶民の文芸世界を垣間見ようというのが本講義の目的である。中国の庶民が、どのような物語に笑い、怒り、涙したのかを、彼らの一番身近にあったメディアを通じて追体験していく。

授業では、できるだけ多くの映像資料を使い、中国の伝統芸能とそこから生まれた音楽や映画などの世界を体感していきたい。

【到達目標】

この授業を通じて、中国の伝統芸能の全体像とその代表的作品、技法などを体系的に理解することができる。また、それと併せて、映像資料を ICT を利用して効果的に活用し、表象文化を分析する手法を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

授業は、事前学習と講義を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に関連する資料を読み、出席カードに 400 字程度の意見や感想を記入してもらう。資料はｅポートフォリオを通じて pdf ファイルとして配布する。

・ｅポートフォリオＨＯＰＳ「アジアの伝統芸能」
https://epf.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=27

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに〜講義の目的と内容について	中国の伝統芸能を学ぶ目的と意義について考える
第 2 回	中国の伝統芸能とは	中国の伝統芸能にはどのようなものがあるのかを概観する
第 3 回	伝統芸能の美〜川劇「白蛇伝」を例に	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 4 回	川劇「白蛇伝」の世界（一）	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 5 回	川劇「白蛇伝」の世界（二）	川劇「白蛇伝」を例に、中国伝統演劇の作品や技法を学ぶ
第 6 回	白蛇故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「白蛇伝」の歴史的変遷について学ぶ
第 7 回	現代によみがえる伝統芸能〜「梁山泊と祝英台」を例に	中国の四大民間故事の一つである「梁山伯と祝英台」が、民間伝承から伝統芸能、西洋音楽、映画へ発展いく過程を学ぶ
第 8 回	映画「舞台姐妹」から見た中国の伝統演劇	中国の伝統演劇の一つである越劇の女優たちを描いた映画「舞台姐妹」を通じて、役者たちの近代への歩みを学ぶ
第 9 回	中国のロミオとジュリエット〜越劇「梁山泊と祝英台」の世界	越劇を通じて、中国のロミオとジュリエットと呼ばれる「梁山伯と祝英台」の物語を学ぶ（一）
第 10 回	中国のロミオとジュリエット〜越劇「梁山泊と祝英台」の世界	越劇を通じて、中国のロミオとジュリエットと呼ばれる「梁山伯と祝英台」の物語を学ぶ（二）
第 11 回	伝統演劇から西洋音楽へ〜バイオリン協奏曲「梁祝」	民族の交響曲と呼ばれる、越劇の旋律を主題として作曲されたバイオリン協奏曲「梁祝」の成立の過程を学ぶ
第 12 回	伝統演劇から現代のメディアへ〜映画「梁祝」	映画など現代のメディアが描く「梁山伯と祝英台」の世界を学ぶ

第 13 回	梁祝故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「梁山伯と祝英台」の歴史的変遷について学ぶ
第 14 回	中国伝統芸能の現在	中国伝統芸能の現状について考える
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にｅポートフォリオを通じて関連する資料を配布する。これを読み、出席カードに 400 字程度の意見や感想を記入してもらう。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・村松一弥『中国の音楽』（勁草書房、1965 年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のような基準で行う。
①毎回の授業で提出するレスポンス・シート（90 %）
②期末レポート（10 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
一昨年の開講の際、授業に使用するスライドを事前にアップしてほしいとの要望があったので、今年度からは授業前にｅポートフォリオＨＯＰＳ上にスライドの PDF をアップする予定である。

【学生が準備すべき機器他】
双方向性のある授業を実現するため、授業期間中はｅポートフォリオに事前学習の資料や授業で使用するスライドの PDF をアップする。質問や意見交換のためのフォーラムを開設するので、質問や感想などを積極的に書き込んでいただきたい。
・ｅポートフォリオＨＯＰＳ「アジアの伝統芸能」
https://epf.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=27

HA315

環境科学Ⅰ

藤倉　良

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**木 5**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
・上下水道の構造と処理のプロセス
・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
・土壌汚染（原因、対策技術）
・廃棄物（法律上の定義と現状）
・リサイクル（意義と現状）
・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は，原則として授業支援システムにアップします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その１（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第 3 回	大気汚染・その２（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その１（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その２（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第 14 回	基準の決め方（第 6 章）	環境基準と排出基準
第 15 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？　人間環境論集，第１６巻，第１号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】
期末試験のみで評価します（100 %）。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

【担当教員の関連する業績】
Tetsuo Kida and Ryo Fujikura (2015) Pollution Risks Accompanied with Economic Integration of ASEAN Countries and the Fragmentation of Production Processes, International Journal of Social Science Studies, Vol.3, No.5, DOI: 10.11114/ijsss.v3i5.915

【担当教員の関連する業績】
Ryo Fujikura (2011) Environmental Policy in Japan: Progress and Challenges after the Era of Industrial Pollution, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 303-308

【担当教員の関連する業績】
Ryo Fujikura (2011) The Influence of Local Governments on National Policy-Setting Processes to Regulate Japan's Vehicle Emissions, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5, pp. 309-324

【担当教員の関連する業績】
藤倉良 (2008) 大阪市における下水道による工場排水処理，寺尾忠能・大塚健司編，アジアにおける分権化と環境政策，研究双書 No.566，アジア経済研究所，173 － 202 頁

HA315

環境科学Ⅱ

藤倉　良

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：**土 1**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・人口増加のパターンと要因
・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
・気候変動をめぐる社会
・越境大気汚染の原因と対策
・中国の資源と環境
・環境国際協力

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は，原則として授業支援システムにアップします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第 2 回	オゾン層・その１（第７章）	紫外線、フロンガス
第 3 回	オゾン層・その２（第７章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第 4 回	気候変動・その１（第８章）	ＩＰＣＣ、二酸化炭素の温室効果
第 5 回	気候変動・その２（第８章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響、国際交渉
第 6 回	気候変動・その３（第８章）	京都議定書、京都メカニズム
第 7 回	気候変動・その４（第８章）	緩和策
第 8 回	気候変動・その５（第８章）	適応策
第 9 回	越境大気汚染（第９章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第 10 回	中国の環境と資源・その１（第１１章）	人口，食料と水資源
第 11 回	中国の環境と資源・その２（第１１章）	エネルギー、公害、政策
第 12 回	環境の評価（第１２章）	環境アセスメント、ＬＣＡ、環境ラベル
第 13 回	環境と貿易	貿易は環境に悪影響を及ぼすか？ＧＡＴＴ、ＷＴＯ
第 14 回	国際環境協力	開発援助の環境配慮、環境ＯＤＡ
第 15 回	まとめ	全体のとりまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験のみで評価します（100 %）。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

【担当教員の関連する業績】
Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford

【担当教員の関連する業績】
澤津直也、藤倉良 (2015) 大気汚染指数からみた中国の大気汚染の状況と評価のあり方に関する一考察、公共政策志林、第３号、155 － 161 頁

【担当教員の関連する業績】
Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London

【担当教員の関連する業績】
Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development － Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

HA315

環境科学Ⅲ

藤倉　良

カテゴリ：**政策** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期** ｜ 曜日・時限：**土 1**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。
・資源の意味
・淡水
・エネルギー
・土壌とリン、窒素
・遺伝資源
・ベースメタルとレアアース

【授業の進め方と方法】
パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は，原則として授業支援システムにアップします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第 2 回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第 3 回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第 4 回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第 5 回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第 6 回	エネルギー（3）	石炭、水力
第 7 回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第 8 回	土壌（1）	土壌の構造
第 9 回	土壌（2）	土壌の機能
第 10 回	リンと窒素	循環、機能、存在
第 11 回	遺伝資源	遺伝子の多様性、名古屋議定書
第 12 回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第 13 回	金属（2）	レアアース、レアメタル
第 14 回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第 15 回	まとめ	今後の資源利用のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布するレジュメを使って復習してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第 15 巻第 2 号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】
期末試験のみで評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

【担当教員の関連する業績】
Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford

【担当教員の関連する業績】
Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Guest Editor)(2013) Special Issue: Livelihood Rehabilitation of Involuntarily Resettled People by Dam Construction Projects: Cases in Asia, International Journal of Water Resources Development, Vol. 29, No. 1, March 2013

【担当教員の関連する業績】
Mikiyasu Nakayama and Ryo Fujikura (Guest Editor) (2009) Theme Issue: Dams and Resettlement － Asian Experiences and Insights, International Journal of Water Resources Development, Vol. 25, No.3, September 2009

HA316

自然環境政策論Ⅰ

高田　雅之

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
②人間による影響を減らすために取り組まれてきた主な保全対策

【授業の進め方と方法】
「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「科学的調査に基づく保全管理」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 4 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 5 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 6 回	貴重種の保護	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 7 回	外来種問題	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 8 回	日本の自然環境保全政策(1)	自然公園、自然環境保全地域、狩猟制度と鳥獣保護区
第 9 回	日本の自然環境保全政策(2)	種の保護法、鳥類や海獣に関する事例
第 10 回	日本の自然環境保全政策(3)	林業・河川管理・水産業と自然環境保全
第 11 回	日本の自然環境保全政策(4)	野生生物の保護管理、シカとサルの事例
第 12 回	里山問題	里山の特徴、なぜ生物は多様か、里山の変貌
第 13 回	生物多様性	生物多様性とは、生物多様性からの恵み、劣化損失の危機と保全
第 14 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、エコアップ、日本や諸外国における自然再生事例
第 15 回	開発と保全	大規模開発事業を事例とした自然環境保全のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。
旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

HA316

自然環境政策論Ⅱ

高田　雅之

カテゴリ：**政策**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金 2**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的な取り組みの考え方とその実際
②諸外国における取組みの事例とその仕組み、並びに国際条約による保全

【授業の進め方と方法】
「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第 2 回	日本人と自然	日本における動物・水・森林と人との関わり
第 3 回	環境影響評価 (1)	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第 4 回	環境影響評価 (2)	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第 5 回	計画・指針による自然環境保全	生態学と環境計画、環境管理計画・環境基本計画、自然環境保全指針
第 6 回	法によらない保全メカニズム	土地のもつ社会性、NPO による取組事例、協定等の自発的手法
第 7 回	海外の自然環境政策に学ぶ (1)	フランスの地方自然公園とエコミュゼ
第 8 回	海外の自然環境政策に学ぶ (2)	イギリスのナショナルトラスト、シビックトラスト、グラウンドワーク
第 9 回	海外の自然環境政策に学ぶ (3)	欧州農業環境政策、マネージメントアグリーメント、環境支払い、ドイツのビオトープ
第 10 回	国際的な取り組み (1)	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第 11 回	国際的な取り組み (2)	ワシントン条約と象牙問題の事例
第 12 回	国際的な取り組み (3)	世界農業遺産、ジオパーク
第 13 回	国際的な取り組み (4)	その他の国際的な取り組み
第 14 回	観光と自然環境保全	エコツーリズム、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光
第 15 回	地域自然資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例、野生生物を生かした取組事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

多文化社会論Ⅰ　2014 年度以降入学生

多文化社会論Ⅰ　2012〜2013 年度入学生

文化の伝承と交流Ａ　2009〜2011 年度入学生

小田　昌教

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に必要不可欠な「グローバル・マインドセット」や「ビジネススキル」といわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら 21 世紀の現在でもなお、多くの社会では異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、それが大きな社会問題になっているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられますが、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きるための大切なスキルです。

【到達目標】
この授業では「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい知識として「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【授業の進め方と方法】
この授業は４つのパートに分かれています。
【A：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇】
最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。
【B：さまざまな視点からみた日本の文化】
このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。
【C：レイシズムの過去と現在】
異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。
【D：「文化相対主義」と「多文化共生」〜多文化社会のいまと未来】
多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れを、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています (第一学習社「高等学校 倫理」)。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きること」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・ファーガソン、ボルティモアの悲劇 (2014-5 年) ・チャールストン銃乱射事件 (2015 年) ・ＩＳによるテロ事件 (2015 年) ・スターバックス「人種問題キャンペーン」(2014 年) ・全日空「羽田国際線大増便ＣＭ」(2014 年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件 (2014 年) ・在特会ヘイトスピーチ・デモ (2013-6 年)

2	Ａ－１：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇１　映画のなかのニッポン文化	・映画「チート」(1917 年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961 年) ・映画「００７は二度死ぬ」(1961 年) ・映画「東京画」(1985 年) ・映画「ブラックレイン」(1989 年) ・映画「ミスターベースボール」(1992 年) ・映画「ロストイントランスレーション」(2003 年) ・映画「キルビル」(2003 年)
3	Ａ－２：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇２	海外のＴＶＣＭやＭＶに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ
4	Ａ－３：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇３	プロパガンダアニメとＳＦ映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ポパイ～ばかなジャップ」(1942 年)」 ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ～トキオ、ジョキオ」(1943 年) ・ＮＨＫ「憎しみはこうして激化した～戦争とプロパガンダ」(2015 年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド＆コンカー レッドアラート３」(2008 年) ・ジェームズ・マンゴールド「ウルヴァリン ＳＡＭＵＲＡＩ」(2013 年)
5	Ｂ－１：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神	・マシオカ「ＨＥＲＯＥＳ」(2006 年) ・小島淳二「日本の形」(2006 年) ・田中健一「ジャパン　ストレンジな国」(2010 年) ・村上春樹「カタルーニャ文学賞受賞記念スピーチ」(2011 年) ・ジョージ・タケイ「ＧＡＭＡＮ」(2011 年)
6	Ｂ－２：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」	・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003 年) ・日本オリンピック委員会「ＩＯＣ総会プレゼンテーション」(2013 年) ・きゃりーぱみゅぱみゅ「にんじゃりばんばん」(2013 年) ・日清食品「ＳＡＭＵＲＡＩ」(2014 年)
7	Ｂ－３：インバウンドの視点から見た日本の文化	・地味「外国人が日本に来て撮った wktk 動画集」(2008 年) ・sknb「スーベニアオブジャパン」(2012 年) ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014 年) ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013 年)
8	Ｂ－４：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化	・ペトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010 年) ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015 年)
9	Ｃ－１：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム	・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007 年) ・マイケル・ブラウン射殺事件(2014 年) ・フレディ・グレイ死亡事件 (2015 年) ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件 (2015 年) ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言 (2015 年)
10	Ｃ－２：人種差別の起源とその歴史	・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951 年) ・山口敏「『人種』は虚構か」 ・ベルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013 年) ・世界人権宣言ポルトガル事務局「世界人権宣言 50 周年記念ＣＭ」 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008 年) ・映画「アミスタッド」(1997 年) ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004 年) ・映画「リンカーン」(2012 年) ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012 年) ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013 年) ・映画「グローリー　明日への行進」(2014 年)
11	Ｃ－３：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう	・日本テレビ「21 世紀への伝言　キング牧師」(2000 年) ・ＰＢＳ制作「分断されたクラス」(1985 年) ・ＡＢＣ制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003 年-)
12	Ｃ－４：日本のヘイトスピーチ	・ＮＨＫ「在日韓国人に対するヘイトスピーチ」(2013 年) ・ＴＢＳ「ヘイトスピーチはいま」(2015 年) ・ＮＨＫ「ヘイトスピーチを問う～戦後 70 年　いま何が」(2015 年) ・安田浩一『ネットと愛国　在特会の「闇」を追いかけて』(2012 年) ・安田浩一『ヘイトスピーチ　愛国者たちの憎悪と暴力』(2015 年) ・秋山理央『アンティファ　ヘイト・スピーチとの闘い　路上の記録』(2015 年)
13	Ｄ－１：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況	・映画「スワロウテイル」(1996 年) ・映画「サウダーヂ」(2011 年) ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーフじゃないんだ」(2012 年) ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013 年) ・リンダⅢ世「愛犬アンソニー」(2013 年) ・ポンジュノ「シェイキング東京」(2008 年)
14	Ｄ－２：「ＨＡＦＵ」の視点から見た日本の多文化状況とその未来	映画「ＨＡＦＵ」(2013 年)
15	Ｄ－３：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神	・ヒリス＆ブル研究所「生命の樹」(2005 年) ・マテル社「バービー」 ・アップル社「フェイスアイコン」 ・ティボール・カルマン「ＣＯＬＯＲＳ」 ・アシュラ・Ｋ・ルグイン「ゲド戦記を観て」 ・マックルモア＆ライアン・ルイス「セイムラヴ」(2013 年) ・文部省「民主主義」(1947 年)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本では「スーパープレゼンテーション」(NHK 教育テレビ) という番組名で放映されている「ＴＥＤトーク」は、みんなでシェアする価値のあるアイデアを世界にひろめ、それを学ぶことのできる動画学習サイトです。すでに 2000 を超えるコンテンツがあり、さまざまなジャンルの専門家たちの興味深い話を無料で視聴することができます。日本語版サイト (http://www.ted.com/talks?language=ja) もあり、そこには多文化社会に関するコンテンツもありますので、リストアップしました。授業時間外の準備学習・復習ならびにアクティヴ・ラーニングのための教材として積極的に視聴してください。（※ Google で 下記のタイトルを検索すれば簡単に見つかります）

・ヤズミン・アブデルマジッド
「最初の認識をスルーすること、それはまちがっているから」
・チママンダ・アディーチェ
「シングルストーリーの危険性」
・バサーム・タリク
「多様で美しい、ムスリムとしての生き方」
・アナンド・ギリダラダス
「２つのアメリカの物語と、衝突の現場になったコンビニ」
・デーヴ・トロイ「人種はなにも決定しない、ソーシャルマップが街に住む人々の往来と、さらに分離を描き出す」
・リッチ・ベンジャミン
「アメリカで最も白人主義的な町々に突入」

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。授業ごとに、プリントを配布します。

【参考書】

参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施するアクティヴ・ラーニング方式のテストで評価します。テストの方法については、最初の授業でくわしく説明します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】
この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見ることがあまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館やレンタルショップ、YouYube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。また授業で映像を見ているときは、映画館と同じく、まわりの人たちの学習のさまたげにならないよう、私語や携帯電話、スマートフォンなどの使用はひかえてください。ただし、授業中に今すぐネットで検索したいことや、メモしておきたいことがあるときだけは、使用してもかまいません。

アート・マネジメント論　2014 年度以降入学生
アート・マネジメント論　2012～2013 年度入学生
社会とアートⅠ　2009～2011 年度入学生

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアート的な要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】
わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々とを「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【授業の進め方と方法】
各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、アートとはなにか、わたしたちの生活や仕事にどのように活かしていくことができるのか、といったことを探ります。受け身の講義に終始せず、学生自身の発想や経験に基づくプレゼンテーションの機会を設け、ディスカッションを通じて理解と考察を深めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	学問領域としてのアート	アートに関する研究領域について概説する。
第 3 回	「美」とは何か①	古来、人々が「美」をめぐってどのような探究を行ってきたのかを概観する。
第 4 回	「美」とは何か②	近代以降の「美」の概念の変化について論じる。
第 5 回	「アート」の誕生	西洋近代にアート（芸術）という領域が成立した背景を探る。
第 6 回	「アート」の制度化	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	「アート」の伝播	明治以降の日本にアートが導入された経緯をたどる。
第 8 回	「アート」の変容①	1960 年代頃を境にアートが大きく変化していく経緯をたどる。
第 9 回	「アート」の変容②	20 世紀の末以来、アートという領域が著しく拡大した背景を探る。
第 10 回	生活のなかのアート	わたしたちの暮らしにアートがどのように関わっているのかを考える。
第 11 回	地域とアート	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 12 回	企業とアート	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを探る。
第 13 回	アートを支える人材の育成①	学生によるプレゼンテーション
第 14 回	アートを支える人材の育成②	学生によるプレゼンテーション
第 15 回	まとめと振り返り	授業を通じて得られた知見を整理し、今後のアートのあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行うことが求められます（その際、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中にほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】
徳丸吉彦・利光功『芸術文化政策Ⅰ　社会における人間と芸術』日本放送出版協会
川崎賢一・佐々木雅幸・河島伸子『アーツ・マネジメント』日本放送出版協会
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの参加など）：50 %
期末試験（論述式）：50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生によるプレゼンテーション／ディスカッションの時間を十分取るよう心がけます。

【授業中に求められる学習活動】
A, B, C, D, E, F, G, H,

NA258

サステイナブルデザイン

出口　清孝

開講時期：**秋学期後半**　｜　選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び，サステイナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキュラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し，自然エネルギーを利用した建築の実際について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】
環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身につけ，自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	20%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習とを交互に交えて進める。講義は，様々な気候に応じたヴァナキュラー建築とその環境工学的特徴について，写真と図によって紹介するもので，演習は，その環境工学的手法に関する具体的な効果を考える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
１回	自然エネルギーの利用 風を取り入れて住むヴァナキュラー	自然エネルギー利用手法 沖縄名護市庁舎の自然通風，砂漠地域の採風塔，シュツットガルトの風の道と東京湾岸の計画
２回	開口前後差圧と換気量	沖縄名護市庁舎の自然通風，砂漠地域の採風塔，シュツットガルトの風の道と東京湾岸の計画
３回	地下に住むヴァナキュラー	中国のヤオトン・チュニジア マトマタの穴居住居・カッパドキア・サントリーニ
４回	地下の恒温性を応用する	クールチューブ・アースチューブ
５回	厚い日干し煉瓦造に住むヴァナキュラー	モロッコ カスバ
６回	壁の伝熱	熱貫流・熱伝達・熱伝導
７回	水に親しむヴァナキュラー	砂漠のオアシス，マレーシアの水上住宅
８回	高床に住むヴァナキュラー	インドネシアのトババタック族の高床式住居，タイの高床式住居
９回	移動しながら住まうヴァナバナキュラー	モンゴルの遊牧民住居ゲル
１０回	寒帯に住むヴァナキュラー	エスキモー族のイグルー・モンゴルゲルの冬期環境
１１回	夏と冬に調和して住まうヴァナキュラー	韓国の伝統的民家のオンドルとマル
１２回	総復習	中間試験
１３回	太陽光発電	発電の原理，発電容量
１４回	風力エネルギー	風力発電の原理，風力エネルギー
１５回	樹木（緑）の効果	壁面緑化・樹木・緑化の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，講義に関する資料を事前にＷｅｂにアップする。

【参考書】
『理科年表』（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習を３０％，試験を７０％として総合して評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

NB358

建築フォーラム

渡邉　眞理、下吹越　武人、赤松　佳珠子、北山　恒

開講時期：**秋学期**　｜　選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築という領域の中ではさまざまな実践がなされている。
建築フォーラムでは毎回異なる講師に建築の最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルな建築を実感してもらうことが目標である。
構造分野の最先端の問題は何か？
世界の中で建築家という制度はどのように定められているのか？
ひとつの建築を完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
住まいとその設計との間のギャップとは？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは建築という分野のパースペクティブを形成するのには貢献するだろうし、さらに重要なのは自分が共感できる分野にめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう
以上の技術を身につける。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	○					◎

【授業の進め方と方法】
この授業は講演会形式で行なわれる。開講時間も夕方からとし、大学外に開放された公開講座の形式をとっている。ただし、受講生には、単に受身に講演会に出席するだけではなく、講演会の聞き方を学ぶこと、講演内容を把握し、講演者に適切な質問を行なえるようになるだけでなく、毎週のレポートを通じて、講演の記録を短時間で的確に文章化する技術を身につけられるという訓練の場でもある。建築のさまざまな分野の第一線で活躍している講師のパワーを感じるだけでも役に立ったという意見もよく聞くところだ。毎回、講演会および質疑がおよそ 90 分あり、講演会のレポート作成にも 90 分以上はかかると想定されるので授業回数は 8 回程度としてある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講師の説明を行なう。
2	講演１ 講師および演題は建築フォーラムのポスターに掲示される	講師および演題は毎年異なるので、ＣＤ期開始時に学内に掲示される建築フォーラムのポスターを参照してほしい。
3	講演２	講師および演題は毎年異なるので、ＣＤ期開始時に学内に掲示される建築フォーラムのポスターを参照してほしい。
4	講演３	講師および演題は毎年異なるので、ＣＤ期開始時に学内に掲示される建築フォーラムのポスターを参照してほしい。
5	講演４	講師および演題は毎年異なるので、ＣＤ期開始時に学内に掲示される建築フォーラムのポスターを参照してほしい。
6	講演５	講師および演題は毎年異なるので、ＣＤ期開始時に学内に掲示される建築フォーラムのポスターを参照してほしい。
7	講演６	講師および演題は毎年異なるので、ＣＤ期開始時に学内に掲示される建築フォーラムのポスターを参照してほしい。
8	講演７	講師および演題は毎年異なるので、ＣＤ期開始時に学内に掲示される建築フォーラムのポスターを参照してほしい。
9	講演８	講師および演題は毎年異なるので、ＣＤ期開始時に学内に掲示される建築フォーラムのポスターを参照してほしい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容をまとめ、レポートで授業支援システムに提出する。ワード文書の作成の基本をよく理解すること。レポートには適切な題名をつけること。引用であることを明示してあればレポート文中に他の文献などから引用することは無論 OK だが、ブログなどのインターネットからの不用意な「コピペ」は盗用となり、単位不認定となる場合があるので注意すること。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
授業参加とレポート内容による。フォーラム最後に行なわれる質問タイムの質疑（指名および自由）も評価に加点される。7 回のレポートをきちんと書くことが基本である。成績評価はレポートおよび質疑による授業参加による。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
建築フォーラムはオムニバス形式の授業であるが、毎年明確なテーマを持って実行することで、建築または都市にかかる、あるひとつ局面を審らかにするように改善した。ちなみに 2014 年度は「東京と住宅」という共通テーマで、東京という大都市とその中の住まいを取り巻く問題について考えた。
質問タイムを確保し、履修生だけでなく一般参加者からも質疑を受けられるようにした。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
建築学科所属の学生は授業レポートを授業支援システムのほかＩＡＥサーバーに提出することで、個人の e ポートフォリオ作成および Slideshare への開示が可能となる。詳しくは以下のＩＡＥサーバーのＵＲＬで確認のこと。https://iae.hosei.ac.jp/

NA258

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**秋学期後半**　｜　選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	○	◎				

【授業の進め方と方法】
第 1 回から第 6 回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第 7 回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化として ADOBE イラストレーターの使い方を学ぶ。第 10 回以降に 1 回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第 11 回、第 12 回には貸与 PC を持参すること。他学部の学生については PC を貸し出す予定としている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その 1 創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その 2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その 3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その 4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その 1 都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その 2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その 3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その 4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その 1〜4 で描いたスケッチのいずれかを PC を用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	イラストレーターを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC 上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。
15	まとめ	都市デザインの手法、作法などをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、エチュードにアップされる。前回分をエチュードよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト (50 %) 並びに作図課題 (50 %) による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

LA233

中国の民族と文化

齋藤　勝

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践
漢文読解を通じ、漢民族の文化を理解する。

【到達目標】
春学期は大学受験レベルの漢文の基礎知識を習得する。
秋学期は春学期で習得した知識を用いて様々な内容・レベルの漢文を読み、漢民族の文化への理解を深める。

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解、秋学期には長い文章の読解を行っていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	概要	授業の進め方、テキスト、漢和辞典について
第２回	句法の習得 (1)	文型、置き字
第３回	句法の習得 (2)	返読文字、再読文字
第４回	句法の習得 (3)	否定・可能
第５回	句法の習得 (4)	二重否定・部分否定
第６回	句法の習得 (5)	使役
第７回	句法の習得 (6)	受身
第８回	句法の習得 (7)	疑問
第９回	句法の習得 (8)	反語
第 10 回	句法の習得 (9)	詠嘆・抑揚
第 11 回	句法の習得 (10)	限定・累加
第 12 回	句法の習得 (11)	願望・仮定・倒置
第 13 回	文章問題 (1)	復習を兼ねた文章の読解
第 14 回	文章問題 (2)	復習を兼ねた文章の読解
第 15 回	文章問題 (3)	復習を兼ねた文章の読解
第 16 回	古典を読む	『孟子』(1)
第 17 回	古典を読む	『孟子』(2)
第 18 回	古典を読む	『荀子』(1)
第 19 回	古典を読む	『荀子』(2)
第 20 回	古典を読む	『論語』(1)
第 21 回	古典を読む	『論語』(2)
第 22 回	古典を読む	『韓非子』(1)
第 23 回	古典を読む	『韓非子』(2)
第 24 回	古典を読む	『史記』(1)
第 25 回	古典を読む	『史記』(2)
第 26 回	古典を読む	『史記』(3)
第 27 回	古典を読む	『貞観政要』(1)
第 28 回	古典を読む	『貞観政要』(2)
第 29 回	古典を読む	韓愈「原道」「論仏骨表」
第 30 回	古典を読む	顧炎武『日知録』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。夏休みには課題を課す予定です。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z 会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %、春学期末試験 10 %、秋学期末試験 30 %
平常点は予習復習の成果と漢文の読解力、試験は漢文の読解力のみで評価します。特に秋学期は白文（返り点、送り仮名、句読点の無い文）の読解の出来で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講読する漢文の量を増やしていければと思います。

LA232

異文化コミュニケーション論

山本　そのこ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世間では「グローバル化」「国際化」が進む現代に生きる者にとって、異文化との接触は身近かつ無視できない問題であるとされる。また、特定の外国語の習得が必須だと語られたりもする。その一方、ここ数年来、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化し、世界的に無視できない問題となってもいる。
しかし、そもそも「文化」とは何なのか。「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのか。
この授業では、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から異文化との付き合い方を考える。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論など）を得る。

【授業の進め方と方法】
春・秋学期、それぞれの指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。

毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
春学期 1	・オリエンテーション ・『日本語教のすすめ』	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入
	日本語は誤解されている①	・日本語ってどんな言語：日本語の実像を考える
2	日本語は誤解されている②	・漢字の読みはなぜややこしいのか：日本語の漢字使用について ・プレゼンテーションの割り当て
3	日本語は誤解されている③	ラジオ型言語とテレビ型言語 (1) ：文字言語としての日本語と他言語との比較
4	日本語は誤解されている④	ラジオ型言語とテレビ型言語 (2) ：音声言語としての日本語と他言語との比較 （内容についての報告発表と検討：以下 14 回まで同様）
5	『日本語教のすすめ』言語が違えば文化も変わる①	虹にはいくつの色があるのか。太陽は世界のどこでも赤いのか。 －文化によって異なる色彩認識について
6	『日本語教のすすめ』言語が違えば文化も変わる②	蛾と蝶が同じである理由 －カテゴリー分類の差異
7	言語が違えば文化も変わる③	文化によって異なる羞恥心
8	『日本語教のすすめ』言葉に秘められた奥深い世界	・天狗の鼻は「長い」でなく「高い」・形容詞の中身はなに？ －形容詞のかくれた基準 ・江戸時代、「日本酒」はなかった －有標性と無標性
9	『日本語教のすすめ』日本語に人称代名詞は存在しない①	身内の呼び方の方程式・日本語の人称代名詞を巡る問題
10	日本語に人称代名詞は存在しない②	指示語と自己中心語のしくみ・「人称」の本質は何か
11	『日本語教のすすめ』日本語に対する考えを改めよう	日本語に対する認識・各国の言語政策など
12	異文化接触の実情 (1)	欧米を中心に
13	異文化接触の実情 (2)	東西アジアを中心に
14	異文化接触の実情 (3)	日本を中心に
15	・期末試験	・『日本語教のすすめ』その他、春学期の授業内容についての試験
秋学期 1	・異文化間コミュニケーションとは	異文化コミュニケーションの背景とその領域 ・秋学期の発表の割り当て
2	自分を知る	対立管理スタイルと異文化適応力

3	ステレオタイプと偏見	ステレオタイプの功罪、真偽など（学生発表および質疑応答等。以下第9回を除き14回目まで同様）
4	コミュニケーション・スタイル①	コンテキスト、自己開示
5	コミュニケーション・スタイル②	パラ言語・ターンテーキング
6	言語コミュニケーション①	ほめ方、しかり方、謝り方の比較
7	言語コミュニケーション②	自己紹介、誘い方と断り方
8	バイリンガリズム／マルチリンガリズム	多言語使用と思考について
9	異文化シミュレーション	疑似異文化体験
10	非言語コミュニケーション①	表情、アイコンタクト
11	非言語コミュニケーション②	しぐさとジェスチャー、タッチング
12	非言語コミュニケーション③	空間と対人距離、時間感覚
13	価値観	ことわざ、家族関係、道徳観など基本的価値観
14	異文化間コミュニケーション・スキル	エポケー、エンパシー、アサーティブ・コミュニケーション
15	学年末試験	授業（主に秋学期）での学習内容について、試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
·「プレゼンテーション」の期間（春学期：第5～14回、秋学期：第3～8回・第10～14回）は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備。
·「自由討論」前は、テーマの設定、およびそのテーマに関する情報収集など。夏休み期間に指定図書に目を通すこと。

【テキスト（教科書）】
鈴木孝夫（2009）『日本語教のすすめ』新潮新書　740円
八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】
春学期：
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
G. ドイッチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
秋学期：
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子　E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子　他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏　他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール　『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業参加度３０％
発　　表　３０％
期末試験　４０％
★各学期、欠席４回以上で履修資格を失うので注意すること。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
相変わらず、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も、昨年度同様、あるいはそれ以上に履修者のの積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【その他の重要事項】
受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜をします。

LA235

比較民俗学

川村　湊

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**水・4**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジアを中心とする比較民俗学を講義する。具体的には、日本、韓国、中国、ベトナム、東南アジア、インド等をフィールドとする。民間信仰、民衆文化、民俗事象の調査、分析を行い、それぞれのジャンルにおいて比較し、影響関係等を考える。

【到達目標】
アジアの民俗世界を理解し、自国文化と異文化の違い、共通性について理解する。民族的現象について興味を持ち、日常的な生活のなかから、自国文化と文化の理解を深める。

【授業の進め方と方法】
ビデオ等の映像教材を使い、ビジュアルな素材によって、異文化の理解を進める。講義によって、文献的資料、文字文化の素材も活用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	民俗学入門	民俗学の研究範囲、歴史、他の学問との違いを考える。
第二回	民俗学概論	柳田民俗学、南方民俗学、折口民俗学、宮本民俗学の特質を討究する。
第三回	日本の民俗現象１	日本の民間信仰を取り上げる。
第四回	日本の民俗現象２	日本の民間芸能を取り上げる。
第五回	朝鮮の民俗現象１	朝鮮の民間信仰を取り上げる。ムーダニズム。
第六回	朝鮮の民俗現象２	朝鮮の民間芸能を取り上げる。
第七回	朝鮮の民俗現象３	朝鮮の民俗学の展開をたどる。
第八回	中国の民俗現象１	中国の民間信仰の実態を探る。
第九回	中国の民俗現象２	中国の民間芸能を散策する。
第十回	中国の民俗現象３	中国の民間芸術を鑑賞する。年画、吉祥画等。
第十一回	中国の民俗現象４	中国のイスラム文化を調べる。
第十二回	中国の民俗現象５	チベット族の文化と歴史。
第十三回	モンゴルの民俗現象１	モンゴルの生活文化を調べる。
第十四回	モンゴルの民俗現象２	モンゴルの民間信仰を討究する。
第十五回	春学期のまとめ	日本、朝鮮、中国、モンゴルの民俗現象のまとめを行う。
第十六回	ベトナムの民俗現象１	ベトナムの民間信仰を討究する。
第十七回	ベトナムの民俗現象２	ベトナムの仏教、新興宗教を調査、分析する。
第十八回	東南アジアの民俗現象１	カンボジア、インドネシア、タイの影絵、人形劇をの分析する。
第十九回	東南アジアの民俗現象２	ラオス、ビルマの民俗現象を分析する。
第二十回	インドの民俗現象１	ヒンズー教の世界を討究する。
第二十一回	インドの民俗現象２	インドの民間芸術の世界を眺める。
第二十二回	アジアの百戯の世界	百戯、大道芸、サーカス芸を探究する。
第二十三回	アジアの民衆絵画	中国の年画、朝鮮の民画、日本の浮世絵を比較検鏡する。
第二十四回	アジアの民衆劇	中国の京劇、日本の歌舞伎、ベトナムの嘲劇を比較する。
第二十五回	アジアの人形劇	中国の皮影絵、朝鮮のコクトガクシ、ベトナムの人形劇、日本の文楽を比較する。
第二十六回	アジアの現代民衆文化１	アジア各国の現代民衆文化を概観する。
第二十七回	アジアの現代民衆文化２	アジアにおける韓流、日流などの文化の相互影響を見る。
第二十八回	補遺と追加	これまで調べ残した民衆民俗について、おさらいをする。
第二十九回	まとめ	こりまでの授業内容をまとめ、レポート製作を準備する。
第三十回	レポート製作	これまでの研究をまとめ、レポートを製作する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らテーマを決めて、フィールドワークを行う。民俗学の古典的著作、たとえば柳田国男の『遠野物語』などを必読書とする。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに適宜、指示する。授業開始以前に、必読のテキスト・リストを指示する。

【参考書】
上記、テキストに準じて、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内発表。期末ごとのレポートを課し、成績基準とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ、ビデオ、スライド等を使用する。

LA227

総合講座－沖縄を考える－

中俣　均

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**金・4**
履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史的・文化的に異邦と言ってもよい沖縄を，日本（ヤマト）国民はどのように考えればよいのか。まず、かつての異邦としての沖縄の、歴史と実態を知ることが先決である。そして、沖縄との関わりを知ることで見えてくる日本の姿を考えなければならない。だから、沖縄を知ることは、実はそれだけにとどまらず、日本を知ることにつながるのである。本総合講座においては、かつての琉球王国の最大版図である奄美諸島から与那国島・波照間島までを「沖縄」地域にふくめて、考察する。

【到達目標】
毎回、授業内容に対する感想文（ミニ・レポート）を書き、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化の在り方について相対化して考える能力を身につける。

【授業の進め方と方法】
歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。時には舞踊、音楽の実演も行う。一般の社会人も参加する講義である。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから研究所 HPhttp://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/framemain.html で公開するので、そちらを参照してほしい。
今年度は、「沖縄の日本復帰の意味」という問題意識を共有する講義を複数準備する。「沖縄独立論」などについても関心をもって学習してほしい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：中俣均）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についての地理的知識など。
2	沖縄を知るための基礎知識のまとめ（担当：宮平真弥）	沖縄の歴史と現代についての概説
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
１０	未定	未定
１１	未定	未定
１２	未定	未定
１３	未定	未定
１４	未定	未定
１５	未定	未定
１６	未定	未定
１７	未定	未定
１８	未定	未定
１９	未定	未定
２０	未定	未定
２１	未定	未定
２２	未定	未定
２３	未定	未定
２４	未定	未定
２５	未定	未定
２６	未定	未定
２７	未定	未定
２８	未定	未定
２９	未定	未定
３０	未定	未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．毎回ミニ・レポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講師と講義テーマについて調べておくことが望ましい。
２．図書館、沖縄文化研究所開架閲覧室等を利用して、沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
指定せず。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
春、秋学期の各学期末レポートと、毎回のミニ・レポートとで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマで、みずから文献を読み理解を深めて書いたものを評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント等

【その他の重要事項】
大教室での大人数の講義であるためか、例年一部学生の、緊張感のない受講態度が目につく。形式的にレポートを書き提出しさえすれば単位取得がかなうと甘く考えてもらっては困る。そうした希望は年度末に打ち砕かれることになろう。

LA330

比較文化Ⅰ

D．ハイデンライヒ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Das Parfum『香水―― ある人殺しの物語』と映画（Ⅰ）
世界中でベストセラーになったパトリック・ジュースキントの小説『香水―― ある人殺しの物語』を出発点として、同名映画といろいろの国の ***Foodfilm*** を比較しながら、嗅覚・食文化と社会、感覚性と文芸描写などというアクチュアルなテーマで文化の共通点と違いを浮き彫りにする。

【到達目標】
◦ 異文化理解能力を高める。
◦ 映画と文化について語れるようになること。
◦ 作品を批評的に読み解き、分析できる理論的な思考を身につけること。

【授業の進め方と方法】
できるだけ短いシーンを選んで分析し、鑑賞後は、ディスカッションまたは課題の提出を求めることもあります。あらかじめ読んでおいたテキストの該当箇所を読みながら進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
②	『パフューム』と嗅覚文化 (1)	映画と原作との比較 (1)
③	『パフューム』と嗅覚文化 (2)	課題、ディスカッション
④	『パフューム』と嗅覚文化 (3)	映画と原作との比較 (2)
⑤	『パフューム』と嗅覚文化 (4)	課題、ディスカッション
⑥	『パフューム』と嗅覚文化 (5)	映画と原作との比較 (3)
⑦	『パフューム』と嗅覚文化 (6)	課題、ディスカッション
⑧	ヨーロッパ映画から見る嗅覚・食文化 (1)	T. ブルメティス『タッチ・オブ・スパイス』との比較
⑨	ヨーロッパ映画から見る嗅覚・食文化 (2)	課題、ディスカッション
⑩	ヨーロッパ映画から見る嗅覚・食文化 (3)	G. アクセル『バベットの晩餐会』との比較
⑪	ヨーロッパ映画から見る嗅覚・食文化 (4)	課題、ディスカッション
⑫	日本映画から見る食文化 (1)	伊丹十三『タンポポ』との比較
⑬	日本映画から見る食文化 (2)	課題、ディスカッション
⑭	授業内試験	筆記試験を行う
⑮	総括	試験結果のフィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翻訳本 (指定テキスト) を各自で購入し、授業の前に該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
パトリック・ジュースキント（池内紀訳）：『香水―ある人殺しの物語』文春文庫 2003 年。（￥799)

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
数回行う課題と学期末試験の成績点、出欠状況、授業への参加態度などを総合的に加味して評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
テキストを購入し、毎回読んでくることが受講の前提となります。

LA330

比較文化Ⅱ

D．ハイデンライヒ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Das Parfum『香水–― ある人殺しの物語』と映画（Ⅱ）
秋学期は、パトリック・ジュースキントの小説『香水–― ある人殺しの物語』を天才物語のパロディーとして読み直し、同名映画や芸術家、天才の生涯をテーマにした他の映画と比較しながら、ヨーロッパ文化と思想の理解を深める。

【到達目標】
◦ 異文化理解能力を高める。
◦ 映画と文化について語れるようになること。
◦ 作品を批評的に読み解き、分析できる理論的な思考を身につけること。

【授業の進め方と方法】
できるだけ短いシーンを選んで分析し、鑑賞後は、ディスカッションまたは課題の提出を求めることもあります。あらかじめ読んでおいたテキストの該当箇所を読みながら進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
②	芸術家・天才のパロディーとしての『パフューム』(1)	原作『香水』との比較 (1)
③	芸術家・天才のパロディーとしての『パフューム』(2)	課題、ディスカッション
④	芸術家・天才のパロディーとしての『パフューム』(3)	原作『香水』との比較 (2)
⑤	芸術家・天才のパロディーとしての『パフューム』(4)	課題、ディスカッション
⑥	芸術家・天才のパロディーとしての『パフューム』(5)	原作『香水』との比較 (3)
⑦	芸術家・天才のパロディーとしての『パフューム』』(6)	課題、ディスカッション
⑧	嗅覚的な天才対聴覚的な天才 (1)	M. フォアマン『アマデウス』との比較
⑨	嗅覚的な天才対聴覚的な天才 (2)	課題、ディスカッション
⑩	美と死、ニーチェパロディ (1)	T. マン『ヴェネツィアに死す』との比較
⑪	美と死、ニーチェパロディ (2)	課題、ディスカッション
⑫	天才と狂気 (1)	W. ヘルツォーク 『フィツカラルド』との比較
⑬	天才と狂気 (2)	日欧比較文化的考察
⑭	授業内試験	筆記試験を行う
⑮	総括	試験結果のフィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、インターネットや図書専門雑誌などを利用し、映画レビューの書き方を調べ練習すること。

【テキスト（教科書）】
パトリック・ジュースキント（池内紀訳）：『香水 ある人殺しの物語』文春文庫 2003 年。(￥799)

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
数回行う課題と学期末試験の成績点、出欠状況、授業への参加態度などを総合的に加味して評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
テキストを購入し、毎回読んでくることが受講の前提となります。

LA227

ドイツの文化と社会Ⅰ

内田　俊一

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ローレライ」や「野ばら」、「菩提樹」、シューベルトやブラームスらによる「子守歌」等々のドイツ歌曲は、誰でも知っているでしょう。またドイツ民謡の歌詞だけを変えて、日本で唱歌として歌われてきたものは、かなりあります。メロディーを聴けば、あぁ、あの曲かとわかるでしょう。ＣＤ等を使ってそのような歌の数々を鑑賞し、ドイツ語の歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。さらに、取り上げた歌の背後にある、成立当時の社会状況等についての解説も加えます。そのようにしてドイツの文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。

【到達目標】
ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

【授業の進め方と方法】
ＣＤ等で歌曲を鑑賞し、詩を味わった後で、（ドイツ語既習者には）和訳してもらいます。ドイツ語既習者でなくても、意欲のある人は受け入れて、発音の練習をしてもらいます。ただし、ドイツ語未修者の場合は必ず試験を受けてもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	「春へのあこがれ」（モーツァルト）	「春へのあこがれ」の学習
第 3 回	「君は僕の心の中に」（民謡）、「ます」（シューベルト）	「君は僕の心の中に」と「ます」の学習
第 4 回	「日曜日」（ブラ―ムス）、「人生を楽しめ」（民謡）	「日曜日」と「人生を楽しめ」の学習
第 5 回	「ターラウのエンヒェン」（民謡）、「メリー・ウィドウ」（レハール）	「ターラウのエンヒェン」と「メリー・ウィドウ」の学習
第 6 回	「壊れた指輪」（グリュック）、「聖しこの夜」（グルーバー）	「壊れた指輪」と「聖しこの夜」の学習
第 7 回	「もみの木」（民謡）、「小鳥はみんな」（民謡）	「もみの木」と「小鳥はみんな」の学習
第 8 回	「春の夢」（シューベルト）	「春の夢」の学習
第 9 回	「春の確信」（シューベルト）、「五月がやってきた」（民謡）	「春の確信」と「五月がやってきた」の学習
第 10 回	「さすらいの歌」（民謡）、「まことの愛」（民謡）	「さすらいの歌」と「まことの愛」の学習
第 11 回	「おぉ、遥かな谷よ、丘よ」（メンデルスゾーン）	「おぉ、遥かな谷よ、丘よ」の学習
第 12 回	「子守歌」（ブラームス）「眠りの精」（ブラームス）	「子守歌」と「眠りの精」の学習
第 13 回	「別れ（ムシデン）」（民謡）	「別れ」の学習
第 14 回	総復習	総復習
第 15 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容に野とづく学習

【テキスト（教科書）】
志田麓他編『ドイツの歌と民謡』（第三書房）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業最終日に試験を行います。受講者数が少ない場合は、平常点のみの評価になるかもしれませんが、その場合でもドイツ語未修者には必ず試験を課します。もちろん授業への参加状況も考慮に入れます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講者の希望に応えて取り上げる曲を決めることに、この授業の特徴があるので、なるべく春学期のうちからアンケートを取って、希望の出た曲を取り上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
ＣＤやＤＶＤ等を使用します。

LA227

ドイツの文化と社会Ⅱ

内田　俊一

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
※定員制　履修可能年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、ドイツ語の歌を鑑賞し、歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。そのようにしてドイツの文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。
なお、ドイツ語未修者の秋学期のみの履修は認めません。

【到達目標】
ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

【授業の進め方と方法】
春学期と同様、歌詞を和訳してもらいます。取り上げる曲については、なるべく受講者の希望に沿いたいと思っています。アンケートを取って、希望のあったものは、可能な限り取り上げるつもりです。オペラやミュージカル等からの曲であれば、ＤＶＤやインターネットからの映像等を使うこともあります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	クラシックの歌曲	クラシックの歌曲の学習
第 3 回	近・現代の流行歌	近・現代の流行歌の学習
第 4 回	オペラの歌曲	オペラの歌曲の学習
第 5 回	宗教曲	宗教曲の学習
第 6 回	民謡	民謡の学習
第 7 回	ミュージカルの歌曲	ミュージカルの歌曲の学習
第 8 回	クラシックの歌曲	クラシックの歌曲の学習
第 9 回	近・現代の流行歌	近・現代の流行歌
第 10 回	オペラの歌曲	オペラの歌曲の学習
第 11 回	宗教曲	宗教曲の学習
第 12 回	民謡	民謡の学習
第 13 回	ミュージカルの歌曲	ミュージカルの歌曲の学習
第 14 回	クリスマスの歌	クリスマスの歌の学習
第 15 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習

【テキスト（教科書）】
要望のあった曲のプリントを、授業内に配布します。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業最終日に試験を行います。受講者が少ない場合は平常点のみの評価になるかもしれませんが、その場合でも、ドイツ語未修者には必ず試験（歌詞の和訳）を課します。成績評価基準：試験 50 %＋平常点 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講者の希望に応えて取り上げる曲を決めることに、この授業の特徴があるので、なるべく春学期のうちからアンケートを取って、希望の出た曲を取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
ＣＤやＤＶＤ、インターネットからの映像等を使用します。

LA327

フランスの文化と社会Ⅰ

鈴木　正道

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次：3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。春学期では地理、観光、音楽、歴史、政治、教育などを扱います。一般的なフランスのイメージ、高校の世界地理や世界史で学んだ知識から、あまり知られていないことまで広げてフランスの文化および社会について学びます。パリの美術館、ヴェルサイユやロワール河畔の城、モン・サン・ミシェルについて、あるいは古楽、ドゥビュシーなどのクラシック、ピアフなどのシャンソン、ポレナルフなどのポップスといった音楽、さらには古代、中世から、革命、大戦に至る歴史、現代の政治機構や教育制度などを学びます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】
この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標とします。観光や輸出入、マスメディアなどの分野で働くために役に立つ基礎知識を学ぶことができます。またフランス流の考え方を学ぶことを通して、様々な現代社会の問題に向き合うためのヒントを得ます。

【授業の進め方と方法】
主に講義の形をとりますが、教員が投げかける疑問に学生が考えて答えることが求められます。学生の側からの疑問の投げかけも歓迎されます。
提出するべきレポートの題材を日ごろから自ら探しておくことが必要です。
毎回テーマごとに、文書や映像資料を用いて解説します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明；フランスとはどんな国か	本土と海外県、海外領土：人口、地理
2	パリとその近郊 1	ルーヴル美術館やその他の名所
3	パリとその近郊 2	オルセー美術館など
4	フランスの地方 1	ヴェルサイユ、ヴォー・ル・ヴィコント、フォンテーヌブローなどパリ近郊の城、ノルマンディなどの北部、ロワール河流域の城
5	フランスの地方 2	プロヴァンス: アルル、ニーム、カンヌなど
6	フランスの音楽 1	中世、古典期: 吟遊詩人、マショー、デプレ、クープラン、リュリ、ラモーなど
7	フランスの音楽 2	古典期、近代： ビゼー、ドゥビュッシー、サティなど
8	フランスの音楽 3	近・現代音楽： メシアン、 アンリ、ブーレーズ、ジャールなど
9	フランスの音楽 4	シャンソン、ポップス： トレネ、ピアフ、ポルナレフなど
10	フランスの歴史 1	フランス国家の成立、百年戦争
11	フランスの歴史 2	絶対王政の確立と衰退
12	フランスの歴史 3	フランス革命から帝政へ
13	フランスの歴史 4	第二次大戦と戦後
14	フランスの政治制度	立法府、行政府、政党
15	フランスの教育制度	初等、中等、高等教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：フランスの地理と人口に関して調べる。第 2 回：ルーヴル美術館に関して調べる。第 3 回：オルセー美術館に関して調べる。第 4 回：パリに関して調べる。第 5 回：フランスの地方に関して調べる。第 6 回：フランスの中世音楽を聴く。第 7 回：フランスの古典期の音楽を聴く。第 8 回：フランスの現代音楽を聴く。第 9 回：フランスのポップスを聴く。第 10 回：フランスの古代・中世史を調べる。第 11 回：絶対王政に関して調べる。第 12 回：フランス革命に関して調べる。第 13 回：ナチスのフランス占領について調べる。第 14 回：フランスの政党に関して調べる。第 15 回：フランスの学校について調べる。
常日頃から、提出するレポートの題材を探して、調べておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
プリントを配ります。

【参考書】
『かしこい旅のパリガイド』（CD 付）、田中成和、渡辺隆司　著　駿河台出版社
『ケータイ版　ラピッド・フランス旅行会話－レストランの料理写真付－』
加藤雅郁　著　駿河台出版社
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポート（授業で扱った主題の中から興味のあるものを一つ選んで調べる）を主な判断材料とします（80%～95%）。授業で紹介されたことを取っ掛かりとして、自分で主題を絞ってそれに関して詳しく調べ、わかりやすく述べることが大切です。授業への参加状況（発言や質問など）をも考慮して成績を出します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語が迷惑であるとのご指摘をいただきました。確かに、授業中に話をしている人がいました。それとなく近くに行き、気づいてもらうようにしましたが、徹底していなかったかもしれません。今年は授業を始めるにあたって、私語は他人の権利を侵すものであることをはっきりと伝えようと思います。

LA327

フランスの文化と社会Ⅱ

鈴木　正道

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。秋学期では文学・思想、ワイン、チーズ、料理、菓子、映画、マスメディア、社会問題、ヨーロッパ連合などを扱います。一般的なフランスのイメージではとらえきれない、様々なフランスの現実について考えます。モリエールなどの古典演劇、デカルトなどの近代思想、ルソーなどの啓蒙思想、ユゴーなどのロマン主義文芸、実存主義、構造主義やポストモダンなどの現代思潮を学び、グルメで一息？ ワインはロマネ・コンティやマルゴーから日本ではあまり知られていない逸品まで、料理は高級料理から郷土料理まで見て回ります。映画は創成期からいわゆるヌーヴェル・ヴァーグを経て『シラノ』や『アメリ』の現代まで。忘れてはならないのは優雅でない厳しいフランスの現実です。メディアはこれをどう伝えているか。厳しさを増すＥＵの現状と将来は？ そもそもどうやって成立したのか？
フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】
この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標とします。観光や輸出入、マスメディアなどの分野で働くために役に立つ基礎知識を学ぶことができます。またフランス流の考え方を学ぶことを通して、様々な現代社会の問題に向き合うためのヒントを得ます。

【授業の進め方と方法】
主に講義の形をとりますが、教員が投げかける疑問に学生が考えて答えることが求められます。学生の側からの疑問の投げかけも歓迎されます。
また日ごろから、提出すべきレポートの題材を探しておくことが必要です。
毎回テーマごとに、文書や映像資料を用いて解説します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、フランスの文学と思想 1	古典主義とは何か
2	フランスの文学と思想 2	古典主義演劇：コルネイユ、ラシーヌ、モリエール
3	フランスの文学と思想 3	近代思想の祖、デカルト：『方法序説』、『情念論』
4	フランスの文学と思想 4	啓蒙主義からロマン主義へ：ルソー、ユゴー：『パリのノートルダム』など
5	フランスの文学と思想 5	現代思想：実存主義：サルトル 構造主義：レヴィ＝ストロース
6	フランスの文学と思想 6	現代思想：ポスト構造主義へ：フーコー ポストモダン：ドゥルーズとガタリ
7	ワインと食文化 1	ワイン、チーズ
8	ワインと食文化 2	料理、菓子
9	フランスの映画 1	創生期：メリエス『月世界旅行』、フィヤード『ファントマス』など
10	フランスの映画 2	トーキーから戦中、戦後へ：カルネ『天井桟敷の人々』、コクトー『美女と野獣』、クレマン『禁じられた遊び』など
11	フランスの映画 3	ヌーヴェル・ヴァーグから 70 年代へ：ゴダール『勝手にしやがれ』、ドゥミ『シェルブールの雨傘』、トゥリュフォ『夜霧の恋人たち』など
12	フランスの映画 4	現代：マル『さよなら子供たち』、ラプノー『シラノ・ド・ベルジュラック』、ジュネ『アメリ』、バラティエ『天使たちのコーラス』など
13	フランスのマス・メディア	新聞、雑誌、テレビなど
14	フランスの社会問題	暴力、失業、移民など
15	ヨーロッパ連合	EU の成立と現状、またその将来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：フランスの古典期の作品を読む。第 2 回：フランスの古典主義演劇を鑑賞する。第 3 回：古典期の科学思想に関して調べる。第 4 回：啓蒙主義、ロマン主義の作品を読む。第 5 回：実存主義、構造主義に関して調べる。第 6 回：構造主義以降の思想に関して調べる。第 7 回：ワインとチーズに関して調べる。第 8 回：フランスのデザートを和菓子と比べる。第 9 回：フランスの無声映画を鑑賞する。第 10 回：フランスの戦前、戦中映画を鑑賞する。第 11 回：ヌーヴェル・ヴァーグに関して調べる。第 12 回：フランス映画の最新作を鑑賞する。第 13 回：フランスのマスメディアについて調べる。第 14 回：フランス現代社会の問題について調べる。第 15 回：ヨーロッパ連合を出発点として国家また国家連合について考える。
また日ごろから、提出すべきレポートの題材を探し、調べておくことが大切です。

【テキスト（教科書）】
プリントを配ります。

【参考書】
『かしこい旅のパリガイド』（CD 付）、田中成和、渡辺隆司　著　駿河台出版社
『ケータイ版　ラピッド・フランス旅行会話－レストランの料理写真付－』
加藤雅郁　著　駿河台出版社
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポート（授業で扱った主題の中から興味のあるものを一つ選んで調べる）を主な判断材料とします（80%～95%）。授業で紹介されたことを取っ掛かりとして、自分で主題を絞ってそれに関して詳しく調べ、わかりやすく述べることが大切です。授業への参加状況（発言や質問など）をも考慮して成績を出します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語が迷惑であるとのご指摘をいただきました。確かに、授業中に話をしている人がいました。それとなく近くに行き、気づいてもらうようにしましたが、徹底していなかったかもしれません。今年は授業を始めるにあたって、私語は他人の権利を侵すものであることをはっきりと伝えようと思います。

LA227

ロシアの文化と社会 I

佐藤　千登勢

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくとも履修できます。SA ロシアに向かう予定の２年生は事前学習の一環として、必ず履修してください。
ロシアは、峻厳で美しい自然、深くて豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに基づき、映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴覚資料を多数用いて解説していきます。言うまでもなく隣国ロシアの問題であり、かつ世界のグローバル化が進行する今日、私たちにとってもアクチュアルな問題である、という想像力と好奇心をもって授業に臨んでください。授業の最後には、毎回、意見や疑問点をまとめたレヴューシートをみなさんに提出してもらい、次回の授業に活かしていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワードなどを通してロシアの概略を示す。
第 2 回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第 3 回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第２の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。
第 4 回	民俗文化とロシア正教、国民の祝日	ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は再び絶大なものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。
第 5 回	ロシア・バレエの世界１	バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。
第 6 回	ロシア・バレエの世界２	前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。
第 7 回	ロシアの音楽：グリンカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー	ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリンカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、国際的に活躍する現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。
第 8 回	ロシアの音楽：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）	19 世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフらを通して音楽と政治の問題を考える。
第 9 回	ロシアの音楽：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）	反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。
第 10 回	ロシア文学：イーゴリ軍記から 19 世紀前半	『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。
第 11 回	ロシア文学： 19 世紀半ば～（ゴーゴリ、ドストエフスキー）	ゴーゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。

第 12 回	ロシア文学： 19 世紀後半〜 20 世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）	トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チェーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。
第 13 回	ロシア文学：亡命作家から現代（ソルジェニーツィン、ブロツキー、ペレーヴィン）／日本文学との影響関係	亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。
第 14 回	民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題	ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアで高まるナショナリズム。
第 15 回	予備日	扱うことができなかったテーマの補足。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べる。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AV ライブラリーの活用を勧めます。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配付します。

【参考書】
教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レヴューシート（50 %）、期末レポート（50 %）の基準により判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

LA227

ロシアの文化と社会Ⅱ

佐藤　千登勢

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の授業に引き続き、ロシアの文化の多様性を見ていきます。春学期に得た情報を基に、さらにそこに新たな領域・ジャンルの知識を積み重ねていくことになりますので、各自がロシアのイメージを整理しつつ、吸収していってほしいと思います。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【授業の進め方と方法】
春学期同様、毎回のテーマに基づき、映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴覚資料を用いて解説していきます。授業の最後に、毎回、意見や疑問点をまとめたレヴューシートを提出してもらい、次回の授業に活かしていくのも春学期と同じですが、すでに獲得したロシア情報に基づいた、あるいは、日本を含む他国との比較をまじえた、一歩踏み込んだ意見を望みます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／ロシアの歴史１：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝の治世について。
第 2 回	ロシアの歴史２	ピョートル大帝、エカテリーナ女帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第 3 回	ロシアの歴史３	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第 4 回	ロシアの歴史４	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第 5 回	ロシアの歴史５	雪解けから停滞へ、ペレストロイカ、チェリノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第 6 回	ソ連映画１	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。
第 7 回	ソ連映画２	雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。
第 8 回	ソ連映画３	反体制の烙印を押された監督（タルコフスキー、パラジャーノフ、イオセリアーニら）の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF 映画を概観するとともに、ペレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。
第 9 回	ロシア映画４	検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクーロフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。
第 10 回	ロシア映画５	前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。
第 11 回	ロシア美術１	イコン（聖像画）の機能について、移動展派の営み、パトロンの役割について。
第 12 回	ロシア美術２	マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。カバコフ、コマール＆メラミッドら現代アートについて紹介。
第 13 回	ロシア・アニメ	黎明期からプロパガンダ・アニメ、児童アニメ、アート・アニメまで、スタレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ、ノルシュテイン、ペトロフらの作品を鑑賞しながら、アニメに反映する政治と社会の問題を考える。

第 14 回　ロシアの食文化	ロシア正教会の精進の制約に基づく食文化、および、ピョートル大帝以後、ヨーロッパからもたらされ発展をとげたロシアの宮廷料理とサービスの方法について。代表的ロシア料理・酒・飲み物や最近のロシアの食事情を紹介する。
第 15 回　予備日	授業で扱うことのできなかった事項について補足。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べる。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AV ライブラリーの活用を勧めます。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配付します。

【参考書】
教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レヴューシート（50 %）、期末レポート（50 %）の基準により判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

LA227

中国の文化と社会 I

山本　律

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
　映画は、その時代の社会を映し出します。文化大革命という激動の時代を経て、中国社会はどのように変わっていったのでしょうか。また変わったとしたら、何が原因だったのでしょうか。
　これらについて考察していきます。

【到達目標】
　中国の文化と社会についての理解を深めます。

【授業の進め方と方法】
　映像資料を用い、講義形式で授業を行います。
　毎回コメントペーパーを出してもらいます。
　最終回にはレポートを提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	オリエンテーション	授業の進め方について
第二回〜第四回	映画で学ぶ中国の歴史と文化１	映画『サンザシの樹の下で』
第五回〜第七回	映画で学ぶ中国の歴史と文化２	映画『胡同のひまわり』
第八回〜第十回	映画で学ぶ中国の歴史と文化３	映画『至福のとき』
第十一回〜第十二回	映画で学ぶ中国の歴史と文化４	映画『再会の食卓』
第十三回〜第十四回	映画で学ぶ中国の歴史と文化５	映画『101 回目のプロポーズ』
第十五回	レポート	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。

【テキスト（教科書）】
使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60 %
レポート 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

LA227

中国の文化と社会Ⅱ

山本　律

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
　映画は、その時代の社会を映し出します。文化大革命という激動の時代を経て、中国社会はどのように変わっていったのでしょうか。また変わったとしたら、何が原因だったのでしょうか。
　これらについて考察していきます。

【到達目標】
　中国の文化と社会についての理解を深めます。

【授業の進め方と方法】
　映像資料を用い、講義形式で授業を行います。
　毎回コメントペーパーを出してもらいます。
　最終回にはレポートを提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	オリエンテーション	授業の進め方について
第二回～第四回	映画で学ぶ中国の歴史と文化１	映画『狙った恋の落とし方』
第五回～第七回	映画で学ぶ中国の歴史と文化２	映画『ラストエンペラー』
第八回～第十回	映画で学ぶ中国の歴史と文化３	映画『孫文の義士団』
第十一回～第十二回	映画で学ぶ中国の歴史と文化４	映画『唐山大地震』
第十三回～第十四回	映画で学ぶ中国の歴史と文化５	映画『最後の晩餐』
第十五回	レポート	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。

【テキスト（教科書）】
使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60 %
レポート 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

LA227

朝鮮の文化と社会Ⅰ

李　英美

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。
朝鮮・韓国の文化と社会に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

【到達目標】
　春学期には、朝鮮・韓半島有史以来の伝統や制度などを中心に、韓国の文化と社会を概観する。

【授業の進め方と方法】
基本的にはテキストに沿った内容を中心に講義する。
一つのテーマを２週連続で取り上げ、第１週目は講義と板書、第２週目は関連映像の上映と解説、といった順に進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第２回	韓国・朝鮮の地理	韓国・朝鮮の位置、領土、気候、山河などの自然環境や、緯度経度など。特に地政学的な要素を中心に講義。
第 3 回	韓国・朝鮮の地理関連映像の上映	韓国・朝鮮の地理的な条件や四季などの自然環境に関する視聴覚教材を用いた講義内容の復習。
第４回	韓国・朝鮮の通史	古代から近世、近代を経て現代に至るまでの韓・朝鮮半島の通史を概説し、その流れを理解する。
第５回	韓国・朝鮮の通史関連映像の上映	朝鮮・韓半島の歴史の流れを映像で取り上げる。
第６回	朝鮮・韓国の近代	特に日本との関係を中心に。
第７回	朝鮮・韓国の近代に関する映像の上映	伝統社会から近代へ変わっていく時期の映像を上映。
第８回	南北の政府樹立と朝鮮戦争	大韓民国（韓国） 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮） 朝鮮戦争
第９回	南北の政府樹立と朝鮮戦争関連映像の上映	独立、南北政府樹立、韓国戦争、朝鮮半島をとりまく国際情勢に関する記録映像。
第 10 回	朝鮮・韓半島の言語文化	朝鮮語と韓国語 朝鮮語と漢字 朝鮮語と日本語 標準語と方言 韓国語教育
第 11 回	朝鮮・韓半島の言語文化に関する映像を上映	朝鮮・韓国語に関する上記諸事項について、音声を確認しながら理解度を高める。
第 12 回	朝鮮・韓半島と儒教文化	伝統社会の統治理念 生活および倫理規範 規範・法・秩序意識
第 13 回	朝鮮・韓半島の儒教文化に関する映像の上映	祭祀、宗族、三綱五倫、身分社会と儒教、農耕社会と儒教
第 14 回	人生儀礼、家族・親族、姓名	冠婚葬祭 男系血統主義 親族の範囲と役割 氏と姓
第 15 回	春学期のまとめ	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定されたテキストと参考書を読んでおくこと

【テキスト（教科書）】
片茂永編『韓国の社会と文化』岩波書店、２０１０年

【参考書】
朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史』三省堂、１９９５年
長田章文監修・津久井恵著『朝鮮半島がわかる本』かもがわ出版、２０１５年

【成績評価の方法と基準】
レポート課題５０％、平常点５０％をもって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
今年度より新たに担当することになったため、学生の意見は存在しない。
授業に対する学生の積極的な意見を求む。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
初回の授業には必ず出席のこと。

LA227

朝鮮の文化と社会Ⅱ

李　英美

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。
朝鮮・韓国の文化と社会に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

【到達目標】
秋学期には、主に朝鮮・韓半島の南に位置する現代韓国に関する文化と社会について、ひと通り概観することが到達目標である。

【授業の進め方と方法】
基本的にはテキストに沿った内容を中心に講義する。
一つのテーマを２週連続で取り上げ、第１週目は講義と板書、第２週目は関連映像の上映と解説、といった順に進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第２回	現代の韓国社会	現代韓国社会の諸特徴 伝統社会との比較 日本社会との比較 世界の中の韓国社会
第３回	現代韓国社会関連映像の上映	現代韓国社会の諸特徴および規模について、実際の映像をとおして確認する。
第４回	韓国の生活文化	衣食住
第５回	韓国の生活文化関連の映像を上映	映像をとおして韓国の衣食住について、立体的にとらえる。
第６回	韓国の年中行事	韓国の年中行事について、１月から１２月まで月別の行事を取り上げる。
第７回	韓国年中行事関連映像の上映	１月から１２月までの月別行事に関する映像をとおして、実際の様子を理解する。
第８回	韓国人の精神文化	神話、伝説、昔話、宗教、座俗など。
第９回	韓国人の精神文化に関する映像を上映	神話、伝説、昔話、宗教、座俗などに関する、実際の映像をとおして理解を深める。
第 10 回	教育制度	教育制度 教育意識 高等教育進学率、大学受験と浪人、私教育（塾）事情
第 11 回	教育関連映像の上映	韓国の教育制と韓国人の教育に対する意識、教育に関する社会現象などについて、映像をとおして確認。
第 12 回	大衆文化	韓流ドラマや映画、K-POP など。
第 13 回	大衆文化関連映像の上映	現代韓国の大衆文化を代表する韓流ドラマ、映画、K-P0P の状況を確認し、そのルーツや背景について理解する。
第 14 回	兵役義務	軍事と兵役義務 軍隊意識と韓国社会
第 15 回	秋学期のまとめ	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定されたテキストと参考書を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
片茂永編『韓国の社会と文化』岩波書店、２０１０年

【参考書】
朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史』三星堂、１９９５年
長田章文監修・津久井恵著『朝鮮半島がわかる本』かもがわ出版、２０１５年

【成績評価の方法と基準】
レポート課題の５０％、平常点５０％をもって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
今年度より新たに担当することにあったため、学生の意見は存在しない。
授業に対する学生からの積極的な意見を求む。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
初回の授業には必ず出席すること。

LA227

日本の文化と社会Ⅰ

小宮　修太郎

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の日本社会の姿をいろいろな角度から見つめ、そこで起きている諸問題や私達の生き方について話し合い、ともに考えていく授業。留学生と日本人学生が集い、国際比較もしながら同時代の諸問題について語り合う。各回のテーマは、人生論的な問い、現代社会の諸問題、国際的なレベルの問題などで、受講者の希望の多いものが選ばれる。

【到達目標】
1．テーマに関する資料を調べ、わかりやすく発表することができる。
2．討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
3．異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

【授業の進め方と方法】
基本的にテーマについての発表から、少人数グループの討論につながる授業を行う。テーマ選択から討論まで、学習者中心の展開にする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション（1）、選抜試験とアンケート	受講希望者の中から受講者を選抜するための試験を行う。
②	オリエンテーション（2）、希望テーマのアンケート	今学期に取り上げるテーマを決めるためのアンケートに記入する。
③	テーマ決定、グループ討論の準備	アンケートの結果をもとに、多数決で取り上げるテーマを決める。
④	「テーマ 1 について」クラス討論、次回の打ち合わせ	クラス全体で話し合う。グループに分かれて、次週の打ち合わせをする。
⑤	「しゃべり場討論」（1）	グループに分かれて討論する。
⑥	「テーマ 2 について」発表と質疑、打ち合わせ	数人が発表。質疑応答。グループで打ち合わせ。
⑦	「しゃべり場討論」（2）	グループ討論。
⑧	「テーマ 3 について」発表と質疑、打ち合わせ	発表、質疑応答、次回打ち合わせ。
⑨	「しゃべり場討論」（3）	グループ討論。
⑩	→ 同じテーマでクラス討論	グループ討論で焦点になった論点や、残された論点についてクラス全体で討論する。
⑪	「テーマ 4 について」発表と質疑、打ち合わせ	発表、質疑応答、次回打ち合わせ。
⑫	「しゃべり場討論」（4）	グループ討論。
⑬	→ 同じテーマでクラス討論	クラス討論。
⑭	「テーマ５について」発表と質疑、打ち合わせ	発表、質疑応答、次回打ち合わせ。
⑮	「しゃべり場討論」（5）	グループ討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
[予習] 討論の前に、全員がテーマに関することについて自主的に調べてくること。
[発表の準備] 発表の担当者は、よく調べて準備し、レジュメのコピーを人数分用意すること。
[記録の提出] グループ討論の記録者は当日のメモを整理して、次の週に提出すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
『２０１６年の論点１００』（文藝春秋）

【成績評価の方法と基準】
期末にレポート形式の試験を行う。その結果と平常点（出席率と授業参加の態度と発表への評価）を総合して評価を決める。:レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が 60 %以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使う発表者は、貸与パソコンを教室に持ってくること。

【その他の重要事項】
授業計画の日程、内容は一部変更することがある。

LA227

日本の文化と社会Ⅱ

小宮　修太郎

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の日本社会の姿をいろいろな角度から見つめ、そこで起きている諸問題や私達の生き方について話し合い、ともに考えていく授業。留学生と日本人学生が集い、国際比較もしながら、同時代の諸問題について語り合う。各回のテーマは、人生論的な問い、現代社会の諸問題、国際的なレベルの問題などで、受講者の希望が多いものが選ばれる。

【到達目標】
1．テーマについて資料を調べ、わかりやすく発表することができる。
2．討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
3．異文化の人と話し合う中で、相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

【授業の進め方と方法】
テーマについての発表から少人数グループの討論につながる形で２週連続の授業にする。１つのテーマについては、グループ討論の次の週にディベートを行うので、3 週連続の授業になる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション、選抜試験とアンケート	秋学期からの参加希望者に対して、選抜試験を行う。
②	「テーマ６について」クラス討論、次回打ち合わせ	クラス全体で話し合う。グループに分かれて、次回の討論の打ち合わせをする。
③	「しゃべり場討論」（６）	グループに分かれて討論する。
④	「テーマ７について」発表と次回打ち合わせ	数人が発表。質疑応答。グループで打ち合わせ。
⑤	「しゃべり場討論」（７）	グループ討論。
⑥	「テーマ８について」発表と次回打ち合わせ	発表、質疑応答、次回打ち合わせ。
⑦	ディベートの準備、「しゃべり場討論」（８）	ディベートについてのオリエンテーション。グループ討論。
⑧	「テーマ９について」発表と次回打ち合わせ。ディベート打ち合わせ。	発表、質疑応答、次回打ち合わせ。ディベートチームの人選と打ち合わせ。
⑨	「しゃべり場討論」（９）	グループ討論。ディベート・チームの打ち合わせ。
⑩	「テーマ９」に関連する題でディベート	ディベートと、その勝敗の判定。
⑪	「テーマ 10 について」発表と次回打ち合わせ」	発表、質疑応答、次回打ち合わせ。
⑫	「しゃべり場討論」（10）」	グループ討論。
⑬	「テーマ 11 について」発表と次回打ち合わせ	発表、質疑応答、次回打ち合わせ。
⑭	「しゃべり場討論」（11）	グループ討論。
⑮	まとめ	補足の発表。学期全体のまとめ。クラス交流。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
[予習] 討論の前に、全員がテーマについて調べてくること。
[発表の準備] 発表担当者は、よく調べて準備し、レジュメのコピーを人数分用意すること。
[記録の提出] 記録者は当日のメモを整理して、次の週に提出すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
『２０１６年の論点１００』（文藝春秋）

【成績評価の方法と基準】
各期末にレポート形式の試験を行う。その結果と平常点（授業参加の態度と発表への評価）を総合して評価を決める。:レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が 60 %以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使う発表者は、教室に貸与パソコンを持ってきてほしい。

【その他の重要事項】
授業計画は、一部変更する場合がある。

LA268

人間と地球環境

宇野　真介

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題などもあり、自然環境、社会環境共に危機的状況にあることが指摘され、人間と自然の関係、人間同士の関係共にそのあり方が問われています。本授業では、このような現状の中でキーワードとなる「持続可能性」を主軸に環境問題に関連する科学的な基礎だけでなく、社会的要素も含め、広い視野から学習していきます。

【到達目標】
本授業では以下の３点を最終的到達目標とします。１）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。２）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。３）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題の全体像を把握すること。

【授業の進め方と方法】
本授業では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かせない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理、開発に関連する環境問題や社会的問題について学習します。基本的には講義形式で解説していきますが、映像資料やグループワークも取り入れていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	はじめに	授業概要、成績評価などの説明、持続可能性の概念
第２回	生態系の基本的特徴	生態系の基本的成り立ち、生態系における物質の循環とエネルギーの流れ
第３回	変化する生態系	生態系の安定性：遷移と撹乱
第４回	生物同士の関係	生態系を構成する複数種類の生物同士の関係によって構成される生物のコミュニティ
第５回	授業内活動１	グループワーク：生態系の複雑さの理解と森林管理における応用
第６回	生物多様性とその現状	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の取り組み
第７回	生物多様性と人間社会	生物多様性の人間社会における意義
第８回	食糧生産と環境問題	近代農業・漁業の成果と環境負荷
第９回	食糧問題の社会的背景	食糧問題と環境問題をつなぐ社会的周辺事情
第１０回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組み
第１１回	南諸国から見た世界	グローバリゼーションと発展途上国の現状
第１２回	「開発」と環境問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境問題
第１３回	授業内活動２	貿易ゲーム：グローバル経済と開発の社会的側面についての考察
第１４回	持続可能な発展へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな開発モデル
第１５回	まとめ	春学期の学習内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義内容の復習、配布資料の通読
欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと

【テキスト（教科書）】
教科書はなし
配布される資料を使用

【参考書】
授業中に適宜提示

【成績評価の方法と基準】
成績評価は小テスト＝４０％、授業参加（授業内活動や映画鑑賞の感想共有など）＝２０％、各期末のレポート＝４０％を基本とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
映像資料の利用が学習に有効である反面、解説時間を圧迫する傾向があり、時間的制約との兼ね合いについて調整していくものとする。

LA216

自然環境のしくみとその変貌

加藤　美雄

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**金・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、地球温暖化など人為による改変の対策と対応について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる

【到達目標】
・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
・自然環境の変化による異常気象を把握する。
・自然環境変化の予測を考察する。
・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【授業の進め方と方法】
授業の進め方は 3 部構成とし、第 1 に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第 2 に、地球温暖化によって加速する様々な異常気象について説明する。第 3 に、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。
授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義するとともに、内容を理解するために受講生には課題論文（６編予定）をまとめ、提出してもらう。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	東日本大震災と自然環境問題	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察
3	オゾンホール	成層圏の気候からオゾン層の役割について説明し、オゾンホール生成のメカニズムと今後の対策について検討
4	越境汚染１（酸性雨）	酸性雨の成因、影響について説明
5	越境汚染２（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響について説明
6	人為による気候の改変１（ヒートアイランド・光化学スモッグ）	都市化によるヒートアイランド、大気汚染物質が影響する光化学スモッグについて説明
7	人為による気候の改変２（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察
8	異常気象と地球温暖化	異常気象の定義、異常気象と地球温暖化の関連、近年の季節、気候、天候の変動について説明
9	異常気象１（大雨・洪水）	降水量の長期変動、局地的な大雨、世界・日本の洪水被害について説明
１０	異常気象２（台風・低気圧）	台風、ハリケーン、サイクロンや爆弾低気圧の近年の変化について説明
１１	異常気象３（高温・干ばつ）	熱波や異常高温、干ばつ被害を説明
１２	異常気象４（冷夏・寒波）	冷夏や寒波の状況を説明
１３	異常気象５（降雪・積雪）	局地的な大雪、降雪の長期変動とその影響について説明
１４	異常気象６（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷について説明し、近年の状況について解説
１５	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説
１６	地球温暖化の実態１（長い時間スケールの気候変化）	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明
１７	地球温暖化の実態２（地球温暖化のしくみ）	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明
１８	地球温暖化の実態３（気温・温室効果ガス）	温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説
１９	地球温暖化の実態４（降水・積雪・氷河・海氷）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海氷の減少について説明
２０	地球温暖化の実態５（海洋）	海洋の役割と海面水位の上昇について説明
２１	地球温暖化の実態６（生態系）	動物、植物がどのような影響を受けているかを説明
２２	地球温暖化緩和策の現状１ (国際的な取り組み)	IPCC、COP21 などによる国際的な取り組みを説明

２３	地球温暖化緩和策の現状２(日本の取り組み)	国際情勢にかんがみ、日本の取り組みを説明
２４	地球温暖化懐疑論への対応	地球温暖化懐疑論に対する説明と対応策を検討
２５	地球温暖化の予測１（気温、CO2）	気温、CO2 の予測と課題を説明
２６	地球温暖化の予測２（生態系へのリスク）	生態系の変化とリスク、人間への影響を説明
２７	地球温暖化の適応策１（国外）	地球温暖化に対する世界の適応への取り組みを紹介
２８	地球温暖化の適応策２（国内）	地球温暖化に対する日本の適応への取り組みを紹介
２９	自然環境変化への対応（地球温暖化の対応策と緩和策の発表と集団討論）	地球温暖化の対応策と緩和策について各自で検討してまとめる。また、全員が発表して意見交換をする
３０	まとめ	講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。なお、自然環境変化への対応における発表では、報告者は発表内容のレジュメを作成し、事前に提出すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】
・異常気象を知りつくす本．佐藤典人著．インデックス・コミュニケーションズ
・異常気象と人類の選択．江守正多著．角川 SSC 新書
・地球温暖化時代の異常気象．吉野正敏著．成山堂書店
・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－．吉野正敏著．古今書院
・異常気象と地球温暖化．鬼頭昭雄著．岩波新書
・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－．日本気象学会 地球環境問題委員会編．朝倉書店
・新百万人の天気教室．白木正規著．成山堂書店

【成績評価の方法と基準】
試験は実施しない。評価の配分は以下の通りである。
・課題論文が 30 %（１回の課題が 5 %で６回提出）
・集団討議での発表が 30 %
・レポートが 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできていません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

LA249

相対性理論と宇宙

小池　康郎

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**木・4**
履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
特殊相対性理論を相対性原理をもとに論理的に講述。その結果として開けた事柄について考察する。

【到達目標】
特殊相対性理論の論理的な理解の習得。また地上のエネルギーのもととなる太陽エネルギーの量的理解の習得

【授業の進め方と方法】
20 世紀初頭、アインシュタインによって提出された特殊相対性理論は、とても不思議な理論であり、思想界にも影響を与え、また SF などに魅力的な考え方を提供し、一般にもその名が広く知れ渡るようになった。物理学は数学みたいだと思っている人が多いが、アインシュタインは決して数学が得意ではなかった。特殊相対性理論の内容は、実際ほとんど数学抜きで説明することができる。柔軟な思考力と、粘り強く考える論理の力があれば、誰でも特殊相対性理論を理解できる。春学期はその特殊相対性理論の論理を展開し、学生に特殊相対性理論を理解してもらう。
　秋学期に入って特殊相対性理論の結果として開けたことを考察する。すなわち
1) SF への影響、2) 核エネルギーの解放、3) 一般相対性理論と宇宙論

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	動いている？	自分の乗った乗り物が、動いているとどうしたらわかるか考えてみよう
[3]	相対性原理 (1)	ガリレオの意味での相対性原理
[4]	光の速さ	光速について考察する
[5]	相対性原理 (2)	アインシュタインの相対性原理
[6]	同時性について	離れた場所で同時性は意味がない
[7]	時間の遅れ (1)	時間の遅れについて定性的に考える
[8]	ローレンツ短縮 (1)	空間が縮む
[9]	時間の遅れ (2)	時間の遅れについて数式化する
[10]	ローレンツ短縮 (2)	時間の遅れの式を使って、ローレンツ短縮についても数式化する
[11]	ミュー粒子の冒険	これまでの結論が正しいことをビデオ映像で検証する
[12]	質量	質量の変換式を考える
[13]	質量とエネルギー	相対性理論で最も有名な公式を導く
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ
[15]	試験	春学期のまとめとして試験を行う（参照不可）
[16]	復習	特殊相対性理論の要点を復習する
[17]	相対性理論の影響 I	タイムマシンについて
[18]	双子のパラドックス	科学的に見て正しい SF を書くことの難しさを考える
[19]	原子核物理学	原子核物理学の基本原理を解説する
[20]	相対性理論の影響 II	核エネルギーについて
[21]	核エネルギー I 原爆と原発	核分裂反応を考える
[22]	核エネルギー II 太陽エネルギー	核融合エネルギーと地上に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを知る
[23]	相対性理論の影響 III	一般相対性理論
[24]	時空の非ユークリッド幾何学	アイデアとして一般相対性理論を考える
[25]	検証	一般相対性理論の検証
[26]	宇宙項	宇宙が広がっていること
[27]	ビッグバン宇宙	ビッグバン宇宙のアイデアとその検証
[28]	軽い元素の起源	宇宙の初期にできた元素
[29]	恒星の一生	重い元素はどのようにしてできたか？
[30]	試験	最終的な試験（参照不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特殊相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。すべて自分で反芻して考える習慣が必要である。納得するまで簡単な宿題など課すから反芻する習慣をつけること

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
春学期秋学期とも最終の時間に試験を行う。この試験を 70 %とする。そのほか通常の授業内に数回理解度を図る小テストを行う。これを 30 %とする。いずれも授業内の試験であり、自筆ノートのみ参照可とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
ビデオ映像を利用することがある

LA261

エネルギーを考える

小池　康郎

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**月・5**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3.11 直後には、人々の原発に対する拒絶は極度に強かった。だが 5 年もたたずに、安倍政権のもとで、原発再稼働が何事もなかったかのように、すすめられている。
だがエネルギーに対する議論のもととなるべき事柄を人々は理解しないまま議論が進展している。政権担当者達の発言や新聞の記事などを見ると、彼らもエネルギーを正しく理解しているとは言い難い。彼らを含めて、国民の多くの人たちが、科学の進歩で未来に素晴らしいエネルギー源が見つかるだろうと、甘い期待を寄せているかのようだ。そういう期待を持つこと自体、エネルギーを理解していないことの表れなのである。
エネルギーってそもそも何なのか？　エネルギー消費の実態はどういう風になっているのか？　核エネルギーって一体なんなのか？　放射性物質を「コントロールする」って一体どういうことなのか？　100 年後、200 年後あるいは千年後のエネルギーはどうなっているのだろうか？
これらに対する答えは実は簡単なのである。多くの人が「物理学」を敬遠することにより、自動的にこれらの答えは自分たちにわからないという立場に追い込んでいるだけなのだ。この授業では、これらの疑問にきっちりとした回答を与えることにより、エネルギー問題を皆で考える。

【到達目標】
エネルギーの基本的性質を理解する。我が国におけるエネルギー消費の実態と、その特徴を理解する。一次エネルギーの割合について理解する。原発事故後の一次エネルギーの変化をデータをもとに正しく理解する。何故脱原発が必要なのかを理解する。脱原発のために、どのような方策があるかを理解する。自然エネルギーとは何か、またその特質は何かを理解する。エネルギーから見た持続可能社会を考える力を身に着ける。

【授業の進め方と方法】
春学期は主として授業形式。秋学期は授業形式とゼミ形式併用。

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	エネルギーとは 1	人のエネルギーを考える
[2]	エネルギーとは 2	エネルギー保存則をわかりやすく説明
[3]	エネルギーとは 3	エントロピー増大則をわかりやすく説明
[4]	最終エネルギー消費 1	エネルギー消費の現場での消費量を理解する
[5]	最終エネルギー消費 2	どの部門でエネルギー消費が多いか理解する
[6]	最終エネルギー消費 3	日本での特質を理解する
[7]	一次エネルギー 1	一次エネルギーとは何かを理解する
[8]	一次エネルギー 2	資源としてのエネルギーの現状と未来を理解する
[9]	自然エネルギー 1	自然エネルギーの具体例とその可能性を理解する
[10]	自然エネルギー 2	自然エネルギーとはそもそも何か、エネルギーの性質をもとに理解する
[11]	自然エネルギー 3	自然エネルギーの可能な利用法を理解する
[12]	流れとしてのエネルギー	エネルギーは流れであるというイメージを持つ。これによって固定観念にとらわれず、自由な発想が促される。
[13]	太陽のエネルギー	地上のほとんどのエネルギーの源たる太陽エネルギーを理解する
[14]	春学期のまとめ	まとめ
[15]	テスト	テスト
[16]	春学期の復習	復習
[17]	熱エネルギー 1	エネルギーの最終形態としての熱エネルギー
[18]	熱エネルギー 2	温度と熱エネルギー
[19]	熱エネルギー 3	熱エネルギーの流れは、他のエネルギーに転換できるが、上限がある
[20]	自由討論 1	これまでの学習を生かして、自分でエネルギー政策を考える練習をする
[21]	核エネルギー 1	核エネルギーとは何か
[22]	核エネルギー 2	量子論の基礎
[23]	核エネルギー 3	なぜ脱原発が必要か？
[24]	自由討論 2	さらなる自由討論
[25]	移動のためのエネルギー 1	自動車と鉄道の違いを理解する
[26]	移動のためのエネルギー 2	未来の乗り物について考える
[27]	自由討論	さらなる自由討論
[28]	居住のエネルギー	パッシブソーラーシステムを理解する
[29]	自由討論	さらなる自由討論
[30]	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
エネルギーについて興味を持ち、新聞等での議論を読む。また自分の身の回りでのエネルギー消費を調べる

【テキスト（教科書）】
「文系人のためのエネルギー入門」小池康郎著、勁草書房、2011

【参考書】
エネルギー白書：資源エネルギー庁
総合エネルギー統計：資源エネルギー庁
ダウンロード可

【成績評価の方法と基準】
学期末における二度のテスト 50 %
平常点、特に秋学期の自由討論 50 %（出席含む）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント使用

【その他の重要事項】
受講 30 名を大きく超えれば、選抜を行う。

LA211

コンピュータの裏側

倉田　俊彦

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで，コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され，我々の生活に深く関わっている．しかし，一方で，多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり，その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない．
こうした背景を踏まえて，講義では現代的なコンピュータ（フォン・ノイマン型コンピュータ）が誕生した歴史的背景から解説を始め，「コンピュータの箱の中の機械的な仕組みがどのようになっているか？」「そうした機械的な仕組みの上でデータや命令がどのように表現・処理されているのか？」解説する．また，それと並行して，「計算機を利用した数学」や「暗号通信の仕組み」などコンピュータに関連する応用的な話題にも触れる．

【到達目標】
本講義では「コンピュータの基本的な構造・動作原理を理解すること」を大きな目標としている．（例えば，電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時，皆さんは直ちに説明できるでしょうか？）コンピュータの動作原理を理解することは，コンピュータが持っている計算能力を数理的に考察することを可能とするばかりではなく，（OS に違いなどに依存しない普遍的知識は）コンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらす．

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応したいと考えている．（特に，扱う話題をより簡単な方向に修正する可能性がある．）また「具体的な問題を通して内容を確認する時間」を十分とりたいと考えているので，授業は講義形式と実験・実習形式の割合が半々となる予定である．（特に，授業の終盤では，アセンブリ言語と呼ばれるプログラミング言語を使用して，各種装置の状態を意識しながら計算を組み立てる体験をする．）

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	数学と計算機科学の違いを中心に講義の概要を説明する．
第 2 回	計算機による実験 (1)	PC 上で Java プログラムを実行する方法を確認する．
第 3 回	計算機による実験 (2)	実験で必要となる基本的な計算（行列の掛算など）を説明する．
第 4 回	計算機による実験 (3)	ランダムウォークに基づくシミュレーションに関する実験を行う．
第 5 回	計算機による実験 (4)	線形計画法のアルゴリズムを用いた最適計画に関する実験を行う．
第 6 回	計算機の歴史 (1)	階差機関にはじまる汎用コンピュータ開発の歴史を解説する．
第 7 回	計算機の歴史 (2)	理論上の計算モデルとしてチューリング機械の概念を解説する．
第 8 回	計算機の歴史 (3)	具体的な問題を通してチューリング機械上で動作する計算の様子を観察する．
第 9 回	計算機の構造 (1)	現代の汎用コンピュータの記憶装置の構造を説明する．
第 10 回	計算機の構造 (2)	現代の汎用コンピュータのプロセッサの構造を説明する．
第 11 回	数と文字の表現 (1)	2 進数，10 進数，16 進数の数値表現に対して相互の変換方法を説明する．
第 12 回	数と文字の表現 (2)	2 進数の応用例として三山崩しの問題を紹介する．
第 13 回	数と文字の表現 (3)	2 の補数表現による整数の表現方法を説明し，実験を通して内容を確認する．
第 14 回	暗号の数理 (1)	公開鍵暗号の仕組み，特に従来の暗号との違いについて解説する．
第 15 回	暗号の数理 (2)	暗号の基礎となる整数論の知識としてユークリッドの互除法を説明する．
第 16 回	暗号の数理 (3)	暗号の基礎となる整数論の知識として合同式の基本性質を説明する．
第 17 回	暗号の数理 (4)	PC 上での実験を通して公開鍵暗号の通信の仕組みを確認する．
第 18 回	試験	これまでに説明した内容の理解を試験で確認する．
第 19 回	アセンブリ言語実習 (1)	PC 上で MIPS シミュレータの基本的な操作方法を確認する．
第 20 回	アセンブリ言語実習 (2)	MIPS シミュレータのメモリ構造などを解説する．
第 21 回	アセンブリ言語実習 (3)	アセンブリ言語の特徴を説明し，メモリ上にデータを配置する方法を学ぶ．
第 22 回	アセンブリ言語実習 (4)	加算命令，出力命令などを利用した簡単なプログラムを作成する．
第 23 回	アセンブリ言語実習 (5)	分岐命令などを利用した繰り返し処理の方法を解説する．

第 24 回	アセンブリ言語実習 (6)	コンソールからのデータ入力を利用するプログラムの作成を行う.
第 25 回	アセンブリ言語実習 (7)	入力されたデータの平均値を算出するプログラムを作成する.
第 26 回	アセンブリ言語実習 (8)	レジスタとメモリ間のデータ転送を利用するプログラムを作成する.
第 27 回	計算の理論 (1)	具体例を通して while プログラムの枠組みを解説する.
第 28 回	計算の理論 (2)	原始帰納的関数が while プログラムで計算できることを示す.
第 29 回	計算の理論 (3)	while プログラムで計算可能な関数が帰納的関数と一致することを解説する.
第 30 回	計算の理論 (4)	計算機で答えを求めることが出来ない問題の具体例を説明する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
解説した内容は練習問題を通して確認するため，終わらなかった部分については授業時間外の学習で完成させる必要がある．また実習については，授業中の PC の作業時間が制限されるため作業が円滑に進むように事前の予習が望まれる．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
出席（10%），練習問題（20%），計算機実習（40%），試験 (30%) に基づいて成績評価を行う．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義の内容等に関する改善の指摘は特にないみたいですが，今後も，アンケートや普段のコミュニケーションを通して「学生の関心」や「進め方の希望」などを把握し，参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思います．

【学生が準備すべき機器他】
プログラミングなど実習の機会は多く，その際に貸与 PC を利用する．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「PC の使用経験」は特に必要ない．（工学的に高度な細かな内容までは踏み込まずに，文系の学生にとって負担なく理解できる概要の理解を目指す．実験についても，PC の電源を入れるところから確認しながら進める．）

LA249

現代の錬金術

石川　壮一

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・5**
履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々を魅了する物質である処の"金"を作り出そうと試みられた錬金術は、結果的には失敗の歴史なのであるが、その後の原子論の発展へと続き、現代物理学による物質の究極的な構成要素の理解につながった。本講義では、物質の究極的な構成要素は何なのか？ という問いに対する現代的な答えについて講義する。
学生は、物質の究極的な構成要素の理解と、それが元素の歴史、宇宙の歴史といった現代物理学の最先端のテーマと関連していることを学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解をするための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【授業の進め方と方法】
・受講者数にもよるが基本的には講義形式で行う。
・春学期では、現代の原子論にいたるまでの歴史的経過を概観しながら、基本事項を講義する。
・秋学期では、近代の原子論とその展望、元素と宇宙との関係について講義する。
・数式の使用は最小限度に止め、プリント、ビデオ等を活用し視覚的に理解できるようにする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	講義概要 自然界の階層性について
2	古代の物質観	古代の物質観、連続性と不連続性の概念について
3	化学反応の法則と原子論	化学反応の基本法則と物質が原子で出来ていることとの関係について
4	気体の法則と原子論 (1)	気体の巨視的性質を微視的立場（分子運動）で説明すること
5	気体の法則と原子論 (2)	比熱、ブラウン運動等、原子の存在の根拠となる現象について
6	原子構造のヒント (1)	原子に構造があることを示唆する現象について：元素の周期律など
7	原子構造のヒント (2)	原子に構造があることを示唆する現象について（続き）：電気分解の法則や原子スペクトルの意味すること
8	原子構造の探求 (1)	原子を構成する要素としての電子の発見と、いくつかの原子模型について
9	原子構造の探求 (2)	放射能の発見とその意味すること
10	原子構造の探求 (3)	ラザフォードによる原子構造の探求と原子核の発見
11	ボーアの原子模型 (1)	原子構造を説明するためのボーアの仮定
12	ボーアの原子模型 (2)	原子構造と物質の性質との関係について
13	原子核の構造	原子核を構成する要素について
14	原子核の崩壊 (1)	原子核が別の原子核に変化する崩壊現象について
15	原子核の崩壊 (2)	重い原子核が分裂を起こす核分裂の発見とその意味
16	現代の原子論 (1)	秋学期の序論（春学期内容の復習）と 20 世紀初頭における原子論について
17	現代の原子論 (2)	原子核を結び付けている力（核力）について
18	現代の原子論 (3)	反粒子存在の予言とその発見について
19	現代の原子論 (4)	ニュートリノの予言とその発見、ニュートリノ観測の最近の成果について
20	現代の原子論 (5)	奇妙な粒子と呼ばれる粒子群の発見とその原子論における意味について
21	現代の原子論 (6)	クォーク模型について
22	現代の原子論 (7)	標準模型について
23	元素の起源	元素の起源について
24	ビッグバンと元素合成	宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成について
25	星の一生と元素合成 (1)	宇宙における元素合成の現場である恒星の一生について
26	星の一生と元素合成 (2)	星内部の熱核反応：軽い元素の生成
27	星の一生と元素合成 (3)	星内部の熱核反応：重い元素の生成
28	星の一生と元素合成 (4)	星の終末と超新星爆発、中性子星について
29	現代の錬金術	新原子・新物質の探求について

30　　試験　　期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容の理解を深めるために授業中に出題される課題を解いておくこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみること。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に設けないが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
·「僕らは星のかけら」（原子をつくった魔法の炉を探して）
マーカス・チャウン著、糸川洋訳
SB 文庫（ソフトバンクパブリッシング、2005）
·「宇宙という名の玉ねぎ」（訂正・増補、クォーク達と宇宙の素性）
F. クローズ著、井上健訳、九後汰一郎解説
（吉岡出版、1985/1996）
·「文系にもわかる量子論」　森田正人著
（講談社現代親書 1619）（講談社、2002）
（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】
レポートと期末試験（配分は計約８割）、平常点（約２割）で評価を行う。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

LA249

原子核と素粒子ーミクロの世界ー

吉田　智

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・3**
履修可能年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”となっている。ミクロの世界では、私たちの日常では見られないような現象が発生する。それらの現象を理論・実験によって解明することにより、その後エレクトロニクスなどの技術が発展した。更にミクロの粒子である原子核・素粒子を研究することよって、結果的にミクロとは正反対の超マクロの世界である宇宙、特にビッグバン後の初期宇宙の進化を解明することが可能にもなった。

【到達目標】
この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【授業の進め方と方法】
春学期、秋学期共に授業はスライドを使用した講義形式で行う。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時には配布資料やビデオ、実験装置を使用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介を行う。
第 2 回	元素の存在比（宇宙）	地球を含めた天体の元素存在比について解説する。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物等の元素存在比について解説する。
第 4 回	結晶構造	物体は３次元的にどのような構造をもつのか解説する。
第 5 回	元素の周期律表	周期律表について解説する。
第 6 回	原子の構造（電子の発見）	電子の発見に関する研究について解説する。
第 7 回	特殊相対性理論	第 6 回に関連して、特殊相対論について解説する。
第 8 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について解説する。
第 9 回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について解説する。
第 10 回	ミクロの世界の不思議	観測問題等、ミクロの世界における不思議について紹介する。
第 11 回	原子核の構造（核子）	原子核構造について解説する。
第 12 回	原子核の構造（同位体）	同位体の存在比等について解説する。
第 13 回	原子核エネルギー	原子核エネルギーについて解説する。
第 14 回	原子核の崩壊	原子核崩壊について、幾つかの例を用いて解説する。
第 15 回	春学期まとめ	春学期をまとめ、秋学期の内容について紹介する。
第 16 回	４つの相互作用	４つの相互作用について解説する。
第 17 回	核分裂・核融合反応	具体的な核分裂・核融合反応について解説する。
第 18 回	核分裂反応の応用	原子炉等について解説する。
第 19 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等について解説する。
第 20 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について解説する。
第 21 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	星の進化、超新星爆発と元素合成について解説する。
第 22 回	太陽ニュートリノ問題	太陽ニュートリノ問題について解説する。
第 23 回	ニュートリノ観測	カミオカンデ等、ニュートリノ観測について紹介する。
第 24 回	ニュートリノ振動	第 22 回に関連して、ニュートリノ振動に関する研究について紹介する。
第 25 回	素粒子（クォークとレプトン）	素粒子の種類や分類について解説する。
第 26 回	素粒子（未発見の粒子）	現在行われている素粒子研究について紹介する。
第 27 回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について解説する。
第 28 回	宇宙の大規模構造	第 27 回に関連して、銀河分布について解説する。

第 29 回	宇宙論	現在研究が進んでいる宇宙論について紹介する。
第 30 回	試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
春学期のレポート 40%、秋学期の期末試験 40%と授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)20%で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

LA268

生命情報科学

月井　雄二

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・5**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物学における情報の果たす役割について，以下の 2 つの異なる視点から紹介します。
I. 情報という視点からみた生命の実像（春学期）
II. 情報技術（IT）の導入により変化しつつある生命科学（秋学期）
　流れは遺伝情報から生物多様性情報へ

【到達目標】
I. 生命活動における情報（主に遺伝情報）の役割について，人間が作り出す言語を中心とした情報，及び，計算機が扱う情報と対比しつつ理解する。
II. 学問としての生命科学じたいも情報集約的な特徴を持っている。それは近年のバイオ研究の隆盛にともない顕著となり，現在は「情報の洪水」が起きている。この情報量の増大に対処するため，情報科学の技術（データベースとインターネット）を取り入れた新しい方法論が生まれつつある。その現状を理解し、各自の専門に役立ててもらう。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行ないます。随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	１年間の講義内容のあらすじを紹介します。
2	情報とは？	講義全体を通じて基礎となる「情報」とは何かを理解する。
3	情報の発現過程（言語）	人が扱う情報の一つである言語について、言語がどのようにしてヒトからヒトへ伝わるかを生物学の視点から紹介する。
4	情報の発現過程（計算機）	キーボードの「a」を押すとどのようにしてモニタに「a」の文字が表示されるのか？、コンピューターが動作する基本的な仕組みを紹介する。
5	コンピュータ誕生の歴史	トランジスタの開発からコンピュータが誕生するまでをビデオで紹介する。
6	情報の発現過程（遺伝情報）	AGTC というわずか４つの記号の並びから、どうやって複雑・多様なタンパク質ができるか、そのしくみを学ぶ。
7	情報の構造（言語／計算機）	言語、および、計算機における情報はどのように構成されているか。言葉と概念、OS とアプリケーションなど。
8	情報の構造（遺伝情報）	AGTC の配列（塩基配列）にはどのような特徴があるか。「たけやぶやけた」（回文構造）、反復配列など。
9	コンピュータ言語と遺伝暗号	コンピュータ情報は 0 と 1、遺伝情報は AGTC というわずかな要素で構成されているにもかかわらず、いずれも複雑・多様な機能を実現している。両者の共通点・相違点を探る。
10	情報の発生機構（言語／計算機）	耳打ちゲームは情報伝達が 100 %正確でないことを楽しむものだが、新しい情報はどうやって生まれるのか、言語＆計算機情報について考える。
11	情報の発生機構（遺伝情報）	突然変異とは、遺伝情報の伝達の誤りを意味する。突然変異の積み重ねが進化だが、これらを情報の発生過程としてとらえ直す。
12	情報系の進化（言語／計算機）	言語については、紙・印刷技術など媒体の変遷を、計算機については、その開発の歴史をたどる。
13	情報系の進化（遺伝情報）	生物の進化過程を情報の視点からとらえ直す。生物は互いに関係しながら全体（地球生態系）として進化してきた。
14	情報系の未来	情報という視点からは、人類社会の未来も生物進化の大きな流れの中にあるととらえることができる。今後人類社会はどうなっていくかを考える。
15	まとめ	半年の講義内容を振り返る。
1	生命科学の基本的特徴	すべての生物には個性がある。ここから生命科学は必然的に情報集約的側面をもつことがわかる。
2	それはゲノム情報学から始まった	DNA（遺伝情報）の研究が進むつれ、情報の洪水が起きた。これに対処するため、生命科学は情報科学の技術・考え方をとりいれざるをえなくなった。

3	科学情報の流通経路／論文ができるまで	科学研究はどのように行われているのか。その実態を紹介する。研究成果をまとめた論文が学術雑誌に掲載されるまで。
4	科学情報の流通経路／研究組織	科学研究はどのように行われているのか。その実態を紹介する。大学、研究会、学会などの実態。
5	情報の作成・収集・管理の方法論	研究に関する情報（論文、素材情報）をどのようにして集め、管理するか。具体的な方法を紹介。
6	コンピュータの夢と現実／～ 1970 年代	ビデオを見て人とコンピュータとの関わりがどう変化してきたかを理解する。最初に見るのは「2001 年宇宙の旅」
7	コンピュータの夢と現実／～ 1980 年代	ビデオを見て人とコンピュータとの関わりがどう変化してきたかを理解する。２番目は「ウォーゲーム」
8	コンピュータの夢と現実／～現在	ビデオを見て人とコンピュータとの関わりがどう変化してきたかを理解する。最後は新電子立国第 9 回「コンピュータ地球網」
9	「思考支援マシン」の系譜	人間がコンピュータに託した夢が現実化してきた過程を学ぶ。インターネットが果たした役割を紹介。
10	生命情報科学がめざすもの	遺伝子情報の増大に対処するため、インターネット上に公開されたデータベースを利用する研究スタイルが生まれた。これにより生命科学のあり方そのものが大きく変化した。
11	分類学における試み／生物多様性情報学の誕生	古くからある生物分類学（生物多様性学）も情報の洪水にあえいでいた。ここでも情報科学が導入されつつある。
12	分類学における試み／実例紹介	私自身の研究もまじえて、生物多様性情報学の具体例を紹介する。
13	ネットワークメディアの問題点	生命科学ではインターネットの利用がさかんになりつつあるが、これには情報の品質管理、保存など様々な問題がある。
14	将来展望／ IT で科学はどう変わるか？	従来、科学は紙を媒体として発展してきたが、新たなネットワークメディアを導入することでどのように変わるか、変わるべきかを論じる。
15	まとめ	１年間の講義を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に連関させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料（冊子）を使用する。

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある。

【成績評価の方法と基準】
基本は春学期・秋学期に提出してもらうレポートだが、この他に出席回数、講義内で提出してもらう様々な文書（ビデオ等の感想、小テストなど）も加え、総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講者が少人数であることが多いため、アンケートは行っていない。替わりに個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めている。

LA252

物質科学

中田　和秀

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類は多くの有用な化学物質をつくりだして利用してきた。近年、科学技術の進歩によって化学物質の性能は飛躍的に上がり、我々の生活は大変便利になってきた。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思える。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を通して、あらためて「物質」について基礎的に考えることをテーマとする。

【到達目標】
本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげる。化学実験を取り入れた本授業をとおして、物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とする。作ったものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すであろう。これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮する。

【授業の進め方と方法】
各テーマごとに実験を取り入れた授業を行う。一つのテーマが複数回にわたるときは、講義や演習だけの日もある。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行う。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれる。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので絶対に遅刻しないこと。遅刻した場合は授業を受けさせない。
ノートをきちんとまとめることは重要である。漫然と板書や実験結果をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。また、ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明し、仮登録作業を行う。
第２回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義する。
第３回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習する。
第４回	石けんの合成 (1)	石けんを合成を通して器具・試薬の取り扱いを習熟する。
第５回	石けんの合成 (2)	合成物の物性を確認し、石けんの生成を確認する。
第６回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義する。
第７回	化学基本事項の説明 (2)	分子において原子同士がどのようなルールによって結合しているか学習する。
第８回	化学基本事項の説明 (3)	電子式・構造式を描く演習を通して化学結合論の理解を深める。
第９回	化学基本事項の説明 (4)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習する。
第１０回	化学基本事項の説明 (5)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにする。
第１１回	化学基本事項の説明 (6)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにする。
第１２回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習する。
第１３回	香料 (ラベンダー) の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出す。
第１４回	香料 (ラベンダー) の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行う。
第１５回	香料 (ラベンダー) の分析 (2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行う。
第１６回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を講義する。
第１７回	定量分析 (1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定する。
第１８回	定量分析 (2)	水道水や天然水の硬度を測定する。
第１９回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習する。
第２０回	けん化価 (1)	油脂の性質を表し石けんを合成する際にも重要な指標となるけん化価について学習する。
第２１回	けん化価の測定 (1)	中和滴定によりけん化価を測定する。３回にわたって測定し精度を確保する。（第１回）
第２２回	けん化価の測定 (2)	中和滴定によりけん化価を測定する。３回にわたって測定し精度を確保する。（第２回）

第２３回	けん化価の測定 (3)	中和滴定によりけん化価を測定する。３回にわたって測定し精度を確保する。(第３回)
第２４回	けん化価 (2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習する。
第２５回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を用いて、オリーブ油石けんを合成する。
第２６回	透明石けんの合成	測定したけん化価を用いて、透明石けんを合成する。
第２７回	アルコール発酵	発酵についてメカニズムを講義すると共に利用分野を調査する。
第２８回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説する。
第２９回	蒸留酒	酒類を実際に蒸留し、蒸留に関する理解を深める。
第３０回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけ早い段階で、プリント教材を通読し授業に望むこと。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行ってレポート作成を行うこと。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配付して授業に用いる。教科書は使用しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回欠かさず出席することは内容を良く理解するために重要である。したがって出席は毎回とり成績に反映させる。また、各テーマごとにレポートを提出させる。その他、平常点を加えて総合的に成績を評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
これまでどおり化学実験を取り入れた授業を行いたい。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合は聴講制限を行うので、受講を希望する場合は第１回目の授業に必ず出席すること。(定員： 30 名)

LA252

イオンの科学

向井　知大

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義と実験を行います。実験回にはレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	電子の性質	電子の特徴と化学結合について
第 4 回	金属とイオン	金属結合の特徴と、金属の溶解について
第 5 回	原子の発光	電子の軌道と光のエネルギー
第 6 回	炎色反応	各種原子固有の光について
第 7 回	水とイオン	イオンに対する水の作用
第 8 回	定性分析１	水中の金属イオンの分離と特定
第 9 回	定性分析２	水中の金属イオンの分離と特定
第 10 回	金属イオンの色	金属イオン周囲の環境変化にともなう色の変化
第 11 回	ホウ砂球反応	ガラス球中で示すイオンの色についての実験
第 12 回	酸と塩基	酸性とアルカリ性の指標について
第 13 回	原子、分子の数	モルの概念とその使い方について
第 14 回	酸塩基指示薬	pH で色が変わる色素分子
第 15 回	中和滴定	水中の物質の濃度を分析する
第 16 回	ガイダンス	春学期の内容の復習と、秋学期の講義計画、実験概要について
第 17 回	酸化と還元	それぞれの定義と、起こる現象について
第 18 回	静電気と動電気	電気研究の転換について
第 19 回	電池の原理	初期の電池の構造と原理について
第 20 回	ボルタの電堆と電池	電極の種類による電池の性能の違いについて
第 21 回	汎用電池の構造	リチウムイオン電池やニッケル水素電池などの構造について
第 22 回	銅板レリーフ	特定の部分だけ銅を溶かして模様を作成する
第 23 回	金色めっき	銅を金色に変える実験
第 24 回	さびの形成と防食	さびとは何か、これを防ぐ方法について
第 25 回	有機分子の構造	有機物質の基本的な構造について
第 26 回	電解めっき	めっきの歴史と、電気を使っためっきの実験
第 27 回	無電解めっき１	銀鏡反応の実験
第 28 回	無電解めっき２	自己触媒型無電解めっきの実験
第 29 回	イオン液体	近年研究が盛んなイオン液体について
第 30 回	まとめ	これまでの内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点および、実験回に課すレポートの内容で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

西村　一帆

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
授業の到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で週１回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。
　授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲームⅠ	さまざまなボールゲームを行う (講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える (講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う (講義と実習)。
5	ネットスポーツⅠ	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う (講義と実習)。
6	ネットスポーツⅡ	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	ネットスポーツⅢ	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う (講義と実習)。
8	ネットスポーツⅣ	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う (講義と実習)。
9	ボールゲームⅡ	バスケットボールを行う (講義と実習)。
10	ボールゲームⅢ	フットサルを行う (講義と実習)。
11	ネットスポーツⅤ	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う (講義と実習)。
12	ネットスポーツⅥ	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。
15	まとめ	健康とスポーツについての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は出席状況、授業態度、試験及びレポート等の項目を総合的に判断して各授業担当教員が評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

西村　一帆

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で週１回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。
　授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ネットスポーツⅠ	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う (講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える (講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いて運動を行う (講義と実習)。
5	ネットスポーツⅡ	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
6	ボールゲームⅠ	バスケットボールを行う (講義と実習)。
7	ネットスポーツⅢ	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う (講義と実習)。
8	ネットスポーツⅣ	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う (講義と実習)。
9	ボールゲームⅡ	フットサルを行う (講義と実習)。
10	ボールゲームⅢ	ドッジボールとユニバーサルホッケーを行う (講義と実習)。
11	ネットスポーツⅤ	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う (講義と実習)。
12	ネットスポーツⅥ	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動Ⅰ	容易なコーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	体作り運動Ⅱ	バランスボールを使ってコーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
15	まとめ	健康とスポーツについての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は出席状況、授業態度、試験及びレポート等の項目を総合的に判断して各授業担当教員が評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

濵口　純一

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 各種スポーツの基本的技術やルールを習得する。
2. 実技教育を通じて個人の人格形成、社会性の育成を図る。（団体スポーツにより協調性を高め、且つ相互理解を深める）
3. 健康・体力の維持・増進に関する実践的能力を養う。
4. スポーツ文化の継承。（スポーツの歴史的、文化的背景について学ぶ）

【到達目標】
講義及び実践を通して、スポーツの必要性・楽しさ・チームワークやコミュニケーションの重要性を理解・体験することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
スポーツ科学は、身体運動の意義や重要性を理解するとともに生涯を通じて身体の自己管理ができるように、総合的なスポーツ及び講義を行う。授業を通して、多岐にわたるスポーツ種目から、基礎体力及び基礎技術を学び、講義では健康に対する基礎的な考え方を学ぶ。また、健康・体力等に関するレポート課題の提出を課す。授業の進捗状況により授業計画の変更もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	全体の概要説明
第 2 回	バドミントンの基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う (実習)
第 3 回	バレーボールの基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う（実習）
第 4 回	バスケットの基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う（実習）
第 5 回	フットサルの基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う（実習）
第 6 回	体力測定の意義	現状の体力を知る（実習＆講義）
第 7 回	卓球の基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う（実習）
第 8 回	バドミントンの試合形式＆講義	試合を通してルールを理解する（実習）
第 9 回	バレーボールの試合形式＆講義	試合を通してルールを理解する（実習）
第 10 回	卓球の試合形式＆講義	試合を通してルールを理解する（実習）
第 11 回	バスケットの試合形式＆講義	試合を通してルールを理解する（実習）
第 12 回	スポーツイベントについての講義	スポーツイベントについて考えレポート作成
第 13 回	スポーツプロモーションについての講義	スポンサー獲得について考えてレポート作成
第 14 回	スポーツプロモーションについての講義	チーム運営について考えレポート作成
第 15 回	体力・健康について	体力・健康の基本的なレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %
2）課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

【その他の重要事項】
スポーツに興味がある学生、積極的な学生の参加を希望します。
実習を伴うために、遅刻をしないこと。
都合により内容が変更になることもあります。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

濵口　純一

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 各種スポーツの基本的技術やルールを習得する。
2. 実技教育を通じて個人の人格形成、社会性の育成を図る（団体スポーツにより協調性を高め、且つ相互理解を深める）。
3. 健康・体力の維持・増進に関する実践的能力を養う。
4. スポーツ文化の継承（スポーツの歴史的、文化的背景について学ぶ）

【到達目標】
講義及び実践を通して、スポーツの必要性・楽しさ・チームワークやコミュニケーションの重要性を理解・体験することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
スポーツ科学は、身体運動の意義や重要性を理解するとともに生涯を通じて身体の自己管理ができるように、総合的なスポーツ及び講義を行う。授業を通して、多岐にわたるスポーツ種目から、基礎体力及び基礎技術を学び、講義では健康に対する基礎的な考え方を学ぶ。また、健康・体力等に関するレポート課題の提出を課す。授業の進捗状況により授業計画の変更もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	全体の概要説明
第 2 回	バドミントンの基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う (実習)
第 3 回	バレーボールの基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う（実習）
第 4 回	バスケットの基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う（実習）
第 5 回	フットサルの基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う（実習）
第 6 回	体力測定の意義	現状の体力を知る（実習＆講義）
第 7 回	卓球の基本及び応用＆講義	ルール説明＆歴史について学び試合形式を行う（実習）
第 8 回	バドミントンの試合形式＆講義	試合を通してルールを理解する（実習）
第 9 回	バレーボールの試合形式＆講義	試合を通してルールを理解する（実習）
第 10 回	卓球の試合形式＆講義	試合を通してルールを理解する（実習）
第 11 回	バスケットの試合形式＆講義	試合を通してルールを理解する（実習）
第 12 回	スポーツイベントについての講義	スポーツイベントについて考えレポート作成
第 13 回	スポーツプロモーションについての講義	スポンサー獲得について考えてレポート作成
第 14 回	スポーツプロモーションについての講義	チーム運営について考えレポート作成
第 15 回	体力・健康について	体力・健康の基本的なレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %
2）課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

【その他の重要事項】
スポーツに興味がある学生、積極的な学生の参加を希望します。
実習を伴うために、遅刻をしないこと。
都合により内容が変更になることもあります。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

兒嶋　昇

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】
本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来る様に、基本となる 6 種類のストロークを習得していく、同時にルールやゲームの組立などを DVD を交えながら知識としても理解を深めていく。

【授業の進め方と方法】
Ⅰ期・・・・基本となるストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。
実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にルールや、ゲームの組み立てなどビデオを交えながら知識としても理解を深めていく。
バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なおⅠ、Ⅱ期連続受講が望ましく、Ⅱ期の授業に関しては、Ⅰ期の授業を受けた者のみ受講を認めることとする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望者理由記入
2	受講者決定	バドミントンの概要 （講義＆実技）
3	基本技術	グリップとスウィング技術習得 （講義＆実技）
4	基本技術	ラケットテクニックの技術習得 （講義＆実技）
5	基本ストローク	ドライブ技術習得（講義＆実技）
6	基本ストローク	ハイクリア技術習得（講義＆実技）
7	基本ストローク	ドロップ＆レシーブ技術習得（講義＆実技）
8	基本ストローク	プッシュ＆レシーブ技術習得（講義＆実技）
9	基本ストローク	スマッシュ、ヘアピン技術習得 （講義＆実技）
10	ルール＆ジャッジ	ダブルスのルール・審判のとり方 (講義)
11	技能の展開	フットワーク （講義＆実技）
12	技能の展開	ダブルスのフォーメイション （講義＆実技）
13	技能の展開	ダブルスのゲーム （講義＆実技）
14	技能の展開	シングルスのゲーム （講義＆実技）
15	実技試験	基本ストローク実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バドミントン技術習得方法として重要な事は、予習や復習での反復練習が大事な要素となる、授業時間内での習得だけではなく授業外でも地域のスポーツセンター等を活用して、予習、復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
『なし』

【成績評価の方法と基準】
個人競技である為Ⅰ期は出席評価の外、技能習得やジャジメントの実技試験も重視したい、Ⅱ期はゲームの勝敗などを参考にする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
１年時のスポーツ総合演習授業以来身体を動かしてスポーツが出来る授業は、このスポーツ科学だけなので思いっきり運動して爽快感を味わっている。
と言う受講生の声が大変に多く寄せられている事に鑑み、実技時間を多く取り入れる様組立てている。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

兒嶋　昇

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】
本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来る様に、基本となる 6 種類のストロークを習得していく、同時にルールやゲームの組立などを DVD を交えながら知識としても理解を深めていく。

【授業の進め方と方法】
Ⅱ期・・・・実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にルールや、ゲームの組み立てなどビデオを交えながら知識としても理解を深めていく。
バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なおⅠ、Ⅱ期連続受講が望ましく、Ⅱ期の授業に関しては、Ⅰ期の授業を受けた者のみ受講を認めることとする。Ⅰ期で習得した基本ストロークを生かし、ダブルス、シングルスをゲーム形式主体で対戦していく。また正確なジャッジ (審判) が出来るようにする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本技術	各ストロークの復習 （講義＆実技）
2	基本技術	基本ストロークの確認（講義＆実技）
3	シングルスの組み立て	シングルスのフットワーク （講義＆実技）
4	シングルスの組み立て	シングルスのゲーム（講義＆実技）
5	シングルスの組み立て	シングルスのポジショニング（講義＆実技）
6	ダブルスゲームの組み立て	ビデオ等による学習 (講義)
7	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション（講義＆実技）
8	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション：トップ&バック（講義＆実技）
9	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション：サイドバイサイド（講義＆実技）
10	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション：ローテーション技術（講義＆実技）
11	ダブルスゲームの競技審判	ダブルスのジャッジメント（講義＆実技）
12	ダブルスゲームの技術展開	ダブルス：トーナメントゲーム（講義＆実技）
13	トリプルスの技術展開	トリプルスのフォーメーション（講義＆実技）
14	トリプルスのゲーム展開	トリプルスのゲーム（講義＆実技）
15	実技試験	各競技の技術試験：ジャッジメントを含む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バドミントン技術習得方法として重要な事は、予習や復習での反復練習が大事な要素となる。
授業時間内での学習だけでなく授業外でも地域のスポーツセンター等を活用して予習、復習の反復練習をする事が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
『なし』

【成績評価の方法と基準】
個人競技である為Ⅰ期は出席評価の外、技能習得やジャジメントの実技試験も重視したい、Ⅱ期はゲームの勝敗などを参考にする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
１年時のスポーツ総合演習授業以来身体を動かしてスポーツが出来る授業は、このスポーツ科学だけなので思いっきり運動して爽快感を味わっている。
と言う受講生の声が大変に多く寄せられている事に鑑み、実技時間を多く取り入れる様組立てている。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

小西　真幸

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツレクリエーションⅠ（健康増進とコミュニケーション能力の向上）

【到達目標】
1. スポーツによる心身の健康増進効果や社会性の向上効果の理論的背景を理解し、スポーツが自他の健康増進や学生生活および社会生活の質の向上に寄与することを理解できる。
2. 自他の健康増進や学生生活および社会生活の質の向上に向けて、スポーツに積極的に取り組み、自らの生活にスポーツを取り入れることが出来る。
3. 自他の健康増進に必要なスポーツ活動を認識し、実践する能力を獲得できる。また、学生生活や社会生活の質の向上に必要なコミュニケーション能力、協調性などを獲得できる。

【授業の進め方と方法】
本授業での講義と実技を通して、スポーツが①心身の健康に与える効果、②学生間の親睦を深める効果、③社会で活躍するうえで必要な能力を向上させる効果、について理解を深め、方法を獲得する。そのため、種々の能力の獲得状況について考察するレポートを課す。さらに、自己の体力・健康度を把握する目的から、体力測定の結果を考察するレポートも課す。なお、受講者数、男女比、進捗状況等により授業計画の変更もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要説明、受講生の決定等
2	レクリエーション	実技と講義を通してスポーツによるコミュニケーション能力の育成について学ぶ
3	体力測定	体力測定の意義の説明と実施
4	レジスタンストレーニング	目的に応じた効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ
5	ソフトバレーボールⅠ	実技と講義を通してソフトバレーボールの戦術と基礎的技術について学ぶ
6	ソフトバレーボールⅡ	実技と講義を通してチーム力向上に資する役割分担の決定と課題抽出作業を行う
7	卓球Ⅰ	実技と講義を通して卓球の特性と基礎的技術について学ぶ
8	卓球Ⅱ	実技と講義を通してダブルスの特性について学ぶ
9	バスケットボールⅠ	実技と講義を通してバスケットボールの特性と基礎的技術について学ぶ
10	バスケットボールⅡ	実技と講義を通してチーム力向上に資する役割分担の決定と課題抽出作業を行う
11	健康増進運動Ⅰ	実技と講義を通して健康増進に適したウォーキング方法の学習と実践を行う
12	健康増進運動Ⅱ	実技と講義を通してストレッチの理論と方法を学ぶ
13	フットサルⅠ	実技と講義を通してフットサルの特性と基礎的技術について学ぶ
14	フットサルⅡ	実技と講義を通してチーム力向上に資する役割分担の決定と課題抽出作業を行う
15	総括	体力測定の解説、春学期に習得した知識および技術の確認、レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 心身の健康への意識を高めるため、食事、睡眠についての生活習慣記録、スポーツ実施回数・内容の記録をすることが望ましい。
2. コミュニケーションスキル等の向上を目指した取り組みを日常生活で実践する。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】
出席点（45 %）、レポート課題（30 %）、技能・マナー・態度・服装（25 %）により総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
スポーツによる心身の健康増進効果に関する理論的背景の獲得を目指す。

【その他の重要事項】
1. スポーツ科学Ⅰ・Ⅱの通年履修が望ましい。
2. 春学期の初回授業時に、スポーツ科学Ⅰ・Ⅱの受講者を決定する。
3. 出席を重視する。
4. スポーツの持つ健康・社会的役割および体力測定に関するレポート課題の提出を単位認定条件とする。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

小西　真幸

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツレクリエーションⅡ (自主性とマネジメント力の獲得)

【到達目標】
1. 心身の健康増進や社会性の向上にスポーツが寄与することを理解できる。
2. 健康増進に必要なスポーツについて意見を述べることができる。
3. スポーツのトレーニング効果について理解することができる。
4. 履修したスポーツ種目のルール、マナー、用具、施設および技術等について説明できる。
5. 相互に協力して履修したスポーツ種目の練習やゲーム運営を安全におこなうことができる。

【授業の進め方と方法】
本授業での講義と実技を通して、スポーツが①心身の健康に与える効果、②学生間の親睦を深める効果、③社会で活躍するうえで必要な能力を向上させる効果、について理解を深め、グループワークを取り入れながら様々なスポーツ種目を適切かつ安全に運営する方法を獲得する。そのため、種々の能力の獲得状況について考察するレポートを課す。さらに、体力・健康度を把握する目的から、体力測定の結果を考察するレポートも課す。なお、受講者数、男女比、進捗状況等により授業計画の変更もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要説明、受講者数の再調整等
2	アルティメットⅠ	実技と講義を通してアルティメットの特性と基礎技術について学ぶ
3	アルティメットⅡ	実技と講義を通してチーム力向上に資する役割分担の決定と課題抽出作業を行う
4	健康増進運動Ⅰ	実技と講義を通して健康増進に適したウォーキングの指導方法を習得する
5	健康増進運動Ⅱ	実技と講義を通してレジスタンス運動と有酸素運動の組み合わせ方の指導方法を習得する
6	バドミントンⅠ	実技と講義を通してバドミントンの特性と技術について学ぶ
7	バドミントンⅡ	実技と講義を通してゲーム運営の方法を学び、実践する
8	卓球Ⅰ	実技と講義を通して卓球の戦術と技術について理解を深める
9	卓球Ⅱ	実技と講義を通してゲーム運営の方法を学び、実践する
10	ユニホックⅠ	実技と講義を通してユニホックの特性と基礎技術について学ぶ
11	ユニホックⅡ	実技と講義を通してチーム力向上に資する役割分担の決定と課題抽出作業を行う
12	体力測定	体力測定の意義の説明と実施
13	フットサルⅠ	実技と講義を通してフットサルのチーム戦術と技術について理解を深める
14	フットサルⅡ	実技と講義を通してゲーム運営の方法を学び、実践する
15	総括	体力測定の解説、秋学期に習得した知識および技術の確認、レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 心身の健康への意識を高めるため、食事、睡眠についての生活習慣記録、スポーツ実施回数・内容の記録をすることが望ましい。
2. 自主性やマネジメント力等の向上を目指した取り組みを日常生活で実践する。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】
出席点（45 %）、レポート課題（30 %）、技能・マナー・態度・服装（25 %）により総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
スポーツによる社会性の向上効果に関する理論的背景の獲得を目指す。

【その他の重要事項】
1. スポーツ科学Ⅰ・Ⅱの通年履修が望ましい。
2. 春学期の初回授業時に、スポーツ科学Ⅰ・Ⅱの受講者を決定する。
3. 出席を重視する。
4. スポーツと社会生活および体力測定に関するレポート課題の提出を単位認定条件とする。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

朝比奈　茂

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪について詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことを理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概要することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【授業の進め方と方法】
スポーツ・ウォーキングは、携帯アプリケーションを活用して授業を展開する。いくつかのグループに分け、大学周辺をコースとして実践する。雨天の場合は室内で実施する場合もある。
ヨガは解剖学を中心とした実戦形式で行う。
教室で行う講義は、DVD やプロジェクターを用いて行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定（講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	体力と健康（講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングⅠ（講義および実習）	スポーツ・ウォーキングについて概説し、身体における効用について説明し、大学周辺を実践する。
5	スポーツ・ウォーキングⅡ（講義および実習）	基本技術を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガⅠ（講義および実習）	ヨガについて概説し、基本のポーズと解剖学を説明する。
7	ヨガⅡ（講義および実習）	基本ポーズとその解剖学について説明し、実践する。
8	スポーツ・ウォーキングⅢ（講義および実習）	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら実践する。特に走り型にならないように注意する。
9	スポーツ・ウォーキングⅣ（講義および実習）	バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
10	ヨガⅢ（講義および実習）	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。呼吸法について説明し実践する。
11	スポーツ・ウォーキングⅤ（講義および実習)）	携帯アプリケーションを活用して、移動距離数から身体活動に関わるエネルギー消費を検討する。
12	ヨガⅣ（講義および実習）	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。呼吸法について説明し実践する。
13	ヨガⅤ（講義および実習）	基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。Meditation（瞑想）の方法を説明する。
14	スポーツ・ウォーキングⅥ（講義および実習）	坂道（登り坂、下り坂）の歩き方を理解し実践する。

１５	スポーツ医学について （講義） 総括	スポーツ傷害について説明し、正しいアイシングの方法や効果について説明する。 ウォーキングやヨガが、自律神経におよぼす影響について説明する。 授業の総括として、質疑応答および意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこととする。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 % 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【その他の重要事項】
1. 本講義は平常点を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

朝比奈　茂

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪について詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことを理解できる。
2. コンディショニングの必要性を理解できる。
3. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
4. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
5. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
6. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
7. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
8. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
9.Meditation（瞑想）について概要することができる。
10. 体力測定の意義を説明できる。

【授業の進め方と方法】
スポーツ・ウォーキングは、携帯アプリケーションを活用して授業を展開する。いくつかのグループに分け、大学周辺をコースとして実践する。雨天の場合は室内で実施する場合もある。
ヨガは解剖学を中心とした実戦形式で行う。
教室で行う講義は、DVD やプロジェクターを用いて行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	コンディショニングについて （講義）	コンディショニングの役割を示し、ウォーミングアップやクーリングダウンの重要性および生理的特徴を説明する。
3	スポーツ・ウォーキングⅠ （講義および実習）	スポーツ・ウォーキングについて概説し、身体における効用について理解し、大学周辺を実践する。
4	スポーツ・ウォーキングⅡ （講義および実習）	基本技術を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を実践する。
5	スポーツ・ウォーキングⅢ （講義および実習）	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら実践する。特に走り型にならないように注意する。
6	ヨガⅠ （講義および実習）	ヨガについて概説し、基本のポーズと解剖学を説明する。
7	ヨガⅡ （講義および実習）	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングⅣ （講義および実習）	バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングⅤ	携帯アプリケーションを活用して、移動距離数から身体活動に関わるエネルギー消費を検討する。
１０	ヨガⅢ （講義および実習）	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。 呼吸法について説明し実践する。
１１	スポーツ・ウォーキングⅥ （講義および実習）	坂道（登り坂、下り坂）の歩き方を理解し実践する。
１２	ヨガⅣ （講義および実習）	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。 呼吸法について説明し実践する。
１３	ヨガⅤ （講義および実習）	基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。 Meditation（瞑想）の方法を説明する。
１４	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
１５	体力と健康 （講義） 総括	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 体力と健康との関わりについて理解する。 授業の総括として、質疑応答および意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこととする。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 % 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【その他の重要事項】
1. 本講義は平常点を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

兒嶋　昇

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・1**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】
本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来る様に、基本となる 6 種類のストロークを習得していく、同時にルールやゲームの組立などを DVD を交えながら知識としても理解を深めていく。

【授業の進め方と方法】
Ⅰ期・・・・基本となるストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。
実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にルールや、ゲームの組み立てなどビデオを交えながら知識としても理解を深めていく。
バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なおⅠ、Ⅱ期連続受講が望ましく、Ⅱ期の授業に関しては、Ⅰ期の授業を受けた者のみ受講を認めることとする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望者理由記入
2	受講者決定	バドミントンの概要 （講義＆実技）
3	基本技術	グリップとスウィング技術習得 （講義＆実技）
4	基本技術	ラケットテクニックの技術習得 （講義＆実技）
5	基本ストローク	ドライブ技術習得（講義＆実技）
6	基本ストローク	ハイクリア技術習得（講義＆実技）
7	基本ストローク	ドロップ＆レシーブ技術習得（講義＆実技）
8	基本ストローク	プッシュ＆レシーブ技術習得（講義＆実技）
9	基本ストローク	スマッシュ、ヘアピン技術習得 （講義＆実技）
10	ルール＆ジャッジ	ダブルスのルール・審判のとり方 (講義)
11	技能の展開	フットワーク （講義＆実技）
12	技能の展開	ダブルスのフォーメイション （講義＆実技）
13	技能の展開	ダブルスのゲーム （講義＆実技）
14	技能の展開	シングルスのゲーム （講義＆実技）
15	実技試験	基本ストローク実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バドミントン技術習得方法として重要な事は、予習や復習での反復練習が大事な要素となる、授業時間内での習得だけではなく授業外でも地域のスポーツセンター等を活用して、予習、復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
『なし』

【成績評価の方法と基準】
個人競技である為Ⅰ期は出席評価の他、技能習得やジャジメントの実技試験も重視したい、Ⅱ期はゲームの勝敗などを参考にする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
１年時のスポーツ総合演習授業以来身体を動かしてスポーツが出来る授業は、このスポーツ科学だけなので思いっきり運動して爽快感を味わっている。
と言う受講生の声が大変に多く寄せられている事に鑑み、実技時間を多く取り入れる様組立てている。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

兒嶋　昇

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・1**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】
本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来る様に、基本となる 6 種類のストロークを習得していく、同時にルールやゲームの組立などを DVD を交えながら知識としても理解を深めていく。

【授業の進め方と方法】
Ⅱ期・・・・実技においては、最終的にダブルス、シングルスのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にルールや、ゲームの組み立てなどビデオを交えながら知識としても理解を深めていく。
バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なおⅠ、Ⅱ期連続受講が望ましく、Ⅱ期の授業に関しては、Ⅰ期の授業を受けた者のみ受講を認めることとする。Ⅰ期で習得した基本ストロークを生かし、ダブルス、シングルスをゲーム形式主体で対戦していく。また正確なジャッジ (審判) が出来るようにする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本技術	各ストロークの復習 （講義&実技）
2	基本技術	基本ストロークの確認（講義&実技）
3	シングルスの組み立て	シングルスのフットワーク （講義&実技）
4	シングルスの組み立て	シングルスのゲーム（講義&実技）
5	シングルスの組み立て	シングルスのポジショニング（講義&実技）
6	ダブルスゲームの組み立て	ビデオ等による学習 (講義)
7	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション（講義&実技）
8	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション：トップ&バック（講義&実技）
9	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション：サイドバイサイド（講義&実技）
10	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション：ローテーション技術（講義&実技）
11	ダブルスゲームの競技審判	ダブルスのジャッジメント（講義&実技）
12	ダブルスゲームの技術展開	ダブルス：トーナメントゲーム（講義&実技）
13	トリプルスの技術展開	トリプルスのフォーメーション（講義&実技）
14	トリプルスのゲーム展開	トリプルスのゲーム（講義&実技）
15	実技試験	各競技の技術試験：ジャッジメントを含む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バドミントン技術習得方法として重要な事は、予習や復習での反復練習が大事な要素となる。
授業時間内での学習だけでなく授業外でも地域のスポーツセンター等を活用して予習、復習の反復練習をする事が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
『なし』

【成績評価の方法と基準】
個人競技である為Ⅰ期は出席評価の他、技能習得やジャジメントの実技試験も重視したい、Ⅱ期はゲームの勝敗などを参考にする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
１年時のスポーツ総合演習授業以来身体を動かしてスポーツが出来る授業は、このスポーツ科学だけなので思いっきり運動して爽快感を味わっている。
と言う受講生の声が大変に多く寄せられている事に鑑み、実技時間を多く取り入れる様組立てている。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

吉田　康伸

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
女子学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】
①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を得る。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって、身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せて、ルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。
なお、本授業は女子学生を対象としており、Ⅰ・Ⅱ連続の受講が望ましい。また、未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習＆講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習＆講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習＆講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習＆講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習＆講義）	コートの位置取りや実際の動き方などフォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習＆講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習＆講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習＆講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 14 回	集団的技術・ゲーム⑤（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 15 回	筆記試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習に当たっては、運動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、基本的なルールや技術に必要な要点など、各自で行った内容を理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況と授業態度（60 %）を主な基準として、筆記試験（40 %）を加味し評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
　必要に応じてビデオ機器を使用する。

【その他の重要事項】
　対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）、ならびに公開科目を受講可能な女子学生とする。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

吉田　康伸

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　女子学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの特性の違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】
　①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
　②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
　③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
　④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【授業の進め方と方法】
　バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって、身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
　実習では、春学期Ⅰで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。また、ビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。
　なお、本授業（Ⅱ）は女子学生を対象としており、原則的としてⅠを受講した者のみ、受講を認めることとする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	バレーボールのトレーニングについて（実習＆講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、トレーニング実習を行う。
第 2 回	ビーチバレーの紹介（講義）	ビーチバレーのルールやインドアバレーとの違いについて理解する。
第 3 回	基本技術、集団的技術の復習（実習＆講義）	Ⅰ期で行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第 4 回	各技術の応用（実習＆講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 5 回	集団的技術・ゲーム①（実習＆講義）	Ⅰ期とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 6 回	集団的技術・ゲーム②（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。連携プレーなどⅠ期よりも質の高いプレーを目指し、ゲームでの反省点も理解する。
第 7 回	集団的技術・ゲーム③（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術・ゲーム④（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術・ゲーム⑤（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術・ゲーム⑥（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術・ゲーム⑦（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	集団的技術・ゲーム⑧（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 13 回	集団的技術・ゲーム⑨（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 14 回	実技試験（実習＆講義）	授業で行ってきた各技術の要点を振り返り、実技試験を行う。
第 15 回	レポート作成、提出	授業内でレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　実習に当たっては、運動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
　また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力的要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

【テキスト（教科書）】
　特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
　必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　授業への参画状況と授業態度（70 %）を主な基準として、レポート（30 %）を加味し評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実践による楽しさの実感を最大の目標にしつつ、本授業で他者とのコミュニケーションをより積極的に図るとともに、バレーボールの特性について理解を深められるような環境づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてビデオ機器を使用する。

【その他の重要事項】
対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）、ならびに公開科目を受講可能な女子学生とする。

LA224

スポーツ科学 I

小谷　究

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

【到達目標】
1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。　2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。　3. レイアップシュートの基本フォームを習得し、シュートを決めることができる（技能）。　4. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

【授業の進め方と方法】
実技では、鬼ごっこ等を活用したウォームアップから始まり、前半は技術ドリルを行い、後半はドリルをもとにゲームを行う。最後にスタティックストレッチによるクールダウンを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の概要説明、安全に関するルールについての説明
第 2 回	ボールコントロールに関する技能の練習①	ボールハンドリング
第 3 回	ボールコントロールに関する技能の練習②	ドリブル
第 4 回	ボールコントロールに関する技能の練習③	パス
第 5 回	ボールコントロールに関する技能の練習④	セットショット
第 6 回	トレーニング理論	バスケットボール競技に特異的なトレーニング
第 7 回	運動と水分補給	プロジェクト・ウェットのアクティビティーを用いて、運動中の水分補給の重要性について理解する。
第 8 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 9 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 10 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑤	ゴール下ジャンプショット
第 11 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑥	レイアップショット
第 12 回	知識確認①	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認
第 13 回	知識確認②	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認
第 14 回	技能確認①	レイアップシュートの技能確認
第 15 回	技能確認②	レイアップシュートの技能確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。
到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。
到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（最大 15%まで）。
到達目標 3 の「技能」に関しては、技能試験を行い評価する（20%）。
到達目標 4 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

小谷　究

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

【到達目標】
1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。　2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。　3. ドリブルチェンジからのレイアップシュートの基本フォームを習得し、シュートを決めることができる（技能）。　4. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

【授業の進め方と方法】
実技では、鬼ごっこ等を活用したウォームアップから始まり、前半は技術ドリルを行い、後半はドリルをもとにゲームを行う。最後にスタティックストレッチによるクールダウンを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の概要説明、安全に関するルールについての説明
第 2 回	個人戦術	1on1
第 3 回	グループ戦術	2on2
第 4 回	グループ戦術	3on3
第 5 回	チーム戦術	5on5
第 6 回	トレーニング理論	クリーンの理論と実践
第 7 回	チームスポーツ	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
第 8 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 9 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 10 回	技能確認①	ドリブルチェンジからのレイアップシュートの確認
第 11 回	技能確認②	ドリブルチェンジからのレイアップシュートの確認
第 12 回	チームスポーツ	マシュマロチャレンジを用いて、チームスポーツ及びチームにおける協力の重要性を理解する。
第 13 回	知識確認①	バスケットボール競技のルールの確認
第 14 回	知識確認②	バスケットボール競技のルールの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。
到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。
到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（最大 15%まで）。
到達目標 3 の「技能」に関しては、技能試験を行い評価する（20%）。
到達目標 4 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

中澤　史

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パフォーマンスの向上，ボディメイク，ダイエット，健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し，独自のトレーニングプログラムを考案する。また，主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが，心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】
1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが，身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【授業の進め方と方法】
講義と体験的学習を通してトレーニングの基礎的な理論および方法を習得し，独自のトレーニングプログラムを作成する。適宜行うプレゼンテーションやグループワークを通して，各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深める。授業内で測定・収集するトレーニング記録等を主な分析資料とし，トレーニングの目標，進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーおよびレポート課題に取り組む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明，受講者の決定
2	トレーニングの導入（講義及び実習）	トレーニングの原理・原則について学ぶ，トレーニングセンター利用に関する安全講習の実施
3	人体の構造	人体の筋肉構造について学ぶ，トレーニング計画に関するプレゼンテーション
4	体組成	体脂肪・BMI・基礎代謝について学ぶ，トレーニング計画に関するプレゼンテーション
5	栄養	食事とサプリメントについて学ぶ，トレーニング計画に関するプレゼンテーション
6	睡眠	トレーニングと睡眠の関係について学ぶ
7	リカバリーレートと超回復（講義及び実習）	疲労と回復のサイクルを把握する
8	トレーニングの進め方（講義及び実習）	トレーニングの体験的学習・測定・記録
9	無酸素運動（講義及び実習）	無酸素運動の体験的学習・測定・記録
１０	有酸素運動（講義及び実習）	有酸素運動の体験的学習・測定・記録
１１	体幹のトレーニング（講義及び実習）	体幹のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１２	上肢のトレーニング（講義及び実習）	上肢のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１３	下肢のトレーニング（講義及び実習）	下肢のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１４	筋力・瞬発力アップを目的としたトレーニング（講義及び実習）	筋力・瞬発力アップを目的としたトレーニングの体験的学習・測定・記録
１５	総括	授業のまとめ，レポートの作成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
トレーニング効果促進のため，食事，休養，睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価する。
1. 授業への参画状況： 50 %。授業への参画状況とは，単に出席していることを意味するのではなく，授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。
2. 各授業で取り組むリアクションペーパー，適宜課すレポートおよびプレゼンテーション： 50 %。
3. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となります。そのため，通年での受講をおすすめします。

【その他の重要事項】
1. 初回授業時に受講者を決定する。
2. 教場の関係から，受講者数は 40 名程度とする。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 1 階・会議室の予定である。
4. 上記の授業計画は変更される場合がある。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

中澤　史

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パフォーマンスの向上，ボディメイク，ダイエット，健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し，独自のトレーニングプログラムを考案する。また，主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが，心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】
1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが，身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【授業の進め方と方法】
講義と体験的学習を通してトレーニングの実践的な理論および方法を習得し，効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを作成する。適宜行うプレゼンテーションやグループワークを通して，各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め，スポーツ科学Ⅰにおいて考案したトレーニングプログラムに修正を施す。授業内で測定・収集するトレーニング記録等を主な分析資料とし，トレーニングの目標，進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーおよびレポート課題に取り組む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明，受講者の決定
2	導入（講義及び実習）	オリジナルプログラムの再考，安全講習
3	RM 法	RM 法について学ぶ，トレーニング計画に関するプレゼンテーション
4	ピラミッド法	ピラミッド法について学ぶ，トレーニング計画に関するプレゼンテーション
5	オーバーロード	オーバーロードについて学ぶ，トレーニング計画に関するプレゼンテーション
6	胸部のトレーニング（講義及び実習)）	胸部のトレーニングの体験的学習・測定・記録
7	肩部のトレーニング（講義及び実習）	肩部のトレーニングの体験的学習・測定・記録
8	上背のトレーニング（講義及び実習）	上背のトレーニングの体験的学習・測定・記録
9	下背のトレーニング（講義及び実習）	下背のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１０	上腕のトレーニング（講義及び実習）	上腕のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１１	前腕のトレーニング（講義及び実習）	前腕のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１２	腹部のトレーニング（講義及び実習）	腹部のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１３	大腿のトレーニング（講義及び実習）	大腿のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１４	下腿のトレーニング（講義及び実習）	下腿のトレーニングの体験的学習・測定・記録
１５	総括	授業のまとめ，レポートの作成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
トレーニング効果促進のため，食事，休養，睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価する。
1. 授業への参画状況： 50 %。授業への参画状況とは，単に出席していることを意味するのではなく，授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。
2. 各授業で取り組むリアクションペーパー，適宜課すレポートおよびプレゼンテーション： 50 %。
3. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となります。そのため，通年での受講をおすすめします。

【その他の重要事項】
1. スポーツ科学Ⅰからの継続履修が望ましい。

2. 初回授業時に受講者を決定する。
3. 教場の関係から，受講者数は 40 名程度とする。
4. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 1 階・会議室の予定である。
5. 上記の授業計画は変更される場合がある。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

濵口　純一

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
種目はバレーボール（男子学生対象）を行い、チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、ルールや各技術の正しいやり方等の知識も理解出来るよう、実習及び講義を進めていく。

【到達目標】
①バレーボールのルールや各技術の正しいやり方等の知識を理解する。
②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
③基本技術の習得をし、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るようにする。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自由にコントロールしていく能力を身につけ、技能を高めると共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習においては三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るように、基本となるパスやスパイク等の個人技術の習得をしながら、チームを編成して試合を行っていく。
同時にルールや試合の組み立て方、各技術の正しいやり方等、知識としても理解を深めていく。
経験者以外でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
Ⅰ期・Ⅱ期連続受講が望ましい。またこの授業は男子学生を対象とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習＆講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習＆講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習＆講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習＆講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習＆講義）	コートの位置取りや実際の動き方などフォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習＆講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習＆講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習＆講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 14 回	集団的技術・ゲーム⑤（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 15 回	筆記試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また基本的なルールや技術的に必要な要点等、各回で行ったことを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %
2）課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実践による楽しさは実感出来ているようなので、さらにバレーボールの競技特性をしっかり理解してもらうことを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてビデオ機器を使用する。

【その他の重要事項】
対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）及び公開科目受講可能な男子学生とする。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

濵口　純一

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
種目はバレーボール（男子学生対象）を行い、チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、ビーチバレーとインドアバレーの特性の違い等の知識も理解出来るよう、実習及び講義を進めていく。

【到達目標】
①バレーボールの中で、ビーチバレーとインドアバレーの特性の違い等の知識を理解する。
②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るようにする。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技能、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自由にコントロールしていく能力を身につけ、技能を高めると共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習においてはⅠ期で習得した技術や知識をもとにチームを編成して試合を中心に進めていく。
またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニング等も紹介して、さらに知識を深めていく。
Ⅱ期に関しては基本的にⅠ期を受講した者のみ受講を認めることとする。またこの授業は男子学生を対象とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	バレーボールのトレーニングについて（実習＆講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、トレーニング実習を行う。
第 2 回	ビーチバレーの紹介（講義）	ビーチバレーのルールやインドアバレーとの違いについて理解する。
第 3 回	基本技術、集団的技術の復習（実習＆講義）	Ⅰ期で行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第 4 回	各技術の応用（実習＆講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 5 回	集団的技術・ゲーム①（実習＆講義）	Ⅰ期とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 6 回	集団的技術・ゲーム②（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。連携プレーなどⅠ期よりも質の高いプレーを目指し、ゲームでの反省点も理解する。
第 7 回	集団的技術・ゲーム③（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術・ゲーム④（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術・ゲーム⑤（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術・ゲーム⑥（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術・ゲーム⑦（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	集団的技術・ゲーム⑧（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 13 回	集団的技術・ゲーム⑨（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 14 回	実技試験（実習＆講義）	授業で行ってきた各技術の要点を振り返り、実技試験を行う。
第 15 回	レポート作成、提出	授業内でレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
またバレーボールに必要な体力要素やビーチバレーとインドアバレーの違い等を理解し、試合のテレビ放送観戦等でバレーボール全般についてもより深く理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %

2）課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実践による楽しさは実感出来ているようなので、他者とのコミュニケーションを一層図り、さらにバレーボールの特性をしっかりと理解してもらうことを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてビデオ機器を使用する。

【その他の重要事項】
対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）及び公開科目受講可能な男子学生とする。

LA224

スポーツ科学Ⅰ

笠井　淳

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識に習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（員頼関係構築や共同行動力など）の育成につながる種々のスキル獲得を図る。

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目である。第１回目の授業において選抜を行う。
主にトレーニングセンターや、体育館内の施設を使用しての実習、や教室での講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、課題レポートの評価を総合的に判定して単位を授与する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業内容について説明する
第２回	球技運動について	準備運動の重要性及び球技の実践について説明する（講義と実践）
第３回	球技運動について	球技の基本技術の習得及びスポーツ実践のマナーについて説明する（講義と実践）
第４回	ヨガ及びストレッチングについて	ヨガについての呼吸法及び実践について説明する（講義と実践）
第５回	体力及び健康について	体力及び健康の考え方について説明する（講義）
第６回	フィットネス及びレジスタンストレーニングについて	フィットネス及びレジスタンストレーニングの理論について説明する（講義）
第７回	体力測定について	体力測定の意義と実践について説明する（講義と実践）
第８回	レジスタンストレーニングについて	レジスタンストレーニングのやり方及び実践について説明する（講義と実践）
第９回	レジスタンストレーニングについて	レジスタンストレーニングのやり方及び実践について説明する（講義と実践）
第１０回	レジスタンストレーニングについて	レジスタンストレーニングのやり方及び実践について説明する（講義と実践）
第１１回	運動の効果について	運動の効果について説明する（講義）
第１２回	有酸素運動について	有酸素運動の理論及びやり方について説明する（講義と実践）
第１３回	バランス運動について	バランス運動のやり方について説明する（講義と実践）
第１４回	栄養摂取と睡眠について	栄養摂取と睡眠について説明する（講義）
第１５回	球技運動	球技の実践を通して、コミュニケーション及びリーダシップの重要性について説明する（講義と実践）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること
特に毎日の体重管理、睡眠時間の確保を心がけること
栄養に関して興味を持つこと

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況・授業態度７０％
２）課題・レポート３０％の配分として総合評価する
この成績評価方法は原則的なものであり、見学者や特別な理由による欠席に対して　は、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい
受講者のニーズに合った内容を選択したい

【その他の重要事項】
進捗状況により、内容の変更もあります

LA224

スポーツ科学Ⅱ

笠井　淳

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目である。
主にトレーニングセンターや体育館内の施設及び教室を使用し、数種目のスポーツ　実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、　課題レポートの評価を総合的に判定し単位を授与する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業内容について説明する
第２回	球技運動について	球技運動のやり方について説明する（講義と実践）
第３回	球技運動について	球技運動のやり方について説明する（講義と実践）
第４回	ヨガ及びストレッチングについて	ヨガ及びストレッチングについて説明する（講義と実践）
第５回	レジスタンストレーニングについて	レジスタンストレーニングの理論について説明する（講義）
第６回	有酸素運動について	有酸素運動の理論及びやり方について説明する（講義と実践）
第７回	フィットネス＆レジスタンストレーニングについて	フィットネス＆レジスタンストレーニングのやり方について説明する（講義と実践）
第８回	フィットネス＆レジスタンストレーニングについて	フィットネス＆レジスタンストレーニングのやり方について説明する（講義と実践）
第９回	フィットネス＆レジスタンストレーニングについて	フィットネス＆レジスタンストレーニングのやり方について説明する（講義と実践）
第１０回	フィットネス＆レジスタンストレーニングについて	フィットネス＆レジスタンストレーニングのやり方について説明する（講義と実践）
第１１回	有酸素運動について	有酸素運動のやり方について説明する（講義と実践）
第１２回	体力測定について	体力測定の実施と評価について説明する（講義と実践）
第１３回	バランス運動について	バランス運動のやり方について説明する（講義と実践）
第１４回	疲労回復について	疲労回復について説明する（講義）
第１５回	球技運動	球技の実践を通してコミュニケーション及びリーダーシップについて説明する（講義と実践）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実　践すること
特に、毎日の体重管理、睡眠時間の確保に心がけること。
栄養に関して興味を持つこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況・授業態度７０％
２）課題・レポート３０％の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、見学者、特別な理由による欠席者に対し　ては、個別に対応・評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

受講者のニーズに合った内容を選択したい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によっては、授業計画の変更もある

LA224

スポーツ科学Ⅰ

伊藤　マモル

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・3**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は２年生以上を対象に開講されます。１年次のスポーツ総合演習よりも専門性を少々高めた内容です。
具体的には”健康（Wellness）・体力づくり（Fitness）・理想の身体づくり（Bodymake）・パフォーマンスの向上（Virtuoso performance）”などに必要な身体トレーニングの知識（１：人間の身体的構造や適応能力、２：各種トレーニングにおける考え方や方法など）を学び、その体験や実習を通じて実践力を養います。
そして、受講者の皆さんが抱く個々の目標達成に取り組むための素養として、人生の様々なステージに応じた適時適切な身体トレーニングの計画立案やプログラムの作成ができるようなることを目指します。

【到達目標】
１．身体トレーニングの意義を説明できる
２．身体トレーニングの効果を５つ程度列挙できる
３．人体を構成する主な骨格や筋肉などの名称を述べることができる
４．エネルギーの摂取と消費バランスについて解説できる
５．身体トレーニングの効果を高めるための原理・原則を解説できる
６．身体トレーニングのリスク対策を講じる方法について述べることができる
７．トレーニング中に起こり得る代表的なスポーツ傷害名を３つ程度列挙できる
８．トレーニング中の救急時に必要な処置を選択することができる
９．基礎的なトレーニングを安全に実践できる
10．目標に適したトレーニングプログラムを考案できる
１１．トレーニング効果の分析について代表的な方法を３つ程度述べることができる

【授業の進め方と方法】
「誰でもできる○○○ダイエット」、「楽で簡単に体脂肪が落ちる」、「部分痩せができる」などの誤った情報が飛び交っています。しかし、本授業では実習を可能な限り取り入れ、講義だけに偏らない体験型実践的学習を通じて、難解なイメージがある解剖学、運動整理生化学、運動力学、栄養学、スポーツ医学などのエッセンスを日常で起こる身近な事象を例にして解説します。
〔授業を構成する３つの柱〕
１回目の授業ではガイダンスを行い、20 名前後の受講者を確定します。２回目からは次の４つの大枠に分けて授業を進めます。
１．今の自分を知る
２．基礎トレーニングプログラム
３．応用トレーニングプログラム
４．総括フィットネスチェック
「１．今の自分を知る」では、自分自身の健康や体力を知るための測定と評価を通じて、今後のトレーニング課題を明確にします。
「２．基礎とレーニングプログラム」では、人間の身体的構造や適応能力、各種トレーニングにおける考え方や方法などの理解を深めながらトレーニングの実習と記録（リアクションペーパーなど）を行います。
これらを踏まえ、受講者各自の目標に応じたトレーニングプログラムを作成し、その実践と評価をまとめる「３．応用トレーニングプログラム」につなぎます。なお、本授業は半期でも完結するように計画されていますが、秋学期の「スポーツ科学Ⅱ」と合わせた通年での受講によって、より総合的で成果の上がる内容になっています。
〔授業の基本的運用スタイル〕
効果的で効率的な身体トレーニングを自分流にアレンジできるようになるために、基本的には以下のような授業運用を基本スタイルとします。
１：基礎知識（各テーマの解説や実施前の諸注意などを講義します）
２：体験実習（先ずは試してみて、課題を認識します）…グループワーク
３：知識の確認と目的設定（体験による課題の整理と実技方法のメカニズムや効果を議論します）
４：実習…グループワーク（トレーニング法の精度を高める）
５：まとめ（自分の目標やライフスタイルと擦り合わせ、具現化可能や計画、応用方法を検討する）
６：授業外で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で課題を再学修し、その成果をレポートする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、受講者の決定、施設・器材の使用方法
2	〔講義・実習〕今の自分を知るⅠ	基礎代謝と身体組成の原理と測定・食事調査の方法（記録の仕方など）を学ぶ
3	〔演習〕今の自分を知るⅡ	カロリー計算による食事（摂取）・運動（消費）のバランスを考える・運動の記録方法
4	〔講義・実習〕今の自分を知るⅢ	身体計測の意義と方法・有酸素運動の強度と時間を考える
5	〔講義・実習〕今の自分を知るⅣ	柔軟性計測の意義と方法・自分に合ったストレッチングをプログラムする

6	〔講義・実習〕今の自分を知るⅤ	自重系筋力の測定の意義と方法を学ぶ
7	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅠ	ランニングマシン、エアロバイク、ステップなどを用いた時の脈拍数、鼓膜温の計測から生体負担度について考える
8	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅡ	体幹部のトレーニングマシンの使用方法を習得する・トレーニング理論Ⅰ（運動の原理・原則を学ぶ）
9	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅢ	上肢体幹部のトレーニングマシンの使用方法を習得する・トレーニング理論Ⅱ（筋肉痛のメカニズムと疲労解消法を学ぶ）
１０	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅣ	下肢体幹部のトレーニングマシンの使用方法を習得する・トレーニング理論Ⅲ（休養と継続・超回復を学ぶ）
１１	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅤ	サーキット・トレーニングの歴史・特徴を学び、応用プログラムを体験する・チーティングを考える
１２	〔演習〕応用トレーニング・プログラムⅠ	目的に応じたトレーニング・プログラムの作成と評価Ⅰ
１３	〔演習〕応用トレーニング・プログラムⅡ	目的に応じたトレーニング・プログラムの作成と評価Ⅱ
１４	〔演習〕応用トレーニング・プログラムⅢ	自主トレーニング・プログラムの作成と評価
１５	総括	授業内試験を実施する（詳細は授業中に説明する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
大学のトレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で課題を再学修し、その成果をレポートしてください。また、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などのコンディショニングデータを記録し、授業成果を実践することを推奨します。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦する。
1．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書
2．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社
3．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社
4．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版
5．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書
6．山本利春著，疲れたときは、からだを動かす，岩波書店
7．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を会えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】
単位認定は到達目標に示した 11 項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。
1．授業で提示した課題のレポート… 25 %
2．授業におけるリアクションペーパー… 25 %
3．グループワーク中の議論やトレーニングの実施精度… 20 %
4．成果発表の資料、態度など… 15 %
5．授業内試験… 15 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規開講科目のため特記事項はありません。

【その他の重要事項】
1．１回目の授業で受講者を確定します。
確定方法は、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。
2．確定した受講者は、ガイダンス２日後に保健体育関連の掲示板に表示します。詳細はガイダンス時に追加説明します。
3．１回目の授業の集合場所は、市ヶ谷総合体育館１階にある会議室を予定しています。
4．受講者は教場の都合と授業運用効率の観点から２０名程度とします。
5．授業を担当する教員は、ＪＯＣ医科学スタッフであるため、2016 年夏季オリンピックに関連した公務によって授業計画が変更される場合があります。

LA224

スポーツ科学Ⅱ

伊藤　マモル

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は春学期に開講された「スポーツ科学Ⅰ（木曜日３時限）」の応用的なアドバンス科目です。スポーツ科学Ⅰと同様に” 健康（Wellness）・体力づくり（Fitness）・理想の身体づくり（Bodymake）・パフォーマンスの向上（Virtuoso performance）” などに必要な身体トレーニングの知識（１：人間の身体的構造や適応能力、２：各種トレーニングにおける考え方や方法など）を学び、その体験や実習を通じて応用的な実践力を養います。そして、受講者の皆さん自身だけでなく、家族や友人などの周囲の人々の人生におけるステージにおける目標に対して適時適切な身体トレーニングの計画立案やプログラムの作成ができるようなることを目指します。

【到達目標】
1．身体トレーニングの効果を５つ程度列挙できる
2．身体トレーニングのリスク対策を講じる方法について述べることができる
3．トレーニング中に起こり得る代表的なスポーツ傷害名を３つ程度列挙できる
4．基礎的なトレーニングを安全に実践できる
5．目標に適したトレーニングプログラムを考案できる
6．トレーニング効果の分析について代表的な方法を３つ程度述べることができる
7．トレーニングで得られた成果を適切な資料にまとめることができる
8．トレーニングで得られた成果を適切に発表することができる

【授業の進め方と方法】
「誰でもできる○○○ダイエット」、「楽で簡単に体脂肪が落ちる」、「部分痩せができる」などの誤った情報が飛び交っています。しかし、本授業では実習を可能な限り取り入れ、講義だけに偏らない体験型実践的学習を通じて、難解なイメージがある解剖学、運動整理生化学、運動力学、栄養学、スポーツ医学などのエッセンスを日常で起こる身近な事象を例にして解説します。
〔授業を構成する３つの柱〕
１回目の授業ではガイダンスを行い、20 名前後の受講者を確定します。２回目からは次の４つの大枠に分けて授業を進めます。
1．今の自分を知る
2．基礎トレーニングプログラム
3．応用トレーニングプログラム
4．総括フィットネスチェック
「1．今の自分を知る」では、自分自身の健康や体力を知るための測定と評価を通じて、今後のトレーニング課題を明確にします。
「2．基礎とレーニングプログラム」では、人間の身体的構造や適応能力、各種トレーニングにおける考え方や方法などの理解を深めながらトレーニングの実習と記録（リアクションペーパーなど）を行います。
これらを踏まえ、受講者各自の目標に応じたトレーニングプログラムを作成し、その実践と評価をまとめる「3．応用トレーニングプログラム」につなぎます。なお、本授業は半期でも完結するように計画されていますが、秋学期の「スポーツ科学Ⅱ」と合わせた通年での受講によって、より総合的で成果の上がる内容になっています。
〔授業の基本的運用スタイル〕
効果的で効率的な身体トレーニングを自分流にアレンジできるようになるために、基本的には以下のような授業運用を基本スタイルとします。
1：基礎知識（各テーマの解説や実施前の諸注意などを講義します）
2：体験実習（先ずは試してみて、課題を認識します）…グループワーク
3：知識の確認と目的設定（体験による課題の整理と実技方法のメカニズムや効果を議論します）
4：実習…グループワーク（トレーニング法の精度を高める）
5：まとめ（自分の目標やライフスタイルと擦り合わせ、具現化可能や計画、応用方法を検討する）
6：授業外で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で課題を再学修し、その成果をレポートする。

【授業計画】
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、受講者の決定、施設・器材の使用方法
2	〔演習〕トレーニング理論Ⅰ	トレーニングプログラム集（ピラミッド法を例にして）を考える
3	〔演習〕トレーニング理論Ⅱ	目的に応じたトレーニング計画（ピリオダイゼーションを基礎にして）を考える
4	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅠ	フリーウエイト器具の使用方法（フォームとグリップなど）、事故対策を学ぶ
5	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅡ	サイクルトレーニング法を理解し体験する・スポーツ障害の予防と対策を学ぶ

6	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅢ	事前疲労法（プレイグゾースト法）を理解し体験する・スポーツ外傷の予防と救急処置を学ぶ
7	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅣ	レストポーズ法を理解し体験する
8	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅤ	スーパーセット法を理解し体験する
9	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅥ	コンパウンドセット法を理解し体験する
１０	〔講義・実習〕基礎トレーニング・プログラムⅦ	ドロップセット法を理解し体験する
１１	〔演習〕応用トレーニング・プログラムⅠ	目的に応じたトレーニング・プログラムの作成と評価Ⅰ
１２	〔演習〕応用トレーニング・プログラムⅡ	目的に応じたトレーニング・プログラムの作成と評価Ⅱ
１３	〔演習〕応用トレーニング・プログラムⅢ	目的に応じたトレーニング・プログラムの作成と評価Ⅲ
１４	〔演習〕応用トレーニング・プログラムⅣ	自主トレーニング・プログラムの作成と評価
１５	総括	授業内試験を実施する（詳細は授業中に説明する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
大学のトレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で課題を再学修し、その成果をレポートしてください。また、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などのコンディショニングデータを記録し、授業成果を実践することを推奨します。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
単位認定は到達目標に示した 11 項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。
１．授業で提示した課題のレポート… 25 ％
２．授業におけるリアクションペーパー… 25 ％
３．グループワーク中の議論やトレーニングの実施精度… 20 ％
４．成果発表の資料、態度など… 15 ％
５．授業内試験… 15 ％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規開講科目のため特記事項はありません。

【その他の重要事項】
１．１回目の授業で受講者を確定します。
基本的にスポーツ科学Ⅰの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、スポーツ科学Ⅰの単位取得者と同等以上の能力を有していると判断された者の履修を認める場合があります。
２．確定した受講者は、ガイダンス２日後に保健体育関連の掲示板に表示します。詳細はガイダンス時に追加説明します。
３．１回目の授業の集合場所は、市ヶ谷総合体育館１階にある会議室を予定しています。
４．受講者は教場の都合と授業運用効率の観点から２０名程度とします。
５．授業計画が変更される場合があります。

LA232

アラブの言語と文化

江村　裕文

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・1**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、アフロアジア世界で１億人以上の話し手により使用されており、また国連の６番目の公用語である「アラビア語」にチャレンジしてもらいます。

【到達目標】
１年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に着けてもらいたいと希望します。
文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。辞書が引けるようになること、これが目標です。

【授業の進め方と方法】
以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	テキストの紹介、アラビア語に関する
	発音と文字　1	解説の後、発音と文字について学ぶ。発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字　2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字　3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介	テキストのつくりについて解説する。
5	**Unit 1・3**	アラブ人と友達になろう
6	**Unit 5**	友達を紹介しよう
7	**Unit 7**	これは何ですか
8	**Unit 8**	私は日本人です
9	**Unit 9**	空港でアラビア語を使ってみよう
１０	**Unit 10**	アラブ諸国の名前を読んでみよう
１１	**Unit 11**	ご出身はどちらですか
１２	**Unit 12**	あなたは自動車を持っていますか
１３	**Unit 13**	アラビア語で買い物をしてみよう
１４	**Unit 14**	「家の門」てどのように表現するのだろう 「属格構造」
１５	春学期試験	アラビア語作文の予定
１６	春学期の復習と辞書　1	春学期の内容を復習し、辞書の引き方を訓練する
１７	辞書　2	辞書の引き方を訓練する
１８	**Unit 15**	イン・シャー・アッラー
１９	**Unit 16**	私はあなたに手紙を書きました 「動詞の完了形」
２０	**Unit 17**	きのうは何をしましたか
２１	**Unit 18**	私は毎日学校へ行きます 「動詞の未完了形」
２２	**Unit 19**	カイロの街角での会話
２３	**Unit 20**	開け、ゴマ 「動詞の命令形」
２４	動詞の派生形　1	Ⅱ型からⅤ型の解説
２５	動詞の派生形	Ⅵ型からⅩ型の解説
２６	動詞の接続法（形）・希求法（形）	動詞の活用形をすべて説明する
２７	文　1	実際に辞書を引きながら文を読んでみる
２８	文　2	実際に辞書を引きながら文を読んでみる
２９	文　3	実際に辞書を引きながら文を読んでみる
３０	レポート提出とまとめ	課題のレポートを提出してもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
連休までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限どういう文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるとついていくのは不可能になります。

【テキスト（教科書）】
テキストとしては、本田孝一『アラビア語の入門』白水社　を用いる予定です。
新学期によいテキストが出ることもあります。最初の数回の授業の際に決定します。
辞書については、授業中に指示します。

【参考書】
英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期は、出席４０点、試験６０点で評価します。
秋学期は、出席４０点、レポート６０点で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、ムードとは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

LA232

アフロアジア入門

江村　裕文

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**通年**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、東アフリカ特にケニアやタンザニアの公用語「スワヒリ語」にチャレンジしてもらいます。

【到達目標】
１年間で基礎的なスワヒリ語の知識をマスターし、辞書を引きながら、文学・新聞など読みたいものが読める力をつけてもらうのが目標です。

【授業の進め方と方法】
以下の授業計画に従って、発音、表記を終えたら、テキストに従って、名詞、形容詞、動詞と扱っていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	テキストの紹介・スワヒリ語に関する解説
2	Somo La Kwanza	Maamkio あいさつ
3	Somo La Pili	Jijulishe 自己紹介
4	Somo La Tatu	Uhali gani? ごきげんいかが
5	Somo La Nne	Rafiki Wawili 二人の友人
6	Somo La Tano	Mgeni 来客
7	Somo La Sita	Mataifa 国籍
8	試験	これまでの内容を確認するために試験を行う
9	Somo La Saba	Huyu ni nani? この方はどなた
10	Somo La Nane	Una kotu gani? 何を持っていますか
11	Somo La Tisa	Kuna nini?
12	Somo La Kumi	Unapendana kufanya nini? 何がしたい
13	Somo La Kumi Na Moja	Nyumbani 家で
14	Somo La Kumi Na Mbili	Leo tarehe gani? 何日
15	試験	これまでの内容を確認するために試験を行う
16	春学期の復習	春学期の試験を解説し、内容を確認する
17	Somo La Kumi Na Tatu	Mkutano 出会い
18	Somo La Kumi Na Nne	Rangi 色
19	Somo La Kumi Na Tano	Jana ulifanya nini? 昨日何をした
20	Somo La Kumi Na Tisa	Bei gani? これはいくら
21	Somo La Kumi Na Saba	Nambari 数字
22	Somo La Kumi Na Nane	Saa ngapi? 何時
23	Somo La Kumi Na Tisa	Sikukuu ya Furaha 祝日
24	Somo La Ishirini	Watu Wangapi? 何人
25	Somo La Ishirini Na Moja	Una miaka mingapi? 何歳ですか
26	Somo La Ishirina Na Mbili	Maagizo 依頼
27	Somo La Ishirini Na Tatu	Twende tukatembee 散歩しましょう
28	Somo La Ishirini Na Nne	Iko wapi? どこですか
29	Somo La Ishirini Na Tano	Ramani ya Afrika ya Mashariki 東アフリカの地図
30	試験	これまでの内容を確認するために試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに従って進めていくので、予習つまり単語と文法事項の確認をして授業に出ること。授業のあとはきちんと復習をして疑問点等が残らないようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは、Sharifa Zawawi『Ki swahili Kwa Kitendo』Harper & Row, Publishers を予定しているが、詳細は第一回目の授業の際に指示します。
辞書についても指示します。

【参考書】
日本語で書かれた適当な参考書というものは存在しませんが、各自の興味に応じて適当なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期は、出席４０点、試験（２０点+４０点）で評価します。
秋学期は、出席４０点、試験６０点で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
まだ文法用語等が定まっていな術語等もあり、とっつきにくさを感じるかもしれませんが、言語自体はかなりやさしいと言われています。

CA216-00

環境科学 A

岡部　雅史

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，環境とはなにか？　私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】
主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【授業の進め方と方法】
講義概要としては，1 −環境を構成する要因，2 −環境の変動，3 −テクノロジーの進歩と環境に対する影響，4 −環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と，その将来。以上の 4 つのサブテーマから構成され，前半では環境の概念の理解，後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方，環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計
15	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で小試験（マークシート 5 問： 10 点）を 3 回，及び期末試験（マークシート 50 問： 100 点）を行う（計 130 点満点）。全ての試験を受験し、さらに、全体の六割（計 78 点）以上得点できた場合，単位を認める。
試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プロジェクター利用の改善

CA216-00

環境科学 B

岡部　雅史

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？そのメカニズムと，現在の環境汚染の現状，さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】
主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【授業の進め方と方法】
講義全体としては、1 －自然環境を構成する因子、2 －環境汚染の変遷、3 －現在の環境汚染、4 －環境負荷低減テクノロジーの展開と，その将来等　以上の 4 つのサブテーマから構成され，前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解，後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し，環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方，環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第 3 回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第 4 回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第 5 回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 6 回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 7 回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第 8 回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第 9 回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第 10 回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 11 回	環境・エコビジネス A：	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第 12 回	環境・エコビジネス B：	ESCO 事業 2（適用実例）
第 13 回	環境・エコビジネス C：	エコファンド・土地関連ビジネス
第 14 回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介
第 15 回	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内で小試験（マークシート 5 問： 10 点）を 3 回，及び　期末試験（マークシート 50 問： 100 点）を行う（計 130 点満点）。全ての試験を受験し、さらに、全体の六割（計 78 点）以上得点できた場合，単位を認める。
試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プロジェクター利用の改善

CA316-00

地球環境論 A

藤田　貢崇

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境の諸要素について、多様性・法則性・相互関連性を理解し、また人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。

【到達目標】
地球規模でとらえる環境問題について、自然科学的な立場から総合的に考える力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】
地球を取り巻く大気環境、および地球の構造、環境の変遷に伴う生物・人類進化に至るまでを学習する。生物から見た環境要素との関係（エコロジー）、地球環境の歴史的変化と生物との関係などについても触れる。授業は講義形式。VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	ＶＴＲと演習	参考となるビデオ観察、グラフを用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	総復習と演習	春学期全体の復習
15	春学期試験	これまでの学習内容から筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料や課題は授業支援システムで配布する。

【テキスト（教科書）】
『地球環境学入門』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）

【参考書】
『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
『エネルギー・環境・生命－ケミカルサイエンスと人間社会－』鈴木啓三（化学同人）
『人間・環境・地球－環境物質と安全性－』北野大・及川紀久雄（共立出版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、授業への取組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しんでもらえるような授業展開を試みる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
授業支援システムへの自己登録をして、課題をダウンロードできる環境を整えてください。

CA316-00

地球環境論 B

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境保全の概念と基礎事項，環境問題の現状などについて理解を深める。

【到達目標】
自然環境と人間の調和を支えるために必要な知識と判断力を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
公害の歴史や化学史を参照しながら、地球規模での人間と環境との関わりについて学習する。また環境汚染の発生メカニズムとその現状、環境汚染物質が自然環境にもたらす影響について、さらには環境保全の技術と社会との関わりについて理解する。授業は講義形式で進め、ビデオ学習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、計画、評価方法、テキストの紹介。環境とは何か、エコとは何か
2	生態系	生態系と生物多様性、里地・里山の役割
3	資源とエネルギー	エネルギーとは何か。化石燃料を中心とした問題
4	非化石燃料と核燃料	発電および動力源としてのエネルギー資源
5	非金属資源と金属資源、生物資源	各種資源の地球規模、日本国内規模での問題
6	原子力発電	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
7	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
8	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
9	地球大気の異変	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
10	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
11	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
12	食品と環境	食品汚染、農業問題、毒とは何か
13	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
14	環境と経済・総復習	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。演習を交えた総復習
15	筆記試験	秋学期全部の内容から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1)『地球環境学入門』　山﨑友紀　（講談社サイエンティフィク）

【参考書】
1)『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『生態系と地球環境のしくみ』大石 正道（日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】
授業内でレポートや小試験 (20%) を行い、期末筆記試験 (80%) を行う。合計の 60 %以上得点できた場合に単位を認める。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プロジェクター使用の改善

JB220-764

文化環境創造論

須田　英一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Well-being（健康で幸福な暮らし）を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】
文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【授業の進め方と方法】
文化環境とは何か、地域社会 (コミュニティ) の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法
第 2 回	文化環境の概念	①文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念	② Well-being と文化環境
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み	①世界遺産条約
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み	②ナショナル・トラスト
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み	③エコミュージアム活動
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み	①文化環境創造に関わる法
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み	②文化環境創造と民間団体
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み	③史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み	④伝統的建造物群の保存・活用
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み	⑤近代の文化遺産の保存・活用
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み	⑥自治体条例と文化環境創造事業
第 13 回	日本における文化環境創造の取り組み	⑦博物館活動
第 14 回	歴史的文化環境の継承と地域づくり	歴史的文化環境と地域づくり
第 15 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】
馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①出席確認：毎回出欠をとります。
②リアクションペーパー：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
③試験方法： 2 種類の課題レポート
④評価方法：平常点（出欠とリアクションペーパー）、課題レポートにもとづき総合的に判断して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

JC241-754

異文化心理学

奥山　今日子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされるとき、自動的に働くものの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】
この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【授業の進め方と方法】
講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	人間の心的機能について	「ほくはくま」「タイプテスト」を通じ、個人差を経験的に理解する。
第 3 回	アサーション・トレーニング（1）	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 4 回	アサーション・トレーニング（2）	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第 5 回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「パッチ・アダムス」視聴（解説付き)。
第 6 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「パッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 7 回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴　（解説付き)。
第 8 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 9 回	文化的態度	映画「パッチギ」視聴（解説付き)。
第 10 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「パッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 11 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き)。
第 12 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 13 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き)。
第 14 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 15 回	まとめ	授業内容に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
使用しない

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加）40 %
期末レポート 60 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

日本人の心理特性と文化

[2013]

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の童話 (「だれも知らない小さな国」佐藤さとる) を題材にして、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】
童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【授業の進め方と方法】
毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	講義の概要と童話の概要説明	童話の作られた時代的背景や講義の概要について説明する。
2 回目	第 1 章「いずみ」	第 1 章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
3 回目	第 2 章「小さな黒いかげ」1〜5 節	第 2 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
4回目	第 2 章「小さな黒いかげ」6〜10 節	第 2 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
5 回目	第 3 章「矢印の先っぽ」1〜5 節	第 3 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
6 回目	第 3 章「矢印の先っぽ」6〜10 節	第 3 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
7 回目	第 4 章「わるいゆめ」1〜5 節	第 4 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
8 回目	第 4 章「わるいゆめ」6〜10 節	第 4 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
9 回目	第 5 章「新しい味方」1-4 節	第 5 章 1-4 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
10 回目	第 5 章「新しい味方」5-8 節	第 5 章 5-8 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
11 回目	童話全体のテーマとストーリー (1)	童話全体のテーマやストーリーにどんな風に日本的心理が表れているかを読み解いていく
12 回目	童話全体のテーマとストーリー (2)	童話全体のテーマやストーリーにどんな風に日本的心理が表れているかを読み解いていく
13 回目	日本人の心理行動特性について (1)	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般に対して解説する。
14 回目	日本人の心理行動特性について (2)	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般に対して解説する。
15 回目	日本人の心理行動特性について (3)	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般に対して解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
「だれも知らない小さな国ーコロボックル物語 1」佐藤さとる 著 (講談社 青い鳥文庫) 670 円

【参考書】
その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に 2 回ほど課題レポートを提出してもらいます。成績はレポートが 2 回分合計で 70 パーセント、平常点を 30 パーセント程度として合算して成績評価を行います。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。講義にはかならず「テキスト (童話)」を持参してくること。

JB124-208

ヘルスプロモーション

熊坂　隆行

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1986 年のオタワ憲章の中でヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されています。
本講義では「健康」「教育」「医療」「地域」に注目し、人々の生活の質、QOL（Quality of Life）を高めるための取り組みや環境について学び、自らが考える健康づくりを作成いたします。

【到達目標】
1) ヘルスプロモーションの考え方について理解できる。
2) 健康教育について理解し、説明できる。
3) 保健と医療（健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、完全な治療、リハビリテーション）について理解できる。
4) 健康増進法について理解し、説明できる。
5) 自らが考える健康づくりを計画・作成、発表することができる。

【授業の進め方と方法】
ヘルスプロモーション・健康教育を理解するため、講義はレジュメ、配布資料を中心に Power Point を用いて進めていきます。また「健康づくり」についてグループワークを行ないます。最新の情報について適宜講義に取り入れていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
第 2 回	ヘルスプロモーションとは何か	ヘルスプロモーションの基本的な考え方について
第 3 回	健康教育とは何か	「健康」「教育」について 健康教育の定義・理念・実際について
第 4 回	保健と医療 1	健康増進について
第 5 回	保健と医療 2	病気の予防について
第 6 回	保健と医療 3	早期発見・早期治療について
第 7 回	保健と医療 4	完全な治療について
第 8 回	保健と医療 5	リハビリテーションについて
第 9 回	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と留意点について
第 10 回	私の考える健康づくり 1	自ら考える健康づくりを計画・作成
第 11 回	私の考える健康づくり 2	自ら考える健康づくりを計画・作成
第 12 回	私たちの考える健康づくり 1	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成
第 13 回	私たちの考える健康づくり 2	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成
第 14 回	私たちの考える健康づくり 3	作成した健康づくりの計画を発表
第 15 回	まとめ	授業内容の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・グループワークに参加してください。また、講義後は、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】
日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開．株式会社保健同人社、東京、2006.
宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨：最新 保健学講座別巻 1 健康教育論．株式会社メヂカルフレンド社、東京、2015.

【成績評価の方法と基準】
講義への参加状況 30 %、グループワークへの取り組みと発表 40 %、課題レポート 30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
リフレクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を反映いたします。

LB224

スポーツ方法論

笠井　淳

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期**　｜　キャンパス：**多摩**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フィジカルトレーニングの理論について、講義及び実践を通し、理解を深める

【到達目標】
・トレーニングの理論について、理解を深める
・競技者としての活動に役立てるまで、理解を深める
・指導者としての活動に役立てるまで、理解を深める

【授業の進め方と方法】
スポーツトレーニングにはテクニカルな面とフィジカルな面がある。この授業では後者のフィジカルトレーニングを取り上げ、トレーニング理論のより高い理解とその実践を内容とする。将来、指導をする際および競技パフォーマンス向上のために役立ててもらいたい。講義中心であるが、テーマによってはディスカッションも取り入れる。また実技も行なう。毎時、リアクションペーパーの提出を義務付ける。
招聘指導者講義を予定している。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業内容について説明する
2	「POMS」法、心理テストの実施及び解説	心理テストを実施し、その評価について説明する
3	体力とは	体力について説明する
4	フィットネスの基礎及び発育発達とトレーニング	フィットネス及び発育発達とトレーニングについて説明する
5	トレーニングの理論	トレーニング理論の３原理５原則について説明する
6	トレーニング計画	「トレーニング計画の重要性」について説明する
7	筋力トレーニングの理論及び方法	筋力トレーニングの理論及びトレーニング方法について説明する
8	パワートレーニングの理論及び方法	パワーの理論及びトレーニング方法について説明する
9	パワートレーニングの実践	パワートレーニングの方法を実践する（外部講師）
10	スピードトレーニングの理論及び方法	スピードトレーニングの理論及びトレーニング方法について説明する
11	持久力トレーニングの理論及び方法	持久力の理論及びトレーニング方法について説明する
12	ウオームアップ・ダウンの理論及び方法	ウオームアップ・ダウンの理論及び方法について説明する
13	フィールドテストについて	フィールドテストの理論及び方法について説明する
14	各自のトレーニング発表	各自のトレーニング内容について発表及びディスカッションする
15	身体のケアについて	身体のケアについて説明する。課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週のテーマについて準備すること
各自の毎日のトレーニングについて日誌をつける等トレーニング管理を行うこと
しっかりとした健康管理を行なうこと

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は
１）授業中の活動に対する参画状況・授業態度６０％
２）課題・レポート・発表　４０％
この配分とし総合評価する。
長期遠征や合宿等で欠席が多くなる受講者は個別に対応・評価する

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生のニーズにできるだけ沿った内容を準備する。

【その他の重要事項】
スポーツ・トレーニングに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。
授業の進捗状況により授業計画の変更もあります。
<< 受講について>>
2014 年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ方法論Ｉ」となります。

LB224

スポーツメディア論

海老名　徳雪

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期** ｜ キャンパス：**多摩**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 年東京五輪まであと４年。社会全体が五輪への動きを加速させる。メディアはその動向を伝える機関として存在感と役割が極めて大きい。「文字」「映像」を武器にメディアがスポーツを、五輪を、また周辺の変容をどんな視点で捉えるか、我々はそのメディアを知ることで社会の実相に迫ることが可能になる。

【到達目標】
新聞、放送、インターネット等幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通する。メディアの成長の軌跡と現実を理解することで、今後著しい変化が予想されるメディア業界に対応出来る能力を磨き、知識を身につける。

【授業の進め方と方法】
五輪を中心に日々のスポーツ関連のニュース記事、テレビ番組を素材にする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることで、メディアの役割に対する理解が深まる。またメディアの歴史的な流れを把握することも肝要である。講義では素材に接して得たもの、感じたものを随時報告してもらう機会を持つ。なお、授業ではパワーポイント（写真含む）による説明や番組映像も使用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スポーツメディアの現状	新聞、放送の２大メディアはどのような組織を構成し活動しているか、全体的なニュース報道の中でスポーツの占める位置を知る。
2	スポーツニュースはどう決まる	ニュースに定義はない。ニュースバリュウの基準はなにか。ニュースが大衆に伝わるまでの取材者の行動を追う。
3	ジャーナリストとしてのスポーツ記者	スポーツ記者は試合取材だけが仕事ではない。競技場を離れた様々な問題で繰り広げられる激しい取材合戦こそ真価が問われる場である。
4	ニュースの言葉とスポーツ選手の表現力	活字は一つの事象を重層的、多面的に表すことが可能である。新聞の一行の見出しから編集者の心情を読み取る。スター選手のマスコミ対応は特徴的で面白い。
5	活字メディアの歴史と影響力	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見る。
6	電波メディアはスポーツによって成長した	活字より後発組の電波メディアは急激に成長した。そして、発展途上にある。放送の歴史を辿る。
7	電波メディアの功罪	放送はいまやスポーツそのものを動かす原動力。競技ルールの変更もテレビを意識する。
8	ドキュメンタリーを見る	ドキュメンタリーはディレクターの腕の見せどころ。番組制作の裏を見る。対象番組は未定。
9	高校野球の取材と中継	春夏の甲子園大会は国内スポーツ界のビッグイベント。取材と中継の実態を知り、国民的関心事、高校野球を考察する。
１０	スポーツ中継は装置産業	スポーツ中継番組の制作は大掛かりなシステムを構築する点で装置産業に近い。準備段階からの物量作戦がスポーツのだいご味を伝える上で欠かせない。中継の規模を知る。
１１	放送権及びメディア主催イベント	放送権料は五輪から国内のイベントまで及ぶ。メディアがイベントそのものを主催してきた歴史も長い。メディアの狙いは何か。
１２	オリンピックとメディア	メディアは五輪を機に技術力を向上させ、演出面を磨いてきた。一方で、五輪は商業化、肥大化の弊害を指摘される。その歴史を辿り、２０年大会を考える。
１３	メディアに対する受け手の反応	大量に発信されるメディアからの情報にファンはどう反応しているか。新聞、放送局に寄せられる諸々の意見からスポーツとメディアに対する世論が見える。
１４	ニューメディア時代	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、紙媒体は電子版の普及に力を入れ、携帯その他のツールも多様化、マスメディア終焉の声もある。
１５	まとめ	スポーツ界とメディアの将来、特にメディアのあり方を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」に関心を持ち続ける。その個々の報道に対し、個人の意見を常に持つ。

【テキスト（教科書）】
特に使いません。

【参考書】
「ＩＯＣ・オリンピックを動かす巨大組織」猪谷千春　新潮社
「スポーツアナウンサー」山本浩　岩波新書
「スポーツを仕事にする」生島淳　ちくまプリマー新書

【成績評価の方法と基準】
講義の理解度を見るレポート（70%）と平常点（30%）により評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
「取材の難しさ」「メディアの裏側」等に学生の関心が高い。運動部の学生は「メディアの大切さを実感した」という声もあった。メディアの現実・現状をさらに理解しやすい授業を考えたい。パワーポイントの工夫。

【学生が準備すべき機器他】
学生が準備するものは特にありません。

【その他の重要事項】
２０年五輪はスポーツ以外の産業にも大きく影響する。メディアの力、社会的影響はスポーツのみならず各分野において想像を超えるモノがある。講義ではスポーツ以外の内容にも言及したい。

AC337

外国書講読（独語） Ⅰ

内田　俊一

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治に関わる思想・歴史や政策をさらに深く考え、グローバルな視点を身につけるために、ドイツ語の文献を読んで、ドイツ語読解力を鍛える。

【到達目標】
ドイツ語の新聞・雑誌や基礎的な文献を読みこなす能力を身につけることができる。同時にドイツ語圏の政治（社会や文化をも包含する広い意味での）についての知識を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の文献を読んで訳してもらい、適宜解説を加えます。とりあえず、ドイツの代表的週刊誌『シュピーゲル』のオンライン版の日本に関する記事を読み、受講者のドイツ語の力を確認したいと思います。これは、日本に関する記事ならば意味をとりやすいだろうと思うからですが、それだけではなく、ドイツ人の視点から日本の出来事を見れば、日本にいて同じ出来事を見ているのとは違う側面が浮かび上がってくるからです。これが本来の意味でのグローバルな見方を身につけるということだと思います。その後はさらに『シュピーゲル』オンライン版から、ドイツや世界各国の話題を取り上げようと思っていますが、受講者の関心如何で、他の文献を取り上げることも考えられます。最初は丁寧に文法的説明をしながらゆっくり進み、徐々にスピードを上げていきたいと思っています。授業の進め方の細かい点については、参加者の人数や熱意の度合いに左右される面もありますから、最終的には受講する諸君との話し合いで決めたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	日本の政治に関する記事	講読
第 3 回	日本の社会に関する記事	講読
第 4 回	日本の文化に関する記事	講読
第 5 回	ドイツの政治に関する記事	講読
第 6 回	ドイツの社会に関する記事	講読
第 7 回	ドイツの文化に関する記事	講読
第 8 回	他の文化圏の政治に関する記事	講読
第 9 回	他の文化圏の社会に関する記事	講読
第 10 回	他の文化圏の文化に関する記事	講読
第 11 回	日本の政治に関する記事	講読
第 12 回	ドイツの政治に関する記事	講読
第 13 回	他の文化圏の政治に関する記事	講読
第 14 回	政治に関する総合的な記事	講読
第 15 回	社会に関する総合的な記事	講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習を行う。

【テキスト（教科書）】
プリントして配布する予定です。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点による評価 100 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
履修者数が少ないので、授業改善アンケートは実施していません。

AC337

外国書講読（独語） Ⅱ

内田　俊一

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治に関わる思想・歴史や政策をさらに深く考え、グローバルな視点を身につけるために、ドイツ語の文献を読んで、ドイツ語読解力を鍛える。

【到達目標】
ドイツ語の新聞・雑誌や基礎的な文献を読みこなす能力を身につけることができる。同時にドイツ語圏の政治（社会や文化をも包含する広い意味での）についての知識を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の文献を読んで訳してもらい、適宜解説を加えます。春学期と同様に『シュピーゲル』オンライン版の記事を読むつもりですが、秋学期は特に、世界各国の記事を対比しながら読むことに重点を置きたいと思います。ただし、受講者の関心如何によっては、ほかの文献を取り上げることも考えられます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	日本の政治に関する記事	講読
第 3 回	ドイツの政治に関する記事	講読
第 4 回	他の文化圏の政治に関する記事	講読
第 5 回	日本の社会に関する記事	講読
第 6 回	ドイツの社会に関する記事	講読
第 7 回	他の文化圏の社会に関する記事	講読
第 8 回	日本の文化に関する記事	講読
第 9 回	ドイツの文化に関する記事	講読
第 10 回	他の文化圏の文化に関する記事	講読
第 11 回	政治に関する総合的な記事	講読
第 12 回	社会に関する総合的な記事	講読
第 13 回	文化に関する総合的な記事	講読
第 14 回	政治に関する総合的な記事	講読
第 15 回	社会に関する総合的な記事	講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習を行う。

【テキスト（教科書）】
プリントして配布する予定です。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点による評価 100 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講者数が少ないので、授業改善アンケートは実施していません。

言語学概論 A

石川　潔

授業コード：A2806
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を与えるよりも、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を紹介しますので、それぞれの分野が、自分に向いているか向いてない分野かの判断の材料になるでしょう。

【到達目標】
-「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る
　（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【授業の進め方と方法】
　具体的な謎の解明（講義およびディスカッション）を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。
　授業計画は参考例に過ぎず、学生の理解度その他により柔軟に変更しまくります。下記の通りに行く保証はありません（し、あるべきでもないはずです）。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の紹介
第 2 回	「音素」その 1（音声学・音韻論）	*water* はカタカナで「ワラ」？
第 3 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 4 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 5 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 6 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 7 回	今日の文法理論その 1（統語論）	「5 文型」のアホさ
第 8 回	今日の文法理論その 2（統語論）	統語論「研究」実体験
第 9 回	今日の文法理論その 3（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第 10 回	今日の文法理論その 4（統語論）	新たな（？）潮流
第 11 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 12 回	今日の文法理論その 6（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 13 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その 1	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 14 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その 2	*Without her contributions failed to come in*. ってどういう意味？
第 15 回	予備日	パソコン・デモなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
　授業支援システムにてハンドアウトを配布します（教室での配布は致しません。）

【参考書】
　参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験 100 %。
　公平性を最重視するので、個人的な事情（努力の有無や、体育会所属など）は一切考慮しません。
　但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
N/A.

【学生が準備すべき機器他】
ハンドアウトは授業支援システムにて配布。
授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】
　ハンドアウト類は授業支援システム上で配布します。教室での配布は一切しません。
　私語は厳禁。
　その他、http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/ を参照のこと。
　なお、この授業は『言語学概論 B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

言語学概論 B

川﨑　貴子

授業コード：A2807
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語学の様々な分野を紹介します。言語データを様々な角度から分析する楽しさに触れていただければと思います。言語学の基礎知識を応用し、身の回りの言語現象について深く考えることが目的です。

【到達目標】
この授業では理論言語学の諸分野を紹介します。各分野の基礎的な知識を身につけることを目標とします。また、言語学の複数分野の知識を応用し、実際の言語現象を分析できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
自然言語の現象、様々な「不思議」を講義形式で紹介しつつ、皆様にも問題を解きながら一緒に考えていただくことによって、言語学の理論を学び親しんでいただきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学とは？
第 2 回	言語知識	言語知識の中身
第 3 回	意味・語用論 1	曖昧さ、丁寧表現 1
第 4 回	意味・語用論 2	曖昧さ、丁寧表現 2
第 5 回	音声学・音韻論 1	調音器官、音の単位
第 6 回	音声学・音韻論 2	英語・日本語の子音
第 7 回	音声学・音韻論 3	英語・日本語の母音
第 8 回	音声学・音韻論 4	音節・モーラ
第 9 回	形態論 1	語のなりたち・形態素
第 10 回	形態論 2	複合語
第 11 回	統語論 1	語のカテゴリ
第 12 回	統語論 2	句のなりたち
第 13 回	統語論 3	文の構造
第 14 回	応用言語学	言語理解・獲得
第 15 回	復習	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
指示される映像課題をノートをとりながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。
言語学は積み重ねの学問ですので、授業の復習を各自行うことがとても重要です。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配布致します。また、授業支援システムにも、配布プリントをアップロードいたします。

【参考書】
教科書はありませんが、参考文献を授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験を 100 点満点換算にて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業改善アンケートの結果はシラバス執筆段階では集計されておりません。

言語学講義Ｉ A

石川　潔

授業コード：A2913
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時制とアスペクト（aspect）に関する日英語の比較。この春学期の授業では、特に英語の時制とアスペクト。学校文法に飽き足らないあなたに。

【到達目標】
-「分類」は「説明」でも「理論」でもないことを理解する。
- 既存の説を鵜呑みにせず、その科学的根拠の有無および妥当性を問う目を養う。
- 時制・アスペクトの議論のために基本となる一般的概念をマスターする。具体的には、
・「状態」と「動作」
・「時制」と「アスペクト」
・Aktionsarten (aspectual classes)
・telicity
- それらの概念を想定する根拠をマスターする。

【授業の進め方と方法】
講義およびディスカッションとなります。「知識を与える」のでなく、「様々な謎の指摘」を行うこと、および「様々な仮説の紹介」が中心となります。よって、「先生が正解を教えてくれる」とは思わないでください。教員が主張をする場合も、その主張が間違っている可能性は大いにあります（あると思うべきです）。
なお、授業計画は参考例に過ぎず、学生の理解度その他により柔軟に変更しまくります。下記の通りに行く保証はありません（し、あるべきでもないはずです）。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	時間表現に関する様々な疑問
第 2 回	方法論的な注意	文法概念は必要悪!!
第 3 回	最も基本的な区別：状態と動作（その１）	進行形に出来るか、単純現在形で現在をあらわせるか、回数を数えられるか
第 4 回	最も基本的な区別：状態と動作（その２）	「同じ形で２つの動詞」、文脈中での文と文の時間関係、時間副詞との関係
第 5 回	次に必要な区別：時制とアスペクト	「どこにいるの？」と「どの部分？」
第 6 回	述語／ eventuality の基本的な分類	Vendler/Dowty 流の Aktionsarten, telicity
第 7 回	英語の進行形（その１）	英語の進行形の基本的な意味 (Kamp & Reyle 分析)
第 8 回	英語の進行形（その２）	進行形であらわせる丁寧さ
第 9 回	英語の進行形（その３）	進行形であらわせる予定
第 10 回	英語の完了形（その 1）	「完了用法」
第 11 回	英語の完了形（その２）	「継続用法」および「経験用法」
第 12 回	進行形と完了形	進行形と完了形
第 13 回	単純現在形（その１）	「状態」と「動作」の違い（時間副詞との関係）の復習
第 14 回	単純現在形（その２）	「動作」動詞ではなぜダメ？ …… Kamp & Ryele 説、Langacker 説
第 15 回	（これも）未解決問題	「時制の一致」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ方法論を他の文法の問題（特に、英語以外の言語、例えば日本語）にも応用して考えてみてください。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
公平性を最重視するので、個人的事情（努力の有無、体育会所属など）は一切考慮しない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
内容の順序を変更するつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにてハンドアウトを配布します。授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】
この授業は、「言語学講義Ｉ B」と合わせて履修すること。
その他、http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/を参照のこと。

言語学講義Ｉ B

石川　潔

授業コード：A2914
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時制とアスペクト（aspect）に関する日英語の比較。この授業（秋学期）では特に日本語の時制とアスペクト。学校文法に飽き足らないあなたに。

【到達目標】
-「分類」は「説明」でも「理論」でもないことを理解する。
- 既存の説を鵜呑みにせず経験科学的根拠を問う姿勢を養う。
- 日本語の「～する／した」の違いを時制とする説、アスペクトとする説が混在している状況を理解し、それぞれの根拠を理解する。
- 日本語の「～する／した」の振る舞いの節の種類による違いを理解する。
-「～している」の古典的な分析、より新たな分析の概略を把握する。
- それらの点についての日本語と英語の相違点のみでなく共通性も議論できるようになる。

【授業の進め方と方法】
講義およびディスカッションとなります。「知識を与える」のでなく、「様々な謎の指摘」を行うこと、および「様々な仮説の紹介」が中心となります。よって、「先生が正解を教えてくれる」とは思わないでください。教員が主張をする場合も、その主張が間違っている可能性は大いにあります（あると思うべきです）。
なお、授業計画は参考例に過ぎず、学生の理解度その他により柔軟に変更しまくります。下記の通りに行く保証はありません（し、あるべきでもないはずです）。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ル形とタ形	時制？　アスペクト？
第 2 回	ル形とタ形	解くべき謎の数々
第 3 回	時制説	「意味」と「状況」の区別
第 4 回	時制説	井上 (2001) ：実現想定区間
第 5 回	telicity	主節のタ形、再論
第 6 回	時制概念の拡張 1	事態の時間、話者の時間
第 7 回	時制概念の拡張 2	主節のタ形、再論
第 8 回	時制概念の拡張 3	従属節：相対テンス
第 9 回	時制概念の拡張 4	時制説とアスペクト説
第 10 回	時制概念の拡張 5	「時制の一致」再論
第 11 回	相対テンスへの反例？	共同批判の紹介
第 12 回	テイル（その 1）	金田一 (1950)
第 13 回	テイル（その 2）	unaccusativity
第 14 回	テイル（その 3）	unaccusativity
第 15 回	テイル（その 4）	unaccusativity とテイル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ方法論を他の文法の問題にも応用して考えてみてください。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにてハンドアウト配布。
また、授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
公平性を最重視するので、個人的事情（努力の有無、体育会所属など）は一切考慮しない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
N/A.

【学生が準備すべき機器他】
ハンドアウトは授業支援システムにて配布します。授業支援システムには、普段自分がアクセスするメアドを登録しておくこと。

【その他の重要事項】
この授業は、春学期の「言語学講義Ｉ A」と合わせて履修すること。
その他、http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/を参照のこと。

言語学講義ⅡA

西前　明

授業コード：A2915
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統語論・文法論の話題を中心に、ことばを厳密かつ柔軟にとらえる方法を学ぶ。主に以下のテーマを念頭に置いて講義する:
(1) 英語の統語分析 (日本語との比較を含む) の手順及び文法の述べ方。
(2) チョムスキーの普遍文法。
(3) 自然言語の文法の数学っぽい手法による記述。
(おまけ:言語学的問題を扱った小説の紹介)
　なるべく普段の英語学習とのつながりが見えやすい問題を扱い、英語学の、学問としての側面と英語学習の一環としての側面の両方を大切にしたい。1) ことばに形を与える、2) 自ら答えを探す、3) 目的や視点によって様々な答えが与え得る、この三つを体験できる授業にしたい。

【到達目標】
(1) 英文に何らかの構造を割り当てることができる。
(2) 生の英語から自らの観察と分析で言語事実を発掘できる。
(3) 中学・高校で学んだ学校英文法や特定の英語学の理論に縛られないで、自身の見方で英語を見ることができる。
(4) 日本語と英語の文構造を比較できる。

【授業の進め方と方法】
教科書を一冊決めてそれを消化してゆくという形はとらないので、続けて休むとチンプンカンプンになるでしょう。ノートを上手にまとめること。基本的には講義形式ですが、時々前に出て黒板に問題の答えを書いてもらうこともあります。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	様々な文法理論の目的と方法について
第 2 回	単語の構造	接辞、品詞、所有の-ed
第 3 回	単語の構造	複合語、動名詞＋名詞
第 4 回	単語の構造	道具・物質動詞、擬声・擬態語
第 5 回	単語の構造	派生語、主要部、定義とわかったこと
第 6 回	文構造	枝分かれ図入門
第 7 回	派生名詞句の分析	用例、観察
第 8 回	派生名詞句の分析	書き換え
第 9 回	派生名詞句の分析	記述的一般化、日英比較
第 10 回	派生名詞句の分析	句構造：格、項
第 11 回	派生名詞句の分析	句構造：意味役割、付加部
第 12 回	派生名詞句の分析	be 動詞
第 13 回	派生名詞句の分析	様々な文法理論の目的と方法
第 14 回	マザング語 (?) 入門	音素、配列、恣意性
第 15 回	春学期のまとめ	全体の内容の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で説明を受けた箇所を見直す。
授業で扱った用例と似たものを普段の英語学習や巷の日本語の中で見つけたら、それを書き留めておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
『チョムスキー理論辞典』原口庄輔/中村捷 (編) 研究社
『新版入門ミニマリスト統語論』アンドリュー・ラドフォード著 外池滋生 (監訳) 研究社
『言語学の専門家が教える新しい英文法』畠山雄二 ベレ出版
『英語の主要構文』中村捷/金子義明 (編) 研究社
『英語構文事典』中島平三 (編) 大修館書店
『はじめて学ぶ言語学』大津由紀雄 (編著) ミネルヴァ書房
Freidin, R. (1992) *Foundations of Generative Syntax.* (MIT Press)
Partee, B. H, A. T. Meulen, and R. E. Wall (1993) *Mathematical Methods in Linguistics.* (Kluwer)

【成績評価の方法と基準】
100 %期末試験の点数で評価するが、授業内課題を加点要素として考慮する (最大 15 点程度の加点)。期末試験は授業内容の理解を確認する問題であり (持ち込み不可)、具体的な出題範囲及び形式については、試験前に授業において説明する。一方、授業内課題は主に学生独自のアイデアを求めるミニ課題で、できる限り多く実施したい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
黒板を早く消しすぎないように気をつけます。

【その他の重要事項】
なるべく前後期 (AB) 継続して受講願います。特に後期 (B) のみの受講は、授業内容の理解がかなり難しくなると思われます。

言語学講義ⅡB

西前　明

授業コード：A2916
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統語論・文法論の話題を中心に、ことばを厳密かつ柔軟にとらえる方法を学ぶ。主に以下のテーマを念頭に置いて講義する:
(1) 英語の統語分析 (日本語との比較を含む) の手順及び文法の述べ方。
(2) チョムスキーの普遍文法。
(3) 自然言語の文法の数学っぽい手法による記述。
(おまけ:言語学的問題を扱った小説の紹介)
　なるべく普段の英語学習とのつながりが見えやすい問題を扱い、英語学の、学問としての側面と英語学習の一環としての側面の両方を大切にしたい。1) ことばに形を与える、2) 自ら答えを探す、3) 目的や視点によって様々な答えが与え得る、この三つを体験できる授業にしたい。

【到達目標】
(1) 英文に何らかの構造を割り当てることができる。
(2) 生の英語から自らの観察と分析で言語事実を発掘できる。
(3) 中学・高校で学んだ学校英文法や特定の英語学の理論に縛られないで、自身の見方で英語を見ることができる。
(4) 日本語と英語の文構造を比較できる。

【授業の進め方と方法】
教科書を一冊決めてそれを消化してゆくという形はとらないので、続けて休むとチンプンカンプンになるでしょう。ノートを上手にまとめること。基本的には講義形式ですが、時々前に出て黒板に問題の答えを書いてもらうこともあります。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の言語	語族、バベルの塔、エスペラント語
第 2 回	チョムスキーの普遍文法	主要部の位置
第 3 回	疑問詞・関係詞のふるまい	用例、日英比較統語分析の手順
第 4 回	疑問詞・関係詞のふるまい	句構造：移動
第 5 回	疑問詞・関係詞のふるまい	島の仮説、仮説と反例
第 6 回	疑問詞・関係詞のふるまい	見えるものと見えないもの
第 7 回	疑問詞・関係詞のふるまい	日英比較、まとめ
第 8 回	ハダリーの言語システム (?)	人造人間の言語
第 9 回	言語とそのシステム (辞書＋文法) の数学的モデル	形式文法入門:PSG
第 10 回	言語とそのシステム (辞書＋文法) の数学的モデル	形式文法入門:IG
第 11 回	言語とそのシステム (辞書＋文法) の数学的モデル	まとめ
第 12 回	「to 不定詞の教え方」	「名・形・副詞的用法」
第 13 回	「to 不定詞の教え方」	不定詞・動名詞の歴史
第 14 回	翻訳の可能性	絵本の翻訳
第 15 回	秋学期のまとめ	全体の内容の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で説明を受けた箇所を見直す。
授業で扱った用例と似たものを普段の英語学習や巷の日本語の中で見つけたら、それを書き留めておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
『チョムスキー理論辞典』原口庄輔/中村捷 (編) 研究社
『新版入門ミニマリスト統語論』アンドリュー・ラドフォード著 外池滋生 (監訳) 研究社
『言語学の専門家が教える新しい英文法』畠山雄二 ベレ出版
『英語の主要構文』中村捷/金子義明 (編) 研究社
『英語構文事典』中島平三 (編) 大修館書店
『はじめて学ぶ言語学』大津由紀雄 (編著) ミネルヴァ書房
Freidin, R. (1992) *Foundations of Generative Syntax.* (MIT Press)
Partee, B. H, A. T. Meulen, and R. E. Wall (1993) *Mathematical Methods in Linguistics.* (Kluwer)

【成績評価の方法と基準】
100 %期末試験の点数で評価するが、授業内課題を加点要素として考慮する (最大 15 点程度の加点)。期末試験は授業内容の理解を確認する問題であり (持ち込み不可)、具体的な出題範囲及び形式については、試験前に授業において説明する。一方、授業内課題は主に学生独自のアイデアを求めるミニ課題で、できる限り多く実施したい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
黒板を早く消しすぎないように気をつけます。

【学生が準備すべき機器他】
なるべく前後期 (AB) 継続して受講願います。特に後期 (B) のみの受講は、授業内容の理解がかなり難しくなると思われます。

社会言語学

椎名　美智

授業コード：A2810
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会言語学は文字通り「社会と言語の関係についての学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標にしています。

【到達目標】
世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語的実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【授業の進め方と方法】
国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい言語現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPT を使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定
第 2 回	社会言語学の定義	「社会」と「言語」の関係について
第 3 回	社会言語学の射程	扱う領域について
第 4 回	多言語社会	世界における民族と言語について
第 5 回	ダイグロッシア	二言語が使用されている社会について
第 6 回	ドメイン	言語が使い分けられる領域について
第 7 回	コードスイッチング	言語が切り替わる状況と要因について
第 8 回	言語の死	使われなくなっていく少数民族の言語について
第 9 回	ピジンとクレオール	複数の言語が出会う状況での言語状況について
第 10 回	方言	地域方言と社会方言
第 11 回	言語と文脈	言語が使用されるコンテクスト
第 12 回	敬語とポライトネス	日本語の敬語システムと敬語演習、およびポライトネスという概念
第 13 回	言語とジェンダー	ジェンダーの差違と言語使用
第 14 回	ケース・スタディー	『マイフェアレディ』における「方言」
第 15 回	コンサルテーション	各自の課題についてのコンサルテーションアワー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。

【テキスト（教科書）】
田中晴美、田中幸子編著『社会言語学への招待―社会・文化・コミュニケーション』(1996) ミネルヴァ書房

【参考書】
内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】
レポート８割（フィールド・ワーク重視）、平常点２割（課題も含む）で評価の参考にします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT 資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

応用言語学

川﨑　貴子

授業コード：A2811
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】
こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はどのようにその違い、および類似点を説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習
第 15 回	SLA と教育理論	SLA 理論が教育にどのように生かされるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に予習は必要無いが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。
指示された映像課題をノートをとりながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。
これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】
参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験を 100 点満点換算にて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
言語習得分野の研究について、興味を持っていただけたようでよかったと思います。
映像の使用については否定的な意見もありましたが、概ね有効であったと感じていただいているようなので、今年度も使用したいと思います。

英語学概論 A

椎名　美智

授業コード：A2804
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学の研究領域の全体を、２セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるようにします。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく１年次に履修することが望ましいと思います。

【到達目標】
英語学、言語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【授業の進め方と方法】
「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、PPT を使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。
英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。
リアクションペーパーは毎時間、必ず提出していただきます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	言語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第 3 回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第 4 回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第 5 回	形態論 (2)	形態論と形態素
第 6 回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第 7 回	意味論 (1)	意味論の概説
第 8 回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第 9 回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第 10 回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第 11 回	文体論 (1)	文体論の概説
第 12 回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第 13 回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第 14 回	言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション
第 15 回	試験対策	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席します。難しい場合は、授業後に復習の形で読んで、理解するようにします。また、配付されたハンドアウトは必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をします。

【テキスト（教科書）】
影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語言語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】
内容ごとに参考文献や資料を紹介し、ハンドアウト等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価の参考にします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】
課題は、基本的にハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】
パワーポイントの資料は、必要な場合は、授業後に授業支援システムにアップします。
オフィスアワーは火曜日４限です。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

英語学概論 B

大沢　ふよう

授業コード：A2805
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、統語論では、言語習得や、伝統文法から最近の統率・束縛理論に至るまでの基本的な知識が得られるように講義します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学び、自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容を選んで講義します。

【到達目標】
この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できます。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第２言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【授業の進め方と方法】
英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、、言語習得や、学校文法から最近の統率・束縛理論についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、実際に発音して学びます。リアクション・ペーパーも時々提出してもらいます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について説明します。
第 2 回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み。
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音韻論の演習:母音の発音の実践。
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説:子音の仕組み。
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践。
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ。
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について。
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析。
第 9 回	言語構造の解析	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か。
第 10 回	言語習得 (1)	言語習得理論の概説。
第 11 回	言語習得 (2)	言語習得の基礎的概念。
第 12 回	英語の歴史 (1)	英語史の概説。
第 13 回	英語の歴史 (2)	古英語から中英語へ。
第 14 回	授業の総括	秋学期の講義内容のまとめと質疑応答。
第 15 回	まとめ	最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおくことが必要です。自分で辞書を引きながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけてください。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解いてもらいます。

【テキスト（教科書）】
「First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩」
影山太郎、日比谷潤子、ブレント　デ・シェン　著
くろしお出版

【参考書】
初回の授業で詳しい文献リストを配布する予定です。
また、指定した教科書以外からの文献も利用する場合があります。その場合は、該当箇所をこちらで用意して配布します。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に示した、その分野の基礎的知識が充分に理解できているかで評価します。試験は基本的に記述式で行います。選択肢から答えを選ぶような方式の試験は極力行わない方針です。
試験　８０％
平常点　２０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
パワーポイントの展開の速度が速く、ノートが取りづらいと言う指摘があったので、その点を改善したいと思います。

【その他の重要事項】
できれば、1 年次に春学期『英語学概論 A』と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、『英語学概論 A』と『英語学概論 B』を両方履修してはじめて得られます。また、授業の内容をまとめた資料などを配布しますが、それ以外に自分でもきちんとノートを取る習慣を身につけてください。話を聞きながら、あるいは画面を見ながら、重要だと思ったことを記録できる能力は一生役にたちます。
授業の構成は順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合もあります。

英語学講義Ａ

大沢　ふよう

授業コード：A2911
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。ただ、英語が読めるようになるだけではなく、何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。様々な分析方法についても紹介します。

【到達目標】
英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上しています。
また、英語・言語の分析法の代表的なものについて、ある程度の知識を持つことができるようになります。英語の専門学科の学生にふさわしい知識と力が備わるようになります。

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義形式で行います。ができるだけ、実際の問題をとく機会を設けたいと思います。実際に問題が解けるかどうかで自分の実力の判断ができます。また、問題の解説も丁寧に行う予定です。解説を理解することによって、不足していた部分の力が身に付きます。授業にも、課題にも真剣に取り組んでください。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明。
第 2 回	英語について	実は知っているようで知らない英語の真実。
第 3 回	品詞分類の基本	今までの知識を再確認しよう。一例として「助動詞って何？」と聞かれたらどう答えるか。
第 4 回	実際の英語	実際に問題を解いてみよう。初歩的な英語が完璧に理解できているだろうか？
第 5 回	代表的な統語構造 (1)	英語の統語構造のうち代表的なものを取り上げて分析していく。これまで学校で学んだことを思い出そう。
第 6 回	代表的な統語構造 (2)	助動詞を使った構造。
第 7 回	代表的な統語構造 (3)	助動詞の種類。
第 8 回	助動詞に関わる概念	ムードとは？ あの「ムード」と同じだろうか？
第 9 回	中間のまとめ	これまでの内容のまとめと理解度をチェック。
第 10 回	機能範疇としての助動詞 (1)	本動詞との違い。
第 11 回	機能範疇としての助動詞 (2)	操作語としての助動詞。
第 12 回	助動詞というカテゴリー	否定文の形成について。
第 13 回	理論を用いた分析 (1)	幾つかの統語テストでわかること。
第 14 回	理論を用いた分析 (2)	生成文法を用いた分析。
第 15 回	まとめ	最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
１冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】
初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。
辞書は、以下のものが使い易いです。
Collins COBUILD Advanced Dictionary
Oxford Dictionary of English
Longman Dictionary of Contemporary English
研究社新大英和辞典
ジーニアス大英和辞典

【成績評価の方法と基準】
最終試験が６０％
授業中に行う小テストなどの結果　３０％
平常点　１０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
板書の速度をゆっくりする。話す速度について配慮する。

【その他の重要事項】
授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。講義の順番や、内容は従って微修正もありえます。

英語学講義Ｂ

大沢　ふよう

授業コード：A2912
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。ただ、英語が読めるようになるだけではなく、何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。様々な分析方法についても紹介します。

【到達目標】
英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力の向上も目指します。B の授業では、受講することでさらに、英語の代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになることをめざします。

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義形式で行います。ができるだけ、実際の問題をとく機会を設けたいと思います。授業中に行う小テストは必ず受けてください。また、原則として解答は返却し、詳しい解説を行います。間違えていた場合はしっかりと理解してください。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について。
第 2 回	現代英語の初歩	幾つかの基本的事実の確認。
第 3 回	現代英語の助動詞	実際に問題を解いてみよう。基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第 4 回	助動詞の詳細 (1)	Be, Have という助動詞。
第 5 回	助動詞の詳細 (2)	do-support という現象。
第 6 回	助動詞の詳細 (3)	法助動詞と副詞の関係。
第 7 回	助動詞と他の文法要素	助動詞と主語の関係。
第 8 回	中間のまとめ	これまでの内容のまとめと理解度をチェック。
第 9 回	歴史における助動詞 (1)	古英語に助動詞は存在していたか？
第 10 回	歴史における助動詞 (2)	古い時代の英語の否定文・疑問文。
第 11 回	文法化現象	文法化として助動詞の出現。
第 12 回	言語習得との関連性	第一言語習得の特徴と助動詞。
第 13 回	法助動詞の発達	義務的意味から認識的意味へ。
第 14 回	そこにある言語変化	未だ途上の「助動詞」
第 15 回	まとめ	最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
１冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】
初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。
辞書は、以下のものが使い易いです。
Collins COBUILD Advanced Dictionary
Oxford Dictionary of English
Longman Dictionary of Contemporary English
研究社新大英和辞典
ジーニアス大英和辞典

【成績評価の方法と基準】
最終試験が６０％
授業中に行う小テストなどの結果　３０％
平常点　１０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
解説を丁寧にする。話す速度を遅くする。

【その他の重要事項】
授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。講義の順番や、内容は従って微修正もありえます。

英語・言語学講義 A

秋山　孝信

授業コード：A2808
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知言語学入門：「人間の一般的な認知能力が、言語使用の基盤となっている」という考え方について議論する。豊富な実例の観察を通して、人間による世界の捉え方がことばの意味と不可分であることを確認する。

【到達目標】
本講義の主な到達目標は以下の通りである。
・認知言語学の基本概念を英語の事例を挙げながら説明できる。
・概念形成手段としてのメタファー・メトニミー・シネクドキの諸特性を説明できる。
・英語の動詞・前置詞・副詞の中には、人間の外界における経験がその意味拡張を動機づけているものが多い。その意味拡張のメカニズムを説明できる。
・名詞の可算性・質量性を左右する意味的原理を説明できる。

【授業の進め方と方法】
人間の事態把握が，ことばの形式・意味と密接な関係にあることを確認する。授業は毎回ハンドアウトを配付し，それに沿って講義を進める。基本的に講義形式で授業を行うが，随時演習問題を解き，理解を深めてもらう。抽象的な議論に留まることを避け，多くの事例を観察しながら実感を伴って理解できるよう指導する。毎回の授業終了時には、リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	図と地の分化と言語分析	図と地という知覚分化の概念を言語分析に応用する。また、「プロファイル」と「ベース」、さらに「トラジェクター」と「ランドマーク」へと議論を進める。"? The house is near the bike."が英語として不自然な訳は？
第 2 回	トラジェクターとランドマークの応用：前置詞 in の分析	トラジェクターとランドマークを利用して、前置詞 in の意味体系を考える。"? the finger in the ring"が英語として不自然なのはなぜだろうか。
第 3 回	概念形成手段としてのメタファー	メタファーを単なる言葉の綾としてではなく、概念形成の手段として捉え、その特性について考察する。"They're over the moon about their trip to Japan."の意味は？
第 4 回	メトニミーの種類と特性	メトニミーを概念形成の手段として捉え、その種類と特性について議論する。"The Giants need a stronger arm in right field."における a stronger arm の意味は？
第 5 回	シネクドキの特性	シネクドキを概念形成手段として捉え、その特性について議論する。
第 6 回	副詞 out の意味体系	副詞 out の意味は全体としてどのような体系を成しているのか。TR と LM、メタファー・メトニミーを援用して考える。"fill in the form"と"fill out the form"という表現はそれぞれ、どのように事態を把握した結果であるのか？
第 7 回	前置詞 at の意味体系	「点」を中心義にもつ前置詞 at は、どのような意味体系を成しているのだろうか。"He keeps all his clients at arm's length."における at の意味は？
第 8 回	動詞 run の多義性（空間用法）	動詞 run の空間用法がメタファー、メトニミー、心的走査に基づき、その意味を拡張させていることを議論する。"The butter on the bread melted and ran. "における ran の意味は？ walked での言い換えは可能？
第 9 回	動詞 run の多義性（空間用法からの拡張）	動詞 run はどのような認知プロセスを経て、「出現」「状態変化」「視線の移動」といった意味を獲得しているのだろうか。"The river ran dry last summer."における ran の意味は？ また、中心義「走る」との関係は？
第 10 回	可算名詞と質量名詞	英語名詞の加算性・質量性それぞれの特徴を洗い出し、可算・質量名詞の相違は、文脈に依存し、「人間のものの捉え方」を反映していることを確認する。Equipment, jewelry, machinery が質量名詞扱いになる理由は？
第 11 回	可算名詞と質量名詞（特殊事例）	「二肢類名詞」「一部の病名」「複数質量名詞」「単複同形名詞」をはじめとした特殊な名詞を吟味し、その用法の背後にある原理を吟味する。「はしか」は英語で measles と表現し、measle とは言わない理由は？
第 12 回	不定冠詞の意味と機能	英語不定冠詞の機能と用法について議論する。* I like an apple.「私はリンゴが好きです」が英語として認められないのはなぜか。
第 13 回	定冠詞の意味と機能 1	英語定冠詞の機能と用法について議論する。特に specificity と definiteness の相違について理解を深める。
第 14 回	定冠詞の意味と機能 2	特に後方照応の the の用法について理解を深める。
第 15 回	試験とまとめ	本講義のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、授業内で示す参考文献を読むと共に、授業用ハンドアウトをよく読んでくること。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜、ハンドアウトを配付する。但し、毎回辞書を持参すること。

【参考書】
授業内で適宜紹介するが、特に平易なものを以下に挙げる。
谷口一美 (2006)『学びのエクササイズ　認知言語学』ひつじ書房
籾山洋介 (2010)『認知言語学入門』研究社
吉村公宏 (2004)『はじめての認知言語学』研究社

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%） 試験（70%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
新規担当科目につき該当なし

英語・言語学講義 B

石川　潔

授業コード：A2809
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学習に役立つ言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】
現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却し、英語（などの外国語）の知識を矯正すること。
より具体的には
・「文法分析」と「訳」の違いの認識、間違った「直訳」の発想からの脱却。
・意味概念と構文の関係の日英語間での違いの（実例に基づいた）認識。
・「白人」英語と「黒人」英語の比較を通じた、「素人分析」の危険性の認識。
・発音の「不規則性」と見えるものの背後にある規則性の認識 (e.g., *does*)。
といった目標となります。

【授業の進め方と方法】
具体的なネタを取り上げた講義、および、訳や作文の実習。
なお、授業計画は参考例に過ぎず、学生の理解度その他により柔軟に変更しまくります。下記の通りに行く保証はありません（し、あるべきでもないはずです）。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：日本語の「主語」について
第 3 回	巷の日本語論の嘘（その 3）	うなぎ文（その 3）：奥津説、菅井説
第 4 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と役割語
第 5 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説（その 1）……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説（その 2）……日本語の助詞、および英語の倒置構文
第 8 回	ハとガ、英語の冠詞（その 3）	ハとガは、本当はもっとややこしい……。
第 9 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 10 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 11 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 12 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 13 回	強形・弱形・再強勢形	*do* の 3 単現（その 1）
第 14 回	音節量	*do* の 3 単現（その 2）
第 15 回	外来語での音節量調整	*do* の 3 単現（その 3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えて（書いて）きてください。
また、授業で学んだ方法論を身近な他の問題に応用して考えてみてください。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 % での評価となります。
公平性を最重視するので、個人的な事情（努力の有無や、体育会所属など）は一切考慮しません。
但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
N/A.

【学生が準備すべき機器他】
ハンドアウトを授業支援システムで配布します。授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】
私語は厳禁。
その他、http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/を参照のこと。

英語・言語学特殊講義 A

柴﨑　礼士郎

授業コード：A2923
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「コーパス」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。『明鏡国語辞典』には「言語資料、個別言語・発話などの情報を大規模または網羅的に集めたもの」とあります。近年では、コーパスだけで電子化された言語資料を意味する方が一般的と思えます。本講義では、英語に関する無償公開コーパスの存在を知り、その操作方法の基礎の基礎を理解します。操作方法を確認しつつ、各自の関心に従ってデータ分析を試みます。分析結果をレポートとしてまとめるだけではなく、クラス内で口頭発表もします。英語学・言語学の基礎知識、コーパスの基本操作、および、口頭発表を組み合わせた正に特殊講義となります。

【到達目標】
1. 英語コーパスの基本的操作ができる。
2. コーパスを通して得られたデータを適切に分析することができる。
3. 分析結果をレポートとしてまとめることができる。
4. 分析結果に基づくパワーポイント資料を作成できる。
5. クラス内で口頭発表できる。（受講者数に応じて、個人・グループ発表を決める。）

＊受験英語に対するモヤモヤ感が残っている人が、学習のためのヒントを得ることができれば、本講義の目標は達成できます。

【授業の進め方と方法】
ことばを見る目を養うコーパス操作の学習が中心となるため、最初の数回は基本操作を繰り返します。少しずつ興味の幅を広げてゆき、卒業論文のテーマとなるような興味深いテーマに辿り着ければ言うことはありません。データを見る目を養うことは、就職活動などを含めて必ず役に立ちます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の授業の進め方。手持ちのコンピュータの確認。
第 2 回	コーパスの基本操作 1	担当者の配布する資料に基づき、コーパスの基本操作を学ぶ。
第 3 回	コーパスの基本操作 2	基本操作の習得を確認後、別のコーパスの基本操作も学ぶ。
第 4 回	コーパスの基本操作 3	コーパスに基づく練習問題。語法に関する意見交換。
第 5 回	コーパス演習 1	気になる英語表現を持ち寄り、クラス内で分析をする。
第 6 回	コーパス演習 2	データ分析。個人あるいはグループ発表用のテーマを探る。
第 7 回	コーパス演習 3	データ分析。個人あるいはグループ発表用のテーマを探る。
第 8 回	研究初歩 1	コーパスを用いた研究論文を読む。その後、コーパスを用いてクラス内で再現を試みる。
第 9 回	発表準備	口頭発表用のパワーポイント資料作成。プレゼンテーション方法・レポート執筆方法の確認。
第 10 回	研究初歩 2	コーパスを用いた研究論文を読む。その後、コーパスを用いてクラス内で再現を試みる。進捗により「発表準備」とする場合もある。
第 11 回	口頭発表 1	学生による研究発表。（履修者数に応じて回数調整の可能性有。）
第 12 回	口頭発表 2	学生による研究発表。
第 13 回	口頭発表 3	学生による研究発表。
第 14 回	口頭発表 4	学生による研究発表。
第 15 回	まとめ	学期末レポートの提出。授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コーパスは「習うより慣れろ」だと思います。最初の数回の授業で基本操作を学習した後は、自ら学習を深めていって下さい。一方、各講義で分かり難かったことや、更に詳しく知りたい場合には、講義の前後に質問を受けることもできます。

【テキスト（教科書）】
コーパスに関する予備知識のない受講生のためにも、以下のテキストを指定しておきます。語法研究が中心であるため、辞書を毎回持参すること。
堀正弘 2011.『例題で学ぶ英語コロケーション』研究社, ￥2,160.

【参考書】
中川右也. 2010.『教室英文法の謎を探る』開拓社.
滝沢直宏. 2006.『コーパスで一目瞭然―品詞別 本物の英語はこう使う!』小学館.
塚本倫久. 2012.『プログレッシブ 英語コロケーション辞典』小学館.
塚本倫久. 2014.『プログレッシブ 英語コロケーション練習帳』小学館.
衣笠忠司. 2010.『Google 検索による英語語法学習・研究法』開拓社.
衣笠忠司. 2014.『英語学習者のための Google・英辞郎検索術』開拓社.

【成績評価の方法と基準】
・発表用パワーポイント資料： 20 %

・口頭発表： 30 %
・レポート： 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本務校あるいは他大学での関連講義を踏まえ、常により良い授業へ向けた改善に取り組んでいます。今回は、コメントシートを用いることにより受講生の皆さんの意見を随時取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを用意し、毎回持参してください。

【その他の重要事項】
受講の意志が固い方は、事前に登録（http://corpus.byu.edu/）を済ませておいて頂いても構いません。

英語・言語学特殊講義 B

柴﨑　礼士郎

授業コード：A2924
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外ミュージシャンのインタヴューをテレビや雑誌で見た際に、play guitar や play guitars という表現が耳や目に留まることがありました。大学入試を控えた受験生からすると play the guitar と覚える方が賢明かもしれませんが、英語母語話者の頭の中では使い分けが無意識のうちに行われているようです。こうした事実を考えると、ことばは人から完全には離れて存在していないようです。本講義では、ことばと人間の関係を様々な角度から考えていきます。受講生は、認知言語学のコアな部分（e.g. メタファー、メトニミー、前置詞の意味）から、他領域へ跨ると思われる周辺部分（e.g. 言語間の距離、中間言語）へも理解を拡げます。テキストの理解に基づくディスカッション、各自の関心に従ってデータ分析を試みます。分析結果をレポートとしてまとめるだけではなく、クラス内で口頭発表もします。「英語・言語学特殊講義 A」と同じく、英語学・言語学の基礎知識、データ分析、および、口頭発表を組み合わせた特殊講義形式をとります。

【到達目標】
1. 認知言語学の基本的な考え方が理解できる。
2. 授業で学習した内容に基づき、データを分析することができる。
3. 分析結果をレポートとしてまとめることができる。
4. 分析結果に基づくパワーポイント資料を作成できる。
5. クラス内で口頭発表できる。（受講者数に応じて、個人・グループ発表を決める。）

＊受験英語から学んだ知識の整理、他言語（多言語）学習のためのヒント、あるいは、学問的探求の礎として、何らかの解答を得ることができれば、本講義の目標は達成できるものと判断しています。

【授業の進め方と方法】
認知言語学の基礎知識を吸収するため、最初の数回はテキストを用いた発表とディスカッションを繰り返します。その後、データ分析を経て、受講生による簡単な研究発表を行います。インプットからアウトプットまでを流れとし、学習内容の長期記憶化を促します。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期の授業の進め方。春学期の復習。テキストの確認。
第 2 回	言語に関する誤解	テキスト第 1 章。担当者（受講生）による発表。その後ディスカッション。
第 3 回	認知言語学の基礎	テキスト第 2 章。担当者（受講生）による発表。その後ディスカッション。
第 4 回	意味とは何か	テキスト第 3 章。担当者（受講生）による発表。その後ディスカッション。
第 5 回	認知能力のいろいろ	テキスト第 4 章。担当者（受講生）による発表。その後ディスカッション。
第 6 回	カテゴリー	テキスト第 5 章。担当者（受講生）による発表。その後ディスカッション。
第 7 回	研究初歩 1	認知言語学関連の論文を読む。その後ディスカッション。
第 8 回	研究初歩 2	データ分析。その後ディスカッション。個人あるいはグループ発表用のテーマを探る。
第 9 回	発表準備	口頭発表用のパワーポイント資料作成。プレゼンテーション方法・レポート執筆方法の確認。
第 10 回	メタファー	テキスト第 6 章。担当者（受講生）による発表。その後ディスカッション。
第 11 回	メトニミー・他	テキスト第 7 章。担当者（受講生）による発表。その後ディスカッション。
第 12 回	口頭発表 1	学生による研究発表。（履修者数に応じて回数調整の可能性有。）
第 13 回	口頭発表 2	学生による研究発表。
第 14 回	口頭発表 3	学生による研究発表。
第 15 回	まとめ	学期末レポートの提出。授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者の経験では、認知言語学では「発想の転換」が大切だと思えます。ことばの面白さに気付けるように、自身の日常を見直してみてください。認知言語学の入口は誰もが入り易いという学問的特性がありますが、年々深化と拡張を遂げています。以下の参考書へも適宜目を通し、自らの行先と出口も模索してください。

【テキスト（教科書）】
認知言語学に関する予備知識のない受講生のためにも、以下のテキストを指定しておきます。辞書を毎回持参すること。
高橋英光. 2010.『言葉のしくみ－認知言語学のはなし』北海道大学出版会, ￥1,728

【参考書】
西村義樹・野矢茂樹 2013.『言語学教室－哲学者と学ぶ認知言語学』中公新書.
野村益寛 2014.『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房.

籾山洋介. 2014.『日本語研究のための認知言語学』研究社.
バトラー後藤裕子 2015.『英語学習は早いほど良いのか』岩波新書.
森雄一・高橋英光 2013.（編著）『認知言語学 基礎から最前線へ』くろしお出版.
大堀寿夫 2002.『認知言語学』東京大学出版会.
G.・ドイッチャー 2012.『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』インターシフト.
M.・トマセロ 2011.『認知・機能言語学―言語構造への 10 のアプローチ』研究社.
D.・エヴェレット. 2012.『ピダハン―「言語本能」を超える文化と世界観』みすず書房.

【成績評価の方法と基準】
・テキスト担当箇所の発表： 10 %
・発表用パワーポイント資料： 20 %
・口頭発表： 30 %
・レポート： 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本務校あるいは他大学での関連講義を踏まえ、常により良い授業へ向けた改善に取り組んでいます。今回は、コメントシートを用いることにより受講生の皆さんの意見を随時取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、授業の内容によってはパソコンを持参してもらう時があります。予め指示を出します。

【その他の重要事項】
春学期の「英語・言語学特殊講義 A」を受講済みであるとより良い理解に繋がると思えますが、基本的に予備知識は必要ありません。各講義で分かり難かったことや、更に詳しく知りたい場合には、講義の前後に質問を受けることもできます。

ギリシア語 1

白根　裕里枝

授業コード：A2270
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の$\Sigma\ \pi\ \gamma\ \beta\ \theta\ \mu$ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。
できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【授業の進め方と方法】
下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古典ギリシア語の概要	文字の読み方
第 2 回	文字を知る	文字と発音
第 3 回	読み方の規則	発音と朗読
第 4 回	名詞・形容詞の変化 1	格変化の基礎
第 5 回	冠詞・形容詞の位置	練習問題 3
第 6 回	名詞・形容詞の変化 2	練習問題 4
第 7 回	動詞変化 1 現在・未来	練習問題 5
第 8 回	動詞変化 2 過去	練習問題 6
第 9 回	動詞変化 3 不定法	練習問題 6-2
第 10 回	動詞変化 4 アオリスト	練習問題 7
第 11 回	動詞変化の整理	練習問題 7-2
第 12 回	代名詞の用法	練習問題 8
第 13 回	動詞変化 5	練習問題 8-2
第 14 回	第 3 変化の名詞	練習問題 9
第 15 回	春学期のまとめ	練習問題 9-2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。

【テキスト（教科書）】
『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】
『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】
ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

ギリシア語２

白根　裕里枝

授業コード：A2271
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン (ソクラテス) の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字のΣ π γ β θ μ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。
できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【授業の進め方と方法】
下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回「補助解説プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	動詞変化の基礎
第 2 回	第 3 変化の名詞 2	練習問題 10-11
第 3 回	関係代名詞	練習問題 11
第 4 回	指示・強意代名詞	練習問題 12
第 5 回	比較級・約音動詞	練習問題 13-14
第 6 回	不規則な形容詞	練習問題 15-17
第 7 回	動詞変化 6	練習問題 18-19
第 8 回	分詞の用法	練習問題 20-21
第 9 回	接続法と条件文	練習問題 22
第 10 回	希求法と条件文	練習問題 23-24
第 11 回	中・受動相	練習問題 25-26
第 12 回	条件文	練習問題 27
第 13 回	接続法/希求法	練習問題 28-29
第 14 回	受動相・完了	練習問題 30-32
第 15 回	命令法・数詞	練習問題 33-36

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。

【テキスト（教科書）】
『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】
『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ギリシア語という未知の言語に触れることのできる数少ない機会で、難しいが、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しいらしい。教科書の最後までやりとおすために、なお一層、計画を立ててじっくり進めたい。

【その他の重要事項】
ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんか、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

ラテン語１

棟尾　正敏

授業コード：A2268
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
語学の授業です。古代ローマで使われていたラテン語を読むための基本的な知識を１年間かけて修得することを目指します。ラテン語１・ラテン語２は独立した科目ですのでどちらか一方だけの履修も可能ですが、２は１で修得したことを踏まえて授業を行うので、２をとる場合は、通年での受講をお勧めします。
私たちがこの１年間学ぶのは、古典ラテン語と呼ばれるものの基本事項です。古典ラテン語というのは紀元前１世紀から紀元後１世紀に書かれた文章語で、散文ではカエサル、キケロー、詩ではウェルギリウス、ホラーティウス、オウィディウスらの書いた作品が代表的なものです。

【到達目標】
１年後には辞書・文法書・註釈を使って、カエサルやウェルギリウス、オウィディウスのラテン語原典に取組めるようになることを目指します。
ラテン語１のみの場合は、ラテン語という言語は、基本的には、このような言語なのだなというイメージがつかめるようになります。

【授業の進め方と方法】
授業方法
下記の教科書を使い、１課ごとに新出の文法事項を解説した後に練習問題を宿題にする、という形で授業を進めていきます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第１課	発音、アクセント
第 2 回	第１課	規則動詞・現在の活用
第 3 回	第２課	第１・２変化名詞の格変化など
第 4 回	第３課	第１・２変化形容詞、前置詞など
第 5 回	第３、４課	指示代名詞、動詞・未完了過去、未来、第３変化名詞
第 6 回	第４、５課	第３変化名詞、動詞・完了
第 7 回	第５課	動詞・完了、過去完了、未来完了、第３変化形容詞
第 8 回	第６課	指示代名詞、動詞受動相・各時称、受動文
第 9 回	第６、７課	受動文、疑問詞と疑問文、関係代名詞、第４・５変化名詞
第 10 回	第７、８課	ローマ人の名前、目的分詞、完了受動分詞、動詞受動相時称の残り、命令法能動相
第 11 回	第８、９課	命令法受動相、述語的同格、不規則動詞の活用、形容詞の比較
第 12 回	第９、10 課	比較級の格変化・用法、副詞の比較、部分を表わす述語的同格、形式受動相動詞、分詞の種類と作り方
第 13 回	第 10 課	分詞の用法、接合分詞
第 14 回	第 10 課	絶対的奪格
第 15 回	復習	重要ポイントの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題：初めこそ簡単ですがすぐに難しくなります。授業前の休み時間や授業日前夜寝る前に、等と考えていると手に負えなくなります。時間配分を考えてこなすようにしてください。
復習：ラテン語の名詞、代名詞、形容詞、動詞は、その一つ一つが多くの変化をし、かつ、その変化のパターンも多数あります。授業ではその一つ一つを解説しますが、これらの変化や他の多くの文法規則を自分で憶える努力をしてもらわなければなりません。

【テキスト（教科書）】
教科書として、
中山恒夫『標準ラテン文法』白水社、1987 年、2,052 円。
を使います。

【参考書】
ラテン語がヨーロッパ世界の中でどのような地位を占めるかについて
小林標『ラテン語の世界　ローマが残した無限の遺産』中公新書（2006）
ラテン文学全般について
松本仁助・岡道男・中務哲郎編『ラテン文学を学ぶ人のために』世界思想社（1992）
辞書についてはラテン語２の【参考書】を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】
評価は上述の宿題の解答数により決まります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
毎回出欠を取ります。
出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

ラテン語２

棟尾　正敏

授業コード：A2269
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ラテン語１を参照して下さい。

【到達目標】
ラテン語１を参照して下さい。

【授業の進め方と方法】
ラテン語１を参照して下さい。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第 11 課	不定法の形・用法、数詞
第 2 回	第 11、12 課	数詞の続き、代名詞型形容詞、不定代名詞、動名詞の形と用法
第 3 回	第 12、13 課	動形容詞の形と用法、非人称動詞
第 4 回	第 13 課	属格・与格の用法
第 5 回	第 14 課	与格・対格・奪格の用法
第 6 回	第 14, 15 課	奪格の用法、接続法の活用
第 7 回	第 15, 16 課	接続法の主文の用法、時称対応、間接疑問文
第 8 回	第 16, 17 課	目的文、結果文、時の文
第 9 回	第 17 課	接続詞 cum、接続詞 quod
第 10 回	第 17、18 課	接続詞 quod、条件文、譲歩文
第 11 回	第 18 課	比較文、関係文の特殊用法
第 12 回	第 18、19 課	関係文の特殊用法、関係文中の接続法
第 13 回	第 19 課	間接話法、副文の間接話法、条件文の帰結文の間接話法
第 14 回	第 19 課	宿題の答えあわせ
第 15 回	復習	最重要ポイントの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
秋学期になると、扱う内容も、宿題の練習問題も格段に難しくなります。宿題と復習に十分時間を割くようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
ラテン語１を参照して下さい。

【参考書】
授業では教科書以外の教材は一切必要ありませんが、以下辞書を幾つか挙げておきます。
初学者のために一番バランスのとれた辞書は、
D.P. Simpson, Cassell's Latin Dictionary, Wiley Publishing, 1968
羅英を含む。古典期の作家を読むのならば後々まで利用できる。
どうしても羅和辞典がいいという人には、
水谷智洋『改訂版羅和辞典』研究社、2009
学習用にしては用例が少し足りないが、近代までの語彙も割とカヴァーしてある点は便利。簡便ながら和羅を含む。同程度の外国語辞典に較べて価格が割高。

【成績評価の方法と基準】
ラテン語１を参照して下さい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ラテン語１を参照して下さい。

【その他の重要事項】
ラテン語１を参照して下さい。

GA332

中国語アプリケーション（水曜・2 限）

曽　士才

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。

【到達目標】
中国の報道記事や評論文を辞書を使いながら十分に読めるレベルを目標としている。

【授業の進め方と方法】
主として『人民日報』『新民晩報』『南方周末』などの報道記事や『新華文摘』『新華月報』などの評論文を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、教材配布
第 2 回	プリント１①	受講者が分担して、報道記事を読み、日本語に訳す。
第 3 回	プリント１②	翻訳と講読を続ける。
第 4 回	プリント１③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 5 回	プリント２①	受講者が分担して、報道記事を読み、日本語に訳す。
第 6 回	プリント２②	翻訳と講読を続ける。
第 7 回	プリント２③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 8 回	プリント３①	受講者が分担して、報道記事を読み、日本語に訳す。
第 9 回	プリント３②	翻訳と講読を続ける。
第 10 回	プリント３③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 11 回	プリント４①	受講者が分担して、評論文を読み、日本語に訳す。
第 12 回	プリント４②	翻訳と講読を続ける。
第 13 回	プリント４③	翻訳と講読を続ける。
第 14 回	プリント４④	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 15 回	読解力テスト	既習教材を範囲とするが、応用問題を入れた試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業はプリント教材を読み、翻訳することになるが、受講者は事前に分担部分を読み込み、訳文を用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（分担翻訳、15 %）と学期末に実施するテスト（85 %）で判定する。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
中国語そのものではなく、記事内容の背景が分りにくい場合もあったので、従来以上に十分な背景説明をするよう心がけたい。

GA332

中国語アプリケーション（水曜・4限）

髙田　裕子

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論説文及び新聞記事の講読

【到達目標】
最新時事関連の論説文及び新聞記事等の実務的な文章表現並びにその読み方と大意の捉え方を習得し、現代中国社会及び日中関係、更には国際社会における日本と中国それぞれの主張とスタンスについて理解を深める。

【授業の進め方と方法】
新聞及び時事関連雑誌・ネット上の最新時事教材を用いて実務的文章表現について学び、関連する背景知識を得、実務的文書に対する理解と考察を深めるとともに、効率の良い、実践的な講読スキルを習得すべくトレーニングを行う。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	新聞記事－時事トピック１	本科目の学習方法 読解・情報の処理に関するスキル紹介 時事トピック１のキーワード確認 読解演習
2	新聞記事－時事トピック２	時事トピック１のサイトトランスレーション 時事トピック２　読解演習 背景知識解説 キーワード確認
3	新聞記事－時事トピック３	時事トピック２のサイトトランスレーション 経済３　読解演習 背景知識解説 時事トピック１～３サマライズ
4	新聞記事－経済１	経済１キーワード確認 キーワードの捉え方講義 リサーチスキルの紹介 経済用語確認・解説
5	新聞記事－経済２	経済１のサイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 経済２キーワード確認 経済用語確認・解説 読解演習
6	新聞記事－経済３	経済２のサイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 経済３キーワード確認 経済用語確認・解説 読解演習 経済１～３サマライズ
7	新聞記事－政治１	中国政治関連基礎知識講義 政治１キーワード確認 読解演習
8	新聞記事－政治２	政治１サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 政治２キーワード確認 読解演習
9	新聞記事－政治３	政治２サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 政治３キーワード確認 読解演習 政治１～３サマライズ
10	論説文１	論説文の読み方講義 論説文１キーワード確認 読解演習
11	論説文２	論説文１サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 論説文２キーワード確認 読解演習
12	論説文３	論説文２サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 論説文３キーワード確認 読解演習
13	論説文４	論説文３サイトトランスレーション ＨＷ（リサーチ）発表 論説文４キーワード確認 読解演習 論説文１～４サマライズ
14	その他実務関連文書	背景知識に関する解説 キーワード確認 サイトトランスレーション サマライズ
15	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示された課題

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
『中国語新語ビジネス用語辞典』大修館書店（電子辞書搭載コンテンツ）

【成績評価の方法と基準】

平常点	30 %
課題達成率	30 %
期末テスト	40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
基本的な中国語の書き言葉の習得は、大学における中国語学習の仕上げ段階には不可欠である。
講読スキル（情報の処理方法）をより定着させるため、８回目以降の授業では復習確認を定例化する。

GA332

中国語アプリケーション（金曜・２限）

金　玉英

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 等で養ってきた中国語能力を維持し高め、各種中国語検定試験の合格を目指す。

【到達目標】
それぞれが獲得した中国語能力に見合った社会的評価を得ておくことは、これからの社会において、一定の役に立つと思います（ただし実際に受験するかどうかは受講者の自由意志に任せ、特定の試験の受験を強制することはありません）。各自の中国語をそれぞれのレベルにあわせてきめ細かくチェックし、少しずつスキルアップしていきます。

【授業の進め方と方法】
各種の中国語検定問題に即した課題について問題を解きながら、必要な注意点についてコメント、レクチャーします。受講者の希望により、ある程度の課題のレベルや種類の調整をしながら進めていきます。受講者の希望により、中国語で授業を行う時間を設ける場合があります。
状況に応じて、現代中国事情に関する資料も取り入れます。また、授業の進度も調整します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業担当者と一緒に、これまで学んできた中国語を振り返り、自分の中国語能力を再検討する。
第２回	発音１	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の弱点を発見する。
第３回	発音２	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。
第４回	発音３	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。
第５回	語彙１	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第６回	語彙２	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第７回	語彙３	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第８回	語彙４	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第９回	語彙５	「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）、中国で出版された HSK 関連の教科書や単語表等を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第１０回	文法１	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい「文法項目」を繰り返し復習。
第１１回	文法２	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい「文法項目」を繰り返し復習。
第１２回	文法３	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい「文法項目」を繰り返し復習。
第１３回	総合問題演習１	「中国語検定協会問題集」新 HSK 関連の問題集等の問題を解き、それについて担当者が解説する。
第１４回	総合問題演習２	「中国語検定協会問題集」新 HSK 関連の問題集等の問題を解き、それについて担当者が解説する。
第１５回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教室へ来る前には必ず前週までのプリントを確認し、事前に目を通してください。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
『ポイント学習初級中国語』（大石智良他著　東方書店）。「中国語検定協会問題集」また、出版社は問いませんが、必ず辞書を持参してください。また、自分が使いなれた中国語文法の参考書も持参してください。

【成績評価の方法と基準】
テストの結果の他、出席状況、提出部の完成度などの平常点を勘案して、総合的に評価する。授業内で発表・討論を行う場合には、それへの貢献も評価の対象になる。
（目安　　期末テスト 50 %　小テスト・提出物 20 %　授業参加 30 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
受講者の学習状況に応じて、「発音・ヒアリング」「語彙」「文法」「総合問題演習」の回数を変更することがある。
中国語の語彙は、その語彙に固有・特有の使い方を記憶した方が文法事項にも繋がり中国語の運用能力向上に効果的な場合が多いので「語彙」授業回数を多めに設定した。

GA332

中国語アプリケーション（火曜・３限）

鈴木　靖

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書で学んだ中国語と、実際の生活の中で使われている中国語との間には、話すスピードや語彙、表現の豊かさに大きな違いがある。
この授業では、中国のドラマやドキュメンタリー番組を教材に、上級レベルの中国語力を身につけていく。

【到達目標】
中国のドラマやドキュメンタリー番組は、インターネットでのオンデマンド配信などを通じて、多くの作品が鑑賞できるようになっている。この授業を通じて、こうした番組を鑑賞できる中国語力を身につけることにより、“中国語を”学ぶから“中国語で”学ぶ、あるいは楽しむという、教室学習から生涯学習への転換を図る。

【授業の進め方と方法】
授業時間を有効に利用するため、e ラーニングによる予習と教室での学習を組み合わせたブレンド型学習を行う。
授業の具体的な進め方は、次のとおり。
①はじめに自宅で e ラーニングを使い、教材の映像翻訳を行う。
②授業では、担当者を決めて映像翻訳の結果を発表し、意見交換を行う。
③自宅に帰った後、e ラーニングを使い、学習した内容を復習する。
また、毎回授業のはじめに、前回の学習成果を確認するため、小テストを行う。後述のように、この結果が成績評価の 50 %を占めるので、遅刻しないよう注意すること。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明するとともに、ドラマのディクテーションに使う映像翻訳実習システムの利用方法について解説する
第 2 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１集	ドラマの映像翻訳と模擬上演
第 3 回	「愛是一顆幸福的子弾」第２集	同上
第 4 回	「愛是一顆幸福的子弾」第３集	同上
第 5 回	「愛是一顆幸福的子弾」第４集	同上
第 6 回	「愛是一顆幸福的子弾」第５集	同上
第 7 回	「愛是一顆幸福的子弾」第６集	同上
第 8 回	「愛是一顆幸福的子弾」第７集	同上
第 9 回	「愛是一顆幸福的子弾」第８集	同上
第 10 回	「愛是一顆幸福的子弾」第９集	同上
第 11 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１０集	同上
第 12 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１１集	同上
第 13 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１２集	同上
第 14 回	「愛是一顆幸福的子弾」第１３集	同上
第 15 回	まとめ	ドラマの中に出てきたさまざまな表現を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に以下の予習をすること。
①映像翻訳システムを使い、ドラマの字幕を作成する
②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、模擬上演できるよう準備する

【テキスト（教科書）】
オンラインの映像翻訳システムを教材とするため、テキストは使用しない。

【参考書】
劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】
①毎回の映像翻訳の内容（50 %）
②授業のはじめに行う小テスト（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度からドキュメンタリー番組とテレビドラマを隔年で教材とすることにした。
昨年度は中国の世界遺産を紹介するシリーズ番組「世界遺産在中国」の第 22〜24 集「秦始皇帝陵と兵馬俑」を教材にやや硬い文章語を学んだので、今年度は中国のテレビドラマ「愛情是一顆幸福的子弾」を教材に、ドラマの一部を演じながら、自然な口語を身につけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
映像翻訳システムの利用には、パソコンとインターネット環境が必要である。自宅でこれらの環境がない場合は、学内の情報カフェテリアなどを活用してほしい。

GA332

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺　昭太

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点がきちんと把握できていないと感じたり、自分で作った中国語文が、伝えたいことを正しく表現できているかどうかわからないといった経験がある人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、さらに詳しい説明・解説を交えながら、問題演習を通じて応用力の育成を図る。とりわけ、『ポイント学習　中国語初級［改訂版］』で学んだ文法項目を中心に、各項目の基本的用法を確認しつつ、より詳しい用法や発展的な内容を学び、その知識を応用した作文練習や翻訳練習を行うことで、様々な中国語文を適切に理解・表現できる力を養う。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
(2) 既習の文法項目の応用的用法を身に付ける。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把” 構文	「“把” 構文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	受身表現	「受身表現」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	使役表現	「使役表現」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	比較表現	「比較表現」及びそれに関連する表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要な表現 1	「存現文」、「連動文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
14	その他の重要な表現 2	「助動詞」、「“是…的” 構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
15	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 1996『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』東京：同学社
・木村英樹 1996『中国語はじめの一歩』（ちくま新書 066）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白帝社
・劉月華 他 2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館

【成績評価の方法と基準】
期末レポートを 60%、平常点（問題演習への取り組み、発表・質疑応答など）を 40%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度授業担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が準備する。

【その他の重要事項】
初級中国語の文法知識があることを前提に授業を行う。

GA218

中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）

渡辺　昭太

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、中級段階に進んだ際に、難易度の高い中国語の意味を取り違えたり、中国語作文において間違った表現を使った経験がある人は多いだろう。また、SA などで中国人日本語学習者の日本語に触れた時、その日本語が不自然だと思いながらもその理由をうまく説明できないという経験をした人もいるかもしれない。本授業では、このような誤用例にスポットをあて、なぜそのような誤用が起きるのか、どのような表現にすれば適切な中国語／日本語表現になるのかを的確に分析できる力を養う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 中国語／日本語学習者の誤用例の検討を通じて、その原因に関して自分なりに説明できる。
(2) 関連する論考や資料の講読を通じて日中両言語の文法的諸特徴を適切に理解する。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	動詞関連表現 1	アスペクトに関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
3	動詞関連表現 2	助動詞に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
4	動詞関連表現 3	副詞的表現、否定表現に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
5	形容詞関連表現 1	形容詞に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
6	形容詞関連表現 2	比較表現に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
7	名詞関連表現 1	名詞、数量詞に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
8	名詞関連表現 2	連体修飾に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
9	補語 1	結果補語、方向補語に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
10	補語 2	可能補語、数量補語に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
11	様々な構文 1	把構文、受身文、使役文に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
12	様々な構文 2	存現文、是…的構文に関する誤用例と関連する日本語表現の考察を行う。
13	日本語と中国語の表現論的特徴 1	日本語と中国語の表現論的相違（相対的表現と絶対的表現など）に関して考察する。
14	日本語と中国語の表現論的特徴 2	日本語と中国語の表現論的相違（言語と文化など）に関して考察する。
15	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 1996『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』東京：同学社
・木村英樹 1996『中国語はじめの一歩』（ちくま新書 066）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白帝社
・劉月華 他 2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館

【成績評価の方法と基準】
期末レポートを 60%、平常点（問題演習への取り組みや考察、発表・質疑応答など）を 40%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度授業担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が準備する。

【その他の重要事項】
初級中国語の文法知識があることを前提に授業を行う。

GA332

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

奥石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の構造について，様々な面から考察することが，本授業のテーマです．良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は，どのような言語であるのか，授業で考察していきます．

【到達目標】

1．学生が英語の音声面，文法面等の構造について，知識を得られること．
2．学生が英語の構造についての研究の仕方について，ある程度の知識を得られること．
3．学生が英語という言語に関しての様々な問に対して，答えるべき道筋をつけられること．
4．併せて，学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること．

なお，上記の1，2で述べた知識ですが，ヤマとなる点は以下の通りです．

a) 音声器官，発音記号．
b) 音素の考え方（構造主義）．
c) 言語の知識を構成する各部門の考え方．
d) 記述上のさまざまな単位．
e) 統語範疇（品詞論）．
f) 直接構成素分析，句構造．

【授業の進め方と方法】

履修者の数，知識のレベルなど未知数が多いため，現時点で具体的なことをすべて決定することはできない状況にあります．現時点で考えていることは以下の 2 点です．

1．講義形式の授業にせざるを得ませんが，可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います．
2．何をトピックにするか明確にし，履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います．

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方，教材について説明します．後半は，英語という言語について，どこでどのように話されているかなどを見た上で，英語史について簡単に触れます．
2	英語の音声について（1）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．言語音声に関する初回になりますので，音声研究において必要な調音器官などの用語，発声の原理について学びます．
3	英語の音声について（2）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．今回は，英語を離れ，一般的に単音の記述について見た後，子音・母音の分類原理について学習します．
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ 3 回目です．英語の母音について，その分類を学んだ後，各母音について見ていきます．
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ 4 回目です．二重母音，弱母音等について触れ，その後，フォニックスについて学習します．
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ 5 回目です．母音についてまとめ，英語の子音を見ていきます．
7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ 6 回目です．子音についてまとめた後，音節，音結合について触れます．最後に，かぶせ音素（アクセント，リズム，イントネーション等）について解説します．
8	英語の文法について（1）	英語の文法について学ぶ 1 回目です．初回ですので，文法という用語の伝統的な意味と，新しい意味，生成文法の考え方等について学びます．
9	英語の文法について（2）	英語の文法について学ぶ 2 回目です．日英の語順の相違について概観した後，形態素，語，語彙素といった基本的な用語について学びます．
10	英語の文法について（3）	英語の文法について学ぶ 3 回目です．統語範疇という概念について概観します．具体的に，形容詞を例にとって，いかに統語範疇が規定されるか，検討します．
11	英語の文法について（4）	英語の文法について学ぶ 4 回目です．形容詞についての話をまとめ，他の統語範疇と形容詞の関係について学びます．英語の辞書の記述についても，検討します．
12	英語の文法について（5）	英語の文法について学ぶ 5 回目です．構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます．そして，不連続構成素をどのように扱うかについての話をします．
13	英語の文法について（6）	英語の文法について学ぶ最後の回です．この回は，SVO+不定詞という構文を例にとり，それがどのように分析されるか，検討します．
14	まとめ〜今後につなげて	これまでの授業を総括し，その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか，授業で学んでいきます．
15	試験	これまでの授業の内容理解に関して試験を実施します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回，前回の内容を復習しながら，新しい内容に進みますので，学生は，基本的な用語を習得し，方法論を理解しながら，参考文献等を読んで授業に臨んでください．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません．適宜，プリントなどを配布，提供いたします．

【参考書】

授業中，随時指定いたしますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．

・加島祥造 (1976).『英語の辞書の話』．東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載．]
・加島祥造 (1983).『新・英語の辞書の話』．東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載．]
・竹林滋・斉藤弘子 (1998).『改訂新版　英語音声学入門』．東京：大修館書店．
・中島文雄 (1991).『英語学とは何か』．東京：講談社 [講談社学術文庫].
・田中菊雄 (1992).『英語研究者のために』．東京：講談社 [講談社学術文庫].

・竹林滋 (1991).『英語発音に強くなる』. 東京：岩波書店 [岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして，平常点を加味します．言うまでもないことですが，出席することはすべての前提です．欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして 1 段階下がる），欠席 5 で失格，というのを一応の目安とします．）

最終試験 50%，プロジェクト 30%，平常点 20%というのが，基本的な評価基準です．（プロジェクトについては，課さないこともありえます．その場合は，最終試験 60%，平常点 40%とします．）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

昨年度は英語で行ったこともあり，難しいという印象が多かったようです．従って，教えるべき内容については再度見直し，減らす方向で考えたいと思います．しかし，到達目標に記したことは，ことばの学問の道筋として知っておいてほしいものですので，「授業支援システム」等で発信するフィードバックを元に，何とか学んでいってほしいと思います．

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】

1．具体的なことは履修者の数，知識のレベルなどを加味して決めたいと考えています．

2．かなり速いペースで英語の構造についてお話しますので，真面目な態度で出席しないと履修は困難です．

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は，言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の構造をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期ですので，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の構造について，基本的な知識は網羅するように心がけます．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

GA332

世界の中の日本語

リービ　英雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学のいくつかの作品（主に近代・現代）に出てくる文章を英語に翻訳しながら「世界の中の日本語」と「日本語の中の世界」を考える。実際の日本語のテキストを学生たちが翻訳する。

その実習を通して、表現のことばとしての日本語の姿を浮きぼりにして、二十一世紀にふさわしい日本文学論を展開する。

【到達目標】

言葉のレベルで「日本と世界」を考えることができること。

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストを翻訳し、講じる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英訳を通して日本語について考える
第 2 回	ノーベル文学賞と「日本」上	大江健三郎と「あいまいな日本の私」
第 3 回	ノーベル文学賞と「日本」下	川端康成と「美しい日本の私」
第 4 回	戦後文学の英訳	キーンとサイデンステッカー等
第 5 回	安部公房の文学と英訳	「砂の女」について
第 6 回	英訳で見た三島由紀夫	「金閣寺」と日本語の美意識
第 7 回	宮沢賢治等	「雨ニモマケズ」と not defeated
第 8 回	夏目漱石と英訳	「我輩は猫である」は英語で言えるのか
第 9 回	現代詩と英訳	谷川俊太郎の詩
第 10 回	「在日」と日本語	日本のマイノリティ文学
第 11 回	越境時代の文学	ポストコロニアルと日本語
第 12 回	バイリンガルと日本文学	日本人バイリンガル作家、多和田葉子
第 13 回	日本語で「世界」を書く	リービ英雄「千々にくだけて」
第 14 回	コンクルージョン	世界における日本語の「位置」
第 15 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代日本文学を自分で読む。

【テキスト（教科書）】

毎回、教員が提供する。

【参考書】

毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と期末試験 (50%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

大変人気のある授業だと分りました。

GA331

日英翻訳論

リービ　英雄

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学の名作を英訳することによって、英作文をみがき、同時に翻訳という鏡に映った日本語の特徴を考える。英語と日本語の究極的な比較。

【到達目標】
日本語と英語の本質を理解すること。

【授業の進め方と方法】
毎回、教授のレクチュアと、学生全員による英訳。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	講義
第２回	俳句の翻訳　「古池や」	発表
第３回	俳句の翻訳　「荒海や」	発表
第４回	俳句の翻訳　「夏草や」	発表
第５回	俳句の翻訳　「おくの細道」Ⅰ	発表
第６回	俳句の翻訳　「おくの細道」Ⅱ	発表
第７回	俳句の翻訳　その他	発表
第８回	和歌の翻訳　万葉集	発表
第９回	和歌の翻訳　奈良の京	発表
第 10 回	和歌の翻訳　天の香具山	発表
第 11 回	和歌の翻訳　富士山のイメージ	発表
第 12 回	和歌の翻訳　万葉仮名等	発表
第 13 回	和歌の翻訳　山上憶良等	発表
第 14 回	和歌の翻訳　古今集　新古今集	発表
第 15 回	コンクルージョン	講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「おくの細道」「万葉集」などを読むこと。

【テキスト（教科書）】
毎回、教員が提供する。

【参考書】
毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】
毎回学生が作る英訳 (50%) と、期末試験 (50%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
大変人気がある授業だと分りました。

GA332

間文化性研究翻訳論

熊田　泰章

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**翻訳と情報**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。
実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テクストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。
サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。
星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのでしょうか。小生意気な小さい大人なのか、めそめそした幼児なのか、元気一杯のわんぱくなのか、テクストに忠実に分析します。
日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】
翻訳の原理と可能性・限界を知る。
私たちが日常的に行っている他言語テクストの相互関係について、学術的概念をあてはめて理解する。

【授業の進め方と方法】
翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテクスト実例は、学生による分析に付する。学生による分析レポート提出、そのプレゼンテーションも随時行なう。
　1 回目の授業でミニレポートを書いてもらいます。
　その課題：「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
１	イントロダクション	「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？
２	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１：シニフィエ
３	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明２：恣意性
４	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明３：共時的・通時的
５	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明４：間文化性
６	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明５：固有名詞と代名詞
７	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明６：オノマトペと慣用表現
８	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明７：社会制度
９	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明８：翻訳と言語変容
１０	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明９：翻訳と文化変容
１１	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１０：翻訳の双方向性
１２	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１１：解釈学的循環
１３	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１２：複合的テクスト
１４	基本概念の説明とテクスト分析	基本概念の説明１３：基本概念の総括
１５	まとめ	まとめと最終レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。
導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。

【テキスト（教科書）】
『星の王子さま』の翻訳版を以下のように各自で購入・用意してください：
１日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか１冊。
２加えて、英語、フランス語などなどのどれか１冊。
（日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります）
毎回の授業に持参してください。

【参考書】
熊田泰章編『国際文化研究への道―共生と連帯を求めて―』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。
その上で、最後に最終レポートを書く。
ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。
ミニレポート 50 %・最終レポート 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生からの提案を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
概念語の確認のために、授業内でも電子辞書を用いることが必要です。

LA232

ドイツ語初級Ⅰ

笠原　賢介

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・2**
※定員制　４群ドイツ語履修者は履修不可　履修可能年次：２～４年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。
ドイツ語を選択し、履修している学生、すでに選択履修した学生は履修できません。
発音の基礎から始め、ドイツ語の基本文法と基本的表現を学びます。

【到達目標】
初級ドイツ語としての必要な文法事項を習得し、また、ドイツ語の表現を身につける。次の段階のドイツ語に取り組める初級ドイツ語の理解力・読解力の養成をめざす。

【授業の進め方と方法】
アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的表現を学びます。初めて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていきたい。また、別冊がついているので、必要と思われる部分はこれによって学習していくことができる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス アルファベット	発音 基数
第２回	Lektion1 規則変化動詞（1）	動詞の現在人称変化（1）
第３回	Lektion1 規則変化動詞（2）	動詞の現在人称変化（2）
第４回	Lektion2 文を作る（1）	ドイツ語の構文とは？
第５回	Lektion2 文を作る（2）	疑問文・否定文を作ってみる。
第６回	Lektion3 －名詞の性と格	名詞の性と格変化について。
第７回	Lektion3 － sein/haben	特殊な不規則動詞の現在人称変化
第８回	Lektion4 －不規則変化動詞	不規則動詞の現在人称変化 その１
第９回	Lektion5 －冠詞類	冠詞の学習。不規則動詞の現在人称変化。 その２
第 10 回	Lektion5 － 命令形	命令文の作り方と用法。
第 11 回	Lektion6 －複数形	複数形の型の学習。
第 12 回	Lektion6 －人称代名詞	人称代名詞の格変化。
第 13 回	Lektion7 前置詞	前置詞の格支配。
第 14 回	Lektion8 話法の助動詞	話法の助動詞の用法と意味。
第 15 回	Lektion8 －未来形	未来形の作り方 まとめと復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容を確実に身につけるために復習は重要です。
あらかじめ次回の授業の箇所を読んでおきましょう。
また、練習問題にも必ず取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】
清水　薫著『改訂版・ドイツ文法・１００語の世界』同学社

【参考書】
特に必要ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期の終わりに試験をします。
期末筆記試験 60%
平常点、課題の取り組み 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
わかりやすく、理解しやすかったというコメントと同時に、進度が早いというコメントもあったので、両者のバランスを取りながら調整したい。

LA232

ドイツ語初級Ⅱ

笠原　賢介

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・2**
※定員制　4 群ドイツ語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。ドイツ語既習者ならびに１年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。春学期に学んだことを基礎にして、後半の基礎的な文法事項を学び、ドイツ語の基本と表現を身につけます。

【到達目標】
春学期に学んだことを確実に理解し、ドイツ語の基本的な文法の全体像の習得を目指す。

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続いて、ドイツ語の文法をわかりやすく、丁寧に説明していきます。別冊のテキストも用いて、繰り返し覚え、理解を確実にしていきます。練習問題も丁寧に学びます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion9 (1)	形容詞の格語尾。
2	Lektion9 (2)	序数
3	Lektion10 (1)	比較変化 非人称表現
4	Lektion10 (2)	不定代名詞
5	Lektion11 (1)	分離動詞とは何か？ その用法
6	Lektion11 (2)	時刻の表現
7	Lektion12	再帰動詞 接続詞と動詞の位置
8	Lektion13	動詞の 3 基本形 規則動詞の場合 不規則動詞の場合
9	Lektion14	現在完了形 zu 不定詞
10	Lektion15	受動態 分詞
11	Lektion16(1)	関係代名詞の用法
12	Lektion16(2)	指示代名詞
13	Lektion17 (1)	接続法（１） 接続法とは何か？ 仮定法
14	Lektion17 (2)	接続法（２） 丁寧な言い方
15	まとめと復習	秋学期の復習 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回授業の内容を確実に身につけるためにも、復習は大事です。課題も必ず取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】
清水　薫『改訂版・ドイツ文法・１００語の世界』同学社。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行う。
平常点、課題の取り組み 40 %
期末筆記試験 60%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
予習と復習を怠らずに授業に参加してほしい。

LA332

ドイツ語コミュニケーションⅢ

ウテ・シュミット

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・5**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語を積極的に使えるように。

【到達目標】
この授業では特に話す能力とリスニングの力を伸ばすことによってドイツ語のコミュニケーション能力を総合的にステップアップします。これまでに学習した文法の応用と、新たに学ぶ表現や単語を会話で実践的に運用できるようにすることを目指しています。

【授業の進め方と方法】
ドイツ語圏の日常生活や文化をテーマについて、テキストを読んだり、CD を聞いたり、会話練習等に取り組み、実践的にパートナー練習を行ないます。口語表現力を重視しますので、必要な分野の語彙を習得する必要があります。単語を知らなければ、何も話せませんので、新しい単語を必ず復習し、次の授業までに覚えてください。与えた課題について小文を書くこともあり、授業で取り扱ったテーマについて３〜５分ぐらいの発表も求めます。
基礎文法を復習できるテキストを用い、日常生活を描写したり、考えや感情を表現したりする練習を重ねます。DVD、CD、インターネット、ポットキャストなどを用いて、ドイツ語圏の文化に触れる機会が多いと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	自己紹介とオリエンテーション	Selbstvorstellung und Einstufung
第２回	ドイツ・オーストリア・スイス： 地理、気候、など	Die deutschsprachigen Länder
第３回	語学の勉強	Sprachen und Biografien
第４回	家族	Familiengeschichten
第５回	住まい	Zu Hause
第６回	ドイツの大学で勉強する	In Deutschland studieren
第７回	交通：電車に乗る	Verkehr: mit der Bahn verreisen
第８回	音楽　I	Über Musik sprechen
第９回	音楽　II	Popmusik studieren
第１０回	買い物：自然食品	Einkaufen-Immer nur Bio
第１１回	メディア	Medien　－　Radio, Fernsehen, Internet
第１２回	メールと携帯電話 I	Mail und HandyI
第１３回	遊びに行く	Ausgehen
第１４回	発表	Referate
第１５回	発表	Referate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題が出ます。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布

【参考書】
Studio d A1, A2　Cornelsen
Kennzeichen D, Sanshusha

【成績評価の方法と基準】
総合的に評価：
授業の積極的な参加（発言）（40 %）
提出した宿題（30 %）
発表（30 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特にない

【学生が準備すべき機器他】
DVD,CD,Video,PC

【その他の重要事項】
授業で扱うテーマについては受講生からの要望を受け入れたいと思います。

LA332

ドイツ語コミュニケーションⅣ

ウテ・シュミット

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・5**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語を積極的に使えるように。

【到達目標】
この授業では特に話す能力とリスニングの力を伸ばすことによってドイツ語のコミュニケーション能力を総合的にステップアップします。これまでに学習した文法の応用と、新たに学ぶ表現や単語を会話で実践的に運用できるようにすることを目指しています。

【授業の進め方と方法】
ドイツ語圏の文化や日常生活のさまざまな場面に題材を求めた、読解テキスト、聴きとり練習、会話練習等に取り組み、実践的にパートナー練習を行ないます。口語表現力を重視しますので、必要な分野の語彙を習得する必要があります。単語を知らなければ、何も話せませんので、新しい単語を必ず復習し、次の授業までに覚えてください。与えた課題について小文を書くこともあります。
基礎文法を復習できるテキストを用い、日常生活を描写したり、考えや感情を表現したりする練習を重ねます。DVD、CD、インターネット、ポットキャストなどを用いて、ドイツ語圏の文化に触れる機会が多いと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	夏休み、旅行　I	Reisen und Sommerferien
第２回	夏休み、旅行　II	Reisen und Sommerferien II
第３回	文化都市	Kultur erleben
第４回	ドイツの首都　ベルリン	Die Hauptstadt Berlin
第５回	ドイツ語圏の町を紹介する　I	Eine Stadt in Deutschland vorstellen I
第６回	ドイツ語圏の町を紹介する　II	Eine Stadt in deutschsprachigen Ländern vorstellen I
第７回	発明	Erfindungen aus D-A-CH und Japan
第８回	出かける	Ausgehen: Restaurant
第９回	出かける	Ausgehen: Freizeitangebote in der Stadt
第 10 回	ドイツの映画	ドイツ語で映画を見よう：Deutsche Filme (Einführung)
第１１回	ドイツの映画	Charakteristik der Hauptakteure (Betrachtung, Arbeitsblatt, Zusammenfassung des Szeneninhalts)
第１２回	ドイツの映画	Arbeitsblatt und Zusammenfassung der Handlung
第１３回	ドイツの映画	Arbeitsblatt und Zusammenfassung der Handlung
第１４回	ドイツの映画	Diskussion
第１５回	まとめ	Zusammenfassung

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題が出ます。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
総合的に評価：
授業の積極的な参加（発言）（40 %）
提出した宿題（30 %）
発表（30 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特にない

【学生が準備すべき機器他】
CD,DVD,Video,PC

LA332

ドイツ語講読Ⅰ

日中　鎮朗

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語で書かれたさまざまな作品（歴史的なテキストから文学作品まで）を読みます。
ドイツ語の文法や文の構造もしっかり確認しながら、理解を着実なものにすることも目標です。

【到達目標】
初等文法を終えたドイツ語の既習者が中級程度の実力をつけ、ドイツ語表現をより深く理解し、また、言語読解、言語表現、文意理解の能力を高めることを目標とします。
さらに意味の理解から書かれた作品の鑑賞や批評にまで至るようになることが第二の目標です。
ドイツの文学作品、大統領の演説、グリム童話、『アルプスの少女ハイジ』、ことわざなどを通して多角的にドイツの文化風土とドイツ語の美しさを知るのが第三の目標です。

【授業の進め方と方法】
『ドイツ語を読む』(Lesebuch Deutsch) というテキストを読みます。これによって、既習の文法や表現を再確認し、着実なものにします。
毎回、担当者を決めて訳読していきます。辞書を駆使し、ゆっくりと着実に読んでいきます。わからないところがあれば、文法事項にまで遡って、丁寧に説明するので、そこで知識をしっかりと身につけていきます。
また、テキストには童話、詩、演説、ことわざなどさまざまなジャンルのものがあり、その作家や作品に関するものを説明したり、AV を使って鑑賞したりする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	授業と教科書について（イントロダクション）「ドイツ人の思想」について	「ドイツ人の思想」についての概説的説明
第２回	Lektion 1 その①	「モーツァルトとリルケの手紙」を読解してゆく①
第３回	Lektion 1 その②	引き続き、「モーツァルトとリルケの手紙」を読解してゆく②
第４回	Lektion2 その①	グリム兄弟『蛙の王様』を読解してゆく①
第５回	Lektion2 その②	引き続き、グリム兄弟『蛙の王様』を読解してゆく②
第６回	Lektion 3 その①	『アルプスの少女ハイジ』についての概略的説明と読解①
第７回	Lektion 3 その②	引き続きを読解してゆく②
第８回	Lektion 4 その①	リルケ『秋の日』を読解してゆく①
第９回	Lektion 4 その②	引き続き、リルケ『秋の日』を読解してゆく②
第１０回	Lektion 5 その①	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』を読解する①
第１１回	Lektion 5 その②	引き続き、ゲーテ『若きウェルテルの悩み』を読解する②
第１２回	小説作品は AV メディアでどのように表現されているか。	『アルプスの少女ハイジ』『若きウェルテルの悩み』鑑賞する
第１３回	Lektion 6 その①	ことわざと名言を読解してゆく③
第１４回	Lektion 6 その②	引き続き、ことわざと名言を読解してゆく④
第１５回	全体を振り返って：文法的事項の確認	文法的事項の確認 作品の読解の試みと鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者以外の受講者も積極的に読んでくることが必要かつ重要です（予習）。
また文学テキストは語彙も特殊なものがあるかもしれませんが、文の構造をおおまかにでもつかむ訓練をしておきます（予習）。
授業内での訳を参考に不明な部分であったものを、振り返ってきちんと整理しておきます（復習）。

【テキスト（教科書）】
テキストは『ドイツ語を読む』を使用します。
S.Schermann、相原　剣　著
朝日出版社
2015 年

【参考書】
特に指定はありませんが、これまでに 1 年次など授業等で使用した文法テキストなどをもってくれば、参考になる。

なお、ドイツ語の辞書は必ず毎回持参すること。

【成績評価の方法と基準】
学期末の試験：５０％
授業時のテキスト訳読（課題・担当部分）：５０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
文法的な説明を引き続き丁寧に行うと同時に、さまざまなメディアを通してテクストを多角的に見る。

LA332

ドイツ語講読Ⅱ

日中　鎮朗

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に学んだことを踏まえ、秋学期も同じテキストを使い、ドイツ語で書かれたさまざまな作品（歴史的なテキストから文学作品まで）を読ます。
ドイツ語の文法や文の構造も振り返りながら、理解を着実なものにすることも目標です。

【到達目標】
春学期に学んだことを踏まえ、初等文法を終えたドイツ語の既習者が中級程度の実力をつけ、ドイツ語表現をより深く理解し、また、言語読解、言語表現、文意理解の能力を高めることを目標とします。
さらに意味の理解から書かれた作品の鑑賞や批評にまで至るようになることが第二の目標です。
ドイツの文学作品、大統領の演説などを通してドイツの文化風土とドイツ語の美しさを知ることが第三の目標です。

【授業の進め方と方法】
指定のテキストを読みます。これによって、既習の文法や表現を再確認し、着実なものにします。
毎回、担当者を決めて訳読していきます。辞書を駆使し、ゆっくりと着実に読んでいきます。わからないところがあれば、文法事項にまで遡って、丁寧に説明するので、そこで知識をしっかりと身につけていきます。
また、テキストには他の芸術（音楽、オペラ）になったものもあるので、それに関するものも AV を使って鑑賞する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	Lektion7 について①	『クラバート』についての読解と説明①
第２回	Lektion7 について②	『クラバート』の訳読と文法的説明を行う②
第３回	Lektion ８について①	カフカ『変身』の訳読と文法的説明を行う①
第４回	Lektion ８について②	引き続き、カフカ『変身』の訳読と文法的説明を行う②
第５回	Lektion ９について①	ツェランについての説明と訳読①
第６回	Lektion ９について②	引き続きツェラン『死のフーガ』の訳読と文法的説明を行う②
第７回	Lektion １０について①	ヴァイツゼッカーの「演説」の訳読と文法的説明を行う①
第８回	Lektion １０について②	引き続き、ヴァイツゼッカーの「演説」の訳読と文法的説明を行う②
第９回	Lektion １１について①	ジュースキント『香水』についての概略的説明と訳読①
第１０回	Lektion １１について②	引き続き ジュースキント『香水』の訳読と文法的説明を行う②
第１１回	作品の AV メディアでの表現について	『死のフーガ』『香水』、『ヴェニスに死す』やカフカなどのさまざまなメディアによる作品の鑑賞
第１２回	Lektion １２について②	マン『ヴェニスに死す』の訳読と文法的説明を行う①
第１３回	Lektion １２について②	引き続きマン『ヴェニスに死す』を訳読し、文法的説明を行う②
第１４回	ことわざについて 巻末文法説明について	「ことわざ」を訳読し、文法的説明を行う
第１５回	全体を振り返って展望： 文法的事項の確認	全体を振り返って展望し、文法的事項の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者以外の受講者も積極的に読んでくることが必要かつ重要です（予習）。
また文学テキストは語彙も特殊なものがあるかもしれませんが、文の構造をおおまかにでもつかむ訓練をしておきます（予習）。
授業内での訳を参考に不明な部分であったものを、振り返ってきちんと整理しておきます（復習）。

【テキスト（教科書）】
テキストは『ドイツ語を読む』を使用します。
S.Schermann、相原　剣　著
朝日出版社
2015 年

【参考書】
特に指定はありませんが、これまでに 1 年次など授業等で使用した文法テキストなどをもってくれば参考になる。
なお、ドイツ語の辞書は必ず毎回持参すること。

【成績評価の方法と基準】
学期末の試験：５０％
授業時のテキスト訳読（課題・担当部分）：５０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
丁寧な文法的な説明を引き続きを行っていくつもりです。

LA232

留学ドイツ語Ⅰ

平松　英人

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に SA や派遣留学等で海外の大学で学ぶ準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。通常のクラス授業で学んだ文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

【到達目標】
ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解を深め、留学で特に重要になるリスニング力と自らの考えを「発信」する力を身につけることを到達目標とする。初級ドイツ語を終え、さらにドイツ語学習を続けたい学生は、独検三級以上合格を目指せる語学力の習得を目標とする。

【授業の進め方と方法】
授業では、マルチメディア教材も活用しながら、できるだけ多くドイツ語に触れる機会を持つ。まずはドイツ語圏での生活に必要な基礎的なリスニング、会話練習を多く行ないつつ、徐々に具体的なテーマについての知見を深め、最終的には個々のテーマに関し、自らの意見を発信できる訓練を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、授業の進め方について
2	初対面、お互いを知りあう１	Kennen lernen, sich vorstellen
3	初対面、お互いを知りあう２	Verhalten beschreiben
4	様々な場所で１	Leben in der Stadt, Leben auf dem Lande
5	様々な場所で２	Wohnen und Wohnung
6	余暇とスポーツ１	Trends im Sport
7	余暇とスポーツ２	Freizeitbeschaeftigung
8	日常生活１	Ueber Gewohnheiten sprechen
9	日常生活２	Sich verabreden, jemanden einladen
10	教育と仕事１	Verschiedene Berufe und Ausbildung
11	教育と仕事２	Bewerbung, Lebenslauf
12	学び１	Schule, Lehrer, Klassentreffen
13	学び２	Studieren an der Universtitaet
14	まとめ	今セメスターで学習したことの確認
15	試験	まとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習に重点を置いて学習すること。毎回復習のための宿題を出す。留学生活ではドイツ語の聞き取りが要となるので、なるべく多くのドイツ語を聞き、また自らも声に出して発音することで、ドイツ語の語感を身につけていってほしい。

【テキスト（教科書）】
初回授業時において指示する。

【参考書】
必要に応じて配布、指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席、授業への積極的な参加、試験等を総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生からの提案を反映する。

LA232

留学ドイツ語Ⅱ

平松　英人

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
留学ドイツ語Ⅰに引き続き、派遣留学等で海外の大学で学ぶための準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。今までに学習した文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

【到達目標】
ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解をより深め、それについて自らの考えを発信し、ドイツ語での議論ができるようになる。留学先での授業を想定し、レポートを書く、あるいはプレゼンテーションができるようになる。

【授業の進め方と方法】
マルチメディア教材も多く用い、個々の教材で扱われているテーマを理解し、議論につなげていく。受講生によるドイツ語での短いプレゼンテーションと議論の機会も設けたい。留学ドイツ語Ⅰの履修は必ずしも必要としない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、授業の進め方について、先学期学習内容の確認
2	人間関係１	Ratschlaege geben, Auffordern
3	人間関係２	Streiten, Konsens finden
4	消費生活１	Einkaufen, Verkaufsgespraech
5	消費生活２	Werbeanzeigen, Auktion im Netz
6	メディアと現代社会１	Neue Medien, Kommunikationspannen
7	メディアと現代社会２	Diskussion ueber neue Medien
8	旅行と移動１	Mobilitaet
9	旅行と移動２	Reise, Urlaub
10	プレゼンテーションとディスカッション１	参加学生による発表と討論１
11	プレゼンテーションとディスカッション２	参加学生による発表と討論２
12	プレゼンテーションとディスカッション３	参加学生による発表と討論３
13	プレゼンテーションとディスカッション４	参加学生による発表と討論４
14	学習のまとめと確認	今セメスターで学習したことの確認
15	試験	まとめの試験、ディクテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習に重点を置いて学習すること。毎回復習のための宿題を出す。留学生活ではドイツ語の聞き取りが要となるので、なるべく多くのドイツ語を聞き、また自らも声に出して発音することで、ドイツ語の語感を身につけていってほしい。

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指示する。

【参考書】
必要に応じて配布、指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席、授業への積極的な参加、試験等を総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生からの提案を反映する。

LA232

フランス語初級Ⅰ

廣松　勲

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・5**
※定員制　4 群フランス語履修者は履修不可　履修可能年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級〜5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1〜10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11〜20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間試験	筆記試験
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	Leçon 6 総復習	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現（一部のみ） ・練習問題を解く
15	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を含めて、予習・復習を確りとすること。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

【テキスト（教科書）】
田辺保子，西部由里子著，『Vas-y !：初級フランス語　会話・文法そして文化』，駿河台出版社，2014 年.

【参考書】
教科書には語彙録が付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。
宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003 年.
また、文法練習問題、仏検対策問題集等を希望者に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %、中間試験 40 %、期末試験 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生がフランス語で話したり書いたりする機会をさらに増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
CD や DVD を用いることがある。

LA232

フランス語初級Ⅱ

廣松　勲

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・5**
※定員制　4 群フランス語履修者は履修不可　履修可能年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級Ⅰと継続して授業を進める。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級〜5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	人・ものを描写する
	Leçon 6 つづき	・IR 動詞（つづき）
	Leçon 7	・時の表現（つづき）
		・形容詞
		・動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する
		・数量表現
		・名詞＋ à ＋不定詞
		・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う
		・目的補語人称代名詞
		・非人称構文
		・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う
		・数字 21〜69
		・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う
		・代名動詞
		・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う
		・代名動詞の否定文、疑問文、命令文
		・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する
		・直説法単純未来
		・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する
		・形容詞・副詞の最上級
		・特殊な優等比較級・優等最上級
		・指示代名詞
9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 11	過去のことを言う（1）
		・数字 70〜100
		・直説法複合過去
		・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1）
		・代名動詞を含む複合過去
		・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する
		・直説法半過去
		・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する
		・直接法大過去
		・中性代名詞 y と le
		・様々な否定表現
14	総復習	練習問題を解く
15	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を含めて、予習・復習を確りとすること。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

【テキスト（教科書）】
田辺保子，西部由里子著，『Vas-y !：初級フランス語　会話・文法そして文化』，駿河台出版社，2014 年.

【参考書】
教科書には語彙録が付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003 年
また、文法練習問題、仏検対策問題集等を希望者に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %、中間試験 40 %、期末試験 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生がフランス語で話したり書いたりしてもらう機会をさらに増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
CD や DVD を用いることがあります。

LA332

フランス語中級Ⅰ

柴崎　秀穂

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランスのノーベル文学賞作家ル・クレジオの短編小説を読みながら、フランス語の語彙・文法・構文について、比較的高度な事柄を学びます。

【到達目標】
フランス語検定試験・準２級程度の知識、またはフランス文学科を除く大学院の入学試験に対応できる読解力を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
あらかじめ発表者を指名し、指名された学生がテキストの該当箇所を音読し、和訳します。それをもとに教師が修正・説明・和訳し、必要な場合には文法を再確認したり、構文を分析、内容を解説したりしながら、テクストを読み進めていきます。毎回、１頁半〜２頁進む予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
１回目	オリエンテーション。文法の再確認。	半過去。条件法。
２回目	「アザラン」(1)。文法の再確認。	接続法。テキスト１〜２頁。
３回目	「アザラン」(2)。文法の再確認。	テキスト２〜３頁
４回目	「アザラン」(3)。文法の再確認。	テキスト４〜５頁
５回目	「アザラン」(4)。文法の再確認。	テキスト５〜６頁
６回目	「アザラン」(5)。文法の再確認。	テキスト７〜８頁
７回目	「アザラン」(6)。文法の再確認。	テキス８〜９頁
８回目	「アザラン」(7)。文法の再確認。	テキスト１０〜１１頁
９回目	「アザラン」(8)。文法の再確認。	テキスト１１〜１２頁
１０回目	「アザラン」(9)。文法の再確認。	テキスト１３〜１４頁
１１回目	「アザラン」(１０)。	テキスト１４〜１５頁
１２回目	「アザラン」(１１)。	テキスト１６〜１７頁
１３回目	「アザラン」(１２)	テキスト１７〜１８頁
１４回目	「アザラン」(１３)	テキスト１９〜２０頁
１５回目	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をしてくること。

【テキスト（教科書）】
Hazaran, par J.M.G Le Clezio. テキストはコピーして配布。適宜、和訳プリントを配布します。

【参考書】
『新フランス文法事典』朝倉季雄著、白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点５０％、期末試験５０％で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキストを、より面白く、読みやすいものに替えました。

LA332

フランス語中級Ⅱ

柴崎　秀穂

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランスの作家ル・クレジオ (ノーベル文学賞受賞) の短編小説を読みながら、フランス語の語彙・文法・構文について、比較的高度な事柄を学びます。

【到達目標】
フランス語検定試験・準２級程度の知識、またはフランス文学科を除く大学院の入学試験に対応できる読解力を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
あらかじめ発表者を指名し、指名された学生がテキストの該当箇所を音読し、和訳します。それをもとに教師が修正・説明・和訳し、必要な場合には文法を再確認したり、構文を分析、内容を解説したりしながら、テクストを読み進めていきます。毎回、２〜３頁進む予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
１回目	「アザラン」(1)	２０〜２１頁
２回目	「アザラン」(2)	２２〜２３頁
３回目	「アザラン」(3)	２４〜２５頁
４回目	「アザラン」(4)	２６〜２７頁
５回目	「アザラン」(5)	２８〜２９頁
６回目	「アザラン」(6)	３０〜３１頁
７回目	「アザラン」(7)	３２〜３４頁
８回目	「空の民」(1)	１〜３頁
９回目	「空の民」(2)	４〜６頁
１０回目	「空の民」(3)	７〜９頁
１１回目	「空の民」(4)	１０〜１２頁
１２回目	「空の民」(5)	１３〜１５頁
１３回目	「空の民」(6)	１６〜１８頁
１４回目	「空の民」(7)	１９〜２１頁。
１５回目	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をしてくること。

【テキスト（教科書）】
Hazaran et Peuple du ciel, par J.M.G Le Clezio. テキストはコピーして配布。適宜、和訳プリントも配布します。

【参考書】
『新フランス文法事典』朝倉季雄著、白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点５０％、期末試験５０％で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキストを、より面白く、読みやすいものに替えました。

LA332

フランス語表現法Ⅰ

廣松　勲

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・4**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語既習者（中級レベル）向けの筆記の授業である。フランス語表現のニュアンスに注目した多くの問題を解いてもらうことで、ニュアンスを理解しながらフランス語の正しい文章が書けるようになる。

【到達目標】
DELF/DALF の試験も視野に入れながら、できるだけ文法的に正しいフランス語で文章を書く能力の獲得を目指す。まずは、単語ごとのニュアンスや文章構造を理解した上で、単語と単語、文章と文章との接続関係の重要性を意識できるようになる。

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。簡単な説明をした上で、多くの筆記練習問題を解いてもらい、その後類似表現の提示やニュアンスの説明を含めた解説を行う。
各授業の最後に、各課の解答をノート（ルーズリーフなど）で提出してもらう。
各授業の解答事項が早めに終わった場合には、配布プリントでフランス語のテクストを読んでもらうことがある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の進め方や評価方法の説明
	1. 不特定の数の表現	・不定冠詞／定冠詞、quelques、plusieurs など ・テクストの選定
2	2. 不特定の量の表現	・部分冠詞、un peu de、peu de など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
3	3. 数量（時間・年齢）の近似表現	・environ、vers、autour de など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
4	4. 人・物の不定名詞表現	・quelqu'un、quelque chose、certains など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
5	5. 人・物の不定冠詞・形容詞的表現	・un certain、un...quelconque、quelque など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
6	6. 漠然とした主語・動作主の表現	・quelqu'un、on、ils、certains など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
7	7. 場所・空間の状況表現	・à ／ en、dans、de、pour、vers など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
8	8. 時間の状況表現	・à、en、pour、vers、il y a、dans、à partir de など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
9	9. 原因・理由の状況表現	・à cause de、grâce à、en raison de、pour など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
10	10. 方法・様態の状況表現	・à ／ de ／ en ／ par ／ avec、au moyen de、à la façon de など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
11	11.「〜のようなもの」	・comme、comme qui dirait、quelque chose comme など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
12	12.「まるで・いわば・ほとんど〜」	・comme、en quelque sorte、pour ainsi dire、autant dire など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
13	配布テクストの読解	・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
14	春学期のまとめ	・春学期に扱った文法事項に関して復習する ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
15	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまで利用してきた教科書などをもう一度確りと見直し、文法事項の記憶への定着を確かにすること。

各授業の最後に、各課の解答をノート（ルーズリーフなど）で提出してもらうため、確りと課題に取り組んでくること。

【テキスト（教科書）】
石野好一著、”L'expression de la nuance en français: exercices（フランス語ニュアンス表現練習帳）”、第三書房、2000 年.

【参考書】
参考となるサイトや文法解説書等を希望者に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、期末試験 80 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
文意やニュアンスの説明の際には、聞き取りやすい声で明確に説明する。また、進度にも気を付ける。

【学生が準備すべき機器他】
CD や DVD を用いることがある。

LA332

フランス語表現法 Ⅱ

廣松　勲

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・4**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語既習者（中級レベル）向けの筆記の授業である。フランス語表現のニュアンスに注目した多くの問題を解いてもらうことで、ニュアンスを理解しながらフランス語の正しい文章が書けるようになる。

【到達目標】
DELF/DALF の試験も視野に入れながら、できるだけ文法的に正しいフランス語で文章を書く能力の獲得を目指す。まずは、単語ごとのニュアンスや文章構造を理解した上で、単語と単語、文章と文章との接続関係の重要性を意識できるようになる。

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。簡単な説明をした上で、多くの筆記練習問題を解いてもらい、その後類似表現の提示やニュアンスの説明を含めた解説を行う。
各授業の最後に、各課の解答をノート（ルーズリーフなど）で提出してもらう。
各授業の解答事項が早めに終わった場合には、配布プリントでフランス語のテクストを読んでもらうことがある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の進め方や評価方法の説明
	13. 程度の表現「いくらか・少し・やや・多少」	・un peu、quelque peu、plus ou moins など ・テクストの選定
2	14. 程度の表現「半ば・半分」	・à moitié、à demi、de moitié など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
3	15. 程度の表現「まあまあ・なかなか」	・moyennement、modérément、passablement など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
4	16. 程度の表現「とても・かなり」	・très、beaucoup、bien、fort など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
5	17. 叙法・時制のニュアンス	・半過去／大過去、単純未来／前未来、条件法現在／過去など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
6	18.「かもしれない」「にちがいない」(1)	・pouvoir、devoir、risquer de、aller、penser ／ compter など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
7	19.「かもしれない」「にちがいない」(2)	・il est possible ／ probable ／ vraisemblable ／ certain など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
8	20.「たぶん」「きっと」	・par hasard、peut-être、probablement、sans doute など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
9	21.「思う」「ようだ」「そうだ」	・je pense ／ crois que、j'ai l'impression que、je juge que など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
10	22.「私としては」「〜によれば」	・moi ／ pour moi ／ selon moi、apparemment ／ en apparence など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
11	23. 否定・二重否定	・ne...pas du tout ／ jamais ／ rien ／ personne、ne...plus ／ guère ／ que など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
12	24. 依頼・疑問	・vouloir ／ pouvoir ／命令法など ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
13	配布テクストの読解	・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
14	秋学期のまとめ	・秋学期に扱った文法事項に関して復習する ・配布テクストを読解しながら、ニュアンスを確認する。
15	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　これまで利用してきた教科書などをもう一度確りと見直し、文法事項の記憶への定着を確かにすること。
　各授業の最後に、各課の解答をノート（ルーズリーフなど）で提出してもらうため、確りと課題に取り組んでくること。

【テキスト（教科書）】
　石野好一著、”L'expression de la nuance en français: exercices（フランス語ニュアンス表現練習帳）”、第三書房、2000 年.

【参考書】
　参考となるサイトや文法解説書等を希望者に指示する。

【成績評価の方法と基準】
　平常点 20 %、期末試験 80 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　文意やニュアンスの説明の際には、聞き取りやすい声で明確に説明する。また、進度にも気を付ける。

【学生が準備すべき機器他】
　CD や DVD を用いることがある。

LA332

フランス語講読Ⅰ

野村　訓子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストを通して、構文に基づいて、文章を読み解く力を養う。
必要に応じて、フランス語基礎文法の項目の復習をする。

【到達目標】
仏検３級から準２級程度のレベル到達を目指す。

【授業の進め方と方法】
教科書としては①ひとつの課のまとまりの良さ②話題の今日性、などの理由から
「時事フランス語２０１６年度版」を選んだ。毎回、一つの課を読み、練習問題を
解く。さらに文法復習のための練習も加えたい。追加として仏検３級、準２級の
過去問題も一緒に解いてみたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
１回	顔合わせ	今までの学習歴の調査。簡単なテスト。
２回	教科書に入る。 １課を読む。	文化・スポーツの話題を読む。
３回	２課に入る。	経済の話題を読む。
４回	３課に入る。	産業の話題を読む。
５回	４課に入る。	社会の話題を読む。
６回	５課に入る。	政治の話題を読む。
７回	６課に入る。	政治の話題を読む。
８回	７課に入る。	歴史・地理の話題を読む。
９回	８課に入る。	歴史の話題を読む。
１０回	９課に入る。	歴史の話題を読む。
１１回	１０課に入る。	教育の話題を読む。
１２回	仏検の問題を解く。	過去の３級問題を、一緒に解いてみる。
１３回	仏検の問題を解く。	過去の３級問題を、一緒に説いてみる。
１４回	試験の実施。	春学期のまとめをする。
１５回	試験の振り返り。	振り返り、まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の授業で読み解くテキスト部分を、毎回、予習すること。

【テキスト（教科書）】
『時事フランス語ー２０１６年度版ー』朝日出版社（１９００円）
ほかにコピーを配布する。

【参考書】
過去に使用した文法教科書を、時々、読み返してみること。

【成績評価の方法と基準】
毎回、出席を取る。授業には能動的に参加すること。
学期末に試験を行う。試験の内容と方法については
授業時間内で、相談して、指示する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の習熟度に沿った授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
教科書付属の CD は、もったいないので、家で聞いてください。

【その他の重要事項】
特になし。

LA332

フランス語講読Ⅱ

野村　訓子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 **年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【到達目標】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【授業の進め方と方法】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	１１課に入る。	科学の話題を読む。
2回	１２課に入る。	社会の話題を読む。
3回	１３課に入る。	モードの話題を読む。
4回	１４課に入る。	社会の話題を読む。
5回	１５課に入る。	美食の話題を読む。
6回	１６課に入る。	社会の話題を読む。
7回	１７課に入る。	宗教の話題を読む。
8回	１８課に入る。	スポーツの話題を読む。
9回	１９課に入る。	仏語圏の話題を読む。
１０回	２０課に入る。	日仏関係の話題を読む。
１１回	仏検の過去問を解く。	仏検準２級の過去問を一緒に解く。
１２回	仏検の過去問を解く。	仏検準２級の過去問を一緒に解く。
１３回	仏検の過去問を解く。	仏検準２級の過去問を一緒に解く。
１４回	試験を実施する。	試験による、秋楽器のまとめをする。
１５回	試験の振り返り。	全体の振り返りとまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【テキスト（教科書）】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【参考書】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【成績評価の方法と基準】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【学生が準備すべき機器他】
フランス語講読Ⅰと同じ。

【その他の重要事項】
フランス語講読Ⅰと同じ。

LA232

ロシア語初級Ⅰ

木部　敬

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　4 群ロシア語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 **年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（前篇）

【到達目標】
ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【授業の進め方と方法】
初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「ロシア語初級Ⅱ」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の 4 点です。1）文字と発音、2）名詞の性・数・格、3）動詞の現在形・過去形・未来形、4）動詞の不完了体と完了体。「ロシア語初級Ⅰ」では、文字と発音の練習に十分時間をかけます。第 1 回から第 5 回までがこれにあてられますが、その後も継続します。春学期はほぼこれにつきると言っても過言ではありません。加えて最も初歩的な文法事項のみ（名詞の性・数、動詞の現在形）を学習します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音、「これは〜です」	母音字、アクセント、子音字、発音の規則、平叙文
第 2 回	文字と発音、「これは〜ですか？」	母音字、半母音字、子音字、発音の規則、疑問文
第 3 回	文字と発音、「これはだれですか？」	子音字、発音の規則、疑問詞
第 4 回	文字と発音、「これは何ですか？」	子音字、発音の規則、発音の例外、疑問詞
第 5 回	文字と発音、「これは〜ですか、それとも〜ですか？」	軟音記号、硬音記号、発音の例外、接続詞
第 6 回	「私は〜です」	人称代名詞、性の区別
第 7 回	「私の〜」	名詞の性、所有代名詞
第 8 回	「私は読書します」	動詞の現在形（第 1 変化）
第 9 回	「〜に住んでいます」	場所の表現
第 10 回	「〜で働いています」	場所の前置詞
第 11 回	「私は話します」	動詞の現在形（第 2 変化）
第 12 回	「私は欲しいです」	動詞の現在形（不規則変化）
第 13 回	「新しい〜」	形容詞
第 14 回	「彼らの子供たち」	名詞の複数形、所有代名詞と形容詞の複数形
第 15 回	期末試験	文字と発音、文法問題、和文露訳など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は特に必要としませんが、単語や例文の暗記には積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布する予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】
黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009 年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %（出席 10 %＋小テスト 10 %）、期末試験 80 %。原則として、毎回の授業で前回の内容を復習する小テストを行います。最終試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

LA232

ロシア語初級Ⅱ

木部　敬

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　4 群ロシア語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（後編）

【到達目標】
簡単な会話をロシア語で行える。必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またロシア語で伝えることができる。

【授業の進め方と方法】
初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「ロシア語初級Ⅰ」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の 4 点です。1）文字と発音、2）名詞の性・数・格、3）動詞の現在形・過去形・未来形、4）動詞の不完了体と完了体。秋学期は、やや進んだ文法（名詞の格、動詞の過去形・未来形、動詞の不完了体・完了体）を学びます。学期の最後には、ロシア語の全体像が見えることになります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「〜を持っています」	所有の表現
第 2 回	「〜を」	名詞の対格、形容詞の所有代名詞の対格
第 3 回	「昨日は読書しました」	動詞の過去形
第 4 回	「〜へ行きます」	移動の動詞、移動の動詞の過去形、交通手段の表し方
第 5 回	「〜の」、「〜がないです」、「〜を」	名詞の生格、形容詞と所有代名詞の生格
第 6 回	「〜で」、「〜において」	名詞の前置格、形容詞と所有代名詞の前置格、人称代名詞の前置格
第 7 回	「〜に電話します」、「〜へ贈ります」、「〜しなさい」	名詞の与格、形容詞と所有代名詞の与格、命令形
第 8 回	「〜してもいいですか」	人称代名詞の与格、可能・必要・禁止の表現、状態の表現
第 9 回	「明日は〜するでしょう」	動詞の未来形
第 10 回	「何歳？」、「いつ？」、「いくら？」、「何人？」、「何回？」	数詞を使った表現（年齢、時間、値段、人数、回数）
第 11 回	「〜によって」、「〜として」、「〜とともに」	名詞の造格、形容詞と所有代名詞の造格、人称代名詞の造格
第 12 回	「〜していました」と「〜し終わりました」	動詞の不完了体と完了体
第 13 回	「より一層〜」、「最も〜」	比較級と最上級
第 14 回	「〜するところの…」、「もし仮に〜ならば、…するだろう」	関係代名詞と仮定法
第 15 回	期末試験	文法問題、露文和訳、和文露訳など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は特に必要としませんが、単語や例文の暗記には積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布の予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】
黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009 年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %（出席 10 %＋小テスト 10 %）、期末試験 80 %。原則として、毎回の授業で前回の内容を復習する小テストを行います。最終試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

LA232

ロシア語中級Ⅰ

三神　エレーナ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語初級文法の学習を終えた学生を対象とするネイティブ講師の授業。 ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。読解とともに単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。講師との会話によって、聞き取り能力・ 会話能力も習得します。

【到達目標】
社会・文化に関する読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【授業の進め方と方法】
現代ロシアの社会事情や社会問題に関するテーマを挙げて、中級ロシア語の知識を学びます。ロシア文化や歴史についてのテキストや 現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。授業への積極的な参加は、語学力アップにつながります。この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (ТРКИ)B1 － B2 レベルの受験勉強にもお役に立ちます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「ロシアについて」-1	テキスト「ロシアの地理」、「ロシアの人口」 テキストの読解、質疑応答
2	「ロシアについて」-2	テキスト「ロシアの気候」、「モスクワ」、「サンクトペテルブルク」の読解、質疑応答
3	「好き」表現-1	テキスト　D. ドラグンスキー「私の好きなもの」の解読
4	「好き」表現-2	テキスト D. ドラグンスキー「私の好きなもの」の質疑応答、文法 練習
5	接頭辞の運動動詞-1	テキスト V. ノソフ「空想家たち」読解
6	接頭辞の運動動詞-2	テキスト V. ノソフ「空想家たち」 読解、質疑応答、会話・文法練習
7	接頭辞の運動動詞-3	テキスト V. ノソフ「空想家たち」 会話・文法練習
8	形容詞比較形、運動動詞-1	テキスト V. トーカレワ「こころ の中の親戚」前半　解読、文法練習
9	形容詞比較形、運動動詞-2	テキスト V. トーカレワ「こころ の中の親戚」前半　解読、文法練習
10	形容詞比較形、運動動詞-3	テキスト「こころの中の親戚」後半　解読、文法練習
11	形容詞比較形、運動動詞-4	テキスト「こころの中の親戚」後半　読解、質疑応答、会話・文章 作成の練習
12	「ロシアの若者」-1	テキスト「電話してください」解読
13	「ロシアの若者」-2	テキスト「電話してください」解読、質疑対応
14	総合復習	1-13 に学んだ単語、文法の復習
15	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
和久利誓一著『入門ロシア語文法』改訂版　白水社

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、出席および宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業で読むテキストの難易度を調整しました。

【その他の重要事項】
学生のロシア語能力に合わせて授業内容は多少変更されます。

LA232

ロシア語中級Ⅱ

三神　エレーナ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、中級ロシア語を学ぶ学生を対象とするネイティブ講師の授業。 ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法の基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。読解とともに単語・文法（構文 中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的 に身につけます。講師との会話によって、聞き取り能力・ 会話能力も習得します。

【到達目標】
社会・文化に関するロシア語中級レベルの文章を朗読・理解できること。さらに同レベルの文章を翻訳（露和・和露）できること。

【授業の進め方と方法】
現代ロシアの社会事情や社会問題に関するテーマを挙げて、中級ロシア語の知識を学びます。各テーマにおいて、現代文学のテキスト 読解、単語・文法練習、動詞中心の練習問題、文章作成の練習、会 話練習を行います。授業への積極的な参加は、語学力アップにつながります。ロシア語能力検定試験 3 級の学習も行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	春学期で学んだ単語・文法の復習
2	関係代名詞-1	テキスト「番組 “何？　どこ？　いつ？ ”」解読・文法練習
3	関係代名詞-2	テキスト「番組 “何？　どこ？　いつ？ ”」解読・文法練習・質疑対応
4	関係代名詞-3	単語・文法・作文練習
5	-ｃя自動詞	A. アレクシン「私の一番幸せな 日」の解読
6	ｅｓлибы仮定法構文 単語・文法・作文練習	A. アレクシン「私の一番幸せな 日」の解読、単語・文法練習
7	無人称文	テキスト関連の単語・文法・作文練習
8	ｅｓлибы仮定法構文	テキスト関連の単語・文法・作文練習
9	所有形容詞、目的構文-1	テキスト V. トーカレワ「愚痴っ ぽい人」前半　解読、文法練習
10	所有形容詞、目的構文-2	テキスト関連の質疑応答、単語・ 文法練習
11	所有形容詞、目的構文-3	テキスト「愚痴っぽい人」後半　解読、単語・文法・会話練習
12	所有形容詞、目的構文-4	テキスト関連の質疑応答、単語・ 文法練習
13	不定人称構文-1	テキスト「ロシアのお正月」　読解
14	不定人称構文-2	テキスト関連の質疑応答、単語・ 文法練
15	期末試験 筆記試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題を毎回やっていきましょう。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
和久利誓一著『入門ロシア語文法』改訂版　白水社

【成績評価の方法と基準】
期末試験　50 %、出席および宿題・授業への取り組み　50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業で読むテキストの難易度を調整しました。

【その他の重要事項】
学生のロシア語能力に合わせて授業内容は多少変更されます。

LA332

ロシア語コミュニケーションⅠ

三神　エレーナ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・4**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、ヒアリングの訓練により、ロシア語会話の基礎を身につけます。
ロシア留学またはロシア語能力試験（ＴＲＫИ　B2）1 級を目指す人におすすめの授業です。春学期では学生のプロフィール、大学事務室における書類手続き、ロシアの街、交通手段、病院で必要な表現を学びます。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（ＴＲＫИ）B1-B2 レベルの文章を聞き取りできること。同レベルのロシア語能力試験（ＴＲＫИ）会話試験（Диалогическаяречь）に向けて準備できること。

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストを使って主な会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、実際にその表現を使った会話練習をします。語学力アップのために通訳練習も行います。 音声データは授業支援システムにて使用できます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介、学生のプロフィール
2	留学- 1	入学手続き、学生課に相談
3	留学- 2	大学の時間割、授業で使う表現
4	学生寮-1	入寮申請、入寮手続き
5	学生寮-2	寮でのトラブル
6	街を歩く	道の尋ね方、道の案内
7	交通手段-1	モスクワ地下鉄の乗り方、ルートの案
8	交通手段-2	バスや路面電車で使う表
9	買い物-1	食料品の買い
10	買い物-2	市場で使う表現
11	病院-1	予約、病院の受付
12	病院-2	診察で使う表
13	病院-3	風邪を引いたら
14	総合復	1～13 の復習
15	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声データの宿題を出します。文法と単語の復習も常に行ってください。

【テキスト（教科書）】
授業ごとにプリントを配布します。

【参考書】
和久利誓一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

【成績評価の方法と基準】
筆記試験　50 %、出席率・宿題・授業への取り組み　50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにアクセスできる PC やスマートフォン。

【その他の重要事項】
学生のロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

LA332

ロシア語コミュニケーションⅡ

三神　エレーナ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・4**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続きロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、ヒアリングの訓 練を通じて、ロシア語会話の基礎を身につけます。
ロシア留学またはロシア語能力試験（ＴＲＫИ　B2）・ロシア語能力検定試験 3 級の受験を目指す方におすすめの授業です。秋学期は、留学先の美術館、郵便局、美容室の会話、電話での問い合わせ、パソコン・インターネットについての会話で必要な表現を学びます。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア 語能力試験（ＴＲＫИ）B1～B2 レベルの文章を聞き取りできること。同レベルのロシア語能力試験（ＴＲＫИ）会話試験（Диалогическая речь）に向けて準備できること。

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストを使って主な会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、実際にその表現を使う会話練習をします。語学力アップのため に通訳練習も行います。音声データは授業支援システムにて使えます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	春学期の復習
2	郵便局-1	手紙、小包を送
3	郵便局-2	書留、ファックスなどを送る
4	電話-1	電話をかける、電話にでる表現
5	電話-2	電話-2 必要な情報を電話で聞く、チケッ トを予約する
6	電話-3	電話で打ち合わせ等をする
7	美術館-1	美術展に誘う、チケットを買う
8	美術館-2	美術展の印象を述べる
9	お食事	レストラン、学生食堂で使う表現
10	美容室	美容室・床屋さんで使う表現
11	インターネット-1	パソコン・インターネット利用に 関する表現
12	インターネット-2	コンピューターゲーム、ソーシャ ルネットワーク
13	インターネット-3	インターネットの世界
14	総合復習	1～13 の復習
15	期末試験 筆記試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声データの宿題があります。文法と単語の復習も常に行ってください。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
和久利誓一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

【成績評価の方法と基準】
筆記試験　50 %、出席率・宿題・授業への取り組み　50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにアクセスできる PC やスマートフォン。

【その他の重要事項】
学生のロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

LA332

ロシア語講読Ⅰ

土岐　康子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語の初級文法を学んだ学生を対象とする授業です。履修学生のロシア語の能力に応じたテキストを選び、辞書を用いながら文章を読んでいくことで、ロシア語の文章に慣れることを目的とします。春学期は、長文を読んでいく上で必要となる読解の基礎を学びます。基本的にはロシア語から日本語への読解（訳出）を行いますが、ロシア語による内容理解の練習も行います。

【到達目標】
辞書を用いてロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確に答えることができる。読解した内容を自分の言葉（ロシア語、日本語）で表現することができる。

【授業の進め方と方法】
初歩的な教材を用いて基本的な文法事項の確認から始め、徐々にロシア語文章の構造と特徴をつかむ訓練を行います。基本的にはテキストの音読、日本語への訳出、文法事項の説明と練習を中心に授業を行います。テキストの内容に関して日本語とロシア語による言い換えの練習も行います。
なお、授業の進度と取り扱うテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基本文法事項の確認	基本的な文法事項の確認と復習。
②	ロシア語構文の特徴	ロシア語構文の説明と練習。
③	複文 (1)	関係代名詞や関係副詞などが含まれる文章の読解練習。
④	複文 (2)	副動詞が含まれる文章の読解練習。
⑤	複文 (3)	形動詞が含まれる文章の読解練習。
⑥	文章講読（ロシアの歴史 1）	ロシアの歴史をテーマとした文章講読。
⑦	文章講読（ロシアの歴史 2）	ロシアの歴史をテーマとした文章講読。
⑧	文章講読（ロシアの社会 1）	ロシアの社会をテーマとした文章講読。
⑨	文章講読（ロシアの社会 2）	ロシアの社会をテーマとした文章講読。
⑩	文章講読（ロシアの政治 1）	ロシアの政治をテーマとした文章講読。
⑪	文章講読（ロシアの政治 2）	ロシアの政治をテーマとした文章講読。
⑫	文章講読（ロシア文学 2）	ロシア文学を読む。
⑬	文章講読（ロシア文学 2）	ロシア文学を読む。
⑭	まとめと復習	今学期に学んだ事項の総復習。
⑮	復習と確認	今学期に学んだ事項の復習と確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上テキストの予習は不可欠です。新出単語を調べ、自分なりに日本語にしてみましょう。読解していく上で疑問に感じたことは授業で質問してください。また、ロシア語文章の理解には格変化の形が頭に入っていることが大前提です。格変化は復習をして自分のものにする努力をしましょう。

【テキスト（教科書）】
適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書、『入門ロシア語文法（改訂版）』は文法事項の補足説明で使用することがあるので持参すること。

【参考書】
『入門ロシア語文法』改訂版　和久利誓一著（白水社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習、授業参加態度、課題提出などを含む）50 %、学期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
できるだけ双方向的な授業を目指します。わからないことはその場で質問しましょう。積極的に授業に参加することが語学上達の鍵となります。
受講学生全員が同じレベルではないため、学生ひとりひとりに対する指導を心がけたいと考えています。

LA332

ロシア語講読Ⅱ

土岐　康子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なテーマについてロシア語で書かれた文章を講読することで読解力を養い、視聴覚教材（映画）を用いることでリスニングを含むロシア語会話に慣れることを目的とします。さらに、授業を積み重ねることでロシアの歴史やロシア社会に対する理解を深めていくことが、この授業の大きな目的となります。

【到達目標】
辞書を使ってロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確に答えることができる。読解した内容を自分の言葉で表現することができる。やさしい日本語の文章をロシア語で表現することができる。ロシア語の会話を理解し、的確に応えることができる。

【授業の進め方と方法】
ロシア語講読Ⅰに引き続き、ロシア語文章の講読を行います。その際、ロシアを多角的に理解できるような視聴覚教材（映画など）を用いることもあります。テキストの音読、日本語への訳出、文法事項の説明と練習が基本となりますが、講読した文章の内容を自分の言葉でロシア語にする練習も行います。なお、授業の予定やテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文章講読（ロシアの歴史 1）	文章講読を通じてロシアの歴史を知る。
②	文章講読（ロシアの歴史 2）	文章講読を通じてロシアの歴史を知る。
③	文章講読（ロシアの社会）	文章講読を通じてロシアの社会を知る。
④	ロシア映画に見る社会 1	授業で取り上げるロシア映画の内容の講読。
⑤	ロシア映画に見る社会 2	授業で取り上げるロシア映画の社会的背景を読む。
⑥	ロシアの政治家に学ぶロシア語 1	ロシアの政治家の演説を読む。
⑦	ロシアの政治家に学ぶロシア語 2	ロシアの政治家の演説を読む。
⑧	ロシア映画に見る社会 3	授業で取り上げる映画の内容講読。
⑨	ロシア映画に見る社会 4	授業で取り上げる映画の社会的背景を読む。
⑩	文書講読（ロシアの言語状況）	ロシアにおける言語状況を読む。
⑪	ロシア映画に見る社会 5	授業で取り上げる映画の内容を講読。
⑫	ロシア映画に見る社会 6	授業で取り上げる映画の社会的背景を読む。
⑬	大統領演説 1	ロシア大統領の演説講読。
⑭	大統領演説 2	ロシア大統領の演説講読。
⑮	まとめと確認	今学期に学んだ事項のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上、テキストの予習は不可欠です。新出単語をはじめ、文章を読んでいくなかでわからないことが出てきたら、まず自分で調べる習慣をつけましょう。授業で学んだことはしっかりと復習しましょう。
格変化は繰り返し復習して自分のものにする努力をしましょう。

【テキスト（教科書）】
適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書と『入門ロシア語文法（改訂版）』は文法事項の補足説明で使用することがあるので持参すること。

【参考書】
『入門ロシア語文法』改訂版　和久利誓一著（白水社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習、授業参加態度、課題提出なども含む）50 %、学期末試験 50 % の総合評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
できるだけ双方向的な授業を目指します。わからないことはその場で質問しましょう。積極的に授業に参加することが語学上達の鍵となります。
受講学生ひとりひとりにあわせた指導を心がけたいと考えています。

LA332

時事ロシア語Ⅰ

アンドレイ・クラフツェビチ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで習得してきたロシア語文法を駆使して、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネットの記事（時事的な文章）を読み、今日のロシアの情報をロシア語で直接得る楽しさに触れましょう。ロシア語の語彙力をつけるには、長文を多読・精読することがもっとも有効です。そのために、時事的なテーマの文章の文体や表現に慣れ、新たな語彙や文法事項を習得していく。
ロシア語のサイトから自分の得たい情報を検索し、記事を読む習慣をつけるべく、簡単な課題も出します。

【到達目標】
読解力と文法の力に限定されますが、セメスター中、基本的なテーマや分野を読むことで、ロシア語の読解能力を高め、適切な最小限必要用語を拡大するとともに、ロシア社会と文化についての理解を深めることを目的とする。

【授業の進め方と方法】
ロシア語の訳読が中心となるが、読んでいる記事の内容をよりよく理解することや、ロシア語の文法知識を定着することを目指しながら、ロシア語文の成分を分析することを練習する。訳読した時事ロシア語の一つのテーマに関連する幾つかの記事を短い要約に帰着することに基づいて発表することも練習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	ガイダンス。みなさんの要望を尋ねるアンケートも実施。
第２〜６回	ロシアの国家体制・政治に関する記事を読む	ロシア政治・国家制度の特徴、プーチン大統領の人気の理由を認識を深めながら、読解を行う。
第７〜９回	ロシアの文化・芸能・スポーツに関する記事を読む	学生の関心を踏まえてロシアで話題となっている文化・芸能関連の記事を選択してもらう。映像鑑賞。
第１０〜１１回	ロシア経済に関する記事を読む	２０１５年のロシア経済の結果と２０１６年にはどうなっているのか。選択してもらった記事を読んでいく。
第１２〜１４回	ロシアの外交、日露関係関する記事を読む	ウクライナを巡るロシアの米国・欧州との対立、シリアの内戦にロシア参戦、日本との関係
第１５回	授業内試験	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習（とくに辞書を引く作業）。時事用語や現代用語など辞書にない単語や事象をネットで検索してみる。

【テキスト（教科書）】
教科書またはテキストを使用しない。各テーマに応じて教場でプリントを配付します。また、履修者のみなさんに記事を選択してもらう。

【参考書】
教場で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度等平常点　(90 %)、期末テスト (10 %）によって判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
該当なし。

LA332

時事ロシア語Ⅱ

アンドレイ・クラフツェビチ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 **年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事ロシア語Ⅰの授業の継続として行われるが、ロシア語圏のインターネット(Runet) で新聞・雑誌・専門的 Webpage に乗っているオンライン記事のロシア語を正確に読みながら、今、ロシアで何が起こっているのか直接に情報を獲得する面白さを味わう。そのほか、学生が自分の関心のあるテーマを選び、自分で検索した本来のロシア語の文章を読む。これまでどおり、ロシア語の文法や文の構造を確認していくばかりでなく、内容について意見交換しながら、問題意識を強くもって時事的テクストを読んでもらうよう、配慮していく。

【到達目標】
テーマや分野を限定せず、各学生が関心を持つ色々な種類のものを読むことで、時事ロシア語の読解能力を高め、広い意味でロシア社会と文化についての理解を深めることを目的とする。ロシア語のマスコミでの記事を読んで和訳できるだけでなく、ロシア語のインターネットで必要な情報を相当的自由に検索することができる。

【授業の進め方と方法】
ロシアからのオンラインニュース・情報によるなテキストの読解、および内容に関する質疑応答、学生の短い発表および討論。授業の進め方は基本的に春学期と同じですが、みなさんの要望に応え、変更を加えることもあります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	説明・オリエンテーション	授業の内容、目的と進め方の説明。学生のみなさんの要望を尋ねるアンケートも行う。
第 2 回	ガイダンス	ロシア語圏のインターネット（Runet) でのニュース・マスコミ・専門的 Webpage サイトを紹介、アクセス方法などを教示する。
第 3 〜６回	ロシアの問題について	ロシアの政治・外交・文化・生活様式の分野に関する教員が指定する Runet からの記事を読んで討論する。
第７〜 1 0回	ロシアの問題について	教員が指定するロシアの政治・外交・文化・生活様式の分野に関する自分で見つかった情報による発表と Q&A.
第１１〜１４回	日本の問題について	教員が指定する日本の政治・外交・文化・生活様式の分野に関する自分で見つかった情報による発表と Q&A.
第１５回	最終授業	実績の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習（とくに辞書を引く作業)。時事用語や現代用語など辞書にない単語や事象をネットで検索しておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書またはテキストを使用しない。必要に応じて教場でプリントを配付する。

【参考書】
必要に応じて教場で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業に参加する熱心な態度、発表の内容等を主として平常点 (100) を評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特に批評がなかったのでそのままで続く積りがある。

LA232

中国語初級Ⅰ

廣野　行雄

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　4 群中国語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 **年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として中国語を学ぶもののためのクラスである。したがって、中国語の独習を継続できる条件を身につけることが本講義のテーマとなる。

【到達目標】
中国語初級Ⅰでは、中国語の発音学習に必須のピンイン字母の読み書き、二音節の声調パターンの体得が当面の目標になる。

【授業の進め方と方法】
一方的な講義形式ではなく、できるだけ個々の受講者の実践を重んじる双方向的な学習形式をとる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	中国語とはどんな言語か。このクラスは何を目指しているか、そこへ到達するにはどのような努力が必要か。
第 2 回	発音講義　音節構造	中国語の音節構造と単母音について。
第 3 回	発音講義 韻母	韻母を構成する複母音ならびに鼻音をともなう韻母について。
第 4 回	発音講義 声母	頭子音の種類、有気音無気音の区別について。
第 5 回	発音講義 声調	各声調の区別について。音節に声調を加えての練習。
第 6 回	発音のまとめ	すべての音節を声調付きで発音してみる。二音節の声調パターンの練習。
第 7 回	第１課	人称代名詞、判断文、動詞述語文について。
第 8 回	第２課	指示代詞、疑問詞、形容詞述語文
第 9 回	第３課	存在と所在の表現、方位詞と量詞
第１０回	第４課	前置詞、時刻時間の表現
第１１回	第５課	完了態、経験態、動量・時量補語
第１２回	第５課	本文暗唱とドリル
第１３回	第６課	助動詞と様態補語
第 14 回	第６課	本文暗唱とドリル
第 15 回	期末試験	春学期に学習した内容についての記述式試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学学習における予習の重要性は今更いうまでもない。特に、週一回しか開設されていない本クラスでは、予習はほとんど決定的な意味をもっていると言っても過言ではない。予習のためには辞書が欠かせないが、それ相当な値段の辞書を買うことは、たんに学習の役にたつだけではなく、学習への決意を自覚し、学習継続のモチベーション維持にもつながるであろう。

【テキスト（教科書）】
山下輝彦著「楽しい中国語第一歩」朝日出版刊

【参考書】
「中日辞典第 2 版」小学館。「東方中国語辞典」東方書店。（安価でハンディな辞書は、ほとんどが初習の学習者に適していない。なお、紙の辞書の効用には及ぶべくもないが電子辞書も可とする。）

【成績評価の方法と基準】
平常点 (受講態度）50 %、期末試験 50 %で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
週１回の授業なので、事前の予習の大切さを強調していきたい。
出来る限り受講者に中国語及び中国の文化に興味をもってもらうようにしたい。

【その他の重要事項】
授業中の飲食 (ガムをかむことも含む) は原則禁止。

LA232

中国語初級Ⅱ

廣野　行雄

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　4 群中国語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初級Ⅰに引き続き、最終的に独学で中国語の学習を継続できる力を身につけることがテーマとなる。

【到達目標】
中国語初級Ⅱでは、発音の知識、能力の定着を目指すと共に、特に抽象的に文法的機能を受け持つ、いわゆる虚詞の習熟に意を用いる。

【授業の進め方と方法】
中国語初級Ⅰ同様、受講者の主体的実践を重んじた双方向的授業形式をとる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	春学期の復習	春学期末試験の結果にもとづき、春学期の内容を復習する。
第２回	第７課	選択疑問文、反復疑問文、進行態
第３回	第７課	本文暗唱、ドリル
第４回	第８課	持続態、連体修飾語
第５回	第８課	本文暗唱、ドリル
第６回	第９課	方向補語、結果補語、可能補語
第７回	第９課	本文暗唱、ドリル
第８回	第１０課	将然態、把字文、存現文
第９回	第１０課	本文暗唱、ドリル
第１０回	第１１課	主述述語文、動詞の重ね形
第１１回	第１１課	本文暗唱、ドリル
第１２回	第１２課	受け身文、「是〜的」文
第１３回	第１２課	本文暗唱とドリル
第１４回	総復習	年間のまとめ
第１５回	期末試験	秋学期授業分に関する筆記試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語初級Ⅰ同様事前の予習は不可欠である。また、時間が許せばテレビ、ラジオの中国語講座の視聴もしてみてほしい。

【テキスト（教科書）】
山下輝彦著「楽しい中国語第一歩」朝日出版社

【参考書】
「中日辞典第２版」小学館、「東方中国語辞典」東方書店。

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習の程度など）５０％、期末試験５０％で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本授業以外にも積極的に中国語に触れる機会を作るよう働きかけていきたい。春学期同様受講者の学習継続のモチベーションを高めるよう努める。

【その他の重要事項】
授業中の飲食 (ガムをかむことも含む) は原則禁止。

LA332

中国語コミュニケーションⅢ

耿　函

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発音を重視しながら、より高度な中国語の会話表現を学ぶ。

【到達目標】
これまで学習した中国語の文法・文型を定着させたうえ、中国社会の事情や慣習などに触れながら、日常生活の様々な場面における実用的でより高度な会話力を身につけることを目指す。

【授業の進め方と方法】
基本的に１課を２回にわたって進めていく。一回目は会話文を理解する。２回目は主に聞く・話す・読む・書くなどの応用練習を通じて、発音の矯正、語彙や文法・文型の定着・応用力の向上に重点を置く。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	第１課	本文の学習
3	第１課	応用練習
4	第２課	本文の学習
5	第２課	応用練習
6	第３課	本文の学習
7	第３課	応用練習
8	復習	第１課〜第３課の復習
9	第４課	本文の学習
１０	第４課	応用練習
１１	第５課	本文の学習
１２	第５課	応用練習
１３	第６課	本文の学習
１４	第６課	応用練習
１５	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストについている CD で予習し、毎回の授業で出された課題を真面目に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】
張　明傑著「実用中国語会話」　金星堂

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験を７割、小テスト（課題の取り組みを含む）・出席状況・授業態度を３割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の３分の１を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は２回で欠席１回とする）。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なし

LA332

中国語コミュニケーションⅣ

耿　函

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発音を重視しながら、より高度な中国語の会話表現を学ぶ。

【到達目標】
これまで学習した中国語の文法・文型を定着させたうえ、中国社会の事情や慣習などに触れながら、日常生活の様々な場面における実用的でより高度な会話力を身につけることを目指す。

【授業の進め方と方法】
基本的に１課を２回にわたって進めていく。一回目は会話文を理解する。２回目は主に聞く・話す・読む・書くなどの応用練習を通じて、発音の矯正、語彙や文法・文型の定着・応用力の向上に重点を置く。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第７課	本文の学習
２	第７課	応用練習
３	第８課	本文の学習
４	第８課	応用練習
５	第９課	本文の学習
６	第９課	応用練習
７	復習	第７課～第９課の復習
８	第１０課	本文の学習
９	第１０課	応用練習
１０	第１１課	本文の学習
１１	第１１課	応用練習
１２	第１２課	本文の学習
１３	第１２課	応用練習
１４	復習	復習
１５	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストについている CD で予習し、毎回の授業で出された課題を真面目に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】
張　明傑著「実用中国語会話」金星堂

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験を７割、小テスト（課題の取り組みを含む）・出席状況・授業態度を３割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の３分の１を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は２回で欠席１回とする）。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なし

LA332

中国語表現法Ⅲ

康　鴻音

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。また話す能力を訓練します。

【到達目標】
学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。

【授業の進め方と方法】
プリントを基本に読解力と会話力を高めます。それからメールの書き方、葉書の書き方、病欠や休暇届けの書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	レベルチェック
2 回	第一課	方向補語など 目的語になる動詞句と主述句など
3 回	第一課	会話練習など 「的」の使い方のまとめ
4 回	第二課	比較の表現 逆接の表現など
5 回	第二課	会話練習 振込み用紙の書き方
6 回	第三課	結果補語 二重目的語など
7 回	第三課	会話練習 動詞述語文用法のまとめ
8 回	第四課	可能補語 慣用形など
9 回	第四課	会話練習 葉書の書き方
10 回	第五課	連用修飾語 前置詞など
11 回	第五課	会話練習 メールの書き方
12 回	第六課	主語になる動詞句 お金のいい方 慣用形など
13 回	第六課	会話練習 病欠届け、休暇届けの書き方
14 回	復習	総復習
15 回	補足説明・試験	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習、予習すること

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書を用意すること

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、授業時の出来具合（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

LA332

中国語表現法Ⅳ

康　鴻音

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、話す力、読解力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】
学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。

【授業の進め方と方法】
毎回 1 分間のスピーチをしてもらいます。その後翻訳の練習。話す力と訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	翻訳	形容詞など
2 回	翻訳	助動詞
3 回	翻訳	副詞・接続詞など
4 回	作文練習	文章記号と原稿用紙の使い方など
5 回	作文練習	作文指導
6 回	翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文練習	作文指導
9 回	翻訳	伝聞、条件、選択など
10 回	翻訳	禁止、程度、複文など
11 回	作文練習	作文指導
12 回	翻訳	期待、要請、可能性など
13 回	作文の練習	作文指導
14 回	復習	総まとめ
15 回	補足説明・試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習、予習すること

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、授業時の出来具合など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

LA332

時事中国語Ⅰ

薬　進

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事問題を取り上げながら、HSK や中検及び通訳ガイド試験を視野に入れてヒアリングや作文練習を繰り返す授業にします。
これまで習得した中国語を使って、昨今の世界中で報道されているニュースを読み解いていきます。原文に触れることによって、中国の今を直接感じていただくとともに、ニュースとなった課題について聞き取りや問答練習を行うことを通じて、コミュニケーション能力の向上を図ります。
さらに、過去問や模擬問題にも取り組み、各種実力テストへの対応力強化を狙います。

【到達目標】
簡単な中国の新聞を読むことができ、中検等の実力テストで得点 20 %増を目指します。

【授業の進め方と方法】
予習を必ずしてもらいます。
解読の手がかり、例文および本文の意味を授業中訳してもらいます。そのため、文法事項、フレーズはもちろん、特定の事象等も辞書、インターネットを使って、調べてもらいます。巻末の練習問題を宿題とし、授業中にやってもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	原文で時事を読むとは	ガイダンス・導入
第 2 回	新シルクロード	第 1 課 語注、文法、本文
第 3 回	新シルクロード	第 1 課 本文、練習問題
第 4 回	中国スマホ	第 2 課 語注、文法、本文
第 5 回	中国スマホ	第 2 課 本文、練習問題
第 6 回	春節	第 3 課 語注、文法、本文
第 7 回	春節	第 3 課 本文、練習問題
第 8 回	1〜3 課の復習	復習
第 9 回	生死を超えた恋	第 4 課 語注、文法、本文
第 10 回	生死を超えた恋	第 4 課 本文、練習問題
第 11 回	粽？ 月餅？	第 5 課 語注、文法、本文
第 12 回	粽？ 月餅？	第 5 課 本文、練習問題
第 13 回	起業者あれこれ	第 6 課 語注、文法、本文
第 14 回	起業者あれこれ	第 6 課 本文、練習問題
第 15 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々起こる出来事に注目してほしい。それは個人の物事を考える力に繋がります。

【テキスト（教科書）】
2015 年度版
『時事中国語の教科書』三潴正道等
朝日出版社
その他プリント配布

【参考書】
辞書類

【成績評価の方法と基準】
出席、授業中の取り組み、テストの成績と合わせて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
作文練習をより多く取り入れます。

LA332

時事中国語Ⅱ

薬　進

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事問題を取り上げる教科書を春学期に引き続き使用するとともに、HSK や中検及び通訳ガイド試験を視野に入れてヒアリングや作文練習を繰り返す授業にします。
原文に触れることによって、中国の今を直接感じていただくとともに、ニュースとなった課題について聞き取りや問答練習を行うことを通じて、コミュニケーション能力の向上を図ります。
さらに、過去問や模擬問題にも取り組み、各種実力テストへの対応力強化を狙います。

【到達目標】
中国の新聞をスムーズに読むことができ、中国語上級実力試験に対応できるレベルを目指します。

【授業の進め方と方法】
事前の準備が必要です。
授業は語注から入り、解読の手がかりに進みます。例文を含め、本文を学生に和訳をしてもらいます。
そのため、辞書、インターネットなどを充分に利用し予習して、授業に備えてもらいたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 第 7 課	都市こぼれ話
第 2 回	第 7 課	都市こぼれ話
第 3 回	第 8 課	北京よ、あなたが好きだとは簡単に言えないよ
第 4 回	第 8 課	北京よ、あなたが好きだとは簡単に言えないよ
第 5 回	第 9 課	マージャンが平和の礎に！
第 6 回	第 9 課	マージャンが平和の礎に！
第 7 回	復習	7～9 課の復習
第 8 回	第 10 課	中国の高齢者今
第 9 回	第 10 課	中国の高齢者今
第 10 回	第 11 課	俊巴村、その美景と美味
第 11 回	第 11 課	俊巴村、その美景と美味
第 12 回	復習	7～9 課の復習
第 13 回	第 12 課	中国でサッカーが絶滅に！？
第 14 回	第 12 課	中国でサッカーが絶滅に！？
第 15 回	テスト	テスト実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々起こる出来事に注目してほしい。新聞を読むように。

【テキスト（教科書）】
『2015 年度版　時事中国語の教科書』
三潴正道等
朝日出版社
その他プリント配布

【参考書】
辞書等

【成績評価の方法と基準】
出席、出席状況、授業への取り組み、テストの結果と総合して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
作文練習により丁寧に取り組みます。

LA332

検定中国語Ⅲ

沈　小南

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
※定員制　履修可能年次： 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中検の受験勉強。

【到達目標】
中検３級突破。

【授業の進め方と方法】
過去問を使い、実戦練習。

【授業計画】

回	テーマ	内容
１回目	受験	練習
２回目	受験	練習
３回目	受験	練習
４回目	受験	練習
５回目	受験	練習
６回目	受験	練習
７回目	受験	練習
８回目	受験	練習
９回目	受験	練習
１０回目	受験	練習
１１回目	受験	練習
１２回目	受験	練習
１３回目	受験	練習
１４回目	受験	練習
１５回目	受験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
「中国語学習ハンドブック」大修館書店

【成績評価の方法と基準】
期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

LA332

検定中国語Ⅳ

沈　小南

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中検の受験勉強。

【到達目標】
中検３級突破。

【授業の進め方と方法】
過去問を使い、実戦練習。

【授業計画】

回	テーマ	内容
１回目	受験	練習
２回目	受験	練習
３回目	受験	練習
４回目	受験	練習
５回目	受験	練習
６回目	受験	練習
７回目	受験	練習
８回目	受験	練習
９回目	受験	練習
１０回目	受験	練習
１１回目	受験	練習
１２回目	受験	練習
１３回目	受験	練習
１４回目	受験	練習
１５回目	受験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
「中国語学習ハンドブック」大修館書店

【成績評価の方法と基準】
期末試験、出席率、授業態度の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

LA332

中国語講読Ⅰ

岩田　和子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語で書かれた現代中国にまつわる短文を読み、文法の基礎を復習しながら読解力を身につけます。

【到達目標】
初級から中級レベルの文章を読みます。ただ読むだけではなく、内容に関する練習問題を解きながら、理解力を高めることを目指します。また、中国の文化や習慣における基礎知識も身につけます。

【授業の進め方と方法】
教科書を使用し、各課の単語テスト、音読、短文の日本語訳を行い、内容に関する練習問題（中国語検定試験の問題形式）を解いていきます。適宜文法説明を行いながら授業を進めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
１	ガイダンス	授業の進め方の説明。レベルチェックなど。
２	第１課	自我介紹（１）
３	第１課	自我介紹（２）
４	第２課	李軍有很多愛好（１）
５	第２課	李軍有很多愛好（２）
６	第３課	趙大媽的一天（１）
７	第３課	趙大媽的一天（２）
８	第４課	許芳的苦悩（１）
９	第４課	許芳的苦悩（２）
１０	第５課	我們是去年認識的（１）
１１	第５課	我們是去年認識的（２）
１２	第６課	你知道「漢語橋」嗎？（１）
１３	第６課	你知道「漢語橋」嗎？（２）
１４	復習	第１〜６課の復習
１５	まとめ	定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の単語を覚える（準備学習）

【テキスト（教科書）】
王安・楊川・王欣・孫樹林『標準中国語 読解力ＵＰ編』朝日出版社

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト、課題など）40 %、期末試験 60 %を総合して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なし

LA332

中国語講読Ⅱ

岩田　和子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・4**
※定員制　履修可能年次：3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語で書かれた現代中国にまつわる短文を読み、文法の基礎を復習しながら読解力を身につけます。

【到達目標】
初級から中級レベルの文章を読みます。ただ読むだけではなく、内容に関する練習問題を解きながら、理解力を高めることを目指します。また、中国の文化や習慣における基礎知識も身につけます。

【授業の進め方と方法】
教科書を使用し、各課の単語テスト、音読、短文の日本語訳を行い、内容に関する練習問題（中国語検定試験の問題形式）を解いていきます。適宜文法説明を行いながら授業を進めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の復習
2	第７課	漢語中的外来語（1）
3	第７課	漢語中的外来語（2）
4	第８課	大学就是一個小社会（1）
5	第８課	大学就是一個小社会（2）
6	第９課	年軽人追求時尚（1）
7	第９課	年軽人追求時尚（2）
8	第１０課	日本動漫的影響力（1）
9	第１０課	日本動漫的影響力（2）
１０	第１１課	北京歓迎你！（1）
１１	第１１課	北京歓迎你！（2）
１２	第１２課	飲食与中国（1）
１３	第１２課	飲食与中国（2）
１４	復習	第７～１２課の復習
１５	まとめ	定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の単語を覚える（準備学習）

【テキスト（教科書）】
王安・楊川・王欣・孫樹林『標準中国語 読解力ＵＰ編』朝日出版社

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト、課題など）40 %、期末試験 60 %を総合して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なし

LA232

スペイン語初級Ⅰ

杉下　由紀子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　4 群スペイン語履修者は履修不可　履修可能年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【授業の進め方と方法】
講師が文法事項を説明する。履修生はＣＤを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。期末試験の他、１～２回小テストを行う予定。また、時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、学習方法
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数字 0〜10
3	スペイン語圏諸国と名前	地名と国籍、数字 11〜20
4	教室や家の中にあるもの	冠詞、名詞の性数
5	人を紹介する	主語代名詞、動詞 ser、職業
6	人や物の特徴	疑問文、肯定文、否定文、形容詞
7	日常の活動	直説法現在規則動詞
8	勉強・仕事	曜日、頻度の表現
9	場所の表現	動詞 estar、hay、
10	町を描写する	指示詞、場所をあらわす副詞
11	人や物の状態	動詞 tener、動詞 ser と estar の違い、感嘆文、数字 21〜100
12	家族	日付、年齢
13	復習	応用練習
14	期末試験	春学期に学習した内容を確認するための筆記試験
15	補講	予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。

【テキスト（教科書）】
ピラル・ラゴ他『発見！ 大好き‼スペイン語!!! 1』朝日出版社、2016 年

【参考書】
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、小テスト・期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力をいれたいと思います。

【その他の重要事項】
授業には辞書を必ず持参してください。スマートフォンや携帯電話の操作は禁止します。電子辞書は可。
家で勉強する時は、電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

LA232

スペイン語初級Ⅱ

杉下　由紀子

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　4 群スペイン語履修者は履修不可　履修可能年次：２～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】
動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【授業の進め方と方法】
講師が文法事項を説明する。履修生はＣＤを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。期末試験の他、１～２回小テストを行う予定。また、時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	予定を述べる	直説法現在不規則動詞ⅠⅡ
2	スケジュール	時刻、曜日、日付
3	趣味	動詞 gustar、間接目的格人称代名詞
4	食事	直説法現在不規則動詞Ⅲ、前置詞格人称代名詞
5	日常の活動	再帰動詞
6	生活習慣	再帰動詞、時間の表現
7	願望の表現	直接目的格人称代名詞、数字 100～999
8	買い物	数字 1,000～1,000,000、色
9	情報を求める・提供する	直説法現在不規則動詞Ⅳ、直接・間接目的格人称代名詞
10	依頼の表現	さまざまな直説法現在動詞、直接・間接目的格人称代名詞
11	義務の表現	不定詞を伴う動詞
12	天候	天候表現と四季、比較表現
13	旅行	近未来、交通手段
14	期末試験	秋学期に学習した内容を確認するための筆記試験
15	補講	予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。

【テキスト（教科書）】
ピラル・ラゴ他『発見！ 大好き!!スペイン語!!!１』朝日出版社、2016 年

【参考書】
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、小テスト・期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力を入れたいと思います。

【その他の重要事項】
授業には辞書を必ず持参してください。スマートフォンや携帯電話の操作は禁止します。電子辞書は可。
家で勉強する時は、電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

LA232

スペイン語中級Ⅰ

佐々木　直美

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・2**
※定員制　履修可能年次：２～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語圏の文化や社会に関するテキストを読解しながら、初級文法の学習を行う。

【到達目標】
学習した文法事項を応用させ、中級レベルの長文読解ができるようになる。
また、授業で取り上げるテキストや映像資料を入口に、スペイン語圏の文化や社会に関する理解を深める。

【授業の進め方と方法】
講義に加えて、ヒアリングや AV 資料を用いながらスペイン語やスペイン語圏について学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明と初級の簡単な復習。
2	グラナダ	グラナダ（スペイン）に関するテキストを通して、直説法現在の復習を行う。
3	目的格人称代名詞	目的格人称代名詞、不定詞の復習。
4	セビーリャ	セビーリャ（スペイン）に関するテキストの講読練習。
5	進行形、分詞構文	進行形と分詞構文の復習。
6	ハバナ	ハバナ（キューバ）に関するテキストの講読練習。
7	受動態、点過去	受動態と点過去の復習。
8	テオティワカン	メキシコの考古学遺跡に関するテキストの講読練習。
9	点過去と線過去	点過去と線過去の使い分けの復習。
１０	ティカル	グァテマラに関する考古学遺跡に関するテキストの講読練習。
１１	完了形	完了形の復習。
１２	マチュ・ピチュ	マチュ・ピチュ（ペルー）に関するテキストの講読練習。
１３	スペイン語圏の映画	スペイン語圏の映画を鑑賞し、その中で出てくるスペイン語について学ぶ。
１４	スペイン語圏の映画	スペイン語圏の映画を鑑賞し、その社会や文化的背景について討論する。
１５	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初級で学習した文法や新たに学ぶ文法事項の復習をしっかりおこなう。
また、テキストはあらかじめ訳を準備し、取り上げる世界遺産について各人でリサーチして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
禪野美帆ほか『初級～中級スペイン語　世界遺産を訪ねて　改訂版』、朝日出版、2014 年。2300 円＋税。

【参考書】
テキスト『世界遺産を訪ねて』の巻末に参考文献のリストが掲載されているので、そこを参照すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　期末試験 70 %　程度で総合的に評価する

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
文法の授業ではあるが、スペイン語圏の話題についても幅広く取り上げ、文法を学びながら社会や文化に触れることができるようなテキストを使用する。

LA232

スペイン語中級Ⅱ

佐々木　直美

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・2**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語圏の文化や社会に関するテキストを読解しながら、初級文法の学習を行う。

【到達目標】
学習した文法事項を応用させ、中級レベルの長文読解ができるようになる。また、授業で取り上げるテキストや映像資料を入口に、スペイン語圏の文化や社会に関する理解を深める。

【授業の進め方と方法】
講義に加えて、ヒアリングや AV 資料を用いながらスペイン語やスペイン語圏について学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明と春学期の復習。
2	未来形	未来形の学習
3	過去未来	過去未来の学習
4	メキシコ市	メキシコ市に関するテキストの講読練習。
5	未来完了と過去未来完了	未来完了と過去未来完了の学習。
6	クスコ	クスコ（ペルー）に関するテキストの講読練習。
7	接続法	接続法現在の学習。
8	ボトシ	ボトシ（ボリビア）に関するテキストの講読練習。
9	スペイン語圏の映画	スペイン語圏の映画を鑑賞し、その中で使われているスペイン語表現について学ぶ。
１０	スペイン語圏の映画	スペイン語圏の映画を鑑賞し、その中で使われているスペイン語の表現について学ぶ。また、映画の社会・文化的背景について討論する。
１１	命令文	命令形の学習。
１２	ラ・サンティシマ・トリニダードとヘスス・デ・タバランゲ	パラグアイの世界遺産に関するテキストの講読練習。
１３	接続法	接続法の名詞節と副詞節について学習。
１４	ガラパゴス諸島	ガラパゴス諸島に関するテキストの講読練習。
１５	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初級で学習した文法や新たに学ぶ文法事項の復習をしっかりおこなう。
また、テキストはあらかじめ訳を準備し、取り上げる世界遺産について各人でリサーチして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
禪野美帆ほか『初級〜中級スペイン語　世界遺産を訪ねて　改訂版』、朝日出版、2014 年。2300 円＋税。

【参考書】
テキスト『世界遺産を訪ねて』の巻末に参考文献のリストが掲載されているので、そこを参照すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　期末試験 70 %　程度で総合的に評価する

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
文法の授業ではあるが、スペイン語圏の話題についても幅広く取り上げ、文法を学びながら社会や文化に触れることができるようなテキストを使用する。

LA332

スペイン語上級Ⅰ

田澤　耕

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペインＳＡ修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、さらにスペイン語能力を高めることを目指す。

【到達目標】
新聞や小説など、中身の濃い文章を理解できるようになる。日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。DELE で言えば、B2-C1 レベル。

【授業の進め方と方法】
読解：当番学生は記事、読み物を選び、それについて主体的に（教師の役割を担って）授業をする。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。
読み物はサッカー、ファッション、漫画、音楽、観光などに関する雑誌、新聞記事、小説などなんでもかまわない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1	学生による講読の授業。教員のコメント。
3	講読 2	学生による講読の授業。教員のコメント。
4	講読 3	学生による講読の授業。教員のコメント。
5	講読 4	学生による講読の授業。教員のコメント。
6	講読 5	学生による講読の授業。教員のコメント。
7	講読 6	学生による講読の授業。教員のコメント。
8	講読 7	学生による講読の授業。教員のコメント。
9	講読 8	学生による講読の授業。教員のコメント。
10	講読 9	学生による講読の授業。教員のコメント。
11	講読 10	学生による講読の授業。教員のコメント。
12	講読 11	学生による講読の授業。教員のコメント。
13	講読 12	学生による講読の授業。教員のコメント。
14	講読 13	学生による講読の授業。教員のコメント。
15	講読 14	学生による講読の授業。教員のコメント。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。
自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
発表の質の高さ 50 %。授業運営のスキル 25 %。他学生の発表の時の参加姿勢 25 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なし

LA332

スペイン語上級Ⅱ

田澤　耕

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・2**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペインＳＡ修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、さらにスペイン語能力を高めることを目指す。

【到達目標】
新聞や小説など、中身の濃い文章を理解できるようになる。日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。DELE で言えば、B2-C1 レベル。

【授業の進め方と方法】
当番学生は記事、読み物を選び、それについて主体的に（教師の役割を担って）授業をする。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。
読み物はサッカー、ファッション、漫画、音楽、観光などに関する雑誌、新聞記事、小説などなんでもかまわない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1	学生による講読の授業。教員のコメント。
3	講読 2	学生による講読の授業。教員のコメント。
4	講読 3	学生による講読の授業。教員のコメント。
5	講読 4	学生による講読の授業。教員のコメント。
6	講読 5	学生による講読の授業。教員のコメント。
7	講読 6	学生による講読の授業。教員のコメント。
8	講読 7	学生による講読の授業。教員のコメント。
9	講読 8	学生による講読の授業。教員のコメント。
10	講読 9	学生による講読の授業。教員のコメント。
11	講読 10	学生による講読の授業。教員のコメント。
12	講読 11	学生による講読の授業。教員のコメント。
13	講読 12	学生による講読の授業。教員のコメント。
14	講読 13	学生による講読の授業。教員のコメント。
15	講読 14	学生による講読の授業。教員のコメント。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。
自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
発表の質の高さ 50 %。授業運営のスキル 25 %。他学生の発表の時の参加姿勢 25 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なし

LA332

スペイン語コミュニケーションⅢ

瓜谷　アウロラ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座ではコミュニケーションを重視し、「聞き・話し・読み・書く」という四つの技能をバランスよく身につけるようにする。

【到達目標】
口頭表現力の訓練を中心としつつ、より高度なスペイン語力の習得の強化をめざす。

【授業の進め方と方法】
動詞の現在形、過去系、未来系を中心に文法の復習をしながら、身近な話題での表現練習を通して関連する表現を覚える。このコースの履修者には、宿題、予習・復習をしっかり行い、積極的に授業に参加することを強く希望します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学生生活	現在形の復習
2	生活習慣	現在分詞の用法
3	人の一生	点過去
4	家族	過去を表す福祉句
5	町で	品質形容詞
6	昔と今	線過去
7	天気	副詞節
8	旅行報告	点過去と線過去
9	余暇活動	過去分詞
10	買い物	現在完了
11	求人	未来を表す副詞句
12	未来	未来形
13	復習	春学期の全体的な復習その１
14	復習	春学期の全体的な復習その２
15	試験日	最終授業日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回文書の意味調べなどの宿題をだす。基本的にペアで練習を行うので、宿題ができていないとスムーズに進めない。それに留意して授業にのぞんでほしい。

【テキスト（教科書）】
”Entre Amigos", 総合スペイン語コース　中級、スペイン語教材研究会、朝日出版社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点及び期末試験から判断する。
期末試験:70 %
平常点評価:30 %　授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではない。
この授業では出席も非常に重視する。欠席と遅刻は減点の対象となるので注意すること。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の指摘にあった日常生活に使う言い回しの多い教科書に変えて、一年間文法の勉強を終えた学生を対象に使ってみる。

LA332

スペイン語コミュニケーションⅣ

瓜谷　アウロラ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座ではコミュニケーションを重視し、「聞き・話し・読み・書く」という四つの技能をバランスよく身につけるようにする。

【到達目標】
口頭表現力の訓練を中心としつつ、より高度なスペイン語力の習得の強化をめざす。

【授業の進め方と方法】
動詞の直説法だけではなくて、接続法の復習をもしながら、身近な話題での表現練習を通して関連する表現を覚える。このコースの履修者には、宿題、予習・復習をしっかり行い、積極的に授業に参加することを強く希望する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	家具と調度品	過去完了
2	１０年前の我が家	直説法の時制：まとめ
3	食べ物	直説法の過去未来
4	体の動き	命令形１
5	命令・意見	命令形２
6	願望・依頼	接続法の用法１
7	地理	接続法の用法２
8	環境問題	接続法の用法３
9	抽象名詞	接続法の用法４
10	事実と異なる仮定	条件文１
11	後悔	条件文２
12	丁寧な依頼	接続法の時制：まとめ
13	復習	秋学期の全体的な復習その１
14	復習	秋学期の全体的な復習その２
15	試験日	最終授業日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回文書の意味調べなどの宿題をだす。基本的にペアで練習を行うので、宿題ができていないとスムーズに進めない。それに留意して授業にのぞんでほしい。

【テキスト（教科書）】
"Entre Amigos", 総合スペイン語コース　中級、スペイン語教材研究会、朝日出版社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点及び期末試験から判断する。
期末試験:70 %
平常点評価:30 %　授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではない。
この授業では出席も非常に重視する。欠席と遅刻は減点の対象となるので注意すること。
出席点ではありません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の指摘にあった日常生活に使う言い回しの多い教科書に変えて、一年間文法の勉強を終えた学生を対象に使ってみる。

LA232

朝鮮語初級Ⅰ

富所　明秀

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　４群朝鮮語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字と音価を学び，文法の基礎を身につけます.

【到達目標】
・正確に発音できるようになること.
・助詞と「ですます」を理解し，簡単な読み書きができるようになること.

【授業の進め方と方法】
・授業のはじめに前回の復習をおこないます.
・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます.
・教科書は１回の授業につき１課〜２課進みます.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第１課	基本母音字
	第２課	子音字その１
2	第３課	子音字その２
3	第４課	子音字その３
4	第５課	７つの終声
5	第６課	用言の「ですます」形
6	第７課	激音
7	第８課	合成母音字
8	第９課	濃音
9	第１０課	連音化
10	第１１課	疑問形と否定形
11	第１２課	平音の濃音化
12	第１３課	日本語のハングル表記
13	第１４課	激音化・鼻音化・口蓋音化
14	復習	春学期の復習
15	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください.
・疑問点が生じたらすぐに質問してください.
　わからないことを放置しないようにしてください.

【テキスト（教科書）】
『しくみで学ぶ初級朝鮮語』　内山政春著　白水社

【参考書】
朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】
・平常点　３０％
・期末試験　７０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ＣＤの活用

LA232

朝鮮語初級Ⅱ

富所　明秀

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
※定員制　4 群朝鮮語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の活用の基本を学びます.
秋学期では会話体を身につけます.

【到達目標】
・活用の基礎を身につけること.
・簡単な文を作文できるようになること.

【授業の進め方と方法】
・授業のはじめに前回の復習をします.
・前回学んだことについて小テストをおこないます.
・秋学期は教科書と私家版プリントを併用します.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と第１５課	子音語幹用言
2	第１６課	複数の用言をつなぐ
3	第１７課	動詞の進行形と連体形
4	第１８課	固有数字とその単位
5	第１９課	過去形その１
6	第２０課	過去形その２
7	中間試験	中間試験実施
8	第２１課	あいさつと尊敬形
9	第２２課	指定詞の否定形・用言の活用と語基
10	私家版テキスト	私家版テキスト
11	私家版テキスト	私家版テキスト
12	私家版テキスト	私家版テキスト
13	第２３課	形容詞ともうひとつの否定形
14	復習	秋学期の復習
15	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期に同じ

【テキスト（教科書）】
春学期に同じ

【参考書】
春学期に同じ

【成績評価の方法と基準】
平常点２０％
中間試験４０％
期末試験４０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ＣＤの活用

LA232

朝鮮語中級Ⅰ

梁　禮先

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**火・4**
※定員制　4 群朝鮮語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的な書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。ある程度朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】
基本会話ができること。

【授業の進め方と方法】
発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについて	授業の進め方について説明します。
第二回	今日も友達に会いますか	読む練習と否定形について。
第三回	今日も友達に会いますか	過去形について。
第四回	今日も友達に会いますか	練習問題。
第五回	今、何時ですか	数詞について。
第六回	今、何時ですか	会話の練習。
第七回	今、何時ですか	練習問題。
第八回	ここはデパートですか。	発音練習と読む練習について。
第九回	ここはデパートですか。	文章を読む。
第十回	ここはデパートですか。	連体形について。
第十一回	私の家族です	発音練習と読む練習について。
第十二回	私の家族です	文章を読む。
第十三回	私の家族です	会話の練習。
第十四回	私の家族です	練習問題。
第十五回	期末試験	総合テスト実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート、課題を調べてくること。

【テキスト（教科書）】
教室用テキスト『やさしく学べる朝鮮語中級』(梁禮先)

【参考書】
朝鮮語辞書

【成績評価の方法と基準】
出席、小テスト、レポート、期末試験などを総合評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
K-POP などを見たいなど。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業の内容は少々変わることがあります。

LA232

朝鮮語中級Ⅱ

梁　禮先

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・4**
※定員制　4 群朝鮮語履修者は履修不可　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に続き、朝鮮語 1・2 で学んだ知識を利用し、実践的な練習を繰り返すことで朝鮮語を確実に身に付けることを目標にします。朝鮮語の会話をもっと自信を持って話すことができるようになりましょう。

【到達目標】
簡単な自分の感想が朝鮮語で話せることができること。

【授業の進め方と方法】
秋学期も春学期と同じ方法で、発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきますが、もっと会話に力を入れます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	秋学期授業の進め方などについて	春学期の復習と秋学期の授業の進め形について説明。
第二回	景福宮はどこですか	発音と読む練習などをやります。
第三回	景福宮はどこですか	文章を読みます。
第四回	景福宮はどこですか	練習問題などをやります。
第五回	景福宮はどこですか	会話練習などをします。
第六回	日記	文章を読みます。
第七回	日記	日記の書き方などについて学びます。
第八回	変則用言	変則用言について学びます。
第九回	変則用言	変則用言について学びます。
第十回	乗り物	会話練習をします。
第十一回	乗り物	連用形などについて学びます。
第十二回	電話	会話練習をします。
第十三回	電話	会話体の終止形について学びます。
第十四回	空港で	会話の練習などについてやります。
第十五回	期末試験	総合テストをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート、課題を調べてくること。

【テキスト（教科書）】
教室用教材『やさしく学べる朝鮮語中級』(梁禮先)

【参考書】
朝鮮語の辞書など

【成績評価の方法と基準】
出席、小テスト、レポート、期末試験などを総合して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
K-POP などが見たいなど。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業の内容は少々変わることがあります。

AC137

A Short Introduction to Japanese Politics

衛藤　幹子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class will provide you with a short introduction to Japanese politics, which consists of diverse topics, ranging from political history to social policy. The class will be carried out by five lecturers who are experts on different subjects of political studies, such as history of Japanese political thought, political theory, political process in Japan, gender in politics and welfare states. Each lecturer will give you his/her talks three times. The class aims to give an overview of Japanese politics, so you can study more specific subjects according to your interests afterwards.

【到達目標】
The goal of this class is to let you know how interesting Japanese politics is, and to guide you into ways of studying politics in Japan from different perspectives. Throughout this class, you will be able to roughly understand how Japanese politics has been developed historically, how it is performed and what problem it faces. The class covers only a part of Japanese politics however. We hope that you will become interested in Japanese politics by the class, and then you will continue to study on it from specific perspectives.

【授業の進め方と方法】
In the class, we will take discussion very seriously. Each lecturer will have a plenty of time for discussion with you. We are looking forward to your active participation.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and Guidance (lectured by Mikiko Eto)	Explaining the purpose and outline of the class. Providing information necessary for taking the class
第 2 回	Politic and Political Thought in Tokugawa and Meiji Japan ① (lectured by Hiroshi Watanabe)	1.Gender and sexuality 2.“Religion” and politics 3.Why did Japan modernize (westernize) itself so quickly?
第 3 回	Politic and Political Thought in Tokugawa and Meiji Japan ② (lectured by Hiroshi Watanabe)	1.Gender and sexuality 2.“Religion” and politics 3.Why did Japan modernize (westernize) itself so quickly?
第 4 回	Politic and Political Thought in Tokugawa and Meiji Japan ③ (lectured by Hiroshi Watanabe)	1.Gender and sexuality 2.“Religion” and politics 3.Why did Japan modernize (westernize) itself so quickly?
第 5 回	Politics and Political Theories in Japan ① (lectured by Atsushi Sugita)	1.Basic ideas of post-war Japanese political theory 2.Constitution and politics in Japan 3.Contemporary challenges of Japanese politics

第 6 回	Politics and Political Theories in Japan ② (lectured by Atsushi Sugita)	1.Basic ideas of post-war Japanese political theory 2.Constitution and politics in Japan 3.Contemporary challenges of Japanese politics
第 7 回	Politics and Political Theories in Japan ③ (lectured by Atsushi Sugita)	1.Basic ideas of post-war Japanese political theory 2.Constitution and politics in Japan 3.Contemporary challenges of Japanese politics
第 8 回	History of Post-War Japanese Politics ① (lectured by Jiro Yamaguchi)	The contents will be presented in the first class.
第 9 回	History of Post-War Japanese Politics ② (lectured by Jiro Yamaguchi)	The contents will be presented in the first class.
第 10 回	History of Post-War Japanese Politics ③ (lectured by Jiro Yamaguchi)	The contents will be presented in the first class.
第 11 回	Japanese Women in Legislatures ① (lectured by Mikiko Eto	1.Why do men still dominate politics? 2. How have political parties treated women candidates?
第 12 回	Japanese Women in Legislatures ② (lectured by Mikiko Eto	1.Why do men still dominate politics? 2. How have political parties treated women candidates?
第 13 回	Japanese Welfare State in International Comparison ① (lectured by Taku Yamamoto)	1. Characteristics of Japanese welfare state 2. Tax and redistribution in Japan 3. Politics of welfare state reform
第 14 回	Japanese Welfare State in International Comparison ② (lectured by Taku Yamamoto)	1. Characteristics of Japanese welfare state 2. Tax and redistribution in Japan 3. Politics of welfare state reform
第 15 回	Japanese Welfare State in International Comparison ③ (lectured by Taku Yamamoto)	1. Characteristics of Japanese welfare state 2. Tax and redistribution in Japan 3. Politics of welfare state reform

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
To read the materials that the lecturers introduced you before and after the class.

【テキスト（教科書）】
There is no specific textbook in this class.

【参考書】
Each lecturer will introduce suitable materials to well understanding his/her lecture.

【成績評価の方法と基準】
Instead of a paper exam, short essays will access your learning. After the class ended, you must submit us your report on which you write a short essay about five subjects each — five essays in total. One essay needs to consist of 500 words. You will get further information about this report in the class.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
We have not yet received any comment from students because this class just starts this semester.

ZA128

General Topics I: Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit：2 ｜ Semester：Spring, Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：Mon 4th(Spring), Wed 3rd (Fall)

【Course outline and objectives】
The purpose of this course is to provide students with an understanding of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organisation of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. We will learn about the development of a destination's natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. As an introductory class, the material covered will be diverse to provide an overview of topics that impact on tourism.

【Course goal】
At the completion of this course, students should be able to:
1. Explain the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the private, public and voluntary sectors
2. Describe processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on tourism

【Course method(s)】
The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation. These are important elements of the course and will aid in your understanding of the material. The group presentation on a given case study will assist your learning through the in-depth research, analysis and presentation of your ideas and conclusions.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course content and class format	Setting the context: understanding the significance and complexity of tourism
2	The structure, organisation and different types of tourism	Exploring the structure and organisation of the tourism sector and examining strengths, weaknesses, opportunities and threats
3	Tourists: who, what, where, why, when, how	Exploring different typologies of tourists; understanding different motivations, decision-making and behaviours
4	Tourist behaviour	Analysing different models of consumer behaviour and the implications for tourism managers
5	Designing the tourism experience	Past and current approaches to the planning and managing of tourist experiences

6	Selling dreams and experiences: tourism marketing and management	Examining the strategies and theories of the marketing of services such as tourism, including analysis of various campaigns
7	Event tourism	Analysing the various kinds of events and their role in developing a destination brand
8	Tourism impacts in developed and developing countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
9	Tourism: sustainable development	Examining the debates around how to manage tourism more sustainably
10	Tourism and technology	The impact of new technology and social media on tourism: challenges and opportunities for tourists and organisations
11	Group presentations	Student group presentations (topics to be assigned in class)
12	Tourism crises and disaster management	Analysing the vulnerability of tourism and how destination managers can respond to disasters through a selection of case studies
13	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
14	Future directions for tourism	Considering different scenarios how tourism may develop
15	Examination	End of semester examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned reading as preparation for classes. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class.

【Textbooks】
The reference books are available in the library and in the GIS Reference Room. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice.* Harlow: Pearson Education
Page, S. and Connell, J. (2014 4th edition) *Tourism: a Modern Synthesis.* Andover: Cengage

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class and online participation (20%)
2. Group presentation and report (40%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading to enable them to get the most benefit from the lectures.

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Prerequisite】
None.

ZA228

General Topics II: Tourism Development in Japan

John Melvin

Credit：2 | Semester：Spring | Year：2〜4
Day/Period：Wed 3rd

【Course outline and objectives】
Contemporary Japanese domestic tourism can be traced back to the religious pilgrimages of earlier centuries, many of which still survive today. More recent forms of tourism have been characterised by a collective and convenient approach yet within this there are a number of distinct and specialised forms of tourism. Tourism is currently experiencing unparalleled growth. An increasingly diverse range of tourists brings opportunities and challenges to tourism managers.
After a consideration of tourism development in Japan this course will examine a range of topical issues, including how Japan can take advantage of the Tokyo Olympics in 2020 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation. We will analyse different prefectural marketing campaigns and how Japan is marketed abroad. The course will also consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake.

【Course goal】
Upon completion of this course students should be able to:
1) understand how tourism in Japan has developed into its present form
2) appreciate the various organisations involved in planning tourism in Japan and the roles of each
3) understand the social and economic potential of tourism for revitalising Japan at national and local level
4) critically analyse prefectural and national government marketing campaigns
5) analyse the effects on Japanese tourism of new inbound tourists, particularly from neighbouring Asian countries

【Course method(s)】
The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information among students, the instructor and a guest speaker. Whilst it is primarily lecture-based, you will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. Feedback from these groups can then help the class develop understanding of key points through an open exchange of ideas and information. Relevant and topical case studies can help you consolidate your learning by applying the lecture content to real examples. Student group presentations and contributions from a guest speaker will further improve understanding of key issues.

【Schedule】
No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course content and class format	Considering the current state of Japanese tourism and recent trends
2	The roots of Japanese travel culture and tourism development	Exploring the development and evolution of the tourism sector in Japan
3	Stimulating tourism demand	Analysis of the various institutions involved in tourism management and planning in Japan
4	Tourism as economic and social lifeline	Exploring the economic potential of tourism for local and regional development

5	Tourism marketing	Challenges of marketing tourism: how to market experiences? Analysing past and present approaches to tourism marketing by prefectural & national government.
6	Japan in Asia	Examining how Japan is differentiating itself from growing international competition for tourists
7	Tourism resources: events	Analysing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
8	Tourism resources: natural, built and cultural	Analysing the tangible and intangible resources in Japan and how they are utilised for tourism purposes
9	Inbound tourism	Historical and current trends in inbound tourism. Tourist motivations and behaviours of different visitor groups.
10	Case study 1	In-depth focus on the social background of domestic tourism
11	Disaster management and recovery	Vulnerability of tourism to disasters and incidents. Effect of recent earthquakes in Kobe and Tohoku and recovery strategies.
12	Group presentations	Groups will give presentations on tourism in selected prefectures
13	Tourism focus: niche tourism	Analysing the characteristics and potential of different forms of tourism including wellness tourism, ecotourism and gastronomical tourism
14	Current challenges and future developments	Consider the current state of Japanese tourism and potential paths for future development
15	Examination	End of semester examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Reading and research activities will be assigned in class.

【Textbooks】
The reference book is available in the library and in the GIS Reference Room. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures.* Berghahn: New York

【Grading criteria】
1. Class participation (20%)
2. Group project (40%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading to enable them to get the most benefit from the lectures.

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Prerequisite】
None.

ZA228

Event Management

John Melvin

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Wed 2nd

【Course outline and objectives】
For millennia, humans have found ways to mark important events in their lives: the changing of the seasons, the phases of the moon and the renewal of life each spring. Today, events are playing an increasing role in people's lives and culture. More leisure time and better standards of living have led to a proliferation of public and private events. More recently, governments and businesses have recognised the power of events to help with economic development and destination marketing. The wide array of events, from community to international level, makes event management a hugely exciting field of study.

【Course goal】
The purpose of this course is to acquire an in-depth knowledge about the field of event management and to become familiar with management techniques and strategies required for the successful planning, promotion, implementation and evaluation of events within different contexts.
This course will cover the critical techniques and strategies required to plan successful special events. Upon completion of this course, you should be able to:
1) Understand success factors behind conceptualising and designing events
2) Understand the contribution that various stakeholders can make to the successful staging of events
3) Understand different sources of event funding
4) Understand and apply appropriate risk management practices
5) Understand the role and management of event volunteers
6) Appreciate the varied aims and objectives of different events and the need to consider the event legacy

【Course method(s)】
The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information among students, the instructor and a guest speaker experienced in the management of special events. Whilst it is primarily lecture-based, you will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. Feedback from these groups can then help the class develop understanding of key points through an open exchange of ideas and information. Relevant and topical case studies from both Japan and international settings can help you consolidate your learning by applying the lecture content to real examples.
In groups, students will design their own event concept over the course of the semester, which will allow the opportunity to apply the theories and concepts from the lectures.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course content and class format	Understanding the events industry, the range of events and the issues this class will consider
2	Event conceptualisation	The various influences on developing an event concept and the issues to be included in the planning process
3	The event environment	Identifying the various stakeholders involved and how they can contribute to the successful event management process

4	Designing the event experience	Considering the many factors involved, including developing an event theme and programme, and selecting a venue
5	Event sponsorship	Analysing the various forms of support that organisations can provide for events and strategies for gaining external support
6	Event marketing and promotion	Creating publicity for the event through marketing activities and managing media campaigns
7	Guest speaker	An experienced guest speaker will give a talk and host a Q&A
8	Human resource/volunteer management	Managing human resources for the event including volunteer recruitment, motivation and retainment
9	Risk management, law and licensing and health and safety	Planning and preparing for negative incidents to ensure the safe and smooth delivery of the event
10	Financial management and budgeting	Financial management processes including sourcing funding, monitoring income and expenditure and evaluation
11	Event case studies	Analysing aspects of event management from a selection of international case studies; also preparation for group presentations
12	Group presentations	Groups will give a presentation on their original event
13	Post event evaluation and the event legacy	Identifying the range of post-event tasks to ensure a successful conclusion and the importance of planning for an event's legacy
14	Review	A review of some of the key issues during the course
15	Examination	End of semester examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned reading as preparation for classes. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class.

【Textbooks】
The reference books are available in the library and in the GIS Reference Room. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Allen, J, O'Toole, W, McDonnell, I and Harris, R (2011) *Festival and Special Event Management.* (5th edition) Brisbane: Wiley
Bowdin, G McDonnell, I, Allen, J and O'Toole, W (2001) *Events Management.* Oxford: Butterworth-Heinemann

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class participation (20%)
2. Group presentation and report (40%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading to enable them to get the most benefit from the lectures.

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Prerequisite】
None.

ZA328

Special Topics I: Sustainable Tourism Management

John Melvin

Credit：2 | Semester：Spring | Year：3〜4
Day/Period：Wed 4th

【Course outline and objectives】
The size and rapid growth of the tourism sector make sustainability a key issue. Tourism can bring great benefits to destinations, yet without proper planning, the negative effects on the host environment and society can be significant. The focus of this course will be on learning theoretical approaches to various aspects of tourism management and then applying these to a wide variety of domestic and international tourism case studies. We will consider how tourist behaviour is moving away from 'mass tourism' to more experience-based tourism, and the implications of this for tourism managers. As competition between regions and countries increases, it is imperative that destinations manage their resources in a sustainable and long-term fashion.

【Course goal】
The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the vital link between sustainability and competitive success in tourism. You will gain an overview of the scale and organisation of the industry and consider the various positive and negative impacts of tourism on destinations. We will learn about the development of a destination's tourism resources and how these can be managed successfully and sustainably. Students will be encouraged to critically reflect on real-life examples from various case studies to complement the theories we will cover.
At the completion of this course, you should be able to:
1. Identify the complex interrelationships between the private, public and voluntary sectors within the tourism sector and the implications for sustainable management
2. Describe processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Consider the evolution of marketing and how tourism businesses try and attract more demanding and environmentally-aware consumers
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers

【Course method(s)】
The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation. The group presentations will provide students with in-depth understanding through researching and presenting on a particular case study. Recent case studies can help you consolidate your learning by applying the lecture content to real examples.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course content and class format	Introducing the context: the range of impacts that tourism can have on destinations and the need for a planned & sustainable approach
2	The tourism system	Exploring the organisation and evolution of the tourism sector; the move from a competitive to a cooperative approach between the various stakeholders
3	Tourism marketing	Analysing the evolution of tourism marketing from a 'mass tourism' model to an 'experience-based' approach and the influence of sustainability
4	The tourist sector: accommodation and transport	Considering how accommodation & transport providers can gain competitive advantage through adopting sustainable approaches

5	The tourist sector: destinations and attractions	Exploring the issues relating to the sustainable management and marketing of destinations & visitor attractions
6	Destination resources	Examining the range of tangible and intangible tourism resources within destinations including UNESCO World Heritage Sites
7	Tourist behaviour and impacts	Analysing the changes in tourist behaviour and the economical, social and environmental impacts of tourism
8	Sustainable tourism in Japan	Considering current case studies on different aspects of sustainable tourism practices in a Japanese context
9	Sustainable tourism in North America	Considering current case studies on different aspects of sustainable tourism practices in a North American context
10	Sustainable tourism in Central/South America	Considering current case studies on different aspects of sustainable tourism practices in the Central-South American region
11	Sustainable tourism in Africa	Considering current case studies on different aspects of sustainable tourism practices in an African context
12	Sustainable tourism in the Asia-Pacific region	Considering current case studies on different aspects of sustainable tourism practices in the Asia-Pacific region
13	Sustainable tourism in Europe	Considering current case studies on different aspects of sustainable tourism practices in a European context
14	Future trends and challenges in sustainable tourism development	Analysing the influence that consumers, businesses and governments will play in future tourism development
15	Examination	End of semester examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Reading and research activities will be assigned in class.

【Textbooks】
A range of books are available in the library and in the GIS Reference Room. Materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Benckendorff, P. and Lund-Durlacher, D. (2013) *International Cases in Sustainable Travel and Tourism*. London: Goodfellow Publishers Limited

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class and online participation (20%)
2. Group presentation (weeks 8 - 13) and report (40%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading to enable them to get the most benefit from the lectures.

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Prerequisite】
None.

ZA337

International Relations of the Asia-Pacific

Takeshi Yuzawa

Credit：2 | Semester：Spring | Year：3〜4
Day/Period：Thu 2nd

【Course outline and objectives】
This course will explore the nature of international relations in the Asia-Pacific. It will mainly examine and discuss the following: (1) factors for stability and peace in the Asia-Pacific region after the end of the Cold War; (2) roles for the great powers in the region: the United States, China, and Japan; (3) problems and prospects for regional security and economic cooperation; (4) the evolution of regional institutions; (5) the prospects for regional order.

【Course goal】
The course objectives are: (1) to develop students' ability to effectively use IR theories to analyze and explain developments in regional affairs; (2) to enable students to analyze the foreign policies of the major powers and selected regional countries; (3) to enable students to assess the developments of regional institutions; (4) to enable students to examine and assess the status and prospects for regional order.

【Course method(s)】
This course is composed of twelve lectures. In each class, a background lecture on a pre-selected topic will be provided to students. After a lecture, there will be a discussion. While the lectures will provide an overview of the topics in question, the discussions will give students an opportunity to examine policies in more depth.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introdution	Course outline
2	The significance of the United States	Examining the role of the United States in maintaining regional order in the Asia-Pacific region
3	The rise of China (1)	Examining the rise of China and its implications for regional order
4	The rise of China (2)	Examining the rise of China and its implications for regional order
5	Japan and the Asia-Pacific (1)	Investigating Japan's foreign and security policies in the post-Cold War era with special reference to the Asia-Pacific region
6	Japan and the Asia-Pacific (2)	Investigating Japan's foreign and security policies in the post-Cold War era with special reference to the Asia-Pacific region
7	Mid-term exam	Writing test
8	The development of ASEAN	Investigating the processes behind the development of ASEAN
9	Korea and Australia	Discussing issues relating to the Korean Peninsula and to Australian foreign policy
10	Economic cooperation and integration in the Asia-Pacific	Investigating the problems and prospects for regional economic cooperation
11	Security cooperation and multilateralism in the Asia-Pacific	Investigating the problems and prospects for regional security cooperation

12	Prospects for regional order in the Asia-Pacific I	Examining prospects for regional order
13	Prospects for regional order in the Asia-Pacific II	Examining prospects for regional order
14	Review	Review weeks 1-13
15	Final exam	Writing test

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are required to have pored over assigned readings before attending the lectures.

【Textbooks】
There is no assigned textbook for this course. Students are required to read the journal articles and the book chapters specified in the reading list.

【References】
David Shambaugh and Michael Yahuda (eds), *International Relations of Asia*, second edition (Rowman & Littlefield Publishers, 2014)
Saadia Pekkanen, John Ravenhill, and Rosemary Foot (ed), *The Oxford Handbook of the International Relations of Asia* (Oxford University Press, 2014)
Michael K. Connors, Rémy Davison, Jorn Dosch (eds), *The New Global Politics of the Asia-Pacific* (Routledge, 2011)
Michael Yahuda, *The International Politics of the Asia Pacific*, third and revised edition (Routledge, 2011)
Kent Calder and Min Ye, *The Making of Northeast Asia* (Stanford University Press, 2010)
Mark Beeson and Richard Stubbs (eds), *Routledge Handbook of Asian Regionalism* (Routledge, 2011)
Christopher M. Dent, *East Asian Regionalism,* second edition (Routledge, 2014)
Michael J. Green and Bates Gill (eds), *Asia's New Multilateralism: Cooperation, Competition, and the Search for Community* (Columbia University Press, 2009)

【Grading criteria】
Contribution to discussion (20%), Examinations (80%)

【Changes following student comments】
Handouts to be provided in a timely manner.

【Prerequisite】
GIS students wishing to take part in this course are required to have completed "Introduction to International Relations (Introduction to International Relations I)". Non-GIS students wishing to take part in this course should have a basic knowledge of International Relations theories and adequate English skills to complete the course work and assignments.

ZA340

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Diana Khor

Credit：2 | Semester：Spring | Year：3〜4
Day/Period：Mon 2nd

【Course outline and objectives】
This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how various sources of inequality are connected to one another in a few major global issues, as well as race, class, gender and sexuality in Japan. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting sources of inequality in society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Course goal】
A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring issues related to family, employment, violence, prostitution, and human and sex trafficking, in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, sexuality, and other bases of inequality.

【Course method(s)】
The course is taught through a combination of lectures, video-viewings, small-group and class discussions based on readings and videos.

【Schedule】
No.	Theme	Contents
1	Overview: The significance of race, class, gender, and sexuality (RSGS)	Requirements and topics for RCGII Discussion of news items and students' experiences with respect to RCGS
2	(A) Review of key concepts and theories (B) Popular culture: Local and global issues	(A) Review of the main concepts and empirical data covered in Race, Class and Gender I Introduction of the concept and perspective of intersectionality (B) Analysis of popular culture to illustrate the intersection of race, class, gender and sexuality
3	Family in the global context: changes and stability (1)	Sex-selective abortion and transnational adoption *First Person Plural* (on transnational adoption)
4	Family in the global context: changes and stability (2)	Commercial surrogacy *Made in India* (on commercial surrogacy)
5	Family in the global context: changes and stability (3)	Reading-based small-group and class discussion
6	Work: opportunity, mobility and exploitation (1)	Globalization and the reproduction of inequality *The Global Assembly Line, A Killer Bargain* (on globalization and labor)
7	Work: opportunity, mobility and exploitation (2)	Migrant workers: Domestic and care workers *Maid in America* (migrant domestics in the U.S.)

8	Work: opportunity, mobility and exploitation (3)	Reading-based small-group and class discussion
9	War and violence (1)	War, masculinity and gender violence *God Sleeps in Rwanda* (on mass rape and ethnic cleansing) Mass rape as war crime
10	War and violence (2)	The "comfort women" issue Discussion on the Japan-Korea agreement on the comfort women issue
11	Prostitution and sex tourism (1)	Prostitution as an institution and male sex tourism *Bangkok Girl* (sex tourism in Thailand)
12	Prostitution and sex tourism (2)	Reading-based discussion on female sex tourism
13	Human and sex trafficking (1)	Data on human and sex trafficking in the world today *Born into Brothels* (on children in a red-light district in India)
14	Human and sex trafficking (2)	Reading-based discussion on sex trafficking
	Race, class, gender and sexuality in Japan	Intersections of race, class, gender and sexuality in Japan: an agenda for social inquiry
15	Race, class, gender, and sexuality: revisited	What have we learned about race, class, gender and sexuality?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to review class materials after each class, write down reflections on the videos shown in class, do the prescribed readings, prepare for discussions, and complete review exercises/reflection papers.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts, readings and other materials will be distributed in class and uploaded on H'Etudes.

【References】
Alcoff, Linda Martín and Eduardo Mendieta. Eds. 2003. *Identities: Race, Class, Gender, and Nationality*. Oxford: Blackwell Publishing.
Weber, Lynn. 2010. *Understanding Race, Class, Gender, and Sexuality: A Conceptual Framework*. 2/e. Oxford: Oxford University Press.

【Grading criteria】
Clear instructions and goals are set for each assignment to be completed. The grade is calculated on the basis of reading assignments and preparation for discussion (40%), review assignments (30%), one essay on a topic covered in class (25%), and class participation (5%).

【Changes following student comments】
Students have found the class useful and thought-provoking, and while some found the group research fruitful, others obviously had not benefitted as much. Therefore, the instructor has replaced the group project by a term essay that requires students to come up with solutions to existing problems and also restructured the class so that students could engage in a deeper level of reading and discussion on each topic.

【Prerequisite】
To take this class, students are expected to have passed Race, Class and Gender I. This prerequisite may be waived if students can produce proof of the required academic background. In any event, all students who intend to take this course must attend the first class session. A screening test based on the lecture will be conducted.

GA332

英語アプリケーション（月曜・5限）Instant Fluency

マーティン・ブラッドショー

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through pairwork and group activities, students will converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic (d) a news item pairwork reading and listening and (e) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation. All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities.

【到達目標】
The goal of this class is to increase students' overall communicative ability and fluency in English.

【授業の進め方と方法】
All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pairwork and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic (d) a news item pairwork reading and listening and (e) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Conversation: 'What personality type are you?' Part 2: Fact Sheet: Week #1 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #1
Week 2	Topic: 'Single Life'	Part 1: Conversation: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Fact Sheet: Week #2 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #2
Week 3	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Conversation: 'History is my best subject!' Part 2: Fact Sheet: Week #3 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #3

Week 4	Topic: 'What if …?'	Part 1: Conversation: 'I'm against animal testing!' Part 2: Fact Sheet: Week #4 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #4
Week 5	Topic: 'Children'	Part 1: Conversation: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Fact Sheet:Week #5 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #5
Week 6	Topic: 'Cities'	Part 1: Conversation: 'The 60s counterculture!' Part 2: Fact Sheet: Week #6 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #6
Week 7	Topic: 'University Life'	Part 1: Conversation: 'After all, it's only a game!' Part 2: Fact Sheet: Week #7 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #7
Week 8	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Conversation: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Fact Sheet: Week #8 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #8
Week 9	Topic: 'Travel'	Part 1: Conversation: 'Does capital punishment work?' Part 2: Fact Sheet: Week #9 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #9
Week 10	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Conversation: 'My Cat is Cool!' Part 2: Fact Sheet: Week #10 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #10
Week 11	Topic: 'Home'	Part 1: Conversation: 'Staying Fit' Part 2: Fact Sheet: Week #11 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #11
Week 12	Topic: 'Time'	Part 1: Conversation: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Fact Sheet: Week #12 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #12
Week 13	Topic: 'Annoying Things'	Part 1: Conversation: 'New York! New York!' Part 2: Fact Sheet: Week #13 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Topic: 'Personality'	Part 1: Conversation: 'I need some information.' Part 2: Fact Sheet: Week #14 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #14
Week 15	Topic: 'Books and Magazines'	Part 1: Conversation: 'Can I borrow your phone?' Part 2: Fact Sheet: Week #15 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly.

【テキスト（教科書）】
No required textbook

【参考書】
Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session.

【成績評価の方法と基準】
Final Exam – 30%
Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests – 40%
Class Participation/Speaking English in class – 20%
Word-up Tests – 10%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
No changes from 2015.

GA332

英語アプリケーション（火曜・4 限）Culture, why are there differences?

ウォルター　カズマー

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class offers English to talk about experience abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【到達目標】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	overview of class requirements
Week 2	Youth culture	Examining aspects of youth trends such as tatoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.
Week 3	Youth employment: where does the money go?	Youth shopping trends for services and products
Week 4	Elderly trends	Shopping for health, plastic surgery and Internet dating
Week 5	Careers and employment Research habits	Working life: what is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Conducting group research-different sharing tips
Week 6	Alternative career tracks Outlining of presentations	Unusual fields for employment Cluster and formal outlining
Week 7	Medical advances Presentation tip - explanation of structure	How medical technology is shaping our world of diseases and viruses Introduction/Body/Conclusion
Week 8	Medical research Presentation tip-use of voice and posture	Big pharma: how medicine changes our reality voice and body language dos and don't s for English public speaking
Week 9	Health issues Presentation tip-use of slides	Diet considerations for life stages slide making dos and don'ts
Week 10	Mental Health considerations Presentation tip-Group work	Overworking, group and relationship stresses Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together
Week 11	Technology in our blood Presentation tip-Final slide editing	Technology changes: Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up, Run through checklist of questions to ask on final edit
Week 12	Youth trend Presentations	Presentations and discussions of youth trend themes
Week 13	Elderly Presentations	Presentations and discussions of elderly trend themes
Week 14	Health/medical advances Presentations	Presentations and discussions of health and medical advances
Week 15	Course overview discussions	Discussion of life themes used in the semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
homework, blog work, some presentation preparation

【テキスト（教科書）】
No textbook.

【参考書】
handouts, websites, class blog

【成績評価の方法と基準】
Class participation - 50%
Project and presentation - 25%
Other assignments - 25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
More interactive work on presentation preparation

【学生が準備すべき機器他】
PC/AV

GA332

英語アプリケーション（火曜・4 限）Why culture matters?-truths and fallacies

ウォルター　カズマー

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class offers English to talk about experience abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【到達目標】
Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan.

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	overview of class requirements
Week 2	Describing your life	Language activities centering around student life
Week 3	Describing other lives	Language activities centering around family and acquaintance rountines
Week 4	Explaining customs in your country	holidays, national/regional habits
Week 5	Explaining customs in selected Asian countries Research habits	holidays, national/regional habits Conducting group research-different sharing tips
Week 6	Explaining customs in selected Western European countries Outlining of presentations	holidays, national/regional habits Cluster and formal outlining
Week 7	Discussion of Asian and Western national differences Presentation tip - explanation of structure	national holidays, customs versus habits Introduction/Body/Conclusion
Week 8	Discussion of South American customs in selected countries Discussing cultural differences Presentation tip-use of voice and posture	national holidays, national/regional habits Examining cultural differences; dos and don'ts voice and body language dos and don't s for English public speaking
Week 9	Discussing food habits Presentation tip-use of slides	Diet and how it affects customs slide making dos and don'ts
Week 10	Habits of selected parts of Africa Presentation tip-Group work	national holidays, national/regional habits Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together
Week 11	Examination of sports by continent-selected countries Presentation tip-Final slide editing	sports comparison by types, number of players variations in styles of play, equipment Run through checklist of questions to ask on final edit
Week 12	Asian presentations with discussion of main themes What would you do?	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Culture clash examples
Week 13	Western European Presentations with discussion of main themes	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Look at unusual food
Week 14	South American Presentations with discussion of main themes What are the rules?	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Relook at sports, but ones with unusual rules
Week 15	Course overview Discussion of presentation theme contrasts	discussion of cultural contrasts from country to country and region to region

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
homework, blog work, some presentation preparation

【テキスト（教科書）】
No textbook

【参考書】
handouts, websites, class blog

【成績評価の方法と基準】
Class participation - 50%
Project and presentation - 25%
Other assignments - 25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
More interactive work on presentation preparation

【学生が準備すべき機器他】
PC/AV

GA332

英語アプリケーション（金曜・3 限）The Art and Science of Persuation

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The ability to persuade others and influence what they think and do is one of the most important skills in business and in life. In this course we will study the masters of persuasion - from business and advertising to politics and religion - to learn how they persuade us to do what they want and how we can use those skills ethically to succeed in our own careers and lives.

【到達目標】
The goal of this course is to build the students understanding and awareness of the tools that others use to manipulate their behavior and beliefs. We will also study and practice using the skills of logic, emotion, rapport and authenticity to persuade others in our own careers and lives.

【授業の進め方と方法】
Students will read and view examples of persuasive language use and then discuss the techniques and tools they used to influence the behavior and beliefs of others. Students will be graded on class participation, written and presentation assignments.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction and overview of the Science and Practice of Persuasion	We will discuss both the positive and negative uses of persuasion in culture.
2	The Science of Persuasion - Reason, Emotion and Identity	We will look at and discuss examples of the roles of reason (logic), emotion (feelings) and identity (brand) in media and business.
3	The Science of Persuasion - Reciprocity and Commitment & Consistency	We will look at and discuss examples of Reciprocity and Commitment & Consistency in media and business.
4	The Science of Persuasion - Social Proof and Liking	We will look at and discuss examples of Social Proof and Liking in media and business.
5	The Science of Persuasion - Authority and Scarcity	We will discuss both the positive and negative uses of persuasion in culture.
6	Mid-term Report preparation	Students will prepare a report on an example of either effective or ineffective persuasion.
7	Mid-term Report Due Introduction to the Practice of Persuasion	We will begin to work on how to effectively use persuasive skills in or personal and professional lives.
8	The Practice of Persuasion - Change and the Core of a Persuasive Argument	We will discuss the structure of a persuasive argument.
9	The Practice of Persuasion - The Flow of Apparent Logic	We will work on the skills of building an apparently logical flow of ideas that leads to a persuasive conclusion.
10	The Practice of Persuasion - Confidence, Energy and Enthusiasm	We will practice the skills of delivering and effectively persuasive presentation.
11	The Practice of Persuasion – Rapport, Emotion and "You" Focus	We will discover the persuasive power of connecting with the audience.
12	The Practice of Persuasion – Authenticity, Presence and Prosody	We will practice the skills that create a powerful presence in a speaker.
13	Final presentations - Preparation	Students will prepare for the final presentation – A persuasive proposal for change.
14	Final Presentations Due	Students will deliver their presentations to the class.
15	Final Presentations Due	Students will deliver their presentations to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Their will be readings and video viewing assignments for homework, as well as preparation for in-class presentations.

【テキスト（教科書）】
影響力の武器 [第三版]: なぜ、人は動かされるのか
ロバート・B・チャルディーニ
ISBN-10: 4414304229
ISBN-13: 978-4414304220

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
20% - In class activities
20% - Class participation
30% - Mid-term presentation
30% - Final Essay

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not Applicable

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

GA332

フランス語アプリケーション（金曜・2限）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】
LE NOUVEL ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.
Le cours commence à partir de l'unité 4 pour être tout de suite "dans le vif du sujet" !

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests.
2	Unité 4 dossier 1	C'est de famille
3	Unité 4 dossier 1	C'est de famille (fin)
4	Unité 4 dossier 2	Affaires de coeur
5	Unité 4 dossier 2	Affaires de coeur (fin) Test intermédiaire
6	Unité 5 dossier 1	Bon voyage !
7	Unité 5 dossier 1	Bon voyage ! (fin)
8	Unité 5 dossier 2	Bonne route !
9	Unité 5 dossier 2	Bonne route ! (fin) Test intermédiaire
10	Unité 6 dossier 1	Consommer et jeter
11	Unité 6 dossier 1	Consommer et jeter (fin)
12	Unité 6 dossier 2	À loisirs
13	Unité 6 dossier 2	À loisirs (fin)
14	Récapitulatif	Corrections des derniers devoirs et exposé - suggestions pour le travail personnel
15	Révisions des thèmes et évaluation du cours	Répétitions et évaluations - Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. apprendre le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).
(出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】
LE NOUVEL ÉDITO, Niveau B1, E. Heu & M. Abou-Samra, Didier.
ISBN : 978-2-278-07269-9

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests, textes et exposés : 70%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés.

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL mais, s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

GA332

フランス語アプリケーション（金曜・2限）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】
Ce cours, suite du premier semestre, continue de s'adresser à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) et motivés pour la poursuite de leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】
LE NOUVEL ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	(re-)faire connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests.
2	Unité 7 dossier 1	Engageons-nous !
3	Unité 7 dossier 1	Engageons-nous ! (fin)
4	Unité 7 dossier 2	Rendre justice
5	Unité 7 dossier 2	Rendre justice (fin) Test intermédiaire
6	Unité 8 dossier 1	L'amour de l'art
7	Unité 8 dossier 1	L'amour de l'art (fin)
8	Unité 8 dossier 2	La belle Histoire
9	Unité 8 dossier 2	La belle Histoire (fin) Test intermédiaire
10	Unité 9 dossier 1	Vivre l'Europe
11	Unité 9 dossier 1	Vivre l'Europe (fin)
12	Unité 9 dossier 2	Si loin, si proches
13	Unité 9 dossier 2	Si loin, si proches (fin)
14	Simulation de l'examen DELF-B1	Corrections des derniers devoirs et exposé - présentation de l'épreuve du DELF aux niveaux B1 et B2
15	Révisions des thèmes et évaluation du cours	Répétitions et évaluations - Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. apprendre le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).
(出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】
LE NOUVEL ÉDITO, Niveau B1, E. Heu & M. Abou-Samra, Didier.
ISBN : 978-2-278-07269-9

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests, textes et exposés : 70%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés.

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL ; s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

GA332

フランス語アプリケーション（木曜・2 限）

コンルール　ジョルジュ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】
Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif. Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】
LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
①	- Prise de contact (questions et révisions générales). - Explications sur le programme du cours	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. Le programme du cours pourra s'en trouver modifié.
②	Demander des articles, des produits	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	Parler des quantités	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	Passer une commande	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	Réserver	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	Réserver (suite et fin)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Révision générale	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	Parler d'argent	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	Échanger, se faire rembourser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	Comparer	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	Localiser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	Parler des lieux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	Expliquer un vol ou un accident	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Téléphoner (prendre ou annuler un rendez-vous)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑮	- révisions - test final	Le test final pourra être constitué d'une partie écrite mais aussi orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La participation en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (apprendre le vocabulaire et les expressions, préparer la liste d'exercices, être prêt à jouer un rôle à l'oral, etc.)

【テキスト（教科書）】
La Communication Progressive du Français, Niveau Intermédiaire,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-2-09-033726-6)

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】
Préparation: 25%
Participation en classe: 25%
Tests et devoirs: 50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】
CD

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c6363531333636353638383434393 5.pdf

GA332

フランス語アプリケーション（月曜・3 限）

イヴ　ロワゾー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (fin de B1 et B2). Il offrira des activités des activités de production écrite (essai, article, lettre) et de production orale qui conduiront à la mise en œuvre de tâches effectuées en groupes. Il vise essentiellement la pratique de la langue. Des connaissances complémentaires seront apportées en fonction des productions des étudiants.

【到達目標】
Ce cours vise une autonomisation des étudiants dans leurs pratiques communicatives de la langue écrite et de la langue orale. Il a pour objectif de développer d'une part des stratégies de communication par la pratique de la langue et d'autre part des stratégies d'apprentissage.

【授業の進め方と方法】
Le cours sera consacré à des productions de communication écrite et orale. Les étudiants seront invités à travailler par paires ou par groupes, à collaborer pour atteindre leurs objectifs de communication. Une part importante du cours sera réservée à la réalisation de courts projets. Une attention particulière sera accordée à l'autonomisation des étudiants.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Unité 8, p. 126	Présentations. Discrimination : écrire un essai argumentatif
2	Unité 8, p.127	Discrimination : parler de ses convictions
3	Unité 8, p.130-131	Discriminations :projet - élaboration
4	Unité 8, p.130-131	Discriminations : projet - diffusion
5	Unité 9, p.142	Écologie : écrire un article
6	Unité 9, p.143	Écologie : parler de ses idées
7	Unité 9, p.146-147	Écologie : projet - élaboration
8	Unité 9, p.146-147	Écologie : projet - diffusion
9	Unité 5, p.78	Culture : écrire une lettre de proposition
10	Unité 5, p.79	Culture : parler d'une œuvre d'art
11	Unité 5, p. 82-83	Culture : projet élaboration
12	Unité 5, p. 82-83	Culture : projet diffusion
13	Unité 6, p. 94	Travail : écrire une lettre de motivation
14	Unité 6, p. 95	Travail : parler de son parcours
15	Bilan	Évaluations du cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Tout l'apprentissage et toute la pratique ont lieu en classe. Des activités linguistiques complémentaires seront proposées pour une étude en autonomie hors de la classe.

【テキスト（教科書）】
Yves Loiseau, et al., 2010, Latitudes 3, Paris : Didier
ISBN 978-2-278-6406-9

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】
Toutes les productions font l'objet d'une évaluation.
Productions écrites : 25%
Productions orales : 25%
Projets : 50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Salle CL

GA332

カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャの文化 I はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で自己紹介や周りの人を紹介できるようになります。

【到達目標】
簡単なカタルーニャ語会話ができるようになりましょう。
そして、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがって行ったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。
内容が関連する秋学期の「カタルーニャの文化 II] の受講もお勧めです。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語を使ってカタルーニャ語について説明します。
スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。
逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	自己紹介ー名前を伝える ［カタルーニャ語とは？］	自己紹介 Em dic... Com et dius...? Sóc la... カタルーニャ語とは？
2	アルファベットと発音	アルファベットと発音 Com s'escriu? Lletrejar
3	数字0－１００ 年齢、電話番号を伝える	数字 0－１００ Quants anys tens? Tens telèfon? TENIR 動詞
4	自己紹介ー出身を伝える	国の名前／国籍の形容詞 D'on ets? Sóc japonès. Sóc del Japó. Masc.-Fem. / Sing.-Pl.
5	世界の言葉 ［カタルーニャ語の歴史］	言語 Quines / Quantes llengües parles? PARLAR 動詞 カタルーニャ語の歴史［Historia de la lengua］
6	自己紹介ー趣味の話をする	趣味に関する語彙 Què t'agrada fer en el temps lliure? AGRADAR 動詞
7	自己紹介ー職業	職業 Professions De què fas? Sóc estudiant. FER 動詞
8	具体的に職業の話をする ［現在のカタルーニャ語］	On treballes? Què estudies? 疑問詞のまとめ TREBALLAR/ESTUDIAR 動詞
9	自己紹介ーお住まいの話をする	住所ー On vius? Fa 10 anys que visc a Tòquio. VIURE 動詞
10	場所の描写をする	場所の描写をする On és? Com és? Què hi ha?
11	［中間テスト］ 人を紹介する	TEST EQUADOR 人を紹介する Coneixes la Maria? És la meva professora. CONÈIXER 動詞
12	人の描写をする	人の描写 Com és? És rossa i prima.
13	家族のことを尋ねる、伝える	家族関係 (TENIR 動詞) EN 代名詞 Tens germans? No, no en tinc.
14	家族のメンバーの話をする	所有形容詞 La meva germana té vint anys
15	試験	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
「ニューエクスプレス カタルーニャ語」（白水社）
「Veus 1」Publicacions de l'Abadia de Montserrat
Parla.cat

【成績評価の方法と基準】
授業参加 ７０％
宿題提出 １０％
小テストと期末試験 ２０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容変化あり。

【助成機関】
Aquest curs esta patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

GA332

カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャの文化 II はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で日常生活や自分の過去の話ができるようになります。カタルーニャ語の文法だけをやる、ということではありません。

【到達目標】
簡単な日常生活などのカタルーニャ語会話ができるようになりましょう。
また、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがって行ったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。
秋学期だけの受講も可能ですが、関連する春学期の「カタルーニャの文化Ⅰ」と一緒に受講することを勧めます。

【授業の進め方と方法】
授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	日常活動の話をする	日常活動 Què fas normalment? Què fas al matí? 朝、昼、晩 カタルーニャ語とは？
2	時刻を尋ねる、伝える	Quina hora és? Són dos quarts de deu. A quina hora comencen les classes?
3	頻度を伝える	頻度を表す表現 Quantes vegades a la setmana fas classe de català? Vas al cinema sovint?
4	余暇活動、週末の話をする	Què t'agrada fer els caps de setmana? No m'agrada veure la televisió, m'estimo més anar al cinema. 動詞 AGRADAR, PREFERIR, ESTIMAR-SE MES
5	余暇活動に対して感想を伝える	SEMBLAR / TROBAR 動詞 形容詞 El beisbol em sembla molt avorrit. カタルーニャ語とスペイン語の使い分け
6	先週末の話をする	過去形 Què vas fer el cap de setmana passat? Vaig anar a esquiar.
7	先週末の話をするーその感想	AGRADAR / SEMBLAR / TROBAR 動詞の過去形 La pel.lícula no em va agradar gens. La vaig trobar previsible.
8	写真を説明する	進行形 Mira, en aquesta foto estic plorant.
9	自分の過去の話をする	生年月日　数字１００〜 過去形 Vaig néixer l'any 1982.
10	買い物ーお店の営業時間	A quina hora obren al supermercat? 曜日、時間
11	食料品の買い物リストを作る	量を表す表現 食料品 1 quilo de ceba
12	食料品を買う	VOLER 動詞 商品の性質について話す Com vol els tomàquets? Ben madurs, sisplau.
13	レストランで	PODER 動詞 命令形 Em pot portar més pa?
14	人を招待する	義務を表す表現　HAVER DE その他の表現： Passa, passa. Seu, seu.
15	期末試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
「ニューエクスプレス　カタルーニャ語」（白水社）
「Veus 1」Publicacions de l'Abadia de Montserrat
Parla.cat

【成績評価の方法と基準】
授業参加　７０％
宿題提出　１０％
小テストと期末試験　２０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容変化あります。

【助成機関】
Aquest curs està patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

LA332

フランス語コミュニケーションⅢ

ジョルディ・フィリップ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**水・4**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミステリー名作映画を通してフランス語での日常会話・表現力の特徴を学びます。

【到達目標】
状況描写や感情表現などのニュアンスをつかむことも目的としています。この授業は中上級者向きです。

【授業の進め方と方法】
映画の中に出てくる会話を基礎とした口頭演習や文法演習も行います。学生の積極的な参加を望み、わからないところ（仏文法においてこれまで抱えていた問題など）は、随時消化していく場とします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業紹介	映画の一部観賞
②	Prologue	(pp. 1-16)
③	Scène 1	(pp. 17-28)
④	Scène 2	(pp. 29-36)
⑤	Scènes 3, 4	(pp. 37-52)
⑥	Scènes 3, 4	(pp. 37-52)
⑦	Scène 5	(pp. 53-68)
⑧	Scène 5	(pp. 53-68)
⑨	Scène 6	(pp. 69-76)
⑩	Scènes 7, 8	(pp. 77-88)
⑪	Scènes 7, 8	(pp. 77-88)
⑫	Scènes 9-10	(pp. 89-100)
⑬	Scènes 9-10	(pp. 89-100)
⑭	Epilogue	(pp. 101-105)
⑮	まとめ	リポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語・表現をしっかり練習すること (ミニテスト有)。
次週場面の予習として与えられた練習 (要約など) をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
「太陽がいっぱい」、大木充/Marie-Christine Barthonnet、駿河台出版社

【参考書】
簡単な仏仏辞典の持参が望ましい

【成績評価の方法と基準】
平常点： 40%
最終リポート： 60%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
会話練習の強化

【学生が準備すべき機器他】
ＬＬ教室

LA332

フランス語コミュニケーションⅣ

ジョルディ・フィリップ

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・4**
※定員制　履修可能年次： 3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Au cours de ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petit groupe, présenteront un film francophone, dont ils analyseront quelques scènes en détail. Chaque film choisi appartiendra, autant que possible, à un genre cinématographique particulier.
D'autres types d'oeuvres pourront aussi être étudiés (ex. chansons, textes, etc.)

【到達目標】
Ce cours continue, au second semestre, de s'adresser à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller.
Il prépare aussi aux examens de type DELF (niveau A2, B1...) ou "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)
Par ailleurs, les étudiants donneront eux-mêmes leurs objectifs au premier cours d'orientation. Le programme de ce cours pourra alors être modifié selon leurs besoins.

【授業の進め方と方法】
Après la présentation et la critique globale d'un film francophone par quelques étudiants, au moins 3 scènes importantes de ce film seront choisies pour le travail de toute la classe. L'étude de ces scènes sélectionnées permettra d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites. Puis des exercices seront effectués en relation avec les scènes étudiées : technique du résumé écrit ou oral, substitution de dialogues, jeux de rôles, analyse stylistique ou cinématographique, révision des points de grammaire, expression des nuances, etc.

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le second semestre - attribution des premiers exposés (présentation d'un film)
②	FILM 1 (1)	Présentation critique du film, travail sur une première scène
③	FILM 1 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
④	FILM 1 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑤	FILM 2 (1)	Présentation critique du film, travail sur une première scène
⑥	FILM 2 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑦	FILM 2 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑧	FILM 3 (1)	Présentation critique du film, travail sur une première scène
⑨	FILM 3 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑩	FILM 3 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑪	FILM 4 (1)	Présentation critique du film, travail sur une première scène
⑫	FILM 4 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑬	FILM 4 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑭	Récapitulatif du cours (1)	- discussion sur les caractéristiques des films présentés : la notion de genre cinématographique - quelques compléments - note de synthèse rédigée en classe
⑮	Récapitulatif du cours (2)	- rendu de tous les tests et devoirs - dernière discussion générale : une esquisse globale du cinéma francophone

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.
(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】
Pas de manuel mais des polycopiés, souvent distribués.
(プリント配布)

【参考書】
Un dictionnaire français - français (ex.　Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
50% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, etc.) (積極性)
50% = exposé(s) personnel(s) de présentation (発表)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Avant et après chaque séance, il faudra apprendre, retenir et réemployer entre 10 et 20 expressions ou mots nouveaux.
(mini-tests fréquents)

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL mais les étudiants, s'ils le désirent, peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

GA333

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャというと何を思い浮かべますか？ ガウディ？ バルサ？ それももちろんカタルーニャ文化の一部ですが、それだけではありません。皆さんがスペイン文化だと思っているものの中にも実はカタルーニャ文化だ、というものが少なくありません。ダリもミロもカタルーニャ人。ピカソも重要な時期をバルセロナで過ごしました。音楽では、ホセ (ジュゼップ)・カレラスやムンセラ・カバリェ。スポーツで言えば、北京オリンピックの代表選手の 80 %がカタルーニャ人。テニスのナダルだってカタルーニャ語圏の出身です。このほか海と山に囲まれたカタルーニャには豊かな歴史と文化があります。食文化、ワインの文化、民族舞踊、民謡... カタルーニャ文化の魅力を語り始めたらきりがないほどです。この授業では、カタルーニャの地理や歴史と関連させて文化について勉強して行きたいと思います。バルサやガウディを見る目が変わりますよ。きっと。

【到達目標】
カタルーニャ文化 III では、知っとかないといけない、基本的なカタルーニャの文化をやります。カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャについて学びます。カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使って行きます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、スペイン語による簡単な発表をしてもらいたいと思います。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1.	はじめに	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャの文化について概論。
2.	カタルーニャの地理と歴史	古代の歴史
3.	カタルーニャの地理と歴史	中世の歴史
4.	カタルーニャの地理と歴史	現代の歴史
5.	食文化	カタルーニャの郷土料理
6.	食文化	カタルーニャのワインやカバ
7.	民族芸能	民族舞踊サルダナ
8.	民族芸能	民族芸能「人間の城」
9.	民族芸能、カタルーニャの芸術家	民族音楽、民話; カタルーニャの音楽家
10.	カタルーニャ歳時記	クリスマスやカーニバルなどの年中行事
11.	カタルーニャの芸術家	ダリ、ミロなどの画家
12.	カタルーニャの芸術家	ガウディとムダルニズマ建築
13.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャの文学
14.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャ映画
15.	カタルーニャのスポーツ文化	バルサの歴史など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。
発表のために参考できる本、Web など。

【テキスト（教科書）】
とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】
「物語　カタルーニャの歴史」（中公新書）
「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他

【成績評価の方法と基準】
発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。
授業参加　７０％
発表　２０％
宿題の提出　１０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容変更あります。

【助成機関】
Aquest curs esta patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

GA333

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カタルーニャという地名は日本ではあまり知られていなかったにもかかわらず、独立問題で最近日本のニュースでも報じられています。ニュース報じられている現代カタルーニャの背景にある豊かな歴史と文化を発見しましょう。

【到達目標】
カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャ、そしてその背景にある歴史や文化について学びます。カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使って行きます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、簡単な発表をしてもらいたいと思います。もちろんスペイン語で。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1.	はじめに。	授業の進め方等の説明をします。 カタルーニャのメディア。
2.	カタルーニャのニュース Noticias sobre Catalunya	カタルーニャの新聞 ニュースの読み方 Dónde encontrar noticias sobre Catalunya. Cómo leerlas.
3.	ニュースでのカタルーニャの社会 Catalunya en las noticias	現代のカタルーニャ 独立、アイデンティティなどについて Catalunya en las noticias: Independentismo e identidad.
4.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Arte en las noticias	芸術 - Pintura 発表
5.	ニュースでわかるカタルーニャの経済 Economía catalana en las noticias	経済 - Economía (Índices del paro, PIB, balanzas fiscales) 発表
6.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 La sociedad catalana (mobilidad)	社会ー Sociedad (División territorial, transporte) 発表
7.	ニュースでわかるカタルーニャのスポーツ Deporte en Catalunya	Más allá del FC Barcelona. カタルーニャのスポーツ選手 発表
8.	ニュースでわかるカタルーニャの政治 Política en Catalunya	Partidos políticos, elecciones, independentismo. 発表
9.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 Sociedad: Escuela y lengua	カタルーニャの教育制度、カタルーニャ語　La escuela catalana. 発表

10.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Arquitectura en las noticias	カタルーニャの建築家 Arquitectura catalana 発表
11.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 Tradiciones en la actualidad	カタルーニャの伝統的な祝祭 発表
12.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 El cine catalán hoy en día	Actualidad del cine catalán. 現在のカタルーニャのシネマ 発表
13.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Música	Festivales, conciertos, artistas. 発表
14.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Gastronomía	La actualidad en el mundo de la alta cocina. La cultura del vino. 発表
15.	まとめ	カタルーニャの文化について 概論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。

【テキスト（教科書）】
とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】
「物語　カタルーニャの歴史」（中公新書）
「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他

【成績評価の方法と基準】
発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。
授業参加　７０％
発表　２０％
宿題の提出　１０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】
できるだけカタルーニャに関する DVD やビデオを積極的に活用します。

【その他の重要事項】
進行状況により、内容変更あります。

【助成機関】
Aquest curs està patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

ZA330

Topics in Contemporary Art

Akiko Mizoguchi

Credit：2 ｜ Semester：Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：Wed 4th

【Course outline and objectives】
This course examines the various ways that contemporary art can both reflect and challenge current aesthetic ideas, cultural norms, and discussions about the politics of identity (race/class/gender/sexuality/health), as well as the relationships between contemporary art and other cultural forms.

【Course goal】
Students will learn to become active participants/viewers of contemporary art, equipped with basic analytical frameworks.

【Course method(s)】
Since the early 20th century we have witnessed a number of artistic movements: the birth of conceptual art, abstract expressionism, the rise of pop art and minimalism, the movement toward performance, video, installation, and public art. Amidst all these transformations, how does contemporary art continue to make meaning, communicate and remain significant to us?
This course looks at various topics in contemporary art and closely examines how art functions in our society. Artistic practices in Japan, North America, and Europe are examined. Classes combine lectures, video clips, discussions, and student presentations. In addition, students are required to attend at least one off-campus museum or gallery exhibition relevant to the class (determined by the instructor). Students will then make presentations and write their research papers. Students need to be aware that some works shown in class may address controversial issues such as homophobia, racial prejudice, and may include nudity.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course (A selection process may occur)
2	Is This Art?	From modern to contemporary
3	Is This Art?	Conceptualism: Marcel Duchamp, Joseph Kosuth, Yoko Ono
4	Art Movements	Abstract expressionism and action painting: Jackson Pollock, Clement Greenberg
5	Art Movements	Pop art and minimalism: Andy Warhol, Roy Lichtenstein, Donald Judd
6	Art Movements	Body, obsession, butoh: Yayoi Kusama,
7	Art Movements	Feminist art
8	Art Movements	Video art: Bill Viola, Fischli & Weiss
9	Art Movements	Relational art, participatory art
10	Art Movements	Postmodernism
11	Art Movements	Art, activism, identity: dumb type and Gonzales=Torres
12	Research Workshop	Student presentations 1
13	Research Workshop	Student presentations 2
14	Research Workshop	Student presentations 3 *The list of the artists encountered in class will be handed out
15	Summary	Summary and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students need to keep up with the readings handed out in class and must be prepared for class discussions. As part of their research, students are required to make at least one visit to an art exhibition suggested by the instructor in order to prepare their presentations and research papers.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts will be distributed in class.

【References】
References lists will be provided in class.

【Grading criteria】
Final grades are determined by contribution to class discussions (30%), a brief presentation (10%) and a project paper based on a field trip to an art exhibition and research (30%), and the final exam (image identification and essay questions) (30%).

【Changes following student comments】
Some artists' names and artistic movements have been added to the schedule.

【Other】
A detailed schedule and reading list will be provided at the first class. Do not miss the first class as a selection process may occur.

【Prerequisite】
None.

LA268

Human Impact on the Global Environment

宇野　真介

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Human society is faced with not only various environmental problems but also equally important social problems. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of the environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】
Although this is an English course, "teaching English" is NOT its primary objective. This course is designed to teach about ecological and social issues using the English language. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasps the big picture of the current state of human society. Then, as a fourth objective, students should be able to express their thoughts about the course material in English both in writing and speech.

【授業の進め方と方法】
Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is structured roughly in two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.
The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, video, group activity, and discussion will also be utilized in combination when appropriate.

【授業計画】

回	テーマ	内容
No. 1	Introduction	Overview of the course and introduction to the concept of sustainability
No. 2	Understanding Ecosystem	Basic features of ecosystems, matter and energy in ecosystems
No. 3	Ecological Concept of Stability	Causes and consequences of ecological disturbance
No. 4	Species Interactions and Biological Community	Different types of relationships among organisms and the complexity of biological community
No. 5	In-Class Exercise 1	Group activity: applying ecological understanding to forest management
No. 6	Understanding Biodiversity	Basic features, current state, and conservation of biodiversity
No. 7	Biodiversity and Human Society	Significance of biodiversity in human society
No. 8	Ecological Issues of Food Production	Positive and negative impacts of modern agriculture
No. 9	Social Background of Food Crisis	Social background of ecological issues related to food production
No. 10	Food Production and Environmental Conservation	Achieving food security without degrading environment
No. 11	Viewing the World from the South	Globalization and the current state of the developing world
No. 12	Ecological Issues of "Development"	Environmental problems caused by "development" in the development world
No. 13	In-Class Exercise 2	World-trade simulation: exploring social aspect of global economy and development
No. 14	Toward Sustainable Development	Alternative development models in the global society
No. 15	Synthesis	Overall review and the Big Picture of sustainability

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review contents of individual lectures, to thoroughly read distributed reading materials, and to utilize the online learning support system as needed.

【テキスト（教科書）】
None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】
To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】
Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (30 %), and writing assignments (30 %). A+ = 90 % and above; A = 80 to 89 %; B = 70 to 79 %; C = 60 to 69 %; D(fail) = 59 % and below.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Although some students found it difficult to handle the course taught entirely in English (especially when unfamiliar technical terms are involved), their responses to the course were generally positive. Changes considered in consideration of students' comments are: to provide assistance in Japanese when handling technical terms and to provide Japanese supplementary reading materials.

AD237

Global Governance

弓削　昭子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Global governance is the theme of this course. The students will first learn about the basic elements of global governance, including its meaning and key actors/institutions, and will then learn about issues related to global governance, including how it has evolved in this changing and globalized world.

【到達目標】
Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance issues that have been evolving with the changing situation of the world. This includes various pieces of global governance, the main actors and their roles and interaction in global governance, and how global governance influences political, economic, social, and other affairs.

【授業の進め方と方法】
This course will examine the changes that are taking place in the role of nations, international organizations, and non-state actors including the private sector and civil society, as well as the evolving relationship among them in this increasingly globalized and interdependent world. Bearing in mind the threats and opportunities that the world is facing, the course will examine global governance in the following areas: international peace and security, economic and social development, human rights, environmental issues, and others. The course will also discuss the gaps and dilemmas of global governance.
The course will be conducted in English. The students are expected to read the assigned materials, listen to the lectures, and participate in class discussions.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to global governance	What is global governance?
2	Actors of global governance	Actors and institutions in global governance
3	Challenges in global governance	Increasing need and process for global governance
4	Evolving pieces of global governance	Politics and effectiveness of global governance
5	Globalization and global governance	How globalization has affected global governance
6	Foundations of global governance	Foundations of pieces of global governance
7	United Nations (UN)(1)	UN as centerpiece of global governance
8	United Nations (UN)(2)	Role of various UN organs in global governane
9	United Nations (UN) (3)	Global and summit conferences
10	Non-state actors (1)	Role of non-state actors in global governance
11	Non-state actors (2)	Non-state actors' networks and social movements
12	Role of states (1)	Role of states in global governance
13	Role of states (2)	Evolution of global governance and its effects on role of states
14	Dilemmas of global governance	Innovations in global governance in the twenty-first century

15	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are encouraged to attend seminars and symposiums related to the topic of global governance (within the University or outside).

【テキスト（教科書）】
Margaret P. Karns and Karen A. Mingst, International Organizations, the Politics and Processes of Global Governance, Second Edition, Lynne Rienner Publishers, 2010.

【参考書】
· Timothy J. Sinclair, Global Governance. UK and USA: Polity Press, 2012
· Thomas G. Weiss and Ramesh Thakur, Global Governance and the UN, An Unfinished Journey (United Nations Intellectual History Project Series), Indiana University Press, 2010.
· John Baylis, Steve Smith, and Patricia Owens, The Globalization of World Politics; An Introduction to International Relations (Fifth Edition). Oxford, UK: Oxford University Press, 2011
· United Nations Development Programme (UNDP), Human Development Report 2013: The Rise of the South, Human Progress in a Diverse World. New York: UNDP, 2013
·鈴木佑司・後藤一美（編著）『グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス』(法政大学現代法研究所叢書 30)、法政大学出版局、2009 年所収
·笹岡雄一『グローバル・ガバナンスにおける開発と政治ー国際開発を超えるガバナンス』明石書店、2012 年
·山田高敬、大矢根聡（編）『グローバル社会の国際関係論 [新刊]』有斐閣、2011 年
·国連開発計画（UNDP）「人間開発報告書 2013 ：南の台頭 — 多様な世界における人間開発」、2013

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%)、期末試験 (70%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

CA328-51

特別講義（グローバル観光論Ⅰ）

メアリー　クエク

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course provides an overview of tourism industry in general, the peripheral sectors in particular. Hospitality sectors such as accommodation, food and beverages, entertainments and shopping play important roles in generating economic growth in a city/country/region.

【到達目標】
A range of accommodation, restaurants and leisure activities is explored to illustrate the importance of tourism as an economic activity. Examples extracted from different countries, including Japan, are used to compare and contrast in order to illuminate the development of global tourism industry. This course also aims to develop students' research, analytical thinking, presentation and interactive skills.

【授業の進め方と方法】
A variety of medium is used for discussion each week: powerpoint, video, online news, relevant websites (companies, international organisations, etc). Informal oral presentation, critical thinking and writing skills are integrated into class discussion. Such activities are useful for building students' professional skills in a progressive manner.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Tourism Industry Framework
2	Accommodation 1	Identify evolution of accommodation worldwide
3	Accommodation 2	Comparative studies of Japan and other countries
4	Restaurants 1	Identify a range of restaurants and cuisines and their challenges
5	Restaurants 2	Comparative studies of Japan and other countries
6	Leisure tourism - Cuisine	Comparative studies of Japan and other countries
7	Leisure tourism - Wellness	Comparative studies of Japan and other countries
8	Leisure tourism - Shopping	Comparative studies of Japan and other countries
9	Leisure tourism - Museum	Comparative studies of Japan and other countries
10	Leisure tourism - Entertainments	Comparative studies of Japan and other countries
11	Leisure tourism – Casino	Global developments
12	Assignment discussion 1	Formative feedback: General discussion of the uniqueness of Japanese hospitality
13	Assignment discussion 2	Formative feedback: Informal oral presentation; feedback on oral presentation styles and presentation slides (contents and styles)
14	Oral presentation	Graded presentation
15	Overview of module and reflection	Recap and summative feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Materials include News papers, trade journals, online resources and so on.

【テキスト（教科書）】
References to be distributed before each class.

【参考書】
References to be distributed before each class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%; individual presentation skill 30%;
presentation contents 30%; team work 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
n.a.

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentations.

CA328-51

特別講義（グローバル観光論Ⅱ）

メアリー　クエク

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course gives students an overview of globalisation and its impacts on cross cultural management. The tourism industry is used to highlight the cultural differences and inform management practices.

【到達目標】
The tourism industry is explored to identify the diversities of tourism products and tourists. In turn, to highlight the cultural differences and inform management practices. It also aims to develop students' professional skills in the areas of research, analytical thinking, critical writing and presentation.

【授業の進め方と方法】
A variety of medium is used for discussion each week: powerpoint, video, online news, relevant websites (companies, international organisations, etc). Informal oral presentation, critical thinking and writing skills are integrated into class discussion. Such activities are useful for building students' professional skills in a progressive manner.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview of global market
2	Global tourism industry	Current issues and trends in tourism industry
3	Tourism by regions 1	Europe and the Middle East
4	Tourism by regions 2	North and South America
5	Tourism by regions 3	Africa and the Caribbean
6	Tourism by regions 4	Asia
7	Tourism products	Examine a range of global tourism products
8	Global tourism	Consumers behaviour
9	Global tourism industry	Comparative studies of Japan and other countries
10	Cross cultural management – Managers and employees	Case evaluations to understand cross cultural interactions between managers and employees
11	Cross cultural management - Employees and customers	Case evaluations to understand cross cultural interactions between employees and customers
12	Assignment support 1	Formative feedback: Discuss the definition of globalisation and its impact on tourism industry.
13	Overview of cross cultural management	Implications for global markets development
14	Assignment support 2	Formative feedback: Base on students' draft report
15	Overview of module, recap, and reflection.	Summative feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Materials include News papers, trade journals, online resources and so on.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
References to be distributed before each class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%; Final report 60%; Reflective essay 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
n.a.

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentations.

CA328-51

特別講義（グローバル観光論Ⅲ）

メアリー　クエク

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course gives an overview of Olympics events and the debate around its economic contributions to host countries.

【到達目標】
The historical development of Olympic Games and emergence of different types of Olympic Games are introduced. The evaluations of hosting Olympic Games will facilitate further understanding of their social value in addition to (expected) economic contributions to a host country. This course also aims to develop transferable skills in the areas of research, analytical thinking, presentation and team work.

【授業の進め方と方法】
A variety of medium is used for discussion each week: powerpoint, video, online news, relevant websites (companies, international organisations, etc). Informal oral presentation, critical thinking and writing skills are integrated into class discussion. Such activities are useful for building students' professional skills in a progressive manner.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview of Sporting events
2	Olympics Games	Olympics History
3	Summer Olympics	Evaluate specific development over time
4	Paralympics Overview	Evaluate specific development over time
5	Winter Olympics	Evaluate specific development over time
6	Youth Olympics	Evaluate specific development over time
7	7 Olympics in Japan, 1964	Tokyo 1964
8	Olympics in Japan, 2020	Tokyo 2020
9	Olympics development	Comparative views on changes over time
10	Assignment discussion 1	Formative feedback: Explain issues arising from organising Olympics Games. Use past examples to illustrate.
11	Assignment discussion 2	Formative feedback: Identify potential challenges and solutions for organising Olympics Games in Tokyo.
12	Olympics and tourism	Relationship between Olympics Games and Tourism development
13	Oral presentation	Graded presentation
14	Olympics and legacy	Further development and discussions of challenges identified in the presentations
15	Overview of module and reflection	Recap and summative feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Materials include News papers, trade journals, online resources and so on.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
References to be distributed before each class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%; individual presentation skill 20%; presentation contents 20%; team work 20%; Reflective essay 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
n.a.

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentations.

CA328-51

特別講義（グローバル観光論Ⅳ）

メアリー　クエク

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course provides an overview of tourism industry and its economic contribution to a city/country/region.

【到達目標】
The different types of tourist attraction are introduced to illustrate the importance of tourism as an economic activity. Examples will be extracted from different countries, including Japan, to illuminate the dynamic development of global tourism industry. This course also aims to develop students' research, analytical thinking, presentation and interactive skills.

【授業の進め方と方法】
A range of medium is used for discussion each week: powerpoint, video, online news, relevant websites (companies, international organisations, etc). Informal oral presentation, critical thinking and writing skills are integrated into class discussion. Such activities are useful for building students' professional skills in a progressive manner.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Tourism Industry Framework
2	International tourism development	Planning and organisations
3	Places of interest	Natural places of interest
4	Places of interest - Natural places of interest	Comparative studies of Japan and other countries
5	Places of interest	Heritage tour
6	Places of interest – Heritage tour	Comparative studies of Japan and other countries
7	Places of interest	Urban visitor attractions
8	Places of interest - Urban visitor attractions	Compare Japan and other countries
9	Places of interest	Media generated attractions
10	Places of interest - Media generated attractions	Compare Japan and other countries
11	Tour operators and travel agents	Global developments
12	Transportations and tourism	Global developments
13	Assignment discussion 1	Formative feedback: general discussion of the strengths and weaknesses of Japanese tourism industry
14	Assignment discussion 2	Formative feedback: Informal oral presentation; feedback on oral presentation styles and presentation slides (contents and styles)
15	Oral presentation, overview of module and reflection.	Graded presentation and Summative feedback,

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Materials include News papers, trade journals, online resources and so on.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
References to be distributed before each class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%; Individual presentation skill 30%;
Presentation contents 30%; Team work 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
n.a.

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentations.

CA328-51

特別講義（グローバル観光論Ⅴ）

メアリー　クエク

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to provide an overview of tourism products, their structural change and impacts on the industry.

【到達目標】
A range of core tourism products are introduced to illustrate the structural change and effects on tourism industry. This course also aims to develop students' professional skills in the areas of research, analytical thinking and presentation.

【授業の進め方と方法】
A variety of medium is used for discussion each week: powerpoint, video, online news, relevant websites (companies, international organisations, etc). Informal oral presentation, critical thinking and writing skills are integrated into class discussion. Such activities are useful for building students' professional skills in a progressive manner.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Global tourism development
2	Global tourism industry	Tourism products development
3	Hotel	Global hotel development
4	Airline	Competitions and survival
5	Tour operators	Consolidations of major operators
6	Entertainment	International expansion strategies
7	Themes Parks	International expansion strategies
8	Destinations	Marketing campaigns
9	Overview of marketing	Marketing and technology
10	International Marketing 1	Destination marketing
11	International Marketing 2	Tourism products
12	Assignment support 1	Formative feedback: General discussion of Japanese tourism products and marketing strategies
13	Assignment support 2	Formative feedback: Informal oral presentation; feedback on oral presentation styles and presentation slides (contents and styles)
14	Oral presentation	Graded presentation
15	Overview of module and reflection	Recap and summative feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Materials include News papers, trade journals, online resources and so on.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
References to be distributed before each class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%; Final report 60%; reflective essay 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
n.a.

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentations.

CA328-51

特別講義（グローバル観光論Ⅵ）

メアリー　クエク

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to give an overview of Events planning and management. Events such as Sporting, Leisure, Meeting, Incentives, Convention and Exhibition (MICE) will be used to highlight their importance in a city/country/region's economic development.

【到達目標】
The different types of events are introduced to emphasise the challenges of organising and managing events. Ultimately, to understand their economic contributions through destination management concepts. This course also aims to develop transferable skills in the areas of research, analytical thinking, critical writing and presentation.

【授業の進め方と方法】
A variety of medium is used for discussion each week: powerpoint, video, online news, relevant websites (companies, international organisations, etc). Informal oral presentation, critical thinking and writing skills are integrated into class discussion. Such activities are useful for building students' professional skills in a progressive manner.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview of Events
2	Events – MICE market 1	MICE market and business economics
3	Events – MICE market 2	Comparative studies of Japan and other countries
4	Comic Convention	Comparative studies of Japan and other countries
5	Concerts	Comparative studies of Japan and other countries
6	World Expositions	Past, present and future development
7	Festivals	Comparative studies of Japan and other countries
8	Sporting events 1	Past and present development
9	Sporting events 2	Present and future development
10	Events Industry 1	Comparative views of challenges
11	Events Industry 2	Destination management organisations
12	Assignment discussion 1	Formative feedback: Discuss examples of major events held in Japan in the past five years
13	Major global events	Implications for future development
14	Assignment discussion 2	Formative feedback: Based on students' draft report
15	Overview of module and reflection	Recap and summative feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Materials include News papers, trade journals, online resources and so on.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
References to be distributed before each class.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%; Individual presentation skill 40%; Presentation contents 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
n.a.

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentations.

CA338-01

特別講義（英語でマクロ経済学 A）

マドゥスダン・ゴーシュ

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The sylalbus discusses in a coherent way major development in macroeconomics, beginning with the Classical macroeconomics through the recent ones. It presents and compares the major modern macroeconomic theories and their associated policy effectiveness. Althogh Keynesian economics has been a dominant way of thinking about macroeconomic questions for a long time, major challenges came since the late 1960s, and there was increased interest in monetarism led by Milton Friedman in the 1970s. A new school of macroeconomics known as New Classical Economics, based on rational expectation hypothesis, came in the scene in the 1970s. Two new macroeconomic thought viz, Real Business Cycle theory, and New Keynesian Economics developed in 1980s.

【到達目標】
1. To have a sound knowledge on the development in macroeconomic theories and policies.
2. To understand the behaviour of different economies and explain the behaviour in terms of the standard macroeconomic theories.
3. To know what type of policy or policy-mix is required for correcting deviations from equilibrium condition.
4. To acquire up-to-date knowledge on macroeconomics.
5. To improve reading, writing and communication skills in English.

【授業の進め方と方法】
Lectures, discussions, and presentation

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Classical Macroeconomics (1)	Determinatation of output
2	Classical Macroeconomics (2)	Determination of employment
3	Classical Macroeconomics (3)	Determination of prices
4	Keynesian Macroeconomics (1)	Determination of output and employment
5	Keynesian Macroeconomics (2)	Prodcut market equilibrium (IS)
6	Keynesian Macroeconomics (3)	Money market equilibrium (LM)
7	Keynesian Macroeconomics (4)	Determination of equilibrium levels of income and interest rate
8	Keynesian Macroeconomics (5)	Relative effectiveness of monetary and fiscal policies in the IS-LM framework
9	Mid-term examination	Examination
10	Monetarist Counter-revolution (1)	Monetarism vs Keynesianism
11	Monetarist Counter-revolution (2)	Portfolio approac
12	Monetarist Counter-revolution (3)	Natural Unemployment Rate (NUM) hypothesis
13	Monetarist Counter-revolution (4)	Short-run and long-run Phillips curves
14	Monetarist Counter-revolution (5)	Effectiveness of stabilization policies in the short-run and long-run
15	Final examination	Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Prepare necessaery readings beforehand

【テキスト（教科書）】
Richard T. Froyen, Macroeconomics-Theories and Policies, Pearson Education Inc.

【参考書】
1. N.G.Mankiew, Macroeconomics, Worth Publishers.
2. William H. Branson, Macroeconomic Theory and Policy, Harper & Row.
3. Laurence Harriss, Monetary Theory, McGraw-Hill.
4. K. Pilbeam, International Finance,Macmillan Press Ltd.

【成績評価の方法と基準】
Mid-term examination: 40%
Final examination: 40%
Assignment, Participation and Effort (Oral presentation, discussion and interaction in English inside and outside classes, etc.): 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable

【その他の重要事項】
特別講義（英語でマクロ経済学Ｂ）と並行して受講することが望ましい。

CA338-01

特別講義（英語でマクロ経済学 B）

マドゥスダン・ゴーシュ

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The sylalbus discusses in a coherent way major development in macroeconomics, beginning with the Classical macroeconomics through the recent ones. It presents and compares the major modern macroeconomic theories and their associated policy effectiveness. Althogh Keynesian economics has been a dominant way of thinking about macroeconomic questions for a long time, major challenges came since the late 1960s, and there was increased interest in monetarism led by Milton Friedman in the 1970s. A new school of macroeconomics known as New Classical Economics, based on rational expectation hypothesis, came in the scene in the 1970s. Two new macroeconomic thought viz, Real Business Cycle theory, and New Keynesian Economics developed in 1980s.

【到達目標】
1. To have a sound knowledge on the development in macroeconomic theories and policies.
2. To understand the behaviour of different economies and explain the behaviour in terms of the standard macroeconomic theories.
3. To know what type of policy or policy-mix is required for correcting deviations from equilibrium condition.
4. To acquire up-to-date knowledge on macroeconomics.
5. To improve reading, writing and communication skills in English.

【授業の進め方と方法】
Lectures, discussions, and presentation

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Classical Macroeconomics	Summary of Classical Macroeconomics
2	Keynesian Macroeconomics	Sumamry of Keynesian Macroeconomics
3	New Classical Macroeconomics (1)	Adaptive and Rational expectations hypotheses
4	New Classical Macroeconomics (2)	Effectiveness of stabilization policies
5	Summary discussion	Discussion
6	Mid-term examination	Examination
7	Real Business Cycle Theory (1)	Central features of Real Business Cycle (RBC) model
8	Real Business Cycle Thoery (2)	Effects of a positive shock to technology
9	Real Business Cycle Theory (3)	Macroeconomic policy in RBC model
10	New Keynesian Economics (1)	Sticky price model
11	New Keynesian Economics (2)	Menu cost model
12	New Keynesian Economics (3)	Efficiency wage
13	New Keynesian Economics (4)	Insider-Outsider model of unemployment
14	Sumamry discussion	Discussion
15	Final examination	Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Prepare necessaery readings beforehand

【テキスト（教科書）】
Richard T. Froyen, Macroeconomics-Theories and Policies, Pearson Education Inc.

【参考書】
1. N.G.Mankiew, Macroeconomics, Worth Publishers.
2. William H. Branson, Macroeconomic Theory and Policy, Harper & Row.
3. Laurence Harriss, Monetary Theory, McGraw-Hill.
4. K. Pilbeam, International Finance,Macmillan Press Ltd.

【成績評価の方法と基準】
Mid-term examination: 40%
Final examination: 40%
Assignment, Participation and Effort (Oral presentation, discussion and interaction in English inside and outside classes, etc.): 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable

【その他の重要事項】
特別講義（英語でマクロ経済学Ａ）と並行して受講することが望ましい。

ZA140

【ERP】General Topics I: Urban Society

Heide Imai

Credit：2 | Semester：Spring | Year：1〜4
Day/Period：Tue 2nd

【Course outline and objectives】
Cities are major centers of social development. Their concentration of large populations and diverse migrants provide the catalysts for social conflicts and struggles, but also conditions for social innovation. They are the key for increasing social welfare programs for greater numbers while fostering social values. The focus of this course is the sociological study of human interaction, urban life and structural characteristics of social and urban settings. We will examine how culture informs our physical, social, and psychological landscapes. The main task for the students is to develop a sociological understanding - using different concepts, methods and theories - to investigate the urban dynamics of cities.

【Course goal】
After the completion of this course, students will be able to:
• Understand the basic concepts of *Urban Society*, its networks and interactions with other fields.
• Focus on different references to evaluate, judge and measure reports, newspapers and video material to develop skills to describe and conceptualise urban societies.
• Develop a greater understanding of the field to write critically about urban sociology in relation to social processes, their trajectories and complexities.

【Course method(s)】
To begin with, we will discuss the different definitions and theories of *Urban Society*. After this general discussion, we will assess the field via different topics which include basic urban concepts as well as the social study of cities, urban life, scales, places and practices of urban societies in different countries, different metropolitan lifestyles, problems and issues caused by urbanization, sub-urbanization and globalization processes. Summarizing, this course will identify key issues concerning the future of urban societies using diverse materials, developing awareness about ways of looking at and understanding changing global urban settings and how to aim for cities for all people. The course is taught through lectures, group discussions and presentations.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Defining Urban Society	This lecture will introduce the topics and requirements for the course.
2	From Ancient Cities to the Urban World	What are the origins of urban life? This lecture will provide a short historical overview.
3	The Contemporary Urban Society	This section will discuss different places, cultures and ideas of the city.
4	People, Lifestyles and the Cycle of the Metropolis	The study of diverse forms of social interaction is of major importance to understand urban societies.
5	1st Round of Presentations	Students will give their first of three presentations of general urban aspects.
6	Urban Society in China I	This section will introduce contemporary Chinese key locations, their urban conditions and daily life.
7	Urban Society in China II	This section will introduce Chinese rural landscapes, their conditions and contemporary problems.
8	Urban Society in India	This section will introduce key contemporary Indian locations, their urban conditions and daily life.
9	Metropolitan Problems and Urban Inequalities	Urban life is always producing winners and losers. We will discuss some seen in American Cities.
10	2nd Round of Presentations	Students will give their second of three presentations discussing specific cases.
11	Metropolitan and Environmental Issues	This lecture will discuss contemporary urban and environmental approaches, e.g. urban farming.
12	Urban Innovative Policies for Social Livelihood	We will discuss the importance of improving urban social life through health and education.
13	Cities and Globalization: a new Global Order?	The role of cities has changed in the new global order, what are their new characteristics?
14	The Future of Urban Societies and Cities	This lecture will summarize the course and the future of life in the city.
15	Final Presentations	Students will present a specific and self-selected topic in a final presentation.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to download and complete weekly readings prior to the lecture introducing the next theme (see class schedule) so that they have a better grasp of the subject matter and can participate in class discussions. After each lecture/seminar, the instructor will give the students short assignments, e.g. 3-4 questions to produce a short essay of 500 words (max).

【Textbooks】
Gottdiener, M. (2005) *Key Concepts in Urban Studies*, 1st Edition Sage Publications Ltd.
Flanagan, William G. (2010) *Urban Sociology: Images and Structure*, Rowman & Littlefield Publishers.
Reading material is available for download prior to classes and discussion material will be distributed in class.

【References】
Bluestone, B, Huff Stevenson, M. and R.Williams (2008) *The Urban Experience: Economics, Society, and Public Policy*, Oxford University Press, New York, Oxford.
Macionis, J. and V. Parrillo (2009) *Cities and Urban Life*, Pearson.
Gottdiener, M. and R. Hutchison's (2010) *The New Urban Sociology*, 4th Edition, Westview Press, New York.
Lin, J. and C. Mele (Eds) (2012) *The Urban Sociology Reader* (Routledge Urban Reader Series) 2 edition, London: Routledge.

【Grading criteria】
Students are expected to participate in class discussions. Participation requires that students complete the assigned readings (download from the weekly reading list). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
Regular and Final Presentations
The course runs for 15 weeks. Every five weeks students are asked to give a short presentation entitled 'Show and Tell', presenting general aspects and specific topics. In week 15, students are asked to give a final presentation discussing a specific and self-selected topic. The presentations counts for 60% of the final course grade.
The final grade is based on: Class Participation 10%, Discussion 10%, Regular Presentations and Assignments 20% and the Final Presentation 60%.

【Changes following student comments】
A better organized course schedule and a stronger connection between theory and practice

【Prerequisite】
This course is a prerequisite for the courses *Urban Sociology* taught in the Autumn term.

ZA158

【ERP】General Topics I: Space in Japan

Heide Imai

Credit：2 | Semester：Fall | Year：1～4
Day/Period：Tue 3rd

【Course outline and objectives】
The course will explore the workings of power, finance and public interests in the making of Japanese urban spaces. Through a set of theoretical approaches and exemplary case studies of cities in Japan, including Tokyo, Kyoto, Kobe and Nagasaki, this course examines the potential of the civil and urban society of Japan. Furthermore, the course will address the implications of 1) the biggest social problem in Japan, the demographic decline and shrinking regions; and 2) the arising challenge caused by the Great East Japan Earthquake in 2011.

【Course goal】
The course has an interdisciplinary and critical focus. The main objective of this class is to introduce different ideas, concepts, and ways of understanding the making and meaning of space and place in Japan. After the completion of this course, students will be able to:
• Understand the basic concepts and processes of the making of urban spaces in Japan, its growth and decline; and its implications on contemporary urban life observed in Japan.
• Identify key issues concerning the future of urban space in Japan and how they are reflected in the different contemporary media.
• Develop a greater understanding of contemporary urban space in Japan to examine their potentials to tackle diverse urban problems.

【Course method(s)】
The course takes an interdisciplinary approach reflecting on both the physical aspects and social significance of urban spaces in Japan while discussing the pattern, processes and scales of the urban making, urban growth and decline of diverse spaces. In summary, this course examines urban space in Japan as the site for the elaboration of social and cultural patterns of historical and contemporary Japan. The study of urban spaces and phenomena allows the students to gain insights into the distinctive development of space and place in Japan, its history, construction, power and authority; as well as political, economic and social structures. Summarizing, this course will identify key issues concerning the future of urban space in Japan and how they are reflected in the contemporary literature, photography, film and other media, shaping how we experience urban space as the dominant frame of everyday urban life. The course is taught through lectures, group discussions and presentations.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Defining Space and Place in Japan	This lecture will introduce the topics and requirements for the course.
2	Contemporary Space and Cultural Landscapes of Japan	This lecture will introduce contemporary urban landscapes at the example of Hakodate, Kobe and Nagasaki.
3	The Making and History of Japanese Urban Space	What are characteristics of traditional Urban Space in Japan?
4	Japanese Capitals in Historical and Contemporary Perspective	What was and is the role of the Japanese capital? This section will discuss some of them.
5	Tokyo's Past and Present I: from Edo to Tokyo	This section discusses the development of current Tokyo based on Edo's urban pattern.
6	Tokyo's Past and Present II: from Showa to Now	This lecture will introduce the Showa and Gendai period and the development since the 21st century, including the Tokyo 2020 Development.
7	Great Heritage and Contemporary Space in Kyoto	Kyoto plays an important role in Japanese history but is recently experiencing diverse urban challenges and the creation of new spaces.
8	Mid Term Review and Discussion	This section will review topics 1-7 and allow students to define their research topics.
9	Domestic Space: The Japanese House	This lecture will discuss traditional and modern features of the Japanese house.
10	Urban Waters of Japan	What is the importance and characteristics of urban waterways in cities in the Kanto, Kansai and Tohoku areas.
11	Subculture Space and the Urban Youth	Japan is famous for manga, anime and other subcultures found in different urban niches
12	Public and Private Places and Networks of the Japanese City	This section will discuss different aspects of the development and challenges to deal with public and private spaces in the Japanese realm.
13	Japanese Shrinking Regions and their Future	Different regions experience a population decline. This section will discuss its impact and diverse struggles.
14	Lessons from the Past: How to create lively, resilient spaces in Japan?	Concluding, this lecture will discuss what can be learnt from the past to create lively urban space in Japan and elsewhere.
15	Final Paper	Students will present and submit their final papers.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to download and complete weekly readings prior to the lecture introducing the next theme (see class schedule) so that they have a better grasp of the subject matter and can participate in class discussions. After each lecture/seminar, the instructor will give the students short assignments, e.g. 3-4 questions to produce a short essay of 500 words (max).

【Textbooks】
Schulz, E. and C. Brumann (2012) *Urban Spaces in Japan: Cultural and Social Perspectives,* Routledge.
Reading material is available for download prior to classes and discussion material will be distributed in class.

【References】
Berque, Augustin (1997) *Japan: Cities and Social Bonds,* Paperback, Pilkington Press.
Sorensen, A. (2004) *The Making of Urban Japan,* Routledge.
Shelton, B. (2012) *Learning from the Japanese City: Looking East in Urban Design,* 2nd Edition, Routledge.

【Grading criteria】
Students are expected to participate in class discussions. Participation requires that students complete the assigned readings (download from the weekly reading list). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
Final Research Paper
Each student must write a research paper, min. 2500 words (not including references), that will count for 60% of the final course grade. The paper must deal with a concrete topic. The topic of the paper can be decided in agreement with the instructor during the first month of the course. Students are free to choose their own topic.
The final grade is based on: Class Participation 10%, Discussion 10%, Assignments 20%, Research Paper 60%.

【Changes following student comments】
A better organized course schedule and case studies.

【Prerequisite】
None.

ZA137

Introduction to Political Science

Jonson Porteux

Credit：2 | Semester：Spring | Year：1～4
Day/Period：Mon 5th

【Course outline and objectives】
We will be covering a broad range of issues and questions surrounding the discipline of political science. In doing so, we will delve into the sub-fields of political theory, comparative politics, political economy, and international relations through the investigation of some of the most pertinent issues addressed by political scientists.

【Course goal】
This course has 3 main goals: (1) to introduce students to the major questions in political science; (2) to acquaint the students with the discipline's best answers to those questions, and; (3) provide the students with the tools to think critically about those answers.

【Course method(s)】
Classes will typically be split into two halves, with the first section consisting of lecture by the instructor. Prior to lecture the instructor will post that day's lecture slides to the course website with the expectation that the students will familiarize themselves with the content before the start of class. During the second half of class, in order to encourage active engagement with the material, students will be put into small groups and discuss the main terms, concepts, and questions for that day. Active participation during lecture and group work will constitute 10% of the course grade. In addition to participation, pop quizzes based on the readings and previous lectures will count for 20% towards the final grade. Lastly, there will be an in-class midterm exam (30%) and a comprehensive final exam (40%).

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course	Course overview: What is political science?
2	State Development, State Expansion	Exit, Voice and Loyalty
3	States, nations and countries	Origins of the modern state (the criminal metaphor and more)
4	Modern states	Origins of the modern state and democratization
5	Political Systems	Varieties of political systems
6	Democratization (1)	Economic and cultural determinants of democracy
7	Democratization (2)	Political Transitions
8	Midterm Exam Review	In-class Midterm Exam Review
9	Exam	In-Class Exam
10	Actors in World Politics	State vs. Domestic-Centric Theories of Politics
11	War (1)	Selectorate Theory
12	War (2)	Bargaining Models of War and Conflict
13	Terrorism	Violent means for political ends
14	Final exam review	Final exam review
15	Final exam	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
To be announced

【Textbooks】
To be announced

【References】
To be announced

【Grading criteria】
Participation: 10%
In class quizzes: 20%
Midterm exam: 30%
Final exam: 40%

【Changes following student comments】
None

【Prerequisite】
None.

ZA137

【ERP】General Topics I: Introduction to Comparative Politics

Jonson Porteux

Credit：2 | Semester：Fall | Year：1～4
Day/Period：Mon 4th

【Course outline and objectives】
In case studies of Japan, Britain, Germany, the USA, China, and Russia, we will be exploring how different states choose their governments and make policy. Throughout the course, we will be focusing on questions about democracy. What is democracy? How do you get it? How does it decay? And, finally, how do democratic systems differ from non-democratic ones?

【Course goal】
The goal of this course is to provide the students with a broad overview of the issues and main questions surrounding the sub-field of comparative politics, and the critical tools with which to evaluate the field's main answers.

【Course method(s)】
Classes will typically be split into two halves, with the first section consisting of lecture by the instructor. Prior to lecture the instructor will post that day's lecture slides to the course website with the expectation that the students will familiarize themselves with the content before the start of class. During the second half of class, in order to encourage active engagement with the material, students will be put into small groups and discuss the main terms, concepts, and questions for that day. Active participation during lecture and group work will constitute 30% of the course grade. Lastly, there will be an in-class midterm exam (30%) and a comprehensive final exam (40%).

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introductions	Comparative Politics: The Comparative Method
2	Japan	Modernization and democracy in Japan
3	Britain (1)	Modernization and democracy in Britain
4	Britain (2)	British political institutions
5	Germany (1)	Modernization and democracy in Germany
6	Germany (2)	Germany: German Institutions
7	Midterm	In Class Midterm
8	USA (1)	Modernization and democracy in the USA
9	USA (2)	USA: Political Institutions
10	China (1)	Modernization in China
11	China (2)	China: Political Institutions
12	Russia (1)	Modernization and development in Russia
13	Russia (2)	Russia: Political Institutions
14	Final exam review	Review of course, questions and answers
15	Final exam	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
In addition to the required reading, students will be required to submit two motivating questions based on the readings, no later than 24 hours prior to lecture.

【Textbooks】
To be announced

【References】
To be announced

【Grading criteria】
Participation: 30%
Midterm exam: 30%
Final exam: 40%

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Prerequisite】
None.

ZA258

【ERP】General Topics II: Tokyo Tales-discovering the hidden city

Heide Imai

Credit：2 | Semester：Spring | Year：2〜4
Day/Period：Thu 1st

【Course outline and objectives】
This course takes up the challenge of demonstrating what, how and why we can learn from ' Tokyo' and will study the hidden aspects of the city. We will study the past, present and future of the city, discovering, remembering and re-telling the tales and everyday stories from the Edo period to the present day.

【Course goal】
After the completion of this course, students will be able to:
• Understand the general development of the city.
• Develop a greater understanding of analysing, studying and representing the city through different ways and media.
• Consider new directions to understand and re-discover the past, present and future of the city.

【Course method(s)】
Using maps, plans, and photographs, we examine the physical layers of the city – its landscapes, architecture, infrastructure, and technologies. The social and cultural dimensions of urban everyday life are approached and analysed via written, artistic, and cinematic representations. During the course we will focus on the following questions: How has Tokyo grown and transformed over its history? How are memories and stories featuring Tokyo shaping and changing over time? In what ways is the remembered past (and the imagined future) present in contemporary Tokyo? The course is taught through lectures, group discussions and presentations.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Defining Edo and Tokyo, introducing the topics and requirements of the course.
2	Shitamachi: Yamanote Low City, High City	This section will discuss the meaning of both of these terms to understand the city.
3	Walking Tokyo 1	Discovering the neighbourhoods of Nihonbashi and Ginza
4	Walking Tokyo 2	Discovering the neighbourhoods of Ueno and YaNeSen (Yanaka/Nezu/Sendagi)
5	Walking Tokyo 3	Discovering the neighbourhoods of Shibuya and Daikanyama
6	Tsukiji: the Fishmarket of the World	We will discuss the past, present and future of the world's largest fishmarket
7	The Light and Sounds of Tokyo	We will discuss different aspects of Tokyo's sensual landscape.
8	Mid Term Review and Fieldwork 1	This section will review topics 1-7 and allow students to define their research topics through fieldwork.
9	Tokyo Underworld: Gas, Gangster and everything under the ground	This section will discuss different aspects of Tokyo from ' below'
10	The Tokyo of Haruki Murakami	We will discuss how Tokyo is featured in different ways in contemporary literature, focusing on Haruki Murakami
11	Tokyo: the Post-Bubble City	We will discuss theoretical, economical and architectural aspects of the changing cityscape.
12	Food and Kitchens of Tokyo	This section will discuss different types of food production and consumption in Tokyo.
13	Cool Tokyo: Fashion, Fame and Fusion	This section will introduce and discuss Tokyo as a city of fashion, media and design.
14	Tokyo Metabolizing and Fieldwork 2	We will discuss the metabolism movement and do some final fieldwork.
15	Final Paper	Presentation and Submission of Research Papers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to download and complete weekly readings prior to the lecture introducing the next theme (see class schedule) so that they have a better grasp of the subject matter and can participate in class discussions. After each lecture/seminar, the instructor will give the students short assignments, e.g. 3-4 questions to produce a short essay of 500 words (max).

【Textbooks】
Waley, P. (1992) *Fragments of a City: A Tokyo Anthology*. Japan Times.
Reading material is available for download prior to classes and discussion material will be distributed in class.

【References】
Ashihara, Y. (1989) *The Hidden Order*, Tokyo, New York, London: Kodansha International.
Isabel Coixet (2009) DVD - *Map of the Sounds of Tokyo*
Popham, P. (1985) *Tokyo: the City at the End of the World*, Tokyo, Kodansha International.
Seidensticker, E. (1990) *Tokyo Rising: The City Since the Great Earthquake*, 1st edition, Knopf.
Seidensticker, E. (1991) *Low City, High City: Tokyo from Edo to the Earthquake: How the Shogun's Ancient Capital Became a Great Modern City, 1867-1923*, Boston, Harvard University Press.
Waley, P. (1984) *Tokyo Now and Then: An Explorer's Guide*. New York, Weatherhill.
Waley, P. (1991) *Tokyo, City of Stories*. New York, Weatherhill.
Jinnai, H.(1995) *Tokyo: A Spatial Anthropology*, University of California Press.
Atelier Bow Wow (2002) *Pet Architecture Guide Book*. Tokyo, World Photo Press.
Boontharm, D. (2013) *Tokyo, Bangkok, Singapore: Intensities, Reuse and Creative Milieu* , Tokyo: Flick Studio.

【Grading criteria】
Students are expected to participate in class discussions. Participation requires that students complete the assigned readings (download from the weekly reading list). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
Fieldwork and Final Research Paper
Each student must write a research paper, min. 2500 words (not including references), that will count for 60% of the final course grade. The paper must deal with a concrete topic and an be based on fieldwork. The topic of the paper can be decided in agreement with the instructor during the first month of the course. Students are free to choose their own topic.
The final grade is based on: Class Participation 10%, Discussion 10%, Assignments 20%, Research Paper 60%.

【Changes following student comments】
A better schedule and a stronger connection between theory and more practical aspects.

【Prerequisite】
None.

ZA258

【ERP】General Topics II: Modern Olympics Movement

Heide Imai

Credit：2 | Semester：Spring | Year：2〜4
Day/Period：Tue 3rd

【Course outline and objectives】
The Tokyo Olympics in 2020 will be a great opportunity for showcasing a modern, sustainable Japan. This course will investigate the history of the modern Olympic Games and their impact on societies, economies and different places of the ancient and modern worlds.

【Course goal】
After the completion of this course, students will be able to:
• Understand the basic concepts of the ancient and modern Olympic movement.
• Focus on different references to evaluate, judge and measure the recent movement and the term 'Olympism'.
• Develop a greater understanding of the field and will be able to write critically about the movement and its future.

【Course method(s)】
The course will study the origins and phenomenal growth of the modern international Olympic Games. From the turn of the last century the Olympic Games have captured the imagination of an increasing number of people throughout the world as a result of the growth of mass media in the 20th century. In the first International Olympics, held in Athens in 1897, 241 athletes from 14 nations competed, while at the 2004 games over 10,500 athletes from nearly 200 countries competed. Besides the audience and participants, the Olympic Games have grown in the breadth and variety of competitions to include many sports events and forms of tourism. The course is taught through lectures, group discussions and presentations.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Ancient Olympics	This section will introduce the general topics starting with the ancient Olympic Movement.
2	Athens 1896/1906/2004	We will discus the Olympics in the 19th/20th and 21st century in this historical city,
3	Olympics inbetween Wars	How have Olympics developed between the different wars, including at the beginning of the Cold War.
4	Paris 1900/1924 and Berlin 1916/1936	We will discuss and compare the Olympics in these European Cities.
5	Olympics and Networks of Power	This section will discuss the influence of politics, power and terrorism.
6	Mexico 1968, Munich 1972 and Sotchi 2014	What were/will be the aspects which made these events a part of our recent global history.
7	Midterm Review and Presentations	This section will review topics 1-7 and prepare students for the take-home exam.
8	Olympic Urbanization: London 1908/1944 and 2012	We will discuss the urban development of the city which held the Olympics 3 times.
9	Pacific Olympic Movement: Sydney 2000 and Beijing 2008	In this lecture we discuss the meaning and development of the Asian Olympic Movement, incl. Australia, China and India.
10	Latin American 'Olympic Explosion' in the 1920s and Now - Rio de Janeiro 2016	We will discuss the development of the Olympic Movement with a special focus on the 2016 Summer Olympics.
11	Japanese Olympic Movement: Winter and Summer Games	This section will discuss the modern Japanese Olympic movement with its specific problems and opportunities.
12	Tokyo 1940/1964/2020	How will Tokyo present itself in 2020 based on the experience of 1940 and 1964?
13	South African Olympic Movement and the Future of the Olympics	This section will discuss the South African Olympic movement, asking if and when will an Olympic event be held in this part of the world.
14	Summary and Final Review	This section will summarize the course, and explain the topic for the take-home exam.
15	Final Examination	Students will present, discuss and submit their take-home exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to download and complete weekly readings, prior to the lecture, introducing the next theme (see class schedule) so that they have a better grasp of the subject matter and can participate in class discussions. After each lecture/seminar, the instructor will give the students short assignments, e.g. 3-4 questions to produce a short essay of 500 words (max).

【Textbooks】
John E. Findling and Kimberly Pelle (2004) *Encyclopedia of the Modern Olympic Movement*, Greenwood.
Reading material is available for download prior to classes and discussion material will be distributed in class.

【References】
U. S. Olympic Committee (2001) *Olympism: A Basic Guide to the History, Ideals, and Sports of the Olympic Movement* (Olympic Guides), Gareth Stevens Publishing.
Christopher Sans (2011) *Olympic Torch: A History of the Olympic Movement from the Ancient Games to Today,* Webster's Digital Services.
Sandra Collins (2008) *The 1940 Tokyo Games: The Missing Olympics: Japan, the Asian Olympics and the Olympic Movement,* London: Routledge.

【Grading criteria】
Students are expected to participate in class discussions. Participation requires that students complete the assigned readings (download from the weekly reading list). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
Final Take-home Exam
The course runs for 15 weeks. After seven weeks, there will be a review of the topics covered to that date. Students can ask and simulate specific questions related to the final take-home exam. In week 14 the take home exam is distributed, which has to be submitted in week 15.
The final grade is based on: Class Participation 10%, Discussion 10%, Assignments 20%, Final Exam 60%.

【Changes following student comments】
A better schedule and a stronger connection between theory and more practical aspects.

【Prerequisite】
None.

ZA237

【ERP】General Topics II: American Politics and Foreign Policy

Jonson Porteux

Credit：2 | Semester：Spring | Year：2〜4
Day/Period：Mon 4th

【Course outline and objectives】
In this course we will explore the inner workings of the American system of government at the domestic and international level through the lens of history, current events, and political science theory. In particular, we will be focusing on three main themes: (1) American institutions; (2) domestic public policy, and; (3) American foreign policy.

【Course goal】
The main course goal is for the student to come away with a deeper understanding of the essential structure and processes of the American government, in a comparative context. The emphasis of this course will be on analysis and critical thinking rather than mere memorization of facts.

【Course method(s)】
This is a lecture style course, but 20% of your overall grade will be based on participation. Simply showing up for class however is not enough. You should be prepared to ask questions and engage actively in group discussions which will typically occur each week in the last 20 to 30 minutes of class.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the course, syllabus, and requirements
2	Foundations	Foundations of American democracy
3	Institutions (1)	Congress
4	Institutions (2)	The executive branch
5	Institutions (3)	The judiciary
6	Midterm review	Review for midterm exam
7	Midterm	In-class midterm exam
8	Institutions (4)	The bureaucracy
9	Public Policy (1)	Domestic policy making processes
10	Public Policy (2)	The economy and national budget
11	Foreign Policy (1)	American policy in Europe
12	Foreign Policy (2)	American policy in the Middle East
13	Foreign Policy (3)	American policy in Asia
14	Review	Review for the final exam
15	Final Exam	In-class comprehensive exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to have completed the readings before class. Expect roughly 20 pages of reading per week.

【Textbooks】
All course reading materials will be uploaded to the course website.

【References】
TBA

【Grading criteria】
Quizzes: 10%
Participation: 20%
Midterm exam: 30%
Final exam: 40%

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Other】
N/A

【Prerequisite】
None.

ZA240

【ERP】General Topics II: Food and Society

Heide Imai

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Thu 3rd

【Course outline and objectives】
From unhealthy fast food, salmonella in eggs and beef recalls, to an obesity epidemic and new urban community gardens; almost every day, food is in the headlines. Even if eating were not something most humans do several times each day, food would command our attention. Eating is a necessity for living organisms, a biological imperative. However food is about much more than just nutrition. This course views food production, processing, distribution, and consumption as social and cultural phenomena. Particular attention will be paid to the theoretical, historical, and empirical issues of food and society worldwide, discussing the global dimensions of diverse food and farming networks.

【Course goal】
1. Understand the outlines of the industrialized system of food production and recognize and assess alternatives to the system.
2. Discuss and analyse alternative food systems in historical, social and political context.
3. Draw connections between your individual personal eating choices, habits, and tastes and our collective food history.
4. Develop a critical, sociological approach to diverse problems related to food.

【Course method(s)】
In studying the ways food is produced and consumed, we will also discover the ways food shapes and expresses relationships among people. This most basic of human needs is easily taken for granted by those who have plenty, while the causes of hunger are easily dismissed or misunderstood. This course will address such misunderstandings, as well as issues of culture, meaning, identity, power, and ecology, all through a focus on food.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	How have agriculture and food production changed over the past 100 years?
2	Industrialized Food: Agriculture and Production	What are some of the most important achievements and problems of industrialized food production?
3	Industrialized Food: Distribution and Consumption	How have consumption and eating patterns changed in the world over the past century?
4	Animals and Food Production	What is the place of animal products and especially meat in the contemporary diet?
5	Presentations	Students give Presentation 1.
6	GMO Foods and Biodiversity: Alleviating Hunger or Opening Pandora's Box?	What are the dangers of GMOs? In what ways are GMOs a modern Pandora's box?
7	Advice from Nutritionists	What do we know about nutrition?
8	Diet, Obesity, Health and Disease	Is there an epidemic of obesity? Should we be worried about obesity?
9	Hunger and Food Policy	How extensive is the problem of hunger and food insecurity?
10	Presentations	Students give Presentation 2.
11	Farming Culture and Farmer Networks	How are farming networks working, evolving and supporting each other to work sustainably?
12	Social Movements: Going Organic	What is the history of the organic movement?
13	Social Change and Fair Trade: Beyond Organic	Are these alternatives closer to the ideals of the original organics movement?
14	Eating Mindfully	What can we do, as individuals, to eat more mindfully? What are the challenges or obstacles to eating mindfully? What are its pleasures? Can eating mindfully be the basis for collective action?
15	Final Presentations	Students give final presentation.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to download and complete weekly readings prior to the lecture introducing the next theme (see class schedule) so that they have a better grasp of the subject matter and can participate in class discussions. After each lecture/seminar, the instructor will give the students short assignments, e.g. 3 questions to produce a short essay of 500 words (max) which has to be submitted the week after.

【Textbooks】
Amy E. Guptill, Denise A. Copelton, Betsy Lucal.2012. Food and Society: Principles and Paradoxes. Polity. 1 edition.

【References】
Marion Nestle. 2002. Food Politics. Berkeley: University of California Press.
Julie Guthman. 2004. "Conventionalizing Organic," pp. 110-140 in Agrarian Dreams: the Paradox of Organic Farming in California. Berkeley: University of California Press.
Thomas A. Lyson. 2004. Civic Agriculture. Medford, MA: Tufts University Press.
J. Eric Oliver. 2005. Fat Politics. Oxford University Press.
Peter Menzel and Faith D"Aluisio. 2005. Hungry Planet: What the World Eats. Material World.
Michael Pollan. 2006. The Omnivore's Dilemma. New York: The Penguin Press.
Marion Nestle. 2007. What to Eat. North Point Pr. 1 edition.
Barbara Kingsolver. 2007. Animal, Vegetable, Miracle: A Year of Food Life. New York:Harper Collins.
Michael Pollan. 2008. In Defense of Food. New York: The Penguin Press.
Mark Winne. 2008. Closing the Food Gap. Boston, MA: Beacon Press.
Shannon Hays. 2010. Radical Homemakers: Reclaiming Domesticity from a Consumer Culture. Richmondville, NY:Left to Write Press.

【Grading criteria】
Students are expected to participate in class discussions.
Participation requires that students complete the assigned readings (download from the weekly reading list).
More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
Regular and final presentations. The course runs for 15 weeks. Every five weeks students are asked to give a short presentation entitled 'Show and Tell', presenting general aspects and specific topics. In week 15, students are asked to give a final presentation discussing a specific and self-selected topic. In addition, a short research paper will be prepared and submitted according to a self-chosen topic. The presentations and paper count for 60% of the final course grade.
The final grade is based on: Class Participation 10%, Discussion 10%, Regular Presentation and Assignments 20% and the Final Presentation 60%.

【Changes following student comments】
First taught in 2016.

【Prerequisite】
None.

ZA240

【ERP】General Topics II: Urban Sociology

Heide Imai

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Tue 2nd

【Course outline and objectives】
This course is an introduction to urban sociology with a focus on urban social problems. Topics covered include classic urban sociological theories, post-industrial urban economies, urban social networks, suburbanization, segregation, poverty, crime, subcultures, schooling, and public policy. Classes will consist mostly of critical discussion, supported by short lectures. The course will focus on cities worldwide but especially selected comparisons between American, Asian and African Cities. The course assumes no background in urban sociology, but basic knowledge of classic sociological theory and basic social science methods would be helpful.

【Course goal】
After the completion of this course, students will be able to:
• Understand the general development of cities and their current problems
• Develop a greater understanding of analysing, studying and representing the city in applying different theories, methods and media.
• Consider new directions to understand and re-discover the past, present and future of the city.

【Course method(s)】
To begin with, we will discuss different theories and examples in regards to urban sociology and urbanization, asking questions such as, what processes underlie urban growth pattern? what are the respective roles of political action, economic forces, and culture in shaping urban forms and how do these urban forms influence the experiences of different social groups? How do processes related to increasing economic globalization create "global cities"? How do these processes influence patterns of urban inequality? How does the formation of global cities affect other nearby cities serving a more regional function? How are patterns of uneven development related to decline in urban areas? How does this affect quality of life and access to opportunity for citizens? What strategies are needed to reverse those trends at the local level, since local areas are affected by international, national, state, and regional forces?

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1 Introduction	The rise of Urban Sociology	This lecture will introduce the topics and requirements for the course.
2	Contemporary Urban Sociology	This lecture will provide a short overview of the contemporary situation.
3	Urbanization in the United States, Europe and Japan	This section will discuss urbanization in different cities in the developed world.
4	Urbanization in Developing Nations	This section will discuss urbanization and globalization in the developing world.
5	1st Round of Presentations	Students will give their first of three presentations of general urban aspects.
6 Ethnographies	Finding Community in the Modern City	This section will introduce ways to find 'community' in the city.
7	Social Worlds, Public Spaces	This section will introduce different social worlds and concepts of public spaces.
8	Family, Schooling and the Culture of Control	This section will discuss aspects of family, schooling and raising children in the city.
9	Getting Paid: Working in the City	Finding jobs in the city is one of the biggest desires for people moving and living in cities.
10	Playing Together: the Serious Side of Recreation and Leisure in the city	Cities are not just sites of different social settings and networks but also of recreation and leisure.
11	2nd Round of Presentations and Paper Preparation	During this round of presentations students discuss their examples of ethnographies and how they approach their fieldwork topics.
12 Discussion	Racism, Poverty, Crime, Housing and the Fiscal Crisis	We will discuss the importance of these aspects in the context of the fiscal crisis.
13	Metropolitan Planning and Social Policy	We discuss what is and will be the role of metropolitan planning and social policies now and in the future
14	The Future of Urban Sociology	This lecture will summarize the course and the future of urban life in the city.
15	Final Presentations and Submission of Papers	Students will present a self-selected topic in a final presentation and submit their papers.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to download and complete weekly readings prior to the lecture introducing the next theme (see class schedule) so that they have a better grasp of the subject matter and can participate in class discussions. After each lecture/seminar, the instructor will give the students short assignments, e.g. 3-4 questions to produce a short essay of 500 words (max).

【Textbooks】
Lin, J. and C. Mele (Eds) (2012) *The Urban Sociology Reader* (Routledge Urban Reader Series) 2 edition, London: Routledge.
Reading material is available for download prior to classes and discussion material will be distributed in class.

【References】
Bluestone, B, Huff Stevenson, M. and R.Williams (2008) *The Urban Experience: Economics, Society, and Public Policy*, Oxford University Press, New York, Oxford.
Flanagan, William G. (2010) *Urban Sociology: Images and Structure*, Rowman & Littlefield Publishers.Macionis, J. and V. Parrillo (2009) *Cities and Urban Life*, Pearson.
Gottdiener, M. and R. Hutchison's (2010) *The New Urban Sociology*, 4th Edition, Westview Press, New York.
Lin, J. and C. Mele (Eds) (2012) *The Urban Sociology Reader* (Routledge Urban Reader Series) 2 edition, London: Routledge.

【Grading criteria】
All students are expected to participate in class discussions. Participation requires that students complete the assigned readings (download from the weekly reading list). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
Regular Presentations and Paper
The course runs for 15 weeks. Every five weeks students are asked to give short presentations entitled 'Show and Tell', presenting general aspects and specific topics. In week 15, students are asked to give a final presentation discussing a specific and self-selected topic and submit their urban ethnography paper developed during weeks 10-15.
The final grade is based on: Class Participation 10%, Discussion 10%, Regular Presentations and Assignments 20% and the Final Presentation 60%.

【Changes following student comments】
A better connection between theory and practical cases.

【Prerequisite】
As a prerequisite, students are required to take the course *Urban Society* in the Spring term.

ZA237

【ERP】General Topics II: Japanese Politics

Jonson Porteux

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Mon 5th

【Course outline and objectives】
Japan is one of the most dynamic countries in the developed world, politically, economically, and socially. In this course we will be exploring three main themes. First, we will discuss the causes and effects of the Liberal Democratic Party's unprecedented political dominance. Second, we will examine the spectacular rise and subsequent collapse of the Japanese economy. Finally, we will look at Japan's engagement with the rest of the world, focusing on its relations with the United States and Asia.

【Course goal】
The goal of this course is to provide students with a broad overview of the issues and main questions surrounding the Japanese political, economic and social system.

【Course method(s)】
Classes will typically be split into two halves, with the first section consisting of lecture by the instructor. Prior to lecture the instructor will post that day's lecture slides to the course website with the expectation that the students will familiarize themselves with the content before the start of class. During the second half of class, in order to encourage active engagement with the material, students will be put into small groups and discuss the main terms, concepts, and questions for that day. Active participation during lecture and group work will constitute 15% of the course grade. In addition to participation, pop quizzes based on the readings and previous lectures will count for 15% towards the final grade. Lastly, there will be an in-class midterm exam (30%) and a comprehensive final exam (40%).

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Japan: The Emergence of the Modern State	Syllabus and requirements; Japan: From pre-war to post-war
2	From the ashes of war	Post-War Japan
3	Political institutions of Japan	Logic of delegation in Japan
4	Origins of the LDP (1)	Consolidation of power under the LDP
5	Origins of the LDP (2)	The electoral underpinnings of the LDP
6	Origins of the LDP (3)	Redistributive policies under the LDP
7	Political Reform	Collapse of the LDP and political reform
8	Midterm	In class midterm exam
9	Economy (1)	Explaining the miracle economy
10	Economy (2)	Explaining the collapse of the economy
11	Foreign policy	Japanese foreign policy
12	Japan's Energy Crisis	Fukushima and Beyond
13	Current events	Islands, history and immigration
14	Review	Final exam review: question and answer session
15	Final exam	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparing for class by completing the readings will be key to doing well in this course. Additionally, you will be required to submit via e-mail two motivating questions based on the readings no less than 24 hours before the class in which the assigned readings will be discussed.

【Textbooks】
To be announced

【References】
Additional references and resources will be provided during the first lecture.

【Grading criteria】
Quizzes: 15%
Participation: 15%
Midterm exam: 30%
Final exam: 40%

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Prerequisite】
None.

ZA237

Public Policy

Jonson Porteux

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Fri 5th

【Course outline and objectives】
This course is designed to introduce you to public policy and the analysis of political processes. Why do some ideas become policies while others fail? To what extent do institutions and procedures drive policy outcomes? How important are the preferences and efforts of particular actors (e.g. political elites vs. business vs. society vs. the international system; development vs. stagnation; tariffs and NTBs vs. free trade)? To what degrees do institutions bias the political process in favor of particular groups, and how can these biases be challenged or exploited?

【Course goal】
It is the goal of this course to provide the student with a firm grasp of the basics of policy making processes.

【Course method(s)】
This is a tools based (as opposed to facts based) course. In the first half of the course we will be exploring the main issues and theoretical frameworks within the field of public policy (and more broadly, comparative politics), and developing methods in which to analyze, and predict such phenomena (e.g. assessing the probability that a government provides programmatic, as opposed to particularistic, goods). In the second half, we will be utilizing those tools with which to understand actual policy in Japan — going through topics such as the politics behind budget processes; energy politics in light of the 3/11 disaster; foreign trade policies (especially the TPP); and finally, the issues behind defense and the potential for related changes to Japan's constitution.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	What is a "policy"? Why study policy and political processes?
2	Basic Tools	Collective action, delegation, and organization
3	Conflicting Pressures	Principles and priorities
4	Policy Environment (1)	Who drives policy?
5	Policy Environment (2)	Domestic environment
6	Policy Environment (3)	International environment
7	Midterm Review	Review for midterm
8	Midterm Exam	In class midterm
9	The Limits of Policy Change	Public institutions and private interests
10	Policy Reform	Bringing about change
11	Political Processes	Budgets, policy creation, and implementation
12	Applications of public policy (1)	Evolution of trade policy in Japan (especially the TPP)
13	Application of public policy (2)	Defense, foreign policy, and the debate over constitutional change in Japan
14	Final exam review	Review for final exam
15	Final exam	In class final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparing for class by completing the readings will be key to doing well in this course. Additionally, you will be required to submit via e-mail two motivating questions based on the readings no less than 24 hours before the class in which the assigned readings will be discussed.

【Textbooks】
N/A

【References】
N/A

【Grading criteria】
Quizzes: 15%
Participation: 15%
Midterm exam: 30%
Final exam: 40%

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Other】
N/A

【Prerequisite】
None.

ZA337

【ERP】Special Topics I: Global Political Economy

Jonson Porteux

Credit：2 | Semester：Spring | Year：3〜4
Day/Period：Fri 5th

【Course outline and objectives】
This course is an introduction to the theories and issues in the global political economy. In particular, we will examine the political, economic, and social conditions conducive to development of cooperative behavior on a global scale. Each week we will cover the main questions and puzzles in this sub-field of political science, and the discipline's best answers to date.

【Course goal】
The goal of this course is to provide an overview of the fundamentals of global political economy and the past and current issues surrounding this discipline.

【Course method(s)】
Classes will typically be split into two halves, with the first section consisting of lecture by the instructor. Prior to lecture the instructor will post that day's lecture slides to the course website with the expectation that the students will familiarize themselves with the content before the start of class. During the second half of class, in order to encourage active engagement with the material, students will be put into small groups and discuss the main terms, concepts, and questions for that day. Active participation during lecture and group work will constitute 15% of the course grade. In addition to participation, pop quizzes based on the readings and previous lectures will count for 15% towards the final grade. Lastly, there will be an in-class midterm exam (30%) and a comprehensive final exam (40%).

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course	Course overview: What global political is and is not
2	The Global Political Economy	Historical context
3	The World Trade System	The WTO and the international system
4	Trade Cooperation	The political economy of international trade cooperation
5	Trade Politics (1)	A society-centric approach to trade politcs
6	Midterm review	review for the in-class exam
7	Midterm	In class midterm
8	Trade Politics (2)	Political institutions and the supply of trade policy
9	Trade Politics (3)	A state-centric approach to trade politics
10	Trade and Development (1)	Import Substitution and Industrialization (ISI)
11	Trade and Development (2)	Export-Oriented Industrialization and the 'East Asian Model'
12	The International Monetary System	The economics of the international monetary system
13	Globalization	The consequences and controversies of an increasingly interconnected world
14	Final exam review	Review of the course, preparation for the exam
15	Final exam	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students should expect to spend at least 2 hours a week of study and reading time outside of class (one hour for each unit).

【Textbooks】
To be announced

【References】
To be explained during the first lecture.

【Grading criteria】
Quizzes: 15%
Participation: 15%
Midterm exam: 30%
Final exam: 40%

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Prerequisite】
None.

GA432

ドイツ語アプリケーション（上級）

林　志津江

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでのドイツ語学習、とりわけ SA ドイツ語圏での留学で習得した実践的なドイツ語運用能力を維持するだけでなく、さらに向上させていきます。ドイツ語の読み、聴き、書き、話す能力をもっともっと高めていきましょう。

【到達目標】
ドイツ語で日常的な事柄がスムーズに表現できるとともに、ドイツ語圏の文化や社会について理解を深め、抽象的なテーマに関してもドイツ語で自分の意見が言えること。さまざまなテーマについてドイツ語で意欲的な議論ができること。ドイツ語でまとまった分量の作文（レポート）が書けること。
秋学期も引き続きこの授業で学ぼうという意欲が湧いてきて、自分のドイツ語能力や学習体験を自分の将来に生かせるかどうかを真剣に考えるようになれたら、さらに理想的です。

【授業の進め方と方法】
使用言語は原則としてドイツ語です。あらかじめ所定のテーマについて、与えられた課題（テクスト）を読んできてもらいます。各回そのテーマに沿って、できる限りドイツ語で表現します。話すことでドイツ語の作文の練習を繰り返し、自分の意見をドイツ語でできるだけスムーズに言えるようになるよう、根気よく楽しく練習していきます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	イントロダクション、ドイツ語レベルの確認等
2	ヨーロッパとは？	冷戦の崩壊とドイツ再統一、「ヨーロッパ人」ってアリだと思う？ EU というコンセプト
3	さまざまなドイツ語	ドイツ語で「パン」って何ていうんだっけ？ グーテンベルクとルターの功績
4	家族のあり方	世代間の相違と家族のあり方の変化、少子高齢化社会の悩み、「パッチワーク家族」って？
5	住まいとプライベート	家を買うのか借りるのか？ "gemütlich"という至上の価値について
6	仕事と余暇	職業と余暇の過ごし方について、失業問題と社会保障、仕事／職業の持つ意味
7	余暇とスポーツ	「サッカーこそ我が人生」、「散歩」と"Spaziergang"の違い、あなたはスポーツが好きですか？
8	余暇と休暇（有給休暇・ヴァカンス）	人々が集う楽しみ、旅行（ヴァカンス）の権利と行使、日本の労働者は…？！
9	教育制度	勉強を頑張ることと自分の適正を知ること、大学へ行く選択の持つ意味、日本とはどう違う？
10	大学での学び、学位の意味	大学へ行ったらどうなる？ 行かなかったら？ 大学で何を学ぶべき？ 日本と比べてどうかな？
11	食生活と食べ物（1）	スイスやドイツでは何が美味しかった？ 誇り高き Metzger たち、Vegan 用のソーセージ
12	食生活と食べ物（2）	食文化を守るという意識、ビールの歴史、「ビオ」大好き！
13	プレゼンテーション（1）	各自選んだテーマに沿って、一定量のプレゼンテーションを行う、その後にみなで議論
14	プレゼンテーション（2）	各自選んだテーマに沿って、一定量のプレゼンテーションを行う、その後にみなで議論
15	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・所定の予習・復習課題を出します。
・新聞（日刊紙）を読むといいです。
・ドイツ語圏のメディアにはインターネット等で簡単にアクセスできます。SNS 等も効果的に利用して、日頃からそうしたメディアに接するクセをつけると良いでしょう。国際政治などの場面で話題になっている概念をドイツ語ではどう言うか、ドイツ語の語彙を増やすにも最適です。

【テキスト（教科書）】
"Dreimal Deutsch"（Klett, 2000/2005）
その他は適宜コピーで配布します。

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（課題への取り組み）50 %、定期試験（プレゼンテーション）50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典は必携です（ただし議論の時は使ってはいけません）。

【その他の重要事項】
・各種検定試験の受検を考えている人には、個別に対応します。ぜひ積極的に挑戦して下さい。
・ドイツ語（外国語）の運用能力は、適切なトレーニングで誰でも上達します。でもそれが楽しめるかどうかは、自分の身の回りの全てに言葉（母語でも外国語でも）で反応できるかどうかにかかっています。活字に触れる日常はもちろんのこと、学校で、バイト先で、サークルで、家で家族と、友だちと、パートナーと過ごす時間の中で自分が何をどう思うのか、気持ちを言葉にするのが難しいのはなぜか、相手が何も言ってくれないのはなぜか、自分と周囲の言葉をいつも意識して見つめてみて下さい。皆さんとお目にかかれるのを楽しみにしています。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

ドイツ語アプリケーション（上級）

林　志津江

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の「ドイツ語アプリケーション（上級）」の続編です。これまでのドイツ語学習、とりわけ SA ドイツ語圏での留学で習得した実践的なドイツ語運用能力を維持するだけでなく、さらに引き続き向上させていきます。ドイツ語の読み、聴き、書き、話す能力をもっともっと高めていきましょう。

【到達目標】
ドイツ語で日常的な事柄がスムーズに表現できるとともに、ドイツ語圏の文化や社会について理解を深め、抽象的なテーマに関してもドイツ語で自分の意見が言えること。さまざまなテーマについてドイツ語で意欲的な議論ができること。ドイツ語でまとまった分量の作文（レポート）が書けること。
最後までこの授業を楽しんで、これまでに習得したドイツ語能力や学習体験を自分の将来に生かせるかどうかを真剣に考えるようになれたら、さらに理想的です。

【授業の進め方と方法】
使用言語は原則としてドイツ語です。あらかじめ所定のテーマについて、与えられた課題（テクスト）を読んできてもらいます。また今学期は歴史や政治、文化的テーマを多く扱いますが、抽象度の高いテーマに対してもできる限りドイツ語で表現できるよう練習します。話すことでドイツ語の作文の練習を繰り返し、自分の意見をドイツ語でできるだけスムーズに言えるようになるよう、根気よく楽しく練習していきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	イントロダクション、ドイツ語レベルの確認、各自の春学期と夏休みをドイツ語で振り返る
2	19 世紀とドイツ古典派	王様の立派なお城、立派な大聖堂とバロック建築、ゲーテ・シラーの時代、理想的なドイツ語、
3	ドイツの国家統一	"Bildung"と「私が生きる意味」、ドイツとオーストリアで 1848 年に起きたこと、その頃スイスでは？
4	ウィーンと音楽、宮廷文化の遺産	「クラシック音楽」の黄金期、"3B"って何か知ってる？「第九」で大騒ぎ
5	ベルリン、プロイセン、ビスマルク	宰相ビスマルクの政治、ベルリンの工業化と都市化がもたらしたもの
6	第一次世界大戦の勃発、帝国の終焉、その頃チューリヒで	世界戦争と技術革新の果てに、帝国の崩壊とドイツ革命、チューリヒの「キャバレー・ヴォルテール」
7	ヴァイマール共和国の成立	ヴェルサイユ条約と加速するハイパーインフレ、ドイツとオーストリアの難しい関係
8	ベルリン ー 黄金の 20 年代	ドイツを席巻するアメリカ的価値観、「新しい女」の誕生、スイスからやってきた物理学者、芸術家の使命
9	ナチス・ドイツの台頭、亡命する芸術家たち	カフェに集う芸術家たち、追い詰められる表現の自由、独裁への道
10	ナチス・ドイツ政権下のドイツ、オーストリア、ユダヤ人の迫害と絶滅政策	恐怖政治とニュルンベルク法の制定、第二次世界大戦、絶滅政策の特異性と凡庸な悪
11	連合国による占領時代と冷戦の勃発	占領されるドイツ、ベルリンとウィーン、ドイツマルクの導入、東西ドイツの成立
12	奇跡の経済復興とスイスの現実	フォルクスワーゲンの成し遂げたこと、スイスの理想と欺瞞？
13	プレゼンテーション（1）	各自選んだテーマに沿って、一定量のプレゼンテーションを行う、その後にみなで議論
14	プレゼンテーション（2）	各自選んだテーマに沿って、一定量のプレゼンテーションを行う、その後にみなで議論
15	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・所定の予習・復習課題を出します。
・新聞（日刊紙）を読むといいです。
・ドイツ語圏のメディアにはインターネット等で簡単にアクセスできます。SNS 等も効果的に利用して、日頃からそうしたメディアに接するクセをつけると良いでしょう。国際政治などの場面で話題になっている概念をドイツ語ではどう言うか、ドイツ語の語彙を増やすにも最適です。

【テキスト（教科書）】
"Dreimal Deutsch"（Klett, 2000/2005）
その他は適宜コピーで配布します。

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（課題への取り組み）50 %、定期試験（プレゼンテーション）50 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
（今年度より担当します）

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典は必携です（ただし議論の時は使ってはいけません）。

【その他の重要事項】
・各種検定試験の受検を考えている人には、個別に対応します。ぜひ積極的に挑戦して下さい。
・ドイツ語（外国語）の運用能力は、適切なトレーニングで誰でも上達します。でもそれが楽しめるかどうかは、自分の身の回りの全てに言葉（母語でも外国語でも）で反応できるかどうかにかかっています。活字に触れる日常はもちろんのこと、学校で、バイト先で、サークルで、家で家族と、友だちと、パートナーと過ごす時間の中で自分が何をどう思うのか、気持ちを言葉にするのが難しいのはなぜか、相手が何も言ってくれないのはなぜか、自分と周囲の言葉をいつも意識して見つめてみて下さい。皆さんとお目にかかれるのを楽しみにしています。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

フランス語アプリケーション（上級）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, en principe réparti sur deux semestres, est destiné à des étudiants qui se préparent à la vie active et qui veulent communiquer en français, à l'oral comme à l'écrit, dans des situations professionnelles (「ビジネス・フランス語」).

【到達目標】
Ce cours prépare à la vie professionnelle en France ou dans un milieu professionnel francophone. Il est indispensable aux étudiants voulant effectuer un stage professionnalisant en France ou dans un pays francophone (グロバール人材のインターンシップ、など).
Il est également utile à la préparation des examens du DELF ou des "Kentei-shiken", comme à la préparation d'études universitaires en France ou dans un pays francophone.

【授業の進め方と方法】
L'apprentissage sera progressif mais rapide, donc relativement intense. Exercices et activités développeront simultanément les 4 compétences (compréhension de l'oral, de l'écrit ; production orale et écrite). Voir le programme ci-dessous.
Chaque séance de cours sera conclue par quelques éléments de macro-économie et d'actualité économique (15 mn environ).

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 (1) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Présentation du cours et de la méthode. Parties A et B de l'unité 1.
②	Unité 1 (2) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Parties C & D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
③	Unité 2 (1) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
④	Unité 2 (2) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑤	Unité 2 (3) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑥	Unité 3 (1) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑦	Unité 3 (2) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑧	Unité 3 (3) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑨	Unité 4 (1) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Parties A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑩	Unité 4 (2) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑪	Unité 4 (3) ("Vous avez dit 'écolo'?", pp. 56-71)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑫	Unité 5 (1) ("En mission", pp. 72-87)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑬	Unité 5 (2) ("En mission", pp. 72-87)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑭	Unité 5 (3) ("En mission", pp. 72-87)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑮	Récapitulatif	Test final et/ou rendu des derniers travaux.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence active au cours et la préparation régulière des cours sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

【テキスト（教科書）】
OBJECTIF EXPRESS 2 (A2/B1),
Anne-Lyse DUBOIS, Béatrice TAUZIN,
Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris
(ISBN : 978-2-01-155509-0)

【参考書】
La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (par exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests, textes et exposés : 70%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Apprentissage systématique du vocabulaire.

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL mais, s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

【グローバル人材育成推進事業公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

フランス語アプリケーション（上級）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, continuation de celui du premier semestre, est destiné à des étudiants qui se préparent à la vie active et qui veulent communiquer en français, à l'oral comme à l'écrit, dans des situations professionnelles (「ビジネス・フランス語」).

【到達目標】
Ce cours prépare à la vie professionnelle en France ou dans un milieu professionnel francophone. Il est indispensable aux étudiants voulant effectuer un stage professionnalisant en France ou dans un pays francophone (グローバル人材のインターンシップ、など).
Il est également utile à la préparation des examens du DELF (à partir du niveau B1) ou des "Kentei-shiken", comme à la préparation d'études universitaires en France ou dans un pays francophone.

【授業の進め方と方法】
L'apprentissage continuera d'être progressif mais rapide et intense. Exercices et activités diverses développeront simultanément les 4 compétences (compréhension de l'oral, de l'écrit ; production orale et écrite). Voir le programme ci-dessous.
Chaque séance de cours sera conclue par quelques éléments de macro-économie et d'actualité économique (15 mn environ).

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 6 (1) ("Que d'événements !", pp. 88-103)	Orientation pour le 2nd semestre. Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
②	Unité 6 (2) ("Que d'événements !", pp. 88-103)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
③	Unité 6 (3) ("Que d'événements !", pp. 88-103)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
④	Unité 7 (1) ("C'est inacceptable !", pp. 104-119)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑤	Unité 7 (2) ("C'est inacceptable !", pp. 104-119)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑥	Unité 7 (3) ("C'est inacceptable !", pp. 104-119)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑦	Unité 8 (1) ("On en parle dans les médias", pp. 120-135)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑧	Unité 8 (2) ("On en parle dans les médias", pp. 120-135)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑨	Unité 8 (3) ("On en parle dans les médias", pp. 120-135)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑩	Unité 9 (1) ("Ça se discute", pp. 136-151)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑪	Unité 9 (2) ("Ça se discute", pp. 136-151)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑫	Unité 9 (3) ("Ça se discute", pp. 136-151)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑬	Unité 10 (1) ("On en est où ?", pp. 152-167)	Parties A & B + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑭	Unité 10 (2) ("On en est où ?", pp. 152-167)	Parties C & D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑮	Récapitulatif	Test final et/ou rendu des derniers travaux.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
La présence active au cours et la préparation régulière des cours sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

【テキスト（教科書）】
OBJECTIF EXPRESS 2 (A2/B1),
Anne-Lyse DUBOIS, Béatrice TAUZIN,
Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris
(ISBN : 978-2-01-155509-0)

【参考書】
La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (par exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests, textes et exposés : 70%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Apprentissage systématique du vocabulaire

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se passe en salle LL mais, s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

【グローバル人材育成推進事業公開科目】
他学部公開科目として他学部生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

ロシア語アプリケーション（上級）

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA ロシアで養ってきたロシア語能力を維持し、「聴く・話す・読む・書く」力をつけ、ロシア語能力検定試験もしくはロシア文科省認定のロシア語検定 (ＴＲＫИ) の希望する級の合格を目指します。春学期の授業では「聴解・語彙・表現（会話・作文)」に焦点を当てます。

【到達目標】
二つのことを到達目標とします。一つは、これらの試験が持っている独特の形式に慣れること。もう一つは、試験対策という目先のことにとらわれることなく、ロシア語の実力を養成すること。春学期は、聴解、語彙と表現（会話・作文）の練習に焦点を絞ります。

【授業の進め方と方法】
毎回の授業の始めに聴き取りの練習を行います。その際、ＴＲＫИもしくはロシア語能力検定試験の聴解の過去問題及びロシア文化・ロシア人の習慣・生活に関する教材を使います。
また、語彙力は表現力の非常に重要な要素であるため、各々の授業にテーマ (「ロシアと日本の祭り」、「人の外見・性格」、「スポーツ」など) を設定し、そのテーマに関する語彙・表現の知識を深め、各テーマについて話せる・意見を述べられるようになるために練習をします。
なお、みなさんの負担を考慮しながら、ロシア語で「書く」力を養うためにロシア語作文を課題とします（添削して返却します)。
* 受講者の要望・ロシア語レベルに応じて授業の内容及び進度を調整します。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	ロシアでの留学生活	学生によるプレゼンテーション
3	ロシアと日本の迷信	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
4	アニメ "Ｔｒｏｅ ｉｚ Ｐｒｏｓｔｏｋｖａｓｈｉｎｏ"[1/2]	ロシアのアニメの聞き取り練習。
5	アニメ "Ｔｒｏｅ ｉｚ Ｐｒｏｓｔｏｋｖａｓｈｉｎｏ"[続き： 2/2]	ロシアのアニメの聞き取り練習。
6	プレゼント、お祝い	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
7	お正月とクリスマスの習慣	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
8	アニメ "Ｍａｓｈａ ｉ Ｍｅｄｖｅｄ'"	ロシアのアニメの聞き取り練習。
9	スポーツ、オリンピック	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
10	ロシアと日本の食文化	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
11	映画鑑賞 "Ｐｉｔｅｒ FM"[1/3]	ロシアの映画の聞き取り練習。
12	映画鑑賞 "Ｐｉｔｅｒ FM"[続き： 2/3]	ロシアの映画の聞き取り練習。
13	映画鑑賞 "Ｐｉｔｅｒ FM"[続き： 3/3]	ロシアの映画の聞き取り練習。
14	ロシアと日本の祭り	(1) 聴解練習（聴き取りテスト）とその解説。(2) 授業のテーマに関する語彙・表現を復習・練習し、会話の練習をする。
15	まとめ	前期に学習した事柄に関するまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
文章を読み、語彙を予習すること。作文を書くこと。
また、教室に来る前には必ず前週までのプリントを確認し、目を通しておいてください。

【テキスト（教科書)】
プリントを配付します。

【参考書】
宇多文雄 (2011)『表で学ぶロシア語文法の基礎』東洋書店.
宇多文雄 (2009)『ロシア語文法便覧』東洋書店.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、宿題 (40%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
皆さんの要望に応じて、さらにレベルの加減を考えつつ、充実した授業を目指します。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
(国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。)

GA432

ロシア語アプリケーション（上級）

コベルニック　ナディヤ

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語の「聴く・話す・読む・書く」力を維持・向上させ、ロシア語能力検定試験もしくはロシア文科省認定のロシア語検定 (ＴＰＫИ) の希望する級の合格を目指します。秋学期は、「読む・書く」練習及び文法に焦点を当てます。

【到達目標】
二つのことを到達目標とします。一つは、これらの試験が持っている独特の形式に慣れること。もう一つは、試験対策という目先のことにとらわれることなく、ロシア語の実力を養成すること。秋学期は、読む力と書く力をつけるための練習（文法問題・読解・作文）に焦点を絞ります。

【授業の進め方と方法】
読む練習と書く練習に重点をおきます。読解と文法問題の教材には、外国人向けロシア語検定試（ＴＰＫИ）やロシア語能力検定試験の練習問題、あるいはロシアの文化や習慣、社会問題などをテーマとした教材を使い、設問に答える練習を積み重ねていきます。
また、書く力と表現力を養うため、文章の内容をまとめる課題、そしてロシア語作文の課題を出します（添削して返却します）。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、過去問題演習（文法・読解）	授業の進め方についての説明。ロシア語検定試験・ＴＰＫИの過去問題（文法・読解）を解く。
2	文法：数詞と数を表す名詞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。文法の練習。
3	文法：ロシア語の動詞の体とその意味	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
4	文法：不完了体動詞の用法	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
5	文法：完了体動詞の用法	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
6	文法：移動動詞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
7	文法：移動動詞（"V-て行く"と"V-て来る"動詞）	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
8	文法：移動動詞に付加する接頭辞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
9	文法：-sya 動詞の種類	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
10	文法：-sya 動詞の用法	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
11	文法：無人称動詞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
12	文法：形容詞述語の短語尾	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
13	文法：形容詞の比較級と最上級	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
14	文法：関係代名詞	ロシア語検定試験若しくはＴＰＫИの文法・読解問題とその解説。読解と文法の練習。
15	まとめ	後期に学習した事柄に関するまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文章・語彙を予習し、文章の内容のまとめを準備する。
また、提案されたテーマに関して自分の意見をまとめる課題（作文）を 3・４回提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
プリントを配付します。

【参考書】
宇多文雄 (2011)『表で学ぶロシア語文法の基礎』東洋書店.
宇多文雄 (2009)『ロシア語文法便覧』東洋書店.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、宿題 (40%)。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
皆さんの要望に応じて、更にレベルの加減を考えつつ、充実した授業を目指します。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション」科目として履修します。）

GA432

中国語アプリケーション（上級）

周　重雷

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新 HSK（漢語水平考試）問題集を中心に検討し、SA 等で養ってきた中国語能力 (5 級程度) を維持し高め、新 HSK（漢語水平考試）6 級の合格を目指す。（他の中国語検定試験にも対応する）

【到達目標】
それぞれが獲得した中国語能力に見合った社会的評価を得ておくことは、これからの社会において、一定の役にたつ。新 HSK5 級（語彙量 2500）レベルの語学力を維持し、新 HSK6 級（語彙量 5000）レベルに少しでも近づくことを目標とする。各自の中国語をそれぞれのレベルにあわせてきめ細かくチェックし、少しずつスキルアップしていく。

【授業の進め方と方法】
新 HSK 問題集を中心に、各種中国語検定問題に即した課題について問題を解きながら、必要な注意点についてコメント・レクチャーする。受講者の希望により、ある程度課題のレベルや種類の調整をしながら進めていく。基本として中国語で授業を行う。
状況に応じて、現代中国事情に関する資料も取り入れる。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業担当者と一緒に、これまで学んできた中国語を振り返り、自分の中国語能力を再検討する。
第 2 回	発音・ヒアリング	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。
第 3 回	ヒアリング (HSK)	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）の聴解問題を中心に解きながら授業を進める。
第 4 回	ヒアリング (中検)	中国語検定協会問題集（2 級レベル以上）の聴解問題を中心に解きながら授業を進める。
第 5 回	会話	新 HSK 問題（6 級）の口頭試験に倣って口語の練習をする。
第 6 回	語彙 (HSK)	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第 7 回	語彙 (中検)	中国語検定協会問題集の語彙問題や単語表（2 級以上）を中心に、中国語の語彙の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第 8 回	基本文法	構文・態など基本文法事項の確認をする。
第 9 回	文法と修辞	特に日本語話者が間違いやすい「文法項目」を繰り返し復習する。
第 10 回	短文作文	習得した語彙と表現及び文型を用い、比較的短い文章を作る練習をする。
第 11 回	長文作文	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）の「書写」問題に倣って作文の練習をする。
第 12 回	読解 (HSK)	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）の読解問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 13 回	読解 (中検)	中国語検定協会問題集（2 級以上）の読解問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 14 回	総合問題演習	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）の総合問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 15 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教室へ来る前には必ず前週までのプリントを確認し、事前に目を通してくる。

【テキスト（教科書）】
プリント中心になる。

【参考書】
出版社は問いませんが、必ず辞書を持参してください（電子機器も可）。また、自分が使いなれた中国語文法の参考書も持参してください。
また各自の目標に沿って、新 HSK か中国語検定の過去問題集を活用してください。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの結果（40%）、提出物の完成度などの平常点（60%）とする。授業内で発表・討論を行う場合には、それへの貢献も評価の対象となる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
クラス全体に配慮しつつ、なるべく個別の受講者の要望にも応えるようにする。
またより実践的な練習を適宜増やします。

【学生が準備すべき機器他】
LL 教室を利用する。

【その他の重要事項】
新 HSK5 級には「中国語の雑誌や新聞の内容を理解することができ中国語のテレビ番組や映画の内容を理解することができ、中国語を用いて比較的完全なスピーチをすることができる」という目安がある。一方新 HSK6 級には「中国語による情報をスムーズに聞いてまたは読んで理解することができ、口頭または書面で自分の考えをスムーズに発表することができる」という目安がある。自分の中国語学力をチェックし、維持、向上させてください。5 級と 6 級の間の差も大きいと考えられるが、6 級の語学力を確実に獲得するためには現在持っている語学力を繰り返し確認し、更に高いレベルに挑戦してください。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
(国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。)

GA432

中国語アプリケーション（上級）

金　玉英

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 等で養ってきた中国語能力 (5 級程度) を維持し高め、新 HSK（漢語水平考試）６級の合格を目指します。（他の中国語検定試験にも対応します）

【到達目標】
それぞれが獲得した中国語能力に見合った社会的評価を得ておくことは、これからの社会において、一定の役にたつと思います。新 HSK5 級（語彙量 2500）レベルの語学力を維持し、新 HSK6 級（語彙量 5000）レベルに少しでも近づくことを目標とします。各自の中国語をそれぞれのレベルにあわせてきめ細かくチェックし、少しずつスキルアップしていきます。

【授業の進め方と方法】
新 HSK 問題集を中心に、各種中国語検定問題に即した課題について問題を解きながら、必要な注意点についてコメント・レクチャーします。受講者の希望により、ある程度課題のレベルや種類の調整をしながら進めていきます。中国語で授業を行う時間をなるべく多く設けます。
状況に応じて、現代中国事情に関する資料も取り入れます。また、授業の進度も調整します。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業担当者と一緒に、これまで学んできた中国語を振り返り、自分の中国語能力を再検討する。
第 2 回	発音・ヒアリング 1	「中国語音節表」を使用し、自分の「ピンイン」に対する理解を確認し、発音の面からみた自分の「ヒアリング」の弱点を発見する。
第 3 回	発音・ヒアリング 2	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）や中国語検定協会問題集（2 級レベル）「聴解 (短文)」の問題を中心に解きながら授業を進める。
第 4 回	発音・ヒアリング 3	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）や中国語検定協会問題集（2 級レベル）「聴解（長文）」の問題を中心に解きながら授業を進める。
第 5 回	発音・ヒアリング 4	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）や中国語検定協会問題集（2 級レベル）「聴解（複合問題）」の問題を中心に解きながら授業を進める。
第 6 回	語彙 1	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）を中心に、中国語の語彙（体言系）の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第 7 回	語彙 2	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」の語彙の問題や単語表（3 級または 2 級程度）を中心に、中国語の語彙（用言系）の特徴を理解し、単語を暗記、応用できるようにする。
第 8 回	文法 1	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい文法項目（構文系）を繰り返し復習する。
第 9 回	文法 2	基本文法事項の確認と特に日本語話者が間違いやすい文法項目（虚詞系）を繰り返し復習する。
第 10 回	総合演習問題 1	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」（2 級、2010 年度 A 版以降のもの）の総合問題を中心に解きそれについて担当者が解説する。
第 11 回	総合問題演習 2	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」（2 級、2010 年度 B 版以降のもの）の総合問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。、
第 12 回	総合問題演習 3	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」（2 級、2011 年度 A 版以降のもの）の総合問題を中心に解きそれについて担当者が解説する。
第 13 回	総合問題演習 4	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」（2 級、2011 年度 B 版以降のもの）の総合問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 14 回	総合問題演習 5	新 HSK 問題集（5 級 6 級レベル）語彙表や「中国語検定協会問題集」（2 級、2012 年度版以降のもの）の総合問題を中心に解き、それについて担当者が解説する。
第 15 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教室へ来る前には必ず前週までのプリントを確認し、事前に目を通してきてください。

【テキスト（教科書）】
プリント中心になります。

【参考書】
出版社は問いませんが、必ず辞書を持参してください。また、自分が使いなれた中国語文法の参考書も持参してください。

【成績評価の方法と基準】
テスト 50%、提出物 25%、授業内の議論への貢献 25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
新 HSK5 級には「中国語の雑誌や新聞の内容を理解すること・中国語のテレビ番組や映画の内容を理解することができ、中国語を用いて比較的完全なスピーチをすることができる」という目安があります。また新 HSK6 級には「中国語による情報をスムーズに聞いてまたは読んで理解することができ、口頭または書面で自分の考えをスムーズに発表することができる」という目安があります。自分の中国語学力をチェックし、維持、向上させてください。5 級と 6 級の間のギャップは大きいと考えられます。6 級の語学力を確実に獲得するためには現在持っている語学力を繰り返し確認し、更に高いレベルに挑戦してください。

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

スペイン語アプリケーション（上級）

瓜谷　アウロラ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Preparación del DELE

【到達目標】
Aprender el idioma español del nivel
avanzado para poder aprobar el examen del DELE B2.

【授業の進め方と方法】
Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Examen1 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1) Comprensión auditiva(Tarea1) (Tarea1)
2	Examen1 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
3	Examen1 (3)	Comprensión de Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
4	Examen1 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3) Comprensión auditiva (Tarea5)
5	Examen1 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4) Tiempo de ajuste
6	Examen1 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
7	Examen1 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
8	Examen2 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1) Comprensión auditiva (Tarea1)
9	Examen2 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
10	Examen2 (3)	Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
11	Examen2 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3) Comprensión auditiva(Tarea5)
12	Examen2 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4) Tiempo de ajuste
13	Examen2 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
14	Examen2 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
15	Aclaración dudas.	Tiempo de ajuste

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora.El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】
Destino DELE, B2

【参考書】
Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】
Participación en clase 100%. No habrá examen final. Cada clase es como si fuera un examen. Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante.
Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Ninguno en especial.

【その他の重要事項】
Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.
Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase.La expresión escrita será devuelta a cada estudiante tras su corrección.
Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

スペイン語アプリケーション（上級）

瓜谷　アウロラ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Preparación del DELE

【到達目標】
Aprender el idioma español del nivel
avanzado para poder aprobar el examen del DELE B2

【授業の進め方と方法】
Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Examen3 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1) Comprensión auditiva (Tarea1)
2	Examen3 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
3	Examen3 (3)	Comprensión de Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
4	Examen3 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3) Comprensión auditiva (Tarea5)
5	Examen3 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4) Tiempo de ajuste
6	Examen3 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
7	Examen3 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
8	Examen4 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1) Comprensión auditiva (Tarea1)
9	Examen4 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
10	Examen4 (3)	Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
11	Examen4 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3) Comprensión auditiva(Tarea5)
12	Examen4 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4) Tiempo de ajuste
13	Examen4 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
14	Examen4 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
15	Aclaración dudas.	Tiempo de ajuste

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora.El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】
Destino DELE, B2.

【参考書】
Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】
Participación en clase 100%. No habrá examen final. Cada clase es como si fuera un examen. Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante.
Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá al aprobado.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Ninguno en especial.

【その他の重要事項】
Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.
Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase.La expresión escrita será devuelta a cada estudiante tras su corrección.
Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。
（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

朝鮮語アプリケーション（上級）

富所　明秀

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なジャンルの文に触れることで，韓国社会の理解を深めながら読解力を養います.

【到達目標】
・文法を理解して丁寧に読解すること.
・辞書を活用して長文を読解すること.
・まとまったセンテンスを聞き取って訳せるようにすること.
・正しい発音で音読できること.

【授業の進め方と方法】
・授業開始に小テストを実施
・教科書の文法説明，音読と聞き取り練習
・新聞記事翻訳

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	第１課 (1/2)	教科書
第２回	第１課 (2/2)	教科書
第３回	第２課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第４回	第２課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第５回	第３課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第６回	第３課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第７回	第４課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第８回	第４課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第９回	第５課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１０回	第５課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１１回	第６課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１２回	第６課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１３回	リスニング①	聞き取り練習
第１４回	リスニング②	聞き取り練習
第１５回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・小テストの準備をしてください.
・新聞記事の翻訳をして来てください.

【テキスト（教科書）】
使用する教科書については１回目の授業で紹介します.
朝鮮語の辞書を持参してください.

【参考書】
朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】
・小テスト２０％
・新聞記事翻訳３０％
・期末試験５０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
CD の活用

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

GA432

朝鮮語アプリケーション（上級）

富所　明秀

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なジャンルの文に触れることで，韓国社会の理解を深め読解力を養います.

【到達目標】
・文法を理解して丁寧に読解すること.
・辞書を活用して長文を読解すること.
・まとまったセンテンスを聞き取って訳せること.
・正しい発音で音読できること.

【授業の進め方と方法】
・授業開始に小テスト実施
・教科書の文法説明，音読と聞き取り
・新聞記事の翻訳

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	第７課 (1/2)	教科書
第２回	第７課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第３回	第８課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第４回	第８課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第５回	第９課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第６回	第９課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第７回	第１０課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第８回	第１０課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第９回	第１１課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１０回	第１１課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１１回	第１２課 (1/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１２回	第１２課 (2/2)	教科書，新聞記事翻訳
第１３回	リスニング①	聞き取り練習
第１４回	リスニング②	聞き取り練習
第１５回	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・小テストの準備をしてください.
・新聞記事の翻訳を行ってください.

【テキスト（教科書）】
春学期に同じ

【参考書】
朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】
・小テスト２０％
・翻訳３０％
・期末試験５０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
CD の活用など

【経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成公開科目】
他学部公開科目として他学部の学生も履修できます。（国際文化学部生は「メディアコミュニケーション科目」として履修します。）

出力一覧

A0341 コミュニティ論Ⅰ 1
A0342 コミュニティ論Ⅱ 2
A0100 教育法Ⅰ 3
A0101 教育法Ⅱ 3
A0235 政治体制論Ⅰ 4
A0236 政治体制論Ⅱ 4
A0249 ジェンダー論Ⅰ 5
A0250 ジェンダー論Ⅱ 6
A0900 協働組合論 6
C0233 ジェンダー論 7
C0244 宗教と社会 8
C0910 中国の文化Ⅰ（現代中国社会） 9
C2013 環境法Ⅰ 10
C2014 環境法Ⅱ 10
C2015 環境法Ⅲ 11
C2018 比較環境法 11
C7719 地域活性論 12
C7302 コミュニティ社会論Ⅰ 13
C7303 コミュニティ社会論Ⅱ 14
C7272 シティズンシップ論 15
C7707 日本語教育概説 17
C7708 多文化社会における日本語教育Ａ 18
C7709 多文化社会における日本語教育Ｂ 19
C7710 多文化社会における日本語教育Ｃ 20
C7711 多文化社会における日本語教育Ｄ 21
C7712 多文化社会における日本語教育Ｅ 22
P6053 文化人類学方法論 23
K6233 社会政策論Ａ 24
K6234 社会政策論Ｂ 25
K6243 社会保障論Ａ 25
K6244 社会保障論Ｂ 26
K6223 環境政策論Ａ 26
K6224 環境政策論Ｂ 27
L0601 環境政策論 27
L0602 環境自治体論 28
L1915 社会ネットワーク論Ⅰ 28
L1916 社会ネットワーク論Ⅱ 29
L0609 社会計画論Ⅰ 29
L0610 社会計画論Ⅱ 30
L0668 社会保障法Ⅰ 30
L0669 社会保障法Ⅱ 31
L0121 社会調査Ⅰ 31
L0122 社会調査Ⅱ 32
L0713 アメリカのジャーナリズム 32
L0620 特講（エネルギー自治実践論） 33
L0605 環境社会学Ⅰ 33
L0606 環境社会学Ⅱ 34
L0615 農業・食料論 34
L0614 環境法 35
N1108 都市住宅政策論 35
N1105 地域文化政策論 36
N1207 地域遺産マネジメント論 36
N0063 教育学 37
N0123 老年学 38
N1208 地域経営論 38
N1209 地域ツーリズム 39
N1201 コミュニティアート 39
N0061 ホスピタリティ学原論 (2013 年度以前入学生) ／ホスピタリティ論 (2014 年度以降入学生) 40
N1221 非営利組織の運営 (2013 年度以前入学生) ／ＮＰＯ論 (2014 年度以降入学生) 40
N0119 社会学特講 41
N1227 環境教育論 (2013 年度以前入学生) ／環境政策論 (2014 年度以降入学生) 42
N1222 居住福祉 (2013 年度以前入学生) ／居住福祉論 (2014 年度以降入学生) 43
N1203 住民参加の手法 44
N1214 社会起業論 (2013 年度以前入学生) ／ソーシャルイノベーション論 (2014 年度以降入学生) 44
N1117 雇用政策論 45
N1219 災害支援論 46
N1111 地域政策論 (2013 年度以前入学生) ／政策評価論 (2014 年度以降入学生) 47
A0664 グローバル・ガバナンス 47
A0717 国際協力論Ⅰ 49
A0718 国際協力論Ⅱ 52
A0749 国際機構論Ⅰ 54
A0750 国際機構論Ⅱ 55
A0761 グローバルガバナンス特講Ⅰ／エネルギー資源と国際政治 56
A0762 グローバルガバナンス特講Ⅱ／エネルギー資源と国際政治 57
A0721 アジア国際政治特講／海の国際政治学Ⅰ 58
A0722 アジア国際政治特講／海の国際政治学Ⅱ 59
A0771 朝鮮半島の政治と社会Ⅰ 59
A0772 朝鮮半島の政治と社会Ⅱ 60
A0736 オセアニアの政治と社会Ⅰ 60
A0737 オセアニアの政治と社会Ⅱ 61
A0777 平和・軍事研究Ⅰ 61
A0733 平和・軍事研究Ⅱ 62
A0434 日露関係論Ⅰ 62
A0435 日露関係論Ⅱ 64
A0644 外交総合講座 66
A3811 イスラム世界論Ⅰ 67
A3812 イスラム世界論Ⅱ 68
C0242 国際文化協力 69
C1040 国際関係研究１ 70
C1041 国際関係研究２ 71
C1047 地域紛争とエスニシティ 72
C1048 実践国際協力 73
C0243 平和学 74
C1046 地域協力・統合 75
C2004 国際法Ⅰ 76
C2005 国際法Ⅱ 76
C2017 国際環境法 77
B1052 国際社会論 78
P6121 グローバル社会の地域研究 79
K6150 国際関係論Ａ 80
K6151 国際関係論Ｂ 80
N1113 国際福祉論 (2013 年度以前入学生) ／国際支援論 (2014 年度以降入学生) 81
L0758 南北問題 81
L0763 地域研究（イスラーム） 82
L0764 地域研究（中国） 82
A0065 経済法Ⅰ 83
A0066 経済法Ⅱ 83
A4410 経営分析Ⅰ 84
A4411 経営分析Ⅱ 85
A4204 基礎統計学Ⅰ 86
A4208 基礎統計学Ⅱ 87
A4032 ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ 88
A4029 簿記入門Ⅰ・Ⅱ 89
A4506 流通論Ⅰ 90
A4507 流通論Ⅱ 91
A4224 会計学入門Ⅰ 92
A4227 会計学入門Ⅱ 94
A4300 経営組織論Ⅰ 96
A4301 経営組織論Ⅱ 97
C2112 環境経営論Ⅰ 98
C2113 環境経営論Ⅱ 99
C7268 アントレプレナーシップ論Ⅰ 100
C7269 アントレプレナーシップ論Ⅱ 101
C7350 就業機会とキャリア 102
C7718 就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- 103
B1050 財務会計 105
B1051 マーケティング 106
B1053 エコノミクス 107

A9021 スポーツビジネス論Ⅰ 108
A9022 スポーツビジネス論Ⅱ 109
P6127 グローバル経済論 110
K6549 特別講義（空間データ分析入門 A） 111
K6550 特別講義（空間データ分析入門 B） 112
K6551 特別講義（現代インド経済論） 113
K6501 特別講義 （寄付講座　証券市場論） 114
K6062 財政学A 114
K6064 財政学B 115
K6063 財政学A 115
K6065 財政学B 116
K6154 環境経済論A 116
K6156 環境経済論B 117
K6155 環境経済論A 117
K6157 環境経済論B 118
K6054 日本経済論A 118
K6056 日本経済論B 119
K6055 日本経済論A 119
K6057 日本経済論B 120
K6235 労働経済論A 120
K6236 労働経済論B 121
K6229 経済政策論A 121
K6230 経済政策論B 122
K6058 国際経済論A 122
K6060 国際経済論B 123
K6059 国際経済論A 123
K6061 国際経済論B 124
K6162 アメリカ経済論A 124
K6163 アメリカ経済論B 125
L1906 産業社会学Ⅰ 125
L1907 産業社会学Ⅱ 126
L0816 金融システム論 126
L0603 環境経済学Ⅰ 127
L0604 環境経済学Ⅱ 127
N0122 経営学 128
N1216 ソーシャルマネジメント論 128
N1217 ソーシャルファイナンス論 129
N0126 企業と経済の動向 130
A0447 アメリカ外交史 130
A3152 考古学概論 131
A3113 日本考古学 131
A3116 日本近世史 132
A3157 日本史特講Ⅳ 132
A3208 東洋近現代史 133
A3164 東洋史特講Ⅲ 133
A3171 西洋史特講Ⅳ 134
A3809 民俗学Ⅰ 134
A3810 民俗学Ⅱ 135
A2905 米文学史A 135
A2906 米文学史B 136
C0962 英語圏の文化Ⅲ（現代事情） 137
C0967 英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史） 138
C2314 ヨーロッパ環境史論Ⅰ 140
C2315 ヨーロッパ環境史論Ⅱ 141
C7193 学習の社会史A 142
C7194 学習の社会史B 143
P6027 アジア・太平洋国際関係史 143
P6029 在日朝鮮人の歴史 145
P6023 ギリシヤの文化と社会 146
P6025 古代日本・中国の法と社会 147
P6117 自然史 147
N1114 福祉の思想と歴史Ⅰ (2013 年度以前入学生) ／福祉の思想と歴史 (2014 年度以降入学生) 148
A0114 法哲学Ⅰ 149
A0115 法哲学Ⅱ 149
A0349 公共哲学Ⅱ 150
A0348 公共哲学Ⅰ 151
A2241 科学哲学１ 152
A2242 科学哲学２ 152
A2245 現代思想２（フランスの思想）１ 153
A2246 現代思想２（フランスの思想）２ 154
A2251 宗教学１（伝統宗教）１ 155
A2252 宗教学１（伝統宗教）２ 155
A3817 環境と倫理（１） 156
A3818 環境と倫理（２） 156
A2224 哲学特講（７）－１ 157
C0915 中国の文化Ⅵ（古典思想・文学） 158
C1031 宗教社会論Ⅱ (キリスト教と社会運動) 159
C1032 宗教社会論Ⅲ (イスラーム思想) 160
C2311 環境哲学基礎論 161
C2301 仏教思想 161
P6111 法哲学 162
P6129 政治思想 163
P6019 人間存在論 164
P6653 ドイツの思想Ⅰ 165
P6654 ドイツの思想Ⅱ 166
P6035 キリスト教思想論 167
L0065 環境倫理 168
N1058 福祉国家論 (2013 年度以前入学生) 169
A3420 生物・土壌地理学及び実験Ⅰ 169
A3421 生物・土壌地理学及び実験Ⅱ 170
A3422 気候・気象学及び実験Ⅰ 171
A3423 気候・気象学及び実験Ⅱ 172
A3424 海洋・陸水学及び実験Ⅰ 172
A3425 海洋・陸水学及び実験Ⅱ 173
A3471 地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅰ 173
A3472 地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅱ 174
A3426 社会経済地理学（１） 174
A3427 社会経済地理学（２） 175
A3428 社会経済地理学（３） 175
A3481 社会経済地理学（４）（エコツーリズム） 176
A3482 文化地理学（１） 176
A3483 文化地理学（２） 177
A3819 歴史地理学（１） 177
A3820 歴史地理学（２） 178
P6051 人文地理学セミナー 179
A2553 日本文芸批評史 A 179
A2555 日本文芸批評史 B 180
A2657 日本文芸研究特講（１）上代A 181
A2658 日本文芸研究特講（１）上代B 182
A2661 日本文芸研究特講（２）中古A 182
A2662 日本文芸研究特講（２）中古B 183
A2665 日本文芸研究特講（３）中世 A 183
A2666 日本文芸研究特講（３）中世B 184
A2669 日本文芸研究特講（４）近世A 184
A2670 日本文芸研究特講（４）近世B 185
A2677 日本文芸研究特講（６）現代A 185
A2678 日本文芸研究特講（６）現代B 186
A2681 日本文芸研究特講（７）漢文A 186
A2682 日本文芸研究特講（７）漢文B 187
A2693 日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史A 188
A2694 日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史B 189
A2703 日本文芸研究特講（１５）国際日本学A 189
A2704 日本文芸研究特講（１５）国際日本学B 190
A2561 中国文芸史 A 191
A2563 中国文芸史 B 192
A2907 英米文学講義ＩA 192
A2908 英米文学講義ＩB 193
A2909 英米文学講義ⅡA 193
A2910 英米文学講義ⅡB 194
A2965 英米文学特殊講義Ⅰ 195
A2966 英米文学特殊講義Ⅱ 196
A2967 英米文学特殊講義Ⅲ 197
A2968 英米文学特殊講義Ⅳ 198
A2824 比較文学A 199
A2825 比較文学B 200
A2569 音楽芸能史特殊研究 A 200
A2571 音楽芸能史特殊研究 B 201
C0916 中国の文化Ⅶ（近代文学） 201
C0917 中国の文化Ⅷ（現代文学） 202
C0918 中国の文化Ⅸ（中国俗文学） 203
C1010 他者イメージ論 204

C0872 映像と文学 . . . 205
C0854 現代美術論 . . . 206
P6003 文章論－文章表現の実践 . . . 207
P6005 文芸創作講座 . . . 208
P6007 日本芸能史論 . . . 209
P6009 身体表現論（バレエの世界） . . . 210
P6011 美術論 . . . 212
P6013 芸術と人間 . . . 213
P6655 ドイツの文学Ⅰ . . . 214
P6656 ドイツの文学Ⅱ . . . 214
P6675 ドイツの芸術Ⅰ . . . 215
P6676 ドイツの芸術Ⅱ . . . 215
A3814 現代のコモンセンス . . . 216
A2602 情報リテラシー実習Ⅱ . . . 217
A5201 キャリア・マネジメントⅠ . . . 218
A5202 キャリア・マネジメントⅡ . . . 219
C2504 キャリア入門 . . . 220
C7083 職業選択論Ⅰ . . . 221
C7252 職業選択論Ⅱ . . . 222
C7270 職業キャリア論 . . . 223
C7720 就業応用力養成Ⅰ . . . 224
C7721 就業応用力養成Ⅱ . . . 224
A9037 アスリートキャリア論 . . . 225
P6108 ＩＴリテラシー . . . 226
A9214 リーダーシップ論Ⅰ . . . 227
A9215 リーダーシップ論Ⅱ . . . 228
A9220 アスリートキャリア論 . . . 229
A0334 現代メディア論 . . . 230
A0132 法と遺伝学Ⅰ . . . 231
A0133 法と遺伝学Ⅱ . . . 232
A2981 比較文化論（１） . . . 233
A3729 身体活動と健康 . . . 234
A2982 英米文化概論 A . . . 234
A2983 英米文化概論 B . . . 235
A3622 発達心理学 . . . 236
C0960 英語圏の文化Ⅰ（文化史） . . . 237
C0963 英語圏の文化Ⅳ（文学と社会Ａ） . . . 238
C0940 ドイツ語圏の文化Ⅰ . . . 239
C0920 朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史） . . . 240
C0944 フランス語圏の文化Ⅲ（文学） . . . 241
C0932 ロシア・東欧の文化 . . . 242
C0931 ロシア・中央アジアの文化 . . . 243
C1000 比較表象文化論 . . . 244
C0911 中国の文化Ⅱ（多民族社会中国） . . . 245
C0231 言語文化概論 . . . 246
C1044 移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ） . . . 247
C0922 アジアの伝統芸能 . . . 248
C2416 環境科学Ⅰ . . . 249
C2417 環境科学Ⅱ . . . 250
C2418 環境科学Ⅲ . . . 251
C2413 自然環境政策論Ⅰ . . . 252
C2414 自然環境政策論Ⅱ . . . 253
C7322 多文化社会論Ⅰ . . . 253
C7313 アート・マネジメント論 . . . 255
B3001 サステイナブルデザイン . . . 257
B3011 建築フォーラム . . . 258
B2051 都市デザイン . . . 259
P6106 中国の民族と文化 . . . 260
P6039 異文化コミュニケーション論 . . . 260
P6031 比較民俗学 . . . 261
P6105 総合講座－沖縄を考える－ . . . 262
P6657 比較文化Ⅰ . . . 263
P6658 比較文化Ⅱ . . . 264
P6659 ドイツの文化と社会Ⅰ . . . 264
P6660 ドイツの文化と社会Ⅱ . . . 265
P6661 フランスの文化と社会Ⅰ . . . 265
P6662 フランスの文化と社会Ⅱ . . . 266
P6663 ロシアの文化と社会Ⅰ . . . 267
P6664 ロシアの文化と社会Ⅱ . . . 268
P6665 中国の文化と社会Ⅰ . . . 269
P6666 中国の文化と社会Ⅱ . . . 270
P6667 朝鮮の文化と社会Ⅰ . . . 270
P6668 朝鮮の文化と社会Ⅱ . . . 271
P6669 日本の文化と社会Ⅰ . . . 272
P6670 日本の文化と社会Ⅱ . . . 272
P6123 人間と地球環境 . . . 273
P6063 自然環境のしくみとその変貌 . . . 273
P6075 相対性理論と宇宙 . . . 274
P6115 エネルギーを考える . . . 275
P6069 コンピュータの裏側 . . . 276
P6077 現代の錬金術 . . . 277
P6079 原子核と素粒子－ミクロの世界－ . . . 278
P6085 生命情報科学 . . . 279
P6097 物質科学 . . . 280
P6125 イオンの科学 . . . 281
P6201 スポーツ科学Ⅰ . . . 282
P6202 スポーツ科学Ⅱ . . . 282
P6203 スポーツ科学Ⅰ . . . 283
P6204 スポーツ科学Ⅱ . . . 283
P6205 スポーツ科学Ⅰ . . . 284
P6206 スポーツ科学Ⅱ . . . 284
P6207 スポーツ科学Ⅰ . . . 285
P6208 スポーツ科学Ⅱ . . . 286
P6209 スポーツ科学Ⅰ . . . 286
P6210 スポーツ科学Ⅱ . . . 287
P6211 スポーツ科学Ⅰ . . . 288
P6212 スポーツ科学Ⅱ . . . 289
P6213 スポーツ科学Ⅰ . . . 289
P6214 スポーツ科学Ⅱ . . . 290
P6215 スポーツ科学Ⅰ . . . 291
P6216 スポーツ科学Ⅱ . . . 292
P6217 スポーツ科学Ⅰ . . . 292
P6218 スポーツ科学Ⅱ . . . 293
P6219 スポーツ科学Ⅰ . . . 294
P6220 スポーツ科学Ⅱ . . . 295
P6221 スポーツ科学Ⅰ . . . 296
P6222 スポーツ科学Ⅱ . . . 297
P6223 スポーツ科学Ⅰ . . . 298
P6224 スポーツ科学Ⅱ . . . 299
P6113 アラブの言語と文化 . . . 300
P6041 アフロアジア入門 . . . 301
K6209 環境科学Ａ . . . 302
K6210 環境科学Ｂ . . . 303
K6314 地球環境論 A . . . 303
K6315 地球環境論 B . . . 304
N1213 文化環境創造論 . . . 304
N1309 異文化心理学 . . . 305
N0062 日本人の心理特性と文化 . . . 306
N0158 ヘルスプロモーション . . . 306
A9207 スポーツ方法論 . . . 307
A9221 スポーツメディア論 . . . 308
A0354 外国書講読（独語）Ⅰ . . . 309
A0355 外国書講読（独語）Ⅱ . . . 309
A2806 言語学概論Ａ . . . 310
A2807 言語学概論Ｂ . . . 310
A2913 言語学講義ＩＡ . . . 311
A2914 言語学講義ＩＢ . . . 311
A2915 言語学講義ⅡＡ . . . 312
A2916 言語学講義ⅡＢ . . . 312
A2810 社会言語学 . . . 313
A2811 応用言語学 . . . 314
A2804 英語学概論Ａ . . . 314
A2805 英語学概論Ｂ . . . 315
A2911 英語学講義Ａ . . . 316
A2912 英語学講義Ｂ . . . 316
A2808 英語・言語学講義Ａ . . . 317
A2809 英語・言語学講義Ｂ . . . 318
A2923 英語・言語学特殊講義Ａ . . . 318
A2924 英語・言語学特殊講義Ｂ . . . 319
A2270 ギリシア語１ . . . 320
A2271 ギリシア語２ . . . 321
A2268 ラテン語１ . . . 321

A2269 ラテン語２ 322
C0685 中国語アプリケーション（水曜・2 限） 322
C0688 中国語アプリケーション（水曜・4 限） 323
C0687 中国語アプリケーション（金曜・２限） 324
C0686 中国語アプリケーション（火曜・3 限） 325
C0913 中国の文化Ⅳ（中国語の構造） 326
C0914 中国の文化Ⅴ（中国語と日本語） 327
C0966 英語圏の文化Ⅶ（英語の構造） 328
C0901 世界の中の日本語 329
C1021 日英翻訳論 330
C1020 間文化性研究翻訳論 330
P6601 ドイツ語初級Ⅰ 331
P6602 ドイツ語初級Ⅱ 332
P6603 ドイツ語コミュニケーションⅢ 332
P6604 ドイツ語コミュニケーションⅣ 333
P6605 ドイツ語講読Ⅰ 333
P6606 ドイツ語講読Ⅱ 334
P6677 留学ドイツ語Ⅰ 335
P6678 留学ドイツ語Ⅱ 336
P6609 フランス語初級Ⅰ 336
P6610 フランス語初級Ⅱ 337
P6611 フランス語中級Ⅰ 338
P6612 フランス語中級Ⅱ 339
P6615 フランス語表現法Ⅰ 339
P6616 フランス語表現法Ⅱ 340
P6617 フランス語講読Ⅰ 341
P6618 フランス語講読Ⅱ 342
P6619 ロシア語初級Ⅰ 342
P6620 ロシア語初級Ⅱ 343
P6621 ロシア語中級Ⅰ 343
P6622 ロシア語中級Ⅱ 344
P6623 ロシア語コミュニケーションⅠ 344
P6624 ロシア語コミュニケーションⅡ 345
P6625 ロシア語講読Ⅰ 345
P6626 ロシア語講読Ⅱ 346
P6627 時事ロシア語Ⅰ 346
P6628 時事ロシア語Ⅱ 347
P6629 中国語初級Ⅰ 347
P6630 中国語初級Ⅱ 348
P6631 中国語コミュニケーションⅢ 348
P6632 中国語コミュニケーションⅣ 349
P6633 中国語表現法Ⅲ 349
P6634 中国語表現法Ⅳ 350
P6671 時事中国語Ⅰ 350
P6672 時事中国語Ⅱ 351
P6635 検定中国語Ⅲ 351
P6636 検定中国語Ⅳ 352
P6679 中国語講読Ⅰ 352
P6680 中国語講読Ⅱ 353
P6637 スペイン語初級Ⅰ 353
P6638 スペイン語初級Ⅱ 354
P6639 スペイン語中級Ⅰ 354
P6640 スペイン語中級Ⅱ 355
P6673 スペイン語上級Ⅰ 355
P6674 スペイン語上級Ⅱ 356
P6641 スペイン語コミュニケーションⅢ 356
P6642 スペイン語コミュニケーションⅣ 357
P6643 朝鮮語初級Ⅰ 357
P6644 朝鮮語初級Ⅱ 358
P6645 朝鮮語中級Ⅰ 358
P6646 朝鮮語中級Ⅱ 359
A0451A Short Introduction to Japanese Politics 359
A6169General Topics I: Introduction to Tourism Studies 360
A6282General Topics II: Tourism Development in Japan 361
A6281Event Management 362
A6344Special Topics I: Sustainable Tourism Management 363
A6331International Relations of the Asia-Pacific 364
A6321Race, Class and Gender II: Global Inequalities . . 365
C0534 英語アプリケーション（月曜・5 限）Instant Fluency 366
C0531 英語アプリケーション（火曜・4 限）Culture, why are there differences? 368
C0538 英語アプリケーション（火曜・4 限）Why culture matters?-truths and fallacies 369
C0532 英語アプリケーション（金曜・3 限）The Art and Science of Persuation 370
C0625 フランス語アプリケーション（金曜・2 限） 371
C0626 フランス語アプリケーション（金曜・2 限） 372
C0627 フランス語アプリケーション（木曜・2 限） 373
C0628 フランス語アプリケーション（月曜・3 限） 374
C0950 カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A） 375
C0951 カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B） 376
P6613 フランス語コミュニケーションⅢ 377
P6614 フランス語コミュニケーションⅣ 377
C0952 カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A） 378
C0953 カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B） 379
A6301Topics in Contemporary Art 380
P6124Human Impact on the Global Environment 381
A0625Global Governance 382
K6541 特別講義（グローバル観光論Ⅰ） 383
K6542 特別講義（グローバル観光論Ⅱ） 384
K6543 特別講義（グローバル観光論Ⅲ） 384
K6544 特別講義（グローバル観光論Ⅳ） 385
K6545 特別講義（グローバル観光論Ⅴ） 385
K6546 特別講義（グローバル観光論Ⅵ） 386
K6547 特別講義（英語でマクロ経済学 A） 386
K6548 特別講義（英語でマクロ経済学 B） 387
A6601【ERP】General Topics I: Urban Society 388
A6602【ERP】General Topics I: Space in Japan 389
A6159Introduction to Political Science 390
A6604【ERP】General Topics I: Introduction to Comparative Politics 391
A6605【ERP】General Topics II: Tokyo Tales-discovering the hidden city 392
A6606【ERP】General Topics II: Modern Olympics Movement 393
A6611【ERP】General Topics II: American Politics and Foreign Policy 394
A6608【ERP】General Topics II: Food and Society 395
A6607【ERP】General Topics II: Urban Sociology 396
A6609【ERP】General Topics II: Japanese Politics 397
A6270Public Policy 398
A6612【ERP】Special Topics I: Global Political Economy 399
C0599 ドイツ語アプリケーション（上級） 400
C0600 ドイツ語アプリケーション（上級） 401
C0629 フランス語アプリケーション（上級） 402
C0630 フランス語アプリケーション（上級） 403
C0657 ロシア語アプリケーション（上級） 404
C0658 ロシア語アプリケーション（上級） 405
C0689 中国語アプリケーション（上級） 406
C0690 中国語アプリケーション（上級） 407
C0722 スペイン語アプリケーション（上級） 408
C0723 スペイン語アプリケーション（上級） 409
C0757 朝鮮語アプリケーション（上級） 410
C0758 朝鮮語アプリケーション（上級） 410

ZA339

Marketing Management

Takamasa Fukuoka

Credit：2 | Semester：Spring | Year：3〜4
Day/Period：Mon 3rd

【Course outline and objectives】
To explore effective marketing strategies through case studies. Today, investing in marketing strategies has become more important for businesses and local governments because of the big impact it can have on company sales.
In this course, students will explore key success factors in marketing, using basic marketing theories and techniques to analyze case studies. We also discuss and develop future strategies and outlooks for companies drawn from case studies.

【Course goal】
The purpose of this course is to learn skills to analyze companies' marketing strategies by using basic marketing theories and techniques while learning about effective marketing strategies in a changing business environment.

【Course method(s)】
This course is conducted based on the assumption that students know or have studied basic marketing theories and techniques. Students are expected to read the handouts in advance of each lecture.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Course introduction	Course introduction
2	Basic Marketing theory and techniques (review)	Review basic marketing theories and techniques
3	Case study (1)	Opportunity analysis, market segmentation, and market targeting
4	Case study (2)	Opportunity analysis, market segmentation, and market targeting
5	Case study (3)	Product and service strategy and brand management
6	Case study (4)	Product and service strategy and brand management
7	Case study (5)	Integrated marketing communication strategy and management
8	Case study (6)	Integrated marketing communication strategy and management
9	Case study (7)	Marketing channel and supply chain strategy and management
10	Case study (8)	Marketing channel and supply chain strategy and management
11	Case study (9)	Pricing strategy and management
12	Case study (10)	Pricing strategy and management
13	Case study (11)	Global marketing strategy and management
14	Case study (12)	Global marketing strategy and management
15	Review and Final Exam	Review and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class,.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】
· Philip Kotler and Kevin Lane Keller, *Marketing Management* 14th edition (Pearson, 2012)
· Roger A.Kerin and Robert A.Peterson, *Strategic Marketing* Problems:*Cases and Comments* 13th edition(Pearson, 2013)

【Grading criteria】
Evaluation will be based on class participation (40%) and the final exam (60%).

【Changes following student comments】
more approaches need to be considered

【Prerequisite】
None.

Introduction to Strategic Management

年次／ 2 単位　　［春学期授業］

安藤　直紀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Why do some firms succeed and others fail? Competitive strategy of firms explains a substantial part of their success and survival in markets. This course introduces students to key concepts and frameworks of strategic management. At the end of this course, students will be able to understand how firms gain competitive advantages and compete with rivals. The contents of this course will become a basis for studying other courses on strategic management.

【到達目標】
Objectives of this course are:
1. To learn how to analyze firms' external environments and internal resources.
2. To understand business level and corporate level strategies.
3. To understand competitive actions and responses of firms.
4. To build skills in analyzing firms' success and failure.
5. To develop a capacity to think strategically.

【授業の進め方と方法】
Each session consists of lecture and discussion. Lecture introduces students to basic concepts and frameworks. Discussion and in-class exercises with regard to the concepts and frameworks, as well as case analysis, are conducted.
Besides, students work on team project during the semester. A team consists of 3-4 students. Each team is required to conduct and write up a case analysis. In week 14, teams make a presentation of the project. Details about team project will be announced in class.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course overview
Week 2	What is strategy?	Definition of strategy and competitive advantage
Week 3	Analysis of external environments(1)	Analysis of general and industry environments
Week 4	Analysis of external environments(2)	Five forces model, the threat of potential entrants
Week 5	Analysis of external environments(3)	The threat of industry competitors, substitutes, suppliers, and buyers
Week 6	Analysis of internal resources (1)	Definition of resources, capabilities, and core competence
Week 7	Analysis of internal resources (2)	Resources and capabilities to gain and sustain competitive advantages
Week 8	Project proposal	Proposal of team projects
Week 9	Business level strategy (1)	Cost leadership strategy
Week 10	Business level strategy (2)	Differentiation strategy
Week 11	Business level strategy (3)	Focus strategy
Week 12	Corporate level strategy (1)	Related and unrelated diversification
Week 13	Corporate level strategy (2)	Motives for diversification
Week 14	Presentation of projects	Final presentation of team projects
Week 15	Wrap-up	Putting it all together

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students read assigned readings and cases. They also work on team project with team members.

【テキスト（教科書）】
Reading materials are distributed in class. More information about textbooks will be provided in class.

【参考書】
Hitt, A.H., Hoskisson, R.E., & Ireland, R.D. 2007. Management of Strategy: Concepts and Cases. Thomson South-Western: OH.
Barney, J.B. & Hesterly, W.S. 2012. Strategic Management and Competitive Advantage: Concepts and Cases. Pearson Education: NJ.

【成績評価の方法と基準】
Class participation: 50%
Class participation is evaluated based on active participation in discussion and in-class exercises and contribution to the class.
Team project: 50%
Details on team project are provided in class.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This is a new course. No feedback has been received yet.

【その他の重要事項】
This course is a prerequisite for other courses on strategic management.

Introduction to Accounting

年次／ 2 単位　　［秋学期授業］

北田　皓嗣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to provide a basic understanding of accounting, including introductory accounting concepts, principle, and procedures. Specific attention will be devoted to the four financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly. These cases will enable students to grasp the importance of accounting knowledge in the business world, to understand current events in terms of accounting measurements, and to communicate effectively with other professions.

【到達目標】
Upon successful completion of the course, students should be able to:
- Analyze a company's annual report
- Draw conclusions about profitability, efficiency, liquidity, and solvency
- Record basic debt-credit journal entries
- Prepare simple financial statements

【授業の進め方と方法】
The course begins with an introduction to the basic terminology of accounting, as well as the frameworks used to interpret financial data. It then explains four financial statements: balance sheet, income statement, statement of stockholders' equity, and statement of cash flow. Finally, the course spends the last few weeks outlining the accounting cycle, including the debit-credit system, adjusting, and closing journal entries. The course is recommended for students who have an interest in accounting and finance as well as in any non-accounting areas. The implications of accounting for the real world are ubiquitous, both in personal and professional capacities, and students are encouraged to draw connections between formal instruction and practical hands-on application. This course is taught primarily through lecture and exercise, and interactive class participation strongly encouraged.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	- Basic concepts of accounting - The for financial statements
Week2	Basic concepts of financial statement	- Basic financial analysis ratios, - Accounting principles and standards
Week3	Balance sheet 1	- Assets - Liabilities - Shareholders' equity
Week4	Balance sheet 2	- Liquidity and solvency ratio - Trend and common-size analysis for balance sheet
Week5	Income statement 1	- Expenses - Revenue
Week6	Income statement 2	- Profitability ratio - Trend and common-size analysis for income statement
Week7	Intermediate exam	- Balance sheet - Income statement - Liquidity, solvency and profitability ratio
Week8	Statement of stockholders' equity 1	- Common and preferred stock - Par value and additional paid in capital
Week9	Statement of stockholders' equity 2	- Retain earnings - Treasury stock
Week10	Statement of cash flows 1	- Operating, investing and financing activities - Direct and indirect method for computing cash flow
Week11	Statement of cash flows 2	- Interpret cash flow - Trend and common-size analysis for cash flow
Week12	Inventory and property, plant and equipment 1	- Cash and cash equivalents - Account receivable
Week13	Inventory and property, plant and equipment 2	- Inventory - Property, plant, and equipment
Week14	Accounting cycle 1	- 10 steps of accounting cycle - Debt-Credit journal entries
Week15	Accounting cycle 2	- Prepare financial statements

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
• Readings and/or problems are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and its underlying problems. Regular class participation is critical to the learning process for both you and your classmates.
• Additional assignments will either be discussed in class or presented as additional cases for your benefit. I will disclose assignments for class discussion prior to their respective lectures.

【テキスト（教科書）】
Schoenebeck, K. P., & Holtzman, M. P. (2013). Interpreting and analyzing financial statements. Pearson Higher Ed.

【参考書】
No thing in particular however, students are welcome to access topics concerning this course and its objectives in other related texts. The instructor is at liberty to provide further materials during the course of instruction.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be distributed according to the following weights:
Class Participation20%
Midterm 20%
Midterm 20%
Final Exam 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable.

【関連科目】
None.

Introduction to Finance

年次／ 2 単位　　［秋学期授業］

岸本　直樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Finance I gives an introduction to interest rate computation, investment analysis of stocks and bonds, and efficient market hypothesis.

【到達目標】
(1) Students can compute present values and future values.
(2) Students can use basic terms of bonds and bond investments.
(3) Students can compute bond prices based on yields to maturity. Conversely, students can compute yields to maturity based on bond prices.
(4) Students understand major risk sources of bond investments.
(5) Students can use basic terms of stocks and stock investments.
(6) Students can compute fair values of stocks using the dividend discount model as well as the multiple valuation method.
(7) Students understand effects of new information on security prices according to the efficient market hypothesis.

【授業の進め方と方法】
This course is basically a lecture course. Yet, I make this course as interactive as I can by asking questions and giving students time to apply formula to exercise problems in class.
Also, note that lectures are given in English. Yet, I will proceed with lectures very slowly, so that well-motivated Japanese students can understand them.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Overview of this course	I will give an overview of this course and explain how I manage the class.
2-4	Interest rates, future values, and present values	I will explain how to compute future values as well as present values.
5	Basic terms for bond investments	I will explain basic terms of bonds and bond investment.
6-8	Yield to maturity	I will explain yield to maturity and its relationship with bond prices.
9-10	Factors affecting bond prices	I will explain major factors that affect bond prices as well as basic investment strategies for bonds.
11	Basic terms for stock investments	I will explain basic terms of stocks and stock investments.
12-13	Stock valuation	I will explain basic valuation methods for stocks. Specifically, I will explain dividend discount model and multiple valuation method.
14	Efficient market hypothesis	I will explain how new information affect security prices according to the efficient market hypothesis.
15	Final examination	I will give a final examination in class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to solve problems given at the end of each class.

【テキスト（教科書）】
Richard Brealey, Stewart Myers and Alan Marcus, Fundamentals of Corporate Finance, McGraw Hill.

【参考書】
Richard Brealey and Stewart Myers, Principals of Corporate Finance, McGraw Hill.
Stephon Ross, Randolph Westerfield and Jeffrey Jaffee, Corporate Finance, McGraw Hill.
Stephon Ross, Randolph Westerfield and Bradford Jordan, Fundamentals of Corporate Finance, McGraw Hill.
Stephen Ross, Randolph Westerfield and Bradford Jordan, Essentials of Corporate Finance, McGraw Hill.
Thomas Copeland, Fred Weston, and Kuldeep Shastri, Financial Theory and Corporate Policy, Addison Wesley.

【成績評価の方法と基準】
70% based on final examination and 30% based on class participation and home work.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable because this is a new course.

【その他の重要事項】
No prerequisites. Yet, because『証券経済論 I』or『ファイナンス論 I』cover the same topics as this course covers, taking them simultaneously with this course will help understand the contents of this course.
In addition, although this course uses some basic mathematics, they will be explained very slowly in class. So, well-motivated students who are not well prepared in mathematics can understand the contents of this class.

Introduction to Informatics

年次／ 2 単位　　［秋学期授業］

児玉　靖司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is aimed at students with little or no prior knowledge for operating computers but a desire computational approaches to problem solving. You can learn any basic computational operations using Office software but also any theoretical meanings of informatics.

【到達目標】

One of the goals of this course is to become familiar with basic operations for computers. Also you should learn how to solve the problems

【授業の進め方と方法】

Mostly you can use the computers in the class room and you can learn any operations of computer software especially of Office software. At first you should login the university's computer.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1st	Introduction	Introduction to this course. The goal of this course is specified. You can learn how to operate university's learn computer operations is explained.
2nd	Word processing practice (1)	
3rd	Word processing practice (2)	
4th	Electrical mail practice and networking theory	
5th	Methodologies for presentation using software (1)	
6th	Methodologies for presentation using software(2)	
7th	Spreadsheet practice (1)	
8th	Spreadsheet practice (2)	
9th	Spreadsheet practice (3)	
10th	Spreadsheet practice (4)	
11th	Spreadsheet practice (5)	
12th	Spreadsheet practice (6)	
13th	Workshop for solving problems (1)	
14th	Workshop for solving problem (2)	
15th	Final presentations	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

ZA238

Foundations of Finance

Shiaw Jia Eyo

Credit：2 ｜ Semester：Fall ｜ Year：2～4
Day/Period：Tue 1st

【Course outline and objectives】
Learning the fundamental concepts of finance. This is a basic level finance course that focuses on the core principles of finance, including financial statements, financial performance, time value of money and risk analysis. Even if you are not planning a career in finance, a working knowledge of finance will help you to understand and interpret financial information around you. This is important because financial decisions are everywhere, both for you and the firm that you will work for.

【Course goal】
This course presents students to the fundamental concepts of finance. The goal of this class is to develop corporate finance tools that are used in business. At the end of this course, students will learn and understand the quantitative and analytical skills necessary to make a good financial decision.

【Course method(s)】
This course is taught primarily through lecture. Interactive class participation is encouraged.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and overview	Introduction to the course
2	Introduction to financial management (1)	An overview of financial management
3	Introduction to financial management (2)	Business ethics and conflicts
4	Understanding financial statements (1)	The Balance sheet
5	Understanding financial statements (2)	Income statement Statement of cash flow
6	Evaluating firms' financial performance (1)	Analyzing financial ratios
7	Evaluating firms' financial performance (2)	Using financial ratios
8	Midterm exam	Assessing the degree to which you understand the subject
9	The time value of money (1)	Future value and present value
10	The time value of money (2)	Annuities
11	Risk and rates of return (1)	Stand-alone risk
12	Risk and rates of return (2)	Risk in a portfolio context
13	Mergers and acquisitions (1)	Rationalize for mergers Types of mergers
14	Mergers and acquisitions (2)	Types of mergers
15	Final exam	Assessing the degree to which you understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to download the lecture slides, read the textbook and complete any assignments given.

【Textbooks】
Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management,* 3rd Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2014.

【References】
Further materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】
Students will be evaluated based on class participation (20%), assignments (10%) and two exams (70%).

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】
Scientific calculator

【Other】
This course requires students to have a good understanding of Mathematics or Statistics.

【Prerequisite】
Introduction to Business or Accounting knowledge.

Global Human Resources Management

長峰　登記夫

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Studying about Global Human Resources (GHR).

【到達目標】
This class aims to learn why GHR has been discussed in Japan and worldwidely in the past two decades or so, and help students understand GHR as part of their career plan and make thier own job career in the global business areas.

【授業の進め方と方法】
This class will take up various topics concerning GHR, including topics such as education at higher education institutions, mobility of people between countries and employment of people with different nationalities and their training.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What is GHR?	What GHR is will be discussed in the first session.
第 2 回	Towards GHR	Along with the globalization of economy, not only multinational companies but aslo domestic companies are taking interest into and trying to employ more and more GHR.
第 3 回	Mobility of people between countries	As tipically seen in the European Union, pople move to work beyond the border of a country. Why and to what extent?
第 4 回	Quick move to GHR in Japan	Japanese Government and companies have been trying to develop and looking for GHR in the past years, particularly since around 2010. Why and how?
第 5 回	Recruitment, selection and training	Recruitment, selection and training of GHR will be discussed.
第 6 回	Government policies concerning GHR	Students will learn about government policies on GHR.
第 7 回	Policies of employer organizations and companies, Japanese case	Students will learn about the policies of employer organizations and companies on GHR.
第 8 回	International students, Japanese and non-Japanese, and their employment	What will be discussed here is the employment of Japanese and non-Japanese students who are studying in a different culture.
第 9 回	GHR in the Asian region (1) China	How is GHR managed in China?
第 10 回	GHR in the Asian region (2) Korea	How is GHR managed in Korea?
第 11 回	Schools, private cramming schools and International Baccalaureate	Students will learn what schools and private cramming schools are doing about GHR and also learn specialty schools under the International Baccalaureate.
第 12 回	Japanese universities and their education towards GHR	What are Japanese universities doing for the development of GHR?
第 13 回	Studying overseas and world race for talent	Many young people in the world go to a foreign country to study and are involved in the race for talent.
第 14 回	Issues and problems	It will be discussed what the issues to be argued and problems to be resolved are.
第 15 回	Final examination	The final examination is conducted in the last session.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should read in advance handouts and other reading materials provided and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions or make comments about them.

【テキスト（教科書）】
No specific textbook is used, but various handouts and other reading materials will be provided.

【参考書】
Some reference books will be introduced in the first session.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will be made based on the final examination. Consideration will also be taken into attendance, results of short exams, participation in the discussion in class. Attendance is important and the minimum attendance to get credits is 80%. Short exmas may be conducted frequently in class. The final exam is conducted in the final session.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This is a newly introduced subject.

【学生が準備すべき機器他】
Nothing special.

【その他の重要事項】
Those students who wish to take this subject must attend the first session with their marks in English language ability tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei shiken and/or similar others.

CA138-04

Japan and the Global Economy A

渡部　亮

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purposes of this lecture are two-fold. One is to get familialized with the current state of the global economy. Another is to understand basic concepts of economics such as GDP (gross national product) and exchange rate.

【到達目標】

In understanding current state of the Japanese economy, it is useful to distinguish four different types of capitalism; namely, (1)Anglo-Saxon model of free market capitalism, (2)German Rhineland model of social market capitalism, (3)emerging country model of state capitalism, and (4)what we call “Panglossian” model of Southern Europe capitalism. Students are to learn how the Japanese economy differs from other countries in the world.

【授業の進め方と方法】

Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are provided via the Hosei’s H’etudes lecture supporting system. Lectures are given in line with the teaching materials.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	In terms of GDP, Japan is the third largest country in the world, but it will gradually be caught up by emerging countries.
2	Japan’s position in the world	Post WW2 history of Japan started from state capitalism and then to market economy with painful lessons to learn.
3	Income transfer from households to corporations	Low wages, low interest rate, and cheap yen benefited Japan Inc. at the expense of households.
4	Real exchange rate and competitiveness	It is important to understand the concept of real exchange rate as a yardstick of competitiveness.
5	Bubble and its bursting	Deregulation and globalization gave rise to euphoria with infamous financial bubble making, followed by bubble bursting, which led to the lost decades.
6	Four types of capitalism	(1)Anglo-Saxon model of free market capitalism, (2)German Rhineland model of social market capitalism, (3)emerging country model of state capitalism, and (4) “Panglossian” model of Southern Europe capitalism.
7	Nature of ‘Panglossian’ capitalism	Its characteristics are a mixture of weak government finances, populism, clientelism, tribalism and corporatism.
8	Complex and high cost social infrastructure	Not only over-valued exchange rate of the yen but also the complex and high cost of the Japanese system are responsible for ‘hollowing out’.
9	What happened during the lost decades	Deflation benefited rather than harmed the main sectors of the domestic economy; i.e., households, corporations and government.
10	Mutual dependence among domestic sectors as a characteristic of the Japanese economy	Surplus on current account balance of payments enabled Japan to tide over the ‘lost decades’. But the culture of mutual dependence has eroded profit motives of Japan Inc.
11	Income transfer back to households	Income transfer from households to corporations in the high growth era is now being reversed. Also, there also various kinds of income transfer from government to households.
12	Uniqueness of Japan’s flow of funds	Flow of funds account of the Japanese households and corporations are to be investigated and understood.
13	Accumulation of free cash flow by corporations	In the lost decades, corporations recovered from three “excesses”, which they incurred in the bubble economy in the 1980s, to the detriment of the whole economy.
14	Deflation benefited banks and the government	Banks were benefited from shifting their asset from corporate lending to JGB investment which in turn enabled the government to finance its spending.
15	Summary of the spring term	In order to make sure that basic concepts and logical sequences are properly understood by students, an examination is conducted.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are advised to read a full textbook version of the teaching materials in advance of each lecture. Otherwise, it would be very difficult to understand complex concepts of the global economy.

【テキスト（教科書）】

Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei’s website; H’etudes’ lecture supporting system. Students are asked to download and print out the teaching materials at the beginning of the term.

【参考書】

Ryo Watabe [2003] The Nature of the Anglo-Saxon Model (Diamond Ltd.); ￥3800

【成績評価の方法と基準】

Both in the middle and at the end of the spring term, a written examination will be conducted. (70% of the total marks is to be allocated). In addition, active participation of individual students in the class dicussion will be evaluated by means of quizzes. (30% of the total marks is to be allocated).

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

Since this is a new lecture as a part of Super Global University Project, there are no feed back data and comments from previous students.

CA232-05

Business Communication Ⅰ A

グレン・ファーン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This elementary-level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements. Introduction of study materials.
2	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
3	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
4	Making Conversation	Socializing at business events.
5	Making Conversation	Socializing at business events.
6	Arranging Meetings and Schedules	Making requests and giving suggestions.
7	Arranging Meetings and Schedules	Talking on the telephone.
8	Getting Ahead	Cover letters and resumes.
9	Getting Ahead	Common job interview questions.
10	Turning a Company Around	Identifying the problem. A case study.
11	Turning a Company Around	Identifying a solution.
12	Describing Processes	An introduction to describing a process.
13	Describing Processes	Describing the process of solving a problem.
14	Review	Summary and discussion.
15	Student Consultation	Individual consultation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
. keep a vocabulary notebook
. preview/review vocabulary for each unit regularly
. preview/review unit grammar regularly
. ask questions if you need help

【テキスト（教科書）】
Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman,　ISBN 9780130883964

【参考書】
No reference book

【成績評価の方法と基準】
1. Overall effort and attitude　25%
2. Participation in class discussions　25%
3. Speaking tests　25%
4. Projects/presentations/reports　25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

CA232-05

Business Communication Ⅰ A

グレン・ファーン

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This elementary-level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements. Introduction of study materials.
2	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
3	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
4	Making Conversation	Socializing at business events.
5	Making Conversation	Socializing at business events.
6	Arranging Meetings and Schedules	Making requests and giving suggestions.
7	Arranging Meetings and Schedules	Talking on the telephone.
8	Getting Ahead	Cover letters and resumes.
9	Getting Ahead	Common job interview questions.
10	Turning a Company Around	Identifying the problem. A case study.
11	Turning a Company Around	Identifying a solution.
12	Describing Processes	An introduction to describing a process.
13	Describing Processes	Describing the process of solving a problem.
14	Review	Summary and discussion.
15	Student Consultation	Individual consultation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
. keep a vocabulary notebook
. preview/review vocabulary for each unit regularly
. preview/review unit grammar regularly
. ask questions if you need help

【テキスト（教科書）】
Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman,　ISBN 9780130883964

【参考書】
No reference book

【成績評価の方法と基準】
1. Overall effort and attitude　25%
2. Participation in class discussions　25%
3. Speaking tests　25%
4. Projects/presentations/reports　25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

CA332-05

Business Communication Ⅱ A

ジュリア・ヨング

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Business English IIA OR Intermediate-Level Business English A

【到達目標】
As many students already know, Japanese business will become more competitive and global in the years to come. This course is designed to help them get prepared for this new and challenging environment.

【授業の進め方と方法】
In this class, students will learn general business terms and phrases that they can use in any workplace environment. As we will be discussing and writing about current business themes in class, by the end of the semester students should see an improvement in their overall communication skills, knowledge of Japanese and international business and level of confidence.
*This class is limited to 20 students. Those who wish to take this course should attend the first lesson!

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the class.
2	Article from the English Nikkei Newspaper (1)	Discussion (part 1)
3	Article from the English Nikkei Newspaper (1)	Discussion (part 2)
4	Article from the English Nikkei Newspaper (2)	Discussion (part 1)
5	Article from the English Nikkei Newspaper (2)	Discussion (part 2)
6	Article from the English Nikkei Newspaper (3)	Discussion (part 1)
7	Article from the English Nikkei Newspaper (3)	Discussion (part 2)
8	Writing business letters/emails	Writing business letters/emails
9	Quiz	Quiz
10	Article from the English Nikkei Newspaper (4)	Discussion (part 1)
11	Article from the English Nikkei Newspaper (4)	Discussion (part 2)
12	Article from the English Nikkei Newspaper (5)	Discussion (part 1)
13	Article from the English Nikkei Newspaper (5)	Discussion (part 2)
14	Business presentations	Business presentations
15	In-class assignment or quiz	In-class assignment or quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) Reviewing the work we have done in class
(2) Preparing for classes

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Articles from the English version of the Nikkei Newspaper and other materials will be distributed in class and available on the course website.

【参考書】
Get the Merriam Webster (free) app for your cell phone!

【成績評価の方法と基準】
Student evaluations will be based on the following.
(1)Participation (taking part actively in discussions, attitude, overall effort, coming to class prepared). (30%)
(2)Quiz/assignments (students must have an average score of 60 points to pass the course). (50%)
(3)In-class assignments (20%)
The participation policy for this class is strict and students should consider it very carefully before registering for this course. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
DVDs

CA332-05

Business Communication Ⅱ A

ジュリア・ヨング

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Business English IIA OR Intermediate-Level Business English A

【到達目標】
As many students already know, Japanese business will become more competitive and global in the years to come. This course is designed to help them get prepared for this new and challenging environment.

【授業の進め方と方法】
In this class, students will learn general business terms and phrases that they can use in any workplace environment. As we will be discussing and writing about current business themes in class, by the end of the semester students should see an improvement in their overall communication skills, knowledge of Japanese and international business and level of confidence.
*This class is limited to 20 students. Those who wish to take this course should attend the first lesson!

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the class.
2	Article from the English Nikkei Newspaper (1)	Discussion (part 1)
3	Article from the English Nikkei Newspaper (1)	Discussion (part 2)
4	Article from the English Nikkei Newspaper (2)	Discussion (part 1)
5	Article from the English Nikkei Newspaper (2)	Discussion (part 2)
6	Article from the English Nikkei Newspaper (3)	Discussion (part 1)
7	Article from the English Nikkei Newspaper (3)	Discussion (part 2)
8	Writing business letters/emails	Writing business letters/emails
9	Quiz	Quiz
10	Article from the English Nikkei Newspaper (4)	Discussion (part 1)
11	Article from the English Nikkei Newspaper (4)	Discussion (part 2)
12	Article from the English Nikkei Newspaper (5)	Discussion (part 1)
13	Article from the English Nikkei Newspaper (5)	Discussion (part 2)
14	Business presentations	Business presentations
15	In-class assignment or quiz	In-class assignment or quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) Reviewing the work we have done in class
(2) Preparing for classes

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Articles from the English version of the Nikkei Newspaper and other materials will be distributed in class and available on the course website.

【参考書】
Get the Merriam Webster (free) app for your cell phone!

【成績評価の方法と基準】
Student evaluations will be based on the following.
(1)Participation (taking part actively in discussions, attitude, overall effort, coming to class prepared). (30%)
(2)Quiz/assignments (students must have an average score of 60 points to pass the course). (50%)
(3)In-class assignments (20%)
The participation policy for this class is strict and students should consider it very carefully before registering for this course. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
DVDs

CA332-05

Business Research Seminar A

中谷　安男

開講時期：**春学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】
This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and sidcussion skills.

【授業の進め方と方法】
Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Intel Japan Marketing 1	Good Speakers
2	Elements of introduction Intel Japan Marketing 2	Preparation
3	Data Coca-cola 1	Describe Details
4	Generating Ideas Coca-cola 2	Brainstorming & Clustering
5	Coherence Chanel	Transitions & Connectors
6	Audience Christian Dior	Audience Analysis
7	Research Sapporo Beer 1	Selecting Details
8	Causes Sapporo Beer 2	Explaining Causes
9	MUJI 1	Explaining Reasons
10	MUJI 2	Case 1
11	Negotiating with Headquarters 1	Case 2
12	Negotiating with Headquarters 2	Case 3
13	Business case 4 JR Kyushu 1	Case 4
14	JR Kyushu 2	Demonstration
15	Final presentation	Finals

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The course needs preparation and review. Active participation is preferable.

【テキスト（教科書）】
1. M. Hood. Dynamic Presentations, Longman
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】
Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】
Class Partcipation and contribution 30%
Class presnetaions 40%
Final presentation 30%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】
PC DVD

CA138-04

Japan and the Global Economy B

渡部　亮

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students are to learn and examine critically three pillars of so-called Abenomics; namely, easy monetary policy, flexible fiscal policy, and growth and structural policy.

【到達目標】
Students are expected to understand the task with which the Japanese economy is now confronted, including both structural reforms and problems arising from information technology, environmental change and ageing population.

【授業の進め方と方法】
Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are provided via the Hosei's H'etudes lecture supporting system. Lectures are given in line with of the teaching material.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Overview of the Japanese economy	Japan's complex social system has hindered the development of a more mobile and open society than it actually is.
2	Japan's Problems are declining growth and deflation	Are these phenomena uniquely Japanese or are there lessons to be learned for other countries?
3	Mega-challenges for the world economy in the 21st century	(1)aging population, (2)environmental problem, (3) information and communication technology, (4)financial market instability.
4	A sharing economy may well be one of the key concepts	How Japan could succeed in the transition to a sharing economy ahead of other nations should be considered.
5	What is structural reform?	Main targets of the structural reform in Japan are agricultural farmers, small and medium sized companies, and old-age pensioners.
6	Boosting immigration is the most critical issue for the future of the Japanese economy	For foreigners to come and live in Japan, it is imperative that the social system is easy to understand and that the cost of living is not expensive.
7	The Paradoxes of Abenomics	Weak yen and its effect on prices will have some important consequences in the form of unintended structural reform.
8	Role of the central bank and efficacy of monetary policy	Changes in the value of money would affect income distribution between debtors and creditors.
9	Changes in flow of funds accounts	Corporations have recently moved into surplus while governments have been faced with a shortage of funds (budget deficit).
10	Japan's competitive strengths in the future	It is imperative to understand that country's competitiveness is derived more from industrial cluster than from comparative advantage.

11	The choices for the Japanese people	Question is either to carry out structural reform, which would adversely affect people with vested interests, or to stick to the status quo, which would lead to a zero sum society.
12	Nuclear power plant accident	What must be admitted is that this was a disaster “Made in Japan.” Its fundamental causes are to be found in the ingrained conventions of Japanese culture.
13	Will the next international financial crisis trap Japan?	It is possible that public sector debt would continue to balloon, higher inflation would reduce real wages and that a population of fewer and older people would mean weaker domestic demand.
14	Political stability is critical	When there is a political upheaval, whether or not it leads to a catastrophic collapse of the country depends on the political choice of the general public.
15	Summary of the autumn term	In order to make sure that basic concepts of economics and logical sequences are properly understood, an examination is conducted.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are advised to read a full textbook version of the teaching material in advance of each lecture. Otherwise, it would be very difficult to understand complex concepts of the global economy.

【テキスト（教科書）】
Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei’s website; H’etudes’ lecture supporting system. Students are asked to download and print out the teaching materials at the beginning of the term.

【参考書】
Ryo Watabe [2003] The Nature of the Anglo-Saxon Model (Diamond Ltd.); ￥3800

【成績評価の方法と基準】
Both in the middle and at the end of the autumn term, a written examinations will be conducted. (70% of the total marks is to be allocated). In addition, active participation of individual students in the class dicussion will be evaluated by means of quizzes. (30% of the total marks is to be allocated).

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Since this is a new lecture as a part of Super Global University Project, there are no feed back data and comments from previous students.

CA232-05

Business Communication Ⅰ B

グレン・ファーン

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This elementary-level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements. Introduction of study materials.
2	Teamwork	The language of teamwork.
3	Teamwork	The language of teamwork.
4	Managing Change	Innovation and change.
5	Managing Change	Innovation and change.
6	Clients and Customers	Language for customer service.
7	Clients and Customers	Language for customer service.
8	Corporate Goals	Identifying and describing goals.
9	Corporate Goals	Identifying and describing goals.
10	Describing and Comparing Products	Language for describing and comparing products/services.
11	Describing and Comparing Products	Language for describing and comparing products/services.
12	Challenges to Management	Language for negotiating.
13	Challenges to Management	Language for negotiating.
14	Review	Summary and discussion.
15	Student Consultation	Individual consultation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
. keep a vocabulary notebook
. preview/review vocabulary for each unit regularly
. preview/review unit grammar regularly
. ask questions if you need help

【テキスト（教科書）】
Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】
No reference book

【成績評価の方法と基準】
1. Overall effort and attitude 25%
2. Participation in class discussions 25%
3. Speaking tests 25%
4. Projects/presentations/reports 25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

CA232-05

Business Communication Ⅰ B

グレン・ファーン

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This elementary-level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements. Introduction of study materials.
2	Teamwork	The language of teamwork.
3	Teamwork	The language of teamwork.
4	Managing Change	Innovation and change.
5	Managing Change	Innovation and change.
6	Clients and Customers	Language for customer service.
7	Clients and Customers	Language for customer service.
8	Corporate Goals	Identifying and describing goals.
9	Corporate Goals	Identifying and describing goals.
10	Describing and Comparing Products	Language for describing and comparing products/services.
11	Describing and Comparing Products	Language for describing and comparing products/services.
12	Challenges to Management	Language for negotiating.
13	Challenges to Management	Language for negotiating.
14	Review	Summary and discussion.
15	Student Consultation	Individual consultation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
. keep a vocabulary notebook
. preview/review vocabulary for each unit regularly
. preview/review unit grammar regularly
. ask questions if you need help

【テキスト（教科書）】
Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman,　ISBN 9780130883964

【参考書】
No reference book

【成績評価の方法と基準】
1. Overall effort and attitude　25%
2. Participation in class discussions　25%
3. Speaking tests　25%
4. Projects/presentations/reports　25%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

CA332-05

Business Communication Ⅱ B

ジュリア・ヨング

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Business English IIB OR Intermediate-Level Business English B

【到達目標】
As many students already know, Japanese business will become more competitive and global in the years to come. This course is designed to help them get prepared for this new and challenging environment.

【授業の進め方と方法】
In this class, they will learn general business terms and phrases that they can use in any workplace environment. In addition to vocabulary building, they will also have ample opportunities to work on their listening comprehension skills since the entire class will be conducted in English. By the end of the semester they should see an improvement in their performance and level of confidence. Learning about the different working experiences introduced in the textbook should also aid them in making an informed decision regarding their own choice of a career.
*This class size is limited to 40 students. Those who wish to take this course should attend the first lesson!

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the class
2	Article from the English Nikkei Newspaper (1)	Discussion (part 1)
3	Article from the English Nikkei Newspaper (1)	Discussion (part 2)
4	Article from the English Nikkei Newspaper (2)	Discussion (part 1)
5	Article from the English Nikkei Newspaper (2)	Discussion (part 2)
6	Article from the English Nikkei Newspaper (3)	Discussion (part 1)
7	Article from the English Nikkei Newspaper (3)	Discussion (part 2)
8	Learning how to write a CV	Learning how to write a CV
9	Quiz	Quiz
10	Article from the English Nikkei Newspaper (4)	Listening comprehension, textbook exercises
11	Article from the English Nikkei Newspaper (4)	Discussion
12	Article from the English Nikkei Newspaper (5)	Listening comprehension, textbook exercises
13	Article from the English Nikkei Newspaper (5)	Learning how to make/receive a telephone call at the workplace
14	Telephone manners	Telephone manners
15	Quiz or in-class assignment	Quiz or in-class assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) Reviewing the work we have done in class
(2) Preparing for classes

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Articles from the English version of the Nikkei Newspaper and other materials will be distributed in class and available on the course website.

【参考書】
Get the (free) Merriam Webster app for your cell phone!

【成績評価の方法と基準】
Student evaluations will be based on the following.
(1)Participation (taking part actively in discussions, attitude, overall effort, coming to class prepared). (30%)
(2)Quiz/assignments (students must have an average score of 60 points to pass the course). (50%)
(3)In-class assignments (20%)

The participation policy for this class is strict and students should consider it very carefully before registering for this course. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
DVD/VHS

CA332-05

Business Communication Ⅱ B

ジュリア・ヨング

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Business English IIB OR Intermediate-Level Business English B

【到達目標】
As many students already know, Japanese business will become more competitive and global in the years to come. This course is designed to help them get prepared for this new and challenging environment.

【授業の進め方と方法】
In this class, they will learn general business terms and phrases that they can use in any workplace environment. In addition to vocabulary building, they will also have ample opportunities to work on their listening comprehension skills since the entire class will be conducted in English. By the end of the semester they should see an improvement in their performance and level of confidence. Learning about the different working experiences introduced in the textbook should also aid them in making an informed decision regarding their own choice of a career.
*This class size is limited to 40 students. Those who wish to take this course should attend the first lesson!

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the class
2	Article from the English Nikkei Newspaper (1)	Discussion (part 1)
3	Article from the English Nikkei Newspaper (1)	Discussion (part 2)
4	Article from the English Nikkei Newspaper (2)	Discussion (part 1)
5	Article from the English Nikkei Newspaper (2)	Discussion (part 2)
6	Article from the English Nikkei Newspaper (3)	Discussion (part 1)
7	Article from the English Nikkei Newspaper (3)	Discussion (part 2)
8	Learning how to write a CV	Learning how to write a CV
9	Quiz	Quiz
10	Article from the English Nikkei Newspaper (4)	Listening comprehension, textbook exercises
11	Article from the English Nikkei Newspaper (4)	Discussion
12	Article from the English Nikkei Newspaper (5)	Listening comprehension, textbook exercises
13	Article from the English Nikkei Newspaper (5)	Learning how to make/receive a telephone call at the workplace
14	Telephone manners	Telephone manners
15	Quiz or in-class assignment	Quiz or in-class assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) Reviewing the work we have done in class
(2) Preparing for classes

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Articles from the English version of the Nikkei Newspaper and other materials will be distributed in class and available on the course website.

【参考書】
Get the (free) Merriam Webster app for your cell phone!

【成績評価の方法と基準】
Student evaluations will be based on the following.
(1)Participation (taking part actively in discussions, attitude, overall effort, coming to class prepared). (30%)
(2)Quiz/assignments (students must have an average score of 60 points to pass the course). (50%)
(3)In-class assignments (20%)

The participation policy for this class is strict and students should consider it very carefully before registering for this course. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
DVD/VHS

CA332-05

Business Research Seminar B

中谷　安男

開講時期：**秋学期**　　単位：**2 単位**

経済学部グローバルオープン科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】
This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and sidcussion skills.

【授業の進め方と方法】
Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Shiseido Chaina 1	Good Speakers
2	Shiseido Chaina 1	Preparation
3	Toshiba Vietnum 1	Describe Details
4	Toshiba Vietnum 2	Brainstorming & Clustering
5	Intel Japan Communication Strategy 1	Transitions & Connectors
6	Intel Japan Communication Strategy 2	Audience Analysis
7	Meigetsudo 1	Selecting Details
8	Meigetsudo 2	Explaining Causes
9	Global MUJI 1	Explaining Reasons
10	Gloabal MUJI 2	Case 1
11	Shiseido Italy	Case 2
12	Shiseido France	Case 3
13	Toshiba HR	Case 4
14	Konica Minolta	Demonstration
15	Final presentation	Finals

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The course needs preparation and review. Active participation is preferable.

【テキスト（教科書）】
1. M. Hood. Dynamic Presentations, Longman
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】
Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】
Class Partcipation and contribution 30%
Class presnetaions 40%
Final presentation 30%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】
PC DVD

AD237

English for Global Politics

JOHN MILLER PERKINS

授業形式：**講義** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to expand student's existing global political awareness and enhance their language skills so that they can better formulate and communicate their ideas in the field of Global Politics through the medium of English. The speaking and written activities have the general goal of helping students to develop both their critical thinking skills and their self-expression so that they become more confident in discussing, in English, the major concepts and themes of Global Politics. The major theme for this course is Media and Politics.

【到達目標】
The course will focus on building academic level listening, speaking, reading, presentation and debating skills by encouraging students to consider a variety of issues in the field of Global Politics. Students will develop their ability to use conversation strategies of spoken English in pair-work, small group discussions, oral presentations, essays and action plans.

【授業の進め方と方法】
The course will focus on building academic level listening, speaking, reading, presentation and debating skills by encouraging students to consider a variety of issues in the field of Global Politics. Students will develop their ability to use conversation strategies of spoken English in pair-work, small group discussions, oral presentations, essays and action plans. The course also aims to help students develop their skill in the composition process and to understand the structure and style of essays. Topics covered will be under the general heading of the Media and Politics. We will look at global development from various perspectives including the United Nations Millennium Development Goals and how media can help or hinder the realization of global development. Various media formats, including news and documentary footage, will be integrated into the classes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Course overview and introductions
2	Introduction to Media	A short history of communication mediums
3	Introduction to Media (cont.)	Advantages and disadvantages of various communication mediums
4	Introduction to Media (cont.)	The politics of access to media
5	Introduction to Media (cont.)	Global problems and media initiatives
6	Global vs. Local problems	Communication mediums at the global and local level
7	Review of communication media	Communication media and politics
8	Mid-term exam	Mid-term exam
9	Introduction to Action Plans	Action plans and global and local problems
10	Media Initiatives	Media Initiatives and action plans
11	Mediated Action Plans	Mediated action plans for global and local solutions
12	Presentations	Mediated action plan presentations
13	Presentations (cont.)	Mediated action plan presentations
14	Presentations (cont.)	Mediated action plan presentations
15	Final In-Class Exam	In-class written exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This is a practical course in which students will be actively engaged in a variety of tasks and activities. They will be expected to do sufficient research and preparation outside of the classroom to engage in a meaningful and productive series of discussion, presentations and action planning during class time.

【テキスト（教科書）】
There is no set textbook for this course.

【参考書】
A range of diverse materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
40% Active class participation, homework, discussions.
60% Action Plans, Mid-term exam, Presentations, Final Written Exam.
Students are expected to take an active role in all class activities and will be encouraged to practice fluency, exchange opinions and enhance their critical thinking skills throughout the course. More detailed grading policies will be given during the first class session.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other.

AD237

English for Global Politics

JOHN MILLER PERKINS

授業形式：**講義** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to expand student's existing global political awareness and enhance their language skills so that they can better formulate and communicate their ideas in the field of Global Politics through the medium of English. The speaking and written activities have the general goal of helping students to develop both their critical thinking skills and their self-expression so that they become more confident in discussing, in English, the major concepts and themes of Global Politics. The major theme for this course is Media and Politics.

【到達目標】
The course will focus on building academic level listening, speaking, reading, presentation and debating skills by encouraging students to consider a variety of issues in the field of Global Politics. Students will develop their ability to use conversation strategies of spoken English in pair-work, small group discussions, oral presentations, essays and action plans.

【授業の進め方と方法】
The course will focus on building academic level listening, speaking, reading, presentation and debating skills by encouraging students to consider a variety of issues in the field of Global Politics. Students will develop their ability to use conversation strategies of spoken English in pair-work, small group discussions, oral presentations, essays and action plans. The course also aims to help students develop their skill in the composition process and to understand the structure and style of essays. Topics covered will be under the general heading of the Media and Politics. We will look at global development from various perspectives including the United Nations Millennium Development Goals and how media can help or hinder the realization of global development. Various media formats, including news and documentary footage, will be integrated into the classes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Course overview and introductions
2	Introduction to Media	A short history of communication mediums
3	Introduction to Media (cont.)	Advantages and disadvantages of various communication mediums
4	Introduction to Media (cont.)	The politics of access to media
5	Introduction to Media (cont.)	Global problems and media initiatives
6	Global vs. Local problems	Communication mediums at the global and local level
7	Review of communication media	Communication media and politics
8	Mid-term exam	Mid-term exam
9	Introduction to Action Plans	Action plans and global and local problems
10	Media Initiatives	Media Initiatives and action plans
11	Mediated Action Plans	Mediated action plans for global and local solutions
12	Presentations	Mediated action plan presentations
13	Presentations (cont.)	Mediated action plan presentations
14	Presentations (cont.)	Mediated action plan presentations
15	Final In-Class Exam	In-class written exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This is a practical course in which students will be actively engaged in a variety of tasks and activities. They will be expected to do sufficient research and preparation outside of the classroom to engage in a meaningful and productive series of discussion, presentations and action planning during class time.

【テキスト（教科書）】
There is no set textbook for this course.

【参考書】
A range of diverse materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
40% Active class participation, homework, discussions.
60% Action Plans, Mid-term exam, Presentations, Final Written Exam.
Students are expected to take an active role in all class activities and will be encouraged to practice fluency, exchange opinions and enhance their critical thinking skills throughout the course. More detailed grading policies will be given during the first class session.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other.

AD237

English for Global Politics

JOHN MILLER PERKINS

授業形式：**講義** ｜ 開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to expand student's existing global political awareness and enhance their language skills so that they can better formulate and communicate their ideas in the field of Global Politics through the medium of English. The speaking and written activities have the general goal of helping students to develop both their critical thinking skills and their self-expression so that they become more confident in discussing, in English, the major concepts and themes of Global Politics. The major theme for this course is Media and Politics.

【到達目標】
The course will focus on building academic level listening, speaking, reading, presentation and debating skills by encouraging students to consider a variety of issues in the field of Global Politics. Students will develop their ability to use conversation strategies of spoken English in pair-work, small group discussions, oral presentations, essays and action plans.

【授業の進め方と方法】
The course will focus on building academic level listening, speaking, reading, presentation and debating skills by encouraging students to consider a variety of issues in the field of Global Politics. Students will develop their ability to use conversation strategies of spoken English in pair-work, small group discussions, oral presentations, essays and action plans. The course also aims to help students develop their skill in the composition process and to understand the structure and style of essays. Topics covered will be under the general heading of the Media and Politics. We will look at global development from various perspectives including the United Nations Millennium Development Goals and how media can help or hinder the realization of global development. Various media formats, including news and documentary footage, will be integrated into the classes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Course overview and introductions
2	Introduction to Media	A short history of communication mediums
3	Introduction to Media (cont.)	Advantages and disadvantages of various communication mediums
4	Introduction to Media (cont.)	The politics of access to media
5	Introduction to Media (cont.)	Global problems and media initiatives
6	Global vs. Local problems	Communication mediums at the global and local level
7	Review of communication media	Communication media and politics
8	Mid-term exam	Mid-term exam
9	Introduction to Action Plans	Action plans and global and local problems
10	Media Initiatives	Media Initiatives and action plans
11	Mediated Action Plans	Mediated action plans for global and local solutions
12	Presentations	Mediated action plan presentations
13	Presentations (cont.)	Mediated action plan presentations
14	Presentations (cont.)	Mediated action plan presentations
15	Final In-Class Exam	In-class written exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This is a practical course in which students will be actively engaged in a variety of tasks and activities. They will be expected to do sufficient research and preparation outside of the classroom to engage in a meaningful and productive series of discussion, presentations and action planning during class time.

【テキスト（教科書）】
There is no set textbook for this course.

【参考書】
A range of diverse materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
40% Active class participation, homework, discussions.
60% Action Plans, Mid-term exam, Presentations, Final Written Exam.
Students are expected to take an active role in all class activities and will be encouraged to practice fluency, exchange opinions and enhance their critical thinking skills throughout the course. More detailed grading policies will be given during the first class session.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other.

AD237

English for Global Politics

ジェフリー　B　タロフスキー

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses art , architecture , literature, pop culture and most especially film as a means of interpreting the politics of Germany during the early and Middle periods of the Weimar Republic 1918-1927

【到達目標】
For high intermediate to advanced students who have done well in their previous English classes. Those who did well in my first year advanced A and B English classes would be especially well prepared for this class. Students will develop their analytical skills in English.

【授業の進め方と方法】
Lectures and assigned readings will help students as they watch excerpts from the films and develope their own theories about what they mean in the Weimar political context.
The instructor may limit the class to the twenty best qualified students. A test in the first class mey be used to determine qualifications.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: Why Weimar? Class mechanics. Before Weimar HW: Read handouts “The Birth of the Republic” .	Lecture and screenings,discussions.
2	Socialists or Communists? The Bauhaus HW: Read about the Kapp Putsch and Gropius Monument.	Lecture and screenings,discussions.
3	The Institute For Study of Sexuality : Different From The Others (1919), Enligtenment film German Expressionist Films: The Golem (1920) Expressionist film HW. The Cast and Crew of Caligari Also read about Walter Rathenau	Lecture and screenings,discussions.
4	Screening of The Cabinet of Dr. Caligari (1920) HW: Short essay	Lecture and screenings,discussions.
5	Close Analysis of The Cabinet of Dr. Caligari (1920) HW. Read about the Beer Hall Putsch.	Lecture and screenings,discussions.
6	Fritz Lang and Thea Von Harbou. Dr. Mabuse The Gambler (1922) and F.W. Murnau’s and Nosferatu; and Paul Leni’s Waxworks (1924) Expressionist films HW: Read about the hyperinflation and The Dawes Plan and Stabilization.	Lecture and screenings,discussions.
7	Midterm Test	Exam
8	Screening F.W. Murnau’s The Last Laugh (1924) Kammerspiel (chamber/instinct film). HW Read about Paul Von Hindenburg and Erich Luddendorf.	Lecture and screenings,discussions.
9	Close Analysis of The Last Laugh. The Kammerspiel (chamber) works of Carl Mayer . HW. The Auteur Theory vs Schrieber Theory	Lecture and screenings,discussions.
10	The New Objectivity (Neue Sachlichkeit) G.W. Pabst’s Joyless Street (1925), ,Diary of a Lost Girl (1929) , Pandora’s Box (1929),	Lecture and screenings,discussions.
11	Mythology and Fantasy : The Lang -Harbou team and Der Neibelungen (1924), F.W. Murnau Faust (1926)	Lecture and screenings,discussions.
12	G.W. Pabst and Secrets of the Soul (1925)	Lecture and screenings,discussions.
13	Screening of Metropolis (1927) Expressionist film	Lecture and screenings,discussions.
14	Close Analysis of Metropolis (1927)	Lecture and screenings,discussions.
15	Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading,library,online research,essay writing.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be provided by the instructor and student notes as well as the films themselves will serve as the course “text”.

【参考書】
a reading list will be provided by the instructor

【成績評価の方法と基準】
There will be a series of short tests which will count for 40% of the grade and a larger test which will count for 40%. Participation will count for 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
There will be more opportunities for in class discussions

AD237

English for Global Politics

ジェフリー　B　タロフスキー

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses art , architecture , literature, pop culture and most especially film as a means of interpreting the politics of Germany during the early and Middle periods of the Weimar Republic 1918-1927

【到達目標】
For high intermediate to advanced students who have done well in their previous English classes. Those who did well in my first year advanced A and B English classes would be especially well prepared for this class. Students will develop their analytical skills in English.

【授業の進め方と方法】
Lectures and assigned readings will help students as they watch excerpts from the films and develope their own theories about what they mean in the Weimar political context.
The instructor may limit the class to the twenty best qualified students. A test in the first class mey be used to determine qualifications.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: Why Weimar? Class mechanics. Before Weimar HW: Read handouts “The Birth of the Republic” .	Lecture and screenings,discussions.
2	Socialists or Communists? The Bauhaus HW: Read about the Kapp Putsch and Gropius Monument.	Lecture and screenings,discussions.
3	The Institute For Study of Sexuality : Different From The Others (1919), Enligtenment film German Expressionist Films: The Golem (1920) Expressionist film HW. The Cast and Crew of Caligari Also read about Walter Rathenau	Lecture and screenings,discussions.
4	Screening of The Cabinet of Dr. Caligari (1920) HW: Short essay	Lecture and screenings,discussions.
5	Close Analysis of The Cabinet of Dr. Caligari (1920) HW. Read about the Beer Hall Putsch.	Lecture and screenings,discussions.
6	Fritz Lang and Thea Von Harbou. Dr. Mabuse The Gambler (1922) and F.W. Murnau’s and Nosferatu; and Paul Leni’s Waxworks (1924) Expressionist films HW: Read about the hyperinflation and The Dawes Plan and Stabilization.	Lecture and screenings,discussions.
7	Midterm Test	Exam
8	Screening F.W. Murnau’s The Last Laugh (1924) Kammerspiel (chamber/instinct film). HW Read about Paul Von Hindenburg and Erich Luddendorf.	Lecture and screenings,discussions.
9	Close Analysis of The Last Laugh. The Kammerspiel (chamber) works of Carl Mayer . HW. The Auteur Theory vs Schrieber Theory	Lecture and screenings,discussions.
10	The New Objectivity (Neue Sachlichkeit) G.W. Pabst’s Joyless Street (1925), ,Diary of a Lost Girl (1929) , Pandora’s Box (1929),	Lecture and screenings,discussions.
11	Mythology and Fantasy : The Lang -Harbou team and Der Neibelungen (1924), F.W. Murnau Faust (1926)	Lecture and screenings,discussions.
12	G.W. Pabst and Secrets of the Soul (1925)	Lecture and screenings,discussions.
13	Screening of Metropolis (1927) Expressionist film	Lecture and screenings,discussions.
14	Close Analysis of Metropolis (1927)	Lecture and screenings,discussions.
15	Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading,library,online research,essay writing.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be provided by the instructor and student notes as well as the films themselves will serve as the course “text”.

【参考書】
a reading list will be provided by the instructor

【成績評価の方法と基準】
There will be a series of short tests which will count for 40% of the grade and a larger test which will count for 40%. Participation will count for 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
There will be more opportunities for in class discussions

AD237

International Politics

森　聡

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、国際政治学科実践講座科目群の英語専門科目であり、グローバル・オープン科目である。
今年度のテーマは、「戦略と政策（strategy and policy）」とする。国際政治を単に現象として理解するのではなく、現在進行中の国際政治の諸問題について、受講生が少人数グループを組んで、その原因を分析し、実際にどのような行動を起こして対処すべきなのかという具体的な提言を作成することによって、「問題解決能力」を育成するトレーニングするとともに、そこで取り上げる最先端の国際政治問題についての知識を身につける。

【到達目標】
本科目の到達目標は、次の三つである。
第一に、社会に出てから実務を処理していく際に必要となる「問題解決能力」を、国際政治という材料を使って養成する。ここには、物事を分析して原因を仮説的に特定する方法論や、その仮説に基づいて具体的な戦略や政策ないしアクション・プランなどを立案する能力や、そうした戦略や政策を実行するうえで何が問題となりうるかを理解する能力が含まれる。
第二に、フォーマルなプレゼンテーションを効果的に実施する技術など、各種の実務的な基本スキルを身につける。
第三に、上記二つの目標を追求する中で、今日展開しつつある国際情勢に関する知識を身につけ、理解を深める。

【授業の進め方と方法】
講義の序盤は、分析の方法論や戦略とは何かについての講義を行う。その後、トピックごとに英語の課題文献を出すので、その内容を踏まえて、グループごとに政策提言を作成し、英語でプレゼンテーションを実施する。
上記のような準ゼミ制のフォーマットをとるため、受講者数に上限を設け、最大 36 名とする（他学部生は最大 10 名まで）。受講者は、応募書類に基づいて選抜する。選抜は春学期の履修登録期間中に行い、登録期間内に履修を許可する者を発表する。選抜手続の詳細は、掲示等を確認すること。（なお、国際政治学科生は実践講座科目の単位を揃える必要があるので、法学部では、国際政治学科２・３年生を優先的に受け入れる。）
なお、下記授業計画は若干修正される可能性がある。
英語による短いペーパーの提出を学期末に求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lecture 1	Introduction.	Overview of the course
Lecture 2	Methods of Analysis	Levels of analysis in international relations
Lecture 3	The Policymaking Process	The structure and politics of decision
Lecture 4	Strategy – Part 1	What is strategy?
Lecture 5	Strategy – Part 2	What is good strategy? What is bad strategy?
Lecture 6	Presentations (Part 1)	Groups 1, 2, 3
Lecture 7	Presentations (Part 2)	Groups 4, 5, 6
Lecture 8	Presentations (Part 3)	Groups 7, 8, 9
Lecture 9	Presentations (Part 4)	Groups 1, 2, 3
Lecture 10	Presentations (Part 5)	Groups 4, 5, 6
Lecture 11	Presentations (Part 6)	Groups 7, 8, 9
Lecture 12	Presentations (Part 7)	Groups 1, 2, 3
Lecture 13	Presentations (Part 8)	Groups 4, 5, 6
Lecture 14	Presentations (Part 9)	Groups 7, 8, 9
Lecture 15	Conclusion	Strategy and Policy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞の国際面は毎日読むこと。国際政治問題を取り上げる英語メディアもできるだけフォローする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示・配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの完成度（50 %）、討論への参加（30 %）、期末ペーパーの完成度（20 %）で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
2016 年度から新カリキュラムで実施する。

【国際政治学、アメリカの外交・安全保障政策】
＜専門領域＞　国際政治、戦後アメリカの外交と安全保障
＜研究テーマ＞　現代アメリカのアジア戦略と東アジアの安全保障
＜主要研究業績＞
①「オバマ政権のリバランスと対中政策」、『国際安全保障』第 41 巻第 3 号（2013 年 12 月）、29-45 頁。
②「ドイツ統一と NATO の変容」、菅英輝編『冷戦と同盟―冷戦終焉の視点から』、松籟社、2014 年、257-286 頁。
③『ルール推進国家・日本の国家安全保障戦略』政策提言レポート、笹川平和財団、2011 年。
④『ヴェトナム戦争と同盟外交―英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年。

AD237

English for Global Politics

ジェフリー　B　タロフスキー

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses art , architecture , literature, pop culture and most especially film as a means of interpreting the politics of Germany during the early and Middle periods of the Weimar Republic 1918-1927

【到達目標】
For high intermediate to advanced students who have done well in their previous English classes. Those who did well in my first year advanced A and B English classes would be especially well prepared for this class. Students will develop their analytical skills in English.

【授業の進め方と方法】
Lectures and assigned readings will help students as they watch excerpts from the films and develope their own theories about what they mean in the Weimar political context.
The instructor may limit the class to the twenty best qualified students. A test in the first class mey be used to determine qualifications.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: Why Weimar? Class mechanics. Before Weimar HW: Read handouts “The Birth of the Republic” .	Lecture and screenings,discussions.
2	Socialists or Communists? The Bauhaus HW: Read about the Kapp Putsch and Gropius Monument.	Lecture and screenings,discussions.
3	The Institute For Study of Sexuality : Different From The Others (1919), Enligtenment film German Expressionist Films: The Golem (1920) Expressionist film HW. The Cast and Crew of Caligari Also read about Walter Rathenau	Lecture and screenings,discussions.
4	Screening of The Cabinet of Dr. Caligari (1920) HW: Short essay	Lecture and screenings,discussions.
5	Close Analysis of The Cabinet of Dr. Caligari (1920) HW. Read about the Beer Hall Putsch.	Lecture and screenings,discussions.
6	Fritz Lang and Thea Von Harbou. Dr. Mabuse The Gambler (1922) and F.W. Murnau’s and Nosferatu; and Paul Leni’s Waxworks (1924) Expressionist films HW: Read about the hyperinflation and The Dawes Plan and Stabilization.	Lecture and screenings,discussions.
7	Midterm Test	Exam
8	Screening F.W. Murnau’s The Last Laugh (1924) Kammerspiel (chamber/instinct film). HW Read about Paul Von Hindenburg and Erich Luddendorf.	Lecture and screenings,discussions.
9	Close Analysis of The Last Laugh. The Kammerspiel (chamber) works of Carl Mayer . HW. The Auteur Theory vs Schrieber Theory	Lecture and screenings,discussions.
10	The New Objectivity (Neue Sachlichkeit) G.W. Pabst’s Joyless Street (1925), ,Diary of a Lost Girl (1929) , Pandora’s Box (1929),	Lecture and screenings,discussions.
11	Mythology and Fantasy : The Lang -Harbou team and Der Neibelungen (1924), F.W. Murnau Faust (1926)	Lecture and screenings,discussions.
12	G.W. Pabst and Secrets of the Soul (1925)	Lecture and screenings,discussions.
13	Screening of Metropolis (1927) Expressionist film	Lecture and screenings,discussions.
14	Close Analysis of Metropolis (1927)	Lecture and screenings,discussions.
15	Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading,library,online research,essay writing.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be provided by the instructor and student notes as well as the films themselves will serve as the course “text”.

【参考書】
a reading list will be provided by the instructor

【成績評価の方法と基準】
There will be a series of short tests which will count for 40% of the grade and a larger test which will count for 40%. Participation will count for 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
There will be more opportunities for in class discussions

AC137

A Short Introduction to Japanese Politics

衛藤　幹子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**
単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class will provide you with a short introduction to Japanese politics, which consists of diverse topics, ranging from political history to social policy. The class will be carried out by five lecturers who are experts on different subjects of political studies, such as history of Japanese political thought, political theory, political process in Japan, gender in politics and welfare states. Each lecturer will give you his/her talks three times. The class aims to give an overview of Japanese politics, so you can study more specific subjects according to your interests afterwards.

【到達目標】
The goal of this class is to let you know how interesting Japanese politics is, and to guide you into ways of studying politics in Japan from different perspectives. Throughout this class, you will be able to roughly understand how Japanese politics has been developed historically, how it is performed and what problem it faces. The class covers only a part of Japanese politics however. We hope that you will become interested in Japanese politics by the class, and then you will continue to study on it from specific perspectives.

【授業の進め方と方法】
In the class, we will take discussion very seriously. Each lecturer will have a plenty of time for discussion with you. We are looking forward to your active participation.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and Guidance (lectured by Mikiko Eto)	Explaining the purpose and outline of the class. Providing information necessary for taking the class
第 2 回	Politic and Political Thought in Tokugawa and Meiji Japan ① (lectured by Hiroshi Watanabe)	1.Gender and sexuality 2.“Religion” and politics 3.Why did Japan modernize (westernize) itself so quickly?
第 3 回	Politic and Political Thought in Tokugawa and Meiji Japan ② (lectured by Hiroshi Watanabe)	1.Gender and sexuality 2.“Religion” and politics 3.Why did Japan modernize (westernize) itself so quickly?
第 4 回	Politic and Political Thought in Tokugawa and Meiji Japan ③ (lectured by Hiroshi Watanabe)	1.Gender and sexuality 2.“Religion” and politics 3.Why did Japan modernize (westernize) itself so quickly?
第 5 回	Politics and Political Theories in Japan ① (lectured by Atsushi Sugita)	1.Basic ideas of post-war Japanese political theory 2.Constitution and politics in Japan 3.Contemporary challenges of Japanese politics
第 6 回	Politics and Political Theories in Japan ② (lectured by Atsushi Sugita)	1.Basic ideas of post-war Japanese political theory 2.Constitution and politics in Japan 3.Contemporary challenges of Japanese politics
第 7 回	Politics and Political Theories in Japan ③ (lectured by Atsushi Sugita)	1.Basic ideas of post-war Japanese political theory 2.Constitution and politics in Japan 3.Contemporary challenges of Japanese politics
第 8 回	History of Post-War Japanese Politics ① (lectured by Jiro Yamaguchi)	The contents will be presented in the first class.
第 9 回	History of Post-War Japanese Politics ② (lectured by Jiro Yamaguchi)	The contents will be presented in the first class.
第 10 回	History of Post-War Japanese Politics ③ (lectured by Jiro Yamaguchi)	The contents will be presented in the first class.
第 11 回	Japanese Women in Legislatures ① (lectured by Mikiko Eto	1.Why do men still dominate politics? 2. How have political parties treated women candidates?
第 12 回	Japanese Women in Legislatures ② (lectured by Mikiko Eto	1.Why do men still dominate politics? 2. How have political parties treated women candidates?
第 13 回	Japanese Welfare State in International Comparison ① (lectured by Taku Yamamoto)	1. Characteristics of Japanese welfare state 2. Tax and redistribution in Japan 3. Politics of welfare state reform
第 14 回	Japanese Welfare State in International Comparison ② (lectured by Taku Yamamoto)	1. Characteristics of Japanese welfare state 2. Tax and redistribution in Japan 3. Politics of welfare state reform
第 15 回	Japanese Welfare State in International Comparison ③ (lectured by Taku Yamamoto)	1. Characteristics of Japanese welfare state 2. Tax and redistribution in Japan 3. Politics of welfare state reform

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
To read the materials that the lecturers introduced you before and after the class.

【テキスト（教科書）】
There is no specific textbook in this class.

【参考書】
Each lecturer will introduce suitable materials to well understanding his/her lecture.

【成績評価の方法と基準】
Instead of a paper exam, short essays will access your learning. After the class ended, you must submit us your report on which you write a short essay about five subjects each — five essays in total. One essay needs to consist of 500 words. You will get further information about this report in the class.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
We have not yet received any comment from students because this class just starts this semester.

Elementary Social Science B

佐崎　淳子

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・5**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
WEB シラバスを参照してください。

【到達目標】

【授業の進め方と方法】

【授業計画】
回　　テーマ　　内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

Social Science A

Jonson Porteux

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・4**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course focuses on the domestic and international politics and political economy of countries from the East Asian region. We first start off with the basics of public policy and political economy analysis, and then move on to study issues related to development in North East Asia‘s democracies (Japan, South Korea, Taiwan). Subsequently, we will investigate the region‘s non-democratic polities (China and North Korea).

【到達目標】
The course goal is for the student to have a firm grasp of the politics and political economy which shape the East Asian region. Although the student will learn many facts throughout the semester, the emphasis will be on the development and enhancement of critical thinking skills and causal analysis.

【授業の進め方と方法】
This is a lecture style course, but expect to spend significant time engaging the material through questions and group work.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course, requirements, and syllabus overview
2	Japan	The "1955 System" and electoral reform
3	Japan	Explaining Japan‘s "miracle" economy
4	Japan	The politics and processes of Japan‘s post-industrial development
5	Taiwan	Political system and democratization
6	Taiwan	The politics and processes of Taiwanese industrial development
7	South Korea	Political system and democratization
8	South Korea	The politics and processes of South Korean industrialization
9	Midterm	In-class midterm exam
10	China	Political management of the Middle Kingdom
11	China	The politics and processes of Chinese industrialization
12	North Korea	Political management of the DPRK
13	North Korea	The political economy of autarchy in North Korea
14	East Asian political economy	East Asia‘s political economy in a comparative context; Course wrap up
15	Final exam	In-class comprehensive final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should expect about roughly 20 to 30 pages of reading each week.

【テキスト（教科書）】
TBA

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Participation: 20%
Quizzes: 10%
Midterm Exam: 30%
Comprehensive Final Exam: 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
N/A

【その他の重要事項】
N/A

【None】
N/A

Practice of Environmental Economics and Japan

國則　守生

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to learn how environmental economics has been and will be applied in terms of policy implementation in Japan.

【到達目標】
The goal of this course is to provide students with basic understanding how the environment is intertwined with the economy and how the environmental problems should be tackled. Special emphasis is put on understanding that the various forms of "economic instruments" such as environmental taxes are advised in order to solve the widespread environmental problems. We also learn the merits and limitations of the regulatory measures which have been applied in Japan.

【授業の進め方と方法】
Teaching is done in a lecture style. The course introduces numerous kinds of environmental problems in Japan. Environmental economics is explained in order to understand why some kinds of governmental interventions to the economy are called for in solving various environmental problems including the global ones.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Roles of the environment in the economy
2	Environmental problems in Japan: I	Local problems before the mid-1970s
3	Environmental problems in Japan: II	Local problems after the mid-1970s
4	Environmental policies	Command & control by the government
5	Negative externalities and public bads	Market failures
6	Market solutions and social optimums	Economic efficiency standard
7	Environmental taxes and subsidies	Correction of the market
8	Emissions trading	Controls of the allowances
9	Transboundary environmental problems	Acid rain
10	Global environmental problems	Ozone depletion
11	Energy policy	Multiple aims of the policy
12	Global Warming	Intra- and inter-generational equities
13	International environmental agreements	Degree of difficulty in reaching accord
14	Review	Wrap-up of the course and preparation for the final exam
15	Final exam	To access the students' understanding

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review of each class is strongly recommended. Do not leave the questions unsolved. Assignments are sometimes given to check each student's understanding, .

【テキスト（教科書）】
No textbooks in particular. Hand-outs are distributed in the class.

【参考書】
Following books may be helpful in understanding environmental economics:
Turner,R.K. et al. (1993) Environmental Economics: An Elementary Introduction, The Johns Hopkins University Press.
Field, B.and Field, M.K. (2012) Environmental Economics: An Introduction, 6th Ed., McGraw-Hill Education.

【成績評価の方法と基準】
Evaluation will be based on assignments (20%) and final exam (80%).

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
The course is to start in 2016.

【その他の重要事項】
Students are recommended to take microeconomics courses, but not it is not prerequisite.

ZA237

International Security

Takeshi Yuzawa

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Tue 3rd

【Course outline and objectives】
This course covers the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies mainly examines the causes of war; the conditions for peace; strategies for avoiding conflict, managing and resolving disputes; and the impact of new technologies, weapons, actors and ideas on states' calculations on whether to use force.

【Course goal】
The course objectives are: (1) to enable students to develop a broader understanding of the key theories and concepts in security studies; (2) to examine major security challenges in the international arena through the lens of theories and concepts; (3) to acquire the ability to form their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

【Course method(s)】
This course has two segments: First, presenting major theories and concepts in security studies, necessary for understanding contemporary security policies and issues.
Second, examining contemporary security challenges related to arms buildup, nuclear proliferation, armed conflicts, mass killings, terrorism, and transnational organized crime. Students may be required to give presentations.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Environmental Security	Exploring the concepts of environmental security
6	Human Security	Exploring the concepts of human security
7	Review	Review weeks 1-6
8	Mid-term Examination	Writing test
9	The Changing Character of War	Examining changes in warfare
10	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
11	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
12	Terrorism	Analysing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
14	Review	Review weeks 9-13
15	Final Examination	Writing test

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in the reference section before attending the lecture.

【Textbooks】
Allan Collins (ed), *Contemporary Security Studies*, Fourth edition (Oxford University Press, 2015)
Peter Hough (ed), *International Security Studies: Theory and Practice* (Routledge, 2015)

【References】
John Baylis, James J. Wirtz, Colin S. Gray, *Strategy in the Contemporary World Fourth Edition* (Oxford University Press, 2013)

【Grading criteria】
Contribution to discussion (20%), Examinations (80%)

【Changes following student comments】
Handouts to be provided in a timely manner.

【Prerequisite】
Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

ZA237

Development Studies

Atsushi Yasutomi

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Thu 1st

【Course outline and objectives】
This course focuses on the developing world, examining the relationship between states and their citizens. While most of the former European colonies achieved political independence following World War II, they have often suffered from political instability and socio-economic underdevelopment.
Why do so many of these post-colonial states remain "in development" for decades long after independence? Behind this question often lies a distorted relationship between a state's elites and its populous. This class examines why there are tensions between states and their citizens, and how healthier relations can be established in these underdeveloped nations.

【Course goal】
Upon completion of this course, students should have a better understanding of problematiques in the developing world, including the state-citizen relationship and post-colonial legacy.
This course improves student employability in two ways: First, by doing writing assignments, students learn how to put their ideas into words. Second, by making class presentations, students learn how to collect, screen, and present important information.

【Course method(s)】
(1) In weeks 2-6, students participate in discussions on designated topics. (Assigned readings and preparation papers are compulsory for participation in discussions.)
(2) In weeks 7-13, students make 30-minute presentations on designated case studies in the developing world. After each class, students must submit reaction papers.
(3) In week 14, students review for the final exam.
(4) In week 15, students will submit a take-home examination.
(5) In addition, students must watch the film "Lumumba (Japanese name)" and submit a film critique.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Guidance	Course Guidance
2	Film	Film related to the field
3	Reading & discussion (1)	Colonial Legacy
4	Reading & discussion (2)	Theorizing the State
5	Reading & discussion (3)	Ethnopolitics and Nationalism
6	Reading & discussion (4)	Democratization
7	Presentation (1)	Indonesia
8	Presentation (2)	South Africa
9	Presentation (3)	Iraq
10	Presentation (4)	Pakistan
11	Presentation (5)	Nigeria
12	Presentation (6)	Mexico
13	Presentation (7)	Guatemala
14	Review	Review / Q&A
15	Exam	Take-home examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Assigned readings and writing assignments.

【Textbooks】
Peter Burnell et al. eds., *Politics of the Developing World* [3rd ed.], New York: Oxford UP, 2011.

【References】
Relevant materials will be distributed in class.

【Grading criteria】
Class participation (24%)
Preparation&Reaction papers (21%)
Film critique (5%)
Presentation (20%)
Final exam (30%).

【Changes following student comments】
Student requests and comments will be taken into consideration.

【Equipment student needs to prepare】
Internet, DVD

【Other】
Week 1 attendance is mandatory to register for this class.

【Prerequisite】
None.

Comparative Culture(2)

小島　尚人

授業コード：A2988
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Course Title: Travel Literature and Road Movie
Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of travelling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives. Through the analysis of travel literature and road movie, this course introduces students to ways of thinking about “culture” in a comparative perspective. Students will learn to discuss various aspects of travelling and writing about travel.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives
2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also make two group presentations during the semester.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students
第 2 回	Overview of Core Concepts (1)	*Little Miss Sunshine* (2006) and *The Grapes of Wrath* (1940)
第 3 回	Overview of Core Concepts (2)	*On the Road* (2012) and *The Adventures of Huck Finn* (1993)
第 4 回	Where to Go	The country and the city; domestic and international travels; travel and the construction of regional/national identities
第 5 回	With Whom to Go	Travelling with/without companions; individuals and communities in travel
第 6 回	How to Get Around	Travel and technology; how the means of transportation affects the experience of travelling
第 7 回	Who Can Travel and Who Cannot	Race, class, and gender in travel
第 8 回	How to Represent the Local	How dialects are represented in travel writing and fiction
第 9 回	Group Presentations (1)	Each group will give a presentation on a film of their choice
第 10 回	Revisiting	Travel and the sense of the past
第 11 回	Study Abroad（留学）(1)	Natsume Soseki’s London and the making of a modern Japanese intellectual
第 12 回	Study Abroad（留学）(2)	The image of “America” in post-WWII Japan
第 13 回	The “End” of the Road	How the return to “everyday life” is narrated; difficulties and possibilities of relativizing one’s own culture
第 14 回	Group Presentations (2)	Each group will give a presentation on a film of their choice
第 15 回	Course Review	Review of course content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for in-class discussions
2) Completing assignments given in each class and bringing them to next class
3) Preparing for group presentations

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】
References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Weekly assignments: 35%
In-class activities (individual tasks, group discussions, and class discussions): 35%
Group presentations: 30%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
N/A

ZA331

Readings in Creative Nonfiction

Michael Bettridge

Credit：2 | Semester：Spring | Year：3〜4
Day/Period：Thu 3rd

【Course outline and objectives】
Creative non-fiction, a genre of writing that deals with real people and events, but which uses the conventions of fiction – dialogue, characterization, plot, point of view, and so on – to tell its true story.

【Course goal】
To guide students to an understanding and appreciation of the craft and literature of creative nonfiction.

【Course method(s)】
Course work will include: weekly reading selections and the writing of a reaction paper; examinations; two student essays; a book review. Reading material will include pieces from a number of sub-genres of the nonfiction form. Lecture, reading and discussion, and writing will done each class meeting.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Creative Nonfiction	Explanation of course work and requirements. Selection exam.
2	The Reaction Journal	Reading: “Why I Write: A Celebration of the National Day on Writing”. Reaction paper.
3	The Narrative – Personal – Essay	Reading: “How it Feels to Be a Colored Me” by Zora Neale Hurston. Reaction paper. Selection of non-fiction book for final exam book report.
4	The Memoir & Autobiography	Reading: “The Art of Self” by Steven Harvey. Reading: “The Chase” by Annie Dillard. Reading: “Everything But the Truth?” by Fern Kupfer. Reaction paper.
5	Family Ties	Reading: “What the Dog Saw” by Malcolm Gladwell. Reaction paper.
6	Nature Writing	Exam on selected essay. Reading. Reading: “Living like Weasels” by Annie Dillard. Reading: Rick Bass and Barry Lopes on hunting. Reaction paper.
7	Travel, Dining and Food Writing	Reading: “Nowhere Man” by Pico Iyer. Reading: “The Intimacy of Forks” by Liesl Schwabe. Reaction paper.
8	Mid-term Exam	Due: Essay #1 - Family History essay.
9	Dialogue, Interview & Reporting	Reading: "Encounter: Ruth REICHL” Truth?” by Michelle Shabtai. Reading: “A Son, His Mom And A Story About A Dog” by Scott Simon. Reaction paper.
10	Writing About Culture	Reading: "STREAM OF THE CROP' by Emily Yoshida. Reading: “How ‘Privilege’ Became a Provocation” by Parul Sehgal. Reaction paper.
11	Cultural Criticism	Exam on selected essay. Reading. Reading: “Motorcycle Gangs” by Hunter S. Thompson. Reading: “No Taking Pictures” by J. D. Riso. Reaction paper.
12	Book Review	Final exam group book review and preparation. Reading: Contains violence. From *The New Zealand Herald*. Reading: “Reading Mom and Dad in Tehran” by Elaine Sciolino. Reaction paper.
13	Due: Essay #2	Writing about culture.
14	Digital Essay & Blog	Reading: “Virtually Romance: A Discourse on Love in the Information Age” by Wendy Rawlings. Reading: “Every Day Is Hot Chocolate Day” by Corby Kummer. Reaction paper.
15	Final Exam	Book review, paper and individual presentation on work read. Discussion and Q & A.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must read the material and do required homework and other preparation for each class.

【Textbooks】
Reading material will be made available for downloading on 授業支援システム (H'etudes), and/or assigned from reference sources.

【References】
http://www.creativenonfiction.org/

【Grading criteria】
Class participation (30%); reaction papers, exams, essay, group discussion (70%).

【Changes following student comments】
More group work.

【Equipment student needs to prepare】
Bring to class: a notebook, the reading material on a laptop or a tablet, or bring a hard copy of the material. Further information will be provided by the instructor.

【Other】
Enrollment is limited to 3rd and 4th year students.

【Prerequisite】
Permission from the instructor to enroll in the course.

EB/C/D132

English Drama Ⅰ

滝沢　カレン

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**金２**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有名な英米演劇の脚本を読んで、作品を鑑賞できるようになる。授業で扱うのは作品のうちの一部の場面である。
英語での表現力（口頭およびライテイィングでのアウトプット力）を向上させる。

【到達目標】
英米演劇が理解できるようになる。脚本を読んだ後で、自分の意見を表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】
教材を読み、その内容について議論したり、簡単な教室内のパフォーマンスの練習をする。ビデオ鑑賞も行う。授業はワークシートに基づいて進められる。その中で関連した質問について自分の考えを言う。
各作品ごとに 500 語程度のライティング課題がある。
【注意】授業計画は授業の展開により変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	course introduction	授業の概要説明
2	the generation gap	A Raisin in the Sun - reading
3	the generation gap	A Raisin in the Sun - discussion
4	the generation gap	A Raisin in the Sun - DVD
5	identity	Elephant Man - reading
6	identity	Elephant Man - discussion
7	identity	Elephant Man - DVD
8	human relations	Trifles - reading
9	human relations	Trifles - discussion
10	human relations	Trifles - performance
11	humor	Fawlty Towers - reading
12	humor	Fawlty Towers - discussion
13	humor	Fawlty Towers - DVD
14	review	復習
15	final examination	期末テスト（教材内容の確認とライティング）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習をすること。語句を調べ、教材のテーマについての討論の準備をすること。各作品毎の課題英作文を用意すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布

【参考書】
英和と和英辞典（授業に持参すること）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での発言、時間厳守）30 %
課題の提出 40 %
期末テスト（教材内容の確認とライティング）30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の実態を配慮します。

EB/C/D132

English Drama Ⅱ

滝沢　カレン

開講時期：**秋学期**　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**金２**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
短編のドラマ（American Ten-Minute Plays) の脚本を読んで、作品を鑑賞できるようになる。
英語での表現力（口頭およびライテイィングでのアウトプット力）を向上させる。

【到達目標】
英語の短編ドラマが理解できるようになる。脚本を読んだ後で、自分の意見を表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】
教材を読み、その内容について議論したり、簡単な教室内のパフォーマンスの練習をする。授業はワークシートに基づいて進められる。その中で関連した質問について自分の考えを言う。
各作品ごとに 500 語程度のライティング課題がある。
【注意】授業計画は授業の展開により変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	course introduction	授業の概要説明
2	folk tales	Lad Carl - reading
3	folk tales	Lad Carl - discussion
4	folk tales	Lad Carl - performance
5	making choices	Breakfast - reading
6	making choices	Breakfast - discussion
7	making choices	Breakfast - performance
8	the art of persuasion	Game Theory - reading
9	the art of persuasion	Game Theory - discussion
10	the art of persuasion	Game Theory - performance
11	suicide	Three Questions - reading
12	suicide	Three Questions - discussion
13	suicide	Three Questions - performance
14	review	復習
15	final examination	期末テスト（教材内容の確認とライティング）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習をすること。語句を調べ、教材のテーマについての討論の準備をすること。各作品毎の課題英作文を用意すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布

【参考書】
英和と和英辞典（授業に持参すること）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での発言、時間厳守）30 %
課題の提出 40 %
期末テスト（教材に基づく筆記試験とライティング）30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の実態を配慮します。

Elementary Humanities A

スティーヴン・ネルソン

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
WEB シラバスを参照してください。

【到達目標】

【授業の進め方と方法】

【授業計画】
回　　テーマ　　内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

Elementary Humanities B

リチャード・バロース

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・3**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulation audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

【到達目標】
During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual material, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up pair-work comprehension questions, discussion & structured conversation practice will also give them the opportunity to improve their oral skills. Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

【授業の進め方と方法】
The previous lesson's reading assignment will be reviewed before a pair-work preview will introduce the theme for that lesson. Any required vocabulary will be previewed before students view/listen to the material.
Pair-work comprehension questions will allow students to check their own understanding, while a post-viewing discussion will offer more chances to analyze the material. Time permitting, there will be structured conversation practice before outlining the following week's homework.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Explanation	Course Introduction
2	Listening & Speaking	An Introduction to Britain
3	Listening & Speaking	London
4	Listening & Speaking	UK Pop Music
5	Listening & Speaking	The Train Driver
6	Listening & Speaking	Heathrow Airport
7	Listening & Speaking	William Shakespeare
8	Listening & Speaking	Tea
9	Listening & Speaking	Climbers
10	Listening & Speaking	Sherlock Holmes
11	Listening & Speaking	Wales
12	Listening & Speaking	BBC
13	Listening & Speaking	The Sea
14	Listening & Speaking	The Seven Wonders of Britain
15	Explanation	Course Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Regular reading assignments with comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An electronic dictionary or smartphone will be required at every lesson

【成績評価の方法と基準】
Attendance & Punctuality 30%
Homework & Classwork 30%
Presentation 20%
Report 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Extra time will be permitted for students having difficulty with audio-visual comprehension.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC & Printer in order to print reports

【その他の重要事項】
Since there is no textbook in this course, students will need to bring an A4 or B4 folder or binder to each class in order to keep the photocopied that will be handed out at every lesson.

Elementary Information Technology

松田　裕幸

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・3**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Information technology can be found everywhere. Some technology, you can see, some technology, you cannot see. Anyway it produces data and it also absorb data then creates a piece of new information. You will learn the power of information technology and how to col-live with it.

【到達目標】
You will never get be drowned in the information sea and can create a new business using information technology after this course.

【授業の進め方と方法】
lectures, discussions and the final assignment.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	the history of information technology	from computing machines, symbolic computing to thinking machines
2	introduction to information science	how is the world decoded into bits
3	information technology as a communication tool	The Internet, e-mail, World Wide Web, social network
4	information technology as a knowledge sharing tool	Wikipedia, global brain, cloud computing
5	information technology as a transmitting tool	information compression, error correction
6	social impacts	e-commerce, smart city
7	industrial impacts	Apple, Google, Facebook, Twitter etc., what do they contribute to information technology?
8	data society	the world is full of data. big data, IoT (Internet of Things).
9	data science I	applications in business markets
10	data science II	appiications in industrial markets
11	information design I	understanding the information by visualizing data [information map]
12	information design II	making decisions/predictions via visualized information [knowledge]
13	the future of the information technology	communicating with machines. robots, A.I.(artificial intelligence)
14	the future of the information technology	assignment theme to you
15	the final assessment of your understanding	the final assessment of your understanding

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
no preliminary preparation for the class is needed.

【テキスト（教科書）】
all class materials are provided via the online site.

【参考書】
none.

【成績評価の方法と基準】
the score of you will depend on the final assignment (report). you should also attend more than two-third of the whole classes.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
nothing because this course is a newly one.

Elementary Career Development

有田　五郎

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class is to build foundations required to work in the business field. It can be realized starting to know active working sites and to have understanding on yourselves. The groupwork is mainly utilized to approach onto the target.

【到達目標】
1. To be well trained on writing key concepts and on treating informations,
such as how to collect, how to evaluate and how to make publishment.
2. To understand connction between university studies and business skills.
3. To strengthen communication skills.

【授業の進め方と方法】
Having the different objectives each time, you need to write your own view. Based on this writing, you are requested to make groups for discussions.
Through the groupwork, you will find the different way of thinking and even
differences on value evaluation. Those steps will create the basis on your
working capability.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	To explain outline of the class
2	Core words and sentences	To enhance ability to grasp topics from sentences
3	Voices from business field	To have lesson from Guest Speaker
4	Sentence construction	To enpower ability to make sentences well understandable
5	Suitable information	To enhanve ability to find most suitable information
6	Net-work expansion	To enlarge personal net-work
7	Informaton selection	To enhance ability to select reliable information
8	Labor Laws	To learn Labor Laws and their application
9	Announcement tool	To enhance ability to select most effective tool for announcement
10	Personnel Departments' view points	To know essential view points of Company Personnel Department
11	Overseas business development	To learn development of overseas business from DVD
12	Own target challenge	To go forward to personaltarget and how to challenge
13	Change circumstances	To be positive towards changing circumstances
14	Best selection findings	To enhance ability to find best selection
15	Summary	To summarize how myself should be

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is suggested to spend university life having exchange of own originality and admitting differences each other.

【テキスト（教科書）】
Work sheet will be provided daily before starting lesson and be collected at the end for scoring.

【参考書】
Blueprint for Success-Foundations by Dale Fuller etc.2005 from Macmillan Languagehouse Ltd.,Tokyo

【成績評価の方法と基準】
70% from daily small tests and rest 30% from ending test.
It is required to write own views based on understanding of key concept.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not available since this class is newly introduced.

ZA124

Physical Education II

Nemes Roland

Credit：1 ｜ Semester：Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：Mon 1st

【Course outline and objectives】
Understanding the various physical activities and their effect on the daily health and/or fitness level. Learning teamwork and personal role in a group through various exercises that require technique and/or tactical knowledge.

【Course goal】
1. Learning about various ways of exercising
2. Understanding the basics of healthy lifestyle
3. Learning about basic self control and its importance
4. Exercising simple decision making, leadership, communication in a dependent, co-dependent environment
5. Creating a demand for future self-education, self-development

【Course method(s)】
Introducing different types of modern exercising methods, that can be easily carried out at home as well. Introducing the basic principles of team ball-sports, using variation of handball games and small sided games. Learning techniques and tactics as well as interacting with others in the group through game sense approach.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Guidance	Introduction of the course
2	Practical lesson (handball) (1)	Learning about the rules, playing small sided games
3	Practical lesson (handball) (2)	Learning the basic offensive and defense movements, playing small
4	Practical lesson (handball) (3)	Practicing basic techniques, playing handball games
5	Practical lesson (handball) (4)	Practicing basic techniques, playing handball games
6	Practical lesson (handball) (5)	Practicing basic techniques, playing handball games
7	Practical lesson (handball) (6)	Practicing basic techniques, playing handball games
8	Practical lesson (handball) (7)	Practicing basic techniques, playing handball games
9	Practical lesson (handball) (8)	Practicing basic techniques, playing handball games
10	Practical lesson (handball) (9)	Practicing basic techniques, playing handball games
11	Practical lesson (handball) (10)	Practicing basic techniques, playing handball games
12	Practical lesson (floorball) (1)	Learning about floorball and practicing basic skills with the implementation of the handball knowledge
13	Practical lesson (floorball) (2)	Learning about floorball and practicing basic skills with the implementation of the handball knowledge
14	Physical test	Carry out the MEXT fitness measurements
15	Summarizing the course	Playing handball and floorball games

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Research and learn the rules of handball and floorball

【Textbooks】
No textbook

【References】
1. ハンドボールルール http://www.handball.jp/jha/kyogi_unei/2015rules_of_the_game.pdf 、または http://www.ihf.info/files/Uploads/NewsAttachments/0_RuleGame_GB.pdf
2.http://www.floorball.org/pages/EN/Rules-of-the-game-

【Grading criteria】
Participation（80%), Report（20%)

【Changes following student comments】
1. The purpose of the class will be explained at beginning of each class
2. Ideas and personal opinions are accepted in order to improve the class

【Equipment student needs to prepare】
1. Proper sports wear
2. Indoor shoes (avoid running shoes as much as possible)

【Other】
Only this column is described in Japanese, as follows:
この科目は II からの受講が可能です。II を履修後、I を履修することも可能です。

【Prerequisite】
None.

Intercultural Communication E

イヴ　ロワゾー

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・4**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is given in English and is offered to every student with a fair level of English (end of B1 to C1). It will provide information on foreign (particularly from French speaking countries) sociocultural characteristics and behaviour (such as interpersonal relations, social conventions, ritual behaviour …) from which students will be asked to question their own culture and build contents regarding their own culture.

【到達目標】
The goal of the course is not to provide the students with cultural knowledge and cultural facts to be memorized but to acquire an intercultural awareness and an existential competence. Students will develop intercultural skills and know-how which include « the ability to bring the culture of origin and the foreign culture into relation with each other; cultural sensitivity and the ability to identify and use a variety of strategies for contact with those from other cultures" [Council of Europe, 2001, Common European Framework of Reference for Languages]

【授業の進め方と方法】
The course will be mostly based on workshops during which students will have to get information on foreign cultures through material provided (written documents, commercials, videos …) and share with others. They will then have to compare the information on foreign culture with their culture in order to understand the way both are organized and the way both apprehend the environment.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Defining culture	- Presentation of the course - Definition of culture and interculturality
2	Defining culture	Identity and ethnicity
3	Defining culture	Differences and stereotypes
4	Defining culture	Culture and language - Sapir-Whorf principle - Cultural load of words and communication routines
5	Defining culture	Review
6	Non verbal communication	Environment, proxemics and chronemics
7	Non verbal communication	Gestures, mimics, appearance
8	Non verbal communication	Review
9	The structures of society	Individualism and collectivism
10	The structures of society	Women and family
11	The structures of society	Faith and values
12	The structures of society	Activity, work and leisure
13	The structures of society	Migrants, refugees and mobility
14	The structures of society	Review on society
15	Semester review	Review and assessment of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The study of the material provided will take place during the class. Students will have to look for evidences or examples (articles, commercials, pictures …) of the Japanese culture outside of class.

【テキスト（教科書）】
No textbook. Study material will be brought by the teacher and the students.

【参考書】
JANDT, Fred E., An Introduction to intercultural communication, Sage, 2010 (6)
HALL, Edward T., Beyond Culture, Anchor Books ed. 1976
HALL, Edward T., The Hidden Dimension, Doubleday, 1969
HOFSTEDE, Gert, Cultures and Organizations, Software of the mind, Mac Graw Hill, 2005 (2)
VARNER, Iris, BEAMER, Linda, Intercultural communication in the Global Workplace, Mac Graw Hill, 2005 (3)
LEWIS, Richard D., Cross-cultural Communication - A Visual Approach, Transcreen Publication, 1999

【成績評価の方法と基準】
Writing : 50%
Speaking : 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
LL room
Internet, CD, DVD

Intercultural Communication G

山﨑　佳子

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**火・3**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will be an introduction to Japan, focusing on the sociological aspects of Japan by examining geographical, historical, industrial, educational and technological factors. It will help students to deepen their understanding to Japan and its people.

【到達目標】
The students will be able to have a clear image of Japan in various sociological aspects through the course, which will lead them to deepen their understanding of Japan and eventually to promote international exchange with Japanese people inside and outside of the campus.

【授業の進め方と方法】
This course will consist of primarily lectures, discussions and field study trips. A textbook will be used with audio-visual materials and handouts. Students are expected to actively participate in group discussions and oral presentations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation Self introduction	Class orientation Self introduction
Week 2	Geography-1	Map of Japan, location, climate, nature
Week 3	Geography-2	Cities, prefectures, world heritages
Week 4	History-1	Origin of the Japanese Nation
Week 5	History-2	Ancient times to recent times
Week 6	Society-1	Population, social insurance
Week 7	Society-2	Education, family life/social life
Week 8	Mid-term exam	Mid-term exam
Week 9	Politics-1	Government system, elections, political powers
Week 10	Politics-2	Diplomacy, Imperial family, use of eras,
Week 11	Industry-1	Technology, transportation, energy,
Week 12	Industry-2	Agriculture, manufacturing
Week 13	Economy-1	import/export, companies, employment
Week 14	Economy-2	Salary, working hours, job-hunting
Week 15	Final exam	Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are to preview/review the class materials that are covered in classes and to prepare for the presentation.

【テキスト（教科書）】
Original handouts

【参考書】
NIPPON JAPAN THE LAND AND ITS PEOPLE 日鉄住金総研（株）学生社　2376 円

【成績評価の方法と基準】
Class participation 40%
Presentation 30 %
Mid term /Final examination 30%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This is a new class this semester.

【Prerequisite】
None

Intercultural Communication B

石原　紀子

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・3**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
As culture is closely intertwined with language, language teachers need to consider their cultural selves and learn to understand cultural diversity in order to deal with issues related to culture in their language classrooms. In this course, we will focus primarily on “invisible culture” to deepen your understanding of diversity in cultural orientations, values, behavior, and language use. You will also reflect on your intercultural experiences and explore your multi-cultural identities as well as ways to incorporate culture into language education.

【到達目標】
In this course, you will 1) cultivate your understanding of the relationships between culture, language, and literacy, 2) become able to analyze examples of and reasons for culture clashes and learn to use concepts such as stereotypes, generalizations, othering, and marginalization in your analysis, and 3) be able to reflect on your intercultural experiences and identities using these concepts.

【授業の進め方と方法】
Before class you must work on some reading assignments. In class we review the new material, complete relevant tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the whole class. You are encouraged to actively participate in this task-based learning (TBL/PBL) and group work.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	Visible/invisible culture, 5Cs in language teaching	What is culture?
3	Stereotypes and generalizations	Definitions and examples
4	Cultural diversity in academia and in the workplace	Understanding diversity as an asset
5	Similarities and differences in cultural orientations	Analysis of several cultural orientations
6	Cultural case study - 1	Analysis of use of time and language use
7	Cultural case study - 2	Analysis of group dynamics and apologies
8	Student-led discussions	Cultural case studies
9	Social, cultural, and political aspects of education	Understanding 5 concepts of Sociocultural Theory
10	Culture and literacy	Applying the sociocultural concepts
11	Culture, literacy, accent, and community	Understanding the interconnectedness between culture, education, and community
12	Teaching culture – 1	Integrating culture into language teaching
13	Teaching culture – 2	Combatting stereotypes

14	Teaching culture – 3	Culture and discourse
15	Reflective discussion	Culture, language teaching

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You should complete assigned reading and/or writing before coming to class. Come ready to discuss the material in English with your peer participants possibly coming from different cultures.

【テキスト（教科書）】
Weekly readings will be made accessible through the course website. Please download and read before class.

【参考書】
Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】
You will receive a formal evaluation of your work at the end of the term. The grade on a late assignment will be lowered. You will be graded on:
1) Attendance and participation (20%)
2) Reflective writing assignments and/or in-class writing (40%)
3) Cultural case study discussion (15%) and its write-up (25%) (40%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This course is to open in the fall of 2016 to be instructed in English. Students must be competent speakers of English (native or equivalent of TOEFL iBT 61 or more) and interested in teaching English (or another foreign language), as this course is targeted for prospective language teachers. Students of any majors coming from different cultures are welcome as long as they are interested in language education. Students should view each other's cultural experiences as an asset to this course and crate a friendly learning community.

Intercultural Communication C

石原　紀子

カテゴリ：**選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・3**
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Without cultural knowledge, language learners may not fully understand the meaning of a message in an L2. Even with perfect grammar, they could completely offend their conversational partners without using language appropriately. In this course, you will take a close look at the strategies used in world languages in order to understand how politeness, impoliteness, formality, and informality are negotiated. You will also consider and discuss diverse cultural values and orientations that are closely connected to language choice and non-verbal behavior in world cultures. This enhanced awareness will help you become a more tactful user of your first and second languages and prepare you for smoother intercultural communication.

【到達目標】
In this course, you will become able to 1) cultivate your understanding of the relationship between language form, meaning/function, and context, 2) become familiar with the notion of face and politeness, 3) collect and analyze authentic language samples, 3) understand cultural values and orientations behind language use in world languages. The course will also provide an opportunity for you to reflect on intercultural clashes and possible conflict resolutions.

【授業の進め方と方法】
Before class you must work on some reading/writing assignments. In class we review the new material, complete relevant tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the whole class. You are encouraged to actively participate in this task-based learning (TBL/PBL) and group work.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	Greeting	Analysis of authentic language data
3	Terms of address -1	Positive and negative politeness
4	Terms of address -2	Form-context mapping
5	Giving and responding to compliments -1	Form-function-context mapping
6	Giving and responding to compliments -2	Linguistic and cultural aspects of politeness
7	Requests - 1	Request head acts
8	Requests - 2	Request moves
9	Requests - 3	Data collection procedures
10	Ostensible invitations - 1	Ostensible and genuine invitations
11	Ostensible invitations - 2	Whose norms for World Englishes?
12	Dispreferred responses -1	Verbal and non-verbal mitigators
13	Dispreferred responses -2	Cultural orientations
14	Student presentations	Analysis of authentic language data
15	Wrap-up discussion	Student presentations and final reflections, peace linguistics

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You should complete assigned reading and collect language data before coming to class. Come ready to discuss the material in English with your peer participants possibly coming from different cultures.

【テキスト（教科書）】
Weekly readings will be made accessible through the course website. Please download and read before class.

【参考書】
Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】
You will receive a formal evaluation of your work at the end of the term. The grade on a late assignment will be lowered. You will be graded on:
1) Attendance and participation (20%)
2) Language analysis quizzes (40%)
3) Research projects on analysis of language and culture (presentation 15% and paper 25%) (40%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This course is to open in the fall of 2016 to be instructed in English. Students must be competent speakers of English (native or equivalent of TOEFL iBT 61 or more). Students of any majors coming from different cultures are welcome as long as they are interested in language and communication. Students should view each other's cultural experiences as an asset to this course and crate a friendly learning community.

LA268

Natural Science A

宇野　真介

カテゴリ：**総合科目・選択**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**月・3**
※定員制　履修可能年次： 1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Human society is faced with not only various environmental problems but also equally important social problems. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of the environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】
Although this is an English course, "teaching English" is NOT its primary objective. This course is designed to teach about ecological and social issues using the English language. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasps the big picture of the current state of human society. Then, as a fourth objective, students should be able to express their thoughts about the course material in English both in writing and speech.

【授業の進め方と方法】
Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is structured roughly in two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.
The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, video, group activity, and discussion will also be utilized in combination when appropriate.

【授業計画】

回	テーマ	内容
No. 1	Introduction	Overview of the course and introduction to the concept of sustainability
No. 2	Understanding Ecosystem	Basic features of ecosystems, matter and energy in ecosystems
No. 3	Ecological Concept of Stability	Causes and consequences of ecological disturbance
No. 4	Species Interactions and Biological Community	Different types of relationships among organisms and the complexity of biological community
No. 5	In-Class Exercise 1	Group activity: applying ecological understanding to forest management
No. 6	Understanding Biodiversity	Basic features, current state, and conservation of biodiversity
No. 7	Biodiversity and Human Society	Significance of biodiversity in human society
No. 8	Ecological Issues of Food Production	Positive and negative impacts of modern agriculture
No. 9	Social Background of Food Crisis	Social background of ecological issues related to food production
No. 10	Food Production and Environmental Conservation	Achieving food security without degrading environment
No. 11	Viewing the World from the South	Globalization and the current state of the developing world
No. 12	Ecological Issues of "Development"	Environmental problems caused by "development" in the development world
No. 13	In-Class Exercise 2	World-trade simulation: exploring social aspect of global economy and development
No. 14	Toward Sustainable Development	Alternative development models in the global society
No. 15	Synthesis	Overall review and the Big Picture of sustainability

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review contents of individual lectures, to thoroughly read distributed reading materials, and to utilize the online learning support system as needed.

【テキスト（教科書）】
None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】
To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】
Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (30 %), and writing assignments (30 %). A+ = 90 % and above; A = 80 to 89 %; B = 70 to 79 %; C = 60 to 69 %; D(fail) = 59 % and below.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Although some students found it difficult to handle the course taught entirely in English (especially when unfamiliar technical terms are involved), their responses to the course were generally positive. Changes considered in consideration of students' comments are: to provide assistance in Japanese when handling technical terms and to provide Japanese supplementary reading materials.

Comparative Culture(3)

小島　尚人

授業コード：A2989
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to give students opportunities to discuss modern Japanese literature in English. Reading Japanese short stories in English translations, students will develop their comparative perspectives on Japanese literature and culture.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Introduce famous Japanese authors and their works in spoken English
2. Examine the ways in which Japanese literature has been translated and read
3. Situate the characteristics of Japanese literature in a broader perspective

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also make two group presentations during the semester.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students
第 2 回	Higuchi Ichiyo	Higuchi Ichiyo, “Separate Ways” (1896)
第 3 回	Natsume Soseki	Natsume Soseki, “The Third Night” (1908)
第 4 回	Shiga Naoya	Shiga Naoya, “Night Fires” (1920)
第 5 回	Akutagawa Ryunosuke	Akutagawa Ryunosuke, “In a Grove” (1921)
第 6 回	Kawabata Yasunari	Kawabata Yasunari, “The Izu Dancer” (1925)
第 7 回	Miyazawa Kenji	Miyazawa Kenji, “The Bears of Nametoko” (1927)
第 8 回	Group Presentations (1)	Each group will give a presentation on an author of their choice
第 9 回	Dazai Osamu	Dazai Osamu, “Merry Christmas” (1946)
第 10 回	Mishima Yukio	Mishima Yukio, “Onnagata” (1957)
第 11 回	Oe Kenzaburo	Oe Kenzaburo, “Prize Stock” (1958)
第 12 回	Murakami Haruki	Murakami Haruki, “The Elephant Vanishes” (1987)
第 13 回	Yoshimoto Banana	Yoshimoto Banana, “Dreaming of Kimchee” (1992)
第 14 回	Group Presentations (2)	Each group will give a presentation on an author of their choice
第 15 回	Course Review	Review of course content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) Reading assigned texts and preparing for in-class discussions
2) Completing assignments given in each class and bringing them to next class
3) Preparing for group presentations

【テキスト（教科書）】
Theodore W. Goossen, ed. *The Oxford Book of Japanese Short Stories*. Oxford University Press, 2002. ISBN: 9780199583195.
Study guides as well as additional materials will be distributed in class.

【参考書】
References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Weekly assignments: 35%
In-class activities (individual tasks, group discussions, and class discussions): 35%
Group presentations: 30%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
N/A

Second Language Learning and Teaching

ブライアン・ウィスナー

授業コード：A2990
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course examines key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Conduct research on instructed L2 learning, and relate the findings to L2 learning and teaching in Japan

【授業の進め方と方法】
This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Focus on form	Attending to meaning and form in L2 learning
第 7 回	Acquisition of L2 grammar	How is L2 grammar acquired?
第 8 回	Acquisition of L2 vocabulary	Issues related to L2 vocabulary acquisition
第 9 回	Contexts of instructed second language acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 10 回	Foreign language aptitude	Does language aptitude influence L2 learning?
第 11 回	Motivation	To what extent does motivation affect L2 learning?
第 12 回	Affect and other individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations	Discussion of and feedback on students' research projects
第 15 回	Review	Review of course content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class–this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】
Patsy M. Lightbown, and Nina Spada. (2013). *How languages are learned*. Oxford University Press. Approximately 4,200 yen.

【参考書】
Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final exam: 25%
Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
This is the first time for this course to be offered.

Religion and Society

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will learn anthropological approaches to thinking about various issues regarding religions and societies. Rather than focusing on theological discussions, details of religious teachings, or categories of religions, this course will explore the everyday experiences and understandings of the spiritual, the sacred, the mysterious, or the unexplainable. After building a foundation of anthropological thinking, students will examine religions in relation to symbolism, boundaries, politics, and personhood in different societies.

【到達目標】
Students will:
- Understand basic anthropological approaches to religion and relativize their conceptions of religion, humanity, and society.
- Learn about comparative perspectives and the difficulties of translating and comparing concepts such as religion across different languages and societies.
- Develop critical reading and discussion skills in English and gain new perspectives on their own belief systems.

【授業の進め方と方法】
The course consists of short lectures, student presentations, and class discussion. Readings are assigned for each class. The lecturer first introduces the context of the literature, and then students present their assignments. Pre-assigned discussants prepare questions and comments and facilitate class discussion. Video resources are also used in a few classes. The course design will be adjusted depending on the number of participants and their interests.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course and scheduling (assigning presenters and discussants)
2	Anthropology of religion	Introduction to basic approaches to religions in different cultures and societies (Bowie 2006, chap. 1)
3	Symbolism 1	Introduction to symbolic classifications regarding the religious (Bowie 2006, chap. 2)
4	Symbolism 2: The sacred and cleanliness	Different categorizing systems for pollution, taboos, and uncleanliness in different societies (Douglas, Mary. 2004 (1966). *Purity and Danger: An analysis of concept of pollution and taboo*. London: Routledge)
5	Boundaries 1	Introduction to the boundaries of “us” and “them” and the politics of religious identity (Bowie, chap. 3)
6	Boundaries 2: Gypsy and non-Gypsy	The different concepts of dirtiness and the collective boundary making and management between Gypsy and non-Gypsy (Gorgio) (Okely, Judith. 1983. *The Traveller-Gypsies.* Cambridge: Cambridge University Press.)
7	Boundaries 3: Inside and outside	Changing and overlapping boundaries in the cases of “the public and private” and “the inside and outside” in postcolonial India. (Chakrabarty, Dipesh. 1992. Of garbage, modernity and the citizen’s gaze.*Economic & Political Weekly* 27 (10/11): 541-547. Kaviraj, Sudipta. 1997. Filth and the public sphere: concepts and practices about space in Calcutta. *Public Culture* 10 (1): 83-113.)
8	Boundaries 4: Human and non-human	When and how is a baby (or embryo/fetus) considered a human? Different boundaries between human and non-human (spirit/pre-human) (Video: *The Yanomami*, NHK)
9	Politics 1: Occult economies	The enchantment of modernity and the effects of capitalism (Comaroff, Jean and John L. Comaroff. 1999. Occult economies and the violence of abstraction: Notes from the South African postcolony. *American Ethnologists* 26 (2): 279-303.)
10	Politics 2: Hindu nationalism	Nationalism and religion: The case of Hindu nationalism in India (Jaffrelot, Christophe (ed.). 2007. *Hindu Nationalism: A Reader.* Princeton: Princeton University Press.)
11	Politics 3: Japanese cult	Entangled relations with the state: A new religious group (Aum Shinrikyo), their beliefs, modern state institutions and local communities in contemporary Japan (Video: *A* and *A2*, Tatsuya Mori)
12	Personhood 1: Caste society and homo hierarchicus	Classic comparison of the egalitarian individualism of the modern West and the hierarchical and relational (complementary) persons of Indian caste society (Dumont, Louis. 1980 (1966).*Homo Hierarchicus: the Caste System and its Implications*. (Complete revised English edition) Chicago: The University of Chicago Press.)

13	Personhood 2: Substance-code and dividuals	Another comparison of India and the West: Contrary to Western bounded "in-dividuals," Indian "dividuals" (dividable persons) are considered made of transactions of "substance-code" (food, sexual fluid, conversations, etc.) (Marriot, McKim. and Ronald B. Inden. 1977. Toward an ethnosociology of South Asian caste systems. *In The New Wind: Changing Identities in South Asia*, ed. Kenneth David, 227-238. The Hague: Mouton.)
14	Other worlds 1: Perspectives and multinaturalism	Other worlds 1: Perspectives and multinaturalism Different worlds or ontologies between the Western (multiculturalism) and the Amerindian (multinaturalism) (Viveiros de Castro, Eduardo. 2004. Exchanging perspectives: The transformation of objects into subjects in Amerindian ontologies. *Common Knowledge* 10 (3): 463-484.)
15	Other worlds 2: Spirit rituals	The changing relations and networks among humans and nonhuman entities, including deities and machinery: The case of South Indian spirit rituals (Ishii, Miho. 2015. The ecology of transaction: Dividual persons, spirits, and machinery in a Special Economic Zone in South India. *NatureCulture* 3:7-34.)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read the assigned texts and prepare questions or comments (e.g., about difficult or interesting parts, related cases, or other points for discussion) before class. Students are encouraged to read suggested further readings according to their own interests.

【テキスト（教科書）】
No textbook required. Readings (as suggested in this syllabus) will be shared or provided in class.

【参考書】
General reference:
Bowie, Fiona. 2006. *The Anthropology of Religion: An Introduction*, second edition. Oxford: Blackwell.

【成績評価の方法と基準】
Participation in class (50%)
Presentation (50%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Not applicable (New course)

【その他の重要事項】
Students who are interested in this course must attend the first session, in which we will decide on the course outline and presentation schedule. All participants are expected to read the reading material of the week and join class discussions.

GA332

History of English

奥石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：
他学部への公開：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is twofold:
1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

【到達目標】
1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

【授業の進め方と方法】
Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (227 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:
- download and print out the slides and skim them over;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the H'etudes, i.e. 授業支援システム, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned in H'etudes for further comprehension.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction; early history	- Introduction - IE studies & comparative linguistics - Proto-Indo-European
2	Early history (cont'd)	- Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
3	Early history (cont'd) and Old English	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
4	Old English (cont'd)	- Place name studies - *Angli* vs *wealas* - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks casket
5	Old English (cont'd)	- Old English Pronunciation - 'Back to front' movements

6	Old English (cont'd)	- Old English documents and poems (Law of Æthelberht, Ælfric's *Colloquy*, Lindisfarne Gospels, *Beowulf*) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding
7	Old English (cont'd)and Middle English	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	Middle English (cont'd)	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - Middle English (Grammar and lexis, OE and ME dialects, word order, etc.)
9	Middle English (cont'd)	ME documents (*Sumer is Icumen in*, *The Canterbury Tales*, *Piers Plowman*) - Social changes - Great Vowel Shift
10	Modern English	- Great Vowel Shift (cont'd) - English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	Modern English (cont'd)	- Biblical parallel texts - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	Modern English (cont'd)	- The first dictionaries (*A Table Alphabeticall*, Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - *The Oxford English Dictionary*
13	Modern English (cont'd) and Present-day English	- *The Oxford English Dictionary* (cont'd) - Received Pronunciation and General American - Regional varieties
14	Present-day English (cont'd)	- Regional varieties (cont'd) - Jargon and slang - The future of English
15	Final exam	Students are to take the final in-class exam, which is a comprehensive one covering all the contents of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to visit the relevant H'etudes site and get as much information as needed.
Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested in お知らせ posted immediately after each class session by the instructor.

【テキスト（教科書）】
Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford: Oxford University Press.

【参考書】
Suggested reading materials to enhance students' comprehension will be mentioned through H'etudes in due course. However, the following are worth reading prior to the opening of the course:
- Algeo, John (2010). *The Origins and Development of the English Language*. Sixth edition. Boston: Wadsworth. [Based on the original work of Thomas Pyles. Careful about special phonetic notations used.]
- Barber, Charles, Joan C. Beal, and Philip A. Shaw (2009). *The English Language: A Historical Introduction*. Second edition. Cambridge: Cambridge University Press. [Offers clear explanations of linguistic ideas.]
- Bradley, Henry (1970). *The Making of English*. Tokyo: Seibido. [A bit out of date, but still a good introduction. Japanese translation available from Iwanami.]
- Schmitt, Norbert and Richard Marsden (2009). *Why Is English Like That? Historical Answers to Hard ELT Questions*. Ann Arbor: The University of Michigan Press. [A recent book; easy to read; written for English language teachers.]

【成績評価の方法と基準】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- Final exam: 50%.
- Project: 30%
- Class participation: 20%.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Overall, the instructor gets favourable comments from the students.

【学生が準備すべき機器他】
Using a personal computer is recommended, which enables you to get accustomed to make use of phonetic fonts as well as tree-drawing applications. Also, there are many interesting sites on the web which the instructor recommends you to visit.

【その他の重要事項】
In terms of its content, this course is the same as「英語圏の文化VIII（英語の歴史）」taught in Japanese. Therefore, if you have obtained credits taking that course, you cannot obtain credits by taking this course.
This course is just a half-year (semestral) course about the history of the English language. Students are highly encouraged to study various matters not treated in class sessions.
Also, as is shown in Goals above, always having a strong interest in English per se is important. So, please study English hard and try to develop a 'feel' for the language.

【カリキュラム上の位置づけ】
Open for the third- and fourth-year FIC students (many of them probably being the SA-English students). Also open for non-FIC students. Appropriate for those who have strong interest in the English language and historical linguistics.

GA332

英語アプリケーション（木曜・3 限）The History of Tourism

マーク・フィールド

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】
The goal of this course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【授業の進め方と方法】
In this course we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation	Student Selection & Class Overview
2 回	History of Tourism	World Tourism Day
3 回	History of Tourism	Global Code of Ethics for Tourism
4 回	History of Tourism	The Development of Mass Tourism
5 回	Expanding Roles of Tourism	Student Presentations
6 回	Tourist Markets	Transportation & Infrastructure
7 回	Tourist Markets	Accommodations
8 回	Tourist Markets	Attractions & Activities
9 回	Expanding Roles of Tourism	Student Presentations
10 回	New Modes of Tourism	All-inclusive Resorts
11 回	New Modes of Tourism	Cruises
12 回	New Modes of Tourism	Thematic Tourism
13 回	Business Constraints	The Economics of Tourism
14 回	Social Considerations	The Environmental and Cultural Impacts of Tourism
15 回	Final Assessment	Examination/Term Project

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
20% Short Presentations
40% Final Examination/Term Project

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.
Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】
OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

GA329

History of Western Thought

マーク・フィールド

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**なし**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

【到達目標】
The primary goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand: 1) how societies and cultures change in general and 2) how the cultures of the English-Speaking World developed their unique forms. Using the framework of cultural change, we will examine the formation of “Western” religious and political institutions that developed before 1500 CE in order to better appreciate the roots of “Western” social, political, and economic thought. Building on this foundation, the evolution of modern social systems and political-economic thought that occurred in the English-Speaking World after 1500 CE will be discussed.

【授業の進め方と方法】
The course will start out by outlining the forces behind cultural change. This will be followed by a series of lectures discussing the development of European political and religious institutions following the Ancient Greco-Roman era. We will then attempt to analyze Britain’s rather unique political & economic institutions at the beginning of the modern era as a product of cultural change. Building on this foundation, the cultural changes, i.e., the changes in thought, caused by the Protestant Reformation and Enlightenment Philosophy will be examined and their impact on the development of British and American Political-Economic Systems through the 19th and 20th Centuries will be discussed.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Introduction to the Forces Behind Cultural Change
2 回	Religion & Philosophy:	The Foundations of Culture & Thought?
3 回	The Role of Myths:	Social Formation in the Ancient World
4 回	Cultural Conflicts:	Change in the Hellenic World
5 回	The World at the End of the Ancient Era:	Roman’s Unique Position
6 回	Mass Migration:	The End of the Roman Empire
7 回	Political and Religious Conflicts:	The Medieval World
8 回	The World at the Beginning of the Modern Era:	Britain’s Unique Position
9 回	The Renaissance:	The English Reformation & The English Enlightenment
10 回	The English World:	Revolutionary Challenges, Industrialization & Empire
11 回	World War I:	Wilson’s Democratic Vision
12 回	World Depression:	Keynesian Economics & FDR’s New Deal
13 回	Post-War America & Britain:	The New International Order
14 回	The New-New Deal:	New Conservatives, New Democrats, New Labor
15 回	The Assessment:	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lectures at home to enhance their participation in classroom lectures and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various forms of English resource materials and media independently during the preparation of their Research Papers.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course reading material during the semester.

【参考書】
Participating students will do independent reading for their Research Papers.

【成績評価の方法と基準】
30% In class Evaluation (Participation, Discussions, etc.)
30% Homework/Research Paper/Midterm Examination,
40% Final Examination/Term Project.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

GA332

Art, Rebellion and Advertising

マーティン・ブラッドショー

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**なし**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し受講許可を得ること**
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this class is to examine cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【到達目標】
The goal of this course is improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems.

【授業の進め方と方法】
Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements; the notion of 'possibility.'
Week 2	Theme: Art	Topic: Symbols and Logos.
Week 3	Theme: Art	Topic: Symbols and meanings – Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art	Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows.'
Week 5	Theme: Art	Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife' (1943).
Week 6	Theme: Art	Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?
Week 7	Theme: Rebellion	Topic: Youth rebellion in the 1950s/1960s; counterculture movement.
Week 8	Theme: Rebellion	Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 9	Theme: Rebellion	Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young.
Week 10	Theme: Rebellion	Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech.
Week 11	Theme: Advertising	Topic: Advertising techniques.
Week 12	Theme: Advertising	Topic: Advertising techniques continued.
Week 13	Theme: Advertising	Topic: Advertising vs Branding.
Week 14	Theme: Beliefs	Topic: Is the unexamined life worth living?
Week 15	Theme: Conclusion	Topic: Final remarks and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】
No required textbook.

【参考書】
References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.
Presentations – 70%
Class participation – 30%
Passing grade for the class is 60%.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
No changes from 2015.

Japanese Society and Sustainability 1

佐伯　英子

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to be an overview of contemporary Japanese society. Throughout the term, we explore how we can understand Japanese society, by using various sociological concepts and making international comparisons. By engaging with critical issues in contemporary Japan, we will explore the ways in which the society can achieve sustainable system and culture both within the country as well as a member of international community.

【到達目標】
Through this class, you will be expected to critically engage with knowledge and information from both scholarly and popular media, and demonstrate your understanding through your assignments, an individual research paper, and participation in class.

【授業の進め方と方法】
This course consists of three sections. The first section is “Individuals and Socialization.” We will consider what kinds of behaviors are socially expected on individuals, and the effects of socialization on individuals. In the second section, “Social Institutions,” we will explore the relationship between organizations and individuals in Japan, through examinations of education, work, social control, and welfare. Lastly, the third section introduces some of the contentious issues Japan is grappling with, and we will discuss such issues to deepen our understanding of Japanese society. Each class consists of lecture, discussions, and other learning activities.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	What does it mean to study Japan from sociological perspectives?
第 2 回	Individuals and Socialization 1	Family
第 3 回	Individuals and Socialization 2	Gender
第 4 回	Individuals and Socialization 3	Language
第 5 回	Social Institutions 1	Education
第 6 回	Social Institutions 2	Social control
第 7 回	Social Institutions 3	Work
第 8 回	Social Institutions 4	Welfare
第 9 回	Contentious Issues in Contemporary Japan 1	Debates over constitutional revision
第 10 回	Contentious Issues in Contemporary Japan 2	Birthrate and aging population
第 11 回	Contentious Issues in Contemporary Japan 3	Inequality and poverty
第 12 回	Contentious Issues in Contemporary Japan 4	Diversity and social coherence
第 13 回	Contentious Issues in Contemporary Japan 5	Immigration
第 14 回	Contentious Issues in Contemporary Japan 6	Fukushima and energy policies
第 15 回	Conclusion	Summary and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected read assigned articles and write an essay for each of the three thematic sections in over the semester.

【テキスト（教科書）】
Sugimoto, Yoshio. 2014. An Introduction To Japanese Society. Fourth Edition. Cambridge University Press.
Other materials will be distributed in class.

【参考書】
Materials will be distributed in class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance and participation (including in-class comment sheets and writing exercises): 40%; Writing assignments 60%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
N.A.

Japanese Rural Society

傅凱儀

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期**　｜　曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In the historical literature on Japan, rural people have tended to be regarded as the exploited victims of the industrialization process. In this course, we will examine the role and significance of the rural economy in Japan’s emergence as an economic power prior to World War II. Using theories and approaches derived from development studies and economic history, we will explore the nineteenth-century development of a diversified, proto-industrial rural economy, focusing on the strategies employed by households as they sought to secure and improve their livelihoods.

【到達目標】
In this course, students will acquire concepts and knowledge on the following aspects:
1. Tools and concepts devised for use in the analysis of economic development in the contemporary Third World.
2. Economic history of Japanese rural society
3. Transformation of rural population from backward peasants into small-scale producers
4. Rural changes that accompanied modern industrialization

【授業の進め方と方法】
The teaching consists of lectures, discussions and group/individual activities. Students are required to be actively engaged in class activities.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	The outline of the course, learning method and evaluation criteria will be explained.
第 2 回	Rethinking rural Japan (1)	The countryside in the analysis of development
第 3 回	Rethinking rural Japan (2)	Agricultural adjustment and rural modernization
第 4 回	The establishment of the diversified rural economy (1)	Rural economic growth in the nineteenth century
第 5 回	The establishment of the diversified rural economy (2)	The rural economy and the household
第 6 回	The establishment of the diversified rural economy (3)	Power, policy and resistance in the 19th century countryside
第 7 回	The agrarian transition (1)	The rural economy and urban industrialization
第 8 回	The agrarian transition (2)	The household and the village in transition
第 9 回	The agrarian transition (3)	The rural economy and the state
第 10 回	Crisis and modernization (1)	The rural problem of the inter-war period
第 11 回	Crisis and modernization (2)	The rural household and the agricultural adjustment problem
第 12 回	Crisis and modernization (3)	The rural dream and the road to war
第 13 回	Rural Japan rethought	Weapons of the weak and agrarian transformations
第 14 回	Postwar period development	Development of multiple-job holding
第 15 回	Conclusion	Supplementary topics and conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have read the assigned materials before coming to class.

【テキスト（教科書）】
This course does not require any textbooks.

【参考書】
1. Penelope Francks. 2006. Rural Economic Development in Japan. Routledge.
2. Shinnosuke Tama and Victor Lee Carpenter. 2007. Japanese Agriculture from a Historical Perspective. Tsukuba-Shobo.
3. Yoshiaki Nishida and Ann Waswo. 2006. Farmers and Village Life in Japan. Routledge.
4. Shu Kitano. 2009. Space, Planning, and Rurality: Uneven Rural Development in Japan. Trafford.
5. Tadashi Fukutake. 1980. Rural society in Japan. University of Tokyo Press.

6. Yujiro Hayami. 1975. A Century of Agricultural Growth in Japan. University of Tokyo Press.
7. Thomas Smith. 1959. The Agrarian Origins of Modern Japan. Stanford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Participation (20%), discussion and class activity (30%) and a final paper (50%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
New course from autumn semester 2016.

【関連の深いコース】
New course of SCOPE program.

Studies for Environment and Society

傅凱儀

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course focuses on the intersection of the social and natural worlds, and the search for effective social solutions for environmental problems. In this course, we will examine today's environmental controversies within a socio-organizational context. After learning the concept of "pragmatic environmentalism", we will explore the material world: air, water and biodiversity. Pressures exist where ecology and society collide, such as population growth and its associated increased demands for food and energy. We will drill into the social/structural dynamics — including political economy and the international legal system — that create ongoing momentum for environmental ills.

【到達目標】
After this course, students will:
1. Recognize the complexity of environmental issues and the human element inherent in them.
2. Be alert to the interrelationship of local and global in environmental problems and issues.
3. Recognize the local and global social sources of conflicts and inequalities of issues such as natural resource use, food/agricultural practices, wilderness preservation, population and climate change.

【授業の進め方と方法】
The teaching consists of lectures, discussions and group/individual activities. Students are required to be actively engaged in class activities.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	The outline of the course, learning method and evaluation criteria will be explained.
第 2 回	Individuals and Societies	Individualism and contribution of social sciences
第 3 回	Pragmatic environmentalism	The messy relationship between behaviors and attitudes
第 4 回	Greenhouse Gases	Facts, climate change refugees and vulnerabilities for certain populations
第 5 回	Biodiversity	Facts, community conservation, memory banking, participatory forest management
第 6 回	Water	Facts, water governance, China's growing demand for food thus water
第 7 回	Population	Socioeconomic development and population explosion
第 8 回	Mid-term Exam	Mid-term Exam
第 9 回	Food	Malnutrition and the Green Revolution
第 10 回	Energy Production	Nuclear power, Fukushima nuclear disaster
第 11 回	Political economy (1)	The growth imperative, contradiction of capitalism
第 12 回	Political economy (2)	Total cost accounting and case studies
第 13 回	Governance (1)	Welfare economics and cost-benefit analyses
第 14 回	Governance (2)	Sustainability and precautionary principle
第 15 回	Final Exam	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have read the assigned materials before coming to class.

【テキスト（教科書）】
Carolan, Michael. 2013. Society and the Environment: Pragmatic Solutions to Ecological Issues. Westview Press.

【参考書】
1. Gould, Kenneth A. and Tammy L. Lewis (eds). 2009. Twenty Lessons in Environmental Sociology. Oxford University Press.
2. Hannigan, John. 2014. Environmental Sociology, 3rd edition. Routledge.
3. Bell, M. Mayerfeld and Loka Ashwood. 2015. An Invitation to Environmental Sociology, 5th edition. Sage Publication.

【成績評価の方法と基準】
Participation (30%), Mid-term examination (30%), Final examination (40%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
New course from autumn semester 2016.

【関連の深いコース】
New course of SCOPE program.

Research Methods 1

佐伯　英子

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期** ｜ 曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to teach the basics of qualitative methods for social science research. Students will learn how to do a literature review, set up research questions, write fieldnotes, and interview informants. At the end of the course, students will write a proposal for an academic research paper.

【到達目標】
Through this class, students will learn techniques for qualitative research. Although this is an introductory course on methods and students do not conduct actual social research, they will be familiarized with various methods through lectures, in-class exercises, as well as listening to stories by experienced fieldworkers. Students are also expected to demonstrate their comprehension of the materials by writing a research proposal and give an oral presentation on the project at the end of the semester.

【授業の進め方と方法】
Most class periods consist of lectures, exercises, and discussions. In addition to active participation in class, this course expects that each student completes assignments and brings them to class to maximize the learning experiences.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Goals of this course; What is qualitative research?
第 2 回	What is qualitative research 1	Introduction to qualitative methods
第 3 回	What is qualitative research 2	What is a literature review? How to find previous research
第 4 回	What is qualitative research 3	Hypothesis and research questions
第 5 回	Techniques for qualitative research 1	Semi-structured interview, its methods and preparation
第 6 回	Techniques for qualitative research 2	Participant observation and fieldnotes
第 7 回	Techniques for qualitative research 3	Writing a research proposal
第 8 回	Guest lecture by an ethnographer 1	Discussions of fieldwork
第 9 回	Guest lecture by an ethnographer 2	Discussions of fieldwork
第 10 回	Data handling 1	Analysis and interpretation
第 11 回	Data handling 2	How to write a research paper
第 12 回	Research ethics surrounding qualitative social research	How to be an ethical researcher
第 13 回	Presentations 1	Oral presentations of proposed research projects
第 14 回	Presentations 2	Oral presentations of proposed research projects
第 15 回	Conclusion	Summary and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected read assigned articles and complete assignments in a timely manner.

【テキスト（教科書）】
No particular textbook will be assigned. Texts may be introduced/assigned during the class.

【参考書】
Babbie, Earl R. 2012. The Practice of Social Research. Cengage Learning.
Emerson, Robert M., Rachel I Fretz, and Linda L. Shaw. 2011. Writing Ethnographic Fieldnotes, Second Ediction. University of Chicago Press.
Flick, Uwe. 2014. An Introduction to Qualitative Research. Edition 5. SAGE Publications.

【成績評価の方法と基準】
Attendance and participation 30%; Assignments 20%; Research proposal 30%; Presentation 20%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
N.A.

ZA235

Cultural Studies

Daniel White

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Thu 3rd

【Course outline and objectives】
Can animated cartoons and characters be manipulative? Can film promote cross-cultural understanding or, alternatively, incite prejudice and even violence? Can fashion tell you something about a person's ideas, tastes, or even one's political views? Cultural studies analyzes the relationship between representation and power. It provides a variety of theoretical perspectives from which to understand how culture in the form of literature, film, advertising, fashion, music, architecture, and other mediums combines with institutions in shaping how we interpret our social world, construct our individual identities, and communicate with and perceive others. In this course we will investigate topics such as how popular music can become a tool of protest; how the clothes you wear communicate your social status to others; and how advertising affects your ideas of race, gender, and beauty.

【Course goal】
(1) Equip students with a variety of theories through which to interpret and critique the language, symbols, and visual images that inundate our everyday lives; (2) provide methods by which to examine how economics, politics, and culture exert power over what and how we think; (3) build students' ability to engage challenging but important texts of social and critical theory.

【Course method(s)】
Classes consist of lectures and group discussion. Much of class time is devoted to examining visual images, sound, and other media forms. Each class will introduce a major theory from cultural studies, which students will apply both individually and in groups to a particular cultural case study. Assessment will be based on quizzes and short writing assignments critiquing various cultural artifacts of everyday life.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	What is Cultural Studies?	An introduction to the field and its essential vocabulary
2	What is Culture?	Examination of different understandings of this keyword
3	Signs and Language	How sheep, traffic lights, and wrestling signify differently
4	Discourse and Hegemony	Religion and science
5	Ideology	Police officers; freedom; terrorism
6	Capitalism and Economy	Marxism; Fordism; post-Fordism
7	Consumption and Identity	B-boys; hipsters; otaku
8	Postmodernism	Exploration of this essential term
9	The Culture Industries	Hollywood and Japanese TV Dramas
10	Ethnicity, Race, Nation	Orientalism; colonialism; the African-American Civil Rights Movement
11	Sex, Gender, Body I	Music videos and femininity
12	Sex, Gender, Body II	Sports and masculinity
13	Space and Architecture	Urban space and cyberspace
14	Style and Fashion	*Kawaii* (cute) fashion
15	Cultural Policy and Politics	The public sphere; political emotions; wrapping up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete readings before each lesson and come to class prepared to discuss them.

【Textbooks】
No textbook will be used, however, students particularly interested in cultural studies should consider purchasing the first reference listed below (Barker 2011). Readings will be distributed in class or posted online.

【References】
Barker, Chris. 2011. *Cultural Studies: Theory and Practice*. 4th Edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 0857024809
Hall, Stuart, Jessica Evans, and Sean Nixon. 2013. *Representation: Culture Representation and Signifying Practice*. 2nd Edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 1849205639
Lewis, Jeff. 2008. *Cultural Studies: The Basics*. 2nd edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 1412922305

【Grading criteria】
Participation (15%); writing assignments (45%); quizzes (40%).

【Changes following student comments】
Course texts have been updated.

【Prerequisite】
None.

ZA131

Readings in World Literature

Michael Bettridge

Credit：2 ｜ Semester：Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：Mon 3rd

【Course outline and objectives】
The study and appreciation of classic and contemporary reading selections from around the world.

【Course goal】
Reading, understanding and appreciation of works of literature from selected countries, the texts covering various eras, places, genres, and purposes. The literature deals with a range of human experiences, insight and values. Students will learn to analyze and evaluate the works in their historical and cultural context.

【Course method(s)】
Lecture and discussion for comprehension are integral components of this class.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction of course	Course content and requirements. Selection exam.
2	Creation Stories	"The Huluppu-Tree" (Sumeria); From *Genesis*: Chapters 1 and 2 of the Old Testament (Middle East); "The Well-Baked Man" (southwestern United States)
3	Creation Stories	Student researched creation stories; group presentation and discussion of similar elements among the stories
4	Mythology, Culture and Religion	From *The Thief and the Dogs* (Egypt); From *Sacred Hymn of Sacrifice to Tlaloc* (Pre-Columbian Mexico)
5	Mythology, Culture and Religion	From *Whale Rider* (New Zealand); From *Antigone* (Greece)
6	Mythology, Culture and Religion	From *Whale Rider* (New Zealand); From *Antigone* (Greece)
7	Mid-term exam	A three to five page paper on selected work. Oral presentation in a group.
8	Human Transformation	From *Bisclavret* (France); From "The Metamorphosis" (Czechoslovakia)
9	Male-Female Relations	From "The Miller's Tale" (England); From *Chronicle of a Death Untold* (Colombia); "The A & P" (USA)
10	Struggle for Independence	From *Flowers from the Volcano* (Nicaragua); From *Fire on the Mountain* (India); From "Just Lather, That's All" (Colombia)
11	Human Potential	From *Uncle Vanya* (Russia); From *Rickshaw* (China); From *Things Fall Apart* (Nigeria)
12	Coming of Age	From *Oliver Twist* (England); From *No Speak English* (USA)
13	Coming of Age	From *Coming of Age in the Arctic* (Canada/Inuit)
14	Nature and Humanity	From "To Build a Fire" (USA/Canada); From *Out of Africa* (Denmark)
15	Term Exam	Three to five page paper on selected work not read in class. Oral presentation in a group.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must read the material and do required research and study questions for each class.

【Textbooks】
Reading material will be made available for downloading on 授業支援システム (H'etudes), and/or assigned from reference sources.

【References】
http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/747/01/

【Grading criteria】
Evaluation will be based on class participation (20%), exams and essays (80%).

【Changes following student comments】
More focus on fewer works.

【Equipment student needs to prepare】
Bring to class: a notebook, the reading material on a laptop or a tablet, or bring a hard copy of the material. Further information will be provided by the instructor.

【Other】
Enrollment is limited to 1st - 4th year students.
2015 年度以前に入学した学生は、200-level Intermediate Courses として履修することとなります。

【Prerequisite】
Permission from the instructor to enroll in the course.

ZA241

Social Psychology II

Yu Niiya

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2～4
Day/Period：Mon 1st

【Course outline and objectives】
This is an introductory course in social psychology, where students will learn more about the major theories, concepts, and research findings in social psychology, covering aspects of interpersonal attraction, anti- and pro-social behaviors, and group influence. We will examine how people form and maintain relationships; when, and why, people help and hurt others; how being in a group influences our performance and decisions; and the causes and cures for stereotyping/prejudices.

【Course goal】
The goals of this course are 1) to introduce students to the perspectives, research methods, and empirical findings in the field of social psychology; and 2) to cultivate skills in analyzing the social situations and events that we encounter in our everyday lives. This course will improve employability, giving students the skills needed to assess and adapt to new situations.

【Course method(s)】
Instructional methods include: assigned readings, lectures, films, small group activities, presentations, and discussions.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Questions addressed in this class
2	Attraction	What increases liking?
3	Close relationships	What influences our relationships?
4	Prosocial Behavior	When and why do we help (or not help)?
5	Aggression	What causes aggression?
6	Review	Week 1- Week 5
7	Exam 1	Midterm exam (multiple choice questions and short essays)
8	Group influence I	Task performance in groups
9	Group influence II	Decision-making in groups
10	Group influence III	When do people cooperate and when do they compete?
11	Stereotyping and prejudice I	What causes prejudice?
12	Stereotyping and prejudice II	How can we reduce prejudice?
13	Students' presentation 1	Oral presentations for assigned readings
14	Students' presentation 2	Oral presentations for assigned readings
15	Exam 2	Final exam (multiple choice questions and short essays)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students should review their notes before each class and be able to explain the major concepts and theories they have learned. They should also do the assigned readings outside class. Students must download and print out the handouts before each class and bring them to class to take notes.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts and readings are uploaded onto the course website.

【References】
Social Psychology, 11th edition, 2013 by David G. Myers; McGraw-Hill.

Social Psychology, 3rd edition, 2013 by Thomas Gilovich, Dachner Keltner, and Richard E. Nisbett; W. W. Norton.

These sources explain the course content in greater depth and are highly recommended. Both are available at the library.

【Grading criteria】
Students will be evaluated by means of two exams (50%), a group presentation (20%), in-class activities and quizzes (20%), and class participation (10%).

【Changes following student comments】
Students have expressed appreciation for the in-class activities and mini-experiments, so these will continue. Hands-on experiences are more memorable than passive listening.

【Other】
Students who have successfully completed other psychology courses (e.g., Introduction to Psychology I, II, Developmental Psychology, etc.) in their first year may be given priority during enrollment.
This course is strongly recommended for those who plan to enroll in the Self and Culture seminar.
Social Psychology I and II (Interpersonal Relations I and II) can be taken in reverse order (II and then I).

【Prerequisite】
None.

ZA240

Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Diana Khor

Credit：2 | Semester：Fall | Year：2〜4
Day/Period：Mon 3rd

【Course outline and objectives】
Race, class, gender and sexuality are important aspects of social life that affect us in distinct as well as interrelated ways. In this course, students will be introduced to key concepts, theories and research to explore how race, class, gender and sexuality shape personal identities and experiences, create differences among people as individuals and groups, and constitute inequalities. Since the field has been developed in the United States, much of the class material will be U.S.-centered. At the same time, research from other countries, including Japan, will also be drawn on.

【Course goal】
Through lectures, discussion and written assignments, students will learn concepts and theories to analyze how race, class, gender and sexuality affect individuals and society. They will learn to apply these analytical tools and knowledge to form critical opinions on current issues related to various bases of inequalities. Students will acquire skills in critical thinking, analysis and writing that can be applied in other academic fields as well as future careers.

【Course method(s)】
This course is taught through a combination of lectures, documentary-viewings, and small-group discussions and presentations.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Overview: identities and inequalities	Introducing the "social construction" perspective to understand race, class, gender and sexuality
2	Race as a social category	Video viewing and discussion: *Race — The Power of an Illusion* Racial formation: the historical creation of race
3	Race as a basis of inequality	Is "color" still important? Is race still important? Video viewing and discussion: *What's Race Got to Do with It?*
4	Race: case study	White Studies Race and sport "Race" in Japan
5	Race: one more time	Small-group presentation and discussion on race and ethnicity
6	Social class: social structure and lived experiences (1)	Video viewing and discussion: *People like Us* Part I Social class as lived experiences and basis of oppression
7	Social class: social structure and lived experiences (2)	Video viewing and discussion: *People like Us* Part II Social class as lived experiences and basis of oppression
8	Social class: a theoretical overview	The concept of "social class" approached from different theoretical perspectives "Social class" in Japan
9	Social class: one more time	Small group presentation and discussion on social class
10	Gender	Gender inequality: measures and explanations Social construction of gender
11	Gender and sexuality	Conceptualization of "gender" Sexuality: key concepts Video viewing and discussion: *Middle Sexes*
12	Sexuality as identity and oppression Case study: same-sex marriage	The concept of "sexuality" Same-sex marriage: arguments for and against
13	Case study: (In)tolerance of sexual transgression	Exploration of claims of tolerance of homosexuality in Japan
14	Gender and sexuality: One more time	Small-group presentation and discussion on gender and sexuality
15	Race, class and gender: Revisited	What have we learned about race, class and gender? Review of take-home examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
In addition to preparing for discussions, students are expected to review class materials after each class, note down reflections on the videos shown in class, and do the prescribed readings.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts, readings and other materials will be distributed in class and/or uploaded on H'Etudes.

【References】
Ore, Tracy E. 2008. *The Social Construction of Difference and Inequality: Race, Class, Gender and Sexuality*. 4/e. Boston: McGraw-Hill.

【Grading criteria】
Clear instructions and goals are set for each assignment, test or examination to be completed. The grade will calculated as follows: take-home review tests (30%), small-group presentations and discussions (30%), a take-home examination (35%), and class participation (5%).

【Changes following student comments】
Students have generally found the class interesting, informative and thought-provoking. However, some in the past have also indicated that the workload was heavy. Changes have been made to the assignments and exercises to make the workload more manageable.

【Prerequisite】
Students who intend to enrol in this class are expected to have passed *Understanding Society*. This prerequisite may be waived if students have taken courses in Cultural Studies, media studies, or Anthropology.
Students are strongly encouraged to take both *Race, Class, Gender I* and *Race, Class and Gender II*.
Students who have passed *Race, Class and Gender I* will be given priority to be accepted into *Seminar: Intersectionality*.

ZA341

Cultural Psychology

Takafumi Sawaumi

Credit：2 | Semester：Fall | Year：3〜4
Day/Period：Wed 3rd

【Course outline and objectives】
This course introduces the major content areas of cultural psychology. Students will learn how culture shapes the way we think and behave. We will revisit many of the topics covered in Interpersonal Relations I and II and examine how these findings vary across cultures.

【Course goal】
One of the aims of this course is to introduce students to the perspectives, research methods, and findings of cultural psychology. Another equally important aim of this course is cultivating students' abilities to understand and deal with variations in psychological processes across cultural and ethnic groups, as well as to gain an understanding of the cultural groundings of their own experiences and actions. This course will improve employability, giving students the skills needed to assess and adapt to new situations.

【Course method(s)】
The course starts by introducing general theories and perspectives underlying cultural psychology. We will then explore cultural influences on a wide range of psychological processes, including socialization, self-concept, motivation, emotion, and cognition; especially focusing on East-West differences. We will deal with the mechanisms underlying cultural differences and cover topics such as acculturation and multiculturalism, including cultural differences within a single country. Instructional methods include assigned readings, lectures, films, small group activities, and discussions.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is cultural psychology?
2	How does culture shape the human mind? I	Development of the cultural mind
3	How does culture shape the human mind? II	Education practices
4	Culture and the self I	Cultural differences in self-concepts
5	Culture and the self II	Consequences for self-consistency and egoism
6	Culture and motivation I	Goals and theories underlying motivation
7	Culture and motivation II	Cultural differences in motivation, control, and choice
8	Exam 1	Midterm exam (multiple choice questions and short essays)
9	Culture and emotion	Universality and cultural variation in emotions
10	Culture and cognition I	Cultural differences in cognition
11	Culture and cognition II	Where do cultural differences come from?
12	Acculturation and biculturalism I	Time course of acculturation and factors that influence acculturation
13	Acculturation and biculturalism II	The bicultural self
14	Review	Week 9 - Week 13
15	Exam 2	Final exam (multiple choice questions and short essays)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students should review their notes before each class and be prepared to explain the major concepts and theories they have learned. If they are unclear about anything, they should read the corresponding chapter in the reference book listed below. Students must download and print out the handouts before each class and bring them to class to take notes. Students are required to do the assigned readings and submit several reaction papers during the term.

【Textbooks】
No textbooks will be used. Handouts and readings will be uploaded onto the course website.

【References】
Heine, S. J. (2007). *Cultural Psychology.* New York: Norton.

【Grading criteria】
Final grades are based on two exams (50%), reaction papers for assigned readings (30%), and class participation (20%).

【Changes following student comments】
Students found this class difficult but appreciated the challenge. Students are encouraged to study more outside of class.

【Prerequisite】
Students must have taken (and received credits in) at least one (preferably both) of the following courses: Social Psychology I, Social Psychology II (Interpersonal Relations I, Interpersonal Relations II).

ZA432

Seminar: Language in the Mind II

Peter Evans

Credit：4 | Semester：Fall | Year：3〜4
Day/Period：Fri 3rd, Fri 4th

【Course outline and objectives】
Contrary to the popular idea that the standard form of a language is more or less in equilibrium, it changes, even within the lifetime of an individual who speaks it. It's true that a handful of innovations do attract comments (usually negative) from non-linguists, but thanks to text corpora (some of them available openly and free of charge) and the Web as a whole, we can start to examine other changes, to which little attention is normally paid.
Understanding that even the standard form of a language is in flux, we will use rather little-known resources that are freely available on the Web for the asking, and will identify significant (and often elusive) phenomena in language.

【Course goal】
By the end of the course students should have an unusually rich understanding of certain elements of the English language about which there is much misunderstanding. They will do this not via anecdotal but via empirical evidence.
As for "employability skills", students will get practice in gathering information, developing and evaluating hypotheses, and of course explaining findings and ideas.

【Course method(s)】
Much of class time will be spent on student discussions and presentations. Quite how this will be done will depend on what seems to work best and on student numbers, but students will describe their own hypotheses, research methods, results and interpretations, and give constructively critical comments on those of others.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Refresher on what was achieved in the spring semester
2	Group research	Devising a subject for group research
3	Research topics	Presentations on plans for individual research
4	Hypothesis and planning	Determining exactly what is being investigated
5	Group research progress (i)	Discussion on the group project(s)
6	Research workshop (i)	Consultation on individual research
7	Group research progress (ii)	Presentations on the group project(s)
8	Group research finalizing	Consultations on the group project(s)
9	Quick research paper presentations	Students' presentations of their individual research
10	Research workshop (ii)	Consultation on individual research (continued)
11	Research workshop (iii)	Consultation on individual research (continued)
12	Research paper presentations (i)	Students' final presentations of their individual research
13	Research paper presentations (ii)	Students' final presentations of their individual research (continued)
14	Research paper consultations	Last chance for consultations about the research paper
15	Wrap-up	Reflections on what has been accomplished; looking ahead

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Reading, thinking, other preparation – and creation of two research papers

【Textbooks】
None

【References】
Christian Mair, *Twentieth-century English: History, variation and standardization* (Cambridge: Cambridge University Press, 2006). ISBN 978-0-521-11583-4. (The subject of Chapter 5 is outside the scope of this course, but all the other chapters will be useful.) Other sources as given by Mair or as announced later.

【Grading criteria】
Individual research paper (40%), group research paper (20%), individual presentations (20%), other class participation (20%)

【Changes following student comments】
Continuity from the first semester to the second

【Equipment student needs to prepare】
A computer

【Other】
Students who have taken any of the 300-level courses titled *Language in the Mind* are welcome; they will find that there is very little overlap with this seminar.
Unlike last year, there's an assumption that those taking this course will have taken *Seminar: Language in the Mind I* in the spring semester.

【Prerequisite】
Normally, *Seminar: Language in the Mind I*

NB258

建築のデザイン X(Design Basics in English W,X)

Lambiasi James、バラージュ・ボグナール

開講時期：**秋学期集中** ｜ 選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

"DesignTalk"is a class that allows students to think about and discuss various subjects while simultaneously allowing students to increase their conversation ability in English.

【到達目標】

The class subjects will be architectural in theme, each one allowing students to investigate essential design elements including drawing, compositional theory, programming and society.

This class promotes the value of skillfully conveying one's ideas through both visual materials and verbal presentations.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	○		○		○	◎

【授業の進め方と方法】

• Conversation will basically be English-only. Because the discussion material is very visual, even students with less confidence in English should feel welcomed to participate.

• Presentation materials to be submitted on a A2 size presentation panel

• All presentations must be explained in English.

• There will be 8 classes, once every two weeks.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Guidance	Class Inroduction	Class Inroduction
Class 1	DRAWING FOR UNDERSTANDING	1) Understand the concept of viewing objectively from the "right-brain." 2) Convey detail through drawing. 3) Self introduction to the group through an object you possess.
Class 1	DRAWING FOR UNDERSTANDING	SAME
Class 2	LINE STUDY	Understand principles of layering and depth by translating 3D concepts by a 2D drawing. 2) Become acquainted with several vocabulary words to describe composition.
Class 2:	LINE STUDY	SAME
Class 3:	WHAT IS CONCEPT?	1) Become familiar with interesting architecture in the Omotesando area. 2) Understand the value of model making to explore design concepts. 3) Understand the value of establishing a concept to lead the design process.
Class 3:	WHAT IS CONCEPT?	SAME
Class 4	DIAGRAMS TO COMMUNICATE	1) Learn to convey meaning through images. 2) Gain deeper understanding of iconic modern buildings through collective research.
Class 4	DIAGRAMS TO COMMUNICATE	SAME
Class 5	LITERAL AND PHENOMENAL TRANSPARENCY	1) Become familiar the terms "literal"and "phenomenal" transparency. 2) Identify "phenomenal" transparencies in architectural plans and sections.
Class 5	LITERAL AND PHENOMENAL TRANSPARENCY	SAME
Class 6	HOUSE + CONTEXT	1) Become familiar with iconic modern houses and the philosphy they represent. 2) Identify current trends in contemporary homes of Japan and abroad.
Class 6	HOUSE + CONTEXT	SAME
Class 7	THIS IS JAPAN	1) Identify design elements that help to represent Japanese culture. 2) Convey the concepts of the design element through plans and images.
Class 8	THE PERFECT CAPSULE: NAKAGIN TOWER PROPOSAL	1) Understand the philosophy of the Metabolist movement. 2) Explore and discover the design concept by applying your own new design.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All preparation is to be done at home, class time is basically for presentation and discussion only.

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grading is based on 1/3 Material preparation, 1/3 Verbal presentation quality, and 1/3 discussion participation.
Because there are only 8 classes, attendance is very important. Failure to attend class can result in a non-passing grade.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

Not received comments yet

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

NB258

建築のデザイン Y (Design Basics in English Y,Z)

マイケル　シプケンス、ボリヴァン・ディン

開講時期：**秋学期集中**　｜　選択・必修の別：**選択**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class is about contemporary architecture and will be taught in English. Each class will alternatively analyze a contemporary Japanese and foreign practice by studying a number of their projects. The objective is to understand a variety of design strategies and to draw similarities between Japanese and foreign architects.

【到達目標】
This class requires simple presentations and aims to encourage students to think conceptually. Students will form pairs and introduce a new project for each class. The goal is to acquire English presentation skills and to think about communicating ideas through drawings.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎	◎	◎	○	◎	◎

【授業の進め方と方法】
For each class, a pair of students will be asked to present one project from the assigned architect. The presentation will require photographs, drawings, and other available resources. At least 1 illustration will be made by the students to demonstrate a critical aspect of the project. This illustration could be a diagram, sketch, or model, so long as it conveys an important idea.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Guidance	Joint presentation of Sypkens Studio and Lambiasi Studio.	Students select the class they would like to take.
Class 1	SANAA	presentation of projects by SANAA
Class 2	Alvaro Siza	presentation of projects by Alvaro Siza
Class 3	Toyo Ito	presentation of projects by Toyo Ito
Class 4	Herzog and de Meuron	presentation of projects by Herzog and de Meuron
Class 5	Fumihiko Maki	presentation of projects by Fumihiko Maki
Class 6	Rem Koolhaas	presentation of projects by Rem Koolhaas
Class 7	Arata Isozaki	presentation of projects by Arata Isozaki
Class 8	Steven Holl	presentation of projects by Steven Holl
Class 9	Yoshio Taniguchi	presentation of projects by Yoshio Taniguchi
Class 10	David Chipperfeild	presentation of projects by David Chipperfeild
Class 11	Kengo Kuma Office and Aoyama	tour guide of Kengo Kuma Office and other projects in Aoyama area
Class 12	Wang Shu	presentation of projects by Wang Shu
Class 13	Kengo Kuma	presentation of projects by Kengo Kuma
Class 14	Jean Nouvel	presentation of projects by Jean Nouvel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are asked to research the building they have selected in order to make a presentation. The presentation should be printed on an A1 sheet, with careful consideration given to the layout and contents.

【テキスト（教科書）】
No specific textbook is necessary.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
a. Class Participation/Interest/Enthusiasm
b. Quality of presentation materials
c. Quality of English presentation and participation in discussion.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Fall 2014 was the first semester of this course.

Foreign Language Exercise (English III)

2014 年度以降入学生

Kregg Johnston

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・4** ｜ 配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Discussing, listening & note-taking, presenting

【到達目標】
In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered , develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【授業の進め方と方法】
The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check	Course overview/Ice breakers Level check
Week 2	Classroom English Vocabulary management Using an outline	Useful phrases to communicate in class Vocabulary management Using outlines when speaking
Week 3	Presenting arguments Note taking strategies Taking notes	Presenting arguments Note taking strategies Taking notes on Statistics
Week 4	Preview lecture 7 (Video Games) contents Paraphrasing content for research	Paraphrasing ideas Take notes on lecture
Week 5	Go over content Discussion Strategy	Finish lecture & outline Oral summaries from outline Discuss lecture topic Get research assignment for presentation
Week 6	Assessment Unit 7 Present research U7	Unit 7 quiz Present research in groups Preview unit 8
Week 7	Unit 8 GM food Vocabulary	Go over vocabulary from unit & discuss related issues
Week 8	Unit 8 GM food lecture	Finish lecture & outline Summarize lecture from outline Discuss topic Get research assignment for presentation Prepare for Quiz U8
Week 9	Assessment Unit 8 Present research U8	Unit 8 quiz Present research in groups Preview unit 9
Week 10	Unit 9 Astronomy Vocabulary	Go over vocabulary from unit & discuss related issues
Week 11	Unit 9 Astronomy lecture	Finish lecture & outline Summarize lecture from outline Discuss topic Get research assignment for presentation Prepare for Quiz U9
Week 12	Assessment Unit 9 Present research U9	Unit 9 quiz Present research in groups Final presentation assignment
Week 13	Preparation for final presentation Assessment: Vocabulary	Vocabulary quiz units 7-9
Week 14	Assessment U7-9	Final presentations to class
Week 15	Assessment U7-9	Final presentations to class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups.

【テキスト（教科書）】
Contemporary Topics 1 Academic Listening and Note-Taking Skills, 3rd edition 2009, Helen Solorzano, Laurie Frazier, Michael Rost
ISBN 0-13-235570-1

【参考書】
Contemporary Topics 1 Academic Listening and Note-Taking Skills, 3rd edition 2009, Helen Solorzano, Laurie Frazier, Michael Rost
ISBN 0-13-235570-1

【成績評価の方法と基準】
Quizes-45%, Homework-15%, Attendance & Participation 15%, Presentation 25%
*An 80% attendance rate is required to pass the course. Students missing more than 3 classes will be given a failing grade.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Provide more guidance on building vocabulary and communicating ideas more fluidly.

【学生が準備すべき機器他】
OHC & projector in classroom

Foreign Language Exercise (English Ⅳ)

2014 年度以降入学生

Kregg Johnston

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・4** ｜ 配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Discussing, listening & note-taking, presenting

【到達目標】
In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered , develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【授業の進め方と方法】
The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check	Course overview/Ice breakers Level check
Week 2	Classroom English Vocabulary management Using an outline	Useful phrases to communicate in class Vocabulary management Using outlines when speaking
Week 3	Presenting arguments Note taking strategies Taking notes	Presenting arguments Note taking strategies Taking notes on Statistics
Week 4	Preview lecture 10 (History) contents Paraphrasing content for research	Paraphrasing ideas Take notes on lecture
Week 5	Go over content Discussion Strategy	Finish lecture & outline Oral summaries from outline Discuss lecture topic Get research assignment for presentation U10
Week 6	Assessment Unit 10 Present research U10	Unit 10 quiz Present research in groups Preview unit 11
Week 7	Unit 11 Ethics Vocabulary	Go over vocabulary from unit & discuss related issues
Week 8	Unit 11 Ethics lecture	Finish lecture & outline Summarize lecture from outline Discuss topic Get research assignment for presentation Prepare for Quiz U11
Week 9	Assessment Unit 11 Present research U11	Unit 11 quiz Present research in groups Preview unit 12
Week 10	Unit 12 Opportunity Cost Vocabulary	Go over vocabulary from unit & discuss related issues
Week 11	Unit 12 Opportunity Cost lecture	Finish lecture & outline Summarize lecture from outline Discuss topic Get research assignment for presentation Prepare for Quiz U12
Week 12	Assessment Unit 12 Present research U12	Unit 12 quiz Present research in groups Final presentation assignment
Week 13	Preparation for final presentation Assessment: Vocabulary	Vocabulary quiz units 10-12
Week 14	Assessment U10-12	Final presentations to class
Week 15	Assessment U10-12	Final presentations to class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups.

【テキスト（教科書）】
Contemporary Topics 1 Academic Listening and Note-Taking Skills, 3rd edition 2009, Helen Solorzano, Laurie Frazier, Michael Rost
ISBN 0-13-235570-1

【参考書】
Contemporary Topics 1 Academic Listening and Note-Taking Skills, 3rd edition 2009, Helen Solorzano, Laurie Frazier, Michael Rost
ISBN 0-13-235570-1

【成績評価の方法と基準】
Quizes-45%, Homework-15%, Attendance & Participation 15%, Presentation 25%
*An 80% attendance rate is required to pass the course. Students missing more than 3 classes will be given a failing grade.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Provide more guidance on building vocabulary and communicating ideas more fluidly.

【学生が準備すべき機器他】
OHC & projector in classroom

English Academic Writing I

ロジャー　エドウィン　パティモア

カテゴリ：4 群・英語・選択必修
開講時期：春学期　｜　曜日・時限：水・4
※定員制/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC, IELTS, TOEFL Writing QUESTIONS
For many students the next most likely academic English writing task will be to answer a summary or essay type question on one of these tests. In this course we will learn how to write various proficiency test answers. These range from one sentence answers to academic essays.
This course is best for students who:
1. plan to try one of the main proficiency tests such as TOEIC ®, IELTS.
2. want to improve academic writing for other reasons.
3. have good listening, reading, and speaking skills for everyday communication in English and classroom participation. (About intermediate or 中上級) and want to study English in English
4. want to communicate orally (by speaking) (Course is in English).
**Students looking for the standard TOEIC / TOEFL / IELTS course should try some of the other elective courses.
**Some students may want to try the IELTS in summer of 2016. I will help you design your own independent study program. I will check the anything you want to write.

【到達目標】
In this course, we will:
1. Learn academic vocabulary and grammar skills for writing
2. Learn the structure of writing questions for IELTS, TOEIC ®
(I will introduce TOEFL in the fall.)
3. Learn test strategies
4. Increase keyboarding speed to about 35wpm with 95% accuracy
5. Write!!!

【授業の進め方と方法】
The course is a straightforward system of learning about the tests and questions types, and analyzing various kinds of answers for structure and content. Then, I will introduce strategies about how to write that type of answer.
In addition, we will have keyboarding practice, weekly vocabulary assignments, and several grammar and sentence structure assignments.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Short introduction to the course I	Example activities Writing Sample Students think about whether this is the right course for them.
Lesson 2	Introduction to the course II	Introduction to the Instructor Student Introductions Introduction to Keyboarding (KB) Introduction to the Academic Word List (AWL) Introduction to the TOEIC Speaking and Writing
Lesson 3	TOEIC Writing Tasks	AWL 1 KB Diagnostic Test (Try a Test!) KB 1 Introduction to Grammar / Structure HW G+S basic Introduction to the TOEIC Writing Tasks 1-5 (Write a sentence based on a picture)
Lesson 4	TOEIC Writing Tasks	AWL 2 KB 2A Check G+S basic 1 TOEIC Writing Tasks 1-5 Tips and Strategies
Lesson 5	TOEIC Writing Tasks	AWL 3 KB 2B Check G+S basic 2 TOEIC Writing Tasks 1-5 Final Test
Lesson 6	TOEIC Writing Tasks	AWL 4 KB 3A Check G+S basic 3 TOEIC Tasks 6-7 Respond to an e-mail message Tips and Strategies
Lesson 7	TOEIC Writing Tasks	AWL 5 KB 3B Check G+S basic 4 TOEIC Tasks 6-7 Respond to an e-mail message Tips and Strategies
Lesson 8	TOEIC Writing Tasks	AWL 6 Check G+S basic 5 TOEIC Tasks 6-7 Respond to an e-mail message Timed Test Tips and Strategies - Final Test
Lesson 9	IELTS Writing Tasks	AWL 7 Check G+S basic 6 Introduction to the IELTS Writing Test Segment Check the official IELTS website General Training vs. Academic Writing Task 1 General Training - Write a Letter Tips and Strategies
Lesson 10	IELTS Writing Tasks	AWL 8 Check G+S basic 7 IELTS Writing Task 1 Write a Letter Tips and Strategies
Lesson 11	IELTS Writing Tasks	AWL 9 Check G+S basic 8 IELTS Writing Task 1 Write a Letter Tips and Strategies
Lesson 12	IELTS Writing Tasks	AWL 10 Check G+S basic 9 IELTS Writing Task 1 Write a Letter Tips and Strategies
Lesson 13	IELTS Writing Tasks	AWL Final Test IELTS Timed Test - Write a letter Check G+S basic 10 Final KB Post-Test
Lesson 14	Review Lesson	Surprise writing test
Lesson 15	Wrap up	Spring semester summing up, file checks, how to study in the summer

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
These are various URLs that will be used or referred to in this course.
Main Website for TOEIC ®: http://www.toeic.or.jp/
Main Website for IELTS: http://www.ielts.org/test_takers_information/what_is_ielts/test_format.aspx
Academic Word List: http://www.englishvocabularyexercises.com/
Online Typing Test: http://www.typingtest.com/

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course.

【参考書】
I recommend a good electronic dictionary with E-J, J-E, and at least one good E-E dictionary loaded plus a pronunciation feature.

【成績評価の方法と基準】
Can you succeed at the writing questions on a proficiency test? Not only are academic skills necessary for trying these tests, but other personal skills are necessary. These include motivation, organization and discipline. The goal of this course is to build the ideal test-taker.
Grading includes:
Attendance
Participation
Keeping Files
Record keeping (AWL and test scores)
Self-assessed tests
Academic tests assessed by the teacher
AWL Assessed by the teacher

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Upon reflection, writing for proficiency tests seems like the most likely target for academic writing in the next few years for most students. Lessons learned in this course can be carried over to other target writing activities.

【その他の重要事項】
Students must be able to communicate to a CEFR B1 Global level to enter this course.
See: http://www.stgiles-international.com/downloads/Level-B1-Learner-Outcomes.pdf

LA132

English Academic Writing Ⅰ

マーク　バーンズ

カテゴリ：**4 群・英語・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short (up to 3-paragraph) papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】
This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with academic, social and creative, writing. Starting from writing single paragraphs students will finally be able to write a short well-structured 3-paragraph essay.

【授業の進め方と方法】
In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the text book. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	OverviewofAcademicWritingI subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 1a	Writing about things I like to do	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to deal with general and specific information and how to write topic sentences
Unit 1b	Analysis of written assignment 1	Reading and selecting best paper.
Unit 2a	Writing about career choices	How to organise paragraphs logically and write inference sentences
Unit 2b	Analysis of written assignment 2	Reading and selecting best paper. Focusing on connecting sentences
Unit 3a	Writing a magazine article about a classmate	How to present facts and examples in paragraphs and write supporting sentences
Unit 3b	Analysis of written assignment 3	Reading and selecting best paper. Focusing on direct and indirect speech
Unit 4a	Writing an article about an invention	How to write definition paragraphs and attention getters
Unit 4b	Analysis of written assignment 4	Reading and selecting best paper. Focusing on the use of pronouns
Unit 5a	Writing about an important day	How to write cause-and-effect paragraphs and introductory paragraphs
Unit 5b	Analysis of written assignment 5	Reading and selecting best paper. Focusing on the use of cause-and-effect words
Unit 6a	Writing a guidebook article about a day trip	How to write process paragraphs and guidebook style
Unit 6b	Analysis of written assignment 6	Reading and selecting best paper. Focusing on the use of modifiers
End-term assignment preparation	Pre-writing preparation for end-term assignment	Pre-writing preparation for end-term assignment
End-term assignment feedback	Analysis of end-term assignments	Reading and selecting best assignments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

【テキスト（教科書）】
Writing from Within 2 (2nd Edition)
Curtis Kelly and Arlen Gargagliano
Cambridge University Press

【参考書】
A good Japanese/English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Additional grammar support has been added as requested by students.

【その他の重要事項】
Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

LA132

English Academic Writing Ⅰ

ALAN　M　NICHOLLS

カテゴリ：**4 群・英語・選択必修**
開講時期：**春学期**　｜　曜日・時限：**金・2**
※定員制/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. Both the instructor and the peer partner(s) will read each student's work. This course will emphasize "writing as a process."

【到達目標】
the student will be able to prepare a paper in a format acceptable for academic publication.

【授業の進め方と方法】
This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development, organization, essay writing, etc.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	introduction	Paragraph structure, discussion, homework.
2.	Topic Sentence	Developing the topic and main idea, discussion, homework.
3.	Paragraph Development	Developing a paragraph, examples of support, discussion, homework.
4.	Closing Sentences	Identifying and writing concluding sentences, discussion, homework.
5.	Descriptive Writing	Writing descriptive paragraphs, discussion, homework.
6.	Descriptive Writing	In class writing assignment, homework.
7.	Descriptive Writing	Discussion, homework.
8.	Peer Editing	Draft one, homework
9.	Peering Edition	Draft two, homework
10.	Opinion Paragraphs	Introduce opinion v.s. fact, opinion paragraphs discussion, homework
11.	Opinion Paragraphs	discussion, homework
12.	class work	discussion, homework
13.	Summer Reading	Introduce reading assignment, guidelines.
14.	Summer Reading	Discuss reading assignment
15.	wrap-up	To be announced.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Unless specified, all work is to be typed, A-4, double spaced.

【テキスト（教科書）】
Success With College Writing, by Dorothy Zemach
MACMILLAN LANGUAGE HOUSE.

【参考書】
A Thesaurus - electronic
A Japanese/English dictionary. "Imiwa"is a good, free, application available from the Apple Store.

【成績評価の方法と基準】
All students are expected to participate in the class.
All students are expected to use English.
The following factors will decide your grade:
Participation/contribution to the class 20%;
quality/completion of work 80%;
Attendance per the university requirements - maximum of 3 absences per semester).

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
A portable electronic device with a Word Processing application (Microsoft Word/Apple Pages or similar).

【その他の重要事項】
Access to a Cloud computing service will be useful

Foreign Language Exercise (English Ⅴ)

2014 年度以降入学生

ジョン　バウマン

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, students will develop the ability to write short paragraphs and essays on various topics pertaining to daily life and society, to think through the issues raised, and to express their opinions. Starting with the basics, students will progress ion their writing from the sentence through the paragraph to the short essay. At the same time, students will learn how to communicate orally in a clear and effective manner through discussion, presentation and debates.

【到達目標】
Students will learn how to communicate internationally through both spoken and written English.

【授業の進め方と方法】
Students will engage in a variety of analytic and problem-solving tasks to raise their ability to communicate in English. Active class participation is essential for the improvement of skills. Therefore, class attendance and participation will play a large part in determining student's grades. Homework will be given periodically and a final test will be given at the end of the class.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction, self introduction	Lecture, Group work, conversation practice
2	Narration, stories, diaries	Lecture, Group work, conversation practice
3	Letters	Lecture, Group work, conversation practice
4	E-mail and electronic communication	Lecture, Group work, conversation practice
5	Travel	Lecture, Group work, conversation practice
6	Descriptive writing	Lecture, Group work, conversation practice
7	Expressing opinions	Lecture, Group work, conversation practice
8	Persuasive language	Lecture, Group work, conversation practice
9	Comparing	Lecture, Group work, conversation practice
10	Explaining a process	Lecture, Group work, conversation practice
11	Writing factual information	Lecture, Group work, conversation practice
12	Paragraph structure	Lecture, Group work, conversation practice
13	Essay structure and organization	Lecture, Group work, conversation practice
14	Essay writing	Lecture, Group work, conversation practice
15	Review of the class	Lecture, Group work, conversation practice

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please do all assigned homework before class.

【テキスト（教科書）】
Simply Writing, Diane Nagatomo, Kinseido

【参考書】
Please bring a dictionary and a notebook to every class.

【成績評価の方法と基準】
50% attendance and class participation, 25% homework, 25% final test

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
The contents are updated to reflect current social trends.

LA132

English Academic Writing Ⅱ

ロジャー　エドウィン　パティモア

カテゴリ：**4 群・英語・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**水・4**
※定員制/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC Ⓡ, IELTS, TOEFL Ⓡ Writing QUESTIONS
This course is a continuation of Academic I in the spring semester. The course aims to train students in how to do proficiency test writing questions such as the those on the tests mentioned in the title.
This course is best for students who:
1. plan to try one of the main proficiency tests such as IELTS, TOEIC Ⓡ (Speaking and Writing), or TOEFL Ⓡ.
2. want to improve their English writing skills.
3. already have good listening, reading, and speaking skills for everyday communication in English and classroom participation. (中級) and want to study English in English. (Course is in English)
4. want to communicate orally (by speaking).
*New students in the fall semester looking for the standard TOEIC / TOEFL / IELTS course should try some of the other courses.

【到達目標】
In the fall course, we will:
1. Learn intermediate / advanced academic vocabulary and grammar skills for writing
2. Learn the structure of writing questions for IELTS, TOEIC, or TOEFL
3. Learn test strategies
4. Increase keyboarding speed to 40 wpm 95% accuracy.
5. Write!!!

【授業の進め方と方法】
The method of the course and course description are similar to the spring semester. Students should refer to the spring semester syllabus. Different features in the fall are students will be expected to:
1. ...write more.
2. ...rewrite following advice in my feedback.
3. ...peer edit other student work.
4. ...manage parts of the class such as homework checks.
As in the spring semester, I will help students prepare for particular tests. I will check and feedback on whatever you write.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the fall semester	Short introduction to the second part of the course. Warm-up Activity Review of Fall Semester skills objectives including: 1. Keyboarding (5 new modules) Goal 40 wpm (Today: diagnostic pre-test) 2. AW L the next 100 words 3. Intermediate grammar and structure homework program (G+S Int)
Lesson 2	IELTS Academic Task 1	Keyboarding (KB) 4A AWL 11 Check HW G+S Int 1 IELTS Academic Task 1 - Summarize a Chart or Diagram
Lesson 3	IELTS Academic Task 1	Keyboarding (KB) 4B AWL 12 Check HW G+S Int 2 IELTS Academic Task 1 - Summarize a Chart or Diagram
Lesson 4	IELTS Academic Task 1	Keyboarding (KB) 5A AWL 13 Check HW G+S Int 3 IELTS Academic Task 1 - Summarize a Chart or Diagram
Lesson 5	IELTS Academic Task 1	Keyboarding (KB) 5B AWL 14 Check HW G+S Int 4 IELTS Academic Task 1 - Summarize a Chart or Diagram - Final Test
Lesson 6	Independent Essays	Keyboarding (KB) 5C AWL 15 Check HW G+S Int 5 General Independent Essay Writing TOEIC / TOEFL / IELTS Combined
Lesson 7	Independent Essays	AWL 16 Check HW G+S Int 6 General Independent Essay Writing TOEIC / TOEFL / IELTS Combined
Lesson 8	Independent Essays	AWL 17 Check HW G+S Int 7 General Independent Essay Writing TOEIC / TOEFL / IELTS Combined
Lesson 9	Independent Essays	AWL 18 Check HW G+S Int 8 General Independent Essay Writing TOEIC / TOEFL / IELTS Combined
Lesson 10	TOEFL Integrated Essay	AWL 19 Check HW G+S Int 9 Overview of the TOEFL Exam Introduction to the Integrated Question Introduction
Lesson 11	TOEFL Integrated Essay	AWL 20 Check HW G+S Int 10 TOEFL Integrated Question Structure
Lesson 12	TOEFL Integrated Essay	TOEFL Integrated Question Structure and Strategy
Lesson 13	TOEFL Integrated Essay	TOEFL Integrated Question Structure and Strategy Practice Test
Lesson 14	TOEFL Integrated Essay	Keyboarding Final Test AWL Final Test Final Timed Writing - Integrated TOEFL Question
Lesson 15	x	Fall semester summing up, file checks, future self-study althernatives.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should refer to the spring semester syllabus for URLs to several websites that we use in this course.
In addition, the TOEFL Tips handbook is a useful place to start for students new to this type of testing. (See p. 24 for the writing tasks.)
URL = http://www.ets.org/Media/Tests/TOEFL/pdf/TOEFL_Tips.pdf

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course.

【参考書】
Students should refer to the spring semester syllabus for information about electronic dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
Students should refer to the spring semester syllabus for information about grading. The policies are the same.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Students in this course had different individual test goals.
We will focus more on custom programs for independent study.

【その他の重要事項】
Academic Writing (Level 4)is a progressive course and new students in the fall semester should be at the level of students continuing in the course. Please consider your current grammar and vocabulary skills, your keyboarding speed and accuracy, and your current level of writing. Students who are not at the right level should not join the course.

LA132

English Academic Writing Ⅱ

マーク　バーンズ

カテゴリ：**4 群・英語・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**木・2**
※定員制/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short (up to 5-paragraph) papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】
This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with academic, social and creative, writing. Starting from writing single paragraphs students will finally be able to write a short well-structured 5-paragraph essay.

【授業の進め方と方法】
In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the text book. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overviewofthecourse and warm up	OverviewofAcademicWritingII subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 7a	Writing about research report	How to write concluding paragraphs and use classification style
Unit 7b	Analysis of written assignment 7	Reading and selecting best paper. Focusing on the use of commas
Unit 8a	Writing a magazine article about interview techniques	How to write comparison-contrast paragraphs and expressions that show contrast
Unit 8b	Analysis of written assignment 8	Reading and selecting best paper. Focusing on giving advice
Unit 9a	Writing a letter to myself about goals	How to write persuasive paragraphs, parallelism and sentence transitions
Unit 9b	Analysis of written assignment 9	Reading and selecting best paper. Focusing on incomplete sentences
Unit 10a	Writing an article about a dormitory design	Logical organisation and topic devision
Unit 10b	Analysis of written assignment 10	Reading and selecting best paper. Focusing on articles
Unit 11a	Writing about an important person	How to link paragraphs
Unit 11b	Analysis of written assignment 11	Reading and selecting best paper. Focusing on subject-verb agreement
Unit 12a	Writing a newspaper article	Newspaper style and headline writing
Unit 12b	Analysis of written assignment 12	Reading and selecting best paper. Focusing on other words for "said"
End-term assignment preparation	Pre-writing preparation for end-term assignment	Pre-writing preparation for end-term assignment
End-term assignment feedback	Analysis of end-term assignments	Reading and selecting best assignments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

【テキスト（教科書）】
Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano Cambridge University Press

【参考書】
A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
Additional grammar support has been added as requested by students.

【その他の重要事項】
Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject

LA132

English Academic Writing Ⅱ

ALAN　M　NICHOLLS

カテゴリ：**4 群・英語・選択必修**
開講時期：**秋学期**　｜　曜日・時限：**金・2**
※定員制/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. Both the instructor and the peer partner(s) will read each student's work. This course will emphasize "writing as a process."

【到達目標】
This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. The final document will be a document format for a research paper that is suitable for publication.

【授業の進め方と方法】
This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development, organization, essay writing.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Summer 2016	Discussion, homework.
2.	Class work	Draft one, in class revision, homework.
3.	Class work	Draft two, summer reading discussion, homework.
4.	Class work	Summer reading, discussion, homework.
5.	Class work	Introduce MLA Guide and format, discussion, homework.
6.	Class work	Discussion, homework.
7.	Class work	Review comparison contrast format, criteria, etc. discussion, homework.
8.	Class work	Draft 1, peer editing, homework.
9.	Class work	Draft 2, discussion, homework.
10.	Class work	Introduce Persuasion paper, discussion, homework
11.	Class work	Draft 1, editing, revising, discussion, homework.
12.	Class work	Draft two,
13.	Class work	To be announced
14.	Unfinished business	To be announced.
15.	Wrap-up	To be announced.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Unless specified, all work is to typed, A4, double spaced.
All deadlines are to be met.

【テキスト（教科書）】
Success With College Writing by D. Zemach
MACMILLIAN LANGUAGE HOUSE
Handouts, prints, etc. will be provided by the instructor.

【参考書】
A Thesaurus, either:
Electronic - most electric dictionaries have a Thesaurus function
or there are some free apps in The Apple Store
OR
hard copy form (Penguin Publication).

【成績評価の方法と基準】
The following factors will play a role in determining one's grade:
Participation, positive contributions to the class, quality/completion of work, overall progress, mandatory attendance (per the university guidelines - maximum of 3 absences per semester).

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Please try to have a device that supports a word processing application e.g. Microsoft Word, Apple Pages or similar. Access to Cloud computing will also help. Students may use voice recognition software.

EB/C/D229

メディアの歴史 Ⅰ　　メディア史

小林　直毅

開講時期：**春学期**　｜　単位数：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】
　政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事の経験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えていきます。

【授業の進め方と方法】
　講義形式で進めますが、２回のリアクションペーパーの提出があります。そのなかの特徴的なもの（優れたものではない！）について、簡単なプレゼンテーションをしてもらいます。
　なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第２回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第３回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第４回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第５回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、「記録」と「記憶」。
第６回	メディア表象としての近代	リアクションペーパーへのリプライ（１）
第７回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第８回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第９回	脱「戦後」宣言の流通と変容	「もはや戦後ではない」という発話は何を語ったのか。
第 10 回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第 11 回	敗戦の記録と記憶	リアクションペーパーへのリプライ（２）
第 12 回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。
第 13 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その１）	人びとは「皇太子ご成婚」に何を見たのか。
第 14 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その２）	人びとは「東京オリンピック」に何を見たのか
第 15 回	3.11 後のメディア	メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。講義の概要を把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。
　講義後に、参考文献などを参照しながら講義ノートを整理することも必須です。事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】
　とくに指定しません。

【参考書】
　毎回の配布資料で示します。

【成績評価の方法と基準】
　リアクションペーパー： 30 %、期末試験： 70 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】
　授業支援システムで資料配布します。

出力一覧

A6341Marketing Management 411
A5701Introduction to Strategic Management 412
A5702Introduction to Accounting 413
A5703Introduction to Finance 414
A5704Introduction to Informatics 415
A6272Foundations of Finance 416
C3551Global Human Resources Management 417
K6679Japan and the Global Economy A 418
K6695Business Communication Ⅰ A 419
K6697Business Communication Ⅰ A 419
K6699Business Communication Ⅱ A 420
K6701Business Communication Ⅱ A 421
K6727Business Research Seminar A 422
K6680Japan and the Global Economy B 422
K6696Business Communication Ⅰ B 423
K6698Business Communication Ⅰ B 424
K6700Business Communication Ⅱ B 424
K6702Business Communication Ⅱ B 425
K6728Business Research Seminar B 426
A0642English for Global Politics 427
A0643English for Global Politics 428
A0699English for Global Politics 429
A0700English for Global Politics 430
A0701English for Global Politics 431
A0627International Politics 432
A0702English for Global Politics 433
A0451A Short Introduction to Japanese Politics 434
P2302Elementary Social Science B 435
P2304Social Science A 435
C3510Practice of Environmental Economics and Japan 436
A6261International Security 437
A6265Development Studies 438
A2988Comparative Culture(2) 439
A6302Readings in Creative Nonfiction 440
L1389English Drama Ⅰ 441
L1390English Drama Ⅱ 441
P9013Elementary Humanities A 442
P1304Elementary Humanities B 442
P0162Elementary Information Technology 443
P0632Elementary Career Development 444
A6094Physical Education II 446
E3602Intercultural Communication E 447
E8062Intercultural Communication G 448
E1806Intercultural Communication B 448
E1808Intercultural Communication C 449
F9102Natural Science A 450
A2989Comparative Culture(3) 451
A2990Second Language Learning and Teaching 452
Religion and Society 453
History of English 454
C0539 英語アプリケーション（木曜・3 限）The History of Tourism 456
History of Western Thought 457
Art, Rebellion and Advertising 458
C3502Japanese Society and Sustainability 1 459
C3513Japanese Rural Society 459
C3600Studies for Environment and Society 460
C3650Research Methods 1 461
A6254Cultural Studies 462
A6101Readings in World Literature 463
A6244Social Psychology II 464
A6241Race, Class and Gender I: Concepts & Issues . . . 465
A6324Cultural Psychology 466
A6421Seminar: Language in the Mind II 467
B2409 建築のデザイン X(Design Basics in English W,X) 468
B2412 建築のデザイン Y (Design Basics in English Y,Z) 469
C7992Foreign Language Exercise (English III) 470
C7993Foreign Language Exercise (English Ⅳ) 471
F1951English Academic Writing I 472
F1953English Academic Writing Ⅰ 473
F1955English Academic Writing Ⅰ 474
C7994Foreign Language Exercise (English Ⅴ) 474
F1952English Academic Writing Ⅱ 475
F1954English Academic Writing Ⅱ 476
F1956English Academic Writing Ⅱ 477

グリーン・ユニバーシティをめざして

市ヶ谷環境委員会

【学校法人 法政大学環境憲章】

学校法人法政大学は、「開かれた法政21」のヴィジョンのもとに、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し、全学挙げてグリーン・ユニバーシティの実現に積極的に取り組む。

環境問題へ取り組む大学の先頭に！

世界的に温暖化をめぐる論議が盛んになる中で、大学にとっても環境問題の解決への取り組みは21世紀の教育・研究課題と言えるでしょう。本学はいち早く大学キャンパスにおける環境改善をめざす活動を開始、1999年の市ケ谷キャンパスでの「ＩＳＯ14001の認証登録」につづき2004年に多摩キャンパスでも認証登録して「グリーン・ユニバーシティ」をめざして前進しています。

ＩＳＯ（アイ・エス・オー）とは、国際間の協力促進のための世界標準で、「ＩＳＯ14001」は環境マネジメントの仕組みづくりに関する規格です。本学ではこの国際規格に沿って実績をあげてきました。これからも、環境問題の解決に向けて先頭に立って取り組んでいきます。

環境について学ぼう

大学が環境改善に取り組む際、最も重要な責務は環境について学ぶ機会を学生の皆さんそして広く社会に提供することにあります。「環境」をテーマにした講演会やセミナー・シンポジウムなどを開催しています。また、「エコツアー（企業・自治体・地域でのさまざまな環境改善の取り組みを実地に見学するプログラム）」を企画し、実体験を通じて環境問題への理解を深める試みも行っています。

キャンパスライフをグリーンに

家庭や地域で、また行政や企業でも環境改善をめざす動きが高まっています。キャンパス生活のなかでもできることが多くあります。あなたも環境改善活動に参加しませんか。

(1)省エネルギーを！

市ケ谷キャンパスでは、電気・ガス・重油など大量のエネルギーを消費しています。都心のヒートアイランド・温暖化防止のためにも省エネに心がけましょう。冷房は室温28℃、暖房は室温20℃に設定しています、教室を出るときは消灯をお願いします。

(2)ゴミを減らそう！

ゴミになるものをキャンパスに持ちこまないようにするのが一番です、廃棄してしまうモノを減らしていきましょう。大学では講義やゼミでコピーや資料印刷など大量の紙類を消費し、そのほとんどが使用後には捨てられています。両面コピーをしたり、再生紙を利用してムダをなくしましょう。使用済みの用紙類は「ミックスペーパー回収ボックス」の中へ。

(3)ゴミ分別で再資源化を！

「燃やせるゴミ」「燃やせないゴミ」「ビン・カン・ペットボトル」「ミックスペーパー」の分別ゴミ箱を設置しています。再使用・再資源化へご協力ください。

(4)グリーンコンシューマーになろう！

「グリーンコンシューマー」とは、商品やサービスを購入する際に、価格や品質を考慮するだけでなく、環境負荷ができるだけ小さいものを優先する消費者のことです。文房具などを買うときもグリーン商品（環境配慮製品）に目を向けてください。

ちょっぴり生活を変えてみよう

環境の改善は現在の私たちのライフスタイルを変えることなしには実現できません。「便利で快適な生活」は、資源の大量採取・大量生産・大量消費・大量廃棄によって成り立っています。ライフスタイルを変えることは、私たち個人にとっては「少し手間で、ちょっと面倒なこと」ですが、キャンパスでの私たち一人ひとりの具体的行動が改善の決め手です。あなたも生活変えてみませんか？

＊詳しい内容を大学ホームページ（http://www.hosei.ac.jp/）→教育・研究→学びの特色→環境教育／環境センターにてごらんいただけます。

＊皆様のご理解とご協力をお願いし、ご意見・ご提案をお待ちしています。

環境センター　TEL：03-3264-5681
FAX：03-3264-5545
Mail: cei@hosei.ac.jp

（この冊子は再生紙を使用しています）



学生証番号	
氏　　名	

R70
再生紙を使用しています